

2018年度

シラバス
(講義概要)

白鷗大学 経営学部

経営学科 経営専攻

経営学科

シラバス（講義概要）

《本書の見方》

本書は目次とシラバス（講義概要）から構成されています。
該当するカリキュラムの目次を参照し、掲載頁のシラバス（講義概要）をご覧ください。

本書の内容は2018年2月25日現在の内容を掲載しています。
最新の情報は本学ホームページより確認することができます。

本学HP：<http://hakuoh.jp/>

学生生活

⇒⇒

シラバス検索

より確認ください。

目 次

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考		
前提科目	基礎ゼミナール	青木 孝暢	半期	2	1～	1			
		青崎 智行	半期	2	1～				
		内堀 敬則	半期	2	1～				
		小笠原 伸	半期	2	1～				
		片岡 豊	半期	2	1～				
		川上 代里子	半期	2	1～				
		黒澤 和人	半期	2	1～				
		張 承玖	半期	2	1～				
		新川 清治	半期	2	1～				
		鈴木 仁里	半期	2	1～				
		高橋 節子	半期	2	1～				
		高畑 昭男	半期	2	1～				
		西谷 勢至子	半期	2	1～				
		范 力	半期	2	1～				
		樋口 和彦	半期	2	1～				
		藤井 健	半期	2	1～				
		藤浪 英也	半期	2	1～				
		舩田 真里子	半期	2	1～				
		星 法子	半期	2	1～				
		師 啓二	半期	2	1～				
山田 徳彦	半期	2	1～						
吉川 薫	半期	2	1～						
外国語科目 〔必修〕	Reading I A	足立 綾	半期	1	1～	8	再履修クラス		
		大木 俊英	半期	1	1～			4	
		川上 代里子	半期	1	1～				
		木村 記子	半期	1	1～				
		斎藤 明宏	半期	1	1～				
		染谷 昌弘	半期	1	1～				
		延原 みか子	半期	1	1～				
		升水 教之	半期	1	1～				
		森 好紳	半期	1	1～				
		Neil Thomas Millington	半期	1	1～				6
	Reading I B	足立 綾	半期	1	1～	14	再履修クラス		
		大木 俊英	半期	1	1～				
		川上 代里子	半期	1	1～				
		木村 記子	半期	1	1～				
		斎藤 明宏	半期	1	1～				
		染谷 昌弘	半期	1	1～				
		延原 みか子	半期	1	1～				
		升水 教之	半期	1	1～				
		森 好紳	半期	1	1～				
		Neil Thomas Millington	半期	1	1～			12	留学準備英語クラス ①～③
	Oral I A	Luke Winn	半期	1	1～	16	再履修クラス		
		Miklos Juhasz	半期	1	1～				
		Michael STOUT	半期	1	1～				
		Paul Del Rosario	半期	1	1～				
		Luke Winn	半期	1	1～				

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
外国語科目 〔必修〕	Oral I A	Neil Thomas Millington	半期	1	1~	16	A~Tクラス
		Harry Harris	半期	1	1~		
	Oral I B	Stephanie Yuuko Iso	半期	1	1~	18	留学準備英語クラス ①③
		Helge Maruyama	半期	1	1~		
		Luke Winn	半期	1	1~	21	再履修クラス
		Miklos Juhasz	半期	1	1~		
		Michael STOUT	半期	1	1~	A~Tクラス	
		Paul Del Rosario	半期	1	1~		
		Luke Winn	半期	1	1~		
		Neil Thomas Millington	半期	1	1~		
		Harry Harris	半期	1	1~		
		Stephanie Yuuko Iso	半期	1	1~		
	Oral II A	Helge Maruyama	半期	1	1~	23	留学準備英語クラス ①③
		Helge Maruyama	半期	1	1~		
		Helge Maruyama	半期	1	2~	30	再履修クラス
		John Gallagher	半期	1	2~		
		Helge Maruyama	半期	1	2~	A~Tクラス	
		Miklos Juhasz	半期	1	2~		
		Michael STOUT	半期	1	2~		
		Stephanie Yuuko Iso	半期	1	2~		
		Neil Thomas Millington	半期	1	2~		
		Michael Sorey	半期	1	2~		
	Oral II B	Helge Maruyama	半期	1	2~	35	再履修クラス
John Gallagher		半期	1	2~			
Helge Maruyama		半期	1	2~	A~Tクラス		
Miklos Juhasz		半期	1	2~			
Michael STOUT		半期	1	2~			
Stephanie Yuuko Iso		半期	1	2~			
Neil Thomas Millington		半期	1	2~			
Michael Sorey		半期	1	2~			
日本語 I A		田口 桂子	半期	1	1~	140	〔留学生科目〕 留学生のみ履修 可。
日本語 I B		田口 桂子	半期	1	1~		
日本語 II A	田口 桂子	半期	1	1~			
日本語 II B	田口 桂子	半期	1	1~			
日本語 III A	田口 桂子	半期	1	2~			
日本語 III B	田口 桂子	半期	1	2~			
外国語科目 〔選択〕	英語 I A	針生/S. Bergman 三宅	半期2コマ	2	1~		
	英語 I B	針生/S. Bergman 三宅	半期2コマ	2	1~		
	ドイツ語 I A	伊藤 功	半期2コマ	2	1~	74	いずれか一言語 を必ず履修する こと。 ただし、母国語 を履修すること は、出来ませ ん。 また、卒業要件 を充足するため には、同一言語 のA、Bの単位を 修得しなければ なりません。
		武井 佑介	半期2コマ	2	1~		
	ドイツ語 I B	伊藤 功	半期2コマ	2	1~	78	
		武井 佑介	半期2コマ	2	1~		
	フランス語 I A	Clemens Amann	半期2コマ	2	1~	82	
		佐々木 匠	半期2コマ	2	1~		
	フランス語 I B	Clemens Amann	半期2コマ	2	1~	86	
		佐々木 匠	半期2コマ	2	1~		
	スペイン語 I A	高橋 節子	半期2コマ	2	1~	88	
	スペイン語 I B	高橋 節子	半期2コマ	2	1~	90	
中国語 I A	陳 順和	半期2コマ	2	1~	94		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考	
外国語科目 〔選択〕	中国語 I A	劉 建雲	半期2コマ	2	1~	92	いずれか一言語を必ず履修すること。ただし、母国語を履修することは、出来ません。また、卒業要件を充足するためには、同一言語のA、Bの単位を修得しなければなりません。	
	中国語 I B	陳 順和	半期2コマ	2	1~	98		
	留学準備英語A		劉 建雲	半期2コマ	2	1~		96
			新川清治・Stephanie Yuuko Iso	半期2コマ	2	1~		26
			新川清治・Helge Maruyama	半期2コマ	2	1~		
			新川清治・Neil Thomas Millington	半期2コマ	2	1~		
	留学準備英語B		新川清治・Stephanie Yuuko Iso	半期2コマ	2	1~		28
			新川清治・Helge Maruyama	半期2コマ	2	1~		
			新川清治・Neil Thomas Millington	半期2コマ	2	1~		
	韓国語 I A		李 映京	半期2コマ	2	1~		100
		盧 玟周	半期2コマ	2	1~	102		
韓国語 I B		李 映京	半期2コマ	2	1~	103		
		盧 玟周	半期2コマ	2	1~	105		
教養選択科目	基礎英語A	升水 教之	半期	1	1~	42		
	基礎英語B	染谷 昌弘	半期	1	1~	43		
		升水 教之	半期	1	1~	44		
	Writing I A	染谷 昌弘	半期	1	1~	45		
		升水 教之	半期	1	1~	40		
	Writing I B	升水 教之	半期	1	1~	41		
	VocabularyA	新川 清治	半期	1	1~	60		
	VocabularyB	新川 清治	半期	1	1~	62		
	Writing II A	Neil Thomas Millington	半期	1	2~	52		
	Writing II B	Neil Thomas Millington	半期	1	2~	54		
	Reading II A	Neil Thomas Millington	半期	1	2~	46		
	Reading II B	Neil Thomas Millington	半期	1	2~	49		
	TOEIC I A	藤森 吉之	半期	1	2~	56		
	TOEIC I B	藤森 吉之	半期	1	2~	58		
	TOEIC II A	新川 清治	半期	1	3~	68		
	TOEIC II B	新川 清治	半期	1	3~	70		
	Oral III A	Stephanie Yuuko Iso	半期	1	3~	64		
	Oral III B	Stephanie Yuuko Iso	半期	1	3~	66		
	ドイツ語 II A	Clemens Amann	半期	1	2~	106		
	ドイツ語 II B	Clemens Amann	半期	1	2~	108		
	フランス語 II A	Clemens Amann	半期	1	2~	110		
	フランス語 II B	Clemens Amann	半期	1	2~	112		
	スペイン語 II A	高橋 節子	半期	1	2~	114		
	スペイン語 II B	高橋 節子	半期	1	2~	116		
	中国語 II A	陳 順和	半期	1	2~	118		
	中国語 II B	陳 順和	半期	1	2~	120		
	韓国語 II A	盧 玟周	半期	1	2~	136		
	韓国語 II B	盧 玟周	半期	1	2~	137		
	ドイツ語 III A	Clemens Amann	半期	1	2~	122		
	ドイツ語 III B	Clemens Amann	半期	1	2~	123		
	フランス語 III A	Clemens Amann	半期	1	2~	124		
	フランス語 III B	Clemens Amann	半期	1	2~	126		
	スペイン語 III A	高橋 節子	半期	1	2~	128		
スペイン語 III B	高橋 節子	半期	1	2~	130			
中国語 III A	范 力	半期	1	2~	132			

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
教養選択科目	中国語ⅢB	范 力	半期	1	2～	134	〔留学生科目〕
	韓国語ⅢA	盧 玟周	半期	1	2～	138	
	韓国語ⅢB	盧 玟周	半期	1	2～	139	
	ドイツ語ⅣA	2018年度休講	—	—	—	—	
	ドイツ語ⅣB	2018年度休講	—	—	—	—	
	フランス語ⅣA	2018年度休講	—	—	—	—	
	フランス語ⅣB	2018年度休講	—	—	—	—	
	スペイン語ⅣA	2018年度休講	—	—	—	—	
	スペイン語ⅣB	2018年度休講	—	—	—	—	
	中国語ⅣA	2018年度休講	—	—	—	—	
	中国語ⅣB	2018年度休講	—	—	—	—	
	韓国語ⅣA	2018年度休講	—	—	—	—	
	韓国語ⅣB	2018年度休講	—	—	—	—	
	日本語ⅣA	2018年度休講	—	—	—	—	
	日本語ⅣB	2018年度休講	—	—	—	—	
	歴史学A	正田 浩由	半期	2	1～	152	
		清水 正義	半期	2	1～	154	
	歴史学B	正田 浩由	半期	2	1～	156	
		清水 正義	半期	2	1～	158	
	日本史概論	正田 浩由	半期	2	1～	160	
		三浦 顕一郎	半期	2	1～	162	
	外国史概論	清水 正義	半期	2	1～	165	
	地理学A	奥澤 信行	半期	2	1～	167	
	地理学B	奥澤 信行	半期	2	1～	169	
	地理学概論（地誌を含む）	奥澤 信行	半期	2	1～	170	
	倫理学A	的場 哲朗	半期	2	1～	172	
	倫理学B	的場 哲朗	半期	2	1～	174	
	応用倫理A	渡邊 忠	半期	2	1～	181	
	応用倫理B	渡邊 忠	半期	2	1～	183	
	倫理学概論	伊藤 功	半期	2	1～	179	
		的場 哲朗	半期	2	1～	176	
	哲学A	渡邊 忠	半期	2	1～	185	
	哲学B	渡邊 忠	半期	2	1～	187	
	哲学概論	永野 潤	半期	2	1～	189	
	文学A	鈴木 宏枝	半期	2	1～	190	
	文学B	針生 進	半期	2	1～	191	
	論理学	渡邊 忠	半期2コマ	4	1～	192	
	クリティカルシンキングA	渡邊 忠	半期	2	1～	194	
	クリティカルシンキングB	渡邊 忠	半期	2	1～	322	
	国語表現法A	大上 忠幸	半期	2	1～	195	
	国語表現法B	大上 忠幸	半期	2	1～	197	
	美学A	益田 勇一	半期	2	1～	199	
美学B	益田 勇一	半期	2	1～	200		
比較文化論A	范 力	半期	2	1～	201		
	高畑 昭男	半期	2	1～	202		
比較文化論B	范 力	半期	2	1～	204		
	高畑 昭男	半期	2	1～	205		
文化人類学A	結城 史隆	半期	2	1～	207		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考		
教養選択科目	文化人類学B	結城 史隆	半期	2	1~	209			
	社会学A	川上 代里子	半期	2	1~	211			
	社会学B	川上 代里子	半期	2	1~	213			
	法学A (国際法を含む)	河原 文敬	半期	2	1~	215			
	法学B (国際法を含む)	岡田 順太	半期	2	1~	216			
	統計学A	本田 重美	半期	2	1~	217			
	統計学B	本田 重美	半期	2	1~	218			
	心理学A	心理学A	神戸 文朗	半期	2	1~	225		
			津野田 聡子	半期	2	1~	221		
			山本 良子	半期	2	1~	223		
			湯川 進太郎	半期	2	1~	219		
		心理学B	心理学B	神戸 文朗	半期	2	1~	233	
				津野田 聡子	半期	2	1~	229	
				山本 良子	半期	2	1~	231	
				湯川 進太郎	半期	2	1~	227	
		社会心理学A	細田 一秋	半期	2	1~	235		
		社会心理学B	細田 一秋	半期	2	1~	237		
	政治学A (国際政治を含む)	服部 一成	半期	2	1~	239			
	政治学B (国際政治を含む)	服部 一成	半期	2	1~	241			
	情報社会科学A	2018年度休講	—	—	—	—			
	情報社会科学B	2018年度休講	—	—	—	—			
	教育学A	高橋 克己	半期	2	1~	243			
	教育学B	高橋 克己	半期	2	1~	244			
	環境科学A	山野井 貴浩	半期	2	1~	249			
	環境科学B	山野井 貴浩	半期	2	1~	251			
	代数学	2018年度休講	—	—	—	—			
	解析学	黒澤 和人	半期	2	1~	247			
	数学概論A	2018年度休講	—	—	—	—			
	数学概論B	2018年度休講	—	—	—	—			
	物理学A	師 啓二	半期	2	1~	253			
	物理学B	師 啓二	半期	2	1~	255			
	化学A	高林 久美子	半期	2	1~	257			
	化学B	高林 久美子	半期	2	1~	258			
	生物学A	生物学A	上田 高嘉	半期	2	1~	259		
			岡田 晴恵	半期	2	1~	260		
		生物学B	生物学B	上田 高嘉	半期	2	1~	262	
			岡田 晴恵	半期	2	1~	263		
	科学史A		黒澤 和人	半期	2	1~	265		
	科学史B	黒澤 和人	半期	2	1~	267			
	スポーツ演習A	スポーツ演習A	飯塚 浩史	半期	1	1~	275	ニュースポーツ	
			佐藤 智信	半期	1	1~	273	バスケットボール	
			野間 明紀	半期	1	1~	276	ゴルフ	
		廣瀬 文彦	半期	1	1~	277	卓球		
スポーツ演習B			廣瀬 文彦	半期	1	1~	279	ソフトボール	
			飯塚 浩史	半期	1	1~	284	バドミントン	
			佐藤 智信	半期	1	1~	281	バドミントン	
			野間 明紀	半期	1	1~	286	ソフトテニス	
			野間 明紀	半期	1	1~	283	バドミントン	

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考	
教養選択科目	スポーツ演習 B	廣瀬 文彦	半期	1	1~	287	バレーボール	
	健康科学	廣瀬 文彦	半期	1	1~	289	卓球	
		藤井 和彦	半期	2	1~	291		
		野間 明紀	半期	2	1~	292		
		荒井 信成	半期	2	1~	293		
	マナーの基本	佐藤 由利	半期	2	1~	614		
	キャリアデザイン I (入門)	力石 正弘	半期	2	1~	269		
	キャリアデザイン II (基礎)	力石 正弘	半期	2	1~	271	「キャリアデザイン」 単位修得者は履修できない	
	コミュニケーション能力を磨こう	渡辺 裕子	半期	2	1~	323		
	日本事情 A (社会・経済)	田口 桂子	半期	2	1~	295	〔留学生科目〕	
	日本事情 B (歴史・政治)	田口 桂子	半期	2	1~	297		
	日本事情 C (文化・文学)	田口 桂子	半期	2	1~	299		
	日本事情 D (生活・風物)	田口 桂子	半期	2	1~	300		
	教養ゼミナール I - 1	Clemens Amann	半期	2	2~	314		
	教養ゼミナール I - 2	Clemens Amann	半期	2	2~	316		
	教養ゼミナール II - 1	Clemens Amann	半期	2	3~	318		
	教養ゼミナール II - 2	Clemens Amann	半期	2	3~	320		
	教養特講 (ソーシャルデザイン論)	小笠原 伸	半期	2	1~	310		
	教養特講 (病と癒しの人間史)	岡田 晴恵	半期	2	1~	306		
	教養特講 (高齢社会と介護)	川瀬 善美	半期	2	1~	303		
	教養特講 (平成政治史研究)	後藤 謙次	半期	2	1~	312		
	教養特講 (モバイル社会とメディア)	菅谷実/KDDI 総合研究所	半期	2	1~	308		
	教養特講 (不確実性と二宮尊徳)	山田 徳彦	半期	2	1~	313		
教養特講 (地球環境問題)	山本 厚太郎	半期	2	1~	305			
専門科目〔必修〕	経営学	黒田 勉	半期2コマ	4	1~	324		
		飛田 幸宏	半期2コマ	4	1~			
		西谷 勢至子	半期2コマ	4	1~			
	経営情報科学 I	井田 憲一	半期	2	1~	327		
		黒澤 和人	半期	2	1~			
		渋谷 美紀	半期	2	1~			
		樋口 和彦	半期	2	1~			
		福田 千枝子	半期	2	1~			
		舩田 真里子	半期	2	1~			
		本田 重美	半期	2	1~			
		師 啓二	半期	2	1~			
		経営情報科学 II	井田 憲一	半期	2	1~	329	
			黒澤 和人	半期	2	1~		
			渋谷 美紀	半期	2	1~		
	樋口 和彦		半期	2	1~			
	福田 千枝子		半期	2	1~			
	舩田 真里子		半期	2	1~			
	本田 重美		半期	2	1~			
	会計学	師 啓二	半期	2	1~			
		館野 敏	半期2コマ	4	1~	331		
		藤浪 英也	半期2コマ	4	1~			
		星 法子	半期2コマ	4	1~			
		山田 覚	半期2コマ	4	1~			
		国際経営論	張 承玖	半期2コマ	4	1~	333	

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
専門科目 〔必修〕	国際経営論	鈴木 仁里	半期2コマ	4	1~	333	
		藤井 健	半期2コマ	4	1~		
専門科目 〔選択〕	経営組織論	飛田 幸宏	半期2コマ	4	1~	353	
	経営戦略論	柳川 高行	半期2コマ	4	1~	350	
	経営学史	柳川 高行	半期	2	1~	339	
	経営史 I	片岡 豊	半期	2	1~	342	
	経営史 II	片岡 豊	半期	2	1~	344	
	日本経営史 I	片岡 豊	半期	2	1~	346	
	日本経営史 II	片岡 豊	半期	2	1~	348	
	ベンチャービジネス論 I	新井 佐恵子	半期	2	1~	355	
	ベンチャービジネス論 II	新井 佐恵子	半期	2	1~	356	
	中小企業論 I	2018年度休講	—	—	—	—	
	中小企業論 II	2018年度休講	—	—	—	—	
	企業ネットワーク論	仁平 晶文	半期2コマ	4	1~	370	
	企業論	仁平 晶文	半期	2	1~	363	
	公益事業論 I	蟻生 俊夫	半期	2	1~	365	
	公益事業論 II	蟻生 俊夫	半期	2	1~	366	
	交通論	山田 徳彦	半期2コマ	4	1~	368	
	経営管理論	黒田 勉	半期2コマ	4	1~	373	
		飛田 幸宏	半期2コマ	4	1~	375	
	人材マネジメント論 I	張 承玖	半期	2	1~	381	「労務管理論」 単位修得者は履 修できない
	人材マネジメント論 II	張 承玖	半期	2	1~	383	
	財務管理論	樋口 和彦	半期2コマ	4	1~	385	
	生産管理論 I	2018年度休講	—	—	—	—	
	生産管理論 II	2018年度休講	—	—	—	—	
	管理工学 I	2018年度休講	—	—	—	—	
	管理工学 II	2018年度休講	—	—	—	—	
	インターネット起業論	新井 佐恵子	半期	2	1~	423	
	マネジメント コミュニケーション	藤井 健	半期	2	1~	357	
	NPO論	小笠原 伸	半期	2	1~	361	
	Webプログラミング I	舩田 真里子	半期	2	1~	399	
	Webプログラミング II	舩田 真里子	半期	2	1~	401	
	プログラミング言語論	山崎 浩一	半期	2	1~	388	
	マルチメディア論 I	黒澤 和人	半期	2	1~	419	
	マルチメディア論 II	黒澤 和人	半期	2	1~	421	
	アルゴリズム論 I	山崎 浩一	半期	2	1~	390	
	アルゴリズム論 II	山崎 浩一	半期	2	1~	392	
	情報処理演習 I	井田 憲一	半期	2	1~	395	
	情報処理演習 II	井田 憲一	半期	2	1~	397	
	経営分析法 I	舩田 真里子	半期	2	1~	403	
	経営分析法 II	舩田 真里子	半期	2	1~	405	
	統計調査法 I	舩田 真里子	半期	2	1~	407	
	統計調査法 II	舩田 真里子	半期	2	1~	409	
	情報セキュリティ	山崎 浩一	半期	2	1~	394	
	決定の科学 I	樋口 和彦	半期	2	1~	411	
決定の科学 II	樋口 和彦	半期	2	1~	413		
情報通信システム論 I	菅谷 実	半期	2	1~	415		
情報通信システム論 II	菅谷 実	半期	2	1~	417		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考	
専門科目 〔選択〕	情報ネットワーク論	菅谷 実	半期	2	1~	427		
	簿記論	青木 孝暢	半期2コマ	4	1~	436		
		館野 敏	半期2コマ	4	1~	434		
		藤浪 英也	半期2コマ	4	1~	431		
	中級簿記論	青木 孝暢	半期2コマ	4	1~	441		
		藤浪 英也	半期2コマ	4	1~	438		
	財務会計論	青木 孝暢	半期2コマ	4	1~	443		
	工業簿記論	山田 覚	半期2コマ	4	1~	445		
	管理会計論 I	山田 覚	半期	2	1~	447		
	管理会計論 II	星 法子	半期	2	1~	448		
	原価計算論 I	山田 覚	半期	2	1~	450		
	原価計算論 II	山田 覚	半期	2	1~	451		
	高等簿記論 I	青木 孝暢	半期	2	1~	453		
	高等簿記論 II	青木 孝暢	半期	2	1~	454		
	経営分析論 I	星 法子	半期	2	1~	455		
	経営分析論 II	星 法子	半期	2	1~	457		
	税務会計論 I	藤浪 英也	半期	2	1~	462		
	税務会計論 II	藤浪 英也	半期	2	1~	464		
	監査論 I	2018年度休講	—	—	—	—	—	
	監査論 II	2018年度休講	—	—	—	—	—	
	会計情報システム論 I	星 法子	半期	2	1~	458		
	会計情報システム論 II	星 法子	半期	2	1~	460		
	国際会計論 I	2018年度休講	—	—	—	—	—	
	国際会計論 II	2018年度休講	—	—	—	—	—	
	上級財務会計論 I	2018年度休講	—	—	—	—	—	
	上級財務会計論 II	2018年度休講	—	—	—	—	—	
	商学総論 I	柳川 高行	半期	2	1~	466		
	商学総論 II	柳川 高行	半期	2	1~	468		
	広告論 I	青崎 智行	半期	2	1~	481		
	広告論 II	青崎 智行	半期	2	1~	483		
	流通論 I	青崎 智行	半期	2	1~	470		
	流通論 II	青崎 智行	半期	2	1~	472		
	マーケティング I	内堀 敬則	半期	2	1~	377		
	マーケティング II	内堀 敬則	半期	2	1~	379		
	銀行論 I	市川 千秋	半期	2	1~	477		
		市川 千秋	半期	2	3~			
	銀行論 II	市川 千秋	半期	2	1~	479		
		市川 千秋	半期	2	3~			
	金融論	市川 千秋	半期	2	1~	474		
	保険論 I	2018年度休講	—	—	—	—	—	
	保険論 II	2018年度休講	—	—	—	—	—	
	商業概論	商業概論担当教員	半期	2	1~	485		
ミクロ経済学 I (国際経済を含む)	中藤 泉	半期	2	1~	508			
	吉川 薫	半期	2	1~	500			
ミクロ経済学 II	吉川 薫	半期	2	1~	504			
マクロ経済学 I (国際経済を含む)	中藤 泉	半期	2	1~	510			
	吉川 薫	半期	2	1~	502			
マクロ経済学 II	吉川 薫	半期	2	1~	506			

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
専門科目 〔選択〕	財政学Ⅰ	金田 美加	半期	2	1~	487	
	財政学Ⅱ	金田 美加	半期	2	1~	489	
	現代日本経済論Ⅰ	吉川 薫	半期	2	1~	493	
	現代日本経済論Ⅱ	吉川 薫	半期	2	1~	495	
	地域経済論Ⅰ	山田 徳彦	半期	2	1~	499	
	地域経済論Ⅱ	山田 徳彦	半期	2	1~	615	
	経済地理学	奥澤 信行	半期	2	1~	491	
	経済と現代社会	山田 徳彦	半期	2	1~	609	
	産業と現代社会	山田 徳彦	半期	2	1~	512	
	金融政策	市川 千秋	半期	2	1~	513	
	情報社会経済論Ⅰ	堀 眞由美	半期	2	1~	497	
	情報社会経済論Ⅱ	堀 眞由美	半期	2	1~	498	
	国際関係概論	高畑 昭男	半期	2	1~	544	
	国際関係論（東北アジア）	范 力	半期	2	1~	537	
	国際関係論（東南アジア）	結城 史隆	半期	2	1~	538	
	国際関係論（アメリカ）	高畑 昭男	半期	2	1~	540	
	国際関係論（インド・ネパール）	結城 史隆	半期	2	1~	542	
	国際金融論	市川 千秋	半期	2	1~	546	
	国際地域マネジメント	内堀 敬則	半期	2	1~	548	
	多国籍企業論Ⅰ	張 承玖	半期	2	1~	550	
	多国籍企業論Ⅱ	張 承玖	半期	2	1~	552	
	貿易商務論Ⅰ	貿易商務論担当教員	半期	2	1~	554	
	貿易商務論Ⅱ	貿易商務論担当教員	半期	2	1~	555	
	国際ビジネス英語Ⅰ	足立 綾	半期	2	1~	335	
	国際ビジネス英語Ⅱ	足立 綾	半期	2	1~	337	
	時事英語Ⅰ	高畑 昭男	半期	2	1~	558	
		藤森 吉之	半期	2	1~	556	
		高畑 昭男	半期	2	1~	562	
	時事英語Ⅱ	藤森 吉之	半期	2	1~	560	
		Helge Maruyama	半期	2	1~	531	
		Helge Maruyama	半期	2	1~	533	
	経済英語Ⅰ	Stephanie Yuuko Iso	半期	2	1~	564	
	経済英語Ⅱ	川上 代里子	半期	2	1~	566	
	異文化間コミュニケーション	Stephanie Yuuko Iso	半期	2	1~	568	
	異文化理解	鈴木 仁里	半期	2	1~	573	
	外書講読Ⅰ	西谷 勢至子	半期	2	1~	571	
		山田 覚	半期	2	1~	570	
		黒田 勉	半期	2	1~	575	
	外書講読Ⅱ	小野 義典	半期	2	1~	245	
	日本国憲法	大石 和彦	半期	2	1~	591	
	民法Ⅰ	新井 弘明	半期	2	1~	581	
	民法Ⅱ	新井 弘明	半期	2	1~	582	
	商法Ⅰ	河原 文敬	半期	2	1~	583	
商法Ⅱ	河原 文敬	半期	2	1~	584		
税法Ⅰ	伊藤 悟	半期	2	1~	587		
税法Ⅱ	伊藤 悟	半期	2	1~	589		
会社法Ⅰ	高橋 紀夫	半期	2	1~	577		
会社法Ⅱ	高橋 紀夫	半期	2	1~	579		

【英語で行う授業】

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
専門科目 〔選択〕	経済法	栗田 誠	半期	2	1~	585	
	メディアリテラシー I	元田 成	半期	2	1~	656	
	メディアリテラシー II	元田 成	半期	2	1~	657	
	マスコミュニケーション論	後藤 謙次	半期	2	1~	429	
	メディアと倫理	的場 哲朗	半期	2	1~	658	
	ジャーナリズム論 I	元田 成	半期	2	1~	660	
	ジャーナリズム論 II	元田 成	半期	2	1~	661	
	メディア論	菅谷 実	半期	2	1~	425	
	ITメディア論 I	菅野 嘉則	半期	2	1~	604	
	ITメディア論 II	菅野 嘉則	半期	2	1~	605	
	アニメプロデュース論	藤井 健	半期	2	1~	662	
	メディア制作演習 I (地域メディア)	小笠原 伸	半期	2	2~	665	
	メディア制作演習 I (広告・デザイン)	下村 健一	半期	2	2~	667	
	メディア制作演習 I (アニメーション)	菅野 嘉則	半期	2	2~	669	
	メディア制作演習 I (テレビ映像)	元田 成	半期	2	2~	664	
	メディア制作演習 I (アナウンス)	渡辺 裕子	半期	2	2~	670	
	メディア制作演習 II (広告・デザイン)	下村 健一	半期	2	2~	674	
	メディア制作演習 II (地域メディア)	小笠原 伸	半期	2	2~	672	
	メディア制作演習 II (アニメーション)	菅野 嘉則	半期	2	2~	676	
	メディア制作演習 II (テレビ映像)	元田 成	半期	2	2~	671	
	メディア制作演習 II (アナウンス)	渡辺 裕子	半期	2	2~	677	
	観光ビジネス概論	JTB担当教員	半期	2	1~	515	
	旅行業務論 I	JTB担当教員	半期	2	1~	517	
	旅行業務論 II	JTB担当教員	半期	2	1~	519	
	旅行業務論 III	JTB担当教員	通年2コマ	2	1~	521	
	観光英語	藤井 健	半期	2	1~	535	
	エコツーリズム	2018年度休講	—	—	—	—	
	サービスコミュニケーション I	ANA総合研究所	半期	2	1~	523	
	サービスコミュニケーション II	ANA総合研究所	半期	2	1~	525	
	ゼミナール I - 1	青木 孝暢	半期	2	2~	678	
		青崎 智行	半期	2	2~	759	
		市川 千秋	半期	2	2~	682	
		内堀 敬則	半期	2	2~	686	
		小笠原 伸	半期	2	2~	743	
		片岡 豊	半期	2	2~	690	
		黒澤 和人	半期	2	2~	694	
		黒田 勉	半期	2	2~	698	
		張 承玖	半期	2	2~	702	
		菅野 嘉則	半期	2	2~	755	
		鈴木 仁里	半期	2	2~	765	
		高畑 昭男	半期	2	2~	747	
		飛田 幸宏	半期	2	2~	706	
	西谷 勢至子	半期	2	2~	761		
	范 力	半期	2	2~	751		
	樋口 和彦	半期	2	2~	710		
	藤井 健	半期	2	2~	715		
	藤浪 英也	半期	2	2~	718		
	船田 眞里子	半期	2	2~	722		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考	
専門科目 〔選択〕	ゼミナールⅠ-1	星 法子	半期	2	2～	726		
		元田 成	半期	2	2～	763		
		柳川 高行	半期	2	2～	730		
		山田 覚	半期	2	2～	732		
		山田 徳彦	半期	2	2～	736		
		吉川 薫	半期	2	2～	739		
	ゼミナールⅠ-2	青木 孝暢	半期	2	2～	680		
		青崎 智行	半期	2	2～	760		
		市川 千秋	半期	2	2～	684		
		内堀 敬則	半期	2	2～	688		
		小笠原 伸	半期	2	2～	745		
		片岡 豊	半期	2	2～	692		
		黒澤 和人	半期	2	2～	696		
		黒田 勉	半期	2	2～	700		
		張 承玖	半期	2	2～	704		
		菅野 嘉則	半期	2	2～	757		
		鈴木 仁里	半期	2	2～	767		
		高畑 昭男	半期	2	2～	749		
		飛田 幸宏	半期	2	2～	708		
		西谷 勢至子	半期	2	2～	762		
		范 力	半期	2	2～	753		
		樋口 和彦	半期	2	2～	712		
		藤井 健	半期	2	2～	717		
		藤浪 英也	半期	2	2～	720		
		舩田 眞里子	半期	2	2～	724		
		星 法子	半期	2	2～	728		
		元田 成	半期	2	2～	764		
		柳川 高行	半期	2	2～	731		
		山田 覚	半期	2	2～	734		
		山田 徳彦	半期	2	2～	737		
		吉川 薫	半期	2	2～	741		
		ゼミナールⅡ-1	青木 孝暢	半期	2	3～	769	
			青崎 智行	半期	2	3～	847	
	市川 千秋		半期	2	3～	773		
	内堀 敬則		半期	2	3～	777		
	小笠原 伸		半期	2	3～	831		
	片岡 豊		半期	2	3～	781		
	黒澤 和人		半期	2	3～	785		
	黒田 勉		半期	2	3～	789		
	張 承玖		半期	2	3～	793		
	菅野 嘉則		半期	2	3～	843		
	高畑 昭男		半期	2	3～	835		
	飛田 幸宏		半期	2	3～	797		
西谷 勢至子	半期		2	3～	849			
范 力	半期		2	3～	839			
藤井 健	半期		2	3～	799			
藤浪 英也	半期		2	3～	801			
舩田 眞里子	半期	2	3～	805				

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考	
専門科目 〔選択〕	ゼミナールⅡ-1	星 法子	半期	2	3～	809		
		堀 真由美	半期	2	3～	813		
		元田 成	半期	2	3～	851		
		柳川 高行	半期	2	3～	815		
		山田 覚	半期	2	3～	817		
		山田 徳彦	半期	2	3～	821		
		結城 史隆	半期	2	3～	823		
		吉川 薫	半期	2	3～	827		
		ゼミナールⅡ-2	青木 孝暢	半期	2	3～	771	
			青崎 智行	半期	2	3～	848	
			市川 千秋	半期	2	3～	775	
			内堀 敬則	半期	2	3～	779	
			小笠原 伸	半期	2	3～	833	
			片岡 豊	半期	2	3～	783	
			黒澤 和人	半期	2	3～	787	
			黒田 勉	半期	2	3～	791	
			張 承玖	半期	2	3～	795	
			菅野 嘉則	半期	2	3～	845	
	飛田 幸宏		半期	2	3～	798		
	高畑 昭男		半期	2	3～	837		
	西谷 勢至子		半期	2	3～	850		
	范 力		半期	2	3～	841		
	藤井 健		半期	2	3～	800		
	藤浪 英也		半期	2	3～	803		
	舩田 眞里子		半期	2	3～	807		
	星 法子		半期	2	3～	811		
	堀 真由美		半期	2	3～	814		
	元田 成		半期	2	3～	852		
	柳川 高行		半期	2	3～	816		
	山田 覚		半期	2	3～	819		
	山田 徳彦		半期	2	3～	822		
	結城 史隆		半期	2	3～	825		
	吉川 薫	半期	2	3～	829			
	現代企業行動論	ビジネス開発研究所担当教員	半期	2	1～	599		
	ビジネスマナーⅠ	堀 真由美	半期	2	1～	359		
	ビジネスマナーⅡ	堀 真由美	半期	2	1～	526		
	キャリアデザインⅢ(実践)	力石 正弘	半期	2	1～	527		
	キャリアデザインⅣ(演習)	力石 正弘	半期	2	1～	529		
	インターンシップⅠ	キャリアセンター(経営)	半期	2	1～	601		
	インターンシップⅡ	キャリアセンター(経営)	集中	2	1～	603	【単位認定用】	
	インターンシップⅢ	キャリアセンター(経営)	集中	1	1～	612	【単位認定用】	
	専門特講(エアライン・ビジネス論)	ANA総合研究所	半期	2	1～	645		
専門特講(観光キャリア論)	ANA総合研究所	半期	2	1～	647			
専門特講(商業簿記2級セミナー)	青木 孝暢	半期	2	1～	631			
専門特講(アニメビジネスの現場)	アニメビジネスの現場担当教員	通年2コマ	2	1～	655			
専門特講(古典芸能にみる経済学)	市川 千秋	半期	2	1～	621			
専門特講(創造都市論)	小笠原 伸	半期	2	1～	627			
専門特講(新産業創造論)	小笠原 伸	半期	2	1～	629			

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考	
専門科目 〔選択〕	専門特講 (情報処理資格講座)	黒澤 和人	半期	2	1~	633		
	専門特講 (ITパスポート資格講座)	黒澤・樋口 (和)・舩田・師	半期	2	1~	607		
	専門特講 (社会対応経営論)	黒田 勉	半期	2	1~	624		
	専門特講 (情報キャッチボール技術)	下村 健一	半期	2	1~	616		
	専門特講 (報道番組制作演習)	下村 健一	半期	2	1~	635		
	専門特講 (メディア制作 (3Dプリント))	菅野 嘉則	半期	2	1~	644		
	専門特講 (国際マーケティング)	鈴木 仁里	半期	2	1~	651		
	専門特講 (企業文化論)	西谷 勢至子	半期	2	1~	626		
	専門特講 (株投資と証券市場)	野村證券	半期	2	1~	613		
	専門特講 (企業法務)	比護 正史	半期	2	1~	637		
	専門特講 (アニメビジネス論)	藤井・青崎・菅野	半期	2	1~	618	【英語で行う授業】	
	専門特講 (国際経営の理論と実践)	藤井健/国際経営の理論と実践担当	半期	2	1~	619	【英語で行う授業】	
	専門特講 (商業簿記3級セミナー)	藤浪 英也	半期	2	1~	638		
		星 法子	半期	2	1~	640		
	専門特講 (MOS検定対策講座)	MOS検定対策講座担当教員	半期	2	1~	649		
	専門特講 (マーケティング戦略)	柳川 高行	半期	2	1~	653		
	専門特講 (工業簿記2級セミナー)	山田 覚	半期	2	1~	641		
	専門特講 (与信管理入門)	与信管理入門担当教員	半期	2	1~	642		
	専門特講 (就活コミュ学 (教職編))	渡辺 裕子	半期	2	3~	610		
	専門特講 (就活コミュ学 (企業編))	渡辺 裕子	半期	2	3~	611		
	海外留学事前指導	海外留学担当教員	半期	2	2~	593		
	海外留学I	新川 清治	半期	2	2~	594		
	海外留学II	海外留学担当教員	半期	2	2~	595		
	海外留学III	海外留学担当教員	半期	2	2~	596		
	海外留学IV	海外留学担当教員	半期	4	2~	597		
	海外留学V	海外留学担当教員	半期	4	2~	598		
	自主 選択科目 〔他学部等履修科目〕	教養外書講読II	渡邊 忠	通年2コマ	4	2~	301	
		日本法制史	三浦 顕一郎	半期2コマ	4	2~	853	
		憲法I (総論・人権)	岡田 順太	半期2コマ	4	1~	856	
			清水 潤	半期2コマ	4	1~	858	
行政法I		岡田 順太	半期2コマ	4	2~	860		
		池村 好道	半期2コマ	4	2~	861		
刑事法概論		清水 晴生	半期	2	1~	863		
刑法I (総論)		松原 和彦	半期2コマ	4	1~	865		
		清水 晴生	半期2コマ	4	1~	867		
刑法II (各論)		松原 和彦	半期2コマ	4	2~	869		
		清水 晴生	半期2コマ	4	2~	871		
民法I (総則)		石川 信	半期	2	1~	873		
民法II (物権総論)		石川 信	半期	2	2~	874		
民法III (担保物権)		石川 正美	半期	2	2~	875		
民法IV (債権総論)		茂木 明奈	半期2コマ	4	2~	877		
民法V (債権各論)		蓮田 哲也	半期2コマ	4	2~	880		
民法VI (親族)		河野 泰義	半期	2	1~	883		
民法VII (相続)		河野 泰義	半期	2	2~	885		
商取引法		河原 文敬	半期	2	3~	887		
保険法		吉武 雅子	半期2コマ	4	3~	888		
		白石 智則	半期2コマ	4	3~	890		
海商法		白石 智則	半期	2	3~	892		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
自主選択科目 〔他学部等履修科目〕	社会保障法	畑中 祥子	半期2コマ	4	3～	894	
	労働法	畑中 祥子	半期2コマ	4	3～	897	
	環境法	井上 秀典	半期2コマ	4	3～	899	
	フランス法	白石 智則	半期2コマ	4	2～	901	
	政治思想史	神吉 尚男	半期2コマ	4	1～	903	
	日本政治史	三浦 顕一郎	半期2コマ	4	1～	906	
	行政学	市村 充章	半期2コマ	4	1～	909	
	地方行政論	市村 充章	半期2コマ	4	2～	911	
	政策学Ⅰ（総論）	児玉 博昭	半期2コマ	4	2～	913	
	政策学Ⅱ（各論）	児玉 博昭	半期2コマ	4	2～	915	
	立法学	市村 充章	半期2コマ	4	2～	917	
	キャリア支援講座	法政策研究所	半期	2	1～	919	
	法職演習（数的処理①）	杉山 務	半期	2	1～	920	
	法職演習（数的処理②）	杉山 務	半期	2	1～	922	
	法職演習（数的処理基礎編①）	杉山 務	半期	2	1～	924	
	法職演習（数的処理基礎編②）	杉山 務	半期	2	1～	926	
	法職演習（私法①）	新井 弘明	半期	2	1～	928	
	法職演習（私法②）	新井 弘明	半期	2	1～	929	
	法職演習（公法①）	岡田 順太	半期	2	1～	930	
	法職演習（公法②）	清水 潤	半期	2	1～	931	
	法職演習（公法③）	松原 和彦	半期	2	1～	933	
	法職演習（公法④）	松原 和彦	半期	2	1～	934	
	アカデミック・レクチャー	Harry Harris	半期	2	3～	960	
	人格心理学	伊東 孝郎	半期	2	2～	962	
	環境心理学Ⅰ	平田 乃美	半期	2	2～	964	
	外書講読（親子関係を理解する）	伊崎 純子	半期	2	3～	976	

【教職課程科目 ※教職課程科目履修者対象】

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
教職課程科目	職業指導	【前期】小二田・【後期】木村	通年2コマ	4	3～	978	・高一種（商業）免許登録者のみ履修可能
	教師論	金井 正	半期	2	2～	936	
	教育基礎論	小泉 祥一	半期	2	1～	940	
		金井 正	半期	2	1～	942	
	教育心理学	平田 乃美	半期	2	1～	938	
		鶴田 利郎	半期	2	1～		
	教育制度論	荒川 麻里	半期	2	1～	935	
	教育課程論 S	小泉 祥一	半期	2	3～	946	
	社会科教育法 I	木村 勝彦	半期	2	3～	966	
	社会科教育法 II	木村 勝彦	半期	2	3～	968	
	社会科教育法 III	木村 勝彦	半期	2	3～	970	
	社会科・公民科教育法	木村 勝彦	半期	2	3～	972	
	公民科教育法	木村 勝彦	半期	2	3～	974	
	商業科教育法 I	小二田 悟朗	半期	2	3～	980	
	商業科教育法 II	木村 光利	半期	2	3～	982	
	道德教育の理論と方法 S	菊地 真貴子	半期	2	1～	948	
	特別活動の理論と方法 S	須藤 勝	半期	2	2～	950	
	教育方法論 S	樋口 和彦	半期	2	1～	953	
	生徒指導論（進路指導を含む）	榎本 和生	半期	2	2～	944	
	教育相談 S	榎本 和生	半期	2	2～	956	
		伊東 孝郎	半期	2	2～	958	
		黒澤 和人 ※1	半期・集中	1	3～	984	
	教育実習の事前事後指導 S	黒澤 和人 ※1	半期・集中	1	3～	984	
	教育実習 I	教職等課程委員会担当教員	集中	4	4～	986	
	教育実習 II	教職等課程委員会担当教員	集中	2	4～	987	
	教育実習 III	2018年度休講	—	—	—	—	
	教職実践演習（中・高）	樋口 和彦	半期	2	4～	988	

※1：事前指導担当教員

科目名	基礎ゼミナール
教員名	クラス担任

【授業の内容】

「基礎ゼミナール」の目的は、大学での学習を円滑に行うための基本的な技術を習得することにあります。また、「基礎ゼミナール」はキャリア教育（将来の進路）を意識した授業にもなります。そのため、『キャリアデザインハンドブック』を副読本として使用します。指導にはクラス担任が当たります。クラス担任は、学習面のみならず大学生活全般についての相談役でもあります。

【到達目標】

大学での学習を効果的に進めるには、さまざまな技術（スタディ・スキルズ）を身につけなくてはなりません。ここでは、主に、二つの技術を習得することを目標とします。

- ①レポートや意見文を書く技術（ライティングのスキル）
- ②意見を発表する技術（プレゼンテーションのスキル）

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション、グループ作り、自己紹介、など
- 第2回 文章の書き方を学ぶ。（学習課題の有無、内容、時間は各担当教員によって異なる）
- 第3回 文章の書き方を学ぶ。（学習課題の有無、内容、時間は各担当教員によって異なる）
- 第4回 文章の書き方を学ぶ。（学習課題の有無、内容、時間は各担当教員によって異なる）
- 第5回 プレゼンテーションの仕方を学ぶ。（学習課題の有無、内容、時間は各担当教員によって異なる）
- 第6回 プレゼンテーションの仕方を学ぶ。（学習課題の有無、内容、時間は各担当教員によって異なる）
- 第7回 プレゼンテーションの仕方を学ぶ。（学習課題の有無、内容、時間は各担当教員によって異なる）
- 第8回 自分の意見を述べる。（学習課題の有無、内容、時間は各担当教員によって異なる）
- 第9回 自分の意見を述べる。（学習課題の有無、内容、時間は各担当教員によって異なる）
- 第10回 自分の意見を述べる。（学習課題の有無、内容、時間は各担当教員によって異なる）
- 第11回 分かりやすい説明をする。（学習課題の有無、内容、次官等は各担当教員によって異なる）
- 第12回 メールの書き方を学ぶ。（学習課題の有無、内容、時間は各担当教員によって異なる）
- 第13回 メールの書き方を学ぶ。（学習課題の有無、内容、時間は各担当教員によって異なる）
- 第14回 レポートの書き方を学ぶ。（学習課題の有無、内容、時間は各担当教員によって異なる）
- 第15回 レポートの書き方を学ぶ。（学習課題の有無、内容、時間は各担当教員によって異なる）

上記の授業計画は、あくまでも一つの例であり、具体的な内容は各教員によって異なります。

【授業の進め方】

特定のテーマや課題について、意見交換、質問、発表、検討、討論などを行います。具体的な進め方は各教員によって異なります。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

各教員の指示に従ってください。

【参考図書】

進路指導部・能力開発センター作成の『キャリアデザインハンドブック』は共通の参考資料になります。これは、学生生活をどのように送ったらいいのを知る際の指針となるものです。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

定期試験がないので、課題の提出や積極的な授業参加が極めて重視されます。

【履修上の心得】

イスに座って先生の話静静地に聞いていればいいという授業にはなりません。考えること、考えをまとめること、意見を述べること、発表すること、などが求められます。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目はありません。むしろ基礎ゼミナールがこれから大学で学ぶすべての科目の前提科目となります。

科目名	英語 I A
	留学生必修科目
教員名	針生 進 S.Berman 三宅

【授業の内容】

日本人教員とネイティブスピーカーの教員の2人がそれぞれ担当する、週に2回の授業となる。少人数クラスである利点をいかして、さまざまな形の作業をしていきたい。

【到達目標】

英語を「読む」「書く」「聴く」「話す」基礎能力を身につけることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 Introduction to the class
- 第2回 Exercise and Practice (1) (20 minutes)
- 第3回 Exercise and Practice (2) (20 minutes)
- 第4回 Exercise and Practice (3) (20minutes)
- 第5回 Review (1) (30 minutes)
- 第6回 Exercise and Practice (4) (20 minutes)
- 第7回 Exercise and Practice (5) (20 minutes)
- 第8回 Exercise and Practice (6) (20 minutes)
- 第9回 Review (2) (30 minutes)
- 第10回 Exercise and Practice (7) (20 minutes)
- 第11回 Exercise and Practice (8) (20 minutes)
- 第12回 Exercise and Practice (9) (20 minutes)
- 第13回 Review (3) (30 minutes)
- 第14回 Exercise and Practice (10) (20 minutes)
- 第15回 Review (4) (10 minutes)

週に2回、2人の教員がそれぞれ別個の授業を行うこと。受講生の理解度に応じて柔軟なクラス運営をしたいこと。さらには、受講生の数と学力が事前に不明だということ（特に学力については年ごとの差が大きい）。これらの理由から、ここでは明確な授業計画を示すことはできないが、日本人教員のクラスでは文法、読解を、ネイティブ教員のクラスでは日常会話、聴解をそれぞれ中心に授業を行うというのが基本方針である。とはいえ、どちらのクラスでも練習(Exercise and Practice)そして復習(Review)の繰り返しの基本作業になる。期末の定期試験期間での筆記試験は実施しない。私(針生)のクラスについてだけいえば、毎月、第3週まではさまざまな演習にあて、4週目にその成果を見るテストを行う。この月単位のユニットを4月から7月まで繰り返していく予定である。なお、授業計画のなかで各回の課題のあとのカッコ内で示した時間は、その課題のために求められる標準的な予習時間である。

【授業の進め方】

予習と復習を欠かさないことを前提とした授業となる。外国語のクラスであれば、基本的にはくり返しの作業が多くなるだろうが、単調な授業になるかどうかは受講者次第である。具体的な進め方については、受講者の平均的英語力を見定めてから、改めて教室で指示する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教材は基本的には教員側から毎回配付する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 70% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

授業中に何回かの小テストを行う。これらの結果に受講態度などを評価する「平常点」を加味して最終の判定とする。上記のように、定期試験は行わない。

【履修上の心得】

例年、受講生の英語力はさまざまではあるけれど、同じ教室で共同作業をすることで、各自の能力を自覚し、弱点を克服してもらいたい。ごく初歩的なことでも遠慮なく質問すること。授業内容についての要望があれば、こちら側にはできるだけ応じる用意がある。

【科目のレベル、前提科目など】

必修、選択の、そして専門、教養の区別なく、本学での他のすべての科目のための基礎となる。「初級」英語から「中級」英語への架け橋としたい。

科目名	英語 I B
	留学生科目
教員名	針生 進 S.Bergman 三宅

【授業の内容】

日本人教員とネイティブスピーカーの教員の2人がそれぞれ担当する、週に2回の授業となる。少人数クラスである利点をいかして、さまざまな形の作業をしていきたい。

【到達目標】

英語を「読む」「書く」「聴く」「話す」基礎能力を身につけることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 Introduction to the class
- 第2回 Exercise and Practice (1) (20 minutes)
- 第3回 Exercise and Practice (2) (20 minutes)
- 第4回 Exercise and Practice (3) (20minutes)
- 第5回 Review (1) (30 minutes)
- 第6回 Exercise and Practice (4) (20 minutes)
- 第7回 Exercise and Practice (5) (20 minutes)
- 第8回 Exercise and Practice (6) (20 minutes)
- 第9回 Review (2) (30 minutes)
- 第10回 Exercise and Practice (7) (20 minutes)
- 第11回 Exercise and Practice (8) (20 minutes)
- 第12回 Exercise and Practice (9) (20 minutes)
- 第13回 Review (3) (30 minutes)
- 第14回 Exercise and Practice (10) (20 minutes)
- 第15回 Review (4) (10 minutes)

週に2回、2人の教員がそれぞれ別個の授業を行うこと。受講生の理解度に応じて柔軟なクラス運営をしたいこと。さらには、受講生の数と学力が事前に不明だということ（特に学力については年ごとの差が大きい）。これらの理由から、ここでは明確な授業計画を示すことはできないが、日本人教員のクラスでは文法、読解を、ネイティブ教員のクラスでは日常会話、聴解をそれぞれ中心に授業を行うというのが基本方針である。とはいえ、どちらのクラスでも練習(Exercise and Practice)そして復習(Review)の繰り返しの基本作業になる。期末の定期試験期間での筆記試験は実施しない。私(針生)のクラスについてだけいえば、毎月、第3週まではさまざまな演習にあて、4週目にその成果を見るテストを行う。この月単位のユニットを4月から7月まで繰り返していく予定である。なお、授業計画のなかで各回の課題のあとのカッコ内で示した時間は、その課題のために求められる標準的な予習時間である。

【授業の進め方】

予習と復習を欠かさないことを前提とした授業となる。外国語のクラスであれば、基本的にはくり返しの作業が多くなるだろうが、単調な授業になるかどうかは受講者次第である。具体的な進め方については、受講者の平均的英語力を見定めてから、改めて教室で指示する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教材は基本的には教員側から毎回配付する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 70% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

授業中に何回かの小テストを行う。これらの結果に受講態度などを評価する「平常点」を加味して最終の判定とする。上記のように、定期試験は行わない。

【履修上の心得】

例年、受講生の英語力はさまざまではあるけれど、同じ教室で共同作業をすることで、各自の能力を自覚し、弱点を克服してもらいたい。ごく初歩的なことでも遠慮なく質問すること。授業内容についての要望があれば、こちら側にはできるだけ応じる用意がある。

【科目のレベル、前提科目など】

必修、選択の、そして専門、教養の区別なく、本学での他のすべての科目のための基礎となる。「初級」英語から「中級」英語への架け橋としたい。

科目名	Reading I A
教員名	川上代里子 升水教之 木村記子 染谷昌弘 斎藤明宏 森好紳 延原みか子 大木俊英

【授業の内容】

TOEIC Listening and Reading Test の対策を行う。

【到達目標】

TOEIC を初めて受験する学生は、試験の概要を把握し出題形式に慣れる。
語彙力を増強する。文法の基礎的事項を確認し、読解力を向上させる。
overlapping, role play, repeating, shadowing などを通じて英語の聴解力を高める。

【授業計画】

- 第1回 インTRODクシヨン
第2回 Unit 1 Vocabulary Building, Reading, 文法事項：動詞
予習：単語の意味を調べておく(1h) 復習：もう一度自分で問題を解いてみる(0.5h)
第3回 Unit 1 Listening
予習：単語の意味を調べておく(1h) 復習：もう一度自分で問題を解いてみる(0.5h)
第4回 Unit 2 Vocabulary Building, Reading, 文法事項：名詞
予習：単語の意味を調べておく(1h) 復習：もう一度自分で問題を解いてみる(0.5h)
第5回 Unit 2 Listening
予習：単語の意味を調べておく(1h) 復習：もう一度自分で問題を解いてみる(0.5h)
第6回 Unit 3 Vocabulary Building, Reading, 文法事項：代名詞
予習：単語の意味を調べておく(1h) 復習：もう一度自分で問題を解いてみる(0.5h)
第7回 第7回 Unit 3 Listening
予習：単語の意味を調べておく(1h) 復習：もう一度自分で問題を解いてみる(0.5h)
第8回 Unit 4 Vocabulary Building, Reading, 文法事項：形容詞と副詞
予習：単語の意味を調べておく(1h) 復習：もう一度自分で問題を解いてみる(0.5h)
第9回 Unit 4 Listening
予習：単語の意味を調べておく(1h) 復習：もう一度自分で問題を解いてみる(0.5h)
第10回 Unit 5 Vocabulary Building, Reading 文法事項：時制
予習：単語の意味を調べておく(1h) 復習：もう一度自分で問題を解いてみる(0.5h)
第11回 Unit 5 Listening
予習：単語の意味を調べておく(1h) 復習：もう一度自分で問題を解いてみる(0.5h)
第12回 Unit 6 Vocabulary Building, Reading 文法事項：受動態・分詞
予習：単語の意味を調べておく(1h) 復習：もう一度自分で問題を解いてみる(0.5h)
第13回 Unit 6 Listening
予習：単語の意味を調べておく(1h) 復習：もう一度自分で問題を解いてみる(0.5h)
第14回 Unit 1～Unit 6 Readingまとめ
第15回 Unit 1～Unit 6 Listening まとめ

【授業の進め方】

Reading：語彙を学習し、テキストに基づいて文法の基礎的事項を確認する。問題演習のあとに、解説を行う。
Listening：問題演習とともに、overlapping, role play, repeating, shadowing などを行い、聴解力を養う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①FIRST TIME TRAINER FOR THE TOEIC TEST ,Revised Edition ②Chizuko Tsumatori, Masumi Tahira ③
CENGAGE Learning ④2016年12月20日 ⑤2000円 ⑥978-4-86312-293-2

購入方法：ブックス ナカジマで購入

【参考図書】

必要に応じて、教室で指定する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 85% 授業内小試験 0% レポート・課題 10% 受講態度 5%
特記事項
受講態度は授業内で指示した作業の提出状況などを評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

詳細については、各クラスの担当教員の説明にしたがうこと。

【履修上の心得】

予習として、わからない単語があれば授業までに調べておくこと。
それを前提に授業を進める。

【科目のレベル、前提科目など】

TOEIC Listening and Reading Testを初めて受験する学生にも配慮した基礎的科目。

前提科目：なし

【備 考】

複数の教員によって実施される科目であるため、成績評価や具体的な授業の進め方の詳細については各教員の指示にしたがうこと。

科目名	Reading I A
教員名	Neil Thomas Millington

【授業の内容】

Reading I is the first-year English reading course for students who are preparing to study abroad. Students will read English materials without benefit of Japanese translation. In order to become better readers of English, students will be asked to read a variety of materials for this course.

(Reading Iは、海外留学へ向けて準備をしている1年生の学生を対象にしたリーディング授業である。日本語訳の無い英語教材を使用する。英文の読解力を高めるために、様々な分野の英文教材を読むことになる。)

【到達目標】

The objectives of this course are to help students improve in their ability to:

- (a) read and understand texts without translation (翻訳無しで読解できるようになること。)
- (b) improve overall reading comprehension ability (全般的な読解力の向上。)
- (c) increase reading speed without loss of comprehension (理解力を失うことなく、速読できるようになること。)

【授業計画】

- 第1回 Introduction to the class and the syllabus
- 第2回 An introduction to reading and how to read various texts
- 第3回 Practical English #1
Reading and discovering texts for practical everyday use #1
- 第4回 Practical English #2
Reading and discovering texts for practical everyday use #2
- 第5回 Practical English #3
Reading and discovering texts for practical everyday use #3
- 第6回 Practical English Quiz
Reading quiz on practical everyday texts
- 第7回 Interesting English #1
Reading for pleasure and knowledge #1
- 第8回 Interesting English #2
Reading for pleasure and knowledge #2
- 第9回 Interesting English #3
Reading for pleasure and knowledge #3
- 第10回 Interesting English Quiz
Reading quiz on graded interesting English texts
- 第11回 Academic English #1
Reading and learning how to answer questions for academic English texts #1
- 第12回 Academic English #2
Reading and learning how to answer questions for academic English texts #2
- 第13回 Academic English #3
Reading and learning how to answer questions for academic English texts #3
- 第14回 Semester review and test preparation
- 第15回 Reading Quiz on practical, interesting, and academic texts

The syllabus is subject to change.

【授業の進め方】

Because of the extensive amount of reading required for the course, students will be given class time to complete the work for this course. Students will work independently during a portion of the class period.

(読書に時間がかかるため、授業中は各自が課題を進める時間とする。)

【教科書(必ず購入すべきもの)】

There is no textbook requirement for this course. (この授業ではテキストは必要ありません。)

【参考図書】

English reading materials such as newspapers, magazines, and other types of information are available both in print and online. Ask your teacher for available resources.

(新聞や雑誌などの英文教材は、印刷物でもウェブサイトでも入手できる。必要な場合は、講師に尋ねること。)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 60% レポート・課題 0% 受講態度 40%

特記事項

Students will be asked to read during the class time. It is a time for silent work and a focus on improving reading skills by using the time to read. Homework assignments to turn in will be required every week. This will include work from the textbook and other assignments. Six (6) or more absences will result in an automatic failing grade for the course.

(授業中は静かに集中して、リーディング・スキル向上に努める。宿題(テキストとその他の課題)は毎週提出すること。6回以上授業を欠席した場合、自動的に単位を落とすこととなる。)

【「成績評価の方法」に関する注意点】

Six (6) or more absences will result in an automatic failing grade for the course.

(6回以上授業を欠席した場合、自動的に単位を落とすこととなる。)

【履修上の心得】

Reading in the English language is an activity best learned by reading and reading a lot. Students will have a chance to do this in class. It is expected that students will use class time to work on improving their ability to read in English. Only by reading can this long process begin to happen. Use the class time to read.

(英文読解力の向上の最短の道のりは、たくさん読むこと。この授業ではその時間を提供する。)

【科目のレベル、前提科目など】

This class is an introductory-level reading class that will prepare students to read and work independently with texts in higher-level classes.

(この科目はリーディングの基礎の授業で、各々で読み、課題をこなせる様にするためにある。)

【備 考】

Writing courses can help you to devise strategies to improve reading ability.

(ライティングの科目は、読解力を高めるためにも必要な要素である。)

科目名	Reading I A
教員名	足立綾

【授業の内容】

各教員指定のテキストを読み、訳し、添えられた問題を解きながら、内容を理解していく。付属の視聴覚教材があれば、それらを利用して内容の理解を深める。

【到達目標】

どちらも1年次の英語必修科目である「Reading IA / IB」と「Oral IA / IB」とを合わせた目標は、英語を「読む」「書く」「聴く」「話す」の基礎能力を身につけることである。こちら「Reading IA」では、特に読解力の習得に重きを置く。辞書の助けを借りてなら、新聞や雑誌の一般記事を読みこなせる程度の力をつけるようにする。

【授業計画】

- 第1回 Introduction to the class
- 第2回 Unit 1 Fuel Your Body and Mind / Passage Reading (20 minutes)
- 第3回 Unit 1 Fuel Your Body and Mind / Exercise and Practice (20 minutes)
- 第4回 Unit 2 What Helps Keep a Doctor Away / Passage Reading (20 minutes)
- 第5回 Unit 2 What Helps Keep a Doctor Away / Exercise and Practice (20 minutes)
- 第6回 Unit 3 Laughing Will Save You from Going Crazy / Passage Reading (20 minutes)
- 第7回 Unit 3 Laughing Will Save You from Going Crazy / Exercise and Practice (20 minutes)
- 第8回 Unit 4 The French Paradox / Passage Reading (20 minutes)
- 第9回 Unit 4 The French Paradox / Exercise and Practice (20 minutes)
- 第10回 Unit 5 American's Interest in Sushi / Passage Reading (20 minutes)
- 第11回 Unit 5 American's Interest in Sushi / Exercise and Practice (20 minutes)
- 第12回 Unit 6 Don't Stay Away from Natto / Passage Reading (20 minutes)
- 第13回 Unit 6 Don't Stay Away from Natto / Exercise and Practice (20 minutes)
- 第14回 Unit 7 Acute Alcohol Intoxication Can kill You / Passage Reading (20 minutes)
- 第15回 Review Test

注意：担当教員によって使用する教科書が異なるので、上には、一例として、指定教科書のなかから『Better Health for Every Day』を使用した場合の日程を示しておく。とはいえ、下記の3種の教科書はいずれも15前後のユニットから成っているの、1つのユニットをほぼ2週で読み終え、添えられた問題を解いていくというのが共通した作業手順になるだろう。各担当教員によって、より詳細な授業計画が第1回の授業時に示されるだろう。なお、授業計画のなかで各回の課題のあとにカッコ内で示した時間は、その課題のために求められる標準的な予習時間である。

【授業の進め方】

予習と復習を欠かさないことを前提とした授業となる。読む、訳す、そして問題を解くと繰り返していけば単調になりやすい。そうならないようにする方策として、視聴覚教材などを活用する場合もある。それでも外国語の演習クラスであるからには、繰り返しの作業は避けられない。単調になるかどうかは、結局は受講者次第になるだろう。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①Better Health for Every Day ②Amy Mukamuri, et al. ③金星堂 ④2014 ⑤¥1,900 ⑥978-4-7647-3983-3
- ①Funny Laws in the World ②Ishii, Iwata, et al. ③南雲堂 ④2015 ⑤¥1,700 ⑥978-4-5231-7784-5
- ①Trend Watching 2 ②Jonathan Lynch, et al. ③成美堂 ④2018 ⑤¥1,900 ⑥978-4-7919-3417-1

内容や主題は異なるとしても、難易度では同じ程度の上記の3冊のなかから、各クラス担当者が選んだ教科書を使う。クラスによって使用する教科書が異なる場合があるので、学内の書店で確認してから購入すること。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 10% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

期末の定期試験期間中に筆記試験を実施する。授業中に何回かの小テストを行うこともある。これらの結果に受講態度などを評価する「平常点」を加味して最終の判定とする。出欠は毎回とる。欠席を何回したら単位がとれなくなるか、などということは常識で判断するように。以下は参考までに：「成績が多少よくても、欠席が目立てば不合格になる場合もある」。これは常識の範囲内である。「試験の結果が思わしくなくても、教室にいつも顔を出してさえいれば、単位だけはまあ確実」。これは非常識と言わざるを得ない。欠席数が授業数の3分の1を超えれば、やむを得ない事情でない限り、失格となる(受験資格を失う)ことだけは明言しておく。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

演習科目であるので、授業への参加がきわめて消極的であれば減点されることもある。万一、授業の円滑な進行を妨害するような行為が目立てば、単位そのものが与えられないこともある。

【履修上の心得】

他の授業の合間の息抜きにと言えば語弊があるけれど、読んで面白い教科書を選んだつもりである。ただ、内容にというよりも、一見すれば暗号のような外国語を読み解くという作業そのものに面白味を感じてくれれば、それにこしたことはない。そのためにも、予習と復習は欠かせなくなる。

【科目のレベル、前提科目など】

必修、選択の別なく、本学での他のすべての英語科目、そして多くの専門科目のための基礎となる。

科目名	Reading I B
教員名	川上代里子 升水教之 木村記子 染谷昌弘 斎藤明宏 森好紳 延原みか子 大木俊英

【授業の内容】

TOEIC Listening and Reading Test の対策を行う。

【到達目標】

TOEIC を初めて受験する学生は、試験の概要を把握し出題形式に慣れる。
語彙力を増強する。文法の基礎的事項を確認し、読解力を向上させる。
overlapping, role play, repeating, shadowing などを通じて英語の聴解能力を高める。

【授業計画】

- 第1回 インTRODakション
第2回 Unit 7 Vocabulary Building, Reading, 文法事項：動名詞と不定詞
予習：単語の意味を調べておく(1h) 復習：もう一度自分で問題を解いてみる(0.5h)
第3回 Unit 7 Listening
予習：単語の意味を調べておく(1h) 復習：もう一度自分で問題を解いてみる(0.5h)
第4回 Unit 8 Vocabulary Building, Reading, 文法事項：助動詞
予習：単語の意味を調べておく(1h) 復習：もう一度自分で問題を解いてみる(0.5h)
第5回 Unit 8 Listening
予習：単語の意味を調べておく(1h) 復習：もう一度自分で問題を解いてみる(0.5h)
第6回 Unit 9 Vocabulary Building, Reading, 文法事項：比較
予習：単語の意味を調べておく(1h) 復習：もう一度自分で問題を解いてみる(0.5h)
第7回 Unit 9 Listening
予習：単語の意味を調べておく(1h) 復習：もう一度自分で問題を解いてみる(0.5h)
第8回 Unit 10 Vocabulary Building, Reading, 文法事項：前置詞
予習：単語の意味を調べておく(1h) 復習：もう一度自分で問題を解いてみる(0.5h)
第9回 Unit 10 Listening
予習：単語の意味を調べておく(1h) 復習：もう一度自分で問題を解いてみる(0.5h)
第10回 Unit 11 Vocabulary Building, Reading 文法事項：接続詞
予習：単語の意味を調べておく(1h) 復習：もう一度自分で問題を解いてみる(0.5h)
第11回 Unit 11 Listening
予習：単語の意味を調べておく(1h) 復習：もう一度自分で問題を解いてみる(0.5h)
第12回 Unit 12 Vocabulary Building, Reading 文法事項：関係詞
予習：単語の意味を調べておく(1h) 復習：もう一度自分で問題を解いてみる(0.5h)
第13回 Unit 12 Listening
予習：単語の意味を調べておく(1h) 復習：もう一度自分で問題を解いてみる(0.5h)
第14回 第14回 Unit 7～Unit 12 Readingまとめ
第15回 第15回 Unit 7～Unit 12 Listening まとめ

【授業の進め方】

Reading：語彙を学習し、テキストに基づいて文法の基礎的事項を確認する。問題演習のあとに、解説を行う。
Listening：問題演習とともに、overlapping, role play, repeating, shadowing などを行い、聴解力を養う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①FIRST TIME TRAINER FOR THE TOEIC TEST ,Revised Edition ②Chizuko Tsumatori, Masumi Tahira ③
CENGAGE Learning ④2016年12月20日 ⑤2000円 ⑥978-4-86312-293-2

購入方法：ブックス ナカジマで購入

【参考図書】

必要に応じて、教室で指定する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 85% 授業内小試験 0% レポート・課題 10% 受講態度 5%
特記事項
受講態度は、授業内で指示した作業の提出状況などで評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

詳細については、各クラスの担当教員の説明にしたがうこと。

【履修上の心得】

予習として、わからない単語があれば授業までに調べておくこと。
それを前提に授業を進める。

【科目のレベル、前提科目など】

TOEIC を初めて受験する学生にも配慮した、基礎的科目。

前提科目：なし

【備 考】

複数の教員によって実施される科目であるため、成績評価や具体的な授業の進め方の詳細については各教員の指示にしたがうこと。

科目名	Reading I B
教員名	Neil Thomas Millington

【授業の内容】

Reading IB is the first-year English reading course for students who are preparing to study abroad. Students will read English materials without benefit of Japanese translation. In order to become better readers of English, students will be asked to read a variety of materials for this course.

(Reading IB は、留学の準備をしている1年生を対象とする英語のリーディング授業である。日本語訳の無い英語教材を使用する。英文の読解力を高めるために、様々な分野の英文教材を使う。)

【到達目標】

The objectives of this course are to help students improve in their ability to: (a)read and understand texts without translation (翻訳無しで読解できるようになること。) (b)improve overall reading comprehension ability (全般的な読解力の向上。) (c)increase reading speed without loss of comprehension (理解力を失うことなく、速読できるようになること。)

【授業計画】

- 第1回 Introduction to the class and the syllabus
- 第2回 An introduction to reading and how to read various texts
- 第3回 Practical English #4
Reading and discovering texts for practical everyday use #4
- 第4回 Practical English #5
Reading and discovering texts for practical everyday use #5
- 第5回 Practical English #6
Reading and discovering texts for practical everyday use #6
- 第6回 Practical English Quiz
Reading quiz on practical everyday texts
- 第7回 Interesting English #4
Reading for pleasure and knowledge #4
- 第8回 Interesting English #5
Reading for pleasure and knowledge #5
- 第9回 Interesting English #6
Reading for pleasure and knowledge #6
- 第10回 Interesting English Quiz
Reading quiz on graded interesting English texts
- 第11回 Academic English #4
Reading and learning how to answer questions for academic English texts #4
- 第12回 Academic English #5
Reading and learning how to answer questions for academic English texts #5
- 第13回 Academic English #6
Reading and learning how to answer questions for academic English texts #6
- 第14回 Semester review and test preparation
- 第15回 eading Quiz on practical, interesting, and academic texts

The syllabus is subject to change.

【授業の進め方】

Because of the extensive amount of reading required for the course, students will be given class time to complete the work for this course. Students will work independently during a portion of the class period.

(読書に時間がかかるため、授業中は各自が課題を進める時間とする。)

【教科書(必ず購入すべきもの)】

There is no textbook requirement for this course.

(この授業ではテキストは必要ありません。)

【参考図書】

English reading materials such as newspapers, magazines, and other types of information are available both in print and

online. Ask your teacher for available resources.

(新聞や雑誌などの英文教材は、印刷物でもウェブサイトでも入手できる。必要な場合は、講師に尋ねること。)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 60% レポート・課題 0% 受講態度 40%

特記事項

Students will be asked to read during the class time. It is a time for silent work and a focus on improving reading skills by using the time to read. Homework assignments to turn in will be required every week. This will include work from the textbook and other assignments. Six (6) or more absences will result in an automatic failing grade for the course.

(授業中は静かに集中して、リーディング・スキルの向上に努める。宿題(テキストとその他の課題)は毎週提出すること。6回以上の欠席がある場合、自動的に単位を落とすこととなる。)

【「成績評価の方法」に関する注意点】

Six (6) or more absences will result in an automatic failing grade for the course.

(6回以上の欠席がある場合、自動的に単位を落とすこととなる。)

【履修上の心得】

Reading in the English language is an activity best learned by reading and reading a lot. Students will have a chance to do this in class. It is expected that students will use class time to work on improving their ability to read in English. Only by reading can this long process begin to happen. Use the class time to read.

(英文読解力の向上の最短の道のりは、たくさん読むこと。この授業ではその時間を提供する。英文を読む力を付けるために、この授業の時間を利用するように。)

【科目のレベル、前提科目など】

This class is an introductory-level reading class that will prepare students to read and work independently with texts in higher-level classes.

(この科目はリーディングの基礎の授業で、各々で読み、課題をこなせる様にするためにある。)

【備 考】

Writing courses can help you to devise strategies to improve reading ability.

(ライティングの科目は、読解力を高めるためにも必要な要素である。)

科目名	Reading I B
教員名	足立綾

【授業の内容】

各教員指定のテキストを読み、訳し、添えられた問題を解きながら、内容を理解していく。付属の視聴覚教材があれば、それらを利用して内容の理解を深める。

【到達目標】

どちらも一年次の英語必修科目である「Reading IA / IB」と「Oral IA / IB」とを合わせた目標は、英語を「読む」「書く」「聴く」「話す」の基礎能力を身につけることである。こちら「Reading IB」では「Reading IA」に引き続き、特に読解力の習得に重きを置く。辞書の助けを借りてなら、新聞や雑誌の一般記事を読みこなせる程度の力をつけるようにする。

【授業計画】

- 第1回 Unit 7 Acute Alcohol Intoxication Can Kill You / Exercise and Practice (20 minutes)
- 第2回 Unit 8 Is Snoring a Bad Sign? / Passage Reading (20 minutes)
- 第3回 Unit 8 Is Snoring a Bad Sign? / Exercise and Practice (20 minutes)
- 第4回 Unit 9 Getting a Good Night's Sleep is a Challenge / Passage Reading (20 minutes)
- 第5回 Unit 9 Getting a Good Night's Sleep is a Challenge / Exercise and Practice (20 minutes)
- 第6回 Unit 10 Chocolate and its Magical Power / Passage Reading (20 minutes)
- 第7回 Unit 10 Chocolate and its Magical Power / Exercise and Practice (20 minutes)
- 第8回 Unit 11 The Health Risks of Eating Processed Food / Passage Reading (20 minutes)
- 第9回 Unit 11 The Health Risks of Eating Processed Food / Exercise and Practice (20 minutes)
- 第10回 Unit 12 Is Genetically Modified Food Safe Enough? / Passage Reading (20 minutes)
- 第11回 Unit 12 Is Genetically Modified Food Safe Enough? / Exercise and Practice (20 minutes)
- 第12回 Unit 13 Environmental Health Threats / Passage reading (20 minutes)
- 第13回 Unit 13 Environmental Health Threats / Exercise and Practice (20 minutes)
- 第14回 Review Test
- 第15回 Review and Supplement

Reading I Aで使用した教科書を続けて読む。Reading I Aについてのシラバスにあるように、担当教員も教科書もクラスごとに異なるので、上には、一例として、3冊の指定教科書のなかから『Better Health for Every Day』を使用した場合の授業計画を示しておく。とはいえ、各ユニットをほぼ2週で読み終えていくという基本作業はどのクラスでも変わらない。各担当教員によって、より詳細な授業計画が第1回の授業時に示されるだろう。なお、授業計画のなかで各回の課題のあとにカッコ内で示した時間は、その課題のために求められる標準的な予習時間である。

【授業の進め方】

予習と復習を欠かさないことを前提とした授業となる。読む、訳す、そして問題を解くと繰り返していけば単調になりやすい。そうならないようにする方策として、視聴覚教材などを活用する場合もある。それでも外国語の演習クラスであるからには、繰り返しの作業は避けられない。単調になるかどうかは、結局は受講者次第になるだろう。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①Better Health for Every Day ②Amy Mukamuri, et al. ③金星堂 ④2014 ⑤¥1,900 ⑥978-4-7647-3983-3
- ①Funny Laws in the World ②Ishii, Iwata, et al. ③南雲堂 ④2015 ⑤¥1,700 ⑥9784-7-5231-7784-5
- ①Trend Watching 2 ②Jonathan Lynch, et al. ③成美堂 ④2018 ⑤¥1,900 ⑥9784-4-7919-3417-1

「Reading IA」で使用した教科書を継続して使うので、同科目の単位修得者は新たに購入する必要はない。以下は「Reading IB」から始める受講生のために：内容や主題は異なるとしても、難易度では同じ程度の上記の3冊のなかから、各クラス担当者が指定した教科書を使う。クラスによって使用する教科書が異なる場合があるので、学内の書店で確認してから購入すること。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 10% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

期末の定期試験期間中に筆記試験を実施する。授業中に何回かの小テストを行うこともある。これらの結果に受講態度などを評価する「平常点」を加味して最終の判定とする。出欠は毎回とる。欠席を何回したら単位がとれなくなるか、などということは常識で判断するように。以下は参考までに：「成績が多少よくても、欠席が目立てば不合格になる場合もある」。これは常識の範囲内である。「試験の結果が思わしくなくても、教室にいつも顔を出してさえいれば、単位だけはまあ確実」。これは非常識と言わざるを得ない。欠席数が授業数の3分の1を超えれば、やむを得ない事情でな

い限り、失格となる（受験資格を失う）ことだけは明言しておく。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

演習科目であるので、授業への参加がきわめて消極的であれば減点されることもある。万一、授業の円滑な進行を妨害するような行為が目立てば、単位そのものが与えられないこともある。

【履修上の心得】

他の授業の合間の息抜きにと言えば語弊があるけれど、読んで面白い教科書を選んだつもりである。ただ、内容にというよりも、一見すれば暗号のような外国語を読み解くという作業そのものに面白味を感じてくれれば、それにこしたことはない。そのためにも、予習と復習は欠かせなくなる。

【科目のレベル、前提科目など】

必修、選択の別なく、本学での他のすべての英語科目、そして多くの専門科目のための基礎となる。

科目名	Oral I A
教員名	Harry Harris, Paul Del Rosario, Neil Thomas Millington, Luke Winn, Miklos Juhasz, Michael STOUT

【授業の内容】

Course Objectives: Oral IA (native speaker) is taught once a week. Oral I focuses on listening and speaking skills through pair work (two students) and group work, language activities which both require students to practice listening to and to interact with others in English in the classroom.

Oral I A (ネイティブ) は、新入生を対象にした週に一度のクラスである。学生がペアになりスピーキングやリスニングのスキルアップを図る、クラスで他の学生に目的を持って英語で働きかける、テープを聞いて聴解力の練習を行う、などの点に焦点を絞る。

【到達目標】

Students are expected to be actively involved in their own learning. It is also hoped that the classroom atmosphere will reduce somewhat the anxiety involved in language learning in order to activate the passive English knowledge the students have from past English study in junior and senior high school.

学生は積極的に学ぶ姿勢を示すことが大切で、それにより英語嫌いを少しでも克服すると共に受け身の英語（知識はあるもののこれまで使う機会がなかった）を積極的に使える英語にする。

【授業計画】

- 第1回 Communication Activities (コミュニケーション・アクティビティ)
- 第2回 Controlled Practice (リスニング・スピーキング課題演習)
- 第3回 Demonstration (デモンストレーション)
- 第4回 Communication Activities (コミュニケーション・アクティビティ)
- 第5回 Controlled Practice (リスニング・スピーキング課題演習)
- 第6回 Demonstration (デモンストレーション)
- 第7回 Communication Activities (コミュニケーション・アクティビティ)
- 第8回 Controlled Practice (リスニング・スピーキング課題演習)
- 第9回 Demonstration (デモンストレーション)
- 第10回 Communication Activities (コミュニケーション・アクティビティ)
- 第11回 Controlled Practice (リスニング・スピーキング課題演習)
- 第12回 Demonstration (デモンストレーション)
- 第13回 Catch up/Consolidation/Assessment (理解力課題)
- 第14回 Catch up/Consolidation/Assessment (理解力課題)
- 第15回 Catch up/Consolidation/Assessment (理解力課題)

Course Contents: The usual classroom sequence will be: warm-up listening and speaking, focused listening task, speaking activities, and homework. Students will take periodic quizzes and other assessments.

通常、授業はウォームアップ練習、リスニングとスピーキングのウォームアップ、リスニング課題、スピーキング課題、そして宿題の順番で行う。学生は定期的に行われる小テスト、それに前期と後期に行われる理解力試験を受ける。

【授業の進め方】

Course Progress: The class will be conducted in simple English with active student participation using English expected. The teacher will structure the class in such a way as to facilitate the maximum amount of time for students to speak, allowing (encouraging) the students to assume the primary responsibility for learning communication skills. The focus is on learning practical skills.

クラスは平易な英語で行われ、学生は積極的に参加して互いを表現しあうことが期待される。学生が最大限話せるよう手助けすると共にコミュニケーションの技法をマスターするのは学生自身の積極性にかかっていることを自覚させるようクラスを運営する。あくまでも実践的なスキルの習得に力点を置く。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

Performance, Language solutions Inc. OR
 Talk a Lot, David Martin, EFL Press OR
 Marathon Mouth, Paul Shimizu, Intercom Press
 Text book may be chosen from above and will be announced in class.
 Teachers will also be using original materials.

教科書はいずれかを使用する。使用する教科書は初回授業にて教員が伝える。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 40% レポート・課題 40% 受講態度 20%

特記事項

Course Grading: Weekly class pair work, interactive language activities, listening exercises, homework, attendance, semester and final assessments.

毎週のペアワーク、インタラクト、テープ聴取、宿題、授業態度、前期・後期の理解力課題による。

Assessment 80% (in-class quizzes, presentations, homework, and class work, etc.)

Attitude/Participation 20%

【履修上の心得】

Course Recommendations: Oral IA (native speaker) aims at mastering basic speaking and listening skills within a context of purposeful communication. Thus students are encouraged to be active, self-motivated, and willing also to spend time outside of class using English at the English Lounge, as well as for reading, watching TV, listening to the radio, and using the Internet.

Oral I A (ネイティブ) は目的をもったコミュニケーションの訓練を通して、口述、聴解の基本的なテクニックの習得を目指す。従って、積極的に自ら動機付けをし、イングリッシュラウンジでの会話や読書、TV、ラジオ、インターネットの利用など教室以外で英語を使う機会を持つことが期待される。

【科目のレベル、前提科目など】

Related Subjects: Oral IA (native speaker) prepares students to verbally express themselves and understand simple English, and explain more complicated human feelings with some detail.

Course Sequence: Oral IA (native speaker) is the entry level English course in the Faculty of Business Management and establishes the foundations of Oral II.

Oral I A(ネイティブ) は、平易な英語を理解しそうした英語で自分を言い表わしながら、人間のより複雑な感情を多少とも雄弁に説明できるようにする。経営学部での英語入門コースであり、Oral II の基礎となる。

科目名	Oral I A
教員名	Helge Maruyama, Stephanie Yuuko Iso

【授業の内容】

This is a basic-level oral English course for students who are preparing to study abroad. Students will work on improving their English listening and speaking skills to prepare for study abroad.

(この講義のレベルは基礎英会話であり、海外留学の準備をしている学生を対象とする。リスニング力とスピーキング力の向上を目指し、留学の準備をする。)

【到達目標】

The goals of the class are:

(a) To make students feel comfortable and at ease listening to and speaking English

(学生が英語に聞き慣れること、そして話すことに抵抗を無くす。)

(b) To prepare students to speak to other speakers of English

(学生が外国人と英語で話せるようにする。)

(c) To introduce students to relaxed, informal English, like the kind encountered outside of the classroom

(教室の外で使われているような、砕けた、自然な英語に触れる。)

【授業計画】

- 第1回 Introduction to the class
- 第2回 Listening test
- 第3回 Listening task
Speaking task - pair, small group, or class
Writing task
- 第4回 Listening task
Speaking task - pair, small group, or class
Writing task
- 第5回 Listening task
Speaking task - pair, small group, or class
Writing task
- 第6回 Listening task
Speaking task - pair, small group, or class
Writing task
- 第7回 Listening task
Speaking task - pair, small group, or class
Writing task
- 第8回 Listening task
Speaking task - pair, small group, or class
Writing task
- 第9回 Listening task
Speaking task - pair, small group, or class
Writing task
- 第10回 Listening task
Speaking task - pair, small group, or class
Writing task
- 第11回 Listening task
Speaking task - pair, small group, or class
Writing task
- 第12回 Listening task
Speaking task - pair, small group, or class
Writing task
- 第13回 Listening task
Speaking task - pair, small group, or class
Writing task
- 第14回 Listening task
Speaking task - pair, small group, or class
Writing task

第15回 Listening task
Speaking task - pair, small group, or class
Writing task

The syllabus is subject to change. Contents of each class is dependent on the course teacher and textbook used.

A textbook will be used to provide listening and speaking practice weekly. The textbook units will cover the language necessary for basic communication in English.

(リスニングとスピーキングの練習にテキストが使用される。基本的な英会話に必要な言語をテキストはカバーする。)

Whaddaya Say:

Ten units will be completed per semester.

(各学期、10ユニットを学習する。)

Quizzes, tests, and other assessments:

There is no general English test for all students of Oral English I at the end of the term or year. The individual teachers for the course will determine the schedule and provide the quizzes, tests, or other assessments needed to determine students' knowledge of the material covered in the course.

(Oral English Iは、学期末あるいは学年末試験は行わない。各講師が小テストなどの日程を定め、それによって学生の習熟度を計るものとする。)

【授業の進め方】

Each unit in the textbook will provide tasks for listening and speaking practice. This may require students to work individually, in pairs, in small groups, or as a class.

Whaddaya Say will provide listening activities to familiarize students with the sounds of natural speech.

Supplemental tasks and materials will be used as needed by the individual teachers to provide additional practice.

Quizzes, tests, and other forms of assessment will be scheduled periodically by the individual teachers to determine student understanding of language studied in the course.

(テキストの各ユニットはリスニングとスピーキングの練習に使用される。そのため、学生は個人、ペア、グループ、クラス全体で勉強することとなる。)

テキストWhaddaya Sayは、学生が日常会話に慣れるよう構成されているリスニングのテキストである。

補助的課題と教材は、必要に応じて各講師により提供される。

小テストや試験、その他の課題は、各講師により定期的に行われる。それらによって学生の言語習熟度を計る。)

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①初回授業時に指示する。

Textbooks to be used for the class will be announced at the first class session.

(第1回の講義で使用するテキストは伝える。)

【参考図書】

初回授業時に指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 20% レポート・課題 20% 受講態度 60%

特記事項

Students must attend class in order to have a chance to get credit for this course.

Participation in class work is expected. This means speaking English in class at all times, for example in pairwork and groupwork and when asking and answering questions. A good attitude and cooperation with classmates and the teacher are also elements of participation.

Homework will be assigned. Students should take the time and make the effort necessary for each assignment and submit it on time. It is expected that each student will do his or her own work.

Quizzes, tests, or other assessments will be used by the teacher to determine understanding of the material presented in class.

(単位修得には講義に出席すること。)

授業は積極的に参加する。たとえばペアになった会話やグループワーク、質疑応答の時など、授業中は英語で積極的に会話すること。クラスメイトと講師との積極的な態度と協力は、授業参加の重要な要素である。

課題が出された場合、各課題に真剣に取り組み、提出期限を必ず守ること。各自の課題は、各自で取り組むこと。

小テスト、試験、またはその他の課題は、授業で取り扱う教材の理解度を知るために使われる。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

Students must attend class in order to have a chance to get credit for this course.

(単位を得るためには、授業への出席が必須である。)

【履修上の心得】

It is important that students use English for the entire class period. This means that students should not use their native (Japanese) language in class. All students should work together to provide an English-only environment.

The class will be conducted entirely in English. Students should not expect English to Japanese translation by the teacher.

It is important for students to learn to work in English in this course.

(授業中は英語のみを使う事が重要である。つまり授業中は、母国語(日本語)を話してはならないということ。学生全員が、英語のみの環境をつくることに協力しなければならない。)

授業は英語のみで進められる。講師による英語から日本語への通訳はない。この授業は学生が、英語でその内容を学ぶことに重要性がある。)

【科目のレベル、前提科目など】

This is a basic-level oral English for communication course that provides an introduction to and the foundation for second- and third-year oral English courses.

(この講義は、2年目と3年目のオーラル・イングリッシュの講義への導入と基本となるもので、英会話の基礎レベルである。)

【備 考】

All other English courses, such as reading, writing, etc., are indirectly related to this course and to each other.

(他の英語の講義－リーディング、ライティングなど－は、この講義に直接結びつくものではない。リーディングとライティングの講義も関連性はない。)

科目名	Oral I B
教員名	Harry Harris, Paul Del Rosario, Neil Thomas Millington, Luke Winn, Miklos Juhasz, Michael STOUT

【授業の内容】

Course Objectives: Oral IB (native speaker) is taught once a week. Oral I focuses on listening and speaking skills through pair work (two students) and group work, language activities which both require students to practice listening to and to interact with others in English in the classroom.

Oral I B (ネイティブ) は、新入生を対象にした週に一度のクラスである。学生がペアになりスピーキングやリスニングのスキルアップを図る、クラスで他の学生に目的を持って英語で働きかける、テープを聞いて聴解力の練習を行う、などの点に焦点を絞る。

【到達目標】

Students are expected to be actively involved in their own learning. It is also hoped that the classroom atmosphere will reduce somewhat the anxiety involved in language learning in order to activate the passive English knowledge the students have from past English study in junior and senior high school.

学生は積極的に学ぶ姿勢を示すことが大切で、それにより英語嫌いを少しでも克服すると共に受け身の英語（知識はあるもののこれまで使う機会がなかった）を積極的に使える英語にする。

【授業計画】

- 第1回 Communication Activities (コミュニケーション・アクティビティ)
- 第2回 Controlled Practice (リスニング・スピーキング課題演習)
- 第3回 Demonstration (デモンストレーション)
- 第4回 Communication Activities (コミュニケーション・アクティビティ)
- 第5回 Controlled Practice (リスニング・スピーキング課題演習)
- 第6回 Demonstration (デモンストレーション)
- 第7回 Communication Activities (コミュニケーション・アクティビティ)
- 第8回 Controlled Practice (リスニング・スピーキング課題演習)
- 第9回 Demonstration (デモンストレーション)
- 第10回 Communication Activities (コミュニケーション・アクティビティ)
- 第11回 Controlled Practice (リスニング・スピーキング課題演習)
- 第12回 Demonstration (デモンストレーション)
- 第13回 Catch up/Consolidation/Assessment (理解力課題)
- 第14回 Catch up/Consolidation/Assessment (理解力課題)
- 第15回 Catch up/Consolidation/Assessment (理解力課題)

Course Contents: The usual classroom sequence will be: warm-up listening and speaking, focused listening task, speaking activities, and homework. Students will take periodic quizzes and other assessments.

通常、授業はウォームアップ練習、リスニングとスピーキングのウォームアップ、リスニング課題、スピーキング課題、そして宿題の順番で行う。学生は定期的に行われる小テスト、それに前期と後期に行われる理解力試験を受ける。

【授業の進め方】

Course Progress: The class will be conducted in simple English with active student participation using English expected. The teacher will structure the class in such a way as to facilitate the maximum amount of time for students to speak, allowing (encouraging) the students to assume the primary responsibility for learning communication skills. The focus is on learning practical skills.

クラスは平易な英語で行われ、学生は積極的に参加して互いを表現しあうことが期待される。学生が最大限話せるよう手助けすると共にコミュニケーションの技法をマスターするのは学生自身の積極性にかかっていることを自覚させるようクラスを運営する。あくまでも実践的なスキルの習得に力点を置く。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

Performance, Language solutions Inc. OR
Talk a Lot, David Martin, EFL Press OR
Marathon Mouth, Paul Shimizu, Intercom Press
Text book may be chosen from above and announced in class.
Teachers will also be using original materials.

教科書はいずれかを使用する。使用する教科書は初回授業にて教員が伝える。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 40% レポート・課題 40% 受講態度 20%

特記事項

Course Grading: Weekly class pair work, interactive language activities, listening exercises, homework, attendance, semester and final assessments.

毎週のペアワーク、インタラクト、テープ聴取、宿題、授業態度、前期・後期の理解力課題による。

Assessment 80% (in-class quizzes, presentations, homework, and class work, etc.)

Attitude/Participation 20%

【履修上の心得】

Course Recommendations: Oral IB (native speaker) aims at mastering basic speaking and listening skills within a context of purposeful communication. Thus students are encouraged to be active, self-motivated, and willing also to spend time outside of class using English at the English Lounge, as well as for reading, watching TV, listening to the radio, and using the Internet.

Oral I B (ネイティブ) は目的をもったコミュニケーションの訓練を通して、口述、聴解の基本的なテクニックの習得を目指す。従って、積極的に自ら動機付けをし、イングリッシュラウンジでの会話や読書、TV、ラジオ、インターネットの利用など教室以外で英語を使う機会を持つことが期待される。

【科目のレベル、前提科目など】

Related Subjects: Oral IB (native speaker) prepares students to verbally express themselves and understand simple English, and explain more complicated human feelings with some detail.

Course Sequence: Oral IB (native speaker) is the entry level English course in the Faculty of Business Management and establishes the foundations of Oral II.

Oral I B(ネイティブ) は、平易な英語を理解しそうした英語で自分を言い表わしながら、人間のより複雑な感情を多少とも雄弁に説明できるようにする。経営学部での英語入門コースであり、Oral II の基礎となる。

科目名	Oral I B
教員名	Helge Maruyama, Stephanie Yuuko Iso

【授業の内容】

This is a basic-level oral English course for students who are preparing to study abroad. Students will work on improving their English listening and speaking skills to prepare for study abroad.

(この講義のレベルは基礎英会話であり、海外留学の準備をしている学生を対象とする。リスニング力とスピーキング力の向上を目指し、留学の準備をする。)

【到達目標】

The goals of the class are:

(a) To make students feel comfortable and at ease listening to and speaking English

(学生が英語に聞き慣れること、そして話すことに抵抗を無くす。)

(b) To prepare students to speak to other speakers of English

(学生が外国人と英語で話せるようにする。)

(c) To introduce students to relaxed, informal English, like the kind encountered outside of the classroom

(教室の外で使われているような、砕けた、自然な英語に触れる。)

【授業計画】

- 第1回 Listening task
Speaking task - pair, small group, or class
Writing task
- 第2回 Listening task
Speaking task - pair, small group, or class
Writing task
- 第3回 Listening task
Speaking task - pair, small group, or class
Writing task
- 第4回 Listening task
Speaking task - pair, small group, or class
Writing task
- 第5回 Listening task
Speaking task - pair, small group, or class
Writing task
- 第6回 Listening task
Speaking task - pair, small group, or class
Writing task
- 第7回 Listening task
Speaking task - pair, small group, or class
Writing task
- 第8回 Listening task
Speaking task - pair, small group, or class
Writing task
- 第9回 Listening task
Speaking task - pair, small group, or class
Writing task
- 第10回 Listening task
Speaking task - pair, small group, or class
Writing task
- 第11回 Listening task
Speaking task - pair, small group, or class
Writing task
- 第12回 Listening task
Speaking task - pair, small group, or class
Writing task
- 第13回 Listening Test
- 第14回 Listening task

Speaking task - pair, small group, or class
Writing task
第15回 Listening task
Speaking task - pair, small group, or class
Writing task

The syllabus is subject to change. Contents of each class is dependent on the course teacher and textbook used.

A textbook will be used to provide listening and speaking practice weekly. The textbook units will cover the language necessary for basic communication in English.

(リスニングとスピーキングの練習にテキストが使用される。基本的な英会話に必要な言語をテキストはカバーする。)

Whaddaya Say:

Ten units will be completed per semester.

(各学期、10ユニットを学習する。)

Quizzes, tests, and other assessments:

There is no general English test for all students of Oral English I at the end of the term or year. The individual teachers for the course will determine the schedule and provide the quizzes, tests, or other assessments needed to determine students' knowledge of the material covered in the course.

(Oral English Iは、学期末あるいは学年末試験は行わない。各講師が小テストなどの日程を定め、それによって学生の習熟度を計るものとする。)

【授業の進め方】

Each unit in the textbook will provide tasks for listening and speaking practice. This may require students to work individually, in pairs, in small groups, or as a class.

Whaddaya Say will provide listening activities to familiarize students with the sounds of natural speech.

Supplemental tasks and materials will be used as needed by the individual teachers to provide additional practice.

Quizzes, tests, and other forms of assessment will be scheduled periodically by the individual teachers to determine student understanding of language studied in the course.

(テキストの各ユニットはリスニングとスピーキングの練習に使用される。そのため、学生は個人、ペア、グループ、クラス全体で勉強することとなる。)

テキストWhaddaya Sayは、学生が日常会話に慣れるよう構成されているリスニングのテキストである。

補助的課題と教材は、必要に応じて各講師により提供される。

小テストや試験、その他の課題は、各講師により定期的に行われる。それらによって学生の言語習熟度を計る。)

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①初回授業時に指示する。

Textbooks to be used for the class will be announced at the first class session.

(第1回の講義で使用するテキストは伝える。)

【参考図書】

初回授業時に指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 20% レポート・課題 20% 受講態度 60%

特記事項

Students must attend class in order to have a chance to get credit for this course.

Participation in class work is expected. This means speaking English in class at all times, for example in pairwork and groupwork and when asking and answering questions. A good attitude and cooperation with classmates and the teacher are also elements of participation.

Homework will be assigned. Students should take the time and make the effort necessary for each assignment and submit it on time. It is expected that each student will do his or her own work.

Quizzes, tests, or other assessments will be used by the teacher to determine understanding of the material presented in class.

(単位修得には講義に出席すること。)

授業は積極的に参加する。たとえばペアになった会話やグループワーク、質疑応答の時など、授業中は英語で積極的に会話すること。クラスメイトと講師との積極的な態度と協力は、授業参加の重要な要素である。

課題が出された場合、各課題に真剣に取り組み、提出期限を必ず守ること。各自の課題は、各自で取り組むこと。

小テスト、試験、またはその他の課題は、授業で取り扱う教材の理解度を知るために使われる。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

Students must attend class in order to have a chance to get credit for this course.

(単位を得るためには、授業への出席が必須である。)

【履修上の心得】

It is important that students use English for the entire class period. This means that students should not use their native (Japanese) language in class. All students should work together to provide an English-only environment.

The class will be conducted entirely in English. Students should not expect English to Japanese translation by the teacher. It is important for students to learn to work in English in this course.

(授業中は英語のみを使う事が重要である。つまり授業中は、母国語(日本語)を話してはならないということ。学生全員が、英語のみの環境をつくることに協力しなければならない。)

授業は英語のみで進められる。講師による英語から日本語への通訳はない。この授業は学生が、英語でその内容を学ぶことに重要性がある。)

【科目のレベル、前提科目など】

This is a basic-level oral English for communication course that provides an introduction to and the foundation for second- and third-year oral English courses.

(この講義は、2年目と3年目のオーラル・イングリッシュの講義への導入と基本となるもので、英会話の基礎レベルである。)

【備 考】

All other English courses, such as reading, writing, etc., are indirectly related to this course and to each other.

(他の英語の講義－リーディング、ライティングなど－は、この講義に直接結びつくものではない。リーディングとライティングの講義も関連性はない。)

科目名	留学準備英語A
	前期開講科目。日本人担当クラスとネイティブ担当クラスの週2回授業です。
教員名	新川清治・Neil Thomas Millington、新川清治・Helge Maruyama、新川清治・Stephanie Yuuko Iso

【授業の内容】

2年次後期に実施される海外留学プログラムへの参加を考えている学生のために用意された科目である。内容的にOral Iと連動するネイティブ教員担当の英会話と日本人教員担当の文法の週2回の授業で構成される。

【到達目標】

語学研修プログラムはどのレベルの学生も受け入れてくれるが、学習効果を最大限に高められるように、また、円滑な留学生活を送れるように、事前にできるだけ英語力を高めておくことを目標としている。

【授業計画】

- 第1回 ネイティブ教員担当英会話 Oral IA 第1回参照
- 第2回 Oral IA 第2回参照
- 第3回 Oral IA 第3回参照
- 第4回 Oral IA 第4回参照
- 第5回 Oral IA 第5回参照
- 第6回 Oral IA 第6回参照
- 第7回 Oral IA 第7回参照
- 第8回 Oral IA 第8回参照
- 第9回 Oral IA 第9回参照
- 第10回 Oral IA 第10回参照
- 第11回 Oral IA 第11回参照
- 第12回 Oral IA 第12回参照
- 第13回 Oral IA 第13回参照
- 第14回 Oral IA 第14回参照
- 第15回 Oral IA 第15回参照
- 第16回 日本人教員担当文法 インTRODクシヨン
復習30分
- 第17回 人称代名詞の問題
小テストの準備30分
- 第18回 派生語・動詞の問題 (be動詞)
小テストの準備30分
- 第19回 派生語・動詞の問題 (述語動詞)
小テストの準備30分
- 第20回 派生語・動詞の問題 (冠詞・所有格と名詞のセット)
小テストの準備30分
- 第21回 派生語・動詞の問題 (冠詞・所有格と名詞のセット、セット間の空所)
小テストの準備30分
- 第22回 派生語・動詞の問題 (前置詞)
小テストの準備30分
- 第23回 派生語・動詞の問題 (副詞)
小テストの準備30分
- 第24回 派生語・動詞、人称代名詞の問題模擬テスト①
小テストの準備30分
- 第25回 派生語・動詞、人称代名詞の問題模擬テスト②
小テストの準備30分
- 第26回 派生語・動詞、人称代名詞の問題模擬テスト③
小テストの準備30分
- 第27回 接続詞・接続副詞・前置詞の問題①
小テストの準備30分
- 第28回 接続詞・接続副詞・前置詞の問題②
小テストの準備30分
- 第29回 Part V模擬テスト
小テストの準備30分
- 第30回 まとめ
小テストの準備30分

【授業の進め方】

問題の演習と解説を繰り返す。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

プリントを配布する。

【参考図書】

必要に応じて、紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 70% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

ネイティブ教員担当分と日本人教員担当分の成績を平均する。ネイティブ教員担当分に関してはOral Iのシラバスを参照すること。日本人教員担当分に関しては毎週行う小テストと授業への参加度を評価の基準とする。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

欠席、遅刻が多いと小テストを受けられない、あるいは解答時間が減ることによってマイナスになる。ネイティブ教員担当分も日本人教員担当分も欠席が5回を超えると失格となる。

【科目のレベル、前提科目など】

Oral Iと直接的に連動する。

科目名	留学準備英語B
	日本人担当クラスとネイティブ担当クラスの週2回授業。
教員名	新川清治・Neil Thomas Millington、新川清治・Helge Maruyama、新川清治・Stephanie Yuuko Iso

【授業の内容】

2年次後期に実施される海外留学プログラムへの参加を考えている学生のために用意された科目である。内容的にOral Iと連動するネイティブ教員担当の英会話と日本人教員担当の文法の週2回の授業で構成される。

【到達目標】

語学研修プログラムはどのレベルの学生も受け入れてくれるが、学習効果を最大限に高められるように、また、円滑な留学生活を送れるように、事前にできるだけ英語力を高めておくことを目標としている。

【授業計画】

- 第1回 ネイティブ教員担当英会話 Oral IB 第1回参照
- 第2回 Oral IB 第2回参照
- 第3回 Oral IB 第3回参照
- 第4回 Oral IB 第4回参照
- 第5回 Oral IB 第5回参照
- 第6回 Oral IB 第6回参照
- 第7回 Oral IB 第7回参照
- 第8回 Oral IB 第8回参照
- 第9回 Oral IB 第9回参照
- 第10回 Oral IB 第10回参照
- 第11回 Oral IB 第11回参照
- 第12回 Oral IB 第12回参照
- 第13回 Oral IB 第13回参照
- 第14回 Oral IB 第14回参照
- 第15回 Oral IB 第15回参照
- 第16回 日本人教員担当文法 インTRODクシヨン
復習30分
- 第17回 パート5模擬テスト①
小テストの準備30分
- 第18回 パート5模擬テスト②
小テストの準備30分
- 第19回 パート5模擬テスト③
小テストの準備30分
- 第20回 パート5模擬テスト④
小テストの準備30分
- 第21回 パート5模擬テスト⑤
小テストの準備30分
- 第22回 パート5模擬テスト⑥
小テストの準備30分
- 第23回 パート5模擬テスト⑦
小テストの準備30分
- 第24回 パート5模擬テスト⑧
小テストの準備30分
- 第25回 パート5模擬テスト⑨
小テストの準備30分
- 第26回 パート5模擬テスト⑩
小テストの準備30分
- 第27回 パート5模擬テスト⑪
小テストの準備30分
- 第28回 パート5模擬テスト⑫
小テストの準備30分
- 第29回 パート5模擬テスト⑬
小テストの準備30分
- 第30回 まとめ
小テストの準備30分

【授業の進め方】

問題の演習と解説を繰り返す。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

プリントを配布する。

【参考図書】

必要に応じて、紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 70% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

ネイティブ教員担当分と日本人教員担当分の成績を平均する。ネイティブ教員担当分に関してはOral Iのシラバスを参照すること。日本人教員担当分に関しては毎週行う小テストと授業への参加度を評価の基準とする。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

欠席、遅刻が多いと小テストを受けられない、あるいは解答時間が減ることによってマイナスになる。ネイティブ教員担当分も日本人教員担当分も欠席が5回を超えると失格となる。

【科目のレベル、前提科目など】

Oral Iと直接的に連動する。

科目名	OralII A
教員名	John Gallager, Helge Maruyama, Miklos Juhasz, Michael STOUT

【授業の内容】

(シラバスは、敢えて英文で説明します。内容を理解しようという努力をして、英語に真剣に取り組もうというやる気を持って授業に来てください。詳細については授業で説明します。)

This is the first half of the compulsory, second-year English conversation course for Management majors. It is a lower-level intermediate course in English oral communication skills. Classes will be conducted by a native English speaker and will meet once a week.

【到達目標】

The course has the following objectives:

- to develop confidence in speaking basic English
- to help make students feel comfortable listening to English
- to improve English language listening and speaking skills
- to reinforce English language fundamentals
- to prepare students to interact and communicate with fluent English speakers

【授業計画】

- 第1回 Course guidelines and simple practice
- 第2回 Preparatory tasks and language basics
(spend 5-10 minutes to review material from the previous week before class begins)
- 第3回 Introductory oral exercises
(spend 5-10 minutes to review material from the previous weeks before class begins)
- 第4回 Speaking/listening tasks and language review
(spend 5-10 minutes to review material from the previous weeks before class begins)
- 第5回 Speaking/listening tasks and language review
(spend 5-10 minutes to review material from the previous weeks before class begins)
- 第6回 Speaking/listening tasks and language review
(spend 5-10 minutes to review material from the previous weeks before class begins)
- 第7回 Speaking/listening tasks and language review
(spend 5-10 minutes to review material from the previous weeks before class begins)
- 第8回 Speaking/listening tasks and language review
(spend 5-10 minutes to review material from the previous weeks before class begins)
- 第9回 Speaking/listening tasks and language review
(spend 5-10 minutes to review material from the previous weeks before class begins)
- 第10回 Speaking/listening tasks and language review
(spend 5-10 minutes to review material from the previous weeks before class begins)
- 第11回 Speaking/listening tasks and language review
(spend 5-10 minutes to review material from the previous weeks before class begins)
- 第12回 Speaking/listening tasks and language review
(spend 5-10 minutes to review material from the previous weeks before class begins)
- 第13回 Speaking/listening tasks and comprehensive language review
(spend 5-10 minutes to review material from the previous weeks before class begins)
- 第14回 Speaking/listening tasks and comprehensive language review
(spend 5-10 minutes to review material from the previous weeks before class begins)
- 第15回 Speaking/listening tasks and comprehensive language review
(spend 5-10 minutes to review material from the previous weeks before class begins)

Speaking and listening practice will cover the following areas:

- introductions & language basics
- common classroom expressions
- abilities
- personal information
- time and date
- daily routine

Two weeks will generally be spent on each topic.

【授業の進め方】

This course focuses on developing practical skills for oral communication, so students are expected to take center stage. Students will have ample opportunity to practice speaking using simple English expressions, often in student pairs or small groups. They will also listen to recorded conversations between native speakers. The teacher usually only plays a secondary role, guiding and helping students to practice effectively. The purpose here is to utilize the time for active speaking and listening, rather than for passive learning of the language.

There will be periodic homework assignments and in-class tests (oral/written) to check and assess understanding.

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①Fifty-Fifty Book One (Third Edition) ②Warren Wilson and Roger Barnard ③Pearson Longman ④2007 ⑤¥3035
⑥9789620056659

A new, clean, unused edition is necessary

ヘルゲ先生の授業を受ける学生はテキストを直接授業で購入してください。(事前に購入しないこと)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 25% レポート・課題 10% 受講態度 65%

特記事項

The more you speak a language, the more fluent you will become. Consistent, diligent practice in class is the key to making progress. Thus class participation (your attitude, effort, attentiveness, contribution, attendance, and so on) is the single most important factor of your grade. It goes without saying that you have to attend classes in order to participate. But attendance, just coming to class, will hardly earn any points. Trying hard in English, paying attention, asking good questions, volunteering answers in English, and having a proper attitude every week will go a long way toward ensuring credit. Homework and in-class tests (oral/written) will also be evaluated. Being tardy, forgetting textbooks, snoozing, disrupting class, and other signs of poor attitude will affect your grade negatively. Regular review of key language is expected outside class.

【「成績評価の方法」に関する注意点】

A minimum 2/3 attendance rate is necessary in accordance with official university guidelines.

However, since the course centers on regular, consistent practice and participation, students who are absent in 3 consecutive classes without prior notice will basically be denied credit for the course.

Some teachers use a point-based scoring system based on the percentages above.

Details will be announced in class.

授業は英語の講義ではなくオーラルの練習を重要視しています。
事前に連絡がなく、3回連続授業を休むと基本的に単位は取れません。

【履修上の心得】

The Oral IIA classroom should be considered a training ground for active English practice, rather than a standard content-based lecture in which students learn passively. The course will provide you with immediate listening and speaking opportunities in practical situations. You should take full advantage of these chances to use English for communication. Being absent is a lost chance to improve because only through immediate and real-time participation can you develop your language skills.

【科目のレベル、前提科目など】

This course follows the first year Oral I A/B English conversation courses, in which Fifty-Fifty: Intro is used. Students may enroll in Oral IIA without having received credit for Oral I A/B. However, students will probably get more out of Oral IIA after they have successfully completed Oral I A/B.

科目名	Oral II A
教員名	Stephanie Yuuko Iso、Neil Thomas Millington、Michael Sorey

【授業の内容】

This is a lower intermediate level oral English course for students who are preparing to study abroad. Students will work on improving the English listening and speaking skills developed in Oral English I to prepare for study abroad. In order to do this, they will be provided with more involved, less structured communication activities. Students who will be studying abroad meet twice a week for the first semester only, while others will meet once a week for the whole year.

(この講義は英会話中級レベルで、海外留学の準備をしている学生を対象とする。Oral English I で向上したリスニングとスピーキングに磨きをかけ、留学の準備をする。そのため授業は、さらに授業参加型を追求した、型にはまっていないコミュニケーション方法を学べる構成となっている。海外留学をする学生は前期のみ週2回、その他の学生は前、後期ともに週1回の履修である。)

【到達目標】

The goals of the class are:

(a) To help students improve upon the English listening and speaking skills developed in the first year Oral English I course

(1年目のOral English I で培ったリスニングとスピーキング力を更に向上させる。)

(b) To prepare students to speak to other speakers of English

(外国人と英語を話せるように準備する。)

(c) To prepare students for living and studying abroad

(留学先での生活と勉強に備える。)

(d) To introduce students to relaxed, informal English, like the kind encountered outside of the classroom

(教室外で使われているような、砕けて型にはまっていない英語に親しむ。)

【授業計画】

第1回 Introduction to the class

第2回 Listening task

Speaking task

Writing task

第3回 Listening task

Speaking task

Writing task

第4回 Listening task

Speaking task

Writing task

第5回 Listening task

Speaking task

Writing task

第6回 Listening task

Speaking task

Writing task

第7回 Listening task

Speaking task

Writing task

第8回 Listening task

Speaking task

Writing task

第9回 Listening task

Speaking task

Writing task

第10回 Listening task

Speaking task

Writing task

第11回 Listening task

Speaking task

- Writing task
- 第12回 Listening task
- Speaking task
- Writing task
- 第13回 Listening task
- Speaking task
- Writing task
- 第14回 Listening task
- Speaking task
- Writing task
- 第15回 Listening task
- Speaking task
- Writing task

The syllabus is subject to change. Contents of each class is dependent on the course teacher and textbook used.

Course textbook:

The textbook selected by the individual teachers will provide the topics and language necessary to encourage the development of English listening and speaking skills. Since there is no common textbook for the course, the scheduling of the topics and tasks will be determined by the teachers assigned to the course.

(テキスト等の教材は、各講師がリスニングとスピーキング力の向上に役立つものを指示する。共通のテキストがないため、スケジュールは担当の講師が指示する。)

Quizzes, tests, and other assessments:

There is no general English test for all students of Oral English II at the end of the semester. The individual teachers for the course will determine the schedule and provide the quizzes, tests, or other assessments needed to determine students' knowledge of the material covered in the course.

(Oral English IIは学期末の試験は行わない。各講師が授業計画を立て、その中で小テストや試験、課題などを実施し、講義の習熟度を計る。)

【授業の進め方】

In general, each class will contain both listening and speaking activities.

Supplemental tasks and materials may be used by the individual teachers to provide additional listening and speaking practice, and also to provide cultural awareness for study abroad.

(基本的に授業では、リスニングとスピーキングの練習をする。リスニングは短いものと長いものの両方を取り扱い、読解力の確認も行う。スピーキングでは、ペアになっての対話の練習、グループでの練習、そしてクラス全体に対しての練習などを予定している。補助的課題と教材は、各講師によって用意される。)

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①初回授業時に指示する

Other textbooks will be announced during the first class by the individual teachers for the course.

(その他のテキスト教材は、第1回の授業で各講師によって指示がある。)

【参考図書】

初回授業時に指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 20% レポート・課題 10% 受講態度 70%

特記事項

Students must attend class in order to have a chance to get credit for the course.

Participation in class work is expected. This means speaking English in class at all times, for example when working in pairs, groups, and/or to the class as a whole. A good attitude and cooperation with classmates and the teacher to complete each task are also elements of participation.

Homework or other work may be assigned to prepare outside of class time. Students should take the time and make the effort necessary for each assignment and submit it on time. It is expected that each student will do his or her own work.

Quizzes, tests, or other assessments will be used by the teacher to determine understanding of the material presented in class.

(出席は単位修得に必須である。)

授業内での発言などといった参加も期待する。授業中は常に英語で話すこと。たとえばペアになって、あるいはグループになっての会話の練習、クラス全体へのスピーチなどの際、英語のみを使うこと。講師とクラスメイト間の積極的な態度と協力は、授業参加の成績に大いに反映される。

宿題やその他の課題がある。十分な時間を費やし、期限は守ること。各自の課題は、各自が取り組むこと。

小テストや試験、課題は、講義の理解度を知るために、各講師によって使用される。)

【「成績評価の方法」に関する注意点】

Students must attend class in order to have a chance to get credit for this course.

(単位修得には必ず授業に出席すること。)

【履修上の心得】

It is important that students use English for the entire class period. This means that students should not use their native (Japanese) language in class. All students should work together to provide an English-only environment.

The class will be conducted entirely in English. Students should not expect English to Japanese translation by the teacher. It is important for students to learn to work in English in this course.

(授業中は英語のみを使うこと。母国語(日本語)は使用せず、英語のみの環境をつくることに協力する。)

授業は英語で行われる。講師による英語から日本語への通訳はない。英語で勉強することを学ぶことが、この講義では重要である。)

【科目のレベル、前提科目など】

Oral English II is a lower-intermediate level oral English course that provides students with more complex and less structured communication activities. As such, it will not only prepare them for English study abroad, but also prepare them for higher level English courses.

(Oral English IIは中級レベルの英会話コースである。より複雑かつ型にはまっていないコミュニケーションの取り方を学ぶ。留学のためだけでなく、より高度な英語のコースに備えるためでもある。)

【備 考】

All other English courses, such as reading, writing, etc., are indirectly related to this course and to each other.

(リーディングやライティングなど、その他の英語コースとこの講義に直接の関連はない。)

科目名	Oral II B
教員名	John Gallager, Helge Maruyama, Miklos Juhasz, Michael STOUT

【授業の内容】

(シラバスは、敢えて英文で説明します。内容を理解しようという努力をして、英語に真剣に取り組もうというやる気を持って授業に来てください。詳細については授業で説明します。)

This is the second half of the compulsory, second-year English conversation course for Management majors. It is a lower-level intermediate course in English oral communication skills. Classes will be conducted by a native English speaker and will meet once a week.

【到達目標】

The course has the following objectives:

- to develop confidence in speaking basic English
- to help make students feel comfortable listening to English
- to improve English language listening and speaking skills
- to reinforce English language fundamentals
- to prepare students to interact and communicate with fluent English speakers

【授業計画】

- 第1回 Course guidelines and simple practice
- 第2回 Speaking/listening tasks and language review
(spend 5-10 minutes to review material from the previous week before class begins)
- 第3回 Speaking/listening tasks and language review
(spend 5-10 minutes to review material from the previous weeks before class begins)
- 第4回 Speaking/listening tasks and language review
(spend 5-10 minutes to review material from the previous weeks before class begins)
- 第5回 Speaking/listening tasks and language review
(spend 5-10 minutes to review material from the previous weeks before class begins)
- 第6回 Speaking/listening tasks and language review
(spend 5-10 minutes to review material from the previous weeks before class begins)
- 第7回 Speaking/listening tasks and language review
(spend 5-10 minutes to review material from the previous weeks before class begins)
- 第8回 Speaking/listening tasks and language review
(spend 5-10 minutes to review material from the previous weeks before class begins)
- 第9回 Speaking/listening tasks and language review
(spend 5-10 minutes to review material from the previous weeks before class begins)
- 第10回 Speaking/listening tasks and language review
(spend 5-10 minutes to review material from the previous weeks before class begins)
- 第11回 Speaking/listening tasks and language review
(spend 5-10 minutes to review material from the previous weeks before class begins)
- 第12回 Speaking/listening tasks and comprehensive language review
(spend 5-10 minutes to review material from the previous weeks before class begins)
- 第13回 Speaking/listening tasks and comprehensive language review
(spend 5-10 minutes to review material from the previous weeks before class begins)
- 第14回 Speaking/listening tasks and comprehensive language review
(spend 5-10 minutes to review material from the previous weeks before class begins)
- 第15回 Speaking/listening tasks and comprehensive language review
(spend 5-10 minutes to review material from the previous weeks before class begins)

Speaking and listening practice will cover the following areas:

- directions & locations
- describing people
- talking about family
- likes and dislikes
- future/past tenses

Two weeks will generally be spent on each topic.

【授業の進め方】

This course focuses on developing practical skills for oral communication, so students are expected to take center

stage. Students will have ample opportunity to practice speaking using simple English expressions, often in student pairs or small groups. They will also listen to recorded conversations between native speakers. The teacher usually only plays a secondary role, guiding and helping students to practice effectively. The purpose here is to utilize the time for active speaking and listening, rather than for passive learning of the language.

There will be periodic homework assignments and in-class tests (oral/written) to check and assess understanding.

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①Fifty-Fifty Book One (Third Edition) ②Warren Wilson and Roger Barnard ③Pearson Longman ④2007 ⑤¥3035
⑥9789620056659

A new, clean, unused edition is necessary

ヘルゲ先生の授業を受ける学生はテキストを直接授業で購入してください。(事前に購入しないこと)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 25% レポート・課題 10% 受講態度 65%

特記事項

The more you speak a language, the more fluent you will become. Consistent, diligent practice in class is the key to making progress. Thus class participation (your attitude, effort, attentiveness, contribution, attendance, and so on) is the single most important factor of your grade. It goes without saying that you have to attend classes in order to participate. But attendance, just coming to class, will hardly earn any points. Trying hard in English, paying attention, asking good questions, volunteering answers in English, and having a proper attitude every week will go a long way toward ensuring credit. Homework and in-class tests (oral/written) will also be evaluated. Being tardy, forgetting textbooks, snoozing, disrupting class, and other signs of poor attitude will affect your grade negatively. Regular review of key language is expected outside class.

【「成績評価の方法」に関する注意点】

A minimum 2/3 attendance rate is necessary in accordance with official university guidelines.

However, since the course centers on regular, consistent practice and participation, students who are absent in 3 consecutive classes without prior notice will basically be denied credit for the course.

Some teachers use a point-based scoring system based on the percentages above.

Details will be announced in class.

授業は英語の講義ではなくオーラルの練習を重要視しています。
事前に連絡がなく、3回連続授業を休むと基本的に単位は取れません。

【履修上の心得】

The Oral IIB classroom should be considered a training ground for active English practice, rather than a standard content-based lecture in which students learn passively. The course will provide you with immediate listening and speaking opportunities in practical situations. You should take full advantage of these chances to use English for communication. Being absent is a lost chance to improve because only through immediate and real-time participation can you develop your language skills.

【科目のレベル、前提科目など】

This course follows the Oral IIA English conversation course from the first semester. Students may enroll in Oral IIB without having received credit for Oral IIA. However, students will probably get more out of Oral IIB after they have successfully completed Oral IIA.

科目名	Oral II B
教員名	Stephanie Yuuko Iso、Neil Thomas Millington、Michael Sorey

【授業の内容】

This is a lower intermediate level oral English course for students who are preparing to study abroad. Students will work on improving the English listening and speaking skills developed in Oral English I to prepare for study abroad. In order to do this, they will be provided with more involved, less structured communication activities. Students who will be studying abroad meet twice a week for the first semester only, while others will meet once a week for the whole year.

(この講義は英会話中級レベルで、海外留学の準備をしている学生を対象とする。Oral English I で向上したリスニングとスピーキングに磨きをかけ、留学の準備をする。そのため授業は、さらに授業参加型を追求した、型にはまっていないコミュニケーション方法を学べる構成となっている。海外留学をする学生は前期のみ週2回、その他の学生は前、後期ともに週1回の履修である。)

【到達目標】

The goals of the class are:

(a) To help students improve upon the English listening and speaking skills developed in the first year Oral English I course

(1年目のOral English I で培ったリスニングとスピーキング力を更に向上させる。)

(b) To prepare students to speak to other speakers of English

(外国人と英語を話せるように準備する。)

(c) To prepare students for living and studying abroad

(留学先での生活と勉強に備える。)

(d) To introduce students to relaxed, informal English, like the kind encountered outside of the classroom

(教室外で使われているような、砕けて型にはまっていない英語に親しむ。)

【授業計画】

第1回 Introduction to the class

第2回 Listening task

Speaking task

Writing task

第3回 Listening task

Speaking task

Writing task

第4回 Listening task

Speaking task

Writing task

第5回 Listening task

Speaking task

Writing task

第6回 Listening task

Speaking task

Writing task

第7回 Listening task

Speaking task

Writing task

第8回 Listening task

Speaking task

Writing task

第9回 Listening task

Speaking task

Writing task

第10回 Listening task

Speaking task

Writing task

第11回 Listening task

Speaking task

- Writing task
- 第12回 Listening task
- Speaking task
- Writing task
- 第13回 Listening task
- Speaking task
- Writing task
- 第14回 Listening task
- Speaking task
- Writing task
- 第15回 Listening task
- Speaking task
- Writing task

The syllabus is subject to change. Contents of each class is dependent on the course teacher and textbook used.

Course textbook:

The textbook selected by the individual teachers will provide the topics and language necessary to encourage the development of English listening and speaking skills. Since there is no common textbook for the course, the scheduling of the topics and tasks will be determined by the teachers assigned to the course.

(テキスト等の教材は、各講師がリスニングとスピーキング力の向上に役立つものを指示する。共通のテキストがないため、スケジュールは担当の講師が指示する。)

Quizzes, tests, and other assessments:

There is no general English test for all students of Oral English II at the end of the semester. The individual teachers for the course will determine the schedule and provide the quizzes, tests, or other assessments needed to determine students' knowledge of the material covered in the course.

(Oral English IIは学期末の試験は行わない。各講師が授業計画を立て、その中で小テストや試験、課題などを実施し、講義の習熟度を計る。)

【授業の進め方】

In general, each class will contain both listening and speaking activities.

Supplemental tasks and materials may be used by the individual teachers to provide additional listening and speaking practice, and also to provide cultural awareness for study abroad.

(基本的に授業では、リスニングとスピーキングの練習をする。リスニングは短いものと長いものの両方を取り扱い、読解力の確認も行う。スピーキングでは、ペアになっての対話の練習、グループでの練習、そしてクラス全体に対しての練習などを予定している。補助的課題と教材は、各講師によって用意される。)

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①初回授業時に指示する

Other textbooks will be announced during the first class by the individual teachers for the course.

(その他のテキスト教材は、第1回の授業で各講師によって指示がある。)

【参考図書】

初回授業時に指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 20% レポート・課題 10% 受講態度 70%

特記事項

Students must attend class in order to have a chance to get credit for the course.

Participation in class work is expected. This means speaking English in class at all times, for example when working in pairs, groups, and/or to the class as a whole. A good attitude and cooperation with classmates and the teacher to complete each task are also elements of participation.

Homework or other work may be assigned to prepare outside of class time. Students should take the time and make the effort necessary for each assignment and submit it on time. It is expected that each student will do his or her own work.

Quizzes, tests, or other assessments will be used by the teacher to determine understanding of the material presented in class.

(出席は単位修得に必須である。)

授業内での発言などといった参加も期待する。授業中は常に英語で話すこと。たとえばペアになって、あるいはグループになっての会話の練習、クラス全体へのスピーチなどの際、英語のみを使うこと。講師とクラスメイト間の積極的な態度と協力は、授業参加の成績に大いに反映される。

宿題やその他の課題がある。十分な時間を費やし、期限は守ること。各自の課題は、各自が取り組むこと。

小テストや試験、課題は、講義の理解度を知るために、各講師によって使用される。)

【「成績評価の方法」に関する注意点】

Students must attend class in order to have a chance to get credit for this course.

(単位修得には必ず授業に出席すること。)

【履修上の心得】

It is important that students use English for the entire class period. This means that students should not use their native (Japanese) language in class. All students should work together to provide an English-only environment.

The class will be conducted entirely in English. Students should not expect English to Japanese translation by the teacher. It is important for students to learn to work in English in this course.

(授業中は英語のみを使うこと。母国語(日本語)は使用せず、英語のみの環境をつくることに協力する。)

授業は英語で行われる。講師による英語から日本語への通訳はない。英語で勉強することを学ぶことが、この講義では重要である。)

【科目のレベル、前提科目など】

Oral English II is a lower-intermediate level oral English course that provides students with more complex and less structured communication activities. As such, it will not only prepare them for English study abroad, but also prepare them for higher level English courses.

(Oral English IIは中級レベルの英会話コースである。より複雑かつ型にはまっていないコミュニケーションの取り方を学ぶ。留学のためだけでなく、より高度な英語のコースに備えるためでもある。)

【備 考】

All other English courses, such as reading, writing, etc., are indirectly related to this course and to each other.

(リーディングやライティングなど、その他の英語コースとこの講義に直接の関連はない。)

科目名	Writing I A
	英作文の基礎
教員名	升水 教之

【授業の内容】

基本的な英作文を書けるようにする授業である。英語の文章を書くには、中学・高校時に学んだ英語で十分であるが、それを必ずしも習得していない学生も多い。この授業では基礎英作文に役立つ中学・高校時に学んだはずの語彙、熟語、文法の復習が重要となる。できるだけ簡単な英語表現を使うことを心がけたい。学生のレベル、理解度に合わせて授業を進めていく。

【到達目標】

- (1) ライティング(英作文)の基礎固めを目指す。
- (2) 英語で表現できる楽しさを感じ取ってもらう。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションとウォーミングアップ
- 第2回 Unit 1
- 第3回 Unit 1
- 第4回 Unit 2
- 第5回 Unit 2
- 第6回 第1回小テスト、Unit 3
- 第7回 Unit 3
- 第8回 Unit 4
- 第9回 Unit 4
- 第10回 第2回小テスト、Unit 5
- 第11回 Unit 5
- 第12回 Unit 6
- 第13回 Unit 6
- 第14回 第3回小テスト、Unit 7
- 第15回 Unit 7

テキストに沿って進め、2回の授業で1単元を終わらせる。小テストの結果は次の授業で確認できる。

【授業の進め方】

授業計画参照

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①Primer for English Writing (大学生の英作文入門) ②佐藤哲三 ③南雲堂

Writing I A では上記テキストの前半部分使用。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 100% レポート・課題 0% 受講態度 0%
 特記事項
 授業内小テスト3回実施

【履修上の心得】

辞書(電子辞書可)は必要。中学・高校時に使用していたもので十分。

【科目のレベル、前提科目など】

基礎レベル

科目名	Writing I B
	英作文の基礎
教員名	升水 教之

【授業の内容】

基本的な英作文を書けるようにする授業である。英語の文章を書くには、中学・高校時に学んだ英語で十分であるが、それを必ずしも習得していない学生も多い。この授業では基礎英作文に役立つ中学・高校時に学んだはずの語彙、熟語、文法の復習が重要となる。できるだけ簡単な英語表現を使うことを心がけたい。学生のレベル、理解度に合わせて授業を進めていく。

【到達目標】

- (1) ライティング(英作文) の基礎固めを目指す。
- (2) 英語で表現できる楽しさを感じ取ってもらう。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションとウォーミングアップ
- 第2回 Unit 8
- 第3回 Unit 8
- 第4回 Unit 9
- 第5回 Unit 9
- 第6回 第1回小テスト、Unit 10
- 第7回 Unit 10
- 第8回 Unit 11
- 第9回 Unit 11
- 第10回 第2回小テスト、Unit 12
- 第11回 Unit 12
- 第12回 Unit 13
- 第13回 Unit 13
- 第14回 第3回小テスト、Unit 14
- 第15回 Unit 14

テキストに沿って進め、2回の授業で1単元を終わらせる。小テストの結果は次の授業で確認できる。

【授業の進め方】

授業計画参照

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①Primer for English Writing (大学生の英作文入門) ②佐藤哲三 ③南雲堂

Writing I Bでは上記テキストの後半部分使用。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 100% レポート・課題 0% 受講態度 0%
 特記事項
 授業内小テスト3回実施

【履修上の心得】

辞書(電子辞書可)は必要。中学・高校時に使用していたもので十分。

【科目のレベル、前提科目など】

基礎レベル

科目名	基礎英語A
	基礎英語
教員名	升水 教之

【授業の内容】

中学・高校と英語を学習してきてもその内容を十分に理解していない学生も多い。そのままよいのでしょうか。授業では基礎的な英単語、熟語、文法、読解、聴解をバランスよく学習し、英語の総合的基礎力を伸ばす。中学・高校の補習、やり直し英語にも役立つはずです。

【到達目標】

- (1) 大学生としての英語の基礎力向上を目指す。
- (2) 英語圏の文化にも触れながら英語の楽しさを発見してほしい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションとウォーミングアップ
- 第2回 Unit 1
- 第3回 Unit 2
- 第4回 Unit 3
- 第5回 第1回小テスト、補助教材
- 第6回 Unit 4
- 第7回 Unit 5
- 第8回 Unit 6
- 第9回 第2回小テスト、補助教材
- 第10回 Unit 7
- 第11回 Unit 8
- 第12回 Unit 9
- 第13回 Unit 10
- 第14回 第3回小テスト、補助教材
- 第15回 補助教材

授業は基本的にテキストの章に沿って行う。学生のレベル、理解度を常に確認しながら行う。分かりやすい授業を心がける。小テストの結果は次の授業で確認できる。

【授業の進め方】

授業計画参照

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①Break Away 1 ②Gillian Flaherty、他 ③成美堂 ④2017年 ⑥ISBN978-4-7919-6021-7

基礎英語Aでは上記テキストの前半部分使用。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 90% レポート・課題 0% 受講態度 10%
 特記事項
 授業内小テスト 3回実施

【履修上の心得】

辞書(電子辞書可)は必ず持参してください。高校時使用の辞書で十分。

【科目のレベル、前提科目など】

大学英语の基礎レベル

科目名	基礎英語A
	英語の基礎を固める
教員名	染谷 昌弘

【授業の内容】

英語を読んだり、聞いたり、話したりするためには、英語の基礎という堅固な土台を造る必要があります。その中でも特に文法は必要不可欠なもので、これをおろそかにすると何一つ理解できないということになります。この科目は「基礎英語」という題が付いています。文字通り、英語の基礎を固めることを目的とします。いや、正確に言うと、皆さんが、自分で英語の基礎を固めたいと思うその意思を援助し、バックアップする、ということが目的です。"Heaven helps those who help themselves". 「天は自らを助ける者を助ける」という言葉の通り、自分を助けよう、成長させようとする強い意思がなければ、物事はうまく行きません。これは、単なる大学の一授業にとどまらず、広く自分の人生にも当てはまることでしょう。この授業が、このような意思を抱く皆さんの一助となることを切に祈ります。

【到達目標】

英語の基本的な語の正しい発音をはじめ、基本的な高校までの文法事項の確認と定着、短い英文から、比較的長い英文の読解、最後に短い英語の聴き取り、発話までを到達目標とする。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス。読解用基本プリント。復習30分。
 第2回 Unit 1 自己紹介 つながる音に慣れる(1) [名詞] 予習30分 復習30分
 第3回 Unit 2 家族・ペット つながる音に慣れる(2) [動詞] 基本文法プリント 小テスト 予習30分 復習30分
 第4回 Unit 3 趣味 つながる音に慣れる(3) [主語+動詞+〜] 基本文法プリント 小テスト 予習30分 復習30分
 第5回 Unit 4 大学生活 消える音に慣れる(1) [人称代名詞] 基本文法プリント 小テスト 予習30分 復習30分
 第6回 Unit 5 食べ物 消える音に慣れる(2) [疑問詞] 基本文法プリント 小テスト 予習30分 復習30分
 第7回 Unit 6 コンサート 消える音に慣れる(3) [How+形容詞/副詞〜?] 基本文法プリント 小テスト 予習30分 復習30分
 第8回 Unit 7 道案内 変化する音に慣れる(1) [助動詞 can,may,must] 基本文法プリント 小テスト 予習30分 復習30分
 第9回 Unit 8 日本文化紹介 変化する音に慣れる(2) [助動詞 would,could,should] 基本文法プリント 小テスト 予習30分 復習30分
 第10回 Unit 9 ジェスチャー 変化する音に慣れる(3) [前置詞] 基本文法プリント 小テスト 予習30分 復習30分
 第11回 Unit 10 観光案内 変化する音に慣れる(4) [過去形、現在形、未来形] 基本文法プリント 小テスト 予習30分 復習30分
 第12回 Unit 11 航空券をNetでGet カタカナ語の音に慣れる [現在進行形] 基本文法プリント 小テスト 予習30分 復習30分
 第13回 Unit 12 E-mailを送る 数字の聞き取り [Review 1] 基本文法プリント 小テスト 予習30分 復習30分
 第14回 基本文法プリント 基本読解用プリント 予習30分 復習30分
 第15回 春学期最終授業 これまでの授業内容について 復習120分

【授業の進め方】

教科書に基づく演習形式授業である。授業のはじめに復習小テストを実施。グループワークをする機会を設ける。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①総合英語パワーアップ<入門編> ②唐住結子 他 ③南雲堂 ④2009/2/23 ⑤1,900円(税別) ⑥978-4-523-17624-4

必ず購入すること。

【参考図書】

Forest, Next Stageほか、高校時に使用した参考書

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 10% レポート・課題 0% 受講態度 10%
 特記事項
 授業回数の三分の一を越える欠席回数は不合格となる。

【履修上の心得】

必ず、予習と小テストのための復習をすること。辞書は必携とする。

科目名	基礎英語B
	基礎英語
教員名	升水 教之

【授業の内容】

中学・高校と英語を学習してきてもその内容を十分に理解していない学生も多い。そのままよいのでしょうか。授業では基礎的な英単語、熟語、文法、読解、聴解をバランスよく学習し、英語の総合的基礎力を伸ばす。中学・高校の補習、やり直し英語にも役立つはずです。

【到達目標】

- (1) 大学生としての英語の基礎力向上を目指す。
- (2) 英語圏の文化にも触れながら英語の楽しさを発見してほしい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションとウォーミングアップ
- 第2回 Unit 11
- 第3回 Unit 12
- 第4回 Unit 13
- 第5回 第1回小テスト、補助教材
- 第6回 Unit 14
- 第7回 Unit 15
- 第8回 Unit 16
- 第9回 第2回小テスト、補助教材
- 第10回 Unit 17
- 第11回 Unit 18
- 第12回 Unit 19
- 第13回 Unit 20
- 第14回 第3回小テスト、補助教材
- 第15回 補助教材

授業は基本的にテキストの章に沿って行う。学生のレベル、理解度を常に確認しながら行う。分かりやすい授業を心がける。小テストの結果は次の授業で確認できる。

【授業の進め方】

授業計画参照

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①Break Away 1 ②Gillian Flaherty、他 ③成美堂 ④2017年 ⑥ISBN978-4-7919-6021-7

基礎英語Bは上記テキストの後半部分使用。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 90% レポート・課題 0% 受講態度 10%
 特記事項
 授業内小テスト 3回実施

【履修上の心得】

辞書(電子辞書可)は必ず持参してください。高校時使用の辞書で十分。

【科目のレベル、前提科目など】

大学英语の基礎レベル

科目名	基礎英語B
	英語の基礎を固める
教員名	染谷 昌弘

【授業の内容】

英語を読んだり、聞いたり、話したりするためには、英語の基礎という堅固な土台を造る必要があります。その中でも特に文法は必要不可欠なもので、これをおろそかにすると何一つ理解できないということになります。この科目は「基礎英語」という題が付いています。文字通り、英語の基礎を固めることを目的とします。いや、正確に言うと、皆さんが、自分で英語の基礎を固めたいと思うその意思を援助し、バックアップする、ということが目的です。"Heaven helps those who help themselves". 「天は自らを助ける者を助ける」という言葉の通り、自分を助けよう、成長させようとする強い意思がなければ、物事はうまく行きません。これは、単なる大学の一授業にとどまらず、広く自分の人生にも当てはまることでしょう。この授業が、このような意思を抱く皆さんの一助となることを切に祈ります。

【到達目標】

英語の基本的な語の正しい発音をはじめ、基本的な高校までの文法事項の確認と定着、短い英文から、比較的長い英文の読解、最後に短い英語の聴き取り、発話までを到達目標とする。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス。読解用基本プリント。復習30分
 第2回 Unit 13 機内で 日本語にない音(1) [時・天候などを表すit] 基本文法プリント 小テスト 予習30分 復習30分
 第3回 Unit 14 空港で 日本語にない音(2) [接続詞] 基本文法プリント 小テスト 予習30分 復習30分
 第4回 Unit 15 ホテル まぎらわしい音の区別(1) [不定詞] 基本文法プリント 小テスト 予習30分 復習30分
 第5回 Unit 16 レストランで まぎらわしい音の区別(2) [形容詞] 基本文法プリント 小テスト 予習30分 復習30分
 第6回 Unit 17 ショッピング まぎらわしい音の区別(3) [頻度を表す副詞] 基本文法プリント 小テスト 予習30分 復習30分
 第7回 Unit 18 ベースボール まぎらわしい音の区別(4) [比較級] 基本文法プリント 小テスト 予習30分 復習30分
 第8回 Unit 19 ミュージカル鑑賞 語頭と語尾で違って聞こえる音 [現在完了] 基本文法プリント 小テスト 予習30分 復習30分
 第9回 Unit 20 旅行案内 つづりと発音(1) [受動態1] 基本文法プリント 小テスト 予習30分 復習30分
 第10回 Unit 21 トラブル・シューティング つづりと発音(2) [受動態2] 基本文法プリント 小テスト 予習30分 復習30分
 第11回 Unit 22 体調不良 ポーズ(pause)のとり方 [分詞] 基本文法プリント 小テスト 予習30分 復習30分
 第12回 Unit 23 電話での申し込み イントネーション [動名詞] 基本文法プリント 小テスト 予習30分 復習30分
 第13回 Unit 24 さよなら、アメリカ! センスグループ [Review 2] 小テスト 予習30分 復習30分
 第14回 基本文法プリント 基本読解用プリント 小テスト 予習30分 復習30分
 第15回 秋学期最終授業 これまでの授業内容について復習120分

【授業の進め方】

教科書に基づく演習形式授業である。授業のはじめに復習小テストを実施。グループワークをする機会を設ける。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①総合英語パワーアップ<入門編> ②唐住結子 他 ③南雲堂 ④2009/2/23 ⑤1,900円(税別) ⑥978-4-523-17624-4

必ず購入すること。

【参考図書】

Forest, Next Stage ほか、高校時に使用した参考書

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 10% レポート・課題 0% 受講態度 10%

特記事項

授業回数の三分の一を越える欠席回数は不合格となる。

【履修上の心得】

必ず予習と小テストのための復習をすること。辞書は必携とする。

科目名	Reading II A
教員名	Neil Thomas Millington

【授業の内容】

This is an elective English reading and discussion course. There will be at least two kinds of readings to prepare each week. It is expected that only those students who are interested in reading in English and who are willing to participate in discussions in English will choose to take it.

This is an English-only course.

(この講義は、英語のリーディングとディスカッションの選択科目である。毎週最低2種類のリーディング課題を出すので、リーディングに興味があり、英語による討論に積極的に参加する意志のある学生のみが履修することを薦める。講義は英語のみで進められる。)

【到達目標】

- (a) To give the student increased confidence in his or her ability to read and understand English
(英文の読解にさらに自信がもてるようになる。)
- (b) To give the student opportunities to clarify personal interpretations of ideas written in English through discussions in English
(英語で討論する中で、個人の解釈の正確性を明確にしていく。)
- (c) To give the student the opportunity to learn about a subject-area by reading about it in English
(それぞれの専門分野を英語で学ぶ機会を与える。)

【授業計画】

第1回 Introduction to the class and the syllabus

第2回 An introduction to reading and how to read various texts

第3回 Practical English #1

Reading and discovering texts for practical everyday use #1

第4回 Practical English #2

Reading and discovering texts for practical everyday use #2

第5回 Practical English #3

Reading and discovering texts for practical everyday use #3

第6回 Practical English Quiz

Reading quiz on practical everyday texts

第7回 Interesting English #1

Reading for pleasure and knowledge #1

第8回 Interesting English #2

Reading for pleasure and knowledge #2

第9回 Interesting English #3

Reading for pleasure and knowledge #3

第10回 Interesting English Quiz

Reading quiz on graded interesting English texts

第11回 Academic English #1

Reading and learning how to answer questions for academic English texts #1

第12回 Academic English #2

Reading and learning how to answer questions for academic English texts #2

第13回 Academic English #3

Reading and learning how to answer questions for academic English texts #3

第14回 Semester review and test preparation

第15回 Reading Quiz on practical, interesting, and academic texts

The syllabus is subject to change

【授業の進め方】

Because of the extensive amount of reading required for the course, students will be given class time to complete the work for this course. Students will work independently during a portion of the class period.

(読書に時間がかかるため、授業中は各自が課題を進める時間とする。)

【教科書(必ず購入すべきもの)】

There is no textbook requirement for this course.

(この授業ではテキストは必要ありません。)

【参考図書】

English reading materials such as newspapers, magazines, and other types of information are available both in print and online. Ask your teacher for available resources.

(新聞や雑誌などの英文資料は、印刷物でもオンラインでも見ることができる。講師に資料に関しては尋ねること。)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 60% レポート・課題 0% 受講態度 40%

特記事項

Students will be asked to read during the class time. It is a time for silent work and a focus on improving reading skills by using the time to read. Homework assignments to turn in will be required every week. This will include work from the textbook and other assignments. Six (6) or more absences will result in an automatic failing grade for the course.

(授業中は静かに集中して、リーディング・スキル向上に努める。宿題(テキストとその他の課題)は毎週提出すること。6回以上授業を欠席した場合、自動的に単位を落とすこととなる。)

【「成績評価の方法」に関する注意点】

Six (6) or more absences will result in an automatic failing grade for the course.

(6回以上の欠席で、自動的に単位を落とすこととなる。)

【履修上の心得】

There is an extensive amount of reading to do for the course. A weekly effort will be needed to keep up with the requirements for the class.

Students are expected to read and prepare for discussions in English before coming to class. This means that students must prepare outside of class time. Without this preparation, students will have difficulty participating in the required discussions. Only students who are willing to make the effort should take the course.

The course will be conducted entirely in English. This means that there will be no English to Japanese translation of any reading materials for the class, and discussions will be conducted entirely in English. The successful student in this course will come to each class with a good attitude and be prepared to participate with enthusiasm in English-only.

(リーディングの量が多いため、授業の必修課題に付いていくには毎週の課題提出などをこなしていく必要がある。授業に出席する前に討論の準備や、使用する資料を読んできるとよい。準備が整っていないと、討論への参加がより難しくなる。努力することを惜しまない学生だけが受講することを薦める。授業は英語のみで行われる。英語から日本語への翻訳資料は配布されない。討論も全て英語で行われる。)

【科目のレベル、前提科目など】

This is a pre-intermediate level English reading and discussion course.

(英語のリーディング・ディスカッション科目の中級レベルに相当する。)

【備考】

English writing courses are an excellent complement to this reading course. Knowing what good writers do to successfully

convey a message in print will help the language learner to become a better reader.

(ライティングは、このリーディングの授業の補助的役割を果たす。優れた作家がどのようにメッセージを上手く伝えるか、それを知ること、英文資料をより良く理解することができる。)

科目名	Reading II B
教員名	Neil Thomas Millington

【授業の内容】

This is an elective English reading and discussion course. There will be at least two kinds of readings to prepare each week. It is expected that only those students who are interested in reading in English and who are willing to participate in discussions in English will choose to take it.

This is an English-only course.

(この講義は、英語のリーディングとディスカッションの選択科目である。毎週最低2種類のリーディング課題を出すので、リーディングに興味があり、英語による討論に積極的に参加する意志のある学生のみが履修することを薦める。講義は英語のみで進められる。)

【到達目標】

- a) To give the student increased confidence in his or her ability to read and understand English
(英文の読解にさらに自信がもてるようになる。)
- (b) To give the student opportunities to clarify personal interpretations of ideas written in English through discussions in English
(英語で討論する中で、個人の解釈の正確性を明確にしていく。)
- (c) To give the student the opportunity to learn about a subject-area by reading about it in English
(それぞれの専門分野を英語で学ぶ機会を与える。)

【授業計画】

第1回 Introduction to the class and the syllabus

第2回 An introduction to reading and how to read various texts

第3回 Practical English #4

Reading and discovering texts for practical everyday use #4

第4回 Practical English #5

Reading and discovering texts for practical everyday use #5

第5回 Practical English #6

Reading and discovering texts for practical everyday use #6

第6回 Practical English Quiz

Reading quiz on practical everyday texts

第7回 Interesting English #4

Reading for pleasure and knowledge #4

第8回 Interesting English #5

Reading for pleasure and knowledge #5

第9回 Interesting English #6

Reading for pleasure and knowledge #6

第10回 Interesting English Quiz

Reading quiz on graded interesting English texts

第11回 Academic English #4

Reading and learning how to answer questions for academic English texts #4

第12回 Academic English #5

Reading and learning how to answer questions for academic English texts #5

第13回 Academic English #6

Reading and learning how to answer questions for academic English texts #6

第14回 Semester review and test preparation

第15回 Reading Quiz on practical, interesting, and academic texts

The syllabus is subject to change

【授業の進め方】

Students may be given class time to work on the readings required for the course. It is expected that students will take advantage of the time and use it for reading.

There will also be time given for class discussions. It is important that students prepare for the discussion before coming to class.

Quizzes for the textbook units will be available weekly for the students to complete online. This will be done independently by the students, outside of class.

(授業時間をリーディング課題を進める時間に利用できるようにすることもある。
討論をする時は、必ずその準備を前もって整えること。
小テストは毎週オンラインで受けること。各自が授業時間外で受けること。)

【教科書(必ず購入すべきもの)】

There is no textbook requirement for this course.

(この授業ではテキストは必要ありません。)

【参考図書】

English reading materials such as newspapers, magazines, and other types of information are available both in print and online. Ask your teacher for available resources.

(新聞や雑誌などの英文資料は、印刷物でもオンラインでも見ることができる。講師に資料に関しては尋ねること。)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 60% レポート・課題 0% 受講態度 40%

特記事項

Students will be asked to read during the class time. It is a time for silent work and a focus on improving reading skills by using the time to read. Homework assignments to turn in will be required every week. This will include work from the textbook and other assignments. Six (6) or more absences will result in an automatic failing grade for the course.

(授業中は静かに集中して、リーディング・スキルの向上に努める。宿題(テキストとその他の課題)は毎週提出すること。6回以上の欠席がある場合、自動的に単位を落とすこととなる。)

【「成績評価の方法」に関する注意点】

Six (6) or more absences will result in an automatic failing grade for the course.

(6回以上の欠席で、自動的に単位を落とすこととなる。)

【履修上の心得】

There is an extensive amount of reading to do for the course. A weekly effort will be needed to keep up with the requirements for the class.

Students are expected to read and prepare for discussions in English before coming to class. This means that students must prepare outside of class time. Without this preparation, students will have difficulty participating in the required discussions. Only students who are willing to make the effort should take the course.

The course will be conducted entirely in English. This means that there will be no English to Japanese translation of any reading materials for the class, and discussions will be conducted entirely in English. The successful student in this course will come to each class with a good attitude and be prepared to participate with enthusiasm in English-only.

(リーディングの量が多いため、授業の必修課題に付いていくには毎週の課題提出などをこなしていく必要がある。授業に出席する前に討論の準備や、使用する資料を読んできると、準備が整っていないと、討論への参加がより難しくなる。努力することを惜しまない学生だけが受講することを薦める。授業は英語のみで行われる。英語から日本語への翻訳資料は配布されない。討論も全て英語で行われる。)

【科目のレベル、前提科目など】

This is a pre-intermediate level English reading and discussion course.

(英語のリーディング・ディスカッション科目の中級レベルに相当する。)

【備 考】

English writing courses are an excellent complement to this reading course. Knowing what good writers do to successfully convey a message in print will help the language learner to become a better reader.

(ライティングは、このリーディングの授業の補助的役割を果たす。優れた作家がどのようにメッセージを上手く伝えるか、それを知ることによって、英文資料をより良く理解することができる。)

科目名	Writing II A
教員名	Neil Thomas Millington

【授業の内容】

Writing IIA is an elective English writing course for students who wish to improve their writing skills. This course is aimed to improve students' basic academic writing skills. The course will begin by showing students how to write simple, compound and complex sentences, and how to recognize and avoid common errors. Students will then learn how to write a basic paragraph, including how to write a topic sentence, supporting sentences and a concluding sentence.

Writing IIA はライティングスキルを改善させたい学生のための選択科目である。基本的なアカデミックライティングの改善のため単文、重文、複文の書き方やよく見られる誤りの認識や回避の仕方を学ぶ。学生はトピックセンテンス、サポートセンテンス、コンクルーディングセンテンスからなるパラグラフ構造を学ぶことができる。

【到達目標】

The objectives of this course are to help students improve in their ability to: (a) improve students' confidence in their ability to express ideas in written English (b) improve students' process writing skills.

この科目の目的は以下の学生の能力改善を手助けする。

- (a) 英文を書くことに自信をつける。
- (b) ライティングスキルの過程の改善。

【授業計画】

第1回 Course Introduction and Syllabus

Writing about yourself

第2回 The basic rules for the layout of writing

Understanding how to format a paragraph and identifying mistakes

第3回 What a paragraph should look like

Understanding the structure of a paragraph

第4回 Grammatical terms and parts of a sentence

Understanding grammatical terms in English

第5回 Recognizing common errors

Learn how to find common mistakes

第6回 Writing sentences

Learning how to write compound and complex sentences

第7回 Understanding paragraphs

Learning how to write topic sentences and concluding sentences

第8回 Understanding paragraphs

Learning how to write supporting sentences

第9回 Creating good paragraphs

Looking at examples of paragraphs and writing practice

第10回 Writing workshop #1A

Writing an expository paragraph

第11回 Writing workshop #1B

Peer review

第12回 Brainstorming and Prewriting

How to organize ideas and make plans

第13回 Writing workshop #2A

Writing a narrative paragraph
第14回 Writing workshop #2B

Peer review
第15回 Teacher feedback and review of the course

The syllabus is subject to change

【授業の進め方】

Students will learn process writing, how to find common mistakes, and peer review skills. Students will also be expected to keep a weekly writing journal.

この科目では、一般的な間違いの見つけ方や査読スキルなどのプロセスライティングを学ぶ。学生はウィークリーライティングジャーナルを書く課題がある

【教科書(必ず購入すべきもの)】

There is no textbook requirement for this course.

(この授業ではテキストは必要ありません。)

【参考図書】

Worksheets and handouts will be provided by the teacher and other types of information are available both in print and online. Ask your teacher for available resources.

(ワークシートは講師によって提供され、他のタイプの情報はプリントやオンラインで入手できる。必要な場合は、講師に尋ねること。)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

Students will be asked to write during the class time. There will be individual writing and group writing assignments. Six (6) or more absences will result in an automatic failing grade for the course.

(授業中にライティングの時間を設ける。インディビジュアルライティングやグループライティングの課題がある。6回以上授業を欠席した場合、自動的に単位を落とすこととなる。)

【「成績評価の方法」に関する注意点】

Six (6) or more absences will result in an automatic failing grade for the course.

(6回以上授業を欠席した場合、自動的に単位を落とすこととなる。)

【履修上の心得】

Writing in the English language is an activity best learned by writing and reading a lot. Students will have a chance to do this in class. It is expected that students will use class time to work on improving their ability to write in English. Only by writing can this long process begin to happen. Use the class time to write.

(ライティングスキルの向上の最短の道のりは、たくさん書くことと読むこと。この授業ではその時間を提供する。この授業の時間を使いライティングの改善が期待される。)

【科目のレベル、前提科目など】

This class is an low-intermediate level writing class that will prepare students to write in English.

(中級ライティングに相当する科目で、学生に英文を書く準備をさせる。)

【備考】

Reading courses can help you to devise strategies to improve writing ability.

リーディングの科目は、ライティング力を高めるためにも必要な要素である。

科目名	Writing IIB
教員名	Neil Thomas Millington

【授業の内容】

Writing IIB is an elective English writing course for students who wish to expand their writing skills. This course is aimed to improve students' basic academic writing skills. Students will learn about writing different kinds of paragraphs and other writing genres. Students will also be expected to keep a weekly writing journal.

Writing IIBは、ライティングスキルを広げたい学生のための選択科目である。基本的なアカデミックライティングスキルの改善を目標とする。学生は異なった種類のパラグラフや他のライティングジャンルのライティングを学ぶ。また、ウィークリーライティングジャーナルの課題もある。

【到達目標】

The objectives of this course are to help students improve in their ability to: (a) improve students' confidence in their ability to express ideas in written English (b) improve students' process writing skills

この科目の目的は以下の学生の能力の改善を手助けする。

- (a) 英文を書くことに自信をつける。
- (b) ライティングスキルの過程の改善。

【授業計画】

第1回 Course Introduction and Syllabus

Writing about the past

Using the simple past and past continuous

第2回 Writing about the past

Using time sequencing words

第3回 Writing workshop #1A

Writing a paragraph

第4回 Writing workshop #1B

Peer review

第5回 Writing about the future

Using the future tense

第6回 Writing about the future

Writing about plans and ambitions

第7回 Writing workshop #2A

Writing a paragraph

第8回 Writing workshop #2B

Peer review

第9回 Writing reports

Doing research and finding information

第10回 Writing reports

Conducting surveys

第11回 Writing workshop #3A

Writing a report

第12回 Writing workshop #3B

Peer review

第13回 Writing correspondence

Understanding block style letter writing

第14回 Writing correspondence

Writing formal correspondence

第15回 teacher feedback and review of the course

The syllabus is subject to change

【授業の進め方】

Students will learn process writing, how to find common mistakes, and peer review skills. Students will also be expected to keep a weekly writing journal.

この科目では、一般的な間違いのを見つけ方や査読スキルなどのプロセスライティングを学ぶ。学生はウィークリーライティングジャーナルを書く課題がある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

There is no textbook requirement for this course.

(この授業ではテキストは必要ありません。)

【参考図書】

Worksheets and handouts will be provided by the teacher and other types of information are available both in print and online. Ask your teacher for available resources.

(ワークシートは講師によって提供され、他のタイプの情報はプリントやオンラインで入手できる。必要な場合は、講師に尋ねること。)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

Students will be asked to write during the class time. There will be individual writing and group writing assignments. Six (6) or more absences will result in an automatic failing grade for the course.

授業中にライティングの時間を設ける。インディビジュアルライティングやグループライティングの課題がある。6回以上の授業を欠席した場合、自動的に単位を落とすこととなる。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

Six (6) or more absences will result in an automatic failing grade for the course.

(6回以上授業を欠席した場合、自動的に単位を落とすこととなる。)

【履修上の心得】

Writing in the English language is an activity best learned by writing and reading a lot. Students will have a chance to do this in class. It is expected that students will use class time to work on improving their ability to write in English. Only by writing can this long process begin to happen. Use the class time to write.

(ライティングスキルの向上の最短の道のりは、たくさん書くことと読むこと。この授業ではその時間を提供する。この授業の時間を使いライティングの改善が期待される。)

【科目のレベル、前提科目など】

This class is an low-intermediate level reading class that will prepare students to write in English.

(中級ライティングに相当する科目で、学生に英文を書く準備をさせる。)

【備考】

Reading courses can help you to devise strategies to improve writing ability.

リーディングの科目は、ライティング力を高めるためにも必要な要素である。

科目名	TOEIC I A
教員名	藤森 吉之

【授業の内容】

TOEIC Listening and Readingテストのスコアが400点程度の学生を主な対象とした、テスト対策の授業である。

【到達目標】

受講後に50点以上の得点上昇を目指す。

教科書に登場する語彙や英語表現の90%以上に未知語がない状態を目指す。

それらの語彙や英語表現の3分の2以上を発信の際に運用できる状態を目指す。

接尾語と品詞の関係を習得することを目指す。

基本的な音声変化についてのルールを理解する。

toEICテストで頻出する文法事項について補完する。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション（45分）と事前リスニングテスト（45分）

第2回 事前リスニングテスト講評（15分）

事前リーディングテスト（75分）

第3回 事前リーディングテスト講評

travel (listening)

第4回 travel (reading)

第5回 dining out (listening)

第6回 dining out (reading)

第7回 media (listening)

第8回 media (reading)

第9回 entertainment (listening)

第10回 entertainment (reading)

第11回 purchasing (listening)

第12回 purchasing (reading)

第13回 clients (listening)

第14回 clients (reading)

第15回 事後リスニングテスト（45分）

前期総括（45分）

* 以下の準備をしてから受講すること

listeningパート

①（1）topic vocabularyに登場する語句の音声を聞いて、聞こえた通りに発音する。（2）それらの語を英英辞典で調べ、その定義をノートに写す。（3）その定義の和訳を考えてノートに書く。

②（1）part 1の音声を聞いて、聞こえた通りに発音する。（2）part1に登場する単語や表現を日本語から英語にできるように暗唱する。（3）音声を聞いてpracticeの解答をノートに書く。

③（1）part2の音声を聞いて、聞こえた通りに発音する。（2）part2に登場する単語や表現を日本語から英語にできるように暗唱する。（3）音声を聞いてpracticeの解答をノートに書く。

④（1）part3の音声を聞いて、問題に解答する。（2）音声を聞いて、practiceの解答をノートに書く。

⑤（1）part4の音声を聞いて、英語表現を日本語から英語にできるように暗唱する。（2）音声を聞いて、practiceの問題に解答する。

readingパート

①（1）part5のpracticeに解答する。（2）その解答の根拠を簡潔にノートにまとめる。（3）登場した英文を暗唱する。

②（1）part6のpracticeに解答する。（2）その解答の根拠を簡潔にノートにまとめる。（3）登場した英文を暗唱する。

③（1）part6のpracticeに解答する。（2）登場した英文を文の区切りに注意して何度も音読練習をする。（3）英文の意味がわからない箇所についてはノートに書き出し、質問できるようにしておく。

【授業の進め方】

出欠席確認後、課題のチェックを行う。その後、質疑応答や問題に対する解説等を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①the high road to the topic listening and reading test ②早川幸治 他 ③金星堂 ④20170220 ⑤1900円 ⑥9784764740457

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 28% 授業内小試験 12% レポート・課題 36% 受講態度 24%

【履修上の心得】

遅刻・早退があった場合、受講態度のポイントは付与しない。

私語・居眠りがあった場合も、受講態度のポイントは付与しない。

科目名	TOEIC I B
教員名	藤森 吉之

【授業の内容】

TOEIC Listening and Readingテストのスコアが400点程度の学生を主な対象とした、テスト対策の授業である。

【到達目標】

受講後に50点以上の得点上昇を目指す。

教科書に登場する語彙や英語表現の90%以上に未知語がない状態を目指す。

それらの語彙や英語表現の3分の2以上を発信の際に運用できる状態を目指す。

接尾語と品詞の関係を習得することを目指す。

基本的な音声変化についてのルールを理解する。

toEICテストで頻出する文法事項について補完する。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション（45分）と事前リスニングテスト（45分）

第2回 事前リスニングテスト講評（15分）

事前リーディングテスト（75分）

第3回 事前リーディングテスト講評

recruiting (listening)

第4回 recruiting (reading)

第5回 personnel (listening)

第6回 personnel (reading)

第7回 advertising (listening/reading)

第8回 meetings (listening/reading)

第9回 finance (listening/reading)

第10回 offices (listening/reading)

第11回 daily life (listening/reading)

第12回 sales and marketing (listening/reading)

第13回 events (listening/reading)

第14回 to be announced

第15回 事後リスニングテスト（45分）

前期総括（45分）

* 以下の準備をしてから受講すること

listeningパート

①（1）topic vocabularyに登場する語句の音声を聞いて、聞こえた通りに発音する。（2）それらの語を英英辞典で調べ、その定義をノートに写す。（3）その定義の和訳を考えてノートに書く。

②（1）part 1の音声を聞いて、聞こえた通りに発音する。（2）part1に登場する単語や表現を日本語から英語にできるように暗唱する。（3）音声を聞いてpracticeの解答をノートに書く。

③（1）part2の音声を聞いて、聞こえた通りに発音する。（2）part2に登場する単語や表現を日本語から英語にできるように暗唱する。（3）音声を聞いてpracticeの解答をノートに書く。

④（1）part3の音声を聞いて、問題に解答する。（2）音声を聞いて、practiceの解答をノートに書く。

⑤（1）part4の音声を聞いて、英語表現を日本語から英語にできるように暗唱する。（2）音声を聞いて、practiceの問題に解答する。

readingパート

①（1）part5のpracticeに解答する。（2）その解答の根拠を簡潔にノートにまとめる。（3）登場した英文を暗唱する。

②（1）part6のpracticeに解答する。（2）その解答の根拠を簡潔にノートにまとめる。（3）登場した英文を暗唱する。

③（1）part6のpracticeに解答する。（2）登場した英文を文の区切りに注意して何度も音読練習をする。（3）英文の意味がわからない箇所についてはノートに書き出し、質問できるようにしておく。

【授業の進め方】

出欠席確認後、課題のチェックを行う。その後、質疑応答や問題に対する解説等を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①the high road to the topic listening and reading test ②早川幸治 他 ③金星堂 ④20170220 ⑤1900円 ⑥9784764740457

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 28% 授業内小試験 12% レポート・課題 36% 受講態度 24%

【履修上の心得】

遅刻・早退があった場合、受講態度のポイントは付与しない。

私語・居眠りがあった場合も、受講態度のポイントは付与しない。

【科目のレベル、前提科目など】

TOEIC IAが前提科目であるが、TOEIC IIBからの受講も可能である。

科目名	VocabularyA
教員名	新川 清治

【授業の内容】

TOEICパート3の会話文を利用してリスニング、シャドーイング、ディクテーションの訓練をする。

【到達目標】

TOEICパート3レベルの聴解問題に対応できる語彙力とリスニング力を養成することを目指す。リピーティング、シャドーイング、ディクテーション等の訓練を繰り返し、読み、書き、聞き、話す、四技能のすべての側面から語彙の定着を図る。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション
復習30分
- 第2回 Section 1
復習30分
- 第3回 Section 2
復習30分
- 第4回 シャドーイングテスト①
シャドーイングテストの準備30分
- 第5回 Section 3
復習30分
- 第6回 Section 4
復習30分
- 第7回 シャドーイングテスト②
シャドーイングテストの準備30分
- 第8回 Section 5
復習30分
- 第9回 Section 6
復習30分
- 第10回 Section 7
復習30分
- 第11回 シャドーイングテスト③
シャドーイングテストの準備30分
- 第12回 Section 8
復習30分
- 第13回 Section 9
復習30分
- 第14回 Section 10
復習30分
- 第15回 シャドーイングテスト④
シャドーイングテストの準備30分

【授業の進め方】

ディクテーション演習→パッセージの解説→シャドーイング演習→小テスト

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①公式TOEIC Listening & Reading トレーニング リスニング編 ②Educational Testing Service ③国際ビジネスコミュニケーション協会 ④2017年6月25日 ⑤2000円+税 ⑥978-4-906033-51-5

【参考図書】

必要に応じて、紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 60% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

「授業内小試験」にあたるものは10回行われる小テストと4回行われるシャドーイングテストである。

【履修上の心得】

授業内の演習が中心となるので、高い出席率と授業への積極的な参加が要求される。イヤホン(ヘッドホン)を毎週持ってくること。

【科目のレベル、前提科目など】

初級～中級下位レベルのTOEIC語彙対策。

科目名	VocabularyB
教員名	新川 清治

【授業の内容】

TOEICパート4のパッセージを利用してリスニング、シャドーイング、ディクテーションの訓練をする。

【到達目標】

TOEICパート4レベルの聴解問題に対応できる語彙力とリスニング力を養成することを目指す。リピーティング、シャドーイング、ディクテーション等の訓練を繰り返し、読み、書き、聞き、話す、四技能のすべての側面から語彙の定着を図る。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション
復習30分
- 第2回 Section 11
復習30分
- 第3回 Section 12
復習30分
- 第4回 シャドーイングテスト①
シャドーイングテストの準備30分
- 第5回 Section 13
復習30分
- 第6回 Section 14
復習30分
- 第7回 シャドーイングテスト②
シャドーイングテストの準備30分
- 第8回 Section 15
復習30分
- 第9回 Section 16
復習30分
- 第10回 Section 17
復習30分
- 第11回 シャドーイングテスト③
シャドーイングテストの準備30分
- 第12回 Section 18
復習30分
- 第13回 Section 19
復習30分
- 第14回 Section 20
復習30分
- 第15回 シャドーイングテスト④
シャドーイングテストの準備30分

【授業の進め方】

ディクテーション演習→パッセージの解説→シャドーイング演習→小テスト

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①公式TOEIC Listening & Reading トレーニング リスニング編 ②Educational Testing Service ③国際ビジネスコミュニケーション協会 ④2017年6月25日 ⑤2000円+税 ⑥978-4-906033-51-5

【参考図書】

必要に応じて、紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 60% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

「授業内小試験」にあたるものは10回行われる小テストと4回行われるシャドーイングテストである。

【履修上の心得】

授業内の演習が中心となるので、高い出席率と授業への積極的な参加が要求される。イヤホン(ヘッドホン)を毎週持ってくること。

【科目のレベル、前提科目など】

初級～中級下位レベルのTOEIC語彙対策。

科目名	OralⅢA
教員名	Stephanie Yuuko Iso

【授業の内容】

In English III, popular movies will be used to encourage discussion on culture. The English language version of movies selected will be shown. It will be the responsibility of the students to come to an understanding of the movie content without in-class translation of English to Japanese. This is an elective oral English discussion course.

本講義は、映画（英語版）を通して文化について英語で議論するものである。吹き替えや字幕の表示は行わないため内容を理解する努力をして欲しい。

【到達目標】

It is hoped that by the end of the course students will have a better understanding and appreciation of differences in culture. It is hoped that the increased awareness will encourage tolerance and empathy in cross-cultural encounters. 異文化への理解と、より正確な認識をもてるようになる事が目標である。

【授業計画】

- 第1回 Introduction to the course イン트로ダクション
- 第2回 Introduction to the course, hand out observation questions for movie sample part 1, movie sample part 1 – view, hand out movie sample part 1 discussion questions for next class
映画1の鑑賞と関連資料・課題の配布
- 第3回 Movie sample part 1 – discussion, collect observation hand out notes for movie sample part 1, collect movie sample part 1 discussion question answers, hand out movie sample part 2 observation questions, view movie sample part 2, hand out discussion questions for next class
映画1 – 討論、課題の提出
映画2 – 鑑賞と次回用の関連資料・課題の配布（課題：30分）
- 第4回 Hand out Movie 1 part 1 observation questions, view Movie 1 part 1, hand out discussion questions for next class
映画1 – 1：鑑賞と次回用の関連資料・課題の配布（課題：30分）
- 第5回 Movie 1 part 1 – discussion, collect observation hand out notes for Movie 1 part 1, collect Movie 1 part 1 discussion question answers, hand out Movie 1 part 2 observation questions, view Movie 1 part 2, hand out discussion questions for next class
映画1 – 1：討論、課題の提出
映画1 – 2：鑑賞と次回用の関連資料・課題の配布（課題：30分）
- 第6回 Movie 1 part 2 – discussion, collect observation hand out notes for Movie 1 part 2, collect Movie 1 part 2 discussion question answers, hand out Movie 1 part 3 observation questions, view Movie 1 part 3, hand out discussion questions for next class
映画1 – 2：討論、課題の提出
映画1 – 3：鑑賞と次回用の関連資料・課題の配布（課題：30分）
- 第7回 Movie 1 part 3 – discussion, collect observation hand out notes for Movie 1 part 3, collect Movie 1 part 3 discussion question answers, quiz and reaction paper Movie 1, hand out Movie 2 part 1 observation questions, view Movie 2 part 1, hand out discussion questions for next class
映画1 – 3：討論、課題の提出、小テストとリアクションペーパー
映画2 – 1：鑑賞と次回用の関連資料・課題の配布（課題：30分）
- 第8回 Movie 2 part 1 – discussion, collect observation hand out notes for Movie 2 part 1, collect Movie 2 part 1 discussion question answers, hand out Movie 2 part 2 observation questions, view Movie 2 part 2, hand out discussion questions for next class
映画2 – 1：討論、課題の提出
映画2 – 2：鑑賞と次回用の関連資料・課題の配布（課題：30分）
- 第9回 Movie 2 part 2 – discussion, collect observation hand out notes for Movie 2 part 2, collect Movie 2 part 2 discussion question answers, hand out Movie 2 part 3 observation questions, view Movie 2 part 3, hand out discussion questions for next class
映画2 – 2：討論、課題の提出
映画2 – 3：鑑賞と次回用の関連資料・課題の配布（課題：30分）
- 第10回 Movie 2 part 3 – discussion, collect observation hand out notes for Movie 2 part 3, collect Movie 2 part 3 discussion question answers, quiz and reaction paper Movie 2, hand out Movie 3 part 1 observation questions, view Movie 3 part 1, hand out discussion questions for next class
映画2 – 3：討論、課題の提出、小テストとリアクションペーパー
映画3 – 1：鑑賞と次回用の関連資料・課題の配布（課題：30分）
- 第11回 Movie 3 part 1 – discussion, collect observation hand out notes for Movie 3 part 1, collect Movie 3 part 1 discussion question answers, hand out Movie 3 part 2 observation questions, view Movie 3 part 2, hand out

- discussion questions for next class
 映画 3 - 1 : 討論、課題の提出
 映画 3 - 2 : 鑑賞と次回用の関連資料・課題の配布 (課題 : 30分)
- 第12回 Movie 3 part 2 - discussion, collect observation hand out notes for Movie 3 part 2, collect Movie 3 part 2 discussion question answers, hand out Movie 3 part 3 observation questions, view Movie 3 part 3, hand out discussion questions for next class
 映画 3 - 2 : 討論、課題の提出
 映画 3 - 3 : 鑑賞と次回用の関連資料・課題の配布 (課題 : 30分)
- 第13回 Movie 3 part 3 - discussion, collect observation hand out notes for Movie 3 part 3, collect Movie 3 part 3 discussion question answers, quiz and reaction paper Movie 3, hand out Movie 4 part 1 observation questions, view Movie 4 part 1, hand out discussion questions for next class
 映画 3 - 3 : 討論、課題の提出、小テストとリアクションペーパー
 映画 4 - 1 : 鑑賞と次回用の関連資料・課題の配布 (課題 : 30分)
- 第14回 Movie 4 part 1 - discussion, collect observation hand out notes for Movie 4 part 1, collect Movie 4 part 1 discussion question answers, hand out Movie 4 part 2 observation questions, view Movie 4 part 2, hand out discussion questions for next class
 映画 4 - 1 : 討論、課題の提出
 映画 4 - 2 : 鑑賞と次回用の関連資料・課題の配布 (課題 : 30分)
- 第15回 Movie 4 part 2 - discussion, collect observation hand out notes for Movie 4 part 2, collect Movie 4 part 2 discussion question answers, quiz and reaction paper Movie 4
- In-class Final Essay
 Conclude class
 映画 4 - 2 : 討論、課題の提出、小テストとリアクションペーパー、小論文、まとめ

*Pace and movie selection for the course will depend on class size.

授業の進捗度と映画は履修人数により決定する。

【授業の進め方】

Classes will be conducted in English. This is not a lecture style class. Active participation will be expected and required.

英語による授業である。講義形式の授業ではなく、積極的に発言する事が求められる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①初回授業時に指示する

The textbook for the course will be announced in the first class session.

テキストは初回授業時に指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 30% レポート・課題 20% 受講態度 50%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

Students absent more than five times will automatically receive a failing grade. Attendance alone does not guarantee a passing grade.

The in-class final essay must be completed in order to qualify to receive a grade for the course.

6回以上欠席の場合はH、つまり不合格となる。出席すれば単位修得という事ではない。成績評価は、小論文を授業内に提出する事が前提である。

【履修上の心得】

Only students who are willing to participate using English should take the course. Translation from English to Japanese will not be provided. It is expected that all students taking the course will understand the English language environment of the classroom. All students will be expected to help maintain this English language environment with their effort and attitude, in cooperation with the teacher.

英語で積極的に議論したい学生に受講して欲しい。英語のみの授業環境であることを理解し、全学生が教員と共にその環境を保つ努力と協力することを前提とする。

科目名	OralIII B
教員名	Stephanie Yuuko Iso

【授業の内容】

In English III, popular movies will be used to encourage discussion on culture. The English language version of movies selected will be shown. It will be the responsibility of the students to come to an understanding of the movie content without in-class translation of English to Japanese. This is an elective oral English discussion course.

本講義は、映画（英語版）を通して文化について英語で議論するものである。吹き替えや字幕使わないため内容を理解する努力をして欲しい。

【到達目標】

It is hoped that by the end of the course students will have a better understanding and appreciation of differences in culture. It is hoped that the increased awareness will encourage tolerance and empathy in cross-cultural encounters. 異文化への理解と、より正確な認識をもてるようになる事が目標である。

【授業計画】

- 第1回 Introduction to the course
- 第2回 Introduction to the course, hand out observation questions for movie sample part 1, movie sample part 1 – view, hand out movie sample part 1 discussion questions for next class 映画1の鑑賞と関連資料・課題配布
- 第3回 Movie sample part 1 – discussion, collect observation hand out notes for movie sample part 1, collect movie sample part 1 discussion question answers, hand out Movie 1 part 1 observation questions, view Movie 1 part 1, hand out discussion questions for next class 映画1：討論、課題提出、鑑賞と次回関連資料・課題配布
- 第4回 Movie 1 part 1 – discussion, collect observation hand out notes for Movie 1 part 1, collect Movie 1 part 1 discussion question answers, hand out Movie 1 part 2 observation questions, view Movie 1 part 2, hand out discussion questions for next class
映画1－1：討論、課題提出
映画1－2：鑑賞と次回関連資料・課題配布（課題：30分）
- 第5回 Movie 1 part 2 – discussion, collect observation hand out notes for Movie 1 part 2, collect Movie 1 part 2 discussion question answers, hand out Movie 1 part 3 observation questions, view Movie 1 part 3, hand out discussion questions for next class
映画1－2：討論、課題提出
映画1－3：鑑賞と次回関連資料・課題配布（課題：30分）
- 第6回 Movie 1 part 3 – discussion, collect observation hand out notes for Movie 1 part 3, collect Movie 1 part 3 discussion question answers, quiz and reaction paper Movie 1, hand out Movie 2 part 1 observation questions, view Movie 2 part 1, hand out discussion questions for next class
映画1－3：討論、課題提出、小テストとリアクションペーパー
映画2－1：鑑賞と次回関連資料・課題配布（課題：30分）
- 第7回 Movie 2 part 1 – discussion, collect observation hand out notes for Movie 2 part 1, collect Movie 2 part 1 discussion question answers, hand out Movie 2 part 2 observation questions, view Movie 2 part 2, hand out discussion questions for next class
映画2－1：討論、課題提出
映画2－2：鑑賞と次回関連資料・課題配布（課題：30分）
- 第8回 Movie 2 part 2 – discussion, collect observation hand out notes for Movie 2 part 2, collect Movie 2 part 2 discussion question answers, hand out Movie 2 part 3 observation questions, view Movie 2 part 3, hand out discussion questions for next class
映画2－2：討論、課題提出
映画2－3：鑑賞と次回関連資料・課題配布（課題：30分）
- 第9回 Movie 2 part 3 – discussion, collect observation hand out notes for Movie 2 part 3, collect Movie 2 part 3 discussion question answers, quiz and reaction paper Movie 2, hand out Movie 3 part 1 observation questions, view Movie 3 part 1, hand out discussion questions for next class
映画2－3：討論、課題提出、小テストとリアクションペーパー
映画3－1：鑑賞と次回関連資料・課題配布（課題：30分）
- 第10回 Movie 3 part 1 – discussion, collect observation hand out notes for Movie 3 part 1, collect Movie 3 part 1 discussion question answers, hand out Movie 3 part 2 observation questions, view Movie 3 part 2, hand out discussion questions for next class
映画3－1：討論、課題提出
映画3－2：鑑賞と次回関連資料・課題配布（課題：30分）
- 第11回 Movie 3 part 2 – discussion, collect observation hand out notes for Movie 3 part 2, collect Movie 3 part 2 discussion question answers, hand out Movie 3 part 3 observation questions, view Movie 3 part 3, hand out discussion questions for next class

- 映画 3 - 2 : 討論、課題提出
 映画 3 - 3 : 鑑賞と次回関連資料・課題配布 (課題 : 30分)
- 第12回 Movie 3 part 3 - discussion, collect observation hand out notes for Movie 3 part 3, collect Movie 3 part 3 discussion question answers, quiz and reaction paper Movie 3, hand out Movie 4 part 1 observation questions, view Movie 4 part 1, hand out discussion questions for next class
 映画 3 - 3 : 討論、課題提出、小テストとリアクションペーパー
 映画 4 - 1 : 鑑賞と次回関連資料・課題配布 (課題 : 30分)
- 第13回 Movie 4 part 1 - discussion, collect observation hand out notes for Movie 4 part 1, collect Movie 4 part 1 discussion question answers, hand out Movie 4 part 2 observation questions, view Movie 4 part 2, hand out discussion questions for next class
 映画 4 - 1 : 討論、課題提出
 映画 4 - 2 : 鑑賞と次回関連資料・課題配布 (課題 : 30分)
- 第14回 Movie 4 part 2 - discussion, collect observation hand out notes for Movie 4 part 2, collect Movie 4 part 2 discussion question answers, hand out Movie 4 part 3 observation questions, view Movie 4 part 3, hand out discussion questions for next class
 映画 4 - 2 : 討論、課題提出
 映画 4 - 3 : 鑑賞と次回関連資料・課題配布 (課題 : 30分)
- 第15回 Movie 4 part 3 - discussion, collect observation hand out notes for Movie 4 part 3, collect Movie 4 part 3 discussion question answers, quiz and reaction paper Movie 4, In-class Final Essay, Conclude class 映画 4 - 3 : 討論、課題提出、小テストとリアクションペーパー、小論文、まとめ

*Pace and movie selection for the course will depend on class size. 授業の進捗度と映画は履修人数により決定する。

【授業の進め方】

Classes will be conducted in English. This is not a lecture style class. Active participation will be expected and required. 英語による授業である。講義形式ではなく、積極的に発言する事が求められる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①初回授業時に指示する

The textbook for the course will be announced in the first class session. テキストは初回授業時に指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 30% レポート・課題 20% 受講態度 50%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

Students absent more than five times will automatically receive a failing grade. Attendance alone does not guarantee a passing grade.

The in-class final essay must be completed in order to qualify to receive a grade for the course.

6回以上欠席の場合はH(不合格)となる。出席すれば単位修得という事ではない。成績評価は、小論文を授業内に提出する事が前提である。

【履修上の心得】

Only students who are willing to participate using English should take the course. Translation from English to Japanese will not be provided. It is expected that all students taking the course will understand the English language environment of the classroom. All students will be expected to help maintain this English language environment with their effort and attitude, in cooperation with the teacher.

英語で積極的に議論したい学生に受講して欲しい。英語のみの授業環境であることを理解し、全学生が教員と共にその環境を保つ努力と協力することを前提とする。

科目名	TOEICⅡA
教員名	新川 清治

【授業の内容】

英語コミュニケーション能力を客観的に示す世界的指標となっているTOEICの試験対策をする。

【到達目標】

600点レベルを目指せる基礎力を養成することを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション
復習30分
- 第2回 パート3、5(派生語・動詞の問題)対策
小テストの準備30分
- 第3回 パート3、5(派生語・動詞の問題)対策
小テストの準備30分
- 第4回 パート3、5(派生語・動詞の問題)対策
小テストの準備30分
- 第5回 パート3、5(人称代名詞の問題)対策
小テストの準備30分
- 第6回 パート3、5(接続語の問題)、7(シングル・パッセージ)対策
小テストの準備30分
- 第7回 パート3、5(接続語の問題)、7(シングル・パッセージ)対策
小テストの準備30分
- 第8回 パート4、5(接続語の問題)、7(シングル・パッセージ)対策
小テストの準備30分
- 第9回 パート4、6、7(シングル・パッセージ)対策
小テストの準備30分
- 第10回 パート4、6、7(シングル・パッセージ)対策
小テストの準備30分
- 第11回 パート4、7(マルチプル・パッセージ)対策
小テストの準備30分
- 第12回 パート4、7(マルチプル・パッセージ)対策
小テストの準備30分
- 第13回 パート4、7(マルチプル・パッセージ)対策
小テストの準備30分
- 第14回 パート4、7(マルチプル・パッセージ)対策
小テストの準備30分
- 第15回 まとめ
復習30分

【授業の進め方】

問題の演習と解説、リスニングの訓練を繰り返す。毎週、事前に指定した範囲の小テストを行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

初回授業時に指示する。

【参考図書】

必要に応じて、紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 40% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

小テストはほぼ毎週実施する。

【履修上の心得】

授業での演習や解説は自己学習のきっかけを与えるものであり、自己学習なしに効果は期待できない。自宅で学習する意欲のない者は履修を遠慮してもらいたい。

【科目のレベル、前提科目など】

TOEIC試験対策中級レベル。

科目名	TOEIC IIB
教員名	新川 清治

【授業の内容】

英語コミュニケーション能力を客観的に示す世界的指標となっているTOEICの試験対策をする。

【到達目標】

600点レベルを目指せる基礎力を養成することを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 リスニングセクション模擬テスト
復習30分
- 第2回 リーディングセクション模擬テスト
小テストの準備30分
- 第3回 パート3、5(派生語・動詞の問題)対策
小テストの準備30分
- 第4回 パート3、5(派生語・動詞の問題)対策
小テストの準備30分
- 第5回 パート3、5(派生語・動詞の問題)対策
小テストの準備30分
- 第6回 パート3、5(人称代名詞の問題)、7(シングル・パッセージ)対策
小テストの準備30分
- 第7回 パート3、5(接続語の問題)、7(シングル・パッセージ)対策
小テストの準備30分
- 第8回 パート3、5(接続語の問題)、7(シングル・パッセージ)対策
小テストの準備30分
- 第9回 パート4、5(接続語の問題)、7(シングル・パッセージ)対策
小テストの準備30分
- 第10回 パート4、6、7(シングル・パッセージ)対策
小テストの準備30分
- 第11回 パート4、6、7(マルチプル・パッセージ)対策
小テストの準備30分
- 第12回 パート4、7(マルチプル・パッセージ)対策
小テストの準備30分
- 第13回 パート4、7(マルチプル・パッセージ)対策
小テストの準備30分
- 第14回 パート4、7(マルチプル・パッセージ)対策
小テストの準備30分
- 第15回 まとめ
復習30分

【授業の進め方】

問題の演習と解説、リスニングの訓練を繰り返す。毎週、事前に指定した範囲の小テストを行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

初回授業時に指示する。

【参考図書】

必要に応じて、紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 40% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

小テストはほぼ毎週実施する。

【履修上の心得】

授業での演習や解説は自己学習のきっかけを与えるものであり、自己学習なしに効果は期待できない。自宅で学習する意欲のない者は履修を遠慮してもらいたい。

【科目のレベル、前提科目など】

TOEIC試験対策中級レベル。

科目名	ドイツ語 I A
教員名	武井 佑介

【授業の内容】

ドイツ語を初めて学ぶ学生を対象とし、授業を行います。

実際にドイツ語を使用できることを目的とするため、文法だけではなくコミュニケーションにも重点をおき授業を進めます。

【到達目標】

- ・必要な情報を自らドイツ語で得ることができる。
- ・ドイツ語を用いて、伝えたいことを言葉にできる。

【授業計画】

第1回 ・授業説明

- ・挨拶・アルファベット（発音）
- ・学習課題：学習した内容の復習（30分）

第2回 ・自己紹介・数字①

- ・学習課題：学習した内容を復習する（30分）

第3回 ・自己紹介・数字②

- ・学習課題：学習した内容を復習する（30分）

第4回 ・自己紹介・数字③

- ・学習課題：学習した内容を復習する（30分）

第5回 ・国、言語、専攻①

- ・学習課題：学習した内容を復習する（30分）

第6回 ・国、言語、専攻②

- ・学習課題：学習した内容を復習する（30分）

第7回 ・国、言語、専攻③

- ・学習課題：学習した内容を復習する（30分）

第8回 ・授業の振り返り

- ・学習課題：学習した内容を復習する（30分）

第9回 ・食べ物、飲み物①

- ・学習課題：学習した内容を復習する（30分）

第10回 ・食べ物、飲み物②

- ・学習課題：学習した内容を復習する（30分）

第11回 ・食べ物、飲み物③

- ・学習課題：学習した内容を復習する（30分）

第12回 ・食べ物、飲み物④

- ・学習課題：学習した内容を復習する（30分）

第13回 ・趣味①

- ・学習課題：学習した内容を復習する（30分）

第14回 ・趣味②

- ・学習課題：学習した内容を復習する（30分）

第15回 ・趣味③

- ・学習課題：学習した内容を復習する（30分）

第16回 ・趣味④

- ・学習課題：学習した内容を復習する（30分）

第17回 ・家族、職業①

- ・学習課題：学習した内容を復習する（30分）

第18回 ・家族、職業②

- ・学習課題：学習した内容を復習する（30分）

第19回 ・家族、職業③

- ・学習課題：学習した内容を復習する（30分）

第20回 ・家族、職業④

- ・学習課題：学習した内容を復習する（30分）

第21回 ・買い物①

- ・学習課題：学習した内容を復習する（30分）

第22回 ・買い物②

- ・学習課題：学習した内容を復習する（30分）

第23回 ・買い物③

- ・学習課題：学習した内容を復習する（30分）
第24回 ・買い物④
- ・学習課題：学習した内容を復習する（30分）
第25回 ・授業の振り返り
- ・学習課題：学習した内容を復習する（30分）
第26回 ・休暇について①
- ・学習課題：学習した内容を復習する（30分）
第27回 ・休暇について②
- ・学習課題：学習した内容を復習する（30分）
第28回 ・休暇について③
- ・学習課題：学習した内容を復習する（30分）
第29回 ・休暇について④
- ・学習課題：学習した内容を復習する（30分）
第30回 ・授業の振り返り
- ・学習課題：学習した内容を復習する（30分）

上記、目安として授業計画を示しましたが、時事問題等も入れたいので計画と誤差が生じることがあります。

【授業の進め方】

グループワーク、ペアワークを中心とし、授業を進めていきます。

成績、また学習内容確認のため、各セッションで小テスト、プレゼンテーション等行います。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①Szenen1 heute aktuell 場面で学ぶドイツ語 ②佐藤修子 / 下田恭子 / 岡崎朝美 / Gesa Oldehaver / 他 ③三修社 ④
2017/02/20 ⑤2,600円+税 ⑥978-4-384-12292-3 C1084

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 20% レポート・課題 20% 受講態度 20%

特記事項

期末試験、小テスト、課題、学習態度を総合的に評価し、成績に反映します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席3分の2以上が単位取得の最低条件です。

【履修上の心得】

せっかく新しい言語を学ぶので、まずは楽しみ、学期末にはドイツ語が口からできるようになるといいと思います。

科目名	ドイツ語 I A
教員名	伊藤 功

【授業の内容】

初めてドイツ語を学ぶ者を対象として発音・語彙・文法の基本を学ぶことを第一の目的とします。そしてドイツ語を通じて映画、音楽、文学や政治、経済などドイツ文化に親しむことを第二の目的とします。

【到達目標】

基礎的なドイツ語を理解し、正しく文法を活用して簡単な表現の読み書きややりとりができるようになることを目指します。

【授業計画】

- 第1回 アルファベートと発音、挨拶。学習課題：アルファベートと挨拶文例の発音を反復練習（30分）。
- 第2回 アルファベートと発音、挨拶。学習課題：アルファベートと挨拶文例の発音を反復練習（30分）。
- 第3回 第1課：動詞の現在人称変化(1)。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第4回 第1課：動詞の現在人称変化(1)。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第5回 第1課：動詞の現在人称変化(1)。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第6回 第1課：動詞の現在人称変化(1)。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く。授業後は小テストの準備（90分）。
- 第7回 第2課：冠詞・名詞の格変化、動詞habenとsein。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第8回 第2課：冠詞・名詞の格変化、動詞habenとsein。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第9回 第2課：冠詞・名詞の格変化、動詞habenとsein。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第10回 第2課：冠詞・名詞の格変化、動詞habenとsein。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く。授業後は小テストの準備（90分）。
- 第11回 第3課：動詞の現在人称変化(2)、名詞の複数形、疑問詞wer、was。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第12回 第3課：動詞の現在人称変化(2)、名詞の複数形、疑問詞wer、was。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第13回 第3課：動詞の現在人称変化(2)、名詞の複数形、疑問詞wer、was。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第14回 第3課：動詞の現在人称変化(2)、名詞の複数形、疑問詞wer、was。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く。授業後は小テストの準備（90分）。
- 第15回 第4課：定冠詞類、不定冠詞類、命令形。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第16回 第4課：定冠詞類、不定冠詞類、命令形。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第17回 第4課：定冠詞類、不定冠詞類、命令形。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第18回 第4課：定冠詞類、不定冠詞類、命令形。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く。授業後は小テストの準備（90分）。
- 第19回 第5課：前置詞、日・週・月・季節・年。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第20回 第5課：前置詞、日・週・月・季節・年。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第21回 第5課：前置詞、日・週・月・季節・年。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第22回 第5課：前置詞、日・週・月・季節・年。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く。授業後は小テストの準備（90分）。
- 第23回 第6課：人称代名詞、不定代名詞、接続詞。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第24回 第6課：人称代名詞、不定代名詞、接続詞。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第25回 第6課：人称代名詞、不定代名詞、接続詞。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第26回 第6課：人称代名詞、不定代名詞、接続詞。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く。授業後は小テストの準備（90分）。
- 第27回 第7課：話法の助動詞、未来形、知覚動詞。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。

- 分)。
- 第28回 第7課：話法の助動詞、未来形、知覚動詞。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く(60分)。
- 第29回 第7課：話法の助動詞、未来形、知覚動詞。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く(60分)。
- 第30回 第7課：話法の助動詞、未来形、知覚動詞。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く。授業後は小テストの準備(90分)。

予習段階でわからないことがあるのは当然で、わからない点をはっきりさせることにより授業でどのような点に注意を向ければよいのかを明確に意識できるようにしてください。他方、単語の意味や発音など調べればわかることは予習でしっかり確認しておいてください。

【授業の進め方】

教科書に即して授業を進めます。教科書は16課から構成されており、そのそれぞれにおいて日常的表現をキーセンテンスとして文法事項を説明したあと、いくつかの練習問題を解き、まとめに簡単な文章を読みます。そのほかドイツ映画を鑑賞するなどしてドイツ文化に触れる機会をもつようにしたいと考えています。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①新ドイツ語の泉 ②酒井明子ほか ③郁文堂 ④2005年 ⑤2,500円+税 ⑥978-4-261-01203-3

辞書も必ず購入してください。選び方については初回授業時に説明します。

【参考図書】

随時紹介します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 30% レポート・課題 0% 受講態度 20%

特記事項

定期試験：学期末に実施し、理解度を総合的に判定します。

授業内小試験：各課終了時に小試験を実施し、その都度の理解度を判定します。

受講態度：予習として単語の発音や意味の下調べができているかどうか、授業内での演習に取り組んでいるかどうか、などの観点から評価します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

授業時に辞書を携行しない、他人の答えを写すだけなど授業に自ら参加しようとする意志が認められない場合(私語や携帯電話の操作も含む)は平常点から減点します。

【履修上の心得】

普段あまり接することのない言語なので戸惑うことも多いでしょうが、授業中は積極的に発音練習や問題演習に取り組み、授業後は教科書付録のCDを聴くなどして復習に努めてください。受講者間で疑問を出し合い教え合うことも有効ですし、自分が興味をもつ分野についてドイツの情報を集めてみるのも役に立ちます。最初の違和感が消えればドイツ語の明晰さが実感されるようになるはずです。

【科目のレベル、前提科目など】

ドイツ語初心者を対象にしますので予備知識は必要ありません。ただし、説明に際しては文法用語を用いるため、英文法の知識があればそれだけ理解は容易になるでしょう。

【備考】

複数の外国語を学ぶ者は世界につながる通路を複数もつことができます。積極的に新しい言語に取り組んでください。また、この先も更に学び続ける意欲をもつ方はこの1年をかけてしっかりと基礎を固めることが目標となります。

科目名	ドイツ語 I B
教員名	武井 佑介

【授業の内容】

ドイツ語 1 A (ドイツ語入門) を履修した学生を対象とした授業です。

実際にドイツ語を使用できることを目的とするため、文法だけではなくコミュニケーションにも重点をおき授業を進めます。

【到達目標】

- ・必要な情報を自らドイツ語で得ることができる。
- ・ドイツ語を用いて、伝えたいことを言葉にできる。
- ・必要な文法を適切に使うことができる。

【授業計画】

第1回 ・授業説明

- ・学習済みドイツ語文法の振り返り①

- ・学習課題：学習した内容を復習する (30分)

第2回 ・学習済みドイツ語文法の振り返り②

- ・学習課題：学習した内容を復習する (30分)

第3回 ・学習済みドイツ語文法の振り返り③

- ・学習課題：学習した内容を復習する (30分)

第4回 ・学習済みドイツ語文法の振り返り④

- ・学習課題：学習した内容を復習する (30分)

第5回 ・住まいについて①

- ・学習課題：学習した内容を復習する (30分)

第6回 ・住まいについて②

- ・学習課題：学習した内容を復習する (30分)

第7回 ・住まいについて③

- ・学習課題：学習した内容を復習する (30分)

第8回 ・住まいについて④

- ・学習課題：学習した内容を復習する (30分)

第9回 ・時間、日にち①

- ・学習課題：学習した内容を復習する (30分)

第10回 ・時間、日にち②

- ・学習課題：学習した内容を復習する (30分)

第11回 ・時間、日にち③

- ・学習課題：学習した内容を復習する (30分)

第12回 ・時間、日にち④

- ・学習課題：学習した内容を復習する (30分)

第13回 ・町、大学①

- ・学習課題：学習した内容を復習する (30分)

第14回 ・町、大学②

- ・学習課題：学習した内容を復習する (30分)

第15回 ・町、大学③

- ・学習課題：学習した内容を復習する (30分)

第16回 ・町、大学④

- ・学習課題：学習した内容を復習する (30分)

第17回 ・授業の振り返り①

- ・学習課題：学習した内容を復習する (30分)

第18回 ・授業の振り返り②

- ・学習課題：学習した内容を復習する (30分)

第19回 ・休暇の予定①

- ・学習課題：学習した内容を復習する (30分)

第20回 ・休暇の予定②

- ・学習課題：学習した内容を復習する (30分)

第21回 ・休暇の予定③

- ・学習課題：学習した内容を復習する (30分)

第22回 ・休暇の予定④

- ・学習課題：学習した内容を復習する (30分)

第23回 ・経験したこと①

- ・学習課題：学習した内容を復習する（30分）
第24回 ・経験したこと②
- ・学習課題：学習した内容を復習する（30分）
第25回 ・経験したこと③
- ・学習課題：学習した内容を復習する（30分）
第26回 ・経験したこと④
- ・学習課題：学習した内容を復習する（30分）
第27回 ・学習文法の振り返り①
- ・学習課題：学習した内容を復習する（30分）
第28回 ・学習文法の振り返り②
- ・学習課題：学習した内容を復習する（30分）
第29回 ・授業の振り返り①
- ・学習課題：学習した内容を復習する（30分）
第30回 ・授業の振り返り②
- ・学習課題：学習した内容を復習する（30分）

上記、目安として授業計画を示しましたが、時事問題等も入れたいので計画と誤差が生じる場合があります。

【授業の進め方】

グループワーク、ペアワークを中心とし、授業を進めていきます。

成績、また学習内容確認のため、各セッションで小テスト、プレゼンテーション等行います。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①Szenen1 heute aktuell 場面で学ぶドイツ語 ②佐藤修子 / 下田恭子 / 岡崎朝美 / Gesa Oldehaver / 他 ③三修社 ④2017/02/20 ⑤2,600円+税 ⑥978-4-384-12292-3 C1084

ドイツ語1 Aから引き続き使用するので、教科書をすでに所有している学生はそれを使ってください。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 20% レポート・課題 20% 受講態度 20%

特記事項

期末試験、小テスト、課題、学習態度を総合的に評価し、成績に反映します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席3分の2以上が単位取得の最低条件です。

【履修上の心得】

言語は一人で学習する必要はないので、他の参加者と協力し、学期末にはドイツ語が使用できるように頑張ってください。

科目名	ドイツ語 I B
教員名	伊藤 功

【授業の内容】

初めてドイツ語を学ぶ者を対象として発音・語彙・文法の基本を学ぶことを第一の目的とします。そしてドイツ語を通じて映画、音楽、文学や政治、経済などドイツ文化に親しむことを第二の目的とします。

【到達目標】

基礎的なドイツ語を理解し、正しく文法を活用して簡単な表現の読み書きややりとりができるようになることを目指します。

【授業計画】

- 第1回 第8課：分離動詞、非分離動詞、esの用法、時刻。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第2回 第8課：分離動詞、非分離動詞、esの用法、時刻。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第3回 第8課：分離動詞、非分離動詞、esの用法、時刻。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第4回 第8課：分離動詞、非分離動詞、esの用法、時刻。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く。授業後は小テストの準備（90分）。
- 第5回 第9課：動詞の3基本形、完了形。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第6回 第9課：動詞の3基本形、完了形。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第7回 第9課：動詞の3基本形、完了形。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第8回 第9課：動詞の3基本形、完了形。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く。授業後は小テストの準備（90分）。
- 第9回 第10課：過去形、再帰動詞。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第10回 第10課：過去形、再帰動詞。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第11回 第10課：過去形、再帰動詞。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第12回 第10課：過去形、再帰動詞。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く。授業後は小テストの準備（90分）。
- 第13回 第11課：形容詞の各語尾、序数。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第14回 第11課：形容詞の各語尾、序数。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第15回 第11課：形容詞の各語尾、序数。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第16回 第11課：形容詞の各語尾、序数。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く。授業後は小テストの準備（90分）。
- 第17回 第12課：比較表現。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第18回 第12課：比較表現。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第19回 第12課：比較表現。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第20回 第12課：比較表現。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く。授業後は小テストの準備（90分）。
- 第21回 第13課：定関係代名詞、不定関係代名詞、指示代名詞。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第22回 第13課：定関係代名詞、不定関係代名詞、指示代名詞。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第23回 第13課：定関係代名詞、不定関係代名詞、指示代名詞。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第24回 第13課：定関係代名詞、不定関係代名詞、指示代名詞。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く。授業後は小テストの準備（90分）。
- 第25回 第14課：zu不定形、分詞。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第26回 第14課：zu不定形、分詞。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第27回 第14課：zu不定形、分詞。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く。授業後は小テストの準備（90分）。
- 第28回 第15課：受動態。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第29回 第15課：受動態。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く（60分）。
- 第30回 第15課：受動態。学習課題：初出単語の意味と発音を確認し、練習問題を解く。授業後は小テストの準備（90分）。

予習段階でわからないことがあるのは当然で、わからない点をはっきりさせることにより授業でどのような点に注意を向ければよいのかを明確に意識できるようにしてください。他方、単語の意味や発音など調べればわかることは予習でしっかり確認しておいてください。

【授業の進め方】

教科書に即して授業を進めます。それぞれの課において日常的表現をキーセンテンスとして文法事項を説明したあと、いくつかの練習問題を解き、まとめに簡単な文章を読みます。そのほかドイツ映画を鑑賞するなどしてドイツ文化に触れる機会をもつようにする予定です。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①新ドイツ語の泉 ②酒井明子ほか ③郁文堂 ④2005年 ⑤2,500円＋税 ⑥978-4-261-01203-3

辞書も必ず購入してください。選び方については初回授業時に説明します。

【参考図書】

随時紹介します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 30% レポート・課題 0% 受講態度 20%

特記事項

定期試験：学期末に実施し、理解度を総合的に判定します。

授業内小試験：各課終了時に小試験を実施し、その都度の理解度を判定します。

受講態度：予習として単語の発音や意味の下調べができているかどうか、授業内での演習に取り組んでいるかどうか、などの観点から評価します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

授業時に辞書を携行しない、他人の答えを写すだけなど授業に自ら参加しようとする意志が認められない場合（私語や携帯電話の操作も含む）は平常点から減点します。

【履修上の心得】

普段あまり接することのない言語なので戸惑うことも多いでしょうが、授業中は積極的に発音練習や問題演習に取り組み、授業後は教科書付録のCDを聴くなどして復習に努めてください。受講者間で疑問を出し合い教え合うことも有効ですし、自分が興味をもつ分野についてドイツの情報を集めてみるのも役に立ちます。最初の違和感が消えればドイツ語の明晰さが実感されるようになるはずです。

【科目のレベル、前提科目など】

ドイツ語初心者を対象にするので予備知識は必要ありません。ただし、説明に際しては文法用語を用いるため、英文法の知識があればそれだけ理解は容易になるでしょう。

【備 考】

複数の外国語を学ぶ者は世界につながる通路を複数もつことができます。積極的に新しい言語に取り組んでください。また、この先も更に学び続ける意欲をもつ方はこの1年をかけてしっかりと基礎を固めることが目標となります。

科目名	フランス語 I A
教員名	佐々木 匠

【授業の内容】

フランス語の初学者を対象に、フランス語の基礎的な文法事項と日常表現を習得します。あわせて、フランス語の学習を通じてフランスとフランス語圏の文化にも触れます。

【到達目標】

フランス語を初めて学ぶ人を対象に作られた教科書に即して、フランス語の発音と綴り字、基本的な文法事項をいくつか学び、それらを用いて平易な表現の読み書きとあいさつができるようになることを目指します。

【授業計画】

第1回 ガイダンス——フランス語について、フランスについて

発音と文字 (1) アルファベ

(復習・予習・課題については、下記の「授業の進め方」に書いた通りです。第2回以降も同様です。)

第2回 発音と文字 (2) 母音

第3回 発音と文字 (3) 子音

第4回 第1課 (1) あいさつと自己紹介—名前と国籍を言う表現

第5回 第1課 (2) あいさつと自己紹介—元気かどうかを尋ねる表現、人称代名詞と動詞 « être » と属詞

第6回 第1課 (3) 数字0-20、第1課のまとめと練習問題

第7回 第2課 (1) 自己紹介の続き—職業を言う表現、「はい」と「いいえ」

第8回 第2課 (2) 自己紹介の続き—住んでいる町を言う表現、第1群規則動詞 (-er形) の直説法現在

第9回 第2課 (3) 数字21-30、第2課のまとめと練習問題

第10回 1回目の確認テストと第1課—第2課の復習

第11回 第3課 (1) 名詞の性と数、不定冠詞

第12回 第3課 (2) 否定文の作り方

第13回 第3課 (3) 数字31-69、第3課のまとめと練習問題

第14回 第4課 (1) 動詞 « avoir » と直接目的補語

第15回 第4課 (2) 否定文内の不定冠詞の変化 (否定の « de »)

第16回 第4課 (3) « est-ce que … ? » を用いた疑問文の作り方、第4課のまとめと練習問題

第17回 第5課 (1) 所有形容詞

第18回 第5課 (2) 疑問詞 « qui », « comment », « quel », 形容詞の性と数

第19回 第5課 (3) 国を表す名詞、第5課のまとめと練習問題

第20回 2回目の確認テストと第3課—第5課の復習

第21回 第6課 (1) « Qu'est-ce que … ? » を用いた疑問文

第22回 第6課 (2) 定冠詞、疑問詞 « où » と場所を表す表現

第23回 第6課 (3) 数字70-100、第6課のまとめと練習問題

第24回 第7課 (1) 好き嫌いを言う表現 (定冠詞、疑問文、否定文の復習)、代名詞 « ça »

第25回 第7課 (2) « Il y a … » を用いた表現

第26回 第7課 (3) 形容詞の性数一致と位置、第7課のまとめと練習問題

第27回 第8課 (1) 比較級

第28回 第8課 (2) 指示形容詞、間接目的補語の人称代名詞

第29回 第8課 (3) 非人称構文—天候を言う表現、第8課のまとめと練習問題

第30回 3回目の確認テストと第6課—第8課の復習

【授業の進め方】

教科書に即して授業を進めますが (フランス語IAは第1課から第8課まで)、皆さんの理解度に応じて進度を変更する場合や、学習項目の加除を行うことがあります。また、教科書の補足や練習問題のために、必要に応じてプリントを配布します。

教場で学んだ内容を復習し、次回の授業範囲の予習 (初出の単語の意味や発音を調べる、わからない点をはっきりさせるなど) をしてください。予習の範囲と課題については毎回の授業で指示します。個人差があると思いますが、復習・予習・課題には、毎回30分から1時間程度の時間を要します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①『新装カフェ・フランセ』(Nouveau Café Français) ②ニコラ・ガイヤールほか ③朝日出版社 ④2016年1月 ⑤2,400円+税 ⑥978-4-255-35262-6

【参考図書】

仏和辞書は毎時間必ず持ってきてください。辞書の選び方については第1回の授業でお話しします。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 60% レポート・課題 10% 受講態度 30%

特記事項

定期試験は行いません。

授業内小試験として確認テストを計3回行う予定です。

受講態度は授業準備や授業内の演習への積極的な参加などから総合的に判断します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

語学の授業ですので積み重ねが大切なのは言うまでもありません。欠席は避けましょう。

【履修上の心得】

例文の音読や動詞の活用練習、ペア（グループ）・ワークなど、全員で、あるいは、一人一人に声を出してもらう機会を多く設けます。集中して授業にのぞんでください。

科目名	フランス語 I A
教員名	Clemens Amann

【授業の内容】

Bonjourという挨拶の言葉から出発して、この授業でフランス語の基礎を勉強します。話す、読む、聞く、書く、という外国語の4つの能力を養う。それと同時にフランスの日常生活への知識を深める。フランス語を通してフランス人の日常生活、フランスのことを紹介する。語彙と単語、文法項目を最低限に絞り、簡単な会話あるいは短い文章をもとにして、発音から簡単な文型までフランス語を身につけられるように勉強する。フランス語の発音は難しいという人が少なくないが最初から文字と音の関係に注意し、聞き取りで音を区別できるようにすることを心掛ければ、フランス語は分かりやすくなる。

【到達目標】

自己紹介、自分の家族／友だちを紹介する、自分自身の一日、人の外見、時間、天気などを述べる、フランスについて、また自国のことについても話す、さまざまなテーマに触れながら基本的なフランス語を使う。文法は語学に必要なが、文法のためにフランス語を勉強するわけではない。言いたいことをフランス語で述べる、フランス語で聴くことを聞き取れるということに、この授業は重点をおいている。

【授業計画】

前期

- 第1回 挨拶、自己紹介
- 第2回 挨拶、決まり文句、日本語になったフランス語
- 第3回 第一課：ジュースを一つください。注文する
- 第4回 第一課
- 第5回 第一課
- 第6回 第二課：私の名前は Mika。自己紹介、国籍を言う
- 第7回 第二課
- 第8回 第二課
- 第9回 第二課
- 第10回 第一番目のテスト
- 第11回 第三課：彼女は女優です。身分を言う
- 第12回 第三課
- 第13回 第三課
- 第14回 第三課
- 第15回 第四課：お荷物ありますか？ タクシにて
- 第16回 第四課
- 第17回 第四課
- 第18回 第四課
- 第19回 第二番目のテスト
- 第20回 第五課：ホテルにチェックイン。部屋を予約する
- 第21回 第五課
- 第22回 第五課
- 第23回 第五課
- 第24回 第六課：絵画が好きです。好き嫌いを言う
- 第25回 第六課
- 第26回 第六課
- 第27回 第六課
- 第28回 読み物：パリのマラソン
- 第29回 第三番目のテスト
- 第30回 前期の最終授業

定期試験は実施しない。

【授業の進め方】

- すでに学んだ語彙と単語の復習
- 会話や本文のプレゼンテーション：発音、単語と文型、日本語とフランス語の比較
- 理解したかどうかを確認する
- 会話中や本文中に出てきた単語と文型に関する練習問題
- その日学習したフランス語を応用する

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①フランス語でサバイバル! ②内村瑠美子(他) ③百水社 ④2007/03/01 ⑤2,000円+税 ⑥9784560060902

教科書: Debrouillons-nous! フランス語でサバイバル! 内村瑠美子(他) 百水社、CD付き、2000円
辞書: パスポート初級仏和辞典(第3版)《シングルCD付》内藤 陽哉(他) 百水社、2730円

購入方法: Books ナカジマ

【参考図書】

パスポート初級仏和辞典(第3版)《シングルCD付》内藤 陽哉(他) 百水社、2730円

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 60% レポート・課題 0% 受講態度 40%

特記事項

授業内試験: 二課ごとにテストを実施: 前期3回、後期3回

授業中の努力

二課ごとにテストを実施: 前期3回、後期3回: 60%

授業中の努力: 40%

【履修上の心得】

授業態度重視。遅刻厳禁。

授業に積極的に参加することによって、外国語に興味を持つようになり、退屈せずに楽しく勉強できる。
クラスの授業態度によっては名簿順の固定座席にする、または私語の多い学生を固定座席にすることもある。
学生は各自が必ず自分のノートを作成すること。そのノートはテストのとき持ち込み可。

【科目のレベル、前提科目など】

フランス語 II, III

フランス語への入門。語彙と単語、文法項目は全国で実施される仏語検定試験5級程度である。受験を希望する学生にアドバイスをし、試験準備を手伝う。

科目名	フランス語 I B
教員名	佐々木 匠

【授業の内容】

フランス語IAに引き続き、フランス語の基礎的な文法事項と日常表現を習得します。あわせて、フランス語の学習を通じてフランスとフランス語圏の文化にも触れます。

【到達目標】

フランス語を初めて学ぶ人を対象に作られた教科書に即して、フランス語の発音と綴り字、基本的な文法事項をいくつか学び、それらを用いて平易な表現の読み書きとあいさつができるようになることを目指します。

【授業計画】

- 第1回 フランス語IAの復習
(予習・復習・課題については、下記の「授業の進め方」に書いた通りです。第2回以降も同様です。)
- 第2回 第9課 (1) 部分冠詞、動詞 « faire »
- 第3回 第9課 (2) 中性代名詞 « en », 動詞 « prendre »
- 第4回 第9課 (3) 否定疑問文の答え方、第9課のまとめと練習問題
- 第5回 第10課 (1) 曜日、動詞 « aller », « venir », « vouloir », « pouvoir »
- 第6回 第10課 (2) 疑問詞 « combien », 動詞 « mettre »
- 第7回 第10課 (3) 中性代名詞 « y », 第10課のまとめと練習問題
- 第8回 確認テストと第9課－第10課の復習
- 第9回 第11課 (1) 時間・時刻を言う表現
- 第10回 第11課 (2) 代名動詞
- 第11回 第11課 (3) 代名動詞のつづき、第11課のまとめと練習問題
- 第12回 第12課 (1) 目的補語の人称代名詞
- 第13回 第12課 (2) 疑問詞 « pourquoi », « quand »
- 第14回 第12課 (3) 動詞 « voir », 第12課のまとめと練習問題
- 第15回 確認テストと第11課－第12課の復習
- 第16回 第13課 (1) 直説法複合過去 (« avoir » を助動詞に取る形)
- 第17回 第13課 (2) 直説法複合過去 (« avoir » を助動詞に取る形) の続き
- 第18回 第13課 (3) 直説法半過去
- 第19回 第13課 (4) 直説法半過去の続き、第13課のまとめと練習問題
- 第20回 第14課 (1) 直説法複合過去 (« être » を助動詞に取る形)
- 第21回 第14課 (2) 直説法複合過去と直説法半過去の使い分け、主語代名詞 « on »
- 第22回 第14課 (3) 月日、第14課のまとめと練習問題
- 第23回 第15課 (1) 命令法
- 第24回 第15課 (2) 近接未来と近接過去
- 第25回 第15課 (3) 名詞の前につく形容詞
- 第26回 第15課 (4) フランス語のメール・手紙の表現、第15課のまとめと練習問題
- 第27回 確認テストと第13課－第15課の復習
- 第28回 巻末補遺 « Appendice » の文法事項 (1) 指示代名詞、中性代名詞 « le », 関係代名詞
- 第29回 巻末補遺 « Appendice » の文法事項 (2) 直説法単純未来 (他の法と時制についても軽く触れる)、ジェロンディフ
- 第30回 総まとめ

【授業の進め方】

教科書に即して授業を進めますが(フランス語IBは第9課から第15課まで)、皆さんの理解度に応じて進度を変更する場合や、学習項目の加除を行うことがあります。また、教科書の補足や練習問題のために、必要に応じてプリントを配布します。

教場で学んだ内容を復習し、次回の授業範囲の予習(初出の単語の意味や発音を調べる、わからない点をはっきりさせるなど)をしてください。予習の範囲と課題については毎回の授業で指示します。個人差があると思いますが、復習・予習・課題には、毎回30分から1時間程度の時間を要します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①『新装カフェ・フランセ』(Nouveau Café Français) ②ニコラ・ガイヤールほか ③朝日出版社 ④2016年1月 ⑤2,400円+税 ⑥978-4-255-35262-6

【参考図書】

仏和辞書は毎時間必ず持ってきてください。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 60% レポート・課題 10% 受講態度 30%

特記事項

定期試験は行いません。

授業内小試験として確認テストを計3回行う予定です。

受講態度は授業準備や授業内の演習への積極的な参加などから総合的に判断します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

語学の授業ですので積み重ねが大切なのは言うまでもありません。欠席は避けましょう。

【履修上の心得】

例文の音読や活用練習、ペア（グループ）・ワークなど、全員で、あるいは、一人一人に声を出してもらう機会を多く設けます。集中して授業にのぞんでください。

【科目のレベル、前提科目など】

フランス語IAの続きです。フランス語IAの内容を押さえていることが前提となります。

科目名	フランス語 I B
教員名	Clemens Amann

【授業の内容】

Bonjourという挨拶の言葉から出発して、この授業でフランス語の基礎を勉強します。話す、読む、聞く、書く、という外国語の4つの能力を養う。それと同時にフランスの日常生活への知識を深める。フランス語を通してフランス人の日常生活、フランスのことを紹介する。語彙と単語、文法項目を最低限に絞り、簡単な会話あるいは短い文章をもとにして、発音から簡単な文型までフランス語を身につけられるように勉強する。フランス語の発音は難しいという人が少なくないが最初から文字と音の関係に注意し、聞き取りで音を区別できるようにすることを心掛ければ、フランス語は分かりやすくなる。

【到達目標】

自己紹介、自分の家族／友だちを紹介する、自分自身の一日、人の外見、時間、天気などを述べる、フランスについて、また自国のことについても話す、さまざまなテーマに触れながら基本的なフランス語を使う。文法は語学に必要なが、文法のためにフランス語を勉強するわけではない。言いたいことをフランス語で述べる、フランス語で聴くことを聞き取れるということに、この授業は重点をおいている。

【授業計画】

後期

- 第1回 第七課：銀行はどこですか？道を尋ねる
- 第2回 第七課
- 第3回 第七課
- 第4回 読み物：自転車でパリを回る
- 第5回 第八課：ショッピングに行かない？食べ物の量、許可を頼む
- 第6回 第八課
- 第7回 第八課
- 第8回 第八課
- 第9回 読み物：フランスの料理
- 第10回 第一番目のテスト
- 第11回 第九課：次の列車は何時に？時間、時刻表
- 第12回 第九課
- 第13回 第九課
- 第14回 第九課
- 第15回 一週間のスケジュール
- 第16回 第十課：パリの観光船、天気の実現
- 第17回 第十課
- 第18回 第十課
- 第19回 第二番目のテスト
- 第20回 第十一課：テニスの方が好きです。比較する
- 第21回 第十一課
- 第22回 第十一課
- 第23回 クイズ：フランス、日本
- 第24回 第十二課：このズボン、気に入った。買い物
- 第25回 第十一課
- 第26回 第十一課
- 第27回 第十一課
- 第28回 読み物：デパートで
- 第29回 第三番目のテスト
- 第30回 前期の最終授業

定期試験は実施しない。

【授業の進め方】

- すでに学んだ語彙と単語の復習
- 会話や本文のプレゼンテーション：発音、単語と文型、日本語とフランス語の比較
- 理解したかどうかを確認する
- 会話中や本文中に出てきた単語と文型に関する練習問題
- その日学習したフランス語を応用する

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①フランス語でサバイバル! ②内村瑠美子(他) ③百水社 ④2007/03/01 ⑤2,000円+税 ⑥9784560060902

教科書: Debrouillons-nous! フランス語でサバイバル! 内村瑠美子(他) 百水社、CD付き、2000円
辞書: パスポート初級仏和辞典(第3版)《シングルCD付》内藤 陽哉(他) 百水社、2730円

購入方法: Books ナカジマ

【参考図書】

パスポート初級仏和辞典(第3版)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 60% レポート・課題 0% 受講態度 40%

特記事項

授業内試験: 二課ごとにテストを実施: 前期3回、後期3回

授業中の努力

【履修上の心得】

授業態度重視。遅刻厳禁。

授業に積極的に参加することによって、外国語に興味を持つようになり、退屈せずに楽しく勉強できる。
クラスの授業態度によっては名簿順の固定座席にする、または私語の多い学生を固定座席にすることもある。
学生は各自が必ず自分のノートを作成すること。そのノートはテストのとき持ち込み可。

【科目のレベル、前提科目など】

フランス語 II, III

フランス語への入門。語彙と単語、文法項目は全国で実施される仏語検定試験5級程度である。受験を希望する学生にアドバイスをし、試験準備を手伝う。

科目名	スペイン語 I A
教員名	高橋 節子

【授業の内容】

スペイン語入門（前半）（初めてスペイン語を学ぶ人向けの授業）

【到達目標】

- ①スペイン語が正しく発音できるようになること。
- ②スペイン語文法の初歩を学ぶこと（基本的な動詞の活用）
- ③単語を150語前後覚えること。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション、歌、ビデオ（復習：30分）
- 第2回 テキスト1課、歌、ビデオ（復習：30分）
- 第3回 テキスト1課、歌、ビデオ（西作文の宿題：30分）
- 第4回 テキスト2課、歌、ビデオ（復習：30分）
- 第5回 テキスト2課、歌、ビデオ（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第6回 テキスト3課、歌、ビデオ（復習：30分）
- 第7回 テキスト3課、歌、ビデオ（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第8回 テキスト4課（復習：30分）
- 第9回 授業内テスト1回目、テキスト4課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第10回 テキスト5課（復習：30分）
- 第11回 テキスト5課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第12回 テキスト6課（復習：30分）
- 第13回 テキスト6課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第14回 テキスト7課（復習：30分）
- 第15回 授業内テスト2回目、テキスト7課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第16回 テキスト8課（復習：30分）
- 第17回 テキスト8課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第18回 テキスト9課（復習：30分）
- 第19回 テキスト9課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第20回 テキスト10課（復習：30分）
- 第21回 授業内テスト3回目、テキスト10課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第22回 テキスト11課（復習：30分）
- 第23回 テキスト11課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第24回 テキスト12課（復習：30分）
- 第25回 テキスト12課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第26回 テキスト13課（復習：30分）
- 第27回 授業内テスト4回目、テキスト13課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第28回 テキスト14課（復習：30分）
- 第29回 テキスト14課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第30回 復習、授業内試験5回目

上記授業計画はだいたいの目安で、必ずしもこの通りに進む訳ではありません。あなた方の理解度に従って、多少遅くなったり、早くなったりします。それによって授業内試験の回数が4回になる場合もあります。

【授業の進め方】

- ①出席及び復習を兼ねた小テスト
- ②文法のポイントの説明
- ③単語の発音と意味
- ④例文の提示
- ⑤プリントの練習問題
- ⑥西作文（スペイン語の作文）を黒板に書き検討する。
- ⑦宿題の検討
- ⑧時間があれば、ビデオを見たり、歌を聞いたりする。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

プリントを使用します。プリントはきちんとまとめておくように各自工夫してください。

【参考図書】

辞書は授業開始後に紹介します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 80% レポート・課題 0% 受講態度 20%

特記事項

1. 前提条件
 - ・良好な授業態度
 - ・良好な出席状況
2. 単元テストを4～5回実施します。平均6割以上が合格ラインです。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

3 課進むごとに授業内試験を実施します。定期試験は実施しません。

【履修上の心得】

ここ数年、私語が目立ちます。私語は、他の学生が良好な授業環境で授業を受ける権利を侵害する行為です。悪質な場合には退出してもらいます。

授業は全部出席するのが当たり前です。数回欠席するとすぐに分からなくなってしまいますので、注意して下さい。

【科目のレベル、前提科目など】

英語の基礎を理解していることが前提条件です。

科目名	スペイン語 I B
教員名	高橋 節子

【授業の内容】

スペイン語入門(後半)

【到達目標】

- ①スペイン語が正しく発音できるようになること。
- ②スペイン語文法の初歩を学ぶこと（不規則動詞、命令、再帰動詞、等）
- ③単語を150語程度覚えること。

【授業計画】

- 第1回 前期の復習（復習：30分）
- 第2回 テキスト15課（復習：30分）
- 第3回 テキスト15課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第4回 テキスト16課（復習：30分）
- 第5回 テキスト16課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第6回 テキスト17課（復習：30分）
- 第7回 授業内テスト1回目、テキスト17課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第8回 テキスト18課（復習：30分）
- 第9回 テキスト18課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第10回 テキスト19課（復習：30分）
- 第11回 テキスト19課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第12回 テキスト20課（復習：30分）
- 第13回 授業内テスト2回目、テキスト20課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第14回 テキスト21課（復習：30分）
- 第15回 テキスト21課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第16回 テキスト22課（復習：30分）
- 第17回 テキスト22課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第18回 テキスト23課（復習：30分）
- 第19回 テキスト23課（西作文の宿題：30分 1時間）
- 第20回 授業内テスト3回目、テキスト24課（復習：30分）
- 第21回 テキスト24課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第22回 テキスト25課（復習：30分）
- 第23回 テキスト25課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第24回 テキスト26課（復習：30分）
- 第25回 テキスト26課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第26回 授業内テスト4回目、テキスト27課（復習：30分）
- 第27回 テキスト27課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第28回 テキスト28課（復習：30分）
- 第29回 テキスト28課（西作文の宿題：30分～1時間）
- 第30回 授業内テスト5回目、1年間の復習

上記の授業計画は、だいたいの日安で、必ずしもこの通りに進む訳ではありません。あなた方の理解度に従って、多少遅くなったり、早くなったりします。授業内試験の回数が4回になることもあります。

【授業の進め方】

- ①出席及び復習を兼ねた小テスト
- ②文法のポイントの説明
- ③単語の発音と意味
- ④例文の提示
- ⑤プリントの練習問題
- ⑥西作文（スペイン語の作文）を黒板に書き検討する。
- ⑦宿題の検討
- ⑧時間があれば、ビデオを見たり、歌を聞く。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

プリントを使用します。プリントはきちんとまとめておくように各自工夫してください。

【参考図書】

辞書は紹介しますが、必ずしも購入する必要はありません。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 80% レポート・課題 0% 受講態度 20%

特記事項**1. 前提条件**

- ・良好な授業態度。
- ・良好な出席状況。

2. 授業内試験を4～5回実施します。平均6割以上が合格ラインです。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

3 課進むごとに授業内試験を1回実施します。

【履修上の心得】

ここ数年、私語が目立ちます。私語は、他の学生が良好な授業環境で授業を受ける権利を侵害する行為です。悪質な場合には退出してもらいます。

授業は全部出席するのが当たり前です。数回欠席するとすぐに分からなくなってしまいますので、注意して下さい。

【科目のレベル、前提科目など】

スペイン語 I Aが前提科目です。

科目名	中国語 I A
	入門編
教員名	劉 建雲

【授業の内容】

中国語初修者を対象とする。標準語の発音・語彙・文法を学び、初歩的なコミュニケーション能力の育成を図る。中国語 I Aでは、発音の基礎を固め、基本的な文型・文法に沿った簡単な会話の練習をさせながら、中国語の特徴に基づいた有効な学習法を指導し、学習内容に関連して中国人の思考様式・生活習慣などを紹介する。

【到達目標】

1. 文字と発音の基本を理解する。
2. 基礎語彙・基礎文法事項に習熟する。
3. 初歩的な中国語でコミュニケーションをすることができる。

【授業計画】

第1回	ガイダンス:授業のやり方・評価基準を説明し、中国語を概説する。	
第2回	声調・単母音・特殊母音	
第3回	子音その1	
第4回	子音その2	
第5回	複合母音	
第6回	鼻母音	
第7回	変調、r化	
第8回	発音内容のまとめと習熟度の確認	
第9回	これは何ですか	文法:「是」の構文と指示代名詞
第10回	あなたのお名前は	文法:「叫」と「姓」の使い分け、人称代名詞
第11回	自己紹介その1	文法:副詞「也」と「都」、基本語順
第12回	あなたはどこへ行きますか	文法:疑問詞疑問文と省略疑問文
第13回	お家はどこにありますか	文法:動詞「在」、「的」の用法その1
第14回	部屋に何がありますか	文法:動詞「有」
第15回	あなたの家は何人家族ですか	文法:助数詞
第16回	自己紹介その2	文法:方位詞
第17回	あなたは毎日朝何時に起きますか	文法:年月日、曜日、時刻の言い方
第18回	お父さんはどこで仕事をしていますか	文法:前置詞「在」と状語
第19回	富士山は高いですか	文法:形容詞述語文
第20回	京都の夏は気候がどうですか	文法:主述述語文と反復疑問文
第21回	大学の紹介	文法:前置詞「離」など
第22回	あなたは香港の人ですか、それとも台湾の人ですか	文法:選択疑問文と連動文
第23回	あなたの好きな歌手は誰ですか	文法:助動詞「想」・「打算」・「要」
第24回	長城はどれぐらいの長さですか	文法:「多」+形容詞、動態助詞「了」
第25回	あなたはよく友達に電話をしますか	文法:動詞の「給」と前置詞の「給」
第26回	毎日勉強が忙しいです	文法:時量補語
第27回	あなたはご飯を食べましたか	文法:語気助詞「了」
第28回	あなたは今年おいくつですか	文法:年齢の聞き方と比較の表現
第29回	前期の学習内容の復習とテスト①	
第30回	前期の学習内容の復習とテスト②	

1. 毎回授業の最後に小テストを実施する。
2. 中国語の学習は暗記・暗誦が必須である。

【授業の進め方】

1. 基本的にシラバスに沿って進めていくが、みなさんの習熟度などにより進度を調整する場合もある。
2. 教科書各課の発音・語彙・文法を学習し、本文に基づいた会話や文章の繰り返し練習を通じて学習内容の強化を図る。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①ちょっとまじめに中国語 ②日下恒夫・史彤嵐 ③同学社 ④2013年 ⑤2400円 ⑥978-4-8120-0192-5

授業に出る前にならずブックス中島から教科書を購入しておいてください。

【参考図書】

1. 授業の進行に合わせてプリントを配布する。
2. 辞書は授業中に指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 70% レポート・課題 0% 受講態度 30%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

1. 授業内試験をもとにして、出席状況と受講態度と合わせて総合的に評価する。
2. 出席回数が3分の2を満たさない場合は評価の対象としない。

【履修上の心得】

1. 授業に遅刻なし出席すること。
2. 授業中に指示された予習と復習をしていくこと。

【科目のレベル、前提科目など】

中国語学習の初級課程

科目名	中国語 I A
教員名	陳 順和

【授業の内容】

初めて中国語を勉強する学生を対象とする内容（初級の発音と文法）

【到達目標】

1. 中国語を正確に発音できるようになる。
2. 中国に旅行したときに困らない程度の会話の習得ができるようになる。
3. 中国の文化・政治・社会・生活習慣・風俗等の中国人の生き方、考え方などの体得ができるようになる。

【授業計画】

第1回	中国語発音と中国語表現の特徴を解説。年間学習計画を説明、中国についての話をする。	
第2回	母音発音練習	文法：「私は大学生です」の表現（復習時間1時間）
第3回	母音発音練習	文法：「私は大学生です」の表現（復習時間1時間）
第4回	複合母音発音練習 30分、復習時間1時間）	文法：疑問文「彼は大学生ですか」の表現（予習時間
第5回	複合母音発音練習 30分、復習時間1時間）	文法：疑問文「彼は大学生ですか」の表現（予習時間
第6回	複合母音発音練習 復習時間1時間）	文法：疑問文「誰」と「どこ」について（予習時間30分、
第7回	複合母音発音練習 復習時間1時間）	文法：疑問文「誰」と「どこ」について（予習時間30分、
第8回	子音発音練習 30分、復習時間1時間）	文法：疑問文「時刻」と「時間」について（予習時間
第9回	子音発音練習 30分、復習時間1時間）	文法：疑問文「時刻」と「時間」について（予習時間
第10回	四声発音練習 30分、復習時間1時間）	文法：疑問文「数量」と「程度」について（予習時間
第11回	四声発音練習 30分、復習時間1時間）	文法：疑問文「数量」と「程度」について（予習時間
第12回	貴方のお名前は 習時間30分、復習時間1時間）	文法：疑問文「何ですか」と「原因・方法」について（予
第13回	貴方のお名前は 習時間30分、復習時間1時間）	文法：疑問文「何ですか」と「原因・方法」について（予
第14回	貴方は誰ですか 習時間30分、復習時間1時間）	文法：疑問文「どう思いますか」と「状態」について（予
第15回	貴方は誰ですか 習時間30分、復習時間1時間）	文法：疑問文「どう思いますか」と「状態」について（予
第16回	貴方は毎日どうやって学校にきますか 時間）	文法：主語＋副詞＋動詞（予習時間30分、復習時間1
第17回	貴方は毎日どうやって学校にきますか 時間）	文法：主語＋副詞＋動詞（予習時間30分、復習時間1
第18回	私は疲れました 1時間）	文法：主語＋動詞＋目的語（予習時間30分、復習時間
第19回	私は疲れました 1時間）	文法：主語＋動詞＋目的語（予習時間30分、復習時間
第20回	挨拶文の練習 間30分、復習時間1時間）	文法：主語＋状態副詞・副詞句＋動詞＋目的語（予習時
第21回	挨拶文の練習 間30分、復習時間1時間）	文法：主語＋状態副詞・副詞句＋動詞＋目的語（予習時
第22回	挨拶文の練習とテスト 時間）	文法：主語＋動詞＋補語（予習時間30分、復習時間1
第23回	挨拶文の練習とテスト 時間）	文法：主語＋動詞＋補語（予習時間30分、復習時間1
第24回	数字の表現 1時間）	文法：主語＋形容詞＋補語（予習時間30分、復習時間
第25回	数字の表現 1時間）	文法：主語＋形容詞＋補語（予習時間30分、復習時間
第26回	数字の練習とテスト	文法：可能・願望助動詞（予習時間30分、復習時間1

第27回	数字の練習とテスト 時間)	文法：可能・願望助動詞	(予習時間30分、復習時間1時間)
第28回	前期の総括とテスト	文法：無主文	(予習時間30分、復習時間1時間)
第29回	前期の総括と中国について	文法：無主文	(復習時間1時間)
第30回	復習・前期のまとめテスト	(これまでの授業内容について復習120分)	

毎回の授業の後、必ず発音記号と単語、短文を暗記、暗唱してください。

【授業の進め方】

1. 中国語を習うには、まず表音ローマ字の子音、母音、複合母音をしっかり覚えなければならぬ。これは二回の授業で覚えられるが、読み書きに熟練するか否かは、何と言っても個人の努力次第ということになる。
2. 中国語四声の習得は、一般に容易なことではないと思われていたが、これからは特殊な教材があるので、それに依って練習に励みさえすれば、二回の授業で正確な発音ができる。
3. 会話の練習をする前に、まず中国語の言葉の流れ（イントネーション）に慣れなければならぬ。慣れてはじめてすらすらと中国語が話せるようになる。その時点では、なり振りかまわず是非簡単な文章の朗読を繰り返し練習しなければならない。もし講義に基づいて自宅で熱心に練習すれば、二ヶ月以内できっと中国語の文章を流暢に読めるようになる。
4. 五月末までにすべてのローマ字による表音記号をしっかりと覚えて、短い文章がすらすらと読めるようにしなければならない（ローマ字なしの短い文章）。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①初級中国語 ②陳順和 ③自主出版 ④2010、2 ⑤1000
 ①簡易中国語文法 ②陳順和・李卓 ③自主出版 ④2012、4 ⑤1600

1. 教科書 よくわかる初級中国語・簡易中国語文法 陳順和・李卓著（売店で購入する）
2. プリント 授業に応じて配る
3. 辞書 授業中に指示する

【参考図書】

特になし。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 100% レポート・課題 0% 受講態度 0%
 特記事項
 平常テストを基にして、出席状況と受講態度による加点、減点をする。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

特になし。

【履修上の心得】

1. 宿題をきちんとやること。
2. 授業に出席すること、遅刻しないこと。
3. 語学の学習は集中的に、反復練習することが大切であるから毎時間小テストを行う。
4. 一文はさほど長くない、できれば覚えてしまうこと。
5. テレビ、ラジオ講座等も併せて利用することを勧める。

【科目のレベル、前提科目など】

中国語入門および初級の課程である。

【備考】

特になし。

科目名	中国語 I B
	基礎編
教員名	劉 建雲

【授業の内容】

標準語の発音・語彙・文法を学び、初歩的なコミュニケーション能力の育成を図る。中国語 I Bでは、引き続き基本的な文型・文法の知識を学習し、徐々に会話練習の内容を増やして場に応じて意識的に応用する習慣と能力を養う。学習内容に関連して中国人の思考様式・生活習慣などを紹介する。

【到達目標】

中国語検定試験準 4 級全員合格する。4 級も挑戦して、合格を目指す。

【授業計画】

第 1 回	春期の復習	
第 2 回	あなたはパンダを見たことがありますか	文法：過去の経験を示す「過」、「一…就…」
第 3 回	私は一度中国へ行きたいです	文法：動量補語と「的」の用法その 2
第 4 回	私は中国の歴史と文化に興味があります	文法：複文その 1、接続詞その 1
第 5 回	あなたは何をしていますか	文法：動作の進行を表す「在」
第 6 回	荷物は全部用意できましたか	文法：結果補語
第 7 回	田中さんが電話してくれた時	文法：「又…又…」、接続詞その 2
第 8 回	パスポートを見せてください	文法：動詞の重ね方、使役表現・兼語文
第 9 回	これはいくらですか	文法：名詞述語文とお金の言い方
第 10 回	あなたは中国語が話せますか	文法：助動詞「会」・「能」・「可以」
第 11 回	ただちょっと油こいです	文法：様態補語：「V+得」
第 12 回	時間が経つのは本当にはやいですね	文法：「快…了」、「就要…了」
第 13 回	中間テスト	
第 14 回	中国語検定試験の対応	
第 15 回	誰と一緒に行きましたか	文法：「是…的」の構文
第 16 回	買ってきましたか	文法：方向補語
第 17 回	たくさんのプレゼントを買って来ました	文法：複合方向補語
第 18 回	机の上に何が置いてありますか	文法：動作・状態の持続を表す「着」
第 19 回	車の免許が取れましたか	文法：結果補語
第 20 回	中国語のラジオはまだ聞き取れません	文法：可能補語
第 21 回	窓を閉めてください	文法：「把」の構文
第 22 回	バイクは弟に乗っていかれた	文法：受け身表現
第 23 回	今日はまた忘れました	文法：禁止の表現、「再」と「又」
第 24 回	家には友達が来て…	文法：存現文
第 25 回	あなたの今年の目標は何ですか	文法：複文その 2
第 26 回	たくさんの新しい友達ができました	文法：自然現象の言い方
第 27 回	後期の学習内容の整理と復習	
第 28 回	後期の学習内容の整理と復習	
第 29 回	後期の学習内容の復習とテスト①	
第 30 回	後期の学習内容の復習とテスト②	

毎回授業の最後に小テストを実施する。
中国語の学習は暗記・暗誦が必須である。

【授業の進め方】

1. 基本的にシラバスに沿って進めていくが、みなさんの習熟度などにより進度を調整する場合もある。
2. 教科書各課の発音・語彙・文法を学習し、本文に基づいた会話や作文の繰り返し練習を通じて学習内容の強化を図る。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①ちょっとまじめに中国語 ②日下恒夫・史彤嵐 ③同学社 ④2013年 ⑤2400 ⑥978-4-8102-0192-5

【参考図書】

辞書：『中日辞典』小学館

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 70% レポート・課題 0% 受講態度 30%

【成績評価の方法】に関する注意点

1. 授業内試験をもとにして、出席状況と受講態度と合わせて総合的に評価する。
2. 出席回数が3分の2を満たさない場合は、評価の対象としない。

【履修上の心得】

1. 授業に遅刻なし出席すること。
2. 授業中に指示された予習と復習をしていくこと。

【科目のレベル、前提科目など】

中国語初級の課程。

科目名	中国語 I B
教員名	陳 順和

【授業の内容】

初めて中国語を勉強する学生を対象とする内容（初級の発音と文法）

【到達目標】

1. 中国語を正確に発音できるようになる。
2. 中国に旅行したときに困らない程度の会話の習得ができるようになる。
3. 中国の小学三年生程度の文章を読んで、日本語に翻訳できるようになる。
4. 中国の文化・政治・社会・生活習慣・風俗等の中国人の生き方、考え方などの体得ができるようになる。
5. 本年11月に、中国語検定試験準4級合格できるようになる。

【授業計画】

第1回	春期の復習と発音テスト	(復習時間60分)	
第2回	私はやり終わりました	分、復習60分)	文法：主語＋動詞＋方向補語＋目的語 (予習30)
第3回	私はやり終わりました	分、復習60分)	文法：主語＋動詞＋方向補語＋目的語 (予習30)
第4回	貴方は先生の言葉を聞き取れますか	習30分、復習60分)	文法：主語＋動詞＋可能・結果補語＋目的語 (予)
第5回	貴方は先生の言葉を聞き取れますか	習30分、復習60分)	文法：主語＋動詞＋可能・結果補語＋目的語 (予)
第6回	私は中国語を勉強して半年間になりました	分、復習60分)	文法：主語＋動詞＋数量補語＋目的語 (予習30)
第7回	私は中国語を勉強して半年間になりました	分、復習60分)	文法：主語＋動詞＋数量補語＋目的語 (予習30)
第8回	私たちの学校のキャンパスはとても美しいです	習30分、復習60分)	文法：主語＋動詞＋目的語＋動詞の目的補語 (予)
第9回	私たちの学校のキャンパスはとても美しいです	習30分、復習60分)	文法：主語＋動詞＋目的語＋動詞の目的補語 (予)
第10回	第5～8課復習とテスト	分)	文法：主語＋形容詞句 (予習30分、復習60)
第11回	第5～8課復習とテスト	分)	文法：主語＋形容詞句 (予習30分、復習60)
第12回	第5～8課復習とテスト		文法：主語＋動詞句 (予習30分、復習60分)
第13回	第5～8課復習とテスト		文法：主語＋動詞句 (予習30分、復習60分)
第14回	私は中国留学をしたいです	60分)	文法：動詞の重ねと「一下」 (予習30分、復習)
第15回	私は中国留学をしたいです	60分)	文法：動詞の重ねと「一下」 (予習30分、復習)
第16回	もうすぐ授業です	分)	文法：有と在の使い方 (予習30分、復習60)
第17回	もうすぐ授業です	分)	文法：有と在の使い方 (予習30分、復習60)
第18回	私は中国医学にとっても興味を感じます	分)	文法：不と没の使い方 (予習30分、復習60)
第19回	私は中国医学にとっても興味を感じます	分)	文法：不と没の使い方 (予習30分、復習60)
第20回	貴方はどんな外国語を勉強していますか		文法：使役の表現 (予習30分、復習60分)
第21回	貴方はどんな外国語を勉強していますか		文法：使役の表現 (予習30分、復習60分)
第22回	第9～12課復習とテスト		文法：受身の表現 (予習30分、復習60分)
第23回	第9～12課復習とテスト		文法：受身の表現 (予習30分、復習60分)
第24回	貴方は私より背が高いです		文法：助詞 (予習30分、復習60分)
第25回	貴方は私より背が高いです		文法：助詞 (予習30分、復習60分)
第26回	私の自転車は盗まれました		文法：助詞 (予習30分、復習60分)
第27回	私の自転車は盗まれました		文法：助詞 (予習30分、復習60分)
第28回	後期の総括		文法：比較 (復習120分)
第29回	後期の総括と中国の現状について		
第30回	復習・後期のまとめテスト		

短文作りをよく練習してください。

【授業の進め方】

1. 教科書に沿って進みながら前期に学んだ事項も復習する。
2. 九月になってからは会話と作文の練習に全力を注ぎ、各種の文型に習熟すれば、学期終了前には簡単な会話を中国人と交わすことや、簡単な文章を書くこともできる。
3. ビデオで中国文化、芸術、生活などを紹介する。
4. 中国語の発音記号として決してカタカナを使ってはならない。
5. できるだけ中国語検定試験（11月中旬）を受けて、準4級の合格証を取得できるように希望する。
6. 中国語の話す、聞くことをよりうまくできるよう、また、中国文化と生活情事を体で感じられるようにするため、中国に短期留学することを勧める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

1. 教科書 よくわかる初級中国語・簡易中国語文法 陳順和・李卓著（売店で購入する）
2. プリント 授業に応じて配る
3. 辞書 授業中に指示する

【参考図書】

特になし。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 100% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

平常テストを基にして、出席状況と授業態度による加点、減点をする。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

特になし。

【履修上の心得】

1. 宿題をきちんとやること。
2. 授業に出席すること、遅刻しないこと。
3. 語学の学習は集中的に、反復練習することが大切であるから毎時間小テストを行う。
4. 一文はさほど長くない、できれば覚えてしまうこと。
5. テレビ、ラジオ講座等も併せて利用することを勧める。

【科目のレベル、前提科目など】

中国語入門および初級の課程である。

【備 考】

特になし。

科目名	韓国語 I A
	韓国語入門
教員名	李 映京

【授業の内容】

- ・初めて韓国語を学ぶ学生を対象にハングル文字の読み書き、発音、基本的な文型や言い回しを学びます。
- ・約700語程度の語彙を習得し「自己紹介」「挨拶」「飲食店や道での会話」「家族や日常」などの身近なテーマについて話せるように「コミュニケーション力の基盤づくり」をしていきます。

【到達目標】

- ①ハングル文字の読み書きができること
- ②韓国語の文の基本構造（語順・助詞・動詞活用など）を理解すること
- ③‘自己紹介’‘飲食店で注文する’‘道を尋ねる’‘家族や日常生活’などの身近な場面で初歩的な意思疎通ができること

【授業計画】

第1回 ガイダンス

- ・ハングル文字の由来と体系
- ・ハングル文字の形と意味

第2回 ・母音字を覚える（1）短母音

- ・挨拶表現（1）—「おはようございます」「さようなら」

第3回 ・短母音テスト-20分

- ・母音字を覚える（2）二重母音
- ・挨拶表現（2）—「ありがとうございます」「すみません」

第4回 ・母音の確認と練習-30分

- ・二重母音テスト-20分

第5回 ・子音字を覚える（1）平音

- ・挨拶表現（3）—「いただきます」「御馳走さまでした」

第6回 ・子音（平音）テスト-20分

- ・子音字を覚える（2）激音と濃音
- ・挨拶表現（4）—「はじめまして」「会えてうれしいです」「よろしく申し上げます」

第7回 ・パッチム（終声）を覚える

- ・ハングルを読む【パッチム】【有声音化】【連音化】

第8回 ・子音（濃音・激音・パッチム）テスト-30分

- ・子音の確認と練習-30分

第9回 ・ハングルを書く【名前】【日本語のハングル表記に挑戦】

- ・ハングルの読み書きについての総まとめ

第10回 ・実際のハングルに触れる【お菓子のパッケージ・映画題名・看板など】

- ・挨拶表現の総まとめと練習

第11回 1課 タナカと申します

- （1）私は○○です—「一です・ですか」文を覚える
- （2）学生です—職業名を覚える

第12回 （3）日本人です—国名を覚える

- （4）はい、いいえの答え方

第13回 （5）会話練習【自己紹介】

- （6）本文聞き取り

第14回 1課 確認テスト-30分

2課 これは何ですか

- （1）「これ、それ、あれ、どれ、何」と「これは何ですか」

第15回 （2）○○です・○○ではありません

- （3）会話練習【食堂でメニューの料理名などを尋ねる】

第16回 （4）本文聞き取り

2課 確認テスト-30分

第17回 3課 この方はどなたですか

- （1）「この、その、あの、どの、誰」とこの人（方、子、男の人、女の人）は誰ですか。

第18回 （2）私の○○（家族名称）です

- （3）会話練習【家族写真】

第19回 （4）本文聞き取り

3課 確認テスト-30分

第20回 4課 売店はどこにありますか

- （1）「ここ、そこ、あそこ、どこ」と「○○はどこにありますか」
- （2）位置を表す表現「上・下・横・前・後・右・左・中・間」

- 第21回 (3) 助詞「に」「の」「と」
(4) 否定文「ありません」「いません」
第22回 (5) 会話練習【道案内】
(6) 本文聞き取り
4課 確認テスト-30分
第23回 ・韓国語の発音法則①②③④
第24回 ・韓国文化紹介(歌)
・韓国事情一町の風景や生活・大学の授業風景など
第25回 5課 私の1週間のスケジュールです
(1) 「—(し)ます・—(し)ますか」一格式体語尾の作り方
第26回 (2) 日常動作動詞25語の語尾活用練習
第27回 (3) 「—(し)ません」一否定文の作り方①②
第28回 (4) 「時」を表す語
(5) 会話練習【1週間の計画】
第29回 (6) 本文聞き取り
(7) 5課まとめ
第30回 1課～5課の総まとめ

- ・第1回～第10回目まではプリント教材で授業を行います。
- ・第11回目からは教科書に沿って進めますが、練習用のプリントを配布し補助的に使います。
- ・定着を図るため各課ごとに語彙と基本文型について確認テストを行います。
- ・会話練習の際にはペア練習やグループセッションを行います。

【授業の進め方】

- ・語彙及び文型の理解については予習をしなくてもついてこれるように丁寧に説明を行います。
- ・「知識としての語学」ではなく「使える語学」を身に着けることに重点を置きます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①『日本人のためのイーージーコリアン1』 ②韓国語教育文化院 ③国書刊行会 ④2009年 ⑤2,300円+税 ⑥9784336046437

授業の際には必ず教科書・配布プリントを持参してください。

【参考図書】

『朝鮮語辞典』小学館

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 20% レポート・課題 10% 受講態度 10%

特記事項

授業内小試験については、8回実施します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・全授業数の3分の2以上の出席で期末試験が受けられます。
- ・語学は階段式学習が基本です。既習項目をベースに未習項目へと進みますので欠席は避けるようにしてください。

【履修上の心得】

- ・「講義を聞く」スタイルの授業ではありません。
- ・口頭練習を徹底します。
- ・ペアワークやグループワークで疑似コミュニケーション体験を積んでいきます。

【科目のレベル、前提科目など】

受講前に韓国語学習歴は必要ありません。0からスタートします。

科目名	韓国語 I A
	韓国語初級
教員名	盧 玫周

【授業の内容】

韓国語を初めて学ぶ学生を対象にする初級クラスです。ハングル（韓国語の文字）の仕組みを理解し、日常ですぐに役立つ短い会話を勉強します。パターンプラクティスを中心とした機械的な練習を行い、文型をしっかりと学びます。

【到達目標】

ハングルの仕組みが分かる。韓国語の基礎的な文法知識を理解する。
初級文型を活用し、自己紹介や身近な話題について会話できるようになることを目的とする。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス、ハングルの仕組み
- 第2回 文字と発音①母音（基本母音）
- 第3回 文字と発音②子音（基本子音）
- 第4回 文字と発音②子音（基本子音）
- 第5回 文字と発音③子音（激音と濃音）
- 第6回 文字と発音④パッチム
- 第7回 文字と発音⑤合成母音
- 第8回 文字と発音の応用-身体名詞の暗記
- 第9回 文字と発音の応用-日本の都道府県をハングルで書く
- 第10回 文字と発音の応用--簡単な挨拶、教室用語
- 第11回 発音のルール
- 第12回 第5課「私は～です」：名詞文①
- 第13回 第5課「私は～です」：本文
- 第14回 第5課「私は～です」：自己紹介（発表）
- 第15回 第5課「私は～です」：名詞否定文
- 第16回 第6課「時間ありますか？」：存在を表す表現
- 第17回 第6課「時間ありますか？」：位置を表す表現
- 第18回 第6課「時間ありますか？」：助詞【～に（位置）、～も（添加）、～と（列挙）】
- 第19回 第6課「時間ありますか？」：応用練習
- 第20回 第6課「時間ありますか？」：本文
- 第21回 第7課「それは何ですか？」：名詞文②
- 第22回 第7課「それは何ですか？」：指示代名詞
- 第23回 第7課「それは何ですか？」：疑問詞疑問文
- 第24回 第7課「それは何ですか？」：本文
- 第25回 助詞と疑問詞のまとめ
- 第26回 第8課「日曜日に何をしますか？」：用言の丁寧形①
- 第27回 第8課「日曜日に何をしますか？」：助詞【～に（到着点）、～を（対象）、～で（場所）】
- 第28回 第8課「日曜日に何をしますか？」：漢字語数詞
- 第29回 テスト
- 第30回 総まとめと「ハングル」能力検定試験の紹介①

【授業の進め方】

課ごとに①文法説明②文型練習問題③語彙④本文⑤ペアワーク練習⑥まとめの流れで進めていきます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①『最新 チャレンジ！韓国語』 ②金順玉、阪堂千津子 ③白水社 ④2017年（第9刷） ⑤2300円+税

【参考図書】

『ポケットプログレッシブ 韓日・日韓辞典』油谷幸利他（編）、小学館

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 40% レポート・課題 30% 受講態度 30%

特記事項

- ①授業内小試験：記述試験 ②課題：小テストを行います。 ③受講態度：授業への参加度で評価します。

【履修上の心得】

文字と発音に慣れていくまでがその後の進歩と楽しさを決定するので、4月5月はとりわけ熱心に勉強しましょう。

科目名	韓国語 I B
	韓国語初級
教員名	李 映京

【授業の内容】

- ・韓国語 1 Aに引き続き、不規則活用など少し進んだ文法を学びます。
- ・「日付」「時間」「値段」などの数字、交通手段、意志表現、予定と計画、勧誘、理由表現を学びコミュニケーションの幅を広げます。
- ・言語表現に含まれる韓国人特有の考え方、物事の進め方などにも触れ「異文化理解」について考えます。

【到達目標】

- ①約1000～1200語程度の基本語彙を理解し使用できること
- ②平易な不規則活用など基本的な文法事項を理解しそれをベースに簡単な生活文と実用文を書き構成できること
- ③自然な発音やイントネーションなどの韓国語の基本的なリズムを習得すること
- ④「買い物」「友人を映画に誘う」などの日常生活の私的で身近な場面で意思表示ができること

【授業計画】

- 第1回 ・ガイダンス
・前期の復習
- 第2回 5課確認テスト-30分
6課 今週末どちらに行かれますか
(1)「-なさいます・-なさいますか」-格式体敬語語尾の作り方
- 第3回 (2)「○○が好きだ・嫌いだ」好みの表現
(3)「音楽鑑賞・読書・運動・映画鑑賞」などの趣味に関する語
- 第4回 (4)「いつも・よく・たまに・あまり・全く」などの頻度を表す語
(5) 会話練習【好き・嫌いを言う】
- 第5回 (6) 本文聞き取り
・6課の総まとめ【語彙練習】-20分
・【発音法則確認】
- 第6回 6課 確認テスト-30分
7課 週末何をなさいましたか
(1)「-（し）ました・-（し）ましたか」格式体過去語尾の作り方
- 第7回 (2)「-なさいました・-なさいましたか」格式体過去敬語語尾の作り方
(3) 動詞活用確認-20分
- 第8回 (3)「郵便局・銀行・公園」など場所を表す25語を覚える
(4)「-（し）て」-並列の連結語尾
- 第9回 (5)「時点」を表す25語を覚える
(6) 会話練習【毎日の過ごし方・週末の過ごし方】
- 第10回 (7) 本文聞き取り
7課 確認テスト-30分
- 第11回 8課 今何時ですか
(1) 数字；漢字語数字と固有語数字
- 第12回 (2) 時刻・時間の言い方
- 第13回 (3) 時計練習
- 第14回 (4) 日課を言う
- 第15回 (5) 交通手段と所要時間
(6) 助詞「で」【手段と道具】「と」「-からと-まで」
- 第16回 (7) 会話練習【通学】
(7) 本文聞き取り
- 第17回 8課まとめ-30分
8課 確認テスト-30分
- 第18回 9課 誕生日はいつですか
(1)「年・月・日」-日付の言い方
- 第19回 (2) 年齢の言い方と干支
- 第20回 (3) 会話練習【誕生日】
(4) 本文聞き取り
- 第21回 ・9課まとめ-30分
・9課確認テスト-30分
- 第22回 10課 趣味は何ですか
(1)「-です・ます」；非格式体語尾の作り方
- 第23回 (2)「しました・しましたか」-非格式体過去形語尾の作り方

- 第24回 (3) 「～なさいます・～なさいますか」－非格式敬語語尾の作り方
第25回 (4) 「上手・下手」の言い方
第26回 ・動詞活用確認－不規則
第27回 (5) 会話練習【得意なもの・不得意なもの】
(6) スピーチ又はインタビュー
第28回 (7) 本文聞き取り
・10課まとめ－30分
・10課確認テスト－30分
第29回 ・韓国語1のまとめ－会話力を試してみよう
・金額の言い方
・買い物表現
第30回 ・6課～10課 総まとめ

- ・「知識としての語学」ではなく「使える語学」を身に着けることに重点を置きます。
- ・「講義を聞く」スタイルの授業ではありません。
- ・会話練習の際にはペア練習やグループセッションを行います。

【授業の進め方】

- ・語彙及び文型の理解については予習をしなくてもついてこれるように丁寧に説明を行います。
- ・口頭練習を徹底します。
- ・ペアワークやグループワークで疑似コミュニケーション体験を積んでいきます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①『日本人のためのイーージーコリアン1』 ②韓国語教育文化院 ③ 国書刊行会 ④2009年 ⑤2,300円＋税 ⑥
9784336046437

授業の際には必ず教科書・配布プリントを持参してください。

【参考図書】

『朝鮮語辞典』小学館

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 20% レポート・課題 10% 受講態度 10%

特記事項

授業内小試験については、6回実施します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・全授業数の3分の2以上の出席で期末試験が受けられます。
- ・語学は階段式学習が基本です。既習項目をベースに未習項目へと進みますので欠席は避けるようにしてください。

【履修上の心得】

- ・教室での授業進行言語は難解な文法事項の説明時を除き韓国語になります。

【科目のレベル、前提科目など】

韓国語 I Aを履修していることが必要です。

科目名	韓国語 I B
	韓国語初級
教員名	盧 ミン周

【授業の内容】

韓国語 I Aに引き続き、初級文法と会話のフレーズを勉強しながら、身近なことを表現できることを学んでいきます。さらに、韓国語を通じて交流ができるよう、様々な場面で必要な表現をマスターします。

【到達目標】

過去の経験、未来のことについて（否定・希望・理由・誘い・可能・依頼・目的等）話せるようになる。身近な話題で相手とのコミュニケーションがとれるようになることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 韓国語 I Aの復習
- 第2回 第8課「日曜日に何をしますか?」: 固有語数詞、時間の言い方
- 第3回 第8課「日曜日に何をしますか?」: 助詞【～から（起点）、～まで（終点）】
- 第4回 第8課「日曜日に何をしますか?」: 物を数える表現
- 第5回 第8課「日曜日に何をしますか?」: 本文
- 第6回 第9課「何が好きですか?」: 否定を表す表現①
- 第7回 第9課「何が好きですか?」: 移動の目的を表す表現
- 第8回 第9課「何が好きですか?」: 助詞【～が、～を】
- 第9回 第9課「何が好きですか?」: 変則用言
- 第10回 第9課「何が好きですか?」: 本文
- 第11回 第10課「週末に何をしましたか?」: 過去を表す表現
- 第12回 第10課「週末に何をしましたか?」: 確認を表す表現
- 第13回 第10課「週末に何をしましたか?」: 希望を表す表現
- 第14回 第10課「週末に何をしましたか?」: 羅列を表す表現
- 第15回 第10課「週末に何をしましたか?」: 本文
- 第16回 中間まとめ
- 第17回 第11課「明日は何をするつもりですか?」: 未来を表す表現
- 第18回 第11課「明日は何をするつもりですか?」: 理由を表す表現
- 第19回 第11課「明日は何をするつもりですか?」: 動作進行を表す表現
- 第20回 第11課「明日は何をするつもりですか?」: 本文
- 第21回 第12課「スープが冷たくて美味しいです」: 並列を表す表現
- 第22回 第12課「スープが冷たくて美味しいです」: 逆接を表す表現
- 第23回 第12課「スープが冷たくて美味しいです」: 否定を表す表現②
- 第24回 第12課「スープが冷たくて美味しいです」: 変化を表す表現
- 第25回 第12課「スープが冷たくて美味しいです」: 比較を表す表現、本文
- 第26回 第13課「一度遊びに来てください」: 意向を尋ねる表現、誘いを表す表現
- 第27回 第13課「一度遊びに来てください」: 命令を表す表現、尊敬を表す表現
- 第28回 第13課「一度遊びに来てください」: 用言の丁寧形②
- 第29回 テスト
- 第30回 総まとめと「ハングル」能力検定試験の紹介②

【授業の進め方】

課ごとに①文法説明②文型練習問題③語彙④本文⑤ペアワーク練習⑥まとめの流れで進めていきます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①『最新 チャレンジ! 韓国語』 ②金順玉、阪堂千津子 ③白水社 ④2017年(第9刷) ⑤2300円+税

【参考図書】

『ポケットプログレッシブ 韓日・日韓辞典』油谷幸利他(編)、小学館

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 40% レポート・課題 30% 受講態度 30%

特記事項

- ①授業内小試験: 記述試験 ②レポート・課題: 小テストを行います。 ③受講態度: 授業への参加度で評価します。

【科目のレベル、前提科目など】

ハングルの読み書きができることが前提です。

科目名	ドイツ語IIA
教員名	Clemens Amann

【授業の内容】

この授業では初級レベルのドイツ語を話せるように、読めるよういくつかのテーマについて勉強します。例えば、自己紹介、知らない都市に慣れる、自分の一日について述べる、買い物する、旅で経験したことを語るなど。それぞれのテーマに関しては会話、読み物そしてビデオを紹介し、会話の場合は聞き取り、単語と文型、発音と応用練習（ペアで似ている会話を造って話す）という順で、読み物とビデオの場合は単語クイズ、読解練習（読み物、ビデオの内容を確認する）、簡単なドイツ語で内容をまとめるという順で授業を行います。

ドイツ、オーストリア、スイスで使われている教科書の中から選んで、ドイツ語圏の国々と日常のドイツ語に触れる人たちに欠かせないテーマに絞りました。

【到達目標】

短くて簡単な会話をペアで行って、簡単な文章を書いて、日常の生活で使われる文書（地図、案内状、ポスター、メールなど）を読めるようにする。

【授業計画】

- 第1回 会話：自己紹介：名前、出身の国：どこの国の出身ですか？
- 第2回 ビデオ：ドイツ語圏の国々と挨拶いろいろ。
- 第3回 読み物：「私の名前は Mette Svendsen.」
- 第4回 ビデオ：仕事は理髪師
- 第5回 ヨーロッパの地図を読む：ヨーロッパの国々と言語
- 第6回 ヨーロッパの地図を読む：ヨーロッパの国々と言語
- 第7回 ナンバープレートと数字 0から20まで、発音1
- 第8回 読み物：自分と自分の家族について。「これは私の弟です」
- 第9回 ビデオ：私の家族。人の名前、住んでいる場所、年齢を言う。数字0から10まで。発音2
- 第10回 読み物：「これは何ですか？」物事を描く
- 第11回 読み物：「これは私の時計です」
- 第12回 ビデオ：1古物商人で 2土産を買う
- 第13回 アンケート：私の好きな音楽
- 第14回 読み物：オーストリアの四人の音楽者
- 第15回 前期のまとめ

会話、聞き取り、読解練習、作文を通して、簡単なドイツ語を身につける。

【授業の進め方】

毎回のテーマを紹介して、その内容を理解できる段階から内容について話したり、答えたりすることの出来る段階まで聞く、話す、読む、書くということを訓練します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ① Menschen ③ Hueber Verlag

毎回のテーマに関するプリントを配ります。
辞書と文法本に関しては学生にアドバイスします。

【参考図書】

Menschen. Deutsch als Fremdsprache. Kursbuch. Hueber Verlag. 2012

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項
課題の提出：週に一回だけの授業なので、毎回の宿題が復習のために欠かせない。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

授業中の努力と宿題の提出を元にして、成績評価します。

【履修上の心得】

ノートと単語帳を作成すること

【科目のレベル、前提科目など】

ドイツ語 I、ドイツ語 III/IV。ドイツ語 I を履修した学生を対象にする初級のレベル。

科目名	ドイツ語ⅡB
教員名	Clemens Amann

【授業の内容】

この授業では初級レベルのドイツ語を話せるように、読めるよういくつかのテーマについて勉強します。例えば、自己紹介、知らない都市に慣れる、自分の一日について述べる、買い物する、旅で経験したことを語るなど。それぞれのテーマに関しては会話、読み物そしてビデオを紹介し、会話の場合は聞き取り、単語と文型、発音と応用練習（ペアで似ている会話を造って話す）という順で、読み物とビデオの場合は単語クイズ、読解練習（読み物、ビデオの内容を確認する）、簡単なドイツ語で内容をまとめるという順で授業を行います。

ドイツ、オーストリア、スイスで使われている教科書の中から選んで、ドイツ語圏の国々と日常のドイツ語に触れる人たちに欠かせないテーマに絞りました。

【到達目標】

短くて簡単な会話をペアで行って、簡単な文章を書いて、日常の生活で使われる文書（地図、案内状、ポスター、メールなど）を読めるようにする。

【授業計画】

- 第1回 聞き取り：趣味とレジャー：三人の趣味
- 第2回 アンケート：あなたの趣味は？暇の時に何をしますか？
- 第3回 ビデオ：私の趣味はインラインスケートです。
- 第4回 時間・時刻を言う：一緒にプールに行かない？
- 第5回 ビデオ：今晚の予定は？
- 第6回 Sara の一日、私の一日
- 第7回 Sara の一日、私の一日
- 第8回 一週間のスケジュール
- 第9回 読物：Kuhnさんの忙しい生活
- 第10回 どんな料理が好きですか？
- 第11回 ビデオ：私の一番好きなレストラン
- 第12回 ビデオ：車を使わないで家から会社へ
- 第13回 読物：スイスのチューリヒ市
- 第14回 街の地図を読む：どこで乗り換えるか？
- 第15回 後期のまとめ

会話、聞き取り、読解練習、作文を通して、簡単なドイツ語を身につける。

【授業の進め方】

毎回のテーマを紹介して、その内容を理解できる段階から内容について話したり、答えたりすることの出来る段階まで聞く、話す、読む、書くということを訓練します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①Menschen ③Hueber Verlag

毎回のテーマに関するプリントを配ります。
辞書と文法本に関しては学生にアドバイスします。

【参考図書】

Menschen. Deutsch als Fremdsprache. Kursbuch. Hueber Verlag. 2012

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項
課題の提出：週に一回だけの授業なので、毎回の宿題が復習のために欠かせない。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

授業中の努力と宿題の提出を元にして、成績評価します。

【履修上の心得】

ノートと単語帳を作成すること

【科目のレベル、前提科目など】

ドイツ語 I、ドイツ語 III/IV。ドイツ語 I を履修した学生を対象にする初級のレベル。

科目名	フランス語ⅡA
教員名	Clemens Amann

【授業の内容】

フランス語Iで勉強した項目を掘り下げ、語彙と単語を増やし、初級のレベルを徹底的に身につける。『勉強したのに、どうして簡単なことさえ話せないのだろう』という疑問を持つ人が少なくない。それは知識の量に対して実際に話すトレーニングが少なすぎるからである。その問題を克服するため、まず自分が言いたいこと、あるいは表現したいことを考えてから、そのテーマに沿った授業の進め方をする。フランス語を実際的に授業中に使い、表現できる範囲を広げる。

【到達目標】

人の身分、嗜好、性格をのべる、住まいと日常の環境、フランスのモード、食生活について話す、フランス人の意見、ライフスタイルなど、それぞれの授業に一つのテーマをあげる。そのテーマについて簡単なフランス語で話す、書くことができるように、テーマに合わせて語彙と単語を復習し増やし、適切な文型を勉強する。経験したことを語り、未来のこと、仮定することを言う、助言する、依頼する、コメント、さまざまな言語能力を実際の場面で使える授業をめざす。

【授業計画】

- 第1回 久しぶりです。挨拶、名前、住所
- 第2回 クイズ：ヨーロッパの国々。国名と前置詞
- 第3回 文通メール。自己紹介：文通相手を探す。
- 第4回 文通メール。自己紹介：趣味を述べる
- 第5回 ネット上で衣服を買う。名詞グループ、数字
- 第6回 レシピ：クレープの作り方。材料、量をのべる、部分冠詞
- 第7回 どれくらい食べますか？飲み物、食べ物。冠詞類
- 第8回 Isabelleの一日。起きる時から寝る時まで。代名動詞 I
- 第9回 日曜日をどう過ごしますか？動詞の活用形、代名動詞 II
- 第10回 日曜日をどう過ごしますか？動詞の活用形、代名動詞 II
- 第11回 良い一日でした。経験したことを語る、複合過去形 I
- 第12回 どこに行きましたか？経験したことを語る、複合過去形 II
- 第13回 アルバイト先はどうでしたか？夏休みの経験をのべる：複合過去形対半過去形 I
- 第14回 アルバイト先はどうでしたか？夏休みの経験をのべる：複合過去形対半過去形 II
- 第15回 高校生のとき、大学生の今：昔と現在を比べる

【授業の進め方】

- 会話や本文のプレゼンテーション：CD、ビデオ、文章、いずれかを通して紹介する
- 発音、単語と文型、日本語とフランス語の比較
- 内容、新しい単語を理解したかどうかを確認する：おおよその理解から詳しく理解へ
- 会話中や本文中に出てきた単語と文型に関する練習問題：理解から使用へ
- その日学習したテーマについて簡単なフランス語で話す、短い文を書く

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①Taxi! ②Robert Menand ③Hachette ④2006 09 20 ⑥978-2011555083

毎回のテーマに関するプリントを配る

辞書：(フランス語 I と同様に) パスポート初級仏和辞典 (第3版)《シングルCD付》内藤 陽哉 (他) 百水社、2730

文法本：モン・プチボワソン (CD付) 金子 美都子 (他) 百水社 2008、2.300円

購入方法：学生と相談します

【参考図書】

パスポート初級仏和辞典

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

課題の提出：週に一回だけの授業なので、毎回の宿題が復習のために欠かせない。

【履修上の心得】

フランス語だけではなく、外国語は耳と口を通して学び、下手か、上手かは別にして、通じるように話してみると違和感を超えることができる。積極的にフランス語を話して、間違っても、通じればよいという考えをもってください（間違ったところは書くとき、宿題のとき直すことができる）。

ノートと単語帳を作成する。

【科目のレベル、前提科目など】

フランス語 I、III、IV

入門から初級に。語彙と単語、または文法項目は全国で実施されている仏検定試験4級にでてくる問題をカバーする。受験を希望する学生には適切なアドバイスをし、試験準備を手伝う。

科目名	フランス語ⅡB
教員名	Clemens Amann

【授業の内容】

フランス語Iで勉強した項目を掘り下げ、語彙と単語を増やし、初級のレベルを徹底的に身につける。『勉強したのに、どうして簡単なことさえ話せないのだろうか』という疑問を持つ人が少なくない。それは知識の量に対して実際に話すトレーニングが少なすぎるからである。その問題を克服するため、まず自分が言いたいこと、あるいは表現したいことを考えてから、そのテーマに沿った授業の進め方をする。フランス語を実際的に授業中に使い、表現できる範囲を広げる。

【到達目標】

人の身分、嗜好、性格をのべる、住まいと日常の環境、フランスのモード、食生活について話す、フランス人の意見、ライフスタイルなど、それぞれの授業に一つのテーマをあげる。そのテーマについて簡単なフランス語で話す、書くことができるように、テーマに合わせて語彙と単語を復習し増やし、適切な文型を勉強する。経験したことを語り、未来のこと、仮定することを言う、助言する、依頼する、コメント、さまざまな言語能力を実際の場面で使える授業をめざす。

【授業計画】

- 第1回 求人三行広告：どんな人を雇う？できることを述べる：可能、能力 I
- 第2回 求人三行広告：週末は働けますか？できることを述べる：可能、能力 II
- 第3回 電話で個人授業を取り決める：時間、一週間のスケジュール
- 第4回 タバコ吸ってもいいですか？許可、禁止、義務を述べる I
- 第5回 面接のとき、どうすれば成功できるの？許可、禁止、義務を述べる II
- 第6回 この人、知っていますか？CDを買う。代名詞 I
- 第7回 パーティへの招待：手紙、メールを読む。代名詞 II
- 第8回 Nadjaのファッションについての話。自分の趣味、気になることを言う。代名詞 y
- 第9回 Nadjaのファッションについての話。自分の興味、気になることを言う。代名詞 en
- 第10回 インタビュー：将来の仕事をどう思いますか？そう思う、そう思わない—自分の意見を言う。代名詞 yとen
- 第11回 十年後の自分をどう思い描きますか？未来のこと、推定、確信を表現する。未来形
- 第12回 十年後の自分をどう思い描きますか？未来のこと、推定、確信を表現する。未来形
- 第13回 クイズ：フランスの地理と名物。関係代名詞、関係文
- 第14回 読み物：パン屋のピラ、フランス人のパンの消費：昔、今、明日。動詞の時制
- 第15回 読み物・ビデオ：若い人のアルバイト。後期のまとめ。

【授業の進め方】

- 会話や本文のプレゼンテーション：CD、ビデオ、文章、いずれかを通して紹介する
- 発音、単語と文型、日本語とフランス語の比較
- 内容、新しい単語を理解したかどうかを確認する：おおよその理解から詳しく理解へ
- 会話中や本文中に出てきた単語と文型に関する練習問題：理解から使用へ
- その日学習したテーマについて簡単なフランス語で話す、短い文を書く

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①Taxi! ②Rbert Menand ③Hachette ④2006 09 20 ⑥978-2011555083

毎回のテーマに関するプリントを配る

辞書：(フランス語 I と同様に) パスポート初級仏和辞典 (第3版)《シングルCD付》内藤 陽哉 (他) 百水社、2730

文法本：モン・プチボワソン (CD付) 金子 美都子 (他) 百水社 2008、2.300円

購入方法：学生と相談します

【参考図書】

パスポート初級仏和辞典

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

課題の提出：週に一回だけの授業なので、毎回の宿題が復習のために欠かせない。

【履修上の心得】

フランス語だけではなく、外国語は耳と口を通して学び、下手か、上手かは別にして、通じるように話してみると違和感を超えることができる。積極的にフランス語を話して、間違っても、通じればよいという考えをもってください（間違ったところは書くとき、宿題のとき直すことができる）。

ノートと単語帳を作成する。

【科目のレベル、前提科目など】

フランス語 I、III、IV

入門から初級に。語彙と単語、または文法項目は全国で実施されている仏検定試験4級にでてくる問題をカバーする。

受験を希望する学生には適切なアドバイスをし、試験準備を手伝う。

科目名	スペイン語ⅡA
教員名	高橋 節子

【授業の内容】

スペイン語の基礎（初級レベル）

スペイン語Ⅰを入門編とすると、スペイン語ⅡAは、入門編の応用になります。

スペイン語Ⅰで学習した文法を使って、実際の会話を勉強していきます。スペイン語Ⅰを終了した人はできるだけスペイン語ⅡAも受講して、スペイン語がどのように使われるのかを学んでほしいと思います。また、語学を4年間通して勉強すれば、就職活動においても大きなアピールポイントになります。積極的に受講しましょう。

【到達目標】

- ①多少長い文でもすらすら読めるようになること
- ②スペイン語文法の基礎を修得すること
- ③単語の量を増やすこと

【授業計画】

- 第1回 昨年度の復習。"Viaje al español 1" 13課
 第2回 昨年度の復習。"Viaje al español 2" 14課（予習・復習：60分）
 第3回 "Viaje al español 2" 14課（予習・復習：60分）
 第4回 "Viaje al español 2" 15課（予習・復習：60分）
 第5回 "Viaje al español 2" 15課（予習・復習：60分）
 第6回 "Viaje al español 2" 16課（予習・復習：60分）
 第7回 "Viaje al español 2" 16課（予習・復習：60分）
 第8回 "Viaje al español 2" 17課（予習・復習：60分）
 第9回 "Viaje al español 2" 17課（予習・復習：60分）
 第10回 "Viaje al español 2" 18課（予習・復習：60分）
 第11回 "Viaje al español 2" 18課（予習・復習：60分）
 第12回 "Viaje al español 2" 19課（予習・復習：60分）
 第13回 "Viaje al español 2" 19課（予習・復習：60分）
 第14回 "Viaje al español 2" 21課（予習・復習：60分）
 第15回 "Viaje al español 2" 21課（予習・復習：60分）

ビデオ教材"Viaje al español (スペイン語への旅)"を使用します。スペインを舞台とした物語で、非常によくできたビデオ教材です。内容もおもしろいです。2回の授業で1課進む予定です。開始する課は変更する可能性があります。

【授業の進め方】

- ①出席と復習を兼ねた小テスト
 - ②グループ内で小テストの答え合わせ
 - ③文法のポイントの説明
 - ④単語の発音と意味
 - ⑤読みの練習
 - ⑥グループ内でテキストの意味を検討する。
 - ⑦分からない箇所を全体で検討する。
- ★②⑤⑥はグループ単位で行う予定です。3～4人ぐらいで一つのグループを作り、グループ内で答え合わせ、読みの練習、テキストの意味の確認をしてもらいます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使いません。プリントを使用します。

【参考図書】

辞書は購入してください。最初の授業時にいくつか紹介します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 20% レポート・課題 70% 受講態度 10%

特記事項

1. 良好な出席状況、良好な授業態度が評価の前提です。
2. 基本的には予習・復習をしてきたかどうかで合否を決定します。
3. 授業開始時に行う確認テスト（授業内小試験）を成績評価の判断材料とします。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席が良好で、きちんと予習・復習をしていただければ問題のない授業内容です。

【履修上の心得】

比較的少人数の授業なので、和気あいあいとした雰囲気の中で充実した授業になります。例年、経営・法学・教育学部の学生、市民の方、留学生、後期には小学校の先生、などいろいろな方が参加します。

週一回と語学の授業としては大変少ない回数しかないので、予習と復習が非常に重要になります。予習をせずに授業に臨んで日本語の訳だけ分かって、それはもはやスペイン語の勉強とは言えません。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目はスペイン語Ⅰ。スペイン語Ⅰが未修でも、自分で不足分を補いながらスペイン語ⅡAを受講することは可能です。ただし、かなりの覚悟が要ります。

科目名	スペイン語ⅡB
教員名	高橋 節子

【授業の内容】

スペイン語の基礎

スペイン語ⅡAを入門編の応用とすると、スペイン語ⅡBは基礎編になります。具体的には、現在完了や過去形を学び、語彙数を増やします。スペイン語ⅡAを終了した方はできるだけスペイン語ⅡBも受講して、スペイン語の基礎を学んでほしいと思います。また、語学を4年間通して勉強すれば、就職活動においても大きなアピールポイントになります。

【到達目標】

- ①多少長い文でもすらすら読めるようになること
- ②スペイン語文法の基礎を修得すること
- ③単語の量を増やすこと

【授業計画】

- 第1回 前期の復習 "Viaje al español 2" 22課 (予習・復習：60分)
- 第2回 "Viaje al español 2" 22課 (予習・復習：60分)
- 第3回 "Viaje al español 2" 24課 (予習・復習：60分)
- 第4回 "Viaje al español 2" 24課 (予習・復習：60分)
- 第5回 "Viaje al español 2" 26課 (予習・復習：60分)
- 第6回 "Viaje al español 2" 26課 (予習・復習：60分)
- 第7回 "Viaje al español 2" 27課 (予習・復習：60分)
- 第8回 "Viaje al español 2" 27課 (予習・復習：60分)
- 第9回 "Viaje al español 2" 29課 (予習・復習：60分)
- 第10回 "Viaje al español 2" 29課 (予習・復習：60分)
- 第11回 "Viaje al español 2" 30課 (予習・復習：60分)
- 第12回 "Viaje al español 2" 31課 (予習・復習：60分)
- 第13回 "Viaje al español 2" レポート課題 (予習・復習：60分)
- 第14回 "Viaje al español 3" 31課 (予習・復習：60分)
- 第15回 "Viaje al español 3" レポート課題 (予習・復習：60分)

前期に続いて、ビデオ教材"Viaje al español(スペイン語への旅)"を使用します。スペインを舞台とした物語で、非常によくできたビデオ教材です。内容もおもしろいです。基本的には、2回の授業で1課進む予定ですが、受講生の理解度を確認しながら進めたいと思います。

【授業の進め方】

- ①出席と復習を兼ねた小テスト
 - ②グループ内で小テストの答え合わせ
 - ③文法のポイントの説明
 - ④単語の発音と意味
 - ⑤読みの練習
 - ⑥グループ内でテキストの意味を検討する。
 - ⑦分からない箇所を全体で検討する。
- ★②⑤⑥はグループ単位で行います。3～4人ぐらいで一つのグループを作り、グループ内で答え合わせ、読みの練習、テキストの意味の確認をしてもらいます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使いません。プリントを使用します。欠席した場合は、研究室にプリントを取りにきて下さい。

【参考図書】

西和辞書。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 20% レポート・課題 70% 受講態度 10%

特記事項

1. 良好な出席状況、良好な授業態度が評価の前提です。
2. 基本的には予習・復習をしてきたかどうかで可否を決定します。
3. 授業開始時に行う小テスト、授業内テストを成績評価の判断材料とします。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席が良好で、きちんと予習・復習をしていただければ問題のない授業内容です。

【履修上の心得】

比較的少人数の授業なので、和気あいあいとした雰囲気の中で充実した授業になります。例年、経営・法学・教育学部の学生、市民の方、留学生、小学校の先生、などいろいろな方が参加します。

週一回と語学の授業としては大変少ない回数しかないので、予習・復習が非常に重要になります。予習をせずに授業に臨んで日本語の訳だけ分かって、それはもはやスペイン語の勉強とは言えません。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目はスペイン語Ⅰとスペイン語ⅡA。ただし、スペイン語ⅡAが未修でも、自分で不足分を補いながらスペイン語ⅡBを受講することは可能です。

科目名	中国語ⅡA
教員名	陳 順和

【授業の内容】

- 本講は1. 中国語ⅠAⅠBを勉強した学生を対象とする内容。
 2. 中国語の中級文法を理解する。会話力を高める。
 3. 中国の新聞・雑誌を独力で読解する能力を養う。

【到達目標】

1. 中国語の日常会話ができるようになる。
2. 中国旅行をしたときに楽しめる会話ができるようになる。
3. 中国の小学校四年生の語学力レベルを身につけることができるようになる。
4. 中国の文化・政治・社会・生活習慣・風俗等の生き方、考え方などの体得ができるようになる。
5. 中国語の新聞を読めることができるようになる。

【授業計画】

第1回	ス依米(スイミー)＜読解＞	请问您贵姓？＜会話＞	(予習30分、復習60分)
第2回	ス依米(スイミー)	你是谁？	(予習30分、復習60分)
第3回	ス依米(スイミー)	你是谁？	(予習30分、復習60分)
第4回	迪克和达克(チックとタック)	你每天怎么来学校？	(予習30分、復習60分)
第5回	迪克和达克(チックとタック)	你每天怎么来学校？	(予習30分、復習60分)
第6回	迪克和达克(チックとタック)	我累了。	(予習30分、復習60分)
第7回	刚搬家过来的美莎(引っ越して来た美沙)	我累了。	(予習30分、復習60分)
第8回	刚搬家过来的美莎(引っ越して来た美沙)	我做完了。	(予習30分、復習60分)
第9回	刚搬家过来的美莎(引っ越して来た美沙)	我做完了。	(予習30分、復習60分)
第10回	小白帽(白いぼうし)	你听得懂老师的话吗？	(予習30分、復習60分)
第11回	小白帽(白いぼうし)	你听得懂老师的话吗？	(予習30分、復習60分)
第12回	小白帽(白いぼうし)	我已学了半年中国语了。	(予習30分、復習60分)
第13回	太郎蟋蟀(太郎こおろぎ)	我已学了半年中国语了。	(予習30分、復習120分)
第14回	太郎蟋蟀(太郎こおろぎ)	<授業中テスト>	(予習30分、復習60分)
第15回	太郎蟋蟀(太郎こおろぎ)	我们学校校园很美。	(これまでの授業について復習120分)

本講は前期15回授業をする。テストは前期1回実施する。

【授業の進め方】

1. 日本の小学校教科書の児童文学教材を中国語に訳した文章を教材として使う。
2. 小さい頃から慣れてきた物語なので、理解しやすく、覚えやすいと思う。
3. 毎回の授業でその単語と文法の表現をよく練習し、読解力がだんだんと身につけるになる。
4. 中国語で物語を話す練習をする。
5. 毎週の授業で物語を読み取りの練習だけではなく、決まり文型で会話をよく練習する。特に一年生の時に練習した文型で実践的に会話の練習をする。
6. 中国語検定4級を合格することを一つの目標とする。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

1. 児童文学の教科書を購入する必要なし。
2. 会話の教科書は授業中に指示する。
3. 授業に応じてプリントを配る。

【参考図書】

できれば電子辞書を用意する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 100% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

授業中テスト100%。他に出席状況、受講態度、予習状況による加点、減点。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

予習、復習状況と授業態度を重視する。

【履修上の心得】

1. 宿題をきちんとやること。
2. 授業に出席すること。遅刻しないこと。
3. テレビ・ラジオ講座等も併せて利用することを勧める。

【科目のレベル、前提科目など】

特になし。

【備 考】

特になし。

科目名	中国語ⅡB
教員名	陳 順和

【授業の内容】

- 本講は1. 中国語ⅠAⅠBを勉強した学生を対象とする内容。
 2. 中国語の中級文法を理解する。会話力を高める。
 3. 中国の新聞・雑誌を独力で読解する能力を養う。

【到達目標】

1. 中国語の日常会話ができるようになる。
2. 中国旅行をしたときに楽しめる会話ができるようになる。
3. 中国の小学校四年生の語学力レベルを身につけることができるようになる。
4. 中国の文化・政治・社会・生活習慣・風俗等の生き方、考え方などの体得ができるようになる。
5. 中国語の新聞を読めることができるようになる。

【授業計画】

第1回	年糕树 (モチモチの木)	我想去中国留学。	(予習30分、復習60分)
第2回	年糕树 (モチモチの木)	快要上课了。	(予習30分、復習60分)
第3回	年糕树 (モチモチの木)	快要上课了。	(予習30分、復習60分)
第4回	渡吊桥 (つり橋わたれ)	我对中国医学很感兴趣。	(予習30分、復習60分)
第5回	渡吊桥 (つり橋わたれ)	我对中国医学很感兴趣。	(予習30分、復習60分)
第6回	渡吊桥 (つり橋わたれ)	你在学习什么外国语?	(予習30分、復習60分)
第7回	小狐狸阿坤 (ごんぎつね)	你在学习什么外国语?	(予習30分、復習60分)
第8回	小狐狸阿坤 (ごんぎつね)	你比我高。	(予習30分、復習60分)
第9回	小狐狸阿坤 (ごんぎつね)	你比我高。	(予習30分、復習60分)
第10回	大造爷爷与雁(大造じいさんとガン)	我的自行车被偷了。	(予習30分、復習60分)
第11回	大造爷爷与雁(大造じいさんとガン)	我的自行车被偷了。	(予習30分、復習60分)
第12回	大造爷爷与雁(大造じいさんとガン)	你坐几点的飞机?	(予習30分、復習60分)
第13回	捕鷹巢 (たかのす取り)	你坐几点的飞机?	(復習120分)
第14回	捕鷹巢 (たかのす取り)	<授業中テスト>	(予習30分、復習60分)
第15回	捕鷹巢 (たかのす取り)	我以为你今天来不及了呢。	
	(これまでの授業内容について復習)		120分)

本講は後期15回授業をする。テストは後期1回実施する。

【授業の進め方】

1. 日本の小学校教科書の児童文学教材を中国語に訳した文章を教材として使う。
2. 小さい頃から慣れてきた物語なので、理解しやすく、覚えやすいと思う。
3. 毎回の授業でその単語と文法の表現をよく練習し、読解力がだんだんと身につけるになる。
4. 中国語で物語を話す練習をする。
5. 毎週の授業で物語を読み取りの練習だけでなく、決まり文型で会話をよく練習する。特に一年生の時に練習した文型で実践的に会話の練習をする。
6. 中国語検定4級を合格することを一つの目標とする。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

1. 児童文学の教科書を購入する必要なし。
2. 会話の教科書は授業中に指示する。
3. 授業に応じてプリントを配る。

【参考図書】

できれば電子辞書を用意する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 100% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

授業中テスト100%。他に出席状況、受講態度、予習状況、中国語検定試験による加点、減点。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

予習状況と授業態度を重視する。

【履修上の心得】

1. 宿題をきちんとやること。
2. 授業に出席すること。遅刻しないこと。
3. テレビ・ラジオ講座等も併せて利用することを勧める。

【科目のレベル、前提科目など】

特になし。

【備 考】

特になし。

科目名	ドイツ語ⅢA
教員名	Clemens Amann

【授業の内容】

ドイツ語圏の国々（ドイツ、オーストリア、スイス）を紹介します。地域、都市、日常生活について短い読み物とインタビュー・ラジオ放送などの一部をもとにして簡単なドイツ語で三つの国に関する話を学びます。例えば、高校生の一日と職業訓練、ウィーンの大通りと音楽者、スイスのバーゼル市、ベルリンのカーニバル祭りなど。

学生はこの授業を通してその三つの国をのぞいたり、ドイツ語の基礎単語と文型を身につけることができます。

【到達目標】

ドイツ語 III は会話、一貫した人の説明、ビデオの解説、読み物を中心に話の内容を理解し、話について簡単なドイツ語で答えるように勉強します。聞き取り、読解練習、そして単語クイズを通してドイツ語圏の国々（ドイツ、オーストリア、スイス）に関するさまざまな話をドイツ語で学びます。

【授業計画】

- 第1回 読物：2通のメール、今日は何をしたの？過去のことを伝える、既にしたこと、これからすること、自分、相手、他社がしたことを区別する。
- 第2回 第1回に同じ
- 第3回 第1回に同じ
- 第4回 ビデオ：私のビデオ日記
- 第5回 お誕生日はいつですか？四季、月の名、日付：カレンダーを読む
- 第6回 読物：ドイツ語圏のフェスティバルとイベント
- 第7回 第6回に同じ
- 第8回 聞き取り：ドイツのどこに行ったことがありますか？
- 第9回 何をした？どこに行った？メールを書く。
- 第10回 読物：Anjaさんの旅ブログ。
- 第11回 第10回に同じ
- 第12回 ドイツのフライブルク市の今と昔、都市計画者とのインタビュー、都市の建物、都市について話す、自分の住んでいる都市を描く。
- 第13回 第12回に同じ
- 第14回 第12回に同じ
- 第15回 私の窓から見える町：ドイツ語圏の都市

【教科書(必ず購入すべきもの)】

プリント配布

辞書については授業中説明する

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

課題の提出：毎回の宿題。

週に一回だけの授業なので、毎回の宿題が復習のために欠かせない。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

毎回の授業に関する宿題はできるかぎり次の授業提出してください。

【履修上の心得】

ノートを作成する、単語帳

【科目のレベル、前提科目など】

ドイツ語 I, II。ドイツ語 I, II を履修した学生を対象にする初級から中級へのレベル

科目名	ドイツ語ⅢB
教員名	Clemens Amann

【授業の内容】

ドイツ語圏の国々（ドイツ、オーストリア、スイス）を紹介します。地域、都市、日常生活について短い読み物とインタビュー・ラジオ放送などの一部をもとにして簡単なドイツ語で三つの国に関する話を学びます。例えば、高校生の一日と職業訓練、ウィーンの大通りと音楽者、スイスのバーゼル市、ベルリンのカーニバル祭りなど。

学生はこの授業を通してその三つの国をのぞいたり、ドイツ語の基礎単語と文型を身につけることができます。

【到達目標】

ドイツ語 III は会話、一貫した人の説明、ビデオの解説、読み物を中心に話の内容を理解し、話について簡単なドイツ語で答えるように勉強します。聞き取り、読解練習、そして単語クイズを通してドイツ語圏の国々（ドイツ、オーストリア、スイス）に関するさまざまな話をドイツ語で学びます。

【授業計画】

- 第1回 ドイツのミュンヘン市：読物、ポッドキャスト、ビデオ。ミュンヘン市に住んでいる人の生活について、気に入ることを言う。市街地図を読む、道の案内、公園への案内。
- 第2回 第1回に同じ
- 第3回 第1回に同じ
- 第4回 第1回に同じ
- 第5回 第1回に同じ
- 第6回 4の読物：ドイツ語圏の旅行案内パンフレット、レジャーの活動、Youtubeの旅行案内：ボーデン湖、農場で夏休みを過ごす、自然の環境、風景を画く。新聞の報告を読む。
- 第7回 第6回に同じ
- 第8回 第6回に同じ
- 第9回 第6回に同じ
- 第10回 ケルン市の大聖堂を訪れる：聞き取り：大聖堂の見物に興味があるの？、読み物：ケルン市からの手紙、はがき、メール、Youtube：5分以内でケルン市を案内する、建物、施設、人の外見を画く。
- 第11回 第10回に同じ
- 第12回 第10回に同じ
- 第13回 第10回に同じ
- 第14回 第10回に同じ
- 第15回 後期のまとめ

【教科書(必ず購入すべきもの)】

プリント配布

辞書については授業中説明する

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

課題の提出：毎回の宿題。

週に一回だけの授業なので、毎回の宿題が復習のために欠かせない。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

毎回の授業に関する宿題はできるかぎり次の授業提出してください。

【履修上の心得】

ノートを作成する、単語帳

【科目のレベル、前提科目など】

ドイツ語 I, II。ドイツ語 I, II を履修した学生を対象にする初級から中級へのレベル

科目名	フランス語ⅢA
教員名	Clemens Amann

【授業の内容】

フランス語Ⅲは二つに分けて、前期はフランス語Ⅱの続きで、短い基本文型から複合文へ、フランス語Ⅱで勉強した項目を拡げて、人・物を描写する、過去のことに対してころからする予定のこと、決心したこと、希望、意見などを述べることを勉強します。

後期はフランスのシャンソン（歌）を紹介して、伝統的な曲から今流行っている曲までフランスの代表的の作品を説明します：曲を聞き取り（穴埋め）で聞かせて、語彙と単語、文型を説明して、そして曲の社会的な、文化的な背景に触れます。人気のある曲を通して、フランス語を学んで、フランス人のいろいろな人生観を知ることが出来ます。

【到達目標】

フランス語Ⅲは会話、一貫した話（インタビュー、ラジオ放送）、曲あるいはビデオのエピソードを元にして内容を理解し、簡単なフランス語で答えるように勉強します。聞き取り、読解練習、そして単語クイズを通してフランスに関するさまざまな話をフランス語で学びます。

【授業計画】

- 第1回 人を紹介する：学生証明書を読む、大学の授業・大学生の生活について質問して、答える
- 第2回 ブログ：趣味、活動についてのブログを読んで、自分のブログを書く。
- 第3回 パリ、ベルヴィル市区に住んでいる人たちの話：人の出身を描く。
- 第4回 第3回に同じ
- 第5回 ラジオ放送：ファッションに関するアンケート：フランス人と服。
- 第6回 第5回に同じ
- 第7回 ラジオ番組：一つの計画に一分の放送：聴取者の計画を紹介するラジオ番組、希望、願いを言う
- 第8回 第7回に同じ
- 第9回 読物・インタビュー：自転車の貸し出し制度を評価する、都市の交通機関を比べて、意見をいう。
- 第10回 第9回に同じ
- 第11回 読物・会話：モンペリエー市：都市の長所と理想を述べる
- 第12回 読み物・インタビュー：大晦日のときの決心、予定と仮説を立てる
- 第13回 第12回に同じ
- 第14回 読物：フランスの漫画家、イラストレーターの登場人物 Le petit Nicolas
- 第15回 インタビュー：学校の思いで：そのときどうでした？過去のことについて話す

【授業の進め方】

- 本文のプレゼンテーション：CD、ビデオ、文章、いずれかを通して紹介する
- 発音、単語と文型、日本語とフランス語の比較
- 内容、新しい単語を理解したかどうかを確認する：おおよその理解から詳しい理解へ
- 本文中に出てきた単語と文型に関する練習問題：理解から使用へ
- その日学習したテーマについて簡単なフランス語で話す、短い文を書く

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①Le nouveau taxi II ③Hachette

プリント配布

辞書については授業中説明する

【参考図書】

Le nouveau taxi II

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%
特記事項
課題の提出：毎回の宿題

【「成績評価の方法」に関する注意点】

授業中の努力、毎回の宿題の提出をもとにして評価します。

【履修上の心得】

ノートを作成する、単語帳

【科目のレベル、前提科目など】

フランス語 I, II。フランス語 I, II を履修した学生を対象にする初級から中級へのレベル。

科目名	フランス語ⅢB
教員名	Clemens Amann

【授業の内容】

フランス語Ⅲは二つに分けて、前期はフランス語Ⅱの続きで、短い基本文型から複合文へ、フランス語Ⅱで勉強した項目を拡げて、人・物を描写する、過去のことに對してころからする予定のこと、決心したこと、希望、意見などを述べることを勉強します。

後期はフランスのシャンソン（歌）を紹介して、伝統的な曲から今流行っている曲までフランスの代表的の作品を説明します：曲を聞き取り（穴埋め）で聞かせて、語彙と単語、文型を説明して、そして曲の社会的な、文化的な背景に触れます。人気のある曲を通して、フランス語を学んで、フランス人のいろいろな人生観を知ることが出来ます。

【到達目標】

フランス語Ⅲは会話、一貫した話（インタビュー、ラジオ放送）、曲あるいはビデオのエピソードを元にして内容を理解し、簡単なフランス語で答えるように勉強します。聞き取り、読解練習、そして単語クイズを通してフランスに関するさまざまな話をフランス語で学びます。

【授業計画】

- 第1回 「パリの空の下」 Sous le ciel de Paris：伝統的な曲。二人の歌手たち、一人は昔の、もう一人は今のバージョンを歌います。
- 第2回 「聞かせてよ、愛のことを」 Parlez-moi d'amour: シャンソンの伝統作品、歌手：Lucienne Boyer
- 第3回 「ダンスホールが終わった後に」 Depuis que les bals sont fermés: シャンソンとダンスの話、シャンソンとアコーディオン
- 第4回 「雨傘」 Le parapluie: シャンソンと詩Ⅰ、Georges Brassens、フランスの偉大な作詞家・作曲家。
- 第5回 「オーベルニュ人に捧げる歌」 Chanson pour l'auvergnat: シャンソンと詩Ⅱ、Georges Brassens、フランスの偉大な作詞家・作曲家。
- 第6回 「夜のパリ」「公園」 Paris at night, Le jardin: シャンソンと詩Ⅲ、Jacques Prévertの詩をシャンソンで歌う歌手：Lio
- 第7回 「五台の楽器のバラード」 Ballade pour cinq instruments: 感動を覚えるシャンソンを歌うGeorges Moustaki
- 第8回 「メトロの船」 Les bateaux du métro: パリの思いがけない風景、歌手、詩人：Yves Simon
- 第9回 「田舎へ行こうよ」 Allons z' à la campagne: イギリス出身の Kent 歌手はフランス語のシャンソンでフランスでよく知られている。
- 第10回 「雪の中に足跡」 Mes pas dans la neige: 複雑な人生と孤独を歌う歌手：Karen Ann
- 第11回 「私に約束したが。。。」 Tu m'as promis: 約束を守らなかったことについての歌。歌手：In-grid
- 第12回 「痩せる」 Maigrir: どうやっておりこうで痩せられるかな？歌手：San Severino
- 第13回 「怠け者」 Paresseuse: 思い切って活動するのはなかなかできない。歌手：Benabar
- 第14回 「私に言う」 Elle me dit: 言いつけの多い母親。歌手：Mika
- 第15回 後期のまとめ

【授業の進め方】

- 本文のプレゼンテーション：CD、ビデオ、文章、いずれかを通して紹介する
- 発音、単語と文型、日本語とフランス語の比較
- 内容、新しい単語を理解したかどうかを確認する：おおよその理解から詳しい理解へ
- 本文中に出てきた単語と文型に関する練習問題：理解から使用へ
- その日学習したテーマについて簡単なフランス語で話す、短い文を書く

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①Le nouveau taxi II ③Hachette

プリント配布

辞書については授業中説明する

【参考図書】

Le nouveau taxi II

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項
課題の提出：毎回の宿題

【「成績評価の方法」に関する注意点】

授業中の努力、毎回の宿題の提出をもとにして評価します。

【履修上の心得】

ノートを作成する、単語帳

【科目のレベル、前提科目など】

フランス語 I, II。フランス語 I, II を履修した学生を対象にする初級から中級へのレベル。

科目名	スペイン語ⅢA
教員名	高橋 節子

【授業の内容】

スペイン語Ⅱで、現在完了、点過去、線過去、接続法を学び、スペイン語の基礎が次第に固まってきました。スペイン語Ⅲからは次第に応用編になってきます。物語もどんどん面白くなってきます。

【到達目標】

- ①スペイン語の時制を学び、慣れること。
- ②語彙を増やすこと

【授業計画】

- 第1回 前期の復習 "Viaje al español 2" 32課 (予習・復習：60分)
 第2回 "Viaje al español 2" 32課 (予習・復習：60分)
 第3回 "Viaje al español 2" 33課 (予習・復習：60分)
 第4回 "Viaje al español 2" 34課 (予習・復習：60分)
 第5回 "Viaje al español 2" 34課 (予習・復習：60分)
 第6回 "Viaje al español 2" 35課 (予習・復習：60分)
 第7回 "Viaje al español 2" 35課 (予習・復習：60分)
 第8回 "Viaje al español 2" 36課 (予習・復習：60分)
 第9回 "Viaje al español 2" 36課 (予習・復習：60分)
 第10回 "Viaje al español 2" 37課 (予習・復習：60分)
 第11回 "Viaje al español 2" 37課 (予習・復習：60分)
 第12回 "Viaje al español 2" 38課 (予習・復習：60分)
 第13回 "Viaje al español 2" 38課 (予習・復習：60分)
 第14回 "Viaje al español 3" 39課 (予習・復習：60分)
 第15回 "Viaje al español 3" 39課 (予習・復習：60分)

前期に続いて、ビデオ教材"Viaje al español(スペイン語への旅)"を使用します。スペインを舞台とした物語で、非常によくできたビデオ教材です。内容もおもしろいです。基本的には、1回の授業で2課進む予定ですが、受講生の理解度を確認しながら進めたいと思います。

【授業の進め方】

- ①出席と復習を兼ねた小テスト
 - ②グループ内で小テストの答え合わせ
 - ③文法のポイントの説明
 - ④単語の発音と意味
 - ⑤読みの練習
 - ⑥グループ内でテキストの意味を検討する。
 - ⑦分からない箇所を全体で検討する。
- ★②⑤⑥はグループ単位で行います。3～4人ぐらいで一つのグループを作り、グループ内で答え合わせ、読みの練習、テキストの意味の確認をしてもらいます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使いません。プリントを使用します。欠席した場合は、研究室にプリントを取りにきて下さい。

【参考図書】

西和辞書。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 20% レポート・課題 70% 受講態度 10%

特記事項

1. 良好な出席状況、良好な授業態度が評価の前提です。
2. 基本的には予習・復習をしてきたかどうかで可否を決定します。
3. 授業開始時に行う小テスト、授業内テストを成績評価の判断材料とします。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席が良好で、きちんと予習・復習をしてくれば問題のない授業内容です。

【履修上の心得】

比較的少人数の授業なので、和気あいあいとした雰囲気の中で充実した授業になります。例年、経営・法学・教育学部の学生、市民の方、小中学校の先生、などいろいろな方が参加します。

週一回と語学の授業としては大変少ない回数しかないので、予習・復習が非常に重要になります。予習をせずに授業に臨んで日本語の訳だけ分かって、それはもはやスペイン語の勉強とは言えません。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目はスペイン語Ⅰ、スペイン語Ⅱ。スペイン語Ⅱが未修でも自分で不足分を補いながらスペイン語Ⅲを受講することは可能です。ただし、かなりの覚悟がいきます。スペイン語Ⅰが未修の場合は、スペイン語Ⅲの受講は避けた方が賢明です。

科目名	スペイン語ⅢB
教員名	高橋 節子

【授業の内容】

いよいよ『スペイン語への旅』も最終巻に入ってきました。ここからは完全に応用編になります。物語も佳境に入ります。

【到達目標】

- ①スペイン語の時制を学び、慣れること。
- ②語彙や表現を増やすこと

【授業計画】

- 第1回 前期の復習 "Viaje al español 2" 40課 (予習・復習：60分)
 第2回 "Viaje al español 2" 40課 (予習・復習：60分)
 第3回 "Viaje al español 2" 41課 (予習・復習：60分)
 第4回 "Viaje al español 2" 41課 (予習・復習：60分)
 第5回 "Viaje al español 2" 42課 (予習・復習：60分)
 第6回 "Viaje al español 2" 42課 (予習・復習：60分)
 第7回 "Viaje al español 2" 43課 (予習・復習：60分)
 第8回 "Viaje al español 2" 43課 (予習・復習：60分)
 第9回 "Viaje al español 2" 44課 (予習・復習：60分)
 第10回 "Viaje al español 2" 44課 (予習・復習：60分)
 第11回 "Viaje al español 2" 45課 (予習・復習：60分)
 第12回 "Viaje al español 2" 45課 (予習・復習：60分)
 第13回 "Viaje al español 2" 46課 (予習・復習：60分)
 第14回 "Viaje al español 3" 46課 (予習・復習：60分)
 第15回 "Viaje al español 3" 47課 (予習・復習：60分)

基本的には、2回の授業で1課進む予定ですが、受講生の理解度を確認しながら進めたいと思います。

【授業の進め方】

- ①出席と復習を兼ねた小テスト
 - ②グループ内で小テストの答え合わせ
 - ③文法のポイントの説明
 - ④単語の発音と意味
 - ⑤読みの練習
 - ⑥グループ内でテキストの意味を検討する。
 - ⑦分からない箇所を全体で検討する。
- ★②⑤⑥はグループ単位で行います。3～4人ぐらいで一つのグループを作り、グループ内で答え合わせ、読みの練習、テキストの意味の確認をしてもらいます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使いません。プリントを使用します。欠席した場合は、研究室にプリントを取りにきて下さい。

【参考図書】

西和辞書。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 20% レポート・課題 70% 受講態度 10%

特記事項

1. 良好な出席状況、良好な授業態度が評価の前提です。
2. 基本的には予習・復習をしてきたかどうかで可否を決定します。
3. 授業開始時に行う小テスト、授業内テストを成績評価の判断材料とします。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席が良好で、きちんと予習・復習をしてくれば問題のない授業内容です。

【履修上の心得】

比較的少人数の授業なので、和気あいあいとした雰囲気の中で充実した授業になります。例年、経営・法学・教育学部の学生、市民の方、小中学校の先生、などいろいろな方が参加します。

週一回と語学の授業としては大変少ない回数しかないので、予習・復習が非常に重要になります。予習をせずに授業に臨んで日本語の訳だけ分かって、それはもはやスペイン語の勉強とは言えません。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目はスペイン語Ⅰ、スペイン語Ⅱ。スペイン語Ⅱが未修でも自分で不足分を補いながらスペイン語Ⅲを受講することは可能です。ただし、かなりの覚悟がいらいます。スペイン語Ⅰが未修の場合は、スペイン語Ⅲの受講は避けた方が賢明です。

科目名	中国語ⅢA
	知っておきたい中国事情
教員名	范力

【授業の内容】

本講は、①中国語の中、上級文法を理解する、②中国の新聞・書籍を独力で読解する能力を高める、③会話力を高める、以上3項目を達成することを主要内容とする。

【到達目標】

学生は学習に専念して下さい。努力すれば、しただけ報われる。只管努力すれば①中国語の文法構造がわかる、②中国語文が正しく理解できる、③会話力を高める。

本講は、中国語文を読むことが面白くなること、会話力を高めることを到達目標とする。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション

第2回 大学生的周末

大学生の週末

第3回 大学生的周末

大学生の週末

第4回 飲食習慣

飲食慣習

第5回 飲食習慣

飲食慣習

第6回 北京的交通

北京の交通

第7回 北京的交通

北京の交通

第8回 对数字的喜好

数字に対する愛着？

第9回 对数字的喜好

数字に対する愛着？

第10回 大学生的打工现状

大学のアルバイトの現状？

第11回 大学生的打工现状

大学のアルバイトの現状？

第12回 集体生活的好处

集団生活のメリット

第13回 集体生活的好处

集団生活のメリット

第14回 复习

復習

第15回 考试

試験

本講は前期15回授業をする。テストは前期1回実施する。

【授業の進め方】

(1) 「読」「説」「聴」「看」「写」

(2) 宿題を出す。次の授業にそれを添削

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①知っておきたい中国事情(改訂版) ②吉田泰謙他 ③白水社 ④2017年

【参考図書】

「日中辞典」「中日辞典」

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 50% レポート・課題 30% 受講態度 20%

特記事項

試験、受講態度、予習状況。

試験：50%
受講態度：20%
予習状況：30%

以上を総合して、60%以上を合格とする。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

テストも受講態度も重要視。

【履修上の心得】

予習を忘れなく！

【科目のレベル、前提科目など】

科目のレベルは中級

前提科目は初級

【備 考】

教科書の購入が必須条件。

科目名	中国語ⅢB
教員名	范力

【授業の内容】

本講は、①中国語の中、上級文法を理解する、②中国の新聞・書籍を独力で読解する能力を高める、③会話力を高める、以上3項目を達成することを主要内容とする。

【到達目標】

学生は学習に専念して下さい。努力すれば、しただけ報われる。只管努力すれば①中国語の文法構造がわかる、②中国語文が正しく理解できる、③会話力を高める。

本講は、中国語文を読むことが面白くなること、会話力を高めることを到達目標とする。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 讨价还价
値段を掛け合う（駆け引きをする）
- 第3回 讨价还价
値段を掛け合う（駆け引きをする）
- 第4回 送礼的讲究
プレゼントについて？
- 第5回 送礼的讲究
プレゼントについて？
- 第6回 中国式结婚
中国式結婚
- 第7回 中国式结婚
中国式結婚
- 第8回 双职工家庭
共働き世帯
- 第9回 双职工家庭
共働き世帯
- 第10回 中国人的称呼
中国人の称呼
- 第11回 中国人的称呼
中国人の称呼
- 第12回 理想职业
理想的職業？
- 第13回 理想职业
理想的職業？
- 第14回 复习
復習
- 第15回 考试
テスト

本講は後期15回授業をする。テストは後期1回実施する。

【授業の進め方】

- (1) 「読」「説」「聴」「看」「写」
- (2) 宿題を出す。次の授業にそれを添削

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①知っておきたい中国事情（改訂版） ②吉田泰謙他 ③白水社 ④2017年

【参考図書】

「日中辞典」「中日辞典」

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 50% レポート・課題 30% 受講態度 20%
特記事項
試験、受講態度、予習状況。

試験：50%
受講態度：20%
予習状況：30%

以上を総合して、60%以上を合格とする。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

テストも条項態度も重視。

【履修上の心得】

予習をしっかり

【科目のレベル、前提科目など】

科目のレベルは中級

前提科目は初級

【備 考】

必ずテキストを購入してください

科目名	韓国語ⅡA
	韓国語初中級
教員名	盧 玫周

【授業の内容】

韓国語ⅠA、ⅠBに引き続き、初級レベルの文法を復習しながら、新しい文法と表現を習得していきます。学んだ学習項目が確実に身につけられるように文法項目と関連表現の繰り返し練習を多くし、読む・書く・話す・聞く総合的な能力が身につくように進めます。

【到達目標】

初級で学習した語彙と文法を定着させるとともに、中級文型を覚え、練習問題で理解の定着を図る。これらを活用してより自然な韓国語で簡単な日常会話ができることを目的とする。ハングル検定5級及び韓国語能力試験1級を目指す。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス、韓国語Ⅰの復習
- 第2回 第1課「何年度入学ですか」：数字、用言の丁寧形
- 第3回 第1課「何年度入学ですか」：本文、会話練習
- 第4回 第2課「韓国語を一所懸命勉強するつもりです」：用言の未来形、羅列、確認
- 第5回 第2課「韓国語を一所懸命勉強するつもりです」：本文、会話練習
- 第6回 第3課「あの靴、ちょっと見せてください」：逆接、形容詞の連体形、授受表現
- 第7回 第3課「あの靴、ちょっと見せてください」：本文、会話練習
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 第4課「よく行く韓国料理のお店があれば紹介してください」：条件・仮定、動詞の現在連体形、否定
- 第10回 第4課「よく行く韓国料理のお店があれば紹介してください」：本文、会話練習
- 第11回 第5課「一緒に撮った写真を添付しました」：動詞の過去連体形、変則用言①
- 第12回 第5課「一緒に撮った写真を添付しました」：本文、会話練習
- 第13回 第6課「発表の時間に遅れてすみません」：尊敬、理由、動詞の未来連体形、可能・不可能
- 第14回 第6課「発表の時間に遅れてすみません」：本文、会話練習
- 第15回 前期のまとめテスト

【授業の進め方】

課ごとに①文法説明②文型練習問題③語彙④本文⑤ペアワーク練習⑥まとめの流れで進めていきます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①『改訂版・韓国語の世界へ 初中級編-コソコソ学び、カジュアルに話そう』 ②李潤玉、酒勾康裕、須賀井義教、睦宗均、山田恭子 ③朝日出版社 ④2016年改訂初版 ⑤2200円+税 ⑥ISBN=9784255556444

【参考図書】

『ポケットプログレッシブ 韓日・日韓辞典』油谷幸利他(編)、小学館
 または、韓国語辞書が入っている電子辞書

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 40% レポート・課題 30% 受講態度 30%

特記事項

授業内小試験：記述試験
 課題：各課の練習問題を課題として提出
 受講態度：授業への参加度で評価します。

【履修上の心得】

授業に積極的に参加しましょう。
 授業中はなるべく韓国語でたくさん発話しましょう。

【科目のレベル、前提科目など】

韓国語の授業を1年間履修しているか、同等の韓国語の学習歴を有する人を対象にします。

科目名	韓国語ⅡB
	韓国語初中級
教員名	盧 玫周

【授業の内容】

韓国語ⅡAに引き続き、初級の文法を復習しながら、新しい文法と表現を習得していきます。学んだ学習項目が確実に身につけられるように文法項目と関連表現の繰り返し練習を多くし、読む・書く・話す・聞く総合的な能力が身につくように進めます。

【到達目標】

初級で学習した語彙と文法を定着させるとともに、中級文型を覚え、練習問題で理解の定着を図る。これらを活用してより自然な韓国語で簡単な日常会話ができることを目的とする。ハングル検定4級及び韓国語能力試験2級を目指す。

【授業計画】

- 第1回 前期の復習
- 第2回 第7課「暑い夏にサムゲタンを食べます」：経験、動作の継続、変則用言②
- 第3回 第7課「暑い夏にサムゲタンを食べます」：本文、会話練習
- 第4回 第8課「重くないので一人でしますよ」：結果の継続、理由、約束
- 第5回 第8課「重くないので一人でしますよ」：本文、会話練習
- 第6回 第9課「パソコンちょっと借りてもいいですか」：背景説明、許可、変則用言③
- 第7回 第9課「パソコンちょっと借りてもいいですか」：本文、会話練習
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 第10課「リムジンバスのほうが良いでしょうね」：推測、理由、義務
- 第10回 第10課「リムジンバスのほうが良いでしょうね」：本文、会話練習
- 第11回 第11課「陶磁器も作ってみましたか」：意向、試し、可能・不可能
- 第12回 第11課「陶磁器も作ってみましたか」：本文、会話練習
- 第13回 第12課「韓国の会社に就職しようと思っています」：推測、意図、禁止
- 第14回 第12課「韓国の会社に就職しようと思っています」：本文、会話練習
- 第15回 後期のまとめテスト

【授業の進め方】

課ごとに①文法説明②文型練習問題③語彙④本文⑤ペアワーク練習⑥まとめの流れで進めていきます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①『改訂版・韓国語の世界へ 初中級編-コツコツ学び、カジュアルに話そう』 ②李潤玉、酒勾康裕、須賀井義教、睦宗均、山田恭子 ③朝日出版社 ④2016年改訂初版 ⑤2200円+税 ⑥ISBN=9784255556444

【参考図書】

『ポケットプログレッシブ 韓日・日韓辞典』油谷幸利他（編）、小学館
または、韓国語辞書が入っている電子辞書

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 40% レポート・課題 30% 受講態度 30%

特記事項

授業内小試験：記述試験
課題：各課の練習問題を課題として提出
受講態度：授業への参加度で評価します。

【履修上の心得】

授業に積極的に参加しましょう。
授業中はなるべく韓国語でたくさん発話しましょう。

【科目のレベル、前提科目など】

韓国語ⅡAを履修しているか、同等の韓国語の学習歴を有する人を対象にします。

科目名	韓国語ⅢA
	韓国語中上級会話
教員名	盧 玫周

【授業の内容】

中・上級韓国語の文法、語彙の定着を図り、より豊かな会話ができるようにしていきます。また、中級の文型も随時確認しながら、さらなる語彙、文型、表現とともに会話力を養います。(授業内容は、履修人数や学生のニーズに応じて、変更することがあります。)

【到達目標】

自然なコミュニケーション能力を身につけることを目標とする。
 中級後半から中上級レベルの慣用表現・文型などを習得し、自分の意見を正確に伝えることができる。
 さらに、目と耳と口を用いて使いこなせるよう、繰り返し練習し、より実践的な会話力を身につける。
 ハングル検定3級及び韓国語能力試験3級を目指す。

【授業計画】

第1回	ガイダンス	
第2回	第1課 場面：インタビューする	表現：尊敬、条件、意図
第3回	第1課 本文、会話練習	
第4回	第2課 場面：自己紹介	表現：状況説明、時間の経過、動作の順序
第5回	第2課 本文、会話練習	
第6回	第3課 場面：きまりを言う	表現：義務、命令、許可、禁止
第7回	第3課 本文、会話練習	
第8回	中間まとめ	
第9回	第4課 場面：約束をする	表現：用言の連体形、理由、決心
第10回	第4課 本文、会話練習	
第11回	第5課 場面：道案内をする	表現：交通手段、動作の順序・連結
第12回	第5課 本文、会話練習	
第13回	第6課 場面：感想を言う	表現：用言の連体形、経験、状況説明
第14回	第6課 本文、会話練習	
第15回	前期のまとめテスト	

【授業の進め方】

課ごとに①文法説明②文型練習問題③語彙④本文⑤ペアワーク練習⑥まとめの流れで進めていきます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①『ちょこっと チャレンジ! 韓国語改訂版』 ②金順玉、阪堂千津子、崔栄美 ③白水社 ④2017年 ⑤2400円+税
 ⑥ISBN=9784560017920

【参考図書】

『ポケットプログレッシブ 韓日・日韓辞典』油谷幸利他(編)、小学館
 または、韓国語辞書が入っている電子辞書

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 40% レポート・課題 30% 受講態度 30%

特記事項
 授業内小試験：記述試験
 課題：各課の練習問題を課題として提出
 受講態度：授業への参加度で評価します。

【科目のレベル、前提科目など】

- ①「韓国語Ⅱ」科目履修生
 ②①に準ずる学習条件を備えている人。

科目名	韓国語ⅢB
	韓国語中上級会話
教員名	盧 玫周

【授業の内容】

韓国語ⅢAに引き続き、中上級韓国語の文法、語彙の定着を図り、より豊かな会話ができるようにしていきます。また、中級の文型も随時確認しながら、さらなる語彙、文型、表現とともに会話力を養います。

【到達目標】

自然なコミュニケーション能力を身につけることを目標とする。
中級後半から中上級レベルの慣用表現・文型などを習得し、自分の意見を正確に伝えることができる。
さらに、目と耳と口を用いて使いこなせるよう、繰り返し練習し、より実践的な会話力を身につける。
ハングル検定3級及び韓国語能力試験3級を目指す。

【授業計画】

第1回	前期の復習	
第2回	第7課 場面：買い物をする	表現：依頼、勧誘、アドバイス
第3回	第7課 本文、会話練習	
第4回	第8課 場面：プレゼントする	表現：根拠、感嘆、推測
第5回	第8課 本文、会話練習	
第6回	第9課 場面：体の具合を言う	表現：尊敬、不可能、時間表現
第7回	第9課 本文、会話練習	
第8回	中間まとめ	
第9回	第10課 場面：勉強の仕方を話す	表現：傾向、同時動作、事柄
第10回	第10課 本文、会話練習	
第11回	第11課 場面：伝聞	表現：間接話法
第12回	第11課 本文、会話練習	
第13回	第12課 場面：思い出を話す	表現：過去回想連体形、結果/発見、状態変化
第14回	第12課 本文、会話練習	
第15回	まとめテスト	

【授業の進め方】

課ごとに①文法説明②文型練習問題③語彙④本文⑤ペアワーク練習⑥まとめの流れで進めていきます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①『ちよこっと チャレンジ! 韓国語改訂版』 ②金順玉、阪堂千津子、崔栄美 ③白水社 ④2017年 ⑤2400円+税
⑥ISBN=9784560017920

【参考図書】

『ポケットプログレッシブ 韓日・日韓辞典』油谷幸利他(編)、小学館
または、韓国語辞書が入っている電子辞書

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 40% レポート・課題 30% 受講態度 30%

特記事項
授業内小試験：記述試験
課題：各課の練習問題を課題として提出
受講態度：授業への参加度で評価します。

【科目のレベル、前提科目など】

- ①「韓国語Ⅱ」科目履修生
②①に準ずる学習条件を備えている人。

科目名	日本語 I A
	初・中級総合日本語
教員名	田口 桂子

【授業の内容】

この授業は、日本語能力N3レベルの留学生を対象とした総合日本語クラスです。いくつかのトピックをもとに、それについて、話したり書いたりするためにどんな文法や語彙が必要かを考えます。「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能を通して、学習者自らが必要な文法や語彙を自分で選び出しアレンジするというプロセスを経験していきます。

更に、授業の初めに漢字クイズを行い、漢字と語彙の定着も目指します。

【到達目標】

本授業では、基本的な文型や語彙などの初級で学習したものをうまく運用できるようになることを目的としています。学習のポイントを自分で見つけ出し、理解できたと思ったら、それが本当かどうかを確認するために実際にやってみるという活動の中で、日本語の運用力を高めていきます。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション／1課「紹介する」－Step 1 「同窓会の写真」①
 第2回 漢字クイズ／1課「紹介する」－Step 2 「あそこ、そのころ」①
 第3回 1課「紹介する」－Step 3 「あなたはどんな性格？」①
 次回までの課題：「あなたはどんな性格？」作文を書く（120分）
 第4回 漢字クイズ／「あなたはどんな性格？」作文⇒発表
 第5回 2課「旅行する」－Step 1 「ベトナムに行こう！」①
 第6回 漢字クイズ／2課「旅行する」－Step 2 「ベトナムに行く前に」①
 第7回 2課「旅行する」－Step 3 「日本の観光地：長崎」①
 第8回 漢字クイズ／N3文法練習
 第9回 3課「異文化に触れる」－Step 1 「フィリピンでの留学生活」①
 第10回 漢字クイズ／3課「異文化に触れる」－Step 2 「フィリピン人の国民性」①
 次回までの課題：「フィリピン人の国民性」作文を書く（120分）
 第11回 「フィリピン人の国民性」作文⇒発表
 第12回 漢字クイズ／3課「異文化に触れる」－Step 3 「帰国前の大失敗」①
 第13回 4課「未来」－Step 1 「それぞれの夢」①
 第14回 漢字クイズ／N3文法練習
 第15回 4課「未来」－Step 2 「30年後の世界」①

【授業の進め方】

- 1.漢字クイズ（7回）
- 2.Listening（聴解）
- 3.Consciousness Raising（意識化）
- 4.Pair Work（ペアワーク）

上記の流れで次時限の日本語II Aクラスと連動した授業を行います。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①J.Bridge ジェイ・ブリッジ ③凡人社 ⑤2800円＋税
 ①日本語総まとめN3 漢字 ③アスク出版 ⑤1200円＋税

【参考図書】

特にありません。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 30% レポート・課題 60% 受講態度 10%

特記事項

6回以上欠席の場合は単位が取れません。

遅刻3回で1回の欠席になります。

授業開始時間に30分以上遅れたり、授業終了時間から30分以上早く帰った場合も「欠席」になります。

漢字クイズは、10：50～11：00の間に行います。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

授業への積極的な参加を平常点とします。

【履修上の心得】

積極的に授業に参加してください。
辞書以外の携帯の使用は認めません。

【科目のレベル、前提科目など】

本授業と連動して構成されている日本語ⅡAクラスとの同時履修を望みます。
同時履修により、日本語がしっかりと定着します。
また後期開講の日本語ⅠBについても引き続きの履修が望ましいです。

科目名	日本語 I B
	初・中級総合日本語
教員名	田口 桂子

【授業の内容】

この授業は、日本語能力N3レベルの留学生を対象とした総合日本語クラスです。いくつかのトピックをもとに、それについて話したり書いたりするためにどんな文法や語彙が必要かを考えます。「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能を通して、学習者自らが必要な文法や語彙を自分で選びアレンジするというプロセスを経験していきます。更に、授業の初めに漢字クイズを行い、漢字と語彙の定着も目指します。

本授業は、前期開講の「日本語 I A」クラスと同じ流れに基いて構成されています。

【到達目標】

本授業では、基本的な文型や語彙などの初級で学習したものをうまく運用できるようになることを目的としています。学習のポイントを自分で見つけ出し、理解できたと思ったら、それが本当かどうかを確認するために実際にやってみるという活動の中で、日本語の運用力を高めていきます。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション／5課「ミステリー」－Step1「殺人事件現場」①
 第2回 漢字クイズ／5課「ミステリー」－Step2「目撃者の証言」①
 第3回 5課「ミステリー」－Step3「3億円事件」①
 次回までの課題：「3億円事件」作文を書く（120分）
 第4回 漢字クイズ／「3億円事件」作文⇒発表
 第5回 6課「ベストパートナー」－Step1「理想の結婚」①
 第6回 漢字クイズ／6課「ベストパートナー」－Step2「ひとこと言ってあげる」①
 第7回 N3文法練習
 第8回 漢字クイズ／6課「ベストパートナー」－Step3「国際結婚」①
 第9回 7課「食と健康」－Step1「スターの健康法」①
 第10回 漢字クイズ／7課「食と健康」－Step2「アロマセラピー」①
 次回までの課題：「アロマセラピー」作文を書く（120分）
 第11回 「アロマセラピー」作文⇒発表
 第12回 漢字クイズ／7課「食と健康」－Step3「あなたは知れますか？」①
 第13回 8課「教育」－Step1「日本の大学」①
 第14回 漢字クイズ／N3文法練習
 第15回 8課「教育」－Step2「親の立場、子の立場」①

【授業の進め方】

- 1.漢字クイズ（7回）
- 2.Listening（聴解）
- 3.Consciousness Raising（意識化）
- 4.Pair Work（ペアワーク）

上記の流れで次時限の日本語 II Bクラスと連動した授業を行います。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①J.Bridge ジェイ・ブリッジ ③凡人社 ⑤2800円＋税
 ①日本語総まとめN3 漢字 ③アスク出版 ⑤1200円＋税

【参考図書】

特にありません。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 30% レポート・課題 60% 受講態度 10%

特記事項

6回以上欠席の場合は単位が取れません。

3回の遅刻で1回の欠席となります。

授業開始時間に30分以上遅れたり、授業終了時間より30分以上早く帰った場合も「欠席」になります。

漢字クイズは、10:50～11:00の間に行います。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

授業への積極的な参加を平常点とします。

【履修上の心得】

積極的に授業に参加してください。
辞書以外の携帯の使用は認めません。

【科目のレベル、前提科目など】

本授業と連動して構成されている日本語ⅡBクラスとの同時履修を望みます。
同時履修により、日本語がしっかりと定着します。
また前期開講の日本語ⅠAからの引き続きの履修が望ましいです。

科目名	日本語ⅡA
	初・中級総合日本語
教員名	田口 桂子

【授業の内容】

この授業は、日本語能力N3レベルの留学生を対象とした総合日本語クラスです。いくつかのトピックをもとに、それについて話したり書いたりするためにどんな文法や語彙が必要かを考えます。「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能を通して、学習者自らが必要な文法や語彙を自分で選び出しアレンジするというプロセスを経験していきます。更に、授業の初めに漢字クイズを行い、漢字と語彙の定着も目指します。

【到達目標】

本授業では、基本的な文型や語彙などの初級で学習したものをうまく運用できるようになることを目的としています。学習のポイントを自分で見つけ出し、理解できたと思ったら、それが本当かどうかを確認するために実際にやってみるという活動の中で、日本語の運用力を高めていきます。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション／1課「紹介する」－Step1「同窓会の写真」②
 第2回 1課「紹介する」－Step2「あそこ、そこ」②
 第3回 漢字クイズ／1課「紹介する」－Step3「あなたはどんな性格？」②
 第4回 N3文法練習
 第5回 漢字クイズ／2課「旅行する」－Step1「ベトナムに行こう！」②
 第6回 2課「旅行する」－Step2「ベトナムに行く前に」②
 第7回 漢字クイズ／2課「旅行する」－Step3「日本語観光地：長崎」②
 次回までの課題：「日本の観光地：長崎」作文を書く（120分）
 第8回 「日本の観光地：長崎」作文⇒発表
 第9回 漢字クイズ／3課「異文化に触れる」－Step1「フィリピンでの留学生活」②
 第10回 3課「異文化に触れる」－Step2「フィリピン人の国民性」②
 第11回 漢字クイズ／N3文法練習
 第12回 3課「異文化に触れる」－Step3「帰国前の大失敗」②
 第13回 漢字クイズ／4課「未来」－Step1「それぞれの夢」②
 次回までの課題：「それぞれの夢」作文を書く（120分）
 第14回 「それぞれの夢」作文⇒発表
 第15回 漢字クイズ／4課「未来」－Step2「30年後の世界」②

【授業の進め方】

- 1.漢字クイズ（7回）
- 2.Focus on Language（文法）
- 3.Vocabulary Building（語彙）
- 4.Composition（作文）

上記の流れで前時限の日本語ⅠAクラスと連動した授業を行います。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①J.Bridge ジェイ・ブリッジ ③凡人社 ⑤2800円＋税
 ①日本語総まとめN3漢字 ③アスク出版 ⑤1200円＋税

【参考図書】

特にありません。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 30% レポート・課題 60% 受講態度 10%

特記事項

6回以上欠席の場合は単位が取れません。

3回の遅刻で1回の欠席となります。

授業開始時間に30分以上遅れたり、授業終了時間より30分以上早く帰った場合も「欠席」になります。

漢字クイズは、13：00から13：10の間に行います。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

授業への積極的な参加を平常点とします。

【履修上の心得】

積極的に授業に参加してください。
辞書以外の携帯の使用は認めません。

【科目のレベル、前提科目など】

本授業と連動して構成されている日本語ⅠAクラスとの同時履修を望みます。
同時履修により、日本語がしっかりと定着します。
また後期開講の日本語ⅡBについても引き続きの履修が望ましいです。

科目名	日本語ⅡB
	初・中級総合日本語
教員名	田口 桂子

【授業の内容】

この授業は、日本語能力N3レベルの留学生を対象とした総合日本語クラスです。いくつかのトピックをもとに、それについて話したり書いたりするためにどんな文法や語彙が必要かを考えます。「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能を通して、学習者自らが必要な文法や語彙を自分で選び出しアレンジするというプロセスを経験していきます。更に、授業の初めに漢字クイズを行い、漢字と語彙の定着も目指します。本授業は、前期開講の「日本語ⅡA」クラスと同じ流れに基いて構成されています。

【到達目標】

本授業では、基本的な文型や語彙などの初級で学習したものをうまく運用できるようになることを目的としています。学習のポイントを自分で見つけ出し、理解できたと思ったら、それが本当かどうかを確認するために実際にやってみるという活動の中で、日本語の運用力を高めていきます。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション／5課「ミステリー」－Step1「殺人事件現場」②
 第2回 5課「ミステリー」－Step2「目撃者の証言」②
 第3回 漢字クイズ／5課「ミステリー」－Step3「3億円事件」②
 第4回 N3文法練習
 第5回 漢字クイズ／6課「ベストパートナー」－Step1「理想の結婚」②
 第6回 6課「ベストパートナー」－Step2「ひとこと言ってあげる」②
 次回までの課題：「ひとこと言ってあげる」作文を書く（120分）
 第7回 漢字クイズ／「ひとこと言ってあげる」作文⇒発表
 第8回 6課「ベストパートナー」－Step3「国際結婚」②
 第9回 漢字クイズ／7課「食と健康」－Step1「スターの健康法」②
 第10回 7課「食と健康」－Step2「アロマセラピー」②
 第11回 漢字クイズ／N3文法練習
 第12回 7課「食と健康」－Step3「あなたは知らせますか？」②
 第13回 漢字クイズ／8課「教育」－Step1「日本の大学」②
 次回までの課題：「日本の大学」作文を書く（120分）
 第14回 「日本の大学」作文⇒発表
 第15回 漢字クイズ／8課「教育」－Step2「親の立場、子の立場」②

【授業の進め方】

- 1.漢字クイズ（7回）
- 2.Focus Language（文法）
- 3.Vocabulary Building（語彙）
- 4.Composition（作文）

上記の流れで前時限の日本語ⅠBクラスと連動した授業を行います。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①J.Bridge ジェイ・ブリッジ ③凡人社 ⑤2400円＋税
 ①日本語総まとめN3 漢字 ③アスク出版 ⑤1200円＋税

【参考図書】

特にありません。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 30% レポート・課題 60% 受講態度 10%

特記事項

- 6回以上欠席の場合は単位が取れません。
 3回の遅刻で1回の欠席となります。
 授業開始時間に30分以上遅れたり、授業終了時間から30分以上早く帰った場合も「欠席」になります。
 漢字クイズは、13：00から13：10の間に行います。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

授業への積極的な参加を平常点とします。

【履修上の心得】

積極的に授業に参加してください。
辞書以外の携帯の使用は認めません。

【科目のレベル、前提科目など】

本授業と連動して構成されている日本語 I Bクラスとの同時履修を望みます。
同時履修により、日本語がしっかりと定着します。
また前期開講の日本語 II Aクラスからの引き続きの履修を望みます。

科目名	日本語ⅢA
	中・上級総合日本語
教員名	田口 桂子

【授業の内容】

日本語能力中上級レベルの留学生を対象とした総合日本語クラスです。「読み教材」を中心に中上級レベルで必要とされる重要表現や文法・語彙を学んでいきます。

【到達目標】

中級レベルの学習者の日本語能力を上級に引き上げることを目標とし、パターン化した日常の言語活動から外れた場面での複雑なコミュニケーション力の育成を目指します。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション／ユニット1「自己紹介と本当の自分」：重要表現①

第2回 ユニット1「自己紹介と本当の自分」：重要表現②

次回までに言葉の意味を各自調べ覚えてくる（30分）。

第3回 ユニット1「自己紹介と本当の自分」：本文

次回までに文法・語彙練習を各自書いてくる（120分）。

第4回 ユニット1「自己紹介と本当の自分」：文法・語彙練習

これまでの授業内容について復習（120分）。

第5回 ユニット1 まとめテスト

第6回 ユニット3「ジェンダーを考える」：重要表現①

第7回 ユニット3「ジェンダーを考える」：重要表現②

次回までに言葉の意味を各自調べ覚えてくる（30分）。

第8回 ユニット3「ジェンダーを考える」：本文

次回までに文法・語彙練習を各自書いてくる（120分）。

第9回 ユニット3「ジェンダーを考える」：文法・語彙練習

これまでの授業内容について復習（120分）。

第10回 ユニット3 まとめテスト

第11回 ユニット4「ことばと文化」：重要表現①

第12回 ユニット4「ことばと文化」：重要表現②

次回までに言葉の意味を各自調べ覚えてくる（30分）。

第13回 ユニット4「ことばと文化」：本文

次回までに文法・語彙練習を各自書いてくる（120分）。

第14回 ユニット4「ことばと文化」：文法・語彙練習

これまでの授業内容について復習（120分）。

第15回 ユニット4 まとめテスト

【授業の進め方】

ユニットごとに

①重要表現

②本文「読んでみよう」

③文法・語彙練習

④まとめテスト

の流れで進めていきます。

「文法・語彙練習」は宿題とし、授業内で答え合わせをします。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

『新中級から上級への日本語』The Japan Times

初回授業で指示します。

【参考図書】

授業の中で紹介します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 75% レポート・課題 15% 受講態度 10%

特記事項

授業内小試験（25%×3回）

課題（宿題）（5%×3回）

6回以上欠席した場合は、単位が取れません。

3回の遅刻で1回の欠席となります。

授業開始時間に30分以上遅れたり、授業終了時間より30分以上早く帰った場合も「欠席」となります。

【履修上の心得】

辞書以外の携帯の使用は認めません。

積極的に授業に参加しましょう。

【科目のレベル、前提科目など】

日本語能力試験N1～N2レベルの学生が対象です。

科目名	日本語ⅢB
	中・上級総合日本語
教員名	田口 桂子

【授業の内容】

日本語能力中上級レベルの留学生を対象とした総合日本語クラスです。「読み教材」を中心に中上級レベルで必要とされる重要表現や文法・語彙を学んでいきます。

【到達目標】

中級レベルの学習者の日本語能力を上級に引き上げることを目標とし、パターン化した日常の言語活動から外れた場面での複雑なコミュニケーション力の育成を目指します。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション／ユニット6「働くということ」：重要表現①

第2回 ユニット6「働くということ」：重要表現②

次回までに言葉の意味を各自調べ覚えてくる（30分）。

第3回 ユニット6「働くということ」：本文

次回までに文法・語彙練習を各自書いてくる（120分）。

第4回 ユニット6「働くということ」：文法・語彙練習

これまでの授業内容について復習（120分）。

第5回 ユニット6 まとめテスト

第6回 ユニット8「環境のためにできること」：重要表現①

第7回 ユニット8「環境のためにできること」：重要表現②

次回までに言葉の意味を各自調べ覚えてくる（30分）。

第8回 ユニット8「環境のためにできること」：本文

次回までに文法・語彙練習を各自書いてくる（120分）。

第9回 ユニット8「環境のためにできること」：文法・語彙練習

これまでの授業内容について復習（120分）。

第10回 ユニット8 まとめテスト

第11回 ユニット10「笑いのちから」：重要表現①

第12回 ユニット10「笑いのちから」：重要表現②

次回までに言葉の意味を各自調べ覚えてくる（30分）。

第13回 ユニット10「笑いのちから」：本文

次回までに文法・語彙練習を各自書いてくる（120分）。

第14回 ユニット10「笑いのちから」：文法・語彙練習

これまでの授業内容について復習（120分）。

第15回 ユニット10 まとめテスト

【授業の進め方】

ユニットごとに

①重要表現

②本文「読んでみよう」

③文法・語彙練習

④まとめテスト

の流れで進めていきます。

「文法・語彙練習」は宿題として課し、授業内で答え合わせをします。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

『新中級から上級への日本語』The Japan Times

初回授業で指示します。

【参考図書】

授業の中で紹介します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 75% レポート・課題 15% 受講態度 10%

特記事項

授業内小試験（25%×3回）

課題（宿題）（5%×3回）

6回以上欠席した場合は、単位が取れません。

遅刻3回で、1回の欠席となります。

授業開始時間に30分以上遅れたり、授業終了時間より30分以上早く帰った場合も「欠席」になります。

【履修上の心得】

辞書以外の携帯の使用は認めません。

積極的に授業に参加しましょう。

【科目のレベル、前提科目など】

日本語能力試験N1～N2レベルの学生が対象です。

科目名	歴史学A
	日本のデモクラシーを考える
教員名	正田 浩由

【授業の内容】

世界各地では、現在も民主主義を勝ち取るための闘争が繰り返されている。その一方で、民主主義国では、民主主義の精神を否定するような政治家たちが登場し、民主主義に死をもたらそうともしている。実際に彼らの言葉は人々の心をつかみつつある。

このような困難な時代にあって、我々は民主主義を守るため、どのように考え、どう行動すべきなのだろうか。それを知るために、民主主義がどのようなものなのかを理解しなければならない。

そこで、日本近代史に現われた民主主義論を通して、民主主義について考察していく。過去の日本において、民主主義を勝ち取るために血の滲む努力を払い、命を賭してまで闘ってきた多くの日本人が存在したのであり、我々は彼らの言動を通じて民主主義の大切さを理解し得るであろうし、日本人自身のデモクラシーについても知るようになる。

また、その民主主義論から日本の近現代史についても考察する。

【到達目標】

民主主義がどのようなものなのかを過去の日本のデモクラシー論を読むことによって理解し、物事を主体的に考え、さらには日本の近現代史についての理解を深める。

【授業計画】

第1回 政治史とはどのような学問か

予習：歴史を学ぶ意味について考えてくること（1時間）

復習：講義の内容を通して、自身の考えを発展させること（2時間）

第2回 民主主義とは何か

予習：民主主義について考えてくること（1時間）

復習：講義の内容を通して、自身の考えを発展させること（2時間）

第3回 与謝野晶子「婦人も参政権を要求す」

予習：教科書の該当箇所を読んでくること（1時間）

復習：講義の内容を踏まえ、該当人物について調べること（2時間）

第4回 福沢諭吉「丁丑公論」

予習：教科書の該当箇所を読んでくること（1時間）

復習：講義の内容を踏まえ、該当人物について調べること（2時間）

第5回 植木枝盛「日本国憲案」

予習：教科書の該当箇所を読んでくること（1時間）

復習：講義の内容を踏まえ、該当人物について調べること（2時間）

第6回 原田正純「水俣学と環境倫理」

予習：教科書の該当箇所を読んでくること（1時間）

復習：講義の内容を踏まえ、該当人物について調べること（2時間）

第7回 吉野作造「二重政府より二重日本へ」

予習：教科書の該当箇所を読んでくること（1時間）

復習：講義の内容を踏まえ、該当人物について調べること（2時間）

第8回 伊丹万作「戦争責任者の問題」

予習：教科書の該当箇所を読んでくること（1時間）

復習：講義の内容を踏まえ、該当人物について調べること（2時間）

第9回 美濃部達吉「山本代議士の横死を悼む」

予習：教科書の該当箇所を読んでくること（1時間）

復習：講義の内容を踏まえ、該当人物について調べること（2時間）

第10回 石川三四郎「満洲事変」「田中正造翁の予言」

予習：教科書の該当箇所を読んでくること（1時間）

復習：講義の内容を踏まえ、該当人物について調べること（2時間）

第11回 丸山眞男「憲法第九条をめぐる若干の考察」

予習：教科書の該当箇所を読んでくること（1時間）

復習：講義の内容を踏まえ、該当人物について調べること（2時間）

第12回 大山郁夫「行政協定と祖国防衛」

予習：教科書の該当箇所を読んでくること（1時間）

復習：講義の内容を踏まえ、該当人物について調べること（2時間）

第13回 大宅壮一「吉田が死んで戦後は終わった」

隅谷三喜男「沖縄の苦難の歩み」

予習：教科書の該当箇所を読んでくること（1時間）

復習：講義の内容を踏まえ、該当人物について調べること（2時間）

第14回 柳田国男「青年と学問」

予習：教科書の該当箇所を読んでくること（1時間）
復習：講義の内容を踏まえ、該当人物について調べること（2時間）
第15回 石母田正「堅氷をわるもの」
和田春樹「国境を越える祈り」
池明観「終戦の日に思う」
予習：教科書の該当箇所を読んでくること（1時間）
復習：講義の内容を踏まえ、該当人物について調べること（2時間）

授業計画はあくまでも予定であり、受講生の理解度によっては内容を変更することもある。

【授業の進め方】

教科書に基づく講義形式授業である。参考資料やレジュメなどは随時配布する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①原典で読む日本デモクラシー論集 ②堀真清 ③岩波書店 ④2013年 ⑤2100円 ⑥978-4-00-029106-4

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

当該科目のすべての授業回数の3分の2以上に出席していない場合は評価の対象外とする。

【履修上の心得】

受講生の熱意が高ければ高いほど講義内容は充実していく。
なので、受講生は積極的に講義に臨んでほしい。

科目名	歴史学A
	イギリスの歴史
教員名	清水 正義

【授業の内容】

イギリスの歴史を講義する。講義の中で時の権力者の名前がしばしば出てくる。歴史は少数の、ましてや一人の人物によって決定されるものではないが、しかし歴史上の重要人物、とくに国王や大法官、首相のような政治の中心にいた人物の果たした役割は小さいものではないし、また、それらの人物の思想や行動が時代のイメージを形成するのに役だっている。また社会発展の歴史をその時代に生きた人間を軸に考察することは歴史理解の早道でもある。そういう観点からこの講義でも国王、将軍、政治家、思想家、芸術家など時代を象徴する人物をなるべく紹介していきたい。イギリスは長い間、議会制民主主義、産業資本主義のお手本の国と考えられてきた。事実、イギリスにおいては中世以来の王権と貴族との抗争の中で議会の独自の地位が確保されてきた。その場合、議会の権限とは何よりも王権の制限という文脈で理解され、このことは良くも悪しくもイギリス議会制度の特徴となって現在にいたっている。イギリスはまた近代世界において大英帝国として結実する最大の植民地帝国を作り上げ、また世界に先駆けて産業革命を成し遂げることで、近代世界の経済をリードする立場にあった。こうしたイギリスの地位は現代までイギリス国民の歴史意識に大きな影響を持つとともに、多様な人種民族構成を有する今日のイギリス国民のあり方をも規定している。翻ってわが国においてイギリスは政治、経済の先進国であったのみならず、文化、芸術の分野でもさまざまな影響を与えている。言語としての英語の重要性は言うまでもないが、それと同時にイギリスの歴史的経験や英文学を通じて私たちはヨーロッパ近代を理解してきた。イギリスはまた戦後世界において社会福祉国家の実験的取組を行う一方、経済の分野では長い間「イギリス病」と揶揄される非効率社会が蔓延した。そうしたものが80年代以降の政策努力の中で次第に克服されてきたところが、近年のBREXIT（EU離脱）によってまったく新しい課題に直面している。講義ではこうしたイギリス政治、経済のダイナミズムを取り上げて、日本とちょうど対極にある島国イギリスの歴史が私たちに投げかけている問題を考えてみたい。

【到達目標】

- イギリス史のアウトラインについての適切な理解を得ること。
- イギリス史上の重要人物について歴史の中で理解し、その人となりを知ること。
- イギリス史への日本人の関心を確認し、日本にとってイギリスの意味を考えること。
- 大英帝国の形成と崩壊の歴史を見ながら世界史の流れを読み取ること。

【授業計画】

- 第1回 二つの島と四つの国 サッカーW杯にイギリスから4つの代表が出場枠を争うことで知られるようにイギリスは4つの国から成る。それらの関係史を探ることはイギリスの歴史そのものである。歴史用語ならびに重要人物についての予備調査（30分）。
- 第2回 アングロ・サクソンの時代 ローマ帝国がイギリスを去った後にゲルマン民族の一派であるアングロ・サクソン族がイギリスに上陸し、国を形成するが、他方で北欧からデーン人（ヴァイキング）が幾度も侵入する。歴史用語ならびに重要人物についての予備調査（30分）。
- 第3回 ノルマン侵攻とイギリス封建制 北フランスのノルマンディー公とその軍勢が侵攻し、アングロ・サクソンの王朝は崩壊する。今日の英国王室に連なる新しい王朝が形成され、封建制が移入されるが、大陸との関係はまだ不確実である。歴史用語ならびに重要人物についての予備調査（30分）。
- 第4回 中世イングランド議会制度の発展 プランタジネット朝の諸王はイングランドの司法と行政を刷新し、今日までつながる制度の基礎を作るが、他方、貴族勢力との確執の中でイングランド国制の基盤が形成される。歴史用語ならびに重要人物についての予備調査（30分）。
- 第5回 百年戦争、バラ戦争とチューダー朝の成立 百年戦争の敗北により大陸から撤退したイングランドは国内貴族層を二分する対立に陥る。その軍事的解消の中から新しい絶対王政、チューダー朝が起る。歴史用語ならびに重要人物についての予備調査（30分）。
- 第6回 テューダー絶対王政と宗教改革 テューダー朝の諸王は軍事力を集中し、国制を整備するとともに、宗教改革によりローマ・カトリックの介入を排除し、国内政治体制を固めたが、新旧両教徒の対抗は解消しなかった。歴史用語ならびに重要人物についての予備調査（30分）。
- 第7回 スチュアート朝の成立と議会 国教会とカトリックとの対立はスチュアート朝期にますます深まり、他方、国王専制に対する貴族、ジェントリ層の抵抗も大きく、やがて国制を揺るがす大革命にいたる。歴史用語ならびに重要人物についての予備調査（30分）。
- 第8回 清教徒革命と名誉革命 王権と貴族・ジェントリ、カトリックとプロテスタント、北部と南部の地域偏差などが絡み合っってイギリス市民革命は展開するが、百年にわたる抗争の帰結は王権に対する議会を中心とした土地勢力の勝利であった。歴史用語ならびに重要人物についての予備調査（30分）。
- 第9回 ハノーヴァー朝の政治と社会 立憲君主体制は前世紀の革命における権力の正当性原理をめぐる対立へのひとつの答えだった。ハノーヴァー朝諸王は抑制的な対応によりイギリス国制に適合的な王政を実現した。歴史用語ならびに重要人物についての予備調査（30分）。
- 第10回 産業革命 イギリスで産業革命が成功した理由は技術的なものだけでなく、中世後半以降の社会的基盤整備や近世の海外植民地の拡大などがあった。これを通じてイギリスの経済は拡大し、やがて大英帝国を準備する。歴史用語ならびに重要人物についての予備調査（30分）。

- 第11回 19世紀のイギリス これまでの地主中心の政治に産業資本家層が参加し、自由貿易を合言葉に政治制度の
変革を迫るが土地支配体制は変わりなく、ジェントルマン資本主義が確立した。歴史用語ならびに重要人物に
ついての予備調査（30分）。
- 第12回 大英帝国の歴史 17世紀以降イギリスの海外発展は本格化し、最初はカリブ海の砂糖製造から始まり、や
がてインドの原綿生産へと移行する。帝国の拡大とともにイギリス人の海外活動も活性化した。歴史用語なら
びに重要人物についての予備調査（30分）。
- 第13回 帝国主義と第一次世界大戦 大陸の国際対立がついに戦争に発展する。イギリスは大陸の対立に巻き込ま
れるのを避けた反面、そこから離れてもいられない。ドイツのベルギー中立侵犯を理由についに参戦する。
歴史用語ならびに重要人物についての予備調査（30分）。
- 第14回 第二次世界大戦 戦間期の大陸の紛糾から離れていたイギリスは1930年代のファシズムの嵐に否が応で
も巻き込まれていき、もはや戦う以外にないという選択を明確にしたチャーチルにお鉢が回る。歴史用語なら
びに重要人物についての予備調査（30分）。
- 第15回 大英帝国の終焉と戦後のイギリス ふたつの世界戦争によって大英帝国は完全に威勢を失い、本国を中心
とする新しいイギリス連邦の模索が始まり、やがてヨーロッパ共同の事業に参加するが、唐突にそこから離脱
しようとする。歴史用語ならびに重要人物についての予備調査（30分）。

【授業の進め方】

通常の講義スタイルをとる。イギリス史の概略を鳥瞰するとともに、その中で問題にされている課題が何であるかを
考えていきたい。イギリス史に登場する人物を紹介し、彼らの生涯について考える機会を与える。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使用しない。

【参考図書】

『概説イギリス史』（有斐閣）

『イギリス史』（山川出版社）

その他の参考文献は授業中に指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 30% 受講態度 0%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

講義への欠席が目立つ場合は失格とする。

【履修上の心得】

歴史学とは暗記のことだと考えている人が多いと思う。確かにそれは違う。しかし歴史的感觉を持つためには、一定
の歴史的知識を頭の中に入れておかないでは話にならない。暗記もまた必要だ。そこで外国の地名、人名、事件名など
非常に基本的なものはなるべく紹介して覚えてもらうようにしたい。受講生はひとたびは高校生に返ったつもりで、歴史
の勉強をしてもらうことになる。

【科目のレベル、前提科目など】

この授業は教養の外国史であり、この程度は知っておいてもらいたいという内容のものである。高校で歴史が得意
で、いまさらという人は受講する必要性は薄いですが、歴史の物語を聞くのが好きという人には向いている。

【備 考】

本講義をさらに大きな視野から鳥瞰したものが専門科目の西洋政治史である。

科目名	歴史学B
	歴史を通して内外の政治を考える
教員名	正田 浩由

【授業の内容】

世界では様々なことが起きている。身近なもので言えば、日中・日韓関係の緊張や、沖縄の米軍基地問題(日米関係)。さらには中東情勢の悪化、過激派によるテロ事件、ヨーロッパの移民排斥や民主主義精神を蹂躪するかのようアメリカ大統領の誕生など。これらは何故起きているのか。そして、これらに対して我々はどうのように考え行動すべきなのか。今起こっていることを身近な問題として常に念頭に置きつつ、歴史を通して内外の政治について考察する。

【到達目標】

世界の中の日本という感覚を常に持つことができるようになり、内外の政治を自分自身の問題として主体的に考えられるようになる。さらには諸問題の起源を探ることで、それら全体を見通せるようになる。

【授業計画】

第1回 政治史を学ぶ意義

予習：何のための歴史学なのか考えてくること（2時間）

復習：講義内容を踏まえて、自身の考えを発展させること（1時間）

第2回 民主主義

予習：日本の民主主義について考えてくること（2時間）

復習：講義内容を踏まえて、自身の考えを発展させること（1時間）

第3回 バランス・オブ・パワー（国際連盟以前）

予習：バランス・オブ・パワーについて調べてくること（2時間）

復習：講義内容を踏まえて、自身の考えを発展させること（1時間）

第4回 集団安全保障体制（国際連盟・国際連合）

予習：集団安全保障体制について調べてくること（2時間）

復習：講義内容を踏まえて、自身の考えを発展させること（1時間）

第5回 資本主義と第二次世界大戦

予習：資本主義と第二次大戦について調べてくること（2時間）

復習：講義内容を踏まえて、自身の考えを発展させること（1時間）

第6回 日本の国際社会復帰

予習：日本の主権回復について調べてくること（2時間）

復習：講義内容を踏まえて、自身の考えを発展させること（1時間）

第7回 ヨーロッパ連合（EU）

予習：東アジア版EUがなぜ実現しないのかについて調べてくること（2時間）

復習：講義内容を踏まえて、自身の考えを発展させること（1時間）

第8回 政治の貧困が引き起こすもの

予習：政治不信がどのような事態を引き起こすのかについて、歴史から調べてくること（2時間）

復習：講義内容を踏まえて、自身の考えを発展させること（1時間）

第9回 天皇制

予習：日本国憲法の天皇に関する部分を読んでくること（2時間）

復習：講義内容を踏まえて、自身の考えを発展させること（1時間）

第10回 日韓関係①（日韓併合）

予習：日韓併合について調べてくること（2時間）

復習：講義内容を踏まえて、自身の考えを発展させること（1時間）

第11回 日韓関係②（韓国の民主化と日本）

予習：韓国の民主化闘争について調べ、最近の「アラブの春」についても考察すること（2時間）

復習：講義内容を踏まえて、自身の考えを発展させること（1時間）

第12回 沖縄の歴史

予習：沖縄の基地問題と日米関係について考えてくること（2時間）

復習：講義内容を踏まえて、自身の考えを発展させること（1時間）

第13回 「中心」と「周縁」

予習：多様性について、漠然とでも良いので考えてくること（2時間）

復習：講義内容を踏まえて、自身の考えを発展させること（1時間）

第14回 これからの日本

予習：これまでの講義を踏まえ、これからの日本外交がどうあるべきかについて考えてくること（2時間）

復習：講義内容を踏まえて、自身の考えを発展させること（1時間）

第15回 まとめ

予習：これまでの講義内容を見直してくること（2時間）

復習：講義内容を踏まえて、自身の考えを発展させること（1時間）

授業計画はあくまでも予定であり、受講生の理解度によっては内容を変更することもある。

【授業の進め方】

講義形式授業であるが、教科書は特に指定しない。毎回レジュメを配布する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①私用しない

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

当該科目のすべての授業回数の3分の2以上に出席していない場合は評価の対象外とする。

【履修上の心得】

受講生は問題意識を持って、積極的・主体的に講義に臨んでほしい。

科目名	歴史学B
	戦後国際政治史の展開
教員名	清水 正義

【授業の内容】

第二次世界大戦後の現代史を概観する。第二次世界大戦の終結の仕方そのまま戦後国際政治の枠組を決定した。ヤルタ、ポツダム体制は敗戦国ドイツ、日本の戦後史を規定したし、国際連合とブレトン・ウッズ体制は戦勝国による戦後国際体制の枠組を形成した。戦争中に明らかになった米ソ対立は戦後冷戦体制として40年間にわたり国際政治を規定し、核兵器を中心とする軍拡競争を準備した。一方、欧米列強の植民地支配が続いたアジア・アフリカ諸国は50年代から60年代にかけて相次いで政治的独立を果たしたが、その後の経済建設に苦しみ、独裁体制や軍事体制が続いた。ヴェトナム戦争は植民地民衆の抵抗運動の象徴となった。転機は70年代から80年代にかけて訪れる。石油戦略に象徴される「南」の国の反転攻勢に続き、東アジア、東南アジア、ラテンアメリカなどで中進国の台頭が見られ、先進国の側では深刻な経済的不振と、その解決策としての新自由主義的な動きが強まった。社会主義圏での経済停滞と官僚体制は人々の批判を生み、次々と体制が転覆された。東西対立の終焉は冷戦体制のなかで抑止されていた諸地域の矛盾を明るみに出した。旧ユーゴスラヴィア紛争、湾岸戦争はその典型である。21世紀に入り、9・11テロはイスラム原理主義勢力の絶望的な抵抗の姿を示し、テロ対反テロの世界的抗争は現在も続いている。講義ではこうした戦後国際政治の動向をいくつかの論点に絞って解説し、現代史を大づかみに把握する。

【到達目標】

- 現代史の大きな流れについて理解するとともに現代の諸問題について知見を深める。
- 諸地域の現代史を理解し、それぞれの地域の今後の展望について考えられるようにする。
- 現代史上の人物について関心を持ち、自分で調べてみることを。
- 現代歴史学の持っている課題について共感をもって確かめること。

【授業計画】

- 第1回 第二次世界大戦の終結と諸地域 ヤルタ・ポツダム体制と敗戦国の戦後処理について基本用語（授業中に指示、以下同）を調べてレポート用紙にまとめる（60分）
- 第2回 冷戦の開始 第二次世界大戦後の政策対立と封じ込め政策の展開について基本用語を調べてレポート用紙にまとめる（60分）
- 第3回 核兵器の歴史と核軍拡 核軍拡の実態と核抑止論の考え方について基本用語を調べてレポート用紙にまとめる（60分）
- 第4回 核軍縮 核実験停止、核拡散防止、核弾頭と搭載手段の削減について基本用語を調べてレポート用紙にまとめる（60分）
- 第5回 ベトナム戦争の衝撃 東南アジアの植民地と脱植民地化及びそれに対するアメリカの世界戦略について基本用語を調べてレポート用紙にまとめる（60分）
- 第6回 中国現代史の問題 文化大革命と改革開放 中国革命と社会主義建設の問題点について基本用語を調べてレポート用紙にまとめる（60分）
- 第7回 「イスラム」の台頭 イスラム教の基本的考え方とイラン革命以後のイスラム原理主義の展開について基本用語を調べてレポート用紙にまとめる（60分）
- 第8回 社会主義体制の動揺 ペレストロイカの展開と帰結について基本用語を調べてレポート用紙にまとめる（60分）
- 第9回 新しい保守主義の台頭 1980年代以降の新自由主義的政策展開について基本用語を調べてレポート用紙にまとめる（60分）
- 第10回 冷戦の終結とベルリンの壁崩壊 東ヨーロッパの動揺と東西ドイツ統一にいたる過程について基本用語を調べてレポート用紙にまとめる（60分）
- 第11回 地域紛争の噴出 湾岸戦争 冷戦以後の地域紛争の噴出について基本用語を調べてレポート用紙にまとめる（60分）
- 第12回 地域紛争の噴出 ユーゴスラヴィア紛争 東欧地域の民族問題の問題性と民族浄化の実相について基本用語を調べてレポート用紙にまとめる（60分）
- 第13回 9・11テロと国際政治 21世紀初頭の同時多発テロの背景、経過、影響について基本用語を調べてレポート用紙にまとめる（60分）
- 第14回 「反テロ」戦争 9・11テロ事件以後の有志連合による反テロ戦争の展開について基本用語を調べてレポート用紙にまとめる（60分）
- 第15回 国際関係と東アジア 冷戦以後の東アジア国際政治の変化と課題について基本用語を調べてレポート用紙にまとめる（60分）

【授業の進め方】

通常の講義の形態をとる。現代史のアウトラインを確認し、重要な史実を記憶し、その意味を考える。講義前の予習として重要用語を調べてレポート用紙にまとめ、毎回の授業の際に提出する。予習したことについては知識があるものとして、それを前提に講義を行う。授業後に授業内容を再確認する作業を行い、復習は毎回の授業の直後と定期試験の前に行うことを推奨する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

テキストは使用しないが、毎回、授業内容についてのハンドアウトを配布する。

【参考図書】

参考文献は授業中に指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 30% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

授業内の小テストと定期試験の成績とを加味して成績評価を行う。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

講義への欠席が目立つ場合は失格とする。

【履修上の心得】

高校世界史の出来がこの講義の理解に大いに関係するであろうが、この授業は世界史が得意でなかった人にとくに受講してもらいたい。世界史が得意で、よく知っているという人には向いていないし、履修する必要はない。高校の歴史と大学の歴史とで扱う対象に差があるわけではないし、歴史の学習は基本に忠実に、重要事実をこまめに理解することである。面白い話を聴きたいという人は期待はずれに終わる。地域を限定せずに問題ごとにまとめていく。全世界を対象にするので、いろいろな諸地域に対する関心を持ってもらいたい。

【科目のレベル、前提科目など】

この講義は現代史に特化して歴史の基本線を追うものである。歴史全般、世界史全般について扱うものではない。教養科目の日本史概論、外国史概論、専門科目の西洋政治史、日本政治史などの受講が望ましい。

科目名	日本史概論
	歴史を通して主体的に考える
教員名	正田 浩由

【授業の内容】

本講義は主に教員免許取得を目指す学生を対象としているので、日本史の基礎的な内容を幅広く扱う。しかし、単に知識を得るだけでなく、現代に生きる我々はそれをどのように使うのか、そもそも免許取得以外にどのような理由で日本史を学ぶのか、そのヒントを与え、学生諸君が主体的に日本史を学ぶ意義を考えられるようになることを目指す。

【到達目標】

日本史の基礎知識を修得し、その知識を使って主体的に考えられるようになる。

【授業計画】

第1回 ガイダンス・古代国家の成立

予習：テキストpp.3-16を読む（1時間）

復習：講義内容から発展させて、自身の関心に沿って対象の時代について調べる（2時間）

第2回 律令国家の形成と展開

予習：テキストpp.17-32を読む（1時間）

復習：講義内容から発展させて、自身の関心に沿って対象の時代について調べる（2時間）

第3回 摂関政治と地方社会

予習：テキストpp.33-46を読む（1時間）

復習：講義内容から発展させて、自身の関心に沿って対象の時代について調べる（2時間）

第4回 中世社会の成立と展開

予習：テキストpp.49-67を読む（1時間）

復習：講義内容から発展させて、自身の関心に沿って対象の時代について調べる（2時間）

第5回 内乱と一揆の時代

予習：テキストpp.68-89を読む（1時間）

復習：講義内容から発展させて、自身の関心に沿って対象の時代について調べる（2時間）

第6回 中世文化の展開

予習：テキストpp.90-112を読む（1時間）

復習：講義内容から発展させて、自身の関心に沿って対象の時代について調べる（2時間）

第7回 幕藩体制の確立

予習：テキストpp.115-137を読む（1時間）

復習：講義内容から発展させて、自身の関心に沿って対象の時代について調べる（2時間）

第8回 幕藩体制の動揺と解体

予習：テキストpp.138-161を読む（1時間）

復習：講義内容から発展させて、自身の関心に沿って対象の時代について調べる（2時間）

第9回 都市と民衆の文化

予習：テキストpp.162-185を読む（1時間）

復習：講義内容から発展させて、自身の関心に沿って対象の時代について調べる（2時間）

第10回 近代国家の成立

予習：テキストpp.189-212を読む（1時間）

復習：講義内容から発展させて、自身の関心に沿って対象の時代について調べる（2時間）

第11回 政党政治の発展と社会運動

予習：テキストpp.213-236を読む（1時間）

復習：講義内容から発展させて、自身の関心に沿って対象の時代について調べる（2時間）

第12回 アジア太平洋戦争

予習：テキストpp.237-260を読む（1時間）

復習：講義内容から発展させて、自身の関心に沿って対象の時代について調べる（2時間）

第13回 戦後改革

予習：テキストpp.263-278を読む（1時間）

復習：講義内容から発展させて、自身の関心に沿って対象の時代について調べる（2時間）

第14回 復興と高度経済成長

予習：テキストpp.279-296を読む（1時間）

復習：講義内容から発展させて、自身の関心に沿って対象の時代について調べる（2時間）

第15回 現代の世界と日本

予習：テキストpp.297-309を読む（1時間）

復習：講義内容から発展させて、自身の関心に沿って対象の時代について調べる（2時間）

計画はあくまでも予定であり、受講者の理解度によっては変更することもあり得る。

【授業の進め方】

基本的には教科書に基づく講義形式授業だが、学生の反応によりこちらから問題を提起し、それに答えてもらうことも考えている。

資料は随時配布する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①概論日本歴史 ②佐々木潤之介・佐藤信・中島三千男・藤田覚・外園豊基・渡辺隆喜 ③吉川弘文館 ④2000 ⑤1900 ⑥978-4-642-07710-1

【参考図書】

升味準之輔『日本政治史』1-4巻 東京大学出版会、1988年（近代以降）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

当該科目のすべての授業回数の3分の2以上に出席していない場合は評価の対象外とする。

【履修上の心得】

日本史を暗記科目と認識するのではなく、何のために学んでいるのかを考えながら受講してほしい。

さらには将来教員になって生徒に教える際、どのように彼らに関心を持たせるのかについても検討してほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

基礎科目

科目名	日本史概論
	日本史の基礎
教員名	三浦 顕一郎

【授業の内容】

過去のない現在はない。皆さんが、生まれてから現在までの時間を経て、今を生活しているように、過去を持たない国や民族はない。日本史概論は、日本のこれまでの歩みを概観するものである。

歴史とは何か。イギリスの歴史家E・H・カーは、「歴史とは、過去と現在の対話である」と述べている。歴史が過去と現在の対話であるとはどういうことか。たとえばイタリアの哲学者クローチェは「ルネッサンスの人々が掘り起こすまで、古代ギリシャ人やローマ人は墓の下で眠っていたに過ぎない」と述べている。キリスト教の影響が強かった中世の人々は、キリスト教以前の古代ギリシャやローマの人々の暮らしを知る必要がなく、また知ろうとしなかったため、古代ギリシャ人やローマ人を墓の下に眠らせていた。ルネッサンスの人々が、古代ギリシャ人やローマ人の暮らしを知ろうと思い、彼らを墓の下から掘り起こし、彼らに尋ね、彼らの営みを歴史にした。こうして過去は歴史になる。過去は無数に存在し、それは呼び起こされるまで眠っている。現代の問題関心が彼らを呼び起こして、過去を歴史にするのである。「歴史とは過去と現在の対話である」というのは、現在の問題関心が過去に呼びかけ、過去が応えることで、過去が歴史になるということである。

本講義では、日本はどうして現在の日本になったのか、現在の問題を考えるヒントは歴史の中に潜んでいないか、という問題関心を持って、授業に臨んでもらいたい。

【到達目標】

- ①日本の歴史を理解できるようになる。
- ②日本の歴史を説明できるようになる。
- ③日本の歴史について多様な見方・考え方を理解する。
- ④日本の歴史について自分の意見を言えるようになる。

【授業計画】

第1回 ガイダンス

第2回 日本のあけぼの

予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)

第3回 大和王権の成立

予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)

第4回 律令国家の形成

予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)

第5回 平城京と平安京

予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)

第6回 摂関政治と武士の台頭

予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)

第7回 鎌倉幕府の成立

予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)

第8回 第2～7回のふり返り

予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)

第9回 南北朝の動乱と室町幕府

予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)

第10回 戦国時代

予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)

第11回 織豊政権

予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)

第12回 江戸幕府の成立

予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)

第13回 幕政の安定と動揺

予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)

第14回 近代史概観

予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)

第15回 第9～14回のふり返り、全体のふり返り

予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)

【授業の進め方】

アクティブラーニングによって授業を進める。アメリカのNational Training Laboratoriesによる「学習ピラミッド」というものがある。広く知られているものなので、ご存知の方もいよう。それによると、講義によって得られた知識の定着率は平均5%に過ぎず、グループ討論で50%、体験を通じた学習だと75%だそうである。この数字の信憑性には疑問も呈されているが、広く人口に膾炙しているのは、実感として首肯しうるものがあるからであろう。私自身の学生時

代を振り返ってみても、講義で習ったことはほとんど記憶に残っておらず、いくつかの単語を断片的に覚えていることと、試験前に「なぜこんなものを覚えなければならないのか」という苦痛の記憶だけである。他方、ゼミで自ら調べたことは、今でも何も見なくても何時間でも話すことができる。私の個人史によってみても、自分で調べ、考え、討論したことは記憶に定着している。知識を習得するには、自分で調べる必要がある。

だが、知識の習得それ自体が学習の目的なのでない。習得した知識を使って考え、何かを発信するという、知識の応用がなければ、学習の意義は半減する。学習には、浅い学習と深い学習とがある。浅い学習とは、個別の用語や事実だけに着目して、とりあえず課題を仕上げようとする学習であり、深い学習とは意味を求めての学習である。浅い学習から深い学習につれて、学習目標は①知識→②理解→③応用→④分析→⑤統合→⑥評価へと変化する。講義で習得できるのはせいぜい②までであり、③応用以上に進むには自分で調べるだけでなく、考え、人に話し、人の話を聞いてまた考えることが必要である（上掲の本講義の到達目標は、①→④へと、浅い学習から深い学習の到達目標に移行に対応している）。

学習の目的は、知識の習得と応用にとどまるものでない。学習にはプロダクト（知識）とプロセス（方法）がある。プロセスの修得こそが学習の目標である。「テレビでマラソンを見ているだけではマラソンランナーになれないように、科学でも、教師がやっているのを見ているだけでなく、科学する（doing science）思考プロセスを経験しなければならない」（Eric Mazur）、「ある学問分野の概念を本当に理解するには、その分野の専門家が遂行する課題に学生も関与する必要がある」（Edgerton）。

プロセスの修得は、学問分野の概念を理解するためだけでない。それによって、将来の予測が困難な社会にあって、教師の助力なしに、生涯にわたって自ら新しい知識を習得し続けていく力を身に付けることができる。

以上のことから、本講義では、いわゆるアクティブラーニングによって授業を進めていく。ここにいうアクティブラーニングとは「学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学修法」のことであり、それによって「学修者の認知的・倫理的・社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る」ものである（中教審2012）。

具体的には、本講義では、①毎時の予習課題を行ったうえで授業に臨む（予習課題はWeb-Classに掲載）。②予習シートを提示し、指定の座席につく。③第2～8回はThink & Pair二人一組で、第9～15回はThink & Group小規模のグループで、予習してきた内容について話し合い、それを発表してもらって全員で討論する、④最後に大福帳（毎時受講生が授業に対する要望と感想を記したもので、教員がコメントを付して次回授業時に返却する）を提出して本時の出席とする、という流れで授業を進めていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用しない。

課題や資料をWebClassに掲載する。

【参考図書】

五味文彦・鳥海靖編『もういちど読む山川日本史』山川出版社、2009年、1620円。

三浦顕一郎『田中正造と足尾鉬毒問題：土から生まれたリベラル・デモクラシー』有志舎、2017年、2600円。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

レポート・課題とは、毎時の予習課題のことである。

受講態度とは、グループ討論やディスカッションにおける参加度のことである。

本学では、大学設置基準に基づき、90分の授業につき4時間の授業時間外学修が割り当てられている（履修要項p.7参照）。予習課題を行った上で、授業に臨むこと。本講義では予習シートの提示と大福帳の提出をもって出席とする。

【履修上の心得】

本授業はグループ討論やディスカッションを行う協同学習である。ディスカッションには、①学生の主体性を高める、②テーマに対する理解を深める、③思考力を高める効果があるといわれる。それゆえ本講義ではディスカッションを行うのであるから、受講生は主体的にディスカッションに参加し、仲間から多様な意見を聴いて理解を深め、それらを通して自分の意見を言えるように思考力を高めてほしい。それを毎回真摯に積み重ねることで、上掲の到達目標に到達してほしい。

また、協同学習の構成要素は、①肯定的相互依存、②積極的相互交流、③個人の2つの責任（自分の学びに対する責任と、仲間の学びに対する責任）、④社会スキル（コミュニケーション、リーダーシップなど）の促進、⑤活動のふり返り、の5つであるといわれる。責任をもって各回の予習をした上で授業に臨み、グループ討論では胸襟を開いて話し合い、率先して自分の意見を述べ、他人の意見を傾聴し、差別的発言を行わず、互いに高めていってほしい。これは本講義の授業ルールでもある。グループ討論では毎回グループリーダーを指名する。議論を主導し、他のメンバーの発言を促すなど、コミュニケーション能力やリーダーシップ能力を高めて、就職活動の集団討論などでも発揮できるソーシャルスキルも身に付けてほしい。

授業ルールは以下の通り：予習課題を行った上で授業に臨むこと。座席は指定制。人の話を傾聴すること。差別的発言をしないこと。相手が話しやすい雰囲気作りに努めること。積極的に発言すること。出席は予習シートの提示と大福帳の提出による。以上。

【備考】

上述のように本講義ではアクティブラーニングを行う。アクティブラーニングが学生に不人気なのは承知している。東京大学大学経営・政策研究センターの調査(2007)によれば、授業中に自分の意見や考えを述べる授業が「必要である」と答えたのは79%、グループワークなど学生が参加する機会がある授業が「必要である」答えたのは81%である一方、ベネッセ教育研究開発センターの調査(2013)によれば、「あまり興味がなくても、単位を楽に取れる授業が良い」と答えた学生が54.8%であったのに対し、「単位を取るのが難しくても、自分の興味のある授業が良い」と答えたのは45.2%、また「教員が教える講義形式の授業が良い」と答えたのが83.3%に対し、「学生が自分で調べて発表する演習形式の授業が良い」と答えたのは16.7%に過ぎなかったという。アクティブラーニングの必要性を理解してはいても、面倒くさいというのが学生の感覚であり、それゆえアクティブラーニングは不人気である。

しかし、それでも、本講義ではアクティブラーニングを実施する。先に述べたように、知識を習得し、それを活用するには、また学習のプロセスを修得し、卒業してからも必要に応じて自ら学び続けることのできる力を身に付けるには、自分で調べ、考え、討論することが必要である。大切なのは、教員が何を教えたかではなく、学生が何を学習したかである。勉強は自分でやってみると意外と面白いものである。近著のあとがきにも書いたことだが、私はそれを大学時代に知った。受講生の皆さんにも、自分でやってみることで勉強の面白さを知ってもらいたいと願っている。

※参照：土持ゲーリー法『ティーチング・ポートフォリオ』東信堂，2007年。ダネル・スティーブンス+アントニア・レビ著／佐藤浩章監訳，井上敏憲+俣野秀典訳『大学教員のためのルーブリック評価入門』玉川大学出版部，2014年。中井俊樹編『アクティブラーニング』玉川大学出版部，2015年。松下佳代・京都大学高等教育研究開発推進センター編著『ディープ・アクティブラーニング』勁草書房，2015年。

科目名	外国史概論
	主要諸国の近現代史
教員名	清水 正義

【授業の内容】

外国史を学ぶ意義は、諸外国の文化や社会、政治制度、国民性、国民意識などを歴史を通じて知り、それらを尊重し、日本と世界の関係についての理解を深め、日本人として国際社会に生きていくにふさわしい知見を得ることにある。この講義では諸外国の近現代史の概略と世界史の流れや世界の一体化の進展について基礎的な事実関係を学ぶ。その際、諸外国の出来事が何らかの意味で日本社会の形成に影響を与えているという相互関連性を重視し、講義においてもそういった問題を特筆するよう心がける。もっとも、そうは言っても諸外国の歴史それ自体についての深い認識を経ずに日本との関係だけを追い求めても一知半解の知識で誤解を生むものになる。従ってこの講義では外国の歴史をそれとして追っていくことを厭わずに行いたい。ただ、外国というのは日本以外のすべての国のことだから、外国史とは日本以外の国の歴史すべてということになる。その概略であっても膨大な量になる。中学高校段階での歴史や世界史などの授業では諸外国の歴史のうち特筆すべき重要な事件、人物、歴史の流れなどを学習する。この授業では中高段階での世界史の知識を土台に、いくつかの「外国」をとりあげてその近現代史の流れを概観する。国民国家ごとに「外国」を分断して論じることの利点は、歴史の流れのまとまりのよさ、分かりやすさにある。しかしこのことは同時に諸地域の歴史の共時性を犠牲にし、今日存在する「国家」の正当性を証明するために歴史を使う危険をも内包する。歴史というもの単なる知識ではなく、常に「今日」の正当化証明に使われる。それが歴史の強みであり、また歴史の危険性でもある。この講義ではそれを意識に置いた上で、諸外国の歴史をあえて分節的に扱う。世界を諸地域に分け、そのなかにある「外国」のうち何ヶ国かを対象に、その近現代史を略述する。履修者は講義でとりあげた諸国の近現代史に関する知識を駆使して、現代世界のあり方を理解するための一助としてもらいたい。

【到達目標】

- 世界の諸国家の近現代史についての基本的な知識を得る。
- 諸国家互の交流、発展について理解し、世界の一体化について学ぶ。
- 世界史学の基本的な概念について理解する。
- 世界史を構成する制度、思想、芸術活動について理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 1、EU諸国 イギリス 2つの島と4つの国 イギリスとヨーロッパ諸国との関係に留意し、とくにBREXIT（EU離脱）にいたるイギリス国内の政治社会情勢についてグローバルゼーションとの関連で考えさせる。講義概要を配布し、重要人物、用語などについて確認させる（60分）。
- 第2回 2、EU諸国 フランス 市民革命後の社会建設 フランスにおける個人と社会、家族と結婚との関係を取りあげ、フランス人にとっての家族関係を日本との比較において考えさせる。講義概要を配布し、重要人物、用語などについて確認させる（60分）。
- 第3回 3、EU諸国 ドイツ 領邦分立主義とふたつの世界大戦 勤勉国家ドイツに学ぶといった風潮が強いなか、ドイツ人の一般的な特徴とか国民性とかいった側面を考えるとともに、ドイツ史の負の遺産とその克服について日本との対比において考えさせる。講義概要を配布し、重要人物、用語などについて確認させる（60分）。
- 第4回 4、東欧諸国 ロシア 帝政から社会主義、そして今 ソ連とロシアの現代史を振り返りながら、とくに日本との関係を念頭に、北方領土交渉の現状と日本の立場を前提に、ロシア側がどう対応するのか考えさせる。講義概要を配布し、重要人物、用語などについて確認させる（60分）。
- 第5回 5、東欧諸国 西と「東」とのはざまに 両隣に強大な国家が存在する場合の国の外交のあり方を東欧諸国の歴史の中から考えさせる。講義概要を配布し、重要人物、用語などについて確認させる（60分）。
- 第6回 6、アメリカ 独立革命から第一次世界大戦まで 移民の国の人種差別問題をインディアン戦争から黒人奴隷問題、帝国主義時代以降のアメリカ対外進出の歴史の中から考えさせる。講義概要を配布し、重要人物、用語などについて確認させる（60分）。
- 第7回 7、アメリカ 第一次世界大戦から現代まで 統規制の困難さとアメリカ的事情について憲法修正第2条問題も含めて何がこの問題の背景にあるのかを考えさせる。講義概要を配布し、重要人物、用語などについて確認させる（60分）。
- 第8回 8、アジア 中国 戦後中国の政治と社会 世界的経済大国になった中国の現代史を考え、超大国中国の将来は未だ不鮮明であることに気づかせ、この国の将来のあり方について日本との関連を念頭に考えさせる。講義概要を配布し、重要人物、用語などについて確認させる（60分）。
- 第9回 9、アジア 韓国 朝鮮近代史の流れ 韓国と日本との関係の難しさについて歴史的に考え、今とは異なる関係のあり方について模索させる。講義概要を配布し、重要人物、用語などについて確認させる（60分）。
- 第10回 10、アジア インドという世界 インドにおけるカーストと女性差別に注目し、中世末以来存続する社会制度と差別の根源について考えさせる。講義概要を配布し、重要人物、用語などについて確認させる（60分）。
- 第11回 11、イスラム圏 イスラム社会の成立と展開 イスラムが世界的に拡大している背景のひとつとして、そもそもイスラムが世界的に広まった背景を考えさせる。講義概要を配布し、重要人物、用語などについて確認させる（60分）。
- 第12回 12、イスラム圏 現代イスラム諸国の諸問題 どうしてテロが起こるのかはイスラムという宗教の問題ではなく社会経済の問題であることを押さえながら、今日のイスラム諸国の諸問題を考えさせる。講義概要を配布

- し、重要人物、用語などについて確認させる（60分）。
- 第13回 13、南米 現代南米諸国の政治と社会 スペイン、ポルトガルによる植民地支配の残滓と独裁とポピュリズムの国家の歴史を考察し、民主化の行方を考えさせる。講義概要を配布し、重要人物、用語などについて確認させる（60分）。
- 第14回 14、アフリカ 現代アフリカの政治と社会 最貧大陸からの脱皮はどうやって行えるか、アフリカの地域的偏差を交えながら考察し、日本のような国や国民の役割などについて考えさせる。講義概要を配布し、重要人物、用語などについて確認させる（60分）。
- 第15回 15、現代世界史論 グローバリゼーションの歴史と現況 グローバリゼーションはどこまで進むか、何を導くかを考えさせる。講義概要を配布し、重要人物、用語などについて確認させる（60分）。

【授業の進め方】

課題解決学習の視点から受講生に対しては各国、各地域の固有の問題性を認識させたいので、それらの問題がどのような歴史的状況の中で生じてきたのか、また、それを踏まえて現代社会にどのような課題が提起されているか、その解決はどのように求められているか、日本国民としての自分たちの課題は何かといった視点を考えさせる。外国を直接体験するのは難しいが、世界各地域の情報は書籍やインターネットなどで豊富に得られるので、それらを駆使して外国経験を擬似的に行う体験学習を試みる。当該国の歴史と現状、言葉、習慣、観光地と歴史的記念地、歴史的建造物などを調べ、ICTを活用してプレゼンテーションをする課題も授業の中で行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

テキストはなし。授業各回に講義内容の概要と覚えるべき事項、考えるべき問題点などをまとめた資料を配付する。

【参考図書】

柴田三千雄、木谷勤『世界現代史』山川出版社、1985年
山川出版社『世界各国史』シリーズ（全37巻）のうち授業で扱う諸国に該当する巻

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 30% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

授業時に何回か小テストを行う。小テストは授業内容を基礎にしつつ高校世界史程度の外国史に関係するものも含む。授業内小テストと定期試験を加味して成績を評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

講義への欠席が目立つ場合は失格とする。

【履修上の心得】

歴史学とは暗記のことだと考えている人が多いと思う。確かにそれは違う。しかし歴史的感觉を持つためには、一定の歴史的知識を頭の中に入れておかないでは話にならない。暗記もまた必要だ。そこで外国の地名、人名、事件名など非常に基本的なものはなるべく紹介して覚えてもらうようにしたい。受講生はひとたびは高校生（受験生）に戻ったつもりで、歴史の勉強をしてもらうことになる。

【科目のレベル、前提科目など】

この授業は教養の外国史であり、この程度は知っておいてもらいたいという内容のものである。高校で歴史が得意で、今更という人は受講する必要性は薄いですが、歴史の物語を聞くのが好きという人には向いている。本講義をさらにヨーロッパ全域に広げて論じたものが専門科目の西洋政治史である。

科目名	地理学A
	自然環境（身近な地形・世界の気候）と人口問題
教員名	奥澤 信行

【授業の内容】

「地理学」を中学校で学んだ「地理」と同じように、地名や統計の暗記だけの無味乾燥な科目と考えている諸君も多いと思う。しかし「地理学」は、地表面でみられる自然現象や社会現象を多方面から分析することで、その現象の展開される空間（地域）の特殊性を明らかにし、さらに成立要因を考察することを目的としている。したがって決して暗記のみで理解できる学問ではないのである。本講では「地域の存立要因は何か？」ということを中心に念頭に置きながら、地理学的なものの見方や考え方を論じてみたい。

【到達目標】

授業では栃木県および関東地方にみられる地理的事象を取り上げて説明することが多いが、最終的には受講者がそれぞれの出身地に関してより知識を深め、客観的に地域の特性を把握できるようになることを目標とする。さらに自分が関わりを持つ地域（出身地や通学地である小山市）と他の地域との関係に常に関心を持てることが望ましい。また併せて、日本や世界の地理に関わる基本的事項の修得を目指す。

【授業計画】

- 第1回 地理学の概観① 地理学の定義と地理的な物の見方（中学校や高校で学んだ「地理」のイメージを確認する。／予習30分）
- 第2回 地理学の概観② 面的スケールの捉え方と地図（「地域」としてイメージする範囲について考察する。／予習30分）
- 第3回 地理学の概観③ 地球の概観と時差（地球上の2地点間における時差の算出法を確認する。／復習30分）
- 第4回 自然環境① 生活舞台としての平野[平野の成因と分類]（居住地の地形を確認する。／予習30分）
- 第5回 自然環境② 生活舞台としての平野[平野の土地利用]（平野の成因や規模・構造による土地利用の差異を理解する。／復習30分）
- 第6回 自然環境③ 生活舞台としての平野[扇状地と自然堤防]（国内の代表的事例を確認する。／復習30分）
- 第7回 自然環境④ 世界の気候区分と人々の生活[気候要素]（我が国の気候の特色を理解しておく。／予習30分）
- 第8回 自然環境⑤ 世界の気候区分と人々の生活[気候区分法]（ケッペンの区分法を理解する。／復習60分）
- 第9回 自然環境⑥ 世界の気候区分と人々の生活[熱帯・温帯]（熱帯および温帯の分布地域を理解する。／復習30分）
- 第10回 自然環境⑦ 世界の気候区分と人々の生活[冷帯・寒帯・乾燥帯]（冷帯および寒帯、乾燥帯の分布地域を理解する。／復習30分）
- 第11回 人口問題① 地理学の対象としての人口（居住地の市町村および都道府県の人口を確認しておく。／予習30分）
- 第12回 人口問題② 我が国における人口の変遷（明治期以降の人口の推移を理解する。／復習30分）
- 第13回 人口問題③ 人口移動の実態（世界および国内における人口移動の要因を考察する。／復習30分）
- 第14回 人口問題④ 我が国の人口問題（少子高齢化社会への対応を考察する。／復習30分）
- 第15回 まとめ（地理学的なものの見方や考え方が身に付いたか確認する。／復習30分）

【授業の進め方】

地理学で扱う事象は日々刻々変化するので、最新的话题を取り上げる場合には授業計画が若干前後する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は特に使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

【参考図書】

- 『地理学の見方・考え方』 日本大学地理学教室 編 古今書院
『地理へのいざない』 大嶽 幸彦 著 古今書院

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 90% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 10%

特記事項

定期試験と授業中の態度や発言で評価する。また毎時間出席カードを配布して、厳格に出席管理を行う。IDカードによる出席も併せて利用するが、出席カードとの間に差異が生じた場合には、出席カードによるデータを優先する。定期試験はマークシート方式（5択・100問）で行う。ノート等の持ち込みは一切不可である。

【履修上の心得】

かなりの早口で授業を進めるので、聞き落としのないように注意してもらいたい。板書はノートを取りやすいように配慮するので、きちんとした講義録を作成できるはずである。なお授業態度に問題のある学生を黙認することはなく、授業中に厳しく指導する。常識ある行動のできる学生の受講を希望する。

【科目のレベル、前提科目など】

本講は基礎的レベルの内容であるため、前提となる科目はない。ただし本講で触れない内容について扱う「地理学B」

もなるべく受講してもらいたい。また小学校教員免許状取得希望者のうち、社会科教育に関心のある学生は、地理的分野での知識拡充の意味からも本講の受講を薦める。高校で地理を履修していない学生にも理解できる内容である。

科目名	地理学B
	農村の変容と都市の発展（まちづくり対策を含む）
教員名	奥澤 信行

【授業の内容】

「地理学A」からの継続科目として、下記の内容について講義する。「地理学A」よりも国内の具体的事例を挙げての説明が多くなるので、その事象を確認できる地理的空間（地域）の特異性をより明確に理解できるであろう。

【到達目標】

「地理学A」と同様で、受講者それぞれが関わりを持つ地域への関心を深め、客観的に地理的事象を分析できる能力を身に付けることを目標とする。また国内の主要都市の立地や特色にも言及し、就職試験や教員採用試験で出題される日本地誌に関わる問題にも対応できるようにする。

【授業計画】

- 第1回 村落の変容① 村落の形態（居住地の景観を確認しておく。／予習30分）
 第2回 村落の変容② 都市と村落の関係（都市的機能によって生活圏が構成されていることを理解する。／復習30分）
 第3回 農業生産の地域的変容① 農業地域の構成要素（我が国における農業の実態を理解する。／復習30分）
 第4回 農業生産の地域的変容② 農村における産業構造の変容（農地からの転換による工業用地や観光産業への土地利用の変遷を理解する。／復習30分）
 第5回 都市と都市化① 中心地理論と都市システム（栃木県内における都市の規模と力関係を理解する。／復習30分）
 第6回 都市と都市化② 栃木県を構成する都市（栃木県内における都市配列の特色を理解する。／復習30分）
 第7回 都市と都市化③ 栃木県の地域性（自然環境と人文環境からみた地域区分を理解する。／復習30分）
 第8回 都市と都市化④ 都市の分類（国内における都市を規模や機能から分類できることを理解する。／復習30分）
 第9回 都市と都市化⑤ 都市力の及ぶ範囲（都市圏の定義と具体的事例を理解する。／復習30分）
 第10回 都市と都市化⑥ 都市化のパターン（農村における都市的機能の拡大による地域変容を理解する。／復習30分）
 第11回 大企業の立地① 本社立地（受講生の知っている大企業の企業イメージと本社所在地の都市イメージのマッチングを考えておく。／予習30分）
 第12回 大企業の立地② 支店立地（地方中核都市に立地する大企業の支社や支店を確認しておく。／予習30分）
 第13回 まちづくりの現状① 地域振興（居住地のまち興しを確認しておく。／予習30分）
 第14回 まちづくりの現状② 商業集積（居住地の中心商店街と大型商業施設の実態を確認しておく。／予習30分）
 第15回 まとめ（居住地を中心とした生活圏の実態を確認する。／復習30分）

【授業の進め方】

地理学で扱う事象は日々刻々変化するので、最新的话题を取り上げる場合には授業計画が若干前後することがある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は特に使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

【参考図書】

- 『人文地理学』 竹中 克行 他編著 ミネルヴァ書房
 『地理へのいざない』 大嶽 幸彦 著 古今書院

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 90% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 10%

特記事項

定期試験と授業時の態度や発言で評価する。また毎時間出席カードを配布して、厳格に出席管理を行う。IDカードによる出席も併せて利用するが、出席カードとの間に差異が生じた場合には、出席カードによるデータを優先する。定期試験は、マークシート方式（5択100問）で行う。ノート等の持ち込みは一切不可である。

【履修上の心得】

かなりの早口で授業を進めるので、聞き落としのないように注意してもらいたい。板書はノートを取りやすいように配慮するので、きちんとした講義録を作成できるはずである。なお授業態度に問題のある学生を黙認することはなく厳しく指導する。また然るべき理由のない遅刻は認めない。常識ある行動のできる学生の受講を希望する。

【科目のレベル、前提科目など】

本講は基礎的レベルの内容であるため前提となる科目はない。ただし本講で触れない内容について扱う「地理学A」もなるべく受講してもらいたい。また教職課程履修者のうち、社会科教育に関心のある学生は、地理的分野での知識拡充の意味からも本講の受講を薦める。高校で地理を履修していない学生にも理解できる内容である。

科目名	地理学概論(地誌を含む)
	中学校社会科「地理的分野」の概要と我が国および世界の地誌
教員名	奥澤 信行

【授業の内容】

本講は教養科目であると同時に、「中学校教諭（社会）一種免許状」取得希望の学生にとって、教職課程の「教科に関する科目」に指定されている。したがって同じ教養科目の「地理学A・B」よりも中学校での指導を念頭に置いた内容となっている。すなわち中学校社会科の「地理的分野」における地理学の位置付けと、現場での指導事項について論ずる。なお中学校だけでなく、小学校社会科の指導においても本講の内容は有効である。「地理的分野」が中学校において、生徒や一部教師から「暗記科目」として軽んじられている現状を打破するためにも、地理的事象の成立要因を考えることの重要性を認知してもらいたい。

【到達目標】

中学校で社会科の「地理的分野」の授業を展開する場合の地理的事象や地名等の知識に加えて、指導法に関する基本的なテクニックの習得を身に付ける。また授業内容の根幹をなす日本の地誌について、7地方区分による基礎的事項の確認を図る。

【授業計画】

- 第1回 地理学史① 古代および中世の地理学者と地理観（古代から中世のヨーロッパやイスラム圏で活躍した地理学者の思想を理解する。／復習30分）
- 第2回 地理学史② 近現代の地理学者と地理観（近現代のドイツやフランスで活躍した地理学者の科学的地理学の思想を理解する。／復習30分）
- 第3回 社会科教育の本質① 学習指導要領にみる社会科の位置付け（学習指導要領を熟読しておく。／予習60分）
- 第4回 社会科教育の本質② 授業における課題（問題解決学習の展開を理解する。／復習60分）
- 第5回 地理学習の要点① 地理教育の価値（地理は暗記科目でないことを確認する。／復習30分）
- 第6回 地理学習の要点② 日本の地域構成（我が国の7地方区分を確認しておく。／予習30分）
- 第7回 地理学習の要点③ 郷土学習と地域学習（小中学校で体験した地域での活動を整理しておく。／予習30分）
- 第8回 地理学習の要点④ 自然環境（我が国および居住地の地形や気候を確認しておく。／予習30分）
- 第9回 地理学習の要点⑤ 生産と消費（居住地で盛んな農工業と商業活動の実態を確認しておく。／予習30分）
- 第10回 日本地誌① 国土の概観（国を愛する気持ちの育成を念頭に、我が国の領土と自然環境を考察する。／復習60分）
- 第11回 日本地誌② 西日本[九州・中国および四国・近畿]（西日本の自然・人文環境を理解する。／復習30分）
- 第12回 日本地誌③ 東日本[中部・関東・東北・北海道]（東日本の自然・人文環境を理解する。／復習30分）
- 第13回 世界地誌① 世界の概観（地球規模からみた自然環境（大地形と気候）および人文環境（経済の地域格差）を理解する。／復習30分）
- 第14回 世界地誌② 先進国（先進国間の政治・経済の現状を理解する。／復習30分）
- 第15回 世界地誌③ 発展途上国（発展途上国の自然環境と経済活動の関連を理解する。／復習30分）

【授業の進め方】

講義が中心であるが、教職課程科目であることを踏まえて、自然・人文を問わず、最新の地理事象に関して受講生とディスカッションを行う。また教科指導だけでなく、生徒指導に関しても学校現場での実例を適宜取り上げて、グループ・ディスカッションを行うことによって、教職に対する受講生の意欲を高めたい。さらに地理あるいは社会科の指導内容に限定せず、教育問題全般についても触れてみたい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使用せず、適宜プリントを配付する。中学校または高校で使用した地図帳があれば持参してもらいたい。

【参考図書】

- 『地理教育カリキュラムの創造』 山口 幸男 他編 大明堂
『図説日本の生活圏』 伊藤 喜栄 著 古今書院

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 90% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 10%

特記事項

定期試験と授業内のレポート、授業中の態度や発言で評価する。また毎時間出席カードを配布して、厳格に出席管理を行う。IDカードによる出席も併用するが、出席カードとの間に差異が生じた場合には、出席カードのデータを優先する。試験はマークシート方式（5択100問）で、ノート等の持ち込みは認めない。

【履修上の心得】

将来教職に就くか否かは別として、教職課程を履修している学生はそれなりの覚悟ができてきていることと思う。教育現場の実態について具体例を挙げながら説明するので、受講生も真摯な態度で授業に臨んでもらいたい。学校や教育に関する問題を授業で取り上げるので、自分なりの考えをまとめる習慣を身に付けておくことを希望する。

【科目のレベル、前提科目など】

「地理学A・B」を履修済みまたは履修中が望ましい。中学校社会科「地理的分野」で扱う内容を基礎的なレベルで講義する。教職課程履修者向けの内容のため、一般的な地理学について学びたい学生には「地理学A・B」の受講を勧める。

科目名	倫理学A
	伝統的な倫理学を学ぼう
教員名	的場 哲朗

【授業の内容】

西欧の伝統的な倫理学を学びます。テーマとするのは、古代ギリシアの代表的な哲学者プラトンとアリストテレス、近代を代表するカントとヘーゲルの哲学思想です。プラトンは『国家』、アリストテレスは『ニコマコス倫理学』、そしてカントは『実践理性批判』、ヘーゲルは『精神現象学』について彼らの生涯と思想を追いながらその倫理思想を概観します。

ともすれば現代は、細かな知識や手近な功利性ばかりに目を奪われて、大きな世界観・全体像というものを見失う嫌がありますし、そうした大きなビジョンを避ける傾向もあるように思えてなりません。しかしこれでは、森を歩くのに、目先の木々ばかりを見て自分がいま森の中の何処にいるのかを知らないと同じではないでしょうか。ここに挙げた哲学思想が皆さんに新しい大きな世界観を与えるかどうかはわかりませんが、しかし、現代を見る大きな知的枠組みを提供することは間違いありません。あらためて伝統的な哲学思想を学び直すことにしましょう！

【到達目標】

- ・西洋の伝統的な倫理思想の大きな枠組みが理解できる。
- ・古典を読むことの楽しさ、発見の喜びが実感できる。
- ・混沌とした現代社会の中で何かしら基本となる考え方が発見できる。

【授業計画】

- 第1回 1、倫理学とは何か
倫理学は何を追求し、ほかの学問分野(科学や宗教や哲学など)とどこが違うのか、この学問を学ぶことで何が得られるのかを勉強します。倫理学という学問について下調べをしましょう(予習、30分)。新聞などを読み、倫理学の問題が現代の問題にどんな風に生かされるかをちょっと考えてみましょう(復習、30分)。
- 第2回 2、プラトンの倫理思想
古代ギリシアの哲学者プラトンの生涯と著作についてお話します。古代ギリシアはどんな時代であったかを世界史の教科書で確認しましょう(予習、60分)。プラトンの作った大学アカデメイアはどんな特色があるかを調べてみましょう(復習、60分)。
- 第3回 3、プラトンの著作『国家』
彼の著作『国家』の内容についてお話します。古代の国家ポリスははどのような特色を持っていたかを調べましょう(予習、60分)。哲人政治は現実には可能でしょうか、各自考えてみましょう(復習、60分)。
- 第4回 4、プラトンのイデア論
プラトン思想の核心はイデア論です。彼の「洞窟の比喩」について説明し、イデアとドクサの考え方について考えます。イデア論について予習しましょう(予習、60分)。イデアとはどんなものなのでしょう、各自考えましょう(復習、60分)。
- 第5回 5、アリストテレスの倫理思想
古代ギリシアの哲学者アリストテレスの生涯と著作についてお話します。彼の出身地マケドニア、彼が家庭教師をしたアレクサンダー大王について調べましょう(予習、60分)。アリストテレスの作った大学リュケイオンはどんな特色があるかを調べてみましょう(復習、60分)。
- 第6回 6、アリストテレスの著作『ニコマコス倫理学』
彼の著作『ニコマコス倫理学』の内容についてお話します。人間にとって幸福とは何でしょうか、調べましょう(予習、60分)。中庸とはどのようなことでしょうか、各自考えてみましょう(復習、60分)。
- 第7回 7、アリストテレスの形相と質料
彼の哲学思想の基本である「形相と質料」について説明します。形相と質料について、各自調べましょう(予習、60分)。アリストテレスの形相論とプラトンのイデア論を比較しなさい(復習、60分)。
- 第8回 8、カントの倫理思想
近代を代表する哲学者カントの生涯と著作についてお話します。イギリス経験論と大陸合理論について調べましょう(予習、60分)。「コペルニクスの転回」とはどのようなことでしょうか、調べてみましょう(復習、60分)。
- 第9回 9、カントの著作『実践理性批判』
彼の著作『実践理性批判』の内容についてお話します。道徳法則とは何でしょうか、調べましょう(予習、60分)。グローバル化の中で彼の道徳法則はどのような意味を持つか、各自調べてみましょう(復習、60分)。
- 第10回 10、カントの人格の倫理学
彼の哲学思想の基本である人格の倫理学について説明します。自律、世間のしがらみについて、各自調べましょう(予習、60分)。カントの人格論と古代ギリシアのポリス倫理学を比較しなさい(復習、60分)。
- 第11回 11、ヘーゲルの倫理思想
現代思想に決定的な影響を与えた哲学者ヘーゲルの生涯と著作についてお話します。フランス革命の意義について調べましょう(予習、60分)。歴史の発展とはどのようなものなのでしょう、調べてみましょう(復習、60分)。
- 第12回 12、ヘーゲルの著作『精神現象学』

彼の著作『精神現象学』の内容についてお話しします。否定や矛盾とは何でしょうか、調べましょう(予習、60分)。理性の狡知とはどのような意味を持つか、各自調べてみましょう(復習、60分)。

第13回 13、ヘーゲルの自由の倫理学

彼の哲学思想の基本である「弁証法」の論理について説明します。弁証法について、各自調べましょう(予習、60分)。カントの人格論とヘーゲルの理性の狡知を比較しなさい(復習、60分)。

第14回 14、伝統的な倫理思想と日本の倫理思想

日本の代表的な哲学者西田幾多郎の『善の研究』を紹介しながら、西欧の哲学思想と日本の哲学思想の共通点と差異について考える。西田幾多郎について調べよう(予習、60分)。仏教や神道や武士道について調べよう(復習、60分)。

第15回 15、伝統的な倫理思想と現代倫理学の課題

伝統的な倫理思想を総括し、現代の倫理的な問題(格差の問題、環境問題、医療の問題、人工知能など)について考えます。現代の倫理的な問題としてどのようなものがあるか、新聞などで調べよう(予習、60分)。伝統的な倫理思想をもとに現代の問題を考えてみよう(復習、60分)。

【授業の進め方】

講義形式の授業です。資料は随時配布します。毎回講義の最後に、その日の講義についての質問・感想・要望などをアクションペーパーに書き、次の講義の冒頭でそのいくつかを紹介、その質問に応えながら、講義をすすめます。大人数の講義ですが、基本的に対話形式で授業を進めたいと思います。ですから、毎回アクションペーパー等を提出してください。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

必要な資料は適宜配布します。

【参考図書】

プラトン『国家』(岩波文庫)

アリストテレス『ニコマコス倫理学』(岩波文庫)

カント『実践理性批判』(岩波文庫)

ヘーゲル『精神現象学』(平凡社ライブラリー)と『歴史哲学』(岩波文庫)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

学期末の筆記試験のみ。講義の中から重要な語句を選択し、空欄を埋めるという形式で行う。合計10問(各10点)

【履修上の心得】

物事を建前で済ませたくないと思う批判的精神があればそれで十分。特別な知識は必要ありません。「理想や夢はほんとうに自分を成長させるのだろうか、むしろ束縛となるのではないだろうか。」「挫折や涙は人生にとって否定的な価値に思えるが、しかしむしろ積極的な価値を持っているのではないだろうか。」「目標は実はそれがなくなったときにその真価が問われるのではないだろうか。」「<矛盾>なんて言葉を安易に使って、大切なことを取りこぼしていないだろうか。」「<イエス>と<ノー>の二者択一の回答しかしないうちに、いつの間にかパブロフの犬になっていないだろうか」等、ちょっと考えてもらいたい。

【科目のレベル、前提科目など】

関連科目として特に哲学・文学・美学等をあげたいが、しかし、特別な予備知識がない方がむしろ素直に考えることが出来るかもしれない。

科目名	倫理学B
	現代思想の原点を学ぼう
教員名	的場 哲朗

【授業の内容】

現代思想の原点を学びます。テーマとするのは、19世紀の代表的な思想家としてマルクス、ニーチェ、そして20世紀の代表としてウィトゲンシュタイン、ハイデガーです。マルクスは『共産党宣言』、ニーチェは『道徳の系譜』、そしてウィトゲンシュタインは『論理哲学論考』、ハイデガーは『存在と時間』を紹介します。

現代はともすれば、細かな知識や手ごろな功利性ばかりに目を奪われて、大きな世界観・全体像というものを失う嫌がありますし、そうした大きなビジョンを避ける傾向もあるように思えてなりません。しかしこれでは、森を歩くのに、目先の木々ばかりを見て自分がいま森の中の何処にいるのかを知らないと同じではないでしょうか。ここに挙げた哲学思想が皆さんに新しい大きな世界観を与えるかどうかはわかりませんが、しかし、現代を見る大きな知的枠組みを提供することは間違いありません。あらためて現代思想の原点を学び直すことにしましょう！

【到達目標】

- ・現代思想の大きな枠組みが理解できる。
- ・現代哲学を読むことの楽しさ、発見の喜びが実感できる。
- ・混沌とした現代社会の中で何かしら基本となる考え方が発見できる。

【授業計画】

- 第1回 1、倫理学とは何か
倫理学は何を追求し、ほかの学問分野(科学や宗教や哲学など)とどこが違うのか、この学問を学ぶことで何が得られるのかを勉強します。倫理学という学問について下調べをしましょう(予習、30分)。新聞などを読み、倫理学の問題が現代の問題にどんな風に生かされるかをちょっと考えてみましょう(復習、30分)。
- 第2回 2、マルクスの倫理思想
マルクスの生涯と著作についてお話しします。産業革命について世界史の教科書で確認しましょう(予習、60分)。資本主義とはどのような経済システムを調べてみましょう(復習、60分)。
- 第3回 3、マルクスの著作『共産党宣言』
彼の著作『国家』の内容についてお話しします。共産主義思想とはどのようなものかを調べましょう(予習、60分)。共産主義の国々が消滅したのはなぜかを各自考えてみましょう(復習、60分)。
- 第4回 4、マルクスのユートピアと現在
マルクスのユートピア論と格差の問題について話します。ピケティの著作『二十世紀の資本』について調べましょう(予習、60分)。格差社会とはどのようなものなのでしょうか、各自調べてみよう(復習、60分)。
- 第5回 5、ニーチェの倫理思想
ニーチェの生涯と著作についてお話しします。音楽家ワーグナーについて調べよう(予習、60分)。実存思想について調べてみましょう(復習、60分)。
- 第6回 6、ニーチェの著作『道徳の系譜』
彼の著作『道徳の系譜』の内容についてお話しします。道徳はなぜ生まれたのでしょうか、調べましょう(予習、60分)。「貴族道徳」と「奴隷道徳」とはどのようなことでしょうか、各自考えてみましょう(復習、60分)。
- 第7回 7、ニーチェと大衆の時代
彼の倫理思想の基本である「ルサンチマン(復讐心)」について説明します。深層心理学について各自調べましょう(予習、60分)。伝統的な道徳観とニーチェの道徳観を比較しなさい(復習、60分)。
- 第8回 8、ウィトゲンシュタインの倫理思想
ウィトゲンシュタインの生涯と著作についてお話しします。世紀末のオーストリアのウィーンはどんな都市だったのでしょうか、調べましょう(予習、60分)。彼はなぜ遺産を寄付し、小学校の教員になったのでしょうか、考えてみましょう(復習、60分)。
- 第9回 9、ウィトゲンシュタインの著作『論理哲学論考』
彼の著作『論理哲学論考』の内容についてお話しします。論理学とはどんな学問でしょうか、調べましょう(予習、60分)。「語りえないものについては沈黙しなければならない」という彼の文章について考えてみましょう(復習、60分)。
- 第10回 10、ウィトゲンシュタインの倫理学
彼の倫理的なもの、美的なもの、宗教的なものについてお話しします。倫理的なもの、美的なもの、宗教的なものとは具体的にどんなものなのでしょうか、各自調べましょう(予習、60分)。伝統的な倫理学と彼の倫理学との差異について調べましょう(復習、60分)。
- 第11回 11、ハイデガーの思想
世間に振り回されて自分の存在(=実存)を忘却してしまった現代人を厳しく批判するドイツの哲学者ハイデガーの生涯と著作についてお話しします。大衆社会について調べましょう(予習、60分)。生きることの意味とは何でしょうか、調べてみましょう(復習、60分)。
- 第12回 12、ハイデガーの著作『存在と時間』
彼の著作『存在と時間』について説明します。「実存」とは何でしょうか、調べましょう(予習、60分)。本来的な存在とはどのような意味を持つか、各自調べてみましょう(復習、60分)。

第13回 13、ハイデガーの本来性の倫理学

本来的な生き方をするとはどういうことなのかについてお話しします。「死」、「生きる」とはどういうことでしょうか、各自調べましょう(予習、60分)。生きるということ、仕事をするということ、友人を持つということ、死ぬということは人間存在にとってどういうことなのか、考えなさい(復習、60分)。

第14回 14、西欧倫理思想と日本の倫理思想

日本の代表的な哲学者和辻哲郎の『人間の学としての倫理学』の内容を紹介しながら、西欧の倫理思想と日本の倫理思想の共通点と差異について考える。和辻哲郎について調べよう(予習、60分)。「人間」と「human being」の語源的な違いについて調べよう(復習、60分)。

第15回 15、現代の倫理思想と現代倫理学の課題

現代倫理思想の原点を総括し、現代の倫理的な問題(格差の問題、環境問題、医療の問題、人工知能など)について考えます。現代の倫理的問題としてどのようなものがあるか、新聞などで調べよう(予習、60分)。現代倫理思想をもとに現代の問題を考えてみよう(復習、60分)。

【授業の進め方】

講義形式の授業です。資料は随時配布します。毎回講義の最後に、その日の講義についての質問・感想・要望などをアクションペーパーに書き、次の講義の冒頭でそのいくつかを紹介、その質問に応えながら、講義をすすめます。大人数の講義ですが、基本的に対話形式で授業を進めたいと思います。ですから、毎回アクションペーパー等を提出してください。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

必要な資料は適宜配布します。

【参考図書】

プラトン『国家』(岩波文庫)

アリストテレス『ニコマコス倫理学』(岩波文庫)

カント『実践理性批判』(岩波文庫)

ヘーゲル『精神現象学』(平凡社ライブラリー)と『歴史哲学』(岩波文庫)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

学期末の筆記試験のみ。講義の中から重要な語句を選択し、空欄を埋めるという形式で行う。合計10問(各10点)

【履修上の心得】

物事を建前で済ませたくないと思う批判的精神があればそれで十分。特別な知識は必要ありません。「理想や夢はほんとうに自分を成長させるのだろうか、むしろ束縛となるのではないだろうか。」「挫折や涙は人生にとって否定的な価値に思えるが、しかしむしろ積極的な価値を持っているのではないだろうか。」「目標は実はそれがなくなったときにその真価が問われるのではないだろうか。」「<矛盾>なんて言葉を安易に使って、大切なことを取りこぼしていないだろうか。」「<イエス>と<ノー>の二者択一の回答しかないうちに、いつの間にかパブロフの犬になっていないだろうか」等、ちょっと考えてもらいたい。

【科目のレベル、前提科目など】

関連科目として特に哲学・文学・美学等をあげたいが、しかし、特別な予備知識がない方がむしろ素直に考えることが出来るかもしれない。

科目名	倫理学概論
	現代の倫理的な諸問題にどう対処すべきか？
教員名	的場 哲朗

【授業の内容】

出生前診断、IPS細胞、AIの登場、環境破壊、格差や労働や結婚の問題など、これまでの伝統的な倫理学では十分に対応できない様々な倫理問題が現在世界中で噴出しています。こうした問題に私たちは現在どのように対処し、どのような具体的解決策を見つけていくべきなのでしょう。本講義では、道徳法則の普遍性を力強く説いたカントの伝統的倫理学を一応の出発点としつつ、さまざまな倫理学者の論点や問題などを取り上げながら、こうした、現代生活にとっての喫緊の課題である倫理的諸問題に対して、皆さんの体験談やグループディスカッションなどを通して、解決の糸口を見つけ出していきたいと思う。

【到達目標】

- ・現代の様々な倫理問題について【発見学習】できる。
- ・現代の様々な倫理問題に対する伝統的な倫理学の長所と短所について具体的に【発見】理解し、そして【議論】し合えることができる。
- ・カント倫理学以降の近代倫理思想史を概観し、現代の倫理学の問題について【発見】し、そして【解決】の方向を学習できる。
- ・リアクションペーパーを提出することで、自分の考えを【論理的な文章でまとめる】ことができる。

【授業計画】

第1回 授業計画

私が倫理学に出会った話から、倫理学の面白さについて話します。次に、「倫理学」の語源(ギリシア語、日本語など)から倫理学の定義をし、哲学・宗教・物理学との共通点と差異、そして倫理学を学ぶことの現代的な意味についてお話しし、一緒に議論します。倫理学と物理学、哲学と宗教について調べよう(予習、60分)。生活の中で倫理的視点が必要な場面を新聞やネットで探してみよう(復習、30分)。リアクションペーパーの提出。

第2回 近代と個人の自立

近代倫理学は個々人の自立から出発します。自立とは何か。世間のしがらみとは何か。皆さんの体験を振り返りながら、「個人の自立とは何か」についてグループディスカッションをします。これに合わせて、カントの人格の倫理学を学ぶ意味についてお話しします。ドイツの哲学者カントの生涯と思想について調べてみよう(予習、60分)。カントの人格論から考えると、行動の規範はどのようになるのでしょうか。自分で考え、自分の生活の中で具体的な事例を思い起こしてみよう(調査学習、復習、60分)。リアクションペーパーの提出。

第3回 カント著『道徳形而上学原論』を読もう。

序論を読み、倫理学、物理学、論理学の違い、経験と形而上学の違いについて学びます。文化系と理科系の違いについてディベートし、「道徳の形而上学」とはどのようなものかを「人種差別」を例にして発見しましょう(体験学習)。序論を読んで、難しい表現や理解できない箇所をチェックしましょう(予習、60分)。人種差別の問題以外に今日どのような問題があるかを新聞やネットで調べなさい(復習、60分)。リアクションペーパーの提出。

第4回 「善意志」について学ぼう。

道徳的行為で大切な「意志」について学びます。学問には「知性」、行為には「意志」が大切ですが、「意志」が欠落するとどうなるかを生活の中で具体的に見つけてみよう(発見学習)。では、「知性」と「意志」、理論と実践のどちらが大切でしょうか(グループ・ディスカッション)。頭が良いことと意志が強いことについて調べてみよう(予習、30分)。「意志」と「性格」と「幸福」の関係について調べなさい(調査学習、復習、60分)。リアクションペーパーの提出。

第5回 生命の尊さについて考えよう。

カントは倫理の具体的問題として小売人、友情、生命保存、愛の問題を挙げていますが、なぜカントは「生命の保存」を「義務」と考えたのかをグループ内でディスカッションしましょう。出生前診断、遺伝子組み換え、臓器移植などについて調べよう(予習、60分)。科学の進歩と道徳観の関係について調べましょう(調査学習、60分)。リアクションペーパーの提出。

第6回 現代の生命倫理について考えよう。

出生前診断、IPS細胞の研究の意味についてカントの規範倫理学をもとに考え、現代の哲学者ハーバーマスの「熟議」の意味についてディベートしましょう。「出生前診断」と「IPS細胞」について調べよう(予習、60分)。ハーバーマス、「熟議」について調べよう(復習、60分)。リアクションペーパーの提出。

第7回 「愛」の問題について考えよう。

カントは、愛は義務だと主張します。「好き」と「愛」、感情と義務、感性と理性とはどのようなことかを皆で考えてみよう(問題解決学習)。エーリッヒ・フロムの『愛することについて』についてもお話しします。「好き」(like)と「愛」(love)の違いについて調べよう(予習、60分)。エーリッヒ・フロムの『愛することについて』を読んでみよう(復習、3日)。リアクションペーパーの提出。

第8回 カント倫理学の厳格主義のまとめ。

カントの「定言命法」と「仮言命法」を学び、具体的例(人命救助などの)を出して、真の道徳的行為とは何

かを考えます。「定言命法」と「仮言命法」について下調べしましょう(予習、20分)。どんなときにも「正直」は正しいのでしょうか、考えてみよう(問題解列学習、復習、30分)。リアクションペーパーの提出。

第9回 ニーチェの道徳批判。

ニーチェは人間の深層心理の立場から道徳の成立を考え、道徳批判を行います。その意味で彼は、カントの厳格主義の対局に立ちます。彼の『道徳の系譜』を紹介しながら、善悪の意味について皆でディスカッションしましょう。「怨恨」(ressentiment)という人間の心理現象について調べよう(予習、30分)。「勝った者が正義で、負けた者が悪だ」と言われますが、これはどういうことか、日本史や世界史をさかのぼって、考えてみよう(復習、60分)。リアクションペーパーの提出。

第10回 ベンサムの高快計算

彼の、「高快の増大と苦痛の減少」が道徳と立法の原理だという功利主義についてグループディスカッションしましょう。功利主義、ベンサムについて調べよう(予習、30分)。自分の経験に照らして、道徳と高快の関係について考えてみよう(復習、60分)。リアクションペーパーの提出。

第11回 ヘーゲルの倫理学

ヘーゲルは歴史の弁証法的な発展の中で倫理を考えます。彼の『法の哲学』について説明します。時代によって倫理は変化するかどうかについてグループディスカッションしましょう。ヘーゲルについて調べましょう(予習、60分)。マルクスのヘーゲル批判について調べましょう(復習、60分)。リアクションペーパーの提出。

第12回 ハイデガーの倫理学

彼は『存在と時間』の中で、人間の本来の生き方を各自の死の自覚から説きます。ハイデガーの『存在と時間』について調べよう(予習、30分)。世人の中で生きることと、本来的に生きることの違いについて考えよう(復習、60分)。リアクションペーパーの提出。

第13回 性善説と性悪説

孟子の性善説と荀子の性悪説について学び、どちらがより説得的かを皆でディスカッションしましょう。孟子と荀子、孔子について調べなさい(予習、30分)。足利市にあった足利学校の歴史について現地調査してみよう(調査学習、復習、180分)。リアクションペーパーの提出。

第14回 日本の倫理学——和辻哲郎

彼の『人間の学としての倫理学』について話します。彼の、問柄としての倫理学とカントの、人格としての倫理学との違いについてグループディスカッションをします。和辻哲郎について調べなさい(予習、60分)。日本人と西洋人の人間観・倫理観について調べてみよう(復習、60分)。リアクションペーパーの提出。

第15回 伝統的な倫理学と現代の倫理問題

現代の倫理的な問題(生命倫理、環境倫理、メディア倫理等)に対する伝統的な倫理学の可能性と問題点についてグループディスカッションをします。現代の倫理問題についてネットや新聞などで調べなさい(予習、60分)。応用倫理学とはどのようなものかを調べましょう(復習、60分)。リアクションペーパーの提出。

カントの『道徳形而上学原論』(岩波文庫)の中の重要な箇所を拾い読みします。伝統的な古典倫理学ですから、ちょっと難しいかもしれませんが、逃げないで下さい。これをもとに、西欧・中国・日本の様々な倫理観を紹介し、皆さんの体験談を聞いたり、グループディスカッションをしながら、現代の様々な倫理問題について一緒に考え、解決策を求めます。

【授業の進め方】

事前に、家族や友人関係や学校などをふり返ったり、新聞やテレビなどの報道を使って、現代の倫理問題について各自【調査】し、具体的な【問題】を洗い出し、自分なりの【解決】策を探しましょう。講義では毎回リアクションペーパーを課しますから、講義内容を加味しながら、そうした倫理問題に対する【問題解決】なり、新たな【問題発見】などを記入し提出して下さい。これらのリアクションペーパーをもとに、次の講義でコメントを付け加えたり、またあらたな【問題点】の【発見】・指摘などを行いますので、各自事前に十分な「理論武装」(!)を整えておいて下さい。

授業中に声をかけて皆さんの体験談を聞いたり、倫理問題について図書館やメディアなどでの【調査学習】を求めたり、また【グループ・ディスカッション】を積極的に行いますから、ただ講義を聴いてノートを取るのではなく、【対話】に臨むといった覚悟をもって【主体的】に授業に取り組んで欲しい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

必要な資料は適宜授業中に配布します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

受講生が多いので出席はとりません。学年末試験(100%)で成績を付けます。ただし、講義内容は難解なので授業に出ていない学生は試験問題に解答できません。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席は加味しません。テキストの持ち込みも不可。

【履修上の心得】

・倫理学概論の講義は倫理学A Bよりも専門的で難解な内容です。受講する学生はこの点をしっかりと自覚すること。

・講義は資料を読み進めながら行うので、出席してください。

【科目のレベル、前提科目など】

倫理学A B、美学など

実社会に出ると、倫理的な考え方は重要です。そうした視点から、倫理的な考え方の基礎をしっかりと作り上げることを目指します。

科目名	倫理学概論
教員名	伊藤 功

【授業の内容】

「努力する限り人間は迷うものだ」。ゲーテの言葉をまっまでもなく、私たちは日々の暮らしの中で迷いつつ選び、選びつつ迷っています。少しでもよく生きることができるようにと願って。しかしながら私たちの前にはどこから考え始めればよいのか見当もつかない難問が壁のように立ち塞がっています。年齢、性別、能力、身分、国籍など一人ひとりの置かれた条件は違っても、それぞれがそれぞれの問題に直面しています。子どもには子どもの、大人には大人の問題があるのです。そして友人関係のように個人にかかわる問題から戦争や環境のように人類の命運にかかわる問題にいたるまで、それらは千差万別でありながらそのどれもが当事者にとっては切実な重要性をもっています。この授業ではそうした難問に直面して茫然自失することのないように、倫理的な思考力をその基礎において確かなものにするをめざします。そのために前半は倫理学の歴史の中から代表的な考え方をとりあげて学び、後半は倫理学の主題の中から代表的なものを硬軟織り交ぜて選び出し考えてみます。このようにすることで同時に倫理学全体の見通しが得られることになるはずです。

【到達目標】

- ・自分がどのような問題に直面しているのかを自覚できるようになること。
- ・その問題を倫理学の言葉を用いて説明できるようになること。
- ・その問題についてどのような考え方をしているのかを調べ理解できるようになること。
- ・リアクションペーパーに自分の考えを的確にまとめられるようになること。
- ・他人の意見に耳を傾け自分の意見を述べるといった対話ができるようになること。

【授業計画】

第1回 授業概要

倫理学成立の歴史的背景。哲学や論理学など隣接諸学問との関係。

予習：「倫理学」という言葉の成り立ちについて調べる（60分）。

復習：身近で見聞きする「〇〇倫理」がこれから学ぶ倫理学のなかでどのように位置づけられるかを考えてノートにまとめる（60分）。

第2回 ソクラテスの問いとその展開

ソクラテスは何を問い求め、それを引き継いだプラトン、アリストテレスがどのように自らの思想を彫琢していったか。

予習：ソクラテス、プラトン、アリストテレスについて調べる（60分）。

復習：ソクラテスの問いに自分ならどのように答えるかを考えてノートにまとめる（60分）。

第3回 功利主義の基礎

功利主義はどのような考え方をしているのか。

予習：ベンサムとJ. S. ミルについて調べる（60分）。

復習：授業中に出された問題について自分ならどのように答えるかを考えてノートにまとめる（60分）。

第4回 功利主義の問題

功利主義の考え方に潜む問題点。

予習：前回の授業で指示された問題について自分の考えをノートにまとめておく（60分）。

復習：授業中に出された問題について自分ならどのように答えるかを考えてノートにまとめる（60分）。

第5回 カント倫理学の基礎

道徳にかんするカントの考え方。

予習：カントについて調べる（60分）。

復習：授業中に出された問題について自分ならどのように答えるかを考えてノートにまとめる（60分）。

第6回 ニーチェの道徳批判

道徳のどのような点をニーチェは批判するのか。

予習：ニーチェについて調べる（60分）。

復習：授業中に出された問題について自分ならどのように答えるかを考えてノートにまとめる（60分）。

第7回 和辻哲郎と日本の倫理思想

日本の倫理思想の特徴はどのような点に認められるのか。

予習：和辻哲郎について調べる（60分）。

復習：授業中に出された問題について自分ならどのように答えるかを考えてノートにまとめる（60分）。

第8回 愛

人を愛するとはどのようなことなのか、また、どのようにして可能なのか。

予習：愛の典型例だと自分の考えるものを文学作品や映画の中から探してノートにまとめておく（60分）。

復習：授業中に出された問題について自分ならどのように答えるかを考えてノートにまとめる（60分）。

第9回 友情

友情とはどのようなものなのか、また、友人は必要なのか。

予習：友情の典型例だと自分の考えるものを文学作品や映画の中から探してノートにまとめておく（60分）。

復習：授業中に出された問題について自分ならどのように答えるかを考えてノートにまとめる（60分）。

第10回 正義

正しい社会とはどのようなものなのか。

予習：正しくないと自分の考える行為や措置の具体例をそう考える理由とともにノートにまとめておく（60分）。

復習：授業中に出された問題について自分ならどのように答えるかを考えてノートにまとめる（60分）。

第11回 自由

自由であるとはどのようなことなのか、また、自由よりも価値のあるものはないのだろうか。

予習：自分から自由を奪っていると考えるものをノートにまとめておく（60分）。

復習：授業中に出された問題について自分ならどのように答えるかを考えてノートにまとめる（60分）。

第12回 悪

この世界にはなぜ悪が存在するのか、また、悪をなくすことはできるのか。

予習：悪の典型例と自分が考えるものを文学作品や映画の中から探してノートにまとめておく（60分）。

復習：授業中に出された問題について自分ならどのように答えるかを考えてノートにまとめる（60分）。

第13回 生きる意味

生きることに意味はあるのか、また、それを知ることはできるのか。

予習：自分にとって生きる意味とは何かを考え、ノートにまとめておく（60分）。

復習：授業中に出された問題について自分ならどのように答えるかを考えてノートにまとめる（60分）。

第14回 医療資源の配分

限られた医療資源を配分する際にどのような考え方に基づけばよいか。

予習：トリアージ、QALYについて調べる（60分）。

復習：授業中に出された問題について自分ならどのように答えるかを考えてノートにまとめる（60分）。

第15回 臓器移植

臓器移植にはどのような問題がひそんでいるのか、また、臓器移植を推進していくべきなのか。

予習：脳死概念が生まれた歴史的背景について調べる（60分）。

復習：授業中に出された問題について自分ならどのように答えるかを考えてノートにまとめる（60分）。

【授業の進め方】

主に講義形式をとり、適宜プリントや映像を用いながら授業を進めます。毎回いくつかの問題を授業中に出示しますので、それについて自分の考えをノートにまとめるようにしてください。受講者数によって質疑応答やグループワークなどの形式を選択し、互いに意見交換できる機会を設けます。哲学者や倫理学者の考えを理解することはもちろん重要ですが、それと同時に、彼らの考えをそれぞれの問題に対する解答例と見なして参考にし、自分自身の考えを形成する姿勢も忘れないでください。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は用いません。必要に応じて資料を配布します。

【参考図書】

適宜紹介します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 40%

特記事項

受講態度：リアクションペーパー、授業内の質疑応答などに基づいて評価します。

科目名	応用倫理A
	応用倫理へのいざない：命を奪うことの倫理
教員名	渡辺 忠

【授業の内容】

応用倫理は既存の道徳原理の応用に尽きるものではなく、倫理判断が必要となる具体的な諸問題の検討を通して、私たちの倫理的な自己理解をも問いなおそうとすることろみだ。応用倫理Aは、この分野の全般的な理解をはかることを目的に授業を行う。今年度は、生命を奪うことに関わるテーマとして、安楽死・人工妊娠中絶などを扱う。殺すことと死ぬに任せることの道徳的差異、胎児の道徳的地位、女性の身体への裁量権と胎児の権利、潜在的人物の道徳的価値、生の質に基づく選択などに関する議論である。まず、テーマについての基礎的理解を図る講義を行う。次いで、これらのテーマを論じたいいくつかの文献を(そのうちいくつかはレジュメ作成を通して)熟読したうえで詳細に検討・議論し、錯綜した問題点を明確にして、受講者自身の倫理的理解を形成することを目的とする。また、倫理的議論において働いているさまざまな論理的推論の型を理解し、合理的な論証としての応用倫理のあり方を体得することも目的の一つである。

【到達目標】

- (1)日常生活で出会う様々な倫理問題に合理的で賢明な意思決定ができるようになること
- (2)指定教材のレジュメ作成を通して、学術文献など高度な文章の批判的読解法を身につけること
- (3)毎回のリアクションペーパー作成により、問題意識をもち意見を簡潔に言い表せるようになること
- (4)課題レポート作成を通して、自分の考えを小論文にまとめられるようになること
- (5)関連する分野の情報について、図書館やインターネットなどを用いて調査しまとめられるようになること
- (6)教材ごとの質疑応答、最終講総括討論でのグループ・ディスカッションにおいて積極的に意見を表明できること

【授業計画】

- 第1回 ・授業内容：応用倫理とはどのようなものか：概説講義
 ・学習課題(復習)：初回教材に紹介された論証例について自分はどう判断するか考えてみる[30分]
 (予習)：次回教材を読む・メモを取る[150分]
- 第2回 ・授業内容：安楽死…終末期医療の問題
 ・学習課題(復習)：超高齢社会・終末期医療・尊厳死などについて自分の考えを確認する[30分]
 (予習)：第3回教材 レイチェルズ「積極的安楽死と消極的安楽死」を読む・レジュメを作成する[150分]
- 第3回 ・授業内容：安楽死…歴史的経緯と安楽死をめぐる論点の概要
 ・学習課題(復習)：言及されたいくつかの事件について図書館やインターネットで調べてみる[30分]
 (予習)：ネスビット「殺すことは死ぬに任せるより悪くないか」、ペレット「殺すこと、死ぬに任せること、単一相違点論法」を読む・メモを取る[150分]
- 第4回 ・授業内容：安楽死…殺すことと死ぬに任せること：レイチェルズの古典的論文と単一相違点論法
 ・学習課題(復習)：哲学的な議論の争点を整理し、自分はどう考えるか考えてみる[30分]
 (予習)：次回教材 ケイガン「加法性の誤謬」、オディー「殺すことと死ぬに任せること」を読む・メモを取る[150分]
- 第5回 ・授業内容：安楽死…殺すことと死ぬに任せること：単一相違点論法批判・加法性と分離可能性
 ・学習課題(復習)：積極的安楽死と消極的安楽死について、道徳的議論で働いている論理の特性について考えてみる[30分]
 (予習)：安楽死をめぐる議論の様々な論点について整理し、自分の考えをまとめる[150分]
- 第6回 ・授業内容：安楽死の問題についての総括討論
 ・学習課題(復習)：他の履修者から提案された異なる考え方について、さらに自分はどう考えるのか整理しまとめてみる[30分]
 (予習)：第8回教材 トムソン「人工妊娠中絶の擁護」を読む・レジュメを作るためのメモを取る[150分]
- 第7回 ・授業内容：人工妊娠中絶…ヒト発生学の初歩、中絶の現状、禁止論と擁護論の概要
 ・学習課題(復習)：言及された事柄について図書館やインターネットで調べてみる[30分]
 (予習)：第8回教材 トムソン「人工妊娠中絶の擁護」の課題レジュメを作成する[150分]
- 第8回 ・授業内容：人工妊娠中絶…よきサマリア人論法 トムソン「人工妊娠中絶の擁護」の検討
 ・学習課題(復習)：教材で提示された様々な論点について正確に理解する、疑問点をまとめてみる[30分]
 (予習)：次回教材 トゥーリー「人工妊娠中絶と新生児殺」を読む・メモを取り、込み入った論証構造を正確に理解する[150分]
- 第9回 ・授業内容：人工妊娠中絶…胎児の道徳的地位とパーソン概念、トゥーリー「人工妊娠中絶と新生児殺」の検討
 ・学習課題(復習)：教材で提示された様々な論点について正確に理解する、疑問点をまとめてみる[30分]
 (予習)：次回教材 マーキス「人工妊娠中絶はなぜ間違っているのか」を読む・課題レジュメを作成する[150分]
- 第10回 ・授業内容：人工妊娠中絶…「我々に似た未来」論法、マーキス「人工妊娠中絶はなぜ間違っているのか」の検討
 ・学習課題(復習)：死の悪を説明した剥奪説の考え方について理解する、疑問点をまとめてみる[30分]

- (予習)：次回教材 ノークロス「殺すこと、人工妊娠中絶、避妊」を読む・メモを取り正確に理解する[150分]
- 第11回 ・授業内容：人工妊娠中絶…「我々に似た未来」論法 批判、ノークロス「殺すこと、人工妊娠中絶、避妊」の検討
 ・学習課題(復習)：剥奪説的な中絶批判論と、中絶、避妊、子供をもつことについて自分の考えを整理する[30分]
- (予習)：教材つづき ペレット「潜在性論法」を読む・メモを取り正確に理解する[150分]
- 第12回 ・授業内容：人工妊娠中絶…潜在性論法、ペレット「潜在性論法」の検討
 ・学習課題(復習)：人工妊娠中絶反対論の根拠である潜在性論法とその批判について整理して理解する[30分]
- (予習)：次回教材 サヴァレスキュ「生殖における善行原理」を読む・メモを取り正確に理解する[150分]
- 第13回 ・授業内容：人工妊娠中絶…出生前診断と選択的中絶、サヴァレスキュ「生殖における善行原理」の検討
 ・学習課題(復習)：出生前診断の概要と現状について図書館やインターネットで調べて整理する[30分]
- (予習)：次回教材 サンドル「完全さに抗して」を読む・課題レジュメを作成する[150分]
- 第14回 ・授業内容：生の質の選択…サンドル「完全さに抗して」の検討
 ・学習課題(復習)：生の質の選択について自分の考えをまとめてみる[30分]
- (予習)：これまでの授業内容を整理し、学期末課題レポートの準備をする[150分]
- 第15回 ・総括討論

・初回を除き、使用する教材は全て白鷗大学ホーム・ページの授業支援システムWebClassにアップロードする。各自でダウンロードして事前に熟読しておくことが必要である。同システムには、授業で使用する教材のほかに、教材の解説資料やそれ以外の資料も載せる。頻繁に確認して、入手すること。また、WebClass当該ページの管理者として受講者のアクセスに関する情報は全て把握可能である。アクセス記録のない受講者は教材に目を通していないものと判断するので注意されたい。

・受講者の理解を最優先とするので、予定表通りに進行するとは限らず、予定した内容全てを扱うことができなくなる可能性がある。また、進行の過程で、使用教材の差し替えや省略・追加もありうる。その旨了承されたい。その都度周知するので、確認すること。

【授業の進め方】

- ・授業では教材内容の解説講義と質疑応答を主とする。
- ・授業に関する情報の全ては初回配布資料「授業案内」に記してある。授業計画・課題レジュメの提出が必須な教材およびその書式や提出方法、学期末レポートの課題、書式体裁・締め切り・提出先と提出方法などの情報が含まれるので、随時確認すること。
- ・授業時間の末尾5分程度でリアクションペーパー「出席カード」にその日の授業について受講者が考えたことや疑問などを記入し提出してもらう。簡潔でよいから必ず何かを記入すること。また、これは返却しないので、授業中の記録は必ず別途授業用のノートに記入し「出席カード」にはそのうちの必要な部分を記入すること。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書はない。印刷教材を大学ホームページ授業支援システム(WebClass)に用意する。

【参考図書】

P.シンガー『実践の倫理(第二版)』(昭和堂)
 江口聡(編)『妊娠中絶の生命倫理』(勁草書房)
 J.レイチェルズ『生命の終わり』(晃洋書房)
 G.ペンス『医療倫理1』『同 2』(みすず書房)
 T.ホープ『医療倫理』(岩波書店)
 加藤尚武『現代倫理学入門』(講談社)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

- (1)平常点：必須提出物(リアクション・ペーパー、指定教材レジュメ3~4本)の状況、授業への取組・貢献度：50%
- (2)学期末課題レポート：50%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

平常点・レポートの一方だけでは単位は取れないので注意するように。また、提出物の出来についてあまり高い完成度を自ら求めてしまうと提出が困難になる傾向が見られる。ともかくもきちんと提出することを第一に心がけること。

【履修上の心得】

辛く苦しい修行のような授業だ。相応の覚悟をもって受講してほしい。成績評価そのものは「甘い」と言ってよいと思うが、課題負担はかなり大きい。授業の中間地点頃までに受講放棄する履修者は少なくない。因みに昨年度の単位取得者は履修登録者の1/3以下である。

科目名	応用倫理B
	この世に存在するようになることの価値と非同一性問題
教員名	渡辺 忠

【授業の内容】

非同一性問題とは、ある行為や政策がとられた時点ではまだ存在していないが、やがて存在して影響を受ける人物がいる場合の、その行為や政策の倫理的評価に関わる問題だ。時間的に先立つ我々の行為はまだ存在しない人々の同一性に影響する。彼らはその行為がなければ存在しなかったかもしれない。たとえば、CO2削減策をとったときの未来の人々とそうでないときの未来の人々は顔ぶれが異なるだろう。温暖化を促進するような政策は未来の人々を苦しめるかもしれないが、彼らはその策を取らなければ存在しなかったかもしれない。少女の妊娠出産は回避すべきで大人になってからもっとよい環境で子供をもてばよいと言われる。だが、その子供は少女の時に産んでいたかもしれない子供とは別人物だ。ひどい障害をもって生まれた人物はその損害賠償を親や医師に求める(「ロングフル・ライフ訴訟」)ことができるか。その障害を除去していたならば当の人物の存在が不可能であったとしたらどうか。この世に存在することがそれだけで利益となるなら、どれも困難な問題を伴う。非同一性問題は、「障害」の概念や、社会的公正・平等、他者への加害や不正、道徳的責任、誕生と死、子供をもつことの意味、個々の人生の意味などの問題と最深部で絡み合う。授業では、まずDerek Parfitの『理由と人格』第16章「非同一性問題」を詳細に検討し、ついで様々な観点から非同一性問題を論じた文献を読み議論し、錯綜した問題点を明確にして、受講者自身の倫理的見解を形成することを目的とする。

【到達目標】

- (1)日常生活で出会う様々な倫理問題に合理的で賢明な意思決定ができるようになること
- (2)指定教材のレジュメ作成を通して、学術文献など高度な文章の批判的読解法を身につけること
- (3)毎回のリアクションペーパー作成により、問題意識をもち意見を簡潔に言い表せるようになること
- (4)課題レポート作成を通して、自分の考えを小論文にまとめられるようになること
- (5)関連する分野の情報について、図書館やインターネットなどを用いて調査しまとめられるようになること

【授業計画】

- 第1回 ・授業内容：導入講義、C.ベルショー「より多くのよりよい人々が存在すべきか」、
・学習課題(復習)：初回教材を読んで自分はどうか考えたかまとめてみる[30分]
(予習)：次回教材『理由と人格』第16章「非同一性問題」119節と120節を読む・メモを取る[150分]
- 第2回 ・授業内容：同じ人々の選択、同じ人数の選択、異なる人数の選択、パーフィット『理由と人格』第16章「非同一性問題」119節と120節
・学習課題(復習)：三種類の選択問題について自分はどうか考えたかまとめてみる[30分]
(予習)：次回教材『理由と人格』第16章「非同一性問題」121節と122節を読む・メモを取る[150分]
- 第3回 ・授業内容：未来の利益、D.パーフィット『理由と人格』第16章「非同一性問題」121節と122節、
・学習課題(復習)：未来世代の利益、思考実験「14歳の少女」について自分はどうか考えたかまとめてみる[30分]
(予習)：次回教材『理由と人格』第16章「非同一性問題」123節と124節、を読む・メモを取る[150分]
- 第4回 ・授業内容：生の質の配慮、D.パーフィット『理由と人格』第16章「非同一性問題」123節と124節、
・学習課題(復習)：思考実験「資源の枯渇」、未来世代の権利について自分はどうか考えたかまとめてみる[30分]
(予習)：次回教材『理由と人格』第16章「非同一性問題」125節と126節を読む・メモを取る[150分]
- 第5回 ・授業内容：非同一性の道徳的意味、遠い将来には曲を引き起こすこと、D.パーフィット『理由と人格』第16章「非同一性問題」125節と126節、
・学習課題(復習)：「医療プログラム」「危険な政策」「Ruthの選択」「Janeの選択」「危険な不妊治療」について自分の考えをまとめてみる[30分]
(予習)：次回教材『理由と人格』第16章「非同一性問題」127節と補遺、を読む・メモを取る[150分]
- 第6回 ・授業内容：D.パーフィット『理由と人格』第16章「非同一性問題」全体を通しての理解と総括討論
・学習課題(復習)：非同一性問題とはどのような問題であったか、整理し考えをまとめる[30分]
(予習)：次回教材 G.アレニウス「潜在的人物の道徳的価値」を読む・レジュメのためのメモを取る[150分]
- 第7回 ・授業内容：潜在的人物の道徳的価値、G.アレニウス「潜在的人物の道徳的価値」の検討
・学習課題(復習)：人物影響的価値論と中立的価値論について論点や疑問点をまとめてみる[30分]
(予習)：教材つづき G.アレニウス「潜在的人物の道徳的価値」を読む・課題レジュメを作成する[150分]
- 第8回 ・授業内容：潜在的人物の道徳的価値、G.アレニウス「潜在的人物の道徳的価値」の検討つづき
・学習課題(復習)：人物が時間に占める位置による諸説の論点を理解し、疑問点をまとめてみる[30分]
(予習)：次回教材 D.ベネター「存在するようにならないほうがよいのはなぜか」を読む・レジュメを作るためのメモを取る[150分]
- 第9回 ・授業内容：反出生主義の根拠、D.ベネター「存在するようにならないほうがよいのはなぜか」の検討
・学習課題(復習)：反出生主義について自分の考えをまとめてみる[30分]
(予習)：教材つづき D.ベネター「存在するようにならないほうがよいのはなぜか」を読む・課題レジュメを作成する[150分]
- 第10回 ・授業内容：反出生主義の帰結、D.ベネター「存在するようにならないほうがよいのはなぜか」の検討：反出生主義批判
・学習課題(復習)：反出生主義の反直観的帰結とその根拠について理解し、疑問点をまとめてみる[30分]

- (予習)：次回教材 J.マクマハン「人物を存在させることの倫理における非対称性」を読む・レジュメを作るためのメモを取る[150分]
- 第11回 ・授業内容：問題設定の枠組み(価値・理由・非対称性/対称性、個体影響説)、J.マクマハン「人物を存在させることの倫理における非対称性」の検討
 ・学習課題(復習)：問題設定の用いられた概念枠組みを整理して理解する[30分]
 (予習)：マクマハン教材つづきを読む・課題レジュメを作成する[150分]
- 第12回 ・授業内容：対称性を採る諸説、J.マクマハン「人物を存在させることの倫理における非対称性」つづき
 ・学習課題(復習)：反出生主義的対称説・非人格的対称説について整理して理解する[30分]
 (予習)：次回教材 B.スタインボック「ロングフル・ライフと生殖に関する決定」を読む・レジュメを作るためのメモを取る[150分]
- 第13回 ・授業内容：子への害を理由とする出生回避問題、B.スタインボック「ロングフル・ライフと生殖に関する決定」の検討
 ・学習課題(復習)：創生問題、加害概念、非存在条件について整理して理解する[30分]
 (予習)：教材つづき B.スタインボック「ロングフル・ライフと生殖に関する決定」を読む・課題レジュメを作成する[150分]
- 第14回 ・授業内容：非同一性問題と代置原理、B.スタインボック「ロングフル・ライフと生殖に関する決定」つづき
 ・学習課題(復習)：有害な条件を不可避的にもつ子供の出生回避問題に自分の考えをまとめてみる[30分]
 (予習)：これまでの授業内容を整理し、学期末課題レポートの準備をする[150分]
- 第15回 ・総括討論

・初回を除き、使用する教材は全て白鷗大学ホーム・ページの授業支援システムWebClassにアップロードする。各自でダウンロードし事前の熟読が必要である。同システムには、使用する教材のほかに、教材の解説資料やそれ以外の資料も載せる。頻繁に確認して入手すること。また、WebClass当該ページの管理者として受講者のアクセスに関する情報は全て把握可能である。アクセス記録のない受講者は教材に目を通していないものと判断するので注意されたい。
 ・受講者の理解を最優先とするので、予定表通りに進行するとは限らず、予定した内容全てを扱うことができなくなる可能性がある。また、進行の過程で、使用教材の差し替えや省略・追加もありうる。その旨了承されたい。その都度周知するので、確認すること。

【授業の進め方】

- ・授業では教材内容の解説講義と質疑応答を主とする。
- ・授業に関する情報の全ては初回配布資料「授業案内」に記してある。授業計画・課題レジュメの提出が必須な教材およびその書式や提出方法、学期末レポートの課題、書式体裁・締め切り・提出先と提出方法などの情報が含まれるので、随時確認すること。
- ・授業時間の末尾5分程度でリアクションペーパー「出席カード」にその日の授業について受講者が考えたことや疑問などを記入し提出してもらう。簡潔でよいから必ず何かを記入すること。また、これは返却しないので、授業中の記録は必ず別途授業用のノートに記入し「出席カード」にはそのうちの必要な部分を記入すること。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書はない。印刷教材を大学ホームページ授業支援システム(WebClass)に用意する。

【参考図書】

- D.パーフィット『理由と人格』(勁草書房)
 P.シンガー『実践の倫理(第二版)』(昭和堂)
 J.グラバー『未来世界の倫理』(産業図書)
 T.ホープ『医療倫理』(岩波書店)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

- (1)平常点：必須提出物(リアクション・ペーパー、指定教材レジュメ)の状況、授業への取組・貢献度：50%
 (2)学期末課題レポート：50%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

平常点・レポートの一方だけでは単位は取れないので注意されたい。また、提出物の出来についてあまり高い完成度を自ら求めてしまうと提出が困難になる傾向が見られる。ともかくもきちんと提出することを第一に心がけること。

【履修上の心得】

辛く苦しい修行のような授業だ。相応の覚悟をもって受講することを求める。成績評価は「甘い」と言ってよいと思うが、課題負担はかなり大きい。授業の中間地点頃までに受講放棄する履修者は少なくない。因みに昨年度の単位取得者は履修登録者の1/3以下である。

科目名	哲学A
	我々は何ものか：心と人物のメタフィジクス
教員名	渡辺 忠

【授業の内容】

あなたは最も基本的な意味では何だろうか。もちろんヒトという動物である。だが、この「である」は同一性を意味するのか。そうではないという者もいる。我々は動物から「構成」された何か、人物だというのだ。では人物とは何か。ヒトでない人物もいるのか。(あるいは人物でないヒトも。) あなたがヒトという動物だとして、それはあなたの身体のことなのか。では、身体のだれだけを失ったらあなたはあなたでなくなるのか。最後の拠り所は脳だろうか。だが、別の身体にあなたの脳を移植したら、それは誰になるのか。心の哲学の有力な説では、あなたの心はあなたの脳そのものではなく、脳が「実現」している複雑な因果的システムだという。ちょうど、あなたのパソコンのソフトウェアやデータのように。ではSFのようにあなたをコピーしてバックアップをとれるのだろうか。だとしたら、あなたは不死なのか。コピーが複数あるとき、どれがあなたなのか。

本講ではこの問題を論じた気鋭の哲学者の著作を教材に、我々の本性と、その時間の中での持続について考える。その過程で、様々な形而上学的概念や諸問題も検討することになる。現代の分析的形而上学の考え方がどのようなものか、その一端を垣間見ることになるだろう。問題は錯綜しており、分析の概念装置も使いこなすのは難しい。答えの糸口すら容易に見いだせぬ迷宮をさまよう15回の授業である。

【到達目標】

- (1)哲学の基本的な問題について文献資料を読みながら考え、自ら「哲学する」こと
- (2)指定教材のレジュメ作成を通して、学術文献の批判的読解法を身につけること
- (3)毎回のリアクションペーパー作成により、問題意識をもち意見を簡潔に言い表せるようになること
- (4)課題レポート作成を通して、自分の考えを小論文にまとめられること
- (5)関連する分野の情報について、図書館やインターネットなどを用いて調査しまとめられるようになること

【授業計画】

- 第1回 ・授業内容：導入講義1、心身問題についての解説講義
 ・学習課題(復習)：心とは何かについて自分はどうか考えたかまとめてみる[30分]
 (予習)：第3回教材「我々は何ものかという問題」を読む・メモを取る[150分]
- 第2回 ・授業内容：導入講義2、人物の同一性に関する解説講義
 ・学習課題(復習)：人物の同一性について自分はどうか考えたかまとめてみる[30分]
 (予習)：第3回教材「我々は何ものかという問題」を読む・メモを取る[150分]
- 第3回 ・授業内容：人物の形而上学の諸問題の検討、「我々は何ものかという問題」
 ・学習課題(復習)：人物の形而上学の問題設定と諸説について論点をまとめてみる[30分]
 (予習)：次回教材「動物」を読む・メモを取る[150分]
- 第4回 ・授業内容：動物説の検討、「動物」
 ・学習課題(復習)：思考する動物問題、脳移植の思考実験について自分はどうか考えたかまとめてみる[30分]
 (予習)：次回教材「構成」を読む・メモを取る[150分]
- 第5回 ・授業内容：構成説の検討、「構成」
 ・学習課題(復習)：数的に異なる物質的存在者の合致と構成という考え方について論点をまとめてみる[30分]
 (予習)：次回教材「脳」を読む・メモを取る[150分]
- 第6回 ・授業内容：脳説の検討、「脳」
 ・学習課題(復習)：脳と身体、部分と全体の形而上学、「ミニマリズム」についての論点を理解する[30分]
 (予習)：次回教材「時間的部分」を読む・レジュメを作るためのメモを取る[150分]
- 第7回 ・授業内容：時間的部分説の検討1、「時間的部分」：四次元主義・変化・時間的内在的性質・様相的両立不可能性と対応者理論
 ・学習課題(復習)：四次元主義の論拠について論点や疑問点をまとめてみる[30分]
 (予習)：教材つづき「時間的部分」を読む・課題レジュメを作成する[150分]
- 第8回 ・授業内容：時間的部分説の検討2、「時間的部分」：人物同一性の難問・多の問題・人物に関する規約主義と多元主義・ステージ説
 ・学習課題(復習)：四次元主義の問題点について論点や疑問点をまとめてみる[30分]
 (予習)：次回教材「束」を読む・レジュメを作るためのメモを取る[150分]
- 第9回 ・授業内容：束説の検討1、「束」：実体と束・「もの」と「こと」
 ・学習課題(復習)：ものごと、実体の形而上学とその批判についてまとめてみる[30分]
 (予習)：教材つづき「束」を読む・課題レジュメを作成する[150分]
- 第10回 ・授業内容：束説の検討2、「束」：普遍者としての人物・プログラム説
 ・学習課題(復習)：普遍者の束、プログラム説について論点や疑問点をまとめてみる[30分]
 (予習)：次回教材「靈魂」を読む・レジュメを作るためのメモを取る[150分]
- 第11回 ・授業内容：靈魂説の検討1、「靈魂」：非物質主義の根拠・唯物論の難問・増大のパラドクス
 ・学習課題(復習)：唯物論の困難、増大のパラドクス、非物質主義の論拠について論点や疑問点をまとめてみる[30分]

- (予習)：教材つづき「靈魂」を読む・課題レジュメを作成する[150分]
- 第12回 ・授業内容：靈魂説の検討2、「靈魂」：増大のパラドクスへの四つの応答・複合的二元論・質料形相主義
 ・学習課題(復習)：非物質主義への批判と二つの応答について論点や疑問点をまとめてみる[30分]
- (予習)：次回教材「非存在説」を読む・レジュメを作るためのメモを取る[150分]
- 第13回 ・授業内容：非存在説の検討1、「非存在説」：非存在説の意味・統合性と単純性
 ・学習課題(復習)：非存在説の主張内容について正確に整理し、論点や疑問点をまとめてみる[30分]
- (予習)：教材つづき「非存在説」を読む・課題レジュメを作成する[150分]
- 第14回 ・授業内容：非存在説の検討2、「非存在説」：メンタリズムと原子論・非存在説の帰結
 ・学習課題(復習)：非存在説を支持する二つの戦略について論点や疑問点をまとめてみる[30分]
- (予習)：これまでの授業内容を整理し、学期末課題レポートの準備をする[150分]
- 第15回 ・総括討論

・初回を除き、使用する教材は全て白鷗大学ホーム・ページの授業支援システムWebClassにアップロードする。各自でダウンロードして事前に熟読しておくことが必要である。同システムには、授業で使用する教材のほかに、教材の解説資料やそれ以外の資料も載せる。頻繁に確認して、入手すること。また、WebClass当該ページの管理者として受講者のアクセスに関する情報は全て把握可能である。アクセス記録のない受講者は教材に目を通していないものと判断するので注意されたい。

・受講者の理解を最優先とするので、予定表通りに進行するとは限らず、予定した内容全てを扱うことができなくなる可能性がある。また、進行の過程で、使用教材の差し替えや省略・追加もありうる。その都度周知するので、確認すること。

【授業の進め方】

- ・授業では教材内容の解説講義と質疑応答を主とする。
- ・授業に関する情報の全ては初回配布資料「授業案内」に記してある。授業計画・課題レジュメの提出が必須な教材およびその書式や提出方法、学期末レポートの課題、書式体裁・締め切り・提出先と提出方法などの情報が含まれるので、随時確認すること。
- ・授業時間の末尾5分程度でリアクションペーパー「出席カード」にその日の授業について受講者が考えたことや疑問などを記入し提出してもらう。簡潔でよいから必ず何かを記入すること。また、これは返却しないので、授業中の記録は必ず別途授業用のノートに記入し「出席カード」にはそのうちの必要な部分を記入すること。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書はない。印刷教材を大学ホームページ授業支援システム(WebClass)に用意する。

【参考図書】

- D.パーフィット『理由と人格』(勁草書房)
 R.スウィンバーン/S.シューメイカー『人格の同一性』(勁草書房)
 T.サイダー/E.コニー『形而上学レッスン』(春秋社)
 T.サイダー『四次元主義の哲学』(春秋社)
 D.ルイス『世界の複数性について』(名古屋大学出版会)
 永井均『転校生とブラックジャック』(岩波書店(文庫))
 倉田剛『現代存在論講義Ⅰ ファンダメンタルズ』(新曜社)
 『現代存在論講義Ⅱ 物質的対象・種・虚構』(同)
 S.マンフォード『哲学が分かる 形而上学』(岩波書店)
 秋葉・倉田ほか『ワードマップ 現代形而上学』(新曜社)
 柏端達也『現代形而上学入門』(勁草書房)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

- (1)平常点：必須提出物(リアクション・ペーパー、指定教材レジュメ3~4本)の状況、授業への取組・貢献度：50%
 (2)学期末課題レポート：50%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

平常点・レポートの一方だけでは単位は取れなので注意されたい。また、提出物の出来についてあまり高い完成度を自ら求めてしまうと提出が困難になる傾向が見られる。ともかくもきちんと提出することを第一に心がけること。

【履修上の心得】

辛く苦しい修行のような授業だ。相応の覚悟をもって受講することを求める。成績評価そのものは「甘い」と言ってもいいと思うが、課題負担はかなり大きい。授業の中間地点頃までに受講放棄する履修者は少なくない。因みに昨年度の単位取得者は履修登録者の1/3以下である。

科目名	哲学B
	死のメタフィジクスと価値論
教員名	渡辺 忠

【授業の内容】

死について考える。現代哲学の中には、心を脳というハードウェアに載ったソフトウェアのように見る考え方がある。そうだとすると、そのような心は「死ぬ」ことがあるのだろうか。「誰」が死ぬのだろうか。宗教とは別の意味で「死後の生」が可能だろうか。また、古代の哲学者は、死後の非存在は誕生前の非存在の対称的な鏡像にすぎず、後者と同様前者もならおそれるに足りないと言った。だが、本当に死は何でもないものなのだろうか。価値はそのとき人が享受する快や苦だけから成り立っていると考えるべきだろうか。ありえたかもしれない可能な別の人生は現実の人生の価値に影響するだろうか。この世にあなたが生まれてきたことは、それ自体でよいことなのか。死の意味と価値を考えることは、生の意味と価値を考えることでもある。

本講では現代の分析哲学における「死の形而上学」に関する文献資料を読み、問題そのものを考えていく。その過程で、同一性・様相・可能的世界・時間などの形而上学的概念や諸問題、価値論の基本概念も検討することになるだろう。問題は錯綜しており、分析の概念装置も使いこなすのは難しい。答えの糸口すら容易に見いだせぬ迷宮をさまよう15回の授業である。

【到達目標】

- (1)哲学の基本的な問題について文献資料を読みながら考え、自ら「哲学する」こと
- (2)指定教材のレジュメ作成を通して、学術文献の批判的読解法を身につけること
- (3)毎回のリアクションペーパー作成により、問題意識をもち意見を簡潔に言い表せるようになること
- (4)課題レポート作成を通して、自分の考えを小論文にまとめられること
- (5)関連する分野の情報について、図書館やインターネットなどを用いて調査しまとめられるようになること
- (6)教材ごとの質疑応答、最終講総括討論でのグループ・ディスカッションにおいて積極的に意見を表明できること

【授業計画】

- 第1回
 - ・授業内容：導入講義、「死と存在」「死の悪さ」問題解説
 - ・学習課題(復習)：死について自分はどうか考えたかまとめてみる[30分]
 - (予習)：次回教材「死後の生と墓の中の破壊」を読む・メモを取る[150分]
- 第2回
 - ・授業内容：死と存在の問題、Olson「死後の生と墓の中の破壊」
 - ・学習課題(復習)：死後の生の可能性について自分はどうか考えたかまとめてみる[30分]
 - (予習)：次回教材「人物と死体」を読む・メモを取る[150分]
- 第3回
 - ・授業内容：死と存在の問題、Olson「人物と死体」
 - ・学習課題(復習)：持続する存在者の本性について自分はどうか考えたかまとめてみる[30分]
 - (予習)：次回教材「終焉テーゼ」を読む・メモを取る[150分]
- 第4回
 - ・授業内容：死と存在の問題、Feldman「終焉テーゼ」
 - ・学習課題(復習)：死と存在の問題について自分はどうか考えたかまとめてみる[30分]
 - (予習)：次回教材「死」を読む・メモを取る[150分]
- 第5回
 - ・授業内容：死は悪か、エピクロス説と剥奪説、基本問題、Nagel「死」
 - ・学習課題(復習)：死の悪についての二つの考え方と基本的な問題についてまとめてみる[30分]
 - (予習)：次回教材「死と生の価値 I エピクロスの論証」を読む・レジュメを作るためのメモを取る[150分]
- 第6回
 - ・授業内容：死は悪か、エピクロスの論証の基本仮定を吟味する、McMahan「死と生の価値」
 - ・学習課題(復習)：存在するようになることと存在しなくなるものの価値についての議論の論点を理解する[30分]
 - (予習)：教材つづき「死と生の価値 II 死の悪さ」を読む・レジュメを作るためのメモを取る[150分]
- 第7回
 - ・授業内容：死は悪か、死の悪についての剥奪説と反事実的条件法、McMahan「死と生の価値」つづき
 - ・学習課題(復習)：反事実的条件法と剥奪説、時間相対的利益説について論点や疑問点をまとめてみる[30分]
 - (予習)：教材つづき「死と生の価値 II 死の悪さ、III パラドクス」を読む・課題レジュメを作成する[150分]
- 第8回
 - ・授業内容：死は悪か、剥奪説・比較説に関するいくつかの問題、McMahan「死と生の価値」つづき
 - ・学習課題(復習)：生と生の比較に関わる問題点について理解する、論点や疑問点をまとめてみる[30分]
 - (予習)：次回教材「死の悪さ」をメモを取りながら読む・レジュメを作成する[150分]
- 第9回
 - ・授業内容：死は悪か、エピクロス説の再分析、感情価値連関説、価値と心的態度の対象、四次元主義、Silverstein「死の悪さ」、
 - ・学習課題(復習)：エピクロス説の基本論点(無主体問題)、価値と評価主体の存在、時間と存在の形而上学枠組みについてまとめてみる[30分]
 - (予習)：次回教材「エピクロスの擁護」をメモを取りながら読む[150分]
- 第10回
 - ・授業内容：死は悪か、価値的態度の原因と対象、時間と持続の三次元主義と四次元主義、Silverstein「死の悪さ」つづき、Rosenbaum「エピクロスの擁護」
 - ・学習課題(復習)：二つの考え方の相違について理解する、疑問点をまとめてみる[30分]
 - (予習)：次回教材「死の悪についてのいくつかの難問」をレジュメを作りながら読む[150分]
- 第11回
 - ・授業内容：死は悪か、世界間比較としての剥奪説、死の悪の永遠説、Feldman「死の悪についてのいくつか

の難問]

- ・学習課題(復習):剥奪説と死の悪の時という問題について考えをまとめてみる[30分]
(予習):次回教材「死の悪について再論」を読む[30分]
- 第12回 ・授業内容:死は悪か、価値的態度の原因と対象、時間と存在の三つの枠組み、Silverstein「死の悪について再論」
・学習課題(復習):論者たちの考え方の違いについて整理しまとめてみる[30分]
(予習):次回教材「永在主義と死の悪さ」「死はいつ悪いのか」を、争点に注意しながら読む[150分]
- 第13回 ・授業内容:死は悪か、死の悪の時という問題、剥奪説の再整理、Bradley「永在主義と死の悪さ」、Silverstein「死はいつ悪いのか」
・学習課題(復習):二人の論者の考え方の違いについて整理しまとめてみる[30分]
(予習):次回教材「死はなぜ悪か」をレジュメを作成しながら読む[30分]
- 第14回 ・授業内容:死は悪か、時間的非対称性問題、Bruekner/Fischer「死はなぜ悪か」
・学習課題(復習):価値に関する態度の時間的非対称性とルクレティウスの問題について自分の考えをまとめてみる[30分]
(予習):これまでの授業内容を整理し、学期末課題レポートの準備をする[150分]
- 第15回 ・総括討論

・初回を除き、使用する教材は全て白鷗大学ホーム・ページの授業支援システムWebClassにアップロードする。各自でダウンロードして事前に熟読しておくことが必要である。同システムには、授業で使用する教材のほかに、教材の解説資料やそれ以外の資料も載せる。頻繁に確認して、入手すること。また、WebClass当該ページの管理者として受講者のアクセスに関する情報は全て把握可能である。アクセス記録のない受講者は教材に目を通していないものと判断するので注意されたい。

・受講者の理解を最優先とするので、予定表通りに進行するとは限らず、予定した内容全てを扱うことができなくなる可能性がある。また、進行の過程で、使用教材の差し替えや省略・追加もありうる。その都度周知するので、確認すること。

【授業の進め方】

- ・授業では教材内容の解説講義と質疑応答を主とする。
- ・授業に関する情報の全ては初回配布資料「授業案内」に記してある。授業計画・課題レジュメの提出が必須な教材およびその書式や提出方法、学期末レポートの課題、書式体裁・締め切り・提出先と提出方法などの情報が含まれるので、随時確認すること。
- ・授業時間の末尾5分程度でリアクションペーパー「出席カード」にその日の授業について受講者が考えたことや疑問などを記入し提出してもらう。簡潔でよいから必ず何かを記入すること。また、これは返却しないので、授業中の記録は必ず別途授業用のノートに記入し「出席カード」にはそのうちの必要な部分を記入すること。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書はない。印刷教材を大学ホームページ授業支援システム(WebClass)に用意する。

【参考図書】

- T.ネーゲル『コウモリであるとはどのようなことか』勁草書房
- D.パーフィット『理由と人格』(勁草書房)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

- (1)平常点:必須提出物(リアクション・ペーパー、指定教材レジュメ)の状況、授業への取組・貢献度:50%
- (2)学期末課題レポート:50%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

平常点・レポートの一方だけでは単位は取れないので注意されたい。また、提出物の出来についてあまり高い完成度を自ら求めてしまうと提出が困難になる傾向が見られる。ともかくもきちんと提出することを第一に心がけること。

【履修上の心得】

辛く苦しい修行のような授業だ。相応の覚悟をもって受講することを求める。成績評価そのものは「甘い」と言ってもよいと思うが、課題負担はかなり大きい。授業の中間地点頃までに受講放棄する履修者は少なくない。因みに昨年度の単位取得者は履修登録者の1/3以下である。

科目名	哲学概論
	西洋哲学の歴史から見る哲学
教員名	永野 潤

【授業の内容】

さまざまな哲学者が哲学的問題についてどのように考えたのか、ということを紹介しながら、「哲学する」とはどのようなことなのかを知ってもらいます。過去の哲学者の思想を知ることによって、現代の問題を考える手がかりを得ることをめざします。哲学者にまつわるエピソード、時代背景、などもまじえて紹介します。

【到達目標】

西洋哲学の歴史について知る。

「哲学的に考える」ことの訓練をつうじて、柔軟な思考力、論理的思考能力を身につける。

自分の考えを適切に表現することができるようになる。

【授業計画】

- 第1回 哲学とは何か(復習)授業で問われたことを考える[60分] (予習)次回の授業で扱う哲学者について調べておく[60分]
- 第2回 古代哲学1(復習)プリントの復習[60分] (予習)次回の授業で扱う哲学者について調べておく[60分]
- 第3回 古代哲学2(復習)プリントの復習[60分] (予習)次回の授業で扱う哲学者について調べておく[60分]
- 第4回 古代哲学3(復習)プリントの復習[60分] (予習)次回の授業で扱う哲学者について調べておく[60分]
- 第5回 中世哲学(復習)プリントの復習[60分] (予習)次回の授業で扱う哲学者について調べておく[60分]
- 第6回 近世哲学1(復習)プリントの復習[60分] (予習)次回の授業で扱う哲学者について調べておく[60分]
- 第7回 近世哲学2(復習)プリントの復習[60分] (予習)次回の授業で扱う哲学者について調べておく[60分]
- 第8回 近世哲学3(復習)プリントの復習[60分] (予習)次回の授業で扱う哲学者について調べておく[60分]
- 第9回 近代哲学1(復習)プリントの復習[60分] (予習)次回の授業で扱う哲学者について調べておく[60分]
- 第10回 近代哲学2(復習)プリントの復習[60分] (予習)次回の授業で扱う哲学者について調べておく[60分]
- 第11回 近代哲学3(復習)プリントの復習[60分] (予習)次回の授業で扱う哲学者について調べておく[60分]
- 第12回 現代哲学1(復習)プリントの復習[60分] (予習)次回の授業で扱う哲学者について調べておく[60分]
- 第13回 現代哲学2(復習)プリントの復習[60分] (予習)次回の授業で扱う哲学者について調べておく[60分]
- 第14回 現代哲学3(復習)プリントの復習[60分] (予習)次回の授業で扱う哲学者について調べておく[60分]
- 第15回 現代哲学4(復習)プリントの復習[60分] (予習)次回の授業で扱う哲学者について調べておく[60分]

【授業の進め方】

講義形式の授業です。映像資料を使います。授業後半に時間をとり、授業についてのコメントを書いてもらいます。一部を匿名で次の授業で紹介します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①プリント配布

【参考図書】

『新装版 ソフィーの世界 上・下』ヨースタイン・ゴルデル、NHK出版、2011年

『もう少し知りたい人のための「ソフィーの世界」哲学ガイド』須田朗、日本放送出版協会、1996年

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

- (1) 定期試験70%
(2) 平常点(授業後半のコメント提出) 30%

科目名	文学A
	ファンタジー文学の魅力
教員名	鈴木 宏枝

【授業の内容】

文学の一領野であるファンタジーは、想像力と驚異を基軸とする文芸で、伝説や昔話などの源流から発展し、異世界や超現実的な要素を扱うことを特徴とする。この授業では各国のファンタジー文学を取り上げ、文学としての共通項を探りつつ、時代や国によって異なる特徴もテキストの中に不可分に織り込まれることを明らかにする。必要に応じて映像化作品とも比較し、原典の持つ力を再確認する。

【到達目標】

1. ファンタジー文学の特質を理解する
2. 作家、時代、共同体がいかに作品と関係するかを理解する
3. 文学の鑑賞方法を理解する

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション、ハンス・クリスチャン・アンデルセン『アンデルセン童話集』
- 第2回 日常から別世界へ①：ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』
- 第3回 日常から別世界へ②：ルドヤード・キップリング『ジャングル・ブック』
- 第4回 日常から別世界へ③：ジェイムズ・バリ『ピーター・パン』
- 第5回 日常から別世界へ④：C.S.ルイス『ライオンと魔女』
- 第6回 日常から別世界へ⑤：J.K.ローリング『ハリー・ポッターと賢者の石』
- 第7回 日常の中にあるもうひとつの世界①：A.A.ミルン『クマのプーさん』『プー横丁にたった家』
- 第8回 日常の中にあるもうひとつの世界②：メアリー・ノートン『床下の小人たち』
- 第9回 日常の中にあるもうひとつの世界③：ルーマー・ゴッデン『人形の家』
- 第10回 日常の中にあるもうひとつの世界④：キャサリン・ブリッグス『妖精ディックのたたかい』
- 第11回 第二世界の構築①：トルキン『ホビットの冒険』
- 第12回 第二世界の構築②：トーベ・ヤンソン『たのしいムーミン一家』
- 第13回 第二世界の構築③：アーシュラ・ル＝グウィン『影とのたたかい』
- 第14回 第二世界の構築④：フィリップ・プルマン『黄金の羅針盤』
- 第15回 第二世界の構築⑤：荻原規子『空色勾玉』

【授業の進め方】

パワーポイントやレジュメを用いて、作家の紹介、作品の紹介、時代背景の説明をし、必要に応じてDVDで映像化作品との比較も行う。毎回のコメントシートの提出を必須とする。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

配布資料やパワーポイントで講義をおこなう。

【参考図書】

ヴォルシュレイガー『不思議の国をつくる』安達まみ訳、河出書房新社。
 本多英明・桂宥子・小峰和子編『たのしく読める英米児童文学 - 作品ガイド』ミネルヴァ書房。
 井辻朱美編著『ファンタジー・ノベルの魅力』七つ森書館。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

全授業回数の1/3を越えて欠席した場合は不可とする。

【科目のレベル、前提科目など】

文学B、一般教養的な科目。

科目名	文学B
	詩の形式と主題
教員名	針生 進

【授業の内容】

英米の詩とわが国の和歌を実例にして、詩という文学形式を検討する。

【到達目標】

英米の詩とわが国の和歌について、主に形式面での基礎知識を得る。

【授業計画】

- 第1回 英詩とはどのようなものか
- 第2回 英詩の形式：(1)
- 第3回 英詩の形式：(2)
- 第4回 英詩の形式：(3)
- 第5回 英詩の形式：(4)
- 第6回 英詩の主題：(1)
- 第7回 英詩の主題：(2)
- 第8回 和歌とはどのようなものか
- 第9回 和歌の形式：(1)
- 第10回 和歌の形式：(2)
- 第11回 和歌の形式：(3)
- 第12回 和歌の形式：(4)
- 第13回 和歌の主題：(1)
- 第14回 和歌の主題：(2)
- 第15回 まとめと補足

【授業の進め方】

講義形式で行う。学期末の定期試験期間に筆記試験を実施する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

こちらで作成したプリント教材をほぼ毎回配付する。

【参考図書】

本学総合図書館の蔵書のなかから適切なものを適宜、紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 20%

特記事項

いかに多くの正確にして基本的な知識を身につけたかを問う筆記試験の結果が成績評価に大きく関わる。試験の結果が思わしくない場合でも、レポートなどを提出させて試験の点数に加算あるいは換算するような措置は講じない。受講態度などにかかわる平常点も最終判定に反映させる。

【履修上の心得】

とりあげる作品は、すべて英語で書かれているか、古文でつづられている。それも日常的な散文ではなく韻文で。しかし、言葉の意味以上に、言葉の音楽性こそ詩の重要な構成要素になる。極言すれば、内容はよくわからないとしても、声に出してある詩を読み、何らかの心地よさを感じれば、それだけでも、その詩のかなりの部分を味わえたといえるだろう。であれば、受講に際して高度な英語力や古文の読解力が要求されることはない。とはいえ、ある程度の英語の文法知識や語彙力あるいは古文読解の基礎知識が受講者には当然あるという前提で講義を進めていく。

【科目のレベル、前提科目など】

「文学A」「英文学概論」

科目名	論理学
	推論と証明の技法
教員名	渡辺 忠

【授業の内容】

論理学は、人が合理的に考えたり話したりしているときに従っているはずの、暗黙の規範を対象とする学問である。二千年以上の歴史があるが、19世紀末の大革命を経た現代論理学は、数学に範をとり、記号を用いて話を進める。論理学とは「合理的思考規範の記号を用いた探究」であり、今日では「論理学」といえば、端的にこのような数学的な記号論理学を意味する。授業では、論証の科学としての論理学の問題関心を説明した後、教科書に沿って命題論理・述語論理の順に解説と演習をする。形式言語の構成、その解釈、証明法としてのタブロー法、健全性定理・完全性定理、決定可能性など。タブロー法は他のどんな証明法よりも修得が容易である。

【到達目標】

- (1)記号論理（古典的第一階述語論理）による初等的な証明の技法を体得すること
- (2)いくつかの重要なメタ論理的定理について学習し、論理学や形式的方法についての概観を得ること
- (3)理論的で厳密な思考方法・態度を身につけること

【授業計画】

- 第1回 初回オリエンテーション、(復習)初回配布プリントの問題を解く (予習)教科書該当箇所を読み、疑問点をまとめる [合計 180分]
- 第2回 第1章 命題論理の記号言語の定義 (復習)授業内容を整理し疑問点を確認する (予習)教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第3回 論理式の種類と確認手続き (復習)授業内容を整理し疑問点を確認する (予習)教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第4回 具体的解釈：論理式と日常言語の命題 (復習)授業内容を整理し疑問点を確認する (予習)教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第5回 第2章 命題論理のモデル理論：真理関数、真理表 (復習)授業内容を整理し疑問点を確認する (予習)教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第6回 真理値分析、質料的条件法 (復習)授業内容を整理し疑問点を確認する (予習)教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第7回 真理関数の表現定理・十全性 (復習)授業内容を整理し疑問点を確認する (予習)教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第8回 第3章 命題論理のタブロー：タブローの定義 (復習)授業内容を整理し疑問点を確認する (予習)教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第9回 命題論理 タブロー法による証明 (復習)授業内容を整理し疑問点を確認する (予習)教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第10回 第1回授業内試験 試験範囲：第1章～第3章の内容
- 第11回 第5章 述語論理の記号言語・論理式・unique readability (復習)授業内容を整理し疑問点を確認する (予習)教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第12回 具体的解釈：論理式と日常言語の命題 (復習)授業内容を整理し疑問点を確認する (予習)教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第13回 具体的解釈と形式化・翻訳手続き1：原子論理式と真理関数 (復習)授業内容を整理し疑問点を確認する (予習)教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第14回 具体的解釈と形式化・翻訳手続き2：量化論理式 (復習)授業内容を整理し疑問点を確認する (予習)教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第15回 具体的解釈と形式化・翻訳手続き3：多重量化と複雑な論理式 (復習)授業内容を整理し疑問点を確認する (予習)教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第16回 第6章 述語論理のモデル理論：真理値の定義 (復習)授業内容を整理し疑問点を確認する (予習)教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第17回 真理値の確認手続き1：単純な論理式の解釈と真理値 (復習)授業内容を整理し疑問点を確認する (予習)教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第18回 真理値の確認手続き2：複雑な論理式の解釈と真理値 (復習)授業内容を整理し疑問点を確認する (予習)教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第19回 妥当性・充足可能性・モデル (復習)授業内容を整理し疑問点を確認する (予習)教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第20回 第2回授業内試験 試験範囲：第5章～第6章の内容
- 第21回 第7章 述語論理のタブロー：タブローの定義 (復習)授業内容を整理し疑問点を確認する (予習)教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第22回 述語論理 タブロー法による証明1：論理式の証明 (復習)授業内容を整理し疑問点を確認する (予習)教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第23回 述語論理 タブロー法による証明2：推論の証明 (復習)授業内容を整理し疑問点を確認する (予習)教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]

- 例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第24回 第三回授業内試験 範囲：第7章の内容
- 第25回 第4章 命題論理の健全性定理・完全性定理 (復習) 授業内容を整理し疑問点を確認する (予習) 教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第26回 第8章 述語論理の健全性定理 (復習) 授業内容を整理し疑問点を確認する (予習) 教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第27回 第8章 述語論理の完全性定理1: Hintikka集合とHintikkaの定理 (復習) 授業内容を整理し疑問点を確認する (予習) 教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第28回 第8章 述語論理の完全性定理2: モデルの存在定理・体系タブロー (復習) 授業内容を整理し疑問点を確認する (予習) 教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第29回 タブローの完成と反例の構成1: 閉じない枝からの反例構成 (復習) 授業内容を整理し疑問点を確認する (予習) 教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]
- 第30回 タブローの完成と反例の構成2: 有限パラメタとHintikka集合の構成 (復習) 授業内容を整理し疑問点を確認する (予習) 教科書の例題・練習問題を解く [合計 180分]

教科書は初等論理学(第一階述語論理)の国際的に標準的な内容だが、初学者には内容量が多く感じられるかもしれない、受講者の理解の度合いによって授業の進行は変わりうる。授業内試験3回、定期試験1回の計4回で成績評価をする予定だが、場合によっては授業内試験を2回に減らすこともありうる。また、メタ論理的な内容の第4章と、とくに第8章は、進度によっては扱いきれない場合がある。いずれにしても、受講者の理解を第一に優先するので、受講者の同意を得たうえでその都度調整する。

【授業の進め方】

中学高校の数学の授業に似た進め方をする。解説講義・例題解法・受講者による問題解答演習を繰り返す。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①『論理学入門』 ②丹治信春 ③筑摩書房 ④2014 ⑤¥ 1,188 ⑥ISBN-13: 978-4480095183

このほか、内容理解のためのハンド・アウトを適宜用意する。

【参考図書】

- E.J.レモン『論理学初歩』世界思想社
 戸田山和久『論理学を作る』名古屋大学出版会
 N.Smith, Logic: The Laws of Truth, Princeton University Press
 V.Goranko, Logic as a Tool: A Guide to Formal Logical Reasoning, Wiley
 P.Smith, An Introduction to Formal Logic, Cambridge University Press
 D.Goldrei, Propositional and Predicate Calculus: A Model of Argument, Springer
 C.C.Leary/I.Kristiansen, A Friendly Introduction to Mathematical Logic, Milne Library
 D.Bostock, Intermediate Logic, Oxford University Press
 I.Chiswell/W.Hodges, Mathematical Logic, Oxford University Press
 R.Smullyan, First-Order Logic, Dover Publications
 M.Fitting, First-Order Logic and Automated Theorem Proving, Springer
 D.van Dalen, Logic and Structure, Springer
 J. von Plato, Elements of Logical Reasoning, Cambridge University Press

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 50% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

3回の授業内試験(あわせて50%)と定期試験(50%)の、合計4回のテストで判定する。

【履修上の心得】

授業をただ聞くだけ、教科書を定期試験前に漫然と眺めるだけでは「けっして」単位習得はできない。論理学を身に着けるには、掛け算九九を覚え、百ます計算のドリルを解く小学生のように、「紙と鉛筆」を使い自分の手を動かして理解することが必須だということを肝に銘じてほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

初級レベルである。過去の受講者の感想では、難易度は「中学校数学のレベル」だそうだ。大体そのくらいと思ってよいと思う。数学や記号が苦手な人は、それを克服するよいチャンスかもしれない。

科目名	クリティカルシンキング A
	論証のトレーニング
教員名	渡邊 忠

【授業の内容】

自然言語による論証（演繹的な判断推理）についての講義と演習

【到達目標】

論理的に考え、読み、書き、推論し、議論するために必要な基礎知識とスキルを身につけること

【授業計画】

- 第1回 論証とは何か。論証の分類と図による表示。(復習)配布教材の問題を解く。(予習)配布次回教材を読む。[合計180分]
- 第2回 論証図による論証分析。(復習)配布教材の問題を解く。(予習)配布次回教材を読む。[合計180分]
- 第3回 演繹的論証：否定の理解。(復習)配布教材の問題を解く。(予習)配布次回教材を読む。[合計180分]
- 第4回 演繹的論証：否定とDe Morgan法則。(復習)配布教材の問題を解く。(予習)配布次回教材を読む。[合計180分]
- 第5回 演繹的論証：条件文。(復習)配布教材の問題を解く。(予習)配布次回教材を読む。[合計180分]
- 第6回 演繹的論証：条件文の逆・裏・対偶。(復習)配布教材の問題を解く。(予習)配布次回教材を読む。[合計180分]
- 第7回 演繹的論証：条件文の書き換え演習。(復習)配布教材の問題を解く。(予習)配布次回教材を読む。[合計180分]
- 第8回 演繹的論証：定言的三段論法。(復習)配布教材の問題を解く。(予習)配布次回教材を読む。[合計180分]
- 第9回 演繹的論証：Venn図。(復習)配布教材の問題を解く。(予習)配布次回教材を読む。[合計180分]
- 第10回 演繹的論証：三段論法のVenn図による分析。(復習)配布教材の問題を解く。(予習)配布次回教材を読む。[合計180分]
- 第11回 演繹的論証：三段論法のVenn図による分析つづき。(復習)配布教材の問題を解く。(予習)配布次回教材を読む。[合計180分]
- 第12回 演繹的論証：総合問題。(復習)配布教材の問題を解く。(予習)配布次回教材を読む。[合計180分]
- 第13回 非演繹的論証：非演繹的論証の類型。(復習)配布教材の問題を解く。(予習)配布次回教材を読む。[合計180分]
- 第14回 誤謬推理。(復習)配布教材の問題を解く。(予習)配布次回教材を読む。[合計180分]
- 第15回 省略論証と反論。(復習)配布教材の問題を解く。(予習)配布次回教材を読む。[合計180分]

【授業の進め方】

毎回、教材を配布する。初回を除き、予習してあることを前提に、事前配布教材に沿って解説講義と問題演習をする。当日配布教材を解き、残りは自宅で復習する。必ず予復習をし勤勉に問題を解かないと、何一つ身に付かず単位取得もおぼつかない。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は用いず、印刷教材を用意する。

【参考図書】

- A.トムソン『論理のスキルアップ』(春秋社)
『倫理のブラッシュアップ』(同)
- 野矢茂樹『新版 論理トレーニング』(産業図書)
- M.Salmon, Introduction to Logic and Critical Thinking, Cengage Learning
- T.Govier, A Practical Study of Argument, Wadsworth Publishing
- A.J. Blair/R.H. Johnson, Logical Self-Defense, International Debate Education Association
- F.H.van Eemeren/R.Grootendorst/A.F.Snoeck Henkemans, Argumentation: Analysis, Evaluation, Routledge
- F.H.van Eemeren/B.Garssen/T.van Haaften/E.C. W.Krabbe, Handbook Argumentation Theory, Springer
- S. Sarkar/P. Fosl, The Critical Thinking Toolkit, Wiley-Blackwell

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 50% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

3回の授業内試験(50%)と定期試験(50%)の、合計4回のテストで判定する。

【履修上の心得】

地味な問題演習が延々と続く。興味と忍耐力を維持できないと、ただ苦痛に満ちた時間が過ぎていくだけだろう。それを承知の上で受講してほしい。科目内容の特性から、あまり多人数でない方が効果は高いと思われる。

科目名	国語表現法A
	国語表現への積極的展開
教員名	大上 忠幸

【授業の内容】

大学生として、また卒業後、社会で活躍するため、最低限身につけておかなければならない基礎的な日本語力およびレポートや小論文の書き方を養うことを目標とする。講義では毎回、テキストおよび毎回配布するプリント(漢字を含む)の練習問題を通して基礎力のアップを図っていく。また、原稿用紙等を書く作業を通して文章力アップを目指す。

【到達目標】

1. 基本的な敬語を意識して使えるようになる
2. 話し言葉と書き言葉を区別できるようになる
3. 意見文を書けるようになる

【授業計画】

第1回 ガイダンス

授業の予定および評価方法の説明、他者紹介

第2回 敬語表現1

敬語(尊敬語)を理解し適切に使う

第3回 敬語表現2

敬語(謙譲語、丁寧語)を理解し適切に使う

第4回 手紙の表現

敬語を適切に使って手紙文を書く

第5回 電子メール

電子メールのルールを理解し、良い電子メールを書く

第6回 常体文と敬体文

常体文と敬体文を混ぜないで書くルールを学ぶ

第7回 話し言葉と書き言葉

話し言葉と書き言葉の違いを知り適切に文章を書く

第8回 段落分け

適切な段落に分けて文章を書く

第9回 レポートとは

レポートと作文の違いを知り、レポートとは何かを学ぶ

第10回 レポートの基礎

レポートを書く上で基礎となる意見文を書く

第11回 レポートで使う語彙や表現

レポート(学術的な文章)で使う語句や表現を学ぶ

第12回 レポートの書き方・まとめ方

何をどう書くかを構成(序論・本論・結論)とともに考えて書く

第13回 模範例に学ぶレポートの型

レポートの模範例からレポートの書き方(型)を学ぶ

第14回 結論・参考文献の書き方

結論の役割を理解し参考文献一覧の書き方を学ぶ

第15回 総まとめ

15回の振り返り

第1回 ガイダンス 授業の予定および評価方法の説明、他者紹介

第2回 敬語表現1 敬語(尊敬語)を理解し適切に使う

第3回 敬語表現2 敬語(謙譲語、丁寧語)を理解し適切に使う

第4回 手紙の表現 敬語を適切に使って手紙文を書く

第5回 電子メール 電子メールのルールを理解し、良い電子メールを書く

第6回 常体文と敬体文 常体文と敬体文を混ぜないで書くルールを学ぶ

第7回 話し言葉と書き言葉 話し言葉と書き言葉の違いを知り適切に文章を書く

第8回 段落分け 適切な段落に分けて文章を書く

第9回 レポートとは レポートと作文の違いを知り、レポートとは何かを学ぶ

第10回 レポートの基礎 レポートを書く上で基礎となる意見文を書く

第11回 レポートで使う語彙や表現 レポート(学術的な文章)で使う語句や表現を学ぶ

第12回 レポートの書き方・まとめ方 何をどう書くかを構成(序論・本論・結論)とともに考えて書く

第13回 模範例に学ぶレポートの型 レポートの模範例からレポートの書き方(型)を学ぶ

第14回 結論・参考文献の書き方 結論の役割を理解し参考文献一覧の書き方を学ぶ

第15回 総まとめ 15回の振り返り

【授業の進め方】

講義とともに以下の演習的な活動を行なう。

基礎的な日本語力やレポート、小論文の書き方を養うため、毎回の小テストやテキストおよび毎回配布する練習問題を通して基礎力アップを図る。

原稿用紙等を書く作業を通して文章力アップを目指す。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①新版 日本語表現法 ②日本語表現研究会 ③アイ・ケイコーポレーション ④2012年10月 ⑤2,000円(税抜) ⑥ISBN978-4-87492-303-0 C3081

教科書の練習問題を課題として使用します。

【参考図書】

特にありません。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 20% レポート・課題 50% 受講態度 30%

特記事項

受講態度は授業内の発表や配布プリントの提出を含む。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

3分の2以上の出席がなければ評価の対象になりません。

【履修上の心得】

配布プリントで提出を求められたものについては必ず提出すること。

【科目のレベル、前提科目など】

特にありません。

科目名	国語表現法B
	国語表現への実践的展開
教員名	大上 忠幸

【授業の内容】

大学の授業等で使われる文章表現を学習し、レポート、論文作成に必要なアカデミックリテラシー（読み書き能力）を身につける。前半の回では演習方式で様々な種類の文章を書く練習をし、後半の回でレポートの書き方を実際にレポート作成を通して学ぶ。

【到達目標】

1. レポート・論文作成に必要なアカデミックライティングの能力を習得する
2. 大学生として適切な語彙、文型を拡充する

【授業計画】

第1回 ガイダンス

授業の予定および評価方法の説明、他者紹介

第2回 400字意見文

第3回 400字意見文フィードバック、意見文（条件つき）

第4回 記録・通信文

第5回 電子メール

電子メールのルールを理解し、良い電子メールを書く

第6回 小論文とは何か

第7回 引用のルールと書き方および注・参考文献の書き方

第8回 小論文、レポートにおける統計資料の活用方法とよく使われる文型

第9回 図表、グラフの分析の表現、まとめ方

第10回 レポートの作成①

テーマの決め方、絞り方

第11回 レポートの作成②

テーマの決定、文献資料探し

第12回 レポートの作成③

全体の構成を考え、序論を書く

第13回 レポートの作成④

序論の完成および本論・結論の骨子を考えて書く

第14回 レポートの作成⑤

レポートの完成および提出（表紙や参考文献の書き方）

第15回 総まとめ

各レポートの評価と紹介

第1回 ガイダンス 授業の予定および評価方法の説明、他者紹介

第2回 400字意見文

第3回 400字意見文フィードバック、意見文（条件つき）

第4回 意見文フィードバック、説明文

第5回 記録・通信文

第6回 小論文とは何か

第7回 引用のルールと書き方および注・参考文献の書き方

第8回 小論文、レポートにおける統計資料の活用方法とよく使われる文型

第9回 図表、グラフの分析の表現、まとめ方

第10回 レポートの作成① テーマの決め方、絞り方

第11回 レポートの作成② テーマの決定、文献資料探し

第12回 レポートの作成③ 全体の構成を考え、序論を書く

第13回 レポートの作成④ 序論の完成および本論・結論の骨子を考えて書く

第14回 レポートの作成⑤ レポートの完成および提出（表紙や参考文献の書き方）

第15回 総まとめ 各レポートの評価と紹介

【授業の進め方】

前半は講義とともに大学生として必要とされる日本語力を養うため、小テストやテキスト、配布プリント等で演習的に実力アップを図る。

後半は実際にレポートを書き上げていくための実践的に技術や方法を学んでいく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①新版 日本語表現法 ②日本語表現研究会 ③アイ・ケイコーポレーション ④2012年10月 ⑤2,000円（税抜 ⑥ ISBN978-4-87492-303-0 C3081

教科書の練習問題を課題として使用します。

【参考図書】

佐々木瑞枝、村澤慶昭、細井和代、藤尾喜代子『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』2001年, The Japan Times

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 20% レポート・課題 50% 受講態度 30%

特記事項

受講態度は授業内の発表や配布プリントの提出を含む。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

3分の2以上の出席がなければ評価の対象になりません。

【履修上の心得】

配布プリントで提出を求められたものについては必ず提出すること。

【科目のレベル、前提科目など】

特にありません。

科目名	美学A
	美や芸術の源流を探る
教員名	益田 勇一

【授業の内容】

古代ギリシアからルネサンスに到るまでの美や芸術に関する思考の歴史を辿る。

それぞれの時代を代表する思想家が残した文献から、美や芸術に関する言説を拾い集め、当時それらがどのように考えられていたのかを概説する。今日われわれが抱いている美や芸術のイメージとはかなり異なる考え方が存在したことに気づかされるだろう。自分自身にとって美や芸術がどのような意味をもちうるのか、社会においてそれらがどのような役割を果たしうるのかを考察するための基礎を構築する。

【到達目標】

ヨーロッパにおいて、美や芸術についての思考がどのように始まり、中世に至るまでにそれがどのように変化してきたのかを理解し、自分なりの芸術観をもつことができる。

【授業計画】

- 第1回 美学とは(1) 美学という学問名称の由来
- 第2回 美学とは(2) 美と芸術
- 第3回 ヨーロッパ的思考の源流 ミレトス学派のアルケー／ヘラクレトスのロゴス
- 第4回 プラトン(1) 生涯と著作／イデア論／魂の三部分説
- 第5回 プラトン(2) 美のイデア／美の階層／エロス
- 第6回 プラトン(3) 模倣的技術としての芸術／芸術の意義
- 第7回 プラトン(4) 『国家』における芸術の位置づけ
- 第8回 アリストテレス(1) 生涯と著作／質料—形相論／自然美と芸術美
- 第9回 アリストテレス(2) 美の原理
- 第10回 アリストテレス(3) 悲劇の構造—ミメシスとカタルシス
- 第11回 プロティノス—新プラトン主義の美学—流出説と存在の階層／ヌース的なものとしての美
- 第12回 トマス・アキナス—中世の美学—(1)感覚的な美と神の美
- 第13回 トマス・アキナス—中世の美学—(2)美の認識と普遍論争
- 第14回 イコノクラスム—イコン（聖画像）破壊の歴史的・思想的背景
- 第15回 ルネサンスと遠近法 遠近法という世界の捉え方

【授業の進め方】

要点をスライドで写し、解説を加える。前提となる基礎知識や用語解説等については資料を配布して補うようにする。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使用しない。

【参考図書】

必要に応じて紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

【履修上の心得】

美や芸術に関するできるだけ多くの考え方を紹介したいので、授業時間内だけでは十分に説明しきれない事柄も出てくるのが予想される。資料を配布してできるだけ補うようにするが、わからない用語等については自ら調べるように努力してほしい。自分にとって芸術がどのような意味を持つのかを考えながら授業に参加してほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

美学の入門となる内容。

科目名	美学B
	近代美学の成立と展開
教員名	益田 勇一

【授業の内容】

近代美学の成立と展開の過程を概観する。

ドイツの哲学者バウムガルテンによって学問的基礎を据えられた近代美学は、カントによって認識論や倫理学とならぶ哲学の一部門としての地位を確立される。しかし、17世紀以降の近代合理主義哲学の流れのなかで展開されてきた美学は、19世紀にはいと転換のときを迎え、ニーチェの反合理主義的な思考によって解体され、多様な方向性を示す20世紀の美学へと引き継がれる。哲学の動向、社会状況の変化と連動して変わっていく芸術の歴史にも触れる。

【到達目標】

近代美学の成立と解体の過程を、哲学の動向や社会状況の変化と関連づけて理解することができる。

【授業計画】

- 第1回 17世紀という時代 近世の幕開け—デカルトとガリレオ—
- 第2回 バウムガルテン(1) 感性的認識の学としての美学
- 第3回 バウムガルテン(2) 美と完全性
- 第4回 カント(1) 先験的感性論／先験的分析論
- 第5回 カント(2) 美的判断の特色（無関心の満足）
- 第6回 カント(3) 美的判断の特色（主観的普遍妥当性）
- 第7回 カント(4) 美的判断力の特色（目的なき合目的性／範例的必然性）
- 第8回 ロマン主義の芸術観(1) シュレーゲル兄弟の近代文学論
- 第9回 ロマン主義の芸術観(2) フランスのロマン主義（ジェリコーとドラクロワ）
- 第10回 ロマン主義の芸術観(3) ドイツのロマン主義（フリードリヒ）
- 第11回 ロマン主義の芸術観(4) ショーペンハウアーの芸術論
- 第12回 ヘーゲルの美学 絶対者／弁証法／芸術の歴史的展開
- 第13回 ニーチェ(1) 永遠回帰と芸術
- 第14回 ニーチェ(2) カへの意志と芸術／芸術の生理学
- 第15回 ハイデガーの芸術論—芸術と技術—

美や芸術に関するできるだけ多くの考え方を紹介したいので、授業時間内だけでは十分に説明しきれない事柄も出てくることが予想される。

各回の講義の後には復習として、わからない用語や事柄について調べておくこと。

【授業の進め方】

要点をスライドで映し、解説を加える。前提となる基礎知識や用語解説等については資料を配布して補うようにする。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使用しない。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

【科目のレベル、前提科目など】

近代美学の入門となる内容。哲学史や世界史の知識があると理解が深まる。関連科目としては「美学A」「哲学A/B」「倫理学A/B」があげられる。

科目名	比較文化論A
教員名	范力

【授業の内容】

中国社会、文化について学ぶことは、我々の視野を広めるばかりでなく、我々自身を、さらには日本という国をより良く理解することにもなる。中国という世界を広く理解し、日本の置かれた立場を認識しておくことは、我々の社会をより一層活力のあるものにして行くためにも重要である。

授業では、前期（A）後期（B）を通じ中国、韓国、インド、オーストラリア、アフリカ、欧米諸国などの特性及び日本との関係について学び、最終的には学生諸君とともに世界の中で日本が目指すべき将来の姿について考えたい。

【到達目標】

中国の文化や社会についての理解を深めるとともに、異なった文化、社会に対する寛容な心を養う。

これらの文化、社会の日本にとっての重要性についての理解を深める。

翻って、日本の文化や社会の特性についての理解を深める。社会に出た際に、国際的関連性を理解して仕事に取り組める能力を養う。

期末レポートの執筆を通じて、自分自身で考える力を養う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 賢くなる方法とは——知識＋アルファ
- 第3回 「小泉元総理に結婚相手を紹介したら、Sをやるよ！」
- 第4回 交流という視点から見た日本と中国
- 第5回 中国の近代化と日本の近代化
- 第6回 中国に生きる（経験談）
- 第7回 中国人大学生の五つのタイプ
- 第8回 日本の新幹線と中国の「高铁」
- 第9回 各国トイレ比較
- 第10回 中国映画鑑賞会『生きる』
- 第11回 中国を正しく理解するため
- 第12回 日本は集団主義、中国は個人主義？
- 第13回 和食・中華とカルチャーショック
- 第14回 八卦（はっけ）——中国式の占いで君の悩みを占ってみよう
- 第15回 まとめ、目的達成かチェック

日中両国は近くて遠い。日中の異同を徹底的に調査、研究しながら、それぞれの文化を比較していく。

【授業の進め方】

講義、プレゼン、グループディスカッション、ビデオ鑑賞、パソコン使用授業、小テスト、ディベート、その他

【教科書(必ず購入すべきもの)】

授業中に指示、配布する。

【参考図書】

范力編著『民主主義を相対化する中国』時潮社、2016年

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 30% レポート・課題 50% 受講態度 20%

特記事項

レポートや授業への貢献度などによる総合的に評価する。

【履修上の心得】

できるだけ講義対象地域についての解説書や新聞を読み、質問及び意見を準備して来て欲しい。

【科目のレベル、前提科目など】

比較文化論Bも受講することが望ましい。

科目名	比較文化論A
	北アメリカ
教員名	高畑 昭男

【授業の内容】

アメリカ合衆国は北米大陸の大部分を占め、その北側にはカナダ、南側にメキシコが国境を接している。アメリカとカナダは、かつて英国植民地から独立して分かれた歴史を共有し、いわば兄弟の関係にある。一方、メキシコは、かつてスペイン植民地であった歴史から、言語はスペイン語を主とし、人種・文化的には中南米諸国と兄弟の関係にある。このように、北米大陸を構成するカナダ、アメリカ、メキシコはそれぞれが隣り合いながら、南北米大陸全体へとつながっている。本講座は、アメリカを中心としつつ、カナダ、メキシコとの関係にも目を配りながら、それぞれの歴史、社会、文化、伝統、宗教などの違いや共通点を比較研究し、21世紀へ向けて北アメリカがどのような地域社会をめざしているかを学ぶ。合わせて、日本の文化や歴史、社会との違いについても比較しながら、よりよい世界と日本をめざすための工夫を探る。

講義の大部分はアクティブ・ラーニングの視点や手法を数多く取り込んだものとする。学生による自主的なチーム研究を中心とし、発見学習やグループ・ディスカッション、グループ・ワークを多用した「参加型」クラスをめざしている。受講生はまず自分たちで数人規模のチームを編成し、3カ国のいずれかについて自由研究テーマを選び、新たな発見を楽しみながら積極的に自由研究を進める。期末にチームごとに最終プレゼンテーションを行い、個人別の期末レポートと合わせて成績を評価する。「参加型クラス」を望まず、あるいはチーム作業に関心を持っていない人等には受講を勧めない。また、研究チームに所属しない人は評価対象としないので受講の際に注意してほしい。

【到達目標】

1. 北アメリカを構成するアメリカ、カナダ、メキシコの歴史や文化、伝統、その背景に関する基礎知識を深める。
2. 文化や歴史などの違いを各国がいかに吸収し、共存しているかを考える比較研究の視点を学ぶ。
3. 多民族・多文化国家が国民をまとめる上でどんな工夫をしているかを学び、共存・共生の豊かな発想を育てる。
4. 比較文化のさまざまな方法論を学び、それを生かす工夫を考える探究心へつなげる。
5. 日本の文化や伝統、社会との違いについて考え、よりよい世界を築くための工夫や視点、発想を身につける。
6. チームによる発見学習や問題解決学習、共同研究に親しみ、協調性やチーム作業の意義を学ぶ。
7. 人前で堂々と研究成果を発表するプレゼンテーションの能力や技術を磨く。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション。講師の体験などを交えて講義の概要、主な狙いなどを紹介する。チームによる自由研究の進め方を説明し、チーム編成作業を進める。自主編成チームによる発見学習、調査学習、グループ・ディスカッション、グループ・ワークを中心とするアクティブ・ラーニング方式に基づいていることを詳しく説明し、学生たち自身に納得させ、自覚を高める。ICTを活用した研究手法や発表方法などについても説明する。
- 第2回 チーム編成。受講生は3～6人程度の研究チームを編成し、希望に応じてアメリカ、カナダ、メキシコのいずれかを選び、歴史、文化、伝統、宗教などの分野でチームの自由研究テーマを決める。それらをクラスに紹介する（研究テーマは後で変更自由）。講師との連絡・調整役としてチームリーダーを選ぶ。各チームは自分たちで主体的に発見学習、問題学習、調査学習を進めるためにディスカッションを重ね、研究したいテーマを持ち寄ってチーム研究テーマの選定を進めていく。
- 第3回 講義方式による各国の歴史と文化（アメリカ1）。国のなりたちと歴史、文化など。3カ国は欧州植民地だった歴史が共通している。英国植民地として始まったアメリカは、当初オランダ人（ニューヨーク）、カナダ（フランス）など欧州列強が入り混じって領土争いを展開した。
- 第4回 歴史と文化（アメリカ2）建国の過程でアフリカから多数の黒人奴隷を輸入し、南部では奴隷を使った農園でタバコ、トウモロコシ、綿花栽培で経済を豊かにした。今日の黒人問題はここから始まる。アメリカは領土を増やすために、ロシアとフランス（ナポレオン皇帝）から土地を買い上げた。プロテスタント系のアングロサクソン人が主流となっていく。
- 第5回 歴史と文化（カナダ）。フランス植民地と英植民地が並存したため、今も公用語は英語とフランス語。とくにケベック州はフランス系が多いなどの特徴がある。ケベック州とアメリカ・ルイジアナ州の関係。多民族・多文化国家のルーツ。
- 第6回 歴史と文化（メキシコ）。かつて誇り高いインカ帝国やアステカ文明が栄えたが、スペイン人の侵略によって植民地化され、カトリック教を強制的に移入された。その結果、アステカ系原住民とスペインなど白人系、混血系（メスティーソ）に大きく分かれ、今でも貧富の格差や人種差別につながっている。
- 第7回 チーム研究の中間発表（ミニプレゼン）の準備。各チームは自由研究の進捗状況について中間報告をまとめ、チームがどんな作業を展開しているかなどについて、クラス全体に発表する準備を行う。障害や問題点などがあれば、講師が助言し、調整する。
- 第8回 チーム研究の中間発表（ミニプレゼン）。各チームは自由研究の進捗状況をクラスに報告する。問題点などがあれば、講師が助言する。リアクションペーパーの提出。
- 第9回 チーム研究の中間発表（ミニプレゼン続き）。リアクションペーパーの提出。
- 第10回 映像資料による各国の比較（カナダ）。豊かな自然、多彩な民族。極北からアメリカ国境に至る様々な民族性と多文化国家の紹介。

- 第11回 映像資料による各国の比較（アメリカ）。ドル札に見る強烈な「例外主義」思想。独立精神に込められた建国思想など。
- 第12回 映像資料による各国の比較（メキシコ）。誇り高いアステカ文明とラテン文化の光と影、超大国と隣り合わせの複雑な歴史と民族感情など。北米自由貿易協定(NAFTA)に見るカナダ、アメリカ、メキシコの経済統合。相違を克服する工夫のあり方。
- 第13回 チーム研究最終発表（最終プレゼン）の準備作業。チームごとに発表の内容、方法、レジメ作成、発言者の調整などの作業を行う。問題点などがあれば講師が助言し、調整する。
- 第14回 チーム研究発表（最終プレゼン）。チーム自由研究の成果を最終プレゼンとしてクラスに発表する。受講生は他チームの発表を聞いた感想、評価などを学生評価票（リアクションペーパー）に記入して提出する。
- 第15回 チーム研究発表（続き）と全体のまとめ。各チームの最終プレゼンを聞き、学生評価票に記入して提出。最終講義終了時に、個人別に「このクラスで何を学んだか」をテーマとした期末レポートを提出する。

チーム研究を中心とする本講義の性格上、チーム編成やテーマ設定について学生諸君の主体的な意欲が何よりも大切である。毎年のことながら、講義終了時点で振り返ると、主体性のある人が多いチームは、研究内容においてもプレゼンにおいても優れたものがある。

その一方で、「単位がとればよい」といった消極的な態度が目立つチームは、研究内容もプレゼンも見劣りがする。学生諸君に主体性を発揮するよう指導していくことは講師の責任でもあるが、やはり受講する以上は積極的に主体的意欲をもって学ぼう心がけてほしい。また、そうしたほうがチームにとっても個人にとっても新たな発見の楽しさや喜びを得る機会が多いはずである。

【授業の進め方】

1. アクティブ・ラーニングの手法を多用し、チーム作業を中心とする「参加型」クラスとする。受講生はチームを編成し、自由にテーマを決めて、発見学習、調査学習、チーム・ディスカッションを通じて自主研究を行う。
2. 何よりも楽しみながら研究する態度と主体的な意欲が大切である。
3. チーム作業を重視する。リーダーを中心に協調性を発揮し、自主的でユニークな研究を展開したい。
4. チーム作業と最終プレゼンは全員参加、全員発言を原則とする。各自でプレゼン技術を磨く。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

とくに指定しない。講師が毎回レジメなどの資料を作成して配布する。

【参考図書】

必読ではないものの、『北アメリカ』（阿部齊、自由国民社）、『早わかりアメリカ』（池田智他著、日本実業出版社）、『物語ラテン・アメリカの歴史』（増田義郎著、中公新書）、『物語メキシコの歴史』（大垣貴志郎著、中公新書）など北米3カ国の歴史、文化、民族、社会に関する教養書を自主的に読んでおくことが望ましい。チームで輪読したり、内容や感想を話し合ったりしておく、講義が一層わかりやすくなる。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

(1)チーム研究発表40%、(2)個人の期末レポート40%、(3)受講態度など平常点20%—をもとに評価する。期末試験はしない。平常点には受講態度の一環として出席率も当然参考にする。全ての授業回数の2/3以上に出席していることが評価の必須条件である。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

1. アクティブ・ラーニングの視点に基づき、チーム作業、協調性、ICT活用のあり方などを重視する。
2. チーム研究参加は必須である。チームに所属しない人、チーム作業に参加しない人は評価対象としない。

【履修上の心得】

講義で話すことは導入でしかない。研究発表では、各個人とチーム全体の自主性と積極性、協調性が問われる。ふだんからアメリカ、カナダ、メキシコに関するニュースや教養書、旅行ガイドブックなどを積極的に探して読み、チーム内でよく話し合うことが大切である。自分たちで選んだ研究テーマに進んで取り組み、楽しみながら関心を広げていけるか、グループ作業を生かせるかなどが研究発表の内容および成績評価を左右する。

【科目のレベル、前提科目など】

入門編に相当。専門的な知識や用語の丸暗記は不要である。異なる文化を比較して地域社会に役立てる大きな発想と教養を深める。個人およびチームによる自発的で積極的な姿勢を評価の重要な柱としたい。

科目名	比較文化論B
教員名	范力

【授業の内容】

中国社会、文化について学ぶことは、我々の視野を広めるばかりでなく、我々自身を、さらには日本という国をより良く理解することにもなる。中国という世界を広く理解し、日本の置かれた立場を認識しておくことは、我々の社会をより一層活力のあるものにして行くためにも重要である。

授業では、前期（A）後期（B）を通じ中国、香港、台湾、インド、オーストラリア、アフリカ、欧米諸国などの特性及び日本との関係について学び、最終的には学生諸君とともに世界の中で日本が目指すべき将来の姿について考えたい。

【到達目標】

中国の文化や社会についての理解を深めるとともに、異なった文化、社会に対する寛容な心を養う。

これらの文化、社会の日本にとっての重要性についての理解を深める。

翻って、日本の文化や社会の特性についての理解を深める。社会に出た際に、国際的関連性を理解して仕事に取り組める能力を養う。

期末レポートの執筆を通じて、自分自身で考える力を養う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ごあいさつの仕方について
- 第3回 自民党「独裁」？それとも共産党独裁？
- 第4回 日中食文化の比較
- 第5回 格差と華西村
- 第6回 日本と欧州との教育はここが違う
- 第7回 映画鑑賞会・正義の行方
- 第8回 メイドインチャイナと北京オリンピック
- 第9回 日本はどうみられるか
- 第10回 インドと中国との比較
- 第11回 中国とどう付き合えば良いか
- 第12回 日本と中国、それぞれの抱えている問題と解決策
- 第13回 日本とアメリカから見た中国
- 第14回 東洋思想と西洋思想
- 第15回 まとめ、目的達成かチェック

日中両国は近くて遠い。日中の異同を徹底的に調査、研究しながら、それぞれの文化を比較していく。

【授業の進め方】

講義、プレゼン、グループディスカッション、映画鑑賞、その他

【教科書(必ず購入すべきもの)】

授業中に指示、配布する。

【参考図書】

范力編著『民主主義を相対化する中国』時潮社、2016年

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 30% レポート・課題 50% 受講態度 20%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

レポートや授業への貢献度などによる総合的に評価する。

【科目のレベル、前提科目など】

比較文化論Aの履修が望ましい。

科目名	比較文化論B
	ヨーロッパ
教員名	高畑 昭男

【授業の内容】

一口に「ヨーロッパ」といっても、例えば中欧のオーストリアと島国の英国とでは、文化、社会、歴史、伝統、宗教、民俗・習慣など多くの点で違いがある。欧州諸国の多くは過去に王室を擁し、英国やスウェーデンなどは現在も王室を堅持しているが、他の国々は共和国になっている。そうした違いがあるにもかかわらず、多くの国々は「欧州統合」の長いプロセスをたどって欧州連合(EU)という超国家連合体を構成している。文化や習慣の違いを認め合いながら、共存共栄を図っている。本講座は、文明や文化史を軸としてヨーロッパ諸国の歴史や文化、社会、伝統、宗教、民族などの違いとともに、共通点についても比較研究する。さらには、日本との違いや共通点に関心を広げることでよりよい世界を築くための工夫について学びたい。

講義の大部分はアクティブ・ラーニングの視点や手法を数多く取り込んだものとする。受講生による自主的なチーム研究を中心とし、発見学習やグループ・ディスカッション、グループ・ワークを多用した「参加型」クラスをめざしている。受講生はまず自分たちで数人規模のチームを編成し、ヨーロッパのいずれかの国について自由研究テーマを選び、新たな発見を楽しみながら積極的に自由研究を進める。期末にチームごとに最終プレゼンテーションを行い、個人別の期末レポートと合わせて成績を評価する。「参加型クラス」を望まず、あるいはチーム作業に関心を持っていない人等には受講を勧めない。また、研究チームに所属しない人は評価対象としないので、受講の際に注意してほしい。

【到達目標】

1. ヨーロッパの歴史、文化、伝統のルーツや背景に関する基礎知識を深める。
2. 文化、歴史、伝統の違いを各国がいかにか吸収し、共存しているかを考える比較研究の視点を学ぶ。
3. 多民族・多文化国家が国民をまとめる上でどんな工夫をしているかを考え、共存・共生の豊かな発想を育てる。
4. 比較文化のさまざまな方法を学び、それを生かす工夫を考える探究心へつなげる。
5. 日本の文化や伝統、社会との違いを考え、よりよい世界を築くための工夫や視点、発想を身につける。
6. チームによる発見学習や問題解決学習、グループ研究に親しみ、協調性やチーム作業の意義を学ぶ。
7. 人前で堂々と研究成果を発表するプレゼンテーションの能力や技術を磨く。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション。講師の体験談などを交えて、講義の概要、主な狙いなどを紹介する。チームによる自由研究の進め方を説明し、チーム編成作業を進める。自主編成チームによる発見学習、調査学習、チーム・ディスカッション、チーム作業を中心とするアクティブ・ラーニング方式に基づいていることを詳しく説明し、学生たちに納得させ、自覚を高める。ICTを活用した研究手法や発表方法などについても説明する。
- 第2回 チーム編成。受講生は3～6人程度の研究チームを編成し、ヨーロッパのいずれかの国（複数も可）を選び、歴史、文化、伝統、宗教など好きな分野でチームの自由研究テーマを決め、クラスに紹介する（研究テーマは後で変更自由）。講師との連絡・調整役としてチームリーダーを選ぶ。各チームは自分たちのグループを中心とした発見学習、問題解決学習、調査学習を進めるためのグループ・ディスカッションを重ね、研究したいテーマを持ち寄ってチーム研究テーマの選定を進めていく。
- 第3回 講義方式によるヨーロッパの歴史と文化の全体像（ヨーロッパ文明の曙）。キリスト教以前と以後のヨーロッパ文明のルーツを探る。ギリシャ、ローマ文明。ヘレニズムなど。NHK世界遺産などの映像資料を鑑賞する。
- 第4回 歴史と文化（ローマ帝国の遺産）。欧州各地に残るローマ帝国の遺産とその影響。映像資料。編成された研究チームとテーマの紹介。
- 第5回 歴史と文化（民族大移動）。ローマ人からゲルマン人へ。支配民族の交代とそれがもたらした文化的影響。フランス、ドイツ、イタリアの原型の誕生。映像資料あり。
- 第6回 歴史と文化（異文化融合とイスラム）。東ローマ帝国の衰退と多文化の融合。スペインのレコンキスタと十字軍のもたらした文化的影響。映像資料あり。
- 第7回 歴史と文化（ルネサンスとヒューマニズム）。14世紀ルネサンスがイタリアで起き、豊かな人間性と文化復興運動に発展した。チーム研究の中間発表（ミニプレゼン）の準備。各チームは研究の進捗状況をまとめ、発表準備を行う。障害や問題点などがあれば講師が助言する。
- 第8回 チーム研究の中間発表（ミニプレゼン）の準備。各チームは自由研究の進捗状況について中間報告をクラス全体に発表する。障害や問題点などがあれば講師が助言し、調整する。リアクションペーパーの提出。
- 第9回 チーム研究の中間発表（ミニプレゼン続き）。リアクションペーパーの提出。
- 第10回 歴史と文化（宗教改革と近代国家）。宗教改革を経て、各国はカトリック教会権力から自立し、絶対王政へ道を開く。
- 第11回 歴史と文化（啓蒙思想）。啓蒙思想と絶対王政への批判、近代科学、経済、思想の発展。英国など議会政治の始まりと経過を探る。
- 第12回 歴史と文化（欧州統合の歩みと意義）。二度の世界大戦を生んだ欧州は石炭、鉄鋼の戦略資源の共有を出発点に「欧州統合」の長く険しい道のりに踏み出した。その現状、課題と展望。
- 第13回 チーム研究最終発表（最終プレゼン）の準備作業。チームごとに発表の内容、方法、レジメ作成、発言者の調整などを進める。問題点などがあれば、講師が助言し、調整する。

第14回 チーム研究発表（最終プレゼン）。チーム自由研究の成果を最終プレゼンとしてクラスに発表する。受講生は他チームの発表を聞いた感想、評価などを学生評価票（リアクションペーパー）に記入して提出する。

第15回 チーム研究発表（続き）と全体のまとめ。各チームの最終プレゼンを聞き、学生評価票に記入して提出。最終講義終了時に、個人別に「このクラスで何を学んだか」をテーマとした期末レポートを提出する。

チーム研究を主体とする本講義の性格上、チーム編成やテーマ設定について学生諸君の主体的な意欲が何よりも大切である。毎年このことながら、講義終了時点で振り返ると、主体性のある人が多いチームは、研究内容においてもプレゼンにおいても優れたものがある。

その一方で、「単位がとればよい」といった消極的な態度が目立つチームは、研究内容もプレゼンも見劣りがする。学生諸君に主体性を発揮するよう指導していくことは講師の責任でもあるが、やはり受講する以上は積極的に主体的意欲をもって学ぼう心がけてほしい。また、そうしたほうがチームにとっても個人にとっても新たな発見の楽しさや喜びを得る機会が多いはずである。

【授業の進め方】

1. アクティブ・ラーニングの手法を多用し、チーム作業を中心とする「参加型」クラスとする。受講生は研究チームを編成し、自由テーマを決めて、発見学習、調査学習、チーム・ディスカッションを通じて自主研究を行う。
2. 何よりも楽しみながら研究する態度と主体的な意欲が大切である。
3. チーム作業を重視する。リーダーを中心に協調性を発揮し、自主的でユニークな研究を展開したい。
4. チーム作業とプレゼンは全員参加、全員発言を原則とする。各自でプレゼン技術を磨く。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

とくに指定しない。講師が毎回レジメなどの資料を作成して配布する。

【参考図書】

必読ではないものの、『世界史とヨーロッパ』（岡崎勝世著、講談社現代新書）、『ルネサンスとは何であったのか』（塩野七生著、新潮文庫）、『ヨーロッパ各国気質』（片野優著、草思社）などのヨーロッパの歴史、文化、民族、社会に関する教養書を自主的に読んでおくことが望ましい。チームで輪読したり、内容や感想を話し合ったりしておく講義が一層わかりやすくなる。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

(1)チーム研究発表40%、(2)期末レポート40%、(3)受講態度など平常点20%ーをもとに評価する。期末試験はしない。平常点には受講態度の一環として出席率も当然参考にする。全ての授業回数の2/3以上に出席していることが評価の必須条件である。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

1. アクティブ・ラーニングの視点に基づき、チーム作業、協調性、ICT活用のあり方などを重視する。
2. チーム研究参加は必須である。チームに所属しない人、チーム作業に参加しない人は評価対象としない。

【履修上の心得】

講義で話すことは導入でしかない。研究発表では、各個人とチーム全体の自主性と積極性、協調性が問われる。ふだんからヨーロッパ各国、地域に関するニュースや教養書、旅行ガイドブックなどを自主的に探して読み、テーマについてチーム内でよく話し合うことが大切である。自分たちで選んだ研究テーマに進んで取り組み、楽しみながら関心を広げていけるか、グループ作業を生かせるかなどが研究発表の内容および成績評価を左右する。

【科目のレベル、前提科目など】

入門編に相当。専門的な知識や用語の丸暗記は不要である。異なる文化を比較して地域社会に役立てる大きな発想と教養を深める。個人およびチームによる自発的で積極的な姿勢を評価の重要な柱としたい。

科目名	文化人類学A
教員名	結城 史隆

【授業の内容】

文化人類学は「人間」とは何かと考える学問である。その対象は時間的にはサルからヒトになった約500万年前から、空間的には今この地球上に生きている世界中の人々を含んでいる。

このような多様性をもった「人間」をさまざまな視点から比較考察し、その本質に迫ることをこの講義の目的としている。

「文化人類学A」では、人類の進化の過程や、環境に適応した食糧生産の方法と食生活、さらに家族や結婚などのような社会組織についての講義を行う。アジアの森の中で、アフリカの半乾燥地帯で、アンデスの高原で人々はどのように生きているのであろうか。世界のさまざまな文化や人間の身近な問題について学びたい人に受講して欲しい。

【到達目標】

1. 人類全般について、特にその「普遍性」と「多様性」について理解する。
2. サルからヒト、そしてその後の進化の過程を理解する。
3. 生業（ヒトはどのようにして食糧を得てきたか）を理解する。
4. 家族、親族、婚姻など社会組織の基本を理解する。
5. 女性と男性の関係や役割、相互補完性について理解する。
6. 焼畑耕作の実態を理解し、環境問題について考える。
7. モノの贈与・交換・分配の社会的意味を理解する。
8. 一般的な「言説」を再考し、自分の頭で考える姿勢を身につける。
9. 現代社会と今後の展望について考える。

【授業計画】

- 第1回 文化の特徴：「文化」って何？
- 第2回 異なる文化への眼差し：「未開人」を考える
- 第3回 文化人類学の誕生：「人間」の理解へむけて
- 第4回 フィールドワーク：異文化を調査すること
- 第5回 サルからヒトへ：ヒトはいつ殺人を犯し、来世を考えるようになったのだろうか？
- 第6回 採集狩猟民の世界：狩人たちはどのようにして何を獲ってきたのか
- 第7回 牧畜民の世界：家畜を中心として生活で、彼らは何を食べているのだろうか？
- 第8回 焼畑耕作民の世界：焼畑耕作って本当に環境破壊なの？
- 第9回 日本の原風景：50年前の日本を考える
- 第10回 男と女：男女の役割について考える
- 第11回 家族：家族にはどんな種類があるのか？
- 第12回 結婚：あなたにとって結婚とは何ですか。恋愛結婚のほうが世界では少ないのです
- 第13回 親族：親戚って誰のこと？
- 第14回 交換と贈与：あなたはなぜクリスマスやバレンタインデーに贈りものをするの？
- 第15回 現代社会とこれからの社会を考える

【授業の進め方】

授業はパワーポイントを使って講義形式をとる。さまざまな地域においてフィールド調査を行っているため、その実体験にもとづいた事例や写真の紹介で理解の手助けをしたい。

講義の最初に前回の講義の重要点をテストする。ノートなどの持ち込み参照は不可である。

遅刻してテストを受けられなかった場合は、欠席扱いとなるので注意。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特になし

【参考図書】

1. 『目からウロコの文化人類学』 斗鬼正一 2003 ミネルヴァ書房
 2. 『文化人類学がよ〜くわかる本』 杉下龍一郎 2006 秀和システム
 3. 『文化人類学を学ぶ人のために』 米山俊直、谷泰編 1991 世界思想社
- * 初心者には1と2がわかりやすい。もっと勉強したい人は3が体系的です。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 100% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

アクティブ・ラーニングの発想の原点は、ただ講義をきいて知識をインプットしていた大学授業に、アウトプットの要素を取り入れることにある。本講義は履修者多数のために細かいワークショップを実施することは不可能であるが、

アウトプットを重視するという意味で、毎回、前回の講義の重要点を記述式で書かすことにしている。これがリアクションペーパー（小テスト）である。ノート、資料などの参照は不可なので、自分の頭の中に知識を体系的に整理して回答しなければならない。そのためには、毎回復習をすることが必須となる。

授業の目的は単位を与えることではなく、受講者の知識、体験、能力を向上させることにあることを理解して履修して欲しい。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

★全回出席することを大前提とする★ → 1回だけ休んでも不合格になるという覚悟が必要したがって、シラバスを読んで第1回目から必ず出席すること。（「他の授業を見ていました」というのは理由として認めない。）

★毎回授業の最初に前回の講義の重要点をテストする。

テストは持ち込み不可で、講義中に集中して理解し、さらに復習をしなければならない。

★毎回のテストを5段階で評価し、その総合得点で評価する。15回講義があるので75点満点で44点以下は不可である。

★毎回出席していても点数が低いと不可になることがあることを了解しておくこと。

★授業をやむを得ず欠席した場合は、その理由と欠席した講義の内容を要約した「欠席講義要旨」を次回出席したときに必ず提出しなければならない。（友人などに話を聞き、ノートを見せてもらって文章で書くこと。）

★定期試験、再試験、追試験、成績不良救済のためのレポート提出などは一切行わない。

★最上級生であっても特別扱いはしないので、該当者はそのことを承知の上で履修すること。

自分の能力を向上させる意識がない、ただ、単位のために講義にできるような気持ちのある人は履修しないほうがよい。中間発表で単位取得の見込みのない人は発表する場合がある。

【履修上の心得】

講義はできるだけわかりやすくするつもりなので、「人間」の多様性と普遍性を理解し楽しんで欲しい。講義時間中は頭を整理し、理解しながらノートに要点を書くこと。集中力がない人、周囲と談話する人、居眠りする人は教室からでていってもらう。テスト中だけでなく、講義中も携帯電話を見たり使用することは絶対禁止である。守れない人は講義終了まで携帯電話を預かり、学生番号・氏名を確認の上で、返却する。新しい知識に無関心で、努力も苦勞もせずにとただ単位だけを取得したいと安易に考えている人は、受講しないほうがよい。

【科目のレベル、前提科目など】

特になし

【備 考】

特になし

科目名	文化人類学B
教員名	結城 史隆

【授業の内容】

文化人類学は「人間」とは何かと考える学問である。その対象は時間的にはサルからヒトになった約500万年前から、空間的には今この地球上に生きている世界中の人々を含んでいる。

このような多様性をもった「人間」をさまざまな視点から比較考察し、その本質に迫ることをこの講義の目的としている。

人間が他の動物と異なっていることの一つに、言語を持っていること、精神世界、神や来世などの宗教心をもっていることが上げられる。この「文化人類学B」では、人間の言語の特質や広い意味での精神世界を中心に授業を進める。

【到達目標】

1. 人類全般、特に人間の普遍性と多様性を理解する。
2. 言語や非言語によるコミュニケーションについて理解する。
3. 「宗教」と「それを信じる人々の心」について理解する。
4. 伝統的・土着的な宗教について理解する。
5. 儀礼の意味を理解する。
6. 日本人が「宗教的」民族であること理解する。
7. 「言説」にとらわれず、自分の頭で考える姿勢を身につける。

【授業計画】

- 第1回 文化人類学の誕生
- 第2回 言語の特質
- 第3回 非言語コミュニケーション
- 第4回 民間信仰（アニミズム）
- 第5回 民間信仰（トーテミズム、マナ、タブー）
- 第6回 シャーマニズム
- 第7回 病因と伝統医療
- 第8回 呪術
- 第9回 人生と通過儀礼
- 第10回 強化儀礼
- 第11回 神話
- 第12回 ハレとケガレ
- 第13回 祭り
- 第14回 一神教
- 第15回 日本の仏教と宗教の生まれるとき

【授業の進め方】

授業はパワーポイントを使って講義形式をとる。さまざまな地域においてフィールド調査を行っているので、その実体験にもとづいた事例や写真の紹介で理解の手助けとしたい。

講義の最初に前回の講義の重要点をテストする。

遅刻してテストを受けられなかった場合は、欠席扱いとなるので注意。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特になし

【参考図書】

1. 『目からウロコの文化人類学』 斗鬼正一 2003 ミネルヴァ書房
 2. 『文化人類学がよ〜くわかる本』 杉下龍一郎 2006 秀和システム
 3. 『文化人類学を学ぶ人のために』 米山俊直、谷泰編 1991 世界思想社
- * 初心者には1と2がわかりやすい。もっと勉強したい人は3が体系的です。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 100% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

アクティブ・ラーニングの発想の原点は、ただ講義をきいて知識をインプットしていた大学授業に、アウトプットの要素を取り入れることにある。本講義は履修者多数のために細かいワークショップを実施することは不可能であるが、アウトプットを重視するという意味で、毎回、前回の講義の重要点を記述式で書かすことにしている。これがリアクションペーパー（小テスト）である。ノート、資料などの参照は不可なので、自分の頭の中に知識を体系的に整理して回答しなければならない。そのためには、毎回復習をすることが必須となる。

授業の目的は単位を与えることではなく、受講者の知識、体験、能力を向上させることにあることを理解して履修して欲しい。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

全回出席することが大前提であるが、全回出席しても毎回のテストの点数が悪いと不合格になるという厳しい講義である。

自分の能力をあげる意識がない、ただ、単位のために講義にできるような気持ちのある人は履修しないほうがよい。

中間発表で単位取得の見込みのない人は発表する。

【履修上の心得】

講義はできるだけわかりやすくするつもりなので、「人間」の多様性と普遍性を理解し楽しんで欲しい。講義時間中は頭を整理し、理解しながらノートに要点を書くこと。集中力がない人、周囲と談話する人、居眠りする人は教室からでていってもらおう。テスト中、講義中に携帯電話を見たり使用することは厳禁である。もし、使用した場合は授業終了まで預かり、学籍番号・氏名を聞いたうえで返却する。新しい知識に無関心で、努力も苦勞もせずにとただ単位だけを取得したいと安易に考えている人は、受講しないほうがよい。

【科目のレベル、前提科目など】

特になし

科目名	社会学A
	社会学入門
教員名	川上 代里子

【授業の内容】

「社会学とは何か」と考えたとき、社会学は家族、集団、組織など人間関係を切り口として社会関係を分析していく学問であるといえるだろう。しかしその研究対象は幅広く、視点や方法も多様であるため、社会学の全体像を短期間で把握するのは難しい。そのため本講義では、我々の身近な問題を取り上げ、そのような問題を社会学がこれまでどのように扱ってきたか考察することから始める。学生には、ただ単に社会学についての知識を詰め込むのではなく、社会的にもものを考える能力、つまり自分の身近に起こっている問題を、個々の問題として終わらせず、それを社会的文脈に関連付けて考察する能力を、身に付けていって欲しい。その能力は他の分野の研究にも役に立つことになるだろう。

さらに講義全体を通して、社会の仕組みは、様々な社会的な「力」が作用して形作っているのだということを、学生が実感できるよう授業を進めていきたい。

【到達目標】

社会的にもものを考える能力の前提として、基本的な社会学用語を習得することを目標とする。また各回のテーマに関して、研究の流れにそって主要な理論を理解していくことを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 自我の構造：今の自分の性格を考え、社会や周りの環境から影響を受けている部分があるかどうか考えておく。そのために講義の内容について、もう一度確認する(10分)。
- 第3回 社会的役割：普段の生活における相互行為で自分が遂行している役割を挙げてみる。その役割に伴う役割期待についても考えておく。そのために講義の内容について、もう一度確認する(15分)。
- 第4回 ことばと社会：近年の英語教育の早期化について、自分の意見を考えておく。そのために必要な下調べがあれば行う(20分)。
- 第5回 社会における諸集団(1) 基礎集団と機能集団：自分の身近にある基礎集団と機能集団をそれぞれ挙げておく。そのために講義の内容について、もう一度確認する(15分)。
- 第6回 社会における諸集団(2) 組織と官僚制：自分の身近な組織(部活動など)で官僚制の逆機能といえるものを一つ挙げておく。そのために講義の内容について、もう一度確認する(20分)
- 第7回 メディアの変容(1)出版、新聞、ラジオ、映画
- 第8回 メディアの変容(2)テレビ、インターネット：マス・メディアの変容を振り返り、祖父母や両親などの家族にラジオやテレビにまつわる思い出について聞いてみる。それらをもとに現在との違いを考える(10分)。
- 第9回 日本のメディアの現状：日本のメディア状況について、日本の特徴を挙げておく。そのために講義の内容について、もう一度確認する(10分)。
- 第10回 情報化社会を考える
- 第11回 マス・コミュニケーションの理論(1)送り手の「効果」：マス・メディアにはどの程度の影響力があるのか、自分なりの意見を考えておく。そのために講義の内容について、もう一度確認する(20分)。
- 第12回 マス・コミュニケーションの理論(2)メディアと受け手、文化に関する理論：自分がメディアに接する時、どのくらい能動的にそれを行っているだろうか。よく考えてそれを選んでいるか、なぜそれを選ぶのか考えてみる。そのために講義の内容について、もう一度確認する(15分)。
- 第13回 ジャーナリズムについて考える
- 第14回 情報操作、プロパガンダ、やらせ：プロパガンダとは何を意味するのかを考えておく。またメディアの役割について考えておく。そのために第13回、第14回講義の内容について、もう一度確認する(20分)
- 第15回 まとめ

【授業の進め方】

レジメに基づく講義形式の授業である。レジメや資料は随時配布する。各テーマごとに問題演習を行う。また前回の講義の内容を参考にして、授業の最初に特定のテーマについて自分なりに考え意見を書いて提出してもらうことがある。そのための簡単な下調べを予習復習として課すことがある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①使用しない

プリントを配布する。

【参考図書】

- 『社会学』 アンソニー・ギデンズ著 而立書房
- 『マス・コミュニケーション理論上・下』 スタンリー・J・バラン/ デニス・K・デイビス著 新曜社
- * これ以外にも、各回のテーマに沿った文献を紹介することがある。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 90% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 10%

特記事項

受講態度は、授業内で指示した作業(特定のテーマについて自分の意見を書く)の提出状況などを評価する。

【履修上の心得】

前回の講義の内容を参考にして、授業の最初に特定のテーマについて自分なりに考え意見を書いて提出してもらうことがある。意見を書く際には「どのような意見を述べたか」によって評価が決まることはないので安心して欲しい。テーマとなる問題について、自分なりに考え、意見をまとめてそれを書くという作業をすること自体が大切である。まずは簡単で良いので自分なりの意見を持ち、それをフィードバックして欲しい。ただ出席するだけでなく、提示した課題に取り組み積極的に授業に参加してもらいたい。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目：特になし。入門的な科目である。

これまで社会学というものに触れたことのない学生に、「社会学的に考える」ということを経験して欲しい。

科目名	社会学B
	社会学入門
教員名	川上 代里子

【授業の内容】

「社会学とは何か」と考えたとき、社会学は家族、集団、組織など人間関係を切り口として社会関係を分析していく学問であるといえるだろう。しかしその研究対象は幅広く、視点や方法も多様であるため、社会学の全体像を短期間で把握するのは難しい。そのため本講義では、我々の身近な問題を取り上げ、そのような問題を社会学がこれまでどのように扱ってきたか考察することから始める。学生には、ただ単に社会学についての知識を詰め込むのではなく、社会的にもものを考える能力、つまり自分の身近に起こっている問題を、個々の問題として終わらせず、それを社会的文脈に関連付けて考察する能力を、身に付けていって欲しい。その能力は他の分野の研究にも役に立つことになるだろう。

さらに講義全体を通して、社会の仕組みは、様々な社会的な「力」が作用して形作られているのだということを、学生が実感できるよう授業を進めていきたい。

【到達目標】

社会的にもものを考える能力の前提として、基本的な社会学用語を習得することを目標とする。また各回のテーマに関して、研究の流れにそって主要な理論を理解していくことを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 広告宣伝と消費社会
- 第3回 農村の変化 — 農村から都市へ
- 第4回 都市の変化：農村と都市を比較し、自分はどちらに住みたいか考えておく。そのために第3、4回の講義の内容について、もう一度確認する(20分)。
- 第5回 都市の暮らしを考える：都市の暮らしは孤独か？ 都市の人間関係に焦点をあてて考えておく。そのために講義の内容について、もう一度確認する(15分)
- 第6回 コミュニティと人口減少社会：過疎化問題について、自分なりに対策を考えておく。そのために講義の内容について、もう一度確認する(15分)。
- 第7回 日本のイエとムラ：日本のイエやムラについて、現在にもその名残があるか具体例を考えてみる。そのために講義の内容について、もう一度確認する(15分)。
- 第8回 家族の諸形態、家族の機能と構造：自分の家族を事例として、家族の形態や機能を挙げてみる。そのために講義の内容について、もう一度確認する(15分)。
- 第9回 家族の変化(1) 近代家族と子どもの誕生
- 第10回 家族の変化(2) フェミニズムとジェンダー：家事分担の夫と妻の間の不公平感について、解消の方法を考えてみる。そのために第9,10回の講義の内容について、もう一度確認する(20分)。
- 第11回 少子高齢化問題を考える：少子高齢化問題について、対策を考えてみる。そのために講義の内容について、もう一度確認する(15分)。
- 第12回 環境とリスク(1)食糧事情の現実—肥満と飢餓、世界フード・ビジネスのしくみ：食料供給の偏りについて、対策を考えてみる。そのために講義の内容について、もう一度確認する(15分)。
- 第13回 環境とリスク(2)食の安全をテーマとして—遺伝子組み換え作物を考える：身の回りの食品の材料表示を確認し、遺伝子組み換え作物を使っているものはないか確認する。遺伝子組み換え食品のリスクを許容できるかどうか自分なりの意見を考えてみる。そのために講義の内容について、もう一度確認する(15分)。
- 第14回 環境問題の諸相—公害・地球環境問題：フリーライダー問題について、対策を考えてみる。そのために講義の内容について、もう一度確認する(15分)。
- 第15回 まとめ

【授業の進め方】

レジメに基づく講義形式の授業である。レジメや資料は随時配布する。各テーマごとに問題演習を行う。また前回の講義の内容を参考にして、授業の最初に特定のテーマについて自分なりに考え意見を書いて提出してもらうことがある。そのための簡単な下調べを予習復習として課すことがある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①使用しない

プリントを使用する。

【参考図書】

- 『社会学』 アンソニー・ギデンズ著 而立書房
- 『現代人の社会学・入門—グローバル化時代の生活世界』 西原和久・油井清光編 有斐閣
- * これ以外にも、各回のテーマに沿った文献を紹介することがある。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 90% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 10%

特記事項

受講態度は、授業内で指示した作業(特定のテーマについて自分の意見を書く)の提出状況などを評価する。

【履修上の心得】

前回の講義の内容を参考にして、授業の最初に特定のテーマについて自分なりに考え意見を書いて提出してもらうことがある。意見を書く際には「どのような意見を述べたか」によって評価が決まることはないので安心して欲しい。テーマとなる問題について、自分なりに考え、意見をまとめてそれを書くという作業をすること自体が大切である。まずは簡単で良いので自分なりの意見を持ち、それをフィードバックして欲しい。ただ出席するだけでなく、提示した課題に取り組み積極的に授業に参加してもらいたい。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目：特になし。社会学Aと連続して履修すると本講義の理解もより深まると思われるが、内容的に独立しているため、社会学Bのみの履修でも問題ない。

科目名	法学A(国際法を含む)
	日常生活から見る法律
教員名	河原 文敬

【授業の内容】

法律学の基本的な事項を、主に私法分野（民法や商法が主にその分野です）を対象にして説明します。法律学を通して物の見方の多様性を知ることは、今後の学習にとって意義があると考えます。

【到達目標】

基本事項の理解が目的。法に関する興味の涵養と理解の促進。
異世代の方との対話に必要な基礎知識が獲得される。

【授業計画】

主に民法分野の事例を取上げて説明をする。基本法である憲法の仕組みに言及し、その後に民法等の説明を行う。仮説的な事例を示し、法的な思考の特徴を説明する。次に以下の項目を中心に解説する予定である。

- 1回：法制度を憲法の仕組みを踏まえて紹介。国内法と国際法・条約の関連にも留意して解説する。
- 2回：私法制度の概要の説明。私法と公法。
- 3回：民事裁判と刑事裁判、権利の実現の方法。
- 4回：契約の意義、契約の自由の原則とその例外。約款に基づく取引の例。
- 5回：契約の種類、その分類の意義について。
- 6回：契約の履行を担保する制度。保証と担保物権について
- 7回：債務不履行責任
- 8回：不法行為責任とは、使用者責任と国家賠償制度の異同について。
- 9回：不法行為責任に関する判例紹介と検討
- 10回：未成年者、成年後見人制度、保佐・補助制度。
- 11回：親族・相続について。
- 12回：労働関係の法律制度の概要。
- 13回：労働法に関する事例の紹介と検討。
- 14回：現代的な問題の具体的事例を使って紹介(たばこ訴訟、自己決定に関する裁判例を題材にする予定)
- 15回：講義全体の復習。既存の法制度を維持するか変革するか、担当教員の私見の披瀝。

*理解を深めるため、各回、事前に45分程度の予習事項と135分程度の復習事項を指示する。

【授業の進め方】

講義が中心ですが、理解を深める意味でも対話的学習方法を導入する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①『法の世界へ(第7版)』 ②池田真朗他 ③有斐閣 ④2017年3月 ⑤1700 ⑥978-4-641-22088-1

出版状況に左右されるので変更があり得る。変更は開講時に指示する。

【参考図書】

講義中に伝えます。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 20%

特記事項

期末試験を中心に評価。評価方法は受講生の数が確定した時点で変更もあり得る(講義中に伝達します)。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

試験では、論理的・説得的に答案を作成して下さい。

【履修上の心得】

真面目に学習！講義中は携帯電話等を使わないこと。

【科目のレベル、前提科目など】

高校あるいは中学の「現代社会」「政治経済」の予備知識と法学への関心があれば十分です。

他に前提科目はありません。

関連科目として法学B、憲法があります。

科目名	法学B(国際法を含む)
	公法・刑事法領域を中心として
教員名	岡田 順太

【授業の内容】

法学の基本的な事項を、公法（憲法、行政法など）・刑事法の領域を中心にして説明する。なお、必要に応じて民法などの私法にも触れるが、基本的に私法領域に関しては「法学A」に譲る。

【到達目標】

法の意義や役割について、全体像を俯瞰し、体系的な理解ができるようにすることを目的とする。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション—法学の学習方法（1章）
- 第2回 公法と私法①—民法と刑法はどう違う？前編（6章）
- 第3回 公法と私法②—民法と刑法はどう違う？後編（6章）
- 第4回 刑事・民事・行政・懲戒責任①—交通事故と法的責任（7章）
- 第5回 刑事・民事・行政・懲戒責任②—交通事故と法的責任（7章）
- 第6回 統治機構の構造①—国民主権と選挙権を中心に（8章）
- 第7回 統治機構の構造②—法の成立と適用（8章）
- 第8回 人権保障の現代的課題①—プライバシー権を中心に（9章）
- 第9回 人権保障の現代的課題②—資本主義と格差社会（9章）
- 第10回 国際化と法①—世界の中の日本に生きる（10章）
- 第11回 国際化と法②—どこで生まれても一人の人間として（11章）
- 第12回 事例演習①
- 第13回 事例演習②
- 第14回 事例演習③
- 第15回 総括—法学リテラシー（12章）

【予習】教科書の該当箇所を予め読んで理解を深めておくこと（各回90～120分）。

【復習】授業内容の整理、教科書の内容の再確認など（各回90～120分）。

【授業の進め方】

主に講義形式で進めていくが、学生の理解度をはかるために発言を求めることがある。なお、講義内容とは別に演習問題を行い、一般的知識を補うこととする。後半の事例演習3回分は、予めWebClassに掲載された課題を学生が提出し（出席確認を兼ねる）、それをもとにした授業内討論を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①プレステップ法学（第3版） ②池田真朗 ③弘文堂 ④2016 ⑤1800 ⑥978-4335000942

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 0% レポート・課題 10% 受講態度 10%

【履修上の心得】

講義が中心ではあるが、教科書で適宜示された問題提起などを自発的に検討し、【能動的学修】に努めること。なお、事例演習の際には、履修者に発言を求めるので、予め関連事項の【調査】や事例【分析】を行い、自らの考えをまとめて【小レポート】を作成し、それをもとに【プレゼンテーション】することが求められる。

【科目のレベル、前提科目など】

法学初学者を対象とする。前提科目は特にない。

科目名	統計学A
	人文・社会科学で用いる統計学の基礎理論と応用
教員名	本田 重美

【授業の内容】

位置の代表値，散らばりの代表値などの統計学の基本的な考え方を学び，簡単な例題を解くことを通じ直感的に統計学を理解します。そして，記述統計から推測統計学への学問的方向性を常に念頭におき，統計学の基礎知識をを極力わかりやすく講義します。

【到達目標】

講義の最終的目標は，「入門レベルの分析手法を理解し，利用できるようになる」というところに置き，実践的に統計手法を学びます。そして，具体的な各国経済・社会のデータを用いて，社会と経済の構造と変化の方向を把握できるように導きます

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス，統計学の考え方
- 第2回 度数分布表の作り方
- 第3回 度数分布の例題
- 第4回 位置の代表値
- 第5回 メディアン，モード
- 第6回 平均の例題
- 第7回 メディアン・モードの例題
- 第8回 年齢別人口のグラフ
- 第9回 所得・貯蓄額の分布
- 第10回 散らばりの代表値
- 第11回 分散の考え方
- 第12回 標準偏差と分布
- 第13回 所得・貯蓄額の分散
- 第14回 分布の考え方
- 第15回 授業内容の復習とまとめ

学生諸君の理解を確認しながら授業を進めます。したがって授業計画は目安で授業内容は前後することがあります。

【授業の進め方】

統計データ，参考資料は随時配布します。パソコンやプロジェクターを用いて，具体的に統計処理を体験します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①経済データの統計学 ②森崎初男 ③オーム社 ④2014年8月 ⑤2,600円 ⑥978-4-274-05020-6

【参考図書】

山根太郎，統計学，東洋経済
 ホーエル，初等統計学，培風館

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 20%

特記事項

レポートは学期中に2～3度提出していただく。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席が基準を満たさないものは学期末試験を受ける資格がない。

【履修上の心得】

欠席しないこと。遅刻しないこと。

【科目のレベル、前提科目など】

科目は入門レベルです。予備知識は必要ないが、エクセルの初歩的な知識があれば、実際にデータ分析をする場合に便利です。

科目名	統計学B
	世界の集計データおよび個票データを用いた統計分析
教員名	本田 重美

【授業の内容】

統計学の基本的な考え方を復習した上で、様々な例題を解き直感的に統計学を理解するように努めます。そして、推測統計学の考え方を重視しつつ、母集団・標本の関係を極力わかりやすく講義します。

【到達目標】

講義の最終的目標は分布論および回帰分析を十分に理解し、人文・社会科学研究のために利用できるようになることです。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス, 統計学Aの復習
- 第2回 正規分布の考え方
- 第3回 正規分布表の使い方
- 第4回 データによる例題
- 第5回 標本分布
- 第6回 組み合わせと標本
- 第7回 標本分布の例題
- 第8回 相関分析
- 第9回 相関分析の応用例
- 第10回 回帰分析
- 第11回 正規方程式の導出
- 第12回 正規方程式の応用
- 第13回 仮説検定の考え方
- 第14回 個票データを用いた応用例
- 第15回 授業内容の復習とまとめ

学生諸君の理解を確認しながら授業を進めます。したがって授業計画は目安で授業内容は前後することがあります。

【授業の進め方】

統計データ、参考資料は随時配布します。パソコンやプロジェクターを用いて、具体的に統計処理を体験します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①経済データの統計学 ②森崎初男 ③オーム社 ④2014年8月 ⑤2,600円 ⑥978-4-274-05020-6

【参考図書】

山根太郎, 統計学, 東洋経済
 ホーエル, 初等統計学, 培風館

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 20%

特記事項

レポートは学期中に2~3度提出していただく。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席が基準を満たさないものは学期末試験を受ける資格がない。

【履修上の心得】

欠席しないこと。遅刻しないこと。

【科目のレベル、前提科目など】

科目は入門レベルです。予備知識は必要ないが、エクセルの初歩的な知識があれば、実際にデータ分析をする場合に便利です。

科目名	心理学A
	人間を探る科学
教員名	湯川 進太郎

【授業の内容】

本講義は、心理学を初めて学ぶ人のための概論的な授業です。心理学の研究対象は、私たち人間の生活すべてです。そのため、心理学の扱うテーマは、非常に多岐に渡ります。本講義で扱う心理学のテーマとは、具体的には、「学習」「記憶」「発達」「性格」「態度」「感情」「意思」「集団」「組織」「経済」「脳」「進化」「文化」などです。本講義では、心理学を初めて学ぶ人のために、こうした心理学の主要なテーマにおいて、それぞれ代表的なトピックを取り上げて紹介します。また、心理学という学問の歴史についても触れます。

【到達目標】

本講義を受講することによって、心理学の基礎的な知識を身につけることを第一の目標とします。そうして身につけた知識によって、自身の日常生活の中で心理学がどのように関わっているか、どのように役立っているかを考えていけるようになることを第二の目標とします。さらには、受講生それぞれの日常生活を自分自身で振り返りながら、得られた知識を将来的に役立てていけるようになることを第三の目標とします。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- ・授業の進め方
 - ・成績のつけ方（評価の仕方）
 - ・全15回の概要
 - ・心理学とはどのような学問なのか など
- 第2回 学習：古典的条件づけ、道具的条件づけ、学習理論と臨床
- 第3回 記憶：記憶の種類、記憶のプロセス、記憶の変容と目撃証言
- 第4回 発達：初期学習、愛着、アイデンティティ
- 第5回 性格：性格とは何か、類型論、特性論
- 第6回 態度：認知的整合性、態度変容（説得）、態度変容（説得）への抵抗
- 第7回 感情：感情とは何か、感情の起源、感情が認知に及ぼす影響
- 第8回 意思：原因帰属、責任の判断、集団の影響
- 第9回 集団：社会的影響、同調、冷淡な傍観者
- 第10回 組織：組織への所属感、組織内コミュニケーション、リーダーシップ
- 第11回 経済：行動経済学、ヒューリスティック、プロスペクト理論
- 第12回 脳：認知神経科学、社会脳、内側前頭前皮質
- 第13回 進化：進化論、進化心理学、進化的適応環境
- 第14回 文化：文化心理学、分析的思考と包括的思考、文化的自己観
- 第15回 心理学史：心理学以前、心理学の誕生（W. ヴント）、ヴント以降

【授業の進め方】

講義形式授業です。パワーポイントのスライドをスクリーンに映写しながら授業を進めていきます。必要に応じてプリント等を配布する場合がありますが、基本的には、各自がノート(メモ)を取りながら聴講してください。毎回(毎週)、授業の最後に、その授業に関連した事項について、小試験を実施します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使用しません。必要に応じてプリント等を配布する場合があります。

【参考図書】

- 『心理学』 無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治（編） 2004 有斐閣
『現代社会心理学特論』 森津太子（著） 2015 放送大学教育推進会
『スタンダード社会心理学』 湯川進太郎・吉田富二雄（編） 2012 サイエンス社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 45% 授業内小試験 30% レポート・課題 0% 受講態度 25%

特記事項

- ・定期試験の受験資格は、授業回数の3分の2以上に出席していることが要件です。
- ・授業内小試験は、授業の最後に、毎回（毎週）実施します。小試験の成績は、出席し解答した回（週）の答案の平均点を算出して評価します。
- ・受講態度は、「授業への積極的な参加および授業中の積極的な聴講姿勢」を評価対象とします。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

定期試験と授業内小試験と受講態度でもって、総合的に評価します。

【履修上の心得】

授業内容と関連のない私語は禁止します。私語を指摘された場合，受講態度の評価に大きく加味されます。

【科目のレベル、前提科目など】

入門(初心者) レベルです。必要な予備知識，前提となる科目は特にありません。

科目名	心理学A
	心理学の基礎
教員名	津野田 聡子

【授業の内容】

本講義では、心理学における複数の基礎的なトピックについて取り上げて概説する。心理学における主な研究アプローチとトピックについて知ることで、心理学という学問がどのように「こころ」を捉えようとしているかを理解する。

【到達目標】

- (1)心理学の基礎的なトピックを学び、理解することを通して、学問としての心理学とはどのようなものであるかがわかる。
- (2)この授業で学んだことに基づき、日常場面における心理学的ことがらについて自ら考察できるようになる。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- ・心理学とはどのような学問か
 - ・心理学的アプローチのさまざま
- 第2回 心理学における研究手法
- ・科学としての心理学
 - ・心理学における「データ」と研究手法
- 第3回 心理学の歴史①
- ・実証主義、経験主義
 - ・精神物理学
- 第4回 心理学の歴史②
- ・ヴェントの心理学
 - ・エビングハウスによる学習と記憶の実験的研究
 - ・19世紀以降の心理学
- 第5回 心の進化
- ・比較認知科学とは
 - ・人間と動物の連続性
- 第6回 心の発達①
- ・赤ちゃんの認知能力を調べる方法
 - ・愛着
- 第7回 心の発達②
- ・心の理論
 - ・ピアジェの発達段階
- 第8回 ライフサイクル①
- ・エリクソンの発達理論
- 第9回 ライフサイクル②
- ・エリクソンの発達理論
 - ・アイデンティティ地位
- 第10回 性格
- ・類型論と特性論による性格のとらえ方
 - ・性格の検査方法
- 第11回 知能
- ・知能とは
 - ・知能の理論と知能検査
- 第12回 感覚
- ・感覚の特性
 - ・精神物理学
- 第13回 知覚①
- ・知覚とは
 - ・形の知覚
 - ・ゲシュタルト要因
 - ・パターン認識
- 第14回 知覚②
- ・奥行きの知覚
 - ・知覚の恒常性
 - ・錯視

第15回 まとめ

講義進行予定は上の通りである。箇条書きで示したものは講義で説明する予定の主なトピックであるが、ここに挙げているものが講義で説明する全てではない。心理学の基礎となる幅広いトピックを扱う予定であるので、受講生は「積極的に講義内容のメモをすること」が前提となる。なお、毎回の講義において、当日に講義した内容に関するリアクションペーパーを実施する予定である。

【授業の進め方】

教員がパワーポイント資料を掲示し、講義形式で行う。受講生の理解を深める目的で、可能な限り視聴覚資料等も用いる予定である。必要に応じて印刷資料を配布することもあるが、受講生は毎回の講義において、必要事項を各自で積極的にメモをとり、理解することが原則となる。授業の最後にリアクションペーパーの提出を求める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用しない

【参考図書】

適宜、講義において紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

受講態度は、授業において実施されるリアクションペーパーの内容を主たる評価対象とする。ただし、授業進行や他の受講生の受講の妨げとなるような行為（授業と関係の無い私語等）は、受講態度の減点対象とする。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

「本講義のすべての授業回数の3分の2以上に出席していること」が定期試験の受験資格である。

【履修上の心得】

- ・教員による講義形式の科目ではあるが、受講にあたっては、講義をもとに自ら積極的かつ発展的に考えようとする気持ちを持って受講していただきたい。
- ・出席に関する不正は厳禁である。不正には厳しく対処する。
- ・受講にあたっては各自で積極的にメモを取ること。
- ・講義内容と関係の無い私語等、講義進行や他の受講生の受講の妨げとなる行為は行わないこと（評価方法の特記事項欄も参照のこと）。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目は特にない。

心理学Aと心理学Bで通常の基礎領域の心理学をカバーしている。

基礎的な内容の心理学に位置付けられる。

科目名	心理学A
	心理学をつかむ
教員名	山本 良子

【授業の内容】

- ・本講義は心理学を初めて学ぶ人のための概論的な授業です
- ・心理学という広い学問領域の中で、初めての人でも、「これだけは知っておいてほしい」という重要なトピックを取りあげて説明します
- ・すべての領域を詳しくお話しすることはできませんが、本講義を(心理学Bとあわせて)受講すれば、多くの必要な心理学の知識を得ることができます
- ・単なる知識の獲得ではなく、その知識が私たちの日常生活とどのように結びつくのかという点を考えられる授業にしたいと思っています

【到達目標】

- ・認知心理学と発達心理学について大まかな内容を理解できる
- ・授業内容を自分の言葉で説明できる
- ・授業で得た知識を自分の生活に関連づけて考えることができる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 心理学とは何か
- 第3回 認知心理学①知覚
- 第4回 認知心理学②記憶
- 第5回 認知心理学③学習
- 第6回 認知心理学④認知
- 第7回 認知心理学⑤思考
- 第8回 認知心理学⑥日常認知
- 第9回 発達心理学①乳児期の発達
- 第10回 発達心理学②幼児期の発達1
- 第11回 発達心理学③幼児期の発達2
- 第12回 発達心理学④対人関係と情動の発達
- 第13回 発達心理学⑤児童期の発達
- 第14回 発達心理学⑥青年期の発達
- 第15回 発達心理学⑦成人期・老年期の発達

教科書は使用しません。

参考資料は随時配布します。

参考図書については以下に記載のもの以外は、講義内でご紹介します。

【授業の進め方】

パワーポイントを用いて授業を進めていきます。レジュメを配付する場合がありますが、基本的にはノートテイクが必要となります。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

なし

【参考図書】

心理学をつかむ 今井久登・平林秀美・工藤恵理子・石垣琢磨(著) 有斐閣(2009年) ISBN 978-4-641-17709-3

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

期末テストの得点で評価します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席回数が規定に満たない者は、期末テストを受けることができません。

【履修上の心得】

心理学の基礎的知識を習得し、自分の身近な問題について考えてもらう力を身につけてもらいたいため、よく考え、積極的に知識を得る姿勢をもって授業に臨むことを期待します。

【科目のレベル、前提科目など】

心理学に関する入門科目です。

科目名	心理学A
	こころと行動
教員名	神戸 文朗

【授業の内容】

心理学という広い学問領域の中で、一般教養の心理学として何を伝えるかということはなかなか難しいことです。多くの入門書を見ると、知覚、学習、発達、人格、社会、といった個別領域の紹介に留まっており、それら領域を一人の（あるいは集団としての）人間のもつ多面的な能力や特徴の一部として捉えようとするものは多くはないように思います。そこで、私の心理学A、Bでは、人間とは何かという問題意識を持ち続ける中で各領域の知識を関連付けながら紹介したいと思います。これにより、皆さん自身の中で個別的な知識を超えた総合的な人間観が確立できることを望んでいます。さて、心理学は「こころ」を科学的に研究する学問といわれますが、「こころ」は直接的に見ることも触ることもできません。そこで心理学では従来から人間(より広くは動物)の行動を通して「こころ」を知ろうとしてきました。心理学Aでは、人間にとって行動とはどのような意味を持ち、どのような性質を持っているのか、という問いを中心に講義を展開していくつもりです。これによって人間と他の動物との生物学的機構の共通性が明らかになるでしょう。一方、特定の行動が選択され、特定のタイミングで出現するのは脳内での複雑な情報処理の結果であるといえます。心理学Bでは、環境から入ってくる情報がどのように処理され、どのように貯蔵され、更にはどのように環境からの情報を超えたより高度な情報処理へと進んでいくかを追いかけていこうと思います。これによって、われわれの高度な認知的能力がいかなる方法で実現されているかについて展望できればと思います。

【到達目標】

心理学Aと心理学Bを受講することにより心理学の基本的知識を習得することを到達目標とします。

【授業計画】

- 第1回 心理学から見た心と行動：こころ・行動・神経(復習2時間)
- 第2回 人の神経系と感覚支配的行動(復習2時間)
- 第3回 遺伝・環境・行動の多様化(復習2時間)
- 第4回 古典的条件付け(復習2時間)
- 第5回 オペラント条件付け(復習2時間)
- 第6回 社会的学習・運動学習・シンボル学習(復習2時間)
- 第7回 基本的動機付け：脳幹と大脳辺縁系(復習2時間)
- 第8回 大脳辺縁系の機能と本能行動(復習2時間)
- 第9回 高次動機付け：社会的動機・認知的動機(復習2時間)
- 第10回 本能行動と情動：怒りと攻撃・恐れと逃走・救援と保護(復習2時間)
- 第11回 本能行動と発達：母性行動、愛着行動、不適切な育児(復習2時間)
- 第12回 非言語的コミュニケーション(復習2時間)
- 第13回 言語的コミュニケーション(復習2時間)
- 第14回 個人差：知能・人格(復習2時間)
- 第15回 社会の中の人間：社会化・社会的認知・対人関係(復習2時間)

【授業の進め方】

授業開始時に印刷した講義資料を配布し、講義では同資料を画面に投影しながら説明します。受講生は自ら熱心にノートをとることが求められます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

なし。

【参考図書】

鹿取・杉本・鳥居編「心理学第4版」(東大出版)。同書は定評のある教科書なので、本講義では触れないテーマを含めて心理学の概要を知るために講読することを勧めます。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

成績評価は基本的に定期試験の結果に基づきます。判定基準は得られた得点分布に基づきます。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席率は受験資格の確認のために使用します。

【履修上の心得】

熱心にノートをつけることによって人間とはどのような存在なのかという点に更に興味が湧いてくることを期待します。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目はありません。心理学Aと心理学Bで通常の基礎領域の心理学をカバーしているので両科目を受講することを望みます。

基礎領域の心理学。

【備 考】

特にありません。

科目名	心理学B
	心と行動の科学
教員名	湯川 進太郎

【授業の内容】

本講義は、心理学を初めて学ぶ人のための概論的な授業です。心理学の研究対象は、私たち人間の生活すべてです。そのため、心理学の扱うテーマは、非常に多岐に渡ります。本講義で扱う心理学のテーマとは、具体的には、「知覚」「思考」「学習」「記憶」「感情」「知能」「性格」「幼児」「青年」「高齢者」「自己」「コミュニケーション」「集団」などです。本講義では、心理学を初めて学ぶ人のために、こうした心理学の主要なテーマにおいて、それぞれ代表的なトピックを取り上げて紹介します。また、心理学という学問の方法論についても触れます。

【到達目標】

本講義を受講することによって、心理学の基礎的な知識を身につけることを第一の目標とします。そうして身につけた知識によって、自身の日常生活の中で心理学がどのように関わっているか、どのように役立っているかを考えていけるようになることを第二の目標とします。さらには、受講生それぞれの日常生活を自分自身で振り返りながら、得られた知識を将来的に役立てていけるようになることを第三の目標とします。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- ・ 授業の進め方
 - ・ 成績のつけ方（評価の仕方）
 - ・ 全15回の概要
 - ・ 心理学とはどのような学問なのか など
- 第2回 知覚：ものの見え方、感じ方
- 第3回 思考：あたまを使うということ
- 第4回 学習：行動を身につける
- 第5回 記憶：コピーではない情報の蓄積
- 第6回 感情：喜怒哀楽が生まれる仕組み
- 第7回 知能：何を測っているのか？
- 第8回 性格：“その人らしさ”を理解する
- 第9回 幼児：人間らしくなる
- 第10回 青年：“子ども”から“大人”へ
- 第11回 高齢者：シニア世代の気持ち
- 第12回 自己：自分を見つめる
- 第13回 コミュニケーション：ひととかわる
- 第14回 集団：人々のまとまりと争い
- 第15回 研究法：行動から心を探る

【授業の進め方】

講義形式授業です。パワーポイントのスライドをスクリーンに映写しながら授業を進めていきます。必要に応じてプリント等を配布する場合がありますが、基本的には、各自がノート(メモ)を取りながら聴講してください。毎回(毎週)、授業の最後に、その授業に関連した事項について、小試験を実施します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使用しません。必要に応じてプリント等を配布する場合があります。

【参考図書】

- 『30分で学ぶ心理学の基礎』 今在慶一郎（編著） 2007 北樹出版
『心理学』 無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治（編） 2004 有斐閣
『スタンダード社会心理学』 湯川進太郎・吉田富二雄（編） 2012 サイエンス社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 45% 授業内小試験 30% レポート・課題 0% 受講態度 25%

特記事項

- ・ 定期試験の受験資格は、授業回数の3分の2以上に出席していることが要件です。
- ・ 授業内小試験は、授業の最後に、毎回（毎週）実施します。小試験の成績は、出席し解答した回（週）の答案の平均点を算出して評価します。
- ・ 受講態度は、「授業への積極的な参加および授業中の積極的な聴講姿勢」を評価対象とします。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

定期試験と授業内小試験と受講態度でもって、総合的に評価します。

【履修上の心得】

授業内容と関連のない私語は禁止します。私語を指摘された場合、受講態度の評価に大きく加味されます。

【科目のレベル、前提科目など】

入門(初心者) レベルです。必要な予備知識、前提となる科目は特にありません。

科目名	心理学B
	心理学の基礎
教員名	津野田 聡子

【授業の内容】

本講義は心理学Aと同様、心理学における複数の基礎的なトピックについて取り上げ、概説する。心理学における主な研究アプローチとトピックについて知ること、心理学という学問がどのように「こころ」を捉えようとしているかを理解する。なお、本講義では心理学Aよりもやや発展的な内容もあつかう。

【到達目標】

(1)心理学の基礎的なトピックを学び、理解することを通して、学問としての心理学とはどのようなものであるかがわかる。

(2)この授業で学んだことに基づき、日常場面における心理学的ことがらについて自ら考察できるようになる。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- ・心理学とは
 - ・科学としての心理学
 - ・日常での「心理学的事象」
- 第2回 動機づけとコンフリクト
- ・マズローの動機階層説
 - ・コンフリクト
- 第3回 記憶①
- ・記憶の3段階
 - ・系列位置効果
- 第4回 記憶②
- ・記憶の理論
 - ・記憶の種類
 - ・記憶の検査法
- 第5回 記憶③
- ・忘却
 - ・エビングハウスの忘却曲線と節約率
 - ・日常記憶:目撃者の証言、リアリティモニタリング
- 第6回 学習①
- ・学習とは
 - ・条件付け
- 第7回 学習②
- ・学習性無力感
- 第8回 ストレス
- ・ストレスとは
 - ・ストレスに関する主な理論と研究
- 第9回 脳と心
- ・脳の構造
 - ・認知機能
- 第10回 神経心理①
- ・脳損傷と高次脳機能障害
 - ・失認
 - ・失行
- 第11回 神経心理②
- ・失語
 - ・注意障害
 - ・健忘
- 第12回 エイジングと心理
- ・エイジングと認知機能
 - ・認知症とは
- 第13回 社会心理①
- ・流行現象
 - ・好み
- 第14回 社会心理②
- ・社会的ジレンマ
- 第15回 まとめ

講義進行予定は上の通りである。箇条書きで示したものは講義で説明する予定の主なトピックであるが、ここに挙げているものが講義で説明する全てではない。心理学の基礎となる幅広いトピックを扱う予定であるので、受講生は「積極的に講義内容のメモをすること」が前提となる。なお、毎回の講義において、当日に講義した内容に関するリアクションペーパーを実施する予定である。

【授業の進め方】

教員がパワーポイント資料を掲示し、講義形式で行う。受講生の理解を深める目的で、可能な限り視聴覚資料等も用いる予定である。必要に応じて印刷資料を配布することもあるが、受講生は毎回の講義において、必要事項を各自で積極的にメモをとり、理解することが原則となる。授業の最後にリアクションペーパーの提出を求める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用しない

【参考図書】

適宜、講義において紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

受講態度は、授業において実施されるリアクションペーパーの内容を主たる評価対象とする。ただし、授業進行や他の受講生の受講の妨げとなるような行為（授業と関係の無い私語等）は、受講態度の減点対象とする。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

「本講義のすべての授業回数の3分の2以上に出席していること」が定期試験の受験資格である。

【履修上の心得】

- ・教員による講義形式の科目ではあるが、受講にあたっては、講義をもとに自ら積極的かつ発展的に考えようとする気持ちを持って受講していただきたい。
- ・出席に関する不正は厳禁である。不正には厳しく対処する。
- ・受講にあたっては各自で積極的にメモを取ること。
- ・講義内容と関係の無い私語等、講義進行や他の受講生の受講の妨げとなる行為は行わないこと（評価方法の特記事項欄も参照のこと）。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目は特にない。

心理学Aと心理学Bで通常の基礎領域の心理学をカバーしている。
基礎的な内容の心理学に位置付けられる。

科目名	心理学B
	心理学をつかむ
教員名	山本 良子

【授業の内容】

- ・本講義は心理学を初めて学ぶ人のための概論的な授業です
- ・心理学という広い学問領域の中で、初めての人でも、「これだけは知っておいてほしい」という重要なトピックを取りあげて説明します
- ・すべての領域を詳しくお話しすることはできませんが、本講義を(心理学Aとあわせて)受講すれば、多くの必要な心理学の知識を得ることができます
- ・単なる知識の獲得ではなく、その知識が私たちの日常生活とどのように結びつくのかという点を考えられる授業にしたいと思っています

【到達目標】

- ・社会心理学と臨床心理学について大まかな内容を理解できる
- ・授業内容を自分の言葉で説明できる
- ・授業で得た知識を自分の生活に関連づけて考えることができる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション 社会心理学①自己
- 第2回 社会心理学②社会的推論
- 第3回 社会心理学③他者の理解
- 第4回 社会心理学④対人関係
- 第5回 社会心理学⑤集団
- 第6回 社会心理学⑥社会的影響
- 第7回 社会心理学⑦うわさ
- 第8回 臨床心理学①臨床心理学とは
- 第9回 臨床心理学②発達におけるの心の問題1乳幼児期
- 第10回 臨床心理学③発達における心の問題2児童期
- 第11回 臨床心理学④発達における心の問題3青年期以降
- 第12回 臨床心理学⑤心の問題への援助法「精神分析療法」
- 第13回 臨床心理学⑥心の問題への援助法「来談者中心療法」
- 第14回 臨床心理学⑦心の問題への援助法「認知行動療法」
- 第15回 まとめ

教科書は使用しません。

参考資料は随時配布します。

参考図書については以下に記載のもの以外は、講義内でご紹介します。

【授業の進め方】

パワーポイントを用いて授業を進めていきます。レジュメを配付する場合がありますが、基本的にはノートテイクが必要となります。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

なし

【参考図書】

心理学をつかむ 今井久登・平林秀美・工藤恵理子・石垣琢磨(著) 有斐閣(2009年) ISBN 978-4-641-17709-3

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

期末テストの得点で評価します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席回数が規定に満たない者は、期末テストを受けることができません。

【履修上の心得】

心理学の基礎的知識を習得し、自分の身近な問題について考えてもらう力を身につけてもらいたいため、よく考え、積極的に知識を得る姿勢をもって授業に臨むことを期待します。

【科目のレベル、前提科目など】

心理学に関する入門科目です。

科目名	心理学B
	私たちの認知能力
教員名	神戸 文朗

【授業の内容】

心理学という広い学問領域の中で、一般教養の心理学として何を伝えるかということはなかなか難しいことです。多くの入門書を見ると、知覚、学習、発達、人格、社会、といった個別領域の紹介に留まっており、それら領域を一人の（あるいは集団としての）人間のもつ多面的な能力や特徴の一部として捉えようとするものは多くはないように思います。そこで、私の心理学A、Bでは、人間とは何かという問題意識を持ち続ける中で各領域の知識を関連付けながら紹介したいと思います。これにより、皆さん自身の中で個別的な知識を超えた総合的な人間観が確立できることを望んでいます。さて、心理学は「こころ」を科学的に研究する学問といわれますが、「こころ」は直接的に見ることも触ることもできません。そこで心理学では従来から人間（より広くは動物）の行動を通して「こころ」を知ろうとしてきました。心理学Aでは、人間が生きていくために行動とはどのような意味を持ち、どのような性質を持っているのか、という問いを中心に講義を展開していくつもりです。これによって人間と他の動物との生物学的機構の共通性が明らかになるでしょう。一方、特定の行動が選択され、特定のタイミングで出現するのは脳内での複雑な情報処理の結果であるといえます。心理学Bでは、環境から入ってくる情報がどのように処理され、どのように貯蔵され、更にはどのように環境からの情報を超えたより高度な情報処理へと進んでいくかを追いかけていこうと思います。これによって、われわれの高度な認知的能力がいかなる方法で実現されているかについて展望できればと思います。

【到達目標】

心理学Aと心理学Bを受講することにより心理学の基本的知識を習得することを到達目標とします。本講義内容を知ることには認知心理学を理解する上でも重要と考えます。

【授業計画】

- 第1回 感覚と行動1：感覚受容器と感覚（復習2時間）
- 第2回 感覚と行動2：感覚間の協調および感覚と運動間の協調（復習2時間）
- 第3回 人の神経系：求心神経系・遠心神経系・大脳における機能局在（復習2時間）
- 第4回 視覚情報処理1：網膜・視覚伝導路・第1次視覚野（復習2時間）
- 第5回 視覚情報処理2：第1次視覚野の働き（復習2時間）
- 第6回 視覚情報処理3：高次視覚野の働き（復習2時間）
- 第7回 視覚の目的1：物体の背景からの分離・輪郭の検出（復習2時間）
- 第8回 視覚の目的2：物体までの距離の測定（復習2時間）
- 第9回 高次視覚にまつわる諸現象：錯視・恒常性・群化・文脈効果・不可能図形（復習2時間）
- 第10回 視覚の障害（復習2時間）
- 第11回 記憶の心理学理論：感覚記憶・短期記憶・長期記憶（復習2時間）
- 第12回 記憶の神経心理学理論：宣言的記憶・非宣言的記憶・介在する脳部位・記憶の障害（復習2時間）
- 第13回 言語とは何か：音素・語・文・文法・意味・意図（復習2時間）
- 第14回 言語情報処理：言語野・言語の障害（復習2時間）
- 第15回 大脳半球機能差と大脳の可塑性（復習2時間）

【授業の進め方】

授業開始時に印刷した講義資料を配布し、講義では同資料を画面に投影しながら説明します。受講生は自ら熱心にノートをとることが求められます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

なし。

【参考図書】

鹿取・杉本・鳥居編「心理学第4版」（東大出版）。同書は定評のある教科書なので、本講義では触れないテーマを含めて心理学の概要を知るために講読することを勧めます。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

成績評価は基本的に定期試験の結果に基づきます。判定基準は得られた得点分布に基づきます。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席率は受験資格の確認のために使用します。

【履修上の心得】

熱心にノートをつけることによって人間とはどのような存在なのかという点に更に興味が湧いてくることを期待しま

す。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目はありません。心理学Aと心理学Bで通常の基礎領域の心理学をカバーしているので両科目を受講することを望みます。

基礎領域の心理学。

【備 考】

認知心理学を受講する学生は本講義も受講することを勧めます。

科目名	社会心理学A
	社会的行動を探る
教員名	細田 一秋

【授業の内容】

「人間は生物・心理・社会的存在である。」といわれます。私たちを理解するために、さまざまな学問が誕生しました。あなたがこれから学ぼうと企てている「社会心理学」も、そのひとつです。この学問は、内なる心理と外なる社会にまたがっており、とめどなく広範にわたる研究領域をかかえています。

半期の少ない授業回数ですから、次の2項目にしぼって、講義を進めます。まず「内なる心理」として、社会的行動をひき起こす心理過程を体系的に解説します。ついで「外なる社会」へのかかわりとして、対人行動の諸テーマを紹介してゆきます。詳しくは授業計画を参照してください。

【到達目標】

授業のなかで、あなた自身の対人関係が見直せるように、社会心理学的な方法論・ものの見方を修得してほしいと希望します。本講義の具体的到達目標を以下に列挙します。第1に、科学的心理学の方法論を把握し、客観性・再現性ある行動観を確立することを目指します。第2に、素朴かつ常識的に信じている対人関係にかかわる知識を、科学的行動観にのっとって再構築します。第3に、あなたとあなたにとって大切な人への理解を促進し、対人関係の向上を図ります。単位を無事に取得するだけでなく、「社会」人としてあなたが向上すること、願っています。

【授業計画】

- 第1回 講義の進め方と概要
- 第2回 心理学のなかでの「社会心理学」の位置づけ
- 第3回 社会心理学の研究と方法
- 第4回 生得的な社会的行動（動物行動学からのアプローチ）
- 第5回 社会的行動の学習（古典的条件づけからのアプローチ）
- 第6回 社会的行動の学習（対人感情と態度形成）
- 第7回 社会的行動の学習（オペラント条件づけからのアプローチ）
- 第8回 社会的行動の学習（社会的学習理論からのアプローチ）
- 第9回 親和行動と社会的比較理論
- 第10回 友人選択と近接・類似・交換理論
- 第11回 印象形成と対人魅力
- 第12回 促進・手抜き・同調における集団の影響
- 第13回 リーダーシップの諸理論
- 第14回 説得的コミュニケーションと説得技法
- 第15回 まとめ（ノート持参のこと）

【授業の進め方】

受講者数との関係から、講義形式を採らざるを得ません。板書と口頭説明、毎回の配布資料を用いて授業を進めてゆきます。教科書は使用しません。教室では細心の注意を払ってノートをとってください。欠席などによるノートの不備は、試験に際してとても不利です。参考図書を下に記しましたので、積極的に活用して下さい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①使用しない

教科書は使用しません。各回ごとに関連資料を配布いたします。この資料と毎回のノートが教科書代わりです。

【参考図書】

- 「人間関係の心理学（第2版）」斉藤勇 誠信書房 ¥2,200
- 「図説 社会心理学入門」斉藤勇（編著） 誠信書房 ¥2,800
- 「グラフィック学習心理学－行動と認知」春木、山内 サイエンス社 ¥2,754
- 「社会心理学キーワード」山岸俊男 有斐閣 ¥2,052
- 「基礎からまなぶ社会心理学」脇本竜太郎（編著）サイエンス社 ¥2,484
- 「社会心理学 (New Liberal Arts Selection)」池田 他 有斐閣 ¥3,456円

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項
定期試験を1回、学期末に実施します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

2/3以上出席した学生にのみ、受験資格をあたえます。出席に関しては厳重に対応します。出席数など十分注意してください。

【履修上の心得】

教科書を用いませんので、教室では細心の注意を払ってノートを取って下さい。

社会心理学はあなた自身をも研究対象とする学問です。自分の行動をいつも意識（反省）する癖をつけましょう。そして、各回に学んだ知識を、自分を材料に確かめて下さい。講義の理解と「人を見る眼」とが格段に進歩します。

【科目のレベル、前提科目など】

「社会心理学」を理解するために必要な基礎知識を、講義してゆきます。必要に応じて「心理学」の内容にも触れてゆきます。

科目名	社会心理学B
	社会的行動の源を探る
教員名	細田 一秋

【授業の内容】

「すべての学問は人間の理解をめざす。」と言われます。「人間とは何か？」を解くために、さまざまな学問が誕生しました。あなたが学ぼうとしている「社会心理学」も、その1つです。講義では、社会のなかで欲求し願望を実現してゆくあなたやあなたにとってかけがえのない人々を、モチベーションを軸に探ってゆきます。

モチベーションは「行動の原因」を意味します。今ここで、ある行動が引き起こされる、このメカニズムを「動機づけ」の視点から講義します。家庭や学校、職場で、あなた自身を行動へと突き動かす生理的動機・内発的動機・社会的動機について、さらに職場への応用として「ワーク・モチベーション」について学んでください。

【到達目標】

社会のなかで人が行動する「動機」の理解を目標に講義をすすめます。本講義の具体的到達目標を以下に列挙します。第1に、科学的心理学の方法論を把握し、客観性・再現性あるモチベーション観を確立することを目指します。第2に、素朴かつ常識的に信じている対人行動の原因にかかわる知識を、動機づけ理論にのっとして再構築します。第3に、あなたとあなたにとって大切な人の欲求を理解することを通して、社会的スキルの向上を図ります。さらに第4として、ぜひとも自分の専門へ役立ててください。

【授業計画】

- 第1回 講義の進め方と概要
- 第2回 社会心理学のなかでの位置づけ
- 第3回 動機づけの機能と構造
- 第4回 社会的行動と飢餓・渴動機
- 第5回 社会的行動と性動機
- 第6回 恋愛感情
- 第7回 社会的行動と感性動機・好奇心
- 第8回 認知的不協和理論・活動性動機
- 第9回 対人関係のプロトタイプとしての愛着動機
- 第10回 やる気のもと達成動機
- 第11回 援助行動をひき起こす動機
- 第12回 攻撃行動をひき起こす動機
- 第13回 ワーク・モチベーション（欲求5階層理論と動機づけ・衛生理論）
- 第14回 ワーク・モチベーション（目標設定理論と公平理論）
- 第15回 まとめ（ノート持参のこと）

【授業の進め方】

受講者数との関係から、講義形式を採らざるを得ません。板書と口頭説明、毎回の配布資料を用いて授業を進めてゆきます。教科書は使用しません。教室では細心の注意を払ってノートをとってください。欠席などによるノートの不備は、試験に際してとても不利です。参考図書を下に記しましたので、積極的に活用して下さい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①使用しない

使用しません。各回ごとに関連資料を配布いたします。この資料と毎回のノートが教科書代わりです。

【参考図書】

- 「人間関係の心理学（第2版）」斉藤勇 誠信書房 ¥2,200
- 「社会心理学キーワード」山岸俊男 有斐閣 ¥2,052
- 「社会心理学 (New Liberal Arts Selection)」池田他 有斐閣 定価 3,456円
- 「基礎からまなぶ社会心理学」脇本竜太郎（編著）サイエンス社 ¥2,484
- 「キーワード 動機づけ心理学」上淵 寿 金子書房 ¥2,592
- 「産業・組織心理学」山口、芳賀 有斐閣アルマ ¥2,052

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項
定期試験を1回、学期末に実施します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

2/3以上出席した学生にのみ、受験資格をあたえます。出席に関しては厳重に対応します。出席数など十分注意してください。

【履修上の心得】

教科書を用いませんので、教室では細心の注意を払ってノートを採って下さい。

社会心理学はあなた自身をも研究対象とする学問です。自分の行動をいつも意識（反省）する癖をつけましょう。そして、各回に学んだ知識を、自分を材料に確かめて下さい。講義の理解と「人を見る眼」とが格段に進歩します。

【科目のレベル、前提科目など】

「社会心理学」のなかから、社会的動機づけの分野を詳しく講義してゆきます。「社会心理学 A」をすでに受講していれば申し分ないですが、それを前提としての講義ではありません

科目名	政治学A(国際政治を含む)
	日本政治と国際政治のルールとプレイヤー
教員名	服部 一成

【授業の内容】

自分を取り巻く日本政治と国際政治がどのようなルールに基づいて、どのようなプレイヤーが動かしているのかを一緒に学ぼう。

【到達目標】

日本政治と国際政治の本質を知り、さまざまな政治問題に関する自分独自の見解を持ち、それぞれの政治選択に的確な判断を下せる素地を培うことを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス、グローバリゼーションの退潮と国家の復権、政治（学）・国際政治（学）・国家・権力の定義
- 第2回 日本政治のルール① 日本の政治を操る！知られざる権力の正体
復習・発展学習 授業の進め方を参照（120分）
- 第3回 日本政治のルール② アメリカ大統領は世界最弱の権力者
復習・発展学習 授業の進め方を参照（120分）
- 第4回 日本政治のルール③ 世界の模範・イギリス政治の仕組み
復習・発展学習 授業の進め方を参照（120分）
- 第5回 日本政治のルール④ 政治のルールとしての日本国憲法
復習・発展学習 授業の進め方を参照（120分）
- 第6回 日本政治のルール⑤ 戦後の歴代総理の権力基盤から概観する政治のルール
復習・発展学習 授業の進め方を参照（120分）
- 第7回 日本政治のルール⑥ 誰がために日本の選挙制度はあるのか
復習・発展学習 授業の進め方を参照（120分）
- 第8回 日本政治のルール⑦ 代議士が登る4つの階段
復習・発展学習 授業の進め方を参照（120分）
- 第9回 日本政治のルール⑧ 総理大臣になるために踏むべき4つのステップ
復習・発展学習 授業の進め方を参照（120分）
- 第10回 国際政治のルールとプレイヤー① 対外政策の定義・日米対外政策の決定過程
復習・発展学習 授業の進め方を参照（120分）
- 第11回 国際政治のルールとプレイヤー② 対外政策の分析モデル
復習・発展学習 授業の進め方を参照（120分）
- 第12回 国際政治のルールとプレイヤー③ アメリカ帝国の衰退は不可避か？
復習・発展学習 授業の進め方を参照（120分）
- 第13回 国際政治のルールとプレイヤー④ 台頭する中国は、なぜ「悪魔」に変貌したのか？
復習・発展学習 授業の進め方を参照（120分）
- 第14回 国際政治のルールとプレイヤー⑤ 韓国は balanサーか、コウモリか？
復習・発展学習 授業の進め方を参照（120分）
- 第15回 国際政治のルールとプレイヤー⑥ 東南アジア諸国の合従連衡
復習・発展学習 授業の進め方を参照（120分）

日本政治のルール(①—⑧)を、第2回—第9回授業で講義する。次に、国際政治のルールとプレイヤー(①—⑥)を、第10回—第15回授業で講義する。

【授業の進め方】

- ① 参考図書に基づく講義形式授業である。
- ② 授業時に、授業内容の関連図書を適宜提示する。
- ③ 授業内小試験として、毎回授業内容の要約を作成する。その際に、自分の意見や感想、質問を併記する。
- ④ 毎回授業内容に対する受講者の意見や感想、質問を、講義の冒頭で紹介して、各自の関心や問題意識を受講者全員で共有して、できればディベートの場を用意して、さまざまな政治問題を発見し、それらの解決に向けて、それぞれの政治選択を行う思考訓練を、主体的・協働的に体験学習する。
- ⑤ 復習として、参考図書を用いて、授業ノートを充実する。
- ⑥ 発展学習として、自分が興味を持ったテーマ（問題）について、授業時に提示した関連図書や図書館で検索した図書を入手して、その解答を導くレポートの作成を主体的に行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ① 教科書は使用しないが、参考図書に基づく講義なので、それらを入手して予習・復習に役立てれば、より学習効果を上げることができる。
- ② 参考図書は、授業ノートの充実に資する。

- ③ 参考図書のサブノート作成は、学問の王道なので、大いに推奨する。
- ④ 授業時に提示する関連図書は、レポートの作成に用いるばかりでなく、知識を広めたり深めたりするのに有益である。

【参考図書】

- ① 総理の実力 官僚の支配—教科書には書かれていない「政治のルール」 倉山満 T A C出版 2015年
1404円 978-4-8132-6185-8
- ② 自民党の正体—こんなに愉快な派閥抗争史 倉山満 P H P研究所 2015年 1620円 978-4-
569-82667-7
- ③ 世界史で学べ! 地政学 茂木誠 2016年 1728円 978-4-396-61527-7

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 30% レポート・課題 30% 受講態度 0%

特記事項

- ① 授業内小試験は、毎回授業内容の要約を作成する。
- ② レポートは、自分の興味を持ったテーマで1回作成する（分量は800字以上、W o r dなどで印刷したもの）。

科目名	政治学B(国際政治を含む)
	日本政治と国際政治のルールとプレイヤー
教員名	服部 一成

【授業の内容】

自分を取り巻く日本政治と国際政治がどのようなルールに基づいて、どのようなプレイヤーが動かしているのかを一緒に学ぼう。

【到達目標】

日本政治と国際政治の本質を知り、さまざまな政治問題に関する自分独自の見解を持ち、それぞれの政治選択に的確な判断を下せる素地を培うことを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 日本政治のルール⑨ 日本を支配する！霞ヶ関の実態
復習・発展学習 授業の進め方を参照 (120分)
- 第2回 日本政治のプレイヤー① 占領期の潰し合い
復習・発展学習 授業の進め方を参照 (120分)
- 第3回 日本政治のプレイヤー② 悲願と裏切りの保守合同
復習・発展学習 授業の進め方を参照 (120分)
- 第4回 日本政治のプレイヤー③ 「三角大福」の死闘と米中代理戦争
復習・発展学習 授業の進め方を参照 (120分)
- 第5回 日本政治のプレイヤー④ 閣將軍と跡目争い
復習・発展学習 授業の進め方を参照 (120分)
- 第6回 日本政治のプレイヤー⑤ 竹下支配—万人恐怖の超権力者
復習・発展学習 授業の進め方を参照 (120分)
- 第7回 日本政治のプレイヤー⑥ 失われた十年
復習・発展学習 授業の進め方を参照 (120分)
- 第8回 日本政治のプレイヤー⑦ 小泉純一郎の政治改革
復習・発展学習 授業の進め方を参照 (120分)
- 第9回 日本政治のプレイヤー⑧ どうなる自民党安倍内閣？
復習・発展学習 授業の進め方を参照 (120分)
- 第10回 国際政治のルールとプレイヤー⑦ インドの台頭は世界をどう変えるのか？
復習・発展学習 授業の進め方を参照 (120分)
- 第11回 国際政治のルールとプレイヤー⑧ ロシア—最強のランドパワーが持つ三つの顔
復習・発展学習 授業の進め方を参照 (120分)
- 第12回 国際政治のルールとプレイヤー⑨ 拡大し過ぎたヨーロッパ—統合でよみがえる悪夢
復習・発展学習 授業の進め方を参照 (120分)
- 第13回 国際政治のルールとプレイヤー⑩ 永遠の火薬庫中東①サイクス・ピコ協定にはじまる紛争
復習・発展学習 授業の進め方を参照 (120分)
- 第14回 国際政治のルールとプレイヤー⑪ 永遠の火薬庫中東② トルコ、イラン、イスラエル
復習・発展学習 授業の進め方を参照 (120分)
- 第15回 国際政治のルールとプレイヤー⑫ 収奪された母なる大地アフリカ
復習・発展学習 授業の進め方を参照 (120分)

日本政治のルール⑨から日本政治のプレイヤー(①—⑧)を、第1回—第9回授業で講義する。次に、国際政治のルールとプレイヤー(⑦—⑫)を第10回—第15回授業で講義する。

【授業の進め方】

- ① 参考図書に基づく講義形式授業である。
- ② 授業時に、授業内容の関連図書を適宜提示する。
- ③ 授業内小試験として、毎回授業内容の要約を作成する。その際に、自分の意見や感想、質問を併記する。
- ④ 毎回授業内容に対する受講者の意見や感想、質問を、講義の冒頭で紹介して、各自の関心や問題意識を受講者全員で共有して、できればディベートの場を用意して、さまざまな政治問題を発見し、それらの解決に向けて、それぞれの政治選択を行う思考訓練を、主体的・共働的に体験学習する。
- ⑤ 復習として、参考図書を用いて、授業ノートを充実する。
- ⑥ 発展学習として、自分が興味を持ったテーマ(問題)について、授業時に提示した関連図書や図書館で検索した図書を入手して、その解答を導くレポートの作成を主体的に行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ① 教科書は使用しないが、参考図書に基づく講義なので、それらを入手して予習・復習に役立てれば、より学習効果を上げることができる。

- ② 参考図書は、授業ノートの充実に資する。
- ③ 参考図書のサブノート作成は、学問の王道なので、大いに推奨する。
- ④ 授業時に提示する関連図書は、レポートの作成に用いるばかりでなく、知識を広めたり深めたりするのに有益である。

【参考図書】

- ① 総理の実力 官僚の支配—教科書には書かれていない「政治のルール」 倉山満 TAC出版 2015年
1404円 978-4-8132-6185-8
- ② 自民党の正体—こんなに愉快な派閥抗争史 倉山満 PHP研究所 2015年 1620円 978-4-
569-82667-7
- ③ 世界史で学べ! 地政学 茂木誠 2016年 1728円 978-4-396-61527-7

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 30% レポート・課題 30% 受講態度 0%

特記事項

- ① 授業内小試験は、毎回授業内容の要約を作成する。
- ② レポートは、自分の興味を持ったテーマで1回作成する（分量は800字以上、Wordなどで印刷したもの）。

科目名	教育学A
	家庭・学校・社会における教育の概観
教員名	高橋 克巳

【授業の内容】

「教育学」は、小・中・高のカリキュラムに含まれない学問であるためか、誤解も多く、かつての教授学のイメージから、「人にものをうまく教える方法論」のように狭く捉えられがちである。しかし、「教育」という現象に対して、心理学・社会学・経営学・法学など様々な方法論を用いてアプローチ（ただし、狭い意味で教育学という場合、教育心理学は除く）する、総合的な学問である。それゆえ時に「雑学」と揶揄されたりもするほど、広範囲で多様性に富む学問でもある。

「教育」は、小学校・中学校・高等学校等いわゆる「学校」におけるそれをイメージしがちであるが、人間形成に影響を与える作用の総体として広く捉える必要がある。一般的な区分としては、行われる場・段階によって、家庭教育・学校教育・社会教育の三つに分けて捉えられることが多い。本講義でもその区分を採用しつつ、主に筆者の専門分野である教育社会学の立場から、各区分毎の教育について概観していくことが内容となる。

【到達目標】

教育という営みを、「人間形成に影響を与える作用の総体」として、広い視野からイメージすることができるようになる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（講義概要説明・教育学とは）
- 第2回 家庭教育1（日本の母親、子育て様式の日米比較）
- 第3回 家庭教育2（現代子育て事情・モデル&ワインシュタイン論文講読）
- 第4回 家庭教育3（少子化時代における行政の子育て支援）
- 第5回 家庭教育4（家族と子どもの社会化）
- 第6回 教育思想1（自然重視の教育思想 ルソー）
- 第7回 教育思想2（社会重視の教育思想 デュルケム）
- 第8回 教育思想3（ルソーとデュルケムの理解のために）
- 第9回 学校教育1（学校教育に関する基礎知識1）
- 第10回 学校教育2（学校教育に関する基礎知識2）
- 第11回 学校教育3（現代学校教育の諸問題1）
- 第12回 学校教育4（現代学校教育の諸問題2）
- 第13回 学校教育5（現代学校教育の諸問題3）
- 第14回 社会教育（生涯学習時代におけるその重要性）
- 第15回 まとめ

「教育学」と一言で言っても、その範囲・方法は大変幅広いのですが、Aでは浅く広く、家庭・学校・社会における教育作用を概観していきます。教育について基礎知識を身につけたい方向けの授業にするつもりです。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に指定しない。適宜プリントを配布。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

レポート・課題、及び平常点を総合的に評価する。

科目名	教育学B
	「立身出世主義」の展開
教員名	高橋 克巳

【授業の内容】

「教育」とは、人間形成に影響を与える作用の総体として広く捉えられ、一般的な区分としては、行われる場・段階によって、家庭教育・学校教育・社会教育の三つに分けて捉えられる。それぞれの概要については教育学Aで取り扱ってきた。

教育学Bでは、学校（特に大学等の高等教育）の歴史に焦点を当て、いわゆる「立身出世主義」の成立・展開という視点から、近代日本の社会と学校教育のあり方の変遷について見ていく。それは、現代日本の学校教育を考える上で、最も重要な問いの一つ「人はなぜ勉強するのか」について考えるヒントになるだろう。かつて、「立身出世のために勉強する」ことに迷いがなかった時代があったのである。

明治時代は、生まれた家柄や士農工商といった身分によって将来が大きく規定された社会から、「自助努力」「自己責任」によって各人が自分の人生を創りあげていかねばならない社会へと移り変わっていく時代である。近代学校教育制度がこの時期に確立されたのは偶然ではないし、自分の進路について思い悩む「煩悶青年」が出現してくるのも、こうした社会変動を背景としている。

その過程は「明治青年たちによる自己実現の苦闘と挫折の物語」とも言える。それによって、主に政治・経済の変遷を追う近代史とはまたひと味異なる日本社会の過去の姿をかいま見ることができであろうし、また現代日本における青年たちの問題、たとえば「引きこもり」や「フリーター」等について考えたり、現代の大学生の在り方について考える上でも何らかの示唆を引き出しうるのではないかと。一般教養科目としての教育学にふさわしいと考える。

【到達目標】

日本における高等教育成立の経緯、いわゆる「立身出世主義」の成立と展開、その時期を生きた青年たちの栄光と挫折の実像等について幅広く理解できるようになる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（講義概要説明・学校教育とは）
- 第2回 青年と「立身出世主義」
- 第3回 「立身出世主義」の成立(1) 焚き付け装置の駆動開始
- 第4回 「立身出世主義」の成立(2) 焚き付けられた青年たちの「東都遊学」
- 第5回 学校教育制度の整備と受験の成立(1) 学校教育制度と官吏任用制度の整備
- 第6回 学校教育制度の整備と受験の成立(2) 旧教育制度の成立・展開
- 第7回 学校教育制度の整備と受験の成立(3) 旧制高等学校の受験の実態
- 第8回 学歴貴族たちの姿(1) 旧制高校生たちの文化
- 第9回 学歴貴族たちの姿(2) 旧制高校生たちの出自
- 第10回 煩悶青年たちの姿(1) 苦学青年たちの煩悶
- 第11回 煩悶青年たちの姿(2) 就職市場の変化という視点から
- 第12回 煩悶青年たちの姿(3) 青年たちの間に広まった厭世観
- 第13回 「立身出世主義」の終焉 サラリーマンの時代の到来、そして野心の解体
- 第14回 「立身出世主義」のゆくえ(1) 戦後の大学生たち
- 第15回 「立身出世主義」のゆくえ(2) これからの大学生

「教育の歴史」「立身出世主義の成立と展開」と聞くと身構えてしまうかも知れませんが、「進路に悩みつつ生きた明治青年たちの生きざま」をできるだけ誰にでも興味深く紹介することを目指しています。教育とは何か、今後の大学生の生きざまとは何か、考えるヒントになればと思います。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に指定しない。適宜プリントを配布。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

レポート、及び平常点を総合的に評価する。

【科目のレベル、前提科目など】

教育学Aの受講の有無は関係ありません。内容が全く異なるので、教育学Bのみでも受講できます。

科目名	日本国憲法
	憲法を考える上で、「重要なことは何なのか？」を探る。
教員名	小野 義典

【授業の内容】

本講義の目標は、日本国憲法の本質を理解することにある。憲法の本質の理解に当って、その必要となる事柄を、教授することを予定している。具体的には、憲法上の諸問題、憲法判例、様々な学説などを交えながら講義を進めることである。また同時に、教養ある大学人の育成と、教員採用試験への対策を行うことも、考えている。

本講義の概要は、第一に、憲法の史的展開（憲法史・立法過程を含む制定経緯など）、第二に、日本国憲法の三大原理である、国民主権・平和主義・基本的人権の尊重を中心に、日本国憲法を概観すること、第三に、日本国憲法が我が国の実社会に対して、どのような影響を与えているのかを考える、という三点にある。

講義に際して、教員は、平易な言葉で、分かりやすく、かつ、双方向の対話を心掛ける。

【到達目標】

学習・教育の到達目標は、まず、日本国憲法で学ぶべき一通りの知識を身につけることである。それには、憲法がどのように生まれ、そしてどのように運用されるのかを理解することが必要である。その上で、実定法解釈に於ける「通説」とはどのようなものなのか、自分自身が考える「正しい解釈」とはどのような解釈であるのか、最終的には、「憲法とは何か」あるいは「日本国憲法とは何か」ということが、自分の言葉で説明できるようになることが到達目標である。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション（開講に当っての説明、講義概観）とイントロダクション（講義導入）

講義を受講する際の注意事項等を伝達する。また、憲法を学ぶ際の重点を講義する。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第2回 憲法史

日本国憲法が制定されるまでの経緯を概観する。また、憲法概念が生じた欧米の思想を教授する。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第3回 日本国憲法上論・前文、憲法の分類

上論、前文についての法規範性、裁判規範性などを考え、大日本帝国憲法との比較も行う。

憲法の主な分類を概観する。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第4回 天皇

国民主権と天皇の関係、象徴天皇制の問題、天皇の国事行為など、憲法上の諸規定を講義する。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第5回 平和主義

「戦力」についての学説を理解し、また、国際協調主義と平和主義の整合性などと共に、統治行為論も検討する。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第6回 基本的人権（1）人権総論・国民の権利義務

人権保障の歴史と、日本国憲法の人権保障について、権利義務関係と保障範囲を考える。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第7回 基本的人権（2）包括的人権・新しい人権・平等権

幸福追求権と新しい人権であるプライバシー権や名誉権、また平等権について、学説や判例を交えて考える。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第8回 基本的人権（3）自由権：精神的自由権

人権の中でも、歴史のある自由権について、学説や判例を通じて理解する。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第9回 基本的人権（4）自由権：経済的自由権・身体的自由権

経済的自由権の「二重の基準論」や、公権力からの不当な身体的拘束を制限する身体的自由権について理解する。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第10回 基本的人権（5）社会権・受益権・参政権

生存権を中心とした社会権を、判例や学説を通じて学び、また、受益権や参政権などを理解する。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第11回 テーマ別講義

憲法上の諸問題で、受講者の関心が比較的高かった問題や、直近の事例について、判例や学説を検討する。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第12回 三権分立

統治の機能である、司法（特に裁判所）・立法（特に国会）・行政（特に内閣）のしくみを理解する。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第13回 選挙・政党

民主政の主要なアクターである政党について、選挙の役割と選挙制度を併せて理解する。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第14回 財政・地方自治

国家財政の制度、続いて、地方自治の本旨を理解する。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

第15回 憲法保障

最高法規としての憲法の役割、及び、憲法と条約の関係などを理解する。

〔復習〕授業で取り上げたキーワードを中心に、教科書やレジュメを参照しつつ、各自で復習する（30分）

講義内容は上記の通りであり、順番に進めていく予定である。

※講義の内容は、場合によって、多少の変動もありうることを了解されたい。

【授業の進め方】

教員の作成したオリジナルの講義レジュメを配布する。この講義レジュメに従って、黒板への要点板書、及び口述筆記により講義を進行させる予定である。講義は、基本的に教科書の各章を基準として進む。日本国憲法の条文にも言及することが多々ある。従って、教科書の所持が必須である。また、講義中、受講者は、教員の板書と並んで、教員が述べる講義の重要部分に関して、詳細にノートして欲しい。講義進行の詳細を、第1回目の講義の際に述べる。

なお、本講義は、私語厳禁である。また、他の受講生に対する学習の妨げとなる行為を禁止する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①『憲法学事始〔第二版〕』 ②野畑健太郎・東裕編 ③一学舎 ④2017年4月 ⑤2700円(税別) ⑥9784904027172

<教科書>

教科書は、学内の書店にて購入のこと。

【参考図書】

<参考書>

特に指定しない。

※参考文献を、講義中に幾つか推薦する。

※憲法関係のものに留まらず、さまざまな書籍や新聞・雑誌等の活字に親しむことが望ましい。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

成績評価は、期末試験の点数で評価を行う。点数配分は、期末試験100点を満点とするものである。期末試験の未受験者に、教員は、成績評価を行わない（H評価）。期末試験受験が成績評価の条件となるので、十分注意すること（但し、追試験を除く）。また、講義への参加態度、あるいは、レポートや課題をはじめとする提出物も成績評価に加味することがある。評価方法の詳細を、第1回目の講義の際に述べるので、必ず出席のこと。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

成績評価の方法は、「履修規定」に準ずる。

受験資格は、「保育士資格規定」に準ずる。

【履修上の心得】

全回出席を原則とする。

評価方法でも述べた通り、期末試験受験が成績評価の条件となるので、注意すること。

オフィス・アワー：

教員への連絡を行いたい場合は、講義前後にコンタクトを取るか、あるいは、教員メールアドレス宛にメールを送信すること。なお、シラバスがWEB上にて公開になっている関係上、諸般の事情により、この場にメールアドレスを記載することが出来ないため、第1回目の講義の際に、受講者に直接伝える。（但し、システム上、学内のみメールアドレスが公開される場合には、そのメールアドレス宛にメールを送信すること。）

【科目のレベル、前提科目など】

特になし。憲法の初学者であることを前提にして、講義を進める。

但し、社会科学の基礎となる知識を要求する科目である関係上、中等教育で培ったはずの、「公民」や「日本史」「世界史」「政治経済(政治分野)」の知識が必要になることが多分にある。良い機会であるから、これまで学んだ知識をまとめる意味でも、もう一度見直すことも検討して欲しい。

また、時事問題にも触れる機会が多くなることが予想されるので、普段から、新聞・雑誌・TV・ラジオ・インターネットなどで、問題意識を持ってニュースに触れることが望ましい。

全学年を対象としている。もちろん、1年次からでも履修出来るように配慮しているので、安心して欲しい。

科目名	解析学
	～大学教養の微分積分学～
教員名	黒澤 和人

【授業の内容】

数学の素養は、専門分野の学習や研究を深めるほどに、道具立てとしてそれを有することの必要性を再認識するようになるといわれています。ここでは、そのような数学の中で特に重要なテーマである「微分法」と「積分法」を取り上げ、基礎から応用までの全体を概観します。

授業を進める上での基本的なスタンスは、微分積分学が、われわれの日常生活の身近なところで、また経営・法・教育の各専門分野において、どのように活用されているかを分かりやすく整理して伝えることです。

したがって、公式を覚えてひたすら計算問題を解くという従来のやり方ではなく、具体的な問題を使い、分野固有の考え方をどう「理解」するかに重点を置いたため、講義形式で進めて行くことにしました。ついては、毎回、1つのテーマを設定し、関連する複数の話題（トピックス）を一話完結のストーリーにまとめ、解説していきます。

【到達目標】

- (1) 関数の極限、連続性、微分可能性の意味が、より厳密に理解できるようになる。
- (2) 多変数関数の表現と、その処理方法が理解できるようになる。
- (3) 数学モデルとしての微分方程式の役割が理解できるようになる。
- (4) 身近に起こるさまざまな数理現象の原理や仕組みが理解できるようになる。
- (5) 解析学の歴史的な経緯が理解できるようになる。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス～解析学の言葉と記号～
配布資料およびWebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第2回 解析学の創始～ニュートンとライプニッツ～
配布資料およびWebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第3回 解析学の発展～オイラーと円周率・数学の美～
配布資料およびWebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第4回 現代解析学の系譜～カントール、ルベーグ、リーマン、ノイマン～
配布資料およびWebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第5回 日常にひそむ数理曲線・曲面
配布資料およびWebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第6回 経済数学～効率と最適性の数学～
配布資料およびWebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第7回 教育データと統計解析～データサイエンスと因果推論～
配布資料およびWebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第8回 行政・司法における分析と画像解析～分析化学／オートプシーイメージング～
配布資料およびWebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第9回 ファイナンスの数理
配布資料およびWebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第10回 放射線と医用電子の数理
配布資料およびWebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第11回 飛行とレーシングの数理
配布資料およびWebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第12回 ロボット工学～制御理論～
配布資料およびWebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第13回 数理生物学～生態・行動・生命～
配布資料およびWebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第14回 マルチメディア処理～画像・音声認識～
配布資料およびWebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第15回 総括と今後の学習のための案内
配布資料およびWebClassの資料に基づき授業の総復習をする（60分）。

【授業の進め方】

- ・講義形式の授業形態をとります。
- ・毎回、1つのテーマを設定し、関連する複数の話題を3部に構成し解説していくので、重要な箇所をノートに取り、不明な点があればその都度質問して下さい。
- ・理解の手助けとして、映像を見せることや、授業内課題や宿題を課すことも、ときには必要であると考えています。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ・教科書の指定はありません。

・毎回、プリント教材を配布する予定です。授業支援システムWebClass上にも資料を展示しますので、そのときはダウンロードして下さい。

【参考図書】

授業中に、理論やテーマごとにキーとなる文献を紹介していきます。

微分積分学に関する一般的な参考書として、たとえば次のようなものがあります。いずれも、計算問題を中心としています。大学での標準的な教科書で広く利用されているものですので、自分の専門分野で微積分学が道具立てとして必要になると思われる人は、アドバイスしますので一歩進めて是非チャレンジしてみてください。

- ・小平平治『クイックマスター微分積分』共立出版,1997.
- ・石村園子『やさしく学べる微分積分』共立出版,1999.
- ・小平邦彦『解析入門Ⅰ,Ⅱ』岩波書店,1997.
- ・藤田宏『大学での微分積分Ⅰ,Ⅱ』岩波書店,2003.

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 45% 受講態度 55%

特記事項

出席回数が全体の3分の2を超えていることを前提に、

(1) レポート・課題 45%

- ・2回ほどの宿題のレポート
- ・期末テストに代わる最終レポート

(2) 授業態度 55%

・授業での課題等の処理状況および質疑応答の状況を点数化して評価します。

【履修上の心得】

- ・中学や高校での「数学」の履修状況は問いません。関数とは何か、微分や積分の意味を基礎から理解できます。
- ・一方、高校で学習した微分・積分との違いは次の点にあります。

(1) 紙と鉛筆を使ってひたすら計算に明け暮れるようなことはしません。

(2) 定理や公式の意味を、身近な現象に引き寄せて考え、そして理解することができたかに重きを置きます。

(3) 偏微分(多変数関数の微分)、重積分(多変数関数の積分)、べき級数展開、フーリエ解析といった新しい話題が追加されます。

【科目のレベル、前提科目など】

[科目レベル] 数理的なものの見方・考え方を養い、専門科目への入門・導入的な役割を果たす科目です。経営・法・教育を専門とする、いわゆる社会科学系学生にとって必要不可欠な計算および表現の道具としての数学が、記号や言葉遣いととも、分類整理して提示されます。

[前提科目] なし。必須ではありませんが、交代で隔年開講の科目「代数学」とペアで履修するとよいでしょう。

[関連科目] 数学概論A・B、科学史A・B、代数学、統計学、物理学、化学、経済学、心理学、情報・メディア系科目。

科目名	環境科学A
	環境問題入門
教員名	山野井 貴浩

【授業の内容】

主要な環境問題について、科学的なデータをもとに、現状と背景について説明していく。環境問題の中でも「生物多様性の保全」については詳しく扱う。それぞれの環境問題の解決に向けて、現状と背景を踏まえた上で、どのような取り組みが必要なのかを考えて欲しい。自分の専攻分野（教育学・経営学・法学）の視点から、それぞれの環境問題を捉えられるようになることも期待している。また、受講する学生には環境社会検定試験（eco検定）の合格を目指してもらいたい。

【到達目標】

- ・主要な環境問題について現状と背景を説明できる。
- ・現状と背景を踏まえた上で、それぞれの環境問題の解決に向けてどのような取り組みが必要かに関して、自分の意見をもつことができる。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス（eco検定の過去問を解く）
- 第2回 ゴミ問題
授業内容の予習（関連書籍等を読み、概要を把握しておく）1時間
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第3回 公害と環境問題の違い～環境問題はなぜ解決が難しいのか～
授業内容の予習（関連書籍等を読み、概要を把握しておく）1時間
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第4回 オゾン層の破壊①
授業内容の予習（関連書籍等を読み、概要を把握しておく）1時間
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第5回 オゾン層の破壊②
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第6回 地球温暖化①
授業内容の予習（関連書籍等を読み、概要を把握しておく）1時間
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第7回 地球温暖化②
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第8回 エネルギー問題①
授業内容の予習（関連書籍等を読み、概要を把握しておく）1時間
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第9回 エネルギー問題②
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第10回 生物多様性の保全①
授業内容の予習（関連書籍等を読み、概要を把握しておく）1時間
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第11回 生物多様性の保全②
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第12回 生物多様性の保全③
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第13回 生物多様性の保全④外来種問題
授業内容の予習（関連書籍等を読み、概要を把握しておく）1時間
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第14回 生物多様性の保全⑤希少種の保全～コウノトリを題材として～
授業内容の予習（関連書籍等を読み、概要を把握しておく）1時間
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第15回 まとめ、およびヒトの進化からヒトの特徴を理解する
授業内容の予習（関連書籍等を読み、概要を把握しておく）1時間
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分

【授業の進め方】

講義はすべてパワーポイントおよび書き込み式プリントを使って説明する。初学者でも充分理解できるように努める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用しない。プリントを使用する。

【参考図書】

九里徳泰・左巻健男・平山明彦（編）『新訂 地球環境の教科書10講』東京書籍 2014年

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 20%

【科目のレベル、前提科目など】

化学に関連する内容があるので「化学A・B」と合わせて履修すると理解が深まるはずである。

科目名	環境科学B
	生命科学の進展がもたらした社会の変化
教員名	山野井 貴浩

【授業の内容】

科学技術の進展は我々の生活を豊かにしてきた。そしてこれからも豊かにしていくだろう。しかしながら、科学技術は万能ではなく、科学技術だけでは解決することのできない問題も生じており、これらはトランス・サイエンスの問題と呼ばれている。これらのトランス・サイエンスの問題に関しては、文系理系という壁を取り払い、学際的に考えていく必要がある。講義では、科学の中でも近年目覚ましい発展を遂げている生命科学に注目し、ヒトゲノム計画、iPS細胞、遺伝子組み換え作物等の事例を踏まえて、生命科学の進展が社会にどのような影響を及ぼしているのかを紹介する。

【到達目標】

「生命倫理」「食と安全」「科学と宗教」などのトランス・サイエンスの問題について多面的な考察をもとに自分の意見を述べることができるようになる。

【授業計画】

- 第1回 DNAから何ができるか① セントラルドグマの概要
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第2回 DNAから何ができるか② DNAからタンパク質を作る（工作）
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第3回 ヒトゲノム計画① 概要
授業内容の予習（関連書籍等を読み、概要を把握しておく）1時間
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第4回 ヒトゲノム計画② ヒトゲノム計画がもたらした社会の変化
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第5回 細胞分裂とDNA複製に関する基礎知識
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第6回 再生医療① 幹細胞による再生医療とは
授業内容の予習（関連書籍等を読み、概要を把握しておく）1時間
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第7回 再生医療② iPS細胞の社会への影響
授業内容の予習（関連書籍等を読み、概要を把握しておく）1時間
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第8回 科学について考える① STAP細胞問題を事例に
授業内容の予習（関連書籍等を読み、概要を把握しておく）1時間
- 第9回 がん① 概要
授業内容の予習（関連書籍等を読み、概要を把握しておく）1時間
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第10回 がん② がんとの付き合い方を考える
- 第11回 遺伝子組み換え作物① 概要
授業内容の予習（関連書籍等を読み、概要を把握しておく）1時間
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第12回 遺伝子組み換え作物② 遺伝子組み換え作物との付き合い方を考える
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第13回 科学と宗教 進化論と創造論を題材に
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第14回 科学について考える② 血液型性格診断を事例に
授業内容の予習（関連書籍等を読み、概要を把握しておく）1時間
授業内容の復習（配付プリントの「本日の問題」を解く）30分
- 第15回 まとめ

【授業の進め方】

講義はすべてパワーポイントと書き込み式の配付プリントを使って行う。初学者でも充分理解できるように説明する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用しない。プリントを使用する。

【参考図書】

武村政春・奥田宏志・小野裕剛・高野雅子（2010）「これだけはおさえておきたい生命科学」実教出版
その他の参考書は講義で随時、紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 20%

【科目のレベル、前提科目など】

生物学の内容が中心となるので「生物学A・B」と合わせて履修すると理解が深まるはずである。環境科学Aを受講していなくても問題はない。

科目名	物理学A
	核エネルギーがキーワード
教員名	師 啓二

【授業の内容】

科学技術の発達は私たちの生活を便利で豊かなものとしたが、一方、それに伴って生じたエネルギー消費や環境汚染の問題が深刻なものとなりつつある。そもそも科学技術は自然界の法則を巧みに利用したものであるから、科学技術を正しく利用するという立場をとるならば、「暮らしの知恵」として、自然界の法則や仕組みについてある程度知っておく必要がある。物理学は実験を手段とし、数式を用いて、この自然界の法則や仕組みを厳密に調べる学問である。しかし、厳密性は失われるが、数式をあまり用いなくても、簡単な原理から自然界の仕組みのある程度は理解することができる。「物理学A」および「物理学B」は、いずれも身のまわりの自然現象を題材にして、数式にあまり頼ることをせずに、自然の法則や仕組みを学んで行こうという講義科目である。

「物理学A」では、物質の成り立ち・仕組みを主なテーマとしている。そして、その関連事項として、原子力発電所の放射能事故の問題、核融合エネルギーの平和利用、また最近話題となったニュートリノ天文学など具体的な話題を紹介し、ビデオ等を適宜使いつつ、分かりやすく解説する。それによって、目に見えない原子・分子の世界から広大な宇宙まで統一した物理学の視点で眺めて見ることが出来るであろう。

【到達目標】

自然界の仕組み・法則を理解し、それによって新しいものの見方・考え方が持てるようになること。

【授業計画】

- 第1回 授業ガイダンス、参考書の紹介
授業ガイダンスで紹介された授業計画に基づき、あらかじめ第2回の講義内容（分子・原子）についてインターネットなどで調べておくこと（30分）。
- 第2回 物質の構成(1)：分子と原子
なぜ分子のほかに「原子」という概念が必要なのか、講義で触れた事項を復習する（60分）。
- 第3回 物質の構成(2)：電子の発見、真空放電
配付された資料をよく読み、講義で触れた事項（電子の発見の経緯）を復習する（60分）。
- 第4回 物質の構成(3)：原子の構造、周期律表、中性子の発見
配付された資料をよく読み、講義で触れた内容（実験からどのようにして原子構造がわかるのか）を復習する（60分）。
- 第5回 物質の構成(4)：基本的な力と素粒子
講義で触れた内容（原子核の構成粒子として陽子の他に中性子が必要な理由）を復習する（60分）。
- 第6回 物質の構成(5)：素粒子の標準理論、ニュートリノ天文学
配付された資料をよく読み、講義で触れた内容（ニュートリノ観測実験の意味）を復習しておく（60分）。
- 第7回 原子力エネルギー(1)：同位体、放射線、原子核の崩壊
配付された資料をよく読み、講義で触れたキーワード（同位体、3種類の放射線など）について復習しておく（60分）。
- 第8回 原子力エネルギー(2)：原子核の分裂とチェルノブイリ原発事故
配付された資料をよく読み、チェルノブイリ原発事故が起きた原因について復習する（60分）。
- 第9回 原子力エネルギー(3)：原発事故の影響としての食糧汚染の問題
配付された資料をよく読み、チェルノブイリ原発事故がもたらした環境汚染問題について復習する（60分）。
- 第10回 原子力エネルギー(4)：福島第一原発事故と放射能汚染
配付された資料をよく読み、福島第一原発事故がもたらした放射能汚染の影響について復習しておく（60分）。
- 第11回 原子力エネルギー(5)：放射能の強さ、核分裂エネルギー
講義で行った、核分裂エネルギーの大きさの見積もり（計算）について復習する（60分）。
- 第12回 核融合エネルギー(1)：核融合エネルギーの平和利用
核分裂と核融合の違いについて、講義内容を復習しておく（30分）。
- 第13回 核融合エネルギー(2)：質量欠損と結合エネルギー、太陽
講義で触れた事項（原子核の「分裂」でも「融合」でもエネルギーが発生する理由）について復習する（60分）。
- 第14回 ハッブルの法則、宇宙の誕生と未来
宇宙が大爆発（ビッグバン）で始まったとする理由・証拠は何か、復習する（30分）。
- 第15回 地球の誕生
地球はどのようにして「ドロドロのマグマのかたまり状態」から「水の惑星」という温暖な環境へと変わったのか、講義内容を復習する（30分）。

ほぼ上記に示した通りの順に講義を行うが、なるべく最新的话题を紹介したいので、順序やテーマの入れ換えや変更もありえる。

【授業の進め方】

身近な物理現象を取り上げ、物理の基本法則に基づいて、「どうしてそのようなことが起こるのか」という視点で分かりやすく解説する。講義に関連した内容のビデオを見せることもあるが、その場合、ビデオの内容に関連した質問事項を記したビデオレポートに解答しながらビデオを視聴してもらう。講義内容の理解を確実なものとするための演習（簡単な問題を解くこと）もある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

毎回講義のときに、必要に応じて資料を配付する。教科書は指定しない。

【参考図書】

第1回の講義の時に参考となる書籍を紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 15% レポート・課題 85% 受講態度 0%

特記事項

課題 1回（学期末に提出すること）

判定基準 出席率2/3以上で、授業内小試験（ビデオレポート）＋レポート・課題（期末課題など）の評価が60点（100点満点）以上であること。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

毎回必ず出席をとる。30分以上遅刻した場合は欠席とみなす。遅刻2回で欠席1回にカウントする。就職活動や教育実習で何回か休む可能性のある学生は欠席回数に特に注意を払うこと。

【履修上の心得】

私語厳禁。授業中、教室内では帽子をとり、静粛にして、飲食はしないこと。ビデオレポートに解答する場合、スマートフォンを使うことを認めていないので、その電源は切りかばんにしまっておくこと。本科目のためにはとくに予備知識はいらない。高校で物理を選択していなくても全く構わない。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目：なし

関連科目：「物理学B」

取り上げているテーマが違っているので「物理学B」の講義の知識を前提とはしないが、「物理学B」の講義も聞いていれば物理学のほぼ全般にわたる統一的な理解が得られる。専門家向けの講義ではないのですぐに役に立つという内容ではないが、例えば放射能汚染についての知識があったために命が助かるということも有り得るだろう。

「簡単な基礎知識から自然がどのように理解できるか」という、ものの見方・考え方を学ぶ講義であり、入門的・導入レベルの内容である。

科目名	物理学B
	自然の仕組みを理解しよう
教員名	師 啓二

【授業の内容】

科学技術の発達は私たちの生活を便利で豊かなものとしたが、一方、それに伴って生じたエネルギー消費や環境汚染の問題が深刻なものとなりつつある。そもそも科学技術は自然界の法則を巧みに利用したものであるから、科学技術を正しく利用するという立場をとるならば、「暮らしの知恵」として、自然界の法則や仕組みについてある程度知っておく必要がある。物理学は実験を手段とし、数式を用いて、この自然界の法則や仕組みを厳密に調べる学問である。しかし、厳密性は失われるが、数式をあまり用いなくても、簡単な原理から自然界の仕組みのある程度は理解することができる。「物理学A」および「物理学B」は、いずれも身のまわりの自然現象を題材にして、数式にあまり頼ることをせずに、自然の法則や仕組みを学んで行こうという講義科目である。

「物理学B」では、「力と運動」および「エネルギー」を主たるテーマとし、天体の運動、惑星探査、天体観測、無重力下での実験、熱エネルギー、エントロピー、カオス・複雑系およびナノテクノロジーなどの具体的な話題について、ビデオなどを適宜用いつつ、分かりやすく解説する。それにより、物理学的な視点での物の見方・考え方を身につけることができれば、現象の複雑さに対して、自然界を支配する法則の単純さや美しさに驚くことであろう。

【到達目標】

自然界の仕組み・法則を理解し、それによって新しいものの見方・考え方が持てるようになること。

【授業計画】

- 第1回 授業ガイダンス、参考書の紹介
授業ガイダンスで紹介された授業計画に基づき、あらかじめ第2回の講義内容(月の運動)についてインターネットなどで調べておく(30分)。
- 第2回 力と運動：月の運動、月の探査計画
月は地球から引力を受けているにもかかわらず、なぜ落ちてこないのか、講義で触れた事項を復習する(60分)。
- 第3回 運動法則(1)：天動説と地動説、地球の自転と公転運動
配付された資料をよく読み、地球が自転している直接的な証拠など講義で触れた事項を復習する(60分)。
- 第4回 運動法則(2)：ケプラーの法則、火星探査計画
配付された資料をよく読み、「火星はなぜ何年かごとに大接近するのか」など、講義で触れた事項を復習する(60分)。
- 第5回 運動法則(3)：万有引力の法則、探査機カッシーニによる土星探査
配付された資料をよく読み、「スイング・バイ技術」など講義で触れた事項を復習する(60分)。
- 第6回 天体の運動(1)：惑星系の成り立ち
太陽系における巨大惑星・木星の果たす役割とはなにか、講義で触れた事項を復習する(60分)。
- 第7回 天体の運動(2)：天体のカオス、小惑星や彗星の探査
配付された資料をよく読み、「天体現象でみられるカオス」など講義で触れた事項を復習する(60分)。
- 第8回 天体の運動(3)：人工衛星、スペース・シャトルの宇宙実験
「スペースシャトル内ではなぜ“無重力状態”となるのか」など、講義で触れた事項を復習する(60分)。
- 第9回 光学：光の反射と屈折、望遠鏡の原理、宇宙望遠鏡
配付された資料をよく読み、「ハッブル宇宙望遠鏡で行われた観測からどのようなことが分かったのか」など、講義で触れた事項を復習する(60分)。
- 第10回 熱(1)：熱容量・比熱、熱の物質説、ランフォードの実験
配付された資料をよく読み、講義で触れたキーワード(熱量、熱容量、比熱など)について調べておく(30分)。
- 第11回 熱(2)：熱エネルギー、ジュールの実験、不可逆現象
熱エネルギーの移動における不可逆な現象をどのように捉えていたか、講義で触れた事項を復習する(30分)。
- 第12回 熱(3)：拡散、エントロピー
不可逆な現象においてエントロピーはどのような役割を果たしているのか、講義で触れた事項を復習する(30分)。
- 第13回 熱(4)：気体分子の運動、散逸構造
気体の圧力と温度は分子の運動とどのような関係があるのか、講義で触れた事項を復習する(60分)。
- 第14回 新素材と新技術：ナノテクノロジー
配付された資料をよく読み、ナノテクノロジーは人間の未来にどのような恩恵をもたらすと考えられるのか、講義で触れた事項を復習する(60分)。
- 第15回 物理実験シミュレーション：カオス、複雑系、量子
物理実験シミュレーションでみた「カオス水車」の運動状態の変化について復習する(30分)。

上記に示した通りの順に講義を行うが、最新の話題も紹介したいので、入れ換えや変更もありえる。

【授業の進め方】

身近な物理現象を取り上げ、物理の基本法則に基づいて、「どうしてそのようなことが起こるのか」という視点で分かりやすく解説する。講義に関連した内容のビデオを見せることもあるが、その場合、ビデオの内容に関連した質問事項を記したビデオレポートに解答しながらビデオを視聴してもらう。講義内容の理解を確実なものとするため、演習（簡単な問題を解くこと）もある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

毎回講義のときに、必要に応じて資料を配布する。教科書は指定しない。

【参考図書】

第1回の講義の時に参考となる書籍を紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 15% レポート・課題 85% 受講態度 0%

特記事項

課題 1回（学期末に提出すること）

判定基準 出席率2/3以上で、授業内小試験（ビデオレポート）＋レポート・課題（期末課題など）の評価が60点（100点満点）以上であること。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

毎回必ず出席をとる。30分以上遅刻した場合は欠席とみなす。遅刻2回で欠席1回にカウントする。就職活動や教育実習で何回か休む可能性のある学生は欠席回数に特に注意を払うこと。

【履修上の心得】

私語厳禁。授業中、教室内では帽子をとり、静粛にして、飲食はしないこと。ビデオレポートに解答する場合スマートフォンを使うことは認めないので、電源は切っておくこと。本科目のためにはとくに予備知識はいらない。高校で物理を選択していなくても全く構わない。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目：なし

関連科目：「物理学A」

取り上げているテーマが違っているので「物理学A」の講義の知識を前提とはしないが、「物理学A」の講義も聞いていれば物理学のほぼ全般にわたる統一的な理解が得られる。専門家向けの講義ではないのですぐに役に立つという内容ではないが、「自然を見る目」は確実に変わることだろう。一見複雑な現象も単純な原理から理解できるということが分かればよい。

「簡単な基礎知識から自然がどのように理解できるか」という、ものの見方・考え方を学ぶ講義であり、入門的・導入レベルの内容である。

科目名	化学A
	基礎化学
教員名	高林 久美子

【授業の内容】

ますます複雑さを増す現代社会は様々な情報があふれています。その中には誤った情報、不正確な情報がたくさん混ざっています。自分が本当に必要な正しい情報を得るためには、ある程度の基本的な知識が必要となります。化学の基本的な知識もその一つです。しかし「化学」と言うと難しい化学記号が思い浮かんで拒絶反応を示す人も少なくありません。しかし、化学記号や化学式も理解できれば意味不明の記号ではなくなります。「化学A」では高校で化学を履修していない、または理解できなかった人が多いことを考慮し、化学の基礎部分を最初から丁寧に学んでいきます。

【到達目標】

化学Aの講義では、多岐にわたる化学の分野の最も初歩的な入門編として基本を学ぶだけでなく、化学的なものの見方、考え方を身につけ、現代社会の諸問題を理解するための下地を作ることを目標とします。

【授業計画】

第1回	化学の起源・測定の体系	教科書	第1・2章
第2回	物質の成り立ち	教科書	第3章(1)
第3回	原子と分子	教科書	第3章(2)
第4回	原子の構造	教科書	第4・5章
第5回	周期表	教科書	第6章
第6回	化学結合Ⅰ	教科書	第7章(1)
第7回	化学結合Ⅱ	教科書	第7章(2)
第8回	化学反応式	教科書	第8章(1)
第9回	酸化還元	教科書	第8章(2)
第10回	反応熱Ⅰ	教科書	第10章(1)
第11回	反応熱Ⅱ	教科書	第10章(2)
第12回	気体状態	教科書	第11章
第13回	溶液の化学Ⅰ	教科書	第14章(1)
第14回	溶液の化学Ⅱ	教科書	第14章(2)
第15回	酸・塩基	教科書	第15章

【授業の進め方】

化学の基礎概念を理解することを主眼とします。授業の終わりに、内容理解できたかどうか毎回(1回目から15回まで15回)簡単な小テストを行い、理解度を確認します。暗記するより理解することを目指します。そのため授業中の小テストおよび定期試験は教科書、ノート等の持込を認めます。授業内小テストは教科書の例題、練習問題のレベルとします。小テストの解説を次回の授業の最初に行います。高校の「化学Ⅰ」「化学Ⅱ」と重複する部分があります。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①化学 基本の考え方を中心に ②シャーマン 他 ③東京化学同人 ④1990年 ⑤2850円 ⑥4-8079-0334-9

学内書店で販売

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 30% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

小テスト 4点×15回×1/2=30点

【「成績評価の方法」に関する注意点】

第1回の講義から毎回小テストを行います。第1回から出席してください。

【履修上の心得】

高校で化学を履修しなかった人でも基本からやるので大丈夫ですが、しっかり授業を聞いてください。毎回(1回目から15回まで15回)小テストを行います。計算をすることが多いので電卓をもってきてください。授業中の小テストおよび定期試験は教科書、ノート等の持込を認めます。

【科目のレベル、前提科目など】

前提・関連科目は特にありませんが、現代社会において、新聞やテレビなどに出てくる話題を理解するうえで最低限要求される知識です。科学的なトピックスを解説する「化学B」もあわせて履修するとさらに効果的です。また、環境科学等他の理系科目を理解するためにも役に立ちます。

科目名	化学B
	生活の中の科学
教員名	高林 久美子

【授業の内容】

ますます複雑さを増す現代社会は様々な情報があふれています。その中には誤った情報、不正確な情報がたくさん混ざっています。自分が本当に必要な正しい情報を得るためには、ある程度の基本的な知識が必要となります。化学の基本的な知識もその一つです。この化学Bの講義では、「化学」というよりもう少し広い「科学」の立場に立ち、新聞やテレビなどに登場する私たちの日常生活の興味深い現象・事象を解説します。

【到達目標】

化学Bでは、「化学」というよりもう少し広い「科学」の立場での知識を身につけること、また、科学的なものの見方を知り、現代社会の諸問題を理解するための下地を作ること为目标とします。知識は聞いただけではなく、実践して初めて自分のものになります。そこで、この授業で学んだことを日常生活に生かせるようになることが最終到達目標です。

【授業計画】

- 第1回 水の化学（水と生命）
- 第2回 休養の化学（睡眠の化学）
- 第3回 運動の化学（ダイエットの化学）
- 第4回 栄養素の化学Ⅰ（タンパク質）
- 第5回 栄養素の化学Ⅱ（炭水化物・脂質）
- 第6回 食品の化学Ⅰ（食品衛生・特定保健用食品）
- 第7回 食品の化学Ⅱ（遺伝子組み換え食品）
- 第8回 遺伝子の化学（親から子へ）
- 第9回 免疫の化学（身を守るしくみ）
- 第10回 化粧品の化学Ⅰ（皮膚と毛髪の構造）
- 第11回 化粧品の化学Ⅱ（皮膚と紫外線）
- 第12回 化粧品の化学Ⅲ（香りの化学）
- 第13回 環境の化学Ⅰ（地球温暖化）
- 第14回 環境の化学Ⅱ（酸性雨・オゾン層の破壊）
- 第15回 エネルギーの化学（エネルギーの変遷）

【授業の進め方】

生活の中の現象や事柄を科学の目でみて、基礎概念を理解することを主眼とします。よって毎回の授業は日常身近にあるテーマを取り上げ、解説していくこととなります。毎回授業の終わりにリアクションペーパーを提出してもらいます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使用せず、必要に応じてプリントを配布します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 55% 授業内小試験 45% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

上記授業内小試験はリアクションペーパーによる評価です。 毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。
3点×15回=45点 45%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

リアクションペーパーの書き方は授業で説明します。この授業の最終到達目標は学んだことを日常生活に生かせるようになることなので、今後何をどう実践していくかを書いてもらいます。

【履修上の心得】

高校で化学を履修しなかった人でも大丈夫です。新聞やテレビでの情報に敏感になるよう努力しましょう。

【科目のレベル、前提科目など】

前提・関連科目は特にありませんが、現代社会において、新聞やテレビなどに出てくる話題を理解するうえで最低限要求される知識です。化学の基本事項を講義する「化学A」もあわせて履修するとさらに効果的です。また、環境科学等他の理系科目を理解するためにも役に立ちます。

化学はいうまでもなく理系科目ですが、本講義は化学の初歩的な入門レベルであり、文系の学生を対象としたものです。高校で化学を履修しなかった人又は理系科目が苦手であると思っている人でも十分理解できるように配慮します。

科目名	生物学A
	環境と生物
教員名	上田 高嘉

【授業の内容】

科学技術の進歩に伴って世の中は目まぐるしく変化し、どのように生きればいいのか混沌としている。そんな中で人間とは何かをより深く知ることが重要であり、生物学はその大きな助けになるように思える。単なる知識の積み重ねでなく、自分なりの考えを身につけていただきたい。講義の最後には身近な生物学上の問題を取り上げ議論したいと考えているが、そのためには少なくとも私の持っている知識を共有していただく必要があり、そのための講義内容になっている。

【到達目標】

自分なりの考え方を身につけ、少しでも生物学に興味を持っていただく。

【授業計画】

- 第1回 生命の誕生と生物の進化(1)
- 第2回 生命の誕生と生物の進化(2)
- 第3回 生命の誕生と生物の進化(3)
- 第4回 生命の誕生と生物の進化(4)
- 第5回 生命の誕生と生物の進化(5)
- 第6回 動物の発生
- 第7回 動物の行動(1)
- 第8回 動物の行動(2)
- 第9回 生物体の調節(1)
- 第10回 生物体の調節(2)
- 第11回 環境保全(1)
- 第12回 環境保全(2)
- 第13回 環境保全(3)
- 第14回 バイオテクノロジー(1)
- 第15回 バイオテクノロジー(2)

【授業の進め方】

講義が中心であるが、身近な問題、例えば地球温暖化を取り上げて議論していただくことも考えている。少しでも興味を持っていただけるよう努力したい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は指定せず、必要に応じて資料を配布する。

【参考図書】

参考図書はその都度紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

定期テスト、平常点、聴講態度等により総合的に判断する。

【履修上の心得】

高校で生物を選択していなくても一向に構わない。単なる知識の積み重ねになることなく、考える力を身につけることを心掛けてほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目は特に必要ないが、物理学、化学等関連させていけば論理的思考が膨らむことだろう。

生物学の入門的な内容で、社会的に話題となる生物学的諸問題について議論できる一般的知識、考え方を身につけていただく程度である。

科目名	生物学A
	微生物学の発展から分子生物学まで 感染症を例に学びます
教員名	岡田 晴恵

【授業の内容】

生物学は、地球上のさまざまな生物やその生命現象を解き明かそうとする科学です。19世紀の自然発生説の否定から21世紀の現代まで、生物学の知見と研究、技術は躍進的な進歩を遂げてきました。そのような生物学の発展を微生物学（病原微生物）に重点を置きながら学びます。

【到達目標】

自分なりの考え方を身につけ、少しでも生物学の興味をもっていただく。
みなさんが健康に生活していく上で役立つ知識の一部でも身につける。

【授業計画】

- 第1回 ヒトの誕生と微生物
病原微生物と人の生活
- 第2回 細菌 原始生物の生き残り
- 第3回 ウィルスとは？生物と無生物の間
- 第4回 ウィルスの発見と分類
- 第5回 体を守る免疫 自然免疫と適応免疫
ワクチンの開発
- 第6回 感染症とは？微生物はどこに潜む？感染成立の3要因
- 第7回 原虫とは？マラリア感染症
昆虫が媒介する微生物
- 第8回 細菌とは？腸管出血性大腸菌O157
環境と細菌
- 第9回 ウィルスの感染 インフルエンザと鳥インフルエンザ
ウィルスの遺伝子変異
- 第10回 ノロウィルスの伝播形式
環境とウィルス
- 第11回 寄生虫とは？その生活史
- 第12回 リケッチア、クラミジア
- 第13回 ワクチン 抗微生物薬、消毒、滅菌
- 第14回 地球環境の変化と生物
21世紀の微生物学
- 第15回 バイオテクノロジーの利用

【授業の進め方】

講義が中心ですが、身近な問題、たとえば微生物の引き起こす感染症の予防などのついて、議論していただくことも考えている。実生活のも役立つ講義を目指す。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①正しく怖がる感染症 ②岡田晴恵 ③ちくまプリマ新書 ④2017.3

【参考図書】

病気の社会史 岩波現代新書 立川昭二著

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 20% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

定期試験、講義内の小テスト、平常の聴講態度などで評価をします。
教育実習等を始め公欠等のある場合には、その学生にレポートを課します。レポート提出の無い場合は認めません。さらに、文科省の定める出席回数は実質的に守られるべきとします。

【履修上の心得】

周囲で講義を受けている人たちに迷惑をかけることは慎むこと。

【科目のレベル、前提科目など】

高校で生物を選択していなくとも一向に構いません。

【備 考】

生物学の入門的内容です。

科目名	生物学B
教員名	上田 高嘉

【授業の内容】

科学技術の進歩に伴って世の中は目まぐるしく変化し、どのように生きればいいのか混沌としている。そんな中で人間とは何かをより深く知ることが重要であり、生物学はその大きな助けになるように思える。単なる知識の積み重ねでなく、自分なりの考えを身につけていただきたい。講義の最後には身近な生物学上の問題を取り上げ議論したいと考えているが、そのためには少なくとも私の持っている知識を共有していただく必要があり、そのための講義内容になっている。

【到達目標】

自分の考え方を身につけ、少しでも生物学に興味を持っていただく。

【授業計画】

- 第1回 ウイルスについて(1)
- 第2回 ウイルスについて(2)
- 第3回 ウイルスについて(3)
- 第4回 細胞の構造と機能(1)
- 第5回 細胞の構造と機能(2)
- 第6回 細胞の構造と機能(3)
- 第7回 遺伝子と染色体(1)
- 第8回 遺伝子と染色体(2)
- 第9回 遺伝子と染色体(3)
- 第10回 遺伝子と染色体(4)
- 第11回 遺伝子と染色体(5)
- 第12回 性について(1)
- 第13回 性について(2)
- 第14回 生命工学(1)
- 第15回 生命工学(2)

【授業の進め方】

講義が中心であるが、身近な問題、例えば万能細胞等生命操作を取り上げて議論していただくことも考えている。少しでも興味を持っていただけるよう努力したい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は指定せず、必要に応じて資料を配布する。

【参考図書】

参考図書はその都度紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

定期テスト、平常点、聴講態度等により総合的に判断する。

【履修上の心得】

高校で生物を選択していなくても一向に構わない。単なる知識の積み重ねになることなく、考える力を身につけることを心掛けてほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目は特に必要ないが、物理学、化学等関連させていけば論理的思考が膨らむことだろう。

生物学の入門的な内容で、社会的に話題となる生物学的諸問題について議論できる一般的知識、考え方を身につけていただく程度である。

科目名	生物学B
	微生物学の発見の瞬間を共有しながら、生物学のポイントを理解します
教員名	岡田 晴恵

【授業の内容】

生物学は、地球上のさまざまな生物やその生命現象を解き明かそうとする科学です。生物は自然に発生するという自然発生説が完全に否定されたのは、19世紀中頃、そんなに古い時代ではありません。さまざまな観察や実験に役立つ多くの道具や機械が開発され、現在、生物学は躍進的な進歩を遂げています。生物史に残る発見やその科学者たちの足跡を振り返りながら、また、最新の生物学の知見までを紹介していきます。また、近年、新しい感染症の発生や流行のリスクが問題となっています。そのような新興感染症の病原体の微生物についても、注目してきます。どうして、そのような微生物が人に感染しやすくなり、私たちの周囲で流行を起こしやすくなっているのか、21世紀に生きる我々の問題を考えていきます。

【到達目標】

自分なりの考え方を身につけ、少しでも生物学の興味をもっていただく。
みなさんが健康に生活していく上で役立つ知識の一部でも身につけてる。

【授業計画】

- 第1回 生物学とは何か
地球上には多様な生物が生息している
- 第2回 微生物とは何か 人との関わり
- 第3回 生物学、微生物学の偉大なる発見1
セレンディピティを共有する。
科学者が体験した何気ない出来事（現象）から、ひらめきを感じて、偉大なる発見に導く幸運な瞬間を皆さんと追体験していきます。
- 第4回 新しい感染症と病原微生物
- 第5回 偉大なる発見 セレンディピティ
- 第6回 生体、細胞の構造の機能 ウイルスや細菌
- 第7回 生物と生体を守る免疫システム
- 第8回 新興感染症 病原微生物
- 第9回 偉大なる発見 セレンディピティ
- 第10回 病原微生物 動物から人へ 遺伝子変異と適応
- 第11回 病原体による病気 呼吸器感染症
- 第12回 病原体による病気 性感染症
- 第13回 母胎の中の新しい生命
- 第14回 母子感染 胎児感染
- 第15回 利用される最新の生命工学

【授業の進め方】

講義が中心ですが、身近な問題、たとえば微生物の引き起こす感染症の予防などのついて、議論していただくことも考えている。実生活のも役立つ講義を目指す。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①怖くて眠れなくなる感染症 ②岡田晴恵著 ③PHP研究所

【参考図書】

感染症とたたかった科学者たち 岡田晴恵著 岩崎書店
知っておきたい感染症 岡田晴恵著 ちくま新書

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 20% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項
定期試験、講義内の小テスト、平常の聴講態度で評価します
教育実習などの公欠等のある学生等には、レポートを課します

【「成績評価の方法」に関する注意点】

教育実習等による欠席申請等には所定の用紙に必要事項を書き入れ、決まりに則って提出する。また、それ以外の講義には休まない心がけを持って講義に出席する。文科省の定める3分の2以上の講義の出席は遵守する努力は不可欠である。実質の講義不在が多数の場合には、単位の認定はできない。また、講義中に周囲に迷惑となる行動、振る舞いは厳に慎むべきである。学生証は必ず携帯して、出席確認を各自で行う。講義後の申請は、原則として受け付けない。

【履修上の心得】

高校で生物を選択していなくとも一向に構いません。

【科目のレベル、前提科目など】

生物学の入門的内容です。

【備 考】

周囲の人に講義中に迷惑をかける行為は慎むこと

科目名	科学史A
	～科学・技術の歴史を紐解く～
教員名	黒澤 和人

【授業の内容】

科学・技術の歴史を、各時代の文化や社会背景との関連を考慮しながら紐解きます。その対象は、自然科学にとどまらず、人文科学や社会科学にも及びます。

講義では、身近に起こるさまざまな現象に関する理解や解釈を、単に歴史的に見るということだけではなく、現代の知見や見解と比較しつつ、その仕組みをより正確に理解できるよう心掛けたいと考えています。それにより、科学的なものの見方や考え方を知るとともに、その楽しさを体験します。

前期に配置された当講義では、科学・技術の歴史を、時代区分および世界の国々の歴史と重ね合わせながら、全体を俯瞰して見られるようにしていきたいと考えています。

については、関連する話題（トピック）を一話完結のストーリーにまとめ、分かりやすく解説していきます。

【到達目標】

- (1) 科学や技術の歴史が、各国の先達によってどう形成されてきたか大きな流れとして理解できるようになる。
- (2) 科学的な知見が、社会や各専門分野においてどのように積み重ねられてきたか理解できるようになる。
- (3) 現代科学の諸手法の基礎が、歴史を通してさらに理解できるようになる。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンスおよび科学の言葉と記号。WebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第2回 先史・古代の科学。WebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第3回 古代ギリシャの科学。WebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第4回 古代ローマの科学。WebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第5回 中国の科学。WebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第6回 アラビア／インドの科学。WebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第7回 朝鮮の科学。WebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第8回 日本の科学。WebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第9回 ヨーロッパの科学Ⅰ（イギリス・ドイツ）。WebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第10回 ヨーロッパの科学Ⅱ（フランス・オランダ・ロシア）。WebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第11回 ヨーロッパの科学Ⅲ（ポルトガル・スペイン・北欧）。WebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第12回 南北アメリカの科学（北米・中南米）。WebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第13回 近現代の科学。WebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第14回 専門分野（経営・法・教育）と科学の発展。WebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第15回 まとめと今後の学習のための案内。WebClassの資料に基づきこれまでの復習をする（120分）。

【授業の進め方】

毎回、1つのテーマを設定し、

- (1) 背景となる知識
- (2) 分野に関わる言葉と記号
- (3) 理論や法則の意味
- (4) 分野固有の考え方

を講義形式で、分かりやすいストーリーに仕立てて解説していきます。

理解の手助けとして、映像を見せることや、簡単な授業内課題や宿題を課すことも、ときには必要であると考えています。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

指定しません。

代わりに、毎回、印刷教材を配布する予定です。

【参考図書】

必要に応じて随時紹介していきます。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

出席回数が全体の3分の2を超えていることを前提に、

- (1) レポート・課題
 - ・レポートの提出状況
 - ・期末テストに代わる最終レポートの結果
 - ・宿題や授業の予復習の状況

(2) 受講態度

・授業ごとの課題の処理状況および質疑応答の状況。リアクションペーパー（課題用紙）への記入などで評価します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・レポートについては、提示された日に欠席していても、出席した人と同様の条件で、処理し提出することができます。
- ・宿題についても同様です。
- ・欠席は5回まで認められます。しかし、欠席するとその日の受講態度の点数分が0点となります。
- ・病欠、教育実習、介護研修、部活動、忌引き等、理由の如何を問わず欠席回数にカウントします。ただし、正当な理由が記された欠席届けが提出されたうえに、当日の授業に関連した事柄について、WebClassの資料、友人のノート、本、インターネット、等々を手掛かりにして自学自習し、その成果をノートやレポートのような形で提出してもらえば加点します。なお、欠席した日のリアクションペーパーの提出は自学自習には含めません。

【履修上の心得】

- ・本学学生なら誰でも履修できる教養科目の授業です。
- ・高校時代のコースや科目の履修状況、現在の所属、在籍学年等、一切問いません。
- ・毎回の授業では、重要な点をノートに取り、不明な点があればその都度質問をして下さい。ただし、言葉の定義や年代などいった決まり切った知識は、本やネットを見れば出ているでしょう。ノートして欲しいのは、どんな例やたとえを使って分かりやすく説明しようとしているかの、いわゆる授業展開のアイデアの部分です。
- ・他の科学分野との相違点や相互関係について考え、科学・技術とは何か、またそれが発展するとはどういうことかを突き詰めようとする授業です。したがって、何を考え、何を理解したかを記録しておくことは重要です。
- ・欠席した場合は、友人のノートやWebClassの資料などを参考に、おっかけて勉強して下さい。
- ・当日の課題用紙への記入を友人に依頼するなどして出席を装ったことが判明した場合は、両者失格となります。

【科目のレベル、前提科目など】

[科目レベル] 科学的なものの見方・考え方を養い、専門科目への入門・導入的な役割を果たす科目です。大学生にとって必要不可欠な科学分野の基礎知識が、記号や言葉遣いとともに分類整理して提示されます。

[前提科目] なし。

[関連科目] 科学史B、数学概論A・B、代数学、解析学、論理学、統計学、物理学、化学、経済学、教育方法論、心理学、マルチメディア論、情報・メディア系科目、等。

科目名	科学史B
	～人物と著作で読み解く科学・技術の歴史と哲学～
教員名	黒澤 和人

【授業の内容】

科学・技術の歴史を、各時代の文化や社会背景との関連を考慮しながら紐解きます。その対象は、自然科学にとどまらず、人文科学や社会科学にも及びます。

講義では、身近に起こるさまざまな現象の理解や解釈を、単に歴史的に見るということだけではなく、現代の知見や見解と比較しつつ、その仕組みをより正確に理解できるよう心掛けたいと考えています。それにより、科学的なものの見方や考え方を知るとともに、その楽しさを体験します。

後期に配置された当講義では、科学・技術の各分野の歴史と哲学について、主だった科学者や思想家の人となり、また彼らの残した著作などを通して考え、現代科学技術を推進する際の参考にしていきたいと考えています。

については、関連する話題（トピック）を一話完結のストーリーにまとめ、分かりやすく解説していきます。

【到達目標】

- (1) 現代の科学や技術がどう形成されてきたか理解できるようになる。
- (2) 科学的とはどういうことか、より具体的に理解できるようになる。
- (3) 科学技術のあるべき姿をどう構想すべきか理解できるようになる。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンスおよび科学・技術の言葉と記号。WebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第2回 ピタゴラス／アリストテレス／アルキメデス／エウクレイデス。WebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第3回 ダ・ヴィンチ／ガリレオ／デカルト／パスカル。WebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第4回 ニュートン／ライプニッツ／カント。WebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第5回 ヒューエル／マッハ／ポアンカレ。WebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第6回 ウィーナーとサイバネティクス。WebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第7回 シャノンと情報の理論。WebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第8回 ノイマンとゲームの理論／作用素環論。WebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第9回 チューリングと計算の理論。WebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第10回 キャンベル／ラッセル／ウィトゲンシュタイン。WebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第11回 アインシュタイン／湯川秀樹／シュレーディンガー／ハイゼンベルク。WebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第12回 カルナップ／クワイン／ソシュール／パース。WebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第13回 クーン／ファイヤアーベント／パーソンズ／ベルタランフィ。WebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第14回 南方熊楠／宮澤賢治／大森荘蔵／高木仁三郎。WebClassの資料に基づき授業の予復習をする（60分）。
- 第15回 まとめと今後の学習のための案内。WebClassの資料に基づきこれまでの復習をする（120分）。

【授業の進め方】

毎回、1つのテーマを設定し、

- (1) 背景となる知識
- (2) 分野に関わる言葉と記号
- (3) 理論や法則の意味
- (4) 分野固有の考え方

を講義形式で、分かりやすいストーリーに仕立てて解説していきます。

理解の手助けとして、映像を見せることや、簡単な授業内課題や宿題を課すことも、ときには必要であると考えています。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

指定しません。

代わりに、毎回、印刷教材を配布する予定です。

【参考図書】

必要に応じて随時紹介していきます。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

出席回数が全体の3分の2を超えていることを前提に、

- (1) レポート・課題

- ・レポートの提出状況
- ・期末テストに代わる最終レポートの結果
- ・宿題や授業の予復習の状況

(2) 受講態度

・授業ごとの課題の処理状況および質疑応答の状況。リアクションペーパー（課題用紙）への記入などで評価します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・レポートについては、提示された日に欠席していても、出席した人と同様の条件で、処理し提出することができます。
- ・宿題についても同様です。
- ・欠席は5回まで認められます。しかし、欠席するとその日の受講態度の点数分が0点となります。
- ・病欠、教育実習、介護研修、部活動、忌引き等、理由の如何を問わず欠席回数にカウントします。ただし、正当な理由が記された欠席届けが提出されたうえに、当日の授業に関連した事柄について、WebClassの資料、友人のノート、本、インターネット、等々を手掛かりにして自学自習し、その成果をノートやレポートのような形で提出してもらえば加点します。なお、欠席した日のリアクションペーパーの提出は自学自習には含めません。

【履修上の心得】

- ・本学学生なら誰でも履修できる教養科目の授業です。
- ・高校時代のコースや科目の履修状況、現在の所属、在籍学年等、一切問いません。
- ・毎回の授業では、重要な点をノートに取り、不明な点があればその都度質問をして下さい。ただし、言葉の定義や年代などいった決まり切った知識は、本やネットを見れば出ているでしょう。ノートして欲しいのは、どんな例やたとえを使って分かりやすく説明しようとしているかの、いわゆる授業展開のアイデアの部分です。
- ・他の科学分野との相違点や相互関係について考え、科学・技術とは何か、またそれが発展するとはどういうことかを突き詰めようとする授業です。したがって、何を考え、何を理解したかを記録しておくことは重要です。
- ・欠席した場合は、友人のノートやWebClassの資料などを参考に、おっかけて勉強して下さい。
- ・当日の課題用紙への記入を友人に依頼するなどして出席を装ったことが判明した場合は、両者失格となります。

【科目のレベル、前提科目など】

[科目レベル] 科学的なものの見方・考え方を養い、専門科目への入門・導入的な役割を果たす科目です。大学生にとって必要不可欠な科学分野の基礎知識が、記号や言葉遣いとともに、分類整理して提示されます。

[前提科目] なし。

[関連科目] 科学史A、数学概論A・B、代数学、解析学、論理学、統計学、物理学、化学、経済学、教育方法論、心理学、マルチメディア論、情報・メディア系科目、等。

科目名	キャリアデザインⅠ(入門)
	社会人基礎力養成準備講座
教員名	力石 正弘

【授業の内容】

本授業の前半は、大学4年間の過ごし方を考えていく。学生生活の目的や目標を明確にし、計画的な日々を送ることの重要性を説く。後半は、働くことで得る収入から徴収される税や社会保険料を通じて日本の社会保障制度を学ぶ。15回の授業から、自分の仕事人生のプランを自ら設計し、決定することについて、さまざまな角度から切り込んでいく。

また、本授業の目的は、次の3点とする。

1. 大学生活のスタートで躓かぬよう公私を含め、大学生としての自覚を促す
2. 目標を持つことの重要性を説き、様々なことに積極的に取り組む意識を持たせる
3. 社会保障等から世間の出来事に関心を持たせ、それを契機に自分の将来を考える

【到達目標】

1. 大学生としてのマナーや陥りやすい危険を理解し、健全な学生生活のあり方を修得する
2. 学習スキルを点検し、基礎学力向上に努める
3. 租税の意義や役割、社会保障のしくみを理解する

【授業計画】

第1回 オリエンテーション

この授業を受講する目的を考えておく（予習1時間以上）

第2回 大学生活の危険と対処法Ⅰ

授業で示されたトラブル等に近い事例が身近にあった場合、今後の予防策を講じておく（復習1時間以上）

第3回 大学生活の危険と対処法Ⅱ

授業で示されたトラブル等に近い事例が身近にあった場合、今後の予防策を講じておく（復習1時間以上）

第4回 今の自分を診断する

アセスメント結果をもとに、自分の課題を明確にしておく（復習1時間以上）

第5回 学生時代と就活の関係

入学以来、何を目的として大学生活を過ごしたか整理しておく（予習1時間以上）

第6回 学習スキルⅠ～学習スタイル～

授業で行ったワークを中心に復習しておく（復習1時間以上）

第7回 学習スキルⅡ～記憶のスキル～

今回学んだ手法をもとに、課題を指示された日時までに提出する（課題作成1時間以上）

第8回 学習スキルⅢ～箇条書きトレーニング～

今回学んだ手法をもとに、課題を指示された日時までに提出する（課題作成1時間以上）

第9回 大学生のビジネスマナー

復習に注力し、不明点は授業終了後や次回授業開始前を利用し、積極的に理解に努める（復習1時間以上）

第10回 会社の仕組み

ホームワークを次回の授業までに作成する（課題作成1時間以上）

第11回 社会保障教室

理解不足は、次回以降の授業に影響が出るので、十分時間をかける（復習90分以上）

第12回 医療教室

復習に注力し、不明点は授業終了後や次回授業開始前を利用し、積極的に理解に努める（復習1時間以上）

第13回 年金教室

復習に注力し、不明点は授業終了後や次回授業開始前を利用し、積極的に理解に努める（復習1時間以上）

第14回 租税教室

復習に注力し、不明点は授業終了後や次回授業開始前を利用し、積極的に理解に努める（復習1時間以上）

第15回 選挙へ行こう

今後の就活のために時事問題に関する書籍等を読み、知識を深めておく（復習1時間以上）

指定したテキスト『大学生のためのキャリアデザインⅠ(入門)』を必ず事前に読んでおくこと。授業は、前回以前の内容を理解したという前提で進めていくので特に復習に注力し、不明点はそのままにせず、授業終了後を利用し、積極的に理解するよう行動してほしい。

※授業の進捗如何で若干内容が変わることがある。

【授業の進め方】

講義形式（一部個人ワーク）。毎回パワーポイントを使って講義の要点を明示しながら授業を進めていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①大学1年生のためのキャリアデザインⅠ(入門) ②カ石正弘・栗原栄美共著 ⑤1200

オリジナルテキスト『大学生1年生のためのキャリアデザインⅠ(入門)』(Booksナガマ様にて販売)を必ず購入すること。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

レポートについては、原則2回実施する。

受講態度とは、授業終了時に配付するリアクションペーパーによる評価(3回以上実施)

【履修上の心得】

大人の自覚を持って授業に臨むこと。

出席カードを配布した時は、ICカードの出欠より優先して管理する。

※私語等、他の受講生が不快に感じる行為は厳禁。

※出席に関する不正があった場合は、理由の如何を問わず【失格】とする。

【科目のレベル、前提科目など】

大学1年生向けの授業である。2年生以上が受講する場合はその点を理解の上、履修するように。

続編である「キャリアデザインⅡ(基礎)」や就活対策の「キャリアデザインⅢ(実践)」を受講する学生は、本講座の受講を勧める。

【備 考】

エントリーシートの書き方や面接対策等の就職活動支援講座ではない点に注意。

科目名	キャリアデザインⅡ(基礎)
	社会人基礎力養成講座
教員名	力石 正弘

【授業の内容】

社会人基礎力養成講座として、自己理解、職業理解から始まり、労働市場や労働法、さらに職業能力などに関する基礎知識の修得を目的として、自らのキャリアパスを考える契機とする内容になっている。

また、本授業では次の5項目を目的としている。

1. 大学生活がどのように就職活動に影響を及ぼすのかを知る
2. 雇用形態の違いを理解し、目指す働き方を明確にする
3. インターンシップ参加の契機となるように会社の仕組みや利益の考え方を学ぶ
4. 日本の現状とこれから必要とされる能力(社会人基礎力)を学ぶ
5. 女性の結婚後のキャリアを考え、自分の将来像を意識させる

【到達目標】

1. 大学生活と就活の関連性を理解する
2. 働く理由を考え、正社員と非正社員の違いを知る
3. 会社を役割・組織・経営・労働の観点から理解する
4. 特に重要な6つの社会人基礎力等を理解する
5. 授業を通じて、将来のキャリアデザインを描けるようにする

【授業計画】

第1回 オリエンテーション

この授業を受講する目的を考えておく(予習1時間以上)

第2回 大学生活の危険と対処法～飲酒～

授業で示されたトラブル等に近い事例が身近にあった場合、今後の予防策を講じておく(復習1時間以上)

第3回 学生時代と就活の関係

1・2年生は、大学でやるべき目標が明確になっているか確認する。

3・4年生は、入学以来、何を目的として大学生活を過ごしてきたのかを整理しておく(復習1時間)

第4回 自立したくない心理

次回までに事例研究Ⅱについてまとめておく(復習1時間以上)

第5回 働く理由

理解不足は、次回以降の授業に影響が出るので、十分時間をかける(復習1時間以上)

第6回 仕事のやりがい

ワークで得た結果をもとに、「できること・できないこと」を整理しておく(復習1時間以上)

第7回 働き方を比べる

非正規社員の不利な面を整理しておく(復習30分以上)

第8回 インターンシップのすすめ

インターネットからインターンシップを実施している企業を探してみる(復習1時間以上)

第9回 会社を知ろうⅠ

特に株式会社のしくみについて理解を深めておく(復習1時間以上)

第10回 会社を知ろうⅡ

「利益」と「原価」の関係に注目すること(復習1時間以上)

第11回 私たちを取り巻く環境Ⅰ

今後の就活のために時事問題に関する書籍等を読み、知識を深めておく(復習1時間以上)

第12回 私たちを取り巻く環境Ⅱ

今後の就活のために時事問題に関する書籍等を読み、知識を深めておく(復習1時間以上)

第13回 社会で求められる力Ⅰ

授業で解説した能力が身についているか否か、また課題があれば何をすべきか考え整理する(復習1時間以上)

第14回 社会で求められる力Ⅱ

授業で解説した能力が身についているか否か、また課題があれば何をすべきか考え整理する(復習1時間以上)

第15回 結婚と仕事との関係

これまでの授業を振り返り、将来のキャリアパスを考えてみよう(復習2時間以上)

指定したテキスト『大学生のためのキャリアデザインⅡ(基礎)』を必ず事前に読んでおくこと。授業は、前回以前の内容を理解したという前提で進めていくので特に復習に注力し、不明点はそのままにせず、オフィスアワー等を利用し、積極的に理解するよう行動してほしい。

※授業の進捗如何で若干内容が変わることがある。

【授業の進め方】

講義形式(一部個人ワーク)。毎回パワーポイントを使って講義の要点を明示しながら授業を進めていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①大学生のためのキャリアデザインⅡ(基礎) ②力石正弘・栗原栄美共著 ⑤1200

オリジナルテキスト『大学生のためのキャリアデザインⅡ(基礎)』(Booksナガジマ様にて販売)を必ず購入すること。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

レポートについては、原則2回実施する。

受講態度とは、授業終了時に配付するリアクションペーパーによる評価(3回以上実施)

【履修上の心得】

大人の自覚を持って授業に臨むこと。

出席カードを配布した時は、ICカードの出欠より優先して管理する。

※私語等、他の受講生が不快に感じる行為は厳禁。

※出席に関する不正があった場合は、理由の如何を問わず【失格】とする。

【科目のレベル、前提科目など】

例年、1～4年生に幅広く受講していただいている。

キャリアデザインⅢ(実践)あるいは、キャリアデザインⅣ(演習)を受講する学生は、この講座を事前に受講するのが望ましい。

【備 考】

エントリーシートの書き方や面接対策等の就職活動支援講座ではない点に注意。

科目名	スポーツ演習A(バスケットボール)
教員名	佐藤 智信

【授業の内容】

生涯スポーツが叫ばれる今日、自分の選択したい興味関心を持つスポーツを選択することにより、今後自分が運動・スポーツに関わる際の基礎知識、応用的なプレーや試合の楽しみ方を学習していく。また、ただ単に自分がプレーすることだけでなく、男女混合、技術のばらつきを考慮したチーム編成などによって、状況に適した練習、試合でのルール作りなどについて考える力を養う。

さらに、実技種目は多くの仲間と交流できるよい機会であるので、学年を問わず積極的に授業に参加し、新しい仲間、関係作りを目指してもらいたい。

【到達目標】

- ①バスケットボールの基礎技能の上達させること
 - ②経験者は未経験者への適切なサポートをすること
 - ③ゲームにおいて、チームとして協力して取り組むこと(準備・運営も含む)
 - ④受講している学生全員が本授業を通して新しい人間関係を構築していくこと
- 以上の点を達成することを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション(授業の概要説明, 受講者の決定)
- 第2回 ボールを使ったレクリエーション、ハーフコート1対1
- 第3回 ドリブル, ボールハンドリング①(主にコーディネーショントレーニング)、ハーフコート1対1
- 第4回 ドリブル, ボールハンドリング②, ハーフコート1対1、ハーフコート3対3(3×3のルール説明)
- 第5回 3×3②レベルでチーム分けをしトーナメント戦
- 第6回 シュート練習、ハーフコート5対5
- 第7回 コンビネーションを必要とする動き①(パス&ラン) オールコート5対5 審判およびゲームの運営方法①
- 第8回 コンビネーションを必要とする動き②(ドライブリアクト、カットイン)オールコート5対5 審判およびゲームの運営方法②
- 第9回 コンビネーションを必要とする動き③(ファーストブレイクの作り) オールコート5対5 審判およびゲームの運営方法③
- 第10回 ゲーム①(毎週チーム分けをし15週まで6回、1週完結のゲームを行う)
- 第11回 ゲーム②
- 第12回 ゲーム③
- 第13回 ゲーム④
- 第14回 ゲーム⑤
- 第15回 ゲーム⑥

15回の授業の中で3回スキルテストを行う。

【授業の進め方】

90分間を大体半分に分け、授業の前半は基礎技術の練習を中心に行ない、後半は試合を取り入れるという流れで行なう。授業回数を重ね、試合が円滑に行える状態になった段階でレベルにあったゲームが行えるよう移行していく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- 運動できる服装(普段着は不可)
- 体育館で使うことのできるシューズが外履きとは別に必要となる。
(服装、靴のどちらも高校までに使用していたもので構わない。)
- タオル、着替えなどを持ってくるとよいでしょう。

【参考図書】

バスケットボール基本練習やコーディネーショントレーニング関連の動画を閲覧しておくとい良いでしょう。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 20% レポート・課題 0% 受講態度 80%

特記事項

成績は授業への取り組み、技能の習熟度、技術的な上達度、授業内での態度、積極性やチーム活動への貢献度から総合的に評価する。

授業への取り組み(60%)

技能の習熟度、技術的な上達度(スキルテストも含む)(20%)

授業内での態度、積極性やチーム活動への貢献度（20％）

【履修上の心得】

実技科目は講義科目に比べて本人が授業の中で実際に取り組むことが重要であるので、基本的に病気等による場合以外の欠席は認めない。

科目名	スポーツ演習A(ニュースポーツ)
教員名	飯塚 浩史

【授業の内容】

学齢期及び高校等では競技スポーツ中心に、運動に接してきた学生が多いと思う。今後の社会人生活において、競技スポーツに携わる者もいると思うが、「体力の維持・向上」、「楽しみ」、「交友関係づくり」や「生きがい」等の目的とした「生涯スポーツ」としてのスポーツ実践者が増えている。しかし、多様化する勤務状況の中で、必ずしも多くの仲間が集まり、経験したことがあるスポーツ種目を実施できるとは限らない。そこで、手軽に、少数でも可能な種目でもあり、中には地域のスポーツイベントや大会等でも実施されている「ニュースポーツ」の実施が期待できる。様々なニュースポーツを経験するだけでなく、社会人になってから、機会があれば再び実践できる動機づけとして本授業を捉えて欲しい。

【到達目標】

- ①様々なニュースポーツのルールを理解と体験ができること
- ②授業を通して、協力や協調性を主体的にできること
- ③受講している学生全員が本授業を通して新しい人間関係を構築していくこと

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（授業の概要説明等）
アイスブレイキング（レクリエーション・ゲーム）等
- 第2回 レクリエーションバレー
- 第3回 ソフトバレーボール①（1チーム4名でゲームを行う）
- 第4回 ソフトバレーボール②（チーム構成を変えてゲームを行う）
- 第5回 インディアカ
- 第6回 グランドゴルフ
- 第7回 ターゲットバードゴルフ①（クラブの握り方、打ち方）
- 第8回 ターゲットバードゴルフ②（コースを使ったゲーム）
- 第9回 ディスクゴルフ
- 第10回 キンボール・ペタンク
- 第11回 ドッジビー・カローリング
- 第12回 スポーツチャンバラ・輪投げ
- 第13回 ユニバーサルホッケー・フットサル
- 第14回 アルティメット
- 第15回 まとめ

【授業の進め方】

授業の前半は道具設置、ルールの理解、練習を中心に行ない、後半はゲームを取り入れるという流れで行なう。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- 運動できる服装（普段着は不可）
- 体育館行う場合は、体育館シューズ（外履きとは別）使用
- グラウンド等で行う場合は、外用のスニーカー（サンダル・パンプス等は不可）使用（服装、靴のどちらも高校までに使用していたもので構わない。）
- 水分（水・スポーツドリンク等）は持参する。
- タオル、着替えなどを持ってくるとよいでしょう。
- 荷物及び貴重品は更衣室に置かず、授業実施場所に持ってくる。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

特記事項

成績は授業への取り組み（50%）
 技能の習熟度・上達度（20%）
 授業内での態度積極性やチーム活動への貢献度（30%）

【履修上の心得】

実技科目は講義科目に比べて本人が授業の中で実際に取り組むことが重要であるので、基本的に病気等による場合以外の欠席は認めない。

科目名	スポーツ演習A(ゴルフ)
教員名	野間 明紀

【授業の内容】

ゴルフは、正しい知識と技能及びルールを身につけることによって、生涯にわたって楽しめるスポーツです。今回はゴルフの基本技術（グリップ、スイング、パターの技術等）を中心にルール、マナー等も学習していきます。ターゲットバードゴルフも授業の中に入れていきます。

【到達目標】

ゴルフのルール、技術及びマナーを習得し、生涯スポーツとして活用できることを目標とします。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ゴルフのグリップについて
- 第3回 ショートアイアの練習 ハーフスイング
- 第4回 ショートアイアの練習 フルスイング
- 第5回 ショートアイアの練習 アプローチ
- 第6回 ミドルアイアの練習 ハーフスイング
- 第7回 ミドルアイアの練習 フルスイング
- 第8回 ウッドの練習 ハーフスイング
- 第9回 ウッドの練習 フルスイング
- 第10回 パターの練習 方向性
- 第11回 パターの練習 距離
- 第12回 ターゲットバードゴルフ 練習
- 第13回 ターゲットバードゴルフ ゲーム
- 第14回 ターゲットバードゴルフ チーム戦
- 第15回 総括

【授業の進め方】

ゴルフ全般の技術、ルール及びマナーが習得できるように進めていきます。三号館の屋上、グラウンド及びテニスコートを使用します。雨の場合、教室でマナー、ルール及び技術のDVD見ます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

基本的に手袋が必要です。初回授業で説明します。
 服装は運動しやすいもの（ジーパン等の普段着は不可です）
 シューズはスニーカー（ゴルフシューズは授業で入りません）

【参考図書】

特になし

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%
 特記事項
 授業態度、上達度等で評価します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

欠席は2回までとし3回以上欠席した場合単位を取得できません。
 遅刻は二回で欠席1回とします。

【履修上の心得】

できる、できないに関係なく一生懸命授業に参加することが必要です。
 スポーツ演習A、Bの履修希望者はできるだけ初回授業に出席してください。

【科目のレベル、前提科目など】

スポーツ演習B,健康科学
 1年から4年次の選択科目です。
 スポーツ演習B,健康科学と合わせて4単位まで卒業所要単位として認められます。

科目名	スポーツ演習A(卓球)
教員名	廣瀬 文彦

【授業の内容】

卓球の基礎的な技術を習得した後に、練習試合および公式試合（団体戦）を行いません。

【到達目標】

卓球を生涯スポーツとして楽しむことができるようになることを目標とします。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（必ず出席して下さい。）
教室で授業の進め方を説明します。
- 第2回 技術練習① ラケットの使い方・ボールの打ち方
- 第3回 技術練習② ラリー
- 第4回 技術練習③ サーブ
- 第5回 練習試合①（シングルスでラリーを続けることを基本とする。）
- 第6回 練習試合②（シングルスでスマッシュ・カットを用いて得点を競う。）
- 第7回 練習試合③（ダブルスでラリーを続けることを基本とする。）
- 第8回 練習試合④（ダブルスでスマッシュ・カットを用いて得点を競う。）
- 第9回 公式試合① 予選リーグ（個人戦・グループで順位を決める試合を2週完結で行う。）
- 第10回 公式試合② 予選リーグ（個人戦）
- 第11回 公式試合③ 決勝トーナメント（個人戦）（予選リーグで決まった3つのレベルのグループに分かれ、順位を決める試合を2週完結で行う。）
- 第12回 公式試合④ 決勝トーナメント（個人戦）
- 第13回 公式試合⑤ 予選リーグ（団体戦）（1組の人数を3人にし、3組のグループで順位を決める試合を2週完結で行う。）
- 第14回 公式試合⑥ 予選リーグ（団体戦）
- 第15回 公式試合⑦ 決勝トーナメント（団体戦）（予選リーグで決まった3つのレベルのグループに分かれ、順位を決める試合を行う。）

団体戦の試合は経験者を中心に力が均等になるようにチーム編成を行いません。

【授業の進め方】

第1回目の授業は教室で卓球のルール、試合記録の書き方、審判のやり方などを講義します。

第2回目以降の授業は体育館で行ないます。

技術練習を3回、試合を11回予定しています。

しかし、授業に参加する人数や技術の習得状況、天候の影響によって練習および試合の回数は調整します。

さらに、授業の進行をみながら他の種目に触れる機会を設けることもあります。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

必要により資料を配布します。

【参考図書】

特にありません。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

特記事項

個人技術：10%

試合の勝敗：50%

授業への協力：40%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

評価方法について相談がある学生は第1回目の授業で対応します。

【履修上の心得】

服装は運動にふさわしいものを着用してください。

靴は室内履きを用意してください。

服装と靴が用意できない場合は第1回の授業で相談してください。

汗をかくので着替えとタオルを用意する方がいいと思います。

怪我防止のため、アクセサリ等は外して参加してください。

【科目のレベル、前提科目など】

チームメイトと仲良く卓球を楽しむことができることが参加条件となります。

【備 考】

団体戦の試合実施にはチームで4名以上が必要となりますので、理由のない欠席をすると他の履修者に大変迷惑がかかります。

体調を崩さないよう、各自で健康管理をしてください。

体調不良と見受けられる学生は授業の参加を制限することがあります。

科目名	スポーツ演習A(ソフトボール)
教員名	廣瀬 文彦

【授業の内容】

ソフトボールの基礎的な技術を習得した後に、練習試合および公式試合を行いません。

【到達目標】

ソフトボールを生涯スポーツとして楽しむことができるようになることを目標とします。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（必ず出席して下さい。）
教室で授業の進め方を説明します。
- 第2回 技術練習① 守備
- 第3回 技術練習② 攻撃
- 第4回 技術練習③ チームプレー
- 第5回 練習試合①（チーム分けをして試合を行う。）
- 第6回 公式試合① 予選リーグ（実力を均等にしてチーム編成をし、総当たりのリーグ戦を3週完結で行う。）
- 第7回 公式試合② 予選リーグ
- 第8回 公式試合③ 予選リーグ
- 第9回 公式試合④ 決勝トーナメント（予選リーグの結果より対戦相手を決め、トーナメント戦を2週完結で行う。）
- 第10回 公式試合⑤ 決勝トーナメント
- 第11回 公式試合⑥ 予選リーグ（チーム編成を変更し、総当たりのリーグ戦を3週完結で行う。）
- 第12回 公式試合⑦ 予選リーグ
- 第13回 公式試合⑧ 予選リーグ
- 第14回 公式試合⑨ 決勝トーナメント（予選リーグの結果より対戦相手を決め、トーナメント戦を2週完結で行う。）
- 第15回 公式試合⑩ 決勝トーナメント

※雨天時または極端に気温が高い場合は体育館で行いません。

【授業の進め方】

第1回目の授業は教室でソフトボールのルール、試合記録の書き方、審判のやり方などを講義します。
第2回目以降の授業は主にグラウンドで行いません。
技術練習を3回、試合を11回予定しています。
しかし、授業の参加人数や技術の習得状況、天候の影響によって練習および試合の回数は調整します。
さらに、天候や授業の進行をみながら他の種目に触れる機会を設けることもあります。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

必要により資料を配布します。

【参考図書】

特になし

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

特記事項

個人技術：10%

試合の勝敗：50%

授業への協力：40%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

評価方法について相談がある学生は第1回目の授業で対応します。

【履修上の心得】

靴はアップシューズまたはトレーニングシューズを用意してください。

服装はジャージまたはシャカシャカを用意してください。

靴と服装が用意できない場合は第1回の授業で相談してください。

汗をかくので着替えとタオルを用意する方がいいと思います。

怪我防止のため、アクセサリ等は外して参加してください。

【科目のレベル、前提科目など】

「同じチームになった学生と協力して試合を楽しむことができること」、「キャッチボールができること」「バットでボールを打つことができること」が条件となります。

【備 考】

試合実施には最低2チーム(18名以上) 必要となりますので、理由のない欠席をすると他の履修者に大変迷惑がかかります。

体調を崩さないよう、各自で健康管理をしてください。体調不良と見受けられる学生は授業の参加を制限することがあります。

科目名	スポーツ演習B(バドミントン)
教員名	佐藤 智信

【授業の内容】

生涯スポーツが叫ばれる今日、自分の選択したい興味関心を持つスポーツを選択することにより、今後自分が運動・スポーツに関わる際の基礎知識、応用的なプレーや試合の楽しみ方を学習していく。また、ただ単に自分がプレーすることだけでなく、男女混合、技術のばらつきを考慮したリーグ戦、組み合わせ編成などによって、状況に適した練習、試合でのルール作りなどについて考える力を養う。

さらに、実技種目は多くの仲間と交流できるよい機会であるので、学年を問わず積極的に授業に参加し、新しい仲間、関係作りを目指してもらいたい。

【到達目標】

- ①バドミントンの基礎技能の上達させること
 - ②経験者は未経験者への適切なサポートをすること
 - ③試合・練習において協力して取り組むこと(コート作り等の準備・運営も含む)
 - ④受講している学生全員が本授業を通して新しい人間関係を構築していくこと
- 以上の点を達成することを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（授業の概要説明，受講者の決定）
- 第2回 基礎技術練習
レベルグループ分け
- 第3回 各レベルにあったグループ練習
(サーブ)
- 第4回 各レベルにあったグループ練習
(フォアハンド)
- 第5回 各レベルにあったグループ練習
(バックハンド)
- 第6回 各レベルにあったグループ練習
(スマッシュ)
- 第7回 個人戦①レベル分け、(試しのゲーム)
- 第8回 個人戦②(審判法とゲームの進め方)
- 第9回 個人戦③(レベルを3段階に分け3週にわたってリーグ戦形式で行う)
- 第10回 個人戦④
- 第11回 個人戦⑤
- 第12回 個人戦⑥(レベルをオープンにしトーナメント形式でランキングを決める)
- 第13回 ダブルス①(個人戦のランキングをもとに毎週ペアを変えて3週にわたってゲームを行う)
- 第14回 ダブルス②
- 第15回 ダブルス③

15回の授業の中で2回スキルテストを行う。

【授業の進め方】

90分間を大体半分に分け、授業の前半は基礎技術の練習を中心に行ない、後半は試合を取り入れるという流れで行なう。授業回数を重ね、試合が円滑に行える状態になった段階でダブルス戦へと移行していく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- 運動できる服装(普段着は不可)
- 体育館で使うことのできるシューズが外履きとは別に必要となる。
(服装、靴のどちらも高校までに使用していたもので構わない。)
- タオル、着替えなどを持ってくるとよいでしょう。

【参考図書】

バドミントン基本練習やコーディネーショントレーニング関連の動画を閲覧しておくとい良いでしょう。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 20% レポート・課題 0% 受講態度 80%

特記事項

成績は授業への取り組み、技能の習熟度、技術的な上達度、授業内での態度、積極性やチーム活動への貢献度から総合的に評価する。

授業への取り組み (60%)

技能の習熟度、技術的な上達度 (スキルテストも含む) (20%)

授業内での態度、積極性や授業準備や後片付け (20%)

【履修上の心得】

実技科目は講義科目に比べて本人が授業の中で実際に取り組むことが重要であるので、基本的に病気等による場合以外の欠席は認めない。

科目名	スポーツ演習B(バドミントン)
教員名	野間 明紀

【授業の内容】

最終的にダブルスのゲームができるようになるよう、授業を進めます。

また、大学卒業後、生涯スポーツとして役立ててほしいと思っていますのでぜひ初心者、経験者に関係なく授業を受けてほしいです。

【到達目標】

- ①バドミントンの基本的な技術をマスターする。
- ②最終的にダブルスのゲームができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、班分け（ダブルスのペアを作る）
- 第2回 ラケットとシャトルになれる（初心者）
- 第3回 フォアハンドストロークの練習（基本）
- 第4回 フォアハンドストロークの練習（応用）
- 第5回 バックハンドストロークの練習（基本）
- 第6回 バックハンドストロークの練習（応用）
- 第7回 サーブの練習（基本）
- 第8回 サーブの練習（応用）
- 第9回 ハイクリアーの練習
- 第10回 レシーブ、スマッシュの練習
- 第11回 ゲームの形成
- 第12回 ゲーム1（ダブルスのペアを作成し、15回目授業まで各回で対戦相手を変更する。）
- 第13回 ゲーム2
- 第14回 ゲーム3
- 第15回 ゲーム4（技術チェック）

【授業の進め方】

ダブルスのゲームができるようになるよう、授業を進めていきます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ・体育館シューズが必要です。
- ・ラケットは貸し出します。
- ・服装は運動しやすいもの（ジーパン等普段着は不可です）

【参考図書】

特になし

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

特記事項

授業態度および技術上達度で評価します。出席を重視します。

技術チェック 40%

授業態度、技術及び上達度 60%

合計 100%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・欠席は2回までとし、3回以上欠席した場合、単位は取得できません。遅刻は2回で欠席1回とします。

【履修上の心得】

- ・できる、できないに関係なく一生懸命授業に参加することが必要です。
- ※スポーツ演習A、Bの履修希望者は必ず初回授業に出席してください。

【科目のレベル、前提科目など】

スポーツ演習A、健康科学

1から4年次の選択科目です。スポーツ演習A、健康科学と合わせ4単位まで卒業所要単位として認められます。

科目名	スポーツ演習B(バドミントン)
教員名	飯塚 浩史

【授業の内容】

生涯スポーツが叫ばれる今日、自分の選択したい興味関心を持つスポーツを選択することにより、今後自分が運動・スポーツに関わる際の基礎知識、応用的なプレーや試合の楽しみ方を学習していく。また、ただ単に自分がプレーすることだけでなく、ミックスダブルス、技術の差があるある人とのペアやリーグ編成などによって、状況に適した練習、試合でのルール作りなどについて考える力を養う。

さらに、実技種目は多くの仲間と交流できるよい機会であるので、学年を問わず積極的に授業に参加し、新しい仲間、関係作りを目指してもらいたい。

【到達目標】

- ①バドミントンの基礎技能の上達
- ②経験者は未経験者への適切なサポートする姿勢がみられること
- ③ゲームにおいて、チームとして協力して取り組むこと
- ④コートづくりなどの準備・撤収、ゲーム運営を率先して実施すること
- ⑤受講している学生全員が本授業を通して新しい人間関係を構築していくこと

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（授業の概要説明等）
- 第2回 アイスブレイキング（レクリエーション・ゲーム）等
ペア・グループ分け
- 第3回 基礎打ち①（クリア）、ゲーム形式
- 第4回 基礎打ち②（①+ドロップ、ドロップレシーブ）、ゲーム形式
- 第5回 基礎打ち③（②+スマッシュ、スマッシュレシーブ）、ゲーム形式
- 第6回 基礎打ち③、サーブ練習、ゲーム形式
- 第7回 基礎打ち④（③+ヘアピン、ドライブ）、ゲーム形式
- 第8回 基礎打ち⑤（④+ドロップ交互）、ゲーム形式
- 第9回 基礎打ち⑤、ゲーム形式（ダブルスのペアを組み13回目の授業まで各日対戦相手を変更する）
- 第10回 基礎打ち⑤等、ゲーム形式（ダブルスのペアを組み13回目の授業まで各日対戦相手を変更する）
- 第11回 基礎打ち⑤等、ゲーム形式（ダブルスのペアを組み13回目の授業まで各日対戦相手を変更する）
- 第12回 基礎打ち⑤等、ゲーム形式（ダブルスのペアを組み13回目の授業まで各日対戦相手を変更する）
- 第13回 基礎打ち⑤等、ゲーム形式（ダブルスのペアを組み13回目の授業まで各日対戦相手を変更する）
- 第14回 基礎打ち⑤等、ゲーム形式（シングルスで15回目の授業まで各日対戦相手を変更する）
- 第15回 基礎打ち⑤等、ゲーム形式（シングルスで15回目の授業まで各日対戦相手を変更する）

【授業の進め方】

90分間を大体半分に分け、授業の前半はウォーミングアップ及び練習を中心に行ない、後半は試合を取り入れるという流れで行なう。授業回数を重ね、試合が円滑に行える状態になった段階で、リーグ戦を進めていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- 運動できる服装（普段着は不可）
- 体育館で使うことのできるシューズが外履きとは別に必要となる。
（服装、靴のどちらも高校までに使用していたもので構わない。）
- 水分（水・スポーツドリンク等）は持参する。
- タオル、着替えなどを持ってくるとよいでしょう。
- 荷物及び貴重品は更衣室に置かず、体育館に持ってくる。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

特記事項

成績は授業への取り組み、技能の習熟度、技術的な上達度、授業内での態度、積極性やチーム活動への貢献度から総合的に評価する。

授業への取り組み（60%）

授業内での態度、積極性やチーム活動への貢献度（30%）

技能の習熟度、技術的な上達度（10%）

【履修上の心得】

実技科目は講義科目に比べて本人が授業の中で実際に取り組むことが重要であるので、基本的に病気等による場合以外の欠席は認めない。

科目名	スポーツ演習B(ソフトテニス)
教員名	野間 明紀

【授業の内容】

ソフトテニスの基本的な技術をマスターして、最終的にダブルスのゲームができる様に授業を進めたいと思っています。また、大学卒業後、生涯スポーツとして役立ててほしいと思っていますのでぜひ初心者、経験者に関係なく授業を取ってほしいと思います。

【到達目標】

最終的にダブルスのゲームができるようになる。

【授業計画】

- 第1回 班分け
- 第2回 ラケットとボールになれる（初心者）
- 第3回 フォアハンドストロークの練習（基本）
- 第4回 フォアハンドストロークの練習（応用）
- 第5回 バックハンドストロークの練習（基本）
- 第6回 バックハンドストロークの練習（応用）
- 第7回 サーブの練習（基本）
- 第8回 サーブの練習（応用）
- 第9回 レシーブの練習
- 第10回 ボレーの練習
- 第11回 ゲームの形成
- 第12回 ゲーム1（ダブルスのペアを作成し、15回目授業まで各回で対戦相手を変更する。）
- 第13回 ゲーム
- 第14回 ゲーム
- 第15回 総評（実技テストを含む）

【授業の進め方】

ソフトテニスの基本のグランドストロークから最終的にゲームができるまで授業を進めていきます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ・テニスシューズまたは体育館シューズが必要です。
- ・ラケットは貸し出します。
- ・服装は運動しやすいもの（ジーパン等普段着は不可です）

【参考図書】

特になし

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

特記事項

技術チェック

授業態度・技術及び上達度

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・欠席は2回までとし、3回以上欠席した場合、単位は取得できません。遅刻は2回で欠席1回とします。

【履修上の心得】

- ・できる、できないに関係なく一生懸命授業に参加することが必要です。
- ※スポーツ演習A、Bの履修希望者は必ず初回授業に出席してください。

【科目のレベル、前提科目など】

スポーツ演習A、健康科学

1から4年次の選択科目です。スポーツ演習A、健康科学と合わせ4単位まで卒業所要単位として認められます。

科目名	スポーツ演習B(バレーボール)
教員名	廣瀬 文彦

【授業の内容】

バレーボールの基礎的な技術を習得した後に練習試合および公式試合を行いません。

【到達目標】

バレーボールを生涯スポーツとして楽しむことができるようになることを目標とします。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（必ず出席して下さい。）
教室で授業の進め方を説明します。
- 第2回 技術練習① アンダーハンドパス・オーバーハンドパス・サーブ
- 第3回 練習試合① 「3回のタッチで相手コートに返す」ことを目標とした試合を行う。
- 第4回 技術練習② レシーブ・アタック
- 第5回 練習試合② 「ラリーを続ける」ことを目標とした試合を行う。
- 第6回 技術練習③ チームプレー（3段攻撃）
- 第7回 練習試合③ 「3段攻撃ができる」ことを目標とした試合を行う。
- 第8回 練習試合④ 「勝負を競う」ことを目標とした試合を行う。
- 第9回 公式試合① 予選リーグ 学生を4～6チームに分けて総当たりのリーグ戦を2週完結で行う。
- 第10回 公式試合② 予選リーグ
- 第11回 公式試合③ 順位決定戦 予選リーグの結果から組分けをして順位を決める試合を行う。
- 第12回 公式試合④ 予選リーグ チーム構成を変えて4～6チームに分けて総当たりのリーグ戦を2週完結で行う。
- 第13回 公式試合⑤ 予選リーグ
- 第14回 公式試合⑥ 順位決定戦 予選リーグの結果から組分けをして順位を決める試合を行う。
- 第15回 公式試合⑦ 決勝トーナメント 順位決定戦の結果からシードチームを決めてトーナメントを行う。

試合は経験者を中心に力が均等になるようにチーム編成を行いません。

【授業の進め方】

第1回目の授業は教室でバレーボールのルール、試合記録の書き方、審判のやり方などを講義します。
第2回目以降の授業は体育館で行いません。
技術練習を3回、試合を11回予定しています。
しかし、授業に参加する人数や技術の習得状況、天候の影響によって練習および試合の回数は調整します。
さらに、授業の進行をみながら他の種目に触れる機会を設けることもあります。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

必要により資料を配布します。

【参考図書】

特にありません。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

特記事項

個人技術：10%

試合の勝敗：35%

授業への協力：55%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

評価方法について相談がある学生は第1回目の授業で対応します。

【履修上の心得】

靴はアップシューズまたはトレーニングシューズを用意してください。

服装はジャージまたはシャカシャカを用意してください。

靴と服装が用意できない場合は第1回の授業で相談してください。

汗をかくので着替えとタオルを用意する方がいいと思います。

怪我防止のため、アクセサリ等は外して参加してください。

【科目のレベル、前提科目など】

チームメイトと仲良くバレーボールを楽しむことができることが参加条件となります。

【備 考】

試合実施にはチームで6名以上必要となりますので、理由のない欠席をすると他の履修者に大変迷惑がかかります。体調を崩さないよう、各自で健康管理をしてください。

体調不良と見受けられる学生は授業の参加を制限することがあります。

科目名	スポーツ演習B(卓球)
教員名	廣瀬 文彦

【授業の内容】

卓球の基礎的な技術を習得した後に、練習試合および公式試合を行ないます。

【到達目標】

卓球を生涯スポーツとして楽しむことができるようになることを目標とします。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（必ず出席して下さい。）
教室で授業の進め方を説明します。
- 第2回 技術練習① ラケットの使い方・ボールの打ち方
- 第3回 技術練習② ラリー
- 第4回 技術練習③ サーブ
- 第5回 練習試合①（シングルスでラリーを続けることを基本とする。）
- 第6回 練習試合②（シングルスでスマッシュ・カットを用いて得点を競う。）
- 第7回 練習試合③（ダブルスでラリーを続けることを基本とする。）
- 第8回 練習試合④（ダブルスでスマッシュ・カットを用いて得点を競う。）
- 第9回 公式試合① 予選リーグ（個人戦・グループで順位を決める試合を2週完結で行う。）
- 第10回 公式試合② 予選リーグ（個人戦）
- 第11回 公式試合③ 決勝トーナメント（個人戦）（予選リーグで決まった3つのレベルのグループに分かれ、順位を決める試合を2週完結で行う。）
- 第12回 公式試合④ 決勝トーナメント（個人戦）
- 第13回 公式試合⑤ 予選リーグ（団体戦）（1組の人数を3人にし、3組のグループで順位を決める試合を2週完結で行う。）
- 第14回 公式試合⑥ 予選リーグ（団体戦）
- 第15回 公式試合⑦ 決勝トーナメント（団体戦）（予選リーグで決まった3つのレベルのグループに分かれ、順位を決める試合を行う。）

団体戦の試合は経験者を中心に力が均等になるようにチーム編成を行ないます。

【授業の進め方】

第1回目の授業は教室で卓球のルール、試合記録の書き方、審判のやり方などを講義します。

第2回目以降の授業は体育館で行ないます。

技術練習を3回、試合を11回予定しています。

しかし、授業の参加人数や技術の習得状況、天候の影響によって練習および試合の回数は調整します。

さらに、授業の進行をみながら他の種目に触れる機会を設けることもあります。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

必要により資料を配布します。

【参考図書】

特にありません。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

特記事項

個人技術：10%

試合の勝敗：50%

授業への協力：40%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

評価方法について相談がある学生は第1回目の授業で対応します。

【履修上の心得】

服装は運動にふさわしいものを着用してください。

靴は室内履きを用意してください。

服装と靴が用意できない場合は第1回の授業で相談してください。

汗をかくので着替えとタオルを用意する方がいいと思います。

怪我防止のため、アクセサリ等は外して参加してください。

【科目のレベル、前提科目など】

チームメイトと仲良く卓球を楽しむことができることが参加条件となります。

【備 考】

団体戦の試合実施にはチームで4名以上が必要となりますので、理由のない欠席をすると他の履修者に大変迷惑がかかります。

体調を崩さないよう、各自で健康管理をしてください。

体調不良と見受けられる学生は授業の参加を制限することがあります。

科目名	健康科学
教員名	藤井 和彦

【授業の内容】

健康は私たちが豊かな生活を送る上での根本にある極めて重要な要素である。また運動は人間が生命を維持していく上で欠かすことのできない本源的な欲求に応える活動である。

本科目ではこうした健康や運動について多方面から現状や課題についての知識や理解を深めていく。

【到達目標】

健康や運動についての現状を知る

現代社会において健康や運動を推進していくことの意味を自分なりに考えられるようになる

授業で得た知識をもとに自身の生活を改善していきける

【授業計画】

第1回 ①オリエンテーション 授業の進め方と自身のライフスタイルの見直し

第2回 ②運動やスポーツの重要性

第3回 ③健康づくり施策の中身とは

第4回 ④エネルギー摂取と消費

第5回 ⑤健康づくりのための運動指針

第6回 ⑥食事バランスに関する指針

第7回 ⑦肥満の問題を考える

第8回 ⑧豊かな運動の条件とスポーツの継続

第9回 ⑨豊かな運動の場としての総合型地域スポーツクラブの可能性

第10回 ⑩飲酒（アルコール）をめぐる問題

第11回 ⑪飲酒（アルコール）をめぐる問題 その2

第12回 ⑫煙草と薬物をめぐる問題

第13回 ⑬ロコモティブシンドローム

第14回 ⑭熱中症の予防と対策

第15回 ⑮まとめ

【授業の進め方】

講義では、解説を聞きながら各自がその講義ノートを作成していくことになる。講義の終わりには「講義の感想・質問票」を毎回提出する。この他、数回の小レポートを課すこともある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

参考サイトや政府の発行している啓発リーフレット等を適宜紹介していく。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

レポート・課題には、期末のレポート課題の他、授業内の小レポートなども含む。

受講態度は、各回の「講義の感想・質問票」の内容から出席の有無、講義に望む態度を判断、加点し評価の材料とする。

科目名	健康科学
教員名	野間 明紀

【授業の内容】

学生自身が健康に関する正しい知識を身につけ、また運動およびスポーツに関する科学的理解も深めることを目的として、運動の基本的原理、基礎的知識、健康の概念、栄養と肥満、睡眠、アルコールとタバコ等について講義します。

【到達目標】

運動と健康についての理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 健康の定義
- 第2回 健康の条件
- 第3回 運動と健康
- 第4回 発育発達と健康
- 第5回 運動の生理的機能
- 第6回 運動と体力
- 第7回 運動と価値
- 第8回 エネルギーと出納バランス
- 第9回 身体の組成
- 第10回 肥満の判定
- 第11回 肥満の分類・肥満の原因
- 第12回 肥満と成人病
- 第13回 睡眠とそのパターン
- 第14回 アルコールの作用と害・タバコの作用と害
- 第15回 まとめ

【授業の進め方】

- 1) 健康について
- 2) 運動の基礎知識
- 3) 栄養と肥満
- 4) 睡眠
- 5) アルコールとタバコ

上記の内容で授業を進めていきます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特になし

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 20%

特記事項

- ・テスト（1回）と授業態度で評価します。

【履修上の心得】

- ・2/3以上の出席が必要です。
- ・遅刻は2回で欠席1回となります。

【科目のレベル、前提科目など】

スポーツ演習A、スポーツ演習B(経営学部・法学部開講科目)

1から4年次の選択科目です。

スポーツ演習A、スポーツ演習Bと合わせ4単位まで卒業所要単位として認められます。

科目名	健康科学
	現代社会における健康課題
教員名	荒井 信成

【授業の内容】

学生自身が健康に関する正しい知識を身につけ、我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことの重要性を理解できるようにする。

【到達目標】

健康に関する知識や具体的な方策についての理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 健康の定義
自身のもつ健康観とWHOなどの健康の定義を比較し、理解を深める。
学習課題（復習）：授業前後で自身の健康観がどう変化したかまとめる（30分）
- 第2回 健康の条件
人々が健康になるための条件を考える。
学習課題（復習）：自身が健康のために行なっている具体的方策を挙げる（30分）
- 第3回 身体的健康
身体的な側面から健康をとらえる。
学習課題（復習）：授業内容を踏まえて、自身の身体的健康について考える（30分）
- 第4回 精神的健康
精神的な側面から健康をとらえる。
学習課題（復習）：授業内容を踏まえて、自身の精神的健康について考える（30分）
- 第5回 社会的健康
社会的な側面から健康をとらえる。
学習課題（復習）：授業内容を踏まえて、自身の社会的健康について考える（30分）
- 第6回 喫煙
日本における喫煙問題について学び、今後の改善策を考える。
学習課題（予習）：喫煙に関するニュースや新聞記事を見つけてくる（30分）
- 第7回 飲酒・薬物乱用
日本における飲酒・薬物乱用問題について学び、今後の改善策を考える。
学習課題（予習）：飲酒・薬物乱用に関するニュースや新聞記事を見つけてくる（30分）
- 第8回 性感染症・HIV/AIDS
日本における性感染症・HIV/AIDS問題について学び、今後の改善策を考える。
学習課題（予習）：性感染症・HIV/AIDSに関するニュースや新聞記事を見つけてくる（30分）
- 第9回 悪性新生物
悪性新生物の脅威や予防について学ぶ。また、日本で推進されている「がん教育」について考える。
学習課題（予習）：文部科学省のHPなどで、がん教育について調べてくる（45分）
- 第10回 循環器系疾患
循環器系疾患の実態を学ぶ。
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードのうち、自身の理解度の低いものを調べる（30分）
- 第11回 心疾患
心疾患の実態を学ぶ。
学習課題（復習）：授業で取り上げたキーワードのうち、自身の理解度の低いものを調べる（30分）
- 第12回 自殺
日本における自殺の実態を学ぶ。
学習課題（予習）：日本の自殺の現状について調べてくる（30分）
- 第13回 交通安全
日本における交通事故の実態を学ぶ。
学習課題（予習）：日本の交通事故の現状について調べてくる（30分）
- 第14回 保健・医療制度
保健・医療制度について学ぶ。
学習課題（予習）：保健・医療制度に関わる新聞記事を見つけてくる（30分）
- 第15回 まとめ
授業で学んだことから、自身の今後の生活をどのように変化・改善させていくか考える。
学習課題（復習）：今後の生活改善案をレポートにする（60分）

【授業の進め方】

各回において授業内レポートを提出してもらいます。

履修者同士でのディスカッションや意見交換なども取り入れていくので、積極的に参加するようにしてください。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特になし

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 0%

特記事項

テストと授業内レポートで評価します。

【履修上の心得】

・全回出席を原則とする。

日頃から健康に関する記事やニュースに触れ、問題意識を持つようにしてください。

科目名	日本事情A(社会・経済)
教員名	田口 桂子

【授業の内容】

本授業は、留学生が日本社会の中で出会う様々なケースを題材にして、問題を分析し、解決していく方法を話し合います。前期は日本での「暮らし」、「友達」関係の場面で起こりうる問題を取り上げます。最後のまとめとして、留学生自身が興味を持ったトピックについて、日本人にインタビューを行い、発表、レポートを提出します。

【到達目標】

ケースを読み、複数の解決方法を見出し、その場の状況に合った自分の解決方法を柔軟に選択する力を育成すること、また自己の考え方や主張を他者にわかりやすく説明するための表現力を育成することが本授業の目標となります、

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション／「暮らし」ケース1：上下関係
- 第2回 「暮らし」ケース2：どうして掃除してくれないの？
- 第3回 「暮らし」ケース3：アパートの大家さんとのトラブル
- 第4回 「暮らし」ケース4：期待はずれのホームステイ
- 第5回 「暮らし」ケース7：バーベキューはダメ？
- 第6回 「暮らし」ケース8：とりあえず謝る？
- 第7回 「友だち」ケース9：親友がほしい
- 第8回 「友だち」ケース10：私っておとなしいの？
- 第9回 「友だち」ケース11：同国人とのつきあい
- 第10回 「友だち」ケース12：愚痴ばかり言う友だち
- 第11回 「友だち」ケース13：私の何が悪かったの？
- 第12回 インタビューの準備－1
- 第13回 インタビューの準備－2
- 第14回 発表－1
- 第15回 発表－2

【授業の進め方】

1. ケース本文を読む
2. 「質問」各自、質問に答える
3. 内容理解を確認するために、学習者間で「質問」の答えを照らし合わせる
4. 「考えましょう」：問題の分析をして解決方法を話し合う
5. クラス全体で、話し合ったことを共有し、さらに分析、解決方法を話し合う
6. コメントシートに各自の意見をまとめる

まとめの活動として、ケース教材から1つテーマを選び日本人にインタビュー、自分なりの問題解決方法をまとめ、クラスで発表する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①聞いて覚える話し方 日本語生中継 中～上級編 ②椛本総子他 ③くろしお出版 ④2016年8月3日 ⑤2200円＋税 ⑥978-4-87424-300-8 C2081

初回授業時に説明します。

教科書とプリントを使用しながら、授業を行います。

【参考図書】

特にありません。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

出席20%

授業参加度30%

発表10%

期末レポート40%

6回以上欠席の場合には単位が取れません。

遅刻3回で、1回の欠席となります。

授業開始時間から30分以上遅れたり、授業終了時間より30分以上早く帰った場合は「欠席」になります。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

授業への積極的参加を参加度として評価します。

【科目のレベル、前提科目など】

日本語能力試験N2以上の学生が対象となります。

科目名	日本事情B(歴史・政治)
教員名	田口 桂子

【授業の内容】

本授業は、留学生が日本社会の中で出会う様々なケースを題材にして、問題を分析し、解決していく方法を話し合います。後期は「アルバイト」、「大学生活」、「将来と仕事」の場面で起こりうる問題を取り上げます。最後のまとめとして、留学生自身が興味を持ったトピックについて、日本人にインタビューを行い、発表、レポートを提出します。

【到達目標】

ケースを読み、複数の解決方法を見出し、その場の状況に合った自分の解決方法を柔軟に選択する力を育成すること、また自己の考え方や主張を他者にわかりやすく説明するための表現力を育成することが本授業の目標となります、

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション／「アルバイト」ケース17：お客様は神様？
- 第2回 「アルバイト」ケース19：もらえなかったアルバイト代
- 第3回 「アルバイト」ケース20：誘いを断っても大丈夫？
- 第4回 「アルバイト」ケース21：アルバイトの先輩が…どうしよう！
- 第5回 「大学生活」ケース23：クラス発表の準備
- 第6回 「大学生活」ケース24：グループ活動で話してくれない人
- 第7回 「大学生活」ケース25：苦しい選択：安全な道とリスクな道
- 第8回 「大学生活」ケース31：インターナショナル・フェスティバル
- 第9回 「大学生活」ケース34：私、彼氏いるんですけど…
- 第10回 「将来と仕事」ケース36：人生の岐路
- 第11回 「将来と仕事」ケース37：家族の期待と自分のしたいことのはざま
- 第12回 インタビューの準備－1
- 第13回 インタビューの準備－2
- 第14回 発表－1
- 第15回 発表－2

【授業の進め方】

1. ケース本文を読む
2. 「質問」各自、質問に答える
3. 内容理解を確認するために、学習者間で「質問」の答えを照らし合わせる
4. 「考えましょう」：問題の分析をして解決方法を話し合う
5. クラス全体で、話し合ったことを共有し、さらに分析、解決方法を話し合う
6. コメントシートに各自の意見をまとめる

まとめの活動として、ケース教材から1つテーマを選び日本人にインタビュー、自分なりの問題解決方法をまとめ、クラスで発表する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①聞いて覚える話し方 日本語生中継・中～上級編 ②椛本総子他 ③くろしお出版 ④2016年8月3日 ⑤2200円＋税 ⑥978-4-87424-300-8 C2081

初回授業時にお話します。

教科書とプリントを使用しながら、授業を進めます。

【参考図書】

特にありません。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

出席20%

授業参加度30%

発表10%

期末レポート40%

6回以上欠席の場合には単位が取れません。

3回の遅刻で、1回の欠席となります。

授業開始時間に30分以上遅れたり、授業終了時間より30分以上早く帰った場合は、「欠席」となります。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

授業への積極的参加を参加度として評価します。

【科目のレベル、前提科目など】

日本語能力試験N2以上のレベルの学生を対象としています。

科目名	日本事情C(文化・文学)
教員名	田口 桂子

【授業の内容】

本授業では、日本文学を古典から現代のものまで幅広く分かりやすく紹介していきます。文学作品のほか漫画やアニメ、サブカルチャーなど幅広く扱っていきます。また、俳句・短歌・詩歌などの創作活動を行ったり、日本の伝統文化(茶道・華道・歌舞伎・狂言・書道など)にも触れる機会を作ります。学生の興味関心に合わせて、扱うテーマを増やしていきます。

【到達目標】

本授業は、留学生が日本の文化、文学について学び、日本についての理解を深めることを目的としています。また本授業を通じて、留学生の総合的な日本語力を高めることも視野に入れています。

【授業計画】

- 第1回 日本事情クイズ/なぞなぞ
- 第2回 日本の古典-1『枕草子』を読む
- 第3回 日本の短歌・俳句・川柳を楽しむ-1
- 第4回 日本の短歌・俳句・川柳を楽しむ-2
- 第5回 日本の古典-2『古事記』を読む
- 第6回 日本のサブカルチャー 『都市伝説』
- 第7回 日本のアニメーション
- 第8回 日本の漫画家
- 第9回 日本の詩を楽しむ-1
- 第10回 日本の詩を楽しむ-2
- 第11回 日本の近代文学『キッチン』
- 第12回 Japanese Pops『日本の歌』
- 第13回 日本の一月：新年の始まりは「初」がたくさん
- 第14回 日本のドラマ
- 第15回 期末レポート作成・提出

【授業の進め方】

毎回テーマを決めて、それについて紹介します。学生はそのテーマについて、感想・意見を交換し、自国との比較を行ったり、実際の体験を通じて日本文化への理解を深めていきます。それぞれが興味を持ったテーマについて、レポートを作成します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に定めません。授業時にプリント等を配布します。

【参考図書】

授業の中で紹介します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

授業参加度20%

出席20%

レポート60% (30%×2回)

6回以上欠席した場合は、単位が取れません。

3回の遅刻で1回の欠席となります。

授業の開始時間から30分以上遅れたり、授業の終了時間より30分以上早く帰った場合も「欠席」になります。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

積極的に授業に参加してください。

【履修上の心得】

日本語能力N2・N3レベルの留学生を対象としています。したがって、評価は相対的なものではなく、各自の参加態度と、それぞれが持っている能力をいかに発揮し、上達したかによって判断します。

【科目のレベル、前提科目など】

日本語能力N2・N3レベルの留学生を対象としています。

科目名	日本事情D(生活・風物)
教員名	田口 桂子

【授業の内容】

本授業では、日本人の生活様式、伝統的な行事や習慣などを取り上げます。日本人の暮らし方、住環境、食習慣、日本の地理と気候、年中行事、冠婚葬祭、人間関係のさまざまな様相等々、学生の興味関心を考慮しながらテーマに加えていきます。また、それぞれの場面にふさわしい日本語の会話や行動などについても学びます。

【到達目標】

本授業は、留学生が日本の生活、風物を学び、日本についての理解を深め、日本での日常生活をより豊かなものにすることを目的としています。また本授業を通じて、総合的な日本語力を高めることも視野に入れていきます。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション／日本事情クイズ

第2回 日本の地理

第3回 日本の行事

第4回 日本人-五月病

次回「自国の教育事情」紹介・発表の学生は、テーマについて調査し、発表の準備をする（180分）。

第5回 日本の教育/「自国の教育事情」紹介・発表

第6回 日本人の働き方-1

第7回 日本人の働き方-2

第8回 日本の迷信

第9回 日本の伝統芸能

次回「自国の伝統芸能」紹介・発表の学生は、テーマについて調査し、発表の準備をする（180分）。

第10回 「自国の伝統芸能」紹介・発表

第11回 日本人-文学者

第12回 日本人の手紙

第13回 日本の若者文化-1

第14回 日本の若者文化-2

次回「自国のお祭り」紹介・発表の学生は、テーマについて調査し、発表の準備をする（180分）。

第15回 「自国のお祭り」紹介・発表

【授業の進め方】

毎回テーマを決め、それについて感想・意見を交換し、自国との比較も行い、時にはそのテーマについて体験して、日本への理解を深めていきます。興味を持ったテーマについて、発表したり、レポートを作成したりします。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に定めません。授業時にプリント等を配布します。

【参考図書】

授業の中で紹介します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 30% レポート・課題 30% 受講態度 40%

特記事項

授業内小試験1回（授業内発表）30%

レポート1回（12回目で詳細をお話します）30%

授業参加度20%

出席20%

6回以上欠席した場合には単位が取れません。

3回の遅刻で1回の欠席となります。

授業開始時間に30分以上遅れたり、授業終了時間より30分以上早く帰った場合も「欠席」になります。

【履修上の心得】

日本語能力N3・N2の留学生を対象としています。したがって、評価は相対的なものではなく、各自の参加態度と、それぞれが持っている能力をいかに発揮し上達したかによって判断します。

【科目のレベル、前提科目など】

日本語能力N3・N2の留学生を対象としています。

科目名	教養外書講読Ⅱ
	生の価値の理論へ：John Broome, Weighing Lives を読む
教員名	渡辺 忠

【授業の内容】

経済学・哲学・倫理学にまたがる複合領域である価値論に関する英語文献を読む。規範的な社会科学の哲学的基礎となる価値論の構造、「よさ」の構造を、効用理論や社会選択理論を参照しつつ明らかにした後、生の価値についての首尾一貫した「理論」を提案する。このような議論は、さまざまな現行の政策や社会制度の基礎にある配分原理を評価するための枠組みであるばかりか、将来世代に対する責任、生まれること・死ぬことの倫理的評価、子どもをもつことの意味、生の質の評価などの論理的根拠も論じられるようにするものだ。叙述は終始明解かつ論理的であり、結論への賛否を問わず公正な議論が可能だ。このように、独断的価値意識からではなく、論理的・理論的なスタイルで「人生の意味」を議論できることに、受講者は目からうろこが落ちる思いがするに違いない。

授業は演習形式で行う。相当量の予習を前提して、内容の細かい検討をする。議論を交わしながらテキスト読解を進める。当初は輪読形式、慣れてきたら演習参加者が交代で内容の説明を担当する。必要に応じて解説講義を挟む。今年度ははじめの数回で昨年度読んだ第1章から第3章を資料を用いて解説講義し、テキスト読解は第4章から始める。

【到達目標】

- (1)大学院受験レベルの高度な英文読解力の養成
- (2)生の価値に関する理論の理解
- (3)論理的・理論的思考のトレーニング

【授業計画】

- 第1回 初回オリエンテーション、第1章 解説 (復習)今回授業の内容をまとめる (予習)次回指定箇所を予習する [計180分]
- 第2回 第2章解説 (復習)今回授業の内容をまとめる (予習)次回指定箇所を予習する [計180分]
- 第3回 第2章解説つづき (復習)今回授業の内容をまとめる (予習)次回指定箇所を予習する [計180分]
- 第4回 第3章解説 (復習)今回授業の内容をまとめる (予習)次回指定箇所を予習する [計180分]
- 第5回 第3章解説つづき (復習)今回授業の内容をまとめる (予習)次回指定箇所を予習する [計180分]
- 第6回 第4章 4.1節 pp.50-52 (復習)今回授業の内容をまとめる (予習)次回指定箇所を予習する [計180分]
- 第7回 第4章 4.1節 pp.52-55 (復習)今回授業の内容をまとめる (予習)次回指定箇所を予習する [計180分]
- 第8回 第4章 4.1節 pp.55-59 (復習)今回授業の内容をまとめる (予習)次回指定箇所を予習する [計180分]
- 第9回 第4章 4.1節 pp.59-61 (復習)今回授業の内容をまとめる (予習)次回指定箇所を予習する [計180分]
- 第10回 第4章 4.1節 pp.61-63 (復習)今回授業の内容をまとめる (予習)次回指定箇所を予習する [計180分]
- 第11回 第4章 4.2節 pp.63-66 (復習)今回授業の内容をまとめる (予習)次回指定箇所を予習する [計180分]
- 第12回 第4章 4.2節 pp.66-68 (復習)今回授業の内容をまとめる (予習)次回指定箇所を予習する [計180分]
- 第13回 第4章 4.3節 pp.68-71 (復習)今回授業の内容をまとめる (予習)次回指定箇所を予習する [計180分]
- 第14回 4.3節 pp.71-73 (復習)今回授業の内容をまとめる (予習)次回指定箇所を予習する [計180分]
- 第15回 4.3節 pp.73-77 (復習)今回授業の内容をまとめる (予習)次回指定箇所を予習する [計180分]
- 第16回 第5章 pp.78-80 (復習)今回授業の内容をまとめる (予習)次回指定箇所を予習する [計180分]
- 第17回 5.1節 pp.80-82 (復習)今回授業の内容をまとめる (予習)次回指定箇所を予習する [計180分]
- 第18回 5.1節 pp.83-86 (復習)今回授業の内容をまとめる (予習)次回指定箇所を予習する [計180分]
- 第19回 5.2節 pp.86-89 (復習)今回授業の内容をまとめる (予習)次回指定箇所を予習する [計180分]
- 第20回 5.2節 pp.90-91 (復習)今回授業の内容をまとめる (予習)次回指定箇所を予習する [計180分]
- 第21回 5.3節 pp.91-94 (復習)今回授業の内容をまとめる (予習)次回指定箇所を予習する [計180分]
- 第22回 5.3節 pp.94-96 (復習)今回授業の内容をまとめる (予習)次回指定箇所を予習する [計180分]
- 第23回 5.3節 pp.96-98 (復習)今回授業の内容をまとめる (予習)次回指定箇所を予習する [計180分]
- 第24回 第6章 pp.99-103 (復習)今回授業の内容をまとめる (予習)次回指定箇所を予習する [計180分]
- 第25回 第7章 7.1節 pp.103-106 (復習)今回授業の内容をまとめる (予習)次回指定箇所を予習する [計180分]
- 第26回 7.2節 pp.106-109 (復習)今回授業の内容をまとめる (予習)次回指定箇所を予習する [計180分]
- 第27回 7.3-7.4節 pp.109-113 (復習)今回授業の内容をまとめる (予習)次回指定箇所を予習する [計180分]
- 第28回 7.5節 pp.113-116 (復習)今回授業の内容をまとめる (予習)次回指定箇所を予習する [計180分]
- 第29回 第8章 8.1-8.2節 pp.117-126 (復習)今回授業の内容をまとめる (予習)次回指定箇所を予習する [計180分]
- 第30回 8.3-8.5節 pp.126-131 (復習)30回分の授業の内容をまとめる [計180分]

受講者の読解力や取り組み方などで進度はいくらでも変わる。受講者を置いてきぼりにして内容をサクサク進めるつもりはない。テキストの当該箇所について「とことん隅々までわかる」ことを目標にする。そのためには、大雑把に大意をとるのではなく、一字一句の解釈を忽せにせず、説明の足りないところは十分に補って、テキストをmake upしながら読んでいかなければならない。用いる教材はそうして読むだけの価値のある著作だ。ただ単に情報を仕入れるために読むのではなく、優れた著作を「読む」ということがどのようなことかを経験してほしい。上の授業計画はあくまで当初の目標に過ぎないことに留意されたい。

【授業の進め方】

短いパラグラフ程度の分量を参加者が交代で解釈し、理解した内容を説明するという、人文系の外国文献読解演習の伝統的手法で進める。理解に必要な背景や、なかなかつかみにくい理論的知識や論理構造の分析などについては、講義を適宜差し挟む。語義や文法事項であれ内容に関するものであれ質問は随時受け付ける。批判的理解を目的とするので、受講者の質問や意見表明は常に歓迎される。それを通して双方向的な授業となり、一層の理解が進むはずだ。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①Weighing Lives ②John Broome ③Clarendon Press ④2006/7/20 ⑤¥ 3,267 (pb) ⑥ISBN-13: 978-0199297702

当初は該当箇所の複写教材を用意する。急いで教材を購入する必要はない。

【参考図書】

J. Broome, Weighing Goods, (Basil Blackwell, 2004)
Ethics out of Economics, (Cambridge University Press,1999)
K.Binmore, Rational Decisions, (Princeton University Press,2009)
M.Resnik, Choices, (Minnesota Univ. Press, 1987)
G.Arrhenius, Future Generations: A Challenge for Moral Theory, FD-Diss., Uppsala: University Printers, 2000
(<http://people.su.se/~guarr/Texter/Future%20Generations%20for%20homepage.pdf>)
D.パーフィット 『理由と人格』(勁草書房, 1998)
A.セン 『集合的選択と社会的厚生』(勁草書房, 2000)
佐伯胖 『「きめ方」の論理』(東大出版会, 1983)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

特記事項

平常点のみ(毎回の授業への貢献度)100%で評価する。

但し、次年度の大学院受験希望者がいる場合、該当者には平常点評価に加え、前期および後期に大学院入試の模擬試験を実施する。模擬試験は前期試験(辞書持ち込みで全文和訳120分)、後期試験(辞書なしで全文和訳180分)で行う。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

平常点については、「どのくらいできているか」ではなく「どのくらい真摯に取り組んだか」を評価する。それは、担当回の教材該当箇所をどれほど丁寧に予習してきたか、授業にどれほど集中していたかなど、受講者の取り組み方を見て評価する。毎回の予習に力を注ぐべきはもちろんだが、記憶や印象の新鮮なうちにその回の教材該当箇所と授業の内容の簡潔(または詳細)なレジュメを作ることを心がけよう。最終授業終了後に、それらを集めて30回分の授業内容レジュメを提出してもらい、成績判定後に返却する。一年間の学習成果として誇るべきものが形として残るはずだ。

【履修上の心得】

目標は教材に書かれた内容の批判的理解にある。だが、理解、とくに外国文献の理解は容易ではない。予習として相当な時間を使って教材原文をきっちり読み込んで理解しようと努力することが不可欠である。そのためには、学習用中辞典以上の分厚い英和辞典と、一定の分量があり構文例の豊富で詳細な解説を含む分厚い学習用英文法書とを、ページが千切れるほど使い倒すことが絶対に必要である。今日では旧態依然として排斥されがちな古典的文法訳読を通してしか培うことのできないものはあるのだ。外国文献読解の保守反動的な流儀も、このような時代だからこそ振り返ってみる・経験してみる価値があるのではないかと信じる。

【科目のレベル、前提科目など】

高卒程度の初級の英文読解力は前提として不可欠だが、主題(population ethics)についての知識は一切前提しない。いざれにしても、受講者の学修の程度を確認して対応するので、ハードルは限りなく低い(!!)と思ってよい。興味と意欲さえあればあとは何とかなるものだ。

【備考】

本来は法学部カリキュラム内の科目だが、今年度から全学部に開放される。できれば様々な専攻の諸君がそれぞれの知恵を持ち寄り、貢献してほしいと願っている。専門的な英文を読むよい機会と考えて挑戦してほしい。

科目名	教養特講(高齢社会と介護)
教員名	川瀬 善美

【授業の内容】

少子高齢を主要特性とする我が国の現状において、「古い」と言う人生のステージを生きる人々が福祉・介護サービスの利用を必要とする現状、背景について理解することを本講義の目的とする。

その上で、現在の日本社会における老人福祉の社会的背景、老人福祉の理念・目的、あるいは介護保険制度の概要を説明し、それらのサービスの体系・内容・利用手続きなどの具体的な実践活動について詳説する。とりわけ介護保険導入によってこれまでの老人福祉ないし老人医療制度がどのように変化し、また現実のサービス・プロヴァイダーはどのように戦略的な対応をとらざるを得ない状況にあるのかについても解説する。

その上で、病をもつ高齢者、障害をもつ高齢者、介護を必要とする高齢者はいかなる現実に直面しているのか、そうした現実の中どのような生活し命を繋いでいるのか、高齢者の視点にたつて分析してみたい。また、高騰・高額化する利用者負担とそれに困惑する家族の問題についても取り上げてみたい。

一方、民間参入と言う言葉に躍らせれ老人福祉・介護サービスを国家に代わって担わされている事業者・施設の現状と課題についても、事例を基に解説していきたい。

以上のような講義を進めた後に、高齢者と家族やコミュニティとの関係、社会政策・社会保障との関係、国家・地方自治体との関係についても考察していくことを目的とする。

【到達目標】

高齢者福祉の現状と歴史を正確に理解し、介護保険制度の目的や制度の内実（運営・財源・給付の現状）を現実に介護保険を利用する高齢者の視点から解説し、現在の介護保険のもとで実際にどのようなケアサービスが提供されているのか、あるいは未提供のままなのかについて検討してみる。

また、私が興味を持ち研究課題としている介護サービス・施設の経営と言う視点からも解説を行う。このとき、我が国の介護保険のある意味で原型になったとも言われているドイツ介護保険制度、イギリスの公的老人福祉・介護サービス、アメリカのメディケア・ミディケイドについても触れてみたい。ドイツ介護保険下で起こった利用者負担の高額化に伴う利用者Uターン、アメリカのミディケイド対象者の利用するナーシングホームの現状から国民は老人福祉・介護サービスの何を選択し、何を自助努力とすべきかについても検討してみたい。

同時に、シルバービジネスと呼ばれる公的な老人福祉・介護サービス以外の民間セクターによるサービス（例えば高専賃・住宅型有料老人ホームなど）提供の実態と問題点についても検討を加える。

以上のような知識を身につけた後で、現状の老人福祉のさまざまな問題点を取り上げていくが、たんにその原因を我が国の社会保障制度脆弱さや、介護保険制度の不備や現実のサービスの量的不足といった問題に収斂・矮小化して理解するのではなく、具体的な事例を基に、当事者の視点に立って直視して通じて、履修生それぞれが「老いるとは何か、老人福祉とは何か、何が大切なのか、何が求められているのか」を問い直していく作業を行う予定である。

その結果、各履修生が「老人福祉」を問い直してゆく力量を身につけること、これを本講義の着地点としたい。

授業では、可能な限り具体的な事例を用いながら進めて行く予定であるが、その一環として授業においてモデルケースを基にケアプランを作成し、そのケアプランでどのようなサービスとして活用できるかと言うシュミレーションも行う予定である。また、新聞記事やビデオやスライドを利用して具体的な事例を参照しながら、実際の高齢者福祉の実践、具体的な生活支援の問題点もそれぞれに考えてもらう。また、現場の人たちによるゲスト講義も実施する予定である。

【授業計画】

- 第1回 我が国の高齢者の実態について 人口動態・人口静態から
- 第2回 高齢者の生活実態 独居・高齢者世帯・収入
- 第3回 老齢年金・後期高齢者医療制度について
- 第4回 介護保険制度について 1 保険者と被保険者、国・都道府県・市町村の役割
- 第5回 介護保険制度について 2 申請からサービス利用まで
- 第6回 介護保険制度について 3 サービスの種類と利用法
- 第7回 介護保険制度について 4 保険財政
- 第8回 介護保険制度について 5 現状と課題
- 第9回 シルバービジネスについて 1 高専賃・有料老人ホームについて
- 第10回 シルバービジネスについて 2 福祉用具について
- 第11回 シルバービジネスについて 3 将来展望
- 第12回 老人福祉・介護に携わる人たち 1 専門職として 介護福祉士・ホームヘルパー等
- 第13回 老人福祉・介護に携わる人たち 2 ボランティア・NPO
- 第14回 諸外国の高齢者サービスの現状
- 第15回 我が国の高齢者問題の現状と課題

高齢者福祉・介護に関する法律、制度は改正、変更が多いので、鍼法・新制度に基づき、講義を進めていくが、受講生はいつ時点のことであるのかを常に注視してください。

【授業の進め方】

主として講義方式で授業を進める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

必要なものは、授業時にレジメとして配布するが、受講者も新聞などの高齢者問題関連記事の切り抜きを行ってもらう。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 40%

特記事項

期末に行うテストで評価を行う。絶対評価で行う。

テストは、記述方式により出題し、テーマ等については、第15回目の授業で指示する。

特に、自身の進路として介護、シルバービジネス業界を考えている学生の受講を望みます。

【履修上の心得】

授業では、老人福祉の現場で日常的に起こっている事象を数多く紹介する予定なので、履修生の授業への積極的参加を期待する。

科目名	教養特講（地球環境問題）
教員名	山本 厚太郎

【授業の内容】

「環境」とは「私」のまわりに存在する全てのもの、ことのことである。私たちはしょせん地上にしか生息できない生物で、地球のしくみから逃れることはできない。人類は宇宙に飛び立つことができるが、宇宙船の中は現在の地球環境に近似させねば、飛行士達は生きていけない。

私たちに、どうしても必要なもの－空気、水、食物は全て地球が私たちに与えてくれるものである。その地球が、そこに暮し、地球の恩恵によって生命を維持している人類に傷つけられているのである。

こうした事態に”愚かな人間たち”と嘆くのもいいが、大切なのは、できる限り事実をしっかりと認識すること。そして、問題解決のための対策を早急にとることであろう。すでに、様々な取り組みが、進められている。

本講義では、人類の文明がなしてしまった「地球環境の破壊」について、身近な部分から見ていこうと考えている。我々が日頃利便性あふれる生活のなかで見落としている大切なこと－私たちが支えている自然の有様－を少しでも把握できるよう講義を進めていきたい。

【到達目標】

皆さんが自然に配慮した生活を当たり前のようにできるよう“自然と人”の関係の理解を深める。また、社会に出たあと、必然的に出会うエコロジー関連の問題に柔軟に対処しうる教養を獲得する。

【授業計画】

- 第1回 「地球環境問題」とは。
- 第2回 地球について理解する。有限の地球という概念。
- 第3回 地球の仕組みⅠ 三大法則
- 第4回 地球の仕組みⅡ 循環の星
- 第5回 オゾン層の破壊の衝撃
- 第6回 土から「地球環境問題」を考える（砂漠化など）
- 第7回 水から「地球環境問題」を考える（酸性雨、海洋汚染など）
- 第8回 植物から「地球環境問題」を考える（森林の減少、野生生物種の減少など）
- 第9回 産業社会と地球環境問題
- 第10回 温暖化について考える
- 第11回 温暖化の対策について考える
- 第12回 循環型社会へのステップについて考える
- 第13回 法制度の変容について考える
- 第14回 倫理性について考える（私たちに今できること）
- 第15回 まとめ

【授業の進め方】

レジュメを用意する予定。一方通行の講義ではなく、質問も投げかけていく。そのつもりで緊張感をもって講義に臨んでもらいたい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特になし

【参考図書】

講義中にその都度指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

レポート

講義への参加度

【「成績評価の方法」に関する注意点】

講義中に小テストやアンケートの実施をする予定。参加度に加味される。

【科目のレベル、前提科目など】

一般教養さえあれば、前提としての知識は不要。

科目名	教養特講(病と癒しの人間史)
	医療文化史 人は病とどう折り合いをつけ、社会は伝染病とどう闘ったのか 古代から現代までの伝染病との歴史をさぐる
教員名	岡田 晴恵

【授業の内容】

感染症（伝染病）は、人命に直接関する脅威を与える一方で、社会や文化に間接的にも強い影響を与え続けてきた。ときにそれは、歴史を変えるほどの激しい社会変革を巻き起こし、文化や思想、芸術にも爪痕を残す。細菌には抗生物質、ウイルスにはワクチンが開発され、これらの感染症が一見コントロールされるようになったのは、ここ数十年のことである。しかし、医療が発達した現代において、感染症の新たな脅威が叫ばれている。高速大量輸送時代を背景に病原体が短期間で世界中に伝播され、また、高い人口密度となった大都会での感染症の爆発的流行など、社会の便利さと引き換えに感染症の流行様態が大きく変わってきている。本講義では、感染症の流行が巻き起こした社会変革を時代を追って見つめていく。また、一方では個人にもスポットをあて、その人生に影響を与えた感染症の爪痕を文学や音楽、絵画などの芸術にも探す。同時に社会が感染症とたたかうべく、取り組んだ対策や人々の相互扶助の歴史をも辿っていく。感染症を過去の脅威とするのではなく、現代のテーマとしてとらえながら、その歴史から社会としての知恵を学ぶ。

【到達目標】

感染症が巻き起こした社会変革、文化や思想、芸術に残した爪痕を見つめなおし、その中から、現代日本社会で失われつつある伝染病に対抗する知恵を見つけ活用できる教養を獲得する。

【授業計画】

- 第1回 感染症による文明の混乱と発展の歴史
- 第2回 感染症の科学 病原体（細菌、ウイルス、原虫など）と人との関係
- 第3回 聖書に描かれた感染症 ハンセン病
- 第4回 ローマの道を通ったマラリア
- 第5回 シルクロードをたどった疫病 天然痘の道
- 第6回 ペストロード 中世を終焉させた黒死病
- 第7回 公衆衛生の誕生 相互扶助による救済
- 第8回 ルネッサンス時代の疫病 梅毒
- 第9回 産業革命と結核
- 第10回 第一次世界大戦の勝敗を決めた大疫病 スペイン・インフルエンザ
- 第11回 21世紀の疫病 H5N1型鳥インフルエンザの危機管理
- 第12回 医学の発展 古代エジプト、ギリシャ文明から中世までの古代医学
- 第13回 医学の発展 近大医学のあけぼの 消毒と麻酔の開発
- 第14回 医学の発展 近大医学のあけぼの 病原体の発見 ワクチンの開発
- 第15回 病と癒しの人間史 人と病

【授業の進め方】

教科書を中心に読み進めながら解説する

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①病いと癒しの人間史 ③日本評論社

【参考図書】

- 「歴史をつくった七大伝染病」岡田晴恵著 PHP研究所
- 「人類vs感染症」岡田晴恵著 岩波ジュニア新書 780円

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 20% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

定期試験、授業内試験、受講態度等で評価します
実習、公欠などの多い学生は、レポートを課します

【「成績評価の方法」に関する注意点】

教育実習等による欠席申請等には所定の用紙に必要事項を書き入れ、決まりに則って提出する。また、それ以外の講義には休まない心がけを持って講義に出席する。文科省の定める3分の2以上の講義の出席は遵守する努力は不可欠である。実質の講義不在が多数の場合には、単位の認定はできない。また、講義中に周囲に迷惑となる行動、振る舞いは厳に慎むべきである。学生証は必ず携帯して、出席確認を各自で行う。講義後の申請は、原則として受け付けない。

【履修上の心得】

講義中、常に頭を働かせ何かを感じ取る努力を惜しまないこと。

【備 考】

講義中に周囲に迷惑をかける行為は慎むこと

科目名	教養特講(モバイル社会とメディア)
	モバイル社会におけるメディアの在り方を考える
教員名	菅谷実/KDDI総合研究所

【授業の内容】

本講座は、KDDI総合研究所の寄付講座です。毎回、モバイルおよびメディア業界の第一線で活躍されている方をゲストスピーカーに迎え講義を進めていきます。

今日、スマートフォンをはじめとしたモバイル機器は日々の生活に欠かせないメディアとなっています。大学生活ではもちろんですが、社会人になっても、モバイル・メディアに関する知識は、いろいろな場面で役立つことでしょう。

本寄付講座では、モバイルだけではなくインターネットを支えるグローバル・ネットワークの発展、モバイル・コンテンツ、スマートフォンとスマートテレビの連携、ケーブルテレビの未来、さらにはメディアリテラシー、遠隔教育などについても取り上げます。

【到達目標】

日常生活には欠かせないインターネット、スマートフォンなどのメディアとネットワーク全般について、その仕組みから理解をすることにより、受講生のメディア・リテラシーの向上を目指します。

【授業計画】

- 第1回 モバイル社会を支える情報通信産業
次回講義のシラバスがWebClassにアップされるので各自予習をする (30分)
- 第2回 ケータイ電話サービスを提供する通信産業の現状
次回講義のシラバスがWebClassにアップされるので各自予習をする (30分)
- 第3回 ソーシャルメディアと社会
次回講義のシラバスがWebClassにアップされるので各自予習をする (30分)
- 第4回 ケータイショップ
次回講義のシラバスがWebClassにアップされるので各自予習をする (30分)
- 第5回 モバイル社会と放送サービス
次回講義のシラバスがWebClassにアップされるので各自予習をする (30分)
- 第6回 災害と情報通信
次回講義のシラバスがWebClassにアップされるので各自予習をする (30分)
- 第7回 メディアビジネスの今後
次回講義のシラバスがWebClassにアップされるので各自予習をする (30分)
- 第8回 スマホ時代の音楽ビジネス
次回講義のシラバスがWebClassにアップされるので各自予習をする (30分)
- 第9回 モバイルコンテンツ産業の業界動向
次回講義のシラバスがWebClassにアップされるので各自予習をする (30分)
- 第10回 スマートテレビとスマートフォン (1)
次回講義のシラバスがWebClassにアップされるので各自予習をする (30分)
- 第11回 スマートテレビとスマートフォン (2)
次回講義のシラバスがWebClassにアップされるので各自予習をする (30分)
- 第12回 インターネットを支える国際通信ネットワークのしくみ
次回講義のシラバスがWebClassにアップされるので各自予習をする (30分)
- 第13回 IoTで変わる社会 ～あらゆるものがつながる社会へ
次回講義のシラバスがWebClassにアップされるので各自予習をする (30分)
- 第14回 ICT教育の未来
次回講義のシラバスがWebClassにアップされるので各自予習をする (30分)
- 第15回 情報通信の未来
次回講義のシラバスがWebClassにアップされるので各自予習をする (30分)

本講座では、情報通信産業の全体像について明らかにします。コンテンツ、プラットフォーム、ネットワーク、端末という流れの中で多様なメディアサービスがケータイ電話、PC、さらにはスマートテレビで受信可能です。講義は、情報通信産業の全体像からはじまり、消費者がケータイ電話を購入するケータイショップの仕組み、モバイル社会を支える通信ネットワーク、プラットフォーム・ビジネス、コンテンツ産業へと展開されます。

【授業の進め方】

毎回、モバイル、メディア業界の実務家、メディア研究者などの特別ゲストによる講義となります。詳細は、第1回目の講義で紹介しますので、第1回目の講義には必ず参加してください。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

指定の教科書はありません

【参考図書】

指定の参考図書はありません

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 100% 受講態度 0%

特記事項

毎回、ミニレポートを提出してもらいます。

第1回講義で、本講義受講の注意点を話しますので、受講者は必ず1回目の講義から参加してください。

科目名	教養特講(ソーシャルデザイン論)
教員名	小笠原 伸

【授業の内容】

社会はいかにして変えて行けるのだろうか。多くの学生諸君はそんなことは不可能だと諦めているかもしれない。本授業では、ソーシャルデザインの基礎的な知識を提供しその状況を理解してもらう。多くの場において社会は変えうるものとして存在していることが分かるだろう。そして、社会課題はどう発見、評価し具体的に前へ進むにはどうしたらいいのか、その手法についても具体のアクションを求めながら自分のこととしての未来像を構築してゆく。社会は誰かから与えられているものだと思う学生にはこの授業は厳しく映るだろう。しかしこれからの時代は自らが動いてゆくことで社会も、そして自分自身も明確に変革を促すことが出来る。皆さんの周りにも社会を変えてゆこうとする先人がいる。その存在を知れば、決して難しいことでもつらいことでもなく、これらの試行錯誤や鍛錬は皆さんにとって必要なものであることを理解するであろう。僅かな挑戦心と少しの努力で、この社会はより面白くなる。

【到達目標】

1. ソーシャルデザインの基礎的な知識とその状況を理解する
2. 足を運び手を動かすことで、社会課題の発見、評価とその改革手法について検討する
3. 自身の生活や地域の中に有る問題を知り社会を変えてゆこうとする人々の存在を知りそのフォロワーとして立ち上がる

【授業計画】

- 第1回 ソーシャルデザインについて（1）
 予習：シラバスを読みソーシャルデザインについて知る（1.5時間）
 復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）
- 第2回 ソーシャルデザインについて（2）
 予習：ソーシャルデザインについて自ら調べる（1.5時間）
 復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）
- 第3回 身近な課題に取り組むソーシャルデザイン
 予習：自身の身近な場所にある社会課題を知り解決へ向け行動する（1.5時間）
 復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）
- 第4回 社会の課題を知り行動につなげる
 予習：自身の身近な場所にある社会課題を知り解決へ向け行動する（1.5時間）
 復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）
- 第5回 アクションを起こすための準備（1）
 予習：自身の身近な場所にある社会課題を知り解決へ向け行動する（1.5時間）
 復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）
- 第6回 フィールドワーク（地域課題調査）
 予習：フィールドワーク対象地域について自ら調べる（1.5時間）
 復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）
- 第7回 ディスカッションとプレゼンテーションを試みる
 予習：フィールドワーク対象地域について自ら調べ対話準備を行う（1.5時間）
 復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）
- 第8回 社会を変えてきた人々を知る
 予習：ソーシャルデザインの歴史と事例を自ら調べる（1.5時間）
 復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）
- 第9回 対話から生まれるソーシャルデザインの解
 予習：調査やアクションの振り返りを行う（1.5時間）
 復習：自分らの対話のポイントや課題を整理する（1.5時間）
- 第10回 フィールドを見つける
 予習：これまでの授業内での取り組みから自らの活動フィールドを固める（1.5時間）
 復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）
- 第11回 アクションを起こすための準備（2）
 予習：これまでの授業内での取り組みから自らの活動フィールドを固める（1.5時間）
 復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）
- 第12回 課題の解決手法を検討する
 予習：解決手法の発見とプレゼンテーション準備（1.5時間）
 復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）
- 第13回 課題の解決策を提案する
 予習：認識した課題の解決策を準備する（1.5時間）
 復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）
- 第14回 変えた後の社会の像を構築する

- 予習：社会課題と自身との関係を考え整理する（1.5時間）
復習：プレゼンテーション準備（1.5時間）
第15回 自分を変えることで社会を変える
予習：プレゼンテーション準備（1.5時間）
復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）

【授業の進め方】

講義を行うのと平行して授業内課題やフィールドワークなどのアクティブ・ラーニングを志向した作業を随時取り入れてゆく。

グループ作業を想定している。学生による発表やゲスト講師とのコミュニケーションも検討したい。それゆえに本授業は公欠も含めできるだけ欠席についてはしないよう努めて欲しい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

授業内で指示する。

【参考図書】

ソーシャルデザインやデザイン思考、アクティブ・ラーニングについての図書を数冊授業内で指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 0%

【履修上の心得】

対象は問わぬが、社会を変えてゆきたい、自分で地域をデザインしてゆきたいという学生を学部学科を問わず広く集う場としたい。グループ作業が多くなるためソーシャルメディアなどを利用することがあるので、PCを使えることが望ましいが、授業に参加して慣れていってもらっても問題はない。

【科目のレベル、前提科目など】

受動的な学生には多くのコミュニケーションや自身の考えのアウトプットを求め課題も多く、かなり厳しい授業になると覚悟をして欲しい。むしろ、授業に前向きに取り組む学生は初学者であっても全学から広く参加を求める。前提の知識は想定しておらず、社会を変えたいという1,2年生の参加を歓迎したい。

科目名	教養特講(平成政治史研究)
	消費税、選挙制度、冷戦終焉が変えた国内政治
教員名	後藤 謙次

【授業の内容】

今私たちが生きているこの平成時代はどのような時代だったのか。日本政治や国際社会の動きを通して平成の時代を知る。

【到達目標】

平成時代の政治や国民生活を形成してきたものは何か、具体的な出来事を通して学び、私たちが今後どのような道を進んでいけばよいのかのヒントを掴む。

【授業計画】

- 第1回 平成元年はどのような年だったのか
- 第2回 平成政治の主役は消費税
- 第3回 政治とカネ＝リクルート事件
- 第4回 冷戦構造の崩壊と日本政治
- 第5回 選挙制度改革と政権交代
- 第6回 バブル経済の終焉
- 第7回 安全保障政策の転換
- 第8回 衆参ねじれ国会
- 第9回 天安門事件と日中関係
- 第10回 沖縄問題と普天間返還
- 第11回 なぜシャッター街が生まれたのか
- 第12回 連立政権時代の到来
- 第13回 派閥政治の終焉
- 第14回 小泉政権時代の到来
- 第15回 新制度で生まれた多党化現象

【授業の進め方】

講義形式。その時々新聞のコピー等を配布する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に無し。

【参考図書】

- ・『平成政治史全3巻』(岩波書店、後藤謙次著)
- ・週刊ダイヤモンド「永田町ライヴ！」(後藤謙次コラム)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 50%

【履修上の心得】

平成時代に起きた出来事はわたしたちの日常生活に直結している。国内政治や経済動向、国際情勢に関心を持つ。そのためには日々のニュースをチェックすること。

科目名	教養特講(不確実性と二宮尊徳)
教員名	山田 徳彦

【授業の内容】

日常生活を送るうえでも、社会生活のうえでも、常に確実な因果関係や成り立つとは限らない。私たちは、日々さまざまな不確実性に直面しているのである。こうした不確実性のうち、負の方向に働くもの、多くの場合、起ったらまずいものをリスクとしよう。

リスクや不確実性と完全になくすことは難しい。しかし、それらを許容できる範囲におさめることはできそうである。その際、ヒントを提供するのは、先人たちの考えと二宮尊徳の行動・考え方ではないか。それらを把握すれば、専門科目の理解が著しく進むものと期待される。

【到達目標】

何かやる場合必ず不確実性・リスクがつきものであり、それらを克服しようとするとき二宮尊徳の行動がヒントになるのを理解すること。

【授業計画】

- 第1回 リスク・不確実性の普遍性
- 第2回 リスクと不確実性
- 第3回 情報の非対称性と認知
- 第4回 リスク・コントロールとリスク・シェアリング
- 第5回 リスク・マネジメント①
- 第6回 リスク・マネジメント②
- 第7回 リスクへの戦略的対応・合意形成
- 第8回 リスク認知のメカニズム
- 第9回 リスク・不確実性と温故知新
- 第10回 不確実性と二宮尊徳
- 第11回 二宮尊徳の行動
- 第12回 二宮尊徳の考え方
- 第13回 その後の評価①
- 第14回 その後の評価②
- 第15回 まとめ

【授業の進め方】

配布プリントにそって講義は行う

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①リスク 不確実性 そして想定外 ②植村 修一 ③日本経済新聞出版社 ④2012/6/9 ⑤900 ⑥9784532261603
 ①代表的日本人 ②内村鑑三 ③岩波文庫 ④1995/7/17 ⑤600 ⑥4-00-331193-0

【参考図書】

講義中適宜紹介する。また、プリントを配布する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 50%

【履修上の心得】

時間厳守
私語厳禁

科目名	教養ゼミナール I-1(アマン)
	ことばと人：初めてのヨーロッパ学
教員名	Clemens Amann

【授業の内容】

言語と人という関係を中心にしてヨーロッパの多言語、多民族のパズルを研究します。ヨーロッパの言葉はどこから、どういうふう大陸に広がって、民族意識にどんな影響を及ぼして、国造りと政治、宗教と文化の伝播の際どんな役割を果たしたか、など幅広い意味で言語は人と人との間橋になったりあるいは壁になったりすることを勉強します。それにもう一つの”言語”になっている文化、つまり人が作った絵、道具、建物などはヨーロッパの社会について何を物語ってくれるのか。ヨーロッパの言語、文化、歴史、日常生活、映画、祭りなどに興味を持っている学生を対象に様々なテーマに触れますが、これらのテーマだけでなく、ゼミ生が調べたいテーマを聞いてから、このゼミナールの内容を完全に決めます。

ゼミのテーマの中からいくつかの例をあげます：

ヨーロッパの民族、言語はどこから来たのか：ヨーロッパの地図を読む。
地中海で始まったヨーロッパ。
街の歩き方：ウィーン、パリ、プラハ、フィレンツェなど。
教会というのは何の建物？
フランスの移民、ドイツの移民、そしてイスラム教。
英語とフランス語の歴史的な出会い：一つの言語の中に複数の言語が入っている
ヨーロッパの西と東：二つのヨーロッパ？それとも複数のヨーロッパ？
“Good Bye Lenin”：映画を見ながらヨーロッパの20世紀を振り返ってみる。

【到達目標】

ヨーロッパへの入門。ヨーロッパの通史を学ぶことではなく、昔のさまざまな歴史産物、そして現在の出来事を通してヨーロッパの成り立ちを見ながら現在のヨーロッパを少しでも理解できるように勉強する。第1年目はヨーロッパ全体に関わる運動、社会傾向、思想を中心に、第2年目は国別でいくつかの国を紹介して、多様な、複雑な「ヨーロッパ」という概念を把握できるように勉強する。

【授業計画】

- 第1回 ヨーロッパの地図を読む：言語、民族、国々I
- 第2回 ヨーロッパの地図を読む：言語、民族、国々II
- 第3回 ヨーロッパの言語グループ：ヨーロッパ人はどこから来たのか？ I
- 第4回 ヨーロッパの言語グループ：ヨーロッパ人はどこから来たのか？ II
- 第5回 ヨーロッパのルーツ：古代ギリシア、ギリシア人とギリシア語 I
- 第6回 ヨーロッパのルーツ：古代ギリシア、ギリシア人とギリシア語 II
- 第7回 ヨーロッパのルーツ：古代ローマの世界とラテン語 I
- 第8回 ヨーロッパのルーツ：古代ローマの世界とラテン語 II
- 第9回 民族の移動と言語の変化、言語交換、新しい言語：フランス語
- 第10回 英語の成り立ち
- 第11回 修道士の生活、騎士の生活：文字の文化と声の文化
- 第12回 映画：薔薇の名前
- 第13回 中世の世界、「教会」その建物とその社会制度
- 第14回 キリスト教と貧困と裕福
- 第15回 宗教改革と印刷技術：ドイツ語の始まり

【授業の進め方】

毎回のテーマを紹介して、そのテーマに関わる読み物を個人または2-3人のグループ別に精読、読解する形で行います。また、読み物を自宅で読んで質問に答えて次回の授業に提出する課題もあります。2年目の後期からゼミ生が選んだテーマについて発表する課題が加わります。個人テーマの選び方、調べ方に関しては授業中の説明、およびゼミ生個人々人との相談を行います。ゼミの終わりに、個人テーマについて小論文を書くのが必要です。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

プリントを使用する。

【参考図書】

主な文献：

踊 共二 (編)：ヨーロッパ学入門
池田雅之 (編)：ヨーロッパ世界のことばと文化

明石書店の国別の「エリア・スタディーズ」ヨーロッパ編、(他)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

課題の提出：授業中、または自宅で読み物に対して返答する

【「成績評価の方法」に関する注意点】

毎回の課題になる読み物はできるかぎり次の授業に提出してください。

【履修上の心得】

ゼミ生に積極的な努力、自発的な質問と発言を期待します。

【科目のレベル、前提科目など】

ヨーロッパ学への導入。ヨーロッパに興味のある学生を対象にする入門。

科目名	教養ゼミナール I -2(アマン)
	ことばと人：初めてのヨーロッパ学
教員名	Clemens Amann

【授業の内容】

言語と人という関係を中心にしてヨーロッパの多言語、多民族のパズルを研究します。ヨーロッパの言葉はどこから、どういうふう大陸に広がって、民族意識にどんな影響を及ぼして、国造りと政治、宗教と文化の伝播の際どんな役割を果たしたか、など幅広い意味で言語は人と人との間橋になったりあるいは壁になったりすることを勉強します。それにもう一つの”言語”になっている文化、つまり人が作った絵、道具、建物などはヨーロッパの社会について何を物語ってくれるのか。ヨーロッパの言語、文化、歴史、日常生活、映画、祭りなどに興味を持っている学生を対象に様々なテーマに触れますが、これらのテーマだけでなく、ゼミ生が調べたいテーマを聞いてから、このゼミナールの内容を完全に決めます。

ゼミのテーマの中からいくつかの例をあげます：

ヨーロッパの民族、言語はどこから来たのか：ヨーロッパの地図を読む。
地中海で始まったヨーロッパ。
街の歩き方：ウィーン、パリ、プラハ、フィレンツェなど。
教会というのは何の建物？
フランスの移民、ドイツの移民、そしてイスラム教。
英語とフランス語の歴史的な出会い：一つの言語の中に複数の言語が入っている
ヨーロッパの西と東：二つのヨーロッパ？それとも複数のヨーロッパ？
“Good Bye Lenin”：映画を見ながらヨーロッパの20世紀を振り返ってみる。

【到達目標】

ヨーロッパへの入門。ヨーロッパの通史を学ぶことではなく、昔のさまざまな歴史産物、そして現在の出来事を通してヨーロッパの成り立ちを見ながら現在のヨーロッパを少しでも理解できるように勉強する。第1年目はヨーロッパ全体に関わる運動、社会傾向、思想を中心に、第2年目は国別でいくつかの国を紹介して、多様な、複雑な「ヨーロッパ」という概念を把握できるように勉強する。

【授業計画】

- 第1回 16世紀の言語革命：国々の成立と民族の言葉
- 第2回 ヨーロッパの拡大：コロンバスの旅とクレオール語 I
- 第3回 ヨーロッパの拡大：コロンバスの旅とクレオール語 II
- 第4回 言葉が国語になる：英語の場合
- 第5回 言葉が国語になる：フランス語の場合
- 第6回 ケルトの文化と言語：アイルランド語
- 第7回 ケルトの文化と言語：アイルランドのダンス音楽
- 第8回 ケルトの文化と言語：ブルターニュ半島
- 第9回 ハプスブルク帝国のウィーンとオーストリアのウィーン
- 第10回 多民族、多言語の国家の言葉：19世紀のナショナリズム
- 第11回 ヨーロッパの20世紀 I：ヨーロッパの崩壊と分割：プロパガンダ、全体主義の言葉使い、
- 第12回 ヨーロッパの20世紀 II：冷戦のヨーロッパ、ドイツの統一、ヨーロッパの統合
- 第13回 映画：Good Bye Lenin
- 第14回 映画：Good Bye Lenin
- 第15回 後期のまとめ

【授業の進め方】

毎回のテーマを紹介して、そのテーマに関わる読み物を個人または2-3人のグループ別に精読、読解する形で行います。また、読み物を自宅で読んで質問に答えて次回の授業に提出する課題もあります。2年目の後期からゼミ生が選んだテーマについて発表する課題が加わります。個人テーマの選び方、調べ方に関しては授業中の説明、およびゼミ生個人々人との相談を行います。ゼミの終わりに、個人テーマについて小論文を書くのが必要です。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

プリントを使用する。

【参考図書】

主な文献：

踊 共二 (編)：ヨーロッパ学入門
池田雅之 (編)：ヨーロッパ世界のことばと文化

明石書店の国別の「エリア・スタディーズ」ヨーロッパ編、(他)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

課題の提出：授業中、または自宅で読み物に対して返答する

【「成績評価の方法」に関する注意点】

毎回の課題になる読み物はできるかぎり次の授業に提出してください。

【履修上の心得】

ゼミ生に積極的な努力、自発的な質問と発言を期待します。

【科目のレベル、前提科目など】

ヨーロッパ学への導入。ヨーロッパに興味のある学生を対象にする入門。

科目名	教養ゼミナールII-1(アマン)
	ことばと人：初めてのヨーロッパ学
教員名	Clemens Amann

【授業の内容】

言語と人という関係を中心にしてヨーロッパの多言語、多民族のパズルを研究します。ヨーロッパの言葉はどこから、どういうふう大陸に広がって、民族意識にどんな影響を及ぼして、国造りと政治、宗教と文化の伝播の際どんな役割を果たしたか、など幅広い意味で言語は人と人との間橋になったりあるいは壁になったりすることを勉強します。それにもう一つの”言語”になっている文化、つまり人が作った絵、道具、建物などはヨーロッパの社会について何を物語ってくれるのか。ヨーロッパの言語、文化、歴史、日常生活、映画、祭りなどに興味を持っている学生を対象に様々なテーマに触れますが、これらのテーマだけでなく、ゼミ生が調べたいテーマを聞いてから、このゼミナールの内容を完全に決めます。

ゼミのテーマの中からいくつかの例をあげます：

ヨーロッパの民族、言語はどこから来たのか：ヨーロッパの地図を読む。
地中海で始まったヨーロッパ。
街の歩き方：ウィーン、パリ、プラハ、フィレンツェなど。
教会というのは何の建物？
フランスの移民、ドイツの移民、そしてイスラム教。
英語とフランス語の歴史的な出会い：一つの言語の中に複数の言語が入っている
ヨーロッパの西と東：二つのヨーロッパ？それとも複数のヨーロッパ？
“Good Bye Lenin”：映画を見ながらヨーロッパの20世紀を振り返ってみる。

【到達目標】

ヨーロッパへの入門。ヨーロッパの通史を学ぶことではなく、昔のさまざまな歴史産物、そして現在の出来事を通してヨーロッパの成り立ちを見ながら現在のヨーロッパを少しでも理解できるように勉強する。第1年目はヨーロッパ全体に関わる運動、社会傾向、思想を中心に、第2年目は国別でいくつかの国を紹介して、多様な、複雑な「ヨーロッパ」という概念を把握できるように勉強する。

【授業計画】

- 第1回 ドナウ川の国々と東ヨーロッパの世界：導入
- 第2回 チェコとプラハ、チェコの人形芝居
- 第3回 チェコスロヴァキアからチェコとスロヴァキアへ
- 第4回 スロヴァキアへの旅
- 第5回 スロヴァキアとハンガリーの国境で
- 第6回 ハンガリー：国、言語、生活
- 第7回 国外のハンガリー人
- 第8回 ルーマニアの自然と風景
- 第9回 ルーマニアの農業
- 第10回 東ヨーロッパの音楽I
- 第11回 東ヨーロッパの音楽II
- 第12回 北欧の世界：導入
- 第13回 フィンランド人の自然観
- 第14回 フィンランド人の生活
- 第15回 ドキュメンタリー映画：フィンランドの核ゴミ施設

【授業の進め方】

毎回のテーマを紹介して、そのテーマに関わる読み物を個人または2-3人のグループ別に精読、読解する形で行います。また、読み物を自宅で読んで質問に答えて次回の授業に提出する課題もあります。2年目の後期からゼミ生が選んだテーマについて発表する課題が加わります。個人テーマの選び方、調べ方に関しては授業中の説明、およびゼミ生個人々人との相談を行います。ゼミの終わりに、個人テーマについて小論文を書くのが必要です。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

プリントを使用する。

【参考図書】

主な文献：

踊 共二 (編)：ヨーロッパ学入門
池田雅之 (編)：ヨーロッパ世界のことばと文化

明石書店の国別の「エリア・スタディーズ」ヨーロッパ編、(他)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

課題の提出：授業中、または自宅で読み物に対して返答する

【「成績評価の方法」に関する注意点】

毎回の課題になる読み物はできるかぎり次の授業に提出してください。

【履修上の心得】

ゼミ生に積極的な努力、自発的な質問と発言を期待します。

【科目のレベル、前提科目など】

ヨーロッパ学への導入。ヨーロッパに興味のある学生を対象にする入門。

科目名	教養ゼミナールII-2(アマン)
	ことばと人：初めてのヨーロッパ学
教員名	Clemens Amann

【授業の内容】

言語と人という関係を中心にしてヨーロッパの多言語、多民族のパズルを研究します。ヨーロッパの言葉はどこから、どういうふう大陸に広がって、民族意識にどんな影響を及ぼして、国造りと政治、宗教と文化の伝播の際どんな役割を果たしたか、など幅広い意味で言語は人と人との間橋になったりあるいは壁になったりすることを勉強します。それにもう一つの”言語”になっている文化、つまり人が作った絵、道具、建物などはヨーロッパの社会について何を物語ってくれるのか。ヨーロッパの言語、文化、歴史、日常生活、映画、祭りなどに興味を持っている学生を対象に様々なテーマに触れますが、これらのテーマだけでなく、ゼミ生が調べたいテーマを聞いてから、このゼミナールの内容を完全に決めます。

ゼミのテーマの中からいくつかの例をあげます：

ヨーロッパの民族、言語はどこから来たのか：ヨーロッパの地図を読む。
地中海で始まったヨーロッパ。
街の歩き方：ウィーン、パリ、プラハ、フィレンツェなど。
教会というのは何の建物？
フランスの移民、ドイツの移民、そしてイスラム教。
英語とフランス語の歴史的な出会い：一つの言語の中に複数の言語が入っている
ヨーロッパの西と東：二つのヨーロッパ？それとも複数のヨーロッパ？
“Good Bye Lenin”：映画を見ながらヨーロッパの20世紀を振り返ってみる。

【到達目標】

ヨーロッパへの入門。ヨーロッパの通史を学ぶことではなく、昔のさまざまな歴史産物、そして現在の出来事を通してヨーロッパの成り立ちを見ながら現在のヨーロッパを少しでも理解できるように勉強する。第1年目はヨーロッパ全体に関わる運動、社会傾向、思想を中心に、第2年目は国別でいくつかの国を紹介して、多様な、複雑な「ヨーロッパ」という概念を把握できるように勉強する。

【授業計画】

- 第1回 スウェーデンの首都ストックホルム
- 第2回 スウェーデンの教育・福祉制度
- 第3回 オランダI 国の成立と海
- 第4回 オランダII オランダと出島
- 第5回 ヨーロッパの難民I 移民と難民
- 第6回 ヨーロッパの難民II フランスの場合、ドイツの場合
- 第7回 ヨーロッパの難民III 難民の子供たち、学校での生活
- 第8回 発表の準備：テーマの選択、テーマに関する書籍、資料などを決める
- 第9回 発表のスケジュール、日程
- 第10回 ゼミ生の発表
- 第11回 ゼミ生の発表
- 第12回 ゼミ生の発表
- 第13回 ゼミ生の発表
- 第14回 ゼミ生の発表
- 第15回 発表・後期のまとめ

【授業の進め方】

毎回のテーマを紹介して、そのテーマに関わる読み物を個人または2-3人のグループ別に精読、読解する形で行います。また、読み物を自宅で読んで質問に答えて次回の授業に提出する課題もあります。2年目の後期からゼミ生が選んだテーマについて発表する課題が加わります。個人テーマの選び方、調べ方に関しては授業中の説明、およびゼミ生個人々人との相談を行います。ゼミの終わりに、個人テーマについて小論文を書くのが必要です。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

プリントを使用する。

【参考図書】

主な文献：

踊 共二 (編)：ヨーロッパ学入門
池田雅之 (編)：ヨーロッパ世界のことばと文化

明石書店の国別の「エリア・スタディーズ」ヨーロッパ編、(他)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

課題の提出：授業中、または自宅で読み物に対して返答する

【「成績評価の方法」に関する注意点】

毎回の課題になる読み物はできるかぎり次の授業に提出してください。

【履修上の心得】

ゼミ生に積極的な努力、自発的な質問と発言を期待します。

【科目のレベル、前提科目など】

ヨーロッパ学への導入。ヨーロッパに興味のある学生を対象にする入門。

科目名	クリティカルシンキング B
	どう考えたらいい？ どう決めたらいい？
教員名	渡邊 忠

【授業の内容】

自然言語による推論（非演繹的な論証や不確実性の扱い方、科学哲学）についての講義と演習。とくに確率や合理的意思決定に関連する推論においておかしやすい誤謬に焦点を当て、合理的・科学的な思考方法を学習する。

【到達目標】

正しく考え、読み、書き、推論し、決定するために必要な基礎知識とスキルを身につけること

【授業計画】

- 第1回 論証とは何か。基本的事項の説明。(復習)配布教材の問題を解く。(予習9)次回配布教材を読む。[合計180分]
 第2回 非演繹的論証の類型と構造。(復習)配布教材の問題を解く。(予習9)次回配布教材を読む。[合計180分]
 第3回 リスクを含む思考の規範Ⅰ：確率の初歩。(復習)配布教材の問題を解く。(予習9)次回配布教材を読む。[合計180分]
 第4回 論理と確率：複合命題の確率を求める。(復習)配布教材の問題を解く。(予習9)次回配布教材を読む。[合計180分]
 第5回 条件付確率。(復習)配布教材の問題を解く。(予習9)次回配布教材を読む。[合計180分]
 第6回 確率に関する様々な誤謬。(復習)配布教材の問題を解く。(予習9)次回配布教材を読む。[合計180分]
 第7回 Bayesの定理とその応用。(復習)配布教材の問題を解く。(予習9)次回配布教材を読む。[合計180分]
 第8回 リスクを含む思考の規範Ⅱ：意思決定。(復習)配布教材の問題を解く。(予習9)次回配布教材を読む。[合計180分]
 第9回 期待効用とリスクに対する態度。(復習)配布教材の問題を解く。(予習9)次回配布教材を読む。[合計180分]
 第10回 決定分析と情報の価値。(復習)配布教材の問題を解く。(予習9)次回配布教材を読む。[合計180分]
 第11回 パラドクスとプロスペクト理論。(復習)配布教材の問題を解く。(予習9)次回配布教材を読む。[合計180分]
 第12回 科学哲学初歩。(復習)配布教材の問題を解く。(予習9)次回配布教材を読む。[合計180分]
 第13回 仮説の検証。(復習)配布教材の問題を解く。(予習9)次回配布教材を読む。[合計180分]
 第14回 境界科学・疑似科学と様々な誤謬推理。(復習)配布教材の問題を解く。(予習9)次回配布教材を読む。[合計180分]
 第15回 総合的な演習。(復習)配布教材の問題を解く。(予習9)次回配布教材を読む。[合計180分]

【授業の進め方】

事前配布教材に沿って解説講義と問題演習をする。時間の制約があるので、受講者の予習を前提して進める。必ず予復習をし勤勉に問題を解かないと、何一つ身に付かず単位取得もおぼつかない。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は用いず、印刷教材を用意する。

【参考図書】

- I.Hacking, An Introduction to Probability and Inductive Logic, Cambridge University Press
 R.Giere, Understanding Scientific Reasoning, Harcourt Brace
 M.Salmon/J.Earman et al, Introduction to the Philosophy of Science, Hackett
 M.Peterson, An Introduction to Decision Theory, Cambridge University Press
 M.Peterson, Non-Bayesian Decision Theory, Springer
 L.Buchak, Risk and Rationality, Oxford University Press
 G.Parmigiani/L.Inoue, Decision Theory, Wiley
 A.Spanos, Probability Theory and Statistical Inference, Cambridge University Press
 R.Jeffrey, Subjective Probability, Cambridge University Press
 B.Koslowski, Theory and Evidence: The Development of Scientific Reasoning, MIT Press
 L.Cummings, Rethinking the BSE Crisis: A Study of Scientific Reasoning Under Uncertainty, Springer

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 50% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

3回の授業内試験(50%)と定期試験(50%)の、合計4回のテストで判定する。

【履修上の心得】

地味な問題演習が延々と続く。ただ聞いていればわかるような内容ではないから、問題を自分で解いて理解を確認しなければならない。論理的思考と中学卒業程度の初歩的な数学の知識を必要とする。

科目名	コミュニケーション能力を磨こう
教員名	渡辺 裕子

【授業の内容】

企業が学生に求めるさまざまな資質の中で、ダントツに多いのが「コミュニケーション能力」です。「コミュニケーション能力」は何も就職のときだけの専売特許ではありません。あなたが社会の中で生きていく以上、人と交わっていく以上、絶対に必要な能力です。この授業では、特に初対面の人とも気軽にコミュニケーションできることをねらいとして、毎回初対面の人同士でグループを作り、意見交換をしていきます。コミュニケーション能力の育成に欠かせない、論理的な話し方のスキルや非言語のコミュニケーションスキル（表情、アイコンタクト、声の出し方、活舌、間の取り方など）、そして共感のスキル（ペーシング、ミラーリング、バックトラッキング、リフレーミング等）などを実践を通して学んでいきます。合わせて、今現在ゼミなどでも必要とされている基礎的なプレゼンテーションスキルも同時に学んでいきます。ワークショップも2つ取り入れます。一つ目の「ことばの貯金箱」では自分との向き合いの時間を大切に、二つ目の「つぶやきNEWS」では他との関わりを深めながら、一人一人が自己肯定感を築いていけるように指導していきます。ただし、ここに挙げたどのスキルもこの授業だけで身に着くものではなく、授業はあくまでもそのきっかけに過ぎないということも十分に心してください。

【到達目標】

- ・初対面の人と話をすることに抵抗がなくなり、人と目を会わせて話すことができる。
- ・論理的な話し方が分かる。
- ・相手の話を聴くスキルが身につく。
- ・人前で、堂々とプレゼンができるようになる。
- ・自分自身との向き合いができ、他との関わりも深めることができる。
- ・尊敬語、謙譲語、丁寧語などの使い分けが出来る。
- ・基礎的なメールの書き方、報告書（レポート）の書き方が分かる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション。自己紹介。
- 第2回 「ことばの貯金箱」のワークショップで作品づくり。作品を使って自己紹介をする。
- 第3回 論理的な話し方について学ぶ。（自分の考えを自分の言葉で分かりやすく伝えるためのスキルとは）
- 第4回 論理的な話し方について学ぶ。（新聞記事を使って伝え合おう）
- 第5回 非言語のコミュニケーションスキルを学ぶ。（表情、アイコンタクト、発生と活舌、間の取り方）
- 第6回 共感のスキルを学ぶ。（ペーシング…ミラーリング、バックトラッキング、リフレーミング）
- 第7回 「つぶやきNEWS」のワークショップで他との関わり合いを深めて行く。
- 第8回 プレゼンテーション① 「私」をテーマにプレゼン。
- 第9回 プレゼンテーション② 自由テーマでプレゼン。
- 第10回 尊敬語、謙譲語、丁寧語などの使い方について学ぶ。
- 第11回 相手を惹きつける話し方実践。テーマ「私からのお勧め本」（二人一組で、目上の人に伝えることを想定）
- 第12回 論理的な話し方実践（集団討論）。4人一組になって一つのテーマで討論していく。
- 第13回 メールと手紙の書き方を学ぶ。
- 第14回 お知らせ文書の書き方を学ぶ。
- 第15回 授業のまとめ。

【授業の進め方】

授業の始めに、ウォーミングアップのダンスと発声練習をします。毎回、互いに声を掛け合って知らない人同士の4人グループを作っていきます。ワークショップや話し合い活動を取り入れながら、より実践的な授業を進めていきます。授業の振り返りのレポートを毎回書いてもらいます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

プリントを使用します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

実践的な授業なので、欠席は厳に謹んでください。

【履修上の心得】

この授業の適切な人数は、40～50人です。人数が多い場合には、履修を遠慮してもらうこともありえます。受講する場合はこのシラバスをよく読み、自主的に一人で参加してください。シラバスを見ないで友達に誘われた程度ではついていけません。それなりの覚悟で受講して下さい。

科目名	経営学
教員名	黒田勉、飛田幸宏、西谷勢至子

【授業の内容】

私たちは企業が提供する製品やサービスを用い、また多くの場合そこで働くことによって所得を得ているように、企業の存在はとても大きい。その企業は、私たちと同じように、誕生し、成長し、失敗もし、そして消滅してしまうことすらある生命体なのである。

しかし、企業は私たちと異なる大きな性質も持っている。それは、企業が常に“競争”の激しさの中に身を置いている点である。企業はその競争の中でビジネスチャンスをつかみ、自分自身を成長させることを願っているのだから、企業には“多様で豊富”な経験や知識や苦悩が蓄えられ、また同時に企業はそれらを生み出している。経営学が他の学問と違い、特に企業という躍動感に満ちた組織体を中心に扱う理由は、まさにここにあると言える。

そのことから経営学は、企業の考察を中心にすえて、企業の姿や活動ぶりを、具体的に説明したり、理論的に解釈したり、そして予測的に見通したりする学問として成立している。そうした経営学を学ぶ「目的」については、企業に対する理解を深めた上で、それを私たち一人ひとりが出会う様々な場面に当てはめて、その各場面が持つ問題の解決策や進む方向性を探る、という大きな実践的な思考基盤の形成が期待されている。

【到達目標】

経営学を「初めて学ぶ」受講生に要請される本科目の到達「目標」としては、受講生自身が

★企業活動に強い関心を持つようになること

★企業活動を思い浮かべて講義内容の各項目を理解できるようになること

以上の2点を重視する。

【授業計画】

第1回 《経営学の基礎》

経営学の性質・・・・・・・・・・・・・・・・・・経営学の対象 [復習：30分]

第2回 《 ” 》

”・・・・・・・・・・・・・・・・・・経営学の特色 [復習：30分]

第3回 《 ” 》

企業の性質・・・・・・・・・・・・・・・・・・企業の目的・理念 [復習：30分]

第4回 《 ” 》

”・・・・・・・・・・・・・・・・・・企業の特徴（他の組織体との相違） [復習：30分]

第5回 《 ” 》

企業の構造・活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・企業形態（株式会社） [復習：30分]

第6回 《 ” 》 [復習：30分]

”・・・・・・・・・・・・・・・・・・企業の所有・経営 [復習：30分]

第7回 《経営学の展開》

管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・管理職能（計画・指導・統制） [復習：30分]

第8回 《 ” 》

”・・・・・・・・・・・・・・・・・・管理階層（トップ・ミドル・ローア） [復習：30分]

第9回 《 ” 》

組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・組織形態（職能制・事業部制） [復習：30分]

第10回 《 ” 》

”・・・・・・・・・・・・・・・・・・組織行動（モチベーション） [復習：30分]

第11回 《 ” 》

戦略・・・・・・・・・・・・・・・・・・企業ドメイン [復習：30分]

第12回 《 ” 》

”・・・・・・・・・・・・・・・・・・企業間関係（パートナーシップ） [復習：30分]

第13回 《経営学の今日的課題》

企業と環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・地域環境 [復習：30分]

第14回 《 ” 》

”・・・・・・・・・・・・・・・・・・地球環境 [復習：30分]

第15回 《 ” 》

企業倫理・社会的責任・社会貢献活動・・・・・・・・・・企業と社会 [復習：30分]

第16回 《 ” 》

”・・・・・・・・・・・・・・・・・・利害関係者（ステークホルダー） [復習：30分]

第17回 《 ” 》

日本的経営・・・・・・・・・・・・・・・・・・三種の神器 [復習：30分]

第18回 《 ” 》

”・・・・・・・・・・・・・・・・・・業績主義 [復習：30分]

第19回 《 ” 》

	コーポレート・ガバナンス（企業統治）・・・・・・・・・・企業情報の開示〔復習：30分〕
第20回	《 》
	” ・・・・・・・・・・・・・・・・公正な企業経営〔復習：30分〕
第21回	《 》
	企業（起業）家精神・・・・・・・・・・イノベーション〔復習：30分〕
第22回	《 》
	” ・・・・・・・・・・・・・・・・顧客ニーズの変動〔復習：30分〕
第23回	《 》
	雇用・・・・・・・・・・必要な人材像〔復習：30分〕
第24回	《 》
	” ・・・・・・・・・・・・・・・・人的資源〔復習：30分〕
第25回	《 》
	トップマネジメント・・・・・・・・・・トップダウン型マネジメント〔復習：30分〕
第26回	《 》
	” ・・・・・・・・・・・・・・・・ボトムアップ型マネジメント〔復習：30分〕
第27回	《 》
	比較経営・・・・・・・・・・先進国ビジネス〔復習：30分〕
第28回	《 》
	” ・・・・・・・・・・・・・・・・新興国ビジネス〔復習：30分〕
第29回	まとめ・・・・・・・・・・第1回講義～第12回講義〔復習：1時間〕
第30回	” ・・・・・・・・・・第13回講義～第28回講義〔復習：1時間〕

※ビジネス環境は変動するので、各授業の中で、そうした環境への企業の具体的な取り組みも紹介していく。

【授業の進め方】

授業計画に沿った項目を扱う際に、具体例をあげながら進めていく。そのために、授業そのものは理解しやすい。しかし、「そのとき理解できた」と思って授業の復習を怠ってしまうと、「次の授業が理解できない」ということになる。なぜなら、この授業は受講生にとって初めての“経営学領域の専門科目”であり、しかも週2回の開講なので次から次へと“連続して進んでいく”からである。つまり、「前の授業がわからないと次の授業もわからない」ということになる。

「難しくわからない」という受講生の大半は、その場に不在であるか、あるいは復習をしていないことに大きな原因がある。少なくとも復習を心がけた受講生が、“経営学の基本事項の大切さ”を知り、試験での“高い成績評価”を得て、しかも他の諸科目に対する“やる気の増強”を実感できることになる。

★発見学習・・・・・・・・・・経営学の項目（授業計画に記載）を、具体的な企業活動を中心とする各種の事例を通じて説明していくので、「経営学は“こういう学問なんだ”という経営学の学問的性質を初めて自己発見することになる。

★問題解決学習・・・・・・授業を通じて、企業にとっての関係者が具体的に多く存在することがわかる。そこで、その個々の関係者が「(例：経営者&管理者) 企業の立場をどのようにとらえるか」・「(例：客) 企業に対して何を望んでいるか」というような、関係者が持つ主要な関心事が明らかになり、「企業のあるべき姿」・「企業の打つべき対策」、またそこには「どのような困難さが横たわっているか」が予想できてくる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

担当教員の全員が共通して用いる教科書はない。

ただし、上記の《経営学の今日的課題》を見てもわかるように、活発な多面的企業活動を念頭に置いた複眼的把握が一層強く求められるという経営学の現代特性から、担当教員が授業中に指摘した各種の文献や資料が手元にあると、受講生の理解に大いに貢献する。

【参考図書】

適時指示するが、次の書物は経営学の一分野を重視するような書き方をしていないので（例：戦略を重視する傾向が強い）、経営学全般を見渡す入門者にとっては数少ない良書である。

森本三男『経営学入門』（3訂版）同文館出版、1995年、¥3,000（税抜）

※この本は1982年に初めて出版されて以来のロングセラーであるが（現在入手できるのは1995年の同書）、今日から見れば、かなり時間が経過しているために扱われている事例などが古い。そのことから、同書は参考図書としては推奨できるが、教科書としての位置づけについては適切さに欠ける。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

《注意！》「小テスト」や「課題レポート」を達成できない場合には、「定期試験」の問題が解けない内容になっている。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

《出席は成績評価の対象にはならない》

理由：白鷗大学試験規則第2条に基づき、「受験資格は授業時数の三分の二以上出席した者に与えられる」、という決ま

りがあるので、それを順守する。

【履修上の心得】

『経営学』は“経営学”部の名称に使用されているように、経営学部の基幹科目である。そして、『経営学』は1年次・必修科目として多くの諸科目の導入科目にもなっているほどの重要科目でもあるので、それだけに真剣な受講が望まれる。従って、次の行為を厳禁とする。

★私語 ★退出 ★遅刻

【科目のレベル、前提科目など】

経営学部の経営関連諸科目全般の導入科目である。また、1年次・必修科目として『経営学』が授業設定されているので、受講生にとっての最初の重要な経営専門科目でもある。

【備 考】

席は前方に座ると良い。後方に座ると、黒板の文字が見えにくかったり、教員から離れるので真剣さが薄れる可能性が高い。

科目名	経営情報科学 I
教員名	黒澤和人、渋川美紀、樋口和彦、福田千枝子、船田眞里子、師啓二、井田憲一、本田重美

【授業の内容】

PC（パソコン）を情報処理のための中心的な役割を持ったツールとみなし、それを積極的に利用するという立場から、講義および実習を行う。講義ではコンピュータのシステムおよびその活用法についての詳しい解説を行う。また、PCを利用したレポート作成や企業文書の作成、スプレッドシート・ソフト（表計算ソフト）とプレゼンテーション・ソフトの基礎に関する実習を行う。実習では特に経営学部の学生として必要な知識が得られるような課題を課す。

【到達目標】

- ・きちんとした体裁の手紙・公用文書・レポートなどが書けるようになること。
- ・スプレッドシート・ソフトを活用してデータを分析し、それらをまとめたレポートが書けるようになること。
- ・プレゼンテーション・ソフトを活用し、プレゼンテーションに必要な発表資料を作ることができるようになること。
- ・システムとしてのPCの正しい理解とその活用法に習熟し、「ネット犯罪」など情報化社会の負の面に対する知識も持ち得ること。

【授業計画】

- 第1回 授業ガイダンス、PCの基本操作（実習）
高校の教科「情報」で学んだ情報に関する基礎知識や実習で学んだPCの操作法などについてあらかじめ復習しておくこと（30分）。
樋口先生担当のクラスでは、「メールによる課題提出方法」など重要事項の詳細な説明がある。
- 第2回 ネットワークについて、電子メールの送受信〔基礎編〕（実習）
授業で学んだネットワークについて復習する（60分）。
- 第3回 電子メールの送受信〔応用編〕、文書処理ソフト（MS Word）の応用〔公用文書の作成〕（実習）
文字入力が遅い・ミスが多い者は文字入力の練習をすること（60分）。
- 第4回 インターネットの検索およびWeb siteの紹介（実習）
授業で紹介された「役に立つWeb site」にアクセスして必要な情報を入手すること（60分）。
- 第5回 文書処理ソフト（MS Word）の応用〔表や図版などを伴う文書の作成〕（実習）
授業で紹介されたテクニックを復習する（60分）。
- 第6回 情報通信技術と現代社会、ハードウェア（講義）
講義で紹介された以外の「コンピュータの活用事例」を調べてみる（60分）。
- 第7回 ソフトウェア〔オペレーティング・システム、ファイルとデータ構造〕（講義）
講義で紹介された「ファイルとデータ構造」は実際のPCではどのような形で使われているか調べてみる（60分）。
- 第8回 情報倫理とネット犯罪（講義）
講義で紹介された「ネット犯罪」についてさらに事例を調べてみる（60分）。
- 第9回 ソフトウェア〔ヒューマン・インターフェイス、マルチメディア〕、コンピュータの未来（講義）
講義で紹介された「人工知能」・「ビッグデータ」・「仮想通貨」についてさらに事例を調べてみる（60分）。
- 第10回 スプレッドシート・ソフト（MS Excel）の基礎〔簡単な表とグラフの作成〕（実習）
授業で紹介されたテクニックを復習し、授業の時間割などの簡単な表を作ってみる（60分）。
- 第11回 スプレッドシート・ソフト（MS Excel）の基礎〔いろいろなグラフ〕（実習）
「日経平均」などの株価や「日銀短観」などのデータをインターネットから入手し、景気の動向のわかるグラフを作ってみる（60分）。
- 第12回 スプレッドシート・ソフト（MS Excel）の基礎〔ワークシート関数〕（実習）
ワークシート関数で計算する、平均・標準偏差・偏差値など基本統計量の意味を調べておく（60分）。
- 第13回 スプレッドシート・ソフト（MS Excel）の基礎〔データ・ベース〕（実習）
MS Excelのデータ・ベースとしての機能が活用できる事例を探し、リスト管理など授業で学んだテクニックを試してみる（60分）。
- 第14回 プレゼンテーション用ソフト（MS PowerPoint）の基礎〔事前準備〕（実習）
授業および自習で作成した表やグラフを使って、自分で簡単なスライド資料を作ってみる（60分）。
- 第15回 プレゼンテーション用ソフト（MS PowerPoint）の基礎〔スライドの作成、口頭発表の実際〕（実習）
前回作成したスライド資料に授業で学んだアニメーションの効果をつけるなど、さらに改善する（60分）。

ほぼ上記の通りの順で講義および実習を行うが、複数の教員で担当する科目であるので、各担当教員の方針および教室の都合などにより順序や回数・内容が変更される場合もある。授業内容の詳細は第1回の「授業ガイダンス」のとき、各担当教員から発表される。講義や実習の回数および順序は一応の目安である。

【授業の進め方】

指定の教科書を使って、講義およびPCの実習を行う。必要に応じて、資料を配布する。実習のときは毎回課題を出す。各自、課題を仕上げ、プリントアウトを提出すること。宿題を出すこともある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

現在執筆中の新しい教科書を使用する。思川キャンパス内の中島書店にて販売する予定(4月~5月)。

【参考図書】

担当教員から説明される。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 60% レポート・課題 40% 受講態度 0%

特記事項

テスト：担当者により違いがあり、定期試験として筆記や実習の試験を行うこともある。

実習の成績：毎回の課題、レポートや宿題などの提出物の評価を点数化し、合計したもの(詳細は担当教員に尋ねること)。

合格の基準：出席率67%以上で、定期試験(実施した場合)、授業内小試験(毎回の実習と授業内レポート)およびレポート・課題(期末レポート等)の成績を合わせた評価が60点(100点満点)以上であること。

担当者により違いがあり、定期試験を行うこともある。上記では、参考として定期試験をしないクラスの例を挙げてある。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

筆記や実習の定期試験を行なう・行なわないなど、担当教員により成績評価の方法がかなり異なる。詳しくは、第1回の講義の時に行われる「授業ガイダンス」で説明があるので、これを欠席しないこと。特に、樋口先生担当のクラスでは、このとき「メールによる課題提出方法」など重要事項の詳細な説明があるので、受講生は必ず出席すること。

【履修上の心得】

毎回必ず出席をとる。30分以上遅刻した場合は欠席とみなす。遅刻2回で欠席1回にカウントする。私語厳禁。授業中、教室内では帽子をとり、静粛にして、飲食はしないこと。スマートフォン・携帯電話などは授業で必要とするとき以外、電源を切っておくこと。本科目のためには予備知識はあまり必要でない。予習はともかく、授業の復習は必要である。実習ではとにかく課題をこなすこと。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目：なし。

関連科目：本科目を履修した後は、「経営情報科学Ⅱ」を履修すること。

受講生は、一応、高校で「情報」の科目を履修しているものと考えているが、「コンピュータはあまり得意ではない」という程度のレベルで一向に構わない。

MacintoshやWindowsPCの普及により、PCは今やほとんど「文房具」化している。就職すれば、ワープロやブラウザなどのソフトウェアや電子メールは「使えて当たり前」である。「経営情報科学Ⅰ」で学ぶコンピュータの知識や実習で修得するこれらのソフトウェアの活用法はレポートの作成・データの整理といった場合に必要不可欠であり、将来きつと諸君の役に立つことだろう。本講義に続いて「経営情報科学Ⅱ」を履修すること。

「経営情報科学Ⅰ」は経営学部1年の必修科目であり、「経営情報科学Ⅱ」とあわせて、コンピュータ、情報処理、意思決定などに関係する全ての科目の基礎となる科目である。

科目名	経営情報科学Ⅱ
教員名	黒澤和人、渋川美紀、樋口和彦、福田千枝子、船田眞里子、師啓二、井田憲一、本田重美

【授業の内容】

本科目は「経営情報科学Ⅰ」に続く科目である。ここでは、スプレッドシート、データ・ベースおよびプレゼンテーションなどのソフトウェアの使い方を学んでから、最後に、「プロジェクト」という実習を行う。これは実社会でのニーズを想定したものであり、自分でテーマを発見し、ワープロ・スプレッドシート・プレゼンテーションなどのソフトウェアを有機的に統合して活用し、問題解決を行うことを目的としたものである。合わせて、発表資料を作成しプレゼンテーション（発表）の体験的学習とディスカッションを行う。

【到達目標】

- ・「経営情報科学Ⅰ」で学んだスプレッドシート・ソフトの活用法をさらに高め、問題解決のための効率的なデータ分析の手法を身につけること。
- ・データ・ベース・ソフトを活用して、効率的なデータ管理が行なえること。
- ・自分で発見したテーマに基づき自分で資料を集め、効果的なプレゼンテーションが実行できるようになること。
- ・複数のソフトを同時に活用することによって、さらに高度な統計分析やレポート作成などができるようになること。

【授業計画】

- 第1回 授業ガイダンス、スプレッドシート（MS Excel）の基礎〔「経営情報科学Ⅰ」の復習Ⅰ〕（実習）
あらかじめ自分で調べたデータを元に簡単な表を作成するなどして、「経営情報科学Ⅰ」で学んだスプレッドシート（MS Excel）の基本的な作表テクニックを復習しておくこと（60分）。
樋口先生担当のクラスでは、「メールによる課題提出方法」など重要事項の詳細な説明がある。
- 第2回 授業ガイダンス、スプレッドシート（MS Excel）の基礎〔「経営情報科学Ⅰ」の復習Ⅱ〕（実習）
第1回で用いた表データを使って簡単なグラフ（なんでも良い）を作成し、「経営情報科学Ⅰ」で学んだスプレッドシート（MS Excel）の基本的な作図テクニックを復習しておくこと（60分）。
- 第3回 スプレッドシート・ソフト（MS Excel）の応用〔ヒストグラムツール〕（実習）
あらかじめヒストグラムがよく使われる事例を調べておく（30分）。
- 第4回 スプレッドシート・ソフト（MS Excel）の応用〔パレート図とABC分析、相関関数と散布図〕（実習）
あらかじめ「パレート図とは何か・どのように利用されるか」など、使用事例を調べておく（30分）。
授業で学んだ、MS Excelの追加機能の「データ分析」について、そのさまざまな機能を復習する（60分）。
- 第5回 スプレッドシート・ソフト（MS Excel）の応用〔アンケート集計結果の分析法〕（実習）
授業で学んだ、「単純集計」・「クロス集計」の意味について、復習する（60分）。
- 第6回 スプレッドシート・ソフト（MS Excel）の応用〔基本統計量〕（実習）
授業で学んだ、「分布表とヒストグラム」・「相関係数と散布図」の手法について、ほかの事例も探し復習する（60分）。
- 第7回 スプレッドシート・ソフト（MS Excel）の応用〔集計データの分析法〕（実習）
授業で学んだ、「ピボット・テーブル」の手法について、使用できる事例を探し復習する（60分）。
- 第8回 データ・ベース・ソフト（MS Access）の基礎〔リレーションシップの設定〕（実習）
授業で作成したデータ・ベースにさらに表を追加するなど、データ・ベースの作成法を復習する（60分）。
- 第9回 データ・ベース・ソフト（MS Access）の基礎〔クエリの作成〕（実習）
データ・ベースが活用できる事例を探し、データ・ベースの作成法を復習する（60分）。
- 第10回 プロジェクト〔概要の説明〕（実習）
担当教員によって「プロジェクト」は異なるが、教員の指示に基づき資料集めなどの準備をしておく（60分）。
- 第11回 プロジェクト〔仕上げと完成〕（実習）
次回のプレゼンテーションに備え、リハーサルをするなど、準備をしておく（60分）。
- 第12回 発表（グループ1のプレゼンテーション）（実習）
自分の発表と比較し、ほかの人の発表の長所を整理し記録しておく（30分）。
- 第13回 発表（グループ2のプレゼンテーション）（実習）
自分の発表と比較し、ほかの人の発表の長所を整理し記録しておく（30分）。
- 第14回 発表（グループ3のプレゼンテーション）（実習）
自分の発表と比較し、ほかの人の発表の長所を整理し記録しておく（30分）。
- 第15回 発表の評価とまとめ
最も印象的な発表について、その特長を整理し記録しておく（30分）。

ほぼ上記に示す通りの順で実習を進めていくが、複数の教員で担当する科目であるので、各担当教員の授業方針および教室の都合などにより順序や回数・内容が若干の違いがある。特に、「プロジェクト」の選択と内容は教員によって異なる。なお、授業計画の詳細は第1回の「授業ガイダンス」のとき、各担当教員から発表される。上記に示す実習の内容、回数および順序は一応の目安である。

【授業の進め方】

指定の教科書を使って、PCの実習を行う。必要に応じて、資料を配布する。毎回課題を出す。各自、課題を仕上げ、プリントアウトを提出すること。宿題を出すこともある。「プロジェクト」ではいくつかの大きなテーマ（プロジェクトA～プロジェクトFがある）のもと、より具体的な内容のテーマに応じた実習を行なう。自分で探したテーマに基づき資料を入手・分析して発表用資料を作り、発表（プレゼンテーション）を行なう。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

現在執筆中の新しい教科書を使用する。思川キャンパス内の中島書店にて販売する予定（4月～5月）。

【参考図書】

担当教員から説明される。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 60% レポート・課題 40% 受講態度 0%

特記事項

テスト：担当者により違いがあり、定期試験として筆記や実習の試験を行うこともある。

実習の成績：毎回の課題、レポートや宿題などの提出物、「発表（プレゼンテーション）」の評価を点数化し合計したもの（詳細は担当教員から説明がある）。

合格の基準：出席率67%以上で、定期試験（実施した場合）、授業内小試験（毎回の実習など）およびレポート・課題（プレゼンテーションなど）の成績を合わせた評価が60点（100点満点）以上であること。

担当者により違いがあり、定期試験を行うこともある。上記では、参考として、定期試験をしないクラスの例を挙げている。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

筆記や実習の定期試験を行う・行わないなど、担当教員により、成績評価の方法がかなり異なる。詳しくは、第1回の講義の時に行われる「授業ガイダンス」で説明があるので、これを欠席しないこと。特に、樋口先生担当のクラスでは、このとき「メールによる課題提出方法」など重要事項の詳細な説明があるので、受講生は必ず出席すること。

【履修上の心得】

毎回必ず出席をとる。30分以上遅刻した場合は欠席とみなす。遅刻2回で欠席1回にカウントする。私語厳禁。授業中、教室内では帽子をとり、静粛にして、飲食はしないこと。スマートフォン・携帯電話などは授業で必要とするとき以外、電源を切っておくこと。受講生は、一応、高校で「情報」の科目を履修しているものと考えてはいるが、本科目のためには多くの予備知識は足りない。予習はともかく、授業の復習は必要である。実習ではとにかく課題をこなすこと。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目：「経営情報科学Ⅰ」

関連科目：本科目を履修した後は、さらに専門分野におけるPCの利用法に習熟するために、「ITパスポート資格講座」、「情報処理演習A」および「B」、「情報処理特論A」および「B」、「会計情報システム論」、「経営統計学」「決定の科学Ⅰ」および「Ⅱ」、「情報管理論」、「計数管理論」、「財務管理論」等の科目をとることが望ましい。

「経営情報科学Ⅱ」の実習を通じて学ぶ、レポートの作成、データ分析、シミュレーション、情報の入手・整理・発表・発信という手法は将来、ゼミなどで研究発表をする場合に役に立つことだろう。

「経営情報科学Ⅱ」は「経営情報科学Ⅰ」に続く経営学部1年の必修科目であり、コンピュータ、情報処理、意思決定などに関係する全ての科目の基礎となる科目である。「経営情報科学Ⅱ」は「経営情報科学Ⅰ」とは独立した科目という位置づけとなっており、その単位取得に当たっては「経営情報科学Ⅰ」に合格していることを前提としていない(取れていなくても良い)。

科目名	会計学
教員名	館野敏、星法子、藤浪英也、山田覚

【授業の内容】

特定の経済主体と呼ばれる家庭・企業・国および地方公共団体などが、製品を製造、販売したり、商品を購入するなどの経済活動をする、その経済主体が持つ財産は増減して変化することになる。会計とは、そのような変化を記録、計算、報告する行為である。現代社会における会計の役割はますます重要になっている。会計の知識はコンピュータ、英語と並んで、知的スキルの3種の神器に数えられているほどである。

本講義では、「会計理論は簿記によって具体化され、簿記は会計理論の助けを得て機能する」もので、簿記と会計は不可分であるという立場で、会計学の基本的な思考方法と計算構造について説明する。

【到達目標】

会計学の基本的な思考方法と計算構造を理解することを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 会計の意義と役割
(予習30分・復習1時間)
- 第2回 会計公準と会計原則
(予習30分・復習1時間)
- 第3回 制度会計
(予習30分・復習1時間)
- 第4回 簿記の原理① 貸借対照表と損益計算書
(予習30分・復習1時間)
- 第5回 簿記の原理② 勘定と仕訳
(予習30分・復習1時間)
- 第6回 簿記の原理③ 取引の仕訳と元帳
(予習30分・復習1時間)
- 第7回 簿記の原理④ 決算の予備手続き
(予習30分・復習1時間)
- 第8回 簿記の原理⑤ 決算の本手続き
(予習30分・復習1時間)
- 第9回 簿記の原理⑥ 3分法
(予習30分・復習1時間)
- 第10回 簿記の原理⑦ 売上原価・売上総利益の計算
(予習30分・復習1時間)
- 第11回 簿記の原理⑧ 3分法による決算時の記帳
(予習30分・復習1時間)
- 第12回 簿記の原理⑨ 払出価額の計算
(予習30分・復習1時間)
- 第13回 簿記の原理⑩ 補助簿
(予習30分・復習1時間)
- 第14回 貸借対照表の会計① 財政状態と貸借対照表
(予習30分・復習1時間)
- 第15回 貸借対照表の会計② 資産の会計と負債・資本の会計
(予習30分・復習1時間)
- 第16回 損益計算書の会計③ 損益計算書と経営成績
(予習30分・復習1時間)
- 第17回 損益計算書の会計④ 損益計算書の作成
(予習30分・復習1時間)
- 第18回 原価計算① 製造原価の構成要素
(予習30分・復習1時間)
- 第19回 原価計算② 原価計算の手続き
(予習30分・復習1時間)
- 第20回 原価計算③ 個別原価計算と総合原価計算
(予習30分・復習1時間)
- 第21回 管理会計① 管理会計の意義と体系
(予習30分・復習1時間)
- 第22回 管理会計② 長期利益計画と短期利益計画
(予習30分・復習1時間)
- 第23回 管理会計③ 事業部制による業績評価

- (予習30分・復習1時間)
第24回 経営分析① 経営分析の意義と目的
(予習30分・復習1時間)
第25回 経営分析② 収益性の分析
(予習30分・復習1時間)
第26回 経営分析③ 安全性の分析
(予習30分・復習1時間)
第27回 会計の新展開① 連結財務諸表, キャッシュ・フロー計算書
(予習30分・復習1時間)
第28回 会計の新展開② 税効果会計・会計情報システム
(予習30分・復習1時間)
第29回 復習① (第1回～第13回)
(予習30分・復習1時間)
第30回 復習② (第14回～第28回)
(予習30分・復習1時間)

【授業の進め方】

テキストを用いて講義形式で進める。問題演習も行う。また、教員による一方向の講義だけではなく、受講生にとって適度に緊張感のある講義となるように、講義内容に関連する専門用語の意味や計算問題の解答を学生に問うたり、解答の板書をしてもらい解法の説明を求めるなど、学生参加型の講義を心掛ける。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

各担当教員が、開講時に指示する。

【参考図書】

『日商簿記3級[テキスト]』 ネットスクール出版
『日商簿記3級[問題集]』 ネットスクール出版

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%
特記事項
詳しくは開講時に説明する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

原則として3分の2以上の出席が必要である。

【履修上の心得】

- ・電卓などの計算器具、定規などの筆記用具を毎回持参すること。
- ・欠席することなく受講すること。

【科目のレベル、前提科目など】

会計関連科目の中で最も基本的な概念を理解するための講義である。他の会計関連科目履修への準備段階またはガイドラインとして位置付けられる。なお、会計と簿記は、内容と形式といわれるくらい密接な関係があるので、「簿記論」は1年次に履修することが望ましい。

関連科目: 簿記論, 中級簿記論, 高等簿記論, 工業簿記論, 原価計算論, 財務会計論, 上級財務会計論, 税務会計論, 経営分析論, 管理会計論, 会計情報システム論, 国際会計論, 監査論

科目名	国際経営論
教員名	藤井健、張承玖、鈴木仁里

【授業の内容】

交通や通信手段の発達によって、ヒト、カネ、モノ、情報が短時間で世界中を移動できるようになり、その結果、世界は、政治・経済をはじめ、あらゆる面で、地球規模のつながりをもつようになった。このような環境下で、企業はグローバルかつ多角的な視点を待ち合わせなければ、競争に勝ち残っていくことはできない。本講義では、企業を取り巻く外部環境である国際政治・経済の動きを概観し、それに基づいて、企業の国際活動に関する諸問題を考察していく。

【到達目標】

国際経営に関する基礎知識の習得
 国際関係に関する基礎知識の習得
 国際経済に関する基礎知識の習得
 レポート作成スキルの習得
 グループディスカッション、グループプレゼンのノウハウ習得

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション
(復習90分 テキスト第1章予習90分)
- 第2回 多国籍企業と世界経済
(復習90分 東西関係についての予習90分)
- 第3回 国際関係（東西関係）
(復習90分 南北問題に関する予習90分)
- 第4回 国際関係（南北問題）
(復習90分 世界の現状に関するレポート作成90分)
- 第5回 世界の現状に関するグループディスカッション①
(グループディスカッションに基づくグループプレゼン準備180分)
- 第6回 世界の現状に関するグループプレゼン①
(復習90分 テキスト第2章予習90分)
- 第7回 多国籍企業の歴史的変遷
(復習90分 テキスト第3章予習90分)
- 第8回 国際ビジネスの諸理論
(復習90分 テキスト第4章予習90分)
- 第9回 多国籍企業のCSRと企業倫理
(復習90分 テキスト第5章予習90分)
- 第10回 グローバル市場参入戦略
(復習90分 テキスト第6章予習)
- 第11回 グローバルマーケティング戦略
(グローバル企業のマーケティング戦略に関するレポート作成180分)
- 第12回 グローバル企業のマーケティング戦略に関するレポートを基にしてグループディスカッション②
(グループディスカッションを基にしたグループプレゼン準備90分)
- 第13回 グループプレゼン②
(復習90分 テキスト第7章予習90分)
- 第14回 グローバルイノベーション戦略
(復習90分 テキスト第8章予習90分)
- 第15回 グローバル製品戦略
(復習90分 テキスト第9章予習90分)
- 第16回 グローバル・アライアンス戦略
(復習90分 テキスト第10章予習)
- 第17回 グローバル組織戦略
(復習90分 テキスト第11章予習90分)
- 第18回 国際人的資源管理戦略
(復習90分 テキスト第13章予習)
- 第19回 異文化マネジメント戦略
(復習90分 テキスト第12章予習90分)
- 第20回 リージョナルマネジメント戦略
(復習90分 テキスト第14章予習90分)
- 第21回 新興市場と多国籍企業
(復習90分 BRIC s に関する予習90分)
- 第22回 BRIC s

- (復習90分 新興市場と先進国の比較を調べ学習90分)
- 第23回 欧米市場と多国籍企業
(復習90分 多国籍企業に関するレポート作成90分)
- 第24回 日本市場と多国籍企業
(復習90分 多国籍企業に関するレポート作成90分)
- 第25回 多国籍企業に関するグループディスカッション③
(グループディスカッションに基づくグループプレゼンの準備180分)
- 第26回 多国籍企業に関するグループプレゼン③
(復習90分 テキスト第15章予習90分)
- 第27回 グローバルサービスビジネスの新展開
(復習90分 トランスナショナルモデルに関する調べ学習90分)
- 第28回 国際ビジネスの新展開 (トランスナショナルモデルへの進化)
(復習90分 メタナショナルモデルと国際ナレッジマネジメントに関する調べ学習90分)
- 第29回 国際ビジネスの新展開 (メタナショナルモデルと国際ナレッジマネジメント)
(復習90分)
- 第30回 まとめ～国際経営の将来～
(復習90分)

ただし、講義内容は担当者により若干の違いがある可能性があるため、開講時に必ず確認すること。
担当教員からの一方的な講義にならないように、レポート作成による発見学習、レポートに基づくグループディスカッション、グループディスカッションに基づくグループプレゼンを授業に盛り込むことによって、受講生が自ら課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ場としての講義を提供していく。

【授業の進め方】

- ①一回ごとに完結する話題であるが、それぞれに関係性の深いテーマであり、現在の国際情勢、企業の国際化の動きを含めて講義を進めていく。
- ②初回授業時に授業計画の詳細を配布する
- ③担当教員からの一方的な講義にならないように、レポート作成による調査学習、レポートに基づくグループディスカッション、ディスカッションに基づくグループプレゼンを授業計画に盛り込むことによって、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習の場を提供していく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①国際ビジネス入門 ②藤井健 他 ③中央経済社 ④2013年5月 ⑤2,900円 ⑥978-4-502-48010-2

『国際ビジネス入門』中央経済社 3,045円 藤井健、他編著 (ブックス中島にて購入のこと)
(ただし、教材は担当者により若干の違いがある可能性があるため、開講時に必ず確認すること)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 30% 授業内小試験 40% レポート・課題 20% 受講態度 10%

特記事項

定期試験

小テスト

レポート

グループ発表

(ただし、担当者ごとに若干の違いがある可能性があるため、開講時に必ず確認すること)

【履修上の心得】

現在の国際情勢や企業の国際的動向の説明とその背後にある理論的問題を説明するので、一年生にとって、易しい科目とはいええない。また、大教室で教員が一方的に話す上、専門用語が多くでてくるので、集中力を欠いていると授業から取り残され、不合格になる可能性がある。そうならないように十分に注意してもらいたい。

【科目のレベル、前提科目など】

とくになし

経営学部専門必修科目の一つである。

国際関係科目すべての基礎となる。

科目名	国際ビジネス英語 I
教員名	足立 綾

【授業の内容】

様々なビジネス状況に対応するための英語の基礎を、視覚・聴覚教材を含む指定の教科書に沿って総合的に学ぶ。Iでは、出張、報告・謝罪、接待、電話、アポイントメント設定、面接等の状況設定における実践的表現を扱う。

【到達目標】

空港で出張を出迎える際の打ち合わせ、出張に関して相手の予定や都合を尋ねる方法、報告や謝罪、初対面の相手への対応、レストランでの接待、会食での支払いのやりとり、電話での意思疎通、メールでの説明やアポイントメントに関するコミュニケーション方法、自分の長所や短所の説明、面接での自己アピール等における実践的な英語での表現方法を知り、自らも使えるようになる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、問題演習
 予習課題：シラバスをよくよみ、必要なものを準備する。問題集などを用い、英文法を一通り確認しておく。不明点は質問にまとめる。(1h)
 復習課題：授業の進み方や毎回のタスクなどを再確認し、新たに学んだことをノートにまとめる。(0.5h)
- 第2回 Chapter 1 Making Contact
 予習課題：3. Useful Expressions をやる。DVDをみて、4. の問題（穴埋め含む）を解いておく。(1h)
 復習課題：新たに学んだ表現をノートにまとめ、辞書等で他の例文を調べて書き出す。また、自ら例文を作ってみる。(1h)
- 第3回 Chapter 1 Making Contact（続き）
 予習課題：6. Structures, 7. Writingをよく読み、問題を解いておく。不明点を書きだしておく。(1h)
 復習課題：Reading 課題をやる。新たに学んだことを自分なりにまとめる。(1h)
- 第4回 Chapter 2 Getting to Know You
 予習課題：3. Useful Expressions をやる。DVDをみて、4. の問題（穴埋め含む）を解いておく。(1h)
 復習課題：新たに学んだ表現をノートにまとめ、辞書等で他の例文を調べて書き出す。また、自ら例文を作ってみる。(1h)
- 第5回 Chapter 2 Getting to Know You（続き）
 予習課題：6. Structures, 7. Writingをよく読み、問題を解いておく。不明点を書きだしておく。(1h)
 復習課題：Reading 課題をやる。新たに学んだことを自分なりにまとめる。(1h)
- 第6回 Chapter 3 Dining Out
 予習課題：3. Useful Expressions をやる。DVDをみて、4. の問題（穴埋め含む）を解いておく。(1h)
 復習課題：新たに学んだ表現をノートにまとめ、辞書等で他の例文を調べて書き出す。また、自ら例文を作ってみる。(1h)
- 第7回 Chapter 3 Dining Out（続き）
 予習課題：6. Structures, 7. Writingをよく読み、問題を解いておく。不明点を書きだしておく。(1h)
 復習課題：Reading 課題をやる。新たに学んだことを自分なりにまとめる。(1h)
- 第8回 Chapter 4 Can I Ask Who Is Calling, Please?
 予習課題：3. Useful Expressions をやる。DVDをみて、4. の問題（穴埋め含む）を解いておく。(1h)
 復習課題：新たに学んだ表現をノートにまとめ、辞書等で他の例文を調べて書き出す。また、自ら例文を作ってみる。(1h)
- 第9回 Chapter 4 Can I Ask Who Is Calling, Please?（続き）
 予習課題：6. Structures, 7. Writingをよく読み、問題を解いておく。不明点を書きだしておく。(1h)
 復習課題：Reading 課題をやる。新たに学んだことを自分なりにまとめる。(1h)
- 第10回 単語テスト・Chapter 5 Let's Stick to The Schedule
 予習課題：単語テストの範囲部分（授業内で指示）の語彙の意味、使い方を確認し、習得する。3. Useful Expressions をやる。DVDをみて、4. の問題（穴埋め含む）を解いておく。(1h)
 復習課題：新たに学んだ表現をノートにまとめ、辞書等で他の例文を調べて書き出す。また、自ら例文を作ってみる。(1h)
- 第11回 Chapter 5 Let's Stick to The Schedule（続き）
 予習課題：6. Structures, 7. Writingをよく読み、問題を解いておく。不明点を書きだしておく。(1h)
 復習課題：Reading 課題をやる。新たに学んだことを自分なりにまとめる。(1h)
- 第12回 Chapter 6 Tell Us about Yourself
 予習課題：3. Useful Expressions をやる。DVDをみて、4. の問題（穴埋め含む）を解いておく。(1h)
 復習課題：新たに学んだ表現をノートにまとめ、辞書等で他の例文を調べて書き出す。また、自ら例文を作ってみる。(1h)
- 第13回 Chapter 6 Tell Us about Yourself（続き）
 予習課題：6. Structures, 7. Writingをよく読み、問題を解いておく。不明点を書きだしておく。(1h)

- 復習課題：Reading 課題をやる。新たに学んだことを自分なりにまとめる。(1h)
- 第14回 単語テストおよび内容に関する予備日
予習課題：第1-3回までに新たに習得した単語を中心に復習をしておく。(2h)
復習課題：間違えた単語があれば、何度も暗唱する、例文を確認するなどして覚える。(2h)
- 第15回 全体復習および内容に関する予備日
予習課題：テキストChapter 1-6を通して確認し、不明点があれば書き出し、質問にまとめる。(1h)
復習課題：定期試験に備えて復習する。(6h以上)

【授業の進め方】

基本的には指定教科書に沿って、授業を進める。音源、映像教材も用いる。
各自が予習として解いてきた問題における新出表現の解説や問題の解答を確認する。
学生の要望に応じて、教科書以外の教材による講義・演習を行う場合もある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①Interactive Business English on DVD (DVDで学ぶ実践的ビジネス英語) ②Yutaka Tokuda 他 ③成美堂
(SEIBIDO) ④2011 ⑤2500 ⑥978-4-7919-3090-6

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 20% レポート・課題 20% 受講態度 20%

特記事項

定期試験の受験資格として全授業数の3分の2以上の出席が必要である。
受講態度は、授業への基本的参加と積極的参加の2つをもって評価する。
レポート・課題として、Reading課題に加え、ライティングなどを課すこともある。

【科目のレベル、前提科目など】

指定教科書は中級レベルの英語運用能力の学生を対象としている。また、日本語発話と比較しての英語表現もあつかうため、日本語の読み書きに不自由のないレベルであることが望ましい。
後期の「国際ビジネス英語 II」と合わせての履修が望ましい(「国際ビジネス英語II」と同じ教科書を使用するため)。

【備考】

課題は、薄いノートブックにまとめるか、A4レポート用紙(各自で準備)にまとめて提出のこと。(提出時期については、授業内で指示する)

科目名	国際ビジネス英語II
教員名	足立 綾

【授業の内容】

「国際ビジネス英語 I」同様に、様々なビジネス状況に対応するための英語の基礎を、視覚・聴覚教材を含む指定の教科書に沿って総合的に学ぶ。IIでは、会議設定、会議スケジュール設定、会議でのデータ説明や進め方、会議での意見の述べ方、プレゼンテーション、効果的な説明をする、といった状況設定における実践的表現を扱う。

【到達目標】

会議設定、相手とのスケジュールの調整、会議の目的やデータの説明、会議の進め方、意見の述べ方、プレゼンテーションの基礎、プレゼンテーションにおけるデータ説明やまとめ方、プレゼンテーション時の妨害対処、効果的な説明、グループ・プレゼンテーションの進め方等における実践的な英語での表現方法を知り、自らも使えるようになる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、問題演習、
 予習課題：シラバスをよくよみ、必要なものを準備する。問題集などを用い、英文法を一通り確認しておく。
 「国際ビジネス英語 I」の履修学生は、Chapter 1-6を復習し、不明点は質問にまとめる。(1h)
 復習課題：授業の進み方や毎回のタスクなどを再確認し、新たに学んだことをノートにまとめる。(0.5h)
- 第2回 Chapter 7 Could We Meet Next Week?
 予習課題：3. Useful Expressions をやる。DVDをみて、4. の問題（穴埋め含む）を解いておく。(1h)
 復習課題：新たに学んだ表現をノートにまとめ、辞書等で他の例文を調べて書き出す。また、自ら例文を作ってみる。(1h)
- 第3回 Chapter 7 Could We Meet Next Week（続き）
 予習課題：6. Structures, 7. Writingをよく読み、問題を解いておく。不明点を書きだしておく。(1h)
 復習課題：Reading 課題をやる。新たに学んだことを自分なりにまとめる。(1h)
- 第4回 Chapter 8 Can I Make a Point Here?
 予習課題：3. Useful Expressions をやる。DVDをみて、4. の問題（穴埋め含む）を解いておく。(1h)
 復習課題：新たに学んだ表現をノートにまとめ、辞書等で他の例文を調べて書き出す。また、自ら例文を作ってみる。(1h)
- 第5回 Chapter 8 Can I Make a Point Here?（続き）
 予習課題：6. Structures, 7. Writingをよく読み、問題を解いておく。不明点を書きだしておく。(1h)
 復習課題：Reading 課題をやる。新たに学んだことを自分なりにまとめる。(1h)
- 第6回 Chapter 9 I'm Not Sure I Agree
 予習課題：3. Useful Expressions をやる。DVDをみて、4. の問題（穴埋め含む）を解いておく。(1h)
 復習課題：新たに学んだ表現をノートにまとめ、辞書等で他の例文を調べて書き出す。また、自ら例文を作ってみる。(1h)
- 第7回 Chapter 9 I'm Not Sure I Agree（続き）
 予習課題：6. Structures, 7. Writingをよく読み、問題を解いておく。不明点を書きだしておく。(1h)
 復習課題：Reading 課題をやる。新たに学んだことを自分なりにまとめる。(1h)
- 第8回 Chapter 10 Today's Topic Is...
 予習課題：3. Useful Expressions をやる。DVDをみて、4. の問題（穴埋め含む）を解いておく。(1h)
 復習課題：新たに学んだ表現をノートにまとめ、辞書等で他の例文を調べて書き出す。また、自ら例文を作ってみる。(1h)
- 第9回 Chapter 10 Today's Topic Is...（続き）
 予習課題：6. Structures, 7. Writingをよく読み、問題を解いておく。不明点を書きだしておく。(1h)
 復習課題：Reading 課題をやる。新たに学んだことを自分なりにまとめる。(1h)
- 第10回 単語テスト・Chapter 11 To Sum Up
 予習課題：単語テストの範囲部分（授業内で指示）の語彙の意味、使い方を確認し、習得に努める。3. Useful Expressions をやる。DVDをみて、4. の問題（穴埋め含む）を解いておく。(1h)
 復習課題：新たに学んだ表現をノートにまとめ、辞書等で他の例文を調べて書き出す。また、自ら例文を作ってみる。(1h)
- 第11回 Chapter 11 To Sum Up（続き）
 予習課題：6. Structures, 7. Writingをよく読み、問題を解いておく。不明点を書きだしておく。(1h)
 復習課題：Reading 課題をやる。新たに学んだことを自分なりにまとめる。(1h)
- 第12回 Chapter 12 Any Questions?
 予習課題：3. Useful Expressions をやる。DVDをみて、4. の問題（穴埋め含む）を解いておく。(1h)
 復習課題：新たに学んだ表現をノートにまとめ、辞書等で他の例文を調べて書き出す。また、自ら例文を作ってみる。(1h)
- 第13回 Chapter 12 Any Questions?（続き）
 予習課題：6. Structures, 7. Writingをよく読み、問題を解いておく。不明点を書きだしておく。(1h)

- 復習課題：Reading 課題をやる。新たに学んだことを自分なりにまとめる。(1h)
- 第14回 単語テストおよび内容に関する予備日
予習課題：第1-3回までに新たに習得した内容を中心に復習をしておく。前週授業内指示に従って予習する(2h)
復習課題：授業で扱った内容において、理解が不十分なところがないか確認した上で質問の準備をする。自ら調べる(2h)
- 第15回 全体復習および内容に関する予備日
予習課題：14回までに授業であつかった内容を確認し、不明点があれば書き出し、質問にまとめる。(1h)
復習課題：定期試験に備えて復習する。(6h以上)

【授業の進め方】

基本的には指定教科書に沿って、授業を進める。音源、映像教材も用いる。
各自が予習として解いてきた問題における新出表現の解説や問題の解答を確認する。
学生の要望に応じて、指定教科書以外からの教材を用いた講義・演習を行う場合もある。(その場合の変更内容については事前通知し、予定内容については別途対応する。)

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①Interactive Business English on DVD (DVDで学ぶ実践的ビジネス英語) ②Yutaka Tokuda 他 ③成美堂(SEIBIDO) ④2011 ⑤2500 ⑥978-4-7919-3090-6

前期開講の「国際ビジネス英語I」を履修した学生は、引き続き同じ教科書を使います。IIのみ履修も可(教科書の入手については応相談)。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 20% レポート・課題 20% 受講態度 20%

特記事項

定期試験の受験資格として全授業数の3分の2以上の出席が必要である。
受講態度は、授業への基本的参加と積極的参加の2つをもって評価する。
レポート・課題として、Reading課題に加え、ライティング課題等を課すこともある。

【科目のレベル、前提科目など】

指定教科書は中級レベルの英語運用能力の学生を対象としている。また、日本語発話と比較しての英語表現もあつかうため、日本語の読み書きに不自由のないレベルであることが望ましい。
前期の「国際ビジネス英語I」と合わせての履修が望ましい(「国際ビジネス英語I」と同じ教科書を使用するため)が必須ではない。

【備考】

課題は、薄いノートブックにまとめるか、A4レポート用紙(各自で用意)にまとめて提出のこと(提出時期については、授業内で指示する)。

科目名	経営学史
教員名	柳川 高行

【授業の内容】

教育目標

1. 大学教育の目標は、independent(精神的自立と経済的自立と独自の判断能力を持っていること)で、honest(誠実性、嘘をつかないことと、誰も見ていなくても自分のやるべきことを確実に実行すること)で、cooperative(他の人と知恵を出し合いながら協力して仕事を実行できること)な大人に育て上げることである。
2. 卒業後に無業者、ワーキング・プアの予備軍となるラーニング・プアではない正社員になれるラーニング・リッチを育成し、40代でリストラの対象にならないキャリアをアップさせ続けることができることと、会社の倒産に際して、転職能力を身に付け続けるための勉強の仕方・キャリアデザイン能力を身に付けさせることと、定年以降の第二の人生でも十分な収入が得られる職に就くことができるための勉強の方法を習得させること。
3. 社会に出て家庭人として、また職業人としても必要不可欠な生きた知識を教育し、教員の全く役に立たない趣味の押し付けはしないこと。
4. 成績評価は、学生が十二分に学習し、その科目の本質的内容を理解したことが十分に明らかに答案用紙やレポート報告に見られる場合にのみ単位を認定する。一回も講義に出席せずにレポートを提出すれば単位が与えられる講義や、受講生の半数以上がコピーしたノートを持ち込んで答案用紙に丸写しをして単位が出る講義や、計算問題の答えの数字が間違っているでもSが乱発されるようなfuh-jyuhな講義は教育とは言えないので、学生には必ず力がつくような強制的なトレーニングが目標とされるべきである。

授業内容

経営学史は「日本の会社はどう変わり、労働者の働き方はどう変わり、幸福な職業人人生を送るための戦略的キャリアデザインの描き方」という統一テーマで学習する。

第2次大戦後の日本企業に於ける労働者の働き方(雇用慣行)はどのように成立しどのように変化してきて、今後どうようになっていくかを予測し、それに私達はどうか対処していくべきかを考えたい。講義の中では、随時柳川から受講生に対して質問を行ない、自分の考えを文章化して提出してもらおう。自分の考えを整理して、聞き手(読み手)に分かり易く表現する能力はコミュニケーションの基本であるので、それを身に付けてもらうことをもう一つの目的としている。母国語での表現力を身につけることが、国際化の第一歩である。文章提出をしない学生には単位は出せない。

(White, or no credit.)

【到達目標】

カレッジライフのデザインとライフデザインとの人生のグランドデザインが描けるきっかけを与えること。

【授業計画】

- 第1回 さよならラッキーカントリージャパンー戦略的・自律的キャリアデザインの必要性ー
- ①終身雇用慣行から早期退職優遇制度へ、そして雇用リストラ当り前社会へ
 - ②年功賃金制度(生活給)から成果給制度へー定期昇給制度の消失ー
 - ③後払い賃金制度の象徴としての退職金制度の消失
 - ④企業福祉制度としての福利厚生制度の縮小
 - ⑤企業内教育の縮小傾向とキャリアの自己責任化ー戦略的・自律的キャリアデザインの必要性ー
- 第2回 さよならラッキーカントリージャパンー戦略的・自律的キャリアデザインの必要性ー
- ①終身雇用慣行から早期退職優遇制度へ、そして雇用リストラ当り前社会へ
 - ②年功賃金制度(生活給)から成果給制度へー定期昇給制度の消失ー
 - ③後払い賃金制度の象徴としての退職金制度の消失
 - ④企業福祉制度としての福利厚生制度の縮小
 - ⑤企業内教育の縮小傾向とキャリアの自己責任化ー戦略的・自律的キャリアデザインの必要性ー
- 第3回 経済格差の拡大とワーキング・プア(働く貧困層)の増大
- ①新自由主義的経済政策による経済格差拡大の容認ーレーガノミックス、サーチャーリズム、小泉・竹中改革の思想的基盤ー
 - ②経済格差の国際比較
 - ③日本におけるワーキング・プアの実態
 - a) NHK総合TV「ワーキング・プアI、II」を観る
 - b) ニート・フリーター
 - c) 雇用リストラと下方移動
 - d) 母子家庭
 - e) 無年金の高齢者
 - f) 零細農家
 - g) 中小商店主と家業的外食業
 - ④どうなる日本の社会保障
 - a) 年金問題

- b) 医療保険と医療制度
 - c) 介護保険制度
 - d) 生活保護制度
- 第4回 経済格差の拡大とワーキング・プア（働く貧困層）の増大
- ①新自由主義的経済政策による経済格差拡大の容認－レーガノミックス、サーチャーリズム、小泉・竹中改革の思想的基盤－
 - ②経済格差の国際比較
 - ③日本におけるワーキング・プアの実態
 - a) NHK総合TV「ワーキング・プア I、II」を観る
 - b) ニート・フリーター
 - c) 雇用リストラと下方移動
 - d) 母子家庭
 - e) 無年金の高齢者
 - f) 零細農家
 - g) 中小商店主と家業的外食業
 - ④どうなる日本の社会保障
 - a) 年金問題
 - b) 医療保険と医療制度
 - c) 介護保険制度
 - d) 生活保護制度
- 第5回 労働者の2重構造－労働の2極分化－
- ①3人に1人が非正規社員の時代
 - ②非正規社員はなぜ増えたのか
 - a) 経済のサービス化
 - b) 人本主義から労働者使い捨て時代へ
 - c) 企業側のメリットが大変大きい
 - d) 国際的価格競争の激化－失業の輸出から失業の輸入へ－
 - ③ニート・フリーター問題－21世紀日本の最大の課題－
 - ④晩婚化・非婚化・不婚化の進展と少子化
 - ⑤非正規社員の社会的費用
 - ⑥戦略的・他律的キャリアデザインの必要性
- 第6回 正社員の2重構造－スーパー正社員とその他の正社員－
- ①日本型3、4、3の法則から、アメリカ型2、6、2の法則へ－ぶら下がり社員の非正規社員による代替－
 - ②社員の寿命15年時代とキャリアの脱成熟化戦略
 - ③サービス残業、過労死、うつ病からどう身を守るか
- 第7回 戦略的キャリアデザインの必要性和可能性
- ①戦略的、キャリア、デザインのそれぞれの意味
 - ②キャリアを構成するスキルの束
 - a) ネイチャースキル（メタ・スキル）
外向性、開放性、情緒の安定性、誠実性、調和性
 - b) テクニカルスキル
 - c) コミュニケーションスキル
 - d) ヒューマンスキル
 - e) プロフェッショナルスキル
 - f) コンセプトチャルスキル
 - ③大学で行うべきキャリアデザイン－何をどんな方法で学習するべきか－
- 第8回 戦略的キャリアデザイン論（その1）
2人の中途退職者の再就職活動に見るemployable career
- 第9回 戦略的キャリアデザイン論（その2）
2人の店長に見る
competitive advantaged career
- 第10回 戦略的キャリアデザイン論（その3）
雑誌編集者のcareer enlargementとcareer enrichment
- 第11回 戦略的キャリアデザイン論（その4）
若きアニメーターへのcareer educationとself-career design
- 第12回 戦略的キャリアデザイン論（その5）
成功できる素人のcareer designの特質
- 第13回 戦略的キャリアデザイン論（その6）
柳川のcareer designを跡付ける
主観的パーソナルヒストリー
- 第14回 数学者秋山仁氏の生き方に見る可能性と努力と才能の関係
- 第15回 全体のまとめ

【授業の進め方】

60分講義を行ない、受講生に講義内容の要約と質問と感想の3点を20分間でリアクションペーパーに書いて提出してもらい、残りの10分間でリアクションペーパーに書かれた質問に対する回答を、わかりやすく且つ丁寧に20分間行なう。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に指定していない

【参考図書】

柳川高行、1995年、「コーポレート・ガバナンスの日米比較－経営者主権の成立とその正当性を中心に－」、『白鷗大学論集』第10巻第1号。

柳川高行、1997年、「資料・学会報告 日本型経営者主権の成立の可能性-コーポレート・ガバナンスの日米比較-」、『白鷗ビジネスレビュー』、第6巻第1号、137-151ページ。

柳川高行、1997年、「日本型コーポレート・ガバナンスと経営者主権の正当性」、経営哲学学会、「経営哲学論集第13集」、85-90ページ。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 50%

特記事項

受講態度50%の内容は以下のものの総合である

1. 出席状況と講義の受講態度とリアクションペーパーの内容の充実度50%

【履修上の心得】

1. 講義は1回毎に1つのトピックスで完結するスタイルで行なう。
2. 1回の講義の理解に必要なキーワードを講義開始時に提示し、講義中に分かり易い説明を与える。
3. “Be quiet, or get away” policy
私語厳禁。
4. 授業は定刻通りに開始される。教師・学生ともに遅刻しないことを共通のルールとしたい。

【科目のレベル、前提科目など】

難易のグレード：中級

科目名	経営史 I
教員名	片岡 豊

【授業の内容】

「企業」、あるいは「経営」という言葉は現代社会において、何の違和感もなく使われている。しかしながら、これらの概念が一般化したのは比較的新しいことである。「経営」が、与えられた経済的状况に対する合理的な対応であるとするなら、その実質的な意味内容は近代経済社会が成立して始めて与えられる。その意味で、「近代経済社会」の成立と「近代的」経営の出現は切り離せない関係にある。

本講義では、近代経済社会の成立がどのような過程で経営の独立性をもたらしたのか、さらには逆に、企業の経営それ自体がいかに経済そのものを変革していったのかを、「最初の工業国家」といわれるイギリスを中心に考える。

講義の主な内容は以下の通りであるが、出来得るかぎり日本の事例にも言及する。

【到達目標】

最初の工業国家といわれるイギリスの経済と企業の在り方を検討し、産業社会の出発点を理解することを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 成績評価、授業内容導入
復習：社会科学の体系について理解する（30分）。
- 第2回 産業革命前のイギリス経済
復習：比較生産費説について理解する（30分）。
- 第3回 国内市場の形成
復習：有効需要について理解する（30分）。
- 第4回 蒸気機関と動力革命
復習：動力革命の意義について理解する（30分）。
- 第5回 産業革命前の技術革新
復習：紡績と織布の工程について理解する（30分）。
- 第6回 近代綿業の展開
復習：労働力需給について理解する（30分）。
- 第7回 近代イギリスの経済構造
復習：農業の3分割制について理解する（30分）。
- 第8回 工場労働者
復習：労働組合の種類について理解する（30分）。
- 第9回 企業家の諸相
復習：近代的経営の始まりについて理解する（30分）。
- 第10回 マルクスとウェーバー
復習：唯物論、発展段階論、プロテスタンティズムについて理解する（60分～）。
- 第11回 金融業
復習：マーチャント・バンカーズについて理解する（30分）。
- 第12回 株式会社とは
復習：有限責任制、無限責任制について理解する（30分）。
- 第13回 株式会社の発生と展開
復習：近代的株式会社の要件について理解する（30分）。
- 第14回 東インド会社
復習：企業の継続性について理解する（30分）。
- 第15回 有限責任制と株式会社制度
復習：会社法の展開について理解する（30分）。

【授業の進め方】

基本的には講義中心である。参考資料・統計データは随時配布する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書はとくに指定しない。

【参考図書】

- 「ビジネスの歴史」 鈴木良隆・大東英祐・武田晴人著（有斐閣アルマ、2625円、一般書店）
- 「スケールアンドスコープ」 A. D. チャンドラー著（有斐閣、10300円、一般書店）
- 「英国産業革命史」 小松芳喬著（早稲田大学出版部、1975円、一般書店）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

定期試験100%。試験1回。

【履修上の心得】

個々の事実より、歴史の流れをつかむ。

【科目のレベル、前提科目など】

関連科目：経営史Ⅰ、日本経営史Ⅰ・Ⅱ

推奨学年：特定しない。

【備 考】

近代経済社会、現代産業社会のなりたちを理解することによってより深く現代の経済・経営の仕組みを知ることが目的とする。

科目名	経営史Ⅱ
教員名	片岡 豊

【授業の内容】

本講義の中心テーマはアメリカの経済と経営である。

20世紀は文字通り、アメリカの世紀であったと言ってもよいであろう。現代の企業では当然とされている大量生産方式、企業の吸収合併、事業部制などはすべてアメリカにおいて創り出されたシステムである。しかし現在にもそのまま通用しているこれらのシステムは、偶然に生まれたものではない。アメリカ経済の特質と、企業成長にともなう経営の近代化がもたらした必然的な経緯であった。「経営」が、与えられた経済的状况に対する合理的な対応であるとするなら、アメリカ企業の成長はその典型であった。

講義ではアメリカの経済成長とともに、現代的経営のプロトタイプの形成過程を検討し、現代企業の在り方を考える。

【到達目標】

現代の企業社会の原型を形作ったアメリカ企業の在り方を検討し、現代産業社会の特質を理解することを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 新大陸における植民地の展開
復習：植民地支配の在り方の違いについて理解する（30分）。
- 第2回 イギリス植民地の成立
復習：南部植民地と北部植民地の違いについて理解する（30分）。
- 第3回 植民地工業の発展と独立戦争
復習：独立戦争の意義について理解する（30分）。
- 第4回 南北戦争前のアメリカ農業
復習：南部奴隷制プランテーションの限界について理解する（30分）。
- 第5回 南北戦争と南部経済
復習：戦後の南部経済について理解する（30分）。
- 第6回 アメリカにおける産業革命
復習：後発国における産業革命の特徴を理解する（30分）。
- 第7回 部門管理の発生
復習：近代企業における組織の発生を理解する（30分）。
- 第8回 鉄道業における近代的経営
復習：財務報告と費用計算について理解する（30分）。
- 第9回 カーネギー製鋼所と垂直統合
復習：企業成長の方向について理解する（30分）。
- 第10回 スタンダードオイルと水平統合
復習：トラスティー方式について理解する（30分）。
- 第11回 商業の発達
復習：マーケティング、大規模商業の成立の必然性について理解する（30分）。
- 第12回 投資銀行の成立
復習：資金調達手段について理解する（30分）。
- 第13回 投資銀行と企業合併
復習：トラスト金融について理解する（30分）。
- 第14回 自動車産業とフォードシステム
復習：フォードシステムとフルラインアップ戦略について理解する（30分）。
- 第15回 デュボンの多角化戦略
復習：事業部制について理解する（30分）。

【授業の進め方】

基本的には講義中心である。参考資料・統計データは随時配布する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は特に指定しない。

【参考図書】

- 「ビジネスの歴史」 鈴木良隆・大東晴人・武田晴人（有斐閣アルマ、2625円、一般書店）
- 「スケールアンドスコープ」 A. D. チャンドラー著（有斐閣、10300円、一般書店）
- 「アメリカ経済史Ⅱ」 鈴木圭介編（東京大学出版会、6592円、一般書店）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

定期試験100%。試験1回。

【履修上の心得】

個々の事実より、歴史の流れをつかむ。

【科目のレベル、前提科目など】

関連科目：経営史Ⅰ、日本経営史Ⅰ・Ⅱ

推奨学年：特定しない。

【備 考】

時代、地域によって経済経営のあり方が異なる理由を理解し、現代社会をより深く理解する。

科目名	日本経営史 I
教員名	片岡 豊

【授業の内容】

今日、日本経済は世界に確固たる地位を築き、あまつさえそれをリードさえしている。このような状況は、諸外国にとって驚異であるのみならず、われわれ日本人にとっても不可解であると言わざるをえない。その問題を解くために数多くの議論がなされてきた。しかしそれでもなお、日本経済がどこへ行くのかという問いに答えられる者はいないであろう。この問題に完全な解答を与えるのは不可能であるにせよ、手がかりの一つを歴史に求めることは無意味ではないと考える。すなわち、日本が歩んできた道を現代的な問題意識から見直すことである。

本講義の目的は、以上のような問題意識にたつて、日本の経済発展を企業経営の立場から検討することである。そのさい出発点を近代経済成長が始まった江戸時代におき、明治期はその遺産を引き継いだ経済社会であると位置づけ、その特質について考えていく。

【到達目標】

近代日本の経済社会の成立と展開を検討することにより、わが国の経済・企業社会の特性を理解することを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 成績評価、授業内容導入
復習：人口成長率と経済発展の関係を考える（30分）。
- 第2回 近世における農業の発展
復習：農業の高度化と商業経済の関係を理解する（30分）。
- 第3回 近世の商人
復習：近代商業の源流としての江戸時代を理解する（30分）。
- 第4回 両替商と金融システム
復習：商業信用決済システムについて理解する（30分）。
- 第5回 商家経営
復習：商家と現代企業の共通点と相違点を考える（30分）。
- 第6回 三井家の経営
復習：近代的小売店の嚆矢として越後屋を理解する（30分）。
- 第7回 米市場と領主経済
復習：先物取引の仕組みを理解する（30分）。
- 第8回 明治維新の政治過程
復習：明治維新の過程を整理する（30分）。
- 第9回 幕末維新时期の日本経済
復習：江戸時代の遺産を考える（30分）。
- 第10回 明治政府の政治改革
復習：明治政府の性格を理解する（30分）。
- 第11回 明治政府の経済改革
復習：武士階級の清算過程を理解する（30分）。
- 第12回 銀行業の成立
復習：紙幣の性格理解する（30分）。
- 第13回 株式会社の展開
復習：会社機関の存在を理解する（30分）。
- 第14回 製糸業の展開
復習：輸出産業の在り方を理解する（30分）。
- 第15回 綿紡績業の展開
復習：輸入代替産業の性格を理解する（30分）。

【授業の進め方】

講義は、現在の日本の経済と関連の深いテーマに重点をおき、経済・経営の近代化という観点からを議論をすすめる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書はとくに指定しない。

【参考図書】

- 「日本の経営発展」由井常彦、J・ヒルシュマイヤー著（東洋経済新報社、3600円、一般書店）
- 「日本経済の200年」西川俊作編著（日本評論社、4841円、一般書店）
- 「産業化の時代 上・下」（日本経済史4、5）西川俊作他編（岩波書店、2680円、一般書店）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

試験100%。試験1回。

【履修上の心得】

現代社会との対比を意識しながら、聞いて下さい。

【科目のレベル、前提科目など】

関連科目：経営史Ⅰ・Ⅱ、日本経営史Ⅱ

推奨学年：特定しない。

【備 考】

時代によって経済経営の合理的な在り方が異なることに留意する。

科目名	日本経営史Ⅱ
教員名	片岡 豊

【授業の内容】

本講義は戦前から戦後にかけての日本の経済成長と企業経営の発展を中心に検討する。

戦後の日本は高度成長をひとつのピークに、飛躍的な経済発展を遂げた。それを支えた産業の中には、戦後に誕生したものもあれば、戦前から広く展開していた業種もある。新産業は多くの場合、新しい経営形態をもって高い効率性と利潤率を実現し、日本経済を牽引してきたが、ベンチャーとしてのリスクも負っていた。その一方戦前からの企業も新しい経済環境に適応するべく、様々な改革をこころみてきた。そしてその結果が個別企業の消長となってあらわれたのである。

本講義では以上のような観点から戦後企業の経営発展を考える。

【到達目標】

現在の企業社会に直接つながる戦前・戦後の経済と企業を検討することにより、現代日本の社会経済と企業の在り方を理解することを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 日本企業グループ
復習：現代の企業グループの全体像を把握する（60分）。
- 第2回 三菱財閥の成立
復習：岩崎弥太郎の企業活動を考える（30分）。
- 第3回 日本海運業と日本郵船
復習：海運業と日本経済について考える（30分）。
- 第4回 三菱の多角化
復習：三菱グループの成立を理解する（30分）。
- 第5回 三菱の組織
復習：組織化の必然性を理解する（30分）。
- 第6回 三井財閥の成立
復習：三井組の近代化について考える（30分）。
- 第7回 三井銀行
復習：近代的な銀行の在り方を理解する（30分）。
- 第8回 三井物産
復習：総合商社の役割を理解する（30分）。
- 第9回 住友財閥と安田財閥
復習：両財閥の性格の相違を理解する（30分）。
- 第10回 戦後改革と経済復興
復習：高度経済成長の前提となった経済復興の経緯を理解する（30分）。
- 第11回 財閥解体と企業グループの形成
復習：財閥解体の今日的な意味を考える（30分）。
- 第12回 鉄鋼業の発展
復習：技術と経営戦略の対応関係を考える（30分）。
- 第13回 流通業
復習：デパートとスーパーの相違点を理解し、課題について考える（30分）。
- 第14回 自動車産業の成立
復習：自動車産業の現況を理解する（30分）。
- 第15回 自動車産業の発展
復習：自動車産業発展の要因を考える（30分）。

【授業の進め方】

講義は現在の日本の経済と関連の深いテーマを重点におく。
現存する企業の成立展開の過程を中心に検討をすすめる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書はとくに指定しない。

【参考図書】

- 「日本の経営発展」由井常彦、J・ヒルシュマイヤー著（東洋経済新報社、3600円、一般書店）
- 「日本経済の200年」西川俊作編著（日本評論社、4841円、一般書店）
- 「戦後日本経営史、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」米川伸一他編集（東洋経済、3800円、一般書店）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

定期試験100%。試験1回。

【履修上の心得】

現在企業の成り立ちに関心を持って下さい。

【科目のレベル、前提科目など】

関連科目：経営史Ⅰ・Ⅱ、日本経営史Ⅰ

推奨学年：特定しない。

【備 考】

現代企業をより深く理解することをことを目的とする。

科目名	経営戦略論
教員名	柳川 高行

【授業の内容】

教育目標

1. 大学教育の目標は、independent（精神的自立と経済的自立と独自の判断力を持っていること）で、honest（誠実性、嘘をつかないことと、誰も見ていなくても自分のやるべきことを確実に実行することで、cooperative（他の人と知恵を出し合いながら協力して仕事を実行できること）な大人に育て上げることである。
2. 卒業後に無業者、ワーキング・プアの予備軍となるラーニング・プアではない正社員になれるラーニング・リッチを育成し、40台でリストラの対象にならないキャリアをアップさせ続けることができることと、会社の倒産に際して、転職能力を身に付け続けるための勉強の仕方・キャリアデザイン能力を身に付けさせることと、定年以降の第二の人生でも、十分な収入が得られる職に就くことができるための勉強の方法を習得させること。
3. 社会に出て家庭人として、また職業人としても必要不可欠な生きた知識を教育し、教員の全く役に立たない趣味の押し付けはしないこと。

経営戦略論とは何をする学問か？

居場所（niche、domain）の発見・創造・組み替えと居場所にふさわしい能力（can）をいかに身に付けるのか、についての学問

1. 激しい競争環境の中で、企業が自らの居場所（niche、domain）を発見創造し、その居場所を維持し、拡充し、より良く作り替えることである。
2. このことは企業や組織体で働く人々にも同様に当てはまる。
3. niche、domainとは顧客（会社）のrequestと企業（自分）のやりたいwantとrequestに応える独自能力であるcanとが幸福に結合している状況である。
4. requestとは一般にニーズ、wantは経営理念、canは組織能力と呼ばれる。
5. 企業に於けるcan（組織能力）は労働者の様々なemployabilityと同一である。
6. 経営戦略論の講義は、知的に面白い講義を目指したい。「知的に面白い講義」とは①「なぜ」現象が生じているのか（セブン-イレブンはなぜ日本一の小売業となったのか、漫画はどのようにして創られるのか）を明らかにする、②「分かり易く」、「納得のできる」説明が行なわれ、③「発見」と「感動」（sense of wonder）のある講義であると講義者は考えている。

【到達目標】

経営戦略論と戦略的マーケティング論の理論的道具の徹底的理解と、それらを土台として現実の企業の経営戦略と戦略的マーケティングにより、論理的分析ができるようになること。

【授業計画】

- 第1回 東京ディズニーリゾートは、なぜ1983年の開園以来、来園者が増加し続け売り上げが増え続けているのはなぜなのか、についての経営戦略論的分析
TDRの本質は、変化し続けるテーマパークのある新しい商業施設である。
- 第2回 東京ディズニーリゾートの人材育成方法
日本で一番熱心で親切で幸福なフリーターたちは、退職後どうしているのでしょうか。
- 第3回 長崎のハウステンボスは、H I Sの澤田秀雄氏が社長を引き受けてから、開園後初の黒字となりましたが、それはいったいなぜなのでしょう。これを経営戦略論的に分析します。
- 第4回 経営戦略論の一つの理論の環境適応理論（コンティンジェンシー・セオリー）を用いて、第二次大戦後の日本の小売店の発達を分析してみる。
①商店街の発達と衰退—日本の台所には冷蔵庫がなかったことと、交通手段が徒歩と自転車とバスしかなかったという時代環境
- 第5回 ②百貨店の誕生と衰退
—贈答文化（ギフト・ギビング・カルチャー）の発達した日本社会においては、お中元やお歳暮、入学祝や誕生日祝や結婚祝いのギフト用品は、高級品を売っている百貨店で買うのが通例でした。一年に何回か晴れ着（よそゆき）を着てバスに乗って家族そろって駅前の百貨店に行き大食堂でお子様ランチを食べることが大変な贅沢な時代でした。
- 第6回 ③総合スーパーマーケットの誕生と衰退—薄利多売のチェーンストアの全国展開
- 第7回 日本型コンビニエンスの誕生と新流通革命—戦後日本の大発明—情報創造企業による便利さの高度化の追求
- 第8回 新しい便利さの追求を続けるセブン-イレブン
- 第9回 セブン-イレブン システムとその経営哲学
- 第10回 写真週刊誌「週刊フォーカス」の居場所の創造と喪失のストーリー
—環境適合性と環境変化への不適応とライバルの独自性—
- 第11回 ケース・スタディー情報財の生産と販売に於ける居場所の創造と維持

- その1 任天堂、セガ、ソニー テレビゲームストーリー
 その2 少年ジャンプの遅れてきて成功する方法
 その3 NHK クローズアップ現代はどう作られているのか
 その4 NHK プロジェクトXはどう作られているのか
- 第12回 ケース・スタディー情報財の生産と販売に於ける居場所の創造と維持
 その1 任天堂、セガ、ソニー テレビゲームストーリー
 その2 少年ジャンプの遅れてきて成功する方法
 その3 NHK クローズアップ現代はどう作られているのか
 その4 NHK プロジェクトXはどう作られているのか
- 第13回 ケース・スタディー情報財の生産と販売に於ける居場所の創造と維持
 その1 任天堂、セガ、ソニー テレビゲームストーリー
 その2 少年ジャンプの遅れてきて成功する方法
 その3 NHK クローズアップ現代はどう作られているのか
 その4 NHK プロジェクトXはどう作られているのか
- 第14回 ケース・スタディー足利銀行はなぜ経営破綻したのか
- 第15回 ケース・スタディー足利銀行はなぜ経営破綻したのか
- 第16回 ケース・スタディー栃木の優良企業紹介
 その1 微細治療器具メーカー マニー
 その2 開倫塾
- 第17回 ケース・スタディー栃木の優良企業紹介
 その1 微細治療器具メーカー マニー
 その2 開倫塾
- 第18回 ケース・スタディー栃木の優良企業紹介
 その1 微細治療器具メーカー マニー
 その2 開倫塾
- 第19回 ケース・スタディー栃木の優良企業紹介
 その1 微細治療器具メーカー マニー
 その2 開倫塾
- 第20回 ケース・スタディー栃木の優良企業紹介
 その1 微細治療器具メーカー マニー
 その2 開倫塾
- 第21回 ミニケース・スタディーその1
 近江兄弟社メンソレータムの居場所の喪失と居場所の再創造プロセス
- 第22回 ミニケース・スタディーその2
 YKKの独自能力の内部かかえ込み
- 第23回 大学の経営戦略
- 第24回 JAの経営戦略
- 第25回 戦略的CSRと奉仕的CSRの融合したCSR
 栃木県のパン・アキモトのケーススタディ
- 第26回 総復習①
- 第27回 総復習②
- 第28回 総復習③
- 第29回 総復習④
- 第30回 総復習⑤

【授業の進め方】

ケーススタディーの事例を中心に経営戦略を学べるよう講義を進めたいと考える。

60分講義を行ない、受講生に講義内容の要約と質問と感想の三点を20分間でリアクションペーパーに書いて提出してもらい、残りの10分間でリアクションペーパーに書かれた質問に対する回答を、わかりやすく且つていねいに20分間行なう。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

無し

適宜プリントを配布する

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 50%

特記事項

受講態度には、毎回提出されるリアクションペーパーの加点主義で行なう（評価比率50%）

【履修上の心得】

1. 講義は1回毎に1つのトピックで完結するスタイルで行なう。
2. 1回の講義の理解に必要なキーワードを講義開始時に提示し、講義中に分かり易い説明を与える。
3. 授業は定刻通りに開始される。教師・学生ともに遅刻しないことを共通のルールとしたい。
4. [セメスター] この科目は週2回半期完結科目です。

【科目のレベル、前提科目など】

難易のグレード：中級

科目名	経営組織論
教員名	飛田 幸宏

【授業の内容】

人々はそれぞれ、企業をはじめとするさまざまな組織や集団に参加・所属している。現代社会の基礎的構成要素としての組織はあらゆるところに存在し、我々に多大な影響を与えている。経営組織論は、組織をその研究対象とするが、個人、集団、組織、環境などの各構成単位に掘り下げて理解し、それらの相互関連を理解しなければならない。具体的には、人間の欲求・行動、集団・組織の機能、個人と組織の関係（従業員と企業の関係）、現代における個人の働き方などについて理解することが必要である。

そこで、本講義では、経営組織論に関する理論的な側面を中心に、個人、集団、組織（企業）および環境に関するさまざまな事柄を検討する。講義の際には、雑誌・新聞記事、ビデオ鑑賞などによる具体的な事例を検討することを通じて、受講者が経営組織論に関する知識の習得とその理解を深めることができるように配慮していきたい。

【到達目標】

人間の欲求・行動、集団・組織の機能、個人と組織の関係の研究系譜、現代における個人と組織（従業員と企業）の関係、個人の働き方に関する知識の修得と理解力を向上する。

【授業計画】

- 第1回 経営組織論の講義の概要（ガイダンス）
- 第2回 組織の定義と特徴
- 第3回 個人と組織の統合理論の研究系譜①
- 第4回 個人と組織の統合理論の研究系譜②
- 第5回 個人と組織の統合理論の研究系譜③
- 第6回 個人と組織の統合理論の研究系譜④
- 第7回 動機づけ理論・モチベーション理論①
- 第8回 動機づけ理論・モチベーション理論②
- 第9回 動機づけ理論・モチベーション理論③
- 第10回 現代における個人と組織の関係（従業員と企業の関係）①：働きやすい職場環境
- 第11回 現代における個人と組織の関係（従業員と企業の関係）②：企業における福利厚生
- 第12回 現代における個人と組織の関係（従業員と企業の関係）③：正社員の長時間労働の実態
- 第13回 現代における個人と組織の関係（従業員と企業の関係）④：長時間労働の是正と取り組み
- 第14回 現代における個人と組織の関係（従業員と企業の関係）⑤：ワークライフバランス（仕事と育児）
- 第15回 現代における個人と組織の関係（従業員と企業の関係）⑥：ワークライフバランス（仕事と介護）
- 第16回 現代における個人と組織の関係（従業員と企業の関係）⑦：働く女性の意識
- 第17回 現代における個人と組織の関係（従業員と企業の関係）⑧：女性管理職
- 第18回 現代における個人と組織の関係（従業員と企業の関係）⑨：高齢者雇用
- 第19回 現代における個人と組織の関係（従業員と企業の関係）⑩：正社員と日本的雇用慣行
- 第20回 現代における個人と組織の関係（従業員と企業の関係）⑪：日本的雇用慣行の変質
- 第21回 現代における個人と組織の関係（従業員と企業の関係）⑫：雇用形態の多様化
- 第22回 現代における個人と組織の関係（従業員と企業の関係）⑬：非正規雇用の形態
- 第23回 現代における個人と組織の関係（従業員と企業の関係）⑭：パートタイム労働者
- 第24回 現代における個人と組織の関係（従業員と企業の関係）⑮：派遣労働者と契約社員
- 第25回 現代における個人と組織の関係（従業員と企業の関係）⑯：非正規雇用の待遇改善
- 第26回 現代における多様な働き方①：在宅勤務
- 第27回 現代における多様な働き方②：リモートワーク
- 第28回 現代における多様な働き方③：裁量労働
- 第29回 現代における多様な働き方④：副業と兼業
- 第30回 講義全体の総括

毎回の講義終了後には、講義内容について30分程度で復習することが望ましい。

【授業の進め方】

本講義は、理論と具体的な事例を用いて、経営組織論に関する基本的な事項、基礎的知識、および専門用語について学ぶことに重点を置いている。上記のような講義内容に関して、最新の事例や資料を用いて講義を行っていく。なお、経営組織論は経営戦略論、経営管理論、労務管理論などの領域と切り離して議論することはできないため、講義の中でそれらとの関連性についても触れていきたい。

【教科書（必ず購入すべきもの）】

教科書は特に指定しない。その他必要な文献については、講義の中で適宜紹介する。なお、本講義は、講義の際に配布するレジュメや資料などに基づいて講義を進める。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 0%

特記事項

- ・その他、授業中の課題、授業への姿勢、出席点を加点する。なお、成績評価の対象は、講義回数の2／3以上出席した受講者とする。
- ・授業への姿勢については、受講者に質問し発言させる機会を多く設けているため、積極的に発言できる受講者を希望する。

【履修上の心得】

- ・受講者は毎回必ず出席すること。なお、講義回数の2／3以上出席しない受講者は成績評価の対象にはならない。
- ・講義中の私語および遅刻・途中退室は一切認めない。遅刻・途中退室は欠席扱いとする。
- ・レポート課題を提出しない受講者は成績評価の対象にはならない。
- ・少人数の講義であるため、受講者に質問し発言させる機会を多く設けている。したがって、受け身の姿勢ではなく、積極的に発言できる受講者を希望する。
- ・受講者は、企業社会をめぐるさまざまな問題、特に、経済や企業の動向に関心を持ち、日頃から新聞や雑誌などの企業経営に関する記事に興味・関心をもつことが必要である。

【科目のレベル、前提科目など】

- ・経営学、経営管理論等とともに、経営組織論は経営学の主要科目として捉えられる。本講義とともに経営学関連の様々な科目を履修することを希望する。
- ・2年次に履修することが望ましい。

【備 考】

- ・講義内容および評価方法の詳細については、第1回の講義時に説明するので必ず出席すること。

科目名	ベンチャービジネス論 I
	ベンチャー経営を通して社会の大きな変化に対応するための考え方を学ぶ
教員名	新井 佐恵子

【授業の内容】

社会のイノベーションを引き起こし、経済を活性化する主体はベンチャー企業である。日本経済の再構築の必要性の観点からもベンチャー企業の重要性は高まっているが、日本ではその活躍と社会全体への貢献度合いはまだ低い。ベンチャービジネスを成功させ、ベンチャー企業が日本で活躍するためにはどのような要素が必要かを学ぶ。

AI等の技術革新により働き方が大きく変わろうとしている中で、組織の一員あるいは個人で働く際に求められるベンチャースピリットについて学ぶ。

【到達目標】

1. ベンチャービジネスについて理解する
2. 起業の環境、課題について理解する
3. ベンチャービジネス支援の体制、インキュベーション機能について理解する
4. 自分で考え、言葉にして発信する力を身に着ける

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 起業家（復習約30分）
- 第3回 ベンチャー企業の意義（復習約30分）
- 第4回 ベンチャー企業の事業構想段階（復習約30分）
- 第5回 スタートアップ段階（復習約30分）
- 第6回 成長段階（復習約30分）
- 第7回 最適な起業家や経営チームの組成（復習約30分）
- 第8回 優秀な人材の確保。教育育成（復習約30分）
- 第9回 知的財産の確保（復習約30分）
- 第10回 事例研究（復習約30分）
- 第11回 資金調達（復習約30分）
- 第12回 ベンチャーキャピタルの活用戦略（復習約30分）
- 第13回アントレプレナー・フォーメーション（復習約30分）
- 第14回 企業価値の算定・評価（復習約30分）
- 第15回 まとめ（復習約30分）

復習時間は毎回30分程度。日頃から授業で学んだ考え方や知識を参考にして、「ベンチャー企業」や「会社」を理解するように心がけてほしい。

【授業の進め方】

パワーポイントによるスライドやプリントを利用し、グループ・ディスカッションを取り入れたアクティブ・ラーニングにより、理解を深めるとともに、考える力と表現力を高めることを目指す。

また、経営者を中心とした外部特別講師を招聘し、企業運営や考え方の実例を直接聴くことにより学ぶ

【教科書(必ず購入すべきもの)】

スライドやプリントを利用する

【参考図書】

長谷川博和著『ベンチャーマネジメント[事業創造]入門』日本経済新聞出版社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 20%

特記事項

授業の貢献度合（質問や発言など）は加点の対象とする

授業中に紹介した本の感想およびアクションを提出した場合は加点の対象とする

必要に応じて課題を出す場合あり

受講態度については、社会人として人に迷惑をかけない言動を基準にして評価する

【科目のレベル、前提科目など】

この科目の履修前後でインターネット起業論やベンチャービジネス論IIを履修することにより理解を深めてほしい。
2年生以上推奨。

科目名	ベンチャービジネス論Ⅱ
	ベンチャー経営を通して社会の大きな変化に対応するための考え方を学ぶ
教員名	新井 佐恵子

【授業の内容】

社会のイノベーションを引き起こし、経済を活性化する主体はベンチャー企業である。日本経済の再構築の必要性の観点からもベンチャー企業の重要性は高まっているが、日本ではその活躍と社会全体への貢献度合いはまだ低い。ベンチャービジネスを成功させ、ベンチャー企業が日本で活躍するためにはどのような要素が必要かを学ぶ。

AI等の技術革新により働き方が大きく変わろうとしている中で、組織の一員あるいは個人で働く際に求められるベンチャースピリットについて学ぶ。

ベンチャービジネス論Iにおいて学んだ基礎知識を活用してディスカッションをするが、受講していなくても積極的な授業参加は可能である。

【到達目標】

1. ベンチャービジネスについて理解する
2. ベンチャービジネスの環境、課題について理解する
3. 様々な分野の事業創造事例について理解する
4. 自分で考え、言葉にして発信する力を身に着ける

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス、ベンチャー企業の意義（復習約30分）
- 第2回 インターネット関連分野における事業創造事例と課題（1）（復習約30分）
- 第3回 インターネット関連分野における事業創造事例と課題（2）（復習約30分）
- 第4回 インターネット関連分野における事業創造事例と課題（3）（復習約30分）
- 第5回 バイオテクノロジー分野における事業創造事例と課題（1）（復習約30分）
- 第6回 バイオテクノロジー分野における事業創造事例と課題（2）（復習約30分）
- 第7回 バイオテクノロジー分野における事業創造事例と課題（3）（復習約30分）
- 第8回 フィンテック分野における事業創造事例と課題（1）（復習約30分）
- 第9回 フィンテック分野における事業創造事例と課題（2）（復習約30分）
- 第10回 フィンテック分野における事業創造事例と課題（3）（復習約30分）
- 第11回 新技術分野における事業創造事例と課題（1）（復習約30分）
- 第12回 新技術分野における事業創造事例と課題（2）（復習約30分）
- 第13回 新技術分野における事業創造事例と課題（3）（復習約30分）
- 第14回 日本のベンチャー企業政策（復習約30分）
- 第15回 まとめ（復習約30分）

復習時間は毎回約30分程度。授業で学んだ考え方や知識を参考にして「ベンチャー企業」や「会社」を理解するように日常的に心掛ける。

【授業の進め方】

パワーポイントによるスライドやプリントを利用し、グループ・ディスカッションを取り入れたアクティブ・ラーニングにより、理解を深めるとともに、考える力と表現力を高めることを目指す。

また、経営者を中心とした外部特別講師を招聘し、企業運営や考え方の事例を直接聴くことにより学ぶ。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

なし

【参考図書】

長谷川博和著『ベンチャーマネジメント[事業創造]入門』日本経済新聞出版社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 20%

特記事項

授業の貢献度合（質問や発言など）は加点の対象とする

授業中に紹介した本の感想およびアクションを提出した場合は加点の対象とする

必要に応じて課題を出す場合あり

受講態度については、社会人として人に迷惑をかけない言動を基準にして評価する

【科目のレベル、前提科目など】

この科目の履修前後でインターネット起業論やベンチャービジネス論Iを履修することにより理解を深めてほしい。

2年生以上推奨。

科目名	マネジメントコミュニケーション
教員名	藤井 健

【授業の内容】

日本がグローバル社会に向けて重要なメッセージを発信することが苦手な理由として、日本人の英語力不足のほかに、マネジャー（リーダー）のコミュニケーション・スキルの不足、コミュニケーション戦略展開に必要な知識の不足が考えられる。本講義は、組織における人間行動の基本原則を解き明かすことからスタートし、ビジネス組織内、組織間において有効なコミュニケーション・スキルの開発、コミュニケーション戦略に関する知識の習得を目的とする。

【到達目標】

組織におけるコミュニケーションに関する知識の習得
異文化コミュニケーション、異文化マネジメントに関する知識の習得
グループプレゼンスキルの習得

【授業計画】

- 第1回 マネジメント・コミュニケーションの研究対象
(第1回授業復習30分)
- 第2回 コミュニケーション・プロセス
(コミュニケーション理論に関する復習30分)
- 第3回 言語・非言語コミュニケーション
(言語・非言語コミュニケーションに関する課題60分)
- 第4回 対人コミュニケーション
(対人コミュニケーションに関するレポート作成90分)
- 第5回 プレゼンテーションスキル
(プレゼン資料作成90分)
- 第6回 組織理論とコミュニケーション (1)
(プレゼン準備60分)
- 第7回 組織理論とコミュニケーション (2)
(プレゼン準備60分)
- 第8回 グループプレゼン実習 (1)
(パワーポイント、発表原稿作成90分)
- 第9回 グループプレゼン実習 (2)
(プレゼン発表内容のレポート作成90分)
- 第10回 組織の中の人間行動
(組織の中の人間行動ケース検討30分)
- 第11回 文化と国際ビジネス
(授業復習30分)
- 第12回 異文化コミュニケーション行動
(授業復習30分)
- 第13回 異文化交渉戦略
(異文化交渉事例研究60分)
- 第14回 異文化交渉戦術
(異文化交渉事例研究60分)
- 第15回 異文化マネジメント
(レポート作成90分)

【授業の進め方】

組織におけるコミュニケーション・スキルを理解するための理論のレクチャーとそれを実践するためのプレゼンテーション、ディスカッションを織り交ぜて進めていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用せず
レジュメを配布

【参考図書】

随時指示

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 20% レポート・課題 60% 受講態度 20%

特記事項

グループ・プレゼン
レポート
授業内小テスト

【「成績評価の方法」に関する注意点】

定期試験期間中に試験は行いません。レポート、授業内小試験、受講態度で成績評価を行います。

【履修上の心得】

学際的研究分野であるので、多面的なアプローチをしていくが、国際ビジネス、文化の問題に十分な関心をもってもらいたい。また、コミュニケーション・スキルに関する理解を深めるためのプレゼンテーションなどに積極的に参加することが望ましい。

2年生以上が履修することが望ましい

【科目のレベル、前提科目など】

2年生以上が履修することが望ましい

科目名	ビジネスマナー I
教員名	堀 真由美

【授業の内容】

本講義は、社会人として必要なビジネスマナーの基礎的な知識・技能を学習する。社会の仕組みや社会人としてのマナー、ビジネスの場で職務を遂行するために必要となるコミュニケーション能力、求められるビジネス能力の基礎を理解し、「働く」ということを前向きにとらえ、社会人として目標に向かって努力できる真摯な姿勢を修得する。

【到達目標】

- ・ビジネスマナーの基本を身につけることを目標とする。
- ・就職活動の心構えを身につけることを目標とする。
- ・ビジネス系検定試験に挑戦できることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 講義概要・講義の進め方・成績評価方法・ビジネス系検定試験ガイダンス 各自の検定試験受験計画を立てる(30分)。
- 第2回 社会人の基本：身だしなみ テキスト第1章 授業で提示したキーワードを復習する(30分)。
- 第3回 社会人の基本：イメージアップ力 テキスト第1章 授業で提示したキーワードを復習する(30分)。
- 第4回 仕事の基本：挨拶、お辞儀、指示報告、テキスト第2章 授業で提示したキーワードを復習する(30分)。
- 第5回 仕事の基本：呼称、社内業務 テキスト第2章 授業で提示したキーワードを復習する(30分)。
- 第6回 ビジネス会話、敬語の基本 テキスト第3章 授業で提示したキーワードを復習する(30分)。
- 第7回 電話対応の基本 テキスト第3章 授業で提示したキーワードを復習する(30分)。
- 第8回 来客対応の基本 テキスト第4章 授業で提示したキーワードを復習する(30分)。
- 第9回 接客・訪問の基本 テキスト第4章 授業で提示したキーワードを復習する(30分)。
- 第10回 社内文書の基本 テキスト第5章 社内文書を書けるように復習する(60分)。
- 第11回 メールの基本 テキスト第5章 メールを書けるように復習する(30分)。
- 第12回 冠婚葬祭の基本 テキスト第6章 授業で提示したキーワードを復習する(30分)。
- 第13回 慶弔のマナー テキスト第6章 授業で提示したキーワードを復習する。
- 第14回 テーブルマナー テキスト第6章 授業で提示したキーワードを復習する(30分)。
- 第15回 まとめ 全授業の復習をする(60分)。

【授業の進め方】

テキスト中心に講義形式で進めていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

① さすがと言われるビジネスマナー完全版 ② 高橋書店編集部 ③ 高橋書店 ④ 2014年 ⑤ 1,000円 ⑥ 9784471011253

購入場所：学内ブックスナカジマ

【参考図書】

堀真由美著『ビジネスコミュニケーション—グローバル社会におけるビジネス基礎力と運用能力—』中央大学出版部 2017年3月

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 85% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 15%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

初回講義で成績評価の注意、授業中の注意事項を伝達するので必ず初回より出席をし確認すること。

【履修上の心得】

- ・学習したことを単に知識で終わらせないために、ビジネスの現場で実践できるよう日常の様々な場面で活用し、ビジネス系検定試験に挑戦してほしい。
- ・テキストは遅くとも第2回目までに購入し、毎回講義には持参すること。

【科目のレベル、前提科目など】

- ・履修対象は、2年～4年生を推奨する。
- ・「マナーの基本」(前期・後期)→本講義「ビジネスマナー I」(前期)→「ビジネスマナー II」(後期)の順番で履修すると効果的である。

・本講義は、インターンシップの実習(在学中に自ら将来のキャリアに関連した就業体験) や就職活動の事前学習として履修してほしい。

科目名	NPO論
	NPOが担う「公共」と社会改革
教員名	小笠原 伸

【授業の内容】

NPOという言葉が社会に流布して久しい。新たなセクターが社会の中で位置を占め、様々な活動を行うようになってきたのは徐々に理解されつつあるものの、NPOとは何かということは意外に知られていない。本講義では、これまでの社会を構成してきたセクターに新たな枠組みが加わってきたことをまず知り、NPOが「公共」の問題を抱えてかつそれを乗り越えてゆく可能性を秘めた仕組みであることを理解してゆく。さらに社会の課題解決に乗り出す人々がNPOという仕組みを用いてゆく現状を、コミュニティビジネスや社会改革の事例を紹介しながら、受講生の皆さんがそれらにどう関心を持ってゆくか考えてゆく場として欲しい。

【到達目標】

1. NPOとは何かを理解する
2. NPOの活動する領域とその目的を理解する
3. 政府、自治体、企業などとNPOの協働の実際とその課題について理解する
4. 自身が関心を持つことで、自分の関心に近いもしくは自分の身近で活動するNPOの活動を知る

【授業計画】

- 第1回 社会を変える仕組み、NPOとは何か
 予習：シラバスを読み授業の内容や到達目標を知る（1.5時間）
 復習：NPOの基礎的な知識を整理する（1.5時間）
- 第2回 NPO法（特定非営利活動促進法）成立までの道のりとNPOの現状
 予習：NPO法について調べる（1.5時間）
 復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）
- 第3回 市民社会の成立と現代的課題
 予習：市民社会の成立と現代的課題について調べる（1.5時間）
 復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）
- 第4回 政府・行政側から見たNPOの像
 予習：政府・行政の課題について調べる（1.5時間）
 復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）
- 第5回 企業の社会的責任（CSR）、社会貢献
 予習：企業の社会的責任（CSR）、社会貢献について調べる（1.5時間）
 復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）
- 第6回 市民の社会活動への参加
 予習：市民参加の現状について調べる（1.5時間）
 復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）
- 第7回 NPOの活動フィールド
 予習：NPOの活動フィールドについて調べる（1.5時間）
 復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）
- 第8回 市民、企業、行政による協働体制の構築
 予習：市民協働について調べる（1.5時間）
 復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）
- 第9回 デザイン思考とフューチャーセンター
 予習：デザイン思考とは何か調べる（1.5時間）
 復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）
- 第10回 NPO運営とそのリスクマネジメント
 予習：自分の関心あるNPOを調べてみる（1.5時間）
 復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）
- 第11回 NPOをめぐる最先端の状況
 予習：NPOの関わる最先端の状況を調べる（1.5時間）
 復習：事例について自ら調べその理解を深める（1.5時間）
- 第12回 NPOの事例（教育問題、福祉問題）
 予習：教育問題、福祉問題の実情を調べる（1.5時間）
 復習：事例について自ら調べその理解を深める（1.5時間）
- 第13回 NPOの事例（産業支援）
 予習：産業支援の実情を調べる（1.5時間）
 復習：事例について自ら調べその理解を深める（1.5時間）
- 第14回 NPOの事例（まちづくり、若者支援）
 予習：NPOが活動するまちづくりや若者支援などの新たな領域について関心を持つ（1.5時間）
 復習：事例について自ら調べその理解を深める（1.5時間）

第15回 まとめ

予習：これまでの学びの振り返り（1.5時間）

復習：授業全体を通しての整理（1.5時間）

【授業の進め方】

各項目について、おおむね1時限ずつ講義を進める。PCのスライドを使う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

必要なテキストがあれば講義の中で適宜紹介する。

【参考図書】

必要なテキストがあれば講義の中で適宜紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 0%

特記事項

レポートと定期試験で判定する。

【科目のレベル、前提科目など】

レベルは問わないが、例えば都市戦略や社会支援、福祉問題やソーシャルビジネス全般など、NPOの活動に関わる領域に関心を持つ受講生を期待する。

すべての学生に開かれているが、NPO以外でも特に都市戦略や地方創生、新産業創造、社会改革などに関心ある学生は1、2年生時に履修することを望む。

科目名	企業論
教員名	仁平 晶文

【授業の内容】

現代社会は企業社会とも呼ばれている。確かに私たちの身の回りを眺めてみると、企業によって生み出された多様な製品・サービスを見いだすことが可能である。また、高校や大学などを卒業後、企業においてキャリア（仕事人生）を積み重ねていく人も数多く存在する。その意味でも、企業は私達人間と密接に関係していると言えるし、私達の生活は企業によって支えられているといっても過言ではない。

このように現代社会に暮らす人々と密接に関係している企業について、本科目では具体的な事例を用いながら、深く考察していくこととする。

【到達目標】

古典的な企業の捉え方のみならず、多様な視点を用いながら現代企業を支える論理について把握できることを到達目標とする。

【授業計画】

- 第1回 現代企業を取り巻くもの
 予習：身の回りの企業名をリストアップ（45分）
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習（45分）
- 第2回 企業を捉える多様な視点
 予習：テキスト序章の読込（45分）
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習（45分）
- 第3回 製品・サービスの提供機関として捉えられる企業（1）
 予習：テキスト1章前半の読込（45分）
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習（45分）
- 第4回 製品・サービスの提供機関として捉えられる企業（2）
 予習：テキスト1章後半の読込（45分）
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習（45分）
- 第5回 株式会社として捉えられる企業（1）
 予習：テキスト2章前半の読込（45分）
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習（45分）
- 第6回 株式会社として捉えられる企業（2）
 予習：テキスト2章後半の読込（45分）
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習（45分）
- 第7回 大企業として捉えられる企業（1）
 予習：テキスト3章前半の読込（45分）
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習（45分）
- 第8回 大企業として捉えられる企業（2）
 予習：テキスト3章後半の読込（45分）
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習（45分）
- 第9回 組織として捉えられる企業（1）
 予習：テキスト4章前半の読込（45分）
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習（45分）
- 第10回 組織として捉えられる企業（2）
 予習：テキスト4章後半の読込（45分）
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習（45分）
- 第11回 家として捉えられる企業（1）
 予習：教科書第5章前半の読込（45分）
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習（45分）
- 第12回 家として捉えられる企業（2）
 予習：テキスト5章後半の読込（45分）
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習（45分）
- 第13回 社会的存在として捉えられる企業（1）
 予習：テキスト6章前半の読込（45分）
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習（45分）
- 第14回 社会的存在として捉えられる企業（2）
 予習：テキスト6章後半の読込（45分）
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習（45分）
- 第15回 企業の未来像
 予習・復習：これまでの授業内容の振り返り（90分）

【授業の進め方】

毎回の講義はPowerPointを使用しながら進行していく。DVD教材や新聞・雑誌記事を利用して具体的な事実に基づきながら理解を深めていく。授業の最後にリアクションペーパーを提出する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①企業論 (第3版) ②三戸浩・池内秀巳・勝部伸夫 ③有斐閣 ④2011 ⑤2,000円+税

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 0% レポート・課題 20% 受講態度 40%

特記事項

毎授業ごとに実施されるリアクションペーパーの提出を受講態度に含めて評価する。
レポート・課題は教科書より課題を設定する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

当該科目のすべての授業回数の3分の2以上に出席していることで定期試験の受験が可となる。

【履修上の心得】

遅刻・私語厳禁。

【科目のレベル、前提科目など】

経営学、会計学を学んでいく際の土台となるような基礎的な講義内容(入門レベルの内容)となっている。

科目名	公益事業論 I
教員名	蟻生 俊夫

【授業の内容】

企業経営は、通常、自由な競争の下に展開されるのが望ましい。しかし、財の性質や産業の成熟度によっては、国や地方自治体の適正な監理を必要とするものもある。たとえば、鉄道・航空、通信、電力・ガスなどのサービスは、経済学でいう「市場の失敗」のケースになりやすいため、独禁法の適用除外となる一方、新規参入や料金設定などについて、さまざまな規制が課せられている。

本講では、こうした一連の企業（公企業とか公益事業と呼ばれるもの）の経営のしくみや理論について理解を深めてもらう。

【到達目標】

私企業と公企業・公益事業の違いを確認し、公的規制で代表的な料金規制と参入退出規制の内容を把握する。また、料金規制の理論として、総括原価主義や限界費用主義について、実際の企業事例にもとづき理解できるようにする。

【授業計画】

- 第1回 自己紹介、公益事業論 I の位置づけ、成績評価の方法
- 第2回 公企業・公益事業の概念（その1）
- 第3回 公企業・公益事業の概念（その2）
- 第4回 公企業・公益事業の概念（その3）
- 第5回 公企業・公益事業トピックス①（持続可能なエネルギー）
- 第6回 公的規制の概要（その1）
- 第7回 公的規制の概要（その2）
- 第8回 公企業・公益事業トピックス②（電力システム改革）
- 第9回 公企業・公益事業の料金制度（その1）
- 第10回 公企業・公益事業の料金制度（その2）
- 第11回 公企業・公益事業の料金制度（その3）
- 第12回 公企業・公益事業の料金制度（その4）
- 第13回 公企業・公益事業の料金制度（その5）
- 第14回 公企業・公益事業の料金制度（その6）
- 第15回 公企業・公益事業トピックス③

電力、通信、航空など公企業・公益事業の実際の経営問題、制度変更などの最新動向を随時織り込みながら授業を進めていく。

【授業の進め方】

講義では、具体的事例を紹介しながら平明でわかりやすい解説を心がける。また、何らかの理由で欠席しても理解できるよう1回の講義で1つのテーマが完結する内容にしていく。より理解しやすくなるよう、最初にプリントを配付し随時説明を加えていく。パワーポイント（パソコン）やDVDビデオを用いた講義も予定している。

【教科書（必ず購入すべきもの）】

特定の教材は用いない。

【参考図書】

特定の教材は用いない。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 30% レポート・課題 0% 受講態度 10%

特記事項

授業内小試験については、毎回の講義内容を確認するものであり、講義の終わりの時間帯を使用して随時（7～8回程度）実施する。

受講態度については、ノートチェックにもとづき評価する。

【履修上の心得】

できるかぎり出席し、ノートをしっかりとること。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目；企業論、経済原論

関連科目；公益事業論Ⅱ、経営戦略論、経営分析論、交通論、経営組織論、企業関係法

公企業、公益事業を理論的に考察、検討していくことが中心となり専門的な性格がやや強い。

科目名	公益事業論Ⅱ
教員名	蟻生 俊夫

【授業の内容】

現在、電力・ガス、通信、鉄道・航空など公益事業の分野では、規制緩和や民営化の動きが急速に進展し、経営上、さまざまな変化が起こっている。本講では、こうした動きをグローバルな視点から概観する。そして、それぞれの業界において、その歴史や特徴、理論等を踏まえ、新規参入と料金設定に対する規制が実際にどのように適用されているか、具体的な事例にもとづき紹介していく。さらに、規制緩和および民営化の及ぼす影響について、価格変化のみならず、サービス多様化や組織改革などの幅広い側面から評価、確認する。

【到達目標】

欧米、日本の規制緩和や民営化の経緯、現状を把握する。また、公企業・公益事業経営の具体例として、郵便、航空、電気通信、水道、バス、鉄道、電気などの事業の歴史、会社形態の変遷、料金規制、特徴などを理解する。さらに、電気事業については、停電や地球温暖化などの幅広い影響まで解釈できるようにする。

【授業計画】

- 第1回 自己紹介、公益事業論Ⅱの位置づけ、成績評価の方法
- 第2回 規制緩和と民営化（その1）
- 第3回 規制緩和と民営化（その2）
- 第4回 規制緩和と民営化（その3）
- 第5回 規制緩和と民営化（その4）
- 第6回 公企業・公益事業トピックス①（電力の安定供給）
- 第7回 事例研究（その1 郵便事業）
- 第8回 事例研究（その2 航空事業）
- 第9回 事例研究（その3 電気通信事業）
- 第10回 事例研究（その4 水道事業）
- 第11回 事例研究（その5 バス事業）
- 第12回 中間試験
- 第13回 事例研究（その6 鉄道事業）、最終レポート課題発表
- 第14回 事例研究（その7 電気事業）
- 第15回 公企業・公益事業トピックス②、最終レポート課題提出締め切り

電力、通信、航空など公企業・公益事業の実際の経営問題、制度変更などの最新動向を随時織り込みながら授業を進めていく。

【授業の進め方】

講義では、具体的事例を紹介しながら平明でわかりやすい解説を心がける。また、何らかの理由で欠席しても理解できるよう1回の講義で1つのテーマが完結する内容にしていく。より理解しやすくなるよう、最初にプリントを配付し随時説明を加えていく。主にパワーポイント（パソコン）を用いて講義を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特定の教材は用いない。

【参考図書】

特定の教材は用いない。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 60% レポート・課題 30% 受講態度 10%

特記事項

授業内小試験は中間試験と豆テスト形式にて行う。中間試験は評価比率40%で7月の講義中の時間帯に行う。豆テストは毎回の講義内容を確認するものであり、評価比率20%で講義の終わりの時間帯を使用して随時（4～5回程度）実施する。

レポート・課題については、7月上旬にその内容を提示し、7月の最終講義を提出期限として実施する。

受講態度については、ノートチェックにもとづき評価する。

【履修上の心得】

できるかぎり出席し、ノートをしっかりとること。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目；企業論、公益事業論Ⅰ、経済原論

関連科目；経営戦略論、経営分析論、交通論、経営組織論、企業関係法

公益事業は、我々にとって大変身近な存在である。そこで、海外も含め、さまざまな公益事業に属する産業の事例を通して、公益事業の理論の理論と実際の結びつきを理解するとともに、自らの問題意識の中で公益事業の理論を考えていくようにする。

科目名	交通論
教員名	山田 徳彦

【授業の内容】

私たちの日常生活や様々な経済・社会活動は円滑な移動の上に成りたっており、現代社会では衣食住に加えて「交通」が不可欠であろう。にもかかわらず、その実際は普段見過ごされがちであるように思われてならない。交通部門が抱える様々な問題や影響を把握し、その姿をただしく理解することは極めて重要であろう。本講義では、社会と交通の関わりを踏まえて、交通の意味を考える。

【到達目標】

交通を通して、経済や社会の基本的なしくみが分かるようになることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
 - ・交通と社会の関わり合いについて
- 第2回 交通とは何か(1)
- 第3回 交通とは何か(2)
- 第4回 交通・交通機関の種類(1)
- 第5回 交通・交通機関の種類(2)
- 第6回 交通の機能(1)
- 第7回 交通の機能(2)
- 第8回 交通の特性(1)
- 第9回 交通の特性(2)
- 第10回 交通システムと交通市場(1)
- 第11回 交通システムと交通市場(2)
- 第12回 交通とマクロ経済(1)
- 第13回 交通とマクロ経済(2)
- 第14回 交通企業・交通産業(1)
- 第15回 交通企業・交通産業(2)
- 第16回 交通企業の経営形態と公共事業(1)
- 第17回 交通企業の経営形態と公共事業(2)
- 第18回 交通近代化の歴史(1)
- 第19回 交通近代化の歴史(2)
- 第20回 交通技術の将来展望(1)
- 第21回 交通技術の将来展望(2)
- 第22回 交通政策－歴史の変遷(1)
- 第23回 交通政策－歴史の変遷(2)
- 第24回 交通政策－都市と交通(1)
- 第25回 交通政策－都市と交通(2)
- 第26回 交通政策－現代の課題(1)
- 第27回 交通政策－現代の課題(2)
- 第28回 交通と学問(1)
- 第29回 交通と学問(2)
- 第30回 まとめ

【授業の進め方】

各回とも、配布資料の内容を受講者各人が確認した後、それを解説していく形で進める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①交通経済ハンドブック ②日本交通学会編 ③白桃書房 ④2011/10/15 ⑤3300 ⑥978-4-561-76192-C3065

【参考図書】

講義中適宜指示する。また、プリントを配布する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

【履修上の心得】

いわゆる「役に立つ」講義内容ではないことをあらかじめ理解されたい。

【科目のレベル、前提科目など】

経済学 経済地理学

ミクロ経済学を理解していることが望ましい(必要な知識・考え方は逐次解説する)。

科目名	企業ネットワーク論
教員名	仁平 晶文

【授業の内容】

企業を取り巻く環境変化は激しさを増しつつある。その環境変化に企業が単独で対応することは極めて困難な状況となってきた。そこで必要とされるのが、企業間の連携であり、企業間のネットワークである。

本科目では、M&Aや戦略的提携、アウトソーシングといった代表的な企業間関係のマネジメントに関する考察を中心としながら、近年注目を集めている企業間ネットワークの新しい考え方や、イノベーションと深く関係する企業間関係の問題、企業と大学やNPOなどとの連携に代表されるクロスセクター・コラボレーションの問題などについても取り上げていく。

【到達目標】

企業間関係が形成される理由、企業間関係の形態、企業間関係のマネジメントについて理解することを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 企業間関係と企業ネットワーク
 予習：身近なコラボ事例を1つビッドアップ (45分)
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習 (45分)
- 第2回 企業間関係論の基本視点
 予習：直近1週間の提携・M&A事例を1つビッドアップ (45分)
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習 (45分)
- 第3回 資源依存パースペクティブ
 予習：直近1週間の提携・M&A事例を1つビッドアップ (45分)
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習 (45分)
- 第4回 取引コストパースペクティブ
 予習：直近1週間の提携・M&A事例を1つビッドアップ (45分)
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習 (45分)
- 第5回 学習パースペクティブ
 予習：直近1週間の提携・M&A事例を1つビッドアップ (45分)
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習 (45分)
- 第6回 企業間関係のマネジメント
 予習：直近1週間の提携・M&A事例を1つビッドアップ (45分)
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習 (45分)
- 第7回 戦略的提携のマネジメント (1)
 予習：直近1週間の提携・M&A事例を1つビッドアップ (45分)
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習 (45分)
- 第8回 戦略的提携のマネジメント (2)
 予習：直近1週間の提携・M&A事例を1つビッドアップ (45分)
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習 (45分)
- 第9回 アウトソーシングのマネジメント (1)
 予習：直近1週間の提携・M&A事例を1つビッドアップ (45分)
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習 (45分)
- 第10回 アウトソーシングのマネジメント (2)
 予習：直近1週間の提携・M&A事例を1つビッドアップ (45分)
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習 (45分)
- 第11回 M&Aのマネジメント (1)
 予習：直近1週間の提携・M&A事例を1つビッドアップ (45分)
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習 (45分)
- 第12回 M&Aのマネジメント (2)
 予習：直近1週間の提携・M&A事例を1つビッドアップ (45分)
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習 (45分)
- 第13回 企業間関係と経営戦略
 予習：直近1週間の提携・M&A事例を1つビッドアップ (45分)
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習 (45分)
- 第14回 オープンイノベーション
 予習：直近1週間の提携・M&A事例を1つビッドアップ (45分)
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習 (45分)
- 第15回 製品アーキテクチャ
 予習：直近1週間の提携・M&A事例を1つビッドアップ (45分)
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習 (45分)

- 第16回 サプライチェーン・マネジメント
 予習：直近1週間の提携・M&A事例を1つピックアップ（45分）
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習（45分）
- 第17回 フランチャイズ・システム
 予習：直近1週間の提携・M&A事例を1つピックアップ（45分）
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習（45分）
- 第18回 デファクト・スタンダード
 予習：直近1週間の提携・M&A事例を1つピックアップ（45分）
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習（45分）
- 第19回 ユーザー・イノベーション
 予習：直近1週間の提携・M&A事例を1つピックアップ（45分）
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習（45分）
- 第20回 異業種コラボレーション
 予習：直近1週間の提携・M&A事例を1つピックアップ（45分）
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習（45分）
- 第21回 企業間ネットワークの新しい展開
 予習：直近1週間の提携・M&A事例を1つピックアップ（45分）
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習（45分）
- 第22回 グループ経営
 予習：直近1週間の提携・M&A事例を1つピックアップ（45分）
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習（45分）
- 第23回 中小企業ネットワーク
 予習：直近1週間の提携・M&A事例を1つピックアップ（45分）
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習（45分）
- 第24回 クロスセクター・コラボレーション
 予習：直近1週間の提携・M&A事例を1つピックアップ（45分）
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習（45分）
- 第25回 ソーシャルネットワーク
 予習：直近1週間の提携・M&A事例を1つピックアップ（45分）
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習（45分）
- 第26回 事例研究：トヨタ紡織とANAによる共同開発
 予習：事例に関する情報収集（45分）
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習（45分）
- 第27回 事例研究：トヨタ生産システム
 予習：事例に関する情報収集（45分）
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習（45分）
- 第28回 事例研究：ファミリーマートとユニーの経営統合
 予習：事例に関する情報収集（45分）
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習（45分）
- 第29回 事例研究：モスバーガーにみるフランチャイズ・システム
 予習：事例に関する情報収集（45分）
 復習：授業で取り上げたキーワード・まとめ問題の復習（45分）
- 第30回 企業間関係・企業ネットワークの未来像
 予習・復習：これまでの授業内容の振り返り（90分）

講義の進行状況によって順序が入れ替わる場合もある。

【授業の進め方】

毎回の講義はPowerPointを使用しながら進行していく。DVD教材や新聞・雑誌記事を利用して具体的な事実に基づきながら理解を深めていく。授業の最後にリアクションペーパーを提出する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に使用しない。

【参考図書】

授業内で随時指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 0% レポート・課題 20% 受講態度 40%

特記事項

毎授業ごとに実施されるリアクションペーパーの提出を受講態度に含めて評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

当該科目のすべての授業回数の3分の2以上に出席していることで定期試験の受験が可となる。

【履修上の心得】

遅刻・私語厳禁。

【科目のレベル、前提科目など】

経営学、経営組織論、経営戦略論といった経営学の主要科目と密接に関連している応用的な科目であるため、2年生以上の履修を推奨する。

科目名	経営管理論
教員名	黒田 勉

【授業の内容】

経営管理の“理論”を中心にした授業である。企業や他の組織体（例：自治体・クラブ・家庭）への経営管理論の適用可能性を考えながら、その理論の特徴、普遍性、および問題点を指摘していく。

【到達目標】

1. 企業・組織体を多面的にとらえる“経営管理の理論の必要性”を知ること
2. 管理問題に直面した時に役立つ“柔軟な思考能力の素地”を養成すること

【授業計画】

第1回 《経営管理の関連概念》

①管理の基本事項

<復習30分>

第2回 ②管理階層

<復習30分>

第3回 ③管理職能

<復習30分>

第4回 《管理階層「ロワーからトップへの視点」：『科学的管理』》

①クラシックな理論が顧みられる理由

<復習30分>

第5回 ②時代背景

<復習30分>

第6回 ③労働力の集約的利用

<復習30分>

第7回 ④能率増進運動

<復習30分>

第8回 ⑤科学的管理の父

<復習30分>

第9回 ⑥動作研究・時間研究

<復習30分>

第10回 ⑦課業管理

<復習30分>

第11回 ⑧テイラー・システム

<復習30分>

第12回 ⑨科学的管理の普及

<復習30分>

第13回 《管理階層「トップからロワーへの視点」：『管理の一般理論』》

①代表的な管理職能論者

<復習30分>

第14回 ②ファヨールの名声

<復習30分>

第15回 ③経営管理研究者としての面

<復習30分>

第16回 ④管理職能論

<復習30分>

第17回 ⑤管理原則論

<復習30分>

第18回 ⑥管理方法論

<復習30分>

第19回 《リーダーの役割「組織内人間行動の理解」：『人間関係論』》

①産業合理化運動

<復習30分>

第20回 ②諸実験

<復習30分>

第21回 ③インフォーマル組織

<復習30分>

第22回 ④人間関係論

<復習30分>

第23回 《経営管理者の役割「行動科学的な理解」：『バーナードの組織管理論』》

①協働体系と組織

<復習30分>

第24回 ②個人人格と組織人格

<復習30分>

第25回 ③組織の基本要素と管理職能

<復習30分>

第26回 《欲求理論》

①マズローの欲求階層説

<復習30分>

第27回 ②ハーツバーグのモチベーション&衛生理論

<復習30分>

第28回 《サイモンの意思決定理論の概要》

<復習30分>

第29回 《状況リーダーシップ論》

<復習30分>

第30回 まとめ：経営管理論の基盤を振り返ってみる。

<復習30分>

理論を説明していく際に、具体的な企業活動を織り込みながら授業を行っていくので、授業計画に示された各分野で扱われる分量は異なってくる。

【授業の進め方】

毎回「復習」の確認を行ったり、「調べ事」を指示したりするので、質疑応答の場面が多々ある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

適時、指示する。

【参考図書】

適時、指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

「定期試験」は持ち込み不可で実施

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席は成績評価の対象にはならない。

白鷗大学試験規則第2条に基づき、「受験資格は授業時数の三分の二以上出席した者に与えられる」、という決まりがあるので、それを順守する。

【履修上の心得】

理論を扱う際に、具体例をあげながら授業を進めていくために、授業そのものは理解しやすいと思われる。しかし、「その時理解できた」と思って授業の復習を怠ってしまうと、「次の授業が全く理解できない」ということになりかねない。なぜなら、この授業は“理論が中心”になって、しかも次から次へと“連続して進んでいく”からである。つまり、「前の授業がわからないと次の授業もわからない」ということになってしまう。「難しくわからない」と言う受講生の大半は、復習をしていないことに大きな原因がある。少なくとも復習を心がけた受講生が、“理論の重厚さ”を知り、そして試験での高い成績評価を得ることになる。

【科目のレベル、前提科目など】

「経営学」が履修済みであることが望ましい。

【備 考】

◎授業は「理論」を中心にした科目であることを念頭に置いてほしい。具体例を挙げながらも抽象的な難しさを伴っているため、それを覚悟の上で履修することが望まれる。

科目名	経営管理論
教員名	飛田 幸宏

【授業の内容】

企業が内外の環境に対して有効に機能するためには経営管理が必要であり、経営管理の職能を専門に担当する経営者の役割が、その企業組織の継続的な成長・発展に大きな影響を及ぼすことになる。今後、企業組織の規模がますます大規模化するにつれて、経営管理も高度化・複雑化するため、経営者の職能を理解することが必要であると考えられる。

そこで、本講義では、経営管理に関する理論的な側面や日本企業や諸外国企業の企業経営の現状についての具体的な事例を中心に、企業活動から生じるさまざまな問題を検討・考察することにより、経営学および経営管理論に関する知識と概念について学んでいく。

【到達目標】

企業の管理階層、トップ・マネジメント（経営者）の職能と役割、ミドル・マネジメント（管理者）の職能と役割、組織におけるリーダーシップの意義、リーダーシップ研究の系譜、現代のリーダーシップのあり方と課題に関する知識の修得と理解力を向上する。

【授業計画】

- 第1回 経営管理論の講義の概要（ガイダンス）
- 第2回 経営管理の意義および対象
- 第3回 企業の管理階層①：トップ・マネジメント
- 第4回 企業の管理階層②：ミドル・マネジメントとローワー・マネジメント
- 第5回 トップ・マネジメント組織①：日米の特徴と比較
- 第6回 トップ・マネジメント組織②：日本のトップ・マネジメント組織の特徴と改革
- 第7回 トップ・マネジメントの職能と役割①：企業におけるトップの役割
- 第8回 トップ・マネジメントの職能と役割②：経営理念
- 第9回 トップ・マネジメントの職能と役割③：ドメインの設定
- 第10回 トップ・マネジメントの職能と役割④：社会的責任
- 第11回 トップ・マネジメントの職能と役割⑤：社会貢献活動
- 第12回 トップ・マネジメントの職能と役割⑥：企業不祥事
- 第13回 トップ・マネジメントの職能と役割⑦：カリスマ経営者とプロ経営者
- 第14回 トップ・マネジメントの職能と役割⑧：事業承継と後継者問題
- 第15回 ミドル・マネジメントの職能と役割①：企業におけるミドルの役割
- 第16回 ミドル・マネジメントの職能と役割②：ミドルの置かれている現状
- 第17回 ミドル・マネジメントの職能と役割③：ミドルに求められる資質
- 第18回 ミドル・マネジメントの職能と役割④：名ばかり管理職
- 第19回 ミドル・マネジメントの職能と役割⑤：管理職と長時間労働
- 第20回 ミドル・マネジメントの職能と役割⑥：部下育成と人材活用
- 第21回 ミドル・マネジメントの職能と役割⑦：女性管理職の現状
- 第22回 ミドル・マネジメントの職能と役割⑧：女性管理職の抱える課題
- 第23回 ミドル・マネジメントの職能と役割⑨：管理職の評価と育成
- 第24回 リーダーシップ研究の系譜①：管理者のリーダーシップ
- 第25回 リーダーシップ研究の系譜②：リーダーシップ理論（その1）
- 第26回 リーダーシップ研究の系譜③：リーダーシップ理論（その2）
- 第27回 リーダーシップ研究の系譜④：リーダーシップ理論（その3）
- 第28回 リーダーシップのあり方と現代のリーダーシップ
- 第29回 現代のリーダーシップの課題
- 第30回 講義全体の総括

毎回の講義終了後には、講義内容について30分程度で復習することが望ましい。

【授業の進め方】

本講義は、上記のような講義内容に関して、最新の事例や資料を用いて講義を行っていく。本講義では、多面的側面から企業組織における経営管理を捉えていくため、他の経営学関連の科目（経営学、経営戦略論、労務管理論、経営組織論、企業論など）をすでに履修していたり、今年度同時に履修していると理解しやすいと思われる。

【教科書（必ず購入すべきもの）】

本講義は、講義の際に配布するレジュメや資料などに基づいて講義を進めるため、教科書は特に指定しない。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 0%

特記事項

- ・その他、授業中の課題、授業への姿勢、出席点を加点する。なお、成績評価の対象は、講義回数の2／3以上出席した受講者とする。
- ・授業への姿勢については、受講者に質問し発言させる機会を多く設けているため、積極的に発言できる受講者を希望する。

【履修上の心得】

- ・受講者は毎回必ず出席すること。なお、講義回数の2／3以上出席しない受講者は成績評価の対象にはならない。
- ・講義中の私語および遅刻・途中退室は一切認めない。遅刻・途中退室は欠席扱いとする。
- ・レポート課題を提出しない受講者は成績評価の対象にはならない。
- ・受講者に質問し発言させる機会を多く設けている。したがって、受け身の姿勢ではなく、積極的に発言できる受講者を希望する。
- ・受講者は、企業社会をめぐるさまざまな問題、特に、経済や企業の動向に関心を持ち、日頃から新聞や雑誌などの企業経営に関する記事に興味・関心をもつことが必要である。

【科目のレベル、前提科目など】

- ・経営学関連の専門科目はほとんど関連する。
- ・経営管理論は経営学の主要科目として捉えられる。本講義とともに経営学関連の様々な科目を履修することを希望する。
- ・2年次に履修することが望ましい。

【備 考】

- ・講義内容および評価方法の詳細については、第1回の講義時に説明するので必ず出席すること。

科目名	マーケティング I
教員名	内堀 敬則

【授業の内容】

市場環境が刻々と変化するなかにあつて、企業が競争優位を維持し、持続的に利益を確保していくためには、顧客のニーズを探り、それを満たすように行動すること、すなわちマーケティング活動に取り組むことが欠かせなくなっている。

本講義では、マーケティング論の基本的な理論やコンセプトを理解しながら、社会に出てから顧客や組織に接する局面で有効な考え方や形式を身につけることを目的とする。

そのためにも、マーケティング戦略を策定・遂行するうえでのさまざまなツールとその問題点を明らかにしながら、具体的な企業や産業のケーススタディを提示し、理論と実態の両面についてより一層深く理解できるような構成とする。

【到達目標】

マーケティング論の基本的な理論やコンセプトを理解できるようになることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
予習：新聞・雑誌などでマーケティングに関する興味ある記事に目を通すこと。また、シラバスを熟読すること。
- 第2回 マーケティングの役割とは何か
予習：教科書の該当箇所に目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第3回 マーケティングマネジメントの基本枠組み
予習：教科書の該当箇所に目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第4回 マーケティングミックスとその基本プロセス
予習：教科書の該当箇所に目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第5回 製品・サービスとは何か
予習：教科書の該当箇所に目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第6回 製品・サービスの開発プロセスとアソートメント
予習：教科書の該当箇所に目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第7回 価格の役割と需要の価格弾力性
予習：教科書の該当箇所に目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第8回 戦略的な価格デザインとその事例
予習：教科書の該当箇所に目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第9回 流通チャネルの機能とその類型
予習：教科書の該当箇所に目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第10回 流通チャネルの有効性とその活用
予習：教科書の該当箇所に目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第11回 プロモーション戦略の選択－メッセージの選択－
予習：教科書の該当箇所に目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第12回 プロモーション戦略の選択－メディアの選択－
予習：教科書の該当箇所に目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第13回 組織をデザインするための要件
予習：教科書の該当箇所に目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第14回 「マーケティング戦略会議」 4Pデザインの実践
予習：具体的なマーケティング戦略について議論するので、最近のトレンドに関する新聞・雑誌を意識的に目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第15回 総括

予習：講座全体で配布した資料や教科書の該当箇所に目を通すこと。

復習：講座全体で配布した資料や教科書の該当箇所に目を通すこと。

テキストに沿って上記の論点を扱う。なお、授業の進捗状況と受講生の理解度を考慮し、計画を変更する可能性がある。

【授業の進め方】

毎回パワーポイントを用いながら、各種データや映像などさまざまなメディアを挿入するなどして立体的な講義を展開する。

受講者がアクティブに学ぶことができるよう、様々なデータを用いながら問いかけを行ない、発言する機会を多く設ける。また、より深い理解を得ることを狙い、講義終了後にショートレポートの提出を課し、その内容に対し翌週の講義の冒頭に解説を行う。14回目の「マーケティング戦略会議」では全員でアイデアを出しながら一つの戦略を導くような体験型授業を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①ゼミナール マーケティング入門 第2版 ②石井淳蔵・栗木契・嶋口充輝・余田拓郎 ③日本経済新聞社 ④2013
⑤3,456円 ⑥4532134390

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 40%

特記事項

受講態度（毎回の講義で課すショートレポートも含む）及び定期試験の結果を総合的に評価する。

なお、授業への積極的な参加・意見の発表も受講態度評価の対象とする。自ら進んで発言した者の名簿を作成し、加点の対象とする。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

遅刻者の受講は許可するものの、当日の評価はゼロ評価とする。

出席数が著しく少ない者は定期試験の受験資格を失う（受験資格のない者の学籍番号を試験前に張り出すので、掲示を見ること）。ただし、公欠の証明がある場合、受験資格を認めるので、「受験資格なし」の通知を受けた者のみ書面を期末にまとめて提出すること。なお、「欠席届」は定期試験の受験資格許可に限定するものであり、これによって平常点が加算されることはない。

【履修上の心得】

常に新聞や経済誌などで企業の最新のマーケティング事情をチェックし、自分なりの見方を持つこと。

指名されたときはどんな内容でも良いので意見を述べること。単に教室に座っている「受け身」の姿勢では出席の意味はない。

なお、私語する学生は座席変更や退出を命じる。また、携帯・スマートフォンなどの利用を発見した場合、没収する。

【科目のレベル、前提科目など】

マーケティング論についての入門科目。すべての学年・学部から受講可能。

【備考】

毎回の講義において学生証による電子データとショートレポート提出の両方を重視するので、必ず学生証を持参のうえ、ショートレポートを提出すること。

科目名	マーケティングII
教員名	内堀 敬則

【授業の内容】

マーケティング戦略を策定する際には、アプローチする市場について事前に分析することが欠かせない。また、産業のライフサイクルを概観したうえで、事業の統合範囲を適切に選択することや、ブランド力などの資源を市場においていかに構築するかということを経営者は常に問われている。

本講義では、こうしたマーケティング上の課題、すなわち消費者行動や競争構造など市場におけるダイナミズムについての理解を深めることを目的とする。具体的な企業や産業のケーススタディを豊富に提示しながら、理論と実態の両面についてより一層深く理解できるような構成とする。

【到達目標】

消費者行動や競争構造など市場におけるダイナミズムについての知見を深め、受講者各自がマーケティング上の手法を用いて市場を理解・分析できるようになることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
予習：新聞・雑誌などでマーケティングに関する興味ある記事に目を通すこと。また、シラバスを熟読すること。
- 第2回 消費者行動の理解 －「販売コンセプト」と「マーケティングコンセプト」
予習：教科書の該当箇所目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第3回 消費者行動の理解 －購買意思決定の分析－
予習：教科書の該当箇所目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第4回 市場細分化マーケティング －企業の対応策と市場細分化の軸－
予習：教科書の該当箇所目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第5回 市場細分化マーケティング －市場細分化戦略のポイント－
予習：教科書の該当箇所目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第6回 競争の場の枠組み
予習：教科書の該当箇所目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第7回 産業の収益性と競争構造
予習：教科書の該当箇所目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第8回 戦略グループと移動障壁
予習：教科書の該当箇所目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第9回 取引関係の構造
予習：教科書の該当箇所目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第10回 「統合」と「取引」取引コストと資源蓄積
予習：教科書の該当箇所目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第11回 取引コストと資源蓄積
予習：教科書の該当箇所目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第12回 産業のライフサイクルその1 ディファクトスタンダードと産業の離陸
予習：教科書の該当箇所目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第13回 産業のライフサイクルその2 産業の成長、成熟、衰退
予習：教科書の該当箇所目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第14回 ブランドのマネジメント
予習：教科書の該当箇所目を通すこと。
復習：配布した資料を読み返し、理解を深めること。
- 第15回 総括
予習：講座全体で配布した資料や教科書の該当箇所を読み返し、理解を深めること。

復習：講座全体で配布した資料や教科書の該当箇所を読み返し、理解を深めること。

テキストに沿って、上記のような論点を扱う。なお、授業の進行状況と受講生の理解度を考慮し、授業計画を変更する可能性がある。

【授業の進め方】

毎回パワーポイントを用いながら、各種データや映像などさまざまなメディアを挿入するなどして立体的な講義を展開する。

受講者がアクティブに学ぶことができるよう、様々なデータを用いながら問いかけを行ない、発言する機会を多く設ける。また、より深い理解を得ることを狙い、講義終了後にショートレポートの提出を課し、その内容に対し翌週の講義の冒頭に解説を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①ゼミナール マーケティング入門 第2版 ②石井淳蔵・栗木契・嶋口充輝・余田拓郎 ③日本経済新聞社 ④2013
⑤3,456円 ⑥4532134390

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 40%

特記事項

受講態度（毎回の講義で課すショートレポートも含む）及び定期試験の結果を総合的に評価する。

なお、授業への積極的な参加・意見の発表も受講態度評価の対象とする。自ら進んで発言した者の名簿を作成し、加点の対象とする。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

遅刻者の受講は許可するものの、当日の評価はゼロ評価とする。

出席数が著しく少ない者は定期試験の受験資格を失う（受験資格のない者の学籍番号を試験前に張り出すので、掲示を見ること）。ただし、公欠の証明がある場合、受験資格を認めるので、「受験資格なし」の通知を受けた者のみ書面を期末にまとめて提出すること。なお、「欠席届」は定期試験の受験資格許可に限定するものであり、これによって平常点が加算されることはない。

【履修上の心得】

常に新聞や経済誌などで企業の最新のマーケティング事情をチェックし、自分なりの見方を持つこと。

指名されたときはどんな内容でも良いので意見を述べること。単に教室に座っている「受け身」の姿勢では出席の意味はない。

なお、私語する学生は座席変更や退出を命じる。また、携帯・スマートフォンなどの利用を発見した場合、没収する。

【科目のレベル、前提科目など】

履修年次は問わないが、「マーケティングⅠ」を履修していることが望ましい。

「マーケティングⅠ」で学んだ基礎理論をベースに、市場の実態やマーケティング論の最新動向についてより深く理解することを狙う。

【備考】

毎回の講義において学生証による電子データとショートレポート提出の両方を重視するので、必ず学生証を持参のうえ、ショートレポートを提出すること。

科目名	人材マネジメント論 I
教員名	張 承玖

【授業の内容】

人材マネジメントは人的資源をマネジメントする手法であり、その目的は、企業にとって求められる人材像や組織行動を優れた投資対効果によって確保・実現することにある。そして、求められる人材像や組織行動は、それぞれの組織のしくみや経営環境によって大きく変わる。

そこで、本講義では、組織のしくみや経営環境の違いによって、必要とされる人材像や組織行動がどのように変わるのか、それに応じて人材マネジメントの在り方がどのように変わってくるのかというテーマを、さまざまなしくみのパターンの検証を通して、本質的に理解することを目的とする。

【到達目標】

まず、現行の労働市場環境を労働者側そして経営者側と、両方の立場から正しく理解し、リーダーとフォロワーの間のメカニズム、ヒトの働き方などについて真剣に議論しあい、理解できることを授業の到達目標とし、ナビゲートしていきたい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 組織とは
バーナードの組織の定義を中心に各自復習する (30分)
- 第3回 組織と個人との関係
個人の働く動機と組織の目標との関係、それぞれの本質などを中心に各自復習する (50分)
- 第4回 組織と個人のマネジメント
組織の7S、組織と個人のマネジメントの対象を中心に各自復習する (30分)
- 第5回 組織における有効性と能率
有効性と効率性(能率)の具体的事例などを調べる (50分)
ニッチとはなにかを有効性の概念を用いて定義づけてみる (30分)
- 第6回 組織均衡論の考え方
バーナードが提唱し、サイモンが受け継がれた組織均衡論を、組織の誘因と貢献など各自復習する (40分)
- 第7回 人材マネジメントとは
ヒトをどのように動かすべきかなど本質を各自考えてみる (20分)
- 第8回 経営戦略と人材マネジメント戦略
CHOはどのような存在なのかを含め、その果たすべき役割と育成方法について調べる (30分)
- 第9回 VOICEモデルとはなにか
バリュー・アプローチ、オポチュニティー・アプローチ、イノベーション・アプローチ、コミュニケーション・アプローチ、エンパワーメント・アプローチのシナジについて考えてみる (30分)
- 第10回 イノベーション・アプローチとその事例
特にイベント開催など具体的事例を調べる (40分)
- 第11回 リーダーシップ理論とその研究は、どのように発展してきたのか?①
リーダーに共通する特性、リーダーシップの本質を中心に各自復習する (30分)
- 第12回 リーダーシップ理論とその研究は、どのように発展してきたのか?②
リーダーシップと関連する組織行動を各自復習する (30分)
- 第13回 レベル5のリーダーシップ
2001年に出版されたジムコリンズ著『Good to Great(ビジョナリーカンパニー2)』を読んでレポート作成する(3週間)
- 第14回 フォロワーシップ
フォロワーシップとリーダーシップとの関係について各自復習する (20分)
- 第15回 総括
これまでの授業内容について復習(1日120分で2週間)

企業の人材マネジメントが企業全般のマネジメントにおいて果たす役割を説明する。それから、人材マネジメント論に関する諸学説や諸理論を概説し、その基本業務と企業経営の関連を考える。さらに、人材の流動化と新たな競争の現実という観点から、人材マネジメントとくに新雇用・人材開発システムの探求が、企業の戦略的目標にどう結びつくかを究明する。また、企業での雇用のダイナミズム、個の多様性および人材開発の考え方と方法、リーダーとフォロワーとの関係、人材マネジメントの在り方などを、多角的に解説する。

上記の授業計画は授業の進み具合によって、修正ないし変更することもあるので、注意してほしい。

【授業の進め方】

本講義では、人材マネジメント論をその歴史的な経緯まで遡って体系的に説明し、今後、企業社会に入っていったとき、自らキャリア選択を行ない、自分のキャリアをつくりあげていくうえでも役に立てるよう努めたい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使用しない。

プリントを配布する。

【参考図書】

『人的資源管理の理論と実際 改訂版』

山下洋史 東京経済情報出版

『モチベーション企業の研究－「働く野性」を引き出す組織デザイン』

野村総合研究所 東洋経済新報社

その他の参考図書については、随時、必要であれば私の方から紹介していく。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 10% 受講態度 20%

特記事項

成績評価は、定期試験、授業への積極的参加度（出欠の確認は不定期的に実施）、課題およびグループ・ディスカッションとし、総合的に判断する。

評価方法の比率は、定期試験70%、授業への積極的参加度20%（出欠の確認は不定期的に実施）、課題およびグループ・ディスカッション10%とする。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

受講生は各自自分の発言能力を高められるように努めてほしい。

積極的に発言しないと減点につながることもあるので、注意してほしい。

【履修上の心得】

受講者には理論の学習と同様に、現実の企業を取り巻く経営環境に関心を持ち、新聞・雑誌などの関係記事に親しむことを期待する。

【科目のレベル、前提科目など】

経営学、経営管理総論、経営組織論などで、履修推奨年次は2年生以上である。

【備 考】

授業内容は就活に役立つものが多々あると思うので、積極的に受講してほしい。

科目名	人材マネジメント論Ⅱ
教員名	張 承玖

【授業の内容】

人材マネジメントは、個人と組織が現行レベルのパフォーマンスを上回ることに貢献できたとき、その価値ならびに重要性が増してくる。コンピテンシーの方法は測定可能、開発可能な人間の特性に焦点を当て、卓越したパフォーマンスと、個人と組織の満足を予測する。コンピテンシーはすべての人事的機能とサービス（選抜、業績評価、キャリアプラン、後継者育成プラン、開発訓練、報酬）に共通する言語と方法を提供している。

そこで、本講義では、コンピテンシーの考え方と方法を中心に、問題解決とファシリテーションのスキル、さらに、最近多くの企業で、人材の採用や人材育成などの判断材料として導入しているEQ、ファシリテーションなども取り上げながら、人材マネジメントの在り方がどのように変わっていくのかというテーマを、さまざまなスキルの検証を通して、本質的に理解することを目的とする。

【到達目標】

まず、現行の労働市場環境を労働者側そして経営者側と、両方の立場から正しく理解し、ヒトの働き方など、人材マネジメントの在り方について真剣に議論しあい、理解できることを授業の到達目標とし、ナビゲートしていきたい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 組織における人間観
伝統的組織論、人間関係論、近代組織論について各自復習する（50分）
- 第3回 モチベーション理論①
マズローのX理論、Y理論を中心に各自復習する（30分）
- 第4回 モチベーション理論②
ハーズバーグの動機づけ、衛生理論を中心に各自復習する（30分）
- 第5回 人材育成の現状と課題
なぜ、人材育成がうまくいかないのか？、ヒトが育つ職場などに考えてみる（30分）
- 第6回 人材の評価と処遇
人事評価と人事考課の違いを中心に各自復習する（30分）
- 第7回 人材の配置と異動
人事異動と配置転換、その違いなどについて各自復習する（30分）
- 第8回 コンピテンシーの考え方など
コンピテンシーモデルが重視される理由と成功の条件について考えてみる（30分）
- 第9回 問題解決とファシリテーションのスキル
ファシリテーションの4つのポイントを中心に各自復習する（30分）
- 第10回 チームコーチングとは
どのように集団の知恵と力を引き出すのかについて各自復習する（30分）
- 第11回 EQとは
無料サイトにアクセスして、EQテストを实际受けてみる（30分）
- 第12回 EQ理論とは～感情能力の4つのブランチ～
ダニエル・ゴールマンのミックス・モデルについて各自復習する（30分）
- 第13回 EQの必要性和実現可能性についてグループ・ディスカッション①
グループ・ディスカッションでの論点を整理してみる（30分）
- 第14回 EQの必要性和実現可能性についてグループ・ディスカッション②
グループ・ディスカッションでの論点を整理してみる（30分）
- 第15回 総括
これまでの授業内容について復習（120分）

本講義では、コンピテンシーの考え方と方法を中心に、問題解決とファシリテーションのスキル、さらに、最近多くの企業で、人材の採用や人材育成などの判断材料として導入しているEQ、ファシリテーションなども取り上げながら、人材マネジメントの在り方がどのように変わっていくのかというテーマを、さまざまなスキルの検証を通して、多角的に解説する。

上記の授業計画は授業の進み具合によって、修正ないし変更することもあるので、注意してほしい。

【授業の進め方】

本講義では、人材マネジメント論をその歴史的な経緯まで遡って体系的に説明し、今後、企業社会に入っていったとき、自らキャリア選択を行ない、自分のキャリアをつくりあげていくうえでも役に立てるよう努めたい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使用しない。

プリントを配布する。

【参考図書】

『人的資源管理の理論と実際 改訂版』

山下洋史 東京経済情報出版

『コンピテンシー・マネジメントの展開』

ライルM.スペンサー、シグネM.スペンサー、梅津祐良、成田攻、横山哲夫（訳） 生産性出版

その他の参考図書については、随時、必要であれば私の方から紹介していく。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 10% 受講態度 20%

特記事項

成績評価は、定期試験、授業への積極的参加度（出欠の確認は不定期的に実施）、課題およびグループ・ディスカッションとし、総合的に判断する。

評価方法の比率は、定期試験70%、授業への積極的参加度20%（出欠の確認は不定期的に実施）、課題およびグループ・ディスカッション10%とする。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

受講生は各自自分の発言能力を高められるように努めてほしい。

積極的に発言しないと減点につながることもあるので、注意してほしい。

【履修上の心得】

受講者には理論の学習と同様に、現実の企業を取り巻く経営環境に関心を持ち、新聞・雑誌などの関係記事に親しむことを期待する。

【科目のレベル、前提科目など】

経営学、経営管理総論、経営組織論などで、履修推奨年次は2年生以上である。

【備 考】

授業内容は就活に役立つものが多々あると思うので、積極的に受講してほしい。

科目名	財務管理論
教員名	樋口 和彦

【授業の内容】

* 初回の授業時に、この科目独自の「授業登録」をし、準備するものなど大切な説明をするので初回からきちんと出席するようにしてください。

やむを得ない理由で初回授業を欠席した場合は大至急、研究室にきてください。

- (1) 企業の資本の調達ならびに運用に関する意思決定上の課題
- (2) 企業評価に関わる諸問題を考察する。

- * 企業における資本流動の基本的仕組みを理解すること
- * 企業評価の原理を理解することがこの授業の到達基本目標である。

【到達目標】

- (1) 企業における資本調達と運用に関する意思決定モデルの基本が理解できるようになること
- (2) 意思決定モデルを用いての（コンピュータ活用）具体的意思決定ができるようになること
- (3) 設備投資の重要性が理解できるようになること
- (4) 在庫投資の必要性が理解できるようになること

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス、授業の準備、授業のねらいの説明
授業登録 メール送信上の注意
* 時間内にこの科目独自の授業登録を各自で行います。
* この回は特に予習・復習は必要ありませんが、「メール送信上の注意」に関して、その手順をノートにまとめてください。
- 第2回 メールの設定、ネットワーク、ネットワークドライブの活用
予習・復習：20分 * 「メール送信上の注意」を確認して授業に臨んでください。
- 第3回 フォルダの作成、データファイルの構築
予習・復習：20分 * 「メールの設定」「ネットワークドライブ活用」を確認して授業に臨んでください。
- 第4回 データファイルの読み込みと表示、追加構築その1
予習・復習：30分 * 「DF構築」を確認して授業に臨んでください。
- 第5回 データファイルの読み込みと表示、追加構築その2
予習・復習：30分 * 「DFへのアクセス」を確認して授業に臨んでください。
- 第6回 プロジェクトの評価、回収期間法の考え方と処理
予習・復習：30分 * 「DFにアクセスし、加工する「手順」を確認して授業に臨んでください。
- 第7回 回収期間法での処理その2
予習・復習：30分 * 「回収期間法」の考え方を確認して授業に臨んでください。
- 第8回 回収期間法の問題点と現在価値の重要性
予習・復習：40分 * 「回収期間法」を用いてのプロジェクト評価手順を確認して授業に臨んでください。
- 第9回 純現在価値法の考え方
予習・復習：40分 * 「回収期間法」の問題点（その発生要因も含めて）を確認して授業に臨んでください。
- 第10回 純現在価値法による評価その1
予習・復習：30分 * 「回収期間法」⇒「純現在価値法」の流れに関して「PV：現在価値」を中心にその理由を明確にして、授業に臨んでください。
- 第11回 純現在価値法による評価その2
予習・復習：40分 * 「純現在価値法」の手順に従ってプロジェクトの評価（まずは数値例）が具体的にできるようにしてください。
- 第12回 内部利益率法の考え方
予習・復習：40分 * 「純現在価値法」の特徴を良く確認して、「内部利益率」の考え方との共通点と相違点が把握できる準備をして授業に臨んでください。
- 第13回 内部利益率法による評価その1
予習・復習：40分 * 「内部利益率」法では、あくまでも「近似値」を求めることになる理由を考えて、授業に臨んでください。
- 第14回 内部利益率法による評価その2
予習・復習：40分 * 「内部利益率法」の手順に従ってプロジェクトの評価（まずは数値例）が具体的にできるようにしてください。
- 第15回 ニュートン法の考え方
予習・復習：40分 * 近似値を少しでも効率的に求める方法について、各自調べて授業に臨んでください。
- 第16回 内部利益率法へのニュートン法の適用

- 予習・復習：40分 * ニュートン法の内部利益率法への適用方法について確認してください。
- 第17回 ニュートン法の効果の測定
予習・復習：40分 * 何回かシュミレーションを行い、ニュートン法の威力を実感してください。
- 第18回 資本コストが意味するもの
予習・復習：30分 * 「資本コスト」とは何か？各自で調べて授業に臨んでください。
- 第19回 資本コストを中心として、純現在価値法と内部利益率法との比較
予習・復習：40分 * 両評価方法における資本コストの位置づけの共通点、相違点に関してまとめてください。
- 第20回 まとめ1（プロジェクト評価についてのまとめ）
予習・復習：50分 * これまでに、学んだ3つの評価方法の考え方ならびに近似値を効率的に求める方法についてまとめてください。
- 第21回 在庫の必要性と在庫関連費用について
予習・復習：30分 * 企業経営において、何故？在庫が必要となるのかを調べて授業に臨んでください。
- 第22回 在庫関連費用についての関連性分析（散布図）
予習・復習：30分 * 「2つの在庫関連費用」が何故？相反する動きをするのか？その理由をまとめてください。
- 第23回 最適発注量（EOQ）の決定方法
予習・復習：30分 * 「最適とは」？どのような状態なのか各自調べて授業に臨んでください。
- 第24回 需要データファイルの構築
予習・復習：40分 * EOQ公式の展開について確認しておいてください。
また、第3回目で学んだ内容を確認して授業に臨んでください。
- 第25回 定量発注法の考え方
予習・復習：30分 定量発注法の考え方をまとめてください。
- 第26回 定量発注法による意思決定
予習・復習：40分 * 数値例でのシュミレーションも含めて、この発注法での意思決定結果を確認してください。
- 第27回 定期発注法の考え方と意思決定
予習・復習：30分 * 定期発注法の考え方を確認して授業に臨んでください。
40分 * 定期発注法での意思決定結果の「よみかた」について確認してください。
- 第28回 損益分岐点分析と営業レバレッジ
予習・復習：30分 * 財務レバレッジに関して各自で調べて授業に臨んでください。
- 第29回 まとめ2（在庫管理についてのまとめ）
予習・復習：50分 * 在庫関連費用、最適在庫量の決定、発注法に関して確認して授業に臨んでください。
- 第30回 まとめ3（財務意思決定についての総まとめ）
予習・復習：50分
* プロジェクトの評価方法
* 在庫関連費用、最適在庫量の決定、発注法
* 財務レバレッジ
に関して確認して授業に臨んでください。

- (1) まずは「考え方」「理論」を学ぶ
 - (2) 次にその「理論」を確認（数値例を用いて、コンピュータで処理）
 - (3) 分析してその結果をまとめる
- この手順で授業をすすめていく。

【授業の進め方】

Semester制（週2回授業・半期完結）で授業を行う。
財務意思決定のモデル、主として数量モデルの内容を分析していく。
そのときにそのモデルを抽象的にみていくのではなく、実際にそのモデルを操作してみ（コンピュータを活用して）具体的に確認していく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書に関しては、後に指示する。

【参考図書】

参考図書に関しては、後に指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

定期試験は行わない予定。

毎回の授業への取り組み姿勢とその成果（時間内レポート）を第一に重要視する。

上記「評価比率」であるが便宜上合計すると100%になるように記載してあるが、これは各評価項目がその比率に達すれば単位を認定するという意味ではなく、全ての項目に合格しなければ単位を認定することはできないので注意すること。毎回の授業内容のまとめを行う「時間内レポート」をきちんとのまとめることが重要。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

毎回の授業の後半に、その日の内容をまとめる（多少の応用も含む）レポートを提出（時間内）

時間内にレポートをまとめ切ることが出来なかった場合は追加レポートを提出（電子メール）

次の授業時に前回授業時のレポート内容の解説・確認を行うので、その後必要であれば修正レポートを提出（電子メール）

これらのことを毎回きちんと行っていくことが大切である。

【履修上の心得】

会計的分析を中心とするのではなく、資本市場の機能からアプローチをする財務管理であることに注意してほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

この科目は、2年次以降から履修することが望ましい。

関連科目：企業の資本の調達と運用意思決定を主要テーマとしているので、経営情報コースの内容に最も関連が深い。

特に関連が深い科目として、経営数学、統計学、数理統計学、金融論、資本市場論、計量経済学等があげられる。

またコンピュータの活用も取り上げるので、その関連科目とも密接な関連がある。

コンピュータの活用も積極的に取り入れるので、その基礎がある程度身に付いてからの履修が望ましいので、2年次以降に履修することを原則とする。

企業行動における“血液の流れ”を理解する科目である。

【備 考】

第1回目の授業時に、準備するもの、レポートの提出要領など重要な説明を行う

科目名	プログラミング言語論
教員名	山崎 浩一

【授業の内容】

プログラミングの際に必要な基礎的な知識を習得することを目的とする。
 C言語やJava等などの特定のプログラミング言語の文法の習得は目的としない。
 今後新しく登場したプログラミング言語でも対応出来き得る本質的(普遍的)な知識の習得を目的とする。
 願わくば本講義で得た本質的な知識を、実際の具体的なプログラミング言語に応用できるようになれば幸いである。
 本講義ではそこまでは目的としないが、その準備として位置づけられる知識の習得を目的とする。

【到達目標】

実際の具体的なプログラミング言語を学ぶために必要となる知識の習得。

【授業計画】

- 第1回 001～006：コンピュータの構成について(CPU, メモリ, アドレス, レジスタ) (復習20分)
 第2回 007～011：コンピュータの構成について(RAM・ROM, バス, 入出力, ビット)) (復習20分)
 第3回 012～018：コンピュータの内部表現(2進数, 8進数, 16進数)) (復習20分)
 第4回 019～024：コンピュータの内部表現(バイト, 2の補数表現, コード)) (復習20分)
 第5回 025～027：コンピュータの内部表現(文字コード, 文字列)) (復習20分)
 第6回 028～036：ビットデータの操作(論理演算)) (復習20分)
 第7回 037～044：ビットデータの操作(シフト演算)) (復習20分)
 第8回 045～048：I/O制御(周辺装置との入出力) (復習20分)
 第9回 049～052：I/O制御(割込み処理) (復習20分)
 第10回 053～055：プログラムが動く仕組み(PC, クロック, レジスタ) (復習20分)
 第11回 056～059：プログラムが動く仕組み(FR, 比較演算, ロード・ストア) (復習20分)
 第12回 060～063：プログラムが動く仕組み(即値, レジスタ間接, オフセット付き, PC相対, 条件分岐) (復習20分)
 第13回 1回から12回までの復習 (復習20分)
 第14回 064～067：プログラムが動く仕組み(条件分岐) (復習20分)
 第15回 068～070：プログラムが動く仕組み(サブルーチン) (復習20分)

講義で習った用語などをインターネットを通して調べ直す復習を20分程度行う。調べて新たな疑問が生じた場合は次の講義で質問をする。

【授業の進め方】

C言語やJava等などのプログラミング言語に共通する本質的(結果基礎的)な事柄について講義する。
 そのためC言語やJava等の具体的なプログラミング言語を用いずに講義を進める。
 プログラミング未経験者でも理解できるように、講義ではなるべく日常生活にたとえた話で説明し、プログラミングに関する知識がない受講者でも理解できるような講義を心がける
 (知識を必要としない分、考える力が必要となる)。

基本的に座学だが、毎回授業の最後に授業内小試験を行い、理解の度合いを確認する。
 講義の最後に行う授業内小試験のポイントを、講義中に説明する。
 その説明をきちんと聴いて理解できていれば、授業内小試験で点数が取れるようになっている。
 この説明で、もし分からない点があれば、授業中に質問し、分からない点をクリアにすることが重要となる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

下記参考図書の購入が望ましい。

【参考図書】

書名：「プログラミング」のキホン(イチバンやさしい理工系)
 ISBN：4797366516
 著者名：杉浦 賢
 出版社：ソフトバンククリエイティブ
<http://www.sbc.jp/products/4797366518.html>

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 100% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

毎回の授業内小試験の合計点での評価を基本とするが、状況によってはレポート課題も追加出題する。

その場合は、追加出題したレポートも加味し評価する。

評価は毎回の授業内小試験の合計値(およびレポートを追加出題した場合、そのレポートの採点結果も加味した上)で判定する。

授業内小試験で6割以上出来ていないと原則不可となる。

授業内小試験 100%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席回数が全体の2/3以上でなければならないが、単に出席しているだけでは単位取得はできない。

原則として、出席は評価を受けるための必要条件。

授業内小試験で6割以上出来ていないと(たとえ15回出席していても)原則不可となる。

【履修上の心得】

授業中分からないことを質問することが大事。

科目名	アルゴリズム論 I
教員名	山崎 浩一

【授業の内容】

より高度なアルゴリズムを学ぶために必要となる基礎的な事柄について学び、基本的知識の習得およびそれらが活用できるまでを目的とする。

【到達目標】

より高度なアルゴリズムを学ぶために必要となる基本的知識の習得。

【授業計画】

- 第1回 アルゴリズムとは (復習20分)
- 第2回 変数について (復習20分)
- 第3回 配列について (復習20分)
- 第4回 データ構造：スタック、キュー (復習20分)
- 第5回 データ構造：リスト、2分木 (復習20分)
- 第6回 データ構造：ハッシュ、グラフ (復習20分)
- 第7回 基本的なアルゴリズム：合計や平均を求める (復習20分)
- 第8回 基本的なアルゴリズム：最大・最小値を求める, 最大公約数を求める (復習20分)
- 第9回 第1回から8回までの復習 (復習20分)
- 第10回 ソートアルゴリズム：ソートアルゴリズムとは, バケツ法, 単純選択法 (復習20分)
- 第11回 ソートアルゴリズム：バブルソート, 単純挿入法, シェルソート (復習20分)
- 第12回 ソートアルゴリズム：マージソート, クイックソート, ヒープソート (復習20分)
- 第13回 2分探索法 (復習20分)
- 第14回 文字列検索：KMP法, BM法 (復習20分)
- 第15回 グラフアルゴリズム：ダイクストラ法 (復習20分)

インターネットを通して、講義で習ったアルゴリズムを調べ直す復習を20分程度行う。例えばネット上では、様々なアルゴリズムが様々なプログラミング表現で書かれている。それらを見比べるなどするとより理解が深まる。

【授業の進め方】

知識と考え方の両方を必要とするため、受講生の理解の度合いを確かめながら進めることを心がける。21世紀を生き抜くために必要とされる計算論的思考(Computational Thinking)を鍛える講義である。基本的に座学だが、毎回授業の最後に授業内小試験を行い、理解の度合いを確認する。講義の最後に行う授業内小試験のポイントを、講義中に説明する。その説明をきちんと聴いて理解できていれば、授業内小試験で点数が取れるようになっている。この説明で、もし分からない点があれば、授業中に質問し、分からない点をクリアにすることが重要となる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

下記参考図書の購入が望ましい。

【参考図書】

書名 : 「アルゴリズム」のキホン (イチバンやさしい理工系シリーズ)
 ISBN : 4797360690
 著者名: 杉浦 賢
 出版社: ソフトバンククリエイティブ
<http://www.sbcr.jp/products/4797360691.html>

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 100% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

毎回の授業内小試験の合計点での評価を基本とするが、状況によってはレポート課題も追加出題する。その場合は、追加出題したレポートも加味し評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席回数が全体の2/3以上でなければならないが、単に出席しているだけでは単位取得はできない。原則として、出席は評価を受けるための必要条件。授業内小試験で6割以上出来ていないと(たとえ15回出席していても)原則不可となる。

【履修上の心得】

授業中分からない点を質問することが大事です。

科目名	アルゴリズム論II
教員名	山崎 浩一

【授業の内容】

アルゴリズムIで習った事柄をベースにし、より高度なアルゴリズムについて学ぶ。
知識の習得はもとより習得した知識が実際に応用できるようになるまでを目的とする。

【到達目標】

知識の習得はもとより習得した知識が実際に応用できるレベル。

【授業計画】

- 第1回 1章：アルゴリズムとは（予習30分）
- 第2回 2章：プログラムの正当性（予習30分）
- 第3回 3章：探索木（予習30分）
- 第4回 4章：最小全域木（予習30分）
- 第5回 第1回から4回までの復習（予習30分）
- 第6回 5章：高速演算(カラツバ・オフマン)（予習30分）
- 第7回 5章：高速演算(シュトラッセン)（予習30分）
- 第8回 6章：分割問題（予習30分）
- 第9回 7章：逐次ソート(決定木)（予習30分）
- 第10回 第6回から9回までの復習（予習30分）
- 第11回 8章：ヒープと併合(ヒープ)（予習30分）
- 第12回 8章：ヒープと併合(併合)（予習30分）
- 第13回 9章：ハッシュ（予習30分）
- 第14回 10章：素数(確率的アルゴリズム)（予習30分）
- 第15回 11章：文字列探索（予習30分）

最低1回は事前に習う章を読んでおく(30分程度)。読んでみて不明な箇所にマークなどつける。マークの付いた不明な箇所を講義中に質問する。

【授業の進め方】

知識と考え方の両方を必要とするため、受講生の理解の度合いを確かめながら進めることを心がける。
基本的に座学だが、毎回授業の最後に授業内小試験を行い、理解の度合いを確認する。
講義の最後に行う授業内小試験のポイントを、講義中に説明する。
その説明をきちんと聴いて理解できていれば、授業内小試験で点数が取れるようになっている。
この説明で、もし分からない点があれば、授業中に質問し、分からない点をクリアにすることが重要となる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

下記参考図書の購入が望ましい。

【参考図書】

書名：アルゴリズムとデータ構造(チューリングオムニバス：コンピュータサイエンスへの旅:第1巻)
ISBN-10: 4501519509
著者名：A.K.デュードニー著 足立暁生訳
出版社：東京電機大学出版局

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 100% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

毎回の授業内小試験の合計点での評価を基本とするが、状況によってはレポート課題も追加出題する。
その場合は、追加出題したレポートも加味し評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席回数が全体の2/3以上でなければならないが、単に出席しているだけでは単位取得はできない。
原則として、出席は評価を受けるための必要条件。
授業内小試験で6割以上出来ていないと(たとえ15回出席していても)原則不可となる。

【履修上の心得】

授業中に分からない点を質問することが大事

【科目のレベル、前提科目など】

アルゴリズム論I, プログラミング言語論

科目名	情報セキュリティ
教員名	山崎 浩一

【授業の内容】

情報セキュリティの、特に暗号やプロトコルに関する基本的な考え方の習得を目的とする。考え方の習得なので、知識の習得を目的とする講義とは異なる。インターネットが安心して利用できる仕組みを、楽しく分かりやすく説明する。

【到達目標】

暗号やプロトコルに関する原理や基本となる考え方の習得。

【授業計画】

- 第1回 統計情報（復習20分）
- 第2回 合同演算（逆元）（復習20分）
- 第3回 合同演算（計算法）（復習20分）
- 第4回 暗号の基礎となる数学（復習20分）
- 第5回 公開鍵暗号（割算）（復習20分）
- 第6回 公開鍵暗号（離散対数）（復習20分）
- 第7回 プロトコル（SnailPoker）（復習20分）
- 第8回 プロトコル（ParcelPoker）（復習20分）
- 第9回 プロトコル（EmailPoker）（復習20分）
- 第10回 プロトコルで使われる基本的な方法（復習20分）
- 第11回 零知識証明（HamiltonCycle）（復習20分）
- 第12回 フィンガープリント（復習20分）
- 第13回 電子署名（復習20分）
- 第14回 PKIとSSL（復習20分）
- 第15回 疑似乱数生成（復習20分）

講義で習った用語をインターネットで調べ直す復習を20分程度行う。第2, 3回では、事前に剰余演算(mod)とは何かを調べておく。第12, 13, 14回では、フィンガープリント、電子署名、PKI、SSLについてインターネット等で事前に調べておく。

【授業の進め方】

基本的に座学だが、毎回授業の最後に授業内小試験を行い、理解の度合いを確認する。講義の最後に行う授業内小試験のポイントを、講義中に説明する。その説明をきちんと聴いて理解できていれば、授業内小試験で点数が取れるようになっている。この説明で、もし分からない点があれば、授業中に質問し、分からない点をクリアにすることが重要となる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に指定するものはない。

【参考図書】

参考書：Algorithms Unplugged
出版社：Springer
ISBN-10:3642153275

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 100% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

毎回の授業内小試験の合計点での評価を基本とするが、状況によってはレポート課題も追加出題する。その場合は、追加出題したレポートも加味し評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席回数が全体の2/3以上でなければならないが、単に出席しているだけでは単位取得はできない。原則として、出席は評価を受けるための必要条件。授業内小試験で6割以上出来ていないと（たとえ15回出席していても）原則不可となる。

【履修上の心得】

考える力が必要な科目。ある数で割った余りを求めるなどの簡単な計算(剰余演算)を行う。

科目名	情報処理演習 I
	情報社会とデータベース
教員名	井田 憲一

【授業の内容】

現代のような情報社会における経営へのコンピュータ活用で最も重要なことは、どのような問題に対して、どのようにセキュリティを確保しつつどのような形で活用すれば良いかということである。そのためには、情報倫理やセキュリティに関する知識とともにデータベースや情報ネットワーク化の基本的な知識と技術を習得する必要がある。

本授業では、コンピュータとインターネットの基本的な仕組み、および情報倫理やセキュリティについて取り上げるとともに、経営における情報化の進展について、特にデータベースの基礎的な知識と理解を深める。

【到達目標】

1. コンピュータやインターネットの基本的な仕組みが説明でき、現代のような情報社会において倫理的な行動がとれるようになる。
2. コンピュータや各種ソフトウェアの基本的操作ができるようになる。
3. パソコンを活用した情報処理能力、さらには情報表現能力と情報分析能力の基本を身につけることができるようになる。

【授業計画】

- 第1回 授業ガイダンスとAccessの基本操作。
Accessの基本操作について予習・復習する（60分）。
- 第2回 Access入門／データベースとテーブルの作成(1) 解説。
上記内容についてテキストを予習・復習する（60分）。
- 第3回 Access入門／データベースとテーブルの作成(2) 演習。
上記内容について課題を完成する（120分）。
- 第4回 Access入門／クエリの作成(1) 解説
上記内容についてテキストを予習・復習する（60分）。
- 第5回 Access入門／クエリの作成(2) 演習。
上記内容について課題を完成する（120分）。
- 第6回 Access入門／フォームの作成と編集(1) 解説。
上記内容についてテキストの予習・復習する（60分）。
- 第7回 Access入門／フォームの作成と編集(2) 演習。
上記内容について課題を完成する（120分）。
- 第8回 Access入門／レポートの作成と編集。
上記内容について課題を完成する（60分）。
- 第9回 情報社会の発展と現状。
上記内容について予習・復習する（60分）。
- 第10回 コンピュータの基本的仕組み。
上記内容について予習・復習する（60分）。
- 第11回 周辺装置とデータ表現。
上記内容について予習・復習する（60分）。
- 第12回 インターネットの基本的仕組み。
上記内容について予習・復習する（60分）。
- 第13回 インターネットの活用。
上記内容について予習・復習する（60分）。
- 第14回 情報倫理とコンピュータ・セキュリティ。
上記内容について予習・復習する（60分）。
- 第15回 総合演習。
上記内容について予習・復習する（60分）。

毎回課される課題演習を通じて、受講者自らの問題発見・解決能力及びプレゼンテーション能力の基礎的養成を目指す。

【授業の進め方】

授業の前半は、指定の教科書を使って基礎的な講義ならびに課題提示、パソコンによるその課題演習を繰り返し行う。ソフトはAccess2010を使用する。後半では、情報リテラシーに関するプリントを使って講義中心に適宜演習を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①Microsoft Access2010 基礎セミナーテキスト ③日経BP社 ④2010 ⑤1,700円+税 ⑥978-4-8222-9305-5

他に、プリントを配布

【参考図書】

1. 師啓二・樋口和彦・船田眞里子・黒澤和人著：現代の情報科学，学文社，2010，ISBN978-4-7620-2258-6，2,900円+税
2. 元木洋子著：ひと目でわかるAccess2010，日経BP社，2010，ISBN978-4-8222-9412-0 1,580円+税

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 40% レポート・課題 50% 受講態度 10%

特記事項

1. 授業の性格上、授業への出席と課題の取り組み姿勢を重視する。毎回の出席は不可欠な要件である。
2. 授業内小試験については、授業の後半終了時に1回行う予定である。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

当該科目のすべての授業回数の3分の2以上出席しており、授業内小試験、レポート・課題と授業態度の成績を合わせた総合評価（100点満点）が60点以上を合格とする。

【履修上の心得】

できれば「情報処理演習Ⅱ/情報処理Ⅱ」を続けて履修することが望ましい。

【科目のレベル、前提科目など】

「経営情報科学Ⅰ」を履修していることが望ましい。現代の情報化社会において、経営を情動的に理解し、より実践的に対応していくための科目であり、経営情報科学のアドバンス科目の一つである。

【備 考】

特になし。

科目名	情報処理演習Ⅱ
	データベースの基礎から実用へ
教員名	井田 憲一

【授業の内容】

現代のような情報社会における経営へのコンピュータ活用で最も重要なことは、どのような問題に対して、どのようにセキュリティを確保しつつどのような形で活用すれば良いかということである。そのためには、前期科目「情報処理演習Ⅰ/情報処理Ⅰ」で取り上げた情報倫理やセキュリティに関する知識とともに、ネットワーク社会のもつ危険性を十分考慮したデータベースの構築や情報ネットワーク化を行う必要がある。

本授業では、「情報処理演習Ⅰ/情報処理Ⅰ」受講者程度の知識・技術を習得していることを前提に、実用に即したデータベース開発が可能となるような応用知識・技術の獲得を目指す。ただし、「情報処理演習Ⅰ/情報処理Ⅰ」未受講の学生にも十分理解が可能なるよう配慮し、データベースの基礎的な知識から実用へと演習・課題によってステップアップできるようにしている。

【到達目標】

1. Accessの操作を通してパソコンを活用した実用に供し得る情報処理能力、さらには情報表現能力と情報分析能力を身につけることができるようになる。
2. 効率的なデータ分析や実用的なデータベースアプリケーションの作成など、データベースを活用できるようになる。

【授業計画】

- 第1回 授業ガイダンスとAccessの基本操作。
上記内容について基本操作を予習・復習する（60分）。
- 第2回 Access基礎/Accessの基本操作とデータベースの設計。
上記内容について予習・復習する（90分）。
- 第3回 Access応用/リレーションシップの作成(1) 解説。
上記内容についてテキストの予習・復習する（60分）。
- 第4回 Access応用/リレーションシップの作成(2) 演習。
上記内容について課題を完成する（120分）。
- 第5回 Access応用/クエリの作成(1) 解説。
上記内容についてテキストの予習・復習する（60分）。
- 第6回 Access応用/クエリの作成(2) 演習。
上記内容について課題を完成する（120分）。
- 第7回 Access応用/フォームの作成と編集(1) 解説。
上記内容についてテキストの予習・復習する（60分）。
- 第8回 Access応用/フォームの作成と編集(2) 演習。
上記内容について課題を完成する（120分）。
- 第9回 Access応用/レポートの作成と編集(1) 解説。
上記内容についてテキストの予習・復習する（60分）。
- 第10回 Access応用/レポートの作成と編集(2) 演習。
上記内容について課題を完成する（120分）。
- 第11回 Access応用/マクロの作成と利用。
上記内容について課題を完成する（60分）。
- 第12回 Access応用/ピボットテーブルの活用。
上記内容について課題を完成する（60分）。
- 第13回 Access応用/Accessの便利な活用法。
上記内容について課題を完成する（60分）。
- 第14回 Access応用/総合演習(1) 解説と演習。
上記内容について課題を完成する（120分）。
- 第15回 Access応用/総合演習(2) 演習。
上記内容について課題を完成する（120分）。

毎回課される課題演習を通じて、受講者自らの問題発見・解決能力及びプレゼンテーション能力の実践的養成を目指す。授業の最後に、具体的な応用課題で問題発見・解決能力及びプレゼンテーション能力の確認を行う。

【授業の進め方】

指定の教科書と使って項目ごとに基本的な解説ならびに課題提示と、パソコンによるその課題演習という形を繰り返して行う。ソフトはAccess2010を使用する。担当教員は、演習の導入を行うとともに、演習の各過程に対し助言・指導を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

【参考図書】

1. 師啓二・樋口和彦・船田眞里子・黒澤和人著：現代の情報科学，学文社，2010，ISBN978-4-7620-2258-6，2,900円+税
2. Microsoft Access2010 基礎セミナーテキスト，日経BP社，2010，ISBN978-4-8222-9305-5，1,700円+税
3. 元木洋子著：ひと目でわかるAccess2010，日経BP社，2010，ISBN978-4-8222-9412-0 1,580円+税

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 40% レポート・課題 50% 受講態度 10%

特記事項

1. 授業の性格上、授業への出席と課題の取り組み姿勢を重視する。毎回の出席は不可欠な要件である。
2. 授業内小試験については、各項目終了時に毎回行う予定である。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

当該科目のすべての授業回数の3分の2以上出席しており、授業内小試験、レポート・課題と授業態度の成績を合わせた総合評価（100点満点）が60点以上を合格とする。

【履修上の心得】

できれば、「情報処理演習Ⅰ/情報処理Ⅰ」と「経営情報科学Ⅰ」を履修していることが望ましい。

【科目のレベル、前提科目など】

「情報処理演習Ⅰ/情報処理Ⅰ」と「経営情報科学Ⅰ」を履修していることが望ましい。現代の情報化社会において、経営を情動的に理解し、より実践的に対応していくための科目であり、経営情報科学のアドバンス科目の一つである。

【備考】

特になし。

科目名	WebプログラミングI
教員名	船田 眞里子

【授業の内容】

本講義では、現在使用されているコンピュータの動作原理やハードの制約から生じている諸問題を意識しつつ、プログラミング言語Cの入門的学習を行います。そのため、コンピュータ内での数値や文字の表現にも言及し、手続き型プログラミング言語の特徴の理解を目標とします。一つの分野に関する深い理解はその関連分野への応用を可能とし、変化に対応する柔軟な思考力を形成することが期待されます。プログラムの文法を学ぶだけに留まらない講義にしたいと考えています。本科目に続くWEBプログラミングIIと合わせて、WEBプログラミングを学習します。能動的な取り組み（アクティブ・ラーニング）ができるように演習（体験的学習）時間は十分確保するようにしています。また、プログラムの作成は問題解決学習の一つで、プログラムを完成させるまでの周囲の学生との話し合いはグループ・ディスカッションです。

【到達目標】

- (1) コンピュータ内でのデータ（数字・文字・記号）の表現法がわかる。
- (2) C言語の枠組み・基本文法がわかる。
- (3) 順次構造、選択構造、反復構造がわかる。
- (4) 基本的なアルゴリズムをプログラムで実現できる。
- (5) モジュール化の効用がわかる。
- (6) call by value（値呼出し）とcall by reference（参照呼出し）がわかる。
- (7) recursive call（再帰呼出し）がわかり、プログラムが書ける。

【授業計画】

- 第1回 講義のガイダンス、WebClassの活用法と簡単なプログラミング
復習：授業内容の復習（ノート作り）と宿題を行う（30分）。
予習：次回の講義内容を確認し、予習確認課題に解答する（30分）。
ただし、両教材ともWebClassで配布する（以下同様）。
- 第2回 コンピュータ内部の数値表現1（正の整数）と簡単なプログラム
復習：授業内容の復習（ノート作り）と宿題を行う（30分）。
予習：次回の講義内容を確認し、予習確認問題に解答する（30分）。
- 第3回 プログラミング言語の基礎知識とコンピュータ内部の数値表現2（負の整数）（コンパイルと実行）
復習：授業内容の復習（ノート作り）と宿題を行う（30分）。
予習：次回の講義内容を確認し、予習確認問題に解答する（30分）。
- 第4回 C言語の処理手順（コンパイルと実行）とプログラムの処理構造と四則演算
復習：授業内容の復習（ノート作り）と宿題を行う（30分）。
予習：次回の講義内容を確認し、予習確認問題に解答する（30分）。
- 第5回 コンピュータ内部の数値表現3（浮動小数点数）、プログラムの処理構造と繰り返し（while文）
復習：授業内容の復習（ノート作り）と宿題を行う（30分）。
予習：次回の講義内容を確認し、予習確認問題に解答する（30分）。
- 第6回 コンピュータ内部の数値表現4（浮動小数点数）、データの型と演算ルール、浮動小数点数に関する繰り返し（while文）
復習：授業内容の復習（ノート作り）と宿題を行う（30分）。
予習：次回講義内容を確認し、予習確認問題に解答する（30分）。
- 第7回 繰り返し構造（for文）と記号定数
復習：授業内容の復習（ノート作り）と宿題を行う（30分）。
予習：次回の講義内容を確認し、提出用の課題を行う（30分）。
- 第8回 while文とfor文の演習
復習：授業内容の復習（ノート作り）と宿題を行う（30分）。
予習：次回の講義内容を確認し、予習確認問題に解答する（30分）。
- 第9回 コンピュータ内部の文字の表現とファイルのコピー
復習：授業内容の復習（ノート作り）と宿題を行う（30分）。
予習：次回の講義内容を確認し、予習確認問題に解答する（30分）。
- 第10回 ファイルの行数、文字数のカウント
復習：授業内容の復習（ノート作り）と宿題を行う（30分）。
予習：次回の講義内容を確認し、予習確認問題に解答する（30分）。
- 第11回 オートマトンの定義と演習
復習：授業内容の復習（ノート作り）と宿題を行う（30分）。
予習：次回の講義内容を確認し、予習確認問題に解答する（30分）。
- 第12回 オートマトンを用いた単語のカウント
復習：授業内容の復習（ノート作り）と宿題を行う（30分）。

予習：次回の講義内容を確認し、予習確認問題に解答する（30分）。

第13回 配列を用いた文字別の個数のカウント

復習：授業内容の復習（ノート作り）と宿題を行う（30分）。

予習：次回の講義内容を確認し、予習確認問題に解答する（30分）。

第14回 関数1 (call by value, call by reference)、最終レポートの提示

復習：授業内容の復習（ノート作り）と最終レポートの課題を行う（30分）。

予習：次回の講義内容を確認し、予習確認問題に解答する（30分）。

第15回 関数2 (recursivel call) とまとめ、最終レポートの提出

復習：全講義内容のまとめを行う（60分）。

【授業の進め方】

次の手順で講義を進めます。

- (1) 前回の講義内容の復習・宿題の解答と説明
- (2) 毎回の講義で加わる新たな内容の説明
- (3) 説明を理解するための例題の提示
- (4) 例題に関係する演習問題の提示と説明
- (5) 演習問題のプログラムの作成
- (6) 各回の内容に関する宿題の配布

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ・教材は毎回WebClass等で配布します。
- ・教科書がどうしても必要な場合は、参考図書の2番目の訳本を書店にて購入してください。

【参考図書】

- ・"The C Programming Language", Second Edition, Brian W. Kernighan and Dennis M. Ritchie, Prentice Hall, Inc., 1988
- ・「プログラミング言語C 第2版 ANSI規格準拠」、B.W.カーニハン、D.M.リッチー著、石田晴久訳、共立出版、1989
- ・「明解C言語入門」、柴田望洋著、ソフトバンク、2004

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 50% レポート・課題 50% 受講態度 0%

特記事項

- ・予習課題、授業内の演習課題と宿題の合計点に50点を配点。
- ・レポート（最終講義日に提出）に50点配点。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・当該科目のすべての授業回数の3分の2以上に出席していること。
- ・成績区分は学則に準拠。

【履修上の心得】

- (1) 経営情報科学 I・II 程度の基本的知識および操作技術が必要です。
- (2) 欠席しないようにしましょう。欠席した場合は、WebClassの教材で欠席した授業の内容を把握しておきましょう。
- (3) 予習・復習・宿題提出は忘れないようにし、提出日は厳守しましょう。

【科目のレベル、前提科目など】

推奨学年：2年次、3年次

前提科目：経営情報科学 I・II。

関連科目：数学、WEBプログラミングII、プログラミング言語論、アルゴリズム論 I・II など。特に、WEBプログラミングIIは、Javaの学習を行いますので、連続した受講を奨めます。

- ・経営情報科学 I・II に続く内容です。
- ・コンピュータ関連科目の内容を理解するために役立つ科目です。
- ・経営情報科学などの基礎科目の受講後に選択してください。

【備考】

船田の担当科目は次のような順序で受講すると効果的であるように構成しています。

1年次：経営情報科学 I・II

2・3年次：統計調査法 I・II、WEBプログラミング言語 I・II、ゼミナール I-1・I-2

3・4年次：経営分析論 I・II、ゼミナール II-1・II-2

科目名	WebプログラミングII
教員名	松田 真里子

【授業の内容】

本講義は、WEBプログラミング I で学習した手続き型言語であるC言語と比較しながら、ネットワークやマルチメディアに対応したオブジェクト指向のプログラミング言語Javaを学習します。コンピュータの動作原理やハードウェアの制約などの細かな内容はWEBプログラミング I で学習しますので、本講義には含まれていません。アプレットやGUIを用いたプログラミングは親しみ易さを感じることでしょう。様々な能動的な演習（アクティブ・ラーニング、体験的学習）を通じてJavaの特徴に気づきながら（発見的学習）、WEBプログラムを作成（問題解決学習）します。

【到達目標】

- (1) 手続き型言語とオブジェクト指向言語との違いを理解できる。
- (2) ソースプログラムと中間コードの違いと必要性を理解できる。
- (3) クラスの作成法を理解でき、簡単なプログラムが作成できる。
- (4) メソッドのオーバーロード、インヘリタンス、オーバーライドを理解でき、プログラムが書ける。
- (5) アプレットプログラムの作成と実行法を理解でき、基本的なプログラムが書ける。
- (6) GUIを用いたプログラムの基本が理解でき、プログラムがかける。

【授業計画】

- 第1回 Javaの特徴の紹介、ソースプログラムと中間コード、コンパイルと実行
復習：授業内容のまとめ（ノート作り）。（20分）
予習：次回の授業内容のプリントを読み、予習確認問題（WebClassで配布、以下同様）を解く。（30分）
- 第2回 選択構造（if文）と演習
復習：授業内容のまとめ（ノート作り）。（30分）
予習：次回の授業内容のプリントを読み、予習確認問題を解く。（30分）
- 第3回 選択構造（switch文）の演習
復習：授業内容（教科書、第3章3-1節）のまとめ（ノート作り）。（30分）
予習：次回の授業内容のプリントを読み、予習確認問題を解く。（30分）
- 第4回 繰り返し構造（while文、for文）と演習
復習：授業内容（教科書、第3章3-2、3-3節）のまとめ（ノート作り）。（30分）
予習：次回の授業内容のプリントを読み、予習確認問題を解く。（30分）
- 第5回 配列と配列を用いたプログラミング
復習：授業内容（教科書、第4章4-1節～4-3節）のまとめ（ノート作り）。（30分）
予習：次回の授業内容のプリントを読み、予習確認問題を解く。（30分）
- 第6回 クラスと、クラスを意識したプログラミング
復習：授業内容（教科書、第4章4-4節～4-6節）のまとめ（ノート作り）。（30分）
予習：次回の授業内容のプリントを読み、予習確認問題を解く。（30分）
- 第7回 複数のクラスを使用したプログラミング
復習：授業内容（教科書、第5章）のまとめ（ノート作り）。（30分）
予習：次回の授業内容のプリントを読み、予習確認問題を解く。（30分）
- 第8回 メソッドのオーバーロードと、オーバーロードを用いたプログラミング
復習：授業内容（教科書、第6章）のまとめ（ノート作り）。（30分）
予習：次回の授業内容のプリントを読み、予習確認問題を解く。（30分）
- 第9回 クラスの継承と、継承を用いたプログラミング
復習：授業内容（教科書、第7章）のまとめ（ノート作り）。（30分）
予習：次回の授業内容のプリントを読み、予習確認問題を解く。（30分）
- 第10回 オーバーライドと、オーバーライドを用いたプログラミング
復習：授業内容（教科書、第8章）のまとめ（ノート作り）。（30分）
予習：次回の授業内容のプリントを読み、予習確認問題を解く。（30分）
- 第11回 パッケージ、スコープルール、再帰的プログラミング
復習：授業内容（教科書、第9章）のまとめ（ノート作り）。（30分）
予習：次回の授業内容のプリントを読み、予習確認問題を解く。（30分）
- 第12回 アプレットと、アプレットを用いたプログラミング
復習：授業内容（教科書335～361ページ）のまとめ（ノート作り）。（30分）
予習：次回の授業内容のプリントを読み、予習確認問題を解く。（30分）
- 第13回 乱数と、乱数の出現頻度を表示するアプレットプログラミング
復習：授業内容（教科書、第11章）のまとめ（ノート作り）。（30分）
予習：次回の授業内容のプリントを読み、予習確認問題を解く。（30分）
- 第14回 チョイスと描画のプログラミング
復習：授業内容（教科書、第12章）のまとめ（ノート作り）。（30分）

予習：最終レポートの作成。(30分)
第15回 アプレット、イベントの処理、まとめ、レポートの提出

【授業の進め方】

次の手順で講義を進めます。

- (1) 前回の内容の確認と宿題の解答の説明
- (2) 新しい文とその利用法の説明
- (3) 演習課題の提示
- (4) 演習問題のプログラミングと出力の提出
- (5) 宿題の配布と内容の説明

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ・教科書は使用しません。
- ・教科書が必要な学生は参考書の最初の書籍を使用してください。
- ・予習内容、確認問題は毎回WebClass等で配布します。

【参考図書】

- ・『新・明解Java入門』柴田望洋、SB Creative、2016
- ・『Javaチュートリアル 第4版』ピアソン・エデュケーション、2007
- ・『Javaによる図形処理入門』山本芳人著、工学図書株式会社、1998
- ・『Java入門』、河西朝雄著、技術評論社、1998
- ・『Javaによるはじめてのアルゴリズム入門』、河西朝雄著、技術評論社、2001
- ・『やさしいJava』第4版、高橋麻奈著、ソフトバンククリエイティブ株式会社、2009
- ・『やさしいJava 活用編』第3版、高橋麻奈著、ソフトバンククリエイティブ株式会社、2009

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 50% レポート・課題 50% 受講態度 0%

特記事項

- ・授業内の演習課題と宿題の合計点に50点を配点。
- ・レポート（最終講義日に提出）に50点配点。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・当該科目のすべての授業回数の3分の2以上に出席していること。
- ・成績区分は学則に準拠。

【履修上の心得】

- (1) 経営情報科学 I・II、およびWEBプログラミング I 等の基本的知識および操作技術が必要です。
- (2) 欠席しないようにしましょう。
- (3) 欠席した場合は、WebClassの教材を用いて授業の内容を把握しておきましょう。
- (4) 予習・復習・課題提出を忘れないようにしましょう。特に予習確認問題は宿題です。

【科目のレベル、前提科目など】

推奨年次：2年次、3年次

前提科目：経営情報科学 I・II、WEBプログラミング I

関連科目：プログラミング言語論、アルゴリズム論 I・II、数学、統計調査法 I・II、その他情報関係の科目は全て関連科目です。特に、経営分析法 I・IIの内容は本科目の応用も含みます。

- ・WEBプログラミング I に続く内容もちまます。
- ・情報発信のための基礎的知識として学習したい内容です。
- ・経営情報科学 I・II などの基礎科目の受講後に選択することが望ましい科目です。

【備考】

- ・船田の担当科目は次のような順序で受講すると効果的であるように構成しています。受講順序の参考にしてください。
 - 1年次：経営情報科学 I・II
 - 2・3年次：統計調査法 I・II、WEBプログラミング I・II、ゼミナール I-1・2
 - 3・4年次：経営分析法 I・II、ゼミナール II-1・I-2

科目名	経営分析法 I
教員名	船田 真里子

【授業の内容】

本科目は3、4年生を対象とした比較的高度な内容を含む科目です。

本科目では、ビッグデータの解析なども視野に入れつつ「データに含まれる現象の特徴」「データが語る因果関係」等を数量的・客観的に知るための理論とその適用例、結果の評価法等について学習します。同時に、理論の理解を深めるために、データを用いた演習を行います。さらにVBA（Visual Basic for Applications）を用いた解析プログラムを作成し、実際に使用されている統計解析ソフトの内容を学びます。

【到達目標】

- (1) 多変量解析法を理解するための基礎理論（行列の演算、関数の極限、微分・偏微分）が理解できる。
- (2) 重回帰分析の考え方を理解できる。
- (3) 重回帰分析の結果を適切に解釈できる。
- (4) データの平均・標準偏差を求めるVBAのプロシージャが作成できる。
- (5) 行列の積、逆行列を計算するVBAのプロシージャが作成できる。
- (6) 重回帰分析プログラムがVBAを用いて作成できる。
- (7) 経営分析法・ビッグデータ解析法としての多変量解析の位置付がわかる。

【授業計画】

- 第1回 経営分析法・ビッグデータ解析法としての多変量解析、多変量解析の分類と目的、ノートの作り方
復習：授業内容（教科書11～30ページの関連部分）のまとめ（ノート作成）（30分）
予習：次回授業内容（教科書32～37ページ）の確認と予習確認問題（WebClassで配布、以下同様）を解く（30分）。
- 第2回 多変量解析を理解するための基礎知識（1）（行列・ベクトルの演算と性質）
復習：授業内容（教科書32～37ページの関連部分）のまとめ（ノート作成）（30分）
予習：次回授業内容（教科書37～42ページ）の確認と予習確認問題を解く（30分）。
- 第3回 多変量解析を理解するための基礎知識（2）（関数の極限、微分・偏微分）
復習：授業内容（教科書37～42ページの関連部分）のまとめ（ノート作成）（30分）
予習：現代の情報科学（経営情報科学の教科書229～235ページ）の確認と予習確認問題を解く（30分）。
- 第4回 データの平均・標準偏差を求めるVBAのサブプロシージャの作成
復習：現代の情報科学（経営情報科学の教科書229～235ページ）のVBA文法のまとめ（ノート作成）（30分）
予習：授業内容（教科書43～47ページの関連部分）の確認と予習確認問題を解く（30分）。
- 第5回 単回帰分析の考え方（1）
復習：授業内容（教科書43～47ページの関連部分）のまとめ（ノート作成）（30分）
予習：次回授業内容（教科書48～55ページ）の確認と予習確認問題を解く（30分）。
- 第6回 単回帰分析の考え方（2）
復習：授業内容（教科書48～55ページの関連部分）のまとめ（ノート作成）（30分）
予習：次回授業内容（教科書43～55ページ）の見直しと予習確認問題を解く（30分）
- 第7回 単回帰分析の演習
復習：授業中演習のまとめ（ノート作成）（30分）
予習：Gaussの消去法のアルゴリズムを確認する（30分）。
- 第8回 Gaussの消去法の確認と演習
復習：Gaussの消去法による逆行列の計算（30分）
予習：現代の情報科学（経営情報科学の教科書229～235ページ）の確認と予習確認問題を解く（30分）。
- 第9回 Gaussの消去法による逆行列を求めるVBAのプロシージャの作成
復習：プログラム未完成の場合は完成させる（30分）。
予習：次回授業内容（教科書56～60ページ、83～85ページ）の確認と予習確認問題を解く（30分）。
- 第10回 単回帰分析から重回帰分析への拡張
復習：授業内容のまとめ（教科書56～60ページ、83～85ページ）（30分）
予習：現代の情報科学（経営情報科学の教科書229～235ページ）の確認と予習確認問題を解く（30分）。
- 第11回 重回帰分析プログラミング（1）
復習：データ入力、データ行列の作成（30分）。
予習：行列の積の定義の確認と予習確認問題を解く（30分）。
- 第12回 重回帰分析プログラミング（2）と解析結果の解釈
復習：重回帰分析プログラムの完成（30分）。
予習：次回授業内容（教科書87～98ページ）の確認と予習確認問題を解く（30分）。
- 第13回 数量化I類の考え方
復習：授業内容のまとめ（教科書87～98ページ）のまとめ（30分）。
予習：VBAの文法（経営情報科学の教科書229～235ページ）の確認（30分）。
- 第14回 数量化I類のプログラムとデータ解析、レポート課題の提示

復習：プログラムの完成とデータ解析（30分）

予習：レポート課題の解答作りを行う（30分）。

第15回 数量化Ⅰ類の解析結果の解釈とまとめ、レポートの提出

【授業の進め方】

多変量統計解析法を使いこなすには、各手法の合理性の根拠を理解することが重要です。そこで、次の順序で各解析法に関して学びます。

- (1) 多変量解析の考え方を理解するための基礎理論の学習
- (2) 多変量解析の種類と解析の目的
- (3) 多変量解析の考え方
- (4) 式の変形と理論の確認
- (5) VBAを使用したプログラミング
- (6) 解析結果の評価と解釈

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①多変量解析入門 ②永田靖・棟近雅彦 ③サイエンス社 ④2003 ⑤2200 ⑥4-7819-0980-9

・教科書は書店にて各自購入してください。

【参考図書】

- ・『情報化時代の経営分析』奥野忠一・山田文道共著、東京大学出版会、1995.
- ・『改訂版 多変量解析法』、奥野忠一、久米均、芳賀敏郎、吉澤正著、日科技連、1981
- ・『多変量解析入門 自由に使いこなすコツ』、大野高裕、同友館、1998
- ・『統計解析入門』、篠崎信雄著、サイエンス社、2009
- ・『多変量解析の実践 下』、菅 民郎著、現代数学社、1993.
- ・『現代の情報科学』、師啓二他著、学文社、2017.

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 50% レポート・課題 50% 受講態度 0%

特記事項

- ・授業内の演習課題と宿題の合計点に50点を配点。
- ・レポート（最終講義日に提出）に50点配点。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・当該科目のすべての授業回数の3分の2以上に出席していること。
- ・成績区分は学則に準拠。

【履修上の心得】

- (1) 前提科目終了後の受講が望ましい科目で、3年次以降の受講が適切です。
- (2) レポートの提出を確実に行ってください。

【科目のレベル、前提科目など】

推奨年次：3年次、4年次。本科目は、ゼミナールを除くと、船田担当科目中、最も難度の高い科目です。

前提科目：解析学、代数学、統計調査法Ⅰ・Ⅱ、WEBプログラミングⅠ・Ⅱなどが前提科目です。

関連科目：情報関連科目、定量的な扱いを必要とする経営学・経済学関連の科目は全て関連科目です。

特に経営分析法Ⅱは本講義の続きに相当する科目です。

【備 考】

船田の担当科目は次のような順序で受講すると効果的であるように構成しています。

1年次：経営情報科学Ⅰ・Ⅱ

2・3年次：統計調査法Ⅰ・Ⅱ、WEBプログラミングⅠ・Ⅱ、ゼミナールⅠ-1、Ⅰ-2

3・4年次：経営分析法Ⅰ・Ⅱ、ゼミナールⅡ-1、Ⅱ-2

科目名	経営分析法Ⅱ
教員名	船田 真里子

【授業の内容】

本講義は3、4年生を対象とした講義です。

本講義では、ビッグデータの解析なども視野に入れつつ収集したデータから目的とする「情報」をいかに抽出するかについて、多変量解析法の有効性と限界に関する講義を行います。同時にコンピュータを用いたプログラミングとデータ解析の演習を行います。手法の背景にある、ものの見方・考え方を理解し、目的に応じたデータの収集や解析法の選択が可能となるようにしましょう。また、分析法のプログラミングは、手法に関する理解を深め、多変量解析の効果的な利用を可能にするものと考えています。

【到達目標】

- (1) 多変量解析とは何かを理解できる。
- (2) 判別分析の目的、考え方を理解できる。
- (3) 判別分析結果の判読法、評価法を理解できる。
- (4) 主成分分析の目的、考え方を理解できる。
- (5) 主成分分析の結果の判読方法、評価方法を理解できる。
- (6) 判別分析・主成分分析プログラムをVBAで作成できる。
- (7) 経営分析法・ビッグデータ解析法としての多変量解析の位置付がわかる。

【授業計画】

- 第1回 経営分析法・ビッグデータ解析法としての多変量解析、2次元正規分布のパラメータと形状
復習：授業内容（教科書22～23ページ）のまとめ（ノート作成）（20分）
予習：次回授業内容（教科書99～107）の確認、対数の定義と性質、偏微分の確認と予習確認問題（WebClass等で配布、以下同様）の解答づくり（40分）
- 第2回 線形判別分析の準備、目的と考え方(1)
復習：授業内容のまとめ（ノート作成）（30分）
予習：次回授業内容（教科書107～116）の確認と予習確認問題（WebClass等で配布、以下同様）の解答づくり（30分）
- 第3回 線形判別分析の考え方(2)
復習：授業内容（教科書107～116）のまとめ（ノート作成）（30分）
予習：次回授業内容（教科書116～117ページ）の確認、現代の情報科学（経営情報科学の教科書229～235ページ）のVBA文法（20分）と予習確認問題の解答づくり（30分）
- 第4回 線形判別分析のプログラミング(1)
復習：作成したプログラム部分の見直しと文法の確認（ノート作成）（30分）
予習：VBAの文法（経営情報科学の教科書229～235ページ、以下同様）の確認と予習確認問題の解答づくり（30分）
- 第5回 線形判別分析のプログラミング(2)
復習：完成したプログラム部分の見直しと文法の確認（ノート作成）（30分）
予習：VBA文法の確認と予習確認問題の解答づくり（30分）
- 第6回 線形判別分析結果の判読と評価法
復習：教科書（107～117ページ）の見直し（30分）
予習：次回授業内容（37～38ページ）の確認と予習確認問題の解答づくり（30分）
- 第7回 主成分分析の準備（行列の固有値と固有ベクトル）
復習：授業内容（教科書37～38ページ）のまとめ（ノートづくり）（30分）
予習：次回授業内容（132～136ページ）の確認と予習確認問題の解答づくり（30分）
- 第8回 主成分分析の目的と考え方
復習：授業内容（教科書132～136ページ）のまとめ（ノートづくり）（30分）
予習：次回授業内容（137～140ページ）の確認と予習確認問題の解答づくり（30分）
- 第9回 主成分の求め方(1)
復習：授業内容（教科書137～140ページ）のまとめ（ノートづくり）（30分）
予習：次回授業内容（140～142ページ）の確認と予習確認問題の解答づくり（30分）
- 第10回 主成分の求め方(2)
復習：授業内容（教科書140～142ページ）のまとめ（ノートづくり）（30分）
予習：次回授業内容（142～146ページ）の確認と予習確認問題の解答づくり（30分）
- 第11回 主成分分析結果の評価法
復習：授業内容（教科書142～146ページ）のまとめ（ノートづくり）（30分）
予習：次回授業内容（146～149ページ）の確認、VBAの文法の見直しと予習確認問題の解答づくり（30分）
- 第12回 主成分分析プログラムの作成(1)
復習：作成したプログラム部分の見直しと文法の確認（ノート作成）（30分）
予習：VBAの文法の確認と予習確認問題の解答づくり（30分）
- 第13回 主成分分析プログラムの作成(2)

復習：完成したプログラム部分の見直しと文法の確認（ノート作成）（30分）

予習：次回授業内容（142～146ページ）の見直しと予習確認問題の解答づくり（30分）

第14回 主成分分析結果の判読と評価、最終レポートの提示

復習：主成分分析結果の見直し（30分）

予習：最終レポートの解答づくり（30分）

第15回 まとめとレポートの作成、提出

【授業の進め方】

2次元の正規分布のパラメータと形状に関する演習でウォーミングアップしてから、各解析手法の講義と演習を始めます。順序は次のとおりです。

- (1) 分析手法の目的、合理性の根拠と評価法
 - (2) VBAを用いたプログラミング
 - (3) プログラムを用いたデータ解析とその結果の判読と評価
- 学生参加型のディスカッション方式で授業を進めます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①多変量解析入門 ②永田靖・棟近雅彦 ③サイエンス社 ④2003 ⑤2200 ⑥4-7819-0980-9

・教科書は書店にて各自購入してください。ただし、科目「多変量分析法Ⅰ」の教科書と同じです。

【参考図書】

- ・『情報化時代の経営分析』奥野忠一・山田文道共著、東京大学出版会、1995.
- ・『《改訂版》多変量解析法』、奥野忠一、久米均、芳賀敏郎、吉澤正著、日科技連、1981.
- ・『多変量解析入門 自由に使いこなすコツ』、大野高裕、同友館、1998.
- ・『多変量解析の実践 下』、菅 民郎著、現代数学社、1993.

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 50% レポート・課題 50% 受講態度 0%

特記事項

- ・授業内の演習課題と宿題の合計点に50点を配点。
- ・レポート（最終講義日に提出）に50点配点。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・当該科目のすべての授業回数の3分の2以上に出席していること。
- ・成績区分は学則に準拠。

【履修上の心得】

- (1) 前提科目を終了した後の受講が望ましい科目で、3年次以降の受講が適切です。
- (2) プログラミング言語がある程度理解可能となっていることが必要です。
- (3) 予習・復習・レポートの提出を確実に行ってください。

【科目のレベル、前提科目など】

推奨年次：3年次、4年次。本科目は、ゼミナールを除くと、船田担当科目中、最も難度の高い科目です。
前提科目：解析学、代数学、統計調査法Ⅰ・Ⅱ、WEBプログラミングⅠ・Ⅱ、経営分析法Ⅰが本講義の前提科目です。
関連科目：情報関連科目、定量的な扱いを必要とする経営学・経済学関連の科目は全て関連科目です。

【備 考】

船田の担当科目は次のような順序で受講すると効果的であるように構成しています。

- 1年次：経営情報科学Ⅰ・Ⅱ
- 2・3年次：統計調査法Ⅰ・Ⅱ、WEBプログラミングⅠ・Ⅱ、ゼミナールⅠ-1、Ⅰ-2
- 3・4年次：経営分析法Ⅰ・Ⅱ、ゼミナールⅡ-1、Ⅱ-2

科目名	統計調査法 I
教員名	船田 真里子

【授業の内容】

本講義では、アンケート調査のデータやビジネスで使用される各種データの分析に使用される基本的な分析手法を学びます。さらに、Excelを使用してデータ分析を行い、学習した手法の有効性を確認します。

統計的に処理しなければならないデータを手にした時、「データが語る現象の把握」が適切に行えるようにデータ解析の取り掛かりの手法を学びましょう。

【到達目標】

- (1) 質的データ・量的データ、データの尺度がわかる。
- (2) Excelを用いた単純集計ができる。
- (3) データを適切に要約できる。
- (4) Excelを用いたクロス集計・分析ができる。
- (5) 回帰分析の考え方がわかる。
- (6) 回帰分析の結果を適切に評価できる。

【授業計画】

第1回 授業の進め方、調査データとは、ソフトウェアの利用

復習：授業内容（教科書1～6ページ、20～26ページ）のまとめ（ノート作成）（30分）

予習：次回授業内容（教科書7～16ページ）の確認と予習確認問題（WebClassで配布、以下同様）の解答づくり（30分）

第2回 記述統計と統計的推測

復習：授業内容（教科書7～16ページ）のまとめ（ノート作成）（30分）

予習：次回授業内容（教科書16～20ページ）の確認と予習確認問題の解答づくり（30分）

第3回 質的データと量的データ、Excelを用いた単純集計

復習：授業内容（教科書16～20ページ）のまとめ（ノート作成）（30分）

予習：次回授業内容（教科書20～40ページ）の確認と予習確認問題の解答づくり（30分）

第4回 数値の読み取り方の工夫

復習：授業内容（教科書20～40ページ）のまとめ（ノート作成）（30分）

予習：次回授業内容（教科書40～49ページ）の確認と予習確認問題の解答づくり（30分）

第5回 数値の変換

復習：授業内容（教科書40～49ページ）のまとめ（ノート作成）（30分）

予習：次回授業内容（教科書49～58ページ）の確認と予習確認問題の解答づくり（30分）

第6回 度数分布

復習：授業内容（教科書49～58ページ）のまとめ（ノート作成）（30分）

予習：次回授業内容（教科書59～75ページ）の確認と予習確認問題の解答づくり（30分）

第7回 ローレンツ曲線

復習：授業内容（教科書59～75ページ）のまとめ（ノート作成）（30分）

予習：次回授業内容（教科書77～90ページ）の確認と予習確認問題の解答づくり（30分）

第8回 調査データの要約

復習：授業内容（教科書77～90ページ）のまとめ（ノート作成）（30分）

予習：次回授業内容（教科書91～105ページ）の確認と予習確認問題の解答づくり（30分）

第9回 5数要約と箱ひげ図

復習：授業内容（教科書91～106ページ）のまとめ（ノート作成）（30分）

予習：次回授業内容（教科書109～126ページ）の確認と予習確認問題の解答づくり（30分）

第10回 クロス集計

復習：授業内容（教科書109～126ページ）のまとめ（ノート作成）（30分）

予習：次回授業内容（教科書127～135ページ）の確認と予習確認問題の解答づくり（30分）

第11回 二変数データの分析法

復習：授業内容（教科書127～135ページ）のまとめ（ノート作成）（30分）

予習：次回授業内容（教科書136～151ページ）の確認と予習確認問題の解答づくり（30分）

第12回 相関係数と演習

復習：授業内容（教科書136～151ページ）のまとめ（ノート作成）（30分）

予習：次回授業内容（教科書151～173ページ）の確認と予習確認問題の解答づくり（30分）

第13回 回帰分析と回帰直線の性質

復習：授業内容（教科書151～173ページ）のまとめ（ノート作成）（30分）

予習：次回授業内容（教科書175～182ページ）の確認と予習確認問題の解答づくり（30分）

第14回 クロス集計の分析法、最終レポート課題の提示

復習：授業内容（教科書182～200ページ）のまとめ（ノート作成）（30分）

予習：最終レポート課題の解答づくり（30分）

第15回 復習とまとめ、最終レポートの提出

復習：善授業のまとめ

【授業の進め方】

次の順序で講義を進めます。

- (1) 前回の簡単な復習
- (2) 新しい用語の定義・解析手法の説明
- (3) Excel等を用いたデータ解析の演習
- (4) 演習結果は講義終了時に提出し、終了しない問題は宿題
- (5) 宿題の配布と説明

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①Excelではじめる社会調査データ分析 ②松原望、松本渉 ③丸善出版 ④2011 ⑤2800 ⑥978-4-621-08165-5

・教科書は各自書店にて購入、または図書館で電子書籍として借りることもできます。

【参考図書】

- ・『統計学入門(基礎統計学)』、東京大学教養学部統計学教室(編集)、東京大学出版会、1991.
- ・『教育・心理系研究のためのデータ分析入門』、平井明代、東京図、2012.
- ・『Excelでやさしく学ぶ統計解析(2013)』、石村貞夫、石村友二郎、劉晨、東京図書、2013.
- ・『文系でもわかるビジネス統計入門』、内田学、兼子良久、斉藤嘉一、東洋経済新聞社、2010.

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 50% レポート・課題 50% 受講態度 0%

特記事項

- ・授業内の演習課題と宿題の合計点に50点を配点。
- ・レポート(最終講義日に提出)に50点配点。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・当該科目のすべての授業回数の3分の2以上に出席していること。
- ・成績区分は学則に準拠。

【履修上の心得】

- (1) 経営情報科学Ⅰ・Ⅱでの実習経験を前提とし、2年次以降の学生が対象です。
- (2) 前提科目以外の予備知識は不要です。
- (3) 講義中に提示した演習問題は、必ず解きましょう。
- (4) 演習解答は必ず提出しましょう。

【科目のレベル、前提科目など】

推奨年次: 2年次、3年次。

前提科目: 経営情報科学Ⅰ・Ⅱ。

関連科目: 統計調査法Ⅱはこの科目の続く経営分析法Ⅰ・Ⅱの準備科目です。

情報関連科目、定量的な扱いをする経営学・経済学などは関連科目です。

【備考】

船田の担当科目は次のような順序で受講すると理解し易いように構成しています。参考にしてください。

1年次 : 経営情報科学Ⅰ・Ⅱ

2・3年次: 統計調査法Ⅰ・Ⅱ、WEBプログラミングⅠ・Ⅱ、ゼミナールⅠ-1・Ⅰ-2

3・4年次: 経営分析法Ⅰ・Ⅱ、ゼミナールⅡ-1・Ⅱ-2

科目名	統計調査法Ⅱ
教員名	松田 真里子

【授業の内容】

本講義は、多変量解析法を学習するための理論的基礎固めを意識して、線形代数の入門的部分を学習することを目的としています。多変量解析法は経営学、経済学、心理学などの専門科目で使用されているアンケート調査データの分析やビジネスで使用されているビッグデータの解析等に使用される一連の手法の総称です。

将来、ビジネス等で統計的に処理しなければならないデータを手にした時、コンピュータを道具として「データが語る事実」を適切に把握できるようになるための礎を築きましょう。

【到達目標】

- (1) ベクトルの定義と基本性質が理解できる。
- (2) 内積の定義と内積の性質が理解できる。
- (3) ベクトルのノルムの定義と性質が理解できる。
- (4) 行列の定義が理解できる。
- (5) 行列のスカラー倍、加算、積の定義とその性質が理解できる。
- (6) ガウスの消去法で連立方程式が解け、逆行列を求めることができる。
- (7) データを行列を用いて表現できる。
- (8) 行列式の定義を知り、行列式を求めることができる。
- (9) 固有値、固有ベクトルの定義を知り、固有値、固有ベクトルを求めることができる。
- (10) データ分析の基礎にある理論を理解し、活用できる。

【授業計画】

第1回 Located Vectors

復習：配布プリントのまとめ（ノート作り）（30分）

予習：次回授業内容の確認と予習確認問題の解答作り（30分）

ただし、両教材はWebClassで配布（以下同様）

第2回 Scalar Product

復習：配布プリントのまとめ（ノート作り）（30分）

予習：次回授業内容の確認と予習確認問題の解答作り（30分）

第3回 The Norm of a Vector

復習：配布プリントのまとめ（ノート作り）（30分）

予習：次回授業内容の確認と予習確認問題の解答作り（30分）

第4回 Matrices

復習：配布プリントのまとめ（ノート作り）（30分）

予習：次回授業内容の確認と予習確認問題の解答作り（30分）

第5回 Multiplication of Matrices

復習：配布プリントのまとめ（ノート作り）（30分）

予習：次回授業内容の確認と予習確認問題の解答作り（30分）

第6回 Homogeneous Linear Equation and Elimination

復習：配布プリントのまとめ（ノート作り）（30分）

予習：次回授業内容の確認と予習確認問題の解答作り（30分）

第7回 Row Operations and Gauss Elimination

復習：配布プリントのまとめ（ノート作り）（30分）

予習：次回授業内容の確認と予習確認問題の解答作り（30分）

第8回 Row Operations and Elementary Matrices

復習：配布プリントのまとめ（ノート作り）（30分）

予習：次回授業内容の確認と予習確認問題の解答作り（30分）

第9回 Determinant of Order 2, 3×3 and $n \times n$ Determinants

復習：配布プリントのまとめ（ノート作り）（30分）

予習：次回授業内容の確認と予習確認問題の解答作り（30分）

第10回 The Rank of a Matrix and Subdeterminants

復習：配布プリントのまとめ（ノート作り）（30分）

予習：次回授業内容の確認と予習確認問題の解答作り（30分）

第11回 Cramer's Rule

復習：配布プリントのまとめ（ノート作り）（30分）

予習：次回授業内容の確認と予習確認問題の解答作り（30分）

第12回 Inverse of a Matrix

復習：配布プリントのまとめ（ノート作り）（30分）

予習：次回授業内容の確認と予習確認問題の解答作り（30分）

第13回 Eigenvectors and Eigenvalues

復習：配布プリントのまとめ（ノート作り）（30分）

予習：次回授業内容の確認と予習確認問題の解答作り（30分）

第14回 Eigenvalues and Eigenvectors of Symmetric Matrices、最終レポートの配布

復習：配布プリントのまとめ（ノート作り）（30分）

予習：最終レポート問題の解答作り（30分）

第15回 Summary、最終レポートの提出

復習：授業全体のまとめ（60分）

【授業の進め方】

次の順序で講義を進めます。

- (1) 前回の簡単な復習
- (2) 新しい用語・演算の定義、演算の性質、定理や命題の証明
- (3) 講義内容に関する演習
- (4) 演習結果は講義終了時に提出し、終了しない問題は宿題
- (5) 宿題の配布と説明

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①Introduction to Linear Algebra Second Edition ②Serge Lang ③Springer ④1986 ⑤6000円前後 ⑥0-387-96205-0

- ・上記の書籍は高価なので購入の必要はありませんが教科書として使用します。
- ・授業内容、予習確認問題はプリント（WebClass等）で配布します。

【参考図書】

- ・『線型代数入門』、松坂和夫、岩波書店、1980.
- ・『基礎 線形代数学 - 教養課程24講義 -』、小林 巖、宇内 泰編、朝倉書店、1987.
- ・『明解 線形代数』、木村達雄、竹内光弘、宮本雅彦、森田純著、日本評論社、2005.

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 50% レポート・課題 50% 受講態度 0%

特記事項

- ・授業内の演習課題と宿題の合計点に50点を配点。
- ・レポート（最終講義日に提出）に50点配点。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・当該科目のすべての授業回数の3分の2以上に出席していること。
- ・成績区分は学則に準拠。

【履修上の心得】

- (1) 2年次以降の学生が対象です。
- (2) 前提科目以外の予備知識は不要です。
- (3) 提示された演習問題は、必ず解きましょう。

【科目のレベル、前提科目など】

推奨年次：2年次、3年次。

前提科目：経営情報科学 I・II、および統計調査法 I。

関連科目：経営分析法 I・II は本科目の後続科目です。

情報関連科目、定量的な扱いをする経営学・経済学などは関連科目です。

【備考】

船田の担当科目は次のような順序で受講すると理解し易いように構成しています。

1年次：経営情報科学 I・II

2・3年次：統計調査法 I・II、WEBプログラミング I・II、ゼミナール I-1・I-2

3・4年次：経営分析法 I・II、ゼミナール II-1・II-2

科目名	決定の科学 I
教員名	樋口 和彦

【授業の内容】

* 初回の授業時に、授業登録、準備するものなど大切な説明をするので初回からきちんと出席するようにしてください。

やむを得ない理由で初回授業を欠席した場合は大至急下記のアドレスにメールで連絡し、研究室にきてください。意思決定、主として企業における意思決定問題を数量モデルを用いて分析・解決していくための理論ならびに技法（コンピュータの活用ならびにプログラムの開発を含む）に関して考察していく。

【到達目標】

- (1) 意思決定のための数量モデルの基本構造の理解が理解できるようになること
- (2) そのモデルの活用（操作）の基本を理解することができるようになること

【授業計画】

- 第1回 授業ガイダンス、授業の進め方、単位の認定基準、準備、メール環境の設定
予習・復習：20分 * 事前準備に関して確認しておいてください。
- 第2回 フォルダの作成、ネットワークドライブの活用、レポートの提出方法
予習・復習：30分 * ネットワークドライブを活用した、レポート提出手順を良く確認しておいてください。
- 第3回 EXCELの設定
予習・復習：30分 * EXCELの設定や基本操作に関して確認しておいてください。
- 第4回 データファイルの構築と読み込み
予習・復習：40分 * 授業時での数値例とは別の数値例を用いて、DFの構築とアクセスが問題なく出来るか確認してください。
- 第5回 線形計画法の基本原則
予習・復習：30分 * LPとは何か？各自で調べて授業に臨んでください。
- 第6回 図解法の展開その1
予習・復習：30分 * LPの基本的考え方を確認して授業に臨んでください。
- 第7回 図解法の展開その2
予習・復習：40分 * 図解法を通して、LPの考え方、原理を確認してください。
予習・復習：30分 * 別の数値例を、図解法に当てはめて結果を求めてください。
- 第8回 代数法の展開その1
予習・復習：30分 * 代数法について各自で調べて授業に臨んでください。
- 第9回 代数法の展開その2、「係数」の変化とその意味
予習・復習：40分 * 展開の手順と各ステップでの「係数」の変化の意味を確認してください。
- 第10回 代数法の展開その3、「係数」の変化がもつ情報
予習・復習：30分 * 代数法の展開手順を確認して授業に臨んでください。
予習・復習：40分 * 「目的式、制約式の係数、定数」の変化の意味を確認してください。
- 第11回 代数法の展開その4、機会費用、スラック変数の役割、計算上の除外条件
予習・復習：30分 * 特にスラック変数の役割を確認してください。
- 第12回 図解法と代数法の比較、Simplex法の基本原則
予習・復習：30分 * シンプレックスとは何か？各自で調べて授業に臨んでください。
- 第13回 Simplex法での展開その1
予習・復習：40分 * 代数法での展開ステップとシンプレックス法での各ステップとを比較して考え方として「同様」の展開をしていることを確認してください。
- 第14回 まとめ1（線形計画法：図解法・代数法のまとめ）
予習・復習：50分 * このまとめでは、LPを基本的考え方を両解法から理解してください。
- 第15回 まとめ2（線形計画法：Simplex法の原理についてのまとめ）
予習・復習：50分 * このまとめでは、シンプレックス法のを基本的考え方を理解してください。

Linear Programming (LP) 線形計画法

ある制約（原材料等の制約、人的資源等）のなかで、

目的（利益の最大化等を達成するための最適な生産計画等を立案・検討するための理論

- (1) まずは「考え方」「理論」を学ぶ
- (2) 次にその「理論」を確認（数値例を用いて、コンピュータで処理）
- (3) 分析してその結果をまとめる

この手順で授業をすすめていく。

【授業の進め方】

- (1) 線形計画法とは何か？
- (2) どのような意思決定に活用できるのか？
- (3) 図解法、代数法、シンプレックス法の理解と活用

これらのテーマに関して、出来る限り簡単な数値例を用いて具体的に考えて行く。
またコンピュータを活用して、実証的考察もして行く。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書については、後に指示する。

【参考図書】

参考図書については、後で指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

定期試験は行わない予定。

毎回の授業への取り組み姿勢とその成果（時間内レポート）を第一に重要視する。

上記「評価比率」であるが便宜上合計すると100%になるように記載してあるが、これは各評価項目がその比率に達すれば単位を認定するという意味ではなく、全ての項目に合格しなければ単位を認定することはできないので注意すること。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

毎回の授業の後半に、その日の内容をまとめる（多少の応用も含む）レポートを提出（時間内）

時間内にレポートをまとめ切ることが出来なかった場合は追加レポートを提出（電子メール）

次回の授業時に前回授業時のレポート内容の解説・確認を行うので、その後必要であれば修正レポートを提出（電子メール）

これらのことを毎回きちんと行っていくことが大切である。

【履修上の心得】

企業における意思決定問題を主要テーマとしているので、経営情報コースの内容に最も関連が深い。

【決定の科学Ⅰ】

【決定の科学Ⅱ】は両方履修することが望ましいが、それぞれ別個に履修することも可とする。

【科目のレベル、前提科目など】

この科目は、2年次以降から履修することが望ましい。また、「決定の科学Ⅱ」と合わせて履修することが望ましい。

関連科目：特に関連が深い科目として、統計学、数理統計学、財務管理論、資本市場論、計量経済学等があげられる。

またコンピュータの活用(学んだ意思決定モデルをコンピュータの活用を通して、具体的な処理・検証を試みる)も取り上げるので、その関連科目とも密接な関連がある。

内容が意思決定のための数量モデルなので数学的考察も当然必要であるが、数学そのものでなく数学は“道具”として活用する。

あくまでも企業における意思決定問題に関連した科目である。

【備 考】

第1回目の授業時に、準備するもの、レポートの提出要領など重要な説明を行う

科目名	決定の科学II
教員名	樋口 和彦

【授業の内容】

* 初回の授業時に、授業登録、準備するものなど大切な説明をするので初回からきちんと出席するようにしてください。

やむを得ない理由で初回授業を欠席した場合は大至急研究室にきてください。

意思決定、主として企業における意思決定問題を、数量モデルを用いて分析・解決していくための理論ならびに技法（コンピュータの活用ならびにプログラムの開発を含む）に関して、考察していく。

【到達目標】

- (1) 意思決定のための数量モデルの基本構造の理解ができるようになること
- (2) そのモデルの活用（操作）の基本を理解することができるようになること

【授業計画】

- 第1回 授業ガイダンス、授業の進め方、単位の認定基準、準備、メール環境の設定フォルダの作成、ネットワークドライブの活用、レポートの提出方法、EXCELの設定
予習・復習：20分 *特にEXCELの設定とレポートの提出方法について確認してください。
- 第2回 Simplex法における「人為変数」の役割
予習・復習：50分 *シンプレックス法に関して、その基本的考え方を確認して授業に臨んでください。
- 第3回 双対問題の展開、原問題と双対問題との関連性、変換ルール
予習・復習：40分 *人為変数が何故必要となるケースがあるのかを確認して授業に臨んでください。
予習・復習：30分 *双対問題と何か？確認してください。
- 第4回 双対問題での展開の意義、データファイルの構築
予習・復習：40分 *原問題ではなく、双対問題を用いる意義を確認してください。
- 第5回 Simplex法での展開その1（ブロック1～4）
予習・復習：50分 *シンプレックス法に関して、その具体的展開を確認して授業に臨んでください。
- 第6回 Simplex法での展開その2（ブロック5～7）
予習・復習：40分 *ブロック1～4を良く確認して授業に臨んでください。
- 第7回 Simplex法での展開その3（ブロック8～9）
予習・復習：40分 *ブロック5～7を良く確認して授業に臨んでください。
- 第8回 Simplex法での展開その4（サブ・ルーティン）
予習・復習：40分 *ブロック1～9を良く確認して授業に臨んでください。
- 第9回 実際の企業のデータを使つての分析その1、データファイルの構築
予習・復習：40分 *サブルーティンも含めて全体を良く確認して授業に臨んでください。
予習・復習：30分 *DFの内容に間違いがないか確認してください。
- 第10回 実証分析、最適生産計画の立案
予習・復習：50分 *プロセス、結果を良く確認して、最適生産計画内容をもう一度吟味しなさい。
- 第11回 シャドープライスの意味と分析（感度分析）（EX01）
予習・復習：30分 *シャドープライスとは何か？各自調べて授業に臨んでください。
- 第12回 シャドープライスの意味と分析（感度分析）（EX02）
予習・復習：40分 *感度分析の内容とその意義を確認してください。
- 第13回 実データでの感度分析
予習・復習：50分 *実証分析結果（感度分析）をもう一度良く吟味しましょう。
- 第14回 まとめ1（Simplex法のまとめ）
予習・復習：50分 *別の企業データで実証分析してみよう。
- 第15回 まとめ2（感度分析のまとめ）
予習・復習：50分 *別の企業データで実証分析（感度分析）してみよう。

- (1) まずは「考え方」「理論」を学ぶ
- (2) 次にその「理論」を確認（数値例を用いて、コンピュータで処理）
- (3) 分析してその結果をまとめる

この手順で授業をすすめていく。

【授業の進め方】

先のテーマに関して、出来る限り簡単な数値例を用いて具体的に考えて行く。

またコンピュータを活用して、実証的考察もして行く。

つまり、意思決定のモデル、主として数量モデルの内容を分析していく。

そのときにそのモデルを抽象的にみていくのではなく、実際にそのモデルを操作してみて（コンピュータを活用して）具体的に確認していく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書に関しては、後に指示する。

【参考図書】

参考図書に関しては、後に指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

定期試験は行わない予定。

毎回の授業への取り組み姿勢とその成果（時間内レポート）を第一に重要視する。

上記「評価比率」であるが便宜上合計すると100%になるように記載してあるが、これは各評価項目がその比率に達すれば単位を認定するという意味ではなく、全ての項目に合格しなければ単位を認定することはできないので注意すること。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

毎回の授業の後半に、その日の内容をまとめる（多少の応用も含む）レポートを提出（時間内）

時間内にレポートをまとめ切ることが出来なかった場合は追加レポートを提出（電子メール）

次回の授業時に前回授業時のレポート内容の解説・確認を行うので、その後必要であれば修正レポートを提出（電子メール）

これらのことを毎回きちんと行っていくことが大切である。

【履修上の心得】

企業における意思決定問題を主要テーマとしているので、経営情報コースの内容に最も関連が深い。

【決定の科学Ⅰ】

【決定の科学Ⅱ】は両方履修することが望ましいが、それぞれ別個に履修することも可とする。

【科目のレベル、前提科目など】

この科目は、2年次以降から履修することが望ましい。また、「決定の科学Ⅰ」を先に履修し、「決定の科学Ⅱ」と合わせて履修することが望ましい。

関連科目：特に関連が深い科目として、統計学、数理統計学、財務管理論、資本市場論、計量経済学等があげられる。

またコンピュータの活用(学んだ意思決定モデルをコンピュータの活用を通して、具体的な処理・検証を試みる)も取り上げるので、その関連科目とも密接な関連がある。

内容が意思決定のための数量モデルなので数学的考察も当然必要であるが、数学そのものではなく数学は“道具”として活用する。あくまでも企業における意思決定問題に関連した科目である。

【備 考】

第1回目の授業時に、準備するもの、レポートの提出要領など重要な説明を行う

科目名	情報通信システム論 I
	情報通信システムの発展とメディア融合
教員名	菅谷 実

【授業の内容】

SNSに代表されるようなメディア・サービスは情報通信ネットワークを經由して提供される。近年我々の生活は情報通信ネットワークなしには過ごすことができないほどに、情報通信ネットワークは日常生活においても身近なものになっている。本講義では、コンピュータ・システムとしての情報通信システムという狭い範囲ではなく、社会システムとしての情報通信システムを情報通信技術、メディア融合、ネットワーク、プラットフォームというキーワードから明らかにする。

【到達目標】

- ・ 情報通信システムに関する基礎的用語と情報通信システム論の概要を理解する
- ・ 情報通信産業の構造とメディア融合現象を理解する

【授業計画】

- 第1回 序論—本講義で取り扱う情報の定義と情報活動の基盤となるネットワーク
講義で取り上げたキーワードを各自復習（30分）
- 第2回 情報通信基盤論
講義で取り上げたキーワードを各自復習（30分）
- 第3回 ネットワークを流れる情報—アナログとデジタル、アトムとビット、2進数と10進数
講義で取り上げたキーワードを各自復習（30分）
- 第4回 情報通信システム論の歴史—文明論的アプローチ、経済論的アプローチ、政策論的アプローチ
講義で取り上げたキーワードを各自復習（30分）
- 第5回 情報通信システムと産業構造
講義で取り上げたキーワードを各自復習（30分）
- 第6回 固定通信ネットワークと通信事業者
講義で取り上げたキーワードを各自復習（30分）
- 第7回 地上波放送ネットワーク（公共放送と民間放送）
講義で取り上げたキーワードを各自復習（30分）
- 第8回 ケーブルテレビ・ネットワーク（地域ネットワーク）
講義で取り上げたキーワードを各自復習（30分）
- 第9回 衛星ネットワーク（BSとCS）
講義で取り上げたキーワードを各自復習（30分）
- 第10回 移動通信ネットワークと携帯電話事業者
講義で取り上げたキーワードを各自復習（30分）
- 第11回 インターネット・プロバイダー
課題資料を各自予習（30分）
- 第12回 デジタル家電・デジタル端末
課題資料を各自予習（30分）
- 第13回 プラットフォーム、コンテンツビジネス
課題資料を各自予習（30分）
- 第14回 デジタルコンテンツ
課題資料を各自予習（30分）
- 第15回 ビックデータが変える企業と社会
課題資料を各自予習（30分）

講義の前半は総論である。ここでは、情報概念、情報ネットワークの構造、情報ネットワーク論の系譜などをとりあげ、情報通信システムの基礎概念を説明する。講義の中盤は、ネットワーク・サービスを提供する多様な情報産業を5つに分類して、それぞれの特徴と現状を比較検討する。後半では、資料を用いながら情報通信システムに関する最近のトピックを取り上げる。

【授業の進め方】

- ・ 講義は原則、PCのプレゼンテーション方式で進める。
- ・ 後半は指定された文献のテーマに沿って講義を進める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に指定しない

【参考図書】

通信白書、情報メディア白書等の関連資料および関連サイト（講義中に提示する）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 0%

特記事項

初回の講義には必ず出席すること

【履修上の心得】

新しいメディアと情報通信技術に興味をもつ学生諸君は この講義を受講して情報通信システムと企業戦略、メディアと社会との関係を体系的に学んで欲しい。情報通信技術に関する事前の予備知識の有無は問わない。

【科目のレベル、前提科目など】

メディア論、情報ネットワーク論と同時または、両科目を履修前に履修することが望ましい。

受講者は情報処理関連科目の単位を取得していることが望ましい。

科目名	情報通信システム論Ⅱ
	情報通信システムとグローバル化
教員名	菅谷 実

【授業の内容】

本講義では、情報通信システムの発展を情報通信技術、グローバル化、経営戦略、企業間関係というキーワードから明らかにする。具体的には情報通信システムのなかでもグローバルな経済活動にはなくてはならないセキュアなネットワーク・サービスを提供する日本と欧米の主要通信事業者の事例研究を通して、多様なシステム・サービスの発展過程を明らかにする。

【到達目標】

- ・ グローバルな視点から情報通信システムを理解する。
- ・ コンピュータと通信の融合プロセスについて理解する。
- ・ 企業間関係論という視点から情報通信企業の戦略を理解する。

【授業計画】

- 第1回 情報通信とグローバル化
講義で取り上げたキーワードを各自復習すること (30分)
- 第2回 情報通信産業の進化
講義で取り上げたキーワードを各自復習すること (30分)
- 第3回 情報通信システムのグローバル化
講義で取り上げたキーワードを各自復習すること (30分)
- 第4回 企業間関係の視座 (1)
講義で取り上げたキーワードを各自復習すること (30分)
- 第5回 企業間関係の視座 (2)
講義で取り上げたキーワードを各自復習すること (30分)
- 第6回 日本の情報通信システムとグローバル化-NTT
講義で取り上げた通信事業者のサイトからグローバル・サービスの特徴をまとめる (30分)
- 第7回 英国の情報通信システムとグローバル化-BT
講義で取り上げた通信事業者のサイトからグローバル・サービスの特徴をまとめる (30分)
- 第8回 米国の情報通信システムとグローバル化 (1) -AT&T
講義で取り上げた通信事業者のサイトからグローバル・サービスの特徴をまとめる (30分)
- 第9回 欧州の情報通信システムとグローバル化-オレンジとドイツテレコム
講義で取り上げた通信事業者のサイトからグローバル・サービスの特徴をまとめる (30分)
- 第10回 米国の情報通信システムとグローバル化 (2) -ワールドコム
ワールドコムの提供する情報通信サービスの発展過程を振り返る (30分)
- 第11回 米国の情報通信システムとグローバル化 (3) -IBM
コンピュータ会社IBMと通信事業者間の競合関係をまとめる (30分)
- 第12回 インターネット時代のグローバルシステム
これまでの事例研究から学んだことをまとめる (30分)
- 第13回 グローバルシステムの行方
端末のスマート化の進展がグローバルシステムにどのような影響をもたらしたかをまとめる (30分)
- 第14回 メディア融合と情報通信ネットワーク
講義で取り上げたキーワードを各自復習すること (30分)
- 第15回 無線技術と情報通信ネットワーク
これまでの授業内容について復習 (30分)

グローバルな経済活動を支える情報通信システムは、多国籍企業にはなくてはならない情報基盤である。本講義では、日本だけではなく、欧米の通信事業者、コンピュータ事業者の事例研究を交えて、そのような情報基盤がどのように形成されてきたかを学ぶ。

【授業の進め方】

講義はコンピュータ室で行なう。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は指定しない

【参考図書】

- ・ 菅谷実・高橋浩夫・岡本秀之編著、『情報通信の国際提携戦略』、中央経済社、1999、3500円
- ・ 情報通信総合研究所編、『情報通信アウトック2014』、NTT出版、2013、2200円

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 100% 受講態度 0%

特記事項

- ・ 授業内の課題評価を重視する。
- ・ 講義への貢献度を重視する。

【履修上の心得】

インターネット、企業のグローバル戦略等に興味をもつ学生諸君は この講義を受講して情報通信システムのグローバル化、情報通信産業における国際経営戦略を体系的に学んで欲しい。

【科目のレベル、前提科目など】

情報通信システム論 I を受講していることが望ましい。

受講者は情報処理関連科目の単位を取得していることが望ましい。

科目名	マルチメディア論 I
	～現代マルチメディア技術解説～
教員名	黒澤 和人

【授業の内容】

現代は、インターネット時代とかマルチメディア時代と呼ばれる。マルチメディアとは、次の3つの条件を満たす情報伝達の媒体のことである。

- (1) やり取りされるデータはすべてデジタル (digital) 化されていること。
- (2) テキスト、静止画、動画 (アニメや映像)、音声を統合的 (integrated) に扱えること。
- (3) 情報伝達が双方向的 (interactive) に行えること。

したがって、インターネットやWeb (World Wide Web: いわゆるWWW) のシステムは、まさにマルチメディアの典型的な例である。

当授業では、そうしたインターネットをはじめとする現代のマルチメディア技術全般について解説を行い、各自の専門分野 (経営・法・教育) においてどのように活用されているかを考え、将来の職業選択の参考にしようとするものである。

授業は、講義形式で進めることとし、配布資料や、映像によるデモンストレーションを使った解説を行う。一方、受講者には、マルチメディアの仕組みの理解とともに、それによって引き起こされるさまざまな問題についても考えていってもらいたい。

【到達目標】

- (1) 通信やインターネットおよびその上で交換される各種情報の仕組みを理解する。
- (2) 社会の各場面においてマルチメディアがどのように活用されているかを理解する。
- (3) インターネットやWebページ上で動く動画やアニメーションの仕組みを理解する。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンスとマルチメディア技術の概要。次回までにWebClassに課題をアップする (60分)。
- 第2回 静止画とその処理の仕組み。次回までにWebClassに課題をアップする (60分)。
- 第3回 動画像とその処理の仕組み。次回までにWebClassに課題をアップする (60分)。
- 第4回 音声情報とその処理の仕組み。次回までにWebClassに課題をアップする (60分)。
- 第5回 情報と符号の基礎理論。次回までにWebClassに課題をアップする (60分)。
- 第6回 通信と暗号の基礎理論。次回までにWebClassに課題をアップする (60分)。
- 第7回 インターネットとセキュリティの技術。次回までにWebClassに課題をアップする (60分)。
- 第8回 人工知能の基礎理論 (機械学習とディープラーニング)。次回までにWebClassに課題をアップする (60分)。
- 第9回 ビッグデータとデータマイニング手法。次回までにWebClassに課題をアップする (60分)。
- 第10回 仮想通貨 (ブロックチェーン) とフィンテック。次回までにWebClassに課題をアップする (60分)。
- 第11回 教育分野とマルチメディア。次回までにWebClassに課題をアップする (60分)。
- 第12回 行政情報とマルチメディア。次回までにWebClassに課題をアップする (60分)。
- 第13回 マルチメディア技術と法規制。次回までにWebClassに課題をアップする (60分)。
- 第14回 プレゼンテーションのためのマルチメディア技術。次回までにWebClassに課題をアップする (60分)。
- 第15回 まとめと今後の学習のための案内。これまでの内容をまとめWebClassにアップする (60分)。

【授業の進め方】

毎回、講義と演習問題を織り交ぜながら進めていく。

- (1) 講義では、マルチメディアデータの形式、処理の基本事項を解説する。
- (2) また、図解や映像を使ったデモンストレーションなどを利用する。
- (3) 演習では、例題を使って、テキストや画像の処理の仕組みの理解度を確認する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ・黒澤和人『Web教材制作演習』丸善プラネット,2017.
- ・必要に応じて印刷教材を配布することもある。

【参考図書】

- ・関連する文献については、授業のなかでその都度紹介していく。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

出席回数が全体の3分の2を超えていることを前提に、

- (1) レポート・課題
 - ・レポートの処理状況
 - ・期末テストに代わる最終レポートの結果

- ・宿題の処理状況
- (2) 受講態度
- ・授業ごとの課題の処理状況および質疑応答の状況
- で評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・レポートについては、提示された日に欠席していても、出席した者と同様の条件で、処理し提出することができる。
- ・宿題も同様である。

【履修上の心得】

欠席した場合は、授業支援システムWebClassの情報などを参考に、おいかけて勉強し、当日出席した他の学生と同様の状態で、次回の授業に参加できるよう努力すること。

【科目のレベル、前提科目など】

コンピュータやインターネットの仕組みが分かるのに加え、ソフトウェアの世界における物作りの状況が理解できる。

前提科目：特になし。

関連科目：情報・数理系科目、メディア系科目。

科目名	マルチメディア論Ⅱ
	～インターネットとWebサイトの技術基礎～
教員名	黒澤 和人

【授業の内容】

後期に位置付けられた当授業では、前期の「マルチメディア論Ⅰ」の授業で得た知識を前提に、インターネットとWebサイトの技術基礎を学習する。主な内容は、次の3点である。

- (1) Web標準：インターネットで利用可能な文字コードと画像形式、Webユーザビリティ/アクセシビリティ
- (2) マークアップ言語：HTML5/CSS3/JavaScriptによるWebページデザイン
- (3) システム化技術：Webサイトの設計と構築、材料の調達・加工、Webサイトの運用と管理

授業形態は講義形式で進め、そこに問題演習などの活動を織り込み、内容をより具体的に理解できるようにする。

【到達目標】

- (1) インターネットの標準化技術について理解する。
- (2) HTML5/CSS3/JavaScriptについて理解する。
- (3) Webサイトの開発技法を理解する。
- (4) 各専門分野（経営、法、教育）においてWeb技術がどう活用されているか理解する。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンスとWebサイト制作のワークフロー。次回までに課題をWebClassにアップする（60分）。
- 第2回 要求定義と企画立案。次回までに課題をWebClassにアップする（60分）。
- 第3回 WebサイトとWebページの設計。次回までに課題をWebClassにアップする（60分）。
- 第4回 インターネットの標準画像形式。次回までに課題をWebClassにアップする（60分）。
- 第5回 マークアップ言語入門（XML、SVG、MathML）。次回までに課題をWebClassにアップする（60分）。
- 第6回 マークアップ言語HTMLの仕様。次回までに課題をWebClassにアップする（60分）。
- 第7回 スタイルシート言語CSS3の仕様。次回までに課題をWebClassにアップする（60分）。
- 第8回 スクリプト言語JavaScriptの基礎。次回までに課題をWebClassにアップする（60分）。
- 第9回 Webアニメーションの仕組み。次回までに課題をWebClassにアップする（60分）。
- 第10回 Webデータベースの仕組み。次回までに課題をWebClassにアップする（60分）。
- 第11回 Webサイト制作技術の応用1（電子書籍）。次回までに課題をWebClassにアップする（60分）。
- 第12回 Webサイト制作技術の応用2（e-Learningシステム）。次回までに課題をWebClassにアップする（60分）。
- 第13回 Webサイト制作とWebユーザビリティ。次回までに課題をWebClassにアップする（60分）。
- 第14回 Webサイトの運用管理と検証サービスの利用。次回までに課題をWebClassにアップする（60分）。
- 第15回 まとめと今後の学習のための案内。これまでの内容を総復習する（120分）。

【授業の進め方】

毎回、講義に問題演習を織り交ぜながら進めていく。

- (1) 講義では、言語仕様、文法、プログラミングの基本事項を解説する。
- (2) 問題演習では、例題を使って、Webの基礎技術の理解に努める。

授業形態は講義形式で進め、そこに問題演習などの活動を織り込み、内容をより具体的に理解できるようにする。また、これを補う形で宿題を出す。授業支援システムで提示される演習問題を実際に処理すること。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ・黒澤和人『Web教材制作演習』丸善プラネット,2017。
- ・必要に応じて印刷教材を配布することもある。

【参考図書】

- ・HTML5/CSS3については、文法と用法を一通り載せたマニュアル本が多数出版されているので、ハンディなものを買って1冊購入しておくといよい。
- ・JavaScriptに関する図書は、プログラミング言語の分野で見つけることができる。
- ・XMLについても、マニュアル本や問題集などがやはり多数出版されている。
- ・SVGやMathMLなどについては、HTML5の書籍に記述が見られる。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

出席回数が全体の3分の2を超えていることを前提に、

- (1) レポート・課題
 - ・レポート（いわゆる宿題）の提出状況
 - ・期末テストに代わる最終レポートの結果
 - ・宿題の処理状況および予復習の状況

(2) 受講態度

・授業ごとの課題の処理状況および質疑応答の状況で評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

レポートについては、提示された日に欠席していても、出席した者と同様の条件で、処理し提出することができる。

【履修上の心得】

欠席した場合は、テキストや授業支援システムの情報などを参考に、おいかけて勉強し、当日出席した他の学生と同様の状態で、次回の授業に参加できるよう努力すること。

【科目のレベル、前提科目など】

コンピュータやインターネットの仕組みが分かるのに加え、ソフトウェアの世界における物作りの基本が理解できる。

前提科目：特になし。

関連科目：情報・数理系科目、メディア系科目。

科目名	インターネット起業論
	インターネット会議システムを利用し、激動の時代を生き抜くために必要なベンチャースピリットを学ぶ
教員名	新井 佐恵子

【授業の内容】

第3次技術革新といわれるインターネットにより時代は大きく変わり、携帯やPCでのインターネット利用が定着し我々の生活に必要不可欠のものとなった。インターネットが我々の社会や生活をどのように変えてきたか、また、どのように変えていくかを企業活動を中心に考える。

その中で、参入障壁が低いインターネットを利用したビジネスは、どのように生まれ、発展してきたかを考察しながら、実社会で大企業やベンチャー企業などの様々な企業でインターネットがどのように活用されているかを学ぶ。

特にインターネット業界の発展過程では、新しいものに挑戦するベンチャースピリットの大切さを理解し、ベンチャー企業だけでなく変化に適応する必要のあるあらゆる組織の中でどのように活かしていくかを学んでいく。

【到達目標】

- ・インターネットを通じたベンチャー企業がどのように起業しビジネスを継続してきたかを理解する
- ・起業家のビジネスマインドを理解し、実社会にどのように応用できるか考える力をつける
- ・インターネット会議システムの利用方法を習得する
- ・自分で考え、言葉にして発表する力を身に着ける

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス、遠隔会議システムLive-onの利用方法、起業家（復習約30分）
- 第2回 ベンチャー企業及びその役割、企業環境（復習約30分）
- 第3回 ベンチャー企業の経営（復習約30分）
- 第4回 インターネットの歴史と技術革新（復習約30分）
- 第5回 インターネットの特徴と新しい仕組み（復習約30分）
- 第6回 ビジネスモデルのキー要素（1）（復習約30分）
- 第7回 ビジネスモデルのキー要素（2）（復習約30分）
- 第8回 ビジネスモデル研究・ケーススタディ（1）（復習約30分）
- 第9回 ビジネスモデル研究・ケーススタディ（2）（復習約30分）
- 第10回 ビジネスモデル研究・ケーススタディ（3）（復習約30分）
- 第11回 ビジネスモデル研究・ケーススタディ（4）（復習約30分）
- 第12回 ビジネスモデル研究・ケーススタディ（5）（復習約30分）
- 第13回 ビジネスモデル研究・ケーススタディ（6）（復習約30分）
- 第14回 発表（1）（プレゼンテーション準備時間約1時間）
- 第15回 発表（2）（プレゼンテーション準備時間約1時間）

【授業の進め方】

対面授業とインターネット会議システムを利用した遠隔授業を組み合わせで行う。少人数制なので対話をしながら各人の理解度を確認しながら講義をすすめていく。質疑応答、ディスカッション等、特にインターネット通信の双方向性をいかした学生の積極的な参加は大歓迎。遠隔授業は、小山本キャンパスと 日本等（東京、海外）の拠点をつないで行う予定である。

資料はパワーポイントのスライドを利用して行う。

日本あるいは海外の起業家と直接話しをする機会を設けて、インターネットを利用したビジネスの理解を深めるとともに、起業家がどのようなベンチャースピリットを持ち、会社を発展させてきたかを生の声から学ぶ。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

講義の際にレジュメ、資料等を使用し、使用した資料等については、授業後に大学のサイトに掲載する。参考書については、授業中においても適宜指示する。

【参考図書】

- ・長谷川博和著『ベンチャーマネジメント[事業創造]入門』日本経済新聞出版社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

- ・終了課題としてレポート作成及びパワーポイントによる資料による発表
- ・インターネット会議システムを利用した授業なので、積極的な参加と活発な双方向の授業を行うため、授業中の発言、書き込みは加点として積極的に評価する。
- ・授業中に紹介した本の感想および行動計画を提出した場合には、加点とする

【履修上の心得】

予習は必要ないが、授業中に集中して考えることと、復習に力を入れて、課題を通してよく考え、書くことや発表することにより授業内容を理解してほしい。

インターネット会議システムを利用して授業を行う回数が多いため基本的な動作方法の取得が必要。操作は簡単であり、授業中は教室に情報システムセンターからサポート要員が配置される予定。

【科目のレベル、前提科目など】

経営学、ベンチャービジネス論Iを事前にあるいは同時並行して受講することが望ましいが受講していなくても理解可能。

経営学の中で、新規事業・新規創業に焦点をあてたベンチャー起業に関して、インターネットの利活用の観点から考察する分野である。

2年生以上推奨。

科目名	メディア論
	地域メディアと社会
教員名	菅谷 実

【授業の内容】

本講義は、メディア発展の歴史、メディア産業、さらには企業とメディア、メディアと社会・政治の関係を学ぶ。具体的には、各メディアの概要を紹介した後、アジアの地域メディアの事例紹介からメディアと社会との関わりについて論じる。

【到達目標】

- ・メディア産業に関する基本的用語の理解
- ・地域メディアの対する基本的理解
- ・アジア主要地域の地域メディア事例研究
- ・メディアと社会について考える力をもつ

【授業計画】

- 第1回 メディアとは何か、メディアという用語についての多様な考え方を提示する
講義で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)
- 第2回 メディア技術進化の概要を紹介する
講義で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)
- 第3回 印刷メディアの発展の歴史を概観する
講義で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)
- 第4回 印刷メディアの出現と「表現の自由」の関係性について紹介する
「表現の自由」とは何か、各自復習する (30分)
- 第5回 電子メディア産業の基礎概念について紹介する
講義で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)
- 第6回 情報通信メディア産業の概要を紹介する
講義で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)
- 第7回 地域メディアとネットワーク
テキストの目次、各章の概要について各自予習する (30分)
- 第8回 日本の地域メディアとして放送メディアを紹介する
テキスト第6章を各自予習する (30分)
- 第9回 日本の地域メディアとしてケーブルテレビメディアを紹介する
テキスト第1章を各自予習する (30分)
- 第10回 韓国の地域メディアの概要を紹介する
テキスト第7章を各自予習する (30分)
- 第11回 中国の地域メディアの概要を紹介する
テキスト第8章を各自予習する (30分)
- 第12回 台湾の地域メディアの概要を紹介する
テキスト第9章を各自予習する (30分)
- 第13回 タイの地域メディアの概要を紹介する
テキスト第10章を各自予習する (30分)
- 第14回 ICTの発展と地域メディアの可能性
テキスト第3章から第5章を各自予習する (60分)
- 第15回 地域メディアとネットワーク－全体のまとめ
これまでの講義内容について復習 (120分)

講義の前半は、印刷メディアと電子メディアの発展の歴史と日本におけるメディアの現状を明らかにする。後半は、地域メディアを取り上げ、アジアの地域メディアの事例紹介を通して日本の地域メディアの特質を明らかにする。後半部分は、教科書を中心に講義を進める。

【授業の進め方】

- ・講義では毎回、プロジェクターを使用する。
- ・後半は教科書のテーマに沿って講義を進める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①『地域メディア力』 ②菅谷実 ③中央経済社 ④2014年 ⑤2800円+税 ⑥978-4-502-09030-1

【参考図書】

講義時に提示する

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 0%

特記事項
履修者は必ず教科書を入手すること。

【履修上の心得】

日常生活においても地域メディアに接触する機会を積極的につくってほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

情報通信ネットワーク論 I を併せて受講することが望ましい。

科目名	情報ネットワーク論
	情報ネットワークの進化と経済・社会
教員名	菅谷 実

【授業の内容】

社会のコミュニケーション活動を支える情報ネットワークの基礎的知識の修得とネットワークの進化が社会のコミュニケーション活動にどのような影響を及ぼしてきたかを明らかにすることを目的としている。具体的には、放送、通信などの情報ネットワークの発展経緯、それぞれのネットワークの仕組み、機能、運営等を明らかにする。

【到達目標】

- ・ネットワークという用語の理解を深める。
- ・情報ネットワークとは何かを理解する。
- ・情報ネットワーク発展の歴史を理解する。
- ・メディア融合とネットワークの関係を理解する。

【授業計画】

- 第1回 ネットワークと企業活動
講義で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)
- 第2回 企業組織とネットワーク
講義で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)
- 第3回 ネットワーク産業の特質
講義で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)
- 第4回 郵便ネットワークの発展 (1)
講義で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)
- 第5回 郵便ネットワークの発展 (2)
郵便料金に関する課題をWebClassにアップする (200字 60分)
- 第6回 情報ネットワークとしての交通ネットワーク
講義で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)
- 第7回 放送ネットワーク発展の歴史 (1)
WebClassにアップされた資料を読んでまとめる (200字 60分)
- 第8回 放送ネットワーク発展の歴史 (2)
講義で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)
- 第9回 通信ネットワーク発展の歴史 (1) -国内ネットワークの形成
講義で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)
- 第10回 通信ネットワーク発展の歴史 (2) -競争時代のネットワーク
講義で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)
- 第11回 インターネットとグローバル・ガバナンス
講義で取り上げたサイトから興味あるテーマをまとめWebClassにアップする (200字 60分)
- 第12回 国際通信ネットワークのバックボーン-海底ケーブルの役割
講義で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)
- 第13回 異種ネットワークの結合
講義で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)
- 第14回 ネットワークの高度化が社会環境に及ぼす影響
講義で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)
- 第15回 情報通信ネットワークの行方
これまでの授業内容について復習 (120分)

本講義では、社会の情報活動を支える情報通信ネットワークとして放送、通信、インターネットにとどまらず郵便、交通などのパッケージ系情報メディアの流通を支えるネットワークをも取り上げる。それらの事例を通して企業活動、社会活動を支える情報ネットワークの発展経緯とその役割を明らかにする。

【授業の進め方】

講義はコンピュータ室で実施し、受講者がネットワーク情報を検索する機会も設ける。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は指定しない。

【参考図書】

初回講義時に紹介する

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 100% 受講態度 0%

特記事項

- ・授業内の課題評価を重視する。
- ・講義への貢献度を重視する。

【履修上の心得】

授業には出席するだけでなく積極的に参加する。

【科目のレベル、前提科目など】

情報通信システム論 I および II とメディア論を履修していることが望まれる。

科目名	マスコミュニケーション論
	マスコミの現状と課題
教員名	後藤 謙次

【授業の内容】

「第四の権力」ともいわれる日本のマスコミ（マスメディア）は、ネット社会の到来とデフレの長期化などで、大きな変革期に直面している。もし「権力の監視」と「事実の報道」というジャーナリズムの機能が衰えるなら、言論の自由に立脚する日本の民主主義が揺らぐことにもなる。

放送、新聞、出版などの日本のマスコミが現在どのような状況にあるのか、課題・問題点は何なのか。マスコミの現場で働いてきた経験、知識を生かして、マスコミの構造と特質を分析・検証する。

【到達目標】

我々の社会には、情報があふれている。インターネット上には重視すべき情報、それほどではない情報、全くの虚偽情報までありとあらゆる情報が氾濫している。マスコミは情報の軽重を判断して我々に提供してくれる。マスコミの機能や役割を学ぶことによって、情報の選択力をつけることができる。それによって情報を読み解く力を磨くことにもつながる。

また、講義の中で、その時々的重要ニュースを取り上げ、解説や背景説明をすることになっている。社会の動きに関心を持ってもらうことで、それを自分自身の問題として受け止め、それにどう対応していくべきかを考えてもらう。さまざまな情報の中から、生活や仕事をするうえでのヒントをつかむ力を養ってもらうことも目標だ。

【授業計画】

- 第1回 メディア興亡史
- 第2回 東日本大震災とメディア報道
- 第3回 新聞の現状と未来
- 第4回 地方紙と通信社
- 第5回 選挙とメディア
- 第6回 激変する国際報道
- 第7回 視聴率とテレビ報道
- 第8回 世論調査と政治報道
- 第9回 近隣外交とメディア報道
- 第10回 沖縄問題とメディア
- 第11回 誤報のメカニズム
- 第12回 調査報道はメディアの生命線
- 第13回 取材のモラル
- 第14回 ネット時代のメディア報道
- 第15回 ダークツーリズムの薦め

このほか、国際情勢や我が国の政治・経済動向など、その時々的重要ニュース・出来事を随時取り上げ、解説や背景説明をする。

【授業の進め方】

新聞記事などを引用しながら、知るべき情報と、無視してよい情報を選別できる目を養えるよう努める。

事前の専門知識は不要だが、講義の進行に伴って世の中の出来事に関心を持って授業に出てくるようになることを期待している。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

新聞を利用するが、教科書は使用しない。新聞切抜きなど参考資料を随時配布する。

【参考図書】

参考文献は講義の中で紹介していく。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 50%

特記事項

定期試験を実施する。

【履修上の心得】

ネット社会に入り、情報はあふれている。いろいろなマスコミを使い分けて、本筋の情報と無視すべき情報とを見分ける目を養うことが、これからの時代を賢く生き抜くうえで大事になる。

世界の動向はわれわれの日常生活に直結している。国際情勢や国内政治・経済など内外の動きに常に関心を持つことの大切さを認識してもらう。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目はないが、関連科目としては社会学、国際関係論、政治学など。

マスコミは客観的かつ公平に情報を伝えることを基本姿勢としている。そのためには複眼的に事象を見ること、取材相手との信頼関係をつくることが大切だ。物事を客観的に見ることと、常に人間関係を大事にすることは、いかなる職業に就こうとも不可欠の要素である。

ベーシックなマスコミ概論を通じて、民主主義社会におけるマスコミの実像を理解してもらうことで、社会人に向けての“基礎体力”を強化してもらうことを目指す。

科目名	簿記論
教員名	藤浪 英也

【授業の内容】

1. 簿記は企業の経済活動を最終的には財務諸表（貸借対照表・損益計算書）という報告書にまとめ上げる記帳方法である。約5世紀前イタリア自由都市で完成した複式簿記は企業活動を計数的に処理・分析できるツールであり、世界共通の記帳法（会計言語）である。よって、現代人が経済社会活動を円滑に営む上での不可欠の教養になっていると言える。本講義では、基本的な複式簿記の原理と構造の理解および記帳技術を学ぶ。
2. この講義におけるアクティブラーニング
各講義日において学んだことを総括し、出席者同士で論点を整理する。そして疑問点は代表者が質問をして解決する。

【到達目標】

個人企業の貸借対照表や損益計算書を作成する原理と技術の修得を目標とするが、日商簿記検定3級程度の資格取得を狙える実力養成もめざす。

【授業計画】

- | | |
|------|---|
| 第1回 | ガイダンス
予習時間は不要
復習時間は今回は不要だが、次回の講義で使う電卓、教科書を用意すること。 |
| 第2回 | 簿記の意義と必要性
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして1時間 |
| 第3回 | 簿記の目的・種類
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして1時間 |
| 第4回 | 資産・負債・純資産
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして1時間 |
| 第5回 | 貸借対照表
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして1時間 |
| 第6回 | 収益・費用
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間 |
| 第7回 | 損益計算書
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間 |
| 第8回 | 取引・勘定
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして1時間 |
| 第9回 | 仕訳・転記
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして1時間 |
| 第10回 | 仕訳帳
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして1時間 |
| 第11回 | 総勘定元帳
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして1時間 |
| 第12回 | 試算表
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして1時間 |
| 第13回 | 6桁精算表の作成
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして1時間 |
| 第14回 | 元帳の締め切り
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして1時間 |
| 第15回 | 現金・小口現金 |

	予習時間は不要 復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
第16回	預金 予習時間は不要 復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
第17回	商品売買 予習時間は不要 復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
第18回	売掛金・買掛金 予習時間は不要 復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
第19回	手形の振り出し 予習時間は不要 復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
第20回	手形の裏書および割引 予習時間は不要 復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
第21回	前払金と前受金 予習時間は不要 復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
第22回	未払金と未収金 予習時間は不要 復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
第23回	有価証券の取得 予習時間は不要 復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
第24回	有価証券の売却 予習時間は不要 復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
第25回	有形固定資産 予習時間は不要 復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
第26回	個人企業の資本金 予習時間は不要 復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
第27回	8桁精算表の作成 予習時間は不要 復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
第28回	財務諸表の作成 予習時間は不要 復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
第29回	伝票の処理 予習時間は不要 復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
第30回	伝票式会計 予習時間は不要 復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間

大学は実社会へのステップであると考えているので、受講者には社会人の常識を身に付けるべき大人としての対応を求める。特に会計は企業会計原則の「真实性の原則」にも謳っている通り「真実を求める正義の学問」であるので虚偽や不正行為をする者は厳罰に処するので心得ておくように。このため出席データに不正を行った者および欠席回数が3分の1以上超えた者には期末試験の受験資格を認めない。また受講中に私語をするもの、教科書指定教材電卓などを持参しないものについては期末試験の受験資格を与えないこともあることを認知しておくこと。なお、やむおえない事情により講義を遅刻、欠席するものには、当該講義について理解できるまで補習指導するので申し出るように。

【授業の進め方】

テキストを参照しながら、問題集・プリントの問題を解く。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①検定簿記講義 3級 ③中央経済社 ⑤700円
 ①検定簿記ワークブック 3級 ③中央経済社 ⑤700円

テキストおよび問題集は、講義で必要となった時に、購入を指示するので、それまでは購入しなくてよい。

【参考図書】

参考図書 『新訂 現代簿記』中村忠著 白桃書房

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 20% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

定期試験および授業内テストを評価対象とする。授業内テストは随時行う。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

欠席回数が授業時数の3分の1を超えた場合、および出席データに不正行為を行った者には受験資格を与えない。

【履修上の心得】

休まない。遅れない。電卓を必ず携行。簿記の習得は電卓とペンで問題を解くことにつきる。指定したテキスト等は必ず購入すること。

【科目のレベル、前提科目など】

科目のレベル 精算表まで完成できることが望ましいが、基礎から指導する。

前提科目 会計学

関連科目 簿記・会計関連科目すべて。

「中級簿記論」 はじめ簿記・会計科目の前提知識となるので十分留意すること。

科目名	簿記論
教員名	館野 敏

【授業の内容】

簿記は企業などの経済活動を記録し計算することを目的とする一つの技術である。この技術を習得するために、複式簿記の原理を学ばなければならない。本講義は、この原理を実例に即して解明していくものである。

【到達目標】

基本的な仕訳を覚え、簡単な帳簿、損益計算書、及び貸借対照表が作れるようになる。

簿記の技術を身につけ、具体的には簿記の実務検定3級程度の実力をつけることを目標とする。

問題が解けるということだけでなく、グループディスカッションの中で「教える」ということを通して、さらなる深い理解を習得する。

【授業計画】

- 第1回 資産・負債・純資産と貸借対照表(予習として「テキスト」読み込み30分程度、復習として「トレーニング」の問題解決学習1時間程度)
- 第2回 収益・費用と損益計算書(予習として「テキスト」読み込み30分程度、復習として「トレーニング」の問題解決学習1時間程度)
- 第3回 取引(予習として「テキスト」読み込み30分程度、復習として「トレーニング」の問題解決学習1時間程度)
- 第4回 仕訳(予習として「テキスト」読み込み30分程度、復習として「トレーニング」の問題解決学習1時間程度)
- 第5回 勘定記入(予習として「テキスト」読み込み30分程度、復習として「トレーニング」の問題解決学習1時間程度)
- 第6回 帳簿(予習として「テキスト」読み込み30分程度、復習として「トレーニング」の問題解決学習1時間程度)
- 第7回 試算表の作成(予習として「テキスト」読み込み30分程度、復習として「トレーニング」の問題解決学習1時間程度)
- 第8回 元帳の締切と財務諸表の作成(予習として「テキスト」読み込み30分程度、復習として「トレーニング」の問題解決学習1時間程度)
- 第9回 精算表の作成(予習として「テキスト」読み込み30分程度、復習として「トレーニング」の問題解決学習1時間程度)
- 第10回 演習問題(予習として「テキスト」読み込み30分程度、復習として「トレーニング」の問題解決学習1時間程度)
- 第11回 現金・現金過不足(予習として「テキスト」読み込み30分程度、復習として「トレーニング」の問題解決学習1時間程度)
- 第12回 当座預金・当座借越(予習として「テキスト」読み込み30分程度、復習として「トレーニング」の問題解決学習1時間程度)
- 第13回 小口現金(予習として「テキスト」読み込み30分程度、復習として「トレーニング」の問題解決学習1時間程度)
- 第14回 商品売買(予習として「テキスト」読み込み30分程度、復習として「トレーニング」の問題解決学習1時間程度)
- 第15回 商品有高帳(予習として「テキスト」読み込み30分程度、復習として「トレーニング」の問題解決学習1時間程度)
- 第16回 売掛金・買掛金(予習として「テキスト」読み込み30分程度、復習として「トレーニング」の問題解決学習1時間程度)
- 第17回 その他の債権・債務(予習として「テキスト」読み込み30分程度、復習として「トレーニング」の問題解決学習1時間程度)
- 第18回 受取手形・支払手形(予習として「テキスト」読み込み30分程度、復習として「トレーニング」の問題解決学習1時間程度)
- 第19回 裏書手形・割引手形(予習として「テキスト」読み込み30分程度、復習として「トレーニング」の問題解決学習1時間程度)
- 第20回 有価証券(予習として「テキスト」読み込み30分程度、復習として「トレーニング」の問題解決学習1時間程度)
- 第21回 固定資産の取得・売却(予習として「テキスト」読み込み30分程度、復習として「トレーニング」の問題解決学習1時間程度)
- 第22回 固定資産の修繕・資本的支出(予習として「テキスト」読み込み30分程度、復習として「トレーニング」の問題解決学習1時間程度)
- 第23回 資本金と引出金(予習として「テキスト」読み込み30分程度、復習として「トレーニング」の問題解決学習1時間程度)
- 第24回 収益と費用(予習として「テキスト」読み込み30分程度、復習として「トレーニング」の問題解決学習1時間程度)
- 第25回 税金(予習として「テキスト」読み込み30分程度、復習として「トレーニング」の問題解決学習1時間程度)
- 第26回 伝票(予習として「テキスト」読み込み30分程度、復習として「トレーニング」の問題解決学習1時間程度)
- 第27回 試算表の作成(予習として「テキスト」読み込み30分程度、復習として「トレーニング」の問題解決学習2時間程度)
- 第28回 決算整理事項(予習として「テキスト」読み込み30分程度、復習として「トレーニング」の問題解決学習2時間程度)
- 第29回 精算表の作成(予習として「テキスト」読み込み30分程度、復習として「トレーニング」の問題解決学習2時間程度)

第30回 元帳の締切と財務諸表の作成(予習として「テキスト」読み込み30分程度、復習として「トレーニング」の問題解決学習2時間程度)

授業計画のもとで、各論点を確実に自分のものしていただきたい。そのためには、講義だけではなく理解を深めるためグループディスカッション等を取り入れる予定です。

【授業の進め方】

本講義は、教科書を中心にすすめていきたい。簿記の学習は、頭で考えるだけでなく基本的手続を記帳練習をとおして身につけていくことが要求されます。常に電卓とペンを手にして練習問題を繰り返し解いていく努力が必要です。決して労と時間を惜しまず、実際にやってみて体で覚えるという姿勢で臨んで欲しい。また、基本をしっかり理解しておかないと、後半の講義が全く解らないということになるからスタートから真剣に取り組んで欲しい。疑問点があったらその都度質問をし、疑問を後に残さないことも大事なことです。重要な所は、問題集による演習及びグループディスカッション等も積極的に取り入れていき、問題解決学習となるように進行していくつもりです。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①よくわかる簿記シリーズ合格テキスト日商簿記3級Ver.9.0 ②TAC簿記検定講座 ③TAC ④2017年 ⑤2160円
①合格トレーニング日商簿記3級商業簿記 ②TAC簿記検定講座 ③TAC ④2017年 ⑤1620円

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 30% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

基本的に定期試験の成績で評価します。これに授業内試験(小テスト)を加味して決定します。但し、授業回数の2/3以上を出席していないと定期試験を受けることはできません。

【履修上の心得】

簿記を履修する場合、一日ぐらい休んでもいいやとか、今はわからないけどあとでまとめてやればいいやといった気持ちから、どんどんわからなくなっていくケースが毎年目立っています。注意して下さい。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目：なし

関連科目：会計学、財務会計論、中級簿記論、経営分析論、原価会計論、その他

簿記論は、これらの関連科目の基礎となるものである。

簿記論で学ぶ損益計算書と貸借対照表は、企業の成績表たるものです。この成績表を分析検討することにより企業経営に役立てることになります。そう言った意味できわめて実務性が強く社会に出て即戦力となり得る科目です。検定試験を取得することにより就職の時にも役に立つでしょう。

科目名	簿記論
教員名	青木 孝暢

【授業の内容】

簿記とは、企業の経済活動を貨幣価値により記録・計算し、その結果をまとめて関係者に報告する技術である。簿記には、適用する事業の種類によって、商業簿記、工業簿記および銀行簿記などが存在する。このうち、簿記論では、商企業に適用される簿記である商業簿記を取り上げる。本講義では、簿記を初めて学ぶ学生を対象に、初級レベル（日商簿記検定3級程度）の商業簿記の原理としくみを体系的に学修していく。なお、2016年6月より日商簿記検定の出題範囲が変更されたため、新しく加わった範囲についても取り上げていく予定である。

【到達目標】

簿記論では、初級程度の商業簿記の領域を学修することにより、個人企業における記帳方法および財務諸表の作成方法を理解することを目標とする。また、本講義は中級簿記論、工業簿記論および財務会計論を履修するための前提となる科目である。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス、簿記の基礎(1)―簿記の意義
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第2回 簿記の基礎(2)―仕訳
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第3回 簿記の基礎(3)―転記
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第4回 簿記の基礎(4)―試算表
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第5回 商品売買(1)―掛け、返品・値引き
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第6回 商品売買(2)―諸掛り、売掛金元帳・買掛金元帳
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第7回 商品売買(3)―商品有高帳
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第8回 現金・預金(1)―現金
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第9回 現金・預金(2)―当座預金
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第10回 小口現金
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第11回 手形(1)―約束手形、手形の裏書き
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第12回 手形(2)―手形の割引、受取手形記入帳・支払手形記入帳
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第13回 その他の期中取引(1)―貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金、未収入金・未払金、前払金・前受金
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第14回 その他の期中取引(2)―仮払金・仮受金、立替金・預り金、商品券・他店商品券
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第15回 その他の期中取引(3)―固定資産、有価証券
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第16回 その他の期中取引(4)―租税公課、資本の引き出し、訂正仕訳
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第17回 試算表(1)―問題演習
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第18回 試算表(2)―資料の重複
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第19回 決算手続き(1)―決算の意義、現金過不足、消耗品
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第20回 決算手続き(2)―売上原価
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第21回 決算手続き(3)―固定資産の減価償却
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第22回 決算手続き(4)―固定資産の売却
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）

- 第23回 決算手続き(5)―貸倒れ
復習：講義で扱った設例・問題の再確認 (60分)
- 第24回 決算手続き(6)―費用・収益の見越し・繰延べ
復習：講義で扱った設例・問題の再確認 (60分)
- 第25回 決算手続き(7)―精算表
復習：講義で扱った設例・問題の再確認 (60分)
- 第26回 決算手続き(8)―勘定の締切り
復習：講義で扱った設例・問題の再確認 (60分)
- 第27回 決算手続き(9)―財務諸表
復習：講義で扱った設例・問題の再確認 (60分)
- 第28回 伝票(1)―三伝票制、一部現金取引
復習：講義で扱った設例・問題の再確認 (60分)
- 第29回 伝票(2)―総勘定元帳への転記、売掛金元帳・買掛金元帳への転記
復習：講義で扱った設例・問題の再確認 (60分)
- 第30回 総復習
復習：講義で扱った設例・問題の再確認 (60分)

【授業の進め方】

簿記処理について説明するだけでなく、可能な限り問題演習を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

プリントを使用

【参考図書】

ネットスクール株式会社著『日商簿記3級に“とおる”テキスト』ネットスクール株式会社、2017年、1,944円

ネットスクール株式会社著『日商簿記3級に“とおる”トレーニング』ネットスクール株式会社、2017年、1,728円

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 -% レポート・課題 -% 受講態度 30%

特記事項

定期試験と平常点で総合的に評価

必要に応じて課題を出す場合あり

科目名	中級簿記論
教員名	藤浪 英也

【授業の内容】

- 簿記論で履修した初級簿記の知識をもとに、株式会社会計を含む法人企業を対象とした記帳処理法および財務諸表の作成方法について学ぶ。
- この講義におけるアクティブラーニング
各講義日において学んだことを総括し、出席者同士で論点を整理する。そして疑問点は代表者が質問をして解決する。

【到達目標】

株式会社など企業の経営活動に役立つ会計知識と簿記処理能力および企業の経営活動に関する理解力の修得を図るとともに、日商簿記検定2級の資格取得を狙える実力養成を目指す。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
予習時間は不要
復習時間は今回は不要、ただし指定教科書、電卓等を用意すること。
- 第2回 現金
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第3回 預金
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第4回 商品有高帳・割引
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第5回 商品評価損・棚卸減耗費
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第6回 委託販売、受託販売および試用販売
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第7回 割賦販売および工事進行基準
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第8回 手形の振り出し
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第9回 手形の裏書および割引
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第10回 有価証券取引
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第11回 有形固定資産の取得
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第12回 有形固定資産の売却
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第13回 無形固定資産
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第14回 引当金
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第15回 小試験
予習時間は指定範囲の復習のため2時間
復習時間は講義で行った試験の復習として2時間

- 第16回 株式会社の設立・繰延資産
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第17回 増資・減資
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第18回 資本剰余金と利益剰余金
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第19回 剰余金の配当と処分
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第20回 社債の発行・利払い
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第21回 社債の期末評価と償還
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第22回 株式会社の税金
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第23回 伝票の処理
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第24回 伝票式会計問題演習
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第25回 特殊仕訳帳の基礎
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第26回 特殊仕訳帳問題演習
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第27回 本支店会計
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第28回 決算
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第29回 連結会計の基礎
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第30回 連結会計の問題演習
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間

大学は実社会へのステップであると考えているので、受講者には社会人の常識を身に付けるべき大人としての対応を求める。特に会計は企業会計原則の「真实性の原則」にも謳っている通り「真実を求める正義の学問」であるので虚偽や不正行為をする者は厳罰に処するので心得ておくように。このため出席データに不正を行った者および欠席回数が3分の1以上超えた者には期末試験の受験資格を認めない。また受講中に私語をするもの、教科書指定教材電卓などを持参しないものについては期末試験の受験資格を与えないこともあることを認知しておくこと。なお、やむおえない事情により講義を遅刻、欠席するものには、当該講義について理解できるまで補習指導するので申し出るように。

【授業の進め方】

テキストを参照しながら、問題集・プリントの問題を解く。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①検定簿記講義商業簿記2級 ③中央経済社 ⑤735円
①日商簿記2級過去問題集 ③中央経済社 ⑤1680円

教科書は変更する場合もあるので指示のあるまで購入しなくてよい。購入についてはガイダンス時に指示する。

【参考図書】

『現代基本簿記』小林秀行著 税務経理協会
『日商簿記検定問題集（新訂版）2級商業簿記』実教出版

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 20% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

定期試験および授業内テストを評価対象とする。なお授業内テストは随時行う。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

欠席回数が3分の1以上超えた者および出席データに不正を行った者は期末試験の受験資格を認めない。

【履修上の心得】

簿記の学習は単にテキストを読むだけでなく、自ら問題を計算機とペンで実際に解くことが肝要である。
必ず教科書・問題集は購入し毎回持参すること。

【科目のレベル、前提科目など】

科目のレベル：簿記論履修を前提とし、個人企業の精算表まで完成できる実力が必要であるが、達していない者には基礎から個別指導する。

前提科目：会计学、簿記論

関連科目：簿記・会計関連科目すべて。

科目名	中級簿記論
教員名	青木 孝暢

【授業の内容】

簿記とは、企業の経済活動を貨幣価値により記録・計算し、その結果をまとめて関係者に報告する技術である。簿記には、適用する事業の種類によって、商業簿記、工業簿記および銀行簿記などが存在する。このうち、中級簿記論では、商企業に適用される簿記である商業簿記を取り上げる。本講義では、簿記論を履修した学生を対象に、中級レベル（日商簿記検定2級程度）の商業簿記の原理としくみを体系的に学修していく。なお、2016年6月より日商簿記検定の出題範囲が変更されたため、新しく加わった範囲についても取り上げていく予定である。

【到達目標】

中級簿記論では、中級程度の商業簿記の領域を学修することにより、株式会社における記帳方法および財務諸表の作成方法を理解することを目標とする。また、本講義は高等簿記論を履修するための前提となる科目である。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス、簿記一巡の手続き
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第2回 現金・預金
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第3回 商品売買(1)―商品売買取引の処理方法
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第4回 商品売買(2)―返品・値引・割戻・割引、期末商品の評価
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第5回 収益・費用の計上
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第6回 債権・債務(1)―手形による債権・債務
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第7回 債権・債務(2)―クレジット売掛金、電子記録債権・債務、債務の保証
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第8回 有価証券(1)有価証券の分類、購入・売却、受取配当金・有価証券利息、端数利息
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第9回 有価証券(2)―有価証券の期末評価
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第10回 有形固定資産(1)―減価償却、期中売却
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第11回 有形固定資産(2)―割賦購入、建設仮勘定、修繕・改良
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第12回 有形固定資産(3)―買換え、除却・廃棄、滅失
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第13回 無形固定資産、研究開発費
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第14回 引当金
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第15回 税金
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第16回 株式会社会計(1)―株式会社の意義、株式会社の純資産
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第17回 株式会社会計(2)―株式申込証拠金、剰余金の配当
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第18回 株式会社会計(3)―企業結合
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第19回 精算表
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第20回 勘定の締切り(1)―英米式決算法
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第21回 勘定の締切り(2)―問題演習
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第22回 財務諸表(1)―損益計算書
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第23回 財務諸表(2)―貸借対照表

- 復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第24回 精算表、勘定の締切りおよび財務諸表の総合問題(1)—精算表、勘定の締切り
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第25回 精算表、勘定の締切りおよび財務諸表の総合問題(2)—財務諸表
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第26回 本支店会計(1)—本支店間取引、支店相互間取引
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第27回 本支店会計(2)—決算振替
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第28回 本支店会計(3)—合併財務諸表
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第29回 本支店会計(4)—問題演習
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第30回 伝票会計
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）

【授業の進め方】

簿記処理について説明するだけでなく、ディベート形式を取り入れた問題演習を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

プリントを使用

【参考図書】

ネットスクール株式会社著『日商簿記2級に“とおる”テキスト 商業簿記』ネットスクール株式会社、2017年、2,160円
ネットスクール株式会社著『日商簿記2級に“とおる”トレーニング 商業簿記』ネットスクール株式会社、2017年、1,944円

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 -% レポート・課題 -% 受講態度 30%

特記事項

定期試験と平常点で総合的に評価
必要に応じて課題を出す場合あり

【科目のレベル、前提科目など】

簿記論の単位を取得していること

科目名	財務会計論
教員名	青木 孝暢

【授業の内容】

財務会計は、投資家や債権者など企業外部の利害関係者に対して、企業の経済活動に関する情報（主に財務内容に関する情報）を提供する会計領域である。したがって、財務会計は、外部利用者のための会計であり、「外部報告会計」とも呼ばれる。また、情報の提供は、通常、財務諸表によって行われるため、財務会計は「財務諸表作成のための会計」ということができる。財務会計論では、会計学および簿記論を履修した学生を対象に、財務会計の原理としくみを基礎レベルから応用レベルまで体系的に学修していく。

【到達目標】

財務会計論では、財務会計の領域を学修することにより、財務諸表の構造を理解し、財務諸表を読むことができるようになることを目標とする。また、本講義は会計学各論科目（特に上級財務会計論、国際会計論、税務会計論、監査論および経営分析論）を履修するための前提となる科目である。

【授業計画】

- 第1回 財務諸表論の基礎(1)—企業会計の基礎、会計公準、会計主体
復習：講義で扱った内容と課題の再確認（60分）
- 第2回 財務諸表論の基礎(2)—企業会計の領域、財務諸表論の対象
復習：講義で扱った内容と課題の再確認（60分）
- 第3回 企業会計の技術的構造(1)—複式簿記の意義と特徴、簿記手続の一巡
復習：講義で扱った内容と課題の再確認（60分）
- 第4回 企業会計の技術的構造(2)—計算例題
復習：講義で扱った内容と課題の再確認（60分）
- 第5回 企業会計制度(1)—企業会計への規制、制度会計の意義と諸形態
復習：講義で扱った内容と課題の再確認（60分）
- 第6回 企業会計制度(2)—会計原則、一般原則の内容、会計基準の新設と改訂
復習：講義で扱った内容と課題の再確認（60分）
- 第7回 損益計算の基礎原理(1)—損益計算の基礎、静態論と動態論、財産法と損益法
復習：講義で扱った内容と課題の再確認（60分）
- 第8回 損益計算の基礎原理(2)—損益の認識構造、損益の測定構造
復習：講義で扱った内容と課題の再確認（60分）
- 第9回 収益・費用会計(1)—収益の意義と分類、収益の認識、収益の測定
復習：講義で扱った内容と課題の再確認（60分）
- 第10回 収益・費用会計(2)—費用の意義と分類、費用の認識、費用の測定
復習：講義で扱った内容と課題の再確認（60分）
- 第11回 収益・費用会計(3)—費用配分の原則
復習：講義で扱った内容と課題の再確認（60分）
- 第12回 資産会計(1)—資産の意義と分類、資産の評価
復習：講義で扱った内容と課題の再確認（60分）
- 第13回 資産会計(2)—流動資産
復習：講義で扱った内容と課題の再確認（60分）
- 第14回 資産会計(3)—固定資産
復習：講義で扱った内容と課題の再確認（60分）
- 第15回 資産会計(4)—繰延資産
復習：講義で扱った内容と課題の再確認（60分）
- 第16回 負債会計(1)—負債の意義と分類、負債の評価、流動負債
復習：講義で扱った内容と課題の再確認（60分）
- 第17回 負債会計(2)—固定負債
復習：講義で扱った内容と課題の再確認（60分）
- 第18回 負債会計(3)—引当金
復習：講義で扱った内容と課題の再確認（60分）
- 第19回 資本会計(1)—資本の概念と分類、資本金
復習：講義で扱った内容と課題の再確認（60分）
- 第20回 資本会計(2)—資本剰余金、贈与剰余金と評価替剰余金
復習：講義で扱った内容と課題の再確認（60分）
- 第21回 資本会計(3)—利益剰余金、剰余金の配当
復習：講義で扱った内容と課題の再確認（60分）
- 第22回 資本会計(4)—自己株式、株主資本以外の純資産項目
復習：講義で扱った内容と課題の再確認（60分）

- 第23回 資本会計(5)—組織再編
復習：講義で扱った内容と課題の再確認（60分）
- 第24回 財務諸表(1)—財務諸表の意義と体系、損益計算書、貸借対照表
復習：講義で扱った内容と課題の再確認（60分）
- 第25回 財務諸表(2)—キャッシュ・フロー計算書、株主資本等変動計算書
復習：講義で扱った内容と課題の再確認（60分）
- 第26回 財務諸表(3)—財務諸表の作成例①
復習：講義で扱った内容と課題の再確認（60分）
- 第27回 財務諸表(4)—財務諸表の作成例②
復習：講義で扱った内容と課題の再確認（60分）
- 第28回 財務諸表(5)—財務諸表の作成例③
復習：講義で扱った内容と課題の再確認（60分）
- 第29回 復習(1)
復習：講義で扱った内容と課題の再確認（60分）
- 第30回 復習(2)
復習：講義で扱った内容と課題の再確認（60分）

【授業の進め方】

教員が会計理論について説明をするだけでなく、各回のテーマに沿った課題をディベート形式で検討する時間を設ける。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

プリントを使用

【参考図書】

桜井久勝著『財務会計講義〈第17版〉』中央経済社、2016年、4,104円

佐藤信彦・河崎照行・齋藤真哉・柴健次・高須教夫・松本敏史編著『スタンダードテキスト 財務会計論Ⅰ 基本論点編(第9版)』中央経済社、2015年、5,616円

佐藤信彦・河崎照行・齋藤真哉・柴健次・高須教夫・松本敏史編著『スタンダードテキスト 財務会計論Ⅱ 応用論点編(第9版)』中央経済社、2015年、4,752円

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 -% レポート・課題 -% 受講態度 30%

特記事項

定期試験と平常点で総合的に評価

必要に応じて課題を出す場合あり

【科目のレベル、前提科目など】

会計学および簿記論の単位を修得していること

中級簿記論の単位を取得していること推奨

2年生以上の履修推奨

科目名	工業簿記論
教員名	山田 覚

【授業の内容】

製造業に適用される簿記を工業簿記という。製造業の活動は製品の製造過程をもつことに特徴があるから、工業簿記の特徴もこの製造過程の活動を会計的に記録計算することに見い出される。工業簿記は、製造原価計算（費目別計算・部門別計算・製品別計算）によって得られる計算結果を記帳するものであり、原価計算についての理解が不可欠である。

本講は、製品製造原価の計算およびその計算結果の記帳に関する基本的、一般的な理解を可能にすることを目的としている。

【到達目標】

企業の経理部、経営企画部門、工場管理部門はいうまでもなく、営業、開発、購買、品質管理を含むあらゆる業務担当者にとって、工業簿記・原価計算の知識は必須である。この講義で身につけた基礎知識をもとに各自必要に応じて会計をより広い視野から学習していくことにより、企業経営のさまざまな領域で個別具体的に応用していくことが可能となる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 工業簿記の基礎概念
(予習30分・復習1時間)
- 第3回 工業簿記の勘定連絡図(原価の流れ)
(予習30分・復習1時間)
- 第4回 製造業の財務諸表(損益計算書・貸借対照表・製造原価報告書)
(予習30分・復習1時間)
- 第5回 材料費の計算(1) 材料費の分類
(予習30分・復習1時間)
- 第6回 材料費の計算(2) 材料費の計算と記帳
(予習30分・復習1時間)
- 第7回 労務費の計算(1) 労務費の分類
(予習30分・復習1時間)
- 第8回 労務費の計算(2) 労務費の計算と記帳
(予習30分・復習1時間)
- 第9回 経費の計算(1) 経費の分類
(予習30分・復習1時間)
- 第10回 経費の計算(2) 経費の計算と記帳
(予習30分・復習1時間)
- 第11回 部門別計算の意義
(予習30分・復習1時間)
- 第12回 部門別計算：直接配賦法
(予習30分・復習1時間)
- 第13回 部門別計算：相互配賦法
(予習30分・復習1時間)
- 第14回 部門別計算：階梯式配賦法
(予習30分・復習1時間)
- 第15回 個別原価計算(1) 意義
(予習30分・復習1時間)
- 第16回 個別原価計算(2) 計算手続
(予習30分・復習1時間)
- 第17回 個別原価計算(3) 原価計算表と仕掛品勘定
(予習30分・復習1時間)
- 第18回 総合原価計算の意義
(予習30分・復習1時間)
- 第19回 総合原価計算：月末仕掛品の評価
(予習30分・復習1時間)
- 第20回 工程別総合原価計算(1) 意義
(予習30分・復習1時間)
- 第21回 工程別総合原価計算(2) 計算手続
(予習30分・復習1時間)
- 第22回 組別総合原価計算
(予習30分・復習1時間)

- 第23回 等級別総合原価計算
(予習30分・復習1時間)
- 第24回 製造業の財務諸表
(予習30分・復習1時間)
- 第25回 ケーススタディ (1) 費目別計算・部門別計算
(予習30分・復習1時間)
- 第26回 ケーススタディ (2) 製品別計算・財務諸表
(予習30分・復習1時間)
- 第27回 標準原価計算
(予習30分・復習1時間30分)
- 第28回 直接原価計算
(予習30分・復習1時間30分)
- 第29回 本社工場会計
(予習30分・復習1時間30分)
- 第30回 総合的復習
(予習30分・復習2時間)

【授業の進め方】

講義に際しては、できるだけ単なる方法や手順を説明するだけでなくして、そのような方法が採用される理由や根拠に考察を及ぼし、あるいは説明していくことにする。

また、教員による一方向の講義だけではなく、受講生にとって適度に緊張感のある講義となるように、すでに学習した講義内容に関連する専門用語の意味を説明させたり、計算問題を解く過程で学生に質問したり、解答を板書をしてもらった後、解法の説明を求めるなど、学生参加型の講義を心掛ける。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①『原価会計の基礎』 ②小川洌・小澤康人編著 ③創成社

【参考図書】

参考書については、受講生の目的、理解度に応じて適宜指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 0% レポート・課題 10% 受講態度 10%

特記事項

成績評価は、講義内容の理解度、講義への取り組み姿勢およびレポートにもとづいて行う。

【履修上の心得】

工業簿記は、日商簿記検定2級以上を受験するための必須科目でもあり、資格取得を志す学生は積極的に講義に参加されることを期待する。

【科目のレベル、前提科目など】

履修を前提とする科目：簿記論

「工業簿記論」の履修を前提とする発展科目：原価計算論Ⅰ、原価計算論Ⅱ、管理会計論Ⅰ、管理会計論Ⅱ、外書講読Ⅰ

「簿記論」が商業を対象としたものに対し、「工業簿記論」は製造業を対象とするものであり、いずれも企業会計を学んでいくための前提科目として位置付けられる。

科目名	管理会計論 I
教員名	山田 覚

【授業の内容】

企業の経営管理に役立つ情報を提供する企業会計の側面は、管理会計と呼ばれる。管理会計は、業績管理会計（経営計画と統制のための会計）と経営意思決定会計から構成されている。本講は管理会計入門として、このうち業績管理会計に焦点を当て、原価管理と利益管理のための会計について考察する。

「原価計算論 I」（山田担当）で学習した原価管理を行うための基礎となるものであり、また直接原価計算は利益管理のために考案された計算システムである。したがって、本講の当面の目的は、「工業簿記論」「原価計算論 I」の履修を前提として、標準原価計算や直接原価計算などが、企業における経営管理実践に対して、どのようなかたちで貢献的機能を遂行しているかについて、具体的な事例を用いて考察することにある。

【到達目標】

会計は財務会計と管理会計とに大別され、社会における役割期待に対し、外部報告会計・内部報告会計という各々固有の領域で個別具体的な手段を用いて大きな貢献的機能を遂行してきた。本講は、管理会計の入門・総論科目として位置づけられる。

企業の経理部、経営企画部門、工場管理部門はいうまでもなく、営業、開発、購買、品質管理を含むあらゆる業務担当者にとって、この管理会計の知識は必須である。この講義で身につけた基礎知識をもとに各自必要に応じて会計をより広い視野から学習していくことにより、企業経営のさまざまな領域で個別具体的に応用していくことが可能となる。

【授業計画】

- 第1回 管理会計の意義と体系
- 第2回 利益管理のための会計
- 第3回 直接原価計算による損益計算書
- 第4回 全部原価計算による損益計算書
- 第5回 直接原価計算と全部原価計算による利益の相違：固定費調整
- 第6回 CVP分析（原価・営業量・利益関係の分析）
- 第7回 CVP分析の分析手法
- 第8回 原価予測の方法（原価の固定分解）
- 第9回 原価管理のための会計：標準原価計算
- 第10回 直接材料費と直接労務費の差異分析
- 第11回 製造間接費の差異分析（固定予算）
- 第12回 製造間接費の差異分析（変動予算）
- 第13回 企業予算の意義
- 第14回 予算差異分析
- 第15回 総合的復習

【教科書(必ず購入すべきもの)】

開講時に指示する。

【参考図書】

参考書については、受講生の目的、理解度に応じて適宜指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 90% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 10%

特記事項

定期試験および講義への取り組み姿勢により評価する。

【履修上の心得】

工業簿記および原価計算の基礎知識が前提となるため、本講を受講する者は、必ず「工業簿記論」および「原価計算論 I（管理原価計算）」を履修しておくことが前提である。なお、「原価計算論 II（制度原価計算）」は未履修であっても、内容的には問題なく履修可能である。

【科目のレベル、前提科目など】

履修を前提とする科目：工業簿記論、原価計算論 I

関連科目：原価計算論 II、管理会計論 II、外書講読 I

科目名	管理会計論Ⅱ
教員名	星 法子

【授業の内容】

経営戦略・経営計画のための有用な会計情報を、経営管理者に提供する会計情報システムを管理会計という。管理会計は、経営管理者が事業の方向を決めることに役立つ情報を作成・提供する意思決定会計（戦略会計）と、階層的な組織構造のもとで各階層の実行責任者の計画と実績に責任を持たせるために、責任単位別の業績を測定し評価する業績管理会計とに区分される。

本講義は意思決定会計（戦略会計）が中心となる。経営戦略の管理は計画と統制からなり、その計画には「戦略的計画のための情報システム」が必要となる。この戦略計画は組織の目的と戦略、すなわち最高方針の決定に関わるものである。この決定に関わる重要な会計情報を提供するのが意思決定会計（戦略会計）の役割である。そこで本講義では、企業が戦略的に経営を展開するための管理手法を理論的かつ実践的に学習する。

【到達目標】

企業が戦略的に経営を展開するための管理手法、すなわち財務分析、差額分析、設備投資計画などの会計情報を作成できるようになる。

【授業計画】

- 第1回 管理会計の意義と役割
- 第2回 財務情報分析の意義と分析方法
- 第3回 収益性分析（復習30分）
- 第4回 安全性分析（復習30分）
- 第5回 原価の意義と分類
- 第6回 原価の諸概念
- 第7回 差額原価・差額収益分析①（復習30分）
- 第8回 差額原価・差額収益分析②（復習30分）
- 第9回 差額原価・差額収益分析③（復習30分）
- 第10回 設備投資計画①（復習30分）
- 第11回 設備投資計画②（復習30分）
- 第12回 設備投資計画③（復習30分）
- 第13回 戦略的事業計画①（復習30分）
- 第14回 戦略的事業計画②（復習30分）
- 第15回 復習（復習120分）

【授業の進め方】

テキストを中心に講義形式で進める。なお、章ごとに例題を多く取り入れ、意思決定に必要な問題解決方法を探っていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①『セミナー管理会計』 ② 門田安弘編著 ③税務経理協会 ④平成28年 ⑤2,900円+税 ⑥978-4-419-06315-3

BOOKSナカジマで販売

【参考図書】

- 『戦略管理会計』西山茂著 ダイアモンド社
- 『管理会計』門田安弘著 税務経理協会

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 0% レポート・課題 10% 受講態度 10%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

原則として3分の2以上の出席が必要である。

【履修上の心得】

管理会計論はⅠとⅡのどちらから先に履修しても学習上問題はない。

【科目のレベル、前提科目など】

本講義は必ずしも工業簿記論、原価計算論の知識がなければ理解できない講義ではないが、できるだけこれらの科目を履修していることが望ましい。会計・経営領域の専門レベルの科目である。推奨履修年次は3年次から。ただし、高

校での簿記等学習経験者は1年次からの履修も可。

前提科目：会計学、簿記論、工業簿記論、原価計算論

関連科目：財務会計論，中級簿記論，高等簿記論，上級財務会計論，経営分析論，会計情報システム論，
国際会計論，監査論，その他経営領域の科目

科目名	原価計算論Ⅰ
	管理原価計算
教員名	山田 覚

【授業の内容】

原価計算は、企業における財・用役の生産的消費のプロセスを、原価の流れとして価値的に把握し、与えられた目的に応えるかたちで、原価を組織的かつ継続的に分類・測定・集計・分析し、その結果を報告する一連の手続体系である。

本講の目的は、製造企業で採用される原価計算が、どのような構造をもち、いかなる機能を遂行しているかについて、体系的に認識することにある。

原価計算は、今日の経済社会において、さまざまな目的に応える計数的手段として広範囲な適用領域を示している。ここではそれらの目的のうち、経営管理目的に注目し、固有な原価計算の諸方法の特徴を浮き彫りにしていきたい。

【到達目標】

企業の経理部、経営企画部門、工場管理部門というまでもなく、営業、開発、購買、品質管理を含むあらゆる業務担当者にとって、原価計算の知識は必須である。この講義で身についた基礎知識をもとに各自必要に応じて会計をより広い視野から学習していくことにより、企業経営のさまざまな領域で個別具体的に应用していくことが可能となる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 標準原価計算の意義
- 第3回 直接材料費の差異分析
- 第4回 直接労務費の差異分析
- 第5回 製造間接費の差異分析（固定予算）
- 第6回 製造間接費の差異分析（変動予算）
- 第7回 勘定記入法（パーシャル・プラン）
- 第8回 ケーススタディ
- 第9回 直接原価計算の意義
- 第10回 直接原価計算と全部原価計算の比較
- 第11回 固定費調整
- 第12回 CVP分析（原価・営業量・利益関係の分析）
- 第13回 CVP分析：分析手法
- 第14回 ケーススタディ
- 第15回 総合的復習

【授業の進め方】

講義に際しては、できるだけ単なる方法や手順を説明するだけでなくして、そのような方法が採用される理由や根拠に考察を及ぼし、あるいは説明していくことにする。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①『原価会計の基礎』 ②小川洵・小澤康人編著 ③創成社

【参考図書】

参考書については、受講生の目的、理解度に応じて適宜指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 90% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 10%

特記事項

成績評価は、講義内容の理解度（問題処理の正確さ）、講義への取り組み姿勢にもとづいて行う。

【履修上の心得】

工業簿記の基礎知識が前提となるため、本講を受講する者は、必ず「工業簿記論(原価会計論)」を履修しておくこと。なお、この「原価計算Ⅰ」は管理原価計算（経営管理目的の原価計算）を内容とし、「原価計算Ⅱ」は制度原価計算（財務会計目的の原価計算）を内容とするので、どちらを先に履修してもまったく問題はない。

【科目のレベル、前提科目など】

履修を前提とする科目：工業簿記論

関連科目：管理会計論Ⅰ、管理会計論Ⅱ、原価計算論Ⅱ、外書講義Ⅰ

原価計算は、日商簿記検定2級以上や公認会計士などの国家試験を受験するための必須科目でもあり、特に資格取得を志す学生は、積極的に講義に参加されることを期待する。

科目名	原価計算論Ⅱ
	制度原価計算
教員名	山田 覚

【授業の内容】

原価計算は、企業における財・用役の生産的消費のプロセスを、原価の流れとして価値的に把握し、与えられた目的に応えるかたちで、原価を組織的かつ継続的に分類・測定・集計・分析し、その結果を報告する一連の手続体系である。

本講の目的は、製造企業で採用される原価計算が、どのような構造をもち、いかなる機能を遂行しているかについて、体系的に認識することにある。

原価計算は、今日の経済社会において、さまざまな目的に応える計数的手段として広範囲な適用領域を示している。ここではそれらの目的のうち、財務会計目的（財務諸表作成目的）に注目し、固有な原価計算の諸方法の特徴を浮き彫りにしていきたい。

【到達目標】

企業の経理部、経営企画部門、工場管理部門はいうまでもなく、営業、開発、購買、品質管理を含むあらゆる業務担当者にとって、原価計算の知識は必須である。この講義で身につけた基礎知識をもとに各自必要に応じて会計をより広い視野から学習していくことにより、企業経営のさまざまな領域で個別具体的に应用していくことが可能となる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 総合原価計算：減損・仕損の処理（1）平均法
- 第3回 総合原価計算：減損・仕損の処理（2）先入先出法
- 第4回 総合原価計算：原材料の追加投入
- 第5回 工程別総合原価計算
- 第6回 組別総合原価計算
- 第7回 等級別総合原価計算
- 第8回 個別原価計算
- 第9回 部門別計算
- 第10回 費目別計算
- 第11回 財務諸表（1）損益計算書・貸借対照表
- 第12回 財務諸表（2）製造原価報告書
- 第13回 本社工場会計（1）意義
- 第14回 本社工場会計（2）記帳処理
- 第15回 総合的復習

【授業の進め方】

講義で取り上げるテーマは、すべて日商簿記検定2級（工業簿記）の出題範囲であるから、テーマごとに、過去問題を計算例題として取り上げていく。

講義に際しては、できるだけ単なる方法や手順を説明するだけでなくして、そのような方法が採用される理由や根拠にも考察を及ぼし、あるいは説明していくことにする。

【教科書（必ず購入すべきもの）】

開講時に指示する。

【参考図書】

参考書については、受講生の目的、理解度の応じて適宜指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 90% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 10%

特記事項

成績評価は、講義内容の理解度（問題処理の正確さ）、講義への取り組み姿勢にもとづいて行う。

【履修上の心得】

工業簿記の基礎知識が前提となるため、本講を受講する者は、必ず「工業簿記論」を履修しておくこと。なお、「原価計算論Ⅰ（テーマ：経営管理のための原価計算）」は未履修であっても、内容的にはまったく問題なく履修可能。

【科目のレベル、前提科目など】

履修を前提とする科目：工業簿記論

関連科目：管理会計論Ⅰ、管理会計論Ⅱ、原価計算論Ⅰ、外書講読Ⅰ

原価計算は、簿記検定（日商簿記検定2級以上）や公認会計士などの国家試験を受験するための必須科目でもあり、特

に資格取得を志す学生は、積極的に講義に参加されることを期待する。

科目名	高等簿記論 I
教員名	青木 孝暢

【授業の内容】

簿記とは、企業の経済活動を貨幣価値により記録・計算し、その結果をまとめて関係者に報告する技術である。簿記には、適用する事業の種類によって、商業簿記、工業簿記および銀行簿記などが存在する。このうち、高等簿記論 I では、商企業に適用される簿記である商業簿記を取り上げる。本講義では、中級簿記論を履修した学生を対象に、商業簿記の原理としくみを中級レベルから上級レベル（日商簿記検定1～2級程度）まで体系的に学修していく。

【到達目標】

高等簿記論 I では、高等簿記論 II と併せて、高度な商業簿記の領域を学修することにより、商企業の複雑な経済活動を正しく帳簿に記録し、そこから財務諸表を作成することができるようになることを目標とする。

【授業計画】

第1回 ガイダンス

復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）

第2回 簿記一巡の手続きと財務諸表

復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）

第3回 一般販売—原価率と利益率

復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）

第4回 特殊商品売買(1)—未着品売買

復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）

第5回 特殊商品売買(2)—委託販売①

復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）

第6回 特殊商品売買(3)—委託販売②、試用販売

復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）

第7回 特殊商品売買(4)—練習問題

復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）

第8回 特殊商品売買(5)—割賦販売①

復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）

第9回 特殊商品売買(6)—割賦販売②

復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）

第10回 特殊商品売買(7)—割賦販売③

復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）

第11回 工事契約

復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）

第12回 現金預金・債権・有価証券(1)—現金および預金

復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）

第13回 現金預金・債権・有価証券(2)—債権、有価証券①

復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）

第14回 現金預金・債権・有価証券(3)—有価証券②

復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）

第15回 現金預金・債権・有価証券(4)—有価証券③

復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）

【教科書(必ず購入すべきもの)】

プリントを使用

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 -% レポート・課題 -% 受講態度 30%

特記事項

定期試験と平常点で総合的に評価

必要に応じて課題を出す場合あり

【科目のレベル、前提科目など】

中級簿記論の単位を取得していること

財務会計論の単位を取得していること推奨

3年生以上の履修推奨

科目名	高等簿記論Ⅱ
教員名	青木 孝暢

【授業の内容】

簿記とは、企業の経済活動を貨幣価値により記録・計算し、その結果をまとめて関係者に報告する技術である。簿記には、適用する事業の種類によって、商業簿記、工業簿記および銀行簿記などが存在する。このうち、高等簿記論Ⅱでは、商企業に適用される簿記である商業簿記を取り上げる。本講義では、中級簿記論および高等簿記論Ⅰを履修した学生を対象に、商業簿記の原理としくみを中級レベルから上級レベル（日商簿記検定1～2級程度）まで体系的に学学習していく。

【到達目標】

高等簿記論Ⅱでは、高等簿記論Ⅰと併せて、高度な商業簿記の領域を学修することにより、商企業の複雑な経済活動を正しく帳簿に記録し、そこから財務諸表を作成することができるようになることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第2回 棚卸資産(1)―売価還元法
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第3回 棚卸資産(2)―期末評価
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第4回 有形固定資産(1)―取得原価の決定
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第5回 有形固定資産(2)―原価配分
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第6回 引当金
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第7回 社債(1)―償却原価法
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第8回 社債(2)―償還①
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第9回 社債(3)―償還②
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第10回 純資産(1)―資本金、剰余金
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第11回 純資産(2)―新株予約権
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第12回 純資産(3)―新株予約権付社債
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第13回 純資産(4)―株主資本等変動計算書
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第14回 キャッシュ・フロー計算書(1)―直接法
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）
- 第15回 キャッシュ・フロー計算書(1)―間接法
復習：講義で扱った設例・問題の再確認（60分）

【教科書(必ず購入すべきもの)】

プリントを使用

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 -% レポート・課題 -% 受講態度 30%

特記事項

定期試験と平常点で総合的に評価
必要に応じて課題を出す場合あり

【科目のレベル、前提科目など】

高等簿記論Ⅰの単位を取得していること
財務会計論の単位を取得していること推奨
3年生以上の履修推奨

科目名	経営分析論 I
教員名	星 法子

【授業の内容】

経営分析は、会計データを分析し、企業の内外の利害関係者に有用な情報を提供することを目的とする。企業内部の経営者は、この分析から戦略的意思決定のための重要な情報を得ることができる。企業外部の株主や債権者は、長期投資の意思決定や支払能力の有無を判断することができる。

本講義は、有価証券報告書の財務データを用いて、分析の基本的な技法を理論的かつ実践的に習得できる内容とする。

【到達目標】

基本的な分析のための指標を理解し、財務情報分析ができるようになる。

【授業計画】

- 第1回 経営分析のための基本的知識（予習15分，復習20分）
- 第2回 財務諸表の役割（予習15分，復習20分）
- 第3回 財務諸表の仕組み（予習15分，復習20分）
- 第4回 経営分析とは何か（予習15分，復習20分）
- 第5回 収益性の分析（1）資本利益率（予習15分，復習20分）
- 第6回 収益性の分析（2）売上高利益率 資本回転率（予習15分，復習20分）
- 第7回 2社の収益性の比較（1）資本利益率（予習15分，復習20分）
- 第8回 2社の収益性の比較（2）売上高利益率 資本回転率（予習15分，復習20分）
- 第9回 安全性の分析（1）短期支払能力（予習15分，復習20分）
- 第10回 安全性の分析（2）長期投資（予習15分，復習20分）
- 第11回 2社の安全性の比較（1）短期支払能力（予習15分，復習20分）
- 第12回 2社の安全性の比較（2）長期投資（予習15分，復習20分）
- 第13回 ケーススタディ（1）収益性の分析（予習15分，復習20分）
- 第14回 ケーススタディ（2）安全性の分析（予習15分，復習20分）
- 第15回 復習（復習120分）

【授業の進め方】

テキストを中心に進める。また、問題を発見し、解決するという視点から実際の損益計算書と貸借対照表を使い各自で指標の値を求め、その結果をどう解釈するかなどをグループで議論し、自分の考えをまとめ、ペーパーを作成する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①『初めて学ぶ財務諸表分析 三訂版』 ②正岡光宏編著 ③同文館出版 ④平成25年 ⑤1,800円+税 ⑥978-4-495-19073-6

BOOKSナカジマで販売

【参考図書】

『新版 入門経営分析（第2版）』倉田三郎監修 同文館出版

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 10% レポート・課題 0% 受講態度 10%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

原則として3分の2以上の出席が必要である。

【履修上の心得】

授業に積極的に参加することを望む。分析に使う指標は授業中に必ず各自で計算し、復習に役立てる。計算機を持参すること。

【科目のレベル、前提科目など】

簿記の知識が必要である。したがって、会計学や簿記論を履修、または高校で簿記を学習していることが前提条件となる。会計・経営領域の専門レベルの科目である。推奨履修年次は3年次から。ただし、高校での簿記等学習経験者は1年次からの履修も可。

前提科目：会計学、簿記論、財務会計論

関連科目：中級簿記論、工業簿記論、原価計算論、高等簿記論、上級財務会計論、管理会計論、

会計情報システム論, 国際会計論, 監査論, その他経営領域の科目

科目名	経営分析論Ⅱ
教員名	星 法子

【授業の内容】

経営分析は、会計データを分析し、企業の内外の利害関係者に有用な情報を提供することを目的とする。企業内部の経営者は、この分析から戦略的意思決定のための重要な情報を得ることができる。企業外部の株主や債権者は、長期投資の意思決定や支払能力の有無を判断することができる。

本講義は、有価証券報告書の財務データを用いて、分析技法を理論的かつ実践的に習得できる内容とする。

【到達目標】

実践的な財務情報分析ができるようになる。

【授業計画】

- 第1回 経営分析の基本的手法（予習15分、復習20分）
- 第2回 キャッシュ・フロー計算書の意義（予習15分、復習20分）
- 第3回 キャッシュ・フロー計算書の作成方法（予習15分、復習20分）
- 第4回 キャッシュ・フロー計算書分析（予習15分、復習20分）
- 第5回 総合分析（予習15分、復習20分）
- 第6回 成長性の分析（予習15分、復習20分）
- 第7回 会計情報と業務情報の収集（予習15分、復習20分）
- 第8回 比較企業の決定（予習15分、復習30分）
- 第9回 比較企業の情報収集（予習15分、復習30分）
- 第10回 2社分析（1）安全性分析（予習15分、復習30分）
- 第11回 2社分析（2）収益性分析（予習15分、復習30分）
- 第12回 2社分析（3）成長性分析（予習15分、復習30分）
- 第13回 2社分析（4）資本効率の分析（予習15分、復習30分）
- 第14回 2社分析（5）その他の指標の分析（予習15分、復習30分）
- 第15回 2社分析（6）まとめ（復習120分）

【授業の進め方】

前半はプリントを中心に学習する。後半は主体的な学びを重視し、割り当てられた企業の会計情報を各自で収集し、その情報から経営分析を行う。さらに、同業他社や同業種の平均値と比較し、その結果をグループで議論し、レポートとしてまとめる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

必要に応じてコピーを配布する。

【参考図書】

- 『初めて学ぶ財務諸表分析 三訂版』正岡光宏編著 同文館出版
- 『新版 入門経営分析（第2版）』倉田三郎監修 同文館出版

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 90% 受講態度 10%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

レポートはワープロで作成すること。原則として3分の2以上の出席が必要である。

【履修上の心得】

企業の分析は時間を要するので、積極的に進めなければレポートは終了しないことがある。そのことを踏まえたうえで履修すること。計算機を持参する。

【科目のレベル、前提科目など】

経営分析論Ⅰで学んだ分析手法を理解していることが前提となる。会計・経営領域の専門レベルの科目である。推奨履修年次は3年次から。ただし、高校での簿記等学習経験者は1年次からの履修も可。

前提科目：会計学、簿記論、経営分析論Ⅰ

関連科目：財務会計論、中級簿記論、工業簿記論、原価計算論、高等簿記論、上級財務会計論、管理会計論、会計情報システム論、国際会計論、監査論、その他経営領域の科目

科目名	会計情報システム論 I
教員名	星 法子

【授業の内容】

現在、コンピュータは小型化・高性能化し、一般家庭にも多く普及している。大企業はもちろん、中小企業でも経理事務においてはコンピュータが活用されている。また、多くの財務会計ソフトが市販され、企業で利用されている。このような環境をうけて、本講義では、利用の多い市販の財務会計ソフトを用い、手作業では複雑だった貸借対照表、損益計算書などの財務諸表の作成を、簡単な入力で作成できる操作方法を学習する。この操作方法を習得することによって、他の会計ソフトも十分に対応できるようになるであろう。

【到達目標】

会計ソフトを使って、貸借対照表、損益計算書などの財務諸表を作成することができるようになる。

【授業計画】

- 第1回 企業活動と会計処理（予習15分，復習20分）
- 第2回 会計ソフトの操作（予習15分，復習20分）
- 第3回 商取引と企業の業務（1）基礎（予習15分，復習20分）
- 第4回 第3回の入力練習（予習15分，復習20分）
- 第5回 商取引と企業の業務（2）売上，仕入，経費，給与（予習15分，復習20分）
- 第6回 入力練習 ① 売上，仕入（予習15分，復習20分）
- 第7回 入力練習 ② 経費，給与（予習15分，復習20分）
- 第8回 税金に関連する業務と会計処理（予習15分，復習20分）
- 第9回 第8回の入力練習（予習15分，復習20分）
- 第10回 決算に関連する業務と会計処理（予習15分，復習20分）
- 第11回 第10回の入力練習（予習15分，復習20分）
- 第12回 会計データの入力処理と集計（予習15分，復習20分）
- 第13回 入力練習 ① 日常処理（予習15分，復習30分）
- 第14回 入力練習 ② 月末処理（予習15分，復習30分）
- 第15回 総合練習（予習15分，復習30分）

【授業の進め方】

テーマごとに、①操作の手順の説明，②各自でコンピュータの操作，という順序で進める。さらに、主体的に学ぶために、各自で入力した結果をグループごとに議論・検討し，操作ミスを発見，正しい操作方法・入力方法を探していく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①『コンピュータ会計 テキスト（基本）弥生会計18 Professional』 ③実教出版 ⑤2,100円+税

BOOKSナカジマで販売

【参考図書】

『コンピュータ会計 問題集（基本）弥生会計18 Professional』実教出版

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 0% レポート・課題 10% 受講態度 10%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

原則として3分の2以上の出席が必要である。

【履修上の心得】

操作方法は単純であるが、入力するには簿記の基本的な知識が必要となる。貸借対照表と損益計算書の役割を理解し、日常の取引の仕訳ができることが学習する上で必要となる。そのためには1年次の会計学や簿記論を履修していることが望ましい。また、実習をともなう科目であるから、欠席した場合、遅れた分を補ってから次の講義に臨むことが必要である。

【科目のレベル、前提科目など】

基礎的な会計学、簿記論などを理解し、コンピュータの操作方法を習得していることが前提となる。会計領域・コンピュータ関連科目の応用科目である。推奨履修年次は3年次から。ただし、高校での簿記等学習経験者は1年次からの履修も可。

前提科目：会計学、簿記論

関連科目：会計情報システム論Ⅱ，財務会計論，中級簿記論，工業簿記論，原価計算論，高等簿記論，
上級財務会計論，経営分析論，管理会計論，国際会計論，監査論，経営情報科学，その他経営領域の科目

科目名	会計情報システム論Ⅱ
教員名	星 法子

【授業の内容】

会計情報システム論Ⅰでは、市販の会計ソフトを用い、貸借対照表、損益計算書などの財務諸表作成の操作方法を学習する。会計情報システム論Ⅰで学習したことを前提として、本講義はさら進んだ学習をする。初めに、作成した財務諸表を利用する財務諸表分析や企業の経営計画に必要な意思決定のための会計情報の利用方法と作成方法を詳説する。次に、実際に会計ソフトを利用して、それらの会計情報を作成する操作方法を学習する。

【到達目標】

会計ソフトを使って、経営計画の意思決定に必要な会計情報を作成できるようになる。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 手形取引・固定資産・決算の手続き（予習15分，復習20分）
- 第3回 会計データの新規作成 導入処理（1）基本情報（予習15分，復習20分）
- 第4回 会計データの新規作成 導入処理（2）決算の準備，手続き，繰越処理（予習15分，復習20分）
- 第5回 原価計算（1）工業簿記（予習15分，復習20分）
- 第6回 原価計算（2）製造原価報告書の作成（予習15分，復習20分）
- 第7回 予算管理と経営分析（1）予算管理の手順と財務分析（予習15分，復習20分）
- 第8回 予算管理と経営分析（2）財務構造の分析（予習15分，復習20分）
- 第9回 損益分岐点分析と短期利益計画（1）損益分岐点分析（予習15分，復習20分）
- 第10回 損益分岐点分析と短期利益計画（2）短期利益計画（予習15分，復習20分）
- 第11回 短期利益計画と予算管理（1）予算作成（予習15分，復習20分）
- 第12回 短期利益計画と予算管理（2）利益予測と月次予算処理（予習15分，復習20分）
- 第13回 資金管理（1）資金計画（予習15分，復習20分）
- 第14回 資金管理（2）売掛金と買掛金の管理（予習15分，復習20分）
- 第15回 復習（復習120分）

【授業の進め方】

テキストを中心にすすめ、必要に応じてコンピュータの操作方法を説明する。また、テーマごとに課題を提示するので、グループで議論し、その検討結果を各自でまとめてレポートを作成する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①『コンピュータ会計 テキスト（応用）弥生会計18 Professional』 ③実教出版 ⑤2,000円+税

BOOKSナカジマで販売

【参考図書】

- 『コンピュータ会計 問題集（応用）弥生会計18 Professional』実教出版
- 『セミナー管理会計』門田安弘編著 税務経理協会
- 『管理会計』門田安弘著 税務経理協会

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 0% レポート・課題 10% 受講態度 10%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

原則として3分の2以上の出席が必要である。

【履修上の心得】

会計情報システム論Ⅰを履修し、会計ソフトの基本的な操作方法を習得していることが前提となる。また、工業簿記論、原価計算論、経営分析論、管理会計論などを履修し、業績管理会計、意思決定会計を理解していることが望ましい。

【科目のレベル、前提科目など】

会計領域・コンピュータ関連科目の応用科目である。推奨履修年次は3年次から。ただし、高校での簿記等学習経験者は1年次からの履修も可。

前提科目：会計情報システム論Ⅰ，会计学，簿記論，工業簿記論，原価計算論，経営分析論，管理会計論

関連科目：中級簿記論，高等簿記論，財務会計論，上級財務会計論，国際会計論，経営情報科学，

その他経営領域の科目

科目名	税務会計論 I
教員名	藤浪 英也

【授業の内容】

1. 主要な国税である法人税法、所得税法、相続税法および消費税のうち、本講義では、主に法人税法の授業を行い、関連する消費税法の授業を行う。法人税法は、企業（法人）の所得（利益）に関する税法である。この講座では申告書の記載も行うので、将来会計事務所、会社の経理部門で勤務を考えている者にも役立つ内容となっている。
2. この講義におけるアクティブラーニング
各講義日において学んだことを総括し、出席者同士で論点を整理する。そして疑問点は代表者が質問をして解決する。

【到達目標】

全国経理教育協会税務会計能力検定試験2級（法人税法）合格レベル

【授業計画】

- | | |
|------|---|
| 第1回 | 税法入門および法人税の基礎
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして1時間 |
| 第2回 | 法人税の課税所得、益金、損金
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間 |
| 第3回 | 別段の定め① 棚卸資産
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間 |
| 第4回 | 別段の定め② 減価償却
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間 |
| 第5回 | 別段の定め③ 資本的支出
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間 |
| 第6回 | 別段の定め④ 役員報酬
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間 |
| 第7回 | 別段の定め⑤ 交際費等
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間 |
| 第8回 | 別段の定め⑥ 寄附金
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間 |
| 第9回 | 別段の定め⑦ 貸倒損失、引当金
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間 |
| 第10回 | 別段の定め⑧ 収益の計上
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間 |
| 第11回 | 総合問題演習①
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間 |
| 第12回 | 総合問題演習②
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間 |
| 第13回 | 総合問題演習③
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間 |
| 第14回 | 総合問題演習④
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間 |
| 第15回 | 総まとめ
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間 |

大学は実社会へのステップであると考えているので、受講者には社会人の常識を身に付けるべき大人としての対応を求める。やむおえない事情により講義を遅刻、欠席するものには、当該講義について理解できるまで補習指導するので申し出るように。

【授業の進め方】

毎回、指定テキストに基づき講義・解説するとともに、知識確認のための小テストを実施する。講義には必ず電卓等の計算器具を持参すること。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①演習法人税法 ③清文社 ⑤2100

教科書は変更する場合もあるので、ガイダンス時に指示する。また、必要に応じ、プリントを配布する。

【参考図書】

法人税法条文

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 20% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

定期試験および授業内テストの成績により評価する

【「成績評価の方法」に関する注意点】

欠席回数が授業時数の3分の1を超えた場合、および出席データに不正行為を行った者には受験資格を与えない。

【履修上の心得】

法人税においては、企業会計で計算された利益をもとに、法人税法独自のルール(別段の定め)により、調整を加えて、税額を計算する。

よって、企業会計の知識がないと、法人税の学習は困難である。したがって、中級簿記論受講終了レベル、日商簿記2級合格レベルの簿記や会計の知識を有することが望ましいが、基礎知識がない者については、個別的に指導する。

【科目のレベル、前提科目など】

科目のレベル：基本的な会社会計を理解していること

前提関連科目：会计学、簿記論、中級簿記論

関連科目：税務会計論Ⅱ、税法論

科目名	税務会計論Ⅱ
教員名	藤浪 英也

【授業の内容】

1. 主要な国税といわれる法人税法、所得税法、相続税法および消費税のうち、本講義では、主に個人を対象とした所得税法の授業を行う。所得税法は、個人の所得（企業会計上の利益）に関する税法である。将来、金融機関勤務等で個人のファイナンシャルプランニング（財務相談）の仕事を考えている場合に役立つ分野である。また関連する贈与税および相続税の授業も行う。
2. この講義におけるアクティブラーニング
各講義日において学んだことを総括し、出席者同士で論点を整理する。そして疑問点は代表者が質問をして解決する。

【到達目標】

全国経理教育協会税務会計能力検定試験2級（所得税法）合格レベル

【授業計画】

- | | |
|------|--|
| 第1回 | 所得の種類と所得計算
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間 |
| 第2回 | 利子・配当所得
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間 |
| 第3回 | 不動産所得
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間 |
| 第4回 | 事業所得
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間 |
| 第5回 | 給与所得と退職所得
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間 |
| 第6回 | 譲渡所得
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間 |
| 第7回 | 一時所得と雑所得
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間 |
| 第8回 | 所得控除
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間 |
| 第9回 | 雑損控除、医療費控除、寄付金控除
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間 |
| 第10回 | 人的控除
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間 |
| 第11回 | 総合問題演習①
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間 |
| 第12回 | 総合問題演習②
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間 |
| 第13回 | 総合問題演習③
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間 |
| 第14回 | 総合問題演習④
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間 |
| 第15回 | 総まとめ
予習時間は不要 |

復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間

大学は実社会へのステップであると考えているので、受講者には社会人の常識を身に付けるべき大人としての対応を求める。なお、やむおえない事情により講義を遅刻、欠席するものには、当該講義について理解できるまで補習指導するので申し出るように。

【授業の進め方】

毎回、プリントや指定テキストに基づき講義・解説するとともに、知識確認のための小テストを実施する。講義には必ず電卓等の計算器具を持参すること。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①演習所得税法 ③清文社

教科書は変更する場合もあるので指示のあるまで購入しなくてよい。また、必要に応じ、プリントを配布する。

【参考図書】

所得税法条文、相続税法条文

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 20% レポート・課題 0% 受講態度 0%
特記事項
定期試験および授業内テストの成績により評価する

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席データに不正を行った者および欠席回数が3分の1以上超えた者には期末試験の受験資格を認めない。

【履修上の心得】

所得税は、個人事業主（自営業）における事業所得における必要経費の計算などにおいて、会計の基礎知識を必要とするが、基礎知識の不足する者には個別的に指導する。また必ず電卓等の計算器具を持参すること。

【科目のレベル、前提科目など】

科目のレベル：複式簿記による個人企業の決算書が作成できる実力があることが望ましい。
前提関連科目：会计学、簿記論
関連科目 税務会計論 I、税法論

科目名	商学総論 I
教員名	柳川 高行

【授業の内容】

教育目標

1. 大学教育の目標は、independent(精神的自立と経済的自立と独自の判断能力を持っていること)で、honest(誠実性、嘘をつかないことと、誰も見ていなくても自分のやるべきことを確実に実行すること)で、cooperative(他の人と知恵を出し合いながら協力して仕事を実行できること)な大人に育て上げることである。
2. 卒業後に無業者、ワーキング・プアの予備軍となるラーニング・プアではない正社員になれるラーニング・リッチを育成し、40代でリストラの対象にならないキャリアをアップさせ続けることができること、定年以降の第二の人生でも十分な収入が得られる職に就くことができるための勉強の方法を習得させること。
3. 社会に出て家庭人として、また職業人としても必要不可欠な生きた知識を教育し、教員の全く役に立たない趣味の押し付けをしないこと。
4. 成績評価は、学生が十二分に学習し、その科目の本質的内容を理解したことが十分に明らかに、答案用紙やレポート報告に見られる場合にのみ単位を認定する。一回も講義に出席せずにレポートを提出すれば単位が与えられる講義や、受講生の半数以上がコピーしたノートを持ち込んで答案用紙に丸写しをして単位が出る講義や、計算問題の答えの数字が間違っているでもSが乱発されるようなfuh-jyuhな講義は教育とは言えないので、学生には必ず力がつくような強制的なトレーニングが目標とされるべきである。

商学総論とは、商業活動(商人の活動)を主たる研究対象とするものであり、製造業を対象とする経営学とは基本的内容を異にする。

商学総論は、さらに商業活動が円滑に営まれる為に必要な補助的活動(金融、保険、物流、倉庫、宣伝広告、貿易実務等)をも幅広く取り上げる科目である。

商学総論 I では、講義者の講義能力の限界と学生の理解を深めたいという2つの理由から「日本」の「流通」と「流通企業」の「理論的・実証的分析」を中心的行なう。本年度は、「第2次大戦後の小売業の革新と集団勝利ゲームの形成」という統一テーマで講義を行なうこととしたい。それによって商業学の面白さを受講生に十二分に納得してもらうことを最終的に目指したい。

【到達目標】

商業の本質的機能と商人の社会的役割の十二分の理解。それらを用いて現実の流通企業の論理的分析能力を身に着けること。

【授業計画】

- 第1回 1. 商業の誕生と発展①—物々交換の時代—
 1-1. 商業の歴史的発生
 1-2. 商業の語源的考察—「あきない」とは何か—
 1-3. 商業(問屋、小売り)の社会的機能—運送・貯蔵と取引回数の節約—
 1-4. 日本の商業の現状—圧縮された発展とJapanaization—
- 第2回 1. 商業の誕生と発展②—貨幣交換の時代—
 1-1. 商業の歴史的発生
 1-2. 商業の語源的考察—「あきない」とは何か—
 1-3. 商業(問屋、小売り)の社会的機能—運送・貯蔵と取引回数の節約—
 1-4. 日本の商業の現状—圧縮された発展とJapanaization—
- 第3回 2. 戦後の小売業の革新と集団勝利ゲームの形成①
 ケースその1 商店街の過去・現在・未来
- 第4回 2. 戦後の小売業の革新と集団勝利ゲームの形成②
 ケースその1
 ショートケース 元気な商店街の元気の素
- 第5回 2. 戦後の小売業の革新と集団勝利ゲームの形成①
 ケースその2 百貨店の過去・現在・未来
- 第6回 2. 戦後の小売業の革新と集団勝利ゲームの形成②
 ケースその2
 ショートケース 福田屋百貨店はなぜ地方百貨店No.1なのか、そしてその今後は
- 第7回 2. 戦後の小売業の革新と集団勝利ゲームの形成③
 ケースその3 総合スーパーマーケットの過去・現在・未来
 ショートケース ダイエー型価格破壊型スーパー
- 第8回 2. 戦後の小売業の革新と集団勝利ゲームの形成④
 ケースその3 総合スーパーマーケットの過去・現在・未来
 ショートケース ヨーカ堂型価値追求型スーパー
- 第9回 2. 戦後の小売業の革新と集団勝利ゲームの形成⑤

- ケースその3 総合スーパーマーケットの過去・現在・未来
 ショートケース イオン型商店集積型スーパー
- 第10回 2. 戦後の小売業の革新と集団勝利ゲームの形成⑥
 ケースその3 総合スーパーマーケットの過去・現在・未来
 ショートケース 規模の拡大に組織能力が追い付かないイオンの将来とヨーカ堂との勝負の行方
- 第11回 2. 戦後の小売業の革新と集団勝利ゲームの形成⑦
 ケースその4 食品スーパーマーケットの誕生と現状
 ショートケースその1 ヤオコー
 ショートケースその2 ヨーカ堂系列ヨークベニマルとイオン系列マックスバリュ
 ショートケースその3 関西スーパー
 ショートケースその4 元気のいい地方中堅スーパー
- 第12回 2. 戦後の小売業の革新と集団勝利ゲームの形成⑧
 ケースその5 ホームセンターの日本的発展
- 第13回 2. 戦後の小売業の革新と集団勝利ゲームの形成⑨
 ケースその6 郊外型紳士服専門店とユニクロ
- 第14回 2. 戦後の小売業の革新と集団勝利ゲームの形成⑩
 ケースその7 家電小売店の過去・現在・未来①
 ショートケースその1 コジマとヤマダとロードサイド型家電デイスカウント店
 —ヤマダはなぜコジマを追い抜いたのか（アナログ技術からデジタル技術への転換）—
 ショートケースその2 レールサイド型カメラ系量販店の強みの差別化
 —一品揃えと情報のアドバンテージ—
- 第15回 2. 戦後の小売業の革新と集団勝利ゲームの形成⑪
 ケースその7 家電小売店の過去・現在・未来②
 ショートケースその1 レールサイド型カメラ系量販店の強みの差異化（メイク・アン・エクセレント・デ
 ファレンス）
 —ヨドバシカメラの社員の商品説明力の卓越性—

【授業の進め方】

商業の歴史的発展をベースにケーススタディーを学べるよう講義をすすめたい。

60分講義を行ない、受講生に講義内容の要約と質問と感想の三点を20分間でリアクションペーパーに書いてもらい、残りの10分間でリアクションペーパーに書かれた質問に対する回答を、わかりやすく且つていねいに20分間行なう。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①『商学総論講義ノート改訂増補新版』 ②上岡一嘉・柳川高行 ③白鷗大学出版局

柳川作成の教案集を教室で配布します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

受講態度50%の内容は以下のものの総合点である

1. 成績評価に際して個人的事情は一切考慮しない
2. 出席状況と講義の受講態度とリアクションペーパーの内容
3. 毎回の小レポートと、教室内演習用課題

【履修上の心得】

1. 商学総論Ⅰのみを受講してもよろしい。
2. 講義は1回毎に1つのトピックで完結するスタイルで行なう。
3. 1回の講義の理解に必要なキーワードを講義開始時に提示し、講義中に分かり易い説明を与える。
4. “Be quiet or get away”policy
私語厳禁。
5. 授業は定刻通りに開始される。教師・学生ともに遅刻しないことを共通のルールとしたい。

科目名	商学総論Ⅱ
教員名	柳川 高行

【授業の内容】

教育目標

1. 大学教育の目標は、independent（精神的自立と経済的自立と独自の判断能力を持っていること）で、honest（誠実性、嘘をつかないことと、誰も見ていなくても自分のやるべきことを確実に実行すること）で、cooperative（他の人と知恵を出し合いながら協力して仕事を実行できること）な大人に育て上げることである。
2. 卒業後に無業者、ワーキング・プアの予備軍となるラーニング・プアではない正社員になれるラーニング・リッチを育成し、40代でリストラの対象にならないキャリアをアップさせ続けることができることと、会社の倒産に際して、転職能力を身に付け続けるための勉強の仕方・キャリアデザイン能力を身に付けさせることと、定年以降の第二の人生でも十分な収入が得られる職につくことができるための勉強の方法を習得させること。
3. 社会に出て家庭人として、また職業人としても必要不可欠な生きた知識を教育し、教員の全く役に立たない趣味の押し付けはしないこと。
4. 成績評価は、学生が十二分に学習し、その科目の本質的内容を理解したことが十分に明らかに、答案用紙やレポート報告に見られる場合にのみ単位を認定する。一回も講義に出席せずにレポートを提出すれば単位が与えられる講義や、受講生の半数以上がコピーしたノートを持ち込んで答案用紙に丸写しをして単位が出る講義や、計算問題の答えの数字が間違っているでもSが乱発されるようなfuh-jyuhな講義は教育とは言えないので、学生には必ず力がつくような強制的なトレーニングが目標とされるべきである。

商学総論Ⅱの講義目的は、商学総論Ⅰで取り上げた商人の理論的・実証的研究を踏まえて、商業学のもうひとつの重要な研究領域であるサービス業を理論的・実証的に取り上げ、「経済のサービス化」と言われる現代社会の特色を明らかにすることである。この講義では、社会現象・企業現象を取り上げ、それがなぜ生まれ、どのような役割を果たしているのかを分析し、「知ること」は実に心躍る経験であることを学生諸君に実感してもらい、本学のカレッジ・スローガンである“something new to discover every day”を教室に於いて実践したいと考えている。

【到達目標】

経済のサービス化と、日本のサービス産業の実態の理解を土台として、サービス提供企業の経営の、批判的論理的分析ができるようになること。

【授業計画】

第1回 第1部 外食業を巡るケーススタディー①

ケースその1 ファミリーレストランのすかいらーく

－外食の産業化とパート・アルバイト中心企業の誕生－

地主に土地を提供してもらい、建物も建築してもらい、長期間のリース契約によって多店舗展開のスピードアップ

第2回 第1部 外食業を巡るケーススタディー②

ケースその1 ファミリーレストランのすかいらーく

－外食の産業化とパート・アルバイト中心企業の誕生－

調理機能のお店からの切り離しと、セントラル・キッチンでの集中生産。シェフレス・システムと冷凍食品の温め。

第3回 第1部 外食業を巡るケーススタディー③

ケースその2 居酒屋ワタミフードサービス [第3回講義]

－新しい居酒屋の創造－

第4回 第1部 外食業を巡るケーススタディー④

ケースその3 トンカツ屋さんのケース・スタディー

－ストア・ナリッジの独自性－

第5回 第1部 外食業を巡るケーススタディー⑤

ケースその4 雅秀殿（宇都宮）社長インタビューから何を学ぶか①

－調理者から経営者へ－

下品成仏

第6回 第1部 外食業を巡るケーススタディー⑥

ケースその5 食の安全性と雪印乳業食中毒事件

第7回 第2部 サービス業経営者の講演から何を学ぶか①

ケースその1 栃木県経営品質賞受賞企業 学習塾の開倫塾①

塾生数北関東一、教え方日本一

第8回 第2部 サービス業経営者の講演から何を学ぶか②

ケースその1 栃木県経営品質賞受賞企業 学習塾の開倫塾②

塾生満足、教員満足、開倫総合研究所のCSR活動、開倫ユネスコ協会のCSR活動

第9回 第2部 サービス業経営者の講演から何を学ぶか③

- ケースその2 JTBの新しい活動分野と経営戦略－H I Sになぜ敗れたのか－
- 第10回 第2部 サービス業経営者の講演から何を学ぶか④
- ケースその3 ベネッセコーポレーションのコングロマリットプレミアム
- 第11回 第3部 ニュービジネスの研究
- ケースその1 村上ファンドは何を売る企業か
- ケースその2 IT企業の本質 楽天とライブドア
- 第12回 第4部 新しい流通ビジネスとサービスビジネス①
1. 佐野プレミアム・アウトレットのケース・スタディー
－日本のブランド消費の実態と佐野プレミアム・アウトレットの将来－
- 第13回 第4部 新しい流通ビジネスとサービスビジネス②
2. 六本木ヒルズのケース・スタディー
－日本の中流階層の崩壊と新しい階層消費の時代－
- 第14回 第4部 新しい流通ビジネスとサービスビジネス③
3. 足銀の経営破綻と栃木県経済の現状と将来①
－地域金融機関の社会的機能－
足銀と常陽銀行の合併
- 第15回 第4部 新しい流通ビジネスとサービスビジネス③
3. 足銀の経営破綻と栃木県経済の現状と将来②
－地域金融機関の社会的機能－
地域金融機関はどこが生き残れるだろうか

【授業の進め方】

身近な外食産業のケーススタディーを学び、新しい流通に焦点をあててみたい。

60分講義を行ない、受講生に講義内容の要約と質問と感想の三点を20分間でリアクションペーパーに書いてもらい、残りの10分間でリアクションペーパーに書かれた質問に対する回答を、わかりやすく且つていねいに20分間行なう。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①『商学総論講義ノート改訂増補新版』 ②上岡一嘉・柳川高行 ③白鷗大学出版局

授業の都度、資料を配布する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 50%

特記事項

受講態度50%の内容は以下のものの総合点である

1. 出席状況と受講態度とりアクションペーパーの内容
2. 毎回提出のリアクションペーパーの充実度（評価比率50%）

【履修上の心得】

1. 商学総論Ⅱのみを受講してもよろしい。
2. 講義は1回毎に1つのトピックで完結するスタイルで行なう。
3. 1回の講義の理解に必要なキーワードを講義開始時に提示し、講義中に分かり易い説明を与える。
4. “Be quiet or get away”policy
私語厳禁。
5. 授業は定刻通りに開始される。教師・学生ともに遅刻しないことを共通のルールとしたい。

科目名	流通論 I
教員名	青崎 智行

【授業の内容】

流通業は市場構造のなかにおいて最終顧客に最も近い業態であるため、顧客ニーズや社会の変化にいち早く対応することを迫られることが宿命となっている。そのため、変化がきわめて激しい産業であり、近年では情報化や国際化の荒波に晒されてきた。また、わが国においては特有の商習慣や規制の存在により、他国とは異なる発展を遂げながら、足元では着々と構造変化が進展している。

本講義では、こうした特性のある流通業やそのシステムについて基本的な考察を行う。

【到達目標】

小売業を中心に基礎理論と実態、歴史について理解することを目指す。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第2回 流通の動向
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第3回 流通とは何か①流通の役割
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第4回 流通とは何か②流通の経路
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第5回 流通の課題①P B
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第6回 流通の課題②買い物環境
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第7回 流通政策と規制緩和①百貨店法
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第8回 流通政策と規制緩和②大店法
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第9回 流通政策と規制緩和③外圧問題
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第10回 流通政策と規制緩和④まちづくり3法
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第11回 流通における業態①百貨店
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第12回 流通における業態②スーパー
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第13回 流通における業態③コンビニ
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第14回 流通における業態④カテゴリーキラー
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第15回 総括
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）

上記のような論点を扱う。なお、授業の進行状況と受講生の理解度を考慮し、授業計画を変更する可能性がある。

【授業の進め方】

流通業に関する主要な概念や基本的な構造について実際の事例を参照しながら解説していく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に教科書は指定しない。

【参考図書】

石原武政、竹村正明(2008)「1からの流通論」、碩学社、2400円+税（希望者のみ各自書店で購入）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 50%

特記事項

受講態度(出席、聴講、発言、リアクションペーパー等)と定期試験の結果を総合的に評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

遅刻や欠席は厳しくチェックされる。

【履修上の心得】

学生との対話を重視した講義を行うので、履修者は授業中積極的に発言すること。

科目名	流通論Ⅱ
教員名	青崎 智行

【授業の内容】

流通業は市場構造のなかにおいて最終顧客に最も近い業態であるため、顧客ニーズや社会の変化にいち早く対応することを迫られることが宿命となっている。そのため、変化がきわめて激しい産業であり、近年では情報化や国際化の荒波に晒されてきた。また、わが国においては特有の商習慣や規制の存在により、他国とは異なる発展を遂げながら、足元では着々と構造変化が進展している。

本講義では、「流通論Ⅰ」で学んだ基礎理論をベースに、卸売業、物流業やサプライチェーンマネジメント、さらには流通業の国際化など流通業をめぐる最新の論点について考察する。

【到達目標】

流通業をめぐる今日的な課題を理解するとともに、その行方について概観できるようになることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第2回 流通の動向
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第3回 卸売業①機能と役割
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第4回 卸売業②ケーススタディ
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第5回 物流①機能と役割
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第6回 物流②ケーススタディ
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第7回 ロジスティクス①機能と役割
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第8回 ロジスティクス②ケーススタディ
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第9回 ロジスティクス③3PL
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第10回 サプライチェーンマネジメント①機能と役割
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第11回 サプライチェーンマネジメント②ケーススタディ
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第12回 サプライチェーンマネジメント③課題の検討
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第13回 流通業の国際化①国際化の促進要因
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第14回 流通業の国際化②課題の検討
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）
- 第15回 総括
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める（30分）

上記のような論点を扱う。なお、授業の進行状況と受講生の理解度を考慮し、授業計画を変更する可能性がある。

【授業の進め方】

流通業に関する主要な概念や基本的な構造について実際の事例を参照しながら解説していく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に教科書は指定しない。

【参考図書】

石原武政、竹村正明(2008)「1からの流通論」、碩学社、2400円+税（希望者のみ各自書店で購入）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 50%

特記事項

受講態度(出席、聴講、発言、リアクションペーパー等)と定期試験の結果を総合的に評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

遅刻や欠席は厳しくチェックされる。

【履修上の心得】

学生との対話を重視した講義を行うので、履修者は授業中積極的に発言すること。

【科目のレベル、前提科目など】

「流通論Ⅰ」で学んだ基礎理論をベースに、流通業の実態についてより深く理解することを狙うため、「流通論Ⅰ」を履修していることが望ましい。

科目名	金融論
	金融入門編：金融の基礎知識
教員名	市川 千秋

【授業の内容】

われわれは貨幣経済の社会に住んでいる。そもそも一体、貨幣とは何か。それは誰が、どこで作りに出しているのか。貨幣はいかなる動機から必要となるのか。不況やインフレに貨幣の量が影響するのだろうか。また、貨幣が特定の目的のためにまとまって資金や資本となる時、それはどのような運動をするのか。資金の不足した企業や個人、政府はどのようにして資金を調達しているのだろうか。そして公定歩合とは、金融政策とは……

この講座は、こうした疑問に答えることを目的に開かれている。半年という短い期間ではあるが、金融の制度や理論を理解するための基礎を簡単に解説していくつもりである。

受講生が50人以下の少人数であれば、学生諸君に積極的な授業参加を求める型式の授業にしたいと考えている。

【到達目標】

- ①大学を出た社会人として金融に関する最低限の知識をもつこと
- ②現代社会の貨幣の動きや金融の仕組みについて理解できること

【授業計画】

- 第1回 貨幣の機能と定義・・・貨幣とは何か
- ・貨幣の三大機能
 - ・貨幣の本質とは
 - ・貨幣を定義すると
 - ・お金の扱い方をめぐって
- (復習時間30分)
- 第2回 貨幣の供給・・・日本銀行と民間銀行
- ・貨幣と通貨～法律上の扱い
 - ・現金通貨と預金通貨
 - ・誰がどのようにして発行
- (復習時間30分)
- 第3回 貨幣の需要Ⅰ・・・貨幣数量説
- ・人はなぜ貨幣を持つのか～貨幣保有の動機
 - ・貨幣と経済活動の関係
- (復習時間60分)
- 第4回 貨幣の需要Ⅱ・・・流動性選好理論
- ・投機的動機の貨幣需要
 - ～ 利子の付かない貨幣を金融資産としてなぜ持つのか
 - ・流動性の罫とは？
- (復習時間60分)
- 第5回 企業の資金調達Ⅰ・・・機会費用
- ・企業が資金を必要とするとき
 - ・資金調達の方法
 - ～ 内部金融と外部金融
- (復習時間30分)
- 第6回 企業の資金調達Ⅱ・・・起債と増資
- ・社債の種類
 - ・株主の権利
 - ・有価証券とは
- (復習時間60分)
- 第7回 企業の資金調達Ⅲ・・・企業金融の理論①
- ・企業の目的と投資の目的
 - ・資金調達方法の決定
 - ・最適資本構成をめぐって ～ MMの第一命題
- (復習時間60分)
- 第8回 企業の資金調達Ⅲ・・・企業金融の理論②
- ・最適資本構成をめぐって ～ ROEとMMの第二命題
 - ・エージェンシーコストとコーポレートガバナンス
- (復習時間30分)
- 第9回 政府の資金調達Ⅰ・・・政府の財布
- ・日本の政府支出と収入の実際
 - ・租税の種類と租税負担率
- (復習時間30分)

- 第10回 政府の資金調達Ⅱ ……財政の赤字とは
- ・財政の赤字とプライマリーバランス
 - ・財政の役割とアベノミクス
- (復習時間30分)
- 第11回 家計の資金調達と運用 ……クレジットカードと電子マネー
- ・住宅ローンと消費者ローン
 - ・クレジットの種類と仕組み
 - ・預金と投資信託
 - ・電子マネーをめぐって
- (復習時間60分)
- 第12回 貯蓄・投資の関係 ……国内の貯蓄超過は貿易黒字
- ・全ての経済主体をまとめると
 - ・貯蓄と投資の過不足と経常収支の関係
- (復習時間60分)
- 第13回 資金循環とは ……カネは天下の回り物
- ・直接金融と間接金融
 - ・資金循環とは……フロー表とストック表
- (復習時間60分)
- 第14回 金融市場と金融機関 ……銀行・証券会社の役割
- ・金融市場の取引 ～ 市場型と相対型
 - ・短期市場と長期市場
 - ・金融機関の分類 ～ 銀行、信金、信組のちがい
- (復習時間30分)
- 第15回 金融市場の均衡 ……LMとIS、期待の役割
- ・流動性と利子率の決定、テイラールール
 - ・金融市場の均衡 + 実物市場の均衡 ⇒ 経済の均衡
 - ・流動性トラップと金融政策の効果
- (復習時間60分)

【授業の進め方】

この講義はパワーポイントを使いながら進めていく。

毎回、講義資料は配布するが、時折、統計資料や新聞・雑誌記事をもとにした臨時資料も配布する。

それらも併せて学生諸君は自分流の講義ノートを作ってほしい。

受講生が50人以下の場合、グループを編成し、配布した統計資料と臨時資料を利用してグループごとの意見をまとめ発表していただく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書 なし

指定図書 『金融論』柴沼・薮下・晝間著 有斐閣

【参考図書】

講義時間中に紹介する予定である。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

成績は定期試験期間中のテストと受講態度で評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席カードのタッチ&ゴーがあまりに多いときは、評価基準を変更する。

【履修上の心得】

パワーポイントの資料をできるだけ多く配布する。学生諸君はただ漫然とスライドを眺めているだけでは不十分である。論旨のつながりが分かるように講義の後でまとめる必要がある。

また簡単な金融の入門書を読んでおくのが望ましい。

そして言うまでもないことだが、講義中に退出したり、携帯電話を鳴らしたりするのは失礼な行為である。厳に慎んでほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

履修推奨年次: 学部2年次生以上

前提科目: 1年次の専門必修科目、特に経済学

ステップ科目: 国際金融論、銀行論、金融政策、保険論Ⅰ・Ⅱ

金融論は資金の流れを対象とする基礎的な学問であると共に、奥の深い分野でもある。
ノーベル経済学賞の受賞者の多くはこの分野から生まれている。
インフレや銀行危機など金融の機能や制度の不安定化は日本経済の動揺につながるので、金融の仕組みを理解することは現代に生きる者の必須の条件である。

科目名	銀行論 I
	銀行の本当の役割は？
教員名	市川 千秋

【授業の内容】

銀行と金融のシステムは人体に譬えれば、心臓と血液の循環に相当する。その機能の低下もまた異常な亢進も、経済社会という人体の健康を損なうことになる。これまでは、その役割の重要性から銀行（心臓）という機関（器官）は大切に扱われてきた。ところが、最近は内外の情勢の変化から、手厚い保護が見直されている。しかも、わが国の銀行はそうした外部の要因のみならず、自らの内部的な要因から重い疾病に罹ってしまった。

周知の通り、最近は銀行や証券会社が相次いで倒産している。環境の変化に銀行はどのようにして対応するのであろうか。銀行の基本的な在り方をこの講義を通じて受講生には考えてほしい。受講生が50人未満であれば、学生諸君が授業に参加する機会を多く設けたいと考えている。

【到達目標】

- ①銀行や証券会社の果たす役割を知ることによって産業社会のメカニズムを理解できるようになること
- ②ニュースで流れる金融機関の活動について理解できるようになること

【授業計画】

- 第1回 銀行の起源と歴史・・・金匠と両替商
- ・古代バビロニア、ローマ帝国、イタリア都市国家
 - ・イギリス ～ イングランド銀行の誕生
 - ・アメリカ ～ 州法銀行と国法銀行
 - ・復習時間30分
- 第2回 日本の銀行の歴史・・・為替会社と国立銀行
- ・明治期の通貨制度と銀行の設立
 - ・近代的な銀行制度への歩み
 - ・復習時間30分
- 第3回 銀行の業務・・・預金、貸出、為替、他
- ・銀行とはなにか ～ 銀行法上の定義
 - ・銀行の仕事
 - ・銀行業務と証券業務 ～ 利益相反とは
 - ・復習時間30分
- 第4回 金融機関の種類・・・銀行、証券会社、保険会社、投資銀行
- ・金融機関の分類
 - ・信託銀行とは
 - ・郵政改革のその後
 - ・銀行、信金、信組のちがひ
 - ・復習時間30分
- 第5回 日本銀行の制度と役割
- ・日本銀行とは ～ 沿革、目的と理念
 - ・日銀の機能 ～ 銀行の銀行、政府の銀行、銀行券の独占的発行
 - ・日銀の組織 ～ 日銀政策委員会とは
 - ・復習時間30分
- 第6回 日本銀行の金融政策・・・金融緩和、マネーストック、
- ・金融政策とは ～ 誰が 何のために
 - ・金融政策の目標 ～ 操作目標、運営目標、最終目標
 - ・金融政策の手段 ～ しつばが犬をふる・・・？
 - ・復習時間30分
- 第7回 銀行の決済機能・・・手形、小切手、為替の仕組み
- ・決済機能の効果と意味
 - ・主要な決済の仕組み
 - ・復習時間30分
- 第8回 金融仲介機能・・・間接金融の長短、仲介機能の分類
- ・金融仲介の現象と機能 ～ 直接金融、間接金融
 - ・金融仲介の経済的効果 ～ 預金者にとって、借り手にとって、社会全体にとって
 - ・復習時間30分
- 第9回 金融取引と情報の経済学・・・レモンの原理と逆選択、銀行の意義
- ・金融仲介の意味と金融取引の情報非対称性
 - ・銀行の金融仲介の意義
 - ・決済機能と情報
 - ・復習時間60分

- 第10回 信用創造機能・・・貸出⇒預金⇒貸出⇒預金⇒……
- ・信用創造とは
 - ・信用創造の概要
 - ・信用創造の前提と現実
 - ・復習時間30分
- 第11回 銀行業務の合理化と機能の分解・・・ネット決済、アンバンドリング
- ・銀行業務の合理化
 - ・ビジネスのIT化、ネット利用
 - ・銀行機能の分解とフィンテック
 - ・復習時間30分
- 第12回 金融構造の変化・・・自由化と金融危機
- ・金融構造の歴史的推移
 - ・金融自由化と競争の激化
 - ・復習時間30分
- 第13回 金融自由化と競争の激化・・・再編・合併、ゆうちょ銀行、ネット銀行
- ・動物園からサファリパークへ
 - ・他業態との連携
 - ・異業種の銀行業への参入
 - ・復習時間30分
- 第14回 銀行決算とリスクの増大・・・不良債権、BIS規制
- ・最近の銀行決算の推移
 - ・銀行の業務成績～数字と比率
 - ・復習時間30分
- 第15回 銀行経営の基盤・・・三つの基盤
- ・安全性とは
 - ・収益性とは
 - ・公共性とは
 - ・復習時間30分

【授業の進め方】

毎回、パワーポイントと配布資料を利用して講義を進める。

受講生が50人以下であれば、グループを編成してグループ別に時事的な話題を分析し、教室内で報告していただくことを考えている。

学生諸君の積極的な参加を望む。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は特に指定しない

【参考図書】

『エッセンシャルズ銀行論』佐野・上田・市川編著 中央経済社

『銀行読本』北原編 東洋経済

『図説・わが国の銀行』全銀協調査部 財経詳報社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

評価はテストと受講態度で行う

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席カードのタッチ&ゴーの状況によって評価方法を変える場合がある

【履修上の心得】

テキストの該当箇所をできるだけ読んでおくことが望ましい。さらに日経文庫にあるような簡単な入門書を読むことも勧めたい。そして言うまでもないことだが、講義中に退出したり、携帯電話を鳴らしたりするのは失礼な行為である。厳に慎んでほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

履修推奨年次：学部2年次生以上

前提科目：金融論、国際金融論、経済学

ステップ科目：銀行論Ⅱ、保険論Ⅰ、Ⅱ

銀行はメーカーや商社とならんで現代経済を支える重要な産業である。その動向を知ることは産業社会の理解に不可欠である。

科目名	銀行論Ⅱ
	生き残りをかけた戦略と国際業務
教員名	市川 千秋

【授業の内容】

銀行と金融のシステムは人体で譬えれば、心臓と血液の循環に相当する。その機能の低下もまた異常な亢進も、経済社会という人体の健康を損なうことになる。これまでは、その役割の重要性から銀行（心臓）という機関（器官）は大切に扱われてきた。ところが、近年は内外の情勢の変化から、手厚い保護が見直されている。かつて、わが国の銀行は外部の要因から重い疾病に罹ってしまった。環境の変化に銀行はどのようにして対応するのであろうか。銀行の基本的な在り方をこの講義を通じて受講生には考えてほしい。

なお、受講生が50人以下であれば、グループワークの形で学生諸君に授業に参加していただく予定である。

【到達目標】

- ①生き残りをかけて競争している銀行の実像を知ること
- ②銀行と家計や企業との実際の関わり方を理解すること

【授業計画】

- 第1回 戦略の選択肢・・・リテール、ホールセール、リレーションシップ
- ・顧客別の戦略選択肢
 - ・金融機能別の戦略選択肢
 - ・営業基盤別の戦略選択肢
 - ・経営スタンス別の戦略選択肢
 - ・提携別の戦略選択肢
 - ・復習時間30分
- 第2回 銀行の視点からみた近年の経済の出来事Ⅰ
- ・アジア通貨危機（1997年 5月～）
 - ・リーマンショック（2008年9月～）
 - ・ユーロ危機と加盟国の債務危機
 - ・復習時間30分
- 第3回 銀行の視点からみた近年の経済の出来事Ⅱ
- ・最近の欧米：EUの混迷とアメリカの回復
 - ・日本では
 - ・復習時間30分
- 第4回 新潮流への銀行の対応Ⅰ
- ・フィンテックとは
 - ・ビットコインとは
 - ・復習時間60分
- 第5回 新潮流への銀行の対応Ⅱ
- ・フィンテックの成長理由
 - ・銀行への影響と戦略
 - ・復習時間60分
- 第6回 大手銀行の戦略
- ・その経営概要
 - ・最近の決算
 - ・近年の戦略
 - ・復習時間30分
- 第7回 地域金融機関の戦略理念Ⅰ・・・ミッションとビジョン
- ・イメージ
 - ・戦略の理念・方向性
 - ・復習時間60分
- 第8回 地域金融機関の戦略理念Ⅱ・・・共通してみられる戦略は
- ・選択と集中
 - ・階層別営業戦略
 - ・問題解決型企業ファイナンスの実践
 - ・復習時間60分
- 第9回 地域金融機関の戦略の実例Ⅰ
- ・序
 - ・地域金融機関による地方創生の取組み
 - ・復習時間30分
- 第10回 地域金融機関の戦略の実例Ⅱ
- ・各地の特色のある地域金融機関の取組み

- ・戦略の影響
- ・復習時間30分
- 第11回 生き残りをかけて
 - ・はじめに
 - ・合併
 - ・経営統合
 - ・提携
 - ・復習時間30分
- 第12回 家計の現状と銀行の対応
 - ・家計貯蓄の動向と高齢化社会
 - ・銀行と高齢化社会 ～ リバースモーゲージとは
 - ・復習時間30分
- 第13回 企業と銀行
 - ・企業の資金調達の方法
 - ・企業と銀行 ～ メインバンクとは
 - ・復習時間60分
- 第14回 銀行の国際業務
 - ・外国為替業務
 - ・貿易金融業務
 - ・その他の国際金融業務
 - ・復習時間60分
- 第15回 邦銀の海外進出と銀行規制
 - ・海外進出の経過と背景
 - ・アジアでの海外業務の拡大
 - ・バーゼルⅢとは
 - ・復習時間30分

【授業の進め方】

毎回、パワーポイントと配布資料を用いて講義を進める。

受講生が50人以下であれば、グループ分けをして配布資料をもとにグループごとに発表していただく予定である。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は特に指定しない

【参考図書】

『エッセンシャルズ銀行論』佐野・上田・市川編著 中央経済社

『銀行読本』北原編 東洋経済

『図説・わが国の銀行』全銀協調査部 財経詳報社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

テストと受講態度で評価する

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席カードのタッチ&ゴーの状況次第では評価方法を変更する

【履修上の心得】

日経文庫にあるような簡単な入門書を読むことも勧めたい。

そして言うまでもないことだが、講義中には退出したり、携帯電話を鳴らしたりするのは失礼な行為である。厳に慎んでほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

履修推奨年次：学部2年次生以上

前提科目：銀行論Ⅰ、金融論、経済学

ステップ科目：保険論Ⅰ、Ⅱ

銀行はメーカーや商社とならんで現代経済を支える重要な産業である。その動向を知ることは産業社会の理解に不可欠である。

科目名	広告論 I
教員名	青崎 智行

【授業の内容】

広告は企業や商品などの魅力、メッセージを消費者に伝えていくコミュニケーション活動である。消費者のニーズが多様化、分散化する現在においては効果的な広告コミュニケーションを図る必要性がかつてないほどの高まりを見せている。本講義では広告を構成する各要素とプロセスについて基礎的な理解を深めると同時に、実際の広告コミュニケーション事例を参照することにより実践的な側面についても把握していく。また、主要な広告メディアの状況を確認し、広告とメディアの関係についても考察する。

【到達目標】

広告論 I ではマーケティングや広告戦略など広告の重要な構成要素について基礎的な理解を深めるとともに、主要な広告媒体であるテレビ放送、新聞の状況についても把握することを目的とする。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める (30分)
- 第2回 広告の機能
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める (30分)
- 第3回 広告の種類
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める (30分)
- 第4回 広告とマーケティング
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める (30分)
- 第5回 広告計画のプロセス
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める (30分)
- 第6回 広告戦略の考え方①セグメンテーション
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める (30分)
- 第7回 広告戦略の考え方②ポジショニング
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める (30分)
- 第8回 広告戦略の考え方③コンセプト
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める (30分)
- 第9回 消費者行動モデル
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める (30分)
- 第10回 広告費、広告予算
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める (30分)
- 第11回 メディア環境分析：放送①ビジネスモデル
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める (30分)
- 第12回 メディア環境分析：放送②放送と広告
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める (30分)
- 第13回 メディア環境分析：新聞①ビジネスモデル
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める (30分)
- 第14回 メディア環境分析：新聞②新聞と広告
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める (30分)
- 第15回 総括
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める (30分)

講義内容は必要に応じて変更することがある。

【授業の進め方】

広告に関する主要な概念や基本的な手法について実際の事例を参照しながら解説していく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に教科書は指定しない。

【参考図書】

岸志津江、田中洋(2017)「現代広告論第3版」、有斐閣、2400円+税（希望者のみ各自書店で購入）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 50%

特記事項

受講態度（出席、聴講、発言、リアクションペーパー等）と定期試験の結果を総合的に評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

遅刻や欠席は厳しくチェックされる。

【履修上の心得】

学生との対話を重視した講義を行うので、履修者は授業中積極的に発言すること。

【科目のレベル、前提科目など】

普段の生活で触れる広告に対して興味関心を持つこと。

科目名	広告論Ⅱ
教員名	青崎 智行

【授業の内容】

広告は企業や商品などの魅力、メッセージを消費者に伝えていくコミュニケーション活動である。消費者のニーズが多様化、分散化する現在においては効果的な広告コミュニケーションを図る必要性がかつてないほどの高まりを見せている。本講義では広告を構成する各要素とプロセスについて基礎的な理解を深めると同時に、実際の広告コミュニケーション事例を参照することにより実践的な側面についても把握していく。また、主要な広告メディアの状況を確認し、広告とメディアの関係についても考察する。

【到達目標】

広告論Ⅱでは広告論Ⅰで学んだ基礎的な内容をベースとしながら、クリエイティブ、メディアプランニング、ブランド戦略、グローバル展開など広告産業の重要な構成要素について理解を深めるとともに今日的な状況についても把握することを目的とする。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 クリエーティブ①広告とクリエイティブ
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める (30分)
- 第3回 クリエーティブ②時代への対応
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める (30分)
- 第4回 メディアプランニング①基本的考え方
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める (30分)
- 第5回 メディアプランニング②媒体特性
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める (30分)
- 第6回 メディアプランニング③消費者インサイト
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める (30分)
- 第7回 広告とブランド戦略①ブランドの機能
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める (30分)
- 第8回 広告とブランド戦略②ブランド戦略の形態
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める (30分)
- 第9回 広告とブランド戦略③ケーススタディ
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める (30分)
- 第10回 広告のグローバル化①グローバル化の概況
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める (30分)
- 第11回 広告とグローバル化②グローバル化の形態
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める (30分)
- 第12回 広告とグローバル化③グローバル化に伴う課題
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める (30分)
- 第13回 社会のなかの広告①広告規制
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める (30分)
- 第14回 社会のなかの広告②広告関連法規
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める (30分)
- 第15回 総括
復習：講義で取り上げた用語・論点について理解を深める (30分)

講義内容は必要に応じて変更することがある。

【授業の進め方】

広告に関する主要な概念や基本的な手法について実際の事例を参照しながら解説していく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に教科書は指定しない。

【参考図書】

岸志津江、田中洋(2017)「現代広告論第3版」、有斐閣、2400円+税(希望者のみ各自書店で購入)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 50%

特記事項

受講態度（出席、聴講、発言、リアクションペーパー等）と定期試験の結果を総合的に評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

遅刻や欠席は厳しくチェックされる。

【履修上の心得】

学生との対話を重視した講義を行うので、履修者は授業中積極的に発言すること。

【科目のレベル、前提科目など】

普段の生活で触れる広告に対して興味関心を持つこと。

科目名	商業概論
	高等学校「商業」科目指導に求められる一般的・包括的科目
	※複数教員によるオムニバス
教員名	商業概論担当教員

【授業の内容】

*将来「商業」科目を担当する人材に期待される資質に関わる基本的考え方、実践基礎能力を学ぶ科目である。

*また経営学部において専門科目を選択学んでいくための導入・基礎的内容を学ぶ科目でもある。

*企業行動を取り巻く環境は、高度情報社会・グローバル化・シンギュラリティなどの用語に象徴されるように大きく変化してきている。これらの環境の変化を理解し商業の分野において必要となる教育内容の基礎的理論ならびに実践的能力を修得していくことに重点をおいている授業である。

*授業展開における要点は商業分野における基本的・総合的・包括的な内容であり、具体的には

マーケティング分野
 ビジネス・経済分野
 会計分野
 ビジネス情報分野

の4つの主要分野について、その基礎的内容を考察していく授業である。

【到達目標】

1. ビジネス行動と経済のしくみについて理解する。

2. 企業行動の基礎について理解する。

① ビジネスとは：ビジネス行動の基礎を理解。

② マーケティング、市場開発行動の理解。

③ 簿記・会計に関する理論と仕組みの理解。

④ 情報処理、ビジネス情報管理の基礎を理解。

【授業計画】

第1回 ガイダンス(この授業のねらい)、ビジネス基礎：ビジネスの担い手、企業活動の基礎、企業形態(飛田)

第2回 ビジネス実務：企業組織と意思決定、コミュニケーション、リーダーシップ(西谷)

第3回 マーケティングとは何か、マーケティングの発展と学説、現代市場の特徴と分析の基本的枠組(内堀)

第4回 マーケティングの4P(製品企画・開発、流通チャンネル、価格政策、広告・販売促進および消費者コミュニケーション活動)、マーケティングの進化(内堀)

第5回 企業環境を取り巻く経済に関する基礎的な知識、経済の仕組みや概念、経済学(ミクロ経済学、マクロ経済学)の基本的な考え方(需要と供給、市場の役割、資源配分の仕組み、GDPの概念など)(吉川)

第6回 簿記一巡の手続き(青木)

第7回 財務会計の意義と企業会計制度(青木)

第8回 貸借対照表と損益計算書の仕組み(青木)

第9回 工業簿記(製造業における製品の製造原価の計算とその記帳)、制度原価計算(財務会計目的の原価計算)、管理原価計算(経営管理目的の原価計算)(山田覚)

第10回 管理会計に関する基本的知識、経営者の意思決定に関わる会計情報の重要性、経営戦略との関わりと重要性(星)

第11回 情報処理、ビジネスと情報ネットワークシステム、ビジネス情報管理、ユビキタスネットワーク社会(樋口)

第12回 プログラミング：アルゴリズムの表現技法、オブジェクト指向の考え方(樋口)

第13回 電子商取引の現状、取引システム例、問題点・課題(樋口)

第14回 課題研究の理論：課題研究の目標・内容、課題研究の指導計画・展開(樋口)

第15回 課題研究の理論：課題研究の目標・内容、課題研究の指導計画・展開(樋口、ゲストスピーカー)

【授業の進め方】

オムニバス形式

【教科書(必ず購入すべきもの)】

テキストは使用しない。

下記の参考図書を授業内容の復習に活用して欲しい。

【参考図書】

*経営・経営管理分野：「やさしい経営学」海野博、所伸之編著、創成社、2007年

*マーケティング分野：「1からのマーケティング」石井淳蔵・廣田章光著、碩学舎、2009年

*経済分野：「レクチャー&エクササイズ 経済学入門」上村敏之著 新世社 2017年7月

*会計分野：「エッセンス簿記会計—初歩から納税申告書作成・財務諸表分析まで」第13版 新田忠誓編著 森山書店、2017年

*ビジネス情報分野：「これからの情報科学」師・黒澤・船田・樋口 著 学文社 2018年4月

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 100% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

第1回～15回の時間内レポート・時間内試験 100%：各回の授業の終わりに時間内試験あるいは時間内レポートを実施し10点満点で採点。

15回分を集計して150点満点を100点満点に換算して成績評価をする。

科目名	財政学 I
教員名	金田 美加

【授業の内容】

財政とは、政府がその存立を維持し活動するために行う経済行為である。本講義は、財政学の基本的な知識を習得し、わが国の政府活動を論理的な視点で考えることができるようになることを目的とする。また、教職および公務員試験（地方上級、国家Ⅱ種）等の受験に役立つ知識と応用力をつけるため、公務員試験等の過去問をとりあげながら、財政学の基礎理論を学んでいく。

【到達目標】

- 主たる目標：財政の基本的な内容について、理解できること
- 従たる目標：より深い研究を志すものは、そのきっかけが掴めるようになること

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス（講義の内容と進め方）、政府の役割について
学習課題は、財政学というものを認識することである。予習・復習時間は2時間
- 第2回 財政の3機能と国民経済との関係
学習課題は、財政の役割と日本の現状を知ることである。予習・復習時間は2時間。
- 第3回 予算制度（予算の原則、編成過程など）
学習課題は、日本の予算制度を知ることである。予習・復習時間は2時間。
- 第4回 租税制度①（租税の分類）
学習課題は、日本の租税がどのように分類されるかを知ることである。
予習・復習時間は2時間。
- 第5回 租税制度②（租税の基本原則）
学習課題は、日本および伝統的な租税原則を知ることである。予習・復習時間は2時間。
- 第6回 社会保障制度①（社会保障の種類と機能）
学習課題は、社会保障の概要を知ることである。予習・復習時間は2時間。
- 第7回 社会保障制度②（給付と負担、および現状について）
学習課題は、社会保障の給付と負担の現状を知ることである。予習・復習時間は2時間。
- 第8回 公債発行と公共投資①（公債発行、および現状について）
学習課題は、日本の公債発行の現状を知ることである。予習・復習時間は2時間。
- 第9回 公債発行と公共投資②（公共投資など）
学習課題は、日本の公共投資の現状を知ることである。予習・復習時間は2時間。
- 第10回 財政投融资制度
学習課題は、日本の財政投融资制度について知ることである。予習・復習時間は2時間
- 第11回 国と地方の財政関係地方の財政①（政府の分類と予算構造）
学習課題は、政府の分類と日本の予算構造を知ることである。予習・復習時間は2時間
- 第12回 国と地方の財政関係地方の財政②（補助金制度、地方交付税の配分と機能）
学習課題は、日本の補助金制度や地方交付税の配分、およびその機能を知ることである。
予習・復習時間は2時間
- 第13回 財政政策の経済効果①（三面等価の原則）
学習課題は、財政政策の経済効果をはかる手段を知ることである。予習・復習時間は2時間
- 第14回 財政政策の経済効果②（45度線分析の基礎、財政政策の経済効果）
学習課題は、財政政策の経済効果をはかることである。予習・復習時間は2時間
- 第15回 わが国の財政政策
学習課題は、総括としての日本の財政政策を知ることである。予習・復習時間は2時間

講義内容については、履修者の理解度に応じて、講義の順番や内容を変更する場合がある。本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。

【授業の進め方】

財政の基本的な仕組みと基礎的な知識を講義形式にて概説する。そのうえで、現在の日本財政の状況や抱えている具体的な問題などを紹介し、受講生が具体的に認識し、問題意識を持てるように促す。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- 教科書指定なし。講義資料を配布する。
- 詳細は初回のガイダンス時に説明する。

【参考図書】

- 上村敏之(2013)『コンパクト財政学 第2版』新世社。

竹内信仁(2007)『スタンダード財政学 第2版』中央経済社.
林宜嗣(2012)『基礎コース 財政学 第3版』新世社.

他参考文献については講義内にて紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

学期末試験（持ち込み不可）で評価する。

【科目のレベル、前提科目など】

ミクロ経済学とマクロ経済学に関する基礎的な知識があると望ましい(または、基礎的な知識を得ようとする意欲があると望ましい)。

公務員試験等を考える場合は、財政学 I とあわせて受講することが望ましい。

【備 考】

成績評価の詳細、配布資料等についてはガイダンスにて説明を行うため、必ず初回のガイダンスに出席すること。

科目名	財政学Ⅱ
教員名	金田 美加

【授業の内容】

財政とは、政府がその存立を維持し活動するために行う経済行為である。本講義は、財政学の基本的な知識を習得し、わが国の政府活動を論理的な視点で考えることができるようになることを目的とする。また、教職および公務員試験（地方上級、国家Ⅱ種）等の受験に役立つ知識と応用力をつけるため、公務員試験の過去問等を取りあげながら、財政学の基礎理論を学んでいく。

【到達目標】

主たる目標：財政学に関する基礎力を身につけ、財政制度や機能・役割を理解できること
 従たる目標：より深い研究を志すものは、そのきっかけが掴めるようになること

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス（後期講義の内容と進め方）、市場経済と資源配分①(生産者の行動、消費者の行動)
 学習課題は、理論的なアプローチ（市場経済と資源配分）で財政学というものを認識する。
 予習・復習時間は2時間。
- 第2回 市場経済と資源配分②（市場均衡と余剰分析）
 学習課題は、市場均衡と余剰分析を知ることである。予習・復習時間は2時間。
- 第3回 市場経済と政府介入①（数量規制、価格規制、二重価格など）
 学習課題は、数量規制や価格規制といった市場経済に対する政府の介入を知ることである。
 予習・復習時間は2時間。
- 第4回 市場経済と政府介入②（従量税タイプの間接税、政府介入のまとめ）
 学習課題は、従量税タイプの間接税といった市場経済に対する政府の介入を知ることである。
 予習・復習時間は2時間。
- 第5回 外部性の理論①（外部性の定義、負の外部性）
 学習課題は、外部性の定義と負の外部性について知ることである。
 予習・復習時間は2時間。
- 第6回 外部性の理論②（正の外部性）
 学習課題は、正の外部性について知ることである。
 予習・復習時間は2時間。
- 第7回 外部性の理論③（外部性の解決方法）
 学習課題は、外部性の解決方法について知ることである。
 予習・復習時間は2時間。
- 第8回 公共財の理論①（公共財の供給メカニズム）
 学習課題は、公共財とその供給メカニズムについて知ることである。
 予習・復習時間は2時間。
- 第9回 公共財の理論②（公共財とゲーム論）
 学習課題は、入門としてのゲーム論を使って公共財について知ることである。
 予習・復習時間は2時間。
- 第10回 公共財の理論③（パレート効率性とサミュエルソン条件）
 学習課題は、パレート効率性とサミュエルソン条件について知ることである。
 予習・復習時間は2時間。
- 第11回 租税の転嫁と帰着①（弾力性について）
 学習課題は、弾力性について知ることである。予習・復習時間は2時間。
- 第12回 租税の転嫁と帰着②（租税の転嫁プロセスとラムゼイ・ルール）
 学習課題は、租税の転嫁等について知ることである。予習・復習時間は2時間。
- 第13回 所得分配の理論①（予算制約線とその変化）
 学習課題は、予算制約線とそれがどのように変化するかについて知ることである。
 予習・復習時間は2時間。
- 第14回 所得分配の理論②（補助金の理論）
 学習課題は、補助金について知ることである。予習・復習時間は2時間。
- 第15回 わが国の財政と財政理論
 学習課題は、総括としてのわが国の財政と財政理論について知ることである。
 予習・復習時間は2時間。

講義内容については、履修者の理解度に応じて、講義の順番や内容を変更する場合がある。本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。

【授業の進め方】

財政を学ぶにあたって必要となる基礎的な理論を講義形式にて概説する。そのうえで、受講生が具体的な問題意識を持てるように促す。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書指定なし。講義資料を配布する。
詳細は初回のガイダンス時に説明する。

【参考図書】

上村敏之(2013)『コンパクト財政学 第2版』新世社.
竹内信仁(2007)『スタンダード財政学 第2版』中央経済社.
林宜嗣(2012)『基礎コース 財政学 第3版』新世社.

他参考文献については講義内にて紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%
特記事項
学期末試験(持ち込み不可)で評価する。

【科目のレベル、前提科目など】

ミクロ経済学、公共経済学に関する基礎的な知識があると望ましい(または、基礎的な知識を得ようとする意欲があると望ましい)。

公務員試験等を考える場合は、財政学 I とあわせて受講することが望ましい。

【備 考】

成績評価の詳細、配布資料等についてはガイダンスにて説明を行うため、必ず初回のガイダンスに出席すること。

科目名	経済地理学
教員名	奥澤 信行

【授業の内容】

経済地理学で取り扱う対象は、地球上の経済活動のすべて、つまり農林水産業・鉱工業・商業など広汎にわたる。そしてそれぞれの産業における活動拠点の分布状況と成立要因を考察することを主眼としている。本講では、経済地理学の基本的な課題である立地論について触れた後、近年その変容が著しい小売業の実態について詳述する。また流通活動と密接に関係している交通条件についても考察する。なお本講は教職課程の「教科に関する科目」でもあるため、アクティブ・ラーニングの視点からの考察も取り入れて授業を展開する。

【到達目標】

授業では、流通・消費活動を通じての地域の変容を論じるが、受講生一人一人が「なぜこの地域では、このような経済活動が展開されるのか？」という問題意識を持ちつつ、自分の居住地についてその存立要因を地理学的視点から考察する姿勢を身に付けることを目標とする。また首都東京の現状をあまりにも知らない学生が多いので、日本国民として最低限知っておくべきその地理的事項を認識できるようにする。

【授業計画】

- 第1回 経済地理学の基本的課題① 経済地理学の学問的位置付け（経済活動を地理学の視点から分析する学問であることを理解する。／復習30分）
- 第2回 経済地理学の基本的課題② 農業立地論[チューネンの立地論]（ヨーロッパにおける古典的農業区分を理解する。／復習30分）
- 第3回 経済地理学の基本的課題③ 工業立地論[ヴェーバーの立地論]（近代工業の成立を資源と工場の立地の面から考察する。／復習30分）
- 第4回 経済地理学の基本的課題④ 工業立地論[工業立地の具体例]（立地に関する古典的事例と現代的事例を考察する。／復習30分）
- 第5回 商業活動① 卸売業[大企業と関わる卸売商]（ナショナルブランドの工業製品を調べておく。／予習30分）
- 第6回 商業活動② 卸売業[中小企業と関わる卸売商]（伝統工芸品を列挙する。／予習30分）
- 第7回 商業活動③ 小売業[大型商業施設]（居住地近辺の大型商業施設について、その特色や顧客層、商圏を確認しておく。／予習30分）
- 第8回 商業活動④ 小売業[中小の小売商]（居住地の既存商店街の実態を把握しておく。／予習30分）
- 第9回 商業活動⑤ 大型商業施設の出店による既存商店街の衰退に関するディベート（ディベートとその後のディスカッションから今後の商店街のあり方を消費者の立場から考察する。／復習30分）
- 第10回 商業活動⑥ 商圏[定義と特質]（居住地近辺の人口10万人以上の都市における人口の推移と勢力圏を把握しておく。／予習30分）
- 第11回 商業活動⑦ 商圏[調査法と算出法]（居住地近辺の人口10万人以上の都市における勢力圏を計算式によって確認する。／復習30分）
- 第12回 輸送手段としての交通① 陸上交通[鉄道輸送]（通勤・通学の近距離輸送と旅行等の長距離輸送での運行形態の相違をこれまでの体験から整理しておく。／予習30分）
- 第13回 輸送手段としての交通② 陸上交通[自動車輸送]（我が国の物流を支える自動車輸送を高速道路の整備と関連して理解する。／復習30分）
- 第14回 輸送手段としての交通③ 海上輸送（外国貿易における船舶利用の実態を理解する。／復習30分）
- 第15回 輸送手段としての交通④ 航空交通（海外旅行を事例としてその速達性を確認するとともに、安全な運行や航空会社の経営に関しても考察する。／復習30分）

【授業の進め方】

講義内容の順に講義を行うが、商業活動については、その内容が短期間で急激に変容することがあるため、最新の話題を取り上げる際には項目が前後することもある。また全国各地で問題となっている大型商業施設の出店による地域経済への影響について、その是非をディベートによって深く考察したい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は特に使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

【参考図書】

- 『都市と経済の地理学』 林上 著 原書房
『立地調整の経済地理学』 松原 宏 著 原書房

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 90% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 10%

特記事項

定期試験と授業中の態度・発言で評価する。また毎時間出席カードを配布して厳格に出席管理を行う。IDカードに

よる出席も併せて利用するが、出席カードとの間に差異が生じた場合には、出席カードによるデータを優先する。定期試験はマークシートにより解答(5択100問)する形式で、ノート等の持ち込みは一切不可である。なおディベートで意見を発表した受講生には定期試験に加点する。

【履修上の心得】

かなりの早口で授業を進めるので、聞き落としのないように注意してもらいたい。板書はノートを取りやすいように配慮するので、きちんとした講義録を作成できるはずである。経済学と地理学の間位置するような科目であるが、地理学にウェイトのかかった内容となっている。高校で地理を履修していない学生でも受講は可能である。

【科目のレベル、前提科目など】

地理学全般を把握する意味から教養科目の「地理学A・B」を履修済みまたは履修中であることが望ましい。また中学校社会の教員免許取状取得希望者は「地理学概論(地誌を含む)」を受講することで、「地域の見方」をより深化できるであろう。

科目名	現代日本経済論 I
	日本経済入門
教員名	吉川 薫

【授業の内容】

戦後を中心とした日本経済について、歴史・制度、政策、現状・課題を経済統計および基本的な経済理論に基づき講義する。

【到達目標】

これまでの日本経済の歩みと現状を知ることによって現代の日本経済の特徴や課題を総合的に把握し、日本経済に関する新聞等の経済記事の内容を正しく理解し、自分自身で日本経済の現状・課題を考察する力を身に付けることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 課題先進国になった日本。予習；シラバスをよく読んでおくとともに、この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習；授業で取り上げた課題をまとめる（30分）
- 第2回 日本経済の歩み①（～1980年代まで）この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習；授業で取り上げたキーワードを復習し、配布されたプリントを読み直してノートを整理する（40分）
- 第3回 日本経済の歩み②（1980年代以降）この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習；授業で取り上げたキーワードを復習し、配布されたプリントを読み直してノートを整理する（40分）
- 第4回 日本の経済政策①（経済政策の目的と分類）予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習；授業で取り上げたキーワードを復習し、配布されたプリントを読み直してノートを整理する（40分）
- 第5回 日本の経済政策②（経済政策の変遷）この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習；授業で取り上げたキーワードを復習し、配布されたプリントを読み直してノートを整理する（40分）
- 第6回 財政のしくみと役割 この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習；授業で取り上げたポイントを復習し、配布されたプリントを読み直してノートを整理する（40分）
- 第7回 財政の役割と再建への取組み この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習；授業で取り上げたポイントを復習し、配布されたプリントを読み直してノートを整理する（40分）
- 第8回 地域経済の現状と地方創生 この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習；授業で取り上げたキーワードを復習し、配布されたプリントを読み直してノートを整理する（40分）
- 第9回 金融の役割と制度 この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習；授業で取り上げたキーワードを復習し、配布されたプリントを読み直してノートを整理する（40分）
- 第10回 デフレと金融政策①（金融政策と日本銀行）予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく。金融政策の新しい動きを日銀のホームページ等で調べておく（40分）復習；授業で取り上げたキーワードを復習し、配布されたプリントを読み直してノートを整理する（40分）
- 第11回 デフレと金融政策②（非伝統的金融政策の効果とリスク）予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく。金融政策の新しい動きを日銀のホームページ等で調べておく（40分）復習；授業で取り上げたキーワードを復習し、配布されたプリントを読み直してノートを整理する（40分）
- 第12回 バブルと金融危機 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく。（30分）復習；授業で取り上げたキーワードを復習し、配布されたプリントを読み直してノートを整理する（40分）
- 第13回 国際的な競争環境の変化と企業行動 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく。（30分）復習；授業で取り上げたキーワードを復習し、配布されたプリントを読み直してノートを整理する（40分）
- 第14回 国際収支と円レート 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく。（30分）復習；授業で取り上げたキーワードを復習し、配布されたプリントを読み直してノートを整理する（40分）
- 第15回 為替レートと国際通貨体制 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく。（30分）復習；授業で取り上げたキーワードを復習し、配布されたプリントを読み直してノートを整理する（40分）

【授業の進め方】

- ・テキストに加え、プリントを配布し、それにそって講義する。また、できるだけ最新の情報を取り入れて紹介するとともに、重要な経済用語、経済統計の見方も解説する。
- ・受講者も新聞等で経済・社会の動きに関心をもち、授業で取り上げた経済問題、社会問題について最新の統計データを調べるとともに、受講生の間でグループ・ディスカッションをし、自分の考えをまとめる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①日本経済読本 ②金森久雄・大守隆編 ③東洋経済新報社 ④2016年3月3日発行 ⑤2400円＋税 ⑥978-4-492-10032-5

授業の際、教科書、配布プリントを持参のこと。

【参考図書】

「ゼミナール日本経済入門」（最新版）三橋・内田・池田編 日本経済新聞出版
「入門・日本経済」（第5版）浅子・篠原編 有斐閣
「日本経済の基本」（第4版）小峰隆夫編著 日経文庫ビジュアル 日本経済新聞出版
「最新日本経済入門（第5版）」小峰隆夫・村田啓子 日本評論社
「日本経済論」宮川務・細野・細谷・川上 中央経済社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 90% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 10%

【履修上の心得】

- ・講義の前後にテキスト・参考書等をよく読んでおくこと。
- ・「現代経済」の受講者は「現代日本経済論Ⅰ」と「現代日本経済論Ⅱ」の両方を受講すること。

【科目のレベル、前提科目など】

科目のレベル：現代日本経済論の入門

前提科目：経済学(マクロ経済学Ⅰ、ミクロ経済学Ⅰ)の受講後(あるいは並行して受講)がのぞましい。

関連科目：現代日本経済論Ⅱ、マクロ経済Ⅰ、Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ、Ⅱ、金融論、財政学など経済関連科目。

科目名	現代日本経済論Ⅱ
教員名	吉川 薫

【授業の内容】

現代の日本の雇用・労働問題、格差の問題、少子高齢化や社会保障の問題、地球環境問題など、日本経済の抱える諸問題や日本をめぐる世界経済の動向等について、その特徴と歴史の変遷、制度や政策、現状と課題などを経済統計および基本的な経済理論を踏まえて総合的に講義する。

【到達目標】

【授業の内容】であげた現代の日本経済の抱える諸問題についてその特徴や課題を総合的に把握し、新聞等の記事や議論の内容を正しく理解し、自分自身で問題点や対応の方向を考察できる力を養うことを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 日本における労働需給の変化 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習し、配布プリントを読み直してノートを整理する（40分）
- 第2回 日本的雇用慣行の変容 この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習し、配布プリントを読み直してノートを整理する（40分）
- 第3回 非正規雇用の増加の背景と課題 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習し、配布プリントを読み直してノートを整理する（40分）
- 第4回 家計の消費と貯蓄 この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習し、配布プリントを読み直してノートを整理する（40分）
- 第5回 日本の所得格差と貧困の問題 この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習し、配布プリントを読み直してノートを整理する（40分）
- 第6回 少子高齢化と社会保障①(全体像、年金) この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習し、配布プリントを読み直してノートを整理する（40分）
- 第7回 少子高齢化と社会保障②(医療・介護、子育て支援) この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習し、配布プリントを読み直してノートを整理する（40分）
- 第8回 日本のエネルギー需給と原発事故 この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習し、配布プリントを読み直してノートを整理する（40分）
- 第9回 資源・エネルギー戦略の再構築 この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習し、配布プリントを読み直してノートを整理する（40分）
- 第10回 日本の環境問題への対応の歴史 この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習し、配布プリントを読み直してノートを整理する（40分）
- 第11回 地球環境問題と経済 この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習し、配布プリントを読み直してノートを整理する（40分）
- 第12回 世界経済の動向①(世界経済動向の概要) この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習し、配布プリントを読み直してノートを整理する（40分）
- 第13回 世界経済の動向②(アメリカ経済、欧州経済、新興国経済の動向) この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習し、配布プリントを読み直してノートを整理する（40分）
- 第14回 国際金融市場の動向と国際貿易システムの変容 この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習し、配布プリントを読み直してノートを整理する（40分）
- 第15回 日本経済の再生に向けて この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）授業のポイントを復習し、配布プリントを読み直してノートを整理する（40分）

【授業の進め方】

- ・テキストのほか、プリントを配布し、それにしたがって講義する。また、白書や各種報告書など最新の情報や統計も利用するとともに、重要な経済用語、経済統計の見方も解説する。
- ・受講者は新聞等により授業に関連した最新の情報を入手し、グループディスカッションをし、自分の考えをまとめ、発表する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①日本経済読本 ②金森久雄・大守隆編著 ③東洋経済新報社 ④2016年3月 ⑤2400円 ⑥978-4-492-10032-5

「日本経済読本」(第20版) 金森・大守編 東洋経済新報社、本体2300円+税、ブックスナカジマ(構内売店)で購入できる。
 授業の際、教科書を持参のこと。

【参考図書】

「ゼミナール日本経済入門」（最新版）三橋・内田・池田編 日本経済新聞社
「入門・日本経済」（第5版）浅子・篠原編 有斐閣
「日本経済の基本」（第4版）小峰隆夫編著、ビジュアル日経文庫 日本経済新聞出版
「最新日本経済入門」（第5版）小峰隆夫・村田啓子 日本評論社
「日本経済論」宮川・細野・細谷・川上著 中央経済社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 90% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 10%

【履修上の心得】

- ・講義の前後にテキスト・参考書等をよく読んでおくこと。
- ・また、日ごろから新聞等の経済記事や論説など現実の経済問題に関心をもつこと。ただし、記事を鵜のみにするのではなく自分の頭で考えるようにすること。

【科目のレベル、前提科目など】

科目のレベル：入門

前提科目：現代日本経済論Ⅰを受講してから受講することが望ましい。また、経済学(マクロ経済学Ⅰ、ミクロ経済学Ⅰ)の受講後(あるいは並行して受講)がのぞましい。

関連科目：日本経済論Ⅰ、経済学(マクロ経済Ⅰ、Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ、Ⅱ)などの経済関連科目。

★現代経済として受講する場合は、「現代日本経済論Ⅰ」と「現代日本経済論Ⅱ」の両方を受講して4単位です。

科目名	情報社会経済論 I
教員名	堀 真由美

【授業の内容】

情報通信技術の進展は、「情報」という目に見えない非可視的なモノを社会や経済の中心的存在としてクローズアップさせた。国、地域社会、企業、自治体、学校、家庭、個人が、情報通信技術の利用によりネットワーク化され、これまで目にみえていた可視的な「物」中心の社会、経済とは異なる仕組み（システム）を生み出し変革をもたらしている。近年のソーシャルネットワーキングサービスによる双方向のコミュニケーションは、個人間にとどまらず企業の経営戦略としても利用されつつある。本講義は21世紀の産業革命ともいえる仕組み、すなわち情報通信技術を基盤とするネットワークの形成が経済、社会、生活等にどのようなインパクトを与えるのか、またその利活用について学習する。

【到達目標】

- ・情報通信技術の進展による経済、社会、生活等への影響とその利活用が分かるようになることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 講義概要、講義の進め方、成績評価方法の説明。授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
 第2回 コミュニケーションの手段とインターネット。授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
 第3回 社会構造の変容。授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
 第4回 事例「9.11」米国同時多発テロ。授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
 第5回 Web1.0時代からWeb2.0時代：ユーザ参加型。授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
 第6回 ロングテールとフリーの概念。授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
 第7回 ソーシャルメディアの基本。授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
 第8回 ソーシャルメディアによる影響力。授業で取り上げた事例を各自インターネットで検索をする（30分）。
 第9回 ソーシャルメディアによる事例：授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
 第10回 ネットワーク社会の経済理論：情報の非対称性・ネットワーク外部性：。授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
 第11回 ネットワーク社会の経済理論：需要の価格弾力性・費用ゼロ経済。授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
 第12回 消費者行動の変容。授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
 第13回 消費者行動の変容：インバウンドマーケティング。授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
 第14回 インターネットショッピング。授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
 第15回 まとめ これまでの授業内容について復習する（60分）。

【授業の進め方】

最新情報をパソコン室でネットを活用し講義形式で進めていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用しない。

【参考図書】

- ・『ネットワーク社会経済論』大橋正和・堀真由美編著 紀伊國屋書店 2005年
- ・『テレワーク社会と女性の就業』堀真由美著 中央大学出版局 2003年
- ・『公共iDCとc社会－電子政府・電子自治体・電子社会の基本理念』大橋正和著 工学図書 2003年

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 15% レポート・課題 0% 受講態度 15%

特記事項

授業内試験は、3回実施予定

【「成績評価の方法」に関する注意点】

初回到成績評価の方法や履修の注意点を説明するので必ず出席し確認すること。

【履修上の心得】

- ・「情報社会経済論 I/ネットワーク社会経済論 I」を履修後「情報社会経済論 II/ネットワーク社会経済論 II」を履修することが望ましい。
- ・パソコンの基礎知識があることが履修上の条件となる。
- ・毎回講義時のノートは、各自パソコン上でとること。

【科目のレベル、前提科目など】

- ・経済学、経営学、情報通信技術の基礎知識

科目名	情報社会経済論Ⅱ
教員名	堀 眞由美

【授業の内容】

近年の情報通信技術の進展は、これまで目に見えていた可視的な「モノ」中心の社会、経済の仕組みから「情報」という目に見えない非可視的なモノを中心的存在としてクローズアップさせた。本講義は、情報の流れが一方方向の情報伝達から双方向の情報共有へ変化し、それにより社会、生活、働き方がどのように変化してきているか、様々な事例により現代社会の変容を学習する。

【到達目標】

- ・情報通信技術の進展が、経済、社会、生活に与える影響力について理解できるようになることを目標とする。
- ・RFID (ICタグ)、ソーシャルメディア、テレワークの基礎知識を理解できるようになることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 講義概要、講義の進め方、成績評価方法等の説明。授業で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)。
 第2回 現代社会の変容：少子・高齢化・総人口・生産年齢人口・授業で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)。
 第3回 情報通信技術の進展：産業構造の変容。ロングテールの基本。授業で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)。
 第4回 バーコードとRFID (ICタグ) の基本。授業で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)。
 第5回 RFID (ICタグ) 国内事例：スイカ。授業で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)。
 第6回 RFID (ICタグ) 米国事例。授業で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)。
 第7回 ソーシャルメディアの現状。授業で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)。
 第8回 ソーシャルメディアの課題。授業で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)。
 第9回 ソーシャルメディア：Facebook。授業で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)。
 第10回 ソーシャルメディア事例：Facebook VTR。授業で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)。
 第11回 ソーシャルメディア事例：Facebookの活用。授業で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)。
 第12回 テレワークの基本。授業で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)。
 第13回 テレワークの効果。授業で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)。
 第14回 テレワーク事例。授業で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)。
 第15回 まとめ。これまでの授業内容について復習する (120分)。

【授業の進め方】

パソコン室のネットワークを利用し現状を確認しながら講義を進めていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用しない。

【参考図書】

- 『ネットワーク社会経済論』大橋正和・堀眞由美編著 紀伊國屋書店 2005年
 『公共iDCとc-社会—電子政府・電子自治体・電子社会の基本理念』大橋正和著 工学図書 2003年
 『情報社会学概論』公文俊平編著 NTT出版 2011年

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 15% レポート・課題 0% 受講態度 15%

特記事項

授業内試験は、3回実施予定

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・初回到成績評価の方法及び履修上の注意点を伝えるので必ず出席する。

【履修上の心得】

- ・「ネットワーク社会経済論Ⅰ/情報社会経済論Ⅰ」を履修したことを前提に本講義を進める。
- ・パソコンの基礎知識があることが履修上の条件となる。
- ・毎回講義時のノートは、各自パソコン上でとる。

【科目のレベル、前提科目など】

「ネットワーク社会経済論Ⅰ/情報社会経済論Ⅰ」、経済学、経営学の基礎知識

科目名	地域経済論 I
教員名	山田 徳彦

【授業の内容】

今日、私たちが生活している地域の経済的社会的環境は激変しつつある。この状態に対処するには実効性のある地方分権が欠かせないように思われる。

本講義では、

- ・ある地域はあくまでも一国の一部であり、独立して存在しえないこと
 - ・現在の経済的社会的環境は過去からの流れとは切り離して存在しえないこと
- といった認識に基づいて、地域の経済について理解を深める。

【到達目標】

地域の経済・社会について自ら発見し、対応策を考える能力を身につける。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 地域社会環境の変化
- 第3回 地域の現実
- 第4回 国と地方の展開 中央集権体制の確立－明治維新－
- 第5回 国土復興計画と地方自治制度の確立
- 第6回 高度経済成長と北関東
- 第7回 日本列島改造論と地方
- 第8回 国土計画の限界とそれから
- 第9回 地方分権に関する議論
- 第10回 市町村合併の動向と展望
- 第11回 道州制の動向と展望
- 第12回 地域活性化の条件 成功と失敗
- 第13回 地域社会と経済・産業の相互依存関係
- 第14回 国と地方のあり方
- 第15回 まとめ

【授業の進め方】

各回とも、配布資料を解説していく形で進める。その際、電子デバイスを多用する予定である。また、講義内容に合致する動画（5分程度）を用意するので、予習・復習に適宜活用されたい。

授業内容に応じて学習課題を提示するので、調べた内容をまとめておくこと。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①国土計画を考える 開発路線のゆくえ ②本間義人 ③中央公論新社 ④1999/2/25 ⑤1550 ⑥4121014618

本講義全体を通じて、問題の所在の発見と解決、調査能力の向上につながるものと期待される。

【参考図書】

講義中、適宜指示する。また、プリントを配布する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

【履修上の心得】

いろいろなものごとが絡み合っていて、現在の地域社会は構成されている。そのため一つ一つの議論をきちんと理解すること。講義全体を通じて、問題の発見と調査能力の向上につながる内容を心掛けたい。

私語厳禁

【科目のレベル、前提科目など】

2年生以上を念頭において講義を進める

科目名	ミクロ経済学 I (国際経済を含む)
教員名	吉川 薫

【授業の内容】

需要と供給、市場の機能、その背後にある消費者、企業の行動、市場が適切に機能しない場合の政府の役割などミクロ経済学の基本的な考え方、基礎的な理論を学習するとともに、その現実経済への応用について考察する。

【到達目標】

ミクロ経済学の基礎的な理論、基本的な考え方を理解し、市場経済下の消費者、生産者の行動を考察するとともに、それを使って現実の経済問題を考える力を身につけることができるようになることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 経済学とはどのような学問か 予習；シラバスをよく読むとともに、この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく (30分)
復習：授業のポイント配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる (40分)
- 第2回 需要と供給 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく (30分) 復習：授業のポイント配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの演習問題を解く (40分)
- 第3回 需要曲線と消費者行動 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく (30分) 復習：授業のポイント配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの演習問題を解く (45分)
- 第4回 費用の構造と供給行動 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく (30分) 復習：授業のポイント配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの演習問題を解く (45分)
- 第5回 市場取引と資源配分 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく (30分) 復習：授業のポイント配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの演習問題を解く (40分)
- 第6回 余剰分析とその応用 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく (30分) 復習：授業のポイント配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの演習問題を解く (45分)
- 第7回 国際経済取引と経済厚生 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく (30分) 復習：授業のポイント配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの演習問題を解く (45分)
- 第8回 独占の理論 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく (30分) 復習：授業のポイント配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの演習問題を解く (45分)
- 第9回 完全競争と独占的競争 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく (30分) 復習：授業のポイント配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの演習問題を解く (45分)
- 第10回 市場の失敗(1)外部効果 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく (30分) 復習：授業のポイント配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。(40分)
- 第11回 市場の失敗(2)公共財、予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく (30分) 復習：授業のポイント配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの演習問題を解く (45分)
- 第12回 不確実性と経済現象 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく (30分) 復習：授業のポイント配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。(40分)
- 第13回 不完全情報の経済学 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく (30分) 復習：授業のポイント配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの演習問題を解く (45分)
- 第14回 ゲームの理論入門 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく (30分) 復習：授業のポイント配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。(40分)
- 第15回 ゲーム理論の応用 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく (30分) 復習：授業のポイント配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの演習問題を解く (45分)

【授業の進め方】

- ・テキストのほかプリントを配布し、それにしたがって講義する。
- ・それぞれの授業で学ぶ経済学の考え方を使って実際の経済現象、経済問題を考え、グループで議論する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①入門 経済学 第4版 ②伊藤元重 ③日本評論社 ④2015年2月15日 ⑤3000円

教科書はブックスナカジマ (構内売店) で購入できる。
授業の際、教科書を持参すること。

【参考図書】

1. 「経済学をまなぶ」(中公新書) 岩田規久男著 中央公論社
2. 「基礎コース経済学」塩澤修平著 新世社
3. 「ゼミナールミクロ経済学入門」岩田規久男著 日本経済新聞社
4. 「クルーグマンミクロ経済学」P.クルーグマン、ロビン・ウェルス著 東洋経済新報社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 90% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 10%

【履修上の心得】

- ・授業の前後にテキストを十分読み、自分で図を描いて考えるとともに、テキストの演習問題を解いてみること。
- ・1～2年次で履修するとよい。なお、マクロ経済学Ⅰも合わせて受講するようにすること。(いずれも前期、後期両方で開講)
- ・旧カリ「経済学」として履修する場合は、「マクロ経済学Ⅰ」と「ミクロ経済学Ⅰ」の両方を受講すること。

【科目のレベル、前提科目など】

科目のレベル：入門

前提科目：とくにないが、数学(関数・微分など)がわかっていると理解が容易になる。

関連科目：ミクロ経済学Ⅱ、マクロ経済学Ⅰ、現代日本経済論Ⅰ、Ⅱなど経済関連科目。

ミクロ経済学Ⅱはミクロ経済学Ⅰを受講後、受講するとよい。

他の経済や経営に関連した科目を学ぶうえでも基礎となる科目である。公務員試験などでも必須の科目である。

科目名	マクロ経済学Ⅰ（国際経済を含む）
教員名	吉川 薫

【授業の内容】

GDP、物価、国際収支などマクロ経済学の基本的な用語、考え方、国民所得の決定理論やマクロ経済政策の基礎的な理論を学習するとともに、その現実経済への応用について考察する。

【到達目標】

マクロ経済学の基本的な考え方や用語を理解し、現実の様々な経済現象や経済問題について論理的に考える力を身につけるとともに、マクロ経済学の基本的な考え方をを用いて、現実の経済問題や経済政策を自分自身で考察できるようになることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 経済学とはどのような学問か 予習；シラバスをよく読んでおくとともに、この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習：授業のポイントを配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。（40分）
- 第2回 経済をマクロからとらえる 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習：授業のポイントを配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。（40分）
- 第3回 GDPとは 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習：授業のポイントを配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの演習問題を解く（45分）
- 第4回 有効需要と乗数メカニズム 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習：授業のポイントを配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの演習問題を解く（45分）
- 第5回 貨幣の機能 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習：授業のポイントを配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの演習問題を解く（45分）
- 第6回 貨幣供給と物価 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習：授業のポイントを配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの演習問題を解く（45分）
- 第7回 財政政策と金融政策 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習：授業のポイントを配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの演習問題を解く（45分）
- 第8回 IS-LM分析 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習：授業のポイントを配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの演習問題を解く（45分）
- 第9回 インフレ 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習：授業のポイントを配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの演習問題を解く（45分）
- 第10回 失業 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習：授業のポイントを配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの演習問題を解く（45分）
- 第11回 財政収支の短期的側面 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習：授業のポイントを配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの演習問題を解く（45分）
- 第12回 高齢化と財政運営 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習：授業のポイントを配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの演習問題を解く（45分）
- 第13回 国際経済学①為替レート 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習：授業のポイントを配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの演習問題を解く（45分）
- 第14回 国際経済学②比較優位 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習：授業のポイントを配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの演習問題を解く（45分）
- 第15回 経済成長と経済発展 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習：授業のポイントを配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの演習問題を解く（45分）

【授業の進め方】

- ・テキストに加え、プリントを配布し、それらにしたがって講義する。
- ・受講者は授業に関連した最新の経済データを自らチェックしておく。テキストの演習問題を解いてみるとともに、授業で学習した理論を使って現実の経済問題・経済政策を考察する。授業では、それぞれの回で学ぶマクロ経済学の考え方を使って現実の経済現象、経済問題を考察し、グループで議論、自分の考えを発表する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①入門 経済学 第4版 ②伊藤元重 ③日本評論社 ④2015年2月15日 ⑤3000円 ⑥978-4-535-55817-5

教科書はブックスナカジマで購入できる。

授業には教科書を持参すること。

【参考図書】

「経済学をまなぶ」(中公新書) 岩田規久男著 中央公論社
「ケインズ」(ちくま新書) 吉川 洋著 筑摩書房
「基礎コース経済学」塩澤修平著 新世社
「入門マクロ経済学(第5版)」中谷 巖著 日本評論社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 90% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 10%

【履修上の心得】

- ・授業の前後にテキストを十分に読み、図を描いて考えとともに、テキストの演習問題を解いてみる。
- ・ミクロ経済学Ⅰも合わせて受講するようにすること。教科書は共通であり、両方を受講して経済学の基本を学ぶことになる。

【科目のレベル、前提科目など】

科目のレベル: 入門

前提科目: 特にないが、数学(関数・微分など)がわかっていると理解が容易になる。

関連科目: マクロ経済学Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ、現代日本経済論Ⅰ、Ⅱなど経済関連科目および金融論、財政学など。

科目名	マイクロ経済学Ⅱ
教員名	吉川 薫

【授業の内容】

マイクロ経済学Iを受け継ぎ、基礎固めと発展を行う。マイクロ経済学は、市場経済における消費者および企業の合理的経済行動を体系化した学問であり、個々の経済主体の合理的経済行動を通じて形成される経済社会は、優れた経済効率性を発揮する。こうしたマイクロ経済学の基本的考え方をしっかり身につけるため、実際に問題を解くことで理解を深める。

【到達目標】

経済の見方、考え方を習得し、報道メディア、新聞、雑誌などの経済記事の内容を適切に理解できるようになることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 ミクロ経済学Ⅱの学習のガイダンス 予習；シラバスをよく読むとともに、この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習；授業のポイント配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。配布の課題を解く（45分）
- 第2回 需要と供給 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習；授業のポイント配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの練習問題を解く（45分）
- 第3回 需要曲線と消費者行動 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習；授業のポイント配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの練習問題を解く（45分）
- 第4回 費用の構造と供給行動 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習；授業のポイント配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの練習問題を解く（45分）
- 第5回 市場取引と資源配分 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習；授業のポイント配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの練習問題を解く（45分）
- 第6回 消費者行動の理論 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習；授業のポイント配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの練習問題を解く（45分）
- 第7回 消費者行動の展開 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習；授業のポイント配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの練習問題を解く（45分）
- 第8回 生産と費用 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習；授業のポイント配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの練習問題を解く（45分）
- 第9回 一般均衡と資源配分 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習；授業のポイント配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの練習問題を解く（45分）
- 第10回 独占の理論 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習；授業のポイント配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの練習問題を解く（45分）
- 第11回 ゲームの理論 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習；授業のポイント配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの練習問題を解く（45分）
- 第12回 市場の失敗 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習；授業のポイント配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの練習問題を解く（45分）
- 第13回 不確実性とリスク 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習；授業のポイント配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの練習問題を解く（45分）
- 第14回 不完全情報の経済学 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習；授業のポイント配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの練習問題を解く（45分）
- 第15回 異時点間の資源配分 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習；授業のポイント配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの練習問題を解く（45分）

【授業の進め方】

- ・テキストに加え、適宜プリントを配布する。テキストの例題、練習問題を解くことでマイクロ経済学の理解を深める。
- ・練習問題を解いたらグループで解答を検討する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①マイクロ経済学パーフェクトトマスター ②伊藤元重・下井直毅 ③日本評論社 ④2007年1月30日 ⑤1900円+税
 ⑥978-4-355-55391

【参考図書】

- 参考書 『マイクロ経済学』 伊藤元重著 日本評論社 第2版 3000円+税
 『マイクロ経済学の力』 神取道宏 日本評論社 3200円+税

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 90% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 10%

【履修上の心得】

教科書や講義ノートをよく読むとともに、必ず自分で練習問題を解いてみることを。

【科目のレベル、前提科目など】

- ・前提科目は特にないが、ミクロ経済学Ⅰを履修していることが望ましい。また、関数や微分を知っていると理解しやすい。関連科目はミクロ経済学Ⅰ、マクロ経済学Ⅰ、現代日本経済論、企業論など。資格試験には必須の科目である。
- ・経済を論理的に見る目を養ってくれる基礎的な科目であり、消費者や企業の置かれている立場や役割がよく解るようになる。その他の経済や経営に関連した科目を学ぶうえでも重要な科目である。

科目名	マクロ経済学Ⅱ
教員名	吉川 薫

【授業の内容】

マクロ経済学Iを受け継ぎ、その基礎固めと発展を行う。この科目は経済全体を巨視的に捉え、その動きを分析するので、鳥瞰図的な見方・思考と波及効果への理解が求められる。また、この科目は、現在、日本経済で起こっていること、問題になっていることなど、現実の経済問題に対する関心をもつことでその知識が自分のものとして身につく。

【到達目標】

マクロ経済の見方、考え方を習得する。習得することで、報道メディア、新聞、雑誌などの経済記事の内容が理解できるようになる。将来、どんな職業についても、経済活動の指針となる力が身につくを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 マクロ経済学のとらえ方 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習：授業のポイントを配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの練習問題を解く（45分）
- 第2回 マクロ経済学における需要と供給 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習：授業のポイントを配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの練習問題を解く（45分）
- 第3回 有効需要と乗数メカニズム 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習：授業のポイントを配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの練習問題を解く（45分）
- 第4回 貨幣の機能と信用創造 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習：授業のポイントを配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの練習問題を解く（45分）
- 第5回 貨幣需要と利率率 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習：授業のポイントを配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの練習問題を解く（45分）
- 第6回 財政政策の基本的構造 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習：授業のポイントを配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの練習問題を解く（45分）
- 第7回 財政金融政策とマクロ経済 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習：授業のポイントを配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの練習問題を解く（45分）
- 第8回 総需要と総供給 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習：授業のポイントを配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの練習問題を解く（45分）
- 第9回 労働市場の機能と失業問題 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習：授業のポイントを配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの練習問題を解く（45分）
- 第10回 インフレーションとデフレーション 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習：授業のポイントを配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの練習問題を解く（45分）
- 第11回 財政破綻と財政健全化 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習：授業のポイントを配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの練習問題を解く（45分）
- 第12回 金融政策と金融システム 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習：授業のポイントを配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの練習問題を解く（45分）
- 第13回 国際金融市場と為替レート 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習：授業のポイントを配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの練習問題を解く（45分）
- 第14回 通貨制度とマクロ経済政策 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習：授業のポイントを配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの練習問題を解く（45分）
- 第15回 経済成長と経済発展 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分）復習：授業のポイントを配布プリントを読み直して復習し、ノートにまとめる。テキストの練習問題を解く（45分）

【授業の進め方】

- ・授業はマクロ経済学Iを受け継ぎ、最初に復習し、基礎を固め、例題、練習問題を解くことで理解を深めていく。
- ・練習問題を解いたら、グループで解答を検討する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①『マクロ経済学パーフェクトマスター』（第2版） ②伊藤元重・下井直毅 ③日本評論社 ④2014年4月30日 ⑤

1900円＋税 ⑥978-4-535-55745-1

教科書 『マクロ経済学パーフェクトマスター』（第2版） 伊藤元重・下井直毅 日本評論社 1900円＋税

【参考図書】

参考書 『マクロ経済学』 伊藤元重 日本評論社 第2版 2800円＋税

『入門マクロ経済学』 中谷巖 日本評論社 第5版 2800円＋税

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 90% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 10%

特記事項

定期試験の結果に受講態度を加味する。

【履修上の心得】

教科書や配布資料をよく読むとともに、自分で練習問題を解いてみること。

【科目のレベル、前提科目など】

履修はマクロ経済学Iを履修後あるいは履修中が望ましい。また、問題解決のツールとして関数や微分、統計的な図表を読み取る力が必要である。関連科目は、ミクロ経済学I、現代日本経済論、金融論、財政学など。一国全体の経済状況を巨視的に把握し、経済全体を鳥瞰図的・論理的に捉える科目である。

科目名	ミクロ経済学 I (国際経済を含む)
教員名	中藤 泉

【授業の内容】

ミクロ経済学は、消費者や企業という経済主体の意思決定とその相互作用を通じて、限られた資源の中での資源配分を扱います。需要と供給、市場メカニズム、政府の役割など基本的な考え方と現実の経済問題への応用を学びます。

【到達目標】

ミクロ経済学の基本的な考え方を理解し、合わせて現実の経済問題を考察する力を身につける。

【授業計画】

第1回 経済学の概要と学び方

予習：テキストの熟読 (30分) 復習：授業のポイントと演習問題(30分)

第2回 需要と供給

予習：テキストの熟読 (30分) 復習：授業のポイントと演習問題(30分)

第3回 需要曲線と消費者行動

予習：テキストの熟読 (30分) 復習：授業のポイントと演習問題(30分)

第4回 費用の構造と供給行動

予習：テキストの熟読 (30分) 復習：授業のポイントと演習問題(30分)

第5回 市場の取引と資源配分

予習：テキストの熟読 (30分) 復習：授業のポイントと演習問題(30分)

第6回 余剰分析とその応用

予習：テキストの熟読 (30分) 復習：授業のポイントと演習問題(30分)

第7回 国際経済取引と経済厚生

予習：テキストの熟読 (30分) 復習：授業のポイントと演習問題(30分)

第8回 独占の理論

予習：テキストの熟読 (30分) 復習：授業のポイントと演習問題(30分)

第9回 完全競争と独占的競争

予習：テキストの熟読 (30分) 復習：授業のポイントと演習問題(30分)

第10回 市場の失敗①外部効果

予習：テキストの熟読 (30分) 復習：授業のポイントと演習問題(30分)

第11回 市場の失敗②公共財

予習：テキストの熟読 (30分) 復習：授業のポイントと演習問題(30分)

第12回 不確実性と経済現象

予習：テキストの熟読 (30分) 復習：授業のポイントと演習問題(30分)

第13回 不完全情報の経済学

予習：テキストの熟読 (30分) 復習：授業のポイントと演習問題(30分)

第14回 ゲームの理論入門

予習：テキストの熟読 (30分) 復習：授業のポイントと演習問題(30分)

第15回 ゲームの理論応用

予習：テキストの熟読 (30分) 復習：授業のポイントと演習問題(30分)

【授業の進め方】

- ・テキストに沿って講義するが、合わせてレジメを配布する。
- ・数式が出てくるが、関数や微分について初歩的な解説も行う。
- ・グラフの見方についても解説する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①入門経済学第4版 ②伊藤元重 ③日本評論社 ④2015年2月 ⑤3000円 ⑥978-4-535-55817-5

【参考図書】

- ・講義の際に必要な応じて紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

【履修上の心得】

- ・1～2年時での履修が望ましい。
- ・マクロ経済学 I も合わせて学習することが望ましい

【科目のレベル、前提科目など】

- ・科目のレベル；入門
- ・公務員試験などでも必須科目である。

科目名	マクロ経済学 I (国際経済を含む)
教員名	中藤 泉

【授業の内容】

マクロ経済学では、経済全体の動向について分析します。GDP・物価・国際収支などの用語や国民所得の決定理論、マクロ経済政策の理論や動向、財政制度や金融制度についても考察します。

【到達目標】

マクロ経済学の基本的知識を理解し、現実社会の経済問題や経済政策についての考察を身につける。

【授業計画】

第1回 経済学の概要と学び方

予習：テキストの熟読 (30分) 復習：授業のポイントと演習問題(30分)

第2回 経済をマクロからとらえる

予習：テキストの熟読 (30分) 復習：授業のポイントと演習問題(30分)

第3回 GDPとは (生産・所得・支出)

予習：テキストの熟読 (30分) 復習：授業のポイントと演習問題(30分)

第4回 有効需要と乗数メカニズム

予習：テキストの熟読 (30分) 復習：授業のポイントと演習問題(30分)

第5回 貨幣の機能

予習：テキストの熟読 (30分) 復習：授業のポイントと演習問題(30分)

第6回 貨幣供給と物価

予習：テキストの熟読 (30分) 復習：授業のポイントと演習問題(30分)

第7回 財政政策と金融政策

予習：テキストの熟読 (30分) 復習：授業のポイントと演習問題(30分)

第8回 IS=LM分析

予習：テキストの熟読 (30分) 復習：授業のポイントと演習問題(30分)

第9回 インフレ

予習：テキストの熟読 (30分) 復習：授業のポイントと演習問題(30分)

第10回 失業

予習：テキストの熟読 (30分) 復習：授業のポイントと演習問題(30分)

第11回 高齢化と財政運営

予習：テキストの熟読 (30分) 復習：授業のポイントと演習問題(30分)

第12回 財政収支の長期的展望

予習：テキストの熟読 (30分) 復習：授業のポイントと演習問題(30分)

第13回 国際経済学①為替レート

予習：テキストの熟読 (30分) 復習：授業のポイントと演習問題(30分)

第14回 国際経済学②比較優位

予習：テキストの熟読 (30分) 復習：授業のポイントと演習問題(30分)

第15回 経済成長と経済発展

予習：テキストの熟読 (30分) 復習：授業のポイントと演習問題(30分)

【授業の進め方】

- ・テキストに沿って講義するが、合わせてレジメを配布する。
- ・数式やグラフの見方など初歩的な解説も行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①入門経済学第5版 ②伊藤元重 ③日本評論社 ④2015年2月 ⑤3000円 ⑥978-4-535-55817-5

【参考図書】

- ・講義の際に必要な応じて紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

【履修上の心得】

- ・1～2年次での履修が望ましい。
- ・ミクロ経済学 I を履修済みであると理解が深まる。

【科目のレベル、前提科目など】

- ・科目のレベル：入門
- ・公務員試験などでも必須科目である。

科目名	産業と現代社会
教員名	山田 徳彦

【授業の内容】

今日、知恵を絞って新しい産業のあり方を模索していく必要に迫られているようである。ただし、その作業にはゼロから着手しなければならないわけではなく、蓄積された多くの理論と現在の様々な動きから、ヒントが得られるものと思われる。本講義では、これまでの産業の姿を確認し、今後のあり方を考えていく。

【到達目標】

産業を軸に、社会のあり方について自分で考えられるようにする。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 産業とは何か
- 第3回 産業の概観
- 第4回 産業を分析する枠組み
- 第5回 日本の産業の概観(1) 第一次産業
- 第6回 日本の産業の概観(2) 第二次産業
- 第7回 日本の産業の概観(3) 第三次産業
- 第8回 戦前の社会と産業(1)
- 第9回 戦前の社会と産業(2)
- 第10回 戦後復興期の経済社会と産業
- 第11回 高度経済成長期の経済社会と産業
- 第12回 安定成長期の経済社会と産業
- 第13回 平成期の経済社会と産業(1)
- 第14回 平成期の経済社会と産業(2)
- 第15回 まとめ

【授業の進め方】

各回とも、用意した資料を確認後、解説を加えるかたちで授業を進める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①そうだったのか 現代史 ②池上彰 ③集英社 ④2000年11月 ⑤1800

教材は教員が用意する。

【参考図書】

講義中、適宜指示する。また、プリントを配布する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

【履修上の心得】

時間厳守
私語厳禁

科目名	金融政策
	金融中級編：通貨の流れと実態経済との関係
教員名	市川 千秋

【授業の内容】

日本銀行の重い扉の背後で決められることは、われわれの生活に大きな影響を及ぼしている。そもそも、通貨・貨幣はどのような仕組みで社会に出てくるのか。どの国でも、通貨を供給できるのは中央銀行だけとされているが、それはなぜか。通貨量の多い・少ないということが、なぜ生産や雇用、所得や物価と関係するのだろうか。金融政策にはどんな手段があり、何を目的としているのだろうか。半年という短い期間ではあるが、この講座では金融政策を理解するための基礎を簡単に解説していくつもりである。

受講生が50人以下であれば、学生諸君が参加する形の授業をする予定である。

【到達目標】

- ①金融政策が実態経済を変えていく仕組みや経路を理解すること
- ②アナリストやファンドマネージャー等の高度の金融専門職をめざす学生の支援となること

【授業計画】

- 第1回 金融政策とは
- ・何のために行うのか
 - ・誰が行うのか
 - ・復習時間30分
- 第2回 中央銀行の誕生と銀行の歴史・・・インフレとの戦い
- ・銀行の歴史
 - ・中央銀行誕生の経緯
 - ・復習時間30分
- 第3回 中央銀行のバランスシートと本位制・・・通貨発行の基礎
- ・誰が通貨を発行するのか
 - ・日本銀行のバランスシート
 - ・復習時間30分
- 第4回 準備預金と金融調節・・・預金準備制度とは
- ・所要準備金とは
 - ・預金準備が不足する場合
 - ・復習時間30分
- 第5回 金融調節の仕組みと手段・・・金融調節とは
- ・金融調節の仕組み
 - ・金融調節の手段
 - ・復習時間60分
- 第6回 金融政策の目的、伝統的手段、歴史・・・操作目標、中間目標、最終目標
- ・金融政策の目的と目標
 - ・金融政策の伝統的手段Ⅰ
 - ・金融政策の歴史Ⅰ
 - ・復習時間60分
- 第7回 金融政策の歴史Ⅱ・・・金利と貨幣量
- ・高度成長期の金融政策
 - ・安定成長期の金融政策
 - ・復習時間30分
- 第8回 金融政策とバブル経済・・・石油ショック、プラザ合意
- ・第1次石油ショック～第2次石油ショック
 - ・第2次石油ショック
 - ・プラザ合意とバブル経済
 - ・復習時間60分
- 第9回 バブルの崩壊と経済の停滞
- ・遅すぎた引締めとバブルの崩壊
 - ・その後の経済停滞
 - ・復習時間30分
- 第10回 金融政策の手段Ⅱ・・・伝統的政策から非伝統的政策へ
- ・手法・目標の変換
公定歩合→コールレート→当座預金残高
 - ・金融政策の波及経路と効果
金利経由→マネタリー・ベース
 - ・復習時間60分

- 第11回 非伝統的金融政策とアベノミクス・・・異次元の金融緩和とは
 ・非伝統的金融政策 ～ 金融政策手段の追加
 ・アベノミクスの金融政策 ～ 「異次元の金融緩和」
 ・復習時間60分
- 第12回 マイナス金利とヘリコプターマネー
 ・マイナス金利の仕組みと影響
 ・ヘリコプター・マネーの概要 ～ 効果と問題点
 ・復習時間60分
- 第13回 財政と金融政策
 ・財政赤字の現状
 ・財政ファイナンスへの懸念
 ・復習時間30分
- 第14回 為替レートと市場介入・・・国際金融のトリレンマ
 ・為替レート決定の基本 ～ 実需要因、金融要因、金融政策の影響
 ・市場介入の仕組みと日本銀行の仕事
 ・復習時間60分
- 第15回 各国の金融政策と中央銀行の課題
 ・アメリカ、EU、中国の金融政策
 ・プルーデンス政策、中央銀行の独立性
 ・復習時間30分

【授業の進め方】

この講義は、毎回パワーポイントを利用しながら進めていく。

また時折、統計資料や新聞・雑誌の記事のコピーも配布するので、それらも併せて学生諸君は自分流の講義ノートを作ってほしい。

受講生が50人以下であれば、グループワーク等の学生諸君が参加する形の授業をする予定である。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書 なし

指定図書 なし(講義中に指示する可能性があります)

【参考図書】

「現代の金融政策」白川方明 日本経済新聞出版社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

成績は定期試験期間中のテストと受講態度で評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席カードのタッチ&ゴーがあまりに多いときは、評価基準を変更する。

【履修上の心得】

できるだけ詳細なパワーポイントの資料を配布する。学生諸君はただ漫然とスライドを眺めているだけでは不十分である。論旨のつながりが分かるように講義の後でまとめる必要がある。また簡単な金融政策の入門書を読んでおくのが望ましい。

そして言うまでもないことだが、講義中に退出したり、携帯電話を鳴らしたりするのは失礼な行為である。厳に慎んでほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

金融政策の仕組みや流れを理解するのは難しく、上級の科目として位置付けられる。この領域は、いつの時代も経済社会の基本メカニズムを深く理解したい人には欠かせない知識である。この科目の履修には、金融や銀行に関する基礎知識があることが前提となる。

履修推奨年次: 学部3年次生以上

前提科目: 金融論、銀行論 I

科目名	観光ビジネス概論
教員名	JTB担当教員

【授業の内容】

- 将来、観光関連のビジネスに就きたい、あるいはそこまで強い意思はなくても観光関連の仕事を将来の進路の選択肢のひとつとして考えている方々のための講義である。
- 世界の主な観光地、観光スポットについて学ぶ。アジア、ヨーロッパ、北米、南米、オセアニア、中東、アフリカの地域別に主要国の観光スポットを学ぶ。各回、パワーポイントによるプレゼンおよび解説を行う。
- 各観光関連ビジネスの歴史、特徴および現状と課題についても学ぶ。主として学ぶ観光関連ビジネスの業種は、①旅行業②旅客運送業③宿泊業の3つである。
- 全15回のうち、2回外部講師を招き、特別講義を行ってもらう。1回は航空業界から、1回はホテル業界からを予定している。(詳細は授業計画の9回目と12回目を参照)

【到達目標】

1. 世界の主な観光地・観光スポットの知識を習得する。
2. 観光ビジネスの歴史、特徴、現状と課題を理解する。
 - (1) 旅行業がどんな事業かを学ぶ。
 - (2) 旅客運送業（航空会社、鉄道会社、バス会社、船会社など）がどんな事業かを学ぶ。
 - (3) 宿泊業（ホテル、旅館など）がどんな事業かを学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 ①ガイダンス（講師の自己紹介、講義の目的、講義の進め方、成績評価の方法、資料の配付についてなど）
②第1回数字で見る観光ビジネス＝世界の旅行者数、世界の旅行収入、国別入国旅行者数、国別旅行収入、国別旅行支出などについて、パワーポイントによるプレゼンテーションと解説を行う。
- 第2回 ①第2回数字で見る観光ビジネス＝訪日外国人旅行者数、都道府県別訪日旅行者数、国別訪日旅行者数、日本人の海外旅行者数、日本人の行先別旅行者数、出国率、日本のテーマパーク入場者数などについて、パワーポイントによるプレゼンテーションと解説を行う。
②世界の観光地・観光スポット第1回＝韓国、台湾の観光地・観光スポットについて、パワーポイントによるプレゼンテーションと解説を行う。
- 第3回 ①世界の観光地・観光スポット第2回＝中国、香港、マカオ、フィリピン、ベトナム、ミャンマーの観光地・観光スポットについて、パワーポイントによるプレゼンテーションと解説を行う。
②講義：観光とは何か。観光ビジネスの特徴、観光の効果
- 第4回 ①世界の観光地・観光スポット第3回＝カンボジア、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシアの観光地・観光スポットについて、パワーポイントによるプレゼンテーションと解説を行う。
②講義：観光政策と観光行政、観光資源と観光対象
- 第5回 ①世界の観光地・観光スポット＝インド、ネパール、ブータン、スリランカ、モルジブ、パキスタンなどの観光地・観光スポットについて、パワーポイントによるプレゼンテーションと解説を行う。
②講義：観光と地域振興および様々なツーリズム
- 第6回 ①世界の観光地・観光スポット＝英国、ベルギー、オランダ、アイスランド、ノルウェー、スウェーデン、フィンランド、デンマーク、ドイツの観光地・観光スポットについて、パワーポイントによるプレゼンテーションと解説を行う。
②講義：旅行業その1（旅行業の歴史、特徴）
- 第7回 ①世界の観光地・観光スポット＝スイス、オーストリア、フランス、モナコ、イタリア、バチカン市国の観光地・観光スポットについて、パワーポイントによるプレゼンテーションと解説を行う。
②講義：旅行業その2（旅行業の商品、主な旅行者）
- 第8回 ①世界の観光地・観光スポット＝スペイン、ポルトガル、ギリシャ、ポーランド、チェコ、ハンガリー、ロシアの観光地・観光スポットについて、パワーポイントによるプレゼンテーションと解説を行う。
②講義：旅客運送業その1（旅客運送業の種類、航空業の特徴）
- 第9回 ①外部講師による特別講義「航空業の現状と課題、欲しい人材」（講師は後日、発表します）
- 第10回 ①世界の観光地・観光スポット＝米国本土（アラスカを除く）の観光地・観光スポットについて、パワーポイントによるプレゼンテーションと解説を行う。
②講義：旅客運送業その2（鉄道業およびその他の旅客運送業の特徴）
- 第11回 ①世界の観光地・観光スポット＝ハワイ、カナダ、メキシコ、グアテマラ他中米の観光地・観光スポットについて、パワーポイントによるプレゼンテーションと解説を行う。
②講義：宿泊業その1（宿泊業の歴史と特徴）
- 第12回 ①外部講師による特別講義「ホテル業の現状と課題、欲しい人材」（講師は後日、発表します）
- 第13回 ①世界の観光地・観光スポット＝南米・オセアニアの観光地・観光スポットについて、パワーポイントによるプレゼンテーションと解説を行う。
②講義：宿泊業その2（旅館とホテルの相違点と宿泊業の課題）
- 第14回 ①世界の観光地・観光スポット＝中近東、アフリカ諸国の観光地・観光スポットについて、パワーポイント

によるプレゼンテーションと解説を行う。

②講義：実務で知る旅行業その1（添乗の仕事）

第15回 ①総括講義及び講義遅れの場合のリカバリー講義

②講義：実務で知る旅行業その2（時差計算）

【授業の進め方】

1. 「世界の観光地・観光スポット」は、教科書購入必須。（海外観光資源2018年版）この教科書とパワーポイントプレゼンテーションによって学習する。ただし、講義はパワーポイントによるプレゼンテーションと解説で進める。教科書は、それを補うための自習用および期末試験時に持ち込むことができる。

2. 「観光ビジネスの歴史、特徴、現状と課題」については講師が作る資料類（原則として毎回配布）とパワーポイントを使って講義を行う。

3. 前期中に航空業界およびホテル業界の代表を各1名、合計2名を招き、「業界の現状と課題、それを踏まえて欲しい人材」について講義をおこなっていただく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①旅行業実務シリーズ「海外観光資源」2018年版 ③J T B 総合研究所 ⑤2,670円

【参考図書】

特になし。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 20%

特記事項

○次の2つの要素で評価する。

①「期末テスト得点80%」

②「授業中の態度（積極的に授業に参画していたか、欠席が多くなかったか、遅刻が多くなかったか、私語による他の学生への迷惑行為や出席偽装などの不正行為がなかったかなどの態度）14%」

○出欠管理は、「カードリード記録」及び「出席票提出」の両方で行う。両方ともあってはじめて出席したとみなす。ただし、第1回目のみ、カードリードも出席票提出も不要であり、最終履修登録者は全員出席したものとみなす。

○期末テストは、テキスト及び各回の講義で講師が配布した資料の持込みOK。

【履修上の心得】

その1：私語をしない。

その2：カードリードのみしてすぐに退席する、友人に出席票の提出を依頼するなどの不正を絶対にしない

その3：遅刻しない。

その4：居眠りしない。

その5：楽しく学習しよう。

【科目のレベル、前提科目など】

受講資格などの前提条件は特になし。観光ビジネスに関心を持つ人は誰でも受講可能。

【備 考】

○就職活動(企業面談)等でやむを得ず欠席する場合は、原則として事前に学務課所定の書式又はメモにより講師に提出し、事後に面談者の署名付き書類等を提出すれば、準出席扱いとする。

○毎回何らかの資料を配布するが、この資料は、原則として再配布はしない。したがって、欠席する場合は、出席する友人にピックアップを依頼すること。

○配布資料は、散逸させないよう、紙ファイル(A4サイズ2穴)を1つ準備し、ファイリングすること。

科目名	旅行業務論 I
教員名	J T B 担当教員

【授業の内容】

○目的：①国内旅行業務取扱管理者試験（毎年9月実施の国家資格試験。平均合格率は20～30%台）を受験し合格を勝ち取るレベルの知識をどのように学習すれば得られるかを学ぶ。②目的①を通じて旅行業の何たるかを学ぶ。（なお、講義回数が少ないことから、講義を聴講するだけでは国家試験合格は難しい。講師が学習に必要な資料類の提供を行うので、何を学習するかをつかみ、予習・復習を含め自分で学習しなければならない。）

○国家試験を受けるためには、この講義以外に、別途の2つの講義①前期の月曜日第4時限に行う「旅行業務論Ⅱ」及び②夏季集中講義「旅行業務論Ⅲ」（8月7日、8日、9日、10日の4日間）を併せて履修登録をして受講しなければならない。毎年国家試験を受験しようかなと考えている（又は迷っている）にも関わらず、「旅行業務論Ⅱ」「旅行業務論Ⅲ」の履修登録を忘れる方が多いので要注意！！特に「旅行業務論Ⅲ」について、夏季集中講義であることから別途登録の機会があると勘違いして前期登録の際に登録し忘れる方が多いので要注意。履修登録後に国家試験の受験を断念することはできるが、未登録で後日登録することは不可なので要注意。なお、旅行業務論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを2年に分けて履修し、2年目に受験しようとする方がいるが、集中して勉強した方が効率が良いと考える。2018年前期と夏休みに3科目とも一挙に履修し、2018年の9月に国家試験を受験するのが一番良い。2年に分けて学習すると、最初の年に学んだ内容を翌年ほとんど忘れてしまうからである。また、2年次、3年次、4年次での受講もよいが、受験は高校時代の学習習慣がまだ抜けきらない1年次に受験することを勧めたい。

○講義内容：①国内観光地理の学習方法（講義回数が少ない関係で、観光地理に関する学習はもっぱら自習によることとする。ただし、自習の仕方については、解説したうえで、自習に必要な資料を数回に分けて別途配布する。）②J Rの運賃・料金、③国内航空規則、④貸切バス運賃・料金、⑤フェリー運賃・料金、⑥宿泊料金等について学習する。

○国家試験受験のためには講義回数が不足であるため、それを補完するため、ほぼ毎回（全部で12回）宿題を出す。宿題は翌週講義開始前に提出する。また宿題の提出状況と採点結果は、成績に反映する。宿題の成績反映率は、12回×3%＝36%。詳細は具体的な評価方法参照。

【到達目標】

○国家試験（9月実施）である「国内旅行業務取扱管理者試験」の合格。

【授業計画】

- 第1回 ①ガイダンス（講師の自己紹介、講義の目的、教科書と参考図書、成績評価方法、国家試験「旅行業務取扱管理者試験」とは、講義計画概要、資料の配布についてなど）
②国内観光地理の自習による学習について：●国家試験受験に必要な知識の学習の仕方 ●講義を聴講するだけでは合格には不足 ●この講義で配布する国内観光地理に関する参考資料について ●国内観光地理の過去問題を通じた出題傾向の把握
③第1回国内観光地理の学習
- 第2回 ①第2回国内観光地理の学習（講義による学習は、ここまで。その他の国内観光地理の学習は、講師の配布する資料を使って、専ら自宅で自習する必要あり）
②国内運賃・料金＝J R その1 ●J R の歴史、●主なJ R の路線、●観光名所とJ R 最寄り駅
- 第3回 ①国内運賃・料金＝J R その2 ●J R 規則の用語の定義等、●運賃と料金、●金額の単位と端数整理、●旅客の年齢区分、●小児の運賃・料金、●幼児・乳児の取扱い、●乗車券類の発売日
- 第4回 ①国内運賃・料金＝J R その3 ●片道乗車券 ●往復乗車券 ●連続乗車券 ●営業キロ ●換算（擬制）キロ ●運賃計算キロ ●営業キロ等の通算と打ち切り
- 第5回 ①国内運賃・料金＝J R その4 ●片道乗車券 ●往復乗車券 ●連続乗車券 ●営業キロ ●換算（擬制）キロ ●運賃計算キロ ●営業キロ等の通算と打ち切り
- 第6回 ①国内運賃・料金＝J R その5 ●J R 各社の運賃表 ●本州3社とJ R 3島（北海道・四国・九州）にまたがって乗車の場合の境界駅 ●運賃計算例（J R 本州3社内のみ、J R 北海道内のみ、J R 九州内のみ、J R 四国内のみ、本州3社とJ R 3島にまたがって乗車の場合）、●加算額 ●九州内の在来線と山陽新幹線の取扱い） ●連絡運輸 ●加算運賃
- 第7回 ①国内運賃・料金＝J R その6 ●特定都区市内 ●東京山手線内 ●大都市近郊区間内相互発着の場合の運賃 ●東京付近の環状線通過 ●特定区間 ●新幹線の運賃計算上の取扱い
- 第8回 ①国内運賃・料金＝J R その7 ●区間外乗車 ●乗車券の有効期間 ●途中下車 ●継続乗車 ●割引運賃（往復割引、学生割引） ●割引運賃の計算例
②国内旅行業務取扱管理者試験の願書提出について（第8回目又は第9回目の講義で解説＝願書提出締切は7月上旬＝大学学習支援課を通じての団体受験の願書締切は6月中又は下旬＝別途案内する）
- 第9回 ①国内運賃・料金＝J R その8 ●料金計算 ●特急料金（新幹線在来線共通） ●特急料金の変動（通常期、閑散期、繁忙期） ●新幹線の特急料金 ●在来線の特急料金 ●グリーン料金 ●寝台料金
- 第10回 ①国内運賃・料金＝J R その9 ●特急料金の乗継割引 ●山形新幹線の特急料金 ●秋田新幹線の特急料金 ●東海道・山陽新幹線＋九州新幹線の相互利用の場合の特急料金の取扱い
- 第11回 ①国内運賃・料金＝J R その10 ●取り消し ●払い戻し ●団体乗車券 ●団体の種別 ●大口団体と小口団体 ●指定保証金 ●団体運賃の割引率 ●運賃・料金の無賃扱い ●団体運賃・料金の変更・取り消

し・払い戻し

- 第12回 ①国内運賃・料金＝航空運賃・料金及び規則 ●空港コード ●国内航空の予約開始日、発売日 ●予約時の注意事項（年齢区分等）●航空運賃 ●払い戻し手数料 ●取り消し手数料
- 第13回 ①国内運賃・料金＝貸切バスの運賃・料金 ●距離制運賃 ●時間制運賃 ●料金 ●違約料
②国内運賃・料金＝フェリーの運賃・料金
- 第14回 ①国内運賃・料金＝宿泊料金 ●基本宿泊料 ●サービス料 ●消費税 ●温泉地における入湯税 ●宿泊料金計算例 ●違約料
- 第15回 ①総括講義及び講義遅れの場合のリカバリー講義

【授業の進め方】

1. 「教科書」「講師が別途作成配布する国内観光地理に関する資料」を使って学習する。
2. 国家試験受験のための講義としては回数が不足しているため、それを補うため、ほぼ毎回（全12回）宿題を出す。宿題は翌週講義開始前に提出すること。宿題については、提出状況と採点結果を成績に反映する。宿題の成績反映率は、 $12回 \times 3\% = 36\%$ 。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①旅行業実務シリーズ「国内運賃・料金」2018年版 ③JTB総合研究所 ⑤2,460円
- ①国内観光地理サブノート ③JTB総合研究所 ⑤820円

【参考図書】

○国家試験対策科目別速習問題集2018年版（JTB総合研究所、1,950円税込み）国家試験受験予定の学生は必ず購入すること。発刊は5月頃になるので、後日連絡する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 36% 受講態度 14%

特記事項

- 次の3つの要素で評価する。
- ①「期末テスト得点50%」
 - ②「レポート・課題（宿題）全12回 $\times 3\% = 36\%$ 」
 - ③「授業中の態度（積極的に授業に参画していたか、欠席が多くなかったか、遅刻が多くなかったか、私語による他の学生への迷惑行為や出席偽装などの不正行為がなかったかなどの態度）14%」
- 出欠管理は、「カードリード記録」及び「出席票提出」の両方で行う。両方ともあってはじめて出席したとみなす。ただし、第1回目のみ、カードリードも出席票提出も不要であり、最終履修登録者は全員出席したものとみなす。
- 期末テストには、テキスト及び各回の講義で講師が配布した資料の持込みOK。

【履修上の心得】

- 濃密な内容をかなりのスピードで実施する。
- 国家試験受験を予定している方は、テキストの熟読等の予習及び復習（最低でも復習）と宿題提出は必ずやって欲しい。
- その他の注意事項
- その1：私語をしない。
- その2：カードリードのみしてすぐに退席する、友人に出席票の提出を依頼するなどの不正を絶対にしない
- その3：遅刻しない。
- その4：居眠りしない。
- その5：楽しく学習しよう。また質問歓迎

【科目のレベル、前提科目など】

- 国家試験受験をし合格を勝ち取るためには、併設する「旅行業務論Ⅱ」（前期の月曜日第4時限）及び「旅行業務論Ⅲ（夏季集中講義8月7日、8日、9日、10日の4日間）」の両方を更に受講する必要がある。旅行業務論Ⅲ（夏季集中講義）の履修登録も前期履修登録と同時期に行う必要あり。
- 旅行業務論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを2年に分けて履修するよりは、2018年前期と夏休みに3科目とも一挙に履修し、この9月の国家試験を受験するのが一番良い。

【備考】

- 就職活動（企業面談）等でやむを得ず欠席する場合は、原則として事前に学務課所定の書式又はメモにより講師に提出し、事後に面談者の署名付き書類等を提出すれば、準出席扱いとする。
- 毎回何らかの資料を配布するが、この資料は、原則として再配布はしない。欠席する場合は、出席する友人にピックアップを依頼すること。
- 配布資料は、散逸させないように、紙ファイル(A4サイズ2穴)を1つ準備し、ファイリングすること。

科目名	旅行業務論Ⅱ
教員名	JTB担当教員

【授業の内容】

○目的：①国内旅行業務取扱管理者試験（毎年9月実施の国家試験、平均合格率は20%～30%台）を受験し合格を勝ち取るレベルの知識をどのように学習すれば得られるかを学ぶ。②目的①を通じて、消費者の立場で、旅行者等と取引する際の留意点を学ぶ。

○国家試験を受けるためには、この講義以外に、別途の2つの講義①前期の月曜日第3時限に行う「旅行業務論Ⅰ」及び②夏季集中講義「旅行業務論Ⅲ」（8月7日、8日、9日、10日4の日間）を併せて履修登録をして受講しなければならない。毎年国家試験を受験しようかなと考えている（又は迷っている）にも関わらず、「旅行業務論Ⅰ」「旅行業務論Ⅲ」の履修登録を忘れる方が多いので要注意！！特に「旅行業務論Ⅲ」について、夏季集中講義であることから別途登録の機会があると勘違いして前期登録の際に登録し忘れる方が多いので要注意。履修登録後に国家試験の受験を断念することはできるが、未登録で後日登録することは不可なので要注意。なお、旅行業務論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを2年に分けて履修し、2年目に受験しようとする方がいるが、2018年前期と夏休みに3科目とも一挙に履修し、2018年の9月に国家試験を受験するのが良い。2年に分けて学習すると、最初の年に学んだ内容を翌年になるとほとんど忘れてしまうからである。受験は、2年次、3年次、4年次でもよいが、高校時代の学習習慣がまだ抜けきらない1年次に受験することを勧めたい。

○講義内容：①旅行業法、②標準旅行業約款、③運送・宿泊約款の3つについて学習する。

○国家試験受験のためには講義回数が不足であるため、それを補完するため、ほぼ毎回（全部で12回）宿題を出す。宿題は翌週講義開始前に提出する。また宿題の提出状況と採点結果は、成績に反映する。宿題の成績反映率は、12回×3%＝36%。詳細は具体的な評価方法参照。

【到達目標】

○国家試験である「国内旅行業務取扱管理者試験（9月上旬実施）」の合格

【授業計画】

- 第1回 ①ガイダンス（講師の自己紹介、講義の目的、教科書、成績評価方法、国家試験「旅行業務取扱管理者試験」とは、講義計画概要、資料の配布についてなど）
②講義（全体の回数が不足しているため、いきなり第1回目から講義に入る。この日はテキスト未購入と思われるので、講師が資料を準備する。●約款とは？標準旅行業約款とは？●旅行業法とは？法律に基づく命令とは？●条文の決まりごと（「条」「項」「号」）●標準旅行業約款第1回講義＝5つの部からなる。そのうちの「募集型企画旅行契約の部」第1章「契約の締結」について早速講義する。
注：テキストは第2回講義から使用するのでもそれまでに購入し第2回講義から持参すること。
- 第2回 ①講義＝標準旅行業約款「募集型企画旅行契約の部」その2＝●契約の締結（続き）●契約の変更
- 第3回 ①講義＝標準旅行業約款「募集型企画旅行契約の部」その3＝●契約の解除●団体グループ契約
- 第4回 ①講義＝標準旅行業約款「募集型企画旅行契約の部」その4＝●旅程管理●責任
- 第5回 ①講義＝標準旅行業約款「募集型企画旅行契約の部」その5＝●特別補償
- 第6回 ①講義＝標準旅行業約款「募集型企画旅行契約の部」その6＝●特別補償（つづき）●旅程保証
- 第7回 ①講義＝標準旅行業約款「受注型企画旅行契約の部」及び「手配旅行解約の部」
- 第8回 ①講義＝標準旅行業約款「手配旅行契約の部」及び「旅行相談契約の部」
②国内旅行業務取扱管理者試験の願書提出について（第8回目又は第9回目の講義で解説＝願書提出締切は7月上旬＝大学学習支援課を通じての団体受験の願書締切は6月中又は下旬＝別途案内する）
- 第9回 ①講義＝旅行業法その1＝●目的●定義●登録
- 第10回 ①旅行業法その2＝●有効期間●有効期間の更新の登録●変更登録等●登録の拒否
- 第11回 ①旅行業法その3＝●登録の拒否（続き）●営業保証金●弁済業務保証金
- 第12回 ①旅行業法その4＝●旅行業務取扱管理者の選任●料金の揭示●旅行業約款●標準旅行業約款
- 第13回 ①旅行業法その5＝●取引条件の説明●書面の交付●外務員の証明書携帯等●広告
- 第14回 ①旅行業法その6＝●標識の揭示●旅程管理●禁止行為●受託契約
- 第15回 ①旅行業法その6＝●旅行者代理業者の旅行業務等●業務改善命令●登録の取消し等●旅行業協会の業務

【授業の進め方】

1. 主として「教科書」を使って学習する。
2. 国家試験受験のための講義としては回数が不足しているため、それを補うため、ほぼ毎回（全12回）宿題を出す。宿題は翌週講義開始前に提出すること。宿題については、提出状況と採点結果を成績に反映する。宿題の成績反映率は、12回×3%＝36%。

【教科書（必ず購入すべきもの）】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①旅行業実務シリーズ「旅行業法及びこれに基づく命令」2018年版 ③JTB総合研究所 ⑤2,670円＝A

①旅行業実務シリーズ「旅行業約款、運送・宿泊約款」2018年版 ③JTB総合研究所 ⑤2,670円＝B

やや値段が高いが、国家試験受験する方の人数は限られていることから、発行部数が少ないためである。理解願いたい。教科書なしで国家試験を受験するのは難しいので、必ず購入願いたい。Bについては第2回目の講義から使用する。

【参考図書】

特になし。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 36% 受講態度 14%

特記事項

○次の3つの要素で評価する。

①「期末テストの得点50%」

②「レポート・課題（宿題）全12回×3%=36%」

③「授業中の態度（積極的に授業に参画していたか、欠席が多くなかったか、遅刻が多くなかったか、私語による他の学生への迷惑行為や出席偽装などの不正行為がなかったかなどの態度）14%」

○出欠管理は、「カードリード記録」及び「出席票の提出」の両方で行う。両方ともあってはじめて出席したとみなす。ただし、第1回目のみ、カードリードも出席票提出も不要であり、最終履修者全員出席したものとみなす。

【履修上の心得】

○濃密な内容をかなりのスピードで実施する。

○国家試験受験を予定している方は、テキストの熟読等の予習及び復習（最低でも復習）と宿題提出は必ずやって欲しい。

○その他注意事項：その1：私語をしない。その2：カードリードのみをして、すぐに退席する、友人に出席票の提出を依頼するなどの不正を絶対にしない。その3：遅刻しない。その4：居眠りしない。その5：楽しく学習しよう。

○国家試験を受験し合格を勝ち取るためには、併設する「旅行業務論Ⅰ（前期の月曜第3時限）」及び「旅行業務論Ⅲ（夏季集中講義8月7日、8日、9日、10日の4日間）」の両方を更に受講する必要がある。旅行業務論Ⅲ（夏季集中講義）の履修登録も前期履修登録と同時期に行う必要あり。

○旅行業務論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを2年に分けて履修し、2年目に受験しようとする方がいるが、2018年前期と夏休みに3科目とも一挙に履修し、この9月に国家試験を受験するのが一番良い。2年にわけて学習すると、最初の年に学んだ内容をほとんど忘れてしまうからである。

【備考】

○就職活動（企業面談）等でやむを得ず欠席する場合は、原則として事前に学務課所定の書式又はメモにより講師にその旨を記載して提出し、事後に面談者の署名付き書類等を提出すれば、準出席扱いとする。

○毎回何らかの資料（講師が独自に過去問題を編集した資料等）を配布するが、この資料は、原則として再配布はしない。したがって、欠席する場合は、出席する友人にピックアップを依頼すること。

○配布資料は、散逸させないよう、紙ファイル（A4サイズ2穴）を1つ準備し、ファイリングすること。

科目名	旅行業務論Ⅲ
教員名	JTB担当教員

【授業の内容】

- 実施日時：平成30年8月7日（火）、8月8日（水）、8月9日（木）、8月10日（金）の4日間（4日間とも第1時限～第4時限）
- 目的：国内旅行業務取扱管理者試験（毎年9月実施の国家資格試験、平均合格率は20～30%台）を受験し合格を勝ち取るために、本夏季集中講義により、受験直前の総ざらいを行う。
- 本講義を受講するには、前提として、前期の「旅行業務論Ⅰ」及び「旅行業務論Ⅱ」を受講（履修）済みでなければならない。
- 前期講義「旅行業務論Ⅰ（前期の月曜第3時限）及び「旅行業務論Ⅱ（前期の月曜第4時限）で解説できなかった又は十分でなかった個所の解説を行う。
- 講師が配布する直近過去3年間の出題問題を演習することで出題傾向をつかむ。そのうえで、各自自分の弱点（残り1ヵ月の学習課題）を知る。
- 本講義の履修登録は、前期講義の履修登録と同時に登録する必要がある。必ず前期講義登録期間中に登録すること。

【到達目標】

- 国家試験の受験と合格を最重点目標とする。従って、濃密で、スピードも早い。この講義を受講することにより、受験日までの残された期間（約3週間）の間に何を学習するかをつかみ、自ら計画を立てて学習するようにしてほしい。

【授業計画】

- 第1回 第1回 ★第1日目（8月7日）：①ガイドンス（4日間の講義予定）、②前期の旅行業務論Ⅱにおいて、講義していない部分（運送・宿泊約款）について講義する。（約120分）＝テキスト「旅行業務約款、運送・宿泊約款」を使用、③国内観光地理講義（国立公園と温泉他）④チャレンジテスト（過去問題）
- 第2回 前期の旅行業務論Ⅱにおいて、講義していない部分（運送・宿泊約款）について講義する。（約120分）＝テキスト「旅行業務約款、運送・宿泊約款」を使用第1回 ★第1日目（8月7日）：①ガイドンス（4日間の講義予定）、②前期の旅行業務論Ⅱにおいて、講義していない部分（運送・宿泊約款）について講義する。（約120分）＝テキスト「旅行業務約款、運送・宿泊約款」を使用、③国内観光地理講義（国立公園と温泉他）④チャレンジテスト（過去問題）
- 第3回 第1回 ★第1日目（8月7日）：①ガイドンス（4日間の講義予定）、②前期の旅行業務論Ⅱにおいて、講義していない部分（運送・宿泊約款）について講義する。（約120分）＝テキスト「旅行業務約款、運送・宿泊約款」を使用、③国内観光地理講義（国立公園と温泉他）④チャレンジテスト（過去問題）
- 第4回 第1回 ★第1日目（8月7日）：①ガイドンス（4日間の講義予定）、②前期の旅行業務論Ⅱにおいて、講義していない部分（運送・宿泊約款）について講義する。（約120分）＝テキスト「旅行業務約款、運送・宿泊約款」を使用、③国内観光地理講義（国立公園と温泉他）④チャレンジテスト（過去問題）
- 第5回 ★第2日目（8月8日）：①補足講義（旅行業務約款及び運送・宿泊約款）、②約款演習、③解説
- 第6回 ★第2日目（8月8日）：①補足講義（旅行業務約款及び運送・宿泊約款）、②約款演習、③解説
- 第7回 ★第2日目（8月8日）：①補足講義（旅行業務約款及び運送・宿泊約款）、②約款演習、③解説
- 第8回 ★第2日目（8月8日）：①補足講義（旅行業務約款及び運送・宿泊約款）、②約款演習、③解説
- 第9回 ★第3日目（8月9日）：①補足講義（旅行業務法）、②旅行業務法演習、③解説
- 第10回 ★第3日目（8月9日）：①補足講義（旅行業務法）、②旅行業務法演習、③解説
- 第11回 ★第3日目（8月9日）：①補足講義（旅行業務法）、②旅行業務法演習、③解説
- 第12回 ★第3日目（8月9日）：①補足講義（旅行業務法）、②旅行業務法演習、③解説
- 第13回 ★第4日目（8月10日）：①補足講義（JR運賃・料金規則、航空規則、貸切バス運賃・料金、フェリー運賃・料金、宿泊料金）②国内運賃・料金演習、③解説
- 第14回 ★第4日目（8月10日）：①補足講義（JR運賃・料金規則、航空規則、貸切バス運賃・料金、フェリー運賃・料金、宿泊料金）②国内運賃・料金演習、③解説
- 第15回 ★第4日目（8月10日）：①補足講義（JR運賃・料金規則、航空規則、貸切バス運賃・料金、フェリー運賃・料金、宿泊料金）②国内運賃・料金演習、③解説

【授業の進め方】

- 夏季集中講義であり、8月7日（火）、8月8日（水）、8月9日（木）、8月10日（金）の「4日間×1日90分×4回（1限目～4時限目）」で実施する。
- 1日目は講義＋チャレンジテスト（過去問題）、2日目、3日目は演習と講義および解説、最終日は1日3回の演習と講義および解説＋終了テスト。

【教科書（必ず購入すべきもの）】

テキストは「国内観光資源」「国内観光地理サブノート」「旅行業務法及びこれに基づく法令」「旅行業務約款・運送・宿泊約款」「国内運賃・料金」の教科書すべて及び配布資料すべてを持参のこと。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 90% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 10%

特記事項

○「終了テスト得点90%」と「積極的に授業に参画したかなど授業中の態度) 10%」の2つの要素で評価する。

【履修上の心得】

○国内旅行業務取扱管理者試験の合格を目指す関係で、濃密な内容であり、かつ、かなりのスピードで講義する。

○本講義の履修登録は、前期講義の履修登録と同時に登録する必要がある。必ず前期講義登録期間中に登録すること。

【科目のレベル、前提科目など】

○国家試験を受験をめざすため、別途前期に実施した講義「旅行業務論Ⅰ(月曜第3時限)」及び「旅行業務論Ⅱ(月曜第4時限)」を受講済みであることを要す。

【備 考】

○この集中講義で残り1ヵ月の学習すべき内容を理解し、最後までベストを尽くして学習して欲しい。また、仮に受験結果が不合格であっても、ここで学習した内容は必ず将来役立つ知識となるはずである。

○授業の講義だけでは十分な時間が確保できないため、自己学習を常に心がけて欲しい。

科目名	サーヴィスコミュニケーションⅠ
	観光キャリア論
教員名	ANA総合研究所

【授業の内容】

就職活動を行うにあたり、業界・企業研究と人財としての魅力養成が2つの大きなポイントになります。前者については、就職先としてどのような業界や企業があるのかをさまざまな角度から考察し、本格的な業界・企業研究のあり方を学修します。後者については、業界・企業が求める人財とはどのような人材なのかを理解し、どのようにすれば自分がそのような人材になれるのかを学びます。ANAの採用活動事例などを紹介しながら、就職活動を控えた受講生の皆さんにとって役に立つ実践的な解説をしていきます。

就職活動を控えた3年生、4年生向けの内容になります。

【到達目標】

業界、企業の概要、特性を的確に理解し、自分が活躍できる業界、企業を適切に選べるようになる。
社会で求められている「人間力」「競争力」「社会人基礎力」を理解し、身につけて高めていくことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション：就職に向けて。講義の進め方、目的など
予習、復習時間の指定はありません。
- 第2回 社会人基礎力について考える①：『前に踏み出す力』
講義のポイントを復習してください。
- 第3回 社会人基礎力について考える②：『考え抜く力』
講義のポイントを復習してください。
- 第4回 社会人基礎力について考える③：『チームワークⅠ』
講義のポイントを復習してください。
- 第5回 社会人基礎力について考える③：『チームワークⅡ』
講義のポイントを復習してください。
- 第6回 高度観光人材について考える①：マーケティングについて考える
講義のポイントを復習してください。
- 第7回 高度観光人材について考える②：ファイナンス、会計について考える
講義のポイントを復習してください。
- 第8回 高度観光人材について考える③：イノベーション人材について考える
講義のポイントを復習してください。
- 第9回 高度観光人材について考える④：マネジメントについて考える
講義のポイントを復習してください。
- 第10回 高度観光人材について考える⑤：ホスピタリティ人材
講義のポイントを復習してください。
- 第11回 高度観光人材について考える⑥：観光資源の事業化・商品化
講義のポイントを復習してください。
- 第12回 ビジネスとコミュニケーション
次週に演習を行うのでしっかり内容を復習してください。
- 第13回 ビジネスコミュニケーション演習体験
- 第14回 グローバル人材としての要件：世界に通用する人材、企業が求めるグローバル人材とは？
講義のポイントを復習してください。
- 第15回 全体のまとめと振り返り：就職後のキャリアについて

上記のような順番・内容で講義を行います。
講義によって担当講師が変わります。
変更がある場合は事前にお知らせいたします。

【授業の進め方】

教科書は使用せず、毎回授業内容の資料を配布します。
配布資料の内容をパワーポイントを使って説明します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使用しません。
授業時資料配布

【参考図書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 20% 受講態度 30%

特記事項

- ◎「レポート・課題」については中間と期末に簡単なレポートを作成・提出していただきます。
- ◎「受講態度」・可能な限りの出席（交通遅延等をやむを得ない場合は証明書提出）
 - ・携帯電話の使用・ゲーム・飲食（水筒・ペットボトル飲料除く）不可
 - ・私語は他者迷惑のため禁止

【履修上の心得】

他の出席者に迷惑をかけることがないように、基本的なマナーを守って受講してください。
積極的に授業に参加し、疑問があれば小さいことでも質問してください。

科目名	サービスコミュニケーションⅡ
教員名	ANA総合研究所

【授業の内容】

他者との違いを理解し、考えながら行動することで急激な社会の変化に柔軟に対応できる人材となるための基礎力を養う。社会に出てから役立つマナーを学びながら、グループディスカッションや集団面接のロールプレイングを通して自己表現力を高めていく。

【到達目標】

日頃から他者への心配りや思いやりの気持ちを醸成するとともに、コミュニケーション力を向上させ社会活動やプレゼン、面接などの機会に自信をもって自己表現ができる。
実務社会で求められる意識・態度を身につける。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション：講義の進め方、目的など
- 第2回 自己紹介：人前で話すことに慣れる
- 第3回 ホスピタリティと企業：社会で求められる力とは？
講義のポイントを復習してください。
- 第4回 マナーⅠ：第一印象の重要性、立ち振る舞いの基本
講義のポイントを復習してください。
- 第5回 マナーⅡ：ツールを使ったコミュニケーション（メール・手紙・電話）
講義のポイントを復習してください。
- 第6回 マナーⅢ：ソーシャルマナー（日常生活）
講義のポイントを復習してください。
- 第7回 国際理解Ⅰ：言葉とコミュニケーション/食と文化
講義のポイントを復習してください。
- 第8回 国際理解Ⅱ：職業観・労働観
講義のポイントを復習してください。
- 第9回 自己理解Ⅰ：自己分析（自分らしさを考える）
- 第10回 自己表現Ⅰ：傾聴と主張（相手の意見をしっかり聞き、自分の考えを相手に伝える）
- 第11回 自己表現Ⅱ：プレゼンテーション（自分の意見を効果的に伝える）
- 第12回 自己表現Ⅲ：グループディスカッション①
- 第13回 自己表現Ⅳ：グループディスカッション②
- 第14回 自己表現Ⅴ：集団面接演習
- 第15回 自己理解とストレス：自分のストレス対策

上記のような順番・内容で講義を行っていきます。
変更がある場合は事前にお知らせいたします。

【授業の進め方】

教科書は使用せず、適宜プリント配布。パワーポイント使用。
第2、9～14回は演習形式での講義になります。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使用しません。

【参考図書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 0% レポート・課題 30% 受講態度 30%

特記事項

適宜授業中に簡単なレポートを作成・提出する。

「受講態度」・可能な限りの出席（交通遅延等やむを得ない理由の場合は証明書提出）

・携帯電話の使用・ゲーム・飲食（水筒・ペットボトル飲料を除く）不可

【履修上の心得】

他の出席者に迷惑をかけることのないよう、基本的なマナーを守って受講してください。
積極的に授業に参加し、疑問点はそのままにせず質問してください。

科目名	ビジネスマナーⅡ
教員名	堀 真由美

【授業の内容】

本講義は、社会人として必要なビジネスマナーの基礎を、実際に職場で使えるようにするための演習を行う。ビジネスの場で職務を遂行するために必要となる知識、求められるビジネス能力の基礎を理解し、「働く」ということを前向きにとらえ、社会人としての目標に向かって努力できる真摯な姿勢を修得する。講義「ビジネス実務/ビジネスマナーⅠ」で学んだ知識を実際に表現でき、行動できるようにする科目である。

【到達目標】

- ・ビジネスマナーの基礎を身につけることを目標とする。
- ・学んだビジネスマナーを演習することにより実際に表現、動作ができるようになることを目標とする。
- ・働くことの心構えを身につけることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 講義概要、講義の進め方、成績評価方法の説明、ビジネス系検定試験ガイダンス。授業で取り上げた検定試験受験の各自の予定を作成する（30分）。
- 第2回 社会人の基礎要件：身だしなみ、服装、心構え等。授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
- 第3回 敬語演習。授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
- 第4回 指示の受け方、報告の仕方の演習。授業で取り上げたキーワードを各自復習する（30分）。
- 第5回 来客対応演習基本。授業で行った演習を各自復習する（30分）。
- 第6回 来客対応演習応用。授業で行った演習を各自復習する（30分）。
- 第7回 来客対応演習ケーススタディ。授業で行った演習を各自復習する（30分）。
- 第8回 身だしなみの基本。授業で行った演習を各自復習する（30分）。
- 第9回 身だしなみ演習。授業で行った演習を各自復習する（30分）。
- 第10回 電話対応の基本。授業で行った演習を各自復習する（30分）。
- 第11回 電話対応演習。授業で行った演習を各自復習する（30分）。
- 第12回 電話対応ケース・スタディ。授業で取り上げたケーススタディを復習する（30分）。
- 第13回 就職模擬面接の基本。面接指導のキーワードを復習する（60分）。
- 第14回 就職模擬面接指導。面接指導のキーワードを復習する（30分）。
- 第15回 まとめ。これまでの授業について復習する（60分）。

【授業の進め方】

ビジネスマナーの「演習」の授業であるので、講義形式ではなく、履修学生各自が授業中に来客対応、電話対応等を実践するかたちで進める。就職活動の模擬面接指導も実施する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①ビジネスコミュニケーショングローバル社会におけるビジネス基礎力と運用能力ー ②堀 真由美 ③中央大学出版部 ④2017 ⑤1400 ⑥9784805761892

購入場所：学内ブックス中島

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

初回に成績評価の方法および履修注意事項を伝えるので必ず出席の上確認すること。

【履修上の心得】

- ・履修対象は、3年生及び4年生を推奨する。
- ・参加型の授業であるので、履修学生の積極性が求められる。
- ・「ビジネス実務/ビジネスマナーⅠ」を単位履修していることを前提として授業を進めていく。
- ・「マナーの基本」「ビジネス実務/ビジネスマナーⅠ」を先に履修した上でこの授業を履修することを強く推奨する。

【科目のレベル、前提科目など】

- ・「ビジネス実務/ビジネスマナーⅠ」「マナーの基本」
- ・本講義は、インターンシップの実習(在学中に自ら将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと)や就職活動の事前学習として履修してほしい。

科目名	キャリアデザインⅢ(実践)
	就職活動支援講座
教員名	方石 正弘

【授業の内容】

就職活動支援講座として、自己理解、職業理解から始まり、就職活動の具体的な支援として業界・企業研究、エントリーシートの書き方、各種面接の傾向と対策をパワーポイントを用い視覚的に理解できる内容としている。

また、本講座では次の2項目を目的としている。

1. 正社員として働く重要性を認識させ、職業選択から自己分析、業界・企業研究、エントリーシート作成、SPIの解法、面接対策まで、一連の就職活動をサポートする
2. 授業は実践的な内容になり、就職への意識を高めていく

【到達目標】

1. 就活に関する対策講座として実践的知識を修得し、『正社員』として就職することを目標とする
具体的には、次の4点を挙げる
 - ①自分の内的キャリアを意識した職業選択を行えるようにする
 - ②企業研究の手法をマスターする
 - ③エントリーシートの「自己PR」「学チカ」「志望動機」が書けるようにする
 - ④各種面接試験の傾向と対策を理解する
2. 他に先んじて就活をスタートさせる
3. 就活に対するモチベーションを上げ、前向きに取り組めるようにする

【授業計画】

第1回 オリエンテーション

この授業を受講する目的を考えておく(予習1時間以上)

第2回 職業選択の考え方

ワークで得た結果をもとに、自分の「内的キャリア」を明確にしておく(復習1時間以上)

第3回 仕事理解Ⅰ

理解不足は、次回以降の授業に影響が出るので、十分時間をかける(復習1時間以上)

第4回 仕事理解Ⅱ

ワークで得た結果をもとに、「興味のある仕事」を複数選出しておく(復習1時間以上)

第5回 職種研究～営業職～

「営業」の目的やアプローチスタイルを整理しておく(復習30分以上)

第6回 業界研究

興味を持った業界について書籍等を読み、知識を深めておく(復習1時間以上)

第7回 企業研究Ⅰ～上場企業編～

今回の授業で学んだ手法を用いて、志望予定あるいは任意の上場企業に対して企業研究を行う(復習2時間以上)

第8回 企業研究Ⅱ～中小企業編～

今回の授業で学んだ手法を用いて、志望予定あるいは任意の中小企業に対して企業研究を行う(復習2時間以上)

第9回 自己分析～強みを知る～

特に3年生はワークで得た結果をもとに、自らの「強み」を明確にしておく(復習1時間)

第10回 エントリーシートⅠ～自己PR・学チカ編～

今回の授業で学んだ書き方を基本に「自己PR」「学チカ」を各400字で作成する(課題作成5時間以上)

第11回 エントリーシートⅡ～志望動機・履歴書編～

今回の授業で学んだ書き方を基本に「志望動機」400字、および「履歴書」を作成する(課題作成5時間以上)

第12回 面接対策

面接で重要な『第一印象』に焦点を当てて、所作を中心にリクルートファッションについて学ぶ(復習30分以上)

第13回 グループディスカッション

授業の内容を理解するとともに、学内セミナーに必ず参加し、体得しておく(復習と演習参加3時間以上)

第14回 グループ面接

授業の内容を理解するとともに、学内セミナーに必ず参加し、体得しておく(復習と演習参加3時間以上)

第15回 個人面接

テキスト中の想定質問について自分なりの答えを見つけておくこと(復習3時間以上)

指定したテキスト『就活生のためのキャリアデザインⅢ(実践)』を必ず事前に読んでおくこと。

授業は、前回以前の内容を理解したという前提で進めていくので特に復習に注力し、不明点はそのままにせず、オフィスアワー等を利用し、積極的に理解するよう行動してほしい。

※授業の進捗如何で若干内容が変わることもある。

【授業の進め方】

講義形式(一部個人ワーク)。毎回パワーポイントを使って講義の要点を明示しながら授業を進めていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①就活生のためのキャリアデザインⅢ(実践) ②力石正弘・栗原栄美共著 ⑤1200

オリジナルテキスト『就活生のためのキャリアデザインⅢ(実践)』(Booksナガマ様にて販売)を必ず購入すること。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

レポートについては、1回実施する。

受講態度とは、授業終了時に配付するリアクションペーパーによる評価(2回以上実施)

【履修上の心得】

例年就活に対して意識の高い学生諸君が受講する。遅刻や私語は厳に慎み、大人の自覚を持って受講してほしい。出席カードを配布した時は、ICカードの出欠より優先して管理する。

※私語等、他の受講生が不快に感じる行為は厳禁。

※出席に関する不正があった場合は、理由の如何を問わず【失格】とする。

【科目のレベル、前提科目など】

就職活動を行う3年生向けにカリキュラムを作成している。事前にまたは並行して「キャリアデザインⅡ(基礎)」の受講を勧める。

【備 考】

12月末までに受講者はスーツ着用で出席することを望む。

科目名	キャリアデザインⅣ(演習)
	コミュニケーション・トレーニング
教員名	力石 正弘

【授業の内容】

社会人基礎力養成講座の演習編として、コミュニケーション能力の養成に注力する。
 授業は、毎回、「導入」→「個人ワーク」→「グループワーク」→「ふりかえり」の順に行い、教員がファシリテーターとなり、個人やグループの成長を導いていく。

就活では、ほとんどの企業が『面接』を実施している。その理由は、学生の能力を把握し、自社に相応しい人材かを見極めるためであろう。そして採用担当者にインタビューすれば、その必要な能力のトップに挙げられるのは「コミュニケーション能力」である。本講座はこの能力に焦点をあて、個人ワークやグループワークを通して理解を深めていく。そして、すべての受講生が就活時に自信をもって面接に挑めることを目的としている。

【到達目標】

- 1.自己理解を深め、多様な価値観を受容する意識もつ。
- 2.コミュニケーションの仕組みを理解する。
- 3.コンセンサス(合意)の心得を学び、実践してみる。
- 4.チームワークのポイントを学び、実践で活用してみる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション

この授業の進め方(授業と自己紹介)

振り返りシートを中心に授業の復習(30分)

第2回 自分を知る

個人ワーク、グループワークと授業

振り返りシートを中心に授業の復習(30分)

第3回 価値観とは

個人ワーク、グループワークと授業

振り返りシートを中心に授業の復習(30分)

第4回 思い込み

個人ワーク、グループワークと授業

振り返りシートを中心に授業の復習(30分)

第5回 コミュニケーションの基本

個人ワーク、グループワークと授業

振り返りシートを中心に授業の復習(30分)

第6回 コミュニケーションの実際

個人ワーク、グループワークと授業

振り返りシートを中心に授業の復習(30分)

第7回 聴く・話す・観る①

大学生活をテーマとしたロールプレイ

ロールプレイで指摘された修正点を振り返る(60分)

第8回 人を理解する

個人ワーク、グループワークと授業

振り返りシートを中心に授業の復習(30分)

第9回 葛藤との付き合い方

個人ワーク、グループワークと授業

振り返りシートを中心に授業の復習(30分)

第10回 自己開示とフィードバック

個人ワーク、グループワークと授業

振り返りシートを中心に授業の復習(30分)

第11回 コンセンサスと人間関係づくり

個人ワーク、グループワークと授業

振り返りシートを中心に授業の復習(30分)

第12回 リーダーシップとは

個人ワーク、グループワークと授業

振り返りシートを中心に授業の復習(30分)

第13回 リーダーはファシリテーター

個人ワーク、グループワークと授業

振り返りシートを中心に授業の復習(30分)

第14回 聴く・話す・観る②

面接をイメージしたロールプレイ

ロールプレイで指摘された修正点を振り返る(60分)
第15回 聴く・話す・観る③
面接をイメージしたロールプレイ
ロールプレイで指摘された修正点を振り返る(60分)

※授業の進捗如何で若干内容が変わることがある。
※受講人数によって内容が変わることがある。

【授業の進め方】

講義と演習を織り交ぜて進行する。講義で知識を習得し、その確認を演習で体得する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①コミュニケーション力を鍛えるキャリアデザインⅣ(演習) ②力石正弘・栗原栄美共著 ⑤1000

オリジナルテキスト『コミュニケーション力を鍛えるキャリアデザインⅣ(演習)』(Booksナカゾマ様にて販売)を必ず購入すること。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 30% 受講態度 70%

特記事項

受講態度とは、授業内課題への取り組み、授業への積極的な関わり、特にグループワークに対して主体的に参加しているかを評価する。

【履修上の心得】

演習科目であるから、特に遅刻や早退はグループワークに支障をきたすため厳に慎んでもらいたい。

【科目のレベル、前提科目など】

全学年受講可だが、1年生は上級生とのグループワークに参加できることが大前提。
事前にまたは並行して「キャリアデザインⅠ(入門)」「キャリアデザインⅡ(基礎)」の受講を勧める。

【備 考】

受講者は30名以内を想定している。

科目名	経済英語 I
	※英語で行う授業
教員名	Helge Maruyama

【授業の内容】

(経済英語は英語のみのディスカッションの授業なので、シラバスは英文にての説明になります。)

This is an advanced English course designed to develop the language skills that are essential for international business, trade, and finance. Students will also have the opportunity to expand their knowledge of the global marketplace and discuss complex corporate issues in English.

【到達目標】

Students will develop a better understanding of international business issues and feel more comfortable exchanging views with fluent English speakers.

【授業計画】

- 第1回 Course guidelines and sample exercises
- 第2回 Short discussion and reading assignment (30 minutes) review
- 第3回 Extensive group discussion (15 minutes to prepare ideas in advance)
- 第4回 Short discussion and reading assignment (30 minutes) review
- 第5回 Extensive group discussion (15 minutes to prepare ideas in advance)
- 第6回 Short discussion and reading assignment (30 minutes) review
- 第7回 Extensive group discussion (15 minutes to prepare ideas in advance)
- 第8回 Short discussion and reading assignment (30 minutes) review
- 第9回 Extensive group discussion (15 minutes to prepare ideas in advance)
- 第10回 Short discussion and reading assignment (30 minutes) review
- 第11回 Extensive group discussion (15 minutes to prepare ideas in advance)
- 第12回 Short discussion and reading assignment (30 minutes) review
- 第13回 Vocabulary quiz and extensive group discussion (15 minutes to prepare ideas in advance)
- 第14回 Short discussion and reading assignment (30 minutes) review
- 第15回 Extensive group discussion (15 minutes to prepare ideas in advance)

The course centers on articles from leading English language business publications like *The Economist* magazine. Students will read and talk about contemporary corporate and economic issues, and listen to related business simulations. Topics will cover areas such as management strategy, corporate activities, business etiquette, information technology, brand marketing, entrepreneurship, and venture capital.

【授業の進め方】

Class time will be divided between speaking activities in pairs or small groups, teacher-led discussions, and listening comprehension exercises. Students will be expected to complete regular reading assignments and be prepared to discuss the material entirely in English.

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①Intelligent Business (Pre-Intermediate Coursebook) ②Christine Johnson ③Pearson Longman ④2006 ⑤¥3672
 ⑥9781408256008

The textbook indicated above may be replaced with a higher-level edition depending on the class composition, so please do not purchase textbooks in advance. They will be sold in the classroom by the teacher after the first week of class.

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 10% レポート・課題 35% 受講態度 55%

特記事項

Aggressive participation, in the form of speaking up and exchanging opinions, is highly encouraged and rewarded. Students who are shy and afraid to express themselves will not be considered as participating actively. Since many of the discussions revolve around reading assignments, homework will constitute an integral part of the final evaluation. A written test will provide an opportunity to review the related business vocabulary.

【「成績評価の方法」に関する注意点】

A minimum 2/3 attendance rate is necessary in accordance with official university guidelines.

Students who do very little homework, or who hardly ever contribute during class discussions, will not be eligible for receiving credit for this course even if the minimum attendance requirement is met.

【履修上の心得】

The course will be conducted entirely in "natural speed" English and is suitable for those who are motivated, diligent, and not afraid to speak up. Everyone will be expected to talk in English only, just as in a real-life international business environment.

【科目のレベル、前提科目など】

This is the most challenging English course focusing on speaking skills that is offered in the business management department.

Students must have sufficient English ability (recommended TOEIC score of well above 550 or equivalent) to enroll in this high-level course.

科目名	経済英語Ⅱ
	※英語で行う授業
教員名	Helge Maruyama

【授業の内容】

(経済英語は英語のみのディスカッションの授業なので、シラバスは英文にての説明になります。)

This is an advanced English course designed to develop the language skills that are essential for international business, trade, and finance. Students will also have the opportunity to expand their knowledge of the global marketplace and discuss complex corporate issues in English.

【到達目標】

Students will develop a further understanding of international business issues and feel more confident exchanging views with fluent English speakers.

【授業計画】

- 第1回 Course guidelines and short discussion
- 第2回 Short discussion and reading assignment (30 minutes) review
- 第3回 Extensive group discussion (15 minutes to prepare ideas in advance)
- 第4回 Short discussion and reading assignment (30 minutes) review
- 第5回 Extensive group discussion (15 minutes to prepare ideas in advance)
- 第6回 Short discussion and reading assignment (30 minutes) review
- 第7回 Extensive group discussion (15 minutes to prepare ideas in advance)
- 第8回 Short discussion and reading assignment (30 minutes) review
- 第9回 Extensive group discussion (15 minutes to prepare ideas in advance)
- 第10回 Short discussion and reading assignment (30 minutes) review
- 第11回 Extensive group discussion (15 minutes to prepare ideas in advance)
- 第12回 Vocabulary quiz and short discussion
- 第13回 Short discussion and reading assignment (30 minutes) review
- 第14回 Extensive group discussion (15 minutes to prepare ideas in advance)
- 第15回 Short discussion and reading assignment (30 minutes) review

(Please note: Keizai Eigo II will continue with the material covered in Keizai Eigo I.)

The course centers on articles from leading English language business publications like *The Economist* magazine. Students will read and talk about contemporary corporate and economic issues, and listen to related business simulations. Topics will cover areas such as human resources, strategic marketing, pricing methods, insurance policies, customer service, manufacturing productivity, and creative solutions.

【授業の進め方】

Class time will be divided between speaking activities in pairs or small groups, teacher-led discussions, and listening comprehension exercises. Students will be expected to complete regular reading assignments and be prepared to discuss the material entirely in English.

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①Intelligent Business (Pre-Intermediate Coursebook) ②Christine Johnson ③Pearson Longman ④2006 ⑤¥3672
 ⑥9781408256008

The textbook indicated above may be replaced with a higher-level edition depending on the class composition, so please do not purchase textbooks in advance. They will be sold in the classroom by the teacher after the first week of class.

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 10% レポート・課題 35% 受講態度 55%

特記事項

Aggressive participation, in the form of speaking up and exchanging opinions, is highly encouraged and rewarded. Students who are shy and afraid to express themselves will not be considered as participating actively. Since many of the discussions revolve around reading assignments, homework will constitute an integral part of the final evaluation. A written test will provide an opportunity to review the related business vocabulary.

【「成績評価の方法」に関する注意点】

A minimum 2/3 attendance rate is necessary in accordance with official university guidelines.

Students who do very little homework, or who hardly ever contribute during class discussions, will not be eligible for

receiving credit for this course even if the minimum attendance requirement is met.

【履修上の心得】

The course will be conducted entirely in "natural speed" English and is suitable for those who are motivated, diligent, and not afraid to speak up. Everyone will be expected to talk in English only, just as in a real-life international business environment.

【科目のレベル、前提科目など】

Prior enrollment in Keizai Eigo I is highly advisable.

This is the most challenging English course focusing on speaking skills that is offered in the business management department.

Students must have sufficient English ability (recommended TOEIC score of well above 550 or equivalent) to enroll in this high-level course.

科目名	観光英語
教員名	藤井 健

【授業の内容】

観光という範疇に入る以下の4つの状況で使用する専門英語の学習を目的とする

- 1) 空港、交通、ホテル、観光、ショッピング等、海外旅行するときに使用する英語、
- 2) 外国人旅行者に日本国内を案内、紹介するときに使用する英語
- 3) 旅行・観光・航空業務の現場で使用する英語
- 4) 国内外の風俗習慣や国際儀礼などの異文化を紹介するときに使用する英語

また、これらの英語能力を測定する「観光英語検定試験」の合格を目指す

【到達目標】

「観光英語検定試験」3級の合格レベル

【授業計画】

- 第1回 空港にて（チェックイン、入国・税関審査）に関する英語
機内での英語
（観光英語検定試験関連単語学習60分）
- 第2回 交通機関で使う英語
（観光英語検定試験関連Reading問題学習60分）
- 第3回 ホテルの予約、チェックインの英語
（観光英語検定試験関連単語学習60分）
- 第4回 観光英語検定試験模擬問題（1）
（観光英語検定試験Reading問題学習60分）
- 第5回 観光英語検定試験模擬問題（2）
（観光英語検定試験関連単語学習60分）
- 第6回 食事の英語
（観光英語検定試験関連Reading問題学習60分）
- 第7回 買い物の英語
（観光英語検定試験関連単語学習60分）
- 第8回 観光英語検定試験模擬問題（3）
（観光英語検定試験Reading問題学習60分）
- 第9回 観光英語検定試験模擬問題（4）
（日光に関する観光ポイントを英語で紹介する準備90分）
- 第10回 日本の観光名所を英語で紹介（1）
（鬼怒川・小山・宇都宮に関する観光ポイントを英語で紹介する準備90分）
- 第11回 日本の観光名所を英語で紹介（2）
（日本文化に関するポイントを英語で紹介する準備90分）
- 第12回 日本の風俗・習慣を紹介する英語（1）
（日本の文化に関するポイントを英語でする準備90分）
- 第13回 日本の風俗・習慣を紹介する英語（2）
（観光英語検定試験リスニング問題学習60分）
- 第14回 観光英語検定試験模擬問題（5）
（観光英語検定試験リスニング問題学習60分）
- 第15回 観光英語検定試験模擬問題（6）
（観光英語検定試験関連単語学習60分）

【授業の進め方】

授業テーマに沿って、関連する英語、関連知識の説明と演習問題の解説を中心に進める。
授業内で受講生の学習理解度をチェックする小テストも行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①なし

授業開始時に指示

【参考図書】

『日本』

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 20% レポート・課題 20% 受講態度 10%

特記事項
定期試験
小テスト
課題提出

【履修上の心得】

授業の予習として課題演習を課するので、それを行ってきていることを前提として授業を進める。
授業中に答えを写すのではなく、自分の考えてきた英語が正しいか、また間違っていたらどうして間違えたのかが理解できるように万全の準備をして授業に臨んでもらいたい。

【科目のレベル、前提科目など】

2年生以上が履修することが望ましい

前提科目：とくになし

関連科目：観光ビジネス概論、旅行業務概論、サービスコミュニケーションⅠ

観光関連ビジネス分野への就職を希望する学生、海外旅行の際に使える英語を習得したい学生、外国人旅行者の手助けをしたい学生、観光英語検定試験3級の合格を目指す学生に観光関連の専門英語の知識を提供する

【備 考】

観光英語検定試験2級向けの対策講座は別途実施する予定

科目名	国際関係論(東北アジア)
教員名	范力

【授業の内容】

この時間は主に日本と中、露、朝鮮半島との関係を考える。また、中国、ロシア、朝鮮半島、アメリカをより深く理解するとともに、日本のことをもう一度見つめなおす。なお、東北アジア関係各国の民族・文化・伝統・習慣などにも言及する。

【到達目標】

- 1、専門知識を学ぶこと
- 2、視野を広げること
- 3、様々な力をつけること
- 4、友達をつくること
- 5、大学らしい授業を体験すること

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 大学生はどうあるべきか
- 第3回 この授業で何を取り上げるべきか
- 第4回 私から見た日中関係
- 第5回 歴史認識と政府開発援助（ODA）
- 第6回 現代中国の経済発展について
- 第7回 台湾をめぐる国際関係
- 第8回 日朝関係を考える
- 第9回 韓国から見た朝鮮半島と日本との関係
- 第10回 拉致問題の解決に向けて
- 第11回 ミニ六ヶ国協議（新しい授業形式にご期待）
- 第12回 日露関係について考える
- 第13回 国際秩序と中国
- 第14回 東北アジアの思想と21世紀の世界
- 第15回 まとめ・レポート提出・目標達成かチェック

【授業の進め方】

- 1、講義
- 2、プレゼン
- 3、グループディスカッション
- 4、動画鑑賞
- 5、パソコンを使う授業
- 6、ディベート

【教科書(必ず購入すべきもの)】

毎週、教室でとりあげるテーマの関連文献を講義プリントとともに配布する。

【参考図書】

范力編著『民主主義を相対化する中国』時潮社、2016年

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 30% レポート・課題 50% 受講態度 20%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

授業への貢献度やレポートなどから総合的に評価する。

【科目のレベル、前提科目など】

異文化理解と異文化コミュニケーションに役立てる授業にする。

科目名	国際関係論(東南アジア)
教員名	結城 史隆

【授業の内容】

東南アジアの国々に行くと、ほとんどの国に民族博物館のようなものがある。そこに立ち寄ると、東南アジアがいかに多様に富んでいるかがよくわかる。インド文明、中国文明、イスラム文明、さらに植民地時代には欧米文化の強い影響を受けてきた。しかし一方で、土着的な共通の要素があることにも気がつく。

本講義では、最初に東南アジアに共通する基層文化に触れ、その後代表的な国をとりあげ、その歴史、民族、宗教などについて学ぶ。

最終的には、東南アジアの社会構造の特質を理解することを目的としている。身近な東南アジアを知り、その文化や歴史、人々の生活を理解したい人に受講して欲しい。

【到達目標】

1. 東南アジアの気候、風土、歴史、文化を全体的に理解する。
2. 東南アジアの国々の歴史や社会構造の特徴を理解する。
3. 東南アジアの人々の信仰や日々の生活について理解する。
4. 東南アジアの国々と日本とに関係について理解する。

【授業計画】

- 第1回 1. 東南アジアの国々
 第2回 2. 東南アジアの自然と民族
 第3回 3. 東南アジアの歴史構造
 第4回 4. 東南アジアの基層文化
 第5回 5. フィリピンⅠ：スペイン支配とカトリック
 第6回 6. フィリピンⅡ：社会構造とネットワーク
 第7回 7. ベトナム：南進、ベトナム戦争、ドイモイ政策
 第8回 8. カンボジア：クメール文明の繁栄とポルポト政権
 第9回 9. ラオス：歴史と焼き畑耕作
 第10回 10. タイ：タイ族の王朝建設、上座部仏教
 第11回 11. マレーシア：マラッカ王国、イスラム的生活
 第12回 12. シンガポール：建国と近代的機能国家
 第13回 13. インドネシア：多様性と観光
 第14回 14. 東ティモール：内戦と独立
 第15回 15. 東南アジアで活躍する日本の若者（青年海外協力隊員）

【授業の進め方】

授業はパワーポイントを使って講義形式をとる。さまざまな地域においてフィールド調査を行っているので、その実体験にもとづいた事例や写真の紹介で理解の手助けとしたい。

講義の最初に前回の講義の重要点を中心としたリアクション・ペーパー（確認のための小テスト）を10分くらいで書いてもらう。ノートなどの持ち込みは不可である。

★小テストのときにカンニングをした人はその場で失格となる★

遅刻してリアクション・ペーパーを書けなかった場合は、欠席扱いとなるので注意。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特になし

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 100% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

アクティブ・ラーニングの発想の原点は、ただ講義をきいて知識をインプットしていた大学授業に、アウトプットの要素を取り入れることにある。本講義は履修者多数のために細かいワークショップを実施することは不可能であるが、アウトプットを重視するという意味で、毎回、前回の講義の重要点を記述式で書かすことにしている。これがリアクションペーパー（小テスト）である。ノート、資料などの参照は不可なので、自分の頭の中に知識を体系的に整理して回答しなければならない。そのためには、毎回復習をすることが必須となる。

授業の目的は単位を与えることではなく、受講者の知識、体験、能力を向上させることにあることを理解して履修して欲しい。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

繰り返しになるが、リアクションペーパーの内容が悪いと、全回出席していても不合格になる。

成績不良救済のための再試験、追試験、レポート提出はいつさい行わない。

【履修上の心得】

講義はできるだけわかりやすくするつもりなので、東南アジアの多様性とそのエネルギー、人々の生活の様子を理解し楽しんで欲しい。講義はできるだけわかりやすくするつもりなので、「人間」の多様性と普遍性を理解し楽しんで欲しい。講義時間中は頭を整理し、理解しながらノートに要点を書くこと。集中力がない人、周囲と談話する人、居眠りする人は教室からでていってもらおう。テスト中、講義中に携帯電話を見たり使用することは厳禁である。もし、使用した場合は授業終了まで預かり、学籍番号・氏名を聞いたうえで返却する。新しい知識に無関心で、努力も苦勞もせずにとただ単位だけを取得したいと安易に考えている人は、受講しないほうがよい。

【科目のレベル、前提科目など】

特になし

科目名	国際関係論(アメリカ)
	アメリカと日本、世界
教員名	高畑 昭男

【授業の内容】

アメリカ外交の歴史や現状をたどりながら、アメリカと世界平和秩序の関わりについて理解を深める。アメリカは第二次大戦後、国連などの国際機関を創設し、国際金融システム、集団安全保障体制、核不拡散体制など国際秩序の基本を築いてきた。しかし、バラク・オバマ大統領は2013年、「世界の警察官」役を放棄し、「アメリカ・ファースト（米国第一主義）」を掲げるドナルド・トランプ新大統領も同様の立場をとっているため、世界秩序の構造はかつてない変化にさらされている。

こうした情勢を頭に入れながら、アメリカ外交の理念と現実について学び、21世紀の今、アメリカと国際社会がどんな課題に直面しているかを考える。「アメリカの世紀」と呼ばれた20世紀から「アジア太平洋の世紀」と呼ばれる21世紀への変化をたどる中で、中国の台頭や北朝鮮問題といった現下の問題や課題にどう向き合うかについて学ぶ。アメリカ大統領の外交に関する権限や役割を学び、欧州、アジア、中東の現状、中国やロシアなどとの関わりについても考える。アメリカの掲げる自由、民主主義、人権、市場経済といった価値がどのように政治・外交に反映されているかを探る。また、日本とアメリカの歴史、同盟関係や日本の安全保障のあり方についても学び、21世紀のアジア太平洋の平和と安全にどう生かしていくかを考えていく態度を養う。予備知識を含めた履修の前提として、とくに前期開講の国際関係概論／国際関係論（概論）を先に履修することを勧める。

アクティブ・ラーニングの視点に立って、学生による自主的なチーム研究や発見学習、調査学習、チームディスカッション等を多用した「参加型」クラスをめざしている。受講生はまず自分たちでチームを編成し、自由研究テーマを選ぶ。期末にチームごとに最終プレゼンテーションを行い、個人別の期末レポートと合わせて成績を評価する。アメリカ外交に積極的関心を持つだけでなく、楽しみながらチーム作業を進める自主性と意欲、協調性が必須である。「参加型」クラスやチーム作業に関心を持っていない人には受講を勧めない。チームに所属しない人、チーム作業に参加しない人は評価対象としないので、受講の際には注意してほしい。

【到達目標】

1. 世界の平和秩序にアメリカが果たしている役割について理解を深める。
2. アメリカ外交の特徴、歴史、理念、価値と、欧州、中東、アジアなど主要地域の最新情勢について学ぶ。
3. 日本とアメリカの関係や歴史を学び、アジア太平洋の未来とよりよい世界を築いていく方策を考える。
4. 発見学習、調査学習等のチーム作業を通じてアメリカと世界の関係に理解を深め、チームワークや協調性を学ぶ。
5. 人前で堂々と研究成果を発表するプレゼンテーションの能力や技術を高める。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション。アメリカと世界のかかわり。アメリカ外交のキーワードの紹介とチーム編成の手ほどき。チーム研究の手法や発見学習、調査学習の進め方などについて詳しく説明し、自覚を高める。数人規模の研究チームを編成し、ディスカッション等を通じて自由に研究テーマを選定する。「アメリカと世界」をテーマとしたチーム・ディスカッション。
- 第2回 アメリカ外交の歴史と歩み① 建国理念と外交。例外主義と孤立主義の伝統。チーム・ディスカッション。アメリカ外交のキーワード等を参考に、チームで発見学習、調査学習を進める方法などについて話し合い、研究テーマを詰める。講師との連絡・調整役としてチームリーダーを選出する。
- 第3回 アメリカ外交の歴史と歩み② 孤立から関与へチーム・ディスカッション。各チームは研究テーマについてクラスに紹介する。
- 第4回 アメリカと国連。世界平和の基本秩序とルール。「世界の警察官」とは何か。世界の警察官がいない世界はどうなるのか、誰が世界の警察官を務められるのか。チーム・ディスカッション。リアクションペーパー提出。
- 第5回 アメリカ外交のものさし。孤立主義と関与主義。理念外交と現実外交。単独行動と国際協調。
- 第6回 欧州・ロシアとアメリカ。冷戦時代の米欧関係。21世紀の米欧・米露関係とウクライナ問題。ロシアの正義とアメリカの正義。チーム・ディスカッションとリアクションペーパー提出。
- 第7回 中東とアメリカ。中東政策の歴史と歩み。イスラエルとパレスチナ問題。ロードマップ構想とは。チーム・ディスカッションとリアクションペーパー提出。
- 第8回 チーム研究の中間発表。各チームは自由研究の進捗状況について中間報告をまとめ、どんな作業を展開しているかなどについてクラスに報告する。問題などがあれば、講師が助言し、調整する。
- 第9回 核兵器とアメリカ。核不拡散体制と北朝鮮、イラン。核抑止の現状と課題。北朝鮮問題はどのようにすれば解決するか。
- 第10回 アジアとアメリカ。米中関係の歩みと21世紀の課題。中国の台頭にアメリカはどう立ち向かうべきか。
- 第11回 世界経済、環境、エネルギーとアメリカ。アメリカ外交の仕組み。大統領の「6つの帽子」について。
- 第12回 日本とアメリカ。日米関係の歴史と歩み。「吉田ドクトリン」と日本。選択は正しかったか。日米同盟の現状と21世紀の展望。
- 第13回 期末プレゼンの準備作業。チームごとに発表の内容、方法、レジュメ作成、発言者の調整などを行う。障害や問題点などがあれば、講師が助言し、調整する。
- 第14回 チーム研究発表（最終プレゼン）。自由研究の成果をプレゼンテーションする。他チームの発表を聞いた感想や評価などを学生評価票（リアクションペーパー）に記入し、提出する。

第15回 チーム研究発表(続き)と全体のまとめ。学生評価票の記入と提出。最終講義終了時に、個人ごとに「このクラスで何を学んだか」をテーマとする期末レポートを提出する。

チーム研究を主体とする本講義の性格上、チーム編成やテーマ設定について学生諸君の主体的な意欲が何よりも大切である。毎年のことながら、講義終了時点で振り返ると、主体性のある人が多いチームは、研究内容においてもプレゼンにおいても優れたものがある。

その一方で、「単位がとれればよい」といった消極的な態度が目立つチームは、研究内容もプレゼンも見劣りがする。学生諸君に主体性を発揮するよう指導していくことは講師の責任でもあるが、やはり受講する以上は積極的に主体的意欲をもって学ぼう心がけてほしい。また、そうしたほうがチームにとっても個人にとっても新たな発見の楽しさや喜びを得る機会が多いはずである。

【授業の進め方】

1. 日々の重要ニュースを随時取り上げ、解説する。チーム・ディスカッションを通じて他人の意見にも耳を傾ける。
2. アクティブ・ラーニングを取り入れた「参加型」クラスをめざす。研究チームを編成し、自由研究を行う。
3. 何よりも発見を楽しみながら研究する態度と主体的な意欲が大切である。
4. チーム作業を重視する。リーダーを中心に協調性を発揮し、自主的でユニークな研究を展開したい。
5. 適宜、チームまたは個人別にリアクションペーパーの提出を求める。
6. 最終プレゼンはチーム全員参加、全員発言を原則とする。各自でプレゼン技術を磨く。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

とくに指定しない。講師が毎回レジメなどの資料を作成して配布する。

【参考図書】

アメリカ外交、国際関係に関する文献、日々のニュース報道に積極的に目を通すことが不可欠である。とりわけ新聞は有用である。研究発表にも役立つのでよく読んでおくこと。高畑の著書『世界の警察官をやめたアメリカ』(ウェッジ、2015年)を併読すると、さらにわかりやすい。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

(1)チーム研究発表40%、(2)個人別期末レポート40%、(3)平常点20%(受講態度やリアクションペーパーを含む)ーをもとに評価する。期末試験はしない。平常点は受講態度の一環として出席率も当然参考にする。全ての受講回数2/3以上に出席していることが評価の必須条件である。質問を歓迎し、その積極性を成績評価に前向きに反映させる。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

1. アクティブ・ラーニングの視点に基づき、チーム作業、協調性、ICT活用の在り方などを重視する。
2. チーム研究参加は必須である。チームに所属しない人、チーム作業に参加しない人は評価対象としない。
3. 期末レポートなどにおいて、いわゆる「コピペ」は厳禁とする。発見次第、0点とする。

【履修上の心得】

1. アメリカ外交や国際関係全般の新聞記事やニュース報道に平素から注目し、関心を持つことが重要である。
2. チーム作業を重視する。協調性を生かし、楽しみながら研究する意欲を主体的に養ってほしい。
3. 人前で堂々とプレゼンする能力と技術を磨いておくことが必要である。
4. 疑問をそのままにせず、積極的に質問する姿勢を重視する。

【科目のレベル、前提科目など】

入門編のレベルではあるが、国際関係全般の基本的知識が必須である。2年生以上で、前期開講の国際関係概論/国際関係論(概論)を先に履修してから履修することを強く推奨する。アメリカの国際的役割や日本とアメリカの関係に関心を持ち、日本の平和と安全、繁栄に役立つような基礎的理解と認識を育てていきたい。

科目名	国際関係論（インド・ネパール）
教員名	結城 史隆

【授業の内容】

今から5500年ほど前に、インダス川流域に文明が発生した。その後、アーリア人の侵入により、さらに高度な文明を築いていった。

仏教は言うまでもなく、インド文明は我々の歴史に多くの影響を与えてきた。カーリーののような恐ろしい女神から弁財天のような芸術の神、あるいは火葬の風習や不浄の概念なども、インドが発祥地である。

また、ネパールは国土の高度差8000メートル以上もある世界でも希な国家である。世界最高峰エベレストの山麓から、亜熱帯ジャングル地方まで、人々はさまざまな生活をおくってきた。

この講義では、インダスの謎に満ちた文明の始まりからその後の展開を追い、さらにネパールの社会や文化を講義することで、インド文明を理解することを目的としている。

【到達目標】

1. 南アジアの気候、風土、生態系について理解する。
2. インド亜大陸の歴史を理解する。
3. パラモン教、仏教、ヒンドゥー教の成立や信仰内容を理解する。
4. ヒンドゥー教徒の生活について理解する。
5. カースト制度の本質を理解する。
6. ネパールの生態系区分、民族分布について理解する。
7. ネパールの各地帯の文化、生活習慣について理解する。

【授業計画】

- 第1回 インド・ネパールの基礎知識
- 第2回 インダス文明の謎とは？
- 第3回 中央アジアから侵入してきたアーリア人のもたらしたものは？
- 第4回 パラモンがなぜ支配階級となったのか？
- 第5回 お釈迦様は何を考え、そして悟ったことは？
- 第6回 ヒンズー教の神々の性格と神話
- 第7回 ヒンズー教徒の正しい生き方とは？
- 第8回 カースト制度
- 第9回 ネパールの最低海拔と最高海拔の高度さはどのくらい？（多様な生態系）
- 第10回 どのようにしてネパールの現王家は成立して、継続してきたのか。
- 第11回 南部タライ平野の人々
- 第12回 山地ヒンドゥー教徒の人々
- 第13回 ネワールの人々
- 第14回 ヒマラヤの民・シェルパの生活
- 第15回 ネパールで活躍する日本人：青年海外協力隊と国際協力

【授業の進め方】

授業はパワーポイントを使って講義形式をとる。さまざまな地域においてフィールド調査を行っているので、その実体験にもとづいた事例や写真の紹介で理解の手助けとしたい。

講義の最初に前回の講義の重要点をテストする。ノートなどの持ち込み参照は不可である。

遅刻してテストを受けられなかった場合は、欠席扱いとなるので注意。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特になし

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 100% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

アクティブ・ラーニングの発想の原点は、ただ講義をきいて知識をインプットしていた大学授業に、アウトプットの要素を取り入れることにある。本講義は履修者多数のために細かいワークショップを実施することは不可能であるが、アウトプットを重視するという意味で、毎回、前回の講義の重要点を記述式で書かすことにしている。これがリアクションペーパー（小テスト）である。ノート、資料などの参照は不可なので、自分の頭の中に知識を体系的に整理して回答しなければならない。そのためには、毎回復習をすることが必須となる。

授業の目的は単位を与えることではなく、受講者の知識、体験、能力を向上させることにあることを理解して履修して欲しい。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

全回出席することが大前提であるが、全回出席しても毎回のテストの点数が悪いと不合格になるという厳しい講義である。

自分の能力をあげる意識がない、ただ、単位のために講義にできるような気持ちのある人は履修しないほうがよい。中間発表で単位取得の見込みのない人は発表する。

【履修上の心得】

講義はできるだけわかりやすくするつもりなので、「人間」の多様性と普遍性を理解し楽しんで欲しい。講義時間中は頭を整理し、理解しながらノートに要点を書くこと。集中力がない人、周囲と談話する人、居眠りする人は教室からでていってもらおう。テスト中、講義中に携帯電話を見たり使用することは厳禁である。もし、使用した場合は授業終了まで預かり、学籍番号・氏名を聞いたうえで返却する。新しい知識に無関心で、努力も苦勞もせずにただ単位だけを取得したいと安易に考えている人は、受講しないほうがよい。

【科目のレベル、前提科目など】

特になし

科目名	国際関係概論
	21世紀 変わる世界
教員名	高畑 昭男

【授業の内容】

冷戦終結後、世界は「アメリカ1極支配」の時代を迎えた。だが、21世紀に入ると2001年の9/11同時多発テロやイラク、アフガニスタン戦争を経てアメリカ1極とは言えない情勢となり、2013年になると、バラク・オバマ大統領は「世界の警察官」役を放棄してしまった。財政・金融面でも、2008年のリーマン・ショックなどを経てアメリカや西側先進国(G7)の指導力に疑問が生じ、代わって中国やロシア、ブラジルなどの新興大国(BRICS)の発言力が強まった。「アメリカ・ファースト(米国第一主義)」を掲げて就任したドナルド・トランプ新大統領も「アメリカはもはや世界の警察官ではない」との立場をとっているため、国際関係と世界平和秩序の構造はかつてない変化にさらされている。

一方、欧州では、ユーロ危機や中東難民の急増、右派ポピュリズムの台頭が欧州統合の深刻な課題となっている。ロシアの強権主義的な姿勢により、ウクライナ問題も深刻な状況が続いている。中東・北アフリカでは「アラブの春」民主化運動が起きた半面、シリア危機や「イスラム国」を中心としたテロと戦争の多発などによって危険な流動化が進んでいる。

世界の政治、経済、安全保障の重心がアジア太平洋にシフトする中で、中国やインドの台頭も著しい。グローバル化が進む半面、地域紛争やナショナリズムが高まり、東アジアでは、中国の海洋進出と軍事的台頭によって尖閣諸島問題などで緊張が高まると共に、北朝鮮の核・ミサイル開発問題で米朝関係が緊迫した。

ダイナミックな変化が進む中で、世界がどう動いているのか。アメリカや日本が果たすべき役割はどこにあるのか。どんな世界をめざすべきかを考えていく。本クラスはアクティブ・ラーニングの手法を取り入れ、学生の自主的なチーム研究を主体とした「参加型」クラスをめざしている。受講生はチームを編成し、国際関係に関する自由研究テーマを選ぶ。期末にチームごとに最終プレゼンテーションを行い、個人別の期末レポートと合わせて成績を評価する。

国際関係、国際政治の基本的知識が必須であり、2年生以上の履修を勧める。国際関係に興味を持ち、楽しみながらチーム研究を行う意欲と自主性、協調性が欠かせない。「参加型クラス」やチーム作業に関心のない人は受講を勧めない。チームに所属しない人、チーム作業に参加しない人は評価対象としないので、受講の際に注意してほしい。

【到達目標】

1. 国際関係の現実が日本や世界の平和と安全にどう結びついているかを学び、よりよい世界を築く視点を養う。
2. 日本とアメリカの関係に着目し、両国がアジア太平洋で果たす役割や歴史について理解を深める。
3. 世界の平和と安全、繁栄に日本がより積極的に貢献するために、どんな行動ができるか考える力と知識を高める。
4. チーム研究、チーム討論を通じて国際関係の理解を深め、チームワークの意義や協調性を学ぶ。
5. 人前で堂々と研究成果を発表するプレゼンテーションの能力や技術を高める。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション。国際関係とは何か。どんな役に立つのか。現代国際関係のキーワードを紹介する。チーム研究のほどき。チームで研究を深める意義や手法、発見学習、調査学習、チーム・ディスカッションなどについて詳しく説明し、自覚を高める。数人規模のチーム編成作業を進める。香田事件についてディスカッションし、リアクションペーパーを提出する。
- 第2回 世界平和秩序の基本ルール① 国連とは何か、集団安全保障の基本構想。国連憲章を読む。研究チームを編成し、チームごとに研究テーマの選定作業を進める(テーマは後で変更可能)。講師との連絡・調整役としてチームリーダーを選ぶ。
- 第3回 世界平和秩序の基本ルール② 集団安全保障とは何か。国連憲章の問題点。安全保障理事会の仕組みと現実。チーム・ディスカッション。
- 第4回 国家(パワー)とは何か。主権国家とは何か。「ハードパワー」と「ソフトパワー」。
- 第5回 国際関係の諸理論。「権力政治」と「相互依存」。チーム・ディスカッション。
- 第6回 世界秩序のモデル。「ヘゲモニー」(覇権)と「極」(Polar)について。ウクライナ問題とはなにか。「ロシアの正義」と「アメリカの正義」はどこがどう違うのか。
- 第7回 チーム研究の中間発表。各チームは自由研究の進捗状況について中間報告をまとめて、クラスに報告する。問題点などがあれば、講師が助言し、調整する。
- 第8回 同盟と集団安全保障の違いとその歴史。チーム・ディスカッション。
- 第9回 地域情勢① 民族主義と原理主義の背景と事例の検証。「イスラム国」とは何だったか。
- 第10回 地域情勢② グローバル化と「地域主義」。グローバル課題とは。経済、環境、エネルギーの現状と課題。チーム研究の準備作業。
- 第11回 日本と国際社会① 大戦後の再出発と日本の歩み。チーム・ディスカッションとチーム研究作業。
- 第12回 日本と国際社会② 21世紀の展望と日本、アメリカの課題とは何か。チーム研究発表の準備作業。
- 第13回 チーム研究発表①最終プレゼンの準備作業。チーム発表の内容、方法、レジメ作成、発言者の調整などを行う。問題点などがあれば、講師が助言し、調整する。
- 第14回 チーム研究発表②(最終プレゼン)。チームごとに自由研究の成果をまとめてクラスに発表する。各チームの発表を聞いて、学生評価票(リアクションペーパー)に感想や評価を記入し、提出する。
- 第15回 チーム研究発表③(続き)と全体のまとめ。学生評価票の記入と提出。最終講義終了時に、個人ごとに「このクラスで何を学んだか」をテーマとした期末レポートを提出する。

チーム研究を主体とする本講義の性格上、チーム編成やテーマ設定について学生諸君の主体的な意欲が何よりも大切である。毎年このことながら、講義終了時点で振り返ると、主体性のある人が多いチームは、研究内容においてもプレゼンにおいても優れたものがある。

その一方で、「単位がとればよい」といった消極的な態度が目立つチームは、研究内容もプレゼンも見劣りがする。学生諸君に主体性を発揮するよう指導していくことは講師の責任でもあるが、やはり受講する以上は積極的に主体的意欲をもって学ぼう心がけてほしい。また、そうしたほうがチームにとっても個人にとっても新たな発見の楽しさや喜びを得る機会が多いはずである。

【授業の進め方】

1. 日々の重要ニュースを随時取り上げ、解説する。チーム・ディスカッションを通じて他人の意見に耳を傾ける。
2. アクティブ・ラーニングを取り入れた「参加型クラス」をめざす。研究チームを編成し、自由研究を行う。
3. 何よりも発見を楽しみながら研究する態度と主体的な意欲、協調性が大切である。
4. 適宜、リアクションペーパーの提出を求める。
5. チーム作業を重視する。リーダーを中心に協調性を発揮し、自主的でユニークな研究を展開したい。
6. 最終プレゼンはチーム全員参加、全員発言を原則とする。人前で堂々と発表する能力や技術を磨く。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

とくに指定しない。講師が毎回レジメなどの資料を配布する。

【参考図書】

国際関係全般に関する文献や日々の新聞、テレビの国際ニュースに関心を持ち、積極的に目を通すことが大切だ。とりわけ新聞は研究発表にも役立つので、よく読んでおくこと。高畑の著書『世界の警察官をやめたアメリカ』（ウェッジ、2015年）を併読すると、さらにわかりやすい。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

(1)チーム研究発表40%、(2)期末レポート40%、(3)平常点20%（受講態度やリアクションペーパーを含む）をもとに評価する。期末試験はしない。平常点は受講態度の一環として出席率も当然参考にする。全ての授業回数の2/3以上に出席していることが評価の必須条件である。質問を歓迎し、その積極性を前向きに評価したい。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

1. アクティブ・ラーニングの視点に基づき、チーム作業、協調性、ICT活用の在り方などを重視する。
2. チーム研究参加は必須である。チームに所属しない人、チーム作業に参加しない人は評価対象としない。
3. 期末レポートなどにおいて、いわゆる「コピペ」は厳禁とする。発見次第、0点とする。

【履修上の心得】

1. 国際政治、経済に関する新聞記事やニュース、話題にふだんから注目し、関心を持つことが重要である。
2. チーム研究、チーム作業を重視する。協調性を生かし、楽しみながら研究する意欲を養ってもらいたい。
3. 人前で堂々とプレゼンする力と技術を磨いておくことが必要である。
4. ささいな疑問でも放置せずに積極的に質問する姿勢が大切である。

【科目のレベル、前提科目など】

国際情勢一般、近現代史、時事英語などを履修しておくことが望ましい。入門編ではあるが、国際政治、経済、安全保障に関する基本的な知識が必須となるので、2年生以上になってから履修することを勧める。

科目名	国際金融論
	マネーは世界を駆け巡る
教員名	市川 千秋

【授業の内容】

国際的な経済取引においては貨幣や金融の面で国内とは異なる問題が生じる。先ず取引相手が外国にいることから、支払が国内の通貨で出来るとは限らない。その送金や取り立てはどうするのか。そもそも外貨との交換比率はどう決めたらいのだろうか。そうした為替相場はいかなる要因で変動するのか。円高や円安は国内経済活動にどのような影響を及ぼすのか。円高であるにもかかわらず、貿易収支の黒字がなかなか減らないのは何故だろうか。このように国際金融は複雑で難しいものが多いが、この講座では基礎的な事柄を出来るかぎり平易に解説することを目的としている。

なお受講生が50人以下であれば、学生諸君が参加する形の授業を考えている。

【到達目標】

- ①貨幣や金融の面から外国経済との関係が理解できるようになること
- ②貿易や国際金融に関係したニュースが理解できるようになること

【授業計画】

- 第1回 国際収支表 …対外的な取引をどのように分類し記帳するのか
- ・ 経常収支、貿易収支、所得収支、資本移転等収支、金融収支
 - ・ 記帳の原則
 - ・ 実際の取引例
- ・ 復習時間60分
- 第2回 対外取引の推移と現状
- ・ 対外取引の集計・記帳結果からくみとる意味
 - ・ 国際収支の推移と近年の傾向
- ・ 復習時間60分
- 第3回 経常収支と対外純資産
- ・ 経常収支を決めるのは
 - ・ 対外資産と対外負債
- ・ 復習時間60分
- 第4回 対外取引の決済 …送金と取立ての方法
- ・ 外国への送金
 - ・ 外国からの代金の回収
 - ・ 銀行のポジション
- ・ 復習時間30分
- 第5回 為替相場
- ・ 円高・円安とは
 - ・ 為替相場とは・・・邦貨建てと外貨建て
 - ・ 為替相場の種類
- ・ 復習時間30分
- 第6回 為替相場Ⅱ
- ・ 実質為替相場
 - ・ 先物為替相場
- ・ 復習時間30分
- 第7回 為替相場の変動要因と決定学説
- ・ 変動要因
 - ・ 決定学説
- ・ 復習時間60分
- 第8回 為替相場の変動と景気の推移
- ・ 相場の理論価格と変動メカニズム
 - ・ 為替の変動と最近の景気
- ・ 復習時間60分
- 第9回 国内経済と国際マクロ均衡
- ・ 経済の均衡
 - ・ 経済政策の効果 ～ MFモデル
- ・ 復習時間60分
- 第10回 国際貿易の推移
- ・ 国際貿易の意義
 - ・ 貿易統計
- ・ 復習時間30分

- 第11回 輸出金融と輸入金融
- ・輸出金融
 - ・輸入金融
 - ・復習時間30分
- 第12回 国際通貨の資格
- ・国際通貨とは
 - ・国際通貨制度の成り立ちと役割
 - ・復習時間60分
- 第13回 国際通貨制度の変遷
- ・国際金本位制度からIMF・ブレトンウッズ体制へ
 - ・ブレトンウッズ体制の限界
 - ・IMFの役割の変容
 - ・復習時間60分
- 第14回 IMFと金融危機 …支援の仕組み
- ・単独基軸通貨から複数通貨バスケットへ
 - ・IMFの支援と国内経済
 - ・復習時間30分
- 第15回 EU債務危機とIMF
- ・EU債務危機のきっかけ
 - ・ギリシャ悲劇
 - ・踊るスペイン
 - ・救済にむけて
 - ・復習時間60分

【授業の進め方】

この講義は五つのPartsから成る。毎回、講義プリントを配布し、パワーポイントと併用しながら講義を進めたいと考えている。

また時折、統計資料や新聞・雑誌の記事のコピーも配布するので、それらも併せて学生諸君は自分流の講義ノートを作ってほしい。

受講生が50人以下であれば、グループワークなどの参加型の授業を予定している。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書 なし

指定図書 『実践ゼミナール国際金融』 深尾著 東洋経済

参考書 『入門マクロ経済学』 中谷著 日本評論社

【参考図書】

講義時間中に紹介する

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

成績は定期試験と受講態度で評価する

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席カードのタッチ&ゴーの状況次第では評価基準を変更する

【履修上の心得】

配布された資料に基づき、要点はできるだけ板書をするが、学生諸君はただノートに写すだけでは不十分である。

論旨のつながりが分かるように講義の後でまとめる必要がある。また簡単な金融の入門書を読んでおくのが望ましい。

そして言うまでもないことだが、講義中に退出したり、携帯電話を鳴らしたりするのは失礼な行為である。厳に慎んでほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

履修推奨年次：学部3年次生以上

履修を前提とする科目：金融論・経済学

ステップとなる科目：貿易商務論 国際経営論 国際関係論

国際金融論は、現代の国際化した経済取引を理解する上で必須の科目である。いまや、海外展開している企業のみならず、個人においても為替管理は重要な時代となった。また97年のアジア各国の通貨危機は、自国の実情を無視して為替レートを高く設定したことに原因がある。こうした現象の理解には国際金融の知識が必要不可欠である。

科目名	国際地域マネジメント
	中国・アジアのビジネス事情研究
教員名	内堀 敬則

【授業の内容】

国際ビジネスに取り組む企業にとって、中国をはじめとするアジア諸国の生産力や拡大する市場を自社の経営資源に取り込むことは最重要課題のひとつになっている。本講義では、アジア諸国の投資環境や市場環境について、マクロ的な経済発展の経緯だけでなく、ミクロ的な産業・企業レベルの具体的な事例の両面から捉えながら、最新のビジネス事情を理解することを目的とする。

まずは中国を中心に、インド、ASEANなどのアジア諸国の投資環境の変遷や国ごとの市場の特性について考察し、ビジネス対象としてのアジアの多様性を把握する。次に、産業別・企業別のアジアビジネスへの取り組みを国際マーケティングの観点から具体的に検討する。

第10講以降はグループワークによるデータ収集、戦略立案、プレゼンテーション作業を行う。演習時間を設け、体験型・実践型の講座を展開する。

【到達目標】

中国・NIEs・ASEAN・インドといったアジアにおける投資環境や市場環境などを理解し、企業がこうした地域にどのように展開しているかをわかるようになることを目的とする。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
予習：日々新聞や経済紙などでアジア情勢について関心のある記事を読むこと。
- 第2回 「エマージング市場」台頭の衝撃ーグローバル市場のなかのアジアの位置付けー
予習：日々新聞や経済紙などでアジア情勢について関心のある記事を読むこと。
復習：配布資料を読み返すこと。
- 第3回 中国の市場とビジネス環境分析その1 拡大する経済とリスクの行方を読む
予習：日々新聞や経済紙などでアジア情勢について関心のある記事を読むこと。
復習：配布資料を読み返すこと。
- 第4回 中国の市場とビジネス環境分析その2 多国籍企業の中国ビジネスの実態
予習：日々新聞や経済紙などでアジア情勢について関心のある記事を読むこと。
復習：配布資料を読み返すこと。
- 第5回 NIES（韓国・台湾）の市場とビジネス環境分析
予習：日々新聞や経済紙などでアジア情勢について関心のある記事を読むこと。
復習：配布資料を読み返すこと。
- 第6回 NIES（香港・シンガポール）の市場とビジネス環境分析
予習：日々新聞や経済紙などでアジア情勢について関心のある記事を読むこと。
復習：配布資料を読み返すこと。
- 第7回 ASEAN（ベトナム・タイ等）の市場とビジネス環境分析
予習：日々新聞や経済紙などでアジア情勢について関心のある記事を読むこと。
復習：配布資料を読み返すこと。
- 第8回 ASEAN（マレーシア・インドネシア等）の市場とビジネス環境分析
予習：日々新聞や経済紙などでアジア情勢について関心のある記事を読むこと。
復習：配布資料を読み返すこと。
- 第9回 インドの市場とビジネス環境分析 インドのマクロ経済動向とけん引役としてのIT産業
予習：日々新聞や経済紙などでアジア情勢について関心のある記事を読むこと。
復習：配布資料を読み返すこと。
- 第10回 日本企業のアジア戦略分析
予習：日々新聞や経済紙などでアジア情勢について関心のある記事を読むこと。
復習：配布資料を読み返すこと。
- 第11回 個別産業・企業の対中国・アジアマーケティング戦略の事例研究その1
予習：日々新聞や経済紙などでアジア情勢について関心のある記事を読むこと。
復習：配布資料を読み返すこと。
- 第12回 課題の提示と分析手法の解説
予習：日々新聞や経済紙などでアジア情勢について関心のある記事を読むこと。
復習：配布資料を読み返すこと。
- 第13回 プレゼンテーション資料の作成の実践
予習：日々新聞や経済紙などでアジア情勢について関心のある記事を読むこと。
復習：配布資料を読み返すこと。
- 第14回 総括 プレゼンテーションの発表その1
予習：日々新聞や経済紙などでアジア情勢について関心のある記事を読むこと。
復習：配布資料を読み返すこと。

第15回 総括 プレゼンテーションの発表その2

予習：日々新聞や経済紙などでアジア情勢について関心のある記事を読むこと。

復習：配布資料を読み返すこと。

講義内容は必要に応じて変更することがあります。また、講義内容により普通教室とコンピュータ教室（第11～13回目を予定）を使い分けるので、注意すること。

【授業の進め方】

中国をはじめとするアジア諸国の最新のビジネス事情と日本企業を中心とした多国籍企業のマーケティング戦略を解説した後、具体的なマーケティング戦略策定を課す。アジア市場の特性を理解し、それを実際のマーケティング活動にどのように応用するかという思考プロセスを養うことを重視する。講義は豊富なデータや映像資料を提示しながら行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は特に指定しない。

関連資料を随時配布する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 60%

特記事項

成績は授業への貢献度と提出物、プレゼンテーションによって評価する。具体的には、プレゼンテーション試験（プレゼンテーション内容及び作成資料を評価）、レポート課題、受講態度（授業中のディスカッション頻度も含む）が規準となる。なお、プレゼンテーションはくじ引きによって班分けを行い、そのグループを通して行う。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

遅刻や欠席は厳しくチェックされる。12月時点で出席率50%以下の者は原則としてプレゼンテーション試験の受験資格を失い、「失格」扱いとする。

【履修上の心得】

学生との対話を重視した展開を行うので、履修者は授業中積極的に発言すること。また、名札を作成し、机上に提示すること。学生証によるデータ管理を行うので、必ず持参すること。グループワークを行うので、グループのメンバーが確定次第、お互いに連絡と取れるようにすること。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目としてマーケティングⅠ、マーケティングⅡを履修していること。マーケティング論や国際経営論の基礎知識を応用展開する科目であるため、3年または4年次の履修が望ましい。

【備 考】

グループワークで作成したパワーポイントのファイルを指定の日時までに添付メールで提出すること。

科目名	多国籍企業論 I
教員名	張 承玖

【授業の内容】

2年生以上の学生を対象に、国際経営論の上級クラスと位置づけ、企業のグローバル・マネジメントに関する理論とケースを講義する。

【到達目標】

さまざまな国際ビジネス問題に関する「考え方や方法論の習得」と「国際ビジネス知見の獲得」を目的とすると同時に、授業の到達目標とする。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 多国籍企業（以下、MNCと略称）の定義および特徴
MNCの定義および特徴を中心に復習（30分）
- 第3回 MNCとグローバル経営
MNCの役割、ネガティブな側面についても考えてみる（30分）
- 第4回 MNCの将来
MNCの持続的成長について、実例の企業の持続的経営報告書を調べて読んでみる（60分）
- 第5回 ケーススタディ 1
実際のケースのキーワードを各自復習し、必要性和実現可能性について考えてみる（60分）
- 第6回 ケーススタディ 2
実際のケースのキーワードを各自復習し、必要性和実現可能性について考えてみる（60分）
- 第7回 国際ビジネスの諸理論 1
諸理論をさらに詳しく調べ、学習する（60分）
- 第8回 国際ビジネスの諸理論 2
諸理論をさらに詳しく調べ、学習する（60分）
- 第9回 国際ビジネスの諸理論 3
諸理論をさらに詳しく調べ、学習する（60分）
- 第10回 ケーススタディ 3
実際のケースのキーワードを各自復習し、必要性和実現可能性について考えてみる（60分）
- 第11回 ケーススタディ 4
実際のケースのキーワードを各自復習し、必要性和実現可能性について考えてみる（60分）
- 第12回 ケーススタディ 5
実際のケースのキーワードを各自復習し、必要性和実現可能性について考えてみる（60分）
- 第13回 ケーススタディ 6
実際のケースのキーワードを各自復習し、必要性和実現可能性について考えてみる（60分）
- 第14回 日中韓のMNCの競争優位の比較分析
実例の企業の財務諸表を参考にデータを比較してみる（60分）
- 第15回 総括
これまでの授業内容について復習（120分）

上記の授業計画は受講生の理解の度合い、進み具合によって、計画の修正・変更もあるので注意してほしい。

【授業の進め方】

まず、企業のグローバル化とMNCに関する諸理論を説明し、それと関連するケースを『日経ビジネス』、『エコノミスト』などから選び、予め決めた各グループに発表日から3週間前までに配布し、受講生のグループによるケース発表を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用せず
授業時にケースやレジュメなどを配布

【参考図書】

『国際ビジネス入門』
江夏健一・太田正孝・藤井健編、中央経済社。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

まず、授業への参加度（ケース発表およびコメント内容、積極性）を中心に、グループ学習活動を評価する。定期試験は実施せず、平常点100%である。

課題80%の内容としては、ケース発表を行うにあたって、授業とは別に少なくとも5回以上のグループ学習（グループ・ディスカッションを含む）の成果が主な評価対象になる。
残りの受講態度20%はケースごとのリアクション・ペーパーの内容が主な評価対象になる。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

平常点100%評価のため、グループ学習活動に積極的かつ自主的に参加しないと失格とする。

【履修上の心得】

履修推奨年次は、国際経営論の単位取得済である2年生以上である。

【科目のレベル、前提科目など】

国際経営論

【備 考】

ケース発表などを通じて、まず考える力を身につけ(WHY)、問題点の発見、最適解の提示(HOW)に至るまで実際のビジネスに近い体験ができるように設定しているので、積極的にチャレンジしてほしい。

科目名	多国籍企業論Ⅱ
教員名	張 承玖

【授業の内容】

事前に国際経営論の単位取得済である2年生以上の学生を対象とした、国際経営論の上級クラスと位置づける。
また、企業のグローバル・マネジメントに関するケースを中心に、講義形式ではなく、グループ学習し、その成果を発表してもらう。

【到達目標】

さまざまな国際ビジネス問題に関する「考え方や方法論の習得」と「国際ビジネス知見の獲得」を目的とすると同時に、授業の到達目標とする。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション1
- 第2回 オリエンテーション2
- 第3回 ザ・ウォルト・ディズニーのケース
ケースで取り上げたキーワードを各自復習し、顧客志向について考えてみる（60分）
- 第4回 シルク・ドゥ・ソレイユのケース
ケースで取り上げたキーワードを各自復習し、プルオーシャン戦略について考えてみる（60分）
- 第5回 ノキアのケース
ケースで取り上げたキーワードを各自復習し、ノキアの失敗理由について考えてみる（60分）
- 第6回 独BMWのケース
ケースで取り上げたキーワードを各自復習し、燃費とスピードの二律背反について考えてみる（60分）
- 第7回 中間解説
これまでの授業内容について復習（120分）
- 第8回 ユナイテッドアローズのケース
ケースで取り上げたキーワードを各自復習し、セレクトショップのビジネスモデルの有効性について考えてみる（60分）
- 第9回 ライアンエアーのケース
ケースで取り上げたキーワードを各自復習し、低コスト戦略の実現可能性について考えてみる（60分）
- 第10回 ヤマハ発動機のケース
ケースで取り上げたキーワードを各自復習し、組織マネジメントについて考えてみる（60分）
- 第11回 スクウェア・エニックス・ホールディングスのケース
ケースで取り上げたキーワードを各自復習し、それぞれの戦略の有効性について考えてみる（60分）
- 第12回 六花亭のケース
ケースで取り上げたキーワードを各自復習し、当社の戦略の有効性について考えてみる（60分）
- 第13回 キヤノンのケース
ケースで取り上げたキーワードを各自復習し、セル生産の必要性について考えてみる（60分）
- 第14回 パナソニックのケース
ケースで取り上げたキーワードを各自復習し、それぞれの戦略の有効性について考えてみる（60分）
- 第15回 総括
これまでの授業内容について復習（120分）

上記の授業計画は受講生の理解の度合い、進み具合によって、計画の修正・変更もあるので注意してほしい。

【授業の進め方】

まず、多国籍企業論Ⅰにおいて、企業のグローバル化とMNCに関する諸理論を学習し、それと関連するケースを『日経ビジネス』、『エコノミスト』などから選び、予め決めた各グループに発表日から3週間前までに配布し、受講生によるケース発表を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用せず
授業時にケースやレジュメなどを配布

【参考図書】

『国際ビジネス入門』
江夏健一・太田正孝・藤井健編、中央経済社。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

まず、授業への参加度（ケース発表およびコメント内容、積極性）を中心に、総合評価する。
定期試験は実施せず、平常点100%である。

課題80%の内容としては、ケース発表を行うにあたって、授業とは別に少なくとも5回以上のグループ学習（グループ・ディスカッションを含む）の成果が主な評価対象になる。

残りの受講態度20%はケースごとのリアクション・ペーパーの内容が主な評価対象になる。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

グループ学習活動に積極的かつ自主的に参加しないと失格とする。

【履修上の心得】

国際経営論を履修した2年生以上を対象とする。

【科目のレベル、前提科目など】

履修推奨年次は国際経営論の単位取得済の2年生以上である。事前に多国籍企業論Ⅰを受講していない学生でも履修可能である。

【備 考】

ケース発表などを通じて、まず考える力を身につけ(WHY)、問題点の発見、最適解の提示(HOW)に至るまで実際のビジネスに近い体験ができるように設定しているので、積極的にチャレンジしてほしい。

科目名	貿易商務論 I
	実社会で活用できる貿易の仕組みを学ぶ
教員名	貿易商務論担当教員

【授業の内容】

風俗・習慣・法律など多くのことが異なる外国との取引においては、どのような点に留意し取引をまとめ、実践していかなければならないかを研究する。

貿易売買契約の成立、契約履行過程における諸問題を取り扱う。

貿易実務に必要な取り決めがなぜ必要になったのかを考えることにより、社会人として必要な「考える」ということを習慣づける。

三菱商事、三井物産、伊藤忠商事のOBがそれぞれの商社の得意分野の商品群を題材に具体的に講義を行う。

【到達目標】

貿易取引に関する基本知識を習得。

貿易実務検定3級をクリアできる程度を目指す。

【授業計画】

- 第1回 貿易取引の仕組み
- 第2回 取引条件の仕組み（1）
- 第3回 取引条件の仕組み（2）
- 第4回 輸送の仕組み（1）
- 第5回 輸送の仕組み（2）
- 第6回 通関の仕組み（1）
- 第7回 通関の仕組み（2）
- 第8回 決済の仕組み（1）
- 第9回 決済の仕組み（2）
- 第10回 保険の仕組み
- 第11回 貿易書類の種類と役割
- 第12回 まとめ 取引条件（1）
- 第13回 まとめ 取引条件（2）
- 第14回 まとめ 輸送と保険
- 第15回 まとめ 貿易書類

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①はじめての人の貿易入門塾 ②黒岩 章 ③かんき出版

黒岩章著『はじめての人の貿易入門塾』かんき出版

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 20%
特記事項
定期試験
日常点

【履修上の心得】

「貿易商務論 I・II」の両方を履修することが望ましい。

【科目のレベル、前提科目など】

貿易取引研究の基本的レベル。

科目名	貿易商務論Ⅱ
	講師達が実際に体験した貿易を通じた国際ビジネスの現状を学ぶ
教員名	貿易商務論担当教員

【授業の内容】

風俗・習慣・法律など多くのことが異なる外国との取引においては、どのような点に留意し取引をまとめ、実践していかなければならないか研究する。

貿易商務論Ⅱでは、国際取引の事例を中心に貿易商務の実際を学ぶ。

三菱常時、三井物産、伊藤忠商事のOBが、実際に商社で行ってきた事例にそって、貿易実務をどのように実際に応用していくかを学ぶ。

【到達目標】

現在はマネジメント能力の1つとして、貿易取引に関する知識はますますその需要を増している。

そこで、貿易取引のスペシャリスト養成のためではなく、ジェネラリスト養成を目的とする。

【授業計画】

- 第1回 輸出相手国の潜在需要の推定
- 第2回 貿易の視点から捉えた日豪関係（その1）
- 第3回 繊維業界解説（原麴の輸入）
- 第4回 日本の輸入規制、相手国の輸入規制
- 第5回 貿易の視点からとらえた日豪関係（その2）
- 第6回 アパレル業界解説（おEM, 逆委託加工貿易）
- 第7回 カントリーリスク（リスク等）
- 第8回 ブランドビジネス解説（高級ブランド品の輸入）
- 第9回 貿易摩擦に自動車メーカーは如何に対応したか（その1）
- 第10回 貿易実務とサプライチェーン
- 第11回 貿易摩擦に自動車メーカーは如何に対応したか（その2）
- 第12回 ライセンスビジネス解説
- 第13回 外国資本の日本市場参入例
- 第14回 ネット通販解説
- 第15回 二輪車メーカーの海外進出は何故成功したか

【授業の進め方】

授業全般に亘って講義レジュメやパワーポイントを使用し、また適宜資料プリントやビデオを利用して進める

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書使用せず
レジュメ配布

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

レポート、日常点

【履修上の心得】

貿易商務論Ⅰを履修済、または並行履修していることを前提に授業を進める

【科目のレベル、前提科目など】

貿易取引研究の基本的レベル。

科目名	時事英語 I
教員名	藤森 吉之

【授業の内容】

AFP World News Archiveの映像ニュースに登場した最新の話題についてリスニング、リーディング、ディスカッション等を行い、英語力を高める授業である。

【到達目標】

現代社会で話題となっていることからについて、日本語でも英語でも思考しながら、単語力、聴解力、読解力、文法力、発話力等を高めることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 emojis (Listening)
- 第3回 emojis (Reading and Discussion)
- 第4回 robots (Listening)
- 第5回 robots (Reading and Discussion)
- 第6回 Shopping (Listening)
- 第7回 Shopping (Reading and Discussion)
- 第8回 volunteer overseas (Listening)
- 第9回 volunteer overseas (Reading and Discussion))
- 第10回 pop vs traditional cultures (Listening)
- 第11回 pop vs traditional cultures (Reading and Discussion)
- 第12回 foreign visitors (Listening)
- 第13回 foreign visitors (Reading and Discussion)
- 第14回 english in the office (Listening)
- 第15回 english in the office (Reading and Discussion)

* 授業準備として、以下の課題をこなしてくること。

(Listeningパート)

- ① (1) 設問に対する解答をノートに書く。(2) 各単語の定義を英英辞典で調べノートに写す。(3) その定義の和訳を考えてノートに書く。(4) 定義中の例文をノートに写す。(5) その例文の和訳を考えてノートに書く。
- ② (1) 動画を視聴して、設問に対する解答をノートに書く。(2) 設問中の英文をノートに写す。(3) その和訳を考えてノートに書く。
- ③ (1) 動画の音声を聞いて、空所に入る語句をノートに書く。(2) 発言者ごとの発言内容を簡潔な日本語でまとめノートに書く。(3) 授業時にスムーズな音読ができるまで、音読練習を行う。(4) 内容が理解できない部分をノートに抜き出し、質問できるように準備してくる。
- ④ (1) 動画を視聴して、設問に対する解答をノートに書く。(2) 設問中の英文をノートに写す。(3) その和訳を考えてノートに書く。
- ⑤ * サマリーの部分は事前準備不要。

(Readingパート)

文章部分 (1) 授業時にスムーズな音読ができるまで、音読練習を行う。(2) 内容が理解できない部分をノートに抜き出し、質問できるように準備してくる。

- ① (1) 設問に対する解答をノートに書く。(2) 各文の和訳を考えてノートに書く。
- ② (1) 設問に対する解答をノートに書く。(2) 各文(質問文も自分の解答文も)の和訳を考えてノートに書く。
- ③ (1) 設問に対する解答をノートに書く。(2) 各文の和訳を考えてノートに書く。

(Discussionパート)

- ① Column以外の全てを読み、Discussion TopicとOpinionに対するオリジナルな解答をノートに書く。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

- ①AFP World News Report 4 ②穴戸真 他 ③成美堂 ④20180120 ⑤2500円 ⑥9784791934232

【参考図書】

Longmont Active Study Dictionary

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 30% 授業内小試験 14% レポート・課題 28% 受講態度 28%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

遅刻・早退があった場合、受講態度のポイントは付与しない。

私語・居眠りがあった場合も、受講態度ポイントは付与しない。

【履修上の心得】

2回目の授業からは指定された座席で受講すること。

科目名	時事英語Ⅰ
	英語で学ぼう！時事問題Ⅰ
教員名	高畑 昭男

【授業の内容】

【誰でもわかる時事英語】国際社会で行われている英会話のほとんどは、日本の中学校～高校で学ぶレベルの英語で十分に通用する。中でも時事英語は、日本の新聞記事が「中学生程度で読解できること」を基準に書かれているのと同様に、カレントな話題を万人に提供できるように、難解な単語や表現をできるだけ避けて書かれている場合が多い（一部の高級紙を除く）。普段から日本語で時事ニュースに親しんでいれば、英語ニュースでも大意を推測しながら読み解くことができる。難解な単語に出会ったら、辞書を引けばよい。まずは「時事英語は難しい」という先入観を捨ててしまおう。

本講座は気楽に時事英語に親しむとともに、できるだけ平易な英語やシンプルな表現で自分の主張や意見を世界に発信する力をつけることを最大の目標とする。学生諸君が将来、国際人として海外でビジネスをしたり、国内で外国人客の相手をしたりする際に、最小限必要なレベルの英語力や時事問題の基礎知識を養う。並行して英文を日本語に置き換える和訳の力も養成する。

クラスはグループに分かれて随時ディスカッションをしたり、チームで課題に取り組むグループ学習などを取り入れた「参加型」をめざしている。時事英語の急所は、文法や単語力、語学の知識などよりも、まずは自分が明確な意見を持ち、相手にしっかりと伝えたい主張を持つことにある。この基本的認識を踏まえた上で、英語や外国人に対する恥じらいや恐怖心を取り払い、誰とでも親しく対話ができる「開かれた心」を養成していく。

日本語と英語を併用した映像教材を使った演習を中心とし、ほぼ毎回、短い英文や和訳を中心とする宿題を課す。きちんと宿題をこなす努力と積極性を必要とする。自らの頭脳と心、目、耳、口を駆使して、楽しく学んでいきたい。

【到達目標】

1. 英語の時事ニュースを読んだり、聞いたりして理解する力、相手に自分の考えを伝える力、和訳する力を養う。
2. 中学、高校レベルの平易な英語を通じて自分の意見や主張を表現し、世界に発信する力と技術を学ぶ。
3. 日本の政治、社会、文化などの情報を英語で海外に説明できる力と基礎知識をはぐくむ。
4. 外国の人々と気楽に対話ができる「開かれた心」を養う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション。時事英語とは何か。どんな役に立つか。海外で活躍する日本人が英語をどのように駆使しているかなどを紹介し、自分ならどうするかを考える。受講生は3人～6人程度の学習チームを編成し、チームディスカッションなどができる態勢を作る。
- 第2回 日本の文化、社会、習慣、料理などを外国に紹介したり、説明する際にどんな工夫が必要か。映像資料などをみて、チームで討論し、結果をクラスに報告する。課題として自分の意見や主張を表現する文章を作り、それを英訳する。
- 第3回 最近の時事ニュースを取り上げ、内容を理解する。どんな表現が使われているか。その意味、使い方、応用方法などを学ぶ。自分の意見を表現する短い文章を作り、英訳する。
- 第4回 時事ニュースを取り上げ、どんな表現が使われているか。その意味、使い方、応用方法などを学ぶ。短い文章を作り、英訳する。
- 第5回 日本の文化、社会、習慣、料理などを外国に紹介したり売り込むにはどんな工夫が必要か。チームで討論し、結果をクラスに報告する。短い文章を作り、英訳する。
- 第6回 時事ニュースを取り上げ、どんな表現が使われているか。その応用方法などを学ぶ。ニュースの内容などについてチームで討論し、報告する。短い文章を作り、英訳する。
- 第7回 時事ニュースを取り上げ、どんな表現が使われているか。その応用方法などを学ぶ。ニュースの内容などについてチームで討論し、報告する。自分たちで英語ニュースを作ってみる。
- 第8回 日本の文化、社会、習慣、料理などを外国に紹介したり、売り込むためにどんな工夫が必要か。チームで討論し、自分なりの答えを短い文章にまとめ、英訳する。
- 第9回 日本の文化、社会、習慣、料理などを外国に紹介したり、自分の意見や感想を文章にまとめるにはどうしたらよいか。シンプルな英語で自分の考えや主張をまとめる訓練をする。
- 第10回 時事ニュースを取り上げ、どんな表現が使われているか。その応用方法などを学ぶ。ニュースの内容などについてチームで討論し、報告する。同じような表現を使って、自分の意見や主張を英語で表現する。
- 第11回 時事ニュースを取り上げ、どんな表現が使われているか。その応用方法などを学ぶ。ニュースの内容などについてチームで討論し、報告する。自分の体験、意見や感想などをシンプルで分かりやすい英語で表現する。
- 第12回 日本の文化、社会、習慣、料理などを外国に紹介したり、説明するためにどんな工夫が必要か。チームで討論し、報告する。自分の意見や感想を短い文章にまとめ、シンプルな英語で表現する。
- 第13回 米大統領や日本の首相の演説などの映像資料をもとに、世界の指導者がスピーチをいかに工夫しているか。首相の演説を英語で海外に紹介するにはどうしたらよいか。実際に英語の演説草稿を作ってみる。
- 第14回 演習とドリル(1)。時事英語の応用方法などについてチーム作業を課す。

第15回 演習とドリル(2)。全体のまとめ。最終講義終了時に、個人ごとに期末レポートを提出する。

時事英語には独力で学ぶべき部分もあるが、チームを作って互いに話し合う作業も有効だ。英語で外国人に話しかける際の恥ずかしさを克服し、勇気を持って自分を表現する力を養う上でも、できるだけチーム作業や討論を活用したい。最も大切なことは、語学の知識や文法などよりも伝えたい中身である。自分が世界に向かって何を伝えたいのか、何をどう言いたいのかという意見や主張をしっかりと持つことが時事英語で上達する本道と言える。クラスでは、「語学よりも中身」を柱に据えて進めたい。また、チームの仲間と意見を交換し、他者のさまざまな意見に耳を傾けることで自分の意見を豊かにしていく姿勢も育てていきたい。

【授業の進め方】

1. 教材は基本的に毎回、講師が用意する。個人で題材を持ち寄るなど受講生からの自主的提案も大いに歓迎したい。
2. 3～6人程度のチームを編成し、チームごとに宿題の提出、討論、発表のとりまとめなどの作業をする。
3. 演習を中心に、ほぼ毎回、短文作成の宿題を課す。自分の意見や主張を英語で表現し、英文を和訳する力を養う。
4. 英語または日本語で期末レポートを提出する。期末試験はしない。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

とくに指定しない。普段から新聞、テレビのニュースに親しみ、身近な時事問題に関心を持って見聞を広めておく姿勢が不可欠である。

【参考図書】

とくに指定しない。英字新聞、雑誌、英語ニュースサイトなどに関心を持ち、こまめに目を通すようにしたい。まずは世界で起きていることに関心を持つこと。そのために、日本語の新聞を毎日読む癖をつけることが大切だ。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

(1)課題・宿題のできばえ40%、(2)期末レポート40%、(3)平常点20% (チーム作業、出席率、受講態度などを含む) をもとに評価する。期末試験はしない。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

1. 期末レポートや宿題で他人の答案の丸写しやいわゆる「コピペ」は厳禁である。発見次第、評価は0点とする。
2. 全ての授業回数の2/3以上に出席していることが成績評価を受ける必須条件である。

【履修上の心得】

1. 時事問題の基礎知識を踏まえた上で、2年生以上の履修を勧める。
2. 語学の習熟自体を目的としたクラスではないが、英文読解や和訳など中学・高校レベルの英語・文法の基礎知識は必須である。
3. 大切なことは日本語であれ英語であれ、明確な意見や主張を持ち、積極的に伝えようとする意志、意欲である。
4. 積極的な質問や意見の発表を歓迎する。積極的に質問する姿勢は成績評価に反映させる。

【科目のレベル、前提科目など】

時事英語の入門編。語学や文法よりも生きた英語を駆使して日本と世界の架け橋として積極的に発信していく態度を養うことをめざす。英語力を高めたいという向上心と意欲が何よりも必要だ。

【備考】

時事英語では難解な単語や文法は必要としない。それよりも自分が何を伝え、どんな主張をするかの中身が重要である。とはいえ、中学・高校レベルの基本的な例文ぐらいは理解していなければ話にならない。中学時代の英語教科書があれば、基本例文を読み返して頭に入れておくといよい。

科目名	時事英語Ⅱ
教員名	藤森 吉之

【授業の内容】

AFP World News Archiveの映像ニュースに登場した最新の話題についてリスニング、リーディング、ディスカッション等を行い、英語力を高める授業である。

【到達目標】

現代社会で話題となっていることがらについて、日本語でも英語でも思考しながら、単語力、聴解力、読解力、文法力、発話力等を高めることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 the paris agreement (Listening)
- 第3回 the paris agreement (Reading and Discussion)
- 第4回 social inequality (Listening)
- 第5回 social inequality (Reading and Discussion)
- 第6回 trading partnership (Listening)
- 第7回 trading partnership (Reading and Discussion)
- 第8回 japanese interpretation of foreign customs (Listening)
- 第9回 japanese interpretation of foreign customs (Reading and Discussion))
- 第10回 luxury tax (Listening)
- 第11回 luxury tax (Reading and Discussion)
- 第12回 space travel (Listening)
- 第13回 space travel (Reading and Discussion)
- 第14回 local food (Listening)
- 第15回 local food (Reading and Discussion)

* 授業準備として、以下の課題をこなしてくること。

(Listeningパート)

- ① (1) 設問に対する解答をノートに書く。(2) 各単語の定義を英英辞典で調べノートに写す。(3) その定義の和訳を考えてノートに書く。(4) 定義中の例文をノートに写す。(5) その例文の和訳を考えてノートに書く。
- ② (1) 動画を視聴して、設問に対する解答をノートに書く。(2) 設問中の英文をノートに写す。(3) その和訳を考えてノートに書く。
- ③ (1) 動画の音声を聞いて、空所に入る語句をノートに書く。(2) 発言者ごとの発言内容を簡潔な日本語でまとめノートに書く。(3) 授業時にスムーズな音読ができるまで、音読練習を行う。(4) 内容が理解できない部分をノートに抜き出し、質問できるように準備してくる。
- ④ (1) 動画を視聴して、設問に対する解答をノートに書く。(2) 設問中の英文をノートに写す。(3) その和訳を考えてノートに書く。
- ⑤ * サマリーの部分は事前準備不要。

(Readingパート)

文章部分 (1) 授業時にスムーズな音読ができるまで、音読練習を行う。(2) 内容が理解できない部分をノートに抜き出し、質問できるように準備してくる。

- ① (1) 設問に対する解答をノートに書く。(2) 各文の和訳を考えてノートに書く。
- ② (1) 設問に対する解答をノートに書く。(2) 各文(質問文も自分の解答文も)の和訳を考えてノートに書く。
- ③ (1) 設問に対する解答をノートに書く。(2) 各文の和訳を考えてノートに書く。

(Discussionパート)

- ① Column以外の全てを読み、Discussion TopicとOpinionに対するオリジナルな解答をノートに書く。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

- ①AFP World News Report 4 ②穴戸真 他 ③成美堂 ④20180120 ⑤2500円 ⑥9784791934232

【参考図書】

Longmont Active Study Dictionary

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 30% 授業内小試験 14% レポート・課題 28% 受講態度 28%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

遅刻・早退があった場合、受講態度のポイントは付与しない。
私語・居眠りがあった場合も、受講態度ポイントは付与しない。

【履修上の心得】

2回目の授業からは指定された座席で受講すること。

【科目のレベル、前提科目など】

時事英語Iが前提科目だが、時事英語IIを先に履修することも特に問題はない。

科目名	時事英語Ⅱ
	英語で学ぼう！時事問題Ⅱ
教員名	高畑 昭男

【授業の内容】

【誰でもわかる時事英語】国際社会で行われている英会話のほとんどは、日本の中学校～高校で学ぶレベルの英語で十分に通用する。中でも時事英語は、日本の新聞記事が「中学生程度で読解できること」を基準に書かれているのと同様に、カレントな話題を万人に提供できるように、難解な単語や表現をできるだけ避けて構成されている場合が多い（一部の高級紙を除く）。普段から日本語で時事ニュースに親しんでいれば、英語ニュースでも大意を推測しながら読み解くことができる。難解な用語や表現に出会ったら、辞書を引けばよい。まずは「時事英語は難しい」という先入観を捨ててしまおう。

本講座は、前期の時事英語Ⅰをさらに発展させて、やや高度な内容をめざす。ただし、気楽に時事英語に親しむと共に、できるだけ平易でシンプルな英語を通じて自分の主張や意見を海外に発信する力をつけることを最大の目標とする点は変わらない。学生諸君が将来、国際人として海外でビジネスをしたり、国内で外国人客の相手をしたりする際に、最小限必要なレベルの英語力や時事問題の基礎知識を養う。並行して英文を和訳する能力も高めていく。

クラスではグループに分かれてディスカッションをしたり、チームで課題に取り組むグループ学習などを取り入れた「参加型」をめざす。英語や外国人に対する恥じらいや恐怖心を取り払い、誰とでも親しく対話ができる「開かれた心」を養成していく。

日本語と英語を併用した映像教材による演習を中心とし、ほぼ毎回、短い英文や和訳を作成する宿題を課す。きちんと宿題をこなす努力と積極性を必要とする。自らの頭脳と心、目、耳、口を駆使して、楽しく学んでいきたい。

【到達目標】

1. 英語の時事ニュースを読んだり、聞いたりして理解する力、相手に自分の考えを伝える力、和訳する力を高める。
2. 中学、高校レベルの平易な英語を通じて自分の意見や主張を表現し、世界に発信する力と技術を学ぶ。
3. 日本の政治、社会、文化などの情報を英語で海外に説明できる力と基礎知識を深める。
4. 外国の人々と気楽に対話を始めることのできる「開かれた心」を養う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション。時事英語とは何か。どんな役に立つか。海外で活躍する日本人が英語をどのように生かしているかなどを紹介し、自分ならどうするかを考える。受講生は3人～6人程度の学習チームを編成し、チームディスカッションなどができる態勢を作る。
- 第2回 日本の文化、社会、習慣、料理などを外国に紹介したり、説明する際にどんな工夫が必要か。映像資料などをみて、チームで討論し、結果をクラスに報告する。課題として自分の意見や主張を表現する文章を作り、それを英訳する。
- 第3回 最新の時事ニュースを取り上げ、どんな表現が使われているか。その意味、使い方、応用方法などを学ぶ。自分の意見を表現する短い文章を作り、英訳する。
- 第4回 時事ニュースを取り上げ、どんな表現が使われているか。その意味、使い方、応用方法などを学ぶ。短い文章を作り、英訳する。
- 第5回 日本の文化、社会、習慣、料理などを外国に紹介したり売り込むにはどんな工夫が必要か。チームで討論し、結果を踏まえて短い文章を作り、英訳する。
- 第6回 時事ニュースを取り上げ、どんな表現が使われているか。その応用方法などを学ぶ。ニュースの内容などについてチームで討論し、報告する。短い文章を作り、英訳する。
- 第7回 時事ニュースを取り上げ、どんな表現が使われているか。その応用方法などを学ぶ。ニュースの内容などについてチームで討論し、自分たちで英語ニュースを作ってみる。
- 第8回 日本の文化、社会、習慣、料理などを外国に紹介したり、売り込むためにどんな工夫が必要か。チームで討論し、報告する。自分なりの答えを短い文章にまとめ、英訳する。
- 第9回 日本の文化、社会、習慣、料理などを外国に紹介したり、説明する際にどんな工夫が必要か。チームで討論し、報告する。自分の意見や感想を文章にまとめ、英語で表現する。
- 第10回 時事ニュースを取り上げ、どんな表現が使われているか。その応用方法などを学ぶ。ニュースの内容などについてチームで討論し、報告する。同じような表現を使って、自分の意見や主張を英語で表現する。
- 第11回 時事ニュースを取り上げ、どんな表現が使われているか。その応用方法などを学ぶ。ニュースの内容などについてチームで討論し、報告する。自分の体験、意見や感想などを英語で表現する。
- 第12回 日本の文化、社会、習慣、料理などを外国に紹介したり、説明するためにどんな工夫が必要か。チームで討論し、報告する。自分の意見や感想を短い文章にまとめ、英語で表現する。
- 第13回 米大統領や日本の首相の演説などの映像資料をもとに、世界の指導者がスピーチをいかに工夫しているか。首相の演説を英語で海外に紹介するにはどうしたらよいか。実際に英語で演説草稿を作ってみる。
- 第14回 演習とドリル(1)。時事英語の応用方法などについてチーム作業を課す。
- 第15回 演習とドリル(2)。全体のまとめ。最終講義終了時に、個人ごとに期末レポートを提出する。

時事英語には独力で学ぶべき部分もあるが、チームを作って互いに話し合う作業も有効だ。英語で外国人に話しかける際の恥ずかしさを克服し、勇気を持って自分を表現する力を養う上でも前期の時事英語Ⅰと同様に、できるだけチーム作業や討論を活用したい。大切なことは、語学の知識や文法などよりも「伝えたい中身」である。世界に向かって何を伝えたいのか、何をどう言いたいのかという意見や主張をしっかりと持つことが重要だ。「語学よりも中身」を柱に据えて進めていく。また、チームの仲間と意見を交換し、他者のさまざまな意見に耳を傾けることで自分の意見を豊かにしていく姿勢も深めていきたい。

【授業の進め方】

1. 教材は基本的に毎回、講師が用意する。個人で題材を持ち寄るなど受講生の自主的提案も大いに歓迎する。
2. 3～6人程度のチームを編成し、チームごとに宿題の提出、討論、発表のとりまとめなどの作業をする。
3. 演習を中心に、ほぼ毎回、短い宿題を課す。自分の意見や主張を英語で表現し、和訳する力を高める。
4. 英語または日本語で期末レポートを提出する。期末試験はしない。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

とくに指定しない。普段から新聞、テレビのニュースに親しみ、身近な時事問題に関心を持って見聞を広めておく姿勢が不可欠である。

【参考図書】

とくに指定しない。英字新聞、雑誌、英語ニュースサイトなどに関心を持ち、こまめに目を通すこと。英語以前の常識として、世界で起きていることに普段から関心を持つ姿勢が欠かせない。まずは日本語の新聞を毎日読む癖をつけることが大切だ。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

(1)課題・宿題のできばえ40%、(2)期末レポート40%、(3)平常点20%（チーム作業、出席率、受講態度を含む）――をもとに評価する。期末試験はしない。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

1. 期末レポートや宿題で他人の答案の丸写しやいわゆる「コピペ」は厳禁である。発見次第、評価は0点とする。
2. 全ての授業回数の2/3以上に出席していることが成績評価を受ける必須条件である。

【履修上の心得】

1. 時事問題の基本的認識が必要であり、2年生以上の履修を勧める。
2. 語学の習熟自体を目的としたクラスではないが、英文読解や和訳など中学・高校レベルの英語の基礎知識は必須である。
3. 大切なことは日本語であれ英語であれ、明確な意見や主張を持ち、積極的に伝えようとする意志、意欲である。
4. 疑問を放置せず、積極的に質問や意見を発表する姿勢を歓迎する。積極的な姿勢は成績評価に反映させる。

【科目のレベル、前提科目など】

時事英語の入門編だが、前期の時事英語Ⅰよりも高度な内容をめざしている。時事英語Ⅰを履修しておくことが望ましい。語学や文法よりも、生きた英語を駆使して日本と世界の架け橋として積極的に発信していく態度と意欲が不可欠である。

【備考】

難解な単語や文法は必要としない。それよりも国際人として自分が何を伝え、どんな主張をするかの中身が重要である。とはいえ、中学・高校レベルの基本的な例文ぐらいは理解していなければ話にならない。中学時代の英語教科書があれば、基本例文を読み返して頭に入れておくといよい。

科目名	異文化間コミュニケーション
教員名	Stephanie Yuuko Iso

【授業の内容】

「異文化コミュニケーション」とは何か。この言葉には「文化」と「コミュニケーション」の2つのキーワードがある。この2つを軸に「異文化間コミュニケーション」で起こる誤解が書き言葉や話し言葉を単に理解することだけに止まらないことを学んでいく。

本講義は選択科目である。講義形式ではなく、自分の意見を述べるとともに、出席者と議論する事が求められる。

【到達目標】

文化の違う者同士がコミュニケーションを図ろうとする時、なぜ誤解が生じてしまう場合があるのか、その要因を理解することを目標とする。

また似たような場面が自分の身近で起こった時、相手や環境に対して理解を示せる寛容さと共感をもてるようになることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 イントロダクション（第1回の授業内容の再確認）、日本文化の要素
復習：30分
- 第3回 文化とは？
復習：30分
- 第4回 コミュニケーションとは？
復習：30分
- 第5回 コミュニケーションに使用される言語について
復習：30分
- 第6回 文脈における言語、会話の中に見られる行動
復習：30分
- 第7回 会話と表情の関係性
復習：30分
- 第8回 会話のスタイル、話し方の地域性、性別
復習：30分
- 第9回 文脈の重視と軽視
復習：30分
- 第10回 文化と非言語的コミュニケーション
復習：30分
- 第11回 ジェスチャーとコミュニケーション
復習：30分
- 第12回 物理的な空間と間合い
復習：30分
- 第13回 プレゼンテーション
復習：30分
- 第14回 授業内課題（小論文）
- 第15回 まとめ

【授業の進め方】

日本語による授業である。

講義形式の授業ではない。積極的に発言することが求められる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①初回授業時に指示する

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 20% レポート・課題 30% 受講態度 50%

特記事項

「レポート・課題」の内訳：

プレゼンテーション 20%、授業内課題（小論文）10%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

6回以上欠席の場合はH、つまり不合格となる。出席するだけで合格になるわけではない。

成績評価は、各自でプレゼンテーションを行い、授業内課題である小論文を提出することが前提である。

【履修上の心得】

積極的に議論に参加できる学生に受講して欲しい。また教員を含め互いに学び合う姿勢をもち、互いの意見を尊重し合う環境を作り上げていく努力をして欲しい。

科目名	異文化理解
	国境を越える人間の移動を考える、各国の移民の例を中心に
教員名	川上 代里子

【授業の内容】

グローバルゼーションという言葉が盛んに使われるようになってから、随分時間が経った。グローバルゼーションは、様々なものが容易に「国境を越える」という現象を指す言葉だが、本講義では、この様々なものの中から「人間」が国境を越えることに焦点を当てる。今日グローバルゼーションのもと、国境を越えた人間の移動が、世界的な規模で拡大を続けている。人間の国際移動は、経済、人口、政治、文化、言語、教育、就労など様々な領域に関わる問題であり、社会科学、人文諸科学を含めた多くの研究領域において、さまざまなテーマと関わりながら、論じられてきた。本講義のテーマは「国境を越える人間の移動とそれのもたらす帰結」である。そして、この現象を研究する学問分野のうちの一つである国際社会学について、その概要を学んでいく。

国境を越えて国際移動をする者は、一般に国際移民、または移民と呼ばれる。本講義では、「人はなぜ移民するのか」、「移民の受入国の人々は彼らをどのように受け入れるのか」、「移民は受け入れ先の国でどのように暮らしていくのか」などについて、各国の具体例を挙げながら紹介していく。

近年欧米諸国では、移民の存在が多くの議論や軋轢を引き起こしている。さらに日本も1970年代末から新来外国人の本格的な流入を経験してきており、この問題は皆さんの身近な問題でもある。講義を通じて、最終的には、この問題についての自分なりの考えを持って欲しいと思う。

【到達目標】

「国境を越える人の移動」を、自分の身近な問題としてとらえ、考えられるようなることを目標とする。そのため、これらの問題をテーマとした報道などで用いられる用語や背景知識を身につけることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 国際人口移動の基礎知識(1)人種という概念、民族とエスニシティ：授業で取り上げたキーワードを各自復習する(15分)。
- 第3回 国際人口移動の基礎知識(2)国家とナショナリズム：授業で取り上げたキーワードを各自復習する(15分)。
- 第4回 第二次世界大戦以前の国際人口移動(1)奴隷労働と半強制契約労働：授業で確認した背景となる世界史の知識は各自で復習しておく(20分)。
- 第5回 第二次世界大戦以前の国際人口移動(2)入植移民—アメリカ、カナダの事例
- 第6回 移民から見るアメリカ(1)移民受け入れの歴史：ここまでの北米史の流れについて、各自で復習しておく(15分)。
- 第7回 第二次世界大戦以後の国際人口移動(1)労働移民—ヨーロッパの事例
- 第8回 第二次世界大戦以後の国際人口移動(2)家族合流移民—ヨーロッパ、アメリカの事例：戦後ヨーロッパが移民を多く受け入れた理由について、授業の内容を各自で確認しておく(15分)。
- 第9回 第二次世界大戦以後の国際人口移動(3)非合法移民、高度技能移民：石油ショック以後の先進国の移民受け入れ方針の転換について、授業の内容を各自で確認しておく(20分)
- 第10回 移民から見るアメリカ(2)社会のエスニック状況
- 第11回 第二次世界大戦以後の国際人口移動(4)難民の歴史
- 第12回 第二次世界大戦以後の国際人口移動(5)難民問題の現在：ヨーロッパにおける難民の現状について、過去の歴史と照らし合わせて考える。そのため、授業の内容を各自で確認しておく(20分)
- 第13回 社会はどのように移民を受け入れるのか(1)労働と地域の問題
- 第14回 社会はどのように移民を受け入れるのか(2)教育：移民を社会に受け入れるうえで課題となることは何か考えてみる。そのため授業の内容を各自で確認しておく(20分)
- 第15回 まとめ

【授業の進め方】

レジメに基づく講義形式の授業である。レジメや資料は随時配布する。上記の内容の講義が中心となるが、テーマごとに自分の意見をまとめて書いたものを提出してもらうことがある。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①使用しない

プリントを使用する

【参考図書】

カースルズ/ミラー 著『国際移民の時代[第4版]』名古屋大学出版会 2011年
 植本英樹著『よくわかる国際社会学』ミネルヴァ書房、2009年
 多文化共生キーワード事典編集委員会編『[改訂版]多文化共生キーワード事典』明石書店2010年

ブライアン・キリー著、OECD編『よくわかる国際移民』明石書店2010年
白水繁彦『エスニック・メディア研究』明石書店2004年
駒井洋監修『グローバル化する日本と移民問題』[全六巻] 明石書店
明石紀雄・飯野正子『エスニック・アメリカ』有斐閣選書1997年
木村和男編『カナダ史』山川出版社1999年

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 90% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 10%

特記事項

受講態度は、授業内で指示した作業(特定のテーマについて自分の意見を書く)の提出状況などを評価します。

【履修上の心得】

履修人数にもよるが、講義の際に特定の問題について、自分なりに考え意見を書いて提出してもらうことがある。その際、「どのような意見を述べたか」によって評価が決まることはないので、安心して欲しい。テーマとなる問題について、自分なりに考え、意見をまとめてそれを書くという作業をすること自体が大切である。まずは簡単で良いので自分なりの意見を持ち、それをフィードバックして欲しい。ただ出席するだけでなく、提示した課題に取り組み、積極的に授業に参加してもらいたい。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目：特になし。

履修対象年次：1年次から。

特別な知識は必要としないが、世界史に興味を持ち、国境を越える広い視野で物事を考えようという姿勢で講義に臨んで欲しい。

科目名	異文化理解
	※英語で行う授業
教員名	Stephanie Yuuko Iso

【授業の内容】

Cross Cultural Understanding is a course designed to give the student a brief look at factors to consider when people of different cultures come together. The second half of the course will consider the example of the development of the culture of the Japanese and Okinawan immigrants to Hawaii. This is an elective oral English discussion course.

本講義では、異なる文化をもった人たちがひとつの「場」に集まった時に起こり得る様々な要素を考えていく。

授業の後半では、ハワイへ移住した日本人とオキナワン(沖縄系移民)を例に理解を深めていく。

本講義は英語で進行され、ディスカッション中心の授業である。そのため、積極的に発言し、理解を深める努力を惜しまない学生に履修して欲しい。

【到達目標】

It is hoped that by the end of the course students will have a better understanding of why misunderstandings can occur when people from different cultures come together. It is hoped that the increased awareness will encourage tolerance and empathy in any cross-cultural encounter.

異なる文化をもつ者同士が集まる事により生じる誤解には様々な要因がある。それらの要因を本講義を通して理解していくことが目標である。

様々な違いがある事を意識することで、例えば身近にいる外国人が直面するであろう問題に対して、寛容さと共感をもつ事ができる立場となって欲しい。

【授業計画】

- 第1回 Introduction to the course
イントロダクション：成績評価の方法や履修上の注意点などを説明する
- 第2回 Introduction to the course; class culture
イントロダクション：第1回の内容の再確認の他、教室内での「文化」についての説明
- 第3回 What is “culture”?
「文化」とは何か？
復習：30分
- 第4回 Viewing other cultures
異文化を考える
復習：30分
- 第5回 Culture and identity
文化とアイデンティティ
復習：30分
- 第6回 Living in another culture
異文化の中で暮らすとは？
復習：30分
- 第7回 Cultural conflict
文化的な対立
復習：30分
- 第8回 Cultural development: Japanese and Okinawan immigration
文化的発展: 日本人移民と沖縄系移民
復習：30分
- 第9回 Cultural development: Japanese and Okinawan immigration to Hawaii
文化的発展: 日本人(日系人)と沖縄系移民(オキナワン)のハワイへの移住
復習：30分
- 第10回 Plantation society in Hawaii
ハワイのプランテーション文化
復習：30分
- 第11回 A Failure to Understand – U.S. mainland and Hawaii Experience
理解への失敗ーアメリカ本土とハワイの経験から
復習：30分
- 第12回 Multi-cultural society – Hawaii
多文化社会ーハワイ

プレゼンテーションの準備を各自進める。
復習：30分

第13回 Retaining culture in a multicultural society – the example of Okinawans in Hawaii
多文化社会の中で生き残る文化ーハワイのオキナワンを例に

プレゼンテーションの準備を各自進める。

復習：30分

第14回 Project presentation

プレゼンテーション

第15回 Approaching other cultures, Final essay

他文化へのアプローチと小論文の提出

【授業の進め方】

Classes will be conducted in English. This is not a lecture style class. Active participation will be expected and required.

英語で授業は進められる。

講義形式の授業ではない。

積極的に発言することを求める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①初回授業時に指示する

The textbook for the course will be announced in the first class session.

初回授業時に指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 20% レポート・課題 30% 受講態度 50%

特記事項

Participation (50%)

Quizzes and reaction papers (20%)

Individual project (20%)

In-class final essay (10%)

レポート・課題の内訳：プレゼンテーション (20%)、小論文課題 (10%)

【「成績評価の方法」に関する注意点】

Students absent more than five times will automatically receive a failing grade. Attendance alone does not guarantee a passing grade.

The individual project and in-class final essay must be completed in order to qualify to receive a grade for the course.

6回以上欠席の場合はH、つまり不合格となる。また出席する事だけで単位修得とはならない。

成績評価は、各自が行うプロジェクト（プレゼンテーション）と小論文を授業内に提出する事が前提である。

【履修上の心得】

Only students who are willing to participate using English should take the course. Translation from English to Japanese will not be provided. It is expected that all students taking the course will understand the English language environment of the classroom. All students will be expected to help maintain this English language environment with their effort and attitude, in cooperation with the teacher.

英語で積極的に議論したい学生に受講して欲しい。英語のみの授業環境であることを理解し、全学生が教員と共にその環境を保つ努力と協力をすることを前提とする。

科目名	外書講読 I (山田覚)
教員名	山田 覚

【授業の内容】

本講義の目的は、これまで学習してきた会計学に関する基礎知識を前提に、アメリカの読みやすい代表的な文献を用いて、たとえ大げかみであっても「会計学とは何か」を思弁的に論究して、原理的な認識をもつこと、そのことを通じて手にした「地図」によって、財務会計と管理会計、あるいはそれら各種の専門領域の位置や全体との関連を認識することにある。

【到達目標】

会計学を中心とした専門用語などを英語で理解することにより、英文財務諸表を読みこなす能力が身に付き、これから国際社会で活躍しようとしている向学心旺盛な学生諸君や大学院への進学を希望している学生にとっても、原書をひもとくよき手がかりとなるよう努力したい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Balance Sheet
- 第3回 Basic Accounting Concepts: Dual-Aspect Concept
- 第4回 Money-Measurement Concept, Entity Concept, Going-Concern Concept
- 第5回 Accounting Record and Systems: Accounts
- 第6回 Ledger and Journal
- 第7回 Income Statement: Revenues and Expenses
- 第8回 Accrual Accounting
- 第9回 Conservatism Concept, Materiality Concept
- 第10回 Realization Concept, Matching Concept
- 第11回 Inventory and Cost of Sales
- 第12回 Cost Accounting
- 第13回 Noncurrent Assets and Depreciation
- 第14回 Liabilities and Equity
- 第15回 総合的復習

【授業の進め方】

毎回の講義では、受講生に本文を読み、日本語訳の報告を求め、必要に応じてその内容の解説、検討を行う。その際、受講生全員に平等に報告してもらえよう配慮する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

初回講義において、使用する教材用プリントを配布する。

【参考図書】

新井清光編『英和和英会計経理ハンディ辞典』中央経済社、その他

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 60%

特記事項

出席状況を含む講義への取り組み姿勢およびレポートの質に基づいて成績評価を行う。試験は実施しない。
講義最終日にレポート（本講義分すべての日本語訳、原則としてワープロ印刷したもの）の提出を求める。

【履修上の心得】

毎回、事前に次回講義の予定範囲を指示するので、十分な予習をして講義にのぞむこと。また、『英和辞典』を必ず持参すること。

【科目のレベル、前提科目など】

関連科目：会計学、工業簿記論、原価計算論Ⅰ、原価計算論Ⅱ、管理会計論Ⅰ

科目名	外書講読 I (西谷)
教員名	西谷 勢至子

【授業の内容】

本講義の目的は、英語で書かれたケーススタディを読むことによって、ビジネス英語の専門用語の語彙を増やし、専門性の高い英語の文章を読む経験を積むことにある。また、ケーススタディの内容は「企業のリーダーが、いかなる問題に直面し、その課題をいかに解決させたか」をまとめたものであり、事例から企業戦略を学ぶことも目的とする。

講義は、リーディングと重要な語句の理解を中心としながら、文章に対する設問を解いたり、CDを用いて文章の音声を聞いたり、リスニングを行ったりすることを通して、専門性の高い英語の読解力を身に付けることを目指す。

本講義は、専攻分野の知識を深めるために、あるいは卒業論文のために、日本語に翻訳されていない英語の論文や資料を読みたい人、また、将来、社会人となったときに備えて、経営に関する英語の専門用語の語彙を増やしたい人、英語の文章に慣れておきたい人を対象とする。

【到達目標】

- ・経営に関する英語の語彙、表現の知識を増やす
- ・一定の長さの経営に関する英文が読めるようになる
- ・実際の企業が置かれた環境とそれに対する企業の戦略を説明できるようになる
- ・ケーススタディを通じ、企業が直面する課題を解決させる思考力を養う

【授業計画】

- 第1回 ケーススタディとはなにか (予習40分、復習10分)
 第2回 インテル① (予習40分、復習10分)
 第3回 インテル② (予習40分、復習10分)
 第4回 インテル③ (予習40分、復習10分)
 第5回 株式会社良品計画① (予習40分、復習10分)
 第6回 株式会社良品計画② (予習40分、復習10分)
 第7回 サッポロビール① (予習40分、復習10分)
 第8回 サッポロビール② (予習40分、復習10分)
 第9回 サッポロビール③ (予習40分、復習10分)
 第10回 資生堂① (予習40分、復習10分)
 第11回 資生堂② (予習40分、復習10分)
 第12回 明月堂① (予習40分、復習10分)
 第13回 明月堂② (予習40分、復習10分)
 第14回 東芝① (予習40分、復習10分)
 第15回 東芝② (復習60分)

【授業の進め方】

英語のビジネスケースを用いて企業戦略を学ぶことを目指した教科書を用いる。予習として、事前に宿題（主に日本語訳）を課し、授業は、質疑応答形式で教科書を進める。また、授業のノートはレポートとして提出を求め、成績評価の対象とする。毎回の授業の最後には、授業時に学習した内容を問う、授業内課題（テキストの設問や単語、復習問題など）の提出を求める。

英語を学習する、企業戦略を学習するといった授業と比べると、本講義は、英語で企業戦略を学ぶという複数の目的を持つため、ビジネスケースの数を増やすことは目的とせず、一つひとつの事例にじっくりと丁寧に取り組む（授業計画通りの進行よりも、受講生の理解度に合わせることを優先する）。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①Global Leadership ②中谷安男、Ryan Smithere ③金星堂 ④2015年 ⑤2052円 ⑥978-4-7647-4001-3

第2回のインテルの事例の前半部分のみ、教科書のコピーを配布する。そのため、教科書は、第1回の授業時に受講を決定した後に購入しても問題ない（第1回の授業前に購入することも可）。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

- ・「レポート」：宿題の答え合わせや授業で学習した内容を記録したノートによる評価（50%）と毎授業ごとに実施する授業内課題の提出による評価（30%）
- ・「受講態度」：授業内に行う和訳や質疑応答の熱心さ
- ・積極的な発言や質問などにより、授業に貢献した学生に対しては、上記の評価とは別に加点する

【「成績評価の方法」に関する注意点】

定期試験は実施せず、授業のノートとしてのレポート、受講態度（指定された部分の和訳など）、授業内課題が評価の基準となるため、毎週の予習と復習、出席が必要になる。理由のある欠席は必ず申し出ること。

【履修上の心得】

- 授業には必ず「辞書」を持参すること。
- 本講義の目的は、専門性の高い英語の文章を読めるようにすることにある。そのために、英文を日本語にする訓練を重要視する。宿題として予習に取り組むことでその目的の達成に努めてもらいたい。

科目名	外書講読 I (鈴木)
	グローバルビジネス英語
教員名	鈴木 仁里

【授業の内容】

ビジネスのグローバル化が現代企業の基本命題となっている昨今、その基本ツールとなっている英語力を学生時代に鍛錬することは今後の学生生活、社会人生活において重要な挑戦的課題の1つであろう。とりわけ、英語でビジネスを捉え、議論していく一連の思考能力とコミュニケーション能力は、今後グローバルなキャリアを目指す学生にとって大きな武器になる。本講義では、今後学生が目指すキャリアの起点となる、グローバルビジネスに関連する語彙力強化、英文で書かれた事例文の読解とそれに基づく討論、を中心に前述の能力養成を図る。したがって、専門性の高いグローバルビジネス英語の習得、および事例と国際ビジネス研究との繋がりへの理解の2点を目指すことを主たる目的とする。

【到達目標】

- ・グローバルビジネス英語の習得（語彙や表現など）
- ・グローバルビジネス英文（事例）と国際ビジネス研究との繋がりへの理解
- ・グローバルビジネス英文（各自の関心に基づいて探索）と国際ビジネス研究との繋がりへの説明

【授業計画】

第1回 イントロダクション（授業計画・授業内容・成績評価・到達目標説明、外書購読の価値とは何か？）

予習：履修登録確認&テキスト購入／復習：講義範囲（60分）

第2回 ディズニー、ITを駆使した新店舗構想①

予習：テキストUnit1（60分）／復習：講義範囲（60分）

第3回 ディズニー、ITを駆使した新店舗構想②

予習：テキストUnit1（60分）／復習：講義範囲（60分）

第4回 インテル、新たな広告キャンペーン展開①

予習：テキストUnit2（60分）／復習：講義範囲（60分）

第5回 インテル、新たな広告キャンペーン展開②

予習：テキストUnit2（60分）／復習：講義範囲（60分）

第6回 小売り企業、環境指標の提案へ①

予習：テキストUnit3（60分）／復習：講義範囲（60分）

第7回 小売り企業、環境指標の提案へ②

予習：テキストUnit3（60分）／復習：講義範囲（60分）

第8回 授業内小試験Ⅰ、グループワーク

予習：小試験対策（60分）／復習：講義範囲（60分）

第9回 スターバックス、原点に戻り復活①

予習：テキストUnit6（60分）／復習：講義範囲（60分）

第10回 スターバックス、原点に戻り復活②

予習：テキストUnit6（60分）／復習：講義範囲（60分）

第11回 有名ブランドと氾濫する違法コピー①

予習：テキストUnit8（60分）／復習：講義範囲（60分）

第12回 有名ブランドと氾濫する違法コピー②

予習：テキストUnit8（60分）／復習：講義範囲（60分）

第13回 アジア、食生活の変化で健康食品ブーム到来？①

予習：テキストUnit11（60分）／復習：講義範囲（60分）

第14回 アジア、食生活の変化で健康食品ブーム到来？②

予習：テキストUnit11（60分）／復習：講義範囲（60分）

第15回 授業内小試験Ⅱ、グループワーク

予習：小試験対策（60分）／復習：講義範囲（60分）

【授業の進め方】

グローバルビジネス事例を取り入れた英文が記載されたテキストをベースに授業を進行する。事前に和訳してきた内容を受講生各自が発表し合い、都度適切な表現や語彙を確認していく。テーマによっては授業の最後にはグループごとに重要部分や個々の課題や最新トピックスなどについて確認、議論、発表し合い、次週の講義に活かしていく。授業は、楽しみながら真剣にみんなで授業を創りながら進めていく方針である。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①Global Trends in Business 最新国際ビジネス事情 ②塩見佳代子／大木久嵩／Richard Silver ③金星堂 ④2011年
⑤¥2,052（税込） ⑥978-4-7647-3924-6

その他、参考図書、雑誌記事に関しては必要に応じて講義内で案内、共有予定。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 40% レポート・課題 40% 受講態度 20%

特記事項

レポート、授業内小試験、受講態度による総合的な評価を行う。

「レポート」：毎講義で事前に和訳してきたレポートを評価の対象とする（授業時に自ら採点し、終了時に提出）。必ずボールペンで丁寧に書く事（wordでも可）。

「授業内小試験」：本講義の中盤と最終に計2回グローバルビジネスに関する英文に関するテストを行う。

「受講態度」：授業中の積極的な参加姿勢、出席状況など

【履修上の心得】

講義の進捗、および評価において、事前の予習や復習が重要となるため真剣に取り組むこと。授業には辞書を必ず持参すること。

楽しく真剣にグローバルビジネスを英語で学びたい学生の集中力を最優先に講義を進めていく。そのため、その集中力を妨げる行為（私語、遅刻、無断退出、居眠り、非協力的な態度など）は厳禁とする。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目としてマーケティング、国際経営論を履修していることが望ましいが、未履修でも学びたいという熱意があれば参加は大いに歓迎する。

科目名	外書講読Ⅱ(黒田勉)
	組織(企業)文化とインフォーマル組織
教員名	黒田 勉

【授業の内容】

★受講生の主な対象

「英語がとても“苦手”だけど、原文のビジネス書を理解できるようになりたい」、と思っている人。
「引込みがち”だけど、こんどは何とかしたい」、と思っている人。

★外書講読の必要性

最近の企業は規模の大小を問わずに、主力製造拠点だけでなく、なかには本社機能までも海外に移転するケースが出てきています。また、成熟した日本国内では十分な利益を得られないために、海外にも目を向けざるを得ない企業も続出してきているのが現状です。ですから、多様性に富んだ人たちとコミュニケーションを交わす機会が一段と増えてきています。そのようにビジネスの世界は常に変化していますから、状況の多様性に対して社内の多様性を用意して応えるという時間的余裕はありませんので、言語の重要性については、第一に共通性を持った言語、そして次に現地の言語という順番になってしまいます。その前者の中心的な役割を果たすのが英語であることは、皆さんたちも知っているはずで、会話だけでなく、当然、ビジネスの文書の多くが英語になっているわけです。

この授業では、英文をわかりやすい日本語に直すということだけでなく、英文の内容も理解してビジネス知識を得てしまおうと思います。そこで、次のプロセスを採ることにします。

《英語のビジネス書→日本語の訳(含む：訳のコツ)→内容の理解→論じ合う》

【到達目標】

◎辞書(含む：スマートフォン)さえあれば英文を、やさしい日本語に訳せるようになること。

◎英文のビジネス書の内容が理解でき、新鮮な知識を得ること。

【授業計画】

第1回 今後の授業内容、授業に必要な物、予習方法を述べる。

<復習30分>

第2回 組織(企業)文化の定義

<予習30分>

第3回 具体的な組織文化

<予習30分>

第4回 マクドナルドの文化

<予習30分>

第5回 組織文化の否定的な面

<予習30分>

第6回 組織文化と企業目的

<予習30分>

第7回 最良な組織

<予習30分>

第8回 組織内での決まり事

<予習30分>

第9回 二つの組織システム

<予習30分>

第10回 フォーマル組織の定義

<予習30分>

第11回 インフォーマル組織の定義

<予習30分>

第12回 両組織の関連性

<予習30分>

第13回 インフォーマル組織に注目する必要性

<予習30分>

第14回 インフォーマル組織と従業員行動

<予習30分>

第15回 これまでの授業内容の整理

<復習30分>

【授業の進め方】

- ・受講生に対しての質疑応答形式で、「主人公は受講生」という位置づけで授業を行います。
- ・急いでたくさん進むことはなく、「ゆったり」とした雰囲気、「ゆっくり」と進みますので、一授業でこなす量はかなり少なくなります。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

プリントを使用

【参考図書】

適時、指示します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

定期試験：配布プリントからは出題しませんが、それと同レベルの問題

【「成績評価の方法」に関する注意点】

受験資格は「白鷗大学試験規則」第2条を順守します。

<受験資格は授業時数の三分の二以上出席した者に与えられる>

【履修上の心得】

◎これまで英語が苦手であっても、「気分一新してやり直したい」・「今度は根気強く臨むんだ」と決心してさえいれば、学年を問いません。

◎授業はとにかく「ゆっくり」と進みます。

◎必ず「辞書」（含：電子辞書類、スマートフォン）および「専用ノート」を持参してください。

◎授業開始までに必ず、原文をノートに書いておいてください。

【科目のレベル、前提科目など】

科目レベルは難しいわけではありませんし、また前提になる科目もありません。

【備 考】

定期試験の時は携帯電話類は持ち込めませんので、紙製の辞書あるいは電子辞書を使用してください。

科目名	会社法 I
教員名	高橋 紀夫

【授業の内容】

共同企業形態である会社企業、とりわけ株式会社は、現代の経済社会において重要な地位を占め、また重要な機能を果たしています。企業活動および企業組織のルールブックともいえる会社法の種々の規定や制度について、具体的事例および実務も踏まえつつ、その機能を理解していくことにします。平成26年会社法改正にも対応します。また、最近の株式会社にかかわる時事問題についても言及していくつもりでいます。なお、「会社法 I」と「会社法 II」は、「会社法」のそれぞれ前半分野と後半分野であり、本来体系的には一つの科目です。したがって、できるかぎり「会社法 II」も併せて履修してください。

【到達目標】

会社法の体系的理解を目指します。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 会社法総論
- 第3回 会社の種類、種々の会社
- 第4回 会社の意義・概念
- 第5回 会社の能力
- 第6回 株式会社の設立手続
- 第7回 発起人の権限
- 第8回 設立関与者の責任、設立の瑕疵
- 第9回 株式の種類、株主平等原則
- 第10回 株主名簿
- 第11回 株式譲渡の制限
- 第12回 株式会社の機関
- 第13回 株主総会
- 第14回 株主の議決権
- 第15回 株主総会決議の瑕疵

第2回～第15回の予習時間（目安）は2時間であり、同復習時間（目安）は1時間です。

【授業の進め方】

教科書を使用して授業を進めますが、適宜プリントも配布します。アクティブ・ラーニングの視点から、各回の授業時間の最後に次回の予習範囲を具体的に明示し、学習の仕方を解説しますので、必ず自分で問題点を発見・分析し、解決策を検討してきてください。また、各回の授業時間の最初に前回の重要な論点・争点について解説し、各自の復習も踏まえて理解できていたか確認してもらいます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①会社法（第2刷） ②高橋紀夫 ③嵯峨野書院 ④2016年
- ①六法

【参考図書】

岩原紳作他編『別冊ジュリスト会社法判例百選 [第3版]』（有斐閣、2016年）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項
 期末試験（定期試験） 100%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席は取りませんが、授業には出席してください。

【履修上の心得】

きちんと予習をしてきてください。復習については、各自のやり方で結構です。

【科目のレベル、前提科目など】

基礎的な法律科目です。できるかぎり「会社法 II」も併せて履修してください。

【備 考】

特にありません。

科目名	会社法Ⅱ
教員名	高橋 紀夫

【授業の内容】

共同企業形態である会社企業、とりわけ株式会社は、現代の経済社会において重要な地位を占め、また重要な機能を果たしています。企業活動および企業組織のルールブックともいえる会社法の種々の規定や制度について、具体的事例および実務も踏まえつつ、その機能を理解していくことにします。平成26年会社法改正にも対応します。また、最近の株式会社にかかわる時事問題についても言及していくつもりでいます。なお、「会社法Ⅰ」と「会社法Ⅱ」は、「会社法」のそれぞれ前半分野と後半分野であり、本来体系的には一つの科目です。したがって、できるかぎり「会社法Ⅰ」も併せて履修してください。

【到達目標】

会社法の体系的理解を目指します。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 取締役
- 第3回 取締役会
- 第4回 代表取締役
- 第5回 取締役の義務・報酬規制
- 第6回 取締役の対会社責任
- 第7回 代表訴訟、取締役の対第三者責任
- 第8回 監査役・監査役会、会計参与、会計監査人
- 第9回 監査等委員会設置会社、指名委員会等設置会社
- 第10回 社債、新株発行、新株予約権・新株予約権付社債
- 第11回 計算、剰余金の配当
- 第12回 事業譲渡、合併、会社分割
- 第13回 株式交換、株式移転、簡易組織再編行為、略式組織再編行為
- 第14回 会社の解散と清算
- 第15回 持分会社

第2回～第15回の予習時間（目安）は2時間であり、同復習時間（目安）は1時間です。

【授業の進め方】

教科書を使用して授業を進めますが、適宜プリントも配布します。アクティブ・ラーニングの視点から、各回の授業時間の最後に次回の予習範囲を具体的に明示し、学習の仕方を解説しますので、必ず自分で問題点を発見・分析し、解決策を検討してきてください。また、各回の授業時間の最初に前回の重要な論点・争点について解説し、各自の復習も踏まえて理解できていたか確認してもらいます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①会社法（第2刷） ②高橋紀夫 ③嵯峨野書院 ④2016年
- ①六法

【参考図書】

岩原紳作他編『別冊ジュリスト会社法判例百選 [第3版]』（有斐閣、2016年）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項
 期末試験（定期試験） 100%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席は取りませんが、授業には出席してください。

【履修上の心得】

きちんと予習をしてきてください。復習については、各自のやり方で結構です。

【科目のレベル、前提科目など】

基礎的な法律科目です。できるかぎり「会社法Ⅰ」も併せて履修してください。

【備 考】

特にありません。

科目名	民法 I
教員名	新井 弘明

【授業の内容】

明るく、楽しい人生を送るためには、自分たちのルールを知ることも必要です。民法は、そのようなルールの一つです。

身近な法律の一つである民法の基本的事項について、できるだけ具体的な事例を挙げながら講義を進めていきます。

【到達目標】

この講義では、民法の基本的事項を習得することが目的です。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス：講義のすすめ方、勉強方法、教材、民法の基本的概念等について説明します。
- 第2回 権利主体
- 第3回 法律行為
- 第4回 物
- 第5回 代理
- 第6回 時効
- 第7回 物権の意義、物権変動
- 第8回 所有権
- 第9回 担保物権の意義
- 第10回 抵当権
- 第11回 婚姻、離婚
- 第12回 親子
- 第13回 相続、遺産分割
- 第14回 遺言、遺留分
- 第15回 事例研究

【授業の進め方】

講義形式を基本としますが、事例研究等を踏まえた質疑応答を交えながら進めていきます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①民法1 (第2版) ②新井=石川 ④2016年 ⑤1500円(税込み)
- ①六法

・六法は、「ポケット六法」などの小型なもので結構です。

【参考図書】

- ・川井健『民法入門(第7版)』(有斐閣、2012年)
- ・その他講義の際に適宜紹介します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

定期試験により評価します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

特にありません。

【履修上の心得】

日々の出来事について、民法の視点から考えてみてください。

【科目のレベル、前提科目など】

商法や民事訴訟法などと深く関わります。
民法は、私法の中において、基本となる法律です。

【備考】

特にありません。

科目名	民法Ⅱ
教員名	新井 弘明

【授業の内容】

明るく、楽しい人生を送るためには、自分たちのルールを知ることも必要です。民法は、そのようなルールの一つです。

身近な法律の一つである民法の基本的事項について、できるだけ具体的な事例を挙げながら講義を進めていきます。

【到達目標】

この講義では、民法の基本的事項を習得することが目的です。

【授業計画】

第1回 ガイダンス：講義のすすめ方、勉強方法、教材、民法の基本的概念等について説明します。

第2回 債権の意義

第3回 債務不履行

第4回 責任財産の保全

第5回 多数当事者の債権・債務関係

第6回 債権の消滅

第7回 契約の意義

第8回 契約の解除

第9回 贈与、売買、交換

第10回 消費貸借、使用貸借、賃貸借

第11回 雇用、請負、委任

第12回 寄託、組合、終身定期金、和解

第13回 事務管理、不当利得

第14回 不法行為

第15回 事例研究

【授業の進め方】

講義形式を基本としますが、事例研究等を踏まえた質疑応答を交えながら進めていきます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①民法入門(第7版) ②川井健 ③有斐閣 ④2012年 ⑤3900円(税別)

①六法

・六法は、「ポケット六法」などの小型なもので結構です。

【参考図書】

・新井＝石川『民法1(第2版)』(2016年)

・その他講義の際に適宜紹介します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

定期試験により評価します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

特にありません。

【履修上の心得】

日々の出来事について、民法の視点から考えてみてください。

【科目のレベル、前提科目など】

商法や民事訴訟法などと深く関わります。

民法は、私法の中において、基本となる法律です。

【備考】

特にありません。

科目名	商法 I
教員名	河原 文敬

【授業の内容】

経営学部の学生には商法の知識は有益かつ重要である。就職したなら商法の知識は必須となり、日常生活でも取引上の法制度の理解は不可欠である。商法の基本的制度を理解することが、本講の到達目標である。

【到達目標】

取引に関する商法上の基本的制度の理解。

【授業計画】

以下の項目を中心に講義をする。変更の場合には、講義中に伝達する。

- 1回 商法とは、商取引の特色（営利性、外観保護の法理等）
- 2回 「商人」「商行為」概念
- 3回 営業的商行為の内容を説明、付属的商行為について
- 4回 商取引に関する商法上の制度を民法との比較で検討
- 5回 営業と営業譲渡
- 6回 商号制度、営業譲渡と商号の続用に関する問題の検討
- 7回 商業登記制度の概要
- 8回 商業登記と外観法理との関係、それに関する判例検討
- 9回 商業使用人、主に支配人の権限と責任・義務について
- 10回 代理商と仲立人について
- 11回 問屋制度（取次の法的関係を解説）
- 12回 運送営業の概要、運送人の責任
- 13回 運送人の責任に関する学説・判例紹介
- 14回 場屋営業について
- 15回 場屋営業に関する判例の検討、講義全般の重要項目の確認

理解を深めるために、各回、事前の予習テーマ(60分程度)と復習テーマ(120分程度)を指示します。

【授業の進め方】

適宜(毎回短時間のこともあるが)、基本事項の確認等のため対話形式で授業を進めます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書：丸山秀平著『商法Ⅰ 総則・商行為法、手形・小切手法〔第3版〕』新世社 2009年 約2800円 予定
商法Ⅱと併用（この点に注意して下さい）。
開講に具体的に伝達します。

【参考図書】

田邊光政『商法総則・商行為法 第3版』（新世社 2006年）、必要な判例は教員が適宜指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 30% 受講態度 20%

特記事項

受講生が少ない場合は、変更があり得る(変更のときは授業中に伝達します)。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

答案は丁寧に説得的に記述すること。

【履修上の心得】

- ・六法を持参して出席のこと。
- ・真面目に学習すること。文献を丁寧に読むこと。

【科目のレベル、前提科目など】

民法の知識が不可欠です。民法科目を履修した上での受講が望ましい(二年度以降の受講が望ましい)。商法Ⅱ、企業関係法とも関連、受講が望ましい。

科目名	商法Ⅱ
教員名	河原 文敬

【授業の内容】

企業活動では、手形・小切手は売買等の決済手段、企業金融の手段として利用されている。
手形・小切手に関する基本的な法制度を解説する。

【到達目標】

手形・小切手制度及び決済に関する制度の基礎の理解。決済に関する基礎知識理解に役立つ(特に、会社に就職したときに)。

【授業計画】

- 1回 手形・小切手の役割と機能、信用証券とは何か。
 - 2回 約束手形、為替手形、小切手の仕組みについて。
 - 3回 債権譲渡と手形制度の差異。
 - 4回 電子記録債権制度について、手形制度との対比に留意して解説する。
 - 5回 手形要件について。手形法上の要件と実務との差異にも留意する。
 - 6回 手形要件に関する具体的事例と判例の紹介。
 - 7回 手形の振出に関する法的問題。無因性とは。
 - 8回 手形の振出に関する学説の検討。
 - 9回 手形の裏書に関する制度、裏書制度の意義。
 - 10回 裏書の方法とその効力。
 - 11回 手形法16条の意義について。
 - 12回 人的抗弁切断の意義について。
 - 13回 手形金の請求について。
 - 14回 小切手に特有の制度の説明(預手、線引制度等)。
 - 15回 「取引の安全」について
- 概ね、上記の予定である。

* 理解の深化のため、各回予習課題(60分程度)と復習課題(120分程度)を指示します。

【授業の進め方】

基本事項確認のため、対話の方式で講義を行います。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書：丸山秀平著『商法Ⅰ（総則・商行為、手形・小切手法）〔第3版〕』新世社 2009年
商法Ⅰで使用する教科書と同じ（この点に注意して下さい）。
あくまで予定です、具体的には開講時に伝達します。

【参考図書】

前田庸『手形法・小切手法』（有斐閣 1999年）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 20% 受講態度 30%

特記事項

受講生が少ないときには、変更します(前年度は受講生が少数のため変更)。
変更の際は講義中に伝達。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

試験・レポート等には説得的に記述すること。

【科目のレベル、前提科目など】

民法科目を履修した上での受講が望ましい(二年度以降の受講が望ましい)。
商法Ⅰ、企業関係法とも関連がある。

【備考】

金融機関に就職したならば、本講と同内容の研修が行われることが予想される。

科目名	経済法
	経済活動と法
教員名	栗田 誠

【授業の内容】

経済活動を巡る法規制について、前半では主として消費者・生活者の視点から、後半では主として事業者（企業）の視点から、事例を基に概説します。

授業の前半では、日常の消費生活において感じる企業活動に対する疑問や不満を法的に整理して理解することを目的とし、日常消費・利用する様々な商品・サービスを巡って生じる法的課題を発見し、問題点を分析するとともに解決策を考え、さらに、消費者・生活者としての権利・利益の実現方法や行政の役割にまで展開していきます。

授業の後半では、特に市場経済の基本ルールである「独占禁止法」を中心とする法規制について、将来、企業活動に従事する際に留意すべき基本的な事項を理解することを目的とし、企業が遵守すべき事項について具体的事例を交えて概説するほか、法令違反の防止のための制度設計の在り方や経済活動の活発化のための政策課題を考えます。

【到達目標】

- 1 日常の消費生活において感じる企業活動に対する疑問や不満を法的に整理して理解する。
- 2 日常の消費生活を巡る落とし穴・留意すべき点を意識できる。
- 3 消費者被害に対する法的対応手段や行政の役割を説明できる。
- 4 将来、企業活動に従事する際に留意すべき基本的な事項を理解する。
- 5 企業活動に対する法規制の意義を説明できる。
- 6 主要な独占禁止法違反行為の類型を説明できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション：授業の目的、構成・進行、教材、参考文献等を説明します。（復習30分）
- 第2回 経済活動を巡る法制度の仕組み：経済活動に関わる法制度の仕組みや機能を概観します。（予習・復習各60分）
- 第3回 消費生活を巡る法的課題：消費者が日々直面する法的問題について概観し、消費者の権利の内容、消費者基本法の意義と限界、企業活動との関係について概説します。（予習・復習各60分）
- 第4回 価格設定と消費者：再販売価格の拘束、著作物再販、不当廉売、最低価格保証等、消費者にとっての価格を巡る諸問題について概説します。（予習・復習各60分）
- 第5回 消費者の選択：抱き合わせ、景品付販売、不当表示、金融商品販売等、消費者の合理的な選択に関わる諸問題について概説します。（予習・復習各60分）
- 第6回 消費者の安全と安心：医薬品審査、食品安全、製品安全、安全規格等の消費者の安全・安心を巡る諸問題について概説します。（予習・復習各60分）
- 第7回 消費者の権利の実現：消費者の権利・利益の実現のために行政が果たす役割やそのための法的手法を概観するとともに、民事法（消費者契約法、製造物責任法）や刑事法の機能や意義についても言及します。（予習・復習各60分、授業前半の復習120分）
- 第8回 企業活動に関わる法規制：独占禁止法を中心とした企業活動を巡る法規制について概説するとともに、取り上げる具体的なテーマについて概観します。（予習・復習各60分）
- 第9回 競争相手との協調：入札談合・価格カルテル等のハードコア・カルテルや社会的に有用な企業間協調・自主規制活動について概説します。（予習・復習各60分）
- 第10回 マーケティングと流通：企業のマーケティング政策や取引先との関係において生じる独占禁止法問題について概説します。（予習・復習各60分）
- 第11回 競争相手の排除 競争相手の排除のための参入阻止・妨害行動、正常な競争行動との区別、不可欠施設等について概説する。（予習・復習各60分）
- 第12回 企業組織の編成：企業組織の再編のためのM&A、持株会社、業務提携等について概説します。（予習・復習各60分）
- 第13回 研究開発と知的財産：共同研究開発、技術標準・規格、ライセンス等を巡って生じる法的問題について概説します。（予習・復習各60分）
- 第14回 政府規制：政府規制と競争を巡る課題や規制産業における独占禁止法問題を概説します。（予習・復習各60分）
- 第15回 国際取引・まとめ：国際的企業活動に対する法規制、貿易・投資と競争を巡る課題について概説するほか、最後に、簡単なまとめをします。（予習・復習各60分、授業後半の復習120分）

授業の前半では、一般に「消費者法」と呼ばれる法分野のうちの公法的なもの（行政的規制に関わるもの）を、後半では、一般に「経済法」と呼ばれる法分野をカバーしています。法律学習に馴染みがない受講者にも取り掛かりやすいと考えて、日常生活に関わる問題をまず取り上げる構成にしています。

【授業の進め方】

- 1 毎回、講義用レジュメのほか、文献、行政機関等の公表資料、新聞記事その他の参考資料を配布します。次回用に事前配布した資料については、あらかじめ読んできていることを前提に授業を進めます。

- 2 講義用レジュメには、あらかじめ授業で取り上げる事項が質問形式で提示されていますので、必要に応じて情報を収集し、解答を考えてくれることが求められます。
- 3 あらかじめ教科書の関連章・節を示しますので、事前・事後に読み、授業内容と関連させて理解することが重要です。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①企業・消費者・政府と法—消費生活と法 ②来生新・山本裕子 ③放送大学教育振興会 ④2011年 ⑤本体2500円
⑥978-4-595-31271-7

上記のテキストが授業計画に最も適合していることから、教科書に指定していますが、授業の進行はこの教科書の章立てとは異なります。第1回に、各回の授業に対応する章節を提示しますので、事前・事後によく読むことが必要です。

【参考図書】

次のような参考書を併せて参照することを勧めます。

- [前半] 坂東俊矢・細川幸一『18歳から考える消費者と法 [第2版]』(法律文化社・2014年)
杉浦市郎『新・消費者法これだけは [第2版]』(法律文化社・2015年)
中田邦博・鹿野菜穂子編『基本講義 消費者法 [第2版]』(日本評論社・2016年)
[後半] 川濱昇ほか『ベーシック経済法 [第4版]』(有斐閣アルマ・2014年)
土田和博ほか『条文から学ぶ独占禁止法』(有斐閣・2014年)
[全体] 大竹文雄『競争と公平感 市場経済の本当のメリット』(中公新書・2010年)
後藤晃『独占禁止法と日本経済』(NTT出版・2013年)
御立尚資・柳川範之『ビジネスゲームセオリー 経営戦略をゲーム理論で考える』(日本評論社・2014年)
伊丹敬之『ビジネス現場で役立つ 経済を見る眼』(東洋経済・2017年)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 20% レポート・課題 20% 受講態度 0%

特記事項

- 1 定期試験は論述式、授業内小試験は短い記述式で行う予定です。レポートは、授業内に記述を求める場合と課題として提出を求める場合があります。授業内小試験は予告しますが、レポートは予告しません。
- 2 受講者数等によって授業内小試験、レポートの回数を見直すことがあり得るため、上記の評価比率は暫定的なものです。定期試験前に説明します。

【履修上の心得】

日常の消費生活で抱く疑問を解くつもりで、また、関心のある業種や職業に関する具体的事案や動向・政策課題等の情報を積極的に収集して、授業に参加してください。

【備 考】

科目名	税法 I
教員名	伊藤 悟

【授業の内容】

「法律なければ課税なし」は、日本の税制に適用される大原則である。つまり、税金は税法令により課税され徴収されている。税金は法的産物である。税を知らない大学生はいない。誰でも知っている税金知識から、市民・納税者・社会人としての税法知識へとステップアップしていただきたい。税法の基礎と総論に関する講義をする。

税法が市民の権利保護のためにあるという「市民のための税法学」の立場から、税法が税課徴の道具ではないことを授業し、これが理解されることを望む。

【到達目標】

受講者が、市民・納税者として、税と法令との関係、その基礎的内容を知り、課税権に対する市民的コントロールの重要性を理解し、よりよい税制を考究する態度・行動を修得する。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス：シラバスの解説、財務省・国税庁WEB等の活用、日本の税の歴史(租・庸・調から消費税まで)。
 ・事前学習：特になし。
 ・事後学習：日本の税制史を復習する。
- 第2回 税法は税に関する法学である(1)：誰もが知っている税、税の定義は様々、経験的税概念、形式的税概念、実質的税概念、市民の税概念、租税の根拠論、判例事例研究。
 ・事前学習：国税庁WEB(<http://www.nta.go.jp/>)>税について調べる>税の学習コーナー閲覧。
 ・事後学習：各自にとっての「税」とは何かを考え整理する。
- 第3回 税法は税に関する法学である(2)：税を研究対象とする学問の多様性(税法、財政学租税論、税務会計学、等)、税法学の独立、租税法と税法、税財政法学への展開、判例事例研究。
 ・事前学習：ネット情報としての「租税論」「税務会計」について閲覧する。
 ・事後学習：法学としての税研究について、考え整理する。
- 第4回 税法学の基礎理論(1)：税法学の研究対象である税法関係(課税権と納税義務との関係)理論、租税権力関係説、租税債務関係説、循環的税法関係説(日本の課税権展開)、課税権と納税義務の特質、納税者の権利、税法学の特質(税課徴法ではなく市民権利保護法として認識)、判例事例研究。
 ・事前学習：テキスト28-31頁を読む、日本国憲法の統治システムを確認する。
 ・事後学習：主権者・国民と納税者・国民との関係を考え、日本の税法関係を整理する。
- 第5回 税法学の基礎理論(2)：税法学の原理・原則等、法律なければ課税なし、租税法律主義、租税要件等法定主義等、地方税条例主義、判例事例研究。
 ・事前学習：「代表なければ課税なし」、租税法律主義についてネット情報確認。
 ・事後学習：税法の原理・原則の体系化の必要性についてテキストの記述を基に整理する。
- 第6回 税法学の基礎理論(3)：税負担公平原則、税立法不遡及原則、税領域の信義誠実原則の適否、憲法規定と税法、実質課税原則の否定、判例事例研究、レポート「租税法律主義について説明しなさい」A4横書き学生番号・氏名を最上段に記し2000文字以内、詳細は授業にて。
 ・事前学習：租税法律主義以外の税法原則に授業で指定した文献等で調べる。
 ・事後学習：租税法律主義と税負担公平原則との関係をテキストを基に整理する。
- 第7回 税法立法権と市民的コントロール(1)：税法立法と立法機関、税制理論(複税制度、課税基礎理論、税分類)、判例事例研究
 ・事前学習：国会での法律制定過程について調べる。
 ・事後学習：税の基本的分類を整理し理解する。
- 第8回 税法立法権と市民的コントロール(2)：税法立法の課題(租税回避行為の否認、等)、税立法への市民的コントロール、判例事例研究
 ・事前学習：租税回避行為について調べる。
 ・事後学習：租税回避行為の否認のあり方について整理する。
- 第9回 税法行政権と市民的コントロール(1)：租税法律主義と税行政、通達行政、税法行政機関(国税、関税、地方税)、税理士制度、判例事例研究
 ・事前学習：国税専門官試験について調べる。
 ・事後学習：国税、関税、地方税の担当行政組織を整理する。
- 第10回 税法行政権と市民的コントロール(2)：納税義務の成立と確定、判例事例研究
 ・事前学習：日本国憲法30条の「国民の納税義務」について調べる。
 ・事後学習：納税義務の成立と確定の相違と法的意義を理解する。
- 第11回 税法行政権と市民的コントロール(3)：納税義務の消滅、申告納税制度と税行政処分(決定、更正、等)、税務調査、判例事例研究
 ・事前学習：日本における申告納税制度の導入について調べる。
 ・事後学習：納税者申告と税行政処分との基本的関係を理解する。
- 第12回 税法行政権と市民的コントロール(4)：特殊な納税義務(第二次納税義務、源泉徴収義務、等)、滞納処分、納

税緩和制度、判例事例研究

- ・事前学習：所得税の源泉徴収制度について調べる。
- ・事後学習：滞納処分(強制徴収)について整理する。

第13回 税法行政権と市民的コントロール(5)：税法違反と税法制裁(行政罰と刑事罰)、加算税制度、通告処分、両罰規定、税法行政への市民的コントロール、判例事例研究

- ・事前学習：法律違反に対する制裁の意義について整理する。
- ・事後学習：市民・納税者と税行政との関係を整理する。

第14回 税法裁判権と市民的コントロール(1)：税裁判の分類、税法処分取消争訟の流れ(不服申立前置主義、書面主義、争点主義・総額主義)、国税不服審判所、一審東京地方裁判所、判例事例研究

- ・事前学習：権利侵害に対する権利救済制度を学習する。
- ・事後学習：日本の税金裁判の手続きを整理する。

第15回 税法裁判権と市民的コントロール(2)、総括：関税争訟、地方税争訟、固定資産評価審査委員会、税法裁判権への市民的コントロール、判例事例研究、総括

- ・事前学習：筆記試験について質問事項をまとめる。課税権に対する市民的コントロールを整理する。
- ・事後学習：特になし。

【授業の進め方】

授業は、講義形式であるが、具体的事例を通して、みんなで税を考えるという授業にする。一方的講義でなく、双方向的講義としたい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①市民のための税法 ②伊藤 悟 ③八千代出版 ④2016年4月 ⑤3400円＋税 ⑥978-4-8429-1680-4

【参考図書】

講義の中で指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 0% レポート・課題 5% 受講態度 15%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

受講態度は、単に授業出席ではなく、積極的能動的な授業参加に期待し、評価する。レポート・課題は、テキストの指定演習問題に関するレポート提出により評価する。

【履修上の心得】

特になし。

【科目のレベル、前提科目など】

大学生なら知っている税金知識を前提としている。

【備考】

受講の予習・復習において教科書の演習問題を活用していただきたい。

科目名	税法Ⅱ
教員名	伊藤 悟

【授業の内容】

税法Ⅰの授業を踏まえ、企業課税法としての法人税法を考察検討する。日本の法人税法は、課税標準である所得金額の計算において確定決算による企業損益を基礎とする確定決算主義を採用している。授業では、会計学(簿記、財務諸表理論)の知識を基礎とし、法人税法が規定する益金・損金の処理を中心とする法人税の実体規定のほか、法人の設立と税務手続、各事業年度の確定申告手続などの法人税の手続規定も考察検討する。

【到達目標】

売上原価、給与、減価償却費、租税公課、交際費などの企業経費の企業会計と法人税との処理の相違を知り、企業経営に必要な税法知識の基礎を修得する。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス：シラバスの解説、国税庁WEB等の活用、日本の法人税の概略(沿革、原則)、法人税の性質論と現行法
- ・事前学習：特になし。
 - ・事後学習：国税庁WEBにて法人税に関する記述項目を確認する。
- 第2回 法人税法の構造：内国法人の法人税、課税物件、法人税の納税義務者、株式会社の設立と税務手続、申告と納税、地方法人税、判例事例研究
- ・事前学習：法令データベース等で現行の法人税法の目次構成を調べる。
 - ・事後学習：会社設立後の法人税の税務手続きを整理する。
- 第3回 法人税の課税標準：法人税法22条、企業損益と所得金額の関係(確定決算主義)、税務調整(決算調整、申告調整)、損金経理、判例事例研究
- ・事前学習：法人税法22条を一読する。
 - ・事後学習：企業会計損益と法人税の計算の関係を理解する。
- 第4回 益金：益金算入、益金不算入、売上高等の収益の認識と益金金額の計算、受取配当、還付金、国庫補助金の処理、判例事例研究
- ・事前学習：企業会計の「収益」の意義を学習する。
 - ・事後学習：「収益」と「益金」の相違について整理する。
- 第5回 損金(1)：損金算入、損金不算入、売上原価(期末棚卸商品の評価)の処理、判例事例研究
- ・事前学習：企業会計での売上原価計算について学習する。
 - ・事後学習：法人税での期末棚卸商品の評価方法について整理する。
- 第6回 損金(2)：減価償却費の処理(限度額、限度額超過、過年度超過額の認容)、別表4の記載
- ・事前学習：減価償却資産について学習する。
 - ・事後学習：法人税の減価償却費の計算について整理する。
- 第7回 損金(3)：使用者給与・賞与・退職金(過大給与等の損金不算入)、役員等の給与等(会社法改正等と法人税法、役員給与等)の処理、判例事例研究
- ・事前学習：一般にいう「役員」の範囲について調べる。
 - ・事後学習：法人税法の役員等給与規定の内容について整理する。
- 第8回 損金(4)：租税公課の処理(法人税、住民税、事業税、附帯税、罰金等)、納税充当金、別表4と別表5(1)・5(2)の記載、判例事例研究
- ・事前学習：納税充当金の会計処理について学習する。
 - ・事後学習：租税公課の法人税申告書での処理について整理する。
- 第9回 損金(5)：交際費、寄付金、引当金、準備金の処理、判例事例研究
- ・事前学習：租税特別措置法61条の4を一読する。
 - ・事後学習：交際費処理についての変遷を理解する。
- 第10回 税額計算：税額計算、法人税申告書の構成、作成手順、レポート課題(講義内で提示する)
- ・事前学習：法人税の税率構造を調べる。
 - ・事後学習：法人税の計算と法人税申告書の構成を理解する。
- 第11回 特殊法人税制：連結納税申告制度、グループ法人税制、判例事例研究
- ・事前学習：連結会計が必要とされる根拠を調べる。
 - ・事後学習：特殊法人税制を整理する。
- 第12回 法人税の国際課税問題：外国法人、多国籍企業と国際的租税回避行為、判例事例研究
- ・事前学習：パナマペーパー、パラダイス文書について調べる。
 - ・事後学習：国際的租税回避に対する国税庁の動向を知る。
- 第13回 法人税演習(1)
- ・事前学習：特になし。
 - ・事後学習：演習問題を復習する。
- 第14回 法人税演習(2)

- ・事前学習：特になし。
- ・事後学習：演習問題を復習する。

第15回 総括：現行法人税法の課題

- ・事前学習：定期試験に対する質問があれば、準備し、まとめる。
- ・事後学習：テキストの法人税に課する記述を復習する。

【授業の進め方】

簿記会計の処理についても補習もしながら、法人税の基礎を学習していく。グローバル・ルールとしての会計処理と、ローカル・ルールとしての法人税法の違いを理解する。税法科目であることから、いくつかの判例研究も行い、実務的理解を深める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①市民のための税法 ②伊藤 悟 ③八千代出版 ④2016年4月 ⑤3400円＋税 ⑥978-4-8429-1680-4

国税庁WEB内・税務大学校講本『法人税法』もサブテキストとする。

【参考図書】

石村耕治編『現代税法入門塾』(清文社)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 0% レポート・課題 5% 受講態度 15%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

受講態度は、単に授業出席ではなく、積極的能動的な授業参加に期待し、評価する。レポート・課題は、テキストの指定演習問題に関するレポート提出により評価する。

【履修上の心得】

税法Ⅰの履修者の履修を望む。

【科目のレベル、前提科目など】

会計学、簿記論、会社法、税務会計論と関係する。

【備 考】

受講の予習・復習において教科書の演習問題を活用していただきたい。

科目名	日本国憲法
教員名	大石 和彦

【授業の内容】

日本国憲法につき、その歴史的背景、起草者意図、判例等を参照したり、諸外国との比較にも目配りしつつ、概論的講義を行う。

【到達目標】

日本国憲法およびその背景にある近代立憲主義という考え方につき理解する。

【授業計画】

第1回 憲法とは何か？

予習は必須ではない。

復習：レジュメ及びテキスト該当箇所につき30分以上

第2回 近代立憲主義

予習は必須ではない。

復習：レジュメ及びテキスト該当箇所につき30分以上

第3回 国会1：議員

予習は必須ではない。

復習：レジュメ及びテキスト該当箇所につき30分以上

第4回 国会2：両院制

予習は必須ではない。

復習：レジュメ及びテキスト該当箇所につき30分以上

第5回 国会3：国会の権限

予習は必須ではない。

復習：レジュメ及びテキスト該当箇所につき30分以上

第6回 国会4：国会の活動法

予習は必須ではない。

復習：レジュメ及びテキスト該当箇所につき30分以上

第7回 内閣1：議院内閣制・内閣の構成

予習は必須ではない。

復習：レジュメ及びテキスト該当箇所につき30分以上

第8回 内閣2：内閣の権能

予習は必須ではない。

復習：レジュメ及びテキスト該当箇所につき30分以上

第9回 戦争放棄／天皇

予習は必須ではない。

復習：レジュメ及びテキスト該当箇所につき30分以上

第10回 地方自治

予習は必須ではない。

復習：レジュメ及びテキスト該当箇所につき30分以上

第11回 裁判所

予習は必須ではない。

復習：レジュメ及びテキスト該当箇所につき30分以上

第12回 ここまでのまとめと補遺

予習は必須ではない。

復習：レジュメ及びテキスト該当箇所につき30分以上

第13回 基本的人権 1

予習は必須ではない。

復習：レジュメ及びテキスト該当箇所につき30分以上

第14回 基本的人権 2

予習は必須ではない。

復習：レジュメ及びテキスト該当箇所につき30分以上

第15回 まとめと補遺

予習は必須ではない。

復習：レジュメ及びテキスト該当箇所につき30分以上

予習しなくても理解できるよう授業を行うので、予習よりは復習に注力いただきたいが、まずは何といたっても授業に集中いただき、ノートをとっていただくことが肝要である。憲法は、それぞれの国の社会を動かす基本ソフトであるから、その国の社会に生起する出来事それ自体が最重要の考察対象となる。したがって、本科目で勉強したことと関連付

けながら新聞記事やニュースを見たり、授業と並行して関連文献を読んだりすると、学習効果が一層高まるであろう。

【授業の進め方】

授業中配布するレジюмеに沿って講義する。毎回下掲テキストを持参いただきたいが、授業での役割はあくまで資料集なので、授業自体は前述のレジюмеに沿って進める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①目で見える憲法(第5版) ②初宿正典他編著 ③有斐閣 ④2018 ⑤予価 1,728円(本体 1,600円) ⑥978-4-641-22735-4

【参考図書】

白鷗大学には憲法関係の蔵書が豊富にあるので、そうした書籍にも触れていただくと、より学習効果が高まるであろう。そのうち当代我が国における代表的な憲法テキストで、国家試験受験者に最も読まれてきたものとしては、

・芦部信喜・高橋和之補訂『憲法(第六版)』(岩波書店 2015)

より読みやすいものが内容的にレベルがある程度高いものとしては、

・渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法1・2(第6版)』(有斐閣アルマ 2016)

などがある。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

試験範囲は、授業で扱った項目に限る。

【履修上の心得】

予習しなくても理解できるよう授業を行うので、予習よりは復習に注力いただきたいが、まずは何とんでも授業に集中いただき、ノートをとっていただくことが肝要である。また白鷗大学には憲法関係の蔵書が豊富にあるので、そうした書籍にも触れていただくと、より学習効果が高まるであろう。

【科目のレベル、前提科目など】

基礎的内容なので前提科目は特にない。

【備考】

その他具体的な注意点は授業中折に触れて適宜指摘する。

科目名	海外留学事前指導
教員名	海外留学担当教員

【授業の内容】

経営学部海外留学プログラムに参加する学生のための事前指導である。約3か月間のアメリカ、カナダへの留学を快適に、安全に、有意義なプログラムにするために必要不可欠な情報を提供する。留学の入学願書やホームステイの申込み、海外旅行傷害保険加入手続き、ビザ取得、過去の事例等を紹介し、海外経験豊富な教員(アドバイザー)、旅行社、保険会社、留学を経験した先輩がアドバイスを行う。現地で自ら問題解決ができるように指導をする。

【到達目標】

- ・海外生活の基礎知識、現地情報の入手方法を習得する。
- ・トラブル発生時に自ら対応できるスキルを習得する。
- ・ソーシャルメディア(Facebook)を利用し、緊急連絡、レポート等の課題提出、教職員、現地の人々とのコミュニケーションがとれるようにする。

【授業計画】

- 第1回 シラバス説明、履修上の注意、事前指導スケジュール確認、留学先別顔合わせ
自己紹介ができるように予習をする (60分)
- 第2回 願書他書類最終確認・渡航手段(航空券)の説明 /Introduction Japan1 (60分)
航空券入手方法の情報を検索する(復習 60分)
- 第3回 ビザ(TCC)/eTAビザ(UVic)説明 ビザの説明を復習する(60分)
- 第4回 危機管理・医療ガイダンス 講義内容を復習する(60分)
- 第5回 海外旅行傷害保険説明 説明を復習し、家族と保険について話し合う(60分)
- 第6回 Introduction Japan 2 グループワークの分担箇所の予習をする(60分)
- 第7回 Presentation 留学生との交流会模擬練習 交流会の予習をする(60分)
- 第8回 Welcome Foreign Students 留学生との交流 交流会の予習をする(60分)
- 第9回 Cross-Cultural Understanding1(Life) 講義で学んだことを復習する(60分)
- 第10回 Cross-Cultural Understanding2(Homestay) 講義で学んだことを復習する(60分)
- 第11回 Case Study 講義で学んだことを復習する(60分)
- 第12回 ビザ取得面接(TCC)/カナダ事情(UVic) 講義で学んだことを復習する(60分)
- 第13回 Pre-Departure Manual1 マニュアルの説明 講義で学んだことを復習する(60分)
- 第14回 Pre-Departure Manual2 マニュアルの説明 講義で学んだことを復習する(60分)
- 第15回 最終ガイダンス 持ち物、搭乗手続き、出国・税関、機内注意事項、入国手続きその他
講義で学んだことを復習する(60分)

【授業の進め方】

現地の授業では、グループワークやプレゼンが必須のため、本講義でも講義に加え、グループワークやプレゼンを行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 0% レポート・課題 20% 受講態度 40%

特記事項

評価の「レポート・課題」とは、入学願書、ホームステイ申請書、ビザ取得書類作成等必要書類が、正確に指定日までに提出できたかで評価をする。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

全日程、留学に重要なことを取り上げるので出席は必須である。万一、体調不良等で欠席の場合には、個別に補講をする必要がある。

【履修上の心得】

- ・現地での生活、勉学を効率的にかつ円滑に、安全にするための必要不可欠なトピックが網羅されている講義である。一度も欠席することなく、すべての内容をしっかり理解し、実践できるようにしてもらいたい。
- ・外部補助金を得る機会があれば、1年次の成績、課題レポート、面接により総合判定をし、対象者を4月～5月に確定する。

【科目のレベル、前提科目など】

1年次のすべての必修科目(経営学部海外留学プログラムの参加要件を参照)

科目名	海外留学 I
教員名	新川 清治

【授業の内容】

(留学中) ウィークリー・レポート、異文化体験レポート作成
 (帰国後) 異文化体験プレゼンテーション、TOEIC集中講義

【到達目標】

異文化に関する理解を深める
 TOEICの問題形式に慣れる

【授業計画】

- 第1回 留学先別プレゼンテーション
発表準備60分
- 第2回 留学先別プレゼンテーション
発表準備60分
- 第3回 全体プレゼンテーション
発表準備60分
- 第4回 TOEIC集中講義1日目① リスニング模擬テスト
- 第5回 TOEIC集中講義1日目② パート1、2対策
- 第6回 TOEIC集中講義1日目③ パート5、6模擬テスト
1日目復習60分
- 第7回 TOEIC集中講義2日目① パート5、6対策
- 第8回 TOEIC集中講義2日目② パート3対策
- 第9回 TOEIC集中講義2日目③ パート4対策
2日目復習60分
- 第10回 TOEIC集中講義3日目① パート7模擬テスト
- 第11回 TOEIC集中講義3日目② パート7対策
- 第12回 TOEIC集中講義3日目③ 個別学習、質問への対応
3日目復習60分
- 第13回 TOEIC集中講義4日目① 個別学習、質問への対応
- 第14回 TOEIC集中講義4日目② 個別学習、質問への対応
- 第15回 TOEIC集中講義4日目③ 個別学習、質問への対応
4日目復習60分

【授業の進め方】

留学期間中は週に一度、学校生活や日常生活についての報告書をアドバイザー教員に送付し、帰国後は異文化体験についてのレポートを提出し、その内容をパワーポイントを利用して口頭発表する。さらに、3日間のTOEIC集中講義を受講し、TOEIC IPテストを受験する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

テキストに関しては初講時まで指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

「レポート・課題」にあたるものはウィークリーレポートとファイナルレポートであり、「受講態度」はファイナルレポートの口頭発表やTOEIC集中講義時の参加度を評価する。

【履修上の心得】

「海外留学事前指導」で学習したこと、注意点を活かして留学生活を送り、決められた日時に報告すること。常に異文化に対する意識をもち、レポートにまとめる題材を探すこと。提出期限を厳守すること。

【科目のレベル、前提科目など】

1年次必修科目12科目中9科目の単位を取得し、海外留学事前指導に合格していることが留学プログラム参加の前提条件である。

科目名	海外留学Ⅱ
教員名	海外留学担当教員

【授業の内容】

留学先大学の英語集中講座における取得単位を白鷗大学において認定するために設定されている科目である。

【到達目標】

英語による異文化コミュニケーション能力の習得

【授業計画】

留学先大学が提供する講義内容に準拠する。

【授業の進め方】

留学先大学が提供する講義のすすめ方に準拠する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

留学先大学が指示したもの。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

特記事項

留学先大学から通知される成績評価に基づいて、本学留学アドバイザーが評価する。

【履修上の心得】

「海外留学事前指導」で学習したこと、注意点を十分に活用し、安全かつ効率的に学習すること。

学習と生活に関しては、原則的に留学先大学の指示に従うこと。

学習と生活の問題は、原則的に留学先大学の担当者と相談し解決すること。

【科目のレベル、前提科目など】

1年次必修科目12科目中9科目の単位を取得し、海外留学事前指導に合格していることが留学プログラム参加の前提条件である。

科目名	海外留学Ⅲ
教員名	海外留学担当教員

【授業の内容】

留学先大学の英語集中講座における取得単位を白鷗大学において認定するために設定されている科目である。

【到達目標】

英語による異文化コミュニケーション能力の習得

【授業計画】

留学先大学が提供する講義内容に準拠する。

【授業の進め方】

留学先大学が提供する講義のすすめ方に準拠する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

留学先大学が指示したもの。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

特記事項

留学先大学から通知される成績評価に基づいて、本学留学アドバイザーが評価する。

【履修上の心得】

「海外留学事前指導」で学習したこと、注意点を十分に活用し、安全かつ効率的に学習すること。

学習と生活に関しては、原則的に留学先大学の指示に従うこと。

学習と生活の問題は、原則的に留学先大学の担当者と相談し解決すること。

【科目のレベル、前提科目など】

1年次必修科目12科目中9科目の単位を取得し、海外留学事前指導に合格していることが留学プログラム参加の前提条件である。

科目名	海外留学IV
教員名	海外留学担当教員

【授業の内容】

留学先大学の英語集中講座における取得単位を白鷗大学において認定するために設定されている科目である。

【到達目標】

英語による異文化コミュニケーション能力の習得

【授業計画】

留学先大学が提供する講義内容に準拠する。

【授業の進め方】

留学先大学が提供する講義のすすめ方に準拠する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

留学先大学が指示したもの。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

特記事項

留学先大学から通知される成績評価に基づいて、本学留学アドバイザーが評価する。

【履修上の心得】

「海外留学事前指導」で学習したこと、注意点を十分に活用し、安全かつ効率的に学習すること。

学習と生活に関しては、原則的に留学先大学の指示に従うこと。

学習と生活の問題は、原則的に留学先大学の担当者と相談し解決すること。

【科目のレベル、前提科目など】

1年次必修科目12科目中9科目の単位を取得し、海外留学事前指導に合格していることが留学プログラム参加の前提条件である。

科目名	海外留学V
教員名	海外留学担当教員

【授業の内容】

留学先大学の英語集中講座における取得単位を白鷗大学において認定するために設定されている科目である。

【到達目標】

英語による異文化コミュニケーション能力の習得

【授業計画】

留学先大学が提供する講義内容に準拠する。

【授業の進め方】

留学先大学が提供する講義のすすめ方に準拠する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

留学先大学が指示したもの。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

特記事項

留学先大学から通知される成績評価に基づいて、本学留学アドバイザーが評価する。

【履修上の心得】

「海外留学事前指導」で学習したこと、注意点を十分に活用し、安全かつ効率的に学習すること。

学習と生活に関しては、原則的に留学先大学の指示に従うこと。

学習と生活の問題は、原則的に留学先大学の担当者と相談し解決すること。

【科目のレベル、前提科目など】

1年次必修科目12科目中9科目の単位を取得し、海外留学事前指導に合格していることが留学プログラム参加の前提条件である。

科目名	現代企業行動論
教員名	ビジネス開発研究所担当教員

【授業の内容】

本講座は白鷗大学経営学部の特徴の一つである”生きた経営学”を学ぶ講座で、企業で活躍する第一線の実務家（経営者）から直接学ぶ講義である。白鷗大学ビジネス開発研究所が栃木県経済同友会の協力も得て行い、経営の実践の場で活躍する実務家の体験論をもとにこれからの学生へのメッセージが伝えられる。経営者との出会いは就職活動を控えた3年生の就職活動への心構えを学ぶうえでも、就職を目前にした4年次生が内定を決めた会社以外の経営者の話を聞くうえでも貴重な時間となる。

【到達目標】

本講座を受講し、経営者の生の声を聴くことにより、現実の経営についての知識を深めるとともに、経営者の経営、仕事に取り組む姿勢や努力、そのなかでの苦労や喜びを直接耳で聴くことで、就職、働くことへの意識を高め、自分の進むべき道を見いだすことができるようになることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション : 本講座のプログラム全体の説明と受講の仕方等 (予習) シラバスを読んでこの授業の目的を理解する (20分) 復習: 本講座のプログラム全体の流れと受講の仕方について復習する (30分)
- 第2回 経営をめぐる環境 (日本経済、世界経済の現状と展望) について解説 (予習) 日本や世界の経済の動きが経営に与える影響について考えておく (20分) 復習: 授業のポイントを整理し、ノートにまとめる。(30分)
- 第3回 セッションⅠ. ゲスト・スピーカー1の講演 (予習) ゲストスピーカーの会社のホームページを調べ、会社の概要を把握しておく (20分)
復習: 様式に従ってレポートを作成する (30分)
- 第4回 セッションⅠ. ゲスト・スピーカー2の講演 (予習) ゲストスピーカーの会社のホームページを調べ、会社の概要を把握しておく (20分)
復習: 様式に従ってレポートを作成し、提出する (30分)
- 第5回 コーディネータによるセッションⅠのまとめと解説 (予習) ゲストスピーカー2名の講演に共通するポイントをまとめる (30分)
復習: 授業のポイントを整理する (30分)
- 第6回 セッションⅡ. ゲスト・スピーカー3の講演 (予習) ゲストスピーカーの会社のホームページを調べ、会社の概要を把握しておく (20分)
復習: 様式に従ってレポートを作成する (30分)
- 第7回 セッションⅡ. ゲスト・スピーカー4の講演 (予習) ゲストスピーカーの会社のホームページを調べ、会社の概要を把握しておく (20分)
復習: 様式に従ってレポートを作成し、提出する (30分)
- 第8回 コーディネータによるセッションⅡのまとめと解説 (予習) ゲストスピーカー2名の講演に共通するポイントをまとめる (30分)
復習: 授業のポイントを整理する (30分)
- 第9回 セッションⅢ. ゲスト・スピーカー5の講演 (予習) ゲストスピーカーの会社のホームページを調べ、会社の概要を把握しておく (20分)
復習: 様式に従ってレポートを作成する (30分)
- 第10回 セッションⅢ. ゲスト・スピーカー6の講演 (予習) ゲストスピーカーの会社のホームページを調べ、会社の概要を把握しておく (20分)
復習: 様式に従ってレポートを作成し、提出する (30分)
- 第11回 コーディネータによるセッションⅢのまとめと解説 (予習) ゲストスピーカー2名の講演に共通するポイントをまとめる (30分)
復習: 授業のポイントを整理する (30分)
- 第12回 セッションⅣ. ゲスト・スピーカー7の講演 (予習) ゲストスピーカーの会社のホームページを調べ、会社の概要を把握しておく (20分)
復習: 様式に従ってレポートを作成する (30分)
- 第13回 セッションⅣ. ゲスト・スピーカー8の講演 (予習) ゲストスピーカーの会社のホームページを調べ、会社の概要を把握しておく (20分)
復習: 様式に従ってレポートを作成し、提出する (30分)
- 第14回 コーディネータによるセッションⅣのまとめと解説 (予習) ゲストスピーカー2名の講演に共通するポイントをまとめる (30分)
復習: 授業のポイントを整理する (30分)
- 第15回 全体のまとめとプログラム全体に関するアンケート調査の実施など (予習) ゲストスピーカー8名の講演に共通するポイントをまとめる (30分)
全体のまとめの復習 (30分)

栃木県内の大企業、中堅・中小企業の経営者、代表者のほか本学のOB,OGで起業したり、事業継承した人をゲスト・スピーカーとしてお招きし、企業経営の実態をお話しいただく。4つのセッションに分け、8名のゲストスピーカーからご講演いただく。教員はコーディネーターとして出席するとともに、事前にセッションの説明、及び事後にセッションのまとめと解説を行う。

〔経営者の方々にお話しいただく内容（共通）は次の項目である。〕

①自己紹介

どうしてこの仕事にかかわることになったか、経歴の紹介

②会社の事業概要と特徴

歴史、事業内容、売上高、利益、従業員数等

③仕事を行うということはどういうことか

④今、事業を行っていて、一番難しいことは何か（人の管理の面で、など）

⑤日本の経営の特徴といわれてきた、いわゆる「終身雇用制」「年功賃金制」についてどう考えるか

⑥企業の社会的責任や環境問題についてどういう配慮を行っているか

⑦今、企業が求めている人材とはどういう人か

⑧大学時代に一番何をやっておくべきか（学生へのアドバイス）

⑨その他（各セッションに関連した話）

【授業の進め方】

- ・年度初めに、セッションごとのゲスト・スピーカーの顔ぶれを示した本講座の具体的プログラムを掲示する。
- ・受講者は受講後ゲストスピーカーの講義のあと、コーディネーターの先生のまとめと解説の前に、決められたフォーマットにしたがって講演内容に関するレポートを提出する（2人のゲストスピーカーの講義に終わった後、翌週の水曜日までに提出のこと）。
- ・ゲストスピーカーの講演後、積極的に質問するとともに自分の考えを述べる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特になし

講義の際、通常、資料が配布される。

【参考図書】

1. 「現代企業の経営行動」白鷗大学ビジネス開発研究所編 2004.6 白桃書房
2. 「ケースブック 現代企業の経営戦略」白鷗大学ビジネス開発研究所編 2006.3 白鷗大学刊
3. 「ケースブック 現代の国際経営」白鷗大学ビジネス開発研究所編 2010.3 白鷗大学刊

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

各セッション終了後の提出されたレポートの内容を基本に、受講態度を勘案して総合的に評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

各セッションごとのセッション担当教員(コーディネータ)の評価に15回全体の受講態度を加味して評価する。

【履修上の心得】

- ・ゲストスピーカーに対し、失礼のない態度で受講すること。
- ・講演後の質疑にも積極的に参加できるよう留意して受講すること。
- ・ゲストスピーカーの講義は必ず聴くようにすること、(就職活動中の4年次生も必ず出席し、レポートを提出すること)

【科目のレベル、前提科目など】

経営学部の学生として基本的な経営学の知識は身に付けていることを前提に話されるゲストスピーカーが多い。

【備考】

“生きた経営学”を学ぶ科目であるとともに、学生が就職活動にあたっての心構え、仕事や働くことに対する意識を高めることに役立つ。

科目名	インターンシップ I
教員名	キャリアセンター（経営）

【授業の内容】

インターンシップとは、学生が在学中に、企業等において自らの専攻やキャリアに関連した就業体験を行うことである。インターンシップは、自己の職業適性や将来設計について考える機会となり、体験者の主体的な職業選択や高い職業意識の育成を図ることをその目的とする。

本講義では、インターンシップを希望する受講生が上記の目的をより効果的に達成することができるよう、インターンシップの意義やインターンシップに参加するうえで必要な知識、および自己分析や仕事研究・業界研究など就職活動をするうえで必要な基本的・専門的知識を習得することを目的として講義を進める。

【到達目標】

本講義を通じて、インターンシップの意義や心構えについての理解を深めるとともに、現在の就職環境の把握および就職活動に備えて取り組むべきことについて理解する力を高めることが目標となる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
この授業を受講する目的を考えておく。(予習30分)
- 第2回 自己分析 I 自分の強み
自分の強みを考え、それが社会で求められている強みかどうかを考えること。(復習2時間)
- 第3回 自己分析 II 興味・価値観
就職活動だけではなく入社後の社会人人生にも繋がってくる。授業を踏まえ、自分が最も大切にしてきた価値観とは何かを考えること。(復習2時間)
- 第4回 インターンシップの事前学習 I 仕事研究
興味のある業界・業種・職種からインターネット検索してインターンシップ求人企業を探してみる。(復習1時間)
- 第5回 インターンシップの事前学習 II 業界研究
興味のある業界を調べてみる。(復習1時間)
- 第6回 インターンシップの事前学習 III 職種研究
固定観念にとらわれることなく、職種研究をして理解を深めること。(復習1時間)
- 第7回 インターンシップの事前学習 IV 企業研究
興味のある企業の研究にチャレンジすること。(復習1時間)
- 第8回 企業におけるインターンシップの意義<ゲストスピーカー>
第7回授業等を踏まえ、ゲストスピーカーの企業研究をすること。(予習1時間)
ゲストスピーカーの講義内容をまとめること。(復習1時間)
- 第9回 ビジネスマナーの知識 I 応募から書類作成
応募するための履歴書を作成すること。(復習1時間)
- 第10回 ビジネスマナーの知識 II 身だしなみと所作
インターンシップの選考及び参加するにあたり、ふさわしい身だしなみや所作ができていようかどうか確認すること。(復習30分)
- 第11回 ビジネスマナーの知識 III 面接から初日の対応
人気企業のインターンシップに参加するためには、まず選考に合格しなければならない。グループディスカッションや面接等の選考に通過できるよう、キャリアサポートセンターでチェックしてもらおう。(復習1時間)
- 第12回 ビジネスマナーの実践 I 仕事の進め方
授業で解説したことが自分に備わっているか否かを把握し、インターンシップでどのように仕事に取り組むかを考えておくこと。(復習1時間)
- 第13回 ビジネスマナーの実践 II 電話応対
新社会人でも一番緊張するといわれている電話応対。必ずシュミレーションしておくこと。(復習1時間)
- 第14回 ビジネスマナーの実践 III メール・手紙
授業で解説した内容がインターンシップで実践できるようにシュミレーションしておくこと。(復習1時間)
- 第15回 総括 (インターンシップへの参加について/先輩登場)
インターンシップに参加するうえの留意事項等を確認すること。(復習1時間)

※授業の進捗状況によって内容を変更することがある。

【授業の進め方】

外部の専門家講師による実践的な講義が中心となり、パワーポイント等を使用し、講義の要点を明示しながら授業を進めていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①大学生のためのインターンシップ ②力石正弘・栗原栄美 共著 ③CARRELキャリア・マネジメント ⑤1000

オリジナルテキスト『大学生のためのインターンシップ』(Book'sナカジマ様にて販売予定)を必ず購入すること。

【参考図書】

『キャリアデザイン・ハンドブックⅠ』白鷗大学進路支援センター・進路指導部(1年次に配布)
『キャリアデザイン・ハンドブックⅡ』白鷗大学進路支援センター・進路指導部(2年次に配布)
『キャリアデザイン・ハンドブックⅢ』白鷗大学進路支援センター・進路指導部(3年次に配布)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%
特記事項

講義中の課題(受講態度に含める)およびレポート課題(3回:自己PR・企業研究・履歴書等)により評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

当該科目のすべての授業回数の3分の2以上に出席していること

【履修上の心得】

- ・受講生は毎回必ず出席すること。なお、すべての授業回数の3分の2以上出席しないと成績評価の対象とはならない。
- ・講義中の私語および遅刻・途中退室は一切認めない。
- ・キャリアサポートセンター主催の「インターンシップ・ガイダンス」に必ず出席すること。なお、ガイダンスの実施日時は各自で確認すること。

【科目のレベル、前提科目など】

本講義は認定科目「インターンシップⅡ(2単位:10日以上参加)」「インターンシップⅢ(1単位:5日~9日間参加)」の前提科目である。

【備 考】

- ・インターンシップを考えている学生は積極的に受講することを希望する。
- ・就職活動が始まる前の2年次あるいは3年次に受講することが望ましい。

科目名	インターンシップⅡ
教員名	キャリアセンター（経営）

【授業の内容】

インターンシップとは、学生が在学中に、企業等において自らの専攻やキャリアに関連した就業体験を行うことである。インターンシップは、自己の職業適性や将来設計について考える機会となり、体験者の主体的な職業選択や高い職業意識の育成を図ることをその目的とする。

本科目は、「インターンシップⅠ」の単位修得者を対象に、インターンシップに合計10日間以上かつ60時間以上参加したことを単位認定（2単位）するものである。

【到達目標】

インターンシップに参加することを通じて、自己の職業適性や将来設計について考え、将来の職業選択や職業意識の育成を図ることが目標となる。

【授業計画】

インターンシップ受入先企業などの独自の研修プログラムに準拠する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に指定しない。

【参考図書】

- 『キャリアデザイン・ハンドブックⅠ』白鷗大学キャリアセンター（1年次に配布）
- 『キャリアデザイン・ハンドブックⅡ』白鷗大学キャリアセンター（2年次に配布）
- 『キャリアデザイン・ハンドブックⅢ』白鷗大学キャリアセンター（3年次に配布）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 100% 受講態度 0%

特記事項

- ・キャリアサポートセンターに提出した「インターンシップ実施報告書」および企業等による評価書に基づいて、キャリアセンター（経営）が単位認定する。なお、成績通知表には「N」と記載される。
- ・実働日数かつ実働時間数が認定基準に満たない場合には、単位は認定されない。単位認定の詳細については、単位認定申請時に教務課に確認すること。

【履修上の心得】

- ・本科目は、前提科目である「インターンシップⅠ」の単位修得者を対象とする科目である。
- ・5月下旬（水曜日4時限目）に実施される「インターンシップ・ガイダンス（キャリアサポートセンター主催）」に必ず出席すること。なお、ガイダンスの実施日時は各自で確認すること。
- ・インターンシップ受入先企業などの独自の研修プログラムに従って、業務に従事すること。
- ・インターンシップ終了後、「インターンシップ実施報告書」をキャリアサポートセンターに提出すること。
- ・教務課窓口にて単位認定の申請をすること。申請期間や申請方法等については、教務課の掲示を確認すること。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目:「インターンシップⅠ」の単位修得者を対象とする。

【備考】

- ・本科目（2単位）は認定科目であるため、履修登録の必要はない。年間上限履修単位の40単位をすでに履修している受講生であっても単位修得可能である。
- ・実働日数かつ実働時間数が認定基準に満たない場合には、単位認定の申請をしても認定されない。単位認定の詳細については、単位認定申請時に教務課に確認すること。
- ・単位認定申請の際に提出された書類等に不備がある場合、受入先からの評価書あるいは担当者等の証明印がない場合には、単位認定されない。

科目名	ITメディア論 I
	メディアとストーリー —コンテンツづくりの基礎知識—
教員名	菅野 嘉則

【授業の内容】

情報のデジタル化とともに、インターネットがメディアとしての存在感を増しています。クラウドやモバイル・デバイスの普及、通信の高速化などによって、インターネットをめぐる新サービスが続々と登場し、情報の流れが変わりつつあるのです。今や、学生もビジネスマンも、多くの時間をネット経由の情報収集やコミュニケーションにあて、「いつでも、どこでもメディアと一緒に」な日々を過ごしています。

このようなメディア環境において、新しいサービスやコンテンツを生み出すためには、過去の成功体験や勘に頼るのではなく、メディアの特性を理解し、創作に必要な知識を論理的に体系化し整理する努力が欠かせません。人々は何に心惹かれ、どのようなコンテンツを面白いと感じるのかを探り明らかにしなければならないのです。

本講座ではデジタルが主役となるメディアの新しい“常識”を知り、人々をのめり込ませる技術としてのストーリーを学びます。人々の感情を揺さぶるコンテンツを理解することは、メディアに興味を持つ学生にはもちろんのこと、そうでない学生にも新ビジネス発想のヒントとなり、様々なプロジェクトの企画や管理運営に役立てることができるでしょう。コンテンツ制作力はコミュニケーション力を磨くことでもあります。多くの学生がコンテンツ制作の体系的な知識を身につけ、創造的な活動を行うための参考にしてほしいと思います。

【到達目標】

I Tメディアの特性とストーリー構造を理解し、コンテンツを制作するための基礎知識を得ること。

【授業計画】

第1回	ガイダンス	学習課題：メディアとコンテンツ（～4時間）
第2回	I Tが社会を変える	学習課題：I o TとV R（～4時間）
第3回	I Tがメディアを変える	学習課題：消費者主役とグローバル化（～4時間）
第4回	検索と炎上	学習課題：デジタルリテラシー（～4時間）
第5回	影響力の武器	学習課題：のめり込ませる技術（～4時間）
第6回	物語るということ	学習課題：ストーリーとキャラクター（～4時間）
第7回	プロットを作る I	学習課題：アイデアからストーリーを作る（～4時間）
第8回	プロットを作る II	学習課題：形式からストーリーを作る（～4時間）
第9回	プロットを作る III	学習課題：ストーリーのプレゼンテーション（～4時間）
第10回	ストーリーの構造	学習課題：直線構造の3幕構成（～4時間）
第11回	ストーリーの分析 I	学習課題：映画シナリオの分析（～4時間）
第12回	ストーリーの分析 II	学習課題：映画シナリオの分析（～4時間）
第13回	ストーリーの分析 III	学習課題：映画シナリオの分析（～4時間）
第14回	ストーリーの制作 I	学習課題：オリジナルストーリーの作り方（～4時間）
第15回	ストーリーの制作 II	学習課題：オリジナルストーリーの作り方（～4時間）

【授業の進め方】

講義形式の授業で、適宜実作を行います。授業内容はその時々々の業界動向を反映したものになります。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

テーマに合わせて都度指定します。

【参考図書】

『影響力の武器: なぜ、人は動かされるのか』ロバート・チャルディーニ（誠信書房・2014年・ISBN-10: 4414304229）2916円

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 30% 受講態度 70%

【履修上の心得】

最新のコンテンツ制作を学ぶための推奨科目は以下の通りです。

I Tメディア論 I → I Tメディア論 II → メディア制作演習 I（アニメ） → メディア制作演習 II（アニメ） → メディア制作（3Dプリント） → 菅野ゼミナール I → 菅野ゼミナール II

【科目のレベル、前提科目など】

I Tメディア論 II と合わせて受講することが望ましい。履修推奨年次は全学年です。

科目名	ITメディア論Ⅱ
	ストーリーとキャラクター —コンテンツづくりの基礎知識—
教員名	菅野 嘉則

【授業の内容】

情報通信技術の進歩とともに、メディアは重要な転換期を迎えています。インターネットの普及によって、いつでもどこでも情報を高速にやりとりできるようになり、人々は情報収集やコミュニケーションを主にネット経由で行うようになりました。メディアは情報を一方的に送り届けてくれるものではなく、自ら使いこなすものと認識され、誰もがサービスを提供したりコンテンツを発信できる時代が到来したのです。もはやコンテンツを理解することなく、これからのライフスタイルやビジネスを思い描くことは不可能と言えます。

このようなメディア環境において、新しい商品やサービスを生み出すためには、過去の成功体験や勘に頼るのではなく、最新のデジタル技術を理解し、創作に必要な知識を論理的に体系化し整理する努力が欠かせません。メディアを流通するコンテンツはどのような要素からなり、各々がどのような機能を持っているのかを把握しなければならないのです。

本講座ではメディア新世界を生き抜くために必須となる、コンテンツ構成要素を学びます。プロデューサーからディレクション、シナリオ、絵作りに至るコンテンツ制作技術は、メディアに興味を持つ学生にはもちろんのこと、そうでない学生にもものづくりのヒントとなり、様々なプロジェクトの企画や管理運営に役立てることができるでしょう。コンテンツ制作力はコミュニケーション力を磨くことでもあります。多くの学生がコンテンツ制作の体系的な知識を身につけ、創造的な活動を行うための参考にしてほしいと思います。

【到達目標】

制作工程を体系的に整理して創作活動の基礎を理解し、コンテンツを制作するための基礎知識を得ること。

【授業計画】

第1回	ガイダンス	学習課題：コンテンツ産業市場（～4時間）
第2回	コンテンツの構成要素	学習課題：産業としてのコンテンツ（～4時間）
第3回	コンテンツの制作工程	学習課題：映像はアニメになった（～4時間）
第4回	プロデューサー	学習課題：プロデューサーの仕事（～4時間）
第5回	シナリオの形式	学習課題：コンテンツの仕様書（～4時間）
第6回	シナリオの構造	学習課題：8シークセンス（～4時間）
第7回	シナリオの分析	学習課題：プロットとキャラクター類型（～4時間）
第8回	原作と映像化	学習課題：マンガとアニメーション（～4時間）
第9回	ストーリーの描き方	学習課題：ストーリーに必要な描写（～4時間）
第10回	シリーズのシナリオⅠ	学習課題：マルチプロットのドラマシリーズ（～4時間）
第11回	シリーズのシナリオⅡ	学習課題：シングルプロットのドラマシリーズ（～4時間）
第12回	ディレクションⅠ	学習課題：日本アニメの演出（～4時間）
第13回	ディレクションⅡ	学習課題：日本アニメの演出（～4時間）
第14回	キャラクターメイキング	学習課題：キャラクター設定の原則（～4時間）
第15回	プロジェクト・マネージメント	学習課題：工程管理とスタッフ管理（～4時間）

【授業の進め方】

講義形式の授業で、適宜実作を行います。内容はその時々業界動向を反映したものになります。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

指定教科書はありませんが、実写映画やアニメーションなどの映像作品を教材として活用します。

【参考図書】

- 『映画を書くためにあなたがしなくてはならないこと シド・フィールドの脚本術』シド・フィールド（フィルムアート社・2009年・ISBN-10: 4845909278）2700円
『SAVE THE CATの法則 本当に売れる脚本術』ブレイク・スナイダー（フィルムアート社・2010年・ISBN-10: 484591056X）2376円
『シナリオの基礎技術』新井一（ダヴィッド社・2010年・ISBN-10: 4804801758）1620円
『俳優の仕事—俳優教育システム〈第一部〉』コンスタンチン・スタニスラフスキー（未来社・2008年・ISBN-10: 4624700902）6264円
『俳優の仕事—俳優教育システム〈第二部〉』コンスタンチン・スタニスラフスキー（未来社・2008年・ISBN-10: 4624700910）6264円
『俳優の仕事—俳優の役に対する仕事〈第三部〉』コンスタンチン・スタニスラフスキー（未来社・2009年・ISBN-10: 4624700937）5184円
『メソッドへの道』リー・ストラスバーグ（構想社・1989年・ISBN-10: 4875745478）古書店などで入手

『リー・ストラスバーグとアクターズ・スタジオの俳優たち—その実践の記録』 ロバート・H・ヘスマン（劇書房・2002年・ISBN-10: 4875745990）古書店などで入手

『顔は口ほどに嘘をつく』 ポール・エクマン（河出書房新社・2006年・ISBN-10: 4309243835）1836円

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 30% 受講態度 70%

【履修上の心得】

最新のコンテンツ制作を学ぶための推奨科目は以下の通りです。

I Tメディア論 I → I Tメディア論 II → メディア制作演習 I（アニメ） → メディア制作演習 II（アニメ） → メディア制作（3Dプリント） → 菅野ゼミナール I → 菅野ゼミナール II

【科目のレベル、前提科目など】

I Tメディア論 I と合わせて受講することが望ましい。履修推奨年次は全学年です。

科目名	専門特講(ITパスポート資格講座)
	～経済産業省認定国家試験「情報処理技術者試験<ITパスポート試験>」対応～
教員名	黒澤・樋口(和)・船田・師

【授業の内容】

IT（情報技術）分野に関わる具体的で実践的な知識の習得を図り、「情報処理技術者試験」の一つである「ITパスポート試験」の合格を目指します。

「情報処理技術者試験」は、経済産業省が「情報処理の促進に関する法律」に基づいて設置した国家試験です。合格すれば、情報処理技術者としての知識・技能が一定の水準以上であることが認定されます。

「ITパスポート試験」は、このうち、特に情報システムを利用する立場にある「エンドユーザ（利用者）」向けに設置された、入門・基本的なレベルの試験です。特定の製品やソフトウェアに関する試験ではなく、ITの背景となる原理や技能に関する「基礎的な知識」が総合的に評価されます。本講義では、その出題範囲を系統的に学習していきます。

【到達目標】

「ITパスポート試験」の出題範囲は大きく3つに分けられます。したがって、学習の指針もそれに準じます。

- (1) テクノロジー系分野（コンピュータシステムの基礎技術や情報の基礎理論、等）が理解できるようになる。
- (2) マネジメント系分野（プロジェクトマネジメントやサービスマネジメント、等）が理解できるようになる。
- (3) ストラテジ系分野（システム戦略、経営戦略、企業と法務、等）が理解できるようになる。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス（授業内容、ITパスポート試験の概要、等の解説）とデモンストレーション（模擬授業）
これからの事前学習に備え、WebClass上の資料へのアクセス方法などを確認しておく（30分）。
- 第2回 [反転授業] 第1部コンピュータシステム（その1）：コンピュータ・システム構成要素
あらかじめWebClass上のビデオ資料（約30分）で事前に学習を済ませ、課題を解いておく（40分）。
- 第3回 [反転授業] 第1部コンピュータシステム（その2）：ソフトウェアとハードウェア
あらかじめWebClass上のビデオ資料（約30分）で事前に学習を済ませ、課題を解いておく（40分）。
- 第4回 [反転授業] 第1部コンピュータシステム（その3）：ヒューマンインタフェースとマルチメディア
あらかじめWebClass上のビデオ資料（約30分）で事前に学習を済ませ、課題を解いておく（40分）。
- 第5回 第2部 開発管理技術と情報科学（その1）：システムの信頼性
あらかじめWebClass上の資料に基づき事前学習を済ませ、課題を解いておく（60分）。
- 第6回 第2部 開発管理技術と情報科学（その2）：アルゴリズムとプログラミング
あらかじめWebClass上の資料に基づき事前学習を済ませ、課題を解いておく（60分）。
- 第7回 第2部 開発管理技術と情報科学（その3）：基礎理論
あらかじめWebClass上の資料に基づき事前学習を済ませ、課題を解いておく（60分）。
- 第8回 到達度確認テスト第1回：第1部～第2部全般
テストに備え、配付資料およびWebClass上の資料を用い第2回から第7回までの学習内容の復習を済ませておく（60分～120分）。
- 第9回 第3部 技術要素（その1）：LANとインターネット
あらかじめWebClass上の資料に基づき事前学習を済ませ、課題を解いておく（60分）。
- 第10回 第3部 技術要素（その2）：情報セキュリティ
あらかじめWebClass上の資料に基づき事前学習を済ませ、課題を解いておく（60分）。
- 第11回 第3部 技術要素（その3）：関係データベース
あらかじめWebClass上の資料に基づき事前学習を済ませ、課題を解いておく（60分）。
- 第12回 第4部 企業と経営戦略（その1）：企業と法務
あらかじめWebClass上の資料に基づき事前学習を済ませ、課題を解いておく（60分）。
- 第13回 第4部 企業と経営戦略（その2）：経営戦略
あらかじめWebClass上の資料に基づき事前学習を済ませ、課題を解いておく（60分）。
- 第14回 第4部 企業と経営戦略（その3）：システム戦略、システム企画
あらかじめWebClass上の資料に基づき事前学習を済ませ、課題を解いておく（60分）。
- 第15回 到達度確認テスト第2回：第3部～第4部全般
テストに備え、配付資料およびWebClass上の資料を用い第9回から第14回までの学習内容の復習を済ませておく（60分～120分）。

【授業の進め方】

- ・担当教員4人によるオムニバス方式です。
- ・「ITパスポート試験」の出題範囲を4部に分け、担当教員1人が一つの部を受け持ちます。
- ・受験に備え、問題をどう解くかを中心にした授業です。
- ・知識を確実に積み上げていくために、毎回、例題と過去問による解説、問題演習、確認テストを実施します。
- ・一般の教室を使い、講義と演習で構成する授業です。
- ・担当教員によって、コンピュータ教室を使う場合もあります。その際、簡単なPCの操作を伴うこともありますが、いわゆる「実習」の授業ではありません。

・第2回から第4回の講義は、「あらかじめインターネットでテキストとビデオを用いて勉強を済ませておき、教室では問題演習のみを行う」反転授業形式で行います。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ・教科書は指定しません。
- ・毎回、印刷教材を配布する予定です。

【参考図書】

[参考書]

情報処理分野に関する詳細な解説本(シリーズ化されています)として、たとえば次があります。

- ・岩波講座「情報科学」全24巻
- ・岩波講座「情報処理入門コース」全8巻
- ・岩波講座「インターネット」全6巻

[問題集]

過去問を含む問題集が、多数出版されています。たとえば次のようなタイトルで検索してみてください。

- ・ITパスポート試験対策問題集
- ・初級システムアドミニストレータ試験対策問題集
- ・基本情報技術者試験対策問題集

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 100% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

出席回数が全授業の3分の2以上であることを前提に、

(1) 毎回の授業で行う「小テスト」(全4部、各3回で、計12回実施)の累積点

(2) 授業の8回目と15回目に実施する「到達度確認テスト」の点数

を集計し、100点満点で評価します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

「ITパスポート試験」を受験する前提として知っておくべき「情報」に関する原理や関連知識が、確実に身に付いているかを評価します。

【履修上の心得】

情報系の資格試験をいずれ受験したいと考えている諸君は、早期のうちに受講を済ませておくとよいでしょう。

- ・時期 : 後期
- ・単位数 : 2単位
- ・該当学部: 全学部
- ・該当年次: 1年生の段階から履修可能です。

【科目のレベル、前提科目など】

履修後の期待される知識レベルは、「ITパスポート試験」に合格できるレベルです。

- ・前提科目: なし。
- ・関連科目: 教養科目の理数系科目、経営学部の情報・メディア系科目、教育学部の情報処理系科目、法学部の労務・知財系科目。

【備考】

・「ITパスポート試験」は、受験者の利便性を考え、国家試験としては初めて、パソコンを用いて試験を行うCBT(Computer Based Testing)方式で実施されています。全国の専門学校やパソコンスクールなどを会場に、随時開かれていますので、インターネットで確認して下さい。日程や会場に関する情報は次のサイトで得られます。過去問も公開されています。

IPA(独立行政法人 情報処理推進機構)の「情報処理技術者試験」ページ: <http://www.jitec.ipa.go.jp/>

・経済産業省に関する資格・試験の情報は次のサイトにまとめられています。

経済産業省の「資格・試験」ページ: <http://www.meti.go.jp/information/license/>

・「ITパスポート試験」の上位レベルに位置する試験として、「基本情報技術者試験」や「応用情報技術者試験」などがあります。これらの試験を目指す人も、基礎固めとして当講義を履修しておくといよいでしょう。

科目名	経済と現代社会
教員名	山田 徳彦

【授業の内容】

現代社会において経済活動はかかせない。本講義では、学問としての経済学の論理ではなく社会の経済的側面に焦点をあてて、経済の基本的なしくみを学ぶ。

【到達目標】

経済社会の基本的なしくみを理解できるようにする。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 経済社会を考える意義
- 第3回 社会の発展と経済学の展開(1)
- 第4回 社会の発展と経済学の展開(2)
- 第5回 社会の発展と経済学の展開(3)
- 第6回 経済活動と主体
- 第7回 市場の機能と限界
- 第8回 経済の成長と物価
- 第9回 財政に関する基礎的考察(1)
- 第10回 財政に関する基礎的考察(2)
- 第11回 金融に関する基礎的考察(1)
- 第12回 金融に関する基礎的考察(2)
- 第13回 国際経済に関する基礎的考察(1)
- 第14回 国際経済に関する基礎的考察(2)
- 第15回 まとめ

【授業の進め方】

資料を読解後、それを解説していく形で授業を進める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①スティグリッツ入門経済学 ②ジョセフ E.スティグリッツ, カール E.ウォルシュ, 藪下 史郎(翻訳) ③東洋経済新報社 ④2012/3/23 ⑤3,024 ⑥9784492314197

プリント冊子を配布

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

定期試験で評価

【履修上の心得】

時間厳守
私語厳禁

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目は特にない。可能な限り平易な内容を心がける。

【備考】

情報機器を活用して授業は行う予定である。

科目名	専門特講（就活コミュニケーション学（教職編））
教員名	渡辺 裕子

【授業の内容】

教育現場では児童生徒との関わりはもちろんのこと、保護者や地域の人たちとも深く関わる場面が多々あります。多様な価値観や異世代間でのコミュニケーション力が何よりも欠かせない職業です。したがって教員採用試験の面接では、相手の話をよく聴き自分の考えをきちんと伝えることができるより優れたコミュニケーション力が求められることは言うまでもありません。

教採面接の形態には個人面接や集団面接の他に模擬授業や場面指導などがありますが、ここでは主に個人面接を想定して進めていきます。「面接を受ける心構え」や「基本的な礼儀作法」はもちろん、「自分の考えを自分の言葉でわかりやすく伝えること」「相手の話を聴くこと」を実践を通して詳しく学んでいきます。

【到達目標】

- 1 面接を受けるときの「マナーや言葉遣い」を身につけることができます。
- 2 自分の考えを、自分の言葉で、わかりやすく伝えられるようになります。
- 3 「相手の話に耳を傾けるとはどういうことか・・・」が分かります。
- 4 「教員にとって必要なコミュニケーション力とは何か・・・」が分かります。
- 5 人前で話すことに自信が持てるようになります。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 実践1 「あなたの自己PRをしてください」
- 第3回 実践2 「教員を志望する理由は何ですか」
- 第4回 実践3 「あなたが大学時代に力を入れて取り組んだことは何ですか」
- 第5回 実践4 「あなたの強みと弱みを教えてください」
- 第6回 実践5 「あなたの目指す教師像を教えてください」
- 第7回 実践6 「『主体的・対話的で深い学び』についてあなたはどのようにとらえますか」
- 第8回 実践7 「あなたの座右の銘を聞かせてください」
- 第9回 実践8 「教育実習で感動したことや苦労したことはどんなことですか」
- 第10回 実践9 「あなたはボランティア活動の経験はありますか。具体的に教えてください」
- 第11回 実践10 「宿題が苦手な児童（生徒）がいます。あなたならどのように指導しますか」
- 第12回 実践11 「あなたの卒業論文のテーマを聞かせてください」
- 第13回 実践12 「教員としてはじめて、クラスの児童（または生徒）に挨拶をします。あなたはどんな挨拶をしますか」
- 第14回 受験に備えての最終チェック！（服装、笑顔、髪型等）
- 第15回 まとめ

（尚、順番が変わることもあります。実践内容は変更や追加されることもあります。）

【授業の進め方】

- 1 ワークを中心に進めていきます。
- 2 事前に「自己PR文」などをまとめてもらいます。それを元に授業を進めます。
- 3 社会に関心を持ってもらうために、週一枚、興味関心を持った新聞記事を切り抜きて「スクラップノート」を作成してもらいます。
- 4 毎回グループを作り、互いに自分の考えを伝え合います。（発表後は相互評価表を交換し合います）
- 5 授業のはじめに軽くウォーミングアップをします。その後、腹筋を鍛える声出しと滑舌の訓練をしていきます。

【教科書（必ず購入すべきもの）】

プリントを配布します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

レポート提出、スクラップノート提出

【履修上の心得】

毎回グループワークで自己表現をしていきます。遅刻は厳禁。授業中の無断退室は欠席扱いとします。将来教員を目指す気のある学生は大歓迎。

【備考】

「手鏡」（滑舌の訓練時に使います）と1分間の砂時計を用意してください。

科目名	専門特講（就活コミュニケーション学（企業編））
教員名	渡辺 裕子

【授業の内容】

企業が求める人材として、毎年トップにあげられるのが「コミュニケーション力がある人」です。採用試験の面接で、コミュニケーション能力（プレゼン能力も含めて）が問われることはいうまでもありません。ここでは、面接時に求められるコミュニケーション力（プレゼン力も含む）について学びます。声の出し方、惹きつける話し方、聞き方などの観点から、「自分の考えを自分のことばで分かりやすく表現する。相手の話に耳を傾ける」を実践的に詳しく学んでいきます。これから社会人となるあなたに必要な「基本的なマナー」も一緒に学んでいきます。

【到達目標】

1. 「自分が考えていることを、自分の言葉で、自分らしく自然体で表現すること」を目標とします。
2. 「社会人として必要な基本的なマナーや言葉遣いを身につけること」を目標とします。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 コミュニケーション力とプレゼン力を磨くために大切なこととは・・・
- ・声を出してみよう～笑顔、爽やかな声、人を惹きつける話し方、あがり症を克服するには等。
 - ・相手の話に耳を傾けてみよう。
- 第3回 実践1 例「あなたの自己PRをしてください」
- 第4回 実践2 例「あなたの短所と長所を教えてください」
- 第5回 実践3 例「あなたの志望動機を聞かせてください」
- 第6回 実践4 例「あなたが大学時代に力を入れたこと（夢中になった）は何ですか」
- 第7回 実践5 例「あなたが今までに一番苦労したと思うことは何ですか」
- 第8回 実践6 例「あなたの10年後はどんなことをしているのでしょうか」
- 第9回 実践7 例「最近の出来事で関心を持っていることは何ですか」
- 第10回 実践8 例「あなたには尊敬する人はいますか」
- 第11回 実践9 例「あなたの卒論のテーマは何ですか」
- 第12回 実践10 例「あなたのゼミは何ですか」
- 第13回 実践11 例「あなたの座右の銘を聞かせてください」
- 第14回 実践12 「グループ討議」「いざ、行かん！！」最終チェック（服装、姿勢、笑顔、声、目線、しぐさ）
- 第15回 まとめ

（尚、順番が変わることがあります。実践項目は必要に応じて追加または、変更されることもあります。）

【授業の進め方】

1. 面接指導を取り入れながら、ワークショップを中心に進めていきます。
2. 週に一枚、興味関心を持った新聞記事を切り抜きして、「スクラップノート」を作成してもらいます。授業の中で記事を紹介してもらう場面があります。
3. 授業の始めにウォーミングアップ（ダンスと声出し）をします。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

授業時にプリントを配布します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

レポートの提出、スクラップノートの提出

【履修上の心得】

毎回真剣勝負です。事前に「自己紹介文」などを書いてもらいます。授業中の無断退室は欠席扱いとします。中途半端ではついて行けません。

それなりの覚悟で履修してください。

【備考】

手鏡(滑舌の練習時等に使用)と、砂時計を用意してください。

科目名	インターンシップⅢ
教員名	キャリアセンター（経営）

【授業の内容】

インターンシップとは、学生が在学中に、企業等において自らの専攻やキャリアに関連した就業体験を行うことである。インターンシップは、自己の職業適性や将来設計について考える機会となり、体験者の主体的な職業選択や高い職業意識の育成を図ることをその目的とする。

本科目は、「インターンシップⅠ」の単位修得者を対象に、インターンシップに合計5日-9日間かつ30時間以上参加したことを単位認定（1単位）するものである。

【到達目標】

インターンシップに参加することを通じて、自己の職業適性や将来設計について考え、将来の職業選択や職業意識の育成を図ることが目標となる。

【授業計画】

インターンシップ受入先企業などの独自の研修プログラムに準拠する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に指定しない。

【参考図書】

- 『キャリアデザイン・ハンドブックⅠ』白鷗大学キャリアセンター（1年次に配布）
- 『キャリアデザイン・ハンドブックⅡ』白鷗大学キャリアセンター（2年次に配布）
- 『キャリアデザイン・ハンドブックⅢ』白鷗大学キャリアセンター（3年次に配布）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 100% 受講態度 0%

特記事項

- ・キャリアサポートセンターに提出した「インターンシップ実施報告書」および企業等による評価書に基づいて、キャリアセンター（経営）が単位認定する。なお、成績通知表には「N」と記載される。
- ・実働日数かつ実働時間数が認定基準に満たない場合には、単位は認定されない。単位認定の詳細については、単位認定申請時に教務課に確認すること。

【履修上の心得】

- ・本科目は、前提科目である「インターンシップⅠ」の単位修得者を対象とする科目である。
- ・5月下旬（水曜日4時限目）に実施される「インターンシップ・ガイダンス（キャリアサポートセンター主催）」に必ず出席すること。なお、ガイダンスの実施日時は各自で確認すること。
- ・インターンシップ受入先企業などの独自の研修プログラムに従って、業務に従事すること。
- ・インターンシップ終了後、「インターンシップ実施報告書」を進路指導部に提出すること。
- ・教務課窓口にて単位認定の申請をすること。申請期間や申請方法等については、教務課の掲示を確認すること。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目:「インターンシップⅠ」の単位修得者を対象とする。

【備考】

- ・本科目（1単位）は認定科目であるため、履修登録の必要はない。年間上限履修単位の40単位をすでに履修している受講生であっても単位修得可能である。
- ・実働日数かつ実働時間数が認定基準に満たない場合には、単位認定の申請をしても認定されない。単位認定の詳細については、単位認定申請時に教務課に確認すること。
- ・単位認定申請の際に提出された書類等に不備がある場合、受入先からの評価書あるいは担当者等の証明印がない場合には、単位認定されない。

科目名	専門特講(株投資と証券市場)
	お金の上手な活かし方
教員名	野村證券

【授業の内容】

資本市場に求められる役割とは何か。激変する日本の資本市場の全容と投資のリスク&リターンの考え方、株式投資・債券投資・ポートフォリオ運用・外国為替相場など証券投資における重要なテーマを実務の観点から解説します。

【到達目標】

直接金融の基礎的な知識の習得を通して、現代社会に参画する為に必要な資質を身に付ける。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 経済情報の捉え方
- 第3回 金融資本市場の役割とその変化
- 第4回 外国為替相場とその変動要因について
- 第5回 株式市場の役割と投資の考え方Ⅰ
- 第6回 株式市場の役割と投資の考え方Ⅱ
- 第7回 証券投資のリスク・リターン
- 第8回 ポートフォリオ・マネジメント
- 第9回 債券市場の役割と投資の考え方Ⅰ
- 第10回 債券市場の役割と投資の考え方Ⅱ
- 第11回 投資信託の役割とその仕組み
- 第12回 資本市場における投資家心理
- 第13回 日本の株式市場史
- 第14回 産業展望と投資の考え方
- 第15回 ライフプランニングとNISA

講義内容・順番は変更となる可能性があります。

【授業の進め方】

講師が配布するレジュメ、資料をもとに解説する。各回のテーマ毎、専門の現役社員が講師を行い、その時々的情勢を具体例を用いながら解説する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

講義資料は毎回WebClassを通じて提供する。

【参考図書】

「証券投資の基礎」 野村証券投資情報部 編 / 丸善株式会社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 50%

特記事項

出席と筆記試験を総合的に判断して評価する。

【履修上の心得】

金融資本市場・経済に関するトピックを取り上げる機会が多いので、日経新聞等の経済情報に日頃から目を通しておくことが望ましい。

科目名	マナーの基本
教員名	佐藤 由利

【授業の内容】

本講義では、生活をしていく上で良好な人間関係を築くためのコミュニケーションとして「マナーの基本」を習得する。マナーとは、社会の秩序を保ち、社会生活をスムーズに営むためのルールや規範のことである。コミュニケーションは、集団や組織の形成と存続にとって必要不可欠であり、人間社会の基礎をなすものといってもよいだろう。本講義は、まず、礼儀作法、生活の作法、伝統の作法の意義を理解し、相手への思いやりや周囲への気配りが求められることに気づく。その上で、「マナーの基本」が、日常生活で様々な人々と良好な人間関係を築いていくために必要なことを理解する。社会でも年齢、役職、価値観、仕事の仕方など異なる様々な人々と良好な人間関係を築き、コミュニケーションをとることは、仕事を遂行する上で最も大切なことである。「マナーの基本」はグローバル社会における「ビジネスマナー」を効果的に習得していくための導入講義である。

【到達目標】

礼儀作法、生活の作法、伝統の作法の意義を理解し、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションとして「マナーの基本」を習得できるようになることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 講義概要、講義目的、講義の進め方、評価方法等の説明、ビジネス系検定ガイダンス
ビジネス系検定試験の受験計画を作成し合格に向け計画を実行する (30分)。
- 第2回 礼儀作法:マナー・身だしなみ 教科書第1章～2章を要約し復習する (30分)。
- 第3回 言葉遣い 教科書第3章を要約し復習する (30分)。
- 第4回 日常生活の作法 日常生活の作法を復習する (30分)。
- 第5回 伝統の作法の基本 伝統の作法を復習する (30分)。
- 第6回 日本の慣習 日本の慣習を復習する (30分)。
- 第7回 来客対応の基本 教科書第4章を要約し復習する (30分)。
- 第8回 電話対応の基本 教科書第5章を要約し復習する (30分)。
- 第9回 訪問と接待の基本 教科書第8章を要約し復習する (30分)。
- 第10回 国際儀礼(プロトコール)の基本 教科書第9章を要約し復習する (30分)。
- 第11回 テーブルマナーの基本 教科書第9章を要約し復習する (30分)。
- 第12回 メール・文書の基本 教科書第10章を要約し復習する (60分)。
- 第13回 慶弔のマナーの基本 教科書第11章を要約し復習する (30分)。
- 第14回 贈答のマナーの基本 教科書第11章を要約し復習する (30分)。
- 第15回 まとめ これまでの授業内容について復習 (120分)。

【授業の進め方】

教科書に基づく講義形式である。随時、パワーポイントを利用する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①ビジネスコミュニケーション-グローバル社会におけるビジネス基礎力と運用能力- ②堀 眞由美 ③中央大学出版部 ④2017 ⑤1400 ⑥9784805761892

教科書は学内ブックスナカジマにて販売

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 85% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 15%

【履修上の心得】

- 履修確定者は、毎回必ず教科書を持参の上、出席すること。
- 履修の順番を「マナーの基本」→「ビジネスコミュニケーションⅠ」(講義)→「ビジネスコミュニケーションⅡ」(演習)で履修をすると講義で学んだことを実際に言動にうつせるようになりより効果的である。
- 講義中の私語は厳禁。他の履修者の迷惑になる場合は、退席してもらう。

科目名	地域経済論Ⅱ
教員名	山田 徳彦

【授業の内容】

地域経済・社会を活性化させるためには、地域社会の経済的自立が必要であり、活力ある産業の存在は欠かせない。この科目では、地域の実情に照らして「各種政策をどのように展開して、何が課題となっているか」を考えることにウェイトをおきつつ、地域の産業のあり方を多角的に考察していく。

【到達目標】

地域の経済・社会について理解し、問題の所在を発見し解決する能力を高める。
また、受講者自身が課題解決の方法をまとめることで、文章力・論理力の向上が期待される。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 集積論の系譜,産業と非基盤産業、クラスター
- 第3回 地場産業と地域ブランドの意味
- 第4回 第一次産業の概観とグリーン・ツーリズム
- 第5回 地域におけるグリーン・ツーリズムの可能性
- 第6回 第二次産業の概観と産業観光
- 第7回 地域における産業と産業観光の可能性
- 第8回 第三次産業の概観とイベント
- 第9回 地域における「体験」の意味
- 第10回 国の地域政策
- 第11回 国の地域政策への対応
- 第12回 伝統とその意味
- 第13回 SNSの役割と可能性
- 第14回 SNSの機能を活かすコンテンツはどのようなものか？
- 第15回 まとめ

【授業の進め方】

各回とも、配布資料を解説していく形で進める。その際、電子デバイスを多用する予定である。また、講義内容に合致する動画（5分程度）を用意するので、予習・復習に適宜活用されたい。
授業内容に応じて学習課題を提示するので、調べた内容をまとめておくこと。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①地域再生の罫 ——なぜ市民と地方は豊かになれないのか？ ②久繁哲之介 ③筑摩書房 ④2010/07/05 ⑤800
⑥978-4-480-06562-9

講義においては、電子デバイス・メディアを活用する。
本講義全体を通じて、各人の問題発見能力・解決能力・調査能力を高めたい。

【参考図書】

講義中、適宜指示する。また、プリントを配布する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

【履修上の心得】

いろいろなものごとが絡み合っていて、現在の地域社会は構成されている。そのため一つ一つの議論をきちんと理解すること。講義全体を通じて、問題の発見と調査能力の向上につながる内容を心掛けたい。
私語厳禁

【科目のレベル、前提科目など】

2年生以上を念頭において講義を進める

科目名	専門特講(情報キャッチボール技術)
	実在の市民メディア作品を副教材に、発信力・受信力を鍛える
教員名	下村 健一

【授業の内容】

①情報の捕球（受信）の仕方

今、フェイクニュースの急増が、世界的に深刻な問題となっている。どうすれば、虚実入り乱れるネット情報洪水に溺れずに泳いでいけるのか。本講で、その泳法をマスターしよう。

②情報の投球（発信）の仕方

最後まで優しく聴いてくれる、舌足らずな表現をしても頭の中で補って理解してくれる、そんな《普段接する人々》とのコミュニケーションと、ネットを介した《不特定多数》とのコミュニケーションでは、同じ日本語でも“文法が違う”と言っても過言ではないほどに、伝え方の作法が異なる。本講で、後者の文法をマスターしよう。

③生きた教材「市民メディア」

インターネット技術の発達に伴い、マスメディアとは別個の存在として、一般人が伝え手となる「市民メディア」が急速に台頭しつつある。君がSNSで何かを発信した瞬間、君自身もメディアとなるのだ。そこには、大いなる可能性（既存メディアには無い新鮮な視点や表現など）と同時に、危うさ（情報判断の甘さや思い込みの拡散等）も含まれている。

今世紀初めから“市民メディア・アドバイザー”として活動してきた下村の手元には、全国各地の一般市民が制作・発信した動画作品が大量にストックされている。その中から厳選した名作や問題作を生きた教材として、情報キャッチボールの技術を体感すると共に、急伸する「市民メディア」の光と影についても知見を深める。

【到達目標】

「情報化社会」とは、膨大な数の「情報」という名のボールが、四方八方から無秩序に飛び交う時代でもある。如何にして、エラーせずに捕球し、暴投せずに投球するか。これから社会に出て行く学生諸君にとって、極めて重要な《自衛策》であり《責任》でもある情報キャッチボール技術を、出来る限り多く身につけよう。

【授業計画】

第1回 自己紹介に代えて／端的な実例から——ブログやウィキペディアが描く「下村健一」

第2回 ★情報をしっかり受け取るための《4つのギモン》

①まだわからないよね？——結論を即断するな ⇒ [復習] 教科書該当部分の再読・整理(20分)

第3回 ②事実かな？ 意見・印象かな？——ゴツチャにして鵜呑みするな ⇒ [復習] 同上

第4回 ③他の見え方もないかな？——1つの見方に偏るな ⇒ [復習] 同上

第5回 ④隠れているものはないかな？——スポットライトの周囲を見よ ⇒ [復習] 同上

第6回 発信者になる時は——《4つのギモン》をそのまま自分に向け直そう ⇒ [復習] 同上

第7回 ★情報をしっかり届けるための《4つのジモン》

①私は何を伝えたいの？——明確さ ⇒ [復習] 同上

第8回 ②キメつけてないかな？——正確さ ⇒ [復習] 同上

第9回 ③キズつけてないかな？——優しさ ⇒ [復習] 同上

第10回 ④これで伝わるのかな？——易しさ ⇒ [復習] 同上

第11回 実習◇「ほんとうの交渉力」コンテスト(1) テーマ選び、班作り ⇒ [予習] シナリオ作成(数時間程度)

第12回 実習◇「ほんとうの交渉力」コンテスト(2) シナリオ完成 ⇒ [予習] シナリオ発表準備(数時間程度)

第13回 実習◇「ほんとうの交渉力」コンテスト(3) 教室内発表会 ⇒ [復習] 各班への下村コメント整理(60分)

第14回 (時事問題即応枠)

※学期中、本講の題材に相応しい時事問題が突発した時、この枠を充当して、以降を1週ずつ繰下げ

第15回 報道被害はなぜ無くならないのか——悪意なき“見えざる手”

《修復的報道》という提案 / 情報キャッチボールのこれから ⇒ [復習] 総確認・ノート整理(120分)

※以上のラインナップは、仮置きである。

実際の講義は、履修生との対話の進展具合、関連する時事問題への即応等によって、臨機応変に組み替える。

【授業の進め方】

各テーマは、

《授業時間の後半でスタート》⇒《履修生全員が感想・質問カードを提出》⇒《翌週の授業の前半で掘り下げ完結》を1サイクルとする。

指定教科書の他に、ほぼ毎回、一般市民による情報発信の実例(主に動画)を、生きた副教材として視聴する。

なお、学期中に1～2回の小課題作文を実施する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①「10代からの情報キャッチボール入門」 ②下村健一 ③岩波書店 ④2015.4.24 ⑤1600円+税 ⑥978-4-00-061041-4

【参考図書】

- * 「窓をひろげて考えよう」 下村健一著 (かもがわ出版) 2800円+税
- * 「マスコミは何を伝えないか」 下村健一著 (岩波書店) 1900円+税
- * 「首相官邸で働いて初めてわかったこと」 下村健一著 (朝日新聞出版) 860円+税

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- * 「レポート・課題70%」の内訳 = 期末レポート40% + 学期中の小課題作文(複数回ならその合計点) 30%
- * 「受講態度30%」は、毎回の授業での発言(意見・回答・質問)回数で算定する。
 - ・自ら挙手して指名された場合——2ポイント
 - ・前週の感想・質問カードを引用して下村が指名した場合——1ポイント
 - ・下村がランダムに指名した場合——0ポイント(不公平になるのでノーカウント)

※なお、「間違える」ことを恐れては学びは前進しないので、誤答による減点は一切行わない。
自主的に発言すれば、その参加姿勢を評価し、必ず加点する。

【履修上の心得】

わからないモヤモヤがあるのに質問しない者は、履修に向かない。
——下村の説明中に割り込んででも手を挙げる者を、歓迎する。

泳ぎ方を本で学びたい者は、履修に向かない。
——とにかく水に飛び込んで身体で学びたい者を、歓迎する。

ただ単位を取りたいだけの者は、履修に向かない。
——授業で何かを得て、《社会の一員としての責任》を担えるようになりたい者を、歓迎する。

科目名	専門特講(アニメシネマ論)
	Theory and Practice of ANIME ※英語で行う授業
教員名	藤井健・青崎智行・菅野嘉則

【授業の内容】

This class will provide you with the knowledge of ANIME business and the skill of producing CG animation.

Three professors take charge of their fields of expertise.

Prof. Fujii takes charge of a history of ANIME.

Prof. Aosaki takes charge of an ANIME business.

Prof. Sugano takes charge of producing a CG Animation

【到達目標】

Understanding the knowledge of ANIME Business and the skill of how to produce a CG Animation.

【授業計画】

第1回 History of ANIME (1)

(Review 60 minutes)

第2回 History of ANIME (2)

(Review 60 minutes)

第3回 History of ANIME (3)

(Review 60 minutes)

第4回 History of ANIME (4)

(Review 60 minutes)

第5回 History of ANIME (5)

(Review 60 minutes)

第6回 ANIME Business (1)

(Review 60 minutes)

第7回 ANIME Business (2)

(Review 60 minutes)

第8回 ANIME Business (3)

(Review 60 minutes)

第9回 ANIME Business (4)

(Review 60 minutes)

第10回 ANIME Business (5)

(Review 60 minutes)

第11回 Producing a CG animation (1)

(Review 60 minutes)

第12回 Producing a CG animation (2)

(Review 60 minutes)

第13回 Producing a CG animation (3)

(Review 60 minutes)

第14回 Producing a CG animation (4)

(Review 60 minutes)

第15回 Producing a CG animation (5)

(Review 60 minutes)

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①No use

【参考図書】

as one thinks fit

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

科目名	専門特講(国際経営の理論と実践)
	Theory and Practice of International Management ※英語で行う授業
教員名	藤井健/国際経営の理論と実践担当教員

【授業の内容】

This is the international business study class for both Japanese and non-Japanese students (regardless of English level) by Japanese lecturer in English language.

During the world being globalized, first we will start to review the globalization from the historical point of economy, politics and culture.

The international business study is the study for multi-national corporation (MNC). In the class the students learn various kind of international business study theories which analyze MNC's activities. Also the class studies the relation of globalization and global- jinzai which means global talent, global managers or global leaders with the multiple analysis angles.

Hope the students take this class as an opportunity to start thinking how they should live in the globalized world.

本授業は、日本人学生と留学生を対象とし使用言語は英語です(語学レベルは問いません)。

グローバル化が進行する中、まずはグローバリゼーションについてその歴史的経緯を経済、政治、文化などの視点から考えます。国際経営論は多国籍企業の研究であることから、グローバリゼーションの過程でどのような考え方にもとづき多国籍企業が活動してきたかについて古典的理論から最新のものとまで紹介します。またグローバル人材の養成が社会的課題となる中、グローバリゼーションとグローバル人材の関係についても複数の観点から検討します。

本講座を通じ学生諸君が今後のグローバル化社会にどのように対処していくべきかを考える機会としてもらいたい。

【到達目標】

To learn the theories of globalization and international business study.

To learn global talents and global leadership in intercultural management

グローバリゼーション論と多国籍企業理論を通じ将来のグローバル化社会に対処するグローバル人材の在り方について理解することを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 Orientation to the class
授業内容についての説明
- 第2回 What does globalization mean?
グローバリゼーションとは
- 第3回 Globalization in history
グローバリゼーションの歴史
- 第4回 Globalization and Economy
グローバリゼーションと経済
- 第5回 Globalization and Politics
グローバリゼーションと政治
- 第6回 Globalization and Culture
グローバリゼーションと文化
Review test (1)
理解度テスト(1)
- 第7回 Theories of multinational company (1)
多国籍企業の理論(1)
Introduction to FDI(Foreign Direct Investment) and International business study
直接投資の国際経営理論についての紹介
- 第8回 Theories of multinational company (2)
多国籍企業の理論(2)
Introduction to the international strategy process
国際ビジネス戦略(プロセス戦略)についての紹介
- 第9回 Theories of multinational company (3)
多国籍企業の理論(3)
Introduction to the international strategy contents
国際ビジネス戦略(コンテンツ戦略)についての紹介
- 第10回 Theories of multinational company (4)
多国籍企業の理論(4)
Introduction to the resource based view
国際ビジネス戦略(資源依存)についての紹介
Review test (2)
理解度テスト(2)

- 第11回 Global Jinzai(Talent) (1)
グローバル人材 (1)
What is Global Jinzai(Talent)?
グローバル人材とは
- 第12回 Global Jinzai(Talent) (2)
グローバル人材 (2)
Current status of Global Jinzai(Talent) in Japan
グローバル人材の実状
- 第13回 Global Jinzai(Talent) (3)
グローバル人材 (3)
Global Jinzai(Talent) in Japanese companies
グローバル人材と企業
- 第14回 Global Jinzai(Talent) (4)
グローバル人材 (4)
Challenges of Global Jinzai(Talent)
グローバル人材の課題
Review test (3)
理解度テスト (3)
- 第15回 Summary (Globalization, International business and Global Jinzai(Talent))
まとめ (グローバル化、国際ビジネスとグローバル人材について)

【授業の進め方】

Each class consists of lectures and discussions. Reference materials are delivered every class. Conduct some review tests and term paper(report) will be required.

授業は講義と議論が中心です。参考資料は毎回配布します。理解度の確認のため授業内小試験を実施します。また期末レポートの提出が必要です。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①Reference materials will be delivered (参考資料を毎回配布します)

【参考図書】

Steger, M. B. (2017) GLOBALIZATION A Very Short Introduction, Oxford. (櫻井公人・櫻井純理・高嶋正晴 (訳) 『1冊でわかる 新版グローバル化』岩波書店, 2013年。)

江夏健一・太田正孝・藤井健(編) (2013) 『シリーズ国際ビジネス 〈1〉 国際ビジネス入門 第2版』中央経済社。

吉田文 (2015) 「グローバル人材の育成をめぐる企業と大学とのギャップ- 伝統への固執か, グローバル化への適応過程か」(五十嵐泰正・明石純一 編著 『「グローバル人材」をめぐる政策と現実』明石書店。)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 30% レポート・課題 35% 受講態度 35%

特記事項

Credit for this class based on the term report, attendance and review tests.

定期テストは行いません。受講態度(授業回数の3分の2以上に出席すること) 授業内小テスト及び期末レポートで評価します。

【履修上の心得】

The class will be conducted in English by Japanese lecturer.

授業は日本人講師が英語で行います。

【科目のレベル、前提科目など】

Preferably need interest in globalization and multinational companies and also in class in English language.

専門知識は不要ですが国際化や多国籍企業に関心があることが望ましい。

英語での授業に興味があれば英語力は問いません。

【備考】

Both native and non-native English speakers take this class every year. Also both Japanese students who have studied abroad and who have never used English since high school.

本講義には英語圏や英語圏以外の留学生など年度によってさまざまな受講生がいます。日本人学生も同様に、留学経験者から中高の授業以外ほとんど英語と接したことがないような学生も受講しています。都度、受講生の英語力を確認することで最大公約数的な英語レベルの講義を目指しています。

科目名	専門特講(古典芸能にみる経済学)
教員名	市川 千秋

【授業の内容】

歌舞伎や浄瑠璃、能、狂言といった古典芸能は日本人の日々の涙や笑いに、さらには生活様式に、深く影響を与えてきました。ところが、現在その多くは若い世代の人にはあまり知られていません。むしろ海外で研究され、外国の人によく知られた分野もあるそうです。海外に出張した日本のエリート社員が歌舞伎や能について聞かれ、何も答えられずに恥ずかしい思いをしたとも聞きます。アニメや戦隊シリーズ、***48や漫才・コントのお笑いブームなど日本の流行の多くは、歌舞伎や落語、狂言などに源流があります。さらに古典芸能のストーリーには経済学や経営学のエッセンスが隠されています。それもノーベル経済学賞レベルの奥の深い話です。

この授業ではやさしい古典芸能の内容を皆さんに紹介し、その背後にある経済・経営の論理をひも解いていきたいと思えます。皆さんと一緒に古典芸能の面白さを堪能しましょう。可笑しい話、人情話、それにお堅い話…。とにかく日本の古典芸能は素晴らしいのです。

授業は次のような構成です。

序：	芸能と社会科学	～	除災・招福の世界と効率・合理性の世界
第1部：	落語の世界	～	第1幕…第6幕
第2部：	浄瑠璃・歌舞伎	～	第7幕…第12幕
第3部：	狂言・能	～	第13幕…第15幕

【到達目標】

日本の古典芸能の基礎知識を習得する
行動経済学やゲームの理論、経営戦略論の理解を深める

【授業計画】

- 第1回 序： 芸能と社会科学 … 除災・招福の世界と効率・合理性の世界
相反する世界の接点は？
思川河川敷の雉、小山の観晃橋、小山市の弓道場～ 能『長柄の橋』の再現！
人柱は究極のサンクコスト
- 第1部： 落語の世界
第1幕： 落語とは … その構造と力 ～扇子、手拭い、茶碗に座布団が演出するおかしな住民の物語、落語の基本、落とし斬、「かみしもをふる」
* 江戸時代の貨幣制度～三貨制度
- ・復習時間30分
- 第2回 第2幕： 落語の住民とお金 … 日々の暮らしに出てくるお金
『千両みかん』～ お金の不思議な効用…使用価値と交換価値
『時そば』『つば算』～ 詐欺、トリック、悪ふざけ
* 江戸の時刻制度
* 江戸の諸式（物価）
- ・復習時間30分
- 第3回 第3幕： 落語に見る金銭感覚 … 「欲深き人の心と降る雪は、積もるにつけて道を失う」
『雛つば』～ お金に対する建前と本音
『大工しらべ』～ 稼ぎのいい大工の棟梁 vs 倹しい大家
健全な金銭感覚もこだわりが強いと裏目に…！
- ・復習時間30分
- 第4回 第4幕： 落語が教えるお金の扱い方 … ホモ・エコノミクスの面目
『もう半分』～ 怖い結末
『黄金餅』『芝浜』『文七元結』～ お金が人生を変える
- ・復習時間30分
- 第5回 第5幕： 落語と経済理論① … 人を動かす経済論理
『大工しらべ』～ 与太郎は稼ぎがいい…単位労働コスト
『花見酒』～ 回るお金と実態経済 …バブルの顛末、貨幣数量説
『三方一両損』～ ゲームの理論で解釈すれば…囚人のジレンマ
『鰻の太鼓』～ 初期投資と割引現在期待値

・復習時間30分

- 第6回 第6幕： 落語と経済理論② …… 落語は行動経済学の宝庫
『火焰太鼓』 ～ 道具屋の女房の勧告は合理的か？ 限定合理性とは
『うまや火事』 ～ 後悔の経済学、時間の非整合性
『湯屋番』 ～ 番台の若旦那の白昼夢…期待効用

* 行動経済学とは

・復習時間30分

- 第7回 第2部： 浄瑠璃・歌舞伎が語る経済
第7幕： 浄瑠璃・文楽とは …… 三味線と詞章の語りに乗せて人形が作り出す世界
歌舞伎とは …… 浄瑠璃等の音曲に合わせて役者が詞章を語り、演じ、踊る世界

世話物、人情物 ～ 武士や公家の物語、上方の商人社会の日常における柵（しがらみ）、色恋を描く
心中物 ～ 義理人情の柵からの悲劇的な解決

* 弱い主人公への共感・同情 ⇒ その後の日本人のメンタリティに影響 哀切、悲哀

・復習時間30分

- 第8回 第8幕： 浄瑠璃・文楽で知る江戸期の為替 …… 旅先の水戸黄門にお金を送るには
『冥途の飛脚』 ～ 飛脚屋は昔の郵便局：手紙に荷物、現金書留も
封印切りが悲劇の発端
『女殺油の地獄』 ～ 最悪のピカレスク・ロマン
不条理の惨劇のきっかけは高利貸への返済から
割符（小切手）が動かぬ証拠

* 江戸時代の為替制度

・復習時間30分

- 第9回 第9幕： 浄瑠璃・文楽の敵討ちとお金で測れぬ価値
『伊賀越道中双六』 ～ 親子の情愛 > 世間の義理 > お金の力
『仮名手本忠臣蔵』 ～ 色恋のつぐないを金と命で
身売りの半金50両の争奪 = 公的金融のお金の流れ…お軽(おかる)は国債！

* 公的金融制度…産業投資特別会計と政府系金融機関

・復習時間30分

- 第10回 第10幕： 歌舞伎の語る意地の張り合い
『助六』 ～ 名刀を手にするための戦略は
『勧進帳』 ～ 安宅の関の駆け引き…参入阻止企業戦略をゲームの理論で

* ゲームの理論……ツリーの展開

・復習時間30分

- 第11回 第11幕： 歌舞伎とお金の腐れ縁 …… 日本人を陶酔させた名セリフ！
『三人吉三白波』 ～ 巡る金(100両)と刀(庚申丸)は因果応報
『白波五人男』 ～ 事件の発端は胡蝶の香合、取り違えた息子の悲劇
…落とした10文を50文払って探した「青砥藤綱」とは

* お金・貨幣の意味とは……表現する価値は？

・復習時間30分

- 第12回 第12幕： 貨幣を考える …… 古典から現代
貨幣の定義は ～ 本質と形態 「一般的受容性」とは
貨幣を受入れる根拠は ～ 有価値性 or 法的強制 or ?
ビット・コインの仕組み ～ なぜ流通？
貨幣の不思議 ～ 貨幣の両義性

・復習時間30分

- 第13回 第3部： 能・狂言の世界からみる経済
第13幕 能の不思議

能とは ～ 単純な面、扇子、衣装を用いて簡潔な科白と所作によって人間の真情を深く表現する
演劇

その歴史と種類・・・発祥、盛衰、一番目物から五番目物

『熊野』『松風』は米の飯 ～ 去っていった肉親、恋人への狂おしい感情、物狂い、そして平穩
『他の演目』

* 経済の歴史は繁栄、インフレ、バブル、恐慌、やがて沈静化のくり返し

・復習時間30分

第14回 第14幕： 狂言の可笑しさ

狂言とは ～ 対話による簡潔な科白と所作によって演じる喜劇 人間の生きざまを笑いに集約する
その歴史と種類 …… 能との関係、本狂言、間狂言、三番叟

『附子（ぶす）』 ～ 主人が大事な砂糖を毒と偽って二人の使用人に預けたが・・・
エージェンシー関係から生じる問題とは

『他の演目』

* エージェンシー・コスト、スラックとは

・復習時間30分

第15回 第15幕： まとめ

能『高砂』 ～ 四海波静か 予定調和の世界を希求
・・・市場経済の信奉 完全雇用の自動実現は

* 新古典派とケインジアン

・復習時間30分

【授業の進め方】

授業はパワーポイントとその資料、そして教室利用が許されている図書館用DVD教材を鑑賞しながら進めていきます。
受講生が50人以下であれば、受講生のグループワークを検討します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

未定

【参考図書】

そのつど紹介します

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

科目名	専門特講(社会対応経営論)
教員名	黒田 勉

【授業の内容】

★履修希望者への注意

- (1) 当該科目は理屈づくしの講義であるので、「なぜ？」ということに関心がなければ受講が無意味になる。
- (2) 教科書に全面依存する講義であるので板書が少なく、ぼんやりしていると先に進んでしまっている。

これまでの経営学は企業活動自体の分析や経営者・管理者の立場に重点を置いてきたが、こうした考察方法を採用限り経営学は私たち（公衆・消費者）にとっての身近な学問にはなり得ない。この問題意識に基づいて、経営学という学問と日常生活を送る私たちとの距離感を縮めることを意図したのが「社会対応経営論」である。しかし、その「社会対応経営論」という名称は黒田が命名したにしか過ぎず、またそこでの論理展開も経営学の一般教養化を目指した独自の性質を持っているために、受講者は「社会対応経営論」が今のところ黒田の“私流経営学”であるという点についても、承知の上で履修することを切望する。

従って、「社会対応経営論」の中に組み込まれた学問領域は、経済学原論、マルクス経済学、労働経済学、商品学、哲学、家政学、社会学、経営管理論、経営組織論、労務管理論、流通論、マーケティング論、社会心理学、企業論など多様である。

【到達目標】

- ①経営学にも“このような考え方があるんだ”、ということに新鮮味を持って気が付くこと。
- ②主張されている理屈が“どれだけ現実をとらえられているか”、を受講者自身が判断できるようになること。

【授業計画】

第1回 営利的商品生産体

(1) 商品生産体

<復習30分>

第2回 (2) 営利追求体

<復習30分>

第3回 (3) 企業の定義

<復習30分>

第4回 労働

(1) 雇用調整

<復習30分>

第5回 (2) 労働時間

<復習30分>

第6回 アメリカにおける「企業の社会的責任」論争

(1) 論争の産物

<復習30分>

第7回 (2) 日本で求められる概念

<復習30分>

第8回 市場内ステークホルダー

<復習30分>

第9回 市場外ステークホルダー

<復習30分>

第10回 消費者の性質

<復習30分>

第11回 公衆と顧客と消費者との関係

<復習30分>

第12回 商品を見つめる消費者像

<復習30分>

第13回 組織文化

<復習30分>

第14回 勤労感

<復習30分>

第15回 公衆の市民化

<復習30分>

企業を中心とするビジネス活動は極めて活発なので、大きな話題がマスコミで取り上げられた場合には、その事柄に関するコメントなども扱う。

【授業の進め方】

1. 教科書に沿った講義になる。
2. 質疑応答を行ったりする。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①社会対応経営論としての経営学 ②黒田 勉 ③東京図書出版 ④2015年 ⑤¥1000 (税抜) ⑥9784862238245

【参考図書】

適時、指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

定期試験は、全て持ち込み不可。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

白鷗大学試験規則第2条に基づき、「受験資格は授業時数の三分の二以上出席した者に与えられる」、という決まりを順守する。

【履修上の心得】

★教科書およびノートは必ず持参すること。

【科目のレベル、前提科目など】

企業の性質を理解し、また自分の生活を見直してみたい、と思う気持ちさえあれば当該科目は難しくはないし、前提となる科目もない。

【備 考】

席は必ず前方に座ること。

科目名	専門特講(企業文化論)
教員名	西谷 勢至子

【授業の内容】

本講義は次のような問題に取り組むために企業文化に焦点をあてる。第1に、「個人によって行われる組織の行動は個人によるものといかに異なるのか」、第2に、「同じ業態、同じ規模で、同じ業種の企業であっても業績に違いが出るのはなぜなのか」である。具体的には、「企業文化はいかに捉えられるか、それはどのような役割を果たすか」、企業文化の類型や発生、維持、社会化、弊害について学習した上で、企業文化論の系譜について学ぶ。さらに、企業の不祥事に関する理解を深めるために、エージェンシー理論、取引コスト理論といった新制度派経済学の見方も学習する。

【到達目標】

企業文化の特徴と課題、そして企業文化がいかに研究されてきたかについて説明することができる。

【授業計画】

- 第1回 企業と組織（復習10分 予習20分：企業文化について調べる）
- 第2回 企業文化の基礎（復習30分：企業文化論について調べる）
- 第3回 企業文化の概念（復習30分）
- 第4回 企業文化の機能（復習30分）
- 第5回 企業文化の類型（復習30分）
- 第6回 企業文化の発生（復習30分）
- 第7回 企業文化の維持（復習10分 予習20分：人事システムについて調べる）
- 第8回 企業文化の人事システム（復習10分 予習20分：スクリーニングについて調べる）
- 第9回 企業文化の社会化（復習30分）
- 第10回 企業文化の系譜（復習30分）
- 第11回 企業文化の弊害（復習30分）
- 第12回 企業文化と日本の経営比較（復習30分：日本的経営について調べる）
- 第13回 企業の不祥事（復習20分：企業の不祥事について調べる 予習10分）
- 第14回 モラルハザード（復習30分：モラルハザードについて調べる）
- 第15回 新制度派経済学（復習30分：新制度派経済学について調べる）

【授業の進め方】

講義形式の授業である。授業内に複数回、課題を行い、理解度を確認しながら進める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用しない。

【参考図書】

- 『組織文化のマネジメント』出口将人著、白桃書房、2004年
- 『企業文化』松村洋平著、学文社、2006年
- 『企業の不条理』菊澤研宗著、中央経済社、2010年
- 『組織の経済学入門』菊澤研宗著、有斐閣、2016年

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 0%

特記事項

「レポート・課題」は、複数回実施する、授業内の課題に対する評価である。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

複数回実施する授業内課題を評価の対象とするため、単位取得のためには、毎回、授業に出席し、授業内容を理解することが求められる。理由のある欠席は必ず申し出ること。

【履修上の心得】

本講義は前の授業内容の理解を前提とすることが多いために、履修者は授業前に前回の講義内容を復習しておくことが求められる。

【科目のレベル、前提科目など】

本科目は経営学の知識をより深めることを目的としており、経営学の単位を取得した上で履修することが望ましい。

科目名	専門特講(創造都市論)
教員名	小笠原 伸

【授業の内容】

都市が新たな経済や文化、更には現代的な生活スタイルの発信地として世界的な注目をあつめるようになってきた。私達が豊かになる、快適に暮らす、魅力的な仕事を行うために、都市の多様な様相を知り学ぶことは重要である。本授業では、都市の成り立ち、都市を構成する多くの要素／「都市の装置」について知るとともに、経済活動から文化芸術の発信拠点としての都市の姿を学び、これからの都市のキーワードである「クリエイティブ・クラス」という概念を核にしてどのような創造都市というものを生み出してゆく必要があるのかを考えてゆく。

そして2020年東京オリンピック開催を前に、多くの転換が起ころうとしている東京を事例にして都市の変化とその多様な可能性を内包した都市の現況について学び、産業構造の変化やイノベーション、人々が集う場づくりと「サードプレイス」などを背景にして登場する地方都市の都市戦略や地域社会の構築など地方創生の状況についても扱ってゆく。

【到達目標】

1. 創造都市の概念について理解する
2. 都市における経済活動、文化芸術の未来像について理解する
3. 都市の変化とその可能性、サードプレイスやその場づくりについて理解する
4. 東京オリンピック、地方創生などによる都市の変化の事例を知る

【授業計画】

第1回 都市について

予習：シラバスを読み授業の大枠について理解する（1.5時間）

復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）

第2回 創造都市の出現とその社会的背景

予習：創造都市について調べ理解する（1.5時間）

復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）

第3回 都市の魅力と地方創生

予習：地方創生の現状について調べ理解する（1.5時間）

復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）

第4回 クリエイティブ・クラスについて

予習：クリエイティブ・クラスについて調べる（1.5時間）

復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）

第5回 クリエイティブ・クラスが起こす都市の変化

予習：クリエイティブ・クラスが活躍する都市の事例について調べる（1.5時間）

復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）

第6回 都市におけるインキュベーション機能

予習：インキュベーション機能について調べる（1.5時間）

復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）

第7回 創造都市の創出事例と最先端課題（1）

予習：創造都市の課題について調べる（1.5時間）

復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）

第8回 創造都市の創出事例と最先端課題（2）

予習：創造都市の課題について調べる（1.5時間）

復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）

第9回 「都市の装置」と経済

予習：都市機能について調べる（1.5時間）

復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）

第10回 「都市の装置」と文化・芸術

予習：都市機能について調べる（1.5時間）

復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）

第11回 「都市の装置」と公共空間

予習：都市機能について調べる（1.5時間）

復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）

第12回 サードプレイスと都市の新たな場づくり

予習：サードプレイスについて調べる（1.5時間）

復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）

第13回 都市戦略事例（1・東京と2020東京オリンピック）

予習：2020東京オリンピックについて調べる（1.5時間）

復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）

第14回 都市戦略事例（2・地方都市の取り組み）

予習：地方都市の実情について調べる（1.5時間）
復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）

第15回 まとめ

予習：これまでの授業の概略特に地方創生とクリエイティブ・クラスの関係について整理する（1.5時間）
復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）

【授業の進め方】

授業内容の1項目について、おおむね1時限ずつの頻度で進める。PCのスライドを使う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

必要なものがあれば授業の中で適宜指示する。

【参考図書】

「新・クリエイティブ資本論」（リチャード・フロリダ、ダイヤモンド社）などがある。詳しくは授業の中で紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 0%

特記事項

課題レポートと定期試験で判断する。

【履修上の心得】

すべての学生に開かれているが、特に都市戦略や地方創生、社会改革、ソーシャルデザインなどに関心ある学生は1、2年生時に履修することを望む。

【科目のレベル、前提科目など】

必須とする前提科目はないが、「NPO論」「新産業創造論」「ソーシャルデザイン論」を履修していると理解が早いであろう。

科目名	専門特講(新産業創造論)
教員名	小笠原 伸

【授業の内容】

日本では新しい産業の創造が急務となっている。それは大企業の経営者の役割ではなくむしろ地方都市の人々や若者にとっての役割となりつつあるとも言える。本授業ではソーシャルビジネス、地域振興におけるカフェの経営や持続的コミュニティの形成、農業ビジネス、SDGs、さらにクリエイティブ産業、ロボット研究やIoT (Internet of Things)、大学や研究機関の研究成果を活用した産官学連携の事例といった多様な分野において起こりつつある変化を紹介し、そこに続く新たな事例をこの授業から生み出してゆきたいという野心的な目標をもつ。

新しい産業は社会に新たな価値を示し、他の企業群や大企業へむけて良質な刺激を与える存在でもある。白鷗大学の所在する北関東も例外ではない。本授業から会得した内容によって学生諸君による地方都市での新産業創造のための事業計画立案と新たなビジネスへの道筋を示す作業も授業課題にて期待するものである。

【到達目標】

1. ソーシャルビジネスや先端技術分野を中心とした、新産業創造の事例について理解する
2. 地域振興におけるカフェや持続的コミュニティの形成、新しい農業ビジネスなど含めたソーシャルビジネス全般について理解する
3. STEAM教育の重要性を知り、産官学連携による新産業創出の可能性について理解する
4. クリエイティブ産業やクール・ジャパン政策の事例と課題について理解する

【授業計画】

- 第1回 新産業創造のための条件
 予習：シラバスを読み授業の大枠について理解する (1.5時間)
 復習：授業内容を確認し整理して会得する (1.5時間)
- 第2回 地方都市における新産業創造の必要性
 予習：地方都市の新産業創造について調べる (1.5時間)
 復習：授業内容を確認し整理して会得する (1.5時間)
- 第3回 ソーシャルビジネスとは何か
 予習：ソーシャルビジネス、SDGsについて調べる (1.5時間)
 復習：授業内容を確認し整理して会得する (1.5時間)
- 第4回 ソーシャルビジネスの事例と課題(1)
 予習：ソーシャルビジネス事例について調べる (1.5時間)
 復習：授業内容を確認し整理して会得する (1.5時間)
- 第5回 ソーシャルビジネスの事例と課題(2)
 予習：ソーシャルビジネス事例について調べる (1.5時間)
 復習：授業内容を確認し整理して会得する (1.5時間)
- 第6回 ソーシャルビジネスの事例と課題(3)
 予習：ソーシャルビジネス事例について調べる (1.5時間)
 復習：授業内容を確認し整理して会得する (1.5時間)
- 第7回 ソーシャルビジネスの最前線(1)
 予習：ソーシャルビジネスの中でも最先端の分野について調べる (1.5時間)
 復習：授業内容を確認し整理して会得する (1.5時間)
- 第8回 ソーシャルビジネスの最前線(2)
 予習：ソーシャルビジネスの中でも最先端の分野について調べる (1.5時間)
 復習：授業内容を確認し整理して会得する (1.5時間)
- 第9回 先端技術による新産業創造事例
 予習：ロボット研究やIoT、人工知能といった先端技術の状況を調べる (1.5時間)
 復習：授業内容を確認し整理して会得する (1.5時間)
- 第10回 先端技術による産業振興策
 予習：先端技術特にロボット産業について調べる (1.5時間)
 復習：授業内容を確認し整理して会得する (1.5時間)
- 第11回 ロボット研究やIoT、人工知能の最前線
 予習：ロボット、IoT、人工知能の先進事例について調べる (1.5時間)
 復習：授業内容を確認し整理して会得する (1.5時間)
- 第12回 新産業創造とSTEAM教育
 予習：STEAM教育について調べる (1.5時間)
 復習：授業内容を確認し整理して会得する (1.5時間)
- 第13回 クリエイティブ産業創出の事例と課題
 予習：クリエイティブ産業の事例について調べる (1.5時間)
 復習：授業内容を確認し整理して会得する (1.5時間)

- 第14回 地方都市における新産業創造の必要性～観光とクールジャパン～
予習：地方都市におけるクール・ジャパン事例について調べる（1.5時間）
復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）
- 第15回 まとめ
予習：授業全体を通しての整理を行う（1.5時間）
復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）

【授業の進め方】

授業内容の1項目について、おおむね1時限ずつの頻度で進める。PCのスライドを使う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

授業の中で適宜指示する。

【参考図書】

授業の中で適宜紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 0%

特記事項

課題レポートと定期試験で判断する。

【履修上の心得】

すべての学生に開かれているが、特に都市戦略や新産業創造、ソーシャルデザイン、社会改革などに関心ある学生は1、2年生時に履修することを望む。

一部にロボット、IoT、人工知能などの話題を扱う内容があるが、経営学部の学生で問題なく理解できるよう配慮してあるので知識的な心配は無用である。

【科目のレベル、前提科目など】

必須とする前提科目はないが、「NPO論」「創造都市論」「ソーシャルデザイン論」とともに受講すると更に理解が深まるはずである。

科目名	専門特講(商業簿記2級セミナー)
教員名	青木 孝暢

【授業の内容】

本講義は、日商簿記検定2級の試験対策を行う。日商簿記検定2級では、第1問から第3問までで商業簿記、第4問と第5問で工業簿記が出題される。このうち、本講義では、第1問から第3問の商業簿記の問題について取り扱う。なお、出来るだけ時間のかからない問題の解き方についても解説をしていく。

【到達目標】

検定試験は制限時間（2時間）があるため、時間内に合格点（70点）が取れるようになることを到達目標とする。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 検定試験を模した問題の解説(1)
 予習：指定した問題をあらかじめ解く（90分）
 復習：講義で解説した問題を再確認する（60分）
- 第3回 検定試験を模した問題の解説(2)
 予習：指定した問題をあらかじめ解く（90分）
 復習：講義で解説した問題を再確認する（60分）
- 第4回 検定試験を模した問題の解説(3)
 予習：指定した問題をあらかじめ解く（90分）
 復習：講義で解説した問題を再確認する（60分）
- 第5回 検定試験を模した問題の解説(4)
 予習：指定した問題をあらかじめ解く（90分）
 復習：講義で解説した問題を再確認する（60分）
- 第6回 検定試験を模した問題の解説(5)
 予習：指定した問題をあらかじめ解く（90分）
 復習：講義で解説した問題を再確認する（60分）
- 第7回 検定試験を模した問題の解説(6)
 予習：指定した問題をあらかじめ解く（90分）
 復習：講義で解説した問題を再確認する（60分）
- 第8回 検定試験を模した問題の解説(7)
 予習：指定した問題をあらかじめ解く（90分）
 復習：講義で解説した問題を再確認する（60分）
- 第9回 検定試験を模した問題の解説(8)
 予習：指定した問題をあらかじめ解く（90分）
 復習：講義で解説した問題を再確認する（60分）
- 第10回 検定試験を模した問題の解説(9)
 予習：指定した問題をあらかじめ解く（90分）
 復習：講義で解説した問題を再確認する（60分）
- 第11回 検定試験を模した問題の解説(10)
 予習：指定した問題をあらかじめ解く（90分）
 復習：講義で解説した問題を再確認する（60分）
- 第12回 検定試験を模した問題の解説(11)
 予習：指定した問題をあらかじめ解く（90分）
 復習：講義で解説した問題を再確認する（60分）
- 第13回 検定試験を模した問題の解説(12)
 予習：指定した問題をあらかじめ解く（90分）
 復習：講義で解説した問題を再確認する（60分）
- 第14回 検定試験を模した問題の解説(13)
 予習：指定した問題をあらかじめ解く（90分）
 復習：講義で解説した問題を再確認する（60分）
- 第15回 検定試験を模した問題の解説(14)
 予習：指定した問題をあらかじめ解く（90分）
 復習：講義で解説した問題を再確認する（60分）

【授業の進め方】

講義前にあらかじめ指定した問題を解いておき、講義ではその問題の解説を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①日商簿記2級 網羅型完全予想問題集 ②TAC簿記検定講座 ③TAC出版

4月以降に2017年度版が出版されるので、授業が始まるまで購入は避けること

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

特記事項

定期試験と平常点で総合的に評価

必要に応じて課題を出す場合あり

【履修上の心得】

商業簿記について、一つ一つ説明を行うことはしない。問題の解説を行うので、日商簿記検定2級のテキストを読み、問題集を一通り解いた者でなければ受講しても無意味である。また、講義の前に指定した問題を解いておくことが必須となる。

【科目のレベル、前提科目など】

日商簿記検定2級の知識が一通りあること

科目名	専門特講(情報処理資格講座)
	～経済産業省認定国家試験「情報処理技術者試験<基本/応用情報技術者試験>」対策～
教員名	黒澤 和人

【授業の内容】

経済産業省が「情報処理の促進に関する法律」に基づいて設置した国家試験「情報処理技術者試験」のうち、情報システムの開発に携わる「プログラマ」や「システムエンジニア」向けの「基本情報技術者試験」と「応用情報技術者試験」の受験対策講座である。

本講義では、その出題範囲のうち、データ構造とアルゴリズム、プログラミング、ネットワーク、情報セキュリティ、データベースを対象とし、午後の問題を中心に、過去問を徹底分析し、想定問題を解くことを繰り返す。

【到達目標】

- (1) ソフトウェア開発の基礎が理解できるようになる。
- (2) アルゴリズムとプログラミング言語の基礎が理解できるようになる。
- (3) ネットワーク、情報セキュリティ、データベースの基礎が理解できるようになる。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス（授業内容、試験の概要、等の解説）とデモンストレーション
あらかじめWebClass上の資料に基づき事前学習を実施しておくこと（30分）。
- 第2回 データ構造とアルゴリズム（その1）
あらかじめWebClass上の資料に基づき事前学習を実施しておく（60分）。
- 第3回 データ構造とアルゴリズム（その2）
あらかじめWebClass上の資料に基づき事前学習を実施しておく（60分）。
- 第4回 データ構造とアルゴリズム（その3）
あらかじめWebClass上の資料に基づき事前学習を実施しておく（60分）。
- 第5回 プログラミング（C/Java/アセンブラ）（その1）
あらかじめWebClass上の資料に基づき事前学習を実施しておく（60分）。
- 第6回 プログラミング（C/Java/アセンブラ）（その2）
あらかじめWebClass上の資料に基づき事前学習を実施しておく（60分）。
- 第7回 プログラミング（C/Java/アセンブラ）（その3）
あらかじめWebClass上の資料に基づき事前学習を実施しておく（60分）。
- 第8回 プログラミング（C/Java/アセンブラ）（その4）
あらかじめWebClass上の資料に基づき事前学習を実施しておく（60分）。
- 第9回 ネットワーク（その1）
あらかじめWebClass上の資料に基づき事前学習を実施しておく（60分）。
- 第10回 ネットワーク（その2）
あらかじめWebClass上の資料に基づき事前学習を実施しておく（60分）。
- 第11回 情報セキュリティ（その1）
あらかじめWebClass上の資料に基づき事前学習を実施しておく（60分）。
- 第12回 情報セキュリティ（その2）
あらかじめWebClass上の資料に基づき事前学習を実施しておく（60分）。
- 第13回 データベース（その1）
あらかじめWebClass上の資料に基づき事前学習を実施しておく（60分）。
- 第14回 データベース（その2）
あらかじめWebClass上の資料に基づき事前学習を実施しておく（60分）。
- 第15回 総まとめ
あらかじめWebClass上の資料に基づき事前学習を実施しておく（60分）。また、総まとめを行う（60分）。

【授業の進め方】

- ・ 毎回、過去問による解説、問題演習、確認テストを実施する。
- ・ PCの操作を通して、問題に示されているプログラムが実際にどう動くかを確認する。
- ・ 想定問題を解く。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ・ 教科書は指定しない。
- ・ 教材は、授業支援システム上に準備する。

【参考図書】

[参考書]

- ・ 「基本情報技術者」過去問題集
- ・ 「応用情報技術者」過去問題集

- ・「情報セキュリティスペシャリスト」過去問題集

[過去問]

- ・IPA（独立行政法人 情報処理推進機構）の「情報処理技術者試験」ページ：<http://www.jitec.ipa.go.jp/>

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 40% レポート・課題 20% 受講態度 40%

特記事項

出席回数が全授業の3分の2以上であることを前提に、

- ・毎回の授業で行う「小テスト」の累積点
 - ・単元ごとに実施する「到達度確認テスト」の点数
 - ・授業内の課題の処理状況
 - ・最終のレポートの処理状況
- を集計し、100点満点で評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

受験の前提として知っておくべき情報に関する原理や関連知識が、確実に身に付いているかを評価する。

【履修上の心得】

情報系の資格試験をいずれ受験したいと考えている諸君は、早期のうちに受講を済ませておくといよい。

- ・時期 : 後期
- ・単位数 : 2単位
- ・該当学部: 全学部
- ・該当年次: 1年生の段階から履修可能

【科目のレベル、前提科目など】

- ・関連科目: 経営学部の経営情報科学、同学部経営情報コースの各科目、教育学部の情報処理・教育方法論、法学部の法学情報科学。
- ・特講「ITパスポート資格講座」は、当授業の前提条件にはしない。同時並行に受けてもよいし、受けていなくてもよい。

科目名	専門特講(報道番組制作演習)
	メディア業界でもSNSでも役立つ《伝える力》を習得しよう
教員名	下村 健一

【授業の内容】

- インターネット公開にたえるレベルのニュース解説番組を、学内スタジオで制作する。
- 学生版完成後、下村が示すプロ版との対比により、《伝わりやすさ》向上の要諦を体得する。

【到達目標】

- * 番組制作体験を通じて、人にもものを伝える表現力・説得力・構成力・責任感を身につける。
- * 取材体験を通じて、課題発見力・情報収集力・傾聴力・提案力・社会常識を身につける。
- * グループで月1本の番組完成頻度を守ることで、共同作業力・時間管理能力を身につける。
- * 情報の取扱いを学び、自身のSNSでの誤解や炎上を予防する確かな発信力を身につける。
- * 現実の世の中と直結することで、「社会の中の白鷗大学生」としての自覚を身につける。
- * 情報系企業の就職活動でアピールできるような、目に見える具体的実績を身につける。

【授業計画】

- 第1回 * 皆が発信者の時代——学生や市民による、社会的テーマの動画発信活動の実例を学ぼう
* メディアセンターの職員さんから、学内スタジオの使い方の基本を学ぼう
-
- 第2回 * 用意された材料で、一通り作業工程を練習体験しよう（前半）
[復習] 授業時間内に目標まで到達できなかった作業を、各人・各班で進める。
かけた時間の分だけ作品の質は高まるので、所要時間は本人の意欲次第。
- 第3回 * 用意された材料で、一通り作業工程を練習体験しよう（後半）
[復習] 同上
-
- 第4回 * 番組1本目①——班分け、取材テーマ決定（身近な話題）、基礎取材入り
[復習] 同上
- 第5回 * 番組1本目②——集まった材料を基に、スタジオ原稿・動画編集・フリップ等作成
[復習] 同上
- 第6回 * 番組1本目③——スタジオ収録、各班ごとに完パケ編集
[復習] 同上
- 第7回 * 番組1本目④——教室内上映、相互批評、次回テーマ構想（時事問題に挑戦）
[復習] 同上
-
- 第8回 * 番組2本目①——取材テーマ決定、班分け、基礎取材入り
[復習] 同上
- 第9回 * 番組2本目②——集まった材料を基に、スタジオ原稿・動画編集・フリップ等作成
[復習] 同上
- 第10回 * 番組2本目③——スタジオ収録、各班ごとに完パケ編集
[復習] 同上
- 第11回 * 番組2本目④——教室内（～大学内？）上映、相互批評、次回テーマ構想（報道で扱う範囲ならフリー）
[復習] 同上
-
- 第12回 * 番組3本目①——取材テーマ決定、班分け、基礎取材入り
[復習] 同上
- 第13回 * 番組3本目②——集まった材料を基に、スタジオ原稿・動画編集・フリップ等作成
[復習] 同上
- 第14回 * 番組3本目③——スタジオ収録、各班ごとに完パケ編集
[復習] 同上
- 第15回 * 番組3本目④——教室内上映（～ネット公開？）、相互批評
* 半年間の総括——3本の制作体験で得た学びの整理・体系化
[復習] 同上

* 学生がスタジオMCを務め、VTRや図表などを見せながらニュースを解説コメントするスタイルの番組を作る。必要があれば下村もコメンテーターという立場で随時共演アシストするが、下村に何を語らせるかの決定も含め、学生主体で制作する。

* 既存メディアの報道番組の真似事ではなく、白鷗生だからできるオリジナリティを追求し、最近の出来事（学内、地域、国内、国際問題まで）を「無関心な大学生の視聴者に届く言葉」に置き換えて《伝え直す》ことを目指す。

* 当初は教室内視聴のみ。一定レベルに達したら学内、さらに十分なクオリティに届いた回はYouTubeチャンネル等で学外に公開する可能性も視野に入れ、「世間に見られる緊張感」の中で学ぶ。

【授業の進め方】

- * 体験から実学で学び取る、徹底したアクティブ・ラーニング方式を採る。
- * 4人程度ずつの班に分かれ、各班ごとに1テーマの取材・制作にあたる。
- * 番組制作時の役割分担（出演者、カメラマン、フロアディレクター、副調整室、等）は、サイクルを繰り返す中でなるべく満遍なく体験できるよう、学生同士で調整する。
- * “学生版”完成後、下村の指示で若干の撮り直し・組み立て直しを行い、“プロ版”制作を疑似体験する。両バージョンの対比により、同じ材料でどう《伝わりやすさ》が向上するか、体感する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に無し

【参考図書】

- * 「10代からの情報キャッチボール入門」 下村健一著（岩波書店）1600円＋税
- * 「窓をひろげて考えよう」 下村健一著（かもがわ出版）2800円＋税
- * 「マスコミは何を伝えないか」 下村健一著（岩波書店）1900円＋税
- * 「首相官邸で働いて初めてわかったこと」 下村健一著（朝日新聞出版）860円＋税
- * その他、番組で採り上げるテーマに関する書籍等を随時指定

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 75% 受講態度 25%

特記事項

- * 充実したスタジオ設備は本学の宝であり、ここを総合的に使いこなせるようになることは、メディア業界を目指す学生にとっては大きなアドバンテージとなる。
- * 番組が軌道に乗った暁には、本学が誇る著名メディア人の教授陣にもゲスト出演をお願いし、“オール白鷗”の発信力を対外的にアピールするコンテンツとなることを目指す。
その制作を担っているのだという自負と責任感が、履修生たちの成長を促す。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

「レポート・課題75%」の内訳＝[各回の番組の出来25%×3本]

【履修上の心得】

- * 少人数ごとの班別作業が中心となるので、全員の積極的参加がなければ番組が完成せず、全体に迷惑が及ぶ。緊張感をもって、前向きに授業に臨むこと。
- * 取材で学外の人と接点を持つ場面が少なからず発生する。
社会に出てからの予行演習だと思って、きちんとした態度で振る舞うこと。

【科目のレベル、前提科目など】

- * 科目としての前提は特に無いが、基本的な動画編集スキルは、習得済であること。
- * 本格的な番組制作のレベルを追求するので、楽に単位を取りたい者は途中で落伍することになる。

【備考】

- * スタジオ機材の量的制約から、最大20人程度の“ゼミ風”授業となる。かねてより学生達から寄せられている下村ゼミ開設の要望には非常勤ゆえ応えられないが、この授業は結果的にその代わりともなる。
- * 履修希望者多数の場合は、初回授業で選抜を行うので、必ず出席すること。

科目名	専門特講(企業法務)
教員名	比護 正史

【授業の内容】

企業法務は、「企業の事業活動にかかわる法律上の業務」の総称である。企業法務の範囲は広く、契約法務、ビジネス紛争処理、会社法務、金融法務、国際法務と多岐にわたっている。アカデミックな分析よりも企業の立場からの実践的な法律の運用がポイントである。法律知識の必要な部分は講義で補うので、民事法等を事前にマスターしている必要はない。法学部の学生のみならず、経営学部の学生も対象とする。

【到達目標】

企業法務の基礎知識とリーガルマインドを修得させ、企業にとって有用な人材（法務部のみならず、管理部門や営業部門においても有用な人材）を養成する。また、柔軟な発想のできる有能な弁護士等の法曹志望者を育成することも目標の1つである。

【授業計画】

- 第1回 企業法務とは何か
- 第2回 契約法務（1）
- 第3回 契約法務（2）
- 第4回 契約法務（3）
- 第5回 ビジネス紛争処理（1）
- 第6回 ビジネス紛争処理（2）
- 第7回 会社法務（1）
- 第8回 会社法務（2）
- 第9回 会社法務（3）
- 第10回 金融法務（1）
- 第11回 金融法務（2）
- 第12回 金融法務（3）
- 第13回 国際法務（1）
- 第14回 国際法務（2）
- 第15回 国際法務（3）

状況に応じて、講義内容や進行速度を調整することがある。

【授業の進め方】

授業は講義が主体であるが、学生諸君とのディスカッション等も適宜行う予定である。教科書を参照するほか、適宜レジュメ、資料のプリントを配布する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①企業法務入門テキスト ②経営法友会 ③商事法務 ④2016.4.15 ⑤2600円

【参考図書】

経営法務戦略（福原紀彦、中央経済社 2007年）
 会社法入門新版（神田秀樹、岩波新書 2015年）800円
 ベーシック企業法務辞典（永井徳人・鈴木智也、日本加除出版 2016年）2950円

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%
 特記事項
 筆記試験は行わない。レポートと平常点により評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

レポート80%、平常点20%とする。

【履修上の心得】

教科書は事前に読んでおくこと。授業中、積極的に質問してください。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目はない。民法、会社法などについても、必要な部分は適宜説明する。

科目名	専門特講(商業簿記3級セミナー)
教員名	藤浪 英也

【授業の内容】

- 簿記会計の基本的知識を習得するため、高校程度の学習内容である日本商工会議所簿記検定試験3級を合格する実力を養成する講座。
- この講義におけるアクティブラーニング
各講義日において学んだことを総括し、出席者同士で論点を整理する。そして疑問点は代表者が質問をして解決する。

【到達目標】

日本商工会議所簿記検定試験3級合格程度

【授業計画】

- 第1回 個別論点 1.現金預金の処理
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第2回 個別論点 2.商品取引の処理
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第3回 個別論点 3.掛け取引の処理
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第4回 個別論点 4.小切手、手形の処理
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第5回 個別論点 5.固定資産の処理
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第6回 個別論点 6.有価証券の処理
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第7回 個別論点 7.貸倒れの処理
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第8回 個別論点 8.資本金、引出金の処理
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第9回 個別論点 9.その他の債権債務の処理
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第10回 個別論点 10.伝票の処理
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第11回 総合問題演習 1.
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第12回 総合問題演習 2.
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第13回 総合問題演習 3.
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第14回 総合問題演習 4.
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間
- 第15回 総合問題演習 5.
予習時間は不要
復習時間は講義で使用したプリントや問題を自宅で解くためとして2時間

【授業の進め方】

シラバスに沿い問題集の問題を解く。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

別途指示する。

【参考図書】

別途指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 20% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

特にない。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

特にない。

【履修上の心得】

電卓は必ず持参すること。

【科目のレベル、前提科目など】

簿記論程度の基礎知識を習得していることが望ましい。

科目名	専門特講(商業簿記3級セミナー)
教員名	星 法子

【授業の内容】

簿記は、企業や商店の日常の営業活動を記録・計算・整理して、貸借対照表や損益計算書を作成し、財政状態と経営成績を明らかにするための技能である。企業の採用基準の資格の中で、業種を問わず上位を占めているのが簿記検定試験である。簿記の知識を習得することによって、財務諸表を分析する力、経営管理に役立つ力が身につく。簿記の勉強は、階段を一段ずつ上がるように、基礎からしっかり理解し、だんだんとレベルアップしていくことが大切である。商業簿記3級では、その簿記の基礎を学習する。

本講では、日本商工会議所主催の簿記検定3級合格を目指し、問題の解答練習を中心に講義を進める。

【到達目標】

日本商工会議所主催の簿記検定3級合格レベルの簿記の知識と実力を習得する。

【授業計画】

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 仕訳① (予習30分, 復習30分)
- 第3回 仕訳② (予習30分, 復習30分)
- 第4回 仕訳③ (予習30分, 復習30分)
- 第5回 帳簿記入① (予習30分, 復習30分)
- 第6回 帳簿記入② (予習30分, 復習30分)
- 第7回 試算表① (予習30分, 復習30分)
- 第8回 試算表② (予習30分, 復習30分)
- 第9回 試算表③ (予習30分, 復習30分)
- 第10回 伝票, 訂正仕訳, 勘定記入① (予習30分, 復習30分)
- 第11回 伝票, 訂正仕訳, 勘定記入② (予習30分, 復習30分)
- 第12回 精算表① (予習30分, 復習30分)
- 第13回 精算表② (予習30分, 復習30分)
- 第14回 精算表③ (予習30分, 復習30分)
- 第15回 総合問題 (予習30分, 復習30分)

【授業の進め方】

日商簿記検定3級は全部で5問出題される。問題ごとにテキスト(問題集)を中心に、講義・解答・解説を繰り返す。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①日商簿記3級 網羅型完全予想問題集 ③TAC出版 ⑤1,100円+税

BOOKSナカジマで販売。

【参考図書】

- 必修科目「会計学」で使用したテキスト
- 「簿記論」で使用したテキスト

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 90% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 10%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

原則として3分の2以上の出席が必要である。

【履修上の心得】

簿記を習得するためには、実際にペンを持って問題を解くことが重要である。解説を聞くだけではなく、テキスト(問題集)の予習・復習を積極的に行い、問題を解くことが簿記の理解に役立つ。

【科目のレベル、前提科目など】

会計領域の基礎科目である。1年次に会計学・簿記論を履修した学生を対象とし、推奨履修年次は2年次から。ただし、高校での簿記等学習経験者は1年次からの履修も可。

前提科目: 会計学, 簿記論

関連科目: 財務会計論, 中級簿記論, 工業簿記論, 原価計算論, 会計情報システム論, 経営分析論, 管理会計論, 高等簿記論, 上級財務会計論, 国際会計論

科目名	専門特講(工業簿記2級セミナー)
教員名	山田 覚

【授業の内容】

工業簿記・原価計算は、企業における財・用役の生産的消費のプロセスを、原価の流れとして価値的に把握し、与えられた目的（財務諸表作成目的・経営管理目的）に応えるかたちで、原価を組織的かつ継続的に分類・測定・集計・分析し、その結果を報告する一連の系統体系である。

本講の目的は、「工業簿記論」や「原価計算論」、「管理会計論」などで学習した工業簿記・原価計算の知識を、日商簿記検定2級（工業簿記）の出題範囲に特化して、計算問題を中心に展開、応用していくことにある。

【到達目標】

「会計は企業の言葉である」といわれ、会計学の知識は、企業経営者や職業会計人はいうまでもなく、企業の経営活動に関心を持つすべての人々が身につけておかなければならない常識となっている。したがって、受講生が目指す日商簿記検定などに向けて全力投球し、この講義で習得した会計の基礎知識をもとに各自必要に応じて会計をより広い視野から学習していくことにより、ビジネスの世界で生起するさまざまな問題の解決のために個別具体的に応用していくことが可能となる。

【授業計画】

- 第1回 総合原価計算における減損・仕損の処理
- 第2回 工程別総合原価計算
- 第3回 組別総合原価計算
- 第4回 等級別総合原価計算/原材料の追加投入
- 第5回 個別原価計算-指図書別原価計算表と仕掛品勘定-
- 第6回 個別原価計算における仕損の処理
- 第7回 部門別個別原価計算
- 第8回 財務諸表-製造原価報告書と損益計算書-
- 第9回 標準原価計算の手続き
- 第10回 標準原価計算における原価差異分析
- 第11回 直接原価計算と全部原価計算-固定費調整-
- 第12回 直接原価計算とCVP分析
- 第13回 CVP分析
- 第14回 本社工場会計
- 第15回 総合的復習

【授業の進め方】

講義で取り上げるテーマは、すべて日商簿記検定2級（工業簿記）の出題範囲であるから、テーマごとにテキスト（問題集）の計算問題を中心に徹底解説していくので、受講生は復習を中心に繰り返し学習する。この繰り返し学習により新たな発見や理解が深まり、会計のセンスを研くことができる。

また、講義に際しては、教員による一方向の講義だけではなく、受講生にとって適度に緊張感のある講義となるように、講義内容に関連する専門用語の意味の説明や問題の解答を学生に問うたり、解答を板書してもらい解法の説明を求めるなど、学生参加型の講義を心掛ける。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

開講時に指示する。

【参考図書】

参考書については、受講生の目的、理解度の応じて適宜指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 90% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 10%

特記事項

成績評価は、講義内容の理解度（問題処理の正確さ）、講義への取り組み姿勢にもとづいて行う。

【履修上の心得】

本講は、工業簿記の入門講義ではなく、日商簿記検定2級（工業簿記）に向けた実践的な講義であるから、本講を受講する者は、必ず「工業簿記論」、「原価計算論Ⅰ」を履修していることが前提である。

【科目のレベル、前提科目など】

履修を前提とする科目：工業簿記論、原価計算論Ⅰ（管理原価計算）

重要関連科目：原価計算論Ⅱ（制度原価計算）、管理会計論Ⅰ

科目名	専門特講(与信管理入門)
教員名	与信管理入門担当教員

【授業の内容】

通常、企業間取引では製品・商品販売代金やサービス提供代金の支払いが1ヶ月～数ヶ月後に実施されます。代金が支払われる前に取引相手が「倒産」してしまう等の事態に陥り、回収不能となると多大な損害を被ることとなり、自身も「倒産」に追い込まれてしまう（「連鎖倒産」といいます）ような最悪のケースも少なからずあります。こうした不利益を避けるために、取引相手が数ヶ月後に代金を確実に支払えるかどうか信用力を見極め、場合によっては担保の取得等適切な対策を立てることが不可欠であり、そのために行う企業実務を一般に「与信管理」と呼びます。

本授業では、製造業、卸売業、サービス業、金融業等業種を問わずあらゆる企業にとって必要不可欠な「与信管理」の基礎を、一般社団法人与信管理協会（<http://www.yoshin-kanri.com/>）に所属し、他大学での講義実績も豊富な実務の第一線で活躍する3名+αの講師（協会専務理事・東証2部上場リスクモンスター(株)取締役会長FOUNDER：菅野健一、協会理事・司法書士：鈴木龍介、協会理事・弁護士：大川治、他）によるオムニバス形式で学生の皆さんにも分かりやすく解説します。尚、本講義を真面目に受講していただいた学生には、副次的効果として、就職活動時に有益な企業選定のノウハウを習得していただけるため、就職活動前の2年生、3年生には特に履修のメリットがあります。

【到達目標】

「与信管理」の基礎を習得することで、ホーム・ページやパンフレット、テレビCM、雑誌広告等だけでは分からない企業の「リアルな信用力」を見極める力や、信用力の低い相手や危険な取引への対処の仕方等トラブルシューティングを身に付け、自身の就職活動や就職後の社会人生活において実践していただくことを到達目標とします。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 与信管理業務と倒産①企業倒産
- 第3回 与信管理業務と倒産②与信管理業務
- 第4回 取引内容条件のチェック①取引内容・危険な取引
- 第5回 取引内容条件のチェック②手形・でんさい
- 第6回 信用情報の収集①アウトライン
- 第7回 信用情報の収集②不動産登記
- 第8回 信用情報の収集③商業登記
- 第9回 定性情報の分析、決算書の分析①アウトライン
- 第10回 決算書の分析②財務比率分析
- 第11回 契約に関する基礎知識
- 第12回 債権保全に関する基礎知識
- 第13回 与信判定※レポート・課題候補の提示
- 第14回 緊急時対応に関する基礎知識
- 第15回 まとめ、レポート・課題

【授業の進め方】

担当講師によっては補助資料等を使用する場合がありますが、基本的には、教科書「与信管理入門」に沿って授業を進めます。出席カード（必須）のほかに授業の最後にリアクションペーパー（任意）の提出を求めます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①与信管理入門－実務に活かせる50のポイントー ②大川治、大宮有史、菅野健一、鈴木龍介 ③金融財政事情研究会 ④2014年3月28日 ⑤1700円+消費税 ⑥978-4-322-12445-3

【参考図書】

授業内で随時指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

受講態度は出席率とリアクションペーパーの内容等で判断します。また、第13回の授業の際に課題（論述・レポート）を提示します。最終授業である第15回の授業の際に論述・レポートを回収し、評価を行います。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

3分の2以上の出席を必須とし、これに満たない場合の成績評価は行いません。

【履修上の心得】

遅刻・私語・スマホ・着帽、その他授業の妨げになるような諸行為を禁じます。正当な理由の無い開始10分以降の遅刻は出席を認めません。

【科目のレベル、前提科目など】

会計学、会社法、民法の基礎知識があることに越した事はありませんが、一般的な大学生としての知識レベルがあれば理解できるような平易且つ実践的な講義内容に努めます。(入門レベルの内容)

科目名	専門特講(メディア制作(3Dプリント))
	ものづくりを変える“魔法の機械” — 3DCGと立体造形 —
教員名	菅野 嘉則

【授業の内容】

3Dプリントは3DCGデータをもとに立体(3D)を作成する方法で、試作品や部品製造など設計・製造の現場だけでなく、研究・教育機関、医療施設、小売など幅広い応用が期待されています。

3Dプリンターを使えば、架空のデータでしかない物体を実物にすることが可能です。そのため、これまで職人が手間暇掛けて作るようなものや工場で大量生産するようなものでも、3Dプリンタとその材料、PC、モデルデータさえあれば誰でも手軽に同じようなものを作り出せるのです。

本講座では、経営学部メディアコースで学ぶCG(コンピューター・グラフィックス)の応用例として、ITの新しい展開とも言われる3Dプリントの基礎を演習形式で身につけます。コンピューターを用いた造形実習を通して、ものづくりの未来を実感してほしいと思います。

【到達目標】

試作品やフィギュア制作などに活用されるデジタル造形の基礎知識を理解し、CADソフトと3Dプリンターを用いて立体出力ができること。

【授業計画】

第1回	ガイダンス	学習課題：立体造形に必要な設備(～4時間)
第2回	3Dプリントとは?	学習課題：3Dプリンターのしくみ(～4時間)
第3回	アプリケーションの解説	学習課題：ドローソフト、ペイントソフトの基礎(～4時間)
第4回	アプリケーションの解説	学習課題：CADソフトの基礎(～4時間)
第5回	3Dデザイン	学習課題：モデリング(～4時間)
第6回	3Dデザイン	学習課題：モデリング(～4時間)
第7回	3Dデザイン	学習課題：モデリング(～4時間)
第8回	3Dデザイン	学習課題：モデリング(～4時間)
第9回	3Dデザイン	学習課題：モデリング(～4時間)
第10回	3D出力と成果発表会	学習課題：作品のプレゼンテーション(～4時間)
第11回	3Dデザイン	学習課題：モデリング(～4時間)
第12回	3Dデザイン	学習課題：モデリング(～4時間)
第13回	3Dデザイン	学習課題：モデリング(～4時間)
第14回	3Dデザイン	学習課題：モデリング(～4時間)
第15回	3D出力と成果発表会	学習課題：作品のプレゼンテーション(～4時間)

【授業の進め方】

3Dプリンターの機能や、立体を作るための知識を解説しながら、ハンズオンで立体造形を学びます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

テーマに合わせて都度指定します。

【参考図書】

以下は無料のチュートリアルビデオです。

『Fusion 360の基本操作』<https://www.autodesk.co.jp/products/fusion-360/learn-training-tutorials>

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

【履修上の心得】

CG(コンピューターグラフィックス)や、立体造形に興味がある学生に適しています。なお、最新のコンテンツ制作を学ぶための推奨科目は以下の通りです。

ITメディア論Ⅰ→ITメディア論Ⅱ→メディア制作演習Ⅰ(アニメ)→メディア制作演習Ⅱ(アニメ)→メディア制作(3Dプリント)→菅野ゼミナールⅠ→菅野ゼミナールⅡ

【科目のレベル、前提科目など】

Windowsを操作できること。メディア制作演習(アニメ)を履修し、CGに関する基礎知識があることが望ましい。履修推奨年次は3年以上です。

科目名	専門特講(エアライン・ビジネス)
	エアラインビジネス概論
教員名	ANA総合研究所

【授業の内容】

現代社会に於いて必要不可欠なインフラ・輸送手段であるエアラインビジネスに関し、その歴史・特性・環境・経営全般・動向等につき解説します。

毎回講義資料を配布のうえ、パワーポイントを使用して講義を行います。またなるべく毎回DVD映像を視聴します。ANAグループ等の資料を用いて進めますが、なるべく客観的なスタンスでの説明に努め、必要に応じて社会情勢や会社組織等にも言及しながら進めたいと思いますので、エアラインビジネスへの関心の有無に係わらず、皆さんの履修を歓迎します。

【到達目標】

- ・講義を通じて、エアラインビジネスの基本を理解したうえで、自分なりに説明をしたり、提言をしたりすることができる。
- ・毎回の講義を参考に、関心のある産業・業界の経営について考える習慣をつける。

【授業計画】

第1回 ガイダンス等： 特に予習は必要ありませんが、自分なりにエアラインビジネスをイメージしておいてください。

ガイダンスにて、シラバス内容の確認等をしたうえで、導入として基本なお話をしますので、復習してください。

なお予習・復習の時間は、毎回特に指定はしません。

第2回 エアラインビジネスの特性： テーマにつき、自分なりに調べておいてください。

講義のポイントを復習してください。

第3回 民間航空の歴史： テーマにつき、自分なりに調べておいてください。

講義のポイントを復習してください。

第4回 空港の歴史と現状： テーマにつき、自分なりに調べておいてください。

講義のポイントを復習してください。

第5回 CSR（企業の社会的責任）・CS・ES： テーマにつき、自分なりに調べておいてください。

講義のポイントを復習してください。

第6回 「特別講義」ANA成田空港会社スタッフ(予定・今後日程調整)：会社につき、調べておいてください。

講義のポイントを復習してください。

第7回 経営計画・商品戦略： テーマにつき、自分なりに調べておいてください。

講義のポイントを復習してください。

第8回 ネットワーク： テーマにつき、自分なりに調べておいてください。

講義のポイントを復習してください。

第9回 レベニュー・マネジメント： テーマにつき、自分なりに調べておいてください。

講義のポイントを復習してください。

第10回 マイレージ・プログラム： テーマにつき、自分なりに調べておいてください。

講義のポイントを復習してください。

第11回 アライアンス（提携）： テーマにつき、自分なりに調べておいてください。

講義のポイントを復習してください。

第12回 ビジネス・モデル（LCCとFSC）： テーマにつき、自分なりに調べておいてください。

講義のポイントを復習してください。

第13回 エアラインとツーリズム： テーマにつき、自分なりに調べておいてください。

講義のポイントを復習してください。

第14回 航空貨物ビジネス（エアカーゴ）： テーマにつき、自分なりに調べておいてください。

講義のポイントを復習してください。

第15回 最近の動向： テーマにつき、自分なりに調べておいてください。

講義のポイントを復習してください。

- ・上記のような順番・内容で講義を進める予定です。

もし日程等の変更が必要な場合には、事前にお知らせします。

- ・履修意思のある方は、なるべく1回目の講義「ガイダンス等」から出席してください。

【授業の進め方】

毎回下記のような段取りで、講義を実施します。

配布資料の内容を、パワーポイントを使って説明します。

続いて、配布資料以外の参考パワーポイントを映し、補足説明をします。

最後に、なるべく毎回DVD映像を視聴していただきます。

質問は、基本的にクラスの前後に直接お訊きください。また出席票・コメントシートに記述された質問については、適宜関連するテーマの講義等で紹介し、お答えするようにします。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使いません。

【参考図書】

1. エアラインオペレーション入門 (株式会社ANA総合研究所 編集) (ぎょうせい)
2. 航空産業入門 (株式会社ANA総合研究所 編著) (東洋経済新報社)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

レポート課題：中間と期末にレポートを作成・提出していただきます。

受講態度：出席状況、受講態度、毎回の出席票・コメントシートへのコメント・質問記述

【「成績評価の方法」に関する注意点】

上記の「特記事項」をご参照ください。

レポートについては、事前にテーマと留意事項を周知します。

【履修上の心得】

他の出席者に迷惑をかけないように、基本的なマナーを守ってください。

なるべく遅刻をしないようにしてください。

【科目のレベル、前提科目など】

特にありません。

【備 考】

特にありません。

科目名	専門特講(観光キャリア論)
	観光キャリア論
教員名	ANA総合研究所

【授業の内容】

就職活動を行うにあたり、業界・企業研究と人材としての魅力養成が2つの大きなポイントになります。前者については、就職先としてどのような業界や企業があるのかをさまざまな角度から考察し、本格的な業界・企業研究のあり方を学修します。後者については、業界・企業が求める人材とはどのような人材なのかを理解し、どのようにすれば自分がそのような人材になれるのかを学びます。ANAの採用活動事例などを紹介しながら、就職活動を控えた受講生の皆さんにとって役に立つ実践的な解説をしていきます。

就職活動を控えた3年生、4年生向けの内容になります。

【到達目標】

業界、企業の概要、特性を的確に理解し、自分が活躍できる業界、企業を適切に選べるようになる。
社会で求められている「人間力」「競争力」「社会人基礎力」を理解し、身につけて高めていくことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション：就職に向けて。講義の進め方、目的など
予習、復習時間の指定はありません。
- 第2回 社会人基礎力について考える①：『前に踏み出す力』
講義のポイントを復習してください。
- 第3回 社会人基礎力について考える②：『考え抜く力』
講義のポイントを復習してください。
- 第4回 社会人基礎力について考える③：『チームワークⅠ』
講義のポイントを復習してください。
- 第5回 社会人基礎力について考える③：『チームワークⅡ』
講義のポイントを復習してください。
- 第6回 高度観光人材について考える①：マーケティングについて考える
講義のポイントを復習してください。
- 第7回 高度観光人材について考える②：ファイナンス、会計について考える
講義のポイントを復習してください。
- 第8回 高度観光人材について考える③：イノベーション人材について考える
講義のポイントを復習してください。
- 第9回 高度観光人材について考える④：マネジメントについて考える
講義のポイントを復習してください。
- 第10回 高度観光人材について考える⑤：ホスピタリティ人材
講義のポイントを復習してください。
- 第11回 高度観光人材について考える⑥：観光資源の事業化・商品化
講義のポイントを復習してください。
- 第12回 ビジネスとコミュニケーション
次週に演習を行うのでしっかり内容を復習してください。
- 第13回 ビジネスコミュニケーション演習体験
- 第14回 グローバル人材としての要件：世界に通用する人材、企業が求めるグローバル人材とは？
講義のポイントを復習してください。
- 第15回 全体のまとめと振り返り：就職後のキャリアについて

上記のような順番・内容で講義を行います。
講義によって担当講師が変わります。
変更がある場合は事前にお知らせいたします。

【授業の進め方】

教科書は使用せず、毎回授業内容の資料を配布します。
配布資料の内容をパワーポイントを使って説明します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使用しません。
授業時資料配布

【参考図書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 20% 受講態度 30%

特記事項

- ◎「レポート・課題」については中間と期末に簡単なレポートを作成・提出していただきます。
- ◎「受講態度」・可能な限りの出席（交通遅延等をやむを得ない場合は証明書提出）
 - ・携帯電話の使用・ゲーム・飲食（水筒・ペットボトル飲料除く）不可
 - ・私語は他者迷惑のため禁止

【履修上の心得】

他の出席者に迷惑をかけることがないように、基本的なマナーを守って受講してください。
積極的に授業に参加し、疑問があれば小さいことでも質問してください。

科目名	専門特講(MOS検定対策講座)
	専門特講(MOS検定対策講座)
教員名	MOS検定対策講座担当教員

【授業の内容】

Microsoft Office製品（Word・Excel）の利用スキルを証明する資格、Microsoft Office Specialist（通称MOS）検定試験合格または合格同等レベルの知識習得をめざす。

（実技有の為講義はパソコン室で行います）

【到達目標】

Word・Excelの効率的なパソコン操作を幅広く学ぶだけでなく、操作スキルを客観的に証明できる資格としてMicrosoft Office Specialist（通称MOS）検定試験合格、あるいは合格同等のスキルを身に付けることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス：MOS試験の概要・試験範囲・受験方法・学習方法・試験の概要
MOS資格について調べよう（インターネット検索課題・答え合わせ）
Word・Excelの基礎知識
アプリケーション操作基礎編画面各部の名称確認
講義の進め方の確認
講義テキスト・購入方法の案内 テキスト発注の希望確認
- 第2回 Word 第1章：文書の作成と管理
1-1 文書を作成する
1-2 文書内を移動する
1-3 文書の書式を設定する
1-4 文書のオプションと表示をカスタマイズする
確認問題
- 第3回 Word 第1章：文書の作成と管理
1-5 文書を印刷する、保存する
第2章：文字段落セクションの書式設定
2-1 文字列や段落を挿入する
2-2 文字列や段落の書式を設定する
2-3 文字列や段落を並べ替える、グループ化する
確認問題
- 第4回 Word 第3章：表やリストの設定
3-1 表を作成する
3-2 表を変更する
3-3 リストを作成する、変更する
確認問題
- 第5回 Word 第4章：参考資料の作成と管理
4-1 参照のための情報や記号を作成する、管理する
4-2 標準の参考資料を作成する、管理する
確認問題
- 第6回 Word 第5章：グラフィック要素の挿入と書式設定
5-1 グラフィック要素を挿入する
5-2 グラフィック要素を書式設定する
5-3 SmartArt を挿入する、書式設定する
確認問題
- 第7回 Word MOS 2016模擬試験 実施概要説明：模擬試験プログラム演習
- 第8回 Word MOS 2016模擬試験実施 結果提出
- 第9回 Excel 第1章：ワークシートやブックの作成と管理
1-1 ワークシートやブックを作成する
1-2 ワークシートやブック内を移動する
1-3 ワークシートやブックの書式を設定する
1-4 ワークシートやブックのオプションと表示をカスタマイズする
確認問題
- 第10回 Excel 第1章：ワークシートやブックの作成と管理
1-5 配布するためにワークシートやブックを設定する
第2章：セルやセル範囲のデータの管理
2-1 セルやセル範囲にデータを挿入する
2-2 セルやセル範囲の書式を設定する
2-3 データをまとめる、整理する

		確認問題
第11回	Excel	第3章：テーブルの作成 3-1 テーブルを作成する、管理する 3-2 テーブルのスタイルと設定オプションを管理する 3-3 テーブルのレコードを抽出する、並べ替える 確認問題
第12回	Excel	第4章：数式や関数を使用した演算の実行 4-1 関数を使用してデータを集計する 4-2 関数を使用して条件付きの計算を実行する 4-3 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する 確認問題
第13回	Excel	第5章：グラフやオブジェクトの管理 5-1 グラフを作成する 5-2 グラフを書式設定する 5-3 オブジェクトを挿入する、書式設定する 確認問題
第14回	Excel MOS 2016	模擬試験 実施概要説明：模擬試験プログラム演習
第15回	Excel MOS 2016	模擬試験実施 結果提出

【授業の進め方】

テキストに基づく講義とPCを使った実習・適宜個人で演習も行う。

(メイン講師・サブ講師付の2名体制で講義を行う)

テキストで使用するデータは随時配布する。

Word 7コマ Excel 7コマで講義を行うがそれぞれの単元の終わりに模擬試験を実施する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①MOS Microsoft Word 2016 対策テキスト& 問題集 ③FOM出版 ⑤2160 ⑥978-4-86510-318-2

①MOS Microsoft Excel 2016 対策テキスト& 問題集 ③FOM出版 ⑤2160 ⑥978-4-86510-317-5

初回授業時に購入希望を募る。(購入希望者は2回目に代金と引き換えで手渡し)

初回はプリントを使用する。

※割引販売：2冊税込4,000円(定価：4,320円)1回目ガイダンス時注文を募ります。

ガイダンス時購入の希望ができない方は、2回目までに各個人手配・購入となります。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 80% レポート・課題 0% 受講態度 20%

特記事項

授業内小試験(模擬試験) 80% 授業態度 20%

授業態度はPC操作を含む為、講師の指示を守った操作・受講が出来ているか、質問等、積極的に授業に参加しているかを見る。

授業内小試験はWord・Excel各1回ずつ実施。(実技のみ・筆記無し)

【「成績評価の方法」に関する注意点】

毎回必ず出欠確認をとる。30分以上遅刻した場合は欠席とみなす。

【履修上の心得】

復習は必ず行う事、テキストはよく読み込んで演習時に確認する事。

スマートフォン・携帯電話などはマナーモードにし、机の上に出さない事。

テキスト持参：特に模擬試験の際は付属のCD-ROMを忘れると受験が出来ません。

操作に追従できなくなった際は補助教員を呼ぶこと。

【科目のレベル、前提科目など】

Excel・Wordともに、初級から中級

※受講生の前提条件として

1年次で情報処理系の必修授業「経営情報科学Ⅰ」「経営情報科学Ⅱ」の講義を受けている事とする。

【備考】

筆記用具等を持参すること

科目名	専門特講(国際マーケティング)
教員名	鈴木 仁里

【授業の内容】

「マーケティング」とは、製品やサービスを顧客に届けることによって顧客満足を実現する仕組み作りのことである。今日では多国籍企業が全世界の顧客に満足を提供しており、そこでは国境を超えたマーケティング、すなわち「国際マーケティング」が実践されている。本講義では、世界市場でビジネスを展開する多国籍企業がいかにして「国際マーケティング」を行っているか、についての「理論（仕組み）」と「実態（ケース）」を、国内を対象とする「マーケティング」との違いにも配慮しながら学習していく。「理論」と「実態」の融合のために、より身近なケースを取り上げ、「国際マーケティング」の基本的な知識の習得とその「応用（学生自らの考え）」能力の習得を目指す。

【到達目標】

「国際マーケティング」に関する「理論（仕組み）」や「実態（ケース）」を確認する中で“基本的な知識”を習得し、それらを踏まえ、学生自ら模索して考える新たな一手{「応用（解決策や新たな手法）」}を導出するプロセスの中で、社会に出たときに役立つ“論理的思考能力”が養成されることを目標とする。

【授業計画】

第1回 インTRODクシヨン（授業計画・授業内容・成績評価・到達目標説明、国際マーケティングとは何か？）

予習：履修登録確認&テキスト購入／復習：配布資料（60分）

第2回 国際市場環境と消費者行動の現状

予習：テキスト第1章（60分）／復習：配布資料（60分）

第3回 競争優位の源泉としての国際マーケティング

予習：各自関心のある日系・欧米・途上国多国籍企業の新聞・記事・文献探索（60分）／復習：配布資料（60分）

第4回 国際マーケティングの発展史と基本的枠組み

予習：テキスト第2章（60分）／復習：配布資料（60分）

第5回 国際的な文化環境への理解

予習：テキスト第3章（60分）／復習：配布資料（60分）

第6回 国際マーケティング・リサーチ（インドのインスタントヌードル市場）

予習：テキスト第4、5章（60分）／復習：配布資料（60分）

第7回 国際市場セグメンテーションとポジショニング（キャノンのセグメンテーション戦略）

予習：テキスト第6章（60分）／復習：配布資料（60分）

第8回 授業内小試験Ⅰ、国際マーケティング戦略（P&Gの国際マーケティング戦略）

予習：小試験対策、テキスト第7章（60分）／復習：配布資料（60分）

第9回 国際市場参入戦略（日系ラーメンチェーン店の国際市場参入戦略）

予習：テキスト第8章（60分）／復習：配布資料（60分）

第10回 国際製品戦略（ダイキンの国際製品戦略）

予習：テキスト第9章（60分）／復習：配布資料（60分）

第11回 国際ブランド戦略（レクサスの国際ブランド戦略）

予習：テキスト第10章（60分）／復習：配布資料（60分）

第12回 国際価格戦略（スターバックスの国際価格戦略）

予習：テキスト第11章（60分）／復習：配布資料（60分）

第13回 国際コミュニケーション戦略（マスターカードのプロモーション戦略）

予習：テキスト第12章（60分）／復習：配布資料（60分）

第14回 授業内小試験Ⅱ、国際サプライチェーンマネジメント戦略（アマゾンが仕掛ける流通革命戦略）

予習：小試験対策、流通・物流、アマゾンに関連する情報の探索（60分）／復習：配布資料（60分）

第15回 グループ発表／総括（国際マーケティングの未来）

予習：グループ発表準備（60分）／復習：全講義内容の振り返り（60分）

【授業の進め方】

授業計画に沿った講義形式を基本とするが、履修学生の積極的な授業参加を期待する。テーマによっては、講義で習得した知識をベースに、学生間でのディスカッションやプレゼンテーション、質疑応答などの時間も多分に設定するため、社会人になる前に身につけておくべき自主性、協調性を意識した講義への姿勢が求められる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①1からのグローバル・マーケティング ②小田部正明、栗木契、太田一樹編著 ③碩学舎 ④2017 ⑤ ¥2,592 ⑥ 978-4-502-21851-4

【参考図書】

他参考図書は以下の通り。

「国際マーケティング」(2010)、小田部正明/K・ヘルセン著、栗木契監訳、碩学会
「国際マーケティング講義」(2013)、諸上茂登著、同文館出版
「実践的グローバル・マーケティング」(2017)、大石芳裕著、ミネルヴァ書房

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 20% レポート・課題 15% 受講態度 15%

特記事項

講義の中盤、終盤に計2回その期間までの「授業内小試験」を実施予定。中盤以降にレポート課題を課し、そのレポートをもとにグループ発表に臨んでもらう。講義への積極的な受講態度なども評価の対象となる。

【履修上の心得】

白鷗大学試験規則第2条の「受験資格は授業時数の三分の二以上出席したものに与えられる」を順守するため、学生各自による自立した出欠管理を求める。また、本講義では講義内での質疑応答や学生間での積極的なディスカッションなども行うため、十分な予習・復習時間の確保が求められる。学生の講義への意欲的な姿勢を期待したい。最後に、本講義は楽しく真剣に「国際マーケティング」を学びたい学生の集中力を最優先に講義を進めていく。そのため、その集中力を妨げる行為（私語、遅刻、無断退出、居眠り、非協力的な態度など）は厳禁とする。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目としてマーケティング、国際経営論を履修していることが望ましいが、学びたいという熱意があれば未履修でも大いに歓迎する。

科目名	専門特講(マーケティング戦略)
	競争戦略とマーケティング戦略の違いに重点を置いて
教員名	柳川 高行

【授業の内容】

経営戦略の2大テーマである競争戦略とマーケティング戦略のうち、マーケティング戦略をケーススタディで明らかにする。

【到達目標】

企業の新事業創造戦略を、企業活動の中から見分けられることと、自らもその戦略立案に参加できるようになること。

【授業計画】

- 第1回 なぜ、科目名称はカタカナ表記のままなのか？（その1）
1940～50年代に、アメリカで誕生したマーケティング論は、企業の商品生産前の「市場調査（market research）」の一種である「標本調査（sampling theory）」として誕生し、当時の社会の中でマスメディア（新聞、雑誌、ラジオ）の発達より、企業の新商品生産後の「商品広告・宣伝」として、その内容を拡大してきた。本来、企業の学としての経営学の1分野であるはずのマーケティング活動は、日本においては、商業学専攻者達によって輸入されたが故に、その内容が、可視化できない、マーケティングという摩訶不思議なカタカナ科目として、アメリカの研究書に大きく寄り掛かった研究が今なお続けられている。
- 第2回 なぜ、科目名称はカタカナ表記のままなのか？（その2）
- 第3回 なぜ、科目名称はカタカナ表記のままなのか？（その3）
- 第4回 日本型マーケティング戦略のケーススタディ
日本企業のマーケティング活動は、アメリカのマーケティングの教科書やアメリカ企業の実践から学ぶことが多かったことは、事実として認めるべきであるが、日本企業に独自のマーケティング戦略と、それにふさわしい理論的分析枠組みの特有の活動の概念化が必要不可欠であろう。
- 第5回 消費者ニーズの発見とそれを満足させる新商品開発力の必要性
ケースその1. クラシア（旧カネボウの食品子会社ベル・フーズ）の『甘栗むいちゃいました—自然な甘さそのままに』
- 第6回 ケースその2. お父さんのための激辛カレーから家族全員の大好きなカレーへの変身
ハウス食品『ハウス・バーモント・カレー』
- 第7回 ケースその3. 栄養ドリンク市場という「ウサギ小屋の働き中毒」の国、日本の必需品の開発企業と成功企業とのその後の共栄状況
大塚製薬の「飲む点滴薬キングシロー」の失敗
大正製薬の「リポビタミンD」（週刊誌40円時代の100円の高額品）
大塚製薬の「オロナミンC」薬ではない一般飲み物として、薬局以外の流通ルートの開拓、そのルートに乗せて、「ボンカレー」、「アルキメデス」、「ファイブミニ」、「ポカリスエット」、「カロリーメイト」
- 第8回 ケースその4. マイタケの「雪国マイタケ」と無農薬もやしの「サラダコスモ」の新しい市場開拓
- 第9回 ケースその5. 地域創生としての「とちおとめ」の製品開発とマーケティング戦略
- 第10回 ケースその6. 地域創生としての「宇都宮餃子」宇都宮餃子組合という連合体（coalition）に属さない中華料理店による新しいイノベーション
- 第11回 ケースその7. 企業によるニーズの創造（その1）
デ・ビアス社日本支社のエンゲージリング（ダイヤモンドで給料の3か月分）キャンペーンで日本は、ダイヤモンド輸入のNo.1国へ
- 第12回 ケースその8. 企業によるニーズの創造（その2）
セブーンイレブンによる恵方巻きの普及（土用丑の日とウナギの関係、平賀源内のアイディア）
春も秋もおでんと冷やし中華
- 第13回 ケースその9. 企業による製品の意味付けを消費者が勝手に変えてしまう場合（その1）
宅急便は、引越し荷物（かつての郵便小包と鉄道小荷物）ばかりではなく、単身生活のお父さんや大学生の息子の汚れた下着を送り、洗濯したものを送り返してもらう為に利用
- 第14回 ケースその10. 企業による製品の意味付けを消費者が勝手に変えてしまう場合（その2）
バレンタインデーと愛の告白チョコレート
義理チョコ—社内男性の格付け—友チョコ—自分へのごほうびチョコ—逆チョコへ
- 第15回 全体のまとめ

【授業の進め方】

授業のはじめに復習を実施、授業の最後25分間アクションペーパーを書いて提出してもらう。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①プリントを使用する

【参考図書】

沼上幹著、『わかりやすいマーケティング戦略』、有斐閣アルマ。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 50%
特記事項
毎授業ごとに実施されるリアクションペーパーの提出による評価 50%

科目名	専門特講(アニメジブスの現場)
教員名	アニメジブスの現場担当教員

【授業の内容】

アニメ制作は多くの専門職の分業によって成り立っている。世界に冠たる日本のアニメがどのような人々によって制作されているのか。制作の過程でどのような工夫、苦労があるのかを現場でアニメ制作に関わっている人々から直接話を伺い、アニメ制作の実際を理解する。

【到達目標】

アニメ制作の実際についての理解を深める。

【授業計画】

第1回 イン트로ダクション（予習30分復習90分）

授業の進め方。

アニメの制作工程について。

第2回 アニメーション作り（原画）（予習30分復習90分）

アニメーションの原画制作をしている方から実際の話をお伺い。

第3回 アニメーション作り（動画）（予習30分復習90分）

アニメーションの動画制作を担当している方から実際の話をお伺い

第4回 アニメーション作り（CGアニメ）（予習30分復習90分）

CGアニメーション制作に関わっている方のお話を伺う

第5回 アニメーション美術（予習30分復習90分）

アニメーション制作で色彩設定、色指定、美術素材に関わる仕事をしている方のお話を伺う

第6回 声優（予習30分復習90分）

アニメ声優の方のお話を伺う

第7回 声優・アニソン（予習30分復習90分）

アニメ声優でアニメソングを歌っている方のお話を伺う

第8回 シナリオ、脚本（予習30分復習90分）

シナリオ、脚本作成に関わっている方のお話を伺う

第9回 監督（予習30分復習90分）

アニメ監督のお話を伺う

第10回 プロデューサー（テレビアニメ）（予習30分復習90分）

テレビアニメを制作するプロデューサーのお話を伺う

第11回 プロデューサー（劇場アニメ）（予習30分復習90分）

劇場アニメを制作するプロデューサーのお話を伺う

第12回 著作権管理、海外販売（予習30分復習90分）

アニメの著作権管理、海外販売に関わる方のお話を伺う

第13回 広告代理店の関わり（予習30分復習90分）

スポンサー探しを行う広告代理店の方のお話を伺う

第14回 資金調達（予習30分復習90分）

アニメ制作の資金調達に関わる方のお話を伺う

第15回 まとめ・総括（予習30分復習90分）

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①なし

【参考図書】

『アニメーション学入門』津堅信之 平凡社新書

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

授業終了時に課すレポートが主な成績評価の対象となる

【履修上の心得】

毎回、アニメ制作の専門家によるオムニバス形式の授業である。

担当講師の都合により、授業内容が前後する場合がある。

科目名	メディアリテラシー I
	「メディアは生き物だ」
教員名	元田 成

【授業の内容】

私たちは、メディアを通して情報を入手し、その情報をもとに考え、行動している。そして、いま高度に情報化された時代を迎えている。テレビ放送は、人々にニュース報道・娯楽番組といった情報を送り、知的好奇心を満たし、文化・価値観等の形成をうながす、生活から切り離す事の出来ないメディアだ。一方、インターネットの進化はめざましく、個人が気軽に不特定多数の人に情報発信できる時代になった。しかし全ての情報が信頼できるのか？大切なことは、情報を取捨選択したり、精度や価値を判断するといった、情報を読み解き対応する能力である。授業では、メディアの構造・特徴・情報送出手組み・内包する問題を調べ考える。放送・新聞・インターネット・映画・広告等のメディアの果たす役割と影響は大きい。テレビをはじめ様々なメディアの特性を探り、批判的視点でその仕組みを紐解いてみよう。

【到達目標】

私達を取り囲むメディアの特性を検証・考察する。特に、テレビ・ネット・新聞の情報がいかに送り手によって違ってくるか、そして受け手によって解釈が変わるのか、などを知って、上手に使いこなす素養や能力を身につける。

【授業計画】

- 第1回 メディア・リテラシーとは何か
- 第2回 ニュースは「作られる」
- 第3回 メディアは人の手で「構成されたもの」
- 第4回 メディアには「価値観が含まれる」
- 第5回 メディアの「解釈には個人差がある」
- 第6回 メディアには「商業的側面がある」
- 第7回 番組の制作・編成と視聴率
- 第8回 メディアの政治的メッセージ
- 第9回 メディアのイデオロギー
- 第10回 ラジオは新鮮なメディア
- 第11回 インターネットの素晴らしさ
- 第12回 ネット・リテラシーを学ぶ①
- 第13回 ネット・リテラシーを学ぶ②
期末レポートの課題発表・用紙配布（レポート作成のための復習・調査・記述は、所要時間150分超）
- 第14回 テレビの現場（ゲスト講師）
- 第15回 メディア・リテラシー総括
期末レポート提出

【授業の進め方】

タイムリーな話題をテーマに、メディアの仕組みや機能を実践的かつ体験的に読み解く。テレビ等の映像作品を鑑賞し、分析・批評・考察するとともに、ゲスト等を活用した現場視点の講義も行なう。毎授業の最後にリアクションペーパーを提出。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使用せず、プリントを配布する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

期末に、授業の理解度を試す「レポート」の提出を課す。「受講態度」は、①自主的な発言 ②リアクションペーパー提出 を判断材料とする。

【履修上の心得】

テレビ、新聞、インターネット等のメディアに関心を持ち、日常的に接しながら授業内容を確認することを勧める。

科目名	メディアリテラシーⅡ
	「メディアは生き物だ」
教員名	元田 成

【授業の内容】

私たちは、メディアを通して情報を入手し、その情報をもとに考え、行動している。そして、いま高度に情報化された時代を迎えている。テレビ放送は、人々にニュース報道・娯楽番組といった情報を送り、知的好奇心を満たし、文化・価値観等の形成をうながし、生活から切り離す事の出来ないメディアだ。一方、インターネットの進化はめざましく、個人が気軽に不特定多数の人に情報発信できる時代になった。しかし全ての情報が信頼できるのか？大切なことは、情報を取捨選択したり、精度や価値を判断するといった、情報を読み解き対応する能力である。授業では、メディアの構造・特徴・情報送出の仕組み・内包する問題を調べ考える。放送・インターネット・新聞・映画・広告等のメディアの果たす役割と影響は大きい。テレビをはじめとしたメディアの特性を探り、批判的視点でその仕組みを紐解いてみよう。

【到達目標】

テレビの歴史、仕組み、内容、課題を学び、同時に社会との関わりを検証する。インターネット使用の注意点についても具体例を学ぶ。その学習を通じて、メディアを楽しく、上手に使いこなす素養や能力を身につける。

【授業計画】

- 第1回 メディア・リテラシーの意味
- 第2回 メディアは「現実」ではない
- 第3回 テレビの歴史「誕生」
- 第4回 テレビの歴史「躍進」
- 第5回 テレビの歴史「変革」
- 第6回 メディアのビジネスモデル
- 第7回 番組ができるまで
- 第8回 視聴率と番組編成
- 第9回 考査
- 第10回 放送用語
- 第11回 ねつ造・改ざん・やらせ
- 第12回 コマーシャル
- 第13回 ソーシャルメディアと危機管理
期末レポートの課題発表・用紙配布（レポート作成のための復習・調査・記述は、所要時間150分超）
- 第14回 テレビの現場では（ゲスト講師）
- 第15回 メディア・リテラシー総括
期末レポート提出

【授業の進め方】

タイムリーな話題をテーマに、メディアの仕組みや機能を実践的かつ体験的に読み解く。テレビ等の映像作品を鑑賞し、分析・批評・考察するとともに、ゲスト等を活用した現場視点の講義も行なう。毎授業の最後にリアクションペーパーを提出。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使用せずプリント等を配布する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

期末に、授業の理解度を試す「レポート」の提出を課す。「受講態度」は、①自主的な発言 ②リアクションペーパー提出 を判断材料とする。

【履修上の心得】

テレビ、新聞、インターネット等のメディアに関心を持ち、日常的に接しながら授業内容を確認することを勧める。

科目名	メディアと倫理
	人は自分の知っていることしか知ることはできない
教員名	的場 哲朗

【授業の内容】

私たちは現在マスメディア（大量伝達手段）の発する膨大な情報の中に生き、そうした情報の「深い意味」を省察しないままに日々を過ごしております。しかし、その情報はほんとうに「正しい」のでしょうか、それとも間違っているのでしょうか。どちらの判断を下すにしても、あなたはどのような理由からそのように判断するのでしょうか。もしかりに正しいとも間違っているともあなたが判断できないとしたら、あなたはこれからどのような態度をとればよいのでしょうか。本講義は、マスメディア社会における、「真実とは何か?」、「善いとは何か?」、「責任とは何か?」、「自分のとるべき態度とはどのようなものなのか?」という倫理学の基本的な問題について皆さんと一緒に考えようと思います。

【到達目標】

メディアの発する膨大な情報の中で真実か否か、善か悪かの判断は可能かどうかを多面的に考える能力を養う。メディア倫理の基本的な考え方ができるようになる。

【授業計画】

- 第1回 1、メディア倫理とは何か
なぜ私たちはメディア倫理学を学ぶ必要があるのでしょうか。メディアとはどんなものか調べよう(予習、30分)。基礎学とはどんなものか、考えよう(30分)。
- 第2回 2、コンピューター・テクノロジーと倫理
コンピューターは本当に信頼に足る道具でしょうか。生活のどこにコンピューターがあるか、探してみよう(予習、30分)。コンピューターが壊れたら、生活はどのようなのでしょうか、考えよう(30分)。
- 第3回 3、マスメディアと倫理の問題——ドレイファスのコンピューター批判
アメリカの哲学者ドレイファスのコンピューター批判について省察します。ドレイファスについて調べよう(予習、60分)。コンピューターの脆弱さとは何か、調べてみよう(復習、60分)。
- 第4回 4、現代の基礎学としてのメディア倫理学の可能性と課題
コンピューターの思考法と人間的思考法について省察します。ディルタイとハイデガーについて調べよう(予習、60分)。人間の思考法と機械の思考法の違いについて調べよう(復習、60分)。
- 第5回 5、報道優先か、人名優先か——メディアにとって大切なものとは何か?
ピューリッツァー賞を受賞した写真「禿鷲と少女」について省察します。ケビン・カーターについて調べよう(予習、30分)。ほかに、ピューリッツァー賞を受賞した写真(特に日本人の写した)を探そう(復習、60分)。
- 第6回 6、なぜ戦争で写真を撮るのだろうか——「戦場カメラマン」渡部洋一の場合
なぜ戦場で写真を撮るのでしょうか。渡部洋一とはどんな人か、調べてみよう(予習、30分)。彼の写真をネットで探してみよう(復習、30分)。
- 第7回 7、その他の戦場カメラマン——ロバート・キャパと一ノ瀬泰造
報道と人命の問題を考察してみよう。ロバート・キャパと一ノ瀬泰造とはどのような人か、調べよう(予習、60分)。彼らの作品を探してみよう(復習、60分)。
- 第8回 8、カメラの歴史——人間は「見たい」動物である
カメラはどのように発明され、どのように発達してきたのでしょうか。写真映像のない世界(江戸時代など)を考えてみよう(予習、30分)。写真映像があると、なぜ説得力が出るのか、考えてみよう(復習、60分)。
- 第9回 9、隠し撮りの創始者ザロモン博士、とメディアの革新——小型カメラの出現と発達
最初に隠し撮りをしたザロモン博士とはどのような人か。ザロモン博士について調べよう(予習、30分)。小型カメラの出現でマスメディアはどのように変わったのでしょうか、考えてみよう(復習、60分)。
- 第10回 10、報道写真誌の発刊——ドイツとアメリカ
写真雑誌の出現について考察しよう。わが国の写真雑誌の歴史を調べよう(予習、60分)。真贋が疑われる写真報道について調べてみよう(復習、60分)。
- 第11回 11、真実と事実——写真の読み方
写真が生み出す真実と虚偽という原理的な問題を考えてみましょう。真実と虚偽とは何でしょうか、調べてみよう(予習、60分)。なぜ虚偽の写真が出現するのか、調べてみよう(復習、60分)。
- 第12回 12、本物とは何か——ベンヤミンの「複製芸術時代の芸術」
本物とは何でしょうか。本物と偽物とは何でしょうか、調べてみよう(予習、60分)。複製時代にも「本物」は存在するのでしょうか、考えてみよう(復習、60分)。
- 第13回 13、真実とは何か——「一体これは何か?」
矢印「→」はいったい何を意味しているのでしょうか。検証主義、批判的合理主義、解釈学主義について調べよう(予習、120分)。真実とは結局何でしょうか、考えてみよう(復習、60分)。
- 第14回 14、善と悪——人間は狼か羊か
私たち人間は狼なのでしょうか、それとも羊なのでしょうか。性善説と性悪説について調べよう(予習、60分)。フロイトやフロムについて調べよう(復習、60分)。
- 第15回 15、私たち現代人はなぜメディアに飛びつくのでしょうか。

私たちはなぜメディアに流されてしまうのでしょうか。人間はなぜメディアに夢中になるか、考えよう(予習、60分)。メディア社会における倫理学の意味について調べてみよう(復習、60分)。

パワーポイントを使い、ふんだんに資料を提示しながら授業を進めます。皆さんも、授業後の質問用紙を奮って提出して下さい。この用紙を手掛かりにして次の週の授業を進めます。

【授業の進め方】

毎回パワーポイントを使って講義の要点を明示しながら授業を進めていきます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に指定しません。パワーポイントの資料は各自ダウンロードできるようにします。

【参考図書】

和田伸一郎『メディアと倫理』2006年、NTT出版。

越智貢・土屋俊・水谷雅彦編『情報倫理学』2000年、ナカニシヤ出版。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

学期末試験で評価します。問題形式は、設問が全10問で、aからeの中から一つないし二つを選択するといった穴埋め問題です。持ち込みは一切不可。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

皆さんが提出した質問用紙は成績に関係しませんし、出席状況も加味しません。

【履修上の心得】

講義後、疑問点、理解できなかった点、要望、批判などを書いて提出して下さい。翌週の授業はこの質問に答えながらはじめていくことにします。

【科目のレベル、前提科目など】

倫理学A・B、倫理学概論、哲学A・Bなど。

メディアに関心を持つ学生諸君に受講してもらいたい。

科目名	ジャーナリズム論 I
	「報道は面白い」
教員名	元田 成

【授業の内容】

ジャーナリズムとは、社会に必要な情報を正確に早く伝えたり、それに関して解説・批評・提案を示すことだ。高度情報化社会では、テレビ・インターネット・新聞・雑誌等のジャーナリズムの果たす役割と影響は大きくその責任は重い。なかでも報道に携わるジャーナリストの職務は極めて重要だ。一方企業もまた、ジャーナリズム機能を理解・熟知したメディア対応力と問題解決能力を持った若者を求めている。ジャーナリズムが機能するためには、国民の知る権利と表現の自由が守られているかどうか極めて重要だ。「ジャーナリズム論 I」では、テレビ報道、新聞、ネット報道などのメディアおよびジャーナリズムの現状とあるべき姿を考察する。ジャーナリズムの成り立ち、役割、原則、機能を知り、具体例を使って分析・検証する。さらにテレビ報道番組やソフト制作現場の現状、放送を取り巻く環境とシステムを多角的に学ぶ。

【到達目標】

日常的に能動的に各種報道に関心を持って接し、正確かつ批判的に読み解き、それを活用することができるようになる。創造力、表現力、ジャーナリスト感覚を持って、情報化社会を逞しく生き抜く素養や能力を身につける。

【授業計画】

- 第1回 ジャーナリズムとは何か
- 第2回 ジャーナリズムの歴史と必要性
- 第3回 こんなに違う各社の報道
- 第4回 報道・表現の自由「政府VS報道」
- 第5回 報道・表現の自由「知る権利」
- 第6回 情報公開と隠蔽事件
- 第7回 客観報道はありうるか？
- 第8回 ジャーナリズムの主観「朝日VS読売」
- 第9回 報道倫理「オウムビデオ」
- 第10回 報道倫理「松本サリン」
- 第11回 報道被害「犯罪報道」
- 第12回 調査報道
- 第13回 戦争報道「命を賭けたジャーナリスト」
期末レポートの課題発表と用紙配布（作成のための復習・調査・記述は、所要150分超）
- 第14回 テレビ報道の現場（ゲスト講師）
- 第15回 ジャーナリズム論総括
期末レポート提出

【授業の進め方】

タイムリーな話題をテーマに、時事報道を分析・考察するとともに、体験的かつ実践的な報道論やテレビ・ジャーナリスト論を展開する。テレビ等の映像作品を積極的に鑑賞しながら、分析・批評・考察する立体的講義を行なう。現役をゲストに招き、現場視点の授業も行なう。毎授業の最後にリアクションペーパーを提出。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使用せずプリントを配布する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

期末に、授業の理解度を試す「レポート」の提出を課す。「受講態度」は、①自主的な発言 ②リアクションペーパー提出を判断材料とする。

【履修上の心得】

テレビ、新聞、インターネット等のメディア・報道に関心を持って接する姿勢が求められる。時事問題を取り上げるので、新聞・テレビニュース等は日常的にチェックしてほしい。

科目名	ジャーナリズム論Ⅱ
	「報道は面白い」
教員名	元田 成

【授業の内容】

ジャーナリズムとは、社会に必要な情報を正確に早く伝えたり、解説・批評することだ。高度情報化社会では、テレビ・インターネット・新聞・雑誌等のジャーナリズムの果たす役割と影響は大きくその責任は重い。なかでも報道に携わるジャーナリストの職務は極めて重要だ。一方企業もまた、ジャーナリズム機能を理解・熟知したメディア対応力と問題解決能力を持った若者を求めている。ジャーナリズムが機能するためには、国民の知る権利と表現の自由が守られているかどうか極めて重要だ。「ジャーナリズム論Ⅱ」では、ジャーナリズムの現状とあるべき姿を考察する。とりわけ、テレビ報道を中心とした各部門別の優れたジャーナリストを教室に招くとともに、その活動成果を個別に検証する。

【到達目標】

日常的に能動的に各種報道に関心を持って接し、それを正確かつ批判的に読み解き、活用することができるようになる。創造力、表現力、ジャーナリスト感覚を持って、情報化社会を逞しく生き抜く素養や能力を身につける。

【授業計画】

- 第1回 ジャーナリズムの役割
- 第2回 テレビニュースができるまで
- 第3回 「安保法」 新聞報道
- 第4回 「安保法」 テレビ報道
- 第5回 誤報問題「原発事故」
- 第6回 誤報問題「慰安婦」
- 第7回 震災原発報道①地元テレビはどう伝えたか
- 第8回 震災原発報道②取材か安全か
- 第9回 震災原発報道③核のゴミ
- 第10回 調査報道①ストーカー事件
- 第11回 調査報道②えん罪と真犯人
- 第12回 政治取材の現場
- 第13回 報道VS政府
期末レポートの課題発表と用紙配布（作成のための復習・調査・記述は、所要150分超）
- 第14回 年間10大ニュース
- 第15回 ジャーナリズム論総括
期末レポート提出

【授業の進め方】

タイムリーな話題をテーマに、時事報道を分析・考察するとともに、体験的かつ実践的なテレビ報道論やジャーナリスト論を展開する。テレビ等の映像作品を鑑賞しながら、分析・批評・考察する立体的講義を行なう。現役ジャーナリストを招き現場視点の授業も行なう。毎授業の最後にリアクションペーパーを提出。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使用せずプリントを配布する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

期末に、授業の理解度を試す「レポート」の提出を課す。「受講態度」は、①自主的な発言 ②リアクションペーパーの提出を判断材料とする。

【履修上の心得】

テレビ、新聞、インターネット等のメディア・報道に関心を持って接する姿勢が求められる。時事問題を取り上げるので、新聞・テレビニュース等は日常的にチェックしてほしい。

科目名	アニメプロデュース論
	アニメビジネス論
教員名	藤井 健

【授業の内容】

本講義はアニメが産業として成り立つためのビジネス上の問題をマクロ的、ミクロ的視点から考察する。アニメがビジネスとして成立するための要素を、作業レベル、業界レベル、クリエイターレベルから分析する。

【到達目標】

アニメビジネスの成り立ち、現状、今後の課題を習得

【授業計画】

- 第1回 アニメの歴史
(復習60分)
- 第2回 プレ・ディズニー
(復習60分)
- 第3回 ディズニーのビジネス・モデル
(復習60分)
- 第4回 日本アニメの誕生
(復習60分)
- 第5回 手塚治虫のビジネス・モデル
(復習60分)
- 第6回 60～70年第前半の日本のアニメ
(復習60分)
- 第7回 アニメブーム (1)
(レポート作成90分)
- 第8回 アニメブーム (2)
(レポート作成90分)
- 第9回 日本のアニメ・クリエイター (1)
(グループディスカッション60分)
- 第10回 日本のアニメ・クリエイター (2)
(グループディスカッション60分)
- 第11回 日本のアニメ・クリエイター (3)
(グループプレゼン準備90分)
- 第12回 アニメに関するグループプレゼン
(復習60分)
- 第13回 ポケモンのビジネス・モデル
(復習60分)
- 第14回 中国、韓国のアニメビジネス
(復習60分)
- 第15回 日本アニメの今後
(復習60分)

【授業の進め方】

世界と日本のアニメの歴史を概観し、現在、諸君が見ているアニメを制作しているクリエイター、制作会社がどのように相互に関連し影響を請合っているかを検討する。また、アニメがビジネスとして成り立つためのモデルを検討する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用しない
プリントを配布

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 20% 受講態度 10%

特記事項
定期試験
レポート

【履修上の心得】

アニメビジネスに関する講義であり、実際にアニメを作成する授業ではないで、科目名から誤解しないように注意すること

【科目のレベル、前提科目など】

2年生以上が履修することが望ましい

科目名	メディア制作演習(テレビ)
	「映像作品を作ろう(前期)」
教員名	元田 成

【授業の内容】

いまテレビやインターネット等のデジタル化された高度情報化社会では、メディア対応力、なかでもソフト（コンテンツ）の企画力や制作力、問題解決能力が求められる。この授業では、自分たちで企画を考え、カメラを回し、パソコンを使って編集し、映像作品を完成させる。初めは全くの素人であっても少しずつ機材の使い方を習いながら仲間と力をあわせてソフト制作の楽しさや喜びを体感することができる。ソフト制作の経験は一般企業でも役に立つだろう。

【到達目標】

映像作成の機能・仕組み・技術等を理解し、実際に操作できるようになる。ソフト制作の楽しさや喜びを体感し、創造力、表現力とチームワークを習得する。

【授業計画】

- 第1回 テレビ映像概論
- 第2回 作品の鑑賞
- 第3回 映像作品の演出論
- 第4回 報道番組の制作概論
- 第5回 企画会議（企画案の考察）
- 第6回 企画会議（企画書の作成）
- 第7回 カメラ&スタジオ操作の習得
- 第8回 撮影の基礎実習
- 第9回 課題作品の制作①（撮影）
必要に応じて学外で撮影
- 第10回 課題作品の制作②（構成・編集）
- 第11回 課題作品の制作③（収録）
- 第12回 課題作品の制作④（編集）
必要に応じて授業外で編集作業（所要は不確定）
- 第13回 課題作品の制作⑤（ナレーションなど音声編集）
- 第14回 課題作品の完成発表（合評）
- 第15回 テレビ映像制作総括

【授業の進め方】

映像作品（番組）の企画から撮影・編集・録音、完成試写発表までの制作プロセスを一貫して体験する。そして作品の完成度を求める姿勢や、制作技術等のノウハウを習得する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は無い。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

①「作品制作とレポート」が70%、②「受講態度」が30%。

①は、グループで完成させた作品の出来具合と、制作過程を検証するレポートの評価。②は、チームワークや取り組みの姿勢。

科目名	メディア制作演習 I (地域メディア)
教員名	小笠原 伸

【授業の内容】

社会には多様なメディアが存在する中で「地域メディア」とは何かをまず考えてもらう。マスメディアと何が異なるのか、そして自分自身が情報を発信することで社会の何が変わってゆくのか、地域社会を見つめ取材して手を動かし課題として授業内で簡易な印刷物を制作することで、情報発信の基礎を学んでゆく。都市空間について優れた記述を行った映像資料や文学作品を授業内で鑑賞することで、伝達手法を知り会得する。そしてそれと並行し、ソーシャルメディアなどインターネットの活用についても知り、対比を行ってゆく。

【到達目標】

1. 都市や地域の成り立ち、地域メディアの現状を理解する
2. 地域社会の記述手法とその読解、フィールドワークについて理解しインタビューや取材の手法につなげる
3. 個人メディア、ソーシャルメディアの実情を知り、そのメディアをネット上などで展開できるよう活用する
4. 都市戦略やまちづくり、地域振興に地域メディアがどう貢献することができるかを考える

【授業計画】

- 第1回 都市や地域の成り立ちと地域メディアの現状について
 予習：シラバスを読み授業の大枠について理解する (1.5時間)
 復習：授業内容を確認し整理して会得する (1.5時間)
- 第2回 インターネット時代に自分を伝えることについて
 予習：授業の大枠について理解し授業準備を行う (1.5時間)
 復習：授業内容を確認し整理して会得する (1.5時間)
- 第3回 ソーシャルメディアの可能性と課題について
 予習：ソーシャルメディアについて知りその課題を考える (1.5時間)
 復習：授業内容を確認し整理して会得する (1.5時間)
- 第4回 地域取材のためのまちあるき (校外実習)
 予習：取材準備として対象地域について調べ理解を深める (1.5時間)
 復習：フィールドへの関心を持ち情報を整理する (1.5時間)
- 第5回 取材した内容を表現してみる
 予習：歩いたフィールドについての情報を整理する (1.5時間)
 復習：授業内容を確認し整理して会得する (1.5時間)
- 第6回 メディアにおける表現を分析してみる
 予習：指示に従い資料を収集し持参する (1.5時間)
 復習：授業内容を確認し整理して会得する (1.5時間)
- 第7回 インターネットと地域メディアについて
 予習：地域メディアについて調べ理解する (1.5時間)
 復習：授業内容を確認し整理して会得する (1.5時間)
- 第8回 情報発信基礎 (1)
 予習：事前指示により作業を行う (1.5時間)
 復習：授業内容を確認し整理して会得する (1.5時間)
- 第9回 情報発信基礎 (2)
 予習：事前指示により作業を行う (1.5時間)
 復習：授業内容を確認し整理して会得する (1.5時間)
- 第10回 地域の取材内容から情報発信を行う (1)
 予習：地域社会の情報に関心を持ち整理する (1.5時間)
 復習：授業内容を確認し整理して会得する (1.5時間)
- 第11回 地域の取材内容から情報発信を行う (2)
 予習：地域社会の情報に関心を持ち整理する (1.5時間)
 復習：授業内容を確認し整理して会得する (1.5時間)
- 第12回 個人メディア「ZINE」について
 予習：ZINEについて知り大枠を理解する (1.5時間)
 復習：授業内容を確認し整理して会得する (1.5時間)
- 第13回 「ZINE」制作 (1)
 予習：地域社会の情報に関心を持ち取材し整理する (1.5時間)
 復習：授業内容を確認し整理して会得する (1.5時間)
- 第14回 「ZINE」制作 (2)
 予習：地域社会の情報に関心を持ち取材し整理する (1.5時間)
 復習：授業内容を確認し整理して会得する (1.5時間)
- 第15回 講評、まとめ

予習：地域社会の情報に関心を持ち取材しZINEを作成する（1.5時間）

復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）

【授業の進め方】

この授業は、メディア制作演習Ⅱ（地域メディア）とひと続きの内容であり、この点をよく確認して受講すること。授業内容の1項目について、おおむね1時限ずつの頻度で進める。

座学だけでなく実際に取材し手を動かしてゆく作業が多いが、技術とともにその考え方について学ぶので、デザインの能力などを気にする必要はない。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

授業の中で適宜指示する。

【参考図書】

授業の中で適宜紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

授業内の制作課題と期末レポートにより評価する。また出席は必須である。

【履修上の心得】

メディア制作演習Ⅱ（地域メディア）を登録、履修すること。インターネット接続ができるPCやタブレット、スマートフォンの環境があることが望ましい。

【科目のレベル、前提科目など】

前提となる知識は問わないが、アートやデザイン、写真やムービーに興味があったり、また都市戦略、地域振興、観光といった領域に関心のある受講生を歓迎する。

技術や能力が拙いのは問題ではないが、自分から地域について情報発信をする場となるため、積極性は必須である。心配な学生は登録前に教員へ相談して欲しい。

科目名	メディア制作演習 I (広告・デザイン)
	5つの体験学習——対象物や表現媒体を変えながら
教員名	下村 健一

【授業の内容】

[ア] まず“広告センス”を磨こう

実際の大手広告代理店などで使用された過去の入社試験問題等にチャレンジし、コピー制作力や発想力を鍛える。

[イ] 「私」をアピールするポスター制作

セールスポイントの発見を、まず《自分》を対象にして取り組む。

ここで磨く自己表現は、そのまま就職活動でも大いに役立つことになる。

[ウ] 「人」をアピールするポスター制作

敢えて同じ [イ] の題材を、作り手を他者に替えてリメイクする。

平面であるポスターを、[イ][ウ]と2枚並べることによって、複眼の視角から立体的に理解できるようになる。

[エ] 「物」をアピールする新聞広告制作

一瞬で視覚に訴えるポスターに対し、手元で読ませるタイプの新聞広告は、説得力を訓練する機会となる。

[オ] 自分が見つけた面白広告の発表

街は、教材に溢れている。登下校の道中に立っている、気になる看板。電車内で見かけた、センス良い吊り広告。

なぜか印象に残る、あのテレビCM。ついクリックしたくなる、巧みなネット広告。

それらを全員が1本ずつ見つけてきて発表し、皆で深掘りする。

【到達目標】

最新テクノロジー（表現ソフトなど）のマスターには、重きを置かない。それを軽んじるものでは全く無いが、それ以前にもっと重要なこと——道具の進化に目を奪われて疎かになりがちで、いつの時代も変わらぬ《1個の人間としての表現能力》を、広告制作という具体的作業を通じて磨くことを、まず目標にしたい。基礎力を伴わぬ、小手先の知識だけの頭でっかちになっても、何の意味も無いのだから。

【授業計画】

第1回 ★まず“広告センス”を磨こう ⇒ [復習] 授業時間内に未完の場合は家で完成させる(所要時間は個人差)

実際の大手広告代理店などで使用された過去の入社試験問題等にチャレンジし、コピー制作力や発想力を鍛える。

第2回 続き ⇒ [復習] 同上

第3回 続き ⇒ [復習] 同上

第4回 ★「私」のポスターを作ろう／立案（自分の“売り”の発見、ターゲット設定） ⇒ [復習] 同上

第5回 続き／制作（表現の工夫、情報伝導率の上げ方） ⇒ [復習] 同上

第6回 続き／合評会&模擬投票（他の学生のリアクションこそ最大の学び） ⇒ [復習] 同上

第7回 《プレゼンテーション》私が見つけた面白広告①…なぜ面白いのか、「理由」を解析しよう

第8回 ★「人」をアピールするポスターを作ろう／立案・制作

（2人1組で、第6回の作品を交換し、他者の目で全面リメイク） ⇒ [復習] 同上

第9回 続き／合評会（第6回の自作と並べ対比…視点や描き方の多様性） ⇒ [復習] 同上

第10回 《プレゼンテーション》私が見つけた面白広告②…その面白さが持つ「法則」を解析しよう

第11回 ★「物」をアピールする新聞広告を作ろう／立案（採り上げる「物」を決め3人の班決め） ⇒ [復習] 同上

第12回 続き／制作（説得力の上げ方、「物」が語る＝“物語”） ⇒ [復習] 同上

第13回 続き／合評会（優秀作は本家のメーカー宣伝部に紹介？） ⇒ [復習] 同上

第14回 《プレゼンテーション》私が見つけた面白広告③…その面白さを作る「技法」を解析しよう

第15回 ★時事即応用予備回

学期中に発生する広告絡みの興味深いトピックを、臨機応変に採り上げ議論。

以降の回を順次繰り下げ、この予備回で吸収する。

※作業の進捗状況を見ながら、ペース配分は適宜変更することがある。

【授業の進め方】

●下村は、授業中ずっと教室内を巡回しながら、学生諸君の作業に個別に助言を与える。

随時、全体の作業を止めて、全員で共有すべき留意点、そのタイミングで習得すべき広告理論などを教示する。

- 「私が見つけた面白広告」は、3回の機会の内のどこかで必ず全員が1回ずつは発表することとする。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

書名、購入方法とも、開講初日に指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 75% 受講態度 25%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- 「レポート・課題75%」=上記【授業の内容】欄に列挙した[ア]~[オ]、各15%×5回
- 「平常点25%」=毎週記入を求める“感想・質問カード”から読み取れる熱意を参考とする。

【履修上の心得】

わからないモヤモヤがあるのに質問しない者は、履修に向かない。

――下村の説明中に割り込んででも手を挙げる者を、歓迎する。

泳ぎ方を本で学びたい者は、履修に向かない。

――とにかく水に飛び込んで身体で学びたい者を、歓迎する。

ただ単位を取りたいだけの者は、履修に向かない。

――授業で何かを得て、《社会の一員としての責任》を担えるようになりたい者を、歓迎する。

【科目のレベル、前提科目など】

マーケティング、広告論、メディアリテラシー等、メディア関連科目

※履修希望者多数の場合、抽選となる。

科目名	メディア制作演習Ⅰ(アニメ)
	2Dアニメーション制作
教員名	菅野 嘉則

【授業の内容】

昨今の急速なデジタルコンピューティングの発達によって、以前に考えられなかった映像表現が可能になりました。それは“CG”や、“VFX”と呼ばれ、最先端の映像制作現場で革命を起こしています。こうしたコンピューター映像の基本は、キャラクターや背景を1コマずつ描画して動かすアニメーションの手法です。

本講座ではCG（コンピューター・グラフィックス）を用いて、アニメーション制作の基礎を学び、今後のメディアコンテンツに対する理解を深めます。前期はアプリケーションの操作を習得し、2Dアニメーションを制作します。

現在進行している映像革命とはどのようなもので、制作現場はどう変化し、今後どのような発展を遂げるのか…コンピューターを用いた2Dアニメーションの制作実習を通して、コンテンツの未来を実感してほしいと思います。

【到達目標】

描画や画像加工、モーショングラフィックス制作に用いるアプリケーションの基本操作をマスターし、2Dアニメーションについて理解すること。

【授業計画】

第1回	ガイダンス	学習課題：画像加工、描画、モーショングラフィックス（～4時間）
第2回	コンピューターで絵を加工する	学習課題：画像形式とナビゲーション（～4時間）
第3回	コンピューターで絵を加工する	学習課題：レタッチ（～4時間）
第4回	コンピューターで絵を加工する	学習課題：マスクワーク（～4時間）
第5回	コンピューターで絵を描く	学習課題：ピクセルとベクターアート（～4時間）
第6回	コンピューターで絵を描く	学習課題：レイヤーとチャンネル（～4時間）
第7回	コンピューターで絵を動かす	学習課題：プロジェクトの作成（～4時間）
第8回	コンピューターで絵を動かす	学習課題：レイヤーのインポート（～4時間）
第9回	コンピューターで絵を動かす	学習課題：レイヤーのアニメーション（～4時間）
第10回	コンピューターで絵を動かす	学習課題：レイヤーの修正（～4時間）
第11回	コンピューターで絵を動かす	学習課題：レイヤーの再リンク（～4時間）
第12回	コンピューターで絵を動かす	学習課題：アニメーション制作（～4時間）
第13回	コンピューターで絵を動かす	学習課題：カラーコレクション（～4時間）
第14回	コンピューターで絵を動かす	学習課題：プロップスのアニメーション（～4時間）
第15回	コンピューターで絵を動かす	学習課題：特殊効果の追加（～4時間）

【授業の進め方】

Photoshop, Illustrator, After Effects等の機能を解説しながら、ハンズオンでアニメーション制作を学びます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①アニメーション教科書—アニメーターのための演技術— ②Ed Hooks ③ボーンデジタル ④2006年 ⑤4320円
 ⑥4862460046

【参考図書】

以下は無料のチュートリアルビデオです。

『Learn Photoshop CC』 <http://tv.adobe.com/jp/show/learn-photoshop-cc>

『Learn Illustrator CC』 <http://tv.adobe.com/jp/show/learn-illustrator-cc/>

『Learn After Effects CC』 <http://tv.adobe.com/jp/show/learn-after-effects-cc/>

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

【履修上の心得】

アニメーションや、コンピューターを用いたコンテンツ制作に興味がある学生に適しています。なお、最新のコンテンツ制作を学ぶための推奨科目は以下の通りです。

I Tメディア論Ⅰ→I Tメディア論Ⅱ→メディア制作演習Ⅰ（アニメ）→メディア制作演習Ⅱ（アニメ）→メディア制作（3Dプリント）→菅野ゼミナールⅠ→菅野ゼミナールⅡ

【科目のレベル、前提科目など】

Windowsを操作できること。メディア制作演習Ⅱ(アニメ)と合わせて受講することが望ましい。履修推奨年次は2年以上です。

科目名	メディア制作演習 I (アナウンス)
教員名	渡辺 裕子

【授業の内容】

将来アナウンサーや声優、人前に立って声を使う仕事を目指す人に、基礎的なアナウンス技術(「発声・発音」「読む」「話す」「伝える」のスキル)を、演習を通して学んでもらいます。また、自分の声を生かしながら「日本語のより美しい響き」を体験的に探っていきます。基礎のアナウンス技術はもちろんですが、社会人にとって必要なコミュニケーションスキルとプレゼンスキルも同時に身につけていきます。

【到達目標】

- 1 「発声法が身につく」
- 2 「言葉をはっきりと発音できるようになる」
- 3 「ニュースや天気予報を読めるようになる」
- 4 「CMを読めるようになる」
- 5 「詩を朗読できるようになる」
- 6 「自分の言葉で、自分の考えをわかりやすく伝えられるようになる」
- 7 「人前で堂々と話せるようになる」

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 フリートーク (例、自己紹介)
- 第3回 発声と発音の仕組みについて (発声の仕組みを理解し、腹式呼吸による声の出し方を学ぶ。)
- 第4回 滑舌法 (母音、子音、母音の無声化)
- 第5回 滑舌法 (長音、鼻濁音、アクセントなど)
- 第6回 意味のまとまりで読む (イントネーションとポーズ)
- 第7回 天気予報原稿を読む
- 第8回 ニュース原稿を読む
- 第9回 コマーシャル原稿を読む
- 第10回 表現力豊かな話し方 (尊敬語、丁寧語、謙譲語、声のトーン、スピード等)
(新聞からテーマを見つけて自分の考えをまとめ、それを自分の言葉で表現する)
- 第11回 テレビカメラを通して伝える。「天気予報」「ニュース」
- 第12回 内リポート・・・新入生に向けての大学紹介
- 第13回 学内リポート・・・カメラ収録
- 第14回 詩の朗読
- 第15回 まとめ

(必要に応じて順番や内容が変更されることもあります)

【授業の進め方】

腹筋を鍛えながら声を出していきます。新聞の話題から1分間スピーチもします。学内の放送機器を使って収録もします。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

プリント等を配布。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 60%

特記事項

実技テスト、レポート、スクラップノート

【履修上の心得】

新聞記事のスクラップノートを作成してもらいます(週に一枚)。手鏡を持参してください。(滑舌の訓練時に使います)

【科目のレベル、前提科目など】

2年生、3年生の履修が望ましい。

また、メディアコースを履修している学生が望ましいですが、やる気があればその他も可。

※応募者多数の場合、抽選となる場合があります。

科目名	メディア制作演習Ⅱ(テレビ)
	「映像作品を作ろう(後期)」
教員名	元田 成

【授業の内容】

いまテレビやインターネット等のデジタル化された高度情報化社会では、メディア対応力なかでもソフト（コンテンツ）の企画力や制作力、問題解決能力が求められる。この授業では、自分たちで企画を考え、カメラを回し、パソコンを使って編集し、映像作品を完成させる。初めは全くの素人であっても少しずつ機材の使い方を習いながら仲間と力をあわせてソフト制作の楽しさや喜びを体感することができる。ソフト制作の経験は一般企業でも役に立つだろう。

【到達目標】

映像作成の機能・仕組み・技術等を理解し、実際に操作できるようになる。ソフト制作の楽しさや喜びを体感し、創造力、表現力とチームワークを習得する。

【授業計画】

- 第1回 テレビ映像概論
- 第2回 作品の鑑賞
- 第3回 映像作品の演出論
- 第4回 報道番組の制作概論
- 第5回 オリジナル作品の企画会議（企画案の考察）
- 第6回 オリジナル作品の企画会議（企画書の作成）
- 第7回 カメラ&スタジオ操作の習得
- 第8回 撮影の基礎実習
- 第9回 オリジナル作品の制作①（撮影）
必要に応じて学外でも撮影
- 第10回 オリジナル作品の制作②（構成・編集）
- 第11回 オリジナル作品の制作③（収録）
- 第12回 オリジナル作品の制作④（編集）
必要に応じて授業外で編集（所要時間は不確定）
- 第13回 オリジナル作品の制作⑤（ナレーション入れなど）
- 第14回 オリジナル作品の完成発表（合評）
- 第15回 テレビ映像制作総括

【授業の進め方】

映像作品（番組）の企画から取材・編集・録音、完成試写発表までの制作プロセスを一貫して体験する。そして作品（番組）の完成度を求める姿勢や、制作技術等のノウハウを習得する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は無い。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

①「課題映像作品とレポート」が70%、②「受講態度」が30%。

①は、グループで完成させた作品の出来具合と、制作過程を検証するレポートの評価。②は、チームワークや取り組みの姿勢。

科目名	メディア制作演習Ⅱ(地域メディア)
教員名	小笠原 伸

【授業の内容】

メディア制作演習Ⅰ（地域メディア）において「地域メディア」とは何かを学んだ受講生が、FacebookやTwitterなどのソーシャルメディアや動画配信技術やそのコンテンツに授業にて触れ活用してもらおう。個人メディアが劇的に変わりつつあることを身をもって知り、その可能性と課題について考える。さらに新聞、テレビやラジオなどの既存のマスメディアと地域メディアに関して見学やキャンパス内での実験を行うことで幾つかの対比を行い、メディアとしての違いを学ぶと共に古い技術にも潜在的にある可能性を学ぶ。その上で地域の取材やフィールドワークを行い課題を制作することで、ソーシャルメディアの活用とそのディレクターとしての分析能力を得て、社会へ向けたどのように地域メディアが関わることが出来るかを知る。

【到達目標】

1. 都市や地域の成り立ち、地域メディアの現状を理解する
2. 地域社会の記述手法とその読解、フィールドワークについて理解する
3. ソーシャルメディアや動画配信技術、そのコンテンツの実情を知り、既存マスメディアとの相違を学び、活用する
4. 都市戦略、地域振興に地域メディアがどう貢献することができるかを考える

【授業計画】

- 第1回 ソーシャルメディア活用の実践（1）
 予習：シラバスを読み授業の大枠について理解する（1.5時間）
 復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）
- 第2回 ソーシャルメディア活用の実践（2）
 予習：ソーシャルメディアの活用について調べ理解する（1.5時間）
 復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）
- 第3回 既存マスメディアと地域メディアの比較実験（1）
 予習：既存マスメディアの課題について調べ理解する（1.5時間）
 復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）
- 第4回 既存マスメディアと地域メディアの比較実験（2）
 予習：既存マスメディアの課題について調べ理解する（1.5時間）
 復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）
- 第5回 既存マスメディアと地域メディアの比較実験（3）
 予習：既存マスメディアの課題について調べ理解する（1.5時間）
 復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）
- 第6回 地域取材（校外実習）
 予習：調査する地域の状況を調べ理解する（1.5時間）
 復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）
- 第7回 ソーシャルメディア活用の実践（3）
 予習：ソーシャルメディアの活用について調べ理解する（1.5時間）
 復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）
- 第8回 ソーシャルメディア活用の実践（4）
 予習：ソーシャルメディアの活用について調べ理解する（1.5時間）
 復習：授業内容を確認し整理して会得する（1.5時間）
- 第9回 地域メディアのコンテンツ企画検討（1）
 予習：ソーシャルメディアの活用方法について検討し、企画を作成する（1.5時間）
 復習：ソーシャルメディアアカウントを運用し企画を進める（1.5時間）
- 第10回 地域メディアのコンテンツ企画検討（2）
 予習：ソーシャルメディアの活用方法について検討し、企画を作成する（1.5時間）
 復習：ソーシャルメディアアカウントを運用し企画を進める（1.5時間）
- 第11回 地域メディアのコンテンツ企画検討（3）
 予習：ソーシャルメディアの活用方法について検討し、企画を作成する（1.5時間）
 復習：ソーシャルメディアアカウントを運用し企画を進める（1.5時間）
- 第12回 動画配信技術やそのコンテンツの現状を知る
 予習：ソーシャルメディアの活用方法について検討し、企画を作成する、動画配信技術やそのコンテンツについて調べる（1.5時間）
 復習：ソーシャルメディアアカウントを運用し企画を進める（1.5時間）
- 第13回 地域メディアのコンテンツ企画検討（4）
 予習：ソーシャルメディアの活用方法について検討し、企画を作成する（1.5時間）
 復習：ソーシャルメディアアカウントを運用し企画を進める（1.5時間）
- 第14回 講評

予習：ソーシャルメディアアカウントを運用し企画を進め、その展開について整理を行う（1.5時間）

復習：ソーシャルメディアアカウントを運用し企画を進める（1.5時間）

第15回 まとめ

予習：自らのメディアについてまとめ、特にソーシャルメディアアカウントの活用手法について整理を行う（1.5時間）

復習：授業全体の大枠を理解する（1.5時間）

【授業の進め方】

この授業は、メディア制作演習Ⅰ（地域メディア）を登録履修する学生が受講できる科目である。この点をよく確認して受講すること。

座学だけでなく実際に取材し手を動かしてゆく作業があるが、技術とともにその考え方について学ぶので、デザイン的能力などを気にする必要はない。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

授業の中で適宜指示する。

【参考図書】

授業の中で適宜紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

授業内の制作課題と期末レポートにより評価する。また出席は必須である。

【履修上の心得】

メディア制作演習Ⅰ（地域メディア）を登録履修すること。同科目を履修していないと本演習での知識や情報が伴わないので登録を勧めない。

ソーシャルメディアを使用することからインターネット接続ができるPCやスマートフォンの環境があることが望ましい。

【科目のレベル、前提科目など】

前提となる知識は問わないが、アートやデザイン、写真やムービーに興味があったり、また都市戦略、地域振興、観光といった領域に関心のある受講生を歓迎する。

技術や能力が拙いのは問題ではないが、自分から地域について情報発信をする場となるため、積極性は必須となる。心配な学生は登録前に教員へ相談して欲しい。

科目名	メディア制作演習Ⅱ(広告・デザイン)
	広告と広報——似て非なる、その伝え方
教員名	下村 健一

【授業の内容】

《 告 告 》

前期「メディア制作演習Ⅰ(広告)」から更に進めて、社会にあるテーマを訴えかける「キャンペーン広告」や、小山商工会議所の実在する店のポスター制作、さらに動画CMの制作を行う。

《 広 報 》

広告の制作体験を経た者が、もう1つ覗いておくべき世界が、《広報》。まず両者の違いを明確に整理した上で、この講座では《広報》の実習にも数回の時間を割く。

下村は、2012年秋までの2年間、民間登用で首相官邸に勤務し、内閣広報室の審議官として「政府の情報を如何にわかりやすく国民に伝えるか」という仕事に従事した。思いがけず任期の殆どが震災・原発事故対応で占められることになり、(幸い使わずに済んだが)「東日本全員避難指示」の首相会見原稿の準備など、《的確に伝える広報》の難しさを極限まで体験することとなった。

そんな修羅場で様々な助言を与えてくれた、人気ブロガーやプロの広報マンたち。彼らとタッグを組んで得た体験・ノウハウを、普段の企業広報や行政広報の制作に投影することは、組織と社会との《より良いコミュニケーション》という観点からも、有意義である。

本講では、個人・グループワークの実践を通じて広告&広報のポイントを体得する。単眼よりも複眼で見た方が事物が立体的に見えるように、この「演習Ⅱ」で広報マインドをつかむことは、「演習Ⅰ」以来得てきた広告に対する理解を、より深めることにも資するであろう。

【到達目標】

《 告 告 》

小山に実在する商店と、1人1店ずつペアを組み、その店に出向いて要望を聞き、セールスポイントを見極め、本当のポスターを作成する。完成品はコンテストにも出展し、市民の投票で入賞を目指す。その他、計3種の制作でセンスアップを図る。

《 広 報 》

君がこれから就職する先が企業であれ役所であれNPOであれ、その組織には「広報」を担当する部署がある。(たとえ部署としては設置されていない小組織でも、「広報」が必要とされる場面が来れば、必ず誰かが担うことになる。)そこには、広報のエキスパートではなく、ごく普通に就職したこの分野の素人が配属され戸惑うことが多いのが、日本社会の実情である。

広報の失敗は、時にその組織の致命傷となることもある。SNSが発達して“悪評”の拡散が容易になった今後は、一段とそのリスクは増大する。いつか広報担当に任じられた時、君は自信を持ってその職を務められるか？

たとえこの組織にも属さず個人で生きてゆくとしても、ある日突然、事件・事故に巻き込まれて自宅を報道陣に取り囲まれる、という事態は、誰の身にも降りかかり得る。その時、君は自信を持って、押し寄せる記者たちに“1人広報”として対応できるか？

——誰にとっても他人事ではない、広報マインドの体得。ここで、その基礎力をしっかり身につけておこう。

【授業計画】

第1回 イントロダクション——前期非履修者フォロー／今期取り組むテーマの、先輩達の作品を見よう

第2回 キャンペーン広告①：社会に訴えかける／テーマについて掘り下げ

⇒ [復習] 授業時間内に当日の目標段階未到達の場合は、家で完成させる(所要時間は個人差)

第3回 キャンペーン広告②：続き(制作) ⇒ [復習] 同上

第4回 キャンペーン広告③：仕上げ～教室内で合評会 ⇒ [復習] 同上

第5回 地元と繋がる広告①：小山商工会議所「お店ポスターコンテスト」に参戦しよう！ ⇒ [復習] 同上

第6回 地元と繋がる広告②：クライアントを訪ね、意向を聞き取ろう ⇒ [復習] 同上

第7回 地元と繋がる広告③：制作(続き) ⇒ [復習] 同上

第8回 地元と繋がる広告④：制作(続き) ⇒ [復習] 同上

第9回 地元と繋がる広告⑤：仕上げ～教室内で合評会～コンテスト応募 ⇒ [復習] 同上

第10回 動画CM①：身近なテーマで、情報の過不足ない30 or 60秒のCMを作ろう ⇒ [復習] 同上

第11回 動画CM②：制作(続き) ⇒ [復習] 同上

第12回 動画CM③：制作(続き) ⇒ [復習] 同上

第13回 動画CM④：仕上げ～教室内で合評会 ⇒ [復習] 同上

- 第14回 * 広告と広報の違い——尖閣、消費税、震災、原発…行政広報の頂点「内閣広報室」下村の2年間
 * 社会の関心を惹く広報——ポジティブ情報の押し出し方
 ・記事にしてもらう“初めの1歩”=プレスリリースを作ろう ⇒ [復習] 同上
- 第15回 * 社会の反発を抑える広報——ネガティブ情報の火消しの仕方
 ・《記者会見》疑似体験=広報担当者役の学生が教壇に並び、記者役の学生の追及に答えよう
 * 危機管理広報——《リスク・コミュニケーション》と《クライシス・コミュニケーション》
 ・現実化まで紙一重だった「東日本3千万人避難指示」の首相会見原稿を書いてみよう
 * [全体総括] 広告、広報、そして《広聴》——広く告げる・報じる・聴くの3拍子
 ・人を巻き込むメソッド—下村の3勝1大敗から浮かぶ教訓 ⇒ [復習] 全回の総括整理(60分)

※グループワーク等の進捗状況を見ながら、ペース配分は適宜変更することがある。

【授業の進め方】

- * 下村は、グループワーク中ずっと教室を巡回しながら、学生諸君の作業に個別に助言を与える。
- * 随時、全体の作業を止めて、全員で共有すべき留意点、そのタイミングで習得すべき広報理論などを教示する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①首相官邸で働いて初めてわかったこと ②下村健一 ③朝日新聞出版 ④2013.3.30 ⑤860円+税 ⑥978-4-02-273497-6

※第14～15回は、この本の内容が既読であることを前提として展開する。

【参考図書】

- * 「10代からの情報キャッチボール入門」 下村健一著 (岩波書店) 1600円+税
 * 月刊「広報会議」(宣伝会議社) 毎月1日刊
 ※特に購入する必要はないが、図書館やWebなどで常に最新号の内容に目を通すことを勧める。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- 「レポート・課題80%」の内訳
 - * キャンペーン広告=20% * 商店ポスター=20% * 動画CM=20%
 - * プレスリリース=10% * 首相会見原稿=10%
- 「平常点20%」= 毎週記入を求める“感想・質問カード”から読み取れる熱意を参考とする。

【履修上の心得】

- わからないモヤモヤがあるのに質問しない者は、履修に向かない。
 ——下村の説明中に割り込んででも手を挙げる者を、歓迎する。
- 泳ぎ方を本で学びたい者は、履修に向かない。
 ——とにかく水に飛び込んで身体で学びたい者を、歓迎する。
- ただ単位を取りたいだけの者は、履修に向かない。
 ——授業で何かを得て、《社会の一員としての責任》を担えるようになりたい者を、歓迎する。

【科目のレベル、前提科目など】

マーケティング、広告論、メディアリテラシー等、メディア関連科目

※履修希望者多数の場合、抽選となる。

科目名	メディア制作演習Ⅱ(アニメ)
	3Dアニメーション制作
教員名	菅野 嘉則

【授業の内容】

昨今の急速なビジュアルコンピューティングの発達によって、以前に考えられなかった映像表現が可能になりました。それは“CG”や、“VFX”と呼ばれ、最先端の映像制作現場で革命を起こしています。こうしたコンピューター映像の基本は、キャラクターや背景を1コマずつ描画して動かすアニメーションの手法です。

本講座ではCG（コンピューター・グラフィックス）を用いてアニメーション制作を行い、今後のメディアコンテンツに対する理解を深めます。後期は、モデリングからアニメーション、レンダリングまで一連の3Dアニメーション制作を実践します。

現在進行している映像革命とはどのようなもので、制作現場はどう変化し、今後どのような発展を遂げるのか…3DCGアニメーションの制作実習を通して、コンテンツの未来を実感してほしいと思います。

【到達目標】

モデリングやサーフェシング、キーフレーム・アニメーションなどデジタル映像制作技術について理解し、3Dコンテンツを制作できること。

【授業計画】

第1回	ガイダンス	学習課題：3DCGアプリケーションとは（～4時間）
第2回	プロジェクト管理とナビゲーション	学習課題：ユーザーインターフェース（～4時間）
第3回	コンピューターで形を作る	学習課題：選択とマニピュレート（～4時間）
第4回	コンピューターで形を作る	学習課題：モデリングの基礎（～4時間）
第5回	コンピューターで形を動かす	学習課題：アニメーションの基礎（～4時間）
第6回	コンピューター・シミュレーション	学習課題：ダイナミクス（～4時間）
第7回	コンピューターで質感を設定する	学習課題：マテリアルとテクスチャー（～4時間）
第8回	コンピューターで照明を決める	学習課題：ライティングとレンダリング（～4時間）
第9回	アニメーション制作	学習課題：キャラクター・アニメーション（～4時間）
第10回	アニメーション制作	学習課題：キャラクター・アニメーション（～4時間）
第11回	アニメーション制作	学習課題：キャラクター・アニメーション（～4時間）
第12回	アニメーション制作	学習課題：キャラクター・アニメーション（～4時間）
第13回	アニメーション制作	学習課題：キャラクター・アニメーション（～4時間）
第14回	アニメーション制作	学習課題：キャラクター・アニメーション（～4時間）
第15回	アニメーション制作	学習課題：キャラクター・アニメーション（～4時間）

【授業の進め方】

3Dアニメーションの制作手順を解説しながら、ハンズオンでアニメーション制作を学びます。ゲーム制作に欠かせないモーションキャプチャーなども紹介します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①アニメーション教科書—アニメーターのための演技術— ②Ed Hooks ③ボーンデジタル ④2006年 ⑤4320円
 ⑥4862460046

【参考図書】

以下は無料のチュートリアルビデオです。

『Maya Learning Channel』 <https://area.autodesk.jp/movie/maya-learning-channel/>

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

【履修上の心得】

アニメーションや、コンピューターを用いたコンテンツ制作に興味がある学生に適しています。なお、最新のコンテンツ制作を学ぶための推奨科目は以下の通りです。

I Tメディア論Ⅰ→I Tメディア論Ⅱ→メディア制作演習Ⅰ（アニメ）→メディア制作演習Ⅱ（アニメ）→メディア制作（3Dプリント）→菅野ゼミナールⅠ→菅野ゼミナールⅡ

【科目のレベル、前提科目など】

Windowsを操作できること。メディア制作演習Ⅰ（アニメ）と合わせて受講することが望ましい。履修推奨年次は2年以上です。

科目名	メディア制作演習Ⅱ(アナウンス)
教員名	渡辺 裕子

【授業の内容】

前期のメディア制作演習Ⅰ（アナウンス）では、基礎的なアナウンス技術（発声・発音、読む、話す、伝える）について、演習を通して学びますが、この授業ではより専門的なアナウンス技術を学んでいきます。メディアセンター内にあるテレビスタジオを使った授業も展開していきます。将来、アナウンサーを目指す学生はもちろん、その他声を使う仕事に就きたいと考えている学生に、是非受講をお勧めします。自分の声を生かしながら「日本語のより美しい響き」を探りつつ、社会人にとって必要なコミュニケーションスキルとプレゼンスキルも同時に身につけていきます。

【到達目標】

- 1 「より高度な発声法が身につく」
- 2 「滑舌がより明瞭になる」
- 3 「ニュースやCMの原稿を作成し、その内容を分かりやすく伝えることができる」
- 4 「プレゼンテーションのスキルを学び、それを実践できる」
- 5 「詩や文学作品をより味わい深く読める」
- 6 「自分の考えを相手にわかりやすく伝えられる」
- 7 「人前で堂々と話せるようになる」

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 フリートーク（例、自己紹介）（スタジオで収録）
- 第3回 発声・活舌方法について
- 第4回 イントネーションとポーズ、アクセントについて
- 第5回 学内ニュースの取材とリポート（現場での撮影）。
- 第6回 ニュース・天気予報を伝える（学内スタジオを使って収録）
- 第7回 コマーシャル撮り（学内スタジオを使って収録）
- 第8回 詩の朗読
- 第9回 文学作品の朗読
- 第10回 プレゼンテーション①「白鷗大学一押しスポット」
- 第11回 プレゼンテーション②「10年後の私」
- 第12回 司会・進行について
- 第13回 詩・文学作品の朗読会の計画と準備
- 第14回 詩・文学作品の朗読発表会（スタジオにて公開収録）
- 第15回 まとめ（必要に応じて授業の順番や内容が変更されることもあります）

【授業の進め方】

腹筋を鍛えながら声を出していきます。新聞の話題から一分間スピーチをします。学内の放送機器を使って収録もします。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

プリント資料を配付。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 60%

特記事項
実技テスト、レポート提出、新聞スクラップノート提出

【履修上の心得】

新聞記事のスクラップノートを作成してもらいます。（15枚・・・週に一枚程度）手鏡を持参して下さい。

【科目のレベル、前提科目など】

内容がより高度になっていきますので、2年生、3年生のメディア制作演習Ⅰ（アナウンス）を履修した学生が望ましいです。応募者多数の場合は、抽選となる場合があります。

科目名	ゼミナールⅠ-1（青木）
教員名	青木 孝暢

【授業の内容】

会計は、公正で透明な社会を形成するためのインフラである。そのため、会計は社会人にとって必須の知識である。会計専門職を目指す者や企業で経理や財務を担当する者でなくとも、財務諸表を読む力が要求される。たとえば、企業で営業を担当する者は、他社の財務諸表から、その企業と取引を行うかどうかの判断をしなければならない。このように社会における会計の重要性は、ますます高まっている。本ゼミでは、会計学の中でも特に外部報告会計である財務会計（財務諸表作成のための会計）について学修していく。

【到達目標】

ゼミナールⅠは、ゼミナールⅡで卒業論文を制作することを前提に行われるゼミ科目である。したがって、本ゼミでは、卒業論文制作の土台として、財務諸表作成のルールのみならず、そのルールが設定されるに至った経緯やそのルールの背景にある多様な考え方を、学生が主体となって学修していく。本ゼミは、財務会計についての理解を深めると同時に、ゼミナールⅡに向けて各学生が関心のあるテーマを発見することを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 設定されたテーマに関する報告と討論(1)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジюмеを作成する
- 第3回 設定されたテーマに関する報告と討論(2)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジюмеを作成する
- 第4回 設定されたテーマに関する報告と討論(3)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジюмеを作成する
- 第5回 設定されたテーマに関する報告と討論(4)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジюмеを作成する
- 第6回 設定されたテーマに関する報告と討論(5)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジюмеを作成する
- 第7回 設定されたテーマに関する報告と討論(6)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジюмеを作成する
- 第8回 設定されたテーマに関する報告と討論(7)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジюмеを作成する
- 第9回 設定されたテーマに関する報告と討論(8)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジюмеを作成する
- 第10回 設定されたテーマに関する報告と討論(9)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジюмеを作成する
- 第11回 設定されたテーマに関する報告と討論(10)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジюмеを作成する
- 第12回 設定されたテーマに関する報告と討論(11)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する

- 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジユメを作成する
- 第13回 設定されたテーマに関する報告と討論(12)
予習：報告者は、担当個所のレジユメを作成する
報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジユメを作成する
- 第14回 設定されたテーマに関する報告と討論(13)
予習：報告者は、担当個所のレジユメを作成する
報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジユメを作成する
- 第15回 設定されたテーマに関する報告と討論(14)
予習：報告者は、担当個所のレジユメを作成する
報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジユメを作成する

【教科書(必ず購入すべきもの)】

初回ゼミ時に指示

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

特記事項

ゼミへの取り組みを総合的に評価

【科目のレベル、前提科目など】

簿記論の単位を取得していること

科目名	ゼミナールI-2 (青木)
教員名	青木 孝暢

【授業の内容】

会計は、公正で透明な社会を形成するためのインフラである。そのため、会計は社会人にとって必須の知識である。会計専門職を目指す者や企業で経理や財務を担当する者でなくとも、財務諸表を読む力が要求される。たとえば、企業で営業を担当する者は、他社の財務諸表から、その企業と取引を行うかどうかの判断をしなければならない。このように社会における会計の重要性は、ますます高まっている。本ゼミでは、会計学の中でも特に外部報告会計である財務会計（財務諸表作成のための会計）について学修していく。

【到達目標】

ゼミナールIは、ゼミナールIIで卒業論文を制作することを前提に行われるゼミ科目である。したがって、本ゼミでは、卒業論文制作の土台として、財務諸表作成のルールのみならず、そのルールが設定されるに至った経緯やそのルールの背景にある多様な考え方を、学生が主体となって学修していく。本ゼミは、財務会計についての理解を深めると同時に、ゼミナールIIに向けて各学生が関心のあるテーマを発見することを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 設定されたテーマに関する報告と討論(1)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジюмеを作成する
- 第3回 設定されたテーマに関する報告と討論(2)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジюмеを作成する
- 第4回 設定されたテーマに関する報告と討論(3)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジюмеを作成する
- 第5回 設定されたテーマに関する報告と討論(4)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジюмеを作成する
- 第6回 設定されたテーマに関する報告と討論(5)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジюмеを作成する
- 第7回 設定されたテーマに関する報告と討論(6)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジюмеを作成する
- 第8回 設定されたテーマに関する報告と討論(7)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジюмеを作成する
- 第9回 設定されたテーマに関する報告と討論(8)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジюмеを作成する
- 第10回 設定されたテーマに関する報告と討論(9)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジюмеを作成する
- 第11回 設定されたテーマに関する報告と討論(10)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジюмеを作成する
- 第12回 設定されたテーマに関する報告と討論(11)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する

- 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジユメを作成する
- 第13回 設定されたテーマに関する報告と討論(12)
予習：報告者は、担当個所のレジユメを作成する
報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジユメを作成する
- 第14回 設定されたテーマに関する報告と討論(13)
予習：報告者は、担当個所のレジユメを作成する
報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジユメを作成する
- 第15回 設定されたテーマに関する報告と討論(14)
予習：報告者は、担当個所のレジユメを作成する
報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジユメを作成する

【教科書(必ず購入すべきもの)】

初回ゼミ時に指示

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

特記事項

ゼミへの取り組みを総合的に評価

【科目のレベル、前提科目など】

簿記論の単位を取得していること

科目名	ゼミナール I-1 (市川)
教員名	市川 千秋

【授業の内容】

このゼミナールには2年生から入った学生と3年生から入った学生が混在することになる。まずゼミ1年次の前半であることから、ゼミ生は金融経済に関する基礎的な知識の充実を目指さなければならない。それには金融経済に関する網羅的な文献からこの分野の研究対象のアウトラインを認識することが必要となる。金融経済は理論から制度にいたるまで幅広く奥の深い学問分野であり、ゼミ生は共通の文献を分担して読解することで各自の関心を引き起こして深めていくことができる。

【到達目標】

- ①金融メカニズムの学習を通じて経済社会の構造を理解すること
- ②研究発表や討論を通じて分析力と自己の表現能力を高めること
- ③大人としての態度・気配り・話し方を身につけるよう努力すること

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション…テキストの決定とゼミの進め方の話し合い
(予習・復習 60分)
- 第2回 教員による金融基礎知識や時事問題の解説 I
(予習・復習 60分)
- 第3回 教員による金融基礎知識や時事問題の解説 II
(予習・復習 60分)
- 第4回 テキストに基づくゼミ生の学習発表①
(予習・復習 60分)
- 第5回 テキストに基づくゼミ生の学習発表②
(予習・復習 60分)
- 第6回 テキストに基づくゼミ生の学習発表③
(予習・復習 60分)
- 第7回 テキストに基づくゼミ生の学習発表④
(予習・復習 60分)
- 第8回 テキストに基づくゼミ生の学習発表⑤
(予習・復習 60分)
- 第9回 テキストに基づくゼミ生の学習発表⑥
(予習・復習 60分)
- 第10回 テキストに基づくゼミ生の学習発表⑦
(予習・復習 60分)
- 第11回 テキストに基づくゼミ生の学習発表⑧
(予習・復習 60分)
- 第12回 テキストに基づくゼミ生の学習発表⑨
(予習・復習 60分)
- 第13回 テキストに基づくゼミ生の学習発表⑩
(予習・復習 60分)
- 第14回 テキストに基づくゼミ生の学習発表⑪
(予習・復習 60分)
- 第15回 前期発表の総括と就職活動に向けて
(復習・総括 60分)

基本的には15回の授業計画にしたがって進めるが、外部からのゲストを招くこともあるので次回への繰り越しもある。

【授業の進め方】

ゼミ活動の主体は学生諸君である。まず、2、3人ずつのグループを形成し教材や資料をもとに研究・分析した成果を発表するといった方法をとる。報告の後で他のグループからの質問を受け、さらに指導教員が総括して講評するという方法ですすめる。

また、新聞や雑誌等に掲載されている金融記事の解説・論評・討議を通じて、生きた経済を見る目を養っていきたいと考えている。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書 例年ゼミ生と相談して決めている

参考書 『ゼミナール・現代金融入門』 斉藤精一郎著 日経新聞社
『入門マクロ経済学』 中谷巖著 日本評論社 その他、追って指示する

【参考図書】

ゼミナール時間中に指示する

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

ゼミナール活動における発表内容と出席で評価する

発表内容50%、出席50%とする

【「成績評価の方法」に関する注意点】

発言回数も評価する

【履修上の心得】

発表担当でなくても教材を十分読み、不明な点を質問できるようにしておくこと。ゼミ生は表面的な現象にとらわれることなく、その背後にある真理を探ることを目標としてほしい。

また、止むを得ず休むときは連絡すること。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目：金融論、国際金融論、銀行論

関連科目：大学の専門科目は言うに及ばず、語学や一般教養の科目、その他新聞・雑誌など、ゼミ生の幅広い人間形成に寄与しうるもの全てが関連する。

金融経済に関する現象の詳細に分析を通じて、事柄の本質を理解する訓練ができる科目として位置付けられる。

科目名	ゼミナール I - 2 (市川)
教員名	市川 千秋

【授業の内容】

ゼミ 1 年次の後半では金融知識の充実と共に、金融現象の解析能力も身につけてほしい。また各自が関心を持つテーマを決めるときでもある。さらにキャリア形成の意識も育みたい。就職・進路の話題も多く取り上げられる。将来について、人生について大いに悩むことだろう。頑張ってもらいたい。

【到達目標】

- ①金融メカニズムの学習を通じて経済社会の構造を理解すること
- ②研究発表や討論を通じて分析力と自己の表現能力を高めること
- ③大人としての態度・気配り・話し方を身につけるよう努力すること

【授業計画】

- 第 1 回 オリエンテーション…後期の進め方の指示
(予習・復習 60分)
- 第 2 回 教員による今年度前半の金融問題の解説
(予習・復習 60分)
- 第 3 回 テキストに基づくゼミ生の学習発表①
(予習・復習 60分)
- 第 4 回 テキストに基づくゼミ生の学習発表②
(予習・復習 60分)
- 第 5 回 テキストに基づくゼミ生の学習発表③
(予習・復習 60分)
- 第 6 回 テキストに基づくゼミ生の学習発表④
(予習・復習 60分)
- 第 7 回 テキストに基づくゼミ生の学習発表⑤
(予習・復習 60分)
- 第 8 回 テキストに基づくゼミ生の学習発表⑥
(予習・復習 60分)
- 第 9 回 テキストに基づくゼミ生の学習発表⑦
(予習・復習 60分)
- 第 10 回 テキストに基づくゼミ生の学習発表⑧
(予習・復習 60分)
- 第 11 回 テキストに基づくゼミ生の学習発表⑨
(予習・復習 60分)
- 第 12 回 テキストに基づくゼミ生の学習発表⑩
(予習・復習 60分)
- 第 13 回 テキストに基づくゼミ生の学習発表⑪
(予習・復習 60分)
- 第 14 回 テキストに基づくゼミ生の学習発表⑫
(予習・復習 60分)
- 第 15 回 後期発表の総括と就職相談
(復習・総括 60分)

【授業の進め方】

ゼミ活動の主体は学生諸君である。まず、2～3人ずつのグループを形成し教材や資料をもとに研究・分析した成果を発表するといった方法をとる。報告の後で他のグループからの質問を受け、さらに指導教員が総括して講評するといった方法ですすめる。

また、新聞や雑誌等に掲載されている金融記事の解説・論評・討議を通じて、生きた経済を見る目を養っていきたくと考えている。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①金融の授業 ②上野泰也 ③かんき出版 ④2015年 ⑤1600円

教科書 例年ゼミ生と相談して決めている

参考書 『テキストブック金融入門』岩田規久男著 東洋経済
『金融論入門』清水克俊著 新世社 その他、追って指示する

【参考図書】

ゼミナール時間中に指示する

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

ゼミナール活動における発表内容で評価する

【「成績評価の方法」に関する注意点】

発言回数も評価する

【履修上の心得】

発表担当でなくても教材を十分読み、不明な点を質問できるようにしておくこと。ゼミ生は表面的な現象にとらわれることなく、その背後にある真理を探ることを目標としてほしい。

また、止むを得ず休むときは連絡すること。

【科目のレベル、前提科目など】

履修推奨年次：学部4年次生

前提科目：金融論、国際金融論、銀行論

関連科目：大学の専門科目は言うに及ばず、語学や一般教養の科目、その他新聞・雑誌など、ゼミ生の幅広い人間形成に寄与するもの全てが関連する。

金融経済に関する現象の詳細に分析を通じて、事柄の本質を理解する訓練ができる科目として位置付けられる。

科目名	ゼミナール I - 1 (内堀)
	国際マーケティング戦略研究
教員名	内堀 敬則

【授業の内容】

国際マーケティング戦略研究を軸に、自ら考え、行動し、その成果をプレゼンテーションするというプロセスを実践しながら、調査研究の基礎的能力を身に着けることを目的とする。
自主的な問題意識に基づいた研究論文をメンバーとともに完成させる。

【到達目標】

研究テーマを設定したうえで、事実関係や仮説を検証し、その成果をプレゼンテーションするという調査研究の基本的なスキルを身につけることを目標とする。また、上記作業をグループで行い、チームのなかで自分の強みや弱みを理解しながら活躍できる能力の涵養も目指す。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
予習：研究テーマについての構想をまとめておくこと。
- 第2回 研究テーマの設定や研究の方向性確認の議論、関連文献のプレゼンテーション
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第3回 研究テーマの設定や研究の方向性確認の議論、関連文献のプレゼンテーション
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第4回 研究テーマの設定や研究の方向性確認の議論、関連文献のプレゼンテーション
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第5回 研究テーマの設定や研究の方向性確認の議論、関連文献のプレゼンテーション
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第6回 研究テーマの設定や研究の方向性確認の議論、関連文献のプレゼンテーション
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第7回 研究テーマの設定や研究の方向性確認の議論、関連文献のプレゼンテーション
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第8回 研究テーマの設定や研究の方向性確認の議論、関連文献のプレゼンテーション
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第9回 研究テーマの設定や研究の方向性確認の議論、関連文献のプレゼンテーション
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第10回 研究テーマの設定や研究の方向性確認の議論、関連文献のプレゼンテーション
夏合宿の準備
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第11回 研究テーマの設定や研究の方向性確認の議論、関連文献のプレゼンテーション
夏合宿の準備
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第12回 研究テーマの設定や研究の方向性確認の議論、関連文献のプレゼンテーション
夏合宿の準備
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第13回 研究テーマの設定や研究の方向性確認の議論、関連文献のプレゼンテーション
夏合宿の準備
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第14回 研究テーマの設定や研究の方向性確認の議論、関連文献のプレゼンテーション
夏合宿の準備
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。

第15回 研究テーマの設定や研究の方向性確認の議論、関連文献のプレゼンテーション

夏合宿の準備

予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。

復習：ゼミでの議論を踏まえ、夏合宿に向けたレジュメの作成。

少子高齢化に伴う国内市場の成熟化や、新興市場の急速な拡大などの経営環境の変化により、企業の規模や業種を問わず、国境を越えてマーケティング活動を遂行することの重要性はこれまでになく高まっている。経済、市場、そして企業・消費者活動の「グローバル化」が当然のように加速するなか、企業はマーケティング諸活動をグローバルに統合したり、効果と効率を追求したりすることを求められている。本ゼミナールにおいては、こうした国際マーケティング活動についての理論的および実証的な検討を行う。

前期は研究テーマとその方向性を設定するため関連文献のプレゼンテーションを基本としながら、夏合宿における企業訪問や他大学との討論イベント、「合同ゼミ」の準備を行う。

【授業の進め方】

世界のビジネススクールで議論の対象となっている国際マーケティングに関する文献のなかから、ゼミ生との議論により選択したテキストをレビューする。夏合宿において他大学との討論を予定しているので、その準備を行う。

年末に国際マーケティングを専攻している全国の大学のゼミと対抗戦(国際ビジネス研究インターカレッジ大会)を行う予定なので、それに向けてゼミ生は一丸となって取り組む。

なお、研究テーマの選定やゼミの運営などゼミ生の自主性を尊重する。ゼミ生が一丸となって課題に挑み、切磋琢磨することによって、生涯にわたってつながる仲間を得ることも本ゼミの重要な要素である。一連の活動を通し、就職活動などの難題を乗り切る自信とたくましさを身に着けることを期待する。

また、本ゼミでは他大学のゼミとの交流活動や企業訪問など、「他流試合」を積極的に行う。こうした活動を円滑に行うため、夏合宿などを有効活用する。

※「国際ビジネス研究インターカレッジ大会」については以下リンク参照

<http://ibintercollege.org/>

<http://ibintercollege.org/seminars/>

【教科書(必ず購入すべきもの)】

研究テーマに応じ決定する。

ゼミ生が設定した研究テーマに応じた文献をテキストとして活用する。過去の実績として以下のような理論書を活用した。

スザンヌ バーガー、MIT産業生産性センター(2006)『MITチームの調査研究によるグローバル企業の成功戦略』、草思社

トーマス フリードマン(2008)『フラット化する世界 [増補改訂版] (上・下)』、日本経済新聞

C.K.プラハラード(2005)『ネクスト・マーケット「貧困層」を「顧客」に変える次世代ビジネス戦略 (ウォートン経営戦略シリーズ)』、英治出版

W・チャン・キム、レネ・モボルニュ (2005)『ブルー・オーシャン戦略 競争のない世界を創造する (Harvard business school press)』、ランダムハウス講談社

藤本隆宏、新宅純二郎 (2005)『中国製造業のアーキテクチャ分析 (経済政策分析シリーズ)』、東洋経済新報社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

ゼミ活動全般に対する貢献、発表内容、発言内容などを総合的に評価する。

【履修上の心得】

常に新聞や経済誌などで興味のある市場や産業の動向についてチェックし、自分なりの見方を持つこと。学生特有の好奇心と大胆な推論はゼミ生の最大の武器である。

指名されるまでもなく、どんどん自分の意見を述べること。

調査研究の楽しさ・醍醐味を堪能することを期待する。

【科目のレベル、前提科目など】

関連科目：マーケティング論、国際マーケティング論、国際経営論、多国籍企業論、国際関係論、貿易商務論など

科目名	ゼミナールI-2 (内堀)
	国際マーケティング戦略研究
教員名	内堀 敬則

【授業の内容】

国際マーケティング戦略研究を軸に、自ら考え、行動し、その成果をプレゼンテーションするというプロセスを実践しながら、調査研究の基礎的能力を身に着けることを目的とする。

「ゼミI-1」に引き続き、自主的な問題意識に基づいた研究論文をメンバーとともに完成させる。

【到達目標】

研究テーマを設定したうえで、事実関係や仮説を検証し、その成果をプレゼンテーションするという調査研究の基本的なスキルを身につけることを目標とする。また、上記作業をグループで行い、チームのなかで自分の強みや弱みを理解しながら活躍できる能力の涵養も目指す。

毎年秋に開催される「国際ビジネス研究インターカレッジ大会」に向け論文を執筆し、プレゼンテーションを完成させる。

【授業計画】

- 第1回 ゼミ論文進捗状況の確認と研究手法の検討
 予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
 復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第2回 ゼミ論文進捗状況の確認と研究手法の検討
 予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
 復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第3回 ゼミ論文進捗状況の確認と研究手法の検討
 予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
 復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第4回 ゼミ論文進捗状況の確認と研究手法の検討
 予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
 復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第5回 ゼミ論文進捗状況の確認と研究手法の検討
 予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
 復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第6回 ゼミ論文進捗状況の確認と研究手法の検討
 予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
 復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第7回 国際ビジネス研究インターカレッジ大会およびコンソーシアムとちぎ主催大会プレゼンリハーサル
 予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
 復習：ゼミでの議論を踏まえ、大会本番に向けたレジュメの作成。
- 第8回 事例研究の検討・エントリーシート演習
 イベント準備 (OBOG会、卒論プレゼンテーション評価、春合宿、ゼミ試験)
 予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
 復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第9回 事例研究の検討・エントリーシート演習
 イベント準備 (OBOG会、卒論プレゼンテーション評価、春合宿、ゼミ試験)
 予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
 復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第10回 事例研究の検討・エントリーシート演習
 イベント準備 (OBOG会、卒論プレゼンテーション評価、春合宿、ゼミ試験)
 予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
 復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第11回 事例研究の検討・エントリーシート演習
 イベント準備 (OBOG会、卒論プレゼンテーション評価、春合宿、ゼミ試験)
 予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
 復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第12回 事例研究の検討・エントリーシート演習
 イベント準備 (OBOG会、卒論プレゼンテーション評価、春合宿、ゼミ試験)
 予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
 復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第13回 事例研究の検討・エントリーシート演習
 イベント準備 (OBOG会、卒論プレゼンテーション評価、春合宿、ゼミ試験)
 予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。

- 復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第14回 事例研究の検討・エントリーシート演習
イベント準備 (OBOG会、卒論プレゼンテーション評価、春合宿、ゼミ試験)
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第15回 事例研究の検討・エントリーシート演習
イベント準備 (OBOG会、卒論プレゼンテーション評価、春合宿、ゼミ試験)
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。

少子高齢化に伴う国内市場の成熟化や、新興市場の急速な拡大などの経営環境の変化により、企業の規模や業種を問わず、国境を越えてマーケティング活動を遂行することの重要性はこれまでに高まっている。経済、市場、そして企業・消費者活動の「グローバル化」が当然のように加速するなか、企業はマーケティング諸活動をグローバルに統合したり、効果と効率を追求したりすることを求められている。本ゼミナールにおいては、こうした国際マーケティング活動についての理論的および実証的な検討を行う。なお、授業計画は研究の進捗状況や各種イベント動向により変更する可能性がある。

【授業の進め方】

後期においては、前期の成果をベースに、統計データの収集と分析、その成果のプレゼンテーションを通し、問題解決手法のトレーニングを実践する。

年末に国際マーケティングを専攻している全国の大学のゼミと対抗戦（国際ビジネス研究インターカレッジ大会）を行う予定なので、それに向けてゼミ生は一丸となって取り組む。

なお、研究テーマの選定やゼミの運営などゼミ生の自主性を尊重する。ゼミ生が一丸となって課題に挑み、切磋琢磨することによって、生涯にわたってつながる仲間を得ることも本ゼミの重要な要素である。一連の活動を通し、就職活動などの難題を乗り切る自信とたくましさを身に着けることを期待する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

研究テーマに応じた文献を指定する。なお、過去の実績は以下の通り

スザンヌ バーガー、MIT産業生産性センター(2006)『MITチームの調査研究によるグローバル企業の成功戦略』、草思社

トーマス フリードマン(2008)『フラット化する世界 [増補改訂版] (上・下)』、日本経済新聞

C.K.プラハラード(2005)『ネクスト・マーケット「貧困層」を「顧客」に変える次世代ビジネス戦略 (ウォートン経営戦略シリーズ)』、英治出版

W・チャン・キム、レネ・モボルニュ (2005)『ブルー・オーシャン戦略 競争のない世界を創造する (Harvard business school press)』、ランダムハウス講談社

藤本隆宏、新宅純二郎 (2005)『中国製造業のアーキテクチャ分析 (経済政策分析シリーズ)』、東洋経済新報社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

ゼミ活動全般に対する貢献、発表内容、発言内容などを総合的に評価する。

【履修上の心得】

常に新聞や経済誌などで興味のある市場や産業の動向についてチェックし、自分なりの見方を持つこと。学生特有の好奇心と大胆な推論はゼミ生の最大の武器である。

指名されるまでもなく、どんどん自分の意見を述べること。

調査研究の楽しさ・醍醐味を堪能することを期待する。

【科目のレベル、前提科目など】

関連科目：マーケティング論、国際マーケティング論、国際経営論、多国籍企業論、国際関係論、貿易商務論など

科目名	ゼミナール I - 1 (片岡)
	現代企業研究
教員名	片岡 豊

【授業の内容】

本演習の最終的な目標は、ゼミ生諸君が自ら納得できる卒業論文を完成することである。卒業論文のテーマは研究調査に値するものなら、まったく自由である。

前期においては企業に関して共通の理解と知識を得るために、経営分析の手法を研究する。経営分析それ自体は理論的な方法ではないが、企業の収益性と安定性に関して具体的なイメージを得るには有効な手段である。財務諸表の分析から

- (1) 被雇用者として何が問題と考えるか。
- (2) 経営者として何が問題と考えるか。
- (3) 企業の株価水準の評価。

以上の3点について各自の見解を持てるようにすることが目標である。

【到達目標】

経営分析の基本を理解することを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 テキスト紹介と分担決定
復習：各自の報告担当箇所の確認と準備 (30分)。
- 第3回 自己資本比率と財務の安定性
予習：報告者はレジュメを作成する (60分～)。
ゼミ生はテキストを読み質問を準備する (60分)。
復習：キーワードを整理し、財務の内容を理解する。
- 第4回 固定比率と安定性に関する経営指標
予習：報告者はレジュメを作成する (60分～)。
ゼミ生はテキストを読み質問を準備する (60分)。
復習：キーワードを整理し、安定性について理解する。
- 第5回 流動比率と当座比率
予習：報告者はレジュメを作成する (60分～)。
ゼミ生はテキストを読み質問を準備する (60分)。
復習：キーワードを整理し、債務の返還について理解する。
- 第6回 収益性と売上総利益率
予習：報告者はレジュメを作成する (60分～)。
ゼミ生はテキストを読み質問を準備する (60分)。
復習：キーワードを整理し、利益の意味を理解する
- 第7回 4つの利益
予習：報告者はレジュメを作成する (60分～)。
ゼミ生はテキストを読み質問を準備する (60分)。
復習：キーワードを整理し、利益の4段階を理解する。
- 第8回 有利子負債
予習：報告者はレジュメを作成する (60分～)。
ゼミ生はテキストを読み質問を準備する (60分)。
復習：キーワードを整理し、利益の4段階を理解する。
- 第9回 損益分岐点
予習：報告者はレジュメを作成する (60分～)。
ゼミ生はテキストを読み質問を準備する (60分)。
復習：キーワードを整理し、固定費と変動費意味を理解する。
- 第10回 経営指標に関する復習
復習：練習問題を復習する (60分)。
- 第11回 財務データ準備
復習：財務データの内容を整理する (60分)。
- 第12回 財務データ処理
復習：データ処理を完成させる (60分～)。
- 第13回 報告書作成
予習：各グループでプレゼンテーション用のレジュメを準備する (60分～)。
- 第14回 グループ討論
予習：プレゼンテーションの準備 (60分～)。

第15回 総復習

復習：経営指標の整理と理解（60分）。

授業はゼミ生の報告を中心に進める。

【授業の進め方】

経営分析の研究を進め、実際の企業の経営分析を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

テキストは授業時に配布する。

【参考図書】

論文作成のための参考文献、資料は各自に指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

授業はゼミ生の報告に対する質問、コメントを中心に進める。

【履修上の心得】

自主性の尊重。活発な議論を期待する。

【科目のレベル、前提科目など】

履修を前提とする科目はとくにない。

【備 考】

研究テーマについては日常から意識しておくこと。

科目名	ゼミナール I - 2 (片岡)
	現代企業研究
教員名	片岡 豊

【授業の内容】

卒業論文の完成。卒論のテーマは調査・研究に値するものなら、全く自由である。

【到達目標】

卒業論文を構成する研究内容を準備することを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
復習：研究計画の策定（30分）。
- 第2回 研究テーマの決定（1）
予習：研究テーマの候補を複数準備する（60分）。
復習：研究テーマの決定（30分）。
- 第3回 研究テーマの決定（2）
予習：研究テーマの候補を複数準備する（60分）。
復習：研究テーマの決定（30分）。
- 第4回 研究テーマの決定（3）
予習：研究テーマの候補を複数準備する（60分）。
復習：研究テーマの決定（30分）。目次案修正
- 第5回 利用資料の紹介
復習：利用資料の調査（60分）。
- 第6回 利用資料の決定
予習：利用資料の準備（60分～）。
- 第7回 利用資料の分析方法に関する検討
復習：資料の利用可能性の検討（60分）。
- 第8回 論文作成途中経過に関する報告(1)
予習：報告者はレジュメを作成する（60分～）
復習：コメントの整理（30分）。
- 第9回 論文作成途中経過に関する報告(2)
予習：報告者はレジュメを作成する（60分～）
復習：コメントの整理（30分）。
- 第10回 論文作成途中経過に関する報告(3)
予習：報告者はレジュメを作成する（60分～）
復習：コメントの整理（30分）。
- 第11回 論文作成途中経過に関する報告(4)
予習：報告者はレジュメを作成する（60分～）
復習：コメントの整理（30分）。
- 第12回 利用資料の再検討(1)
予習：利用資料の準備（60分）
復習：利用資料の再検討（60分）。
- 第13回 利用資料の再検討(2)
予習：利用資料の準備（60分）
復習：利用資料の再検討（60分）。
- 第14回 卒業論文第1回目次報告
予習：目次案の作成（60分）。
復習：目次案の作成（30分）。
- 第15回 卒業論文作成に関する検討
予習：残された課題の検討（30分）。

【授業の進め方】

ゼミナール I - 2では卒業論文の作成準備にはいる。
資料収集と資料の分析方法の検討を中心に議論をすすめる。
各自2回の報告を予定している。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に指定しない。

【参考図書】

参考資料は各自に指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

平常授業時の報告内容と卒業論文の関連性を重視する。

【履修上の心得】

自主性の尊重。活発な議論を期待する。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目は特にない。

【備 考】

論文のテーマに関する情報にはつねに注意を払っていること。

科目名	ゼミナール I-1 (黒澤)
	コンピュータとインターネットの技術
教員名	黒澤 和人

【授業の内容】

担当教員の下に複数の学生が集まり、次の分野に関する知識・技能の獲得を目指します。

- (1) 情報の基礎理論
 - (2) プログラミング
 - (3) インターネットとセキュリティの技術
- いわゆる数理・情報・通信系のゼミです。

情報・通信分野に精通し、仕組みを知って人に説明したり、もの作りに参画できるようになるということです。

【到達目標】

- (1) 研究や討議を通して、皆とともに考え、学ぶことの重要性を知る。
- (2) 明らかにしたいことを自ら見定め、テーマを設定できる。
- (3) 自らのテーマに即して学習や研究を自主的に進めていけるようになる。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンスと役割分担。
学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする (60分)。
- 第2回 組合せ論理回路
学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする (60分)。
- 第3回 コンピュータの数値表現
学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする (60分)。
- 第4回 抽象代数学
学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする (60分)。
- 第5回 グラフ理論とネットワーク
学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする (60分)。
- 第6回 統計データ処理
学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする (60分)。
- 第7回 確率モデル
学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする (60分)。
- 第8回 統計的推測
学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする (60分)。
- 第9回 ベイズ統計
学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする (60分)。
- 第10回 線形計画法と輸送問題
学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする (60分)。
- 第11回 日程計画問題
学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする (60分)。
- 第12回 在庫管理問題
学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする (60分)。
- 第13回 待ち行列理論
学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする (60分)。
- 第14回 ゲームの理論
学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする (60分)。
- 第15回 総括と今後の学習のための案内。
学習課題：これまでの全学習内容を整理する (120分)。

【授業の進め方】

次の3つの形式を取り交ぜて進めていきます。

- ・講義形式 (担当教員が主導して行うもの)
 - ・実習形式 (共通のテキストに基づく勉強会風のもの)
 - ・発表形式 (学生主導で、司会・発表・記録等の担当を決めて行うもの)
- なお、毎回の授業の成果は、その都度ネット上に蓄積していきます。
また、必要に応じて、別途宿題を課すこともあります。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ・黒澤和人『情報数学入門』共立出版, 1995.
- ・黒澤和人『統計・OR入門』共立出版, 1995.

【参考図書】

- ・参考文献や資料などはその都度指示します。
- ・印刷資料を配布することもあります。
- ・図書館の資料を活用して研究が進められるよう配慮したいと考えています。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 60%

特記事項

無断欠席がないことと、出席回数が全体の3分の2を超えていることを前提に、

(1) レポート・課題

- ・レポート（いわゆる宿題）や課題の提出の状況

(2) 受講態度

- ・自主的な学習・研究活動の状況
- ・毎時の発表や質疑の状況

の3つを点数化し、その合計点で評価します。

【履修上の心得】

- (1) ゼミナールの運営は、全員で分担して行います。
- (2) 発表はあらかじめ決めた順番で行うので、遅刻や欠席の際は、事前連絡が必要です。
- (3) ゼミナールの共通プログラミング言語は、C言語とJavaScriptとします。

【科目のレベル、前提科目など】

- ・前提科目：経営情報科学 I・II
- ・関連科目：情報系、数学系、メディア系の各科目

科目名	ゼミナールI-2（黒澤）
	コンピュータとインターネットの技術
教員名	黒澤 和人

【授業の内容】

担当教員の下に複数の学生が集まり、次の分野に関する知識・技能の獲得を目指します。

- (1) 情報の基礎理論
 - (2) プログラミング
 - (3) インターネットとセキュリティの技術
- いわゆる数理・情報・通信系のゼミです。

情報・通信分野に精通し、仕組みを知って人に説明したり、もの作りに参画できるようになるということです。

【到達目標】

- (1) 研究や討議を通して、皆とともに考え、学ぶことの重要性を知る。
- (2) 明らかにしたいことを自ら見定め、テーマを設定できる。
- (3) 自らのテーマに即して学習や研究を自主的に進めていけるようになる。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンスと役割分担。
学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第2回 情報処理の基礎（その1）。
学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第3回 情報処理の基礎（その2）。
学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第4回 マルチメディア技術の基礎
学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第5回 情報理論とエントロピー
学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第6回 符号理論とその応用
学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第7回 暗号理論とその応用
学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第8回 コンピュータによる数値計算
学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第9回 データベースの理論と実際（その1）
学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第10回 データベースの理論と実際（その2）
学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第11回 Webアニメーション（その1）。
学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第12回 Webアニメーション（その2）。
学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第13回 Web技術（その1）。
学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第14回 Web技術（その2）。
学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第15回 総括と今後の学習のための案内。
学習課題：これまでの全学習内容を整理する（120分）。

【授業の進め方】

次の3つの形式を取り交ぜて進めていきます。

- ・講義形式（担当教員が主導して行うもの）
 - ・実習形式（共通のテキストに基づく勉強会風のもの）
 - ・発表形式（学生主導で、司会・発表・記録等の担当を決めて行うもの）
- なお、毎回の授業の成果は、その都度ネット上に蓄積していきます。
また、必要に応じて、別途宿題を課すこともあります。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ・黒澤和人『パソコンプレゼンテーション』現代図書，2003。
- ・黒澤和人『Web教材制作演習』丸善プラネット，2017。

【参考図書】

- ・参考文献や資料などはその都度指示します。
- ・印刷資料を配布することもあります。
- ・図書館の資料を活用して研究が進められるよう配慮したいと考えています。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 60%

特記事項

無断欠席がないことと、出席回数が全体の3分の2を超えていることを前提に、

(1) レポート・課題

- ・レポート（いわゆる宿題）や課題の提出の状況

(2) 受講態度

- ・自主的な学習・研究活動の状況
- ・毎時の発表や質疑の状況

の3つを点数化し、その合計点で評価します。

【履修上の心得】

- (1) ゼミナールの運営は、全員で分担して行います。
- (2) 発表はあらかじめ決めた順番で行うので、遅刻や欠席の際は、事前連絡が必要です。
- (3) ゼミナールの共通プログラミング言語は、C言語とJavaScriptとします。

【科目のレベル、前提科目など】

- ・前提科目：経営情報科学 I・II
- ・関連科目：情報系、数学系、メディア系の各科目

科目名	ゼミナール I-1 (黒田)
教員名	黒田 勉

【授業の内容】

1. 各自の個人テーマに基づく経過発表
2. ビジネスに関連した情報の報告
3. 経営学の基本事項の確認
4. 就職戦線への取り組み方

以上によって、多面性に富んだビジネス事情を根本的に理解する。

【到達目標】

- ◎ 3年次末期限の「ゼミ論」の完成
- ◎ 就職活動への活力の醸成

【授業計画】

- 第1回 前期スケジュールと就職活動事情<復習20分>
 第2回 「個人発表」&私有財産制度<予習30分>
 第3回 " 市場メカニズム<予習30分>
 第4回 " 利潤<予習30分>
 第5回 " 商品生産体<予習30分>
 第6回 " 営利追求体<予習30分>
 第7回 " 企業となる条件<予習30分>
 第8回 " 経営理念(表現形式)<予習30分>
 第9回 " " (社会通念)<予習30分>
 第10回 " 地域環境<予習30分>
 第11回 " 地球環境<予習30分>
 第12回 " 欠陥商品<予習30分>
 第13回 " 損失補てん・談合・賄賂<予習30分>
 第14回 " 社会貢献活動<予習30分>
 第15回 今年のこれまでのビジネス情勢を振り返っての情報整理<復習30分>

◎ 4月から5月の間、「ビジネス能力検定3級試験」問題の簡潔な解説を並行して行う。

◎ 毎回、各人が簡潔にビジネスに関連した情報を報告する。

【授業の進め方】

全員での質疑応答形式

【教科書(必ず購入すべきもの)】

1. 授業中に指摘。
2. 教科書ではないが、自主的に入手することを望む：『2018年版・ビジネス能力検定3級試験問題集』、専修学校教育振興会、日本能率協会マネジメントセンター、¥1,500程。

【参考図書】

就職活動への備え、授業での必要性などによって、その都度指示するので即時用意すること。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 60%

特記事項

「レポート・課題」：ゼミ論の下書き

「受講態度」：ゼミへの熱心さ

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席は成績評価の対象にはならない。

理由：白鷗大学試験規則第2条に基づき、「受験資格は授業時数の三分の二以上出席した者に与えられる」、という決まりがあるので、それを順守する。

【履修上の心得】

★発表時には必ず「要旨(レジュメ)」を全員分用意。

※コピー代は自己負担

★指摘された教材を持参。

★《ゼミ憲法》の順守：◎ゼミを大切にする ◎問題意識を持つように努める ◎議論に参加する

【科目のレベル、前提科目など】

必修の専門科目を既に単位取得していること、あるいは現在それを履修中であることが必要。

【備 考】

根気強さを望む。

科目名	ゼミナール I - 2 (黒田)
教員名	黒田 勉

【授業の内容】

1. 各自の個人テーマに基づく経過発表
2. ビジネスに関連した情報の報告
3. 経営学の基本事項および企業情勢の確認
4. 就職戦線への取り組み方

以上によって、多面性に富んだビジネス事情を根本的に理解する。

【到達目標】

- ◎ 3年次末期限の「ゼミ論」の完成
- ◎ 就職活動への活力の醸成

【授業計画】

- 第1回 スケジュールと就職活動「新」事情<復習20分>
 第2回 「個人発表」&経営学の基本事項および企業情勢<予習30分>
 第3回 " <予習30分>
 第4回 " <予習30分>
 第5回 " <予習30分>
 第6回 " <予習30分>
 第7回 " <予習30分>
 第8回 " <予習30分>
 第9回 " <予習30分>
 第10回 " <予習30分>
 第11回 " <予習30分>
 第12回 " <予習30分>
 第13回 " <予習30分>
 第14回 " <予習30分>
 第15回 今年のビジネス情勢に関する情報整理<復習30分>

- ◎ スケジュール以外に、毎回、各人が簡潔にビジネスに関連した情報を報告する。
- ◎ 11月から授業に並行して、就職活動用の履歴書などの作成も実施。

【授業の進め方】

全員での質疑応答形式

【教科書(必ず購入すべきもの)】

授業で必要になった場合には指摘する。

【参考図書】

適時、指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 60%

特記事項

「レポート・課題」：ゼミ論

「受講態度」：質疑応答の熱心さ

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席は当然のこと。白鷗大学試験規則第2条に基づき、「受験資格は授業時数の三分の二以上出席した者に与えられる」、という決まりがあるので、それを順守する。

【履修上の心得】

★発表時には必ず「要旨(レジュメ)」を全員分用意。

★教材が指定された場合にはそれを持参すること。

★《ゼミ憲法》の順守：◎ゼミを大切にす ◎問題意識を持つように努める ◎議論に参加する

※発表用要旨およびゼミ論のコピー代は自己負担

【科目のレベル、前提科目など】

前提:「ゼミ I-1」の単位を取得済みであること。

【備 考】

根気強さを望む。

科目名	ゼミナール I - 1 (張)
教員名	張 承玖

【授業の内容】

情報通信技術の進歩や金融システムの発達、輸送手段の多様化などに伴い、より多次元的なグローバル化が急速に進んでいくなかで、多くの企業の今後の成長は、以下の 5 W 1 H の課題に対しいかに論理、直観、経験の間で正しいバランスのとれた意思決定ができるかにかかるとされる。

1. どの国のどの業種のどの企業が (Who) 多国籍化するか。
2. 企業はいかなる事業分野を (What) 多国籍化するか。
3. 企業はどこへ (Where) 進出するか。
4. 企業はなぜ (Why) 多国籍化するか。
5. 企業はいつ (When) 多国籍化するか。
6. 多国籍化はどのような形態で (How) 行なわれるか。

そこで、このゼミでは、現実の特定企業を題材にしてその関連する事実や情報を収集、分析して、学生があたかもその企業のビジネス・パーソンとして意思決定できるようなケースを使って、その企業の経営について、問題点を発見し分析を加え、上記のような課題の解決方法を討議する。

【到達目標】

数多くの経営事例を扱い、幾多の経営課題の乗り切り方を学び、さまざまな国際ビジネス問題に関する「考え方や方法論の習得」と「国際ビジネス知見の獲得」を目的とすると同時に、授業の到達目標とする。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション I
- 第2回 オリエンテーション II
- 第3回 先輩によるケースのプレゼンテーション&デモンストレーション
ケースで取り上げたキーワードを各自復習し、ケースの読み方などを考える (60分)
- 第4回 ケース 1
ケースで取り上げたキーワードを各自復習し、
当該企業の戦略的必要性と有効性などを考える (60分)
- 第5回 ケース 2
ケースで取り上げたキーワードを各自復習し、
当該企業の戦略的必要性と有効性などを考える (60分)
- 第6回 ケース 3
ケースで取り上げたキーワードを各自復習し、
当該企業の戦略的必要性と有効性などを考える (60分)
- 第7回 中間解説およびフィードバック
これまでのケース内容について復習 (120分)
- 第8回 ケース 4
ケースで取り上げたキーワードを各自復習し、
当該企業の戦略的必要性と有効性などを考える (60分)
- 第9回 ケース 5
ケースで取り上げたキーワードを各自復習し、
当該企業の戦略的必要性と有効性などを考える (60分)
- 第10回 ケース 6
ケースで取り上げたキーワードを各自復習し、
当該企業の戦略的必要性と有効性などを考える (60分)
- 第11回 ケース 7
ケースで取り上げたキーワードを各自復習し、
当該企業の戦略的必要性と有効性などを考える (60分)
- 第12回 ケース 8
ケースで取り上げたキーワードを各自復習し、
当該企業の戦略的必要性と有効性などを考える (60分)
- 第13回 ケース 9
ケースで取り上げたキーワードを各自復習し、
当該企業の戦略的必要性と有効性などを考える (60分)
- 第14回 ケース 10
ケースで取り上げたキーワードを各自復習し、
当該企業の戦略的必要性と有効性などを考える (60分)
- 第15回 総括
これまでのケース内容について復習 (120分)

論理、直観、経験の間で正しいバランスを確保できる能力を身につけさせるために、徹底したグループ・ディスカッション、ケース・スタディー、ビジネス現場見学、ゼミ合宿、ゼミ募集・面接、食事会、ゼミOB/OGとの交流会などを行なう。

毎週『日経ビジネス』のグローバル企業のタイムリなケースを取り上げ、発表し、ゼミ生は該当企業の当事者になったつもりで、徹底した議論を行い、論理的に考え、主張することで、近い将来ビジネスパーソンになった時に人々を動かす術を身につけられるよう手助けしたいと思う。

年間授業回数30回、半期15回で上記活動すべてを行う。

場合によっては、ゼミ時間外の活動も十分ありうるので、注意されたい。

【授業の進め方】

『日経ビジネス』のグローバル企業のケースを選び、ゼミ生に発表日から2週間前までに配布し、毎週ケース発表を行う。

1年間約20個のケースを目標に、前期までは、ゼミの先輩やOB・OGなどにケースアドバイザーとしてついてもらい、基礎を学び、後期からは自立できるようになり、来年度からは後輩を指導できるようにしていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

『日本経済新聞』、『日経ビジネス』、『エコノミスト』などからケース資料を抜粋しプリントとして配布する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

平常点評価で、授業への参加度（発表およびコメント内容、積極性）、さまざまなゼミプロジェクトの参加度（リーダーシップ、協力度、実行力など）。

課題70%の内容としては、ケース発表の成果（分析力、プレゼンテーション力）が主な評価対象になる。

残りの受講態度30%はゼミコンパ（主に食事会や飲み会）、ゼミ合宿、OB・OGとの交流会、さまざまなゼミプロジェクトなどへの積極的参加度・貢献度が主な評価対象になる。

【履修上の心得】

現実の企業を取り巻く経営環境に関心と問題意識を持ち、新聞・雑誌などの関係記事に親しむことを期待する。

なによりも大切なことは、ゼミとは自分の意見や考えを素直に表現し、心身を鍛え、さまざまな交流を通して、自分をみつけ、確立しつつ、一生の仲間をつくる場でもあることを忘れないでほしい。

原則的に各ケースについては、事前に目安として、WHYに基づいて約30回読んで予習する（180分）。

【科目のレベル、前提科目など】

国際経営論、多国籍企業論、経営学、経営戦略論、経営組織論、貿易商務論、国際金融論、国際会計論、国際関係論、商業英語、時事英語など

【備考】

さまざまなゼミ活動を通じて、さまざまなタイプの人々を巻き込む能力を身につけてほしい。

そうすると、案外楽しめるゼミかもよ。

科目名	ゼミナール I - 2 (張)
教員名	張 承玖

【授業の内容】

情報通信技術の進歩や金融システムの発達、輸送手段の多様化などに伴い、より多次元的なグローバル化が急速に進んでいくなかで、多くの企業の今後の成長は、以下の 5 W 1 H の課題に対しいかに論理、直観、経験の間で正しいバランスのとれた意思決定ができるかにかかるとされる。

1. どの国のどの業種のどの企業が (Who) 多国籍化するか。
2. 企業はいかなる事業分野を (What) 多国籍化するか。
3. 企業はどこへ (Where) 進出するか。
4. 企業はなぜ (Why) 多国籍化するか。
5. 企業はいつ (When) 多国籍化するか。
6. 多国籍化はどのような形態で (How) 行なわれるか。

そこで、このゼミでは、現実の特定企業を題材にしてその関連する事実や情報を収集、分析して、学生があたかもその企業のビジネス・パーソンとして意思決定できるようなケースを使って、その企業の経営について、問題点を発見し分析を加え、上記のような課題の解決方法を討議する。

【到達目標】

数多くの経営事例を扱い、幾多の経営課題の乗り切り方を学び、さまざまな国際ビジネス問題に関する「考え方や方法論の習得」と「国際ビジネス知見の獲得」を目的とすると同時に、授業の到達目標とする。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ケース1
ケースで取り上げたキーワードを各自復習し、当該企業の戦略的必要性と有効性などを考える (60分)
- 第3回 ケース2
ケースで取り上げたキーワードを各自復習し、当該企業の戦略的必要性と有効性などを考える (60分)
- 第4回 ケース3
ケースで取り上げたキーワードを各自復習し、当該企業の戦略的必要性と有効性などを考える (60分)
- 第5回 ケース4
ケースで取り上げたキーワードを各自復習し、当該企業の戦略的必要性と有効性などを考える (60分)
- 第6回 ケース5
ケースで取り上げたキーワードを各自復習し、当該企業の戦略的必要性と有効性などを考える (60分)
- 第7回 ケース6
ケースで取り上げたキーワードを各自復習し、当該企業の戦略的必要性と有効性などを考える (60分)
- 第8回 中間解説およびフィードバック
これまでのケース内容について復習 (120分)
- 第9回 ケース7
ケースで取り上げたキーワードを各自復習し、当該企業の戦略的必要性と有効性などを考える (60分)
- 第10回 ケース8
ケースで取り上げたキーワードを各自復習し、当該企業の戦略的必要性と有効性などを考える (60分)
- 第11回 ケース9
ケースで取り上げたキーワードを各自復習し、当該企業の戦略的必要性と有効性などを考える (60分)
- 第12回 ケース10
ケースで取り上げたキーワードを各自復習し、当該企業の戦略的必要性と有効性などを考える (60分)
- 第13回 ケース11
ケースで取り上げたキーワードを各自復習し、当該企業の戦略的必要性と有効性などを考える (60分)
- 第14回 ケース12
ケースで取り上げたキーワードを各自復習し、

当該企業の戦略的必要性と有効性を考える（60分）

第15回 総括

これまでのケース内容について復習（120分）

論理、直観、経験の間で正しいバランスを確保できる能力を身につけさせるために、徹底したグループ・ディスカッション、ケース・スタディー、ビジネス現場見学、ゼミ合宿、ゼミ募集・面接、食事会、追い出しコンパ、ゼミOB/OGとの交流会などを行なう。

毎週『日経ビジネス』のグローバル企業のタイムリなケースを取り上げ、発表し、ゼミ生は当該企業の当事者になったつもりで、徹底した議論を行い、論理的に考え、主張することで、近い将来ビジネスパーソンになった時に人々を動かす術を身につけられるよう手助けしたいと思う。

年間授業回数30回、半期15回で上記活動すべてを行う。

場合によっては、ゼミ時間外の活動も十分ありうるので、注意されたい。

【授業の進め方】

『日経ビジネス』のグローバル企業のケースを選び、ゼミ生に発表日から3週間前までに配布し、毎週ケース発表を行う。

1年間約20個のケースを目標に、前期までは、ゼミの先輩やOB・OGなどにケースアドバイザーとしてついてもらい、基礎を学び、後期からは自立できるようになり、来年度からは後輩を指導できるようにしていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

『日本経済新聞』、『日経ビジネス』、『エコノミスト』などからケース資料を抜粋しプリントとして配布する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

平常点評価で、授業への参加度（発表およびコメント内容、積極性）、さまざまなゼミプロジェクトの参加度（リーダーシップ、協力度、実行力など）。

課題70%の内容としては、ケース発表の成果（分析力、プレゼンテーション力）が主な評価対象になる。

残りの受講態度30%はゼミコンパ（主に食事会や飲み会）、OB・OGとの交流会、追いコン、さまざまなゼミプロジェクト（後期はゼミ面接プロジェクトがメイン）などへの積極的参加度・貢献度が主な評価対象になる。

【履修上の心得】

現実の企業を取り巻く経営環境に関心と問題意識を持ち、新聞・雑誌などの関係記事に親しむことを期待する。

なによりも大切なことは、ゼミとは自分の意見や考えを素直に表現し、心身を鍛え、さまざまな交流を通して、自分を見つけ、確立しつつ、一生の仲間をつくる場でもあることを忘れないでほしい。

原則的に各ケースについては、事前に目安として、WHYに基づいて約30回読んで予習する（180分）。

【科目のレベル、前提科目など】

国際経営論、多国籍企業論、経営学、経営戦略論、経営組織論、貿易商務論、国際金融論、国際会計論、国際関係論、商業英語、時事英語など

【備 考】

さまざまなゼミ活動を通じて、さまざまなタイプの人々を巻き込む能力を身につけてほしい。

そうすると、案外楽しめるゼミかもよ。

科目名	ゼミナール I-1 (飛田)
	現代企業の戦略と組織に関する研究
教員名	飛田 幸宏

【授業の内容】

本ゼミナールは「現代企業の戦略と組織に関する研究」というテーマで、さまざまな文献・事例を用いて、現代の企業経営に多面的にアプローチする。ゼミで扱う主な研究テーマは以下のとおりである。

- ・企業戦略と組織形態との関連
- ・個人と組織の関係（従業員と企業の関係）
- ・日本企業における雇用形態や人事制度
- ・リーダーシップと従業員のモチベーション など

ゼミ論文作成、企業訪問、工場・商業施設の見学等を通じて企業の現状を調査・研究し、現代の企業活動から生じるさまざまな問題について検討・考察していく。

【到達目標】

- ・ゼミ論文（グループ論文）を作成し、他大学との討論大会で報告・討論する。
- ・経営学を理解するための基礎力を習得する。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 報告とディスカッション①：報告レジュメの作成と論点整理（90分）
- 第3回 報告とディスカッション②：報告レジュメの作成と論点整理（90分）
- 第4回 報告とディスカッション③：報告レジュメの作成と論点整理（90分）
- 第5回 報告とディスカッション④：報告レジュメの作成と論点整理（90分）
- 第6回 報告とディスカッション⑤：報告レジュメの作成と論点整理（90分）
- 第7回 報告とディスカッション⑥：報告レジュメの作成と論点整理（90分）
- 第8回 報告とディスカッション⑦：報告レジュメの作成と論点整理（90分）
- 第9回 報告とディスカッション⑧：報告レジュメの作成と論点整理（90分）
- 第10回 報告とディスカッション⑨：報告レジュメの作成と論点整理（90分）
- 第11回 報告とディスカッション⑩：報告レジュメの作成と論点整理（90分）
- 第12回 報告とディスカッション⑪：報告レジュメの作成と論点整理（90分）
- 第13回 報告とディスカッション⑫：報告レジュメの作成と論点整理（90分）
- 第14回 報告とディスカッション⑬：報告レジュメの作成と論点整理（90分）
- 第15回 総括：講義内容全体の復習（60分）

授業計画の詳細は、第1回目のガイダンスで提示する（ゼミナール履修者は確定しているため）

1. ゼミ論文の作成・発表

：11月の他大学との討論大会に参加し発表する。班ごとに研究テーマを設定し、前期から夏休みにかけて論文を作成する。

2. 経営学に関する文献（雑誌・本など）の輪読

：経営学を理解するための基礎力を養成するために、経営学に関する文献について輪読する。

【授業の進め方】

文献輪読にあたり、事前に担当箇所を分担する。毎回ゼミ生が順番にそれぞれの担当箇所のレジュメを作成し、それに基づいて報告を行ってもらう。その後、報告および内容に関して質疑応答および解説を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

ゼミ生と相談のうえ決める予定。特定の文献を購入してもらう場合もある。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

ゼミでの報告レジュメの作成と報告、討論での発言、ゼミ論文への取り組み・内容、ゼミへの貢献度などから総合的に評価する。

【履修上の心得】

ゼミ生に対して以下のことを希望する。①講義および諸行事（ゼミ合宿等）に進んで参加すること、②他のゼミ生と積極的に交流し協調性を大切にすること、③ゼミに貢献する意欲を持って何事にも取り組むこと。また、ゼミ生は、経

済や企業の動向に関心を持ち、日頃から新聞や雑誌などの企業経営に関する記事に興味・関心をもつことが必要である。

【科目のレベル、前提科目など】

経営学関連の専門科目はほとんど関連する。

科目名	ゼミナール I-2 (飛田)
	現代企業の戦略と組織に関する研究
教員名	飛田 幸宏

【授業の内容】

本ゼミナールは「現代企業の戦略と組織に関する研究」というテーマで、さまざまな文献・事例を用いて、現代の企業経営に多面的にアプローチする。ゼミで扱う主な研究テーマは以下のとおりである。

- ・企業戦略と組織形態との関連
- ・個人と組織の関係（従業員と企業の関係）
- ・日本企業における雇用形態や人事制度
- ・リーダーシップと従業員のモチベーション など

ゼミ論文作成、企業訪問、工場・商業施設の見学等を通じて企業の現状を調査・研究し、現代の企業活動から生じるさまざまな問題について検討・考察していく。

【到達目標】

- ・ゼミ論文を作成し、他大学との討論大会で報告・討論する。
- ・経営学を理解するための基礎力を習得する。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 報告とディスカッション①：報告レジュメの作成と論点整理 (90分)
- 第3回 報告とディスカッション②：報告レジュメの作成と論点整理 (90分)
- 第4回 報告とディスカッション③：報告レジュメの作成と論点整理 (90分)
- 第5回 報告とディスカッション④：報告レジュメの作成と論点整理 (90分)
- 第6回 報告とディスカッション⑤：報告レジュメの作成と論点整理 (90分)
- 第7回 報告とディスカッション⑥：報告レジュメの作成と論点整理 (90分)
- 第8回 報告とディスカッション⑦：報告レジュメの作成と論点整理 (90分)
- 第9回 報告とディスカッション⑧：報告レジュメの作成と論点整理 (90分)
- 第10回 報告とディスカッション⑨：報告レジュメの作成と論点整理 (90分)
- 第11回 報告とディスカッション⑩：報告レジュメの作成と論点整理 (90分)
- 第12回 報告とディスカッション⑪：報告レジュメの作成と論点整理 (90分)
- 第13回 報告とディスカッション⑫：報告レジュメの作成と論点整理 (90分)
- 第14回 報告とディスカッション⑬：報告レジュメの作成と論点整理 (90分)
- 第15回 総括：講義内容全体の復習 (60分)

授業計画の詳細は、第1回目のガイダンスで提示する（ゼミナール履修者は確定しているため）

1. ゼミ論文の作成・発表

：11月の他大学との討論大会に参加し発表する。班ごとに研究テーマを設定し、前期から夏休みにかけて論文を作成する。

2. 経営学に関する文献（雑誌・本など）の輪読

：経営学を理解するための基礎力を養成するために、経営学に関する文献について輪読する。

【授業の進め方】

文献輪読にあたり、事前に担当箇所を分担する。毎回ゼミ生が順番にそれぞれの担当箇所のレジュメを作成し、それに基づいて報告を行ってもらう。その後、報告および内容に関して質疑応答および解説を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

ゼミ生と相談のうえ決める予定。特定の文献を購入してもらう場合もある。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

ゼミでの報告レジュメの作成と報告、討論での発言、ゼミ論文への取り組み・内容、ゼミへの貢献度などから総合的に評価する。

【履修上の心得】

ゼミ生に対して以下のことを希望する。①講義および諸行事（ゼミ合宿等）に進んで参加すること、②他のゼミ生と積極的に交流し協調性を大切にすること、③ゼミに貢献する意欲を持って何事にも取り組むこと。また、ゼミ生は、経

済や企業の動向に関心を持ち、日頃から新聞や雑誌などの企業経営に関する記事に興味・関心をもつことが必要である。

【科目のレベル、前提科目など】

経営学関連の専門科目はほとんど関連する。

【備 考】

ゼミナール I - 1 (飛田) の単位を取得した者が履修できる。

科目名	ゼミナール I - 1 (樋口)
	企業財務研究ゼミナール
教員名	樋口 和彦

【授業の内容】

企業における財務行動、財務意思決定の問題を研究する。

- (1) 企業財務の役割
- (2) 資本コストの役割
- (3) 財務分析と意義と手法
- (4) 設備投資の重要性
- (5) 最適在庫水準決定

【到達目標】

関連文献を熟読し適切なレジュメが作成できるようになること。

企業財務意思決定に関する
基本理論が理解できるようになること。

【授業計画】

- 第1回 企業財務の役割、株式会社の構造と資本市場の役割
予習 (50分)：指定文献の該当箇所のレジュメを全員が作成して、ゼミナールでの研究報告に臨みましょう。
- 第2回 資本調達源泉と資本コスト
予習・復習 (120分)：指定文献の該当箇所のレジュメを全員が作成して、ゼミナールでの研究報告に臨みましょう。
前回の報告に関して、指摘された内容を再検討してまとめなおしましょう。
- 第3回 資本調達源泉と資本コスト、最適資本構成
予習・復習 (120分)：指定文献の該当箇所のレジュメを全員が作成して、ゼミナールでの研究報告に臨みましょう。
前回の報告に関して、指摘された内容を再検討してまとめなおしましょう。
- 第4回 最適資本構成に関する理論 (伝統論)
予習・復習 (120分)：指定文献の該当箇所のレジュメを全員が作成して、ゼミナールでの研究報告に臨みましょう。
前回の報告に関して、指摘された内容を再検討してまとめなおしましょう。
- 第5回 最適資本構成に関する理論 (MM論の概要) I
予習・復習 (120分)：指定文献の該当箇所のレジュメを全員が作成して、ゼミナールでの研究報告に臨みましょう。
前回の報告に関して、指摘された内容を再検討してまとめなおしましょう。
- 第6回 最適資本構成に関する理論 (MM論の概要) II
予習・復習 (120分)：指定文献の該当箇所のレジュメを全員が作成して、ゼミナールでの研究報告に臨みましょう。
前回の報告に関して、指摘された内容を再検討してまとめなおしましょう。
- 第7回 財務分析と意義と手法
予習・復習 (120分)：指定文献の該当箇所のレジュメを全員が作成して、ゼミナールでの研究報告に臨みましょう。
前回の報告に関して、指摘された内容を再検討してまとめなおしましょう。
- 第8回 財務分析手法
予習・復習 (120分)：指定文献の該当箇所のレジュメを全員が作成して、ゼミナールでの研究報告に臨みましょう。
前回の報告に関して、指摘された内容を再検討してまとめなおしましょう。
- 第9回 財務レバレッジと企業業績
予習・復習 (120分)：指定文献の該当箇所のレジュメを全員が作成して、ゼミナールでの研究報告に臨みましょう。
前回の報告に関して、指摘された内容を再検討してまとめなおしましょう。
- 第10回 設備投資の重要性とプロジェクト評価法、キャッシュ・フローの役割
予習・復習 (120分)：指定文献の該当箇所のレジュメを全員が作成して、ゼミナールでの研究報告に臨みましょう。
前回の報告に関して、指摘された内容を再検討してまとめなおしましょう。
- 第11回 プロジェクト評価法
予習・復習 (120分)：指定文献の該当箇所のレジュメを全員が作成して、ゼミナールでの研究報告に臨ま

しょう。

前回の報告に関して、指摘された内容を再検討してまとめなおしましょう。

第12回 在庫投資の必要性、在庫関連費用、EOQモデル

予習・復習（120分）：指定文献の該当箇所のレジюмеを全員が作成して、ゼミナールでの研究報告に臨みましょう。

前回の報告に関して、指摘された内容を再検討してまとめなおしましょう。

第13回 最適在庫水準決定モデル

予習・復習（120分）：指定文献の該当箇所のレジюмеを全員が作成して、ゼミナールでの研究報告に臨みましょう。

前回の報告に関して、指摘された内容を再検討してまとめなおしましょう。

第14回 まとめ1（主に資本運用に関して）

復習（120分）：今までの報告に関して、指摘された内容を再検討してまとめなおしましょう。

第15回 まとめ2（主に資本調達に関して）

復習（120分）：今までの報告に関して、指摘された内容を再検討してまとめなおしましょう。

【授業の進め方】

企業財務に関する基本的文献を輪読していく。このときその内容に関して要点をまとめたものを準備し、その内容を中心にして皆で議論していく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

後に指示する

【参考図書】

後に指示する

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

報告者はレジюме（報告内容要旨）を事前準備し、それに基づいて報告し、全員で討議し研究を進めていく。

上記「評価比率」であるが便宜上合計すると100%になるように記載してあるが、これは各評価項目がその比率に達すれば単位を認定するという意味ではなく、全ての項目に合格しなければ単位を認定することはできないので注意すること。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

議論に積極的に参加することが大切である。

ゼミナールはI-1、I-2、II-1、II-2全て履修をすることが前提である。

【履修上の心得】

- ①責任をもって研究に積極的に取り組むこと
- ②議論に必ず参加し、自分の考えを積極的に出すこと
- ③財務管理論、決定の科学I、IIを履修すること

本ゼミナールでは、コミュニケーションの主たる手段として、Eメールを用いるので、その利用技術を身につけ、出来れば通信に必要な機器を持つことが望ましい。

【科目のレベル、前提科目など】

関連科目：特に関連が深い科目として、統計学、数理統計学、財務管理論、資本市場論、決定の科学、計量経済学等があげられる。

またコンピュータの活用が必須となる。

経営情報コースで学ぶ内容と一番関連が深いゼミナールである。

本学で学んだことを総括し大学での学習活動をより一層意義あるものにするために、大きな・重要な役割をする科目である。

【備 考】

ゼミナールはI-1、I-2、II-1、II-2全て履修をすることが前提である。

科目名	ゼミナールI-2 (樋口)
	企業財務研究ゼミナール
教員名	樋口 和彦

【授業の内容】

企業における財務行動、財務意思決定の問題を研究する。

- (1) 企業評価モデル
- (2) 調達源泉別の資本コスト推定
- (3) 自己資本比率と業績
- (4) 資本構成の意思決定問題
- (5) 実証的な考察の方法論

【到達目標】

- (1) 企業における財務意思決定の問題が理解できるようになること。
- (2) 卒論として取り上げるテーマを発見し問題意識がもてるようになること。
- (3) 実証分析をするための基本理論と実証方法が理解できるようになること。

【授業計画】

- 第1回 企業評価モデルI
予習 (120分)：指定文献の該当箇所のレジュメを全員が作成して、ゼミナールでの研究報告に臨みましょう。
- 第2回 企業評価モデルII
予習・復習 (120分)：指定文献の該当箇所のレジュメを全員が作成して、ゼミナールでの研究報告に臨みましょう。
前回の報告に関して、指摘された内容を再検討してまとめなおしましょう。
- 第3回 企業評価モデルIII
予習・復習 (120分)：指定文献の該当箇所のレジュメを全員が作成して、ゼミナールでの研究報告に臨みましょう。
前回の報告に関して、指摘された内容を再検討してまとめなおしましょう。
- 第4回 企業評価モデルIV
予習・復習 (120分)：指定文献の該当箇所のレジュメを全員が作成して、ゼミナールでの研究報告に臨みましょう。
前回の報告に関して、指摘された内容を再検討してまとめなおしましょう。
- 第5回 調達源泉別の資本コスト推定、加重平均-加重限界資本コスト
予習・復習 (120分)：指定文献の該当箇所のレジュメを全員が作成して、ゼミナールでの研究報告に臨みましょう。
前回の報告に関して、指摘された内容を再検討してまとめなおしましょう。
- 第6回 調達源泉別の資本コスト推定
予習・復習 (120分)：指定文献の該当箇所のレジュメを全員が作成して、ゼミナールでの研究報告に臨みましょう。
前回の報告に関して、指摘された内容を再検討してまとめなおしましょう。
- 第7回 資本構成と財務弾力性分析
予習・復習 (120分)：指定文献の該当箇所のレジュメを全員が作成して、ゼミナールでの研究報告に臨みましょう。
前回の報告に関して、指摘された内容を再検討してまとめなおしましょう。
- 第8回 自己資本比率と業績・経済構造との関連性分析
予習・復習 (120分)：指定文献の該当箇所のレジュメを全員が作成して、ゼミナールでの研究報告に臨みましょう。
前回の報告に関して、指摘された内容を再検討してまとめなおしましょう。
- 第9回 自己資本比率と業績・経済構造との因果性分析
予習・復習 (120分)：指定文献の該当箇所のレジュメを全員が作成して、ゼミナールでの研究報告に臨みましょう。
前回の報告に関して、指摘された内容を再検討してまとめなおしましょう。
- 第10回 M-M理論の検討
予習・復習 (120分)：指定文献の該当箇所のレジュメを全員が作成して、ゼミナールでの研究報告に臨みましょう。
前回の報告に関して、指摘された内容を再検討してまとめなおしましょう。
- 第11回 実証的な考察の方法論I
予習・復習 (120分)：指定文献の該当箇所のレジュメを全員が作成して、ゼミナールでの研究報告に臨みましょう。

- 前回の報告に関して、指摘された内容を再検討してまとめなおしましょう。
- 第12回 実証的な考察の方法論Ⅱ
 予習・復習（120分）：指定文献の該当箇所のレジュメを全員が作成して、ゼミナールでの研究報告に臨みましょう。
 前回の報告に関して、指摘された内容を再検討してまとめなおしましょう。
- 第13回 実証的な考察の方法論Ⅲ
 予習・復習（120分）：指定文献の該当箇所のレジュメを全員が作成して、ゼミナールでの研究報告に臨みましょう。
 前回の報告に関して、指摘された内容を再検討してまとめなおしましょう。
- 第14回 まとめ1（主に企業評価モデルに関して）
 復習（120分）：今までの報告に関して、指摘された内容を再検討してまとめなおしましょう。
- 第15回 まとめ2（主に実証的考察に関して）
 復習（120分）：今までの報告に関して、指摘された内容を再検討してまとめなおしましょう。

ゼミナールはⅠ-1、Ⅰ-2、Ⅱ-1、Ⅱ-2全て履修をすることが前提である。

皆さんの先輩たちが以下のテーマの卒論を提出している。図書館にあるので読んで参考にしてほしい。

- * 第1期生
 - CAPM、OPMに基づくワラント債の評価
 - M&A行動の日米比較OPMの理論とその適用
 - M&Aと財務意思決定
- * 第2期生
 - 多変量解析と財務分析CAPM理論構造と実証分析
- * 第3期生
 - 資本市場における企業評価
- * 第4期生
 - 日本企業とアメリカ企業の財務比較（ベータ値）
 - ポートフォリオ理論と伝統的手法における企業評価
 - リスク概念と産業別β値の推計
 - 株式投資におけるモデル分析－CAPMとOPM－
 - 株価指標と日本の株価について
 - 期待値とリスクの効用
 - 株式市場と政治・経済の相関関係－考察と実証研究－
- * 第5期生
 - 伝統的見解における資本調達の意味決定
 - ポートフォリオ理論と損害保険会社
 - トービンのqと投資理論（景気との関係）
 - 資本コストと資本構成
- * 2007年度卒業予定ゼミ生
 - 「最適在庫意思決定に関わる諸問題」

【授業の進め方】

基本文献あるいは現実の問題から各ゼミ員が興味をもったテーマに関してさらにより深く考察していく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

後に指示する

【参考図書】

後に指示する

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

報告者はレジュメ（報告内容要旨）を事前準備し、それに基づいて報告し、全員で討議し研究を進めていく。

上記「評価比率」であるが便宜上合計すると100%になるように記載してあるが、これは各評価項目がその比率に達すれば単位を認定するという意味ではなく、全ての項目に合格しなければ単位を認定することはできないので注意すること。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

ゼミナールはⅠ-1、Ⅰ-2、Ⅱ-1、Ⅱ-2全て履修をすることが前提である。

積極的に議論に参加することが大切である。

【履修上の心得】

- ①責任をもって研究に積極的に取り組むこと
- ②議論に必ず参加し、自分の考えを積極的に出すこと
- ③財務管理論、決定の科学 I、II を履修すること

本ゼミナールでは、コミュニケーションの主たる手段として、Eメールを用いるので、その利用技術を身につけ、出来れば通信に必要な機器を持つことが望ましい。

【科目のレベル、前提科目など】

関連科目：特に関連が深い科目として、統計学、数理統計学、財務管理論、資本市場論、決定の科学、計量経済学等があげられる。

またコンピュータの活用が必須となる。

経営情報コースで学ぶ内容と一番関連が深いゼミナールである。

本学で学んだことを総括し大学での学習活動をより一層意義あるものにするために、大きな・重要な役割をする科目である。

【備 考】

積極的に議論に参加することが大切である。

科目名	ゼミナール I - 1 (藤井健)
	国際経営
教員名	藤井 健

【授業の内容】

企業のグローバル化に関する諸側面を、事例をもとにして実証的に研究する。ゼミナール I - 1 は、分析のフレームワークを確立するために、関連文献を発表形式で輪読し、ゼミ生全員のディスカッションを通じて理解を深めていく。また、発表以外に焦眉の問題をディベート形式で討論することで、人前で自分の意見を論理的に説明するプレゼンテーション能力の向上を目指す。I - 2 から、特定企業・業界のケースを共同で研究する作業を加える。これによって、文献研究のほかにフィールド・リサーチの手法を学習し、ゼミ II の論文作成の基礎とする。

【到達目標】

分析能力の獲得
 レポートの作成能力の獲得
 プレゼン能力の獲得
 グループディスカッション能力の獲得

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 時事問題ディスカッション (1)
- 第3回 時事問題グループプレゼン (1)
- 第4回 文献輪読&ディスカッション (1)
- 第5回 時事問題ディスカッション (2)
- 第6回 時事問題グループプレゼン (2)
- 第7回 文献輪読&ディスカッション (2)
- 第8回 企業研究 (1)
- 第9回 企業研究 (2)
- 第10回 企業見学
- 第11回 文献輪読&ディスカッション (3)
- 第12回 文献輪読&ディスカッション (4)
- 第13回 文献輪読&ディスカッション (5)
- 第14回 時事問題ディベート (1)
- 第15回 時事問題ディベート (2)

【授業の進め方】

個人、またはグループで準備してきた資料をもとに輪読、発表、ディスカッションを行う

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①経営学入門 (上) ③日経新聞社文庫 ⑤903円
- ①理論とケースで学ぶ国際経営 ③同文館 ⑤3,150円
- ①異文化コミュニケーション入門 ③筑摩書房 ⑤882円

『経営学入門』(上)：(ボックス中島にて購入)

『理論とケースで学ぶ国際経営』：(後期にボックス中島にて購入)

『異文化コミュニケーション入門』：(前期終了時にボックス中島にて購入)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

課題提出

期末レポート

【「成績評価の方法」に関する注意点】

毎回ゼミナールに参加し、受講生同士で積極的にディスカッションすることを前提として成績評価する

【履修上の心得】

人前で自分の意見を言えるようにすること。
 自分と異なる意見、考えかとも尊重できること。
 些細な疑問も逃さないこと。

【科目のレベル、前提科目など】

国際経営論 多国籍企業論 マネジメントコミュニケーション 観光英語 アニメプロデュース論

科目名	ゼミナール I - 2 (藤井健)
	国際経営
教員名	藤井 健

【授業の内容】

企業のグローバル化に関する諸側面を、事例をもとにして実証的に研究する。ゼミナール I - 1 は、分析のフレームワークを確立するために、関連文献を発表形式で輪読し、ゼミ生全員のディスカッションを通じて理解を深めていく。また、発表以外に焦眉の問題をディベート形式で討論することで、人前で自分の意見を論理的に説明するプレゼンテーション能力の向上を目指す。I - 2 から、特定企業・業界のケースを共同で研究する作業を加える。これによって、文献研究のほかにフィールド・リサーチの手法を学習し、ゼミ II の論文作成の基礎とする。

【到達目標】

分析能力の獲得
 レポートの作成能力の獲得
 プレゼン能力の獲得
 グループディスカッション能力の獲得

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 時事問題ディスカッション (1)
- 第3回 時事問題グループプレゼン (1)
- 第4回 文献輪読&ディスカッション (1)
- 第5回 時事問題ディスカッション (2)
- 第6回 時事問題グループプレゼン (2)
- 第7回 文献輪読&ディスカッション (2)
- 第8回 企業研究 (1)
- 第9回 企業研究 (2)
- 第10回 企業見学
- 第11回 文献輪読&ディスカッション (3)
- 第12回 文献輪読&ディスカッション (4)
- 第13回 文献輪読&ディスカッション (5)
- 第14回 時事問題ディベート (1)
- 第15回 時事問題ディベート (2)

ゼミ I - 1 での学習に加え、ゼミ I - 2 では、学生企業発表会に向けた準備を始める

【授業の進め方】

個人、またはグループで準備してきた資料をもとに輪読、発表、ディスカッションを行う

【教科書(必ず購入すべきもの)】

ゼミ I - 1 と同じ

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

課題提出

ゼミへの貢献度

期末レポート

【「成績評価の方法」に関する注意点】

毎回ゼミナールに参加し、受講生同士で積極的にディスカッションすることを前提として成績評価する

【履修上の心得】

人前で自分の意見を言えるようにすること。
 自分と異なる意見、考えかとも尊重できること。
 些細な疑問も逃さないこと。

【科目のレベル、前提科目など】

国際経営論 多国籍企業論 マネジメントコミュニケーション 観光英語 アニメプロデュース論

科目名	ゼミナール I - 1 (藤浪)
教員名	藤浪 英也

【授業の内容】

- 体系的にコンピュータ会計の知識を身につけることを目的とする。
具体例として補助簿の作成から決算書の作成をとおして会計システムを分析し、これをエクセルを用いて自動計算できるソフトを作成する。
その後パワーポイントを用いて、このソフトのプレゼンテーションをグループに分けて行い、チームで行動することを学ぶ。
- この講義におけるアクティブラーニング
この講座は課題解決型のアクティブラーニングである。与えられた課題をグループ全員で考え、パワーポイントにて発表する。
このため、遅刻欠席は認められない。また、ゼミ講義時間以外においてもグループで活動する機会が多くなる。

【到達目標】

会計帳簿の理解およびエクセル、ワード、パワーポイントを用いて文書作成ができることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
予習時間は不要
復讐時間も今回は不要であるが、チームビルディングのために、キックオフミーティングを行うので1時間。
- 第2回 エクセル演習 (1)
予習時間は不要
復讐時間は、グループ活動を行うために1時間。
- 第3回 エクセル演習 (2)
予習時間は不要
復讐時間は、グループ活動を行うために1時間。
- 第4回 補助簿 (1)
予習時間は不要
復讐時間は、グループ活動を行うために1時間。
- 第5回 補助簿 (2)
予習時間は不要
復讐時間は、グループ活動を行うために1時間。
- 第6回 エクセルによる補助簿作成 (1)
予習時間は不要
復讐時間は、グループ活動を行うために1時間。
- 第7回 エクセルによる補助簿作成 (2)
予習時間は不要
復讐時間は、グループ活動を行うために1時間。
- 第8回 エクセルによる補助簿作成 (3)
予習時間は不要
復讐時間は、グループ活動を行うために1時間。
- 第9回 エクセルによる試算表作成 (1)
予習時間は不要
復讐時間は、グループ活動を行うために1時間。
- 第10回 エクセルによる試算表作成 (2)
予習時間は不要
復讐時間は、グループ活動を行うために1時間。
- 第11回 エクセルによる精算表作成 (1)
予習時間は不要
復讐時間は、グループ活動を行うために1時間。
- 第12回 エクセルによる精算表作成 (2)
予習時間は不要
復讐時間は、グループ活動を行うために1時間。
- 第13回 エクセルによる精算表作成 (3)
予習時間は不要
復讐時間は、グループ活動を行うために1時間。
- 第14回 コンピュータ会計 (1)
予習時間は不要
復讐時間は、グループ活動を行うために1時間。

第15回 コンピュータ会計 (2)

予習時間は不要

復讐時間は、グループ活動を行うために1時間。

ゼミ I では税務、会計、及びコンピューターの基礎知識を習得するために表計算ソフトの E X C E L を用い現金出納帳、小口現金出納帳、当座預金出納帳及び商品有高帳を作成し、これらの知識を得た上で、仕訳を入力するだけで自動的に試算表や精算表が作成されるスキルを学ぶことによりコンピューター会計の基本原則を身につける。

【授業の進め方】

毎回パソコンを使用しエクセル等のアプリケーションソフトを使用しグループでの演習を行うので、ゼミは欠席しないこと。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

別途指示する

【参考図書】

別途指示する

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

特記事項

单元ごとの課題成績を基礎としグループワーク参加貢献度を加味して決定する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

特になし

【履修上の心得】

このゼミは会計学の基礎知識が絶対的に必要な科目である。ゼミを受けるのに会计学、簿記論その他の会計関連科目の履修または簿記検定試験3級合格以上の実力があることを前提とされるので、簿記検定試験の受験対策も行う。

【科目のレベル、前提科目など】

前提関連科目：会计学、簿記論

科目名	ゼミナール I - 2 (藤浪)
教員名	藤浪 英也

【授業の内容】

1. このゼミは給与計算及び年末調整ソフトの作成発表を通して労働法、社会保険、及び所得税の知識を身につけることを目標とする。
2. この講義におけるアクティブラーニング
この講座は課題解決型のアクティブラーニングである。与えられた課題をグループ全員で考え、パワーポイントにて発表する。
このため、遅刻欠席は認められない。また、ゼミ講義時間以外においてもグループで活動する機会が多くなる。

【到達目標】

下記の知識の完全なる習得

1. エクセルの基本となる関数の理解
2. パワーポイントによるプレゼンテーション能力
3. コンピューター会計の理解
4. 労働法の知識
5. 社会保険に関する知識
6. 給与所得者に関する所得税法の知識

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
予習時間は不要
復讐時間も不要、ただしグループ活動を行うためにキックオフミーティングを行うので1時間。
- 第2回 労働法入門 (1)
予習時間は不要
復讐時間は、グループ活動を行うために1時間。
- 第3回 労働法入門 (2)
予習時間は不要
復讐時間は、グループ活動を行うために1時間。
- 第4回 労働法入門 (3)
予習時間は不要
復讐時間は、グループ活動を行うために1時間。
- 第5回 所得税法入門および給与所得の金額の計算
予習時間は不要
復讐時間は、グループ活動を行うために1時間。
- 第6回 所得控除の計算 (2)
予習時間は不要
復讐時間は、グループ活動を行うために1時間。
- 第7回 給与所得にかかる税額計算 (3)
予習時間は不要
復讐時間は、グループ活動を行うために1時間。
- 第8回 給与計算実務 (1) 労働法と時間外手当
予習時間は不要
復讐時間は、グループ活動を行うために1時間。
- 第9回 給与計算実務 (2) 社会保険
予習時間は不要
復讐時間は、グループ活動を行うために1時間。
- 第10回 源泉徴収方法
予習時間は不要
復讐時間は、グループ活動を行うために1時間。
- 第11回 年末調整実務 (1)
扶養控除、配偶者特別控除の計算
予習時間は不要
復讐時間は、グループ活動を行うために1時間。
- 第12回 年末調整実務 (2)
所得控除額の計算
予習時間は不要
復讐時間は、グループ活動を行うために1時間。
- 第13回 年末調整実務 (3)

- 年税額の計算その1
予習時間は不要
復讐時間は、グループ活動を行うために1時間。
- 第14回 年末調整実務(4)
年税額の計算その2 住宅取得等の税額控除
予習時間は不要
復讐時間は、グループ活動を行うために1時間。
- 第15回 年末調整実務(5)
源泉徴収票と給与支払報告書
予習時間は不要
復讐時間は、グループ活動を行うために1時間。

給与計算ソフトを作成することに伴い、給与計算実務および所得税の知識習得を目的とする。また、これに伴い労働関係諸法についての研究およびグループワークを行う。

【授業の進め方】

毎回パソコンを使用しエクセル等のアプリケーションソフトを使用しグループ活動を行うので、ゼミは欠席しないこと。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

別途指示する

【参考図書】

指定図書 別途指示する

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

特記事項

单元ごとの課題成績を基礎としグループワーク貢献度を加味して決定します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

特になし

【履修上の心得】

このゼミは会計学の基礎知識が絶対的に必要な科目である。ゼミを受けるのに会計学、簿記論その他の会計関連科目の履修または簿記検定試験3級合格以上の実力があることを前提とされるので、簿記検定試験の受験対策を行い、全員3級合格させるようサブゼミで指導する。

【科目のレベル、前提科目など】

前提関連科目：会計学、簿記論、税務会計論Ⅱ

科目名	ゼミナール I -1 (船田)
教員名	船田 眞里子

【授業の内容】

本ゼミナールは、ヒトの生体情報を用いて経済活動の効果や適切性、学習の反復の効果等を客観的に評価・分析することを研究テーマにしています。ゼミナール I -1からゼミナール II -2までは連続科目です。ゼミナール I -1では、ゼミナール II -1、II -2で行う卒業研究のための基礎知識・ものの考え方の獲得を目指しています。本年度は人工知能 (AI) の基礎を学び、ExcelのVBAを用いたデータ処理、C言語によるプログラムとデータ解析法を学びます。

【到達目標】

- (1) 報告の目的に合った適切な資料を作成できる。
- (2) 効果的な報告ができる。
- (3) マナーに配慮した議論ができる。
- (4) 自分の考えを他者に判るように説明できる。
- (5) 卒業研究に必要な人工知能に関する基礎知識を獲得する。

【授業計画】

- 第1回 ゼミナール I -1の進め方、人工知能とは
復習：授業内容のまとめ (ノート作り) (30分)
予習：次回担当のプリントの作成とパワーポイントの作成 (30分)
- 第2回 ルールベースと知識ベースについて
復習：授業内容のまとめ (ノート作り) (30分)
予習：次回担当のプリント作成とパワーポイントの作成 (30分)
- 第3回 エキスパートシステムとレコメンドエンジン
復習：授業内容のまとめ (ノート作り) (30分)
予習：次回担当のプリント作成とパワーポイントの作成 (30分)
- 第4回 人工生命シミュレーションと有限オートマトン
復習：授業内容のまとめ (ノート作り) (30分)
予習：次回担当のプリント作成とパワーポイントの作成 (30分)
- 第5回 マルコフモデル
復習：授業内容のまとめ (ノート作り) (30分)
予習：次回担当のプリント作成とパワーポイントの作成 (30分)
- 第6回 ステート駆動エージェント
復習：授業内容のまとめ (ノート作り) (30分)
予習：次回担当のプリント作成とパワーポイントの作成 (30分)
- 第7回 重み付けと最適解探索 (線形問題と非線形問題)
復習：授業内容のまとめ (ノート作り) (30分)
予習：次回担当のプリント作成とパワーポイントの作成 (30分)
- 第8回 重み付けと最適解探索 (重みを付けた回帰分析)
復習：授業内容のまとめ (ノート作り) (30分)
予習：次回担当のプリント作成とパワーポイントの作成 (30分)
- 第9回 グラフ理論、グラフ探索と最適化
復習：授業内容のまとめ (ノート作り) (30分)
予習：次回担当のプリント作成とパワーポイントの作成 (30分)
- 第10回 遺伝的アルゴリズム
復習：授業内容のまとめ (ノート作り) (30分)
予習：次回担当のプリント作成とパワーポイントの作成 (30分)
- 第11回 ニューラルネットワーク
復習：授業内容のまとめ (ノート作り) (30分)
予習：次回担当のプリント作成とパワーポイントの作成 (30分)
- 第12回 ベイズ統計学とベイズ推定
復習：授業内容のまとめ (ノート作り) (15分)
予習：次回担当のプリント作成とパワーポイントの作成 (30分)
- 第13回 MCMC (マルコフ連鎖モンテカルロ) 法
復習：授業内容のまとめ (ノート作り) (30分)
予習：次回担当のプリント作成とパワーポイントの作成 (30分)
- 第14回 HMM (隠れマルコフモデル) とベイジアンネットワーク
復習：授業内容のまとめ (ノート作り) (30分)
予習：次回担当のプリント作成とパワーポイントの作成 (30分)
- 第15回 授業のまとめと試験対策問題

復習：善授業内容のまとめ（60分）

【授業の進め方】

次の順序でゼミを進めます。

- (1) 教科書内容について担当者を決定
- (2) 担当者が内容の説明や論点・疑問点を明らかにする報告
- (3) 報告の内容に関する議論

報告者はA4サイズの1枚程度の資料を予め作成し、パワーポイントを使用するなど効果的な報告をしてください。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①あたらしい人工知能の教科書 ②多田智史著・石井和夫監修 ③株式会社翔泳社 ④2017年8月10日 ⑤2600 ⑥978-4-7981-4560-0

・講義中に必要に応じてプリント、参考文献等を配布します。

【参考図書】

- ・『ゼロから作るDeep Learning』、斎藤康毅著、オライリー・ジャパン、2017（初版第7刷り）。
- ・『ニューラルネットワーク自作入門』、Tariq Rashid著、新納浩幸訳、マイナビ出版、2017。
- ・『決定版 AI 人工知能』、樋口晋也、城塚音也、東洋経済新報社、2017。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 50% レポート・課題 50% 受講態度 0%

特記事項

- ・授業内の演習課題と宿題の合計点に50点を配点。
- ・レポート（最終講義日に提出）に50点配点。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・当該科目のすべての授業回数の3分の2以上に出席していること。
- ・成績区分は学則に準拠。

【履修上の心得】

- (1) 気力と体力が必要です。
- (2) 自分で考え、新しいものを作り出すことが好きな学生に適しています。
- (3) 学会での研究報告（ゼミⅡ-2）と卒業論文（ゼミⅡ-1、2）の準備を行います。

【科目のレベル、前提科目など】

推奨年次：2年次、3年次

前提科目：経営情報科学Ⅰ・Ⅱ（1年次）、

統計調査法Ⅰ・Ⅱ、経営分析法Ⅰ・Ⅱ、WEBプログラミング（2、3年次）

関連科目：ゼミナールⅠ-2・Ⅱ-1、Ⅱ-2は本科目に続く科目です。

経営学の基礎科目、情報関連科目は全て関連科目です。

科目レベル：研究活動へと続く基礎トレーニングを行う科目ですので、やや難しい内容を含みます。

【備考】

船田の担当科目は次のような順序で受講すると効果的であるように構成しています。

1年次：経営情報科学Ⅰ・Ⅱ

2・3年次：統計調査法Ⅰ・Ⅱ、WEBプログラミングⅠ・Ⅱ、ゼミナールⅠ-1、Ⅰ-2

3・4年次：経営分析法Ⅰ・Ⅱ、ゼミナールⅡ-1、Ⅱ-2

科目名	ゼミナールⅠ-2 (船田)
教員名	船田 眞里子

【授業の内容】

本ゼミナールは、ヒトの生体情報を用いて、経済活動の効果や適切性、学習の反復効果などを客観的に評価・分析することを研究テーマにしています。ゼミナールⅠ-1からゼミナールⅡ-2までは連続科目で、ゼミナールⅡ-1、Ⅱ-2で行う卒業研究の基礎知識・考え方の獲得を目指しています。ゼミナールⅠ-2では卒業研究で用いる事象関連電位に関してを学び、C言語によるプログラムとデータ解析手法を学びます。

【到達目標】

- (1) 報告の目的に合った適切な資料を作成できる。
- (2) 効果的な報告ができる。
- (3) マナーに配慮した報告と議論ができる。
- (4) 自分の考えを他者に判るように説明できる。
- (5) 卒業研究に直結する基礎知識を獲得する。
- (6) 卒業研究の準備を行う。

【授業計画】

- 第1回 ゼミナールⅠ-2の進め方
復習：授業内容のまとめ（ノート作り）（30分）
復習：（30分）
- 第2回 事象関連電位と歴史、データの標準化プログラムの作成（1）
復習：授業内容のまとめ（ノート作り）（30分）
予習：実験データの解析（30分）
- 第3回 事象関連電位の測定法、データの標準化プログラムの作成（2）
復習：授業内容のまとめ（ノート作り）（30分）
予習：実験データの解析（30分）
- 第4回 神経生理学の基礎、データの標準化プログラムの実行と動作の確認
復習：授業内容のまとめ（ノート作り）（30分）
予習：実験データの解析（30分）
- 第5回 事象関連電位の成分、時系列データの加算平均プログラム（1）
復習：授業内容のまとめ（ノート作り）（30分）
予習：実験データの解析（30分）
- 第6回 事象関連電位の意味付け、時系列データの加算平均プログラム（2）
復習：授業内容のまとめ（ノート作り）（30分）
予習：実験データの解析（30分）
- 第7回 卒業研究のテーマについての検討（1）、時系列データの加算平均プログラムの実行と動作の確認
復習：授業内容のまとめ（ノート作り）（30分）
予習：実験データの解析（30分）
- 第8回 実験データのまとめ方（1）
復習：授業内容のまとめ（ノート作り）（30分）
予習：実験データのまとめ（30分）
- 第9回 実験データのまとめ方（2）
復習：授業内容のまとめ（ノート作り）（30分）
予習：実験データのまとめ、研究テーマの考案（30分）
- 第10回 卒業研究のテーマの検討（1）
復習：問題点の検討（30分）
予習：新しい研究テーマの考案（30分）
- 第11回 卒業研究のテーマの検討（1）
復習：問題点の検討（30分）
予習：研究のための実験の考案（30分）
- 第12回 卒業研究の準備（2）
復習：問題点の検討（30分）
予習：研究のための実験の考案（30分）
- 第13回 卒業研究の予備実験（1）
復習：問題点の検討（30分）
予習：研究のための実験の考案（30分）
- 第14回 卒業研究の予備実験（2）
復習：問題点の検討（30分）
予習：研究のための実験方法の改善（30分）

第15回 ゼミナールⅡでの研究計画とまとめ
復習：授業全体のまとめ（60分）

【授業の進め方】

実験とその結果をまとめる方法をまず学びます。その後、研究のテーマを決めるためのディスカッション、実験の設計、実験の準備、予備実験を行い、データの解析手順を学びます。1回の実験は、ほぼ1コマ（90分）で終了するように作成します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ・必要に応じて資料を配布します。

【参考図書】

- ・カールソン、羅雅登、中村克樹監訳、神経科学テキスト、脳と行動、丸善株式会社、2010
- ・入戸野宏著、心理学のための事象関連電位ガイドブック、北大路書房、2005
- ・鶴紀子編著、臨床脳波と脳波解析、新興医学出版社、2000
- ・丹波真一・鶴紀子編著、事象関連電位 事象関連電位と神経情報科学の発展、新興医学出版社、1997 など

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 50% レポート・課題 50% 受講態度 0%

特記事項

- ・授業内の演習課題と宿題の合計点に50点を配点。
- ・レポート（最終講義日に提出）に50点配点。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・当該科目のすべての授業回数の3分の2以上に出席していること。
- ・成績区分は学則に準拠。

【履修上の心得】

- (1) 気力と体力が必要です。
- (2) 自分で考え、新しいものを作り出すことが好きな学生に適しています。
- (3) 学会での研究報告を行うためのテーマの決定と実験の設計が目的です。

【科目のレベル、前提科目など】

推奨年次：2年次、3年次

前提科目：経営情報科学Ⅰ・Ⅱ（1年次）、統計調査法Ⅰ・Ⅱ、経営分析法Ⅰ・Ⅱ、WEBプログラミング（2, 3年次）

関連科目：ゼミナールⅡ-1・Ⅱ-2は本科目に続く科目です。経営学の基礎科目、情報関連科目は全て関連科目です。

科目レベル：研究活動へと続く基礎トレーニングを行う科目ですので、やや難しい内容を含みます。

【備 考】

船田の担当科目は次のような順序で受講すると効果的であるように構成しています。

1年次：経営情報科学Ⅰ・Ⅱ

2・3年次：統計調査法Ⅰ・Ⅱ、WEBプログラミングⅠ・Ⅱ、ゼミナールⅠ-1、Ⅰ-2

3・4年次：経営分析法Ⅰ・Ⅱ、ゼミナールⅡ-1、Ⅱ-2

科目名	ゼミナール I - 1 (星)
教員名	星 法子

【授業の内容】

本ゼミナールは管理会計の研究を目的とする。管理会計とは、経営管理者が企業の経済活動の方向を決定したり、責任単位別の管理者の経済的決定に影響を与え、業績を評価し、企業の将来の経済活動をよりよい状態にするための財務情報システムである。経済活動の概念は、資金調達に始まり、資金運用を通じて生産・販売活動を行うことであるから、この場合の「情報」とは、基本的には貨幣金額による数値（財務情報）を意味する。管理会計の情報システムというのは、そうした経済活動にともなう財務データの収集、処理、伝達を通じて企業組織の効率的な運営に役立てるシステムのことである。

ゼミナールではこの情報システムを理解するために、会計学の分野だけではなく、経営管理、生産管理、経営戦略など広範囲の領域の研究を対象とする。

基礎知識としてゼミナール I では簿記論、原価計算を中心のテーマとする。簿記論は会計の基礎である。原価計算は、貢献利益法、キャパシティコスト論、直接原価計算論争などがおこり、その後設備投資決定、原価企画・原価改善、ABC・ABM、EVAなど新しいコンセプトと技法が次々と出てきた。簿記や原価計算を理解することによって、その他の管理会計の手法の理解が容易になるであろう。

【到達目標】

意思決定に必要な会計情報システムのしくみを理解するために、簿記を習得することを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 貸借対照表と損益計算書（予習30分，復習30分）
- 第2回 取引と仕訳（予習30分，復習30分）
- 第3回 勘定記入と帳簿（予習30分，復習30分）
- 第4回 試算表の作成（予習30分，復習30分）
- 第5回 財務諸表の作成（予習30分，復習30分）
- 第6回 精算表の作成（予習30分，復習30分）
- 第7回 現金・現金過不足，当座預金・当座借越，小口現金
- 第8回 商品売買，商品有高帳（予習30分，復習30分）
- 第9回 売掛金・買掛金（予習30分，復習30分）
- 第10回 手形（予習30分，復習30分）
- 第11回 有価証券（予習30分，復習30分）
- 第12回 固定資産（予習30分，復習30分）
- 第13回 決算整理仕訳・手続き（予習30分，復習30分）
- 第14回 元帳の締切（予習30分，復習30分）
- 第15回 財務諸表の作成（予習30分，復習30分）

会計の基礎を学習する。

【授業の進め方】

前半は合同ゼミナール（I と II）を行う。ゼミ I を主体として会計の基礎を学習する。後半はゼミ I だけで会計の基礎学習を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

開講時に指示する。

【参考図書】

- 『日商簿記検定模擬試験問題集3級商業簿記』ネットスクール出版
- 『エッセンシャル原価計算』谷武幸編著 中央経済社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

ゼミナールへの積極的な参加を重視する。

【履修上の心得】

1年次（又は2年次）に「簿記論」を履修しているか、履修予定であること、または高校で簿記学習の経験があることが前提となるが、ゼミ生の希望により、サブゼミとして初級簿記を学習することもある。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目：会計学，簿記論，

関連科目：中級簿記論，高等簿記論，工業簿記論，原価計算論，財務会計論，上級財務会計論，経営分析論，
管理会計論，会計情報システム論，国際会計論，監査論，その他経営領域の科目

科目名	ゼミナール I - 2 (星)
教員名	星 法子

【授業の内容】

本ゼミナールは管理会計の研究を目的とする。管理会計とは、経営管理者が企業の経済活動の方向を決定したり、責任単位別の管理者の経済的決定に影響を与え、業績を評価し、企業の将来の経済活動をよりよい状態にするための財務情報システムである。経済活動の概念は、資金調達に始まり、資金運用を通じて生産・販売活動を行うことであるから、この場合の「情報」とは、基本的には貨幣金額による数値（財務情報）を意味する。管理会計の情報システムというのは、そうした経済活動にともなう財務データの収集、処理、伝達を通じて企業組織の効率的な運営に役立てるシステムのことである。

ゼミナールではこの情報システムを理解するために、会計学の分野だけではなく、経営管理、生産管理、経営戦略など広範囲の領域の研究を対象とする。

基礎知識としてゼミナール I では簿記論、原価計算を中心のテーマとする。簿記論は会計の基礎である。原価計算は、貢献利益法、キャパシティコスト論、直接原価計算論争などがおこり、その後設備投資決定、原価企画・原価改善、ABC・ABM、EVAなど新しいコンセプトと技法が次々と出てきた。簿記や原価計算を理解することによって、その他の管理会計の手法の理解が容易になるであろう。

【到達目標】

意思決定に必要な会計情報システムのしくみを理解するために、原価計算を習得することを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 原価計算の意義 (予習30分, 復習30分)
- 第2回 材料費の計算 (予習30分, 復習30分)
- 第3回 労務費の計算 (予習30分, 復習30分)
- 第4回 経費の計算 (予習30分, 復習30分)
- 第5回 部門別原価計算 (予習30分, 復習30分)
- 第6回 個別原価計算① (予習30分, 復習30分)
- 第7回 個別原価計算② (予習30分, 復習30分)
- 第8回 単純総合原価計算 (予習30分, 復習30分)
- 第9回 工程別原価計算 (予習30分, 復習30分)
- 第10回 組別原価計算 (予習30分, 復習30分)
- 第11回 標準原価計算① (予習30分, 復習30分)
- 第12回 標準原価計算② (予習30分, 復習30分)
- 第13回 直接原価計算① (予習30分, 復習30分)
- 第14回 直接原価計算② (予習30分, 復習30分)
- 第15回 直接原価計算③ (予習30分, 復習30分)

【授業の進め方】

ゼミ生が主体となり原価計算を学習する。毎回担当者を決め、レジュメを作成し報告、質疑応答を行い、練習問題を解く。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

開講時に指示する。

【参考図書】

- 『入門原価計算』清水孝他著 中央経済社
- 『原価計算の本質と実務がわかる本』関浩一郎他著 中央経済社
- 『エッセンシャル原価計算』谷武幸編著 中央経済社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

特記事項

レジュメを作成し、報告の内容を的確に理解できているか、積極的に質問・応答をしているかを評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

ゼミナールへの積極的な参加を重視する。

【履修上の心得】

1年次(又は2年次)に「簿記論」を履修しているか、履修予定であること、または高校で簿記学習の経験があることが前提となるが、ゼミ生の希望により、サブゼミとして初級簿記を学習することもある。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目：会計学，簿記論，

関連科目：中級簿記論，高等簿記論，工業簿記論，原価計算論，財務会計論，上級財務会計論，
経営分析論，管理会計論，会計情報システム論，国際会計論，監査論，その他経営領域の科目

科目名	ゼミナール I - 1 (柳川)
教員名	柳川 高行

【授業の内容】

経営学の入門的内容を全員で輪読し、経営学の基礎知識を身に着けること。

【到達目標】

経営学の基本的知識の概要を身に着けること

【授業計画】

- 第1回 レポート作成の方法とゼミナール運営の詳細についての説明
- 第2回 経営学の誕生
- 第3回 経営学と経営工学の関係
- 第4回 社会工学としての経営学
- 第5回 領域学としての経営学
- 第6回 テーラーの科学的管理法
- 第7回 レスリス・バーガー人間関係論
- 第8回 バーナードの組織論
- 第9回 サイモンの管理者行動論
- 第10回 マーケティングの誕生
- 第11回 経営戦略論の誕生
- 第12回 マクロ組織論
- 第13回 ミクロ組織論
- 第14回 モチベーション論
- 第15回 全体のまとめ

【授業の進め方】

テキスト、榊原清則著『経営学入門（上下）』（日経文庫）を用いて、予めレポーターを特定せず、その場で適宜指名して質疑応答と全体ディスカッションを行うという全員レポーター制のスタイルで運営する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①経営学入門（上）（第2版）（日経文庫） ②榊原清則著 ③日本経済新聞出版社 ④2013年 ⑤903円
- ①経営学入門（下）（第2版）（日経文庫） ②榊原清則著 ③日本経済新聞出版社 ④2013年 ⑤872円

（中古本可）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

演習への参加状況とレポートの品質と、ディスカッションへの参加と貢献度の度合い

科目名	ゼミナール I - 2 (柳川)
教員名	柳川 高行

【授業の内容】

戦後日本の企業の性格がどのように変化してきたのか、日本の労働者と企業との関係はどのように変化してきたのかを、名著のエッセンスを輪読し、共通のイメージを持つことをその狙いとする。

【到達目標】

日本の会社の基本的変化と労使関係の変化について共通の認識を持つこと。

【授業計画】

- 第1回 レポート作成の方法とゼミナール運営の詳細についての説明
- 第2回 日本の経営
- 第3回 能力主義管理
- 第4回 職能資格制度
- 第5回 日本の熟練
- 第6回 人本主義企業
- 第7回 心理学的経営
- 第8回 日本の雇用
- 第9回 知識創造企業
- 第10回 人材マネジメント論
- 第11回 コンピテンシー人事
- 第12回 定年破壊
- 第13回 雇用改革の時代
- 第14回 新しい労働社会
- 第15回 全体のまとめ

【授業の進め方】

テキスト、海老原嗣生、荻野進介著『日本人はどのように仕事をしてきたのか』（中公新書ラクレ）を用いて、予めレポーターを特定せず、その場で適宜指名して質疑応答と全体ディスカッションを行うという全員レポーター制のスタイルで運営する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①日本人はどのように仕事をしてきたのか（中公新書ラクレ） ②海老原嗣生、荻野進介著 ③中央公論新社 ④2011年 ⑤924円

（中古本可）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%
 特記事項
 演習への参加状況とレポートの品質と、ディスカッションへの参加と貢献度合い

科目名	ゼミナール I - 1 (山田覚)
教員名	山田 覚

【授業の内容】

「会計は企業の言葉である」といわれるように、会計学の知識は、企業経営者や職業会計人ばかりでなく、企業の経済活動に関心をもつ全ての人々が身に付けておかなければならない常識となっている。そこで本ゼミナールは、簿記会計の基本的理解を深めつつ、企業会計をより広い観点から個別具体的に研究していこうとするものである。

本ゼミナールは、ゼミ担当者の専門から原価計算・工業簿記（製造業を対象とする会計）および管理会計（経営管理のための会計）を中心テーマとし、無理なくその基礎からゼミ生全員で共同研究していく。また、個別研究ではゼミ生の関心により研究テーマは会計学の広い領域（管理会計・原価計算のほか財務会計・経営分析・会計情報システム・国際会計・監査など）から選択し、最終的には卒業論文にまとめる。そして、ゼミⅡ終了時、2年間の個別研究の成果は、卒業論文集『会計学研究：山田覚ゼミナール』として製本され、保存される（大学総合図書館で閲覧可）。

個別研究の論点：

- 1) 会計学の自己規定－企業会計における不変と変化－
- 2) 財務会計の課題－制度性とその論拠－
- 3) 管理会計の課題－目的手段の適合性とその規定要因－
- 4) 会計学をいかに学ぶか－理論と実践との交錯－

【到達目標】

企業の経理部、経営企画部門、工場管理部門はいうまでもなく、営業、開発、購買、品質管理を含むあらゆる業務担当者にとって、原価計算・管理会計の知識は必須である。この講義で身についた基礎知識をもとに各自必要に応じて会計をより広い視野から学習していくことにより、企業経営のさまざまな領域で個別具体的に応用していくことが可能となる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 会計学の基礎演習 (1)
- 第3回 会計学の基礎演習 (2)
- 第4回 会計学の基礎演習 (3)
- 第5回 会計学の基礎演習 (4)
- 第6回 会計学の基礎演習 (5)
- 第7回 会計学の基礎演習 (6)
- 第8回 会計学の基礎演習 (7)
- 第9回 会計学の基礎演習 (8)
- 第10回 工業簿記・原価計算の基礎 (1)
- 第11回 工業簿記・原価計算の基礎 (2)
- 第12回 費目別計算：材料費
- 第13回 費目別計算：労務費
- 第14回 費目別計算：経費
- 第15回 要点のまとめ

【授業の進め方】

ゼミの進め方としては、まず適切なテキストを選定し、全員に発表箇所を割り当てる。これに基づき発表と質疑応答を行う。発表者はレジюмеを用意し、次の発表者が司会を勤め、参加者に発言（質問ないしコメント）を求める。これによりレジюмеの書き方、プレゼンテーションの仕方、司会運営の進め方など、社会進出に際し最も重要視されているコミュニケーション能力を身に付けることができる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

共同研究および個別研究のテーマに応じて適宜指示する。

【参考図書】

参考書については、受講生の目的、理解度に応じて適宜指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

特記事項

ゼミへの参加姿勢（質疑応答への参加状況、課題提出、行事参加など）および報告者・司会者としての姿勢（報告内容・レジюме内容、報告態度など）にもとづいて評価する。

【履修上の心得】

ゼミ活動は、授業時間だけでなく、ゼミⅡとの合同でゼミ合宿（夏・冬）や親睦会（年2回）などを行っており、充実したものとなっている。夏には、1泊2日の合宿をする。昼は大いにエンジョイし、夜は恒例のゼミⅡ学生による卒業論文の中間報告会を行う。また冬には、2泊3日のスキー合宿を行う。やはりここでも、夜はゼミⅡ学生による卒業論文の最終報告会を行い、後のゼミ運営の参考にする。

なお、ゼミ生は、学業の面、あるいは就職活動においても、それぞれ持ち前のファイトで大いに頑張ってくれている。また、本ゼミナールは会計のゼミであるから、卒業までに日商簿記検定2級以上に合格するなど、具体的な目標に向かって努力していることを期待する。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目：簿記論

ゼミ必修科目：

工業簿記論・原価計算論Ⅰ・原価計算論Ⅱ・管理会計論Ⅰ・外書講読Ⅰ（山田担当）・インターンシップⅠ・インターンシップⅡ（Ⅲ）・現代企業行動論

【備 考】

毎年2・3年生はインターンシップ（企業研修）などにも積極的に参加し、卒業生は素晴らしい就職実績を残している。また、日商簿記検定1級や公認会計士試験に現役合格したゼミ生もいる。

科目名	ゼミナール I - 2 (山田覚)
教員名	山田 覚

【授業の内容】

「会計は企業の言葉である」といわれるように、会計学の知識は、企業経営者や職業会計人ばかりでなく、企業の経済活動に関心をもつ全ての人々が身に付けておかなければならない常識となっている。そこで本ゼミナールは、簿記会計の基本的理解を深めつつ、企業会計をより広い観点から個別具体的に研究していこうとするものである。

本ゼミナールは、ゼミ担当者の専門から原価計算・工業簿記（製造業を対象とする会計）および管理会計（経営管理のための会計）を中心テーマとし、無理なくその基礎からゼミ生全員で共同研究していく。また、個別研究ではゼミ生の関心により研究テーマは会計学の広い領域（管理会計・原価計算のほか財務会計・経営分析・会計情報システム・国際会計・監査など）から選択し、最終的には卒業論文にまとめる。そして、ゼミⅡ終了時、2年間の個別研究の成果は、卒業論文集『会計学研究：山田覚ゼミナール』として製本され、保存される（大学総合図書館で閲覧可）。

個別研究の論点：

- 1) 会計学の自己規定－企業会計における不変と変化－
- 2) 財務会計の課題－制度性とその論拠－
- 3) 管理会計の課題－目的手段の適合性とその規定要因－
- 4) 会計学をいかに学ぶか－理論と実践との交錯－

【到達目標】

企業の経理部、経営企画部門、工場管理部門はいうまでもなく、営業、開発、購買、品質管理を含むあらゆる業務担当者にとって、原価計算・管理会計の知識は必須である。この講義で身についた基礎知識をもとに各自必要に応じて会計をより広い視野から学習していくことにより、企業経営のさまざまな領域で個別具体的に応用していくことが可能となる。

【授業計画】

- 第1回 部門別計算 (1)
- 第2回 部門別計算 (2)
- 第3回 個別原価計算 (1)
- 第4回 個別原価計算 (2)
- 第5回 総合原価計算 (1)
- 第6回 総合原価計算 (2)
- 第7回 総合原価計算 (3)
- 第8回 総合原価計算 (4)
- 第9回 総合原価計算 (5)
- 第10回 標準原価計算 (1)
- 第11回 標準原価計算 (2)
- 第12回 直接原価計算 (1)
- 第13回 直接原価計算 (2)
- 第14回 本社工場会計
- 第15回 総括

【授業の進め方】

ゼミの進め方としては、まず適切なテキストを選定し、全員に発表箇所を割り当てる。これに基づき発表と質疑応答を行う。発表者はレジュメを用意し、次の発表者が司会を勤め、参加者に発言（質問ないしコメント）を求める。これによりレジュメの書き方、プレゼンテーションの仕方、司会運営の進め方など、社会進出に際し最も重要視されているコミュニケーション能力を身に付けることができる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

共同研究および個別研究のテーマに応じて適宜指示する。

【参考図書】

参考書については、受講生の目的、理解度に応じて適宜指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

特記事項

ゼミへの参加姿勢（質疑応答への参加状況、課題提出、行事参加など）および報告者・司会者としての姿勢（報告内容・レジュメ内容、報告態度など）にもとづいて評価する。

【履修上の心得】

ゼミ活動は、授業時間だけでなく、ゼミⅡとの合同でゼミ合宿（夏・冬）や親睦会（年2回）などを行っており、充実したものとなっている。夏には、1泊2日の合宿をする。昼は大いにエンジョイし、夜は恒例のゼミⅡ学生による卒業論文の中間報告会を行う。また冬には、2泊3日のスキー合宿を行う。やはりここでも、夜はゼミⅡ学生による卒業論文の最終報告会を行い、後のゼミ運営の参考にする。

なお、ゼミ生は、学業の面、あるいは就職活動においても、それぞれ持ち前のファイトで大いに頑張ってくれている。また、本ゼミナールは会計のゼミであるから、卒業までに日商簿記検定2級以上に合格するなど、具体的な目標に向かって努力していることを期待する。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目：簿記論

ゼミ必修科目：

工業簿記論・原価計算論Ⅰ・原価計算論Ⅱ・管理会計論Ⅰ・外書講読Ⅰ（山田担当）・インターンシップⅠ・インターンシップⅡ（Ⅲ）・現代企業行動論

【備 考】

毎年2・3年生はインターンシップ（企業研修）などにも積極的に参加し、卒業生は素晴らしい就職実績を残している。また、日商簿記検定1級や公認会計士試験に現役合格したゼミ生もいる。

科目名	ゼミナール I - 1 (山田徳彦)
教員名	山田 徳彦

【授業の内容】

研究テーマ：地域社会に関する研究

潜在的に恵まれた地域が十分な成果をあげていないとしたら、解決しなければならない問題は何だろう

多数の主体が行っている様々な取り組みは「どのようなもの」で、「どのような意味がある」のだろうか？そもそも地域にとって幸せな状態とはどのようなものだろうか？

このような疑問についてゼミナール参加者とともに考えていきたい。ゼミナール I - 1 では、教員が用意した資料をもとに、基礎的な知識の蓄積に力を入れたい。

【到達目標】

地域の社会について自ら考えられるようにすることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 モチベーション向上に資する基礎的な文献の輪読(1)
- 第3回 モチベーション向上に資する基礎的な文献の輪読(2)
- 第4回 組織行動の基本的メカニズムの理解(1)
- 第5回 組織行動の基本的メカニズムの理解(2)
- 第6回 組織行動の基本的メカニズムの理解(3)
- 第7回 組織行動の基本的メカニズムの理解(4)
- 第8回 リスクと不確実性の理解(1)
- 第9回 リスクと不確実性の理解(2)
- 第10回 モチベーションとその向上への理解(1)
- 第11回 モチベーションとその向上への理解(2)
- 第12回 分析ツールへの理解(1)
- 第13回 分析ツールへの理解(2)
- 第14回 分析ツールへの理解(3)
- 第15回 まとめ

【授業の進め方】

教員が用意した資料を輪読し、参加者の考え等をまとめていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①地域再生の失敗学 ②飯田 泰之,他 ③光文社 ④2016年4月19日 ⑤840 ⑥978-4-334-03915-8

ゼミナール受講者と相談の上決定する。

【参考図書】

講義中、適宜指示する。また、プリントを配布する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

特記事項

日常のゼミナール活動全般を考慮して評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

一回一回のゼミに、積極的に臨んで頂きたい。

【履修上の心得】

実際の経済・社会の仕組みや動向は、複雑に絡み合っているのを日頃から念頭に置くこと。「きちんと」「一生懸命に」という姿勢を持った学生を歓迎する。

科目名	ゼミナール I - 2 (山田徳彦)
教員名	山田 徳彦

【授業の内容】

研究テーマ：地域社会に関する研究

潜在的に恵まれた地域が十分な成果をあげていないとしたら、解決しなければならない問題は何だろう

多数の主体が行っている様々な取り組みは「どのようなもの」で、「どのような意味がある」のだろうか？そもそも地域にとって幸せな状態とはどのようなものだろうか？

このような疑問についてゼミナール参加者とともに考えていきたい。ゼミナール I - 1 では、教員が用意した資料をもとに、基礎的な知識の蓄積に力を入れたい。

【到達目標】

地域の社会について自ら考えられるようにすることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 地域の基礎条件をなすもの(1)
受講者の報告 I ①
- 第2回 地域の基礎条件をなすもの(2)
受講者の報告 I ②
- 第3回 地域の基礎条件をなすもの(3)
受講者の報告 I ③
- 第4回 地域の経済と産業(1)
受講者の報告 I ④
- 第5回 地域の経済と産業(2)
受講者の報告 I ⑤
- 第6回 地域の経済と産業(3)
受講者の報告 II ①
- 第7回 地域の行財政(1)
受講者の報告 II ②
- 第8回 地域の行財政(2)
受講者の報告 II ③
- 第9回 地域の行財政(3)
受講者の報告 II ④
- 第10回 地域の政治(1)
受講者の報告 II ⑤
- 第11回 地域の政治(2)
受講者の報告 III ①
- 第12回 地域の政治(3)
受講者の報告 III ②
- 第13回 文化への理解(1)
受講者の報告 III ③
- 第14回 文化への理解(2)
受講者の報告 III ④
- 第15回 文化への理解(3)
受講者の報告 III ⑤

【授業の進め方】

教員が用意した資料を輪読し、参加者の考え等をまとめていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①地域再生の失敗学 ②飯田泰之 木下斉 川崎一泰 入山章栄 林直樹 熊谷俊人 ③光文社 ④2016年4月19日
⑤840 ⑥978-4-334-03915-8

プリントを配布する

【参考図書】

講義中、適宜指示する。また、プリントを配布する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

特記事項

日常のゼミナール活動全般を考慮して評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

一回一回のゼミに、積極的に臨んで頂きたい。

【履修上の心得】

実際の経済・社会の仕組みや動向は、複雑に絡み合っていることを、日頃から念頭に置くこと。「きちんと」「一生懸命に」という姿勢を持った学生を歓迎する。

科目名	ゼミナール I-1 (吉川)
教員名	吉川 薫

【授業の内容】

日本経済をみるうえでの基礎を学ぶとともに、論文の書き方を学ぶ。

【到達目標】

日本経済を見る上での基礎知識を習得するとともに、論文の書き方を理解できるようになる。

【授業計画】

- 第1回 ゼミナールの進め方、経済を見る際の視点 予習：ゼミでの自己紹介、何を学びたいかをまとめておく (30分) 復習：授業のポイントを確認する (30分)
- 第2回 GDPとは何か 予習：この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく (30分) 復習：授業のポイントを確認し、練習問題を解く (60分)
- 第3回 実質と名目、実質GDPの計算方法 予習：この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読する (30分) 授業のポイントを確認し、練習問題を解く (60分)
- 第4回 金融の仕組みを知る 予習：この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく (30分) 授業のポイントを確認し、練習問題を解く (60分)
- 第5回 貨幣の役割 予習：この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく (30分) 授業のポイントを確認する (30分)
- 第6回 貨幣の役割 予習：この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく (30分) 授業のポイントを確認する (30分)
- 第7回 日本銀行の役割とマネタリーベース 予習：この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく (30分) 授業のポイントを確認し、練習問題を解く (60分)
- 第8回 税金の種類と特徴 予習：この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく (30分) 授業のポイントを確認し、練習問題を解く (60分)
- 第9回 政府の役割 予習：この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく (30分) 授業のポイントを確認し、練習問題を解く (60分)
- 第10回 就職活動の進め方について、進路指導部から話をきく (予習) 大学の進路指導部の仕事について調べておく (20分) 復習：授業での話を復習し、エントリーシートを書く (60分)
- 第11回 失業の意味と日本の雇用問題を考察する 予習：この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく (30分) 授業のポイントを確認し、練習問題を解く (60分)
- 第12回 論文の書き方 (予習) 論文とは何か調べおく (30分) 復習：論文の書き方の授業を踏まえ、各自卒業研究のテーマについて考えをまとめる (60分)
- 第13回 各ゼミ生が卒業研究のテーマと問題意識を発表 (予習) 卒業研究のテーマに関連した図書を探す。卒業研究のテーマと問題意識をペーパーにまとめる (120分) 復習：時ゼミの時に出席した指摘をノートに整理する (30分)
- 第14回 卒業研究のテーマに関連した図書を発表 (予習) 卒業研究のテーマに関連した図書リストを作成する (30分) 復習：ゼミでの指摘を踏まえ夏休みに読む図書リストを作成する (30分)
- 第15回 卒業研究の進め方の発表 (予習) ゼミで発表する「卒業研究の進め方」のペーパーを作成する (40分) 復習：夏休みに読む卒業研究に関連した図書を決め、夏休みに読み、その内容をまとめる (夏休み期間中480分)

・就職活動について進路指導部から話を聞く日程は先方との調整後に確定する。授業計画記載の日程はおおよその予定である。

【授業の進め方】

- ・日本経済に関するテキストを一緒に読み、報告担当者の報告を踏まえ、論点を整理し、議論する。
- ・論文の書き方、研究の進め方について解説するので、それを踏まえて各人、またはグループごとに研究のテーマを見つけ、問題意識を明確にする。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①「経済のしくみと制度(第3版)」 ②井出多加子・大野正智・幸村千佳良・井上智夫・北川浩 ③多賀出版 ④2015年4月30日 ⑤1900円+税 ⑥978-4-8118-6813-3

【参考図書】

- ・「日本経済論」宮川・細野・細谷・川上著 中央経済社
- ・「日本経済読本」第20版 金森・大守編 東洋経済新報社
- ・「ゼミナール日本経済入門」(最新版) 三橋・内田・池田著 日本経済新聞出版

- ・「日本経済図説」(第4版) 宮崎・本庄著 岩波新書
- ・「ビジュアル日本経済の基本」(第4版) 小峰隆夫編著 日本経済新聞出版

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 30% 受講態度 70%

特記事項

ゼミでの発表状況と提出したレポート等の内容を総合的に判断して評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

レポートは授業内で発表するために用意したものを発表終了後に提出する

【履修上の心得】

- ・日頃から現実の経済問題に関心を持ち、新聞の経済記事などを読んでいること。
- ・勉学に対して真摯な態度で取り組むこと。
- ・自ら進んで文献・資料を収集・読解・分析したり、ゼミで積極的に発言するなど、ゼミに主体的に参加すること。
- ・ゼミの無断欠席・遅刻は厳禁。
- ・ゼミ受講者は現代日本経済論Ⅰ、Ⅱを受講することが望ましい。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目：ミクロ経済学Ⅰ、マクロ経済学Ⅰを履修しているか、未履修の場合は並行して履修することがのぞましい。

関連科目：現代日本経済論Ⅰ、現代日本経済論Ⅱ、金融論など経済関連科目。

科目名	ゼミナール I - 2 (吉川)
教員名	吉川 薫

【授業の内容】

経済の見方、日本経済の抱える課題を理解するとともに、そのなかから各自が個人研究のテーマ・研究方法を決定する。また、卒業後の進路お決定に役立つように、業界研究・企業研究を行う。

【到達目標】

ゼミ2年目に各人が日本経済に関するテーマで卒業レポートを作成することを目標に、ゼミ1年目の後期では日本経済の特徴と課題を理解し、各人が研究するテーマと研究方法を見つけ、研究計画書を作成することを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 夏休み読んだ文献についての発表 予習:レポートの作成・発表の準備(60分) 復習:ゼミでの指摘を整理する(30分)
- 第2回 失業の意味、日本の雇用問題 予習:テキストを熟読する(30分) 復習:授業の復習をし、練習問題を解く(60分)
- 第3回 外国為替市場と為替レート 予習:テキストを熟読する(30分) 復習:授業の復習をし、練習問題を解く(60分)
- 第4回 国際収支表の構造 予習:テキストを熟読する(30分) 復習:授業の復習をし、練習問題を解く(60分)
- 第5回 業界研究・企業研究の発表① 予習:関心のある業界・企業について様式に従ってペーパーをまとめる(60分) 復習:授業での指摘を整理する(30分)
- 第6回 業界研究・企業研究の発表② 予習:関心のある業界・企業について様式に従ってペーパーをまとめる(60分) 復習:授業での指摘を整理する(30分)
- 第7回 産業構造と産業連関表 予習:テキストを熟読する(30分) 復習:授業の復習をし、練習問題を解く(60分)
- 第8回 所得分配と不平等度 予習:テキストを熟読する(30分) 復習:授業の復習をし、練習問題を解く(60分)
- 第9回 データの分析①消費関数 予習:テキストを熟読する(30分) 復習:授業の復習をし、練習問題を解く(60分)
- 第10回 データの分析②投資関数 予習:テキストを熟読する(30分) 復習:授業の復習をし、練習問題を解く(60分)
- 第11回 卒業研究レポートのテーマと研究方法の発表① 予習:卒業研究のテーマと研究方法についてまとめる(60分) 復習:ゼミでの指摘を踏まえ卒業研究のテーマと研究方法をまとめる(30分)
- 第12回 卒業研究レポートのテーマと研究方法の発表② 予習:卒業研究のテーマと研究方法についてまとめる(60分) 復習:ゼミでの指摘を踏まえ卒業研究のテーマと研究方法をまとめる(30分)
- 第13回 研究計画書の発表① 予習:研究計画書(案)を作成する(90分) 復習:ゼミでの指摘を踏まえ、研究計画書を完成する(30分)
- 第14回 研究計画書の発表② 予習:研究計画書(案)を作成する(90分) 復習:ゼミでの指摘を踏まえ、研究計画書を完成する(30分)
- 第15回 研究計画書の修正版を発表・提出 予習:研究計画書の修正(30分) 復習:研究計画書の完成(20分)

【授業の進め方】

- ・日本経済に関するテキストを一緒に読み、報告担当者の報告を踏まえ、論点を整理し、議論する。
- ・各人、またはグループごとに研究のテーマに関し、関連図書を読み、研究方法を検討し、研究計画書を作成する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

ゼミ I 前期の教科書を継続して使用する

【参考図書】

- ・「日本経済読本」第20版金森・大守編 東洋経済新報社
- ・「ゼミナール日本経済入門」(最新版)三橋・内田・池田著 日本経済新聞出版
- ・「入門・日本経済」(第5版)浅子和美・飯塚信夫・篠原総一編 有斐閣

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 30% 受講態度 70%

特記事項

ゼミでの発表状況とゼミで提出したペーパー・研究計画書の内容を総合的に判断して評価する。

【履修上の心得】

- ・日頃から現実の経済問題に関心を持ち、新聞の経済記事などを読んでいること。
- ・勉学に対して真摯な態度で取り組むこと。
- ・自ら進んで文献・資料を収集・読解・分析したり、ゼミで積極的に発言するなど、ゼミに主体的に参加すること。
- ・ゼミの無断欠席・遅刻は厳禁。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目：ミクロ経済学Ⅰ、マクロ経済学Ⅰを履修しているか、未履修の場合は並行して履修すること。

関連科目：現代日本経済論Ⅰ、現代日本経済論Ⅱ、金融論など経済関連科目。なお、ゼミ受講者は現代日本経済論Ⅰ、Ⅱを履修することが望ましい。

科目名	ゼミナール I - 1 (小笠原)
教員名	小笠原 伸

【授業の内容】

都市は多くの現代的な課題を内包しているとともに、私たちの暮らすフィールドでもあります。それらについて考察することは魅力的な研究活動の一環であるとともに、皆さんが自らを鍛錬し社会の一員となる大学生としての知的能力を会得するにふさわしい場です。

このゼミでは、都市について多面的に読解、把握、分析を行い、将来の都市像を構想しそれを実際にデザインしてゆくための都市戦略を構築するための研究活動を進めてゆきます。

テーマとしては政府機関や自治体との共同研究による地域経済振興企画策定や都市計画、都市の美しさや社会システムといったソーシャルデザイン全般、テクノベンチャーやイノベーションによる地域産業振興・商業振興、ソーシャルメディアとコミュニケーション、さらには農業、観光、環境、ナショナルセキュリティ、市民参加やNPO、都市における芸術やデザインといった分野まで都市の諸活動を広く網羅し、クリエイティブで活力ある都市をつくるための手法を皆さんと考えたいと思います。

【到達目標】

都市の魅力とその構造を知り、都市の読解を行う能力を身につけた上で、具体の都市の課題と可能性をフィールドワークにて調査し感じ取り、自らその解決策や活用法を提案し実行に移せるだけの経験をし、それをプレゼンテーションしてゆく。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する (1.5時間)
- 第2回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する (1.5時間)
- 第3回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する (1.5時間)
- 第4回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する (1.5時間)
- 第5回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する (1.5時間)
- 第6回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する (1.5時間)
- 第7回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する (1.5時間)
- 第8回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する (1.5時間)
- 第9回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する (1.5時間)
- 第10回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する (1.5時間)
- 第11回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する (1.5時間)
- 第12回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する (1.5時間)
- 第13回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する (1.5時間)

- 第14回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う（1.5時間）
復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する（1.5時間）
- 第15回 まとめ
予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う（1.5時間）
復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する（1.5時間）

【授業の進め方】

都市の具体の課題を前提にしたディスカッション、自治体や企業へのグループ調査などを軸に、文献講読や専門的な資料の分析、ゲストスピーカーとの対話など多様な内容を展開します。

そして、実際の都市の現場に出向いて教員やゼミ学生が共に何度か「街歩き」を行います。都市を自分の目で見つめて読み解きながら考え、現在我々が直面する課題をどのように解決するのか、総合的に考えてもらう重要な場になります。

さらに自分たちの調査や分析を地域の皆さんと共有し新たな知見を得て昇華させてゆくための、ゼミ主催によるワークショップやフューチャーセンターの開催を考えています。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①新クリエイティブ都市論 ②リチャード・フロリダ
①イノベーションへの解 ②クレイトン・クリステンセン
①東京の空間人類学 ②陣内秀信

【参考図書】

適時紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

授業内ディスカッション、レポート、フィールドワーク、その他知的活動全般から判断。

【履修上の心得】

字面からは内容が難しく感じるかも知れませんがそれほどではないと理解して下さい。現在の学力や知識の有無は問題ではありませんが、何かを待っている姿勢の学生には厳しいゼミとなるかも知れません。むしろ、自ら動き考え提案するアクティブな学生が参加することを期待します。人生を前向きに捉えて、楽しさや面白さというものを優先順位の上位に置ける学生は是非合流してください。是非とも将来の地域のリーダーとなり、一緒に新しい社会を創りあげてゆきましょう。

科目名	ゼミナール I - 2 (小笠原)
教員名	小笠原 伸

【授業の内容】

都市は多くの現代的な課題を内包しているとともに、私たちの暮らすフィールドでもあります。それらについて考察することは魅力的な研究活動の一環であるとともに、皆さんが自らを鍛錬し社会の一員となる大学生としての知的能力を会得するにふさわしい場です。

このゼミでは、都市について多面的に読解、把握、分析を行い、将来の都市像を構想しそれを実際にデザインしてゆくための都市戦略を構築するための研究活動を進めてゆきます。

テーマとしては政府機関や自治体との共同研究による地域経済振興企画策定や都市計画、都市の美しさや社会システムといったソーシャルデザイン全般、テクノベンチャーやイノベーションによる地域産業振興・商業振興、ソーシャルメディアとコミュニケーション、さらには農業、観光、環境、ナショナルセキュリティ、市民参加やNPO、都市における芸術やデザインといった分野まで都市の諸活動を広く網羅し、クリエイティブで活力ある都市をつくるための手法を皆さんと考えたいと思います。

【到達目標】

都市の魅力とその構造を知り、都市の読解を行う能力を身につけた上で、具体の都市の課題と可能性をフィールドワークにて調査し感じ取り、自らその解決策や活用法を提案し実行に移せるだけの経験をし、それをプレゼンテーションしてゆく。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する (1.5時間)
- 第2回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する (1.5時間)
- 第3回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する (1.5時間)
- 第4回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する (1.5時間)
- 第5回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する (1.5時間)
- 第6回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する (1.5時間)
- 第7回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する (1.5時間)
- 第8回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する (1.5時間)
- 第9回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する (1.5時間)
- 第10回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する (1.5時間)
- 第11回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する (1.5時間)
- 第12回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する (1.5時間)
- 第13回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する (1.5時間)

- 第14回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う（1.5時間）
復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する（1.5時間）
- 第15回 まとめ
予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う（1.5時間）
復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する（1.5時間）

【授業の進め方】

都市の具体の課題を前提にしたディスカッション、自治体や企業へのグループ調査などを軸に、文献講読や専門的な資料の分析、ゲストスピーカーとの対話など多様な内容を展開します。

そして、実際の都市の現場に出向いて教員やゼミ学生が共に何度か「街歩き」を行います。都市を自分の目で見つめて読み解きながら考え、現在我々が直面する課題をどのように解決するのか、総合的に考えてもらう重要な場になります。

さらに自分たちの調査や分析を地域の皆さんと共有し新たな知見を得て昇華させてゆくための、ゼミ主催によるワークショップやフューチャーセンターの開催を考えています。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①クリエイティブ都市論 ②リチャード・フロリダ
①イノベーションへの解 ②クレイトン・クリステンセン
①東京の空間人類学 ②陣内秀信

【参考図書】

適宜紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

授業内ディスカッション、レポート、フィールドワーク、その他知的活動全般から判断。

【履修上の心得】

字面からは内容が難しく感じるかも知れませんがそれほどではないと理解して下さい。現在の学力や知識の有無は問題ではありませんが、何かを待っている姿勢の学生には厳しいゼミとなるかも知れません。むしろ、自ら動き考え提案するアクティブな学生が参加することを期待します。人生を前向きに捉えて、楽しさや面白さというものを優先順位の上位に置ける学生は是非合流してください。是非とも将来の地域のリーダーとなり、一緒に新しい社会を創りあげてゆきましょう。

科目名	ゼミナール I-1 (高畑)
	アメリカ外交と世界 I
教員名	高畑 昭男

【授業の内容】

現代アメリカの外交・安全保障政策について掘り下げて研究する。21世紀の世界においてアメリカの外交・安全保障政策は、日本を含めた世界のあらゆる地域に影響を与えている。その内容や将来の方向を探り、21世紀にどのような世界秩序を描いているのかを探っていく。その際、アジア最大の同盟国である日本との関係や、日米両国にどのような役割が求められているかなどについても理解を深め、日本の平和と繁栄や世界の安全に役立てていきたい。

講師による講義(座学)はほぼ半分で、残りはアクティブ・ラーニングの手法に基づいた自由研究・発見学習、グループ研究発表の形式を多用する。前期を通してアメリカ外交・安全保障政策、大統領の役割などに関する基礎的な要素を学び、期末には課題研究についてプレゼンテーションを行う。

2018年は「アメリカ・ファースト(米国第一主義)」を掲げて登場したドナルド・トランプ大統領の政権2年目に当たる。北朝鮮問題、中東情勢などアメリカ外交と世界が大きく動く年になる可能性が高い。新大統領の下でアメリカがどのような世界秩序をめざしていくのかを中心に、注意深く見守りたい。

【到達目標】

1. アメリカの外交・安全保障政策の概要、歴史、特徴などを理解する。
2. アメリカの政治制度、とりわけ大統領の権限、政策決定過程などを理解する。
3. アメリカが21世紀に向けてどんな外交・安全保障政策をめざしているかを探る。
4. 日米関係の重要性を理解し、両国にどんな役割が期待されているかの基礎知識と考える力を養う。
5. アメリカ政治や大統領選の仕組み、内政・外交に与える影響などについて学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 アメリカ外交全般の基礎知識。大統領の役割と権限の理解。チームに分かれて課題研究を行うための態勢づくりを行う。
- 第2回 大統領と外交。前期課題(マイ・プレジデント、マイ・ステーツ)の説明。大統領選と外交。アメリカの指導者選は日本の政治とどのように違うのか。講義と並行して、個人またはグループによる自由研究課題の選定、グループ・ディスカッション、グループ研究作業を進める。
- 第3回 新政権の発足とアメリカ外交の仕組み。トランプ新政権を実例として、アメリカ外交の仕組みや制度を同時進行で学ぶ。並行して、グループまたは個人による自由研究の作業を進める。
- 第4回 アメリカ外交の歴史(1) 「アメリカ例外主義」とは何か。独立戦争と建国時代の孤立主義。ワシントン大統領の教訓。並行してグループまたは個人による自由研究。
- 第5回 アメリカ外交の歴史(2) 欧州列強とバランス外交。戦争と領土購入にみる「力と現実主義」。並行して、グループまたは個人による自由研究。
- 第6回 アメリカ外交の歴史(3) 2度の世界大戦とウィルソン大統領の「理想主義外交」、ルーズベルト大統領と国際連合。「世界の警察官」とは何か。
- 第7回 中間まとめ。個人またはグループの自由研究課題の進捗状況を報告させ、全体で調整する。
- 第8回 現代アメリカ外交(1) トランプ外交は21世紀に何をめざしているのか。並行して、グループまたは個人による自由研究。
- 第9回 現代アメリカ外交(2) ポスト冷戦時代と「アメリカ1極世界」。トランプ外交の中身を探る。並行して、グループまたは個人による自由研究。
- 第10回 現代アメリカ外交(3) 9/11同時テロと対テロ戦争。並行して、グループまたは個人による自由研究。
- 第11回 現代アメリカ外交(4) アメリカと中東・アフリカ。トランプ政権の方向性。並行して、グループまたは個人による自由研究。
- 第12回 現代アメリカ外交(5) アメリカと欧州・ロシア。トランプ政権の戦略。並行して、グループまたは個人による自由研究。
- 第13回 現代アメリカ外交(6) アメリカとアジア太平洋。トランプ政権のアジア戦略。中国、朝鮮半島、日米同盟。グループまたは個人による自由研究。
- 第14回 前期課題のグループまたは個人による自由研究のプレゼンテーションとディスカッション、評価。
- 第15回 前期課題のプレゼンテーションと評価。全体のまとめと反省。

第二次大戦後、アメリカは国際連合を中心とする主要な国際機関を創設する上で比類なき指導力を発揮した。国際金融システム、集団安全保障体制、核不拡散体制など現在の国際平和秩序の基礎を築き、自ら「世界の警察官」の役割を担いながら、国際社会を指導してきた。しかし、バラク・オバマ大統領が2013年、「世界の警察官」役を放棄したのに続いて、「米国第一主義」を掲げるドナルド・トランプ大統領も同様の立場を踏襲した。これをきっかけに、世界秩序はかつてない変化にさらされている。

こうした現状を踏まえながら、アメリカ外交の理念と現実について学び、21世紀の今、アメリカと国際社会がどのような課題に直面しているかを考えていく。「アメリカの世紀」と呼ばれた20世紀から「アジア太平洋の世紀」と呼ば

れる21世紀への変化をたどる中で、中国の台頭や北朝鮮問題といった問題や課題にどう向き合うかについて学びたい。

アメリカ大統領の外交に関する権限や役割を学び、欧州、アジア、中東の現状、中国やロシアなどとの関わりについても考える。アメリカの掲げる自由、民主主義、人権、市場経済といった価値がどのように政治・外交に反映されているかを探る。

また、日本とアメリカの同盟関係や日本の安全保障のあり方についても学び、21世紀のアジア太平洋の平和と安全にどう生かしていくかを考えていく態度を養っていききたい。

【授業の進め方】

1. アメリカ外交の大きな流れや特徴を理解するために歴史を振り返り、文献を読む。
2. トランプ政権を事例として、日々の動きを新聞記事などから拾い集めて検討する。
3. 個人またはグループで自由研究テーマを設定し、プレゼンテーションをもとに討論する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

とくに指定しない。教材やレジメはその都度配布または指定する。

【参考図書】

アメリカ外交の基本を知るために、高畑昭男著『世界の警察官をやめたアメリカ』（ウェッジ、2015年）は必読書である。本書を通読し、自ら考える材料とする。この他にも、アメリカ外交に関する内外の著作、英語文献、HPなどに目を通しておきたい。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

全ての授業に欠かさず出席することが最大の要件である。成績評価はレポート・課題のできれば60%、受講態度40%をもとに行う。期末試験はしない。無断欠席は厳禁とする。全員が100%の出席率を達成するように、厳しく指導する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席率を最重視する。無断欠席はいわずもがなであり、全回出席することが肝要である。ゼミの中心は自由研究にある。好奇心、探究心を養い、進んで研究テーマを発掘する意欲が大切だ。チーム研究では協調性やチームワークも問われる。

【履修上の心得】

研究テーマの設定は自由であり、自ら楽しんで調査研究する心を持ってチャレンジすることが大切だ。アメリカと世界の動き、例えば中国やロシアなどとの関係、日米関係などについて日ごろから関心を高め、日々のニュースに目を通し、大きな流れをつかむことが大切である。

【科目のレベル、前提科目など】

入門編。基本的な理解から始めて、徐々に内容を掘り下げていきたい。

科目名	ゼミナール I-2 (高畑)
	アメリカ外交と世界 II
教員名	高畑 昭男

【授業の内容】

現代アメリカの外交・安全保障政策についてさらに掘り下げて研究を進める。20世紀後半と同様に、21世紀の世界においてもアメリカの外交・安全保障政策は同盟国・日本を含む世界のあらゆる地域に影響を与えている。だが、そのアメリカは近年、「世界の警察官」役を放棄する姿勢に後退し、その間隙を縫うように、これまでの国際平和秩序を揺るがす国々も台頭しつつある。

アメリカは21世紀にどのような世界秩序を描いているのか。国際社会はアメリカにいかなる役割を求めようとしているのか。アジア最大の同盟国である日本はどのように行動すべきなのか。—こうした基本的な設問を念頭に置いて、アメリカ外交の現状と未来を探っていくことをゼミ後期の最大の目標とする。併せて日米同盟の現状と未来像について考え、日本の平和と繁栄や世界の安全に役立てる方策を探りたい。

前期（ゼミナール I-1）の内容をさらに発展させ、アメリカ外交と世界の歴史、現状、未来について具体例を絞って実証的に考察し、理解を深める。前期と同様、座学は控えめにして、学生諸君が自ら動いて学ぶアクティブ・ラーニングの手法を多用したクラスを展開したい。

2018年は「アメリカ・ファースト（米国第一主義）」や「力による平和」を掲げて登場したドナルド・トランプ政権の2年目である。アメリカ外交と世界がどのように動いていくか、トランプ大統領の下でアメリカがどんな方向をめざしていくのかに注目し、検証を重ねていく。シミュレーション・ゲームの手法を取り入れたミニゲームを行うなど、状況に応じて4年生ゼミに備えた演習も展開していきたい。

【到達目標】

1. アメリカの外交・安全保障政策の概要、歴史、特徴などを理解する。
2. 時代ごとにアメリカが世界の中でいかに行動し、影響を与えてきたかを実証的に探る。
3. アメリカが21世紀に向けてどんな外交・安全保障政策をめざしているかを探る。
4. シミュレーション・ゲームの初歩を理解する。

【授業計画】

- 第1回 外交とパワー。パワーとは何か。ハードパワーとソフトパワー。後期課題「10大事件プロジェクト」の説明と手ほどき。
- 第2回 アメリカの行動と世界の歴史。歴代大統領は危機に直面して、どのように行動したか。
- 第3回 国益と国際社会への責任。トランプ大統領が掲げる「アメリカ・ファースト」とは何か。「力による平和」とはどのような概念か。
- 第4回 アメリカ外交を動かす人々。大統領、國務長官、国家安全保障補佐官、国防長官などの役割と権限の説明。
- 第5回 世界のパワー構造。パワーポリティクス（権力政治）と相互依存。ホッブス、カント、スミスの理論。
- 第6回 世界のパワー構造。1極世界と多極世界のモデルを利用して考える。
- 第7回 アメリカの世界戦略はどのようにつくられるか。国家安全保障戦略報告。トランプ政権の報告の概要。
- 第8回 「世界の警察官をやめたアメリカ」の熟読と内容の理解。
- 第9回 「世界の警察官をやめたアメリカ」の熟読と内容の理解。
- 第10回 「世界の警察官をやめたアメリカ」の熟読と内容の理解。
- 第11回 「世界の警察官をやめたアメリカ」の熟読と内容の理解。
- 第12回 「世界の警察官をやめたアメリカ」の熟読と内容の理解。
- 第13回 シミュレーション・ゲームの初歩。その概念、目的、実践手法などについて説明する。チームを編成し、比較的簡単な危機シナリオに沿ってミニゲームを行う。
- 第14回 後期課題のプレゼンテーション。
- 第15回 後期課題のプレゼンテーション（続き）と討論。全体のまとめと反省。

第二次大戦後、東西冷戦が深まる中でアメリカは国際連合を中心とする主要な国際機関を創設・整備していく指導力を発揮した。西側陣営の名手としてソ連共産主義の拡張を阻止し、国際金融システム、集団安全保障体制、核不拡散体制など現在の国際平和秩序の基礎を築いた。自ら「世界の警察官」の役割を担いながら、国際社会を指導してきた。

しかし、オバマ大統領が2013年、「世界の警察官」役を放棄したのに続いて、「米国第一主義」を掲げるドナルド・トランプ大統領も同様の立場を踏襲する構えを見せ、世界秩序はかつてない変化にさらされつつある。20世紀後半以降の国際平和秩序を支持し、自由・民主主義・人権などの価値を共有する諸国に対して、トランプ政権が2017年末に公表した「アメリカの国家安全保障戦略」報告は、中国、ロシアなどの国々が「既存の世界秩序にとって代わるために現状変更をめざしている」と指摘している。「世界の警察官」を放棄した後の世界情勢を理解するために、後期は高畑著書「世界の警察官をやめたアメリカ」を熟読する。

こうした現状を踏まえながら、アメリカ外交の理念と現実について学び、21世紀の今、アメリカと国際社会がどのような課題に直面しているかを考えていく。「アメリカの世紀」と呼ばれた20世紀から「アジア太平洋の世紀」と呼ば

れる21世紀への変化をたどる中で、中国の台頭や北朝鮮問題といった問題や課題にどう向き合うかについても詳しく見ていきたい。

アメリカと欧州、中東の現状、中国やロシアなどとの関わりについても考える。アメリカの掲げる自由、民主主義、人権、市場経済といった価値がどのように政治・外交に反映されているかを探る。また、日本とアメリカの同盟関係や日本の安全保障のあり方についても学び、21世紀のアジア太平洋の平和と安全にどう生かしていくかを考えていく態度を養っていきたい。

【授業の進め方】

1. アメリカ外交の大きな流れや特徴を理解するために、高畑の著書を熟読する。
2. 日々の動きを新聞、雑誌記事などから拾い集めて検討する。
3. シミュレーション・ゲームの初歩を体験する。アメリカ外交の実際を疑似体験的に学ぶ。
4. アメリカと世界の長期的未来を想定し、見通しを考える。
5. 後期課題の調査研究に取り組み、結果をプレゼンする。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

とくに指定しない。

【参考図書】

アメリカ外交の基本を知るために、高畑昭男著『世界の警察官をやめたアメリカ』を熟読する。他にアメリカ外交や日米安全保障に関する内外の著作、英語文献、HPなどにも広く目を通しておきたい。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

全回出席することを最大の目標としたい。成績評価はレポート・課題の内容60%、平常点（出席状況、討論、受講態度を含む）40%をもとに行う。期末試験はしない。無断欠席は厳禁。欠席すると全体の流れについていけず、チームにも迷惑となる。全員出席率100%をめざしてもらいたい。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席率を重視する。無断欠席が許されないのはいわずもがなであり、全回出席するよう努力することが肝要である。ゼミでは自由研究やプレゼンなどチーム作業が大きな比率を占める。好奇心、探究心、チャレンジ精神を養い、チーム作業では協調性やチームワークも問われる。

【履修上の心得】

研究テーマの設定は自由なので、楽しみながら調査研究する心を持ってチャレンジしたい。アメリカと世界の動きについて普段から関心を高め、日々のニュースに目を通し、大きな流れをつかむ努力が大切である。

【科目のレベル、前提科目など】

入門編ではあるが、前期(ゼミナール I-1) 合格者を対象とし、さらに高度な内容へ進む。アメリカ外交と日米同盟の重要性の認識を深める。

科目名	ゼミナール I-1 (范)
教員名	范 力

【授業の内容】

1、中国について考える

詳細は以下の通りである。

- ①、改革開放政策とは何か？それをきっかけに中国はどう変わったか？
- ②、中国経済成長の原因は？中国からの留学生の意見を聞いてみたい。
- ③、中国は多民族国家であるが、漢民族と少数民族との関係は？日本は単一民族国家か？
- ④、中国大陆と香港やマカオ及び台湾との関係は？台湾留学ってどんな感じ？
- ⑤、長い歴史の中で、中国はいかに文明を構築し、また、なぜ挫折したか？そして、今日の中国の台頭をどう理解すればよいか？
- ⑥、ヨーロッパの面積に匹敵する広大な国土をどうやって治めてきたか？中国政府・共産党と国民との関係は？
- ⑦、中国は日本との関係は？中華料理、尖閣諸島、歴史認識、爆買い、一带一路、シェア経済、パンダ等について考える。
- ⑧、中国社会の抱えている問題（環境問題、格差問題、知的財産権問題、腐敗問題）・課題、そして中国の行方は？

2、白鷗大学で「留学」を体験すること

3、食事会

4、合宿（これまで国内外合宿経験あり）

5、ゼミ生の興味あることについて

6、その他

【到達目標】

- 1、中国への理解を深めること
- 2、ゼミ生の視野を広げること
- 3、コミュニケーション能力をつけること
- 4、就職に有利あること
- 5、中華料理を食べること
- 6、中国語を応用し、留学を準備すること

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 1、尖閣諸島について（プレゼンのテーマ。以下同じ）
2、ディベート（ゼミ生がテーマを考えてもらう。以下同じ）
- 第3回 1、日中の歴史認識について
2、ディベート
- 第4回 1、改革開放政策と中国の高度経済成長
2、ディベート
- 第5回 1、多民族国家と少数民族の位置づけ
2、ディベート
- 第6回 1、一国二制度と香港・マカオ返還と台湾問題
2、ディベート
- 第7回 1、パンダについて
2、ディベート
- 第8回 1、中国文明と四大発明
2、ディベート
- 第9回 1、中国近代史を学ぶ
2、ディベート
- 第10回 1、中国の台頭を理解するために
2、ディベート
- 第11回 1、中国政府はいかに中国を治めてきたか？
2、ディベート
- 第12回 1、中国政府・共産党と国民との関係は？
2、ディベート
- 第13回 1、中華料理と観光スポット

- 2、ディベート
第14回 1、中国の問題点と課題
2、ディベート
第15回 まとめ・到達目標チェック

自分の興味あること、あるいは与えられた課題について調査研究する。そのうえで、発表する。
また、プレゼンやディベートなどを通じて中国への理解を深めるとともに、様々な力をつけていきたい。

【授業の進め方】

プレゼン、ディベート、ディスカッション、ビデオ鑑賞、輪読、パソコン使用授業。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

授業において指示、配布する。

【参考図書】

范力編著『民主主義を相対化する中国』時潮社、2016年

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 70% レポート・課題 20% 受講態度 10%

特記事項

プレゼン、ディベート、ディスカッションを重視する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

プレゼンやディベート、ディスカッションなどから総合的に評価する。

「具体的な評価方法・基準及び評価比率」の「授業内小テスト70%」はプレゼン40%+ディベート30%になります。

【履修上の心得】

プレゼンやディベートなどをしっかりやること

【科目のレベル、前提科目など】

関係授業の履修が望ましい

科目名	ゼミナールI-2 (范)
教員名	范 力

【授業の内容】

授業内容は次の通りである。

- 1、日中はここが違う
- 2、「反日教育」について
- 3、中国のパクリについて
- 4、中国が見た日米同盟
- 5、国際情勢と日中関係
- 6、民主主義を相対化する中国
- 7、「三国志演義」動画を見る
- 8、現代中国（「鄧小平秘録」）を読む
- 9、中国モデルとは何か
- 10、中国主導の「新秩序」とは
- 11、中国の抱えている問題と中国の行方について考える
- 12、中国とどう付き合えば良いか
- 13、中華料理を楽しむ
- 14、ゼミ生の興味ある課題について
- 15、まとめ

【到達目標】

- 1、中国への理解を深めること
- 2、ゼミ生の視野を広げること
- 3、コミュニケーション能力をつけること
- 4、問題意識を育成すること
- 5、中華料理を食べること
- 6、就職に有利であること

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 1、日中はここが違う（プレゼンのテーマ。以下同じ）
2、ディベート（ゼミ生がテーマを考えてもらう。以下同じ）
- 第3回 1、「反日教育」と爆買いについて
2、ディベート
- 第4回 1、中国の学習とパクリとについて
2、ディベート
- 第5回 1、中国が見た日米同盟と日米から見た中国
2、ディベート
- 第6回 1、一带一路と日中関係
2、ディベート
- 第7回 「民主主義を相対化する中国」を読む
- 第8回 1、三国志演義「動画を見る」
2、ディベート
- 第9回 ゼミ説明会に参加
- 第10回 1、中国モデルと北京コンセンサス
2、ディベート
- 第11回 1、中国とどう付き合えば良いか
2、ディベート
- 第12回 先輩による就活経験談
- 第13回 1、中国の抱えている課題と中国の行方
2、ディベート
- 第14回 1、中国食文化見学会
2、ディベート
- 第15回 まとめ・目標達成かチェック

自分の興味あること、あるいは与えられた課題について調査研究する。そのうえで、発表する。プレゼンやディスカッションなどを通じて中国への理解を深めるとともに、様々な力をつけていきたい。

【授業の進め方】

プレゼン、ディスカッション、ディベート、パソコン使用授業、輪読

【教科書(必ず購入すべきもの)】

授業において指示、配布する

【参考図書】

范力編著『民主主義を相対化する中国』時潮社、2016年

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 70% レポート・課題 20% 受講態度 10%

特記事項

プレゼン、ディスカッション、ディベートを重視する

【「成績評価の方法」に関する注意点】

プレゼンやディスカッション、ディベートなどから総合的に評価する。

「具体的な評価方法・基準及び評価比率」の「授業内小テスト」70%はプレゼン40%+ディベート30%になります。

【履修上の心得】

プレゼンやディベートなどをしっかりやること

【科目のレベル、前提科目など】

関連科目の履修が望ましい

科目名	ゼミナール I-1 (菅野)
	クリエイティブビジネスの研究—魅力的なコンテンツを作る法—
教員名	菅野 嘉則

【授業の内容】

デジタル技術の目覚ましい進歩によって、メディアが転機を迎えています。世界中のコンピューターがネットワークで結ばれることで、コミュニケーションの方法が一変し、メディアビジネスの根幹が揺らいでいるのです。

かつてメディアと言えば、ポストに配達された新聞、書店に並べられた本、レコード店に陳列されたCD、決まった日時に放送されるテレビ番組…といったものでした。ところがいつの間にか、スマホさえあれば、ニュースや、小説、音楽、ドラマをいつでもどこでも楽しむことができ、それどころか、即座に他の人々と情報交換することも可能になりました。

こうなった理由は、驚くべきスピードでコンピューターの処理能力が向上し、情報処理コストが激減したからです。遠からず、誰もが瞬時に大量の情報を送受信できるようになり、その影響はビジネスやライフスタイル全般に及んで、同時にメディアという概念も変わることでしょう。メディアは情報を送り届けてくれるものではなく、自ら使いこなすものと認識され、一部の人がコンテンツを独占する時代は終わりを告げるのです。

これからはあらゆる業種のあらゆる企業や組織が、コンテンツを発信するメディア産業としての側面を持つようになります。どんな仕事に就くにせよ、商品やサービスを広め、ユーザーの特性を知り、話題になるよう工夫し、マネタイズしてゆくために、メディアを活用しなければなりません。そのために必要なのは、人を惹きつける技術です。さまざまなメッセージを、言葉や音楽、映像などを駆使して、効率的に伝達し、受け手の感情を刺激するのです。

そんな人々の熱狂を生み出すコンテンツとはどんなものでしょうか？ みなさんは何に共感し、何を面白いと感じるのでしょうか？

本ゼミでは、「キャラクター」と「ストーリー」というコンテンツの2つの要素に着目し、魅力的なコンテンツの秘密に迫ります。一緒に、人々を虜にするコンテンツ作りを学び、これからのメディア社会を生き抜く力を身につけましょう。こうしたゼミでの活動は、企業や組織で働く疑似体験となり、仕事をする上で必要な力を身につける手助けとなるはずです。

【到達目標】

大学生が、社会に出て真っ先に必要になることは3つあります。

- ①はっきりした目的を持つこと
- ②自分たちの活動を分析できること
- ③グループで努力向上すること

本ゼミへの参加を通して、学生諸氏は

- ・作品の解析や制作という目標を設定し、
- ・表現と技術を理解して、自らの能力を活かし、
- ・お互い協力しながら、適切にリーダーシップを発揮することができるでしょう。

【授業計画】

第1回	アニメシリーズ分析	学習課題：シリーズの各話構成（～4時間）
第2回	アニメシリーズ分析	学習課題：シリーズの各話構成（～4時間）
第3回	アニメシリーズ分析	学習課題：シリーズの各話構成（～4時間）
第4回	アニメシリーズ分析	学習課題：シリーズの各話構成（～4時間）
第5回	アニメシリーズ分析	学習課題：シリーズの各話構成（～4時間）
第6回	アニメシリーズ分析	学習課題：シリーズの各話構成（～4時間）
第7回	アニメシリーズ分析	学習課題：シリーズの各話構成（～4時間）
第8回	アニメシリーズ分析	学習課題：シリーズの各話構成（～4時間）
第9回	アニメシリーズ分析	学習課題：シリーズの各話構成（～4時間）
第10回	アニメシリーズ分析	学習課題：シリーズの各話構成（～4時間）
第11回	アニメシリーズ分析	学習課題：シリーズの各話構成（～4時間）
第12回	オリジナルコンテンツ制作	学習課題：クリエイティブ・テクノロジー習得（～4時間）
第13回	オリジナルコンテンツ制作	学習課題：クリエイティブ・テクノロジー習得（～4時間）
第14回	オリジナルコンテンツ制作	学習課題：クリエイティブ・テクノロジー習得（～4時間）
第15回	オリジナルコンテンツ制作	学習課題：クリエイティブ・テクノロジー習得（～4時間）

デジタル化の進展によって、制作者のイメージ通りに映像を設計し、描写し、加工することが可能になりました。いわば、映像は“アニメ化”したのです。本ゼミでは、アニメーションの歴史と表現を理解した上で、実際のコンテンツ制作を通して、将来のクリエイティブビジネスを展望します。

【授業の進め方】

全体テーマ「アニメーション映像表現」についての調査と分析を通してコンテンツの構造を学びながら、企画書作成、ディスカッションを通じた作品づくりと、コンテンツの企画から完成までのプロジェクトマネジメントを実践します。ゲーム制作に欠かせないモーションキャプチャー、フェイシャルキャプチャー等の最新技術を活用したCGアニメーションやVR（バーチャル・リアリティ）、ドローンによる特殊撮影、産業界で注目されている3Dプリンタを用いたフィギュア造型にも挑戦できます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

指定教科書はありませんが、映像作品を教材として活用します。

【参考図書】

『映画を書くためにあなたがしなくてはならないこと シド・フィールドの脚本術』シド・フィールド（フィルムアート社・2009年・ISBN-10: 4845909278）2700円

『SAVE THE CATの法則 本当に売れる脚本術』ブレイク・スナイダー（フィルムアート社・2010年・ISBN-10: 484591056X）2376円

『シナリオの基礎技術』新井一（ダヴィッド社・2010年・ISBN-10: 4804801758）1620円

『アニメーション教科書～アニメーターのための演技術～』Ed Hooks（ボーンデジタル・2006年・ISBN-10: 4862460046）1200～4320円

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

【履修上の心得】

ものづくりを通して、創造的な活動への理解を深め、社会性を身につけたい学生に適しています。なお、最新のコンテンツ制作を学ぶための推奨科目は以下の通りです。

I Tメディア論 I → I Tメディア論 II → メディア制作演習 I（アニメ）→メディア制作演習 II（アニメ）→メディア制作（3Dプリント）→菅野ゼミナール I →菅野ゼミナール II

【科目のレベル、前提科目など】

Windowsのアプリケーションを操作できる、または習得する意思があること。I Tメディア論とメディア制作演習（アニメ）を受講していることが望ましい。履修推奨年次は3年です。

科目名	ゼミナール I-2 (菅野)
	クリエイティブビジネスの研究—魅力的なコンテンツを作る法—
教員名	菅野 嘉則

【授業の内容】

デジタル技術の目覚ましい進歩によって、メディアが転機を迎えています。世界中のコンピューターがネットワークで結ばれることで、コミュニケーションの方法が一変し、メディアビジネスの根幹が揺らいでいるのです。

かつてメディアと言えば、ポストに配達された新聞、書店に並べられた本、レコード店に陳列されたCD、決まった日時に放送されるテレビ番組…といったものでした。ところがいつの間にか、スマホさえあれば、ニュースや、小説、音楽、ドラマをいつでもどこでも楽しむことができ、それどころか、即座に他の人々と情報交換することも可能になりました。

こうなった理由は、驚くべきスピードでコンピューターの処理能力が向上し、情報処理コストが激減したからです。遠からず、誰もが瞬時に大量の情報を送受信できるようになり、その影響はビジネスやライフスタイル全般に及んで、同時にメディアという概念も変わることでしょう。メディアは情報を送り届けてくれるものではなく、自ら使いこなすものと認識され、一部の人がコンテンツを独占する時代は終わりを告げるのです。

これからはあらゆる業種のあらゆる企業や組織が、コンテンツを発信するメディア産業としての側面を持つようになります。どんな仕事に就くにせよ、商品やサービスを広め、ユーザーの特性を知り、話題になるよう工夫し、マネタイズしてゆくために、メディアを活用しなければなりません。そのために必要なのは、人を惹きつける技術です。さまざまなメッセージを、言葉や音楽、映像などを駆使して、効率的に伝達し、受け手の感情を刺激するのです。

そんな人々の熱狂を生み出すコンテンツとはどんなものでしょうか？ みなさんは何に共感し、何を面白いと感じるのでしょうか？

本ゼミでは、「キャラクター」と「ストーリー」というコンテンツの2つの要素に着目し、魅力的なコンテンツの秘密に迫ります。一緒に、人々を虜にするコンテンツ作りを学び、これからのメディア社会を生き抜く力を身につけましょう。こうしたゼミでの活動は、企業や組織で働く疑似体験となり、仕事をする上で必要な力を身につける手助けとなるはずです。

【到達目標】

大学生が、社会に出て真っ先に必要になることは3つあります。

- ①はっきりした目的を持つこと
- ②自分たちの活動を分析できること
- ③グループで努力向上すること

本ゼミへの参加を通して、学生諸氏は

- ・作品の解析や制作という目標を設定し、
- ・表現と技術を理解して、自らの能力を活かし、
- ・お互い協力しながら、適切なリーダーシップを発揮することができるでしょう。

【授業計画】

第1回	オリジナルコンテンツ制作	学習課題：クリエイティブ・テクノロジー習得（～4時間）
第2回	オリジナルコンテンツ制作	学習課題：クリエイティブ・テクノロジー習得（～4時間）
第3回	オリジナルコンテンツ制作	学習課題：クリエイティブ・テクノロジー習得（～4時間）
第4回	オリジナルコンテンツ制作	学習課題：クリエイティブ・テクノロジー習得（～4時間）
第5回	オリジナルコンテンツ制作	学習課題：クリエイティブ・テクノロジー習得（～4時間）
第6回	ブースト会議	学習課題：プロジェクト・マネジメント（～4時間）
第7回	長編分析	学習課題：キャラクターの行動と情動（～4時間）
第8回	長編分析	学習課題：キャラクターの行動と情動（～4時間）
第9回	長編分析	学習課題：キャラクターの行動と情動（～4時間）
第10回	長編分析	学習課題：キャラクターの行動と情動（～4時間）
第11回	長編分析	学習課題：キャラクターの行動と情動（～4時間）
第12回	長編分析	学習課題：キャラクターの行動と情動（～4時間）
第13回	長編分析	学習課題：キャラクターの行動と情動（～4時間）
第14回	長編分析	学習課題：キャラクターの行動と情動（～4時間）
第15回	長編分析	学習課題：キャラクターの行動と情動（～4時間）

デジタル化の進展によって、制作者のイメージ通りに映像を設計し、描写し、加工することが可能になりました。いわば、映像は“アニメ化”したのです。本ゼミでは、アニメーションの歴史と表現を理解した上で、実際のコンテンツ制作を通して、将来のクリエイティブビジネスを展望します。

【授業の進め方】

全体テーマ「アニメーション映像表現」についての調査と分析を通してコンテンツの構造を学びながら、企画書作成、ディスカッションを通じた作品づくりと、コンテンツの企画から完成までのプロジェクトマネジメントを実践します。ゲーム制作に欠かせないモーションキャプチャー、フェイシャルキャプチャー等の最新技術を活用したCGアニメーションやVR（バーチャル・リアリティ）、ドローンによる特殊撮影、産業界で注目されている3Dプリンタを用いたフィギュア造型にも挑戦できます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

指定教科書はありませんが、映像作品を教材として活用します。

【参考図書】

『映画を書くためにあなたがしなくてはならないこと シド・フィールドの脚本術』シド・フィールド（フィルムアート社・2009年・ISBN-10: 4845909278）2700円

『SAVE THE CATの法則 本当に売れる脚本術』ブレイク・スナイダー（フィルムアート社・2010年・ISBN-10: 484591056X）2376円

『シナリオの基礎技術』新井一（ダヴィッド社・2010年・ISBN-10: 4804801758）1620円

『アニメーション教科書～アニメーターのための演技術～』Ed Hooks（ボーンデジタル・2006年・ISBN-10: 4862460046）1200～4320円

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

【履修上の心得】

ものづくりを通して、創造的な活動への理解を深め、社会性を身につけたい学生に適しています。なお、最新のコンテンツ制作を学ぶための推奨科目は以下の通りです。

I Tメディア論 I → I Tメディア論 II → メディア制作演習 I（アニメ） → メディア制作演習 II（アニメ） → メディア制作（3Dプリント） → 菅野ゼミナール I → 菅野ゼミナール II

【科目のレベル、前提科目など】

Windowsのアプリケーションを操作できる、または習得する意思があること。I Tメディア論とメディア制作演習（アニメ）を受講していることが望ましい。履修推奨年次は3年です。

科目名	ゼミナールI-1 (青崎)
	コミュニケーションビジネス研究
教員名	青崎 智行

【授業の内容】

わたしたちの暮らしや企業のマーケティング活動、そして地域おこしや国家のイメージアップにいたるまでコミュニケーション産業は幅広く現代社会のなかで浸透し影響を及ぼしている。このゼミでは、広告、メディア（放送局、新聞社、インターネット等）・コンテンツ（映画、テレビ番組、アニメ、音楽等）などの分野を中心とした研究を行う。コミュニケーション産業の裾野は多岐にわたるため、ゼミ生自身の自主性を尊重しながら最新のトピックやオリジナリティのあるテーマを扱う。

【到達目標】

基本的な文献の読解、情報の収集・活用、レジュメの作成・発表、ディスカッション、グループワーク、夏合宿の企画・運営、プレゼンテーションや卒業論文の作成・発表などの活動を行うことで、社会人として将来役に立つスキルを習得することも重要な課題に掲げながらゼミを進めていく。このゼミを通じて学生ひとりひとりが思考力や分析力、そして何よりもコミュニケーション能力を高めていけるようにしたい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究テーマに関する報告と討論①
- 第3回 研究テーマに関する報告と討論②
- 第4回 研究テーマに関する報告と討論③
- 第5回 研究テーマに関する報告と討論④
- 第6回 研究テーマに関する報告と討論⑤
- 第7回 研究テーマに関する報告と討論⑥
- 第8回 研究テーマに関する報告と討論⑦
- 第9回 研究テーマに関する報告と討論⑧
- 第10回 研究テーマに関する報告と討論⑨
- 第11回 研究テーマに関する報告と討論⑩
- 第12回 研究テーマに関する報告と討論⑪
- 第13回 研究テーマに関する報告と討論⑫
- 第14回 研究テーマに関する報告と討論⑬
- 第15回 研究テーマに関する報告と討論⑭

【教科書(必ず購入すべきもの)】

ゼミ生の興味・関心に応じて指示する。

【参考図書】

情報メディア白書、デジタルコンテンツ白書等の関連資料（講義中に指示する）。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

ゼミ活動全般に対する貢献、発表や作成レポートの内容などにより総合的に評価する。

【履修上の心得】

普段から自主性、積極性をもって自身の興味対象分野に対する情報収集を行い、自らの問題意識を高めながらゼミに参画すること。

科目名	ゼミナールI-2 (青崎)
	コミュニケーションビジネス研究
教員名	青崎 智行

【授業の内容】

わたしたちの暮らしや企業のマーケティング活動、そして地域おこしや国家のイメージアップにいたるまでコミュニケーション産業は幅広く現代社会のなかで浸透し影響を及ぼしている。このゼミでは、広告、メディア（放送局、新聞社、インターネット等）・コンテンツ（映画、テレビ番組、アニメ、音楽等）などの分野を中心とした研究を行う。コミュニケーション産業の裾野は多岐にわたるため、ゼミ生自身の自主性を尊重しながら最新のトピックやオリジナリティのあるテーマを扱う。

【到達目標】

基本的な文献の読解、情報の収集・活用、レジュメの作成・発表、ディスカッション、グループワーク、夏合宿の企画・運営、プレゼンテーションや卒業論文の作成・発表などの活動を行うことで、社会人として将来役に立つスキルを習得することも重要な課題に掲げながらゼミを進めていく。このゼミを通じて学生ひとりひとりが思考力や分析力、そして何よりもコミュニケーション能力を高めていけるようにしたい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究テーマに関する報告と討論①
- 第3回 研究テーマに関する報告と討論②
- 第4回 研究テーマに関する報告と討論③
- 第5回 研究テーマに関する報告と討論④
- 第6回 研究テーマに関する報告と討論⑤
- 第7回 研究テーマに関する報告と討論⑥
- 第8回 研究テーマに関する報告と討論⑦
- 第9回 研究テーマに関する報告と討論⑧
- 第10回 研究テーマに関する報告と討論⑨
- 第11回 研究テーマに関する報告と討論⑩
- 第12回 研究テーマに関する報告と討論⑪
- 第13回 研究テーマに関する報告と討論⑫
- 第14回 研究テーマに関する報告と討論⑬
- 第15回 研究テーマに関する報告と討論⑭

【教科書(必ず購入すべきもの)】

ゼミ生の興味・関心に応じて指示する。

【参考図書】

情報メディア白書、デジタルコンテンツ白書等の関連資料（講義中に指示する）。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

ゼミ活動全般に対する貢献、発表や作成レポートの内容などにより総合的に評価する。

【履修上の心得】

普段から自主性、積極性をもって自身の興味対象分野に対する情報収集を行い、自らの問題意識を高めながらゼミに参画すること。

科目名	ゼミナール I-1 (西谷)
教員名	西谷 勢至子

【授業の内容】

本ゼミナールの目的は、組織論や戦略論といった経営学の理論的研究の成果を学ぶことで、ゼミ生が自ら関心を持った経営事象に対し、その背景、ないしはその現象を規定するメカニズムを理解し、予測するための枠組み、あるいはその現象に対する対応を考えるための枠組みを持てるようにすることにある。

【到達目標】

- ・組織や戦略に関わる基本的な理論を理解する
- ・(研究をする力を養うことを目的に) 組織や戦略に関わる文章表現力・まとめる力を向上させる
- ・プレゼンテーション能力とディスカッション能力を高める

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス (予習60分)
- 第2回 輪読と文章の要約、ディスカッション① (復習10分、予習60分)
- 第3回 輪読と文章の要約、ディスカッション② (復習10分、予習60分)
- 第4回 輪読と文章の要約、ディスカッション③ (復習10分、予習60分)
- 第5回 輪読と文章の要約、ディスカッション④ (復習10分、予習60分)
- 第6回 輪読と文章の要約、ディスカッション⑤ (復習10分、予習60分)
- 第7回 輪読と文章の要約、ディスカッション⑥ (復習10分、予習60分)
- 第8回 輪読と文章の要約、ディスカッション⑦ (復習10分、予習60分)
- 第9回 輪読と文章の要約、ディスカッション⑧ (復習10分、予習60分)
- 第10回 輪読と文章の要約、ディスカッション⑨ (復習10分、予習60分)
- 第11回 輪読と文章の要約、ディスカッション⑩ (復習10分、予習60分)
- 第12回 輪読と文章の要約、ディスカッション⑪ (復習10分、予習60分)
- 第13回 輪読と文章の要約、ディスカッション⑫ (復習10分、予習60分)
- 第14回 輪読と文章の要約、ディスカッション⑬ (復習10分、予習60分)
- 第15回 総括 (復習60分)

【授業の進め方】

前半は文献の輪読、後半は専門書の一節や論文、経済雑誌等の要約課題に取り組む。文献の輪読は発表者と司会者を決め、発表者は事前にレジюмеを作成し、報告を行う。授業は質疑応答形式で進め、ディスカッションも重視する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

ゼミ生の関心に応じて決定する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

- ・「レポート」：文献の輪読で担当した報告内容による評価 (20%) と毎授業ごとに実施する要約課題提出による評価 (30%)
- ・「受講態度」：授業への取り組み、質疑応答の熱心さ

【履修上の心得】

- ・文献の輪読は担当していない部分でも、できるだけ事前に読んでおくこと
- ・要約課題は成果を実感するまでに時間を要すると考えられるが、粘り強く取り組むこと
- ・他のゼミ生と共に成長しようという意欲を持って授業にのぞむこと

科目名	ゼミナール I - 2 (西谷)
教員名	西谷 勢至子

【授業の内容】

本ゼミナールの目的は、組織論や戦略論といった経営学の理論的研究の成果を学ぶことで、ゼミ生が自ら関心を持った経営事象に対し、その背景、ないしはその現象を規定するメカニズムを理解し、予測するための枠組み、あるいはその現象に対する対応を考えるための枠組みを持てるようにすることにある。

【到達目標】

- ・組織や戦略に関わる基本的な理論を説明できる
- ・(研究をする力を養うことを目的に) 組織や戦略に関わる文章表現力・まとめる力を向上させる
- ・プレゼンテーション能力とディスカッション能力を高める
- ・自らの研究テーマを設定する

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス (予習60分)
- 第2回 輪読と文章の要約、ディスカッション① (復習10分、予習50分)
- 第3回 輪読と文章の要約、ディスカッション② (復習10分、予習50分)
- 第4回 輪読と文章の要約、ディスカッション③ (復習10分、予習50分)
- 第5回 輪読と文章の要約、ディスカッション④ (復習10分、予習50分)
- 第6回 輪読と文章の要約、ディスカッション⑤ (復習10分、予習50分)
- 第7回 輪読と文章の要約、ディスカッション⑥ (復習10分、予習50分)
- 第8回 輪読と文章の要約、ディスカッション⑦ (復習10分、予習50分)
- 第9回 輪読と文章の要約、ディスカッション⑧ (復習10分、予習50分)
- 第10回 輪読と文章の要約、ディスカッション⑨ (復習10分、予習50分)
- 第11回 輪読と文章の要約、ディスカッション⑩ (復習10分、予習50分)
- 第12回 輪読と文章の要約、ディスカッション⑪ (復習10分、予習50分)
- 第13回 輪読と文章の要約、ディスカッション⑫ (復習10分、予習50分)
- 第14回 輪読と文章の要約、ディスカッション⑬ (復習10分、予習50分)
- 第15回 総括 (復習60分)

【授業の進め方】

前半は文献の輪読、後半は専門書の一節や論文、経済雑誌等の要約課題に取り組む。文献の輪読は発表者と司会者を決め、発表者は事前にレジюмеを作成し、報告を行う。授業は質疑応答形式で進め、ディスカッションも重視する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

ゼミ生の関心に応じて決定する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

- ・「レポート」：文献の輪読で担当した報告内容による評価 (20%) と毎授業ごとに実施する要約課題提出による評価 (30%)
- ・「受講態度」：授業への取り組み、質疑応答の熱心さ

【履修上の心得】

- ・文献の輪読は担当していない部分でも、できるだけ事前に読んでおくこと
- ・要約課題は成果を実感するまでに時間を要すると考えられるが、粘り強く取り組むこと
- ・他のゼミ生と共に成長しようという意欲を持って授業にのぞむこと

科目名	ゼミナールI-1 (元田)
	テレビ研究と映像制作
教員名	元田 成

【授業の内容】

このゼミでは、①映像作品制作 ②テレビ研究 の2つに取り組みます。

①作品制作は、YouTube的動画、ドキュメンタリー、バラエティ、ドラマ、ミュージックビデオ、面白映像、コマーシャルなど何でもあります。まずは、実現可能なものからスタートするのがいいと考えます。制作に関しては、カメラや編集ソフトなどの機材・設備の使い方を授業で習うことになります。グループで作品を作る際には、企画、表現、手法を議論して絞り込み、共同作業で作品完成という目標に向かって試行錯誤を重ねます。それが創造の苦しさであり、楽しさであることを実感してもらいたいと思います。

②研究のテーマは、個人差が激しく、ジャニーズの特定のメンバーを徹底分析する人もいれば、音楽番組、アニメ、ドキュメンタリーを取り上げる人もいます。最初は自分が本当に好きな作品や人物を取り上げると個性的な研究ができるかもしれません。このほか研究テーマとして思いつく例は、「魅力を感じる番組の表現方法の秘密」「ネットと融合したテレビの可能性を探る」「若者のテレビ離れ」など無限にあります。

【到達目標】

テレビ放送と制作の仕組みや技術を理解し、実際に撮影やパソコンの編集ができるようになります。作品を企画・制作することでソフト制作の楽しさや魅力を体感し、創造力、表現力、感性、チームワークを習得します。研究発表することで、ひとつのことを追求して分析したり、わかりやすく表現する力を身につけます。

メディア志望の学生にとっては、進路決定や就職活動のプラスになります。一般企業に就職する人にとっても、ソフト制作の共同作業の経験が将来の仕事や生活の役に立つ場面があるとおもいます。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス、過去の作品と研究を紹介
- 第2回 作品企画案提出と検討
- 第3回 各自研究テーマ提出
- 第4回 作品企画案の決定
- 第5回 カメラ講習
- 第6回 作品の取材撮影①
- 第7回 取材撮影②
- 第8回 取材撮影③
- 第9回 取材撮影④
- 第10回 編集の講習
- 第11回 作品編集①
- 第12回 作品編集②
- 第13回 作品編集③
- 第14回 作品編集④、各自研究の発表①
- 第15回 作品完成発表、各自研究の発表②

【教科書(必ず購入すべきもの)】

プリント、書籍など必要に応じて、配布したり紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

作品制作と研究の出来具合が70%、取り組み姿勢が30%

科目名	ゼミナールI-2 (元田)
	テレビ研究と映像制作
教員名	元田 成

【授業の内容】

このゼミでは、①映像作品制作 ②テレビ研究 の2つに取り組みます。

①作品制作は、YouTube的動画、ドキュメンタリー、バラエティ、ドラマ、ミュージックビデオ、面白映像、コマーシャルなど何でもあります。まずは、実現可能なものからスタートするのがいいと考えます。制作に関しては、カメラや編集ソフトなどの機材・設備の使い方を授業で習うことになります。グループで作品を作る際には、企画、表現、手法を議論して絞り込み、共同作業で作品完成という目標に向かって試行錯誤を重ねます。それが創造の苦しさであり、楽しさであることを実感してもらいたいと思います。

②研究のテーマは、個人差が激しく、ジャニーズの特定のメンバーを徹底分析する人もいれば、音楽番組、アニメ、ドキュメンタリーを取り上げる人もいます。最初は自分が本当に好きな作品や人物を取り上げると個性的な研究ができるかもしれません。このほか研究テーマとして思いつく例は、「魅力を感じる番組の表現方法の秘密」「ネットと融合したテレビの可能性を探る」「若者のテレビ離れ」など無限にあります。

【到達目標】

テレビ放送と制作の仕組みや技術を理解し、実際に撮影やパソコンの編集ができるようになります。作品を企画・制作することでソフト制作の楽しさや魅力を体感し、創造力、表現力、感性、チームワークを習得します。研究発表することで、ひとつのことを追求して分析したり、わかりやすく表現する力を身につけます。

メディア志望の学生にとっては、進路決定や就職活動のプラスになります。一般企業に就職する人にとっても、ソフト制作の共同作業の経験が将来の仕事や生活の役に立つ場面があるとおもいます。

【授業計画】

- 第1回 作品企画案と研究テーマを提出
- 第2回 作品企画案検討
- 第3回 作品企画案決定
- 第4回 取材撮影①
- 第5回 取材撮影②
- 第6回 取材撮影③
- 第7回 取材撮影④
- 第8回 個人研究中間報告
- 第9回 作品編集①
- 第10回 作品編集②
- 第11回 作品編集③
- 第12回 作品編集④
- 第13回 各自研究の発表①
- 第14回 各自研究の発表②
- 第15回 作品完成発表

【教科書(必ず購入すべきもの)】

プリント、書籍など必要に応じて、配布したり紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

作品制作と研究の出来具合が70%、取り組み姿勢が30%

科目名	ゼミナール I-1
	グローバルビジネス研究
教員名	鈴木 仁里

【授業の内容】

私たちの日常の暮らしに役立つ製品やサービスを提供することで「豊かさ」をもたらしている国境を越えて活動する多国籍企業は、どのような戦略、マーケティング、マネジメントを行っているのだろうか【実態】。また、そのような多国籍企業活動の仕組みやメカニズムはどのようなものであるか【理論】。私たちなら、新たにどのようなアイデアや解決策を提案できるか【応用】。本ゼミでは、多国籍企業に関わる【実態】【理論】【応用】の往復運動を繰り返しながら、研究論文の作成と発表を行う活動プロセスを通じて、将来、グローバルに活躍するための力を蓄えることを目指すこととする。

【到達目標】

国境を越えて活動する多国籍企業に関する記事や、基本的な文献や論文などの読解、企業へのインタビュー、統計的・定性的分析、論文執筆、プレゼンなどの活動をグループで取り組むプロセスの中で、以下3つの能力を、将来を見据えて身に付けることを目指す。

- ①自ら積極的に取り組む姿勢（自主性）
- ②仲間の考えや価値観を受け入れて共に協力する姿勢（協調性）
- ③国際的な知識や感性、コミュニケーション、経験（国際性）

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション〔授業計画・授業内容・成績評価・到達目標説明、ゼミ活動の全体像把握〕
予習：各自、関心のある研究テーマや構想の発表準備（60分）
- 第2回 関連文献の輪読（プレゼンテーションとディスカッション）
予習：文献熟読と発表資料作成（60分）／復習：文献と資料の再確認（60分）
- 第3回 関連文献の輪読（プレゼンテーションとディスカッション）
予習：文献熟読と発表資料作成（60分）／復習：文献と資料の再確認（60分）
- 第4回 関連文献の輪読（プレゼンテーションとディスカッション）
予習：文献熟読と発表資料作成（60分）／復習：文献と資料の再確認（60分）
- 第5回 関連文献の輪読（プレゼンテーションとディスカッション）
予習：文献熟読と発表資料作成（60分）／復習：文献と資料の再確認（60分）
- 第6回 研究活動報告（プレゼンテーションとディスカッション）
予習：関連文献探索&熟読&発表資料作成（60分）／復習：ディスカッションを踏まえて次週プレゼンテーション準備（60分）
- 第7回 研究活動報告（プレゼンテーションとディスカッション）
予習：関連文献探索&熟読&発表資料作成（60分）／復習：ディスカッションを踏まえて次週プレゼンテーション準備（60分）
- 第8回 研究活動報告（プレゼンテーションとディスカッション）
予習：関連文献探索&熟読&発表資料作成（60分）／復習：ディスカッションを踏まえて次週プレゼンテーション準備（60分）
- 第9回 研究活動報告（プレゼンテーションとディスカッション）
予習：関連文献探索&熟読&発表資料作成（60分）／復習：ディスカッションを踏まえて次週プレゼンテーション準備（60分）
- 第10回 研究活動報告（プレゼンテーションとディスカッション）、夏合宿準備（企業訪問&合同発表会）
予習：関連文献探索&熟読&発表資料作成（60分）／復習：ディスカッションを踏まえて次週プレゼンテーション準備（60分）
- 第11回 研究活動報告（プレゼンテーションとディスカッション）、夏合宿準備（企業訪問&合同発表会）
予習：関連文献探索&熟読&発表資料作成（60分）／復習：ディスカッションを踏まえて次週プレゼンテーション準備（60分）
- 第12回 研究活動報告（プレゼンテーションとディスカッション）、夏合宿準備（企業訪問&合同発表会）
予習：関連文献探索&熟読&発表資料作成（60分）／復習：ディスカッションを踏まえて次週プレゼンテーション準備（60分）
- 第13回 研究活動報告（プレゼンテーションとディスカッション）、夏合宿準備（企業訪問&合同発表会）
予習：関連文献探索&熟読&発表資料作成（60分）／復習：ディスカッションを踏まえて次週プレゼンテーション準備（60分）
- 第14回 研究活動報告（プレゼンテーションとディスカッション）、夏合宿準備（企業訪問&合同発表会）
予習：関連文献探索&熟読&発表資料作成（60分）／復習：ディスカッションを踏まえて次週プレゼンテーション準備（60分）
- 第15回 研究活動報告（プレゼンテーションとディスカッション）、夏合宿準備（企業訪問&合同発表会）
予習：関連文献探索&熟読&発表資料作成（60分）／復習：ディスカッションを踏まえて次週プレゼンテーション準備（60分）

【授業の進め方】

前期は、多国籍企業のグローバルビジネスに関する基礎的文献を確認していく中で、研究テーマの設定と研究活動の進捗、夏合宿準備（企業訪問&合同発表会）を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

① 1からのグローバル・マーケティング ②小田部正明、栗木契、太田一樹編著 ③碩学会 ④2017 ⑤2,592円（税込） ⑥978-4-502-21851-4

必要に応じて参考図書はゼミ内で案内、共有していく。

【参考図書】

「国際マーケティング」(2010)、小田部正明/K・ヘルセン著、栗木契監訳、碩学会

「国際マーケティング講義」(2013)、諸上茂登著、同文館出版

「実践的グローバル・マーケティング」(2017)、大石芳裕著、ミネルヴァ書房

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

毎講義でのグループ発表、ディスカッション、準備から大会発表などへの積極的な姿勢と内容を評価の対象とする。

【履修上の心得】

学生各自による自立した出欠管理と積極的なゼミへの姿勢を求める。

科目名	ゼミナール I -2
	グローバルビジネス研究
教員名	鈴木 仁里

【授業の内容】

私たちの日常の暮らしに役立つ製品やサービスを提供することで「豊かさ」をもたらしている国境を越えて活動する多国籍企業は、どのような戦略、マーケティング、マネジメントを行っているのだろうか【実態】。また、そのような多国籍企業活動の仕組みやメカニズムはどのようなものであるか【理論】。私たちなら、新たにどのようなアイデアや解決策を提案できるか【応用】。本ゼミでは、多国籍企業に関わる【実態】【理論】【応用】の往復運動を繰り返しながら、研究論文の作成と発表を行う活動を通じて、将来、グローバルに活躍するための力を蓄えることを目指すこととする。

【到達目標】

国境を越えて活動する多国籍企業に関する記事や、基本的な文献や論文などの読解、企業へのインタビュー、統計的・定性的分析、論文執筆、プレゼンなどの活動をグループで取り組むプロセスの中で、以下3つの能力を、将来を見据えて身に付けることを目指す。具体的にはIBインカレ大会やコンソーシアム栃木主催大会への参加までのプロセスを通して3つの能力を身に付けていく。

- ①自ら積極的に取り組む姿勢（自主性）
- ②仲間の考えや価値観を受け入れて共に協力する姿勢（協調性）
- ③国際的な知識や感性、コミュニケーション、経験（国際性）

【授業計画】

第1回 研究活動報告（プレゼンテーションとディスカッション）

予習：関連文献熟読&分析&発表資料作成（60分）／復習：ディスカッションを踏まえて次週プレゼンテーション準備（60分）

第2回 研究活動報告（プレゼンテーションとディスカッション）

予習：関連文献熟読&分析&発表資料作成（60分）／復習：ディスカッションを踏まえて次週プレゼンテーション準備（60分）

第3回 研究活動報告（プレゼンテーションとディスカッション）

予習：関連文献熟読&分析&発表資料作成（60分）／復習：ディスカッションを踏まえて次週プレゼンテーション準備（60分）

第4回 研究活動報告（プレゼンテーションとディスカッション）

予習：関連文献熟読&分析&発表資料作成（60分）／復習：ディスカッションを踏まえて次週プレゼンテーション準備（60分）

第5回 研究活動報告（プレゼンテーションとディスカッション）

予習：関連文献熟読&分析&発表資料作成（60分）／復習：ディスカッションを踏まえて次週プレゼンテーション準備（60分）

第6回 研究活動報告（プレゼンテーションとディスカッション）

予習：関連文献熟読&分析&発表資料作成（60分）／復習：ディスカッションを踏まえて次週プレゼンテーション準備（60分）

第7回 IBインカレ大会・コンソーシアムとちぎ主催大会プレゼンテーションリハーサル

予習：発表資料作成（60分）／復習：大会参加に向けた対策と準備（60分）

第8回 関連文献の輪読（プレゼンテーションとディスカッション）と就職活動サポート、ゼミ募集、春合宿準備

予習：文献熟読と発表資料作成（60分）／復習：文献と資料の再確認（60分）

第9回 関連文献の輪読（プレゼンテーションとディスカッション）と就職活動サポート、ゼミ募集、春合宿準備

予習：文献熟読と発表資料作成（60分）／復習：文献と資料の再確認（60分）

第10回 関連文献の輪読（プレゼンテーションとディスカッション）と就職活動サポート、ゼミ募集、春合宿準備

予習：文献熟読と発表資料作成（60分）／復習：文献と資料の再確認（60分）

第11回 関連文献の輪読（プレゼンテーションとディスカッション）と就職活動サポート、ゼミ募集、春合宿準備

予習：文献熟読と発表資料作成（60分）／復習：文献と資料の再確認（60分）

第12回 関連文献の輪読（プレゼンテーションとディスカッション）と就職活動サポート、ゼミ募集、春合宿準備

予習：文献熟読と発表資料作成（60分）／復習：文献と資料の再確認（60分）

第13回 関連文献の輪読（プレゼンテーションとディスカッション）と就職活動サポート、ゼミ募集、春合宿準備

予習：文献熟読と発表資料作成（60分）／復習：文献と資料の再確認（60分）

第14回 関連文献の輪読（プレゼンテーションとディスカッション）と就職活動サポート、ゼミ募集、春合宿準備

予習：文献熟読と発表資料作成（60分）／復習：文献と資料の再確認（60分）

第15回 関連文献の輪読（プレゼンテーションとディスカッション）と就職活動サポート、ゼミ募集、春合宿準備

予習：文献熟読と発表資料作成（60分）／復習：文献と資料の再確認（60分）

【授業の進め方】

後期は、より専門的な研究テーマのもとに研究論文と発表資料を完成させ、大会出場をメインの活動に設定する。大会後は、これまでの活動の振り返りや、就職・社会において役立つ文献の輪読、就職活動サポート、ゼミ募集、春合宿

準備などを行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①企業戦略論(競争優位の構築と持続)(上) ②ジェイ B.バーニー ③ダイヤモンド社 ④2003年 ⑤¥2.592(税込)
⑥978-4-478-37452-8

【参考図書】

参考図書に関しては必要に応じて講義内で案内、共有予定。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

毎回の講義におけるグループ発表、ディスカッション、準備や大会での発表などにおける内容とそれに向けての積極的な姿勢などを総合的に評価する。

【履修上の心得】

学生各自による自立した出欠管理と積極的なゼミへの姿勢を求める。

科目名	ゼミナールⅡ-1 (青木)
教員名	青木 孝暢

【授業の内容】

ゼミナールⅡは、卒業論文（とくに財務会計に関するもの）の制作を検討している学生を対象に卒業論文制作のための研究指導を行う演習科目である。したがって、本ゼミでは、学生みずらが選択したテーマを各自が主体となって学修していく。教員は、各学生の選択したテーマに対してアドバイスを与える他に、参考文献の収集方法や卒業論文の書き方に関する指導も行う。

【到達目標】

ゼミナールⅡは、卒業論文を制作するためのゼミ科目である。毎回のゼミでは、学生が各自のテーマに基づき、その内容・意義・問題点を報告する。そして、その報告内容に基づき、他の学生と質問＋討論を繰り返し、最後に全体でまとめを行うという形でゼミを進めていく。その際に重要なのは、学生が自ら問題を発見し、それを解決することによって、主体的に行動する力を身につけることである。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 設定されたテーマに関する報告と討論(1)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジюмеを作成する
- 第3回 設定されたテーマに関する報告と討論(2)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジюмеを作成する
- 第4回 設定されたテーマに関する報告と討論(3)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジюмеを作成する
- 第5回 設定されたテーマに関する報告と討論(4)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジюмеを作成する
- 第6回 設定されたテーマに関する報告と討論(5)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジюмеを作成する
- 第7回 設定されたテーマに関する報告と討論(6)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジюмеを作成する
- 第8回 設定されたテーマに関する報告と討論(7)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジюмеを作成する
- 第9回 設定されたテーマに関する報告と討論(8)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジюмеを作成する
- 第10回 設定されたテーマに関する報告と討論(9)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジюмеを作成する
- 第11回 設定されたテーマに関する報告と討論(10)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジюмеを作成する
- 第12回 設定されたテーマに関する報告と討論(11)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）

- 第13回 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジュメを作成する
設定されたテーマに関する報告と討論(12)
予習：報告者は、担当個所のレジュメを作成する
報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
- 第14回 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジュメを作成する
設定されたテーマに関する報告と討論(13)
予習：報告者は、担当個所のレジュメを作成する
報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
- 第15回 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジュメを作成する
設定されたテーマに関する報告と討論(14)
予習：報告者は、担当個所のレジュメを作成する
報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジュメを作成する

【教科書(必ず購入すべきもの)】

初回ゼミ時に指示

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

特記事項

ゼミへの取り組みを総合的に評価

【科目のレベル、前提科目など】

ゼミナールⅠ、中級簿記論および財務会計論の単位を取得していること

科目名	ゼミナールⅡ-2 (青木)
教員名	青木 孝暢

【授業の内容】

ゼミナールⅡは、卒業論文（とくに財務会計に関するもの）の制作を検討している学生を対象に卒業論文制作のための研究指導を行う演習科目である。したがって、本ゼミでは、学生みずらが選択したテーマを各自が主体となって学修していく。教員は、各学生の選択したテーマに対してアドバイスを与える他に、参考文献の収集方法や卒業論文の書き方に関する指導も行う。

【到達目標】

ゼミナールⅡは、卒業論文を制作するためのゼミ科目である。毎回のゼミでは、学生が各自のテーマに基づき、その内容・意義・問題点を報告する。そして、その報告内容に基づき、他の学生と質問＋討論を繰り返し、最後に全体でまとめを行うという形でゼミを進めていく。その際に重要なのは、学生が自ら問題を発見し、それを解決することによって、主体的に行動する力を身につけることである。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 設定されたテーマに関する報告と討論(1)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジюмеを作成する
- 第3回 設定されたテーマに関する報告と討論(2)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジюмеを作成する
- 第4回 設定されたテーマに関する報告と討論(3)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジюмеを作成する
- 第5回 設定されたテーマに関する報告と討論(4)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジюмеを作成する
- 第6回 設定されたテーマに関する報告と討論(5)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジюмеを作成する
- 第7回 設定されたテーマに関する報告と討論(6)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジюмеを作成する
- 第8回 設定されたテーマに関する報告と討論(7)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジюмеを作成する
- 第9回 設定されたテーマに関する報告と討論(8)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジюмеを作成する
- 第10回 設定されたテーマに関する報告と討論(9)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジюмеを作成する
- 第11回 設定されたテーマに関する報告と討論(10)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジюмеを作成する
- 第12回 設定されたテーマに関する報告と討論(11)
 予習：報告者は、担当個所のレジюмеを作成する
 報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）

- 第13回 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジユメを作成する
設定されたテーマに関する報告と討論(12)
予習：報告者は、担当個所のレジユメを作成する
報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
- 第14回 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジユメを作成する
設定されたテーマに関する報告と討論(13)
予習：報告者は、担当個所のレジユメを作成する
報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
- 第15回 復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジユメを作成する
設定されたテーマに関する報告と討論(14)
予習：報告者は、担当個所のレジユメを作成する
報告者以外の者は、あらかじめテキストを読み、疑問点をまとめる（60分）
復習：報告者は、ゼミ中に答えられなかった質問について調べ、レジユメを作成する

【教科書(必ず購入すべきもの)】

初回ゼミ時に指示

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

特記事項

ゼミへの取り組みを総合的に評価

【科目のレベル、前提科目など】

ゼミナールⅠ、中級簿記論および財務会計論の単位を取得していること

科目名	ゼミナールⅡ-1 (市川)
教員名	市川 千秋

【授業の内容】

ここではゼミ2年次になるので、各自、各グループの研究テーマを先ず決定し、それに即した研究・分析を進めることになる。各々のテーマが決まらない場合は指導教員が複数のテーマを提案し、各自の関心を絞るように指導する。

【到達目標】

- ①金融メカニズムの学習を通じて経済社会の構造を理解すること
- ②研究発表や討論を通じて分析力と自己の表現能力を高めること
- ③大人としての態度・気配り、話し方を身につけるよう努力すること

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション…ゼミの進め方の話し合い
(予習・復習 60分)
- 第2回 各自、各グループに研究テーマの決定と報告スケジュールの調整
(予習・復習 60分)
- 第3回 教員による金融時事問題の解説
(予習・復習 60分)
- 第4回 ゼミ生の研究発表①
(予習・復習 60分)
- 第5回 ゼミ生の研究発表②
(予習・復習 60分)
- 第6回 ゼミ生の研究発表③
(予習・復習 60分)
- 第7回 ゼミ生の研究発表④
(予習・復習 60分)
- 第8回 ゼミ生の研究発表⑤
(予習・復習 60分)
- 第9回 ゼミ生の研究発表⑥
(予習・復習 60分)
- 第10回 ゼミ生の研究発表⑦
(予習・復習 60分)
- 第11回 ゼミ生の研究発表⑧
(予習・復習 60分)
- 第12回 ゼミ生の研究発表⑨
(予習・復習 60分)
- 第13回 ゼミ生の研究発表⑩
(予習・復習 60分)
- 第14回 ゼミ生の研究発表⑪
(予習・復習 60分)
- 第15回 前期発表の総括と就職活動報告
(復習・総括 60分)

【授業の進め方】

ゼミ2年次生は1年次の学習を基礎に各自の研究テーマを決め、それに即した研究を行いゼミナールにおいて発表する。研究成果やその意見を恥ずかしがらず、自信を持って述べてほしい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用しない
各自・各グループと相談し、テーマに応じた文献・資料を選択する。

【参考図書】

ゼミナール時間中に指示する

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

発表内容や回数など、日常のゼミナール活動全般を考慮する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

発言回数も評価する

【履修上の心得】

発表担当でなくても問題意識を持ち、不明な点を質問できるようにしておくこと。ゼミ生は表面的な現象にとらわれることなく、その背後にある真理を探ることを目標としてほしい。

また、止むを得ず休むときは連絡すること。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目：金融論、国際金融論、銀行論

関連科目：大学の専門科目は言うに及ばず、語学や一般教養の科目、その他新聞・雑誌など、ゼミ生の幅広い人間形成に寄与するもの全てが関連する。

金融経済に関する現象の詳細な分析を通じて、事柄の本質を理解する訓練ができる科目として位置付けられる。

科目名	ゼミナールⅡ-2 (市川)
教員名	市川 千秋

【授業の内容】

ゼミ2年次の後半は各自の研究課題のまとめに入る。内容を再度吟味し充実したレポートにまとめてほしい。

【到達目標】

- ①金融メカニズムの学習を通じて経済社会の構造を理解すること
- ②研究発表や討論を通じて分析力と自己の表現能力を高めること
- ③大人としての態度・気配り、話し方を身につけるよう努力すること

【授業計画】

- 第1回 テーマの調整と後期の報告スケジュール
(予習・復習 60分)
- 第2回 教員による金融時事問題の解説
(予習・復習 60分)
- 第3回 ゼミ生の研究発表①
(予習・復習 60分)
- 第4回 ゼミ生の研究発表②
(予習・復習 60分)
- 第5回 ゼミ生の研究発表③
(予習・復習 60分)
- 第6回 ゼミ生の研究発表④
(予習・復習 60分)
- 第7回 ゼミ生の研究発表⑤
(予習・復習 60分)
- 第8回 ゼミ生の研究発表⑥
(予習・復習 60分)
- 第9回 ゼミ生の研究発表⑦
(予習・復習 60分)
- 第10回 ゼミ生の研究発表⑧
(予習・復習 60分)
- 第11回 ゼミ生の研究発表⑨
(予習・復習 60分)
- 第12回 ゼミ生の研究発表⑩
(予習・復習 60分)
- 第13回 ゼミ生の研究発表⑪
(予習・復習 60分)
- 第14回 ゼミ生の研究発表⑫
(予習・復習 60分)
- 第15回 後期発表の総括
(復習・総括 60分)

【授業の進め方】

ゼミ2年次生は1年次の学習を基礎に各自の研究テーマを決め、それに即した研究を行いゼミナールにおいて発表する。研究成果やその意見を恥ずかしがらず、自信を持って述べてほしい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用しない

各自・各グループと相談し、テーマに応じた文献・資料を選択する。

【参考図書】

ゼミナール時間中に指示する

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

発表内容や回数など、日常のゼミナール活動全般を考慮する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

発言回数も評価する

【履修上の心得】

発表担当でなくても問題意識を持ち、不明な点を質問できるようにしておくこと。ゼミ生は表面的な現象にとらわれることなく、その背後にある真理を探ることを目標としてほしい。

また、止むを得ず休むときは連絡すること。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目：金融論、国際金融論、銀行論

関連科目：大学の専門科目は言うに及ばず、語学や一般教養の科目、その他新聞・雑誌など、ゼミ生の幅広い人間形成に寄与するもの全てが関連する。

金融経済に関する現象の詳細な分析を通じて、事柄の本質を理解する訓練ができる科目として位置付けられる。

科目名	ゼミナールⅡ-1 (内堀)
	国際マーケティング戦略研究
教員名	内堀 敬則

【授業の内容】

ゼミナールⅠで培った調査研究の基礎的力を活用しながら、自主的な問題意識に基づいた卒論を完成させる。

【到達目標】

学生それぞれが自ら設定したテーマに基づき、卒業論文を完成させることを目標とする。卒業時に全員の論文を冊子にまとめた論文集を発刊する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 事例研究の進捗状況報告
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第3回 事例研究の進捗状況報告
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第4回 事例研究の進捗状況報告
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第5回 事例研究のプレゼンテーション
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第6回 卒論テーマの進捗状況報告と卒論指導
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第7回 卒論テーマの進捗状況報告と卒論指導
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第8回 卒論テーマの進捗状況報告と卒論指導
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第9回 卒論テーマの進捗状況報告と卒論指導
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第10回 卒論テーマの進捗状況報告と卒論指導
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第11回 卒論テーマの進捗状況報告と卒論指導
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第12回 卒論テーマの進捗状況報告と卒論指導
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第13回 卒論テーマの進捗状況報告と卒論指導
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第14回 卒論テーマの進捗状況報告と卒論指導
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第15回 卒論テーマの進捗状況報告と卒論指導
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。

少子高齢化に伴う国内市場の成熟化や、新興市場の急速な拡大などの経営環境の変化により、企業の規模や業種を問わず、国境を越えてマーケティング活動を遂行することの重要性はこれまでに高まっている。経済、市場、そして企業・消費者活動の「グローバル化」が当然のように加速するなか、企業はマーケティング諸活動をグローバルに統合したり、効果と効率を追求したりすることを求められている。ゼミナールⅠに引き続き、こうした国際マーケティング活動についての理論的および実証的な検討を行う。

授業計画は研究の進捗や各種イベント状況により変更する可能性がある。特に、ゼミ生の就職活動についての指導を随

時行う。

【授業の進め方】

学生それぞれの問題意識に基づき、卒業論文のテーマ設定、文献サーベイとデータ収集、ヒアリングなどの調査を行い、論文の執筆を实践する。毎回のゼミでは、それぞれの進捗状況を報告し、全員で議論を行うとともに、研究指導を実施する。

なお、研究テーマの選定やゼミの運営などゼミ生の自主性を尊重する。ゼミ生が一丸となって課題に挑み、切磋琢磨することによって、生涯にわたってつながる仲間を得ることも本ゼミの重要な要素である。一連の活動を通し、就職活動などの難題を乗り越える自信とたくましさを身に着けることを期待する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

研究テーマに応じ決定する。

学生それぞれの問題意識に応じ、適宜紹介する

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

完成させた研究成果（原稿およびそのプレゼンテーション）、ゼミ活動全般への貢献、発表内容、発言内容などを総合的に評価する。

【履修上の心得】

常に新聞や経済誌などで興味のある市場や産業の動向についてチェックし、自分なりの見方を持つこと。学生特有の好奇心と大胆な推論はゼミ生の最大の武器である。

指名されるまでもなく、どんどん自分の意見を述べること。

調査研究の楽しさ・醍醐味を堪能することを期待する。

【科目のレベル、前提科目など】

関連科目：マーケティング論、国際マーケティング論、国際経営論、多国籍企業論、国際関係論、貿易商務論など。

「ゼミナールⅠ」の成果を応用・実践し、各自の大学における学習の集大成となることを狙う。

【備 考】

例年、学内での合同ゼミを夏休み前に実施し、研究成果の発表を行っている。

科目名	ゼミナールⅡ-2 (内堀)
	国際マーケティング戦略研究
教員名	内堀 敬則

【授業の内容】

前期に設定した各自の卒論テーマを執筆・完成させ、その成果をプレゼンテーションとして発表する。

【到達目標】

学生それぞれが自ら設定したテーマに基づき、卒業論文を完成させることを目標とする。卒業時に全員の論文を冊子にまとめた論文集を発刊する。

【授業計画】

- 第1回 卒論テーマの進捗状況報告と卒論指導
予習：研究テーマの進捗状況についてレジュメを作成。
- 第2回 卒論テーマの進捗状況報告と卒論指導
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第3回 卒論テーマの進捗状況報告と卒論指導
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第4回 卒論テーマの進捗状況報告と卒論指導
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第5回 卒論テーマの進捗状況報告と卒論指導
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第6回 卒論テーマの進捗状況報告と卒論指導
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第7回 卒論テーマの進捗状況報告と卒論指導
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第8回 卒論テーマの進捗状況報告と卒論指導
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第9回 卒論テーマの進捗状況報告と卒論指導
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第10回 卒論テーマの進捗状況報告と卒論指導
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第11回 卒論テーマの進捗状況報告と卒論指導
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第12回 卒論テーマの進捗状況報告と卒論指導
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第13回 卒論テーマの進捗状況報告と卒論指導
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
復習：ゼミでの議論を踏まえ、次週に向けたレジュメの作成。
- 第14回 卒論プレゼンテーションその1
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。
- 第15回 卒論プレゼンテーションその2
予習：関連文献の熟読やデータ整理などを行い、レジュメを作成。

少子高齢化に伴う国内市場の成熟化や、新興市場の急速な拡大などの経営環境の変化により、企業の規模や業種を問わず、国境を越えてマーケティング活動を遂行することの重要性はこれまでに高く高まっている。経済、市場、そして企業・消費者活動の「グローバル化」が当然のように加速するなか、企業はマーケティング諸活動をグローバルに統合したり、効果と効率を追求したりすることを求められている。ゼミナールⅠに引き続き、こうした国際マーケティング活動についての理論的および実証的な検討を行う。

授業計画は研究の進捗状況や各種イベント状況により変更する可能性がある。特に、ゼミ生の就職活動についての指導

を随時行う。

【授業の進め方】

学生それぞれの問題意識に基づき、卒業論文のテーマ設定、文献サーベイとデータ収集、ヒアリングなどの調査を行い、論文の執筆を实践する。毎回のゼミでは、それぞれの進捗状況を報告し、全員で議論を行うとともに、研究指導を実施する。

最終ゼミでは研究成果のプレゼンテーションを行い、他のゼミ生からの評価を受ける。

なお、研究テーマの選定やゼミの運営などゼミ生の自主性を尊重する。ゼミ生が一丸となって課題に挑み、切磋琢磨することによって、生涯にわたってつながる仲間を得ることも本ゼミの重要な要素である。一連の活動を通し、就職活動などの難題を乗り越える自信とたくましさを身に着けることを期待する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

研究テーマに応じ決定する。

学生それぞれの問題意識に応じ、適宜紹介する

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

特記事項

完成させた卒論原稿およびそのプレゼンテーション、ゼミ活動全般への貢献、発表内容、発言内容などを総合的に評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

卒論の最終プレゼンテーションはゼミ I の学生によって審査され、その結果も成績に考慮する。

【履修上の心得】

常に新聞や経済誌などで興味のある市場や産業の動向についてチェックし、自分なりの見方を持つこと。学生特有の好奇心と大胆な推論はゼミ生の最大の武器である。

指名されるまでもなく、どんどん自分の意見を述べること。

調査研究の楽しさ・醍醐味を堪能することを期待する。

【科目のレベル、前提科目など】

関連科目：マーケティング論、国際マーケティング論、国際経営論、多国籍企業論、国際関係論、貿易商務論など。

「ゼミナール I」の成果を応用・実践し、各自の大学における学習の集大成となることを狙う。

【備 考】

卒業論文は最終的に学生の手によって編集され、論文集の冊子として印刷し、卒業時に配布する。

科目名	ゼミナールⅡ-1 (片岡)
	現代企業研究
教員名	片岡 豊

【授業の内容】

卒業論文の完成。卒論のテーマは調査・研究に値するものなら、全く自由である。

【到達目標】

卒業論文の完成を目標とする。

【授業計画】

- 第1回 第1回目次案の検討(第1回)
 予習：各自目次案を準備する(60分)。
 復習：目次案の修正(60分)。
- 第2回 第1回目次案の検討(第2回)
 予習：各自目次案を準備する(60分)。
 復習：目次案の修正(60分)。卒業論文小目次の検討(1)
- 第3回 前年度報告内容の確認(第1回)
 予習：前年度の報告内容を整理しレジュメを作成する(60分)。
 復習：報告内容を文章化する(60分)。
- 第4回 前年度報告内容の確認(第2回)
 予習：前年度の報告内容を整理しレジュメを作成する(60分)。
 復習：報告内容を文章化する(60分)。
- 第5回 卒業論文作成経過報告(1)
 予習：報告用のレジュメを作成する(60分)。
 復習：報告内容を文章化する(60分)。
- 第6回 卒業論文作成経過報告(2)
 予習：報告用のレジュメを作成する(60分)。
 復習：報告内容を文章化する(60分)。
- 第7回 卒業論文作成経過報告(3)
 予習：報告用のレジュメを作成する(60分)。
 復習：報告内容を文章化する(60分)。
- 第8回 卒業論文作成経過報告(4)
 予習：報告用のレジュメを作成する(60分)。
 復習：報告内容を文章化する(60分)。
- 第9回 卒業論文作成経過報告(5)
 予習：報告用のレジュメを作成する(60分)。
 復習：報告内容を文章化する(60分)。
- 第10回 卒業論文作成経過報告(6)
 予習：報告用のレジュメを作成する(60分)。
 復習：報告内容を文章化する(60分)。
- 第11回 卒業論文作成経過報告(7)
 予習：報告用のレジュメを作成する(60分)。
 復習：報告内容を卒論に書き換える(60分)。
- 第12回 卒業論文作成経過報告(8)
 予習：報告用のレジュメを作成する(60分)。
 復習：報告内容を文章化する(60分)。
- 第13回 第1回卒業論文中間目次案報告
 予習：中間目次案の作成(30分)。
 復習：目次案の修正(30分)。
- 第14回 第2回卒業論文中間目次案報告
 予習：中間目次案の作成(30分)。
 復習：目次案の修正(30分)。
- 第15回 卒業論文課題の検討
 予習：論文作成に残された課題を明確にする(30分)。

【授業の進め方】

ゼミナールⅡ-1では各自の卒業論文についての経過報告とそれに関する議論をしつつ、論文の完成に専念する。各自2回報告をしてもらう予定である。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に指定しない。

【参考図書】

参考資料は各自に指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

平常授業時の報告と卒業論文の関連性を重視する。

【履修上の心得】

自主性の尊重。活発な議論を期待する。研究テーマについては日常から意識しておくこと。

【科目のレベル、前提科目など】

特になし。ただし、論文のテーマに関する情報には、つねに注意を払っていること。

【備 考】

個別実証研究あるのみ。

科目名	ゼミナールⅡ-2 (片岡)
	現代企業研究
教員名	片岡 豊

【授業の内容】

卒業論文の完成。卒論のテーマは調査・研究に値するものなら、全く自由である。

【到達目標】

個別実証研究を中核とする卒業論文を完成する。

【授業計画】

- 第1回 卒業論文執筆要領ガイダンス
各自のPCを論文作成用に設定する(30分)。
- 第2回 卒業論文小目次の検討(1)
復習：各自目次を再検討し、論文構成を修正する(60分)。
- 第3回 卒業論文小目次の検討(2)
復習：各自目次を再検討し、論文構成を修正する(60分)。
- 第4回 卒業論文小目次の検討(3)
復習：各自目次を再検討し、論文構成を修正する(60分)。
- 第5回 卒業論文作成経過報告(1)
予習：報告者はレジュメを作成する(60分)。
復習：報告に対するコメントを参考に必要であれば論文を再構成する(60分)。
- 第6回 卒業論文作成経過報告(2)
予習：報告者はレジュメを作成する(60分)。
復習：報告に対するコメントを参考に必要であれば論文を再構成する(60分)。
- 第7回 卒業論文作成経過報告(3)
予習：報告者はレジュメを作成する(60分)。
復習：報告に対するコメントを参考に必要であれば論文を再構成する(60分)。
- 第8回 卒業論文中間目次案報告
予習：各自中間目次案を作成する(60分)。
復習：目次に対するコメントを参考に必要であれば論文を再構成する(60分)。
- 第9回 卒業論文最終経過報告(1)
予習：報告者はレジュメを作成する(60分)。
復習：報告に対するコメントを参考に必要であれば論文を再構成する(60分)。
- 第10回 卒業論文最終経過報告(2)
予習：報告者はレジュメを作成する(60分)。
復習：報告に対するコメントを参考に必要であれば論文を再構成する(60分)。
- 第11回 卒業論文最終経過報告(3)
予習：報告者はレジュメを作成する(60分)。
復習：報告に対するコメントを参考に必要であれば論文を再構成する(60分)。
- 第12回 卒業論文最終目次案報告
予習：各自最終目次案を作成する(60分)。
復習：目次に対するコメントを参考に必要であれば論文を再構成する(60分)。
- 第13回 卒業論文のタイトル決定
予習：卒論タイトルの候補を準備する(30分)。
- 第14回 卒業論文の校正
復習：卒論の修正(60分)。
- 第15回 卒業論文読み合わせ
予習：卒論の完成バージョンを準備する(120分)。

収集したデータの分析に注力する。

【授業の進め方】

ゼミナールⅡ-2ではゼミ生各自の卒業論文についての経過報告とそれに関する議論をしつつ、論文の完成に専念する。

後期は各自2回報告をしてもらう予定である。

執筆要領は、授業時に指示する。

論文締め切り：当該年度1月中旬予定。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に指定しない。

【参考図書】

参考資料は各自に指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

卒業論文の提出が単位付与の条件である。

【履修上の心得】

自主性の尊重。活発な議論を期待する。研究テーマについては日常から意識しておくこと

【科目のレベル、前提科目など】

特になし。ただし、論文のテーマに関する情報には、つねに注意を払っていること。

【備 考】

個別実証研究あるのみ。

科目名	ゼミナールII-1 (黒澤)
	コンピュータとインターネットの技術
教員名	黒澤 和人

【授業の内容】

担当教員の下に複数の学生が集まり、それぞれに設定したテーマについて研究し、発表・討議を行います。特にゼミIIでは、卒業研究を行い、卒業論文の執筆、または卒業制作をします。

◎卒業研究テーマ例

○論文系

人工知能の活用場面
 情報セキュリティの現状と課題
 電子ショッピングと口コミ
 マルチメディア技術の動向
 情報化社会の光と影
 Webユーザビリティとは何か
 統計学の新潮流

○制作系

Webサイト制作
 Webアニメーションの制作
 Webデータベースの構築
 数理パズル&ゲーム
 経営シミュレーション
 情報セキュリティの学習システム
 Excelマクロの開発

【到達目標】

- (1) 研究や討議を通して、皆とともに考え、学ぶことの重要性を知る。
- (2) 明らかにしたいことを自ら見定め、テーマを設定できる。
- (3) 自らのテーマに即して学習や研究を自主的に進めていけるようになる。

【授業計画】

- 第1回 ゼミナールIの復習と整理
 学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする(60分)。
- 第2回 研究の計画立案
 学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする(60分)。
- 第3回 図書文献の整理
 学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする(60分)。
- 第4回 灰色文献の整理
 学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする(60分)。
- 第5回 新聞記事データの整理
 学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする(60分)。
- 第6回 作品の制作計画
 学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする(60分)。
- 第7回 進捗状況報告
 学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする(60分)。
- 第8回 プログラム設計
 学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする(60分)。
- 第9回 プログラム仕様書
 学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする(60分)。
- 第10回 データ分析
 学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする(60分)。
- 第11回 分析結果の評価・解釈
 学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする(60分)。
- 第12回 テーマの検討
 学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする(60分)。
- 第13回 制作(その1)
 学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする(60分)。
- 第14回 制作(その2)
 学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする(60分)。
- 第15回 総括と今後の研究のための案内
 学習課題：これまでの全学習内容を整理する(120分)。

【授業の進め方】

- ・毎回、担当者を決め、事前研究に基づく発表と質疑を行います。
- ・研究成果は、その都度コンピュータ上にデータベースとして蓄積していきます。
- ・作品制作の進捗状況を報告し、内容の検討を行います。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は指定しません。

【参考図書】

各自のテーマに即して利用して下さい。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 60%

特記事項

無断欠席がないことと、出席回数が全体の3分の2を超えていることを前提に、

(1) レポート・課題

- ・作品の内容

(2) 受講態度

- ・発表や質疑の状況
- ・研究活動の状況

の3つを集計し、100点満点で評価します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

作品を完成し提出するのは後期になってからです。

ここでは、その途中経過の状況を評価して下さい。

【履修上の心得】

- (1) ゼミナールの運営は、全員で分担して行います。
- (2) 発表はあらかじめ決めた順番で行うので、遅刻や欠席の際は、事前連絡が必ず必要です。
- (3) ゼミナールの共通プログラミング言語は、C言語とJavaScript言語とします。

【科目のレベル、前提科目など】

- ・前提科目：ゼミナール I
- ・関連科目：数学系、情報系、メディア系の各科目

科目名	ゼミナールⅡ-2 (黒澤)
	コンピュータとインターネットの技術
教員名	黒澤 和人

【授業の内容】

担当教員の下に複数の学生が集まり、それぞれに設定したテーマについて研究し、発表・討議を行います。ゼミⅡでは、卒業研究を行い、卒業論文の執筆、または卒業制作をします。

◎卒業研究テーマ例

○論文系

人工知能の活用場面
 情報セキュリティの現状と課題
 電子ショッピングと口コミ
 マルチメディア技術の動向
 情報化社会の光と影
 Webユーザビリティとは何か
 統計学の新潮流

○制作系

Webサイト制作
 Webアニメーション制作
 Webデータベースの構築
 数理パズル&ゲーム
 経営シミュレーション
 情報セキュリティの学習システム
 Excelマクロの開発

【到達目標】

- (1) 研究や討議を通して、皆とともに考え、学ぶことの重要性を知る。
- (2) 明らかにしたいことを自ら見定め、テーマを設定できる。
- (3) 自らのテーマに即して学習や研究を自主的に進めていけるようになる。

【授業計画】

- 第1回 前期の進捗の確認
 学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第2回 後期の作業の計画
 学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第3回 情報社会と人間
 学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第4回 情報技術とシステム化技術
 学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第5回 情報学基礎論
 学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第6回 進捗状況の報告と討議（その1）
 学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第7回 進捗状況の報告と討議（その2）
 学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第8回 進捗状況の報告と討議（その3）
 学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第9回 進捗状況の報告と討議（その4）
 学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第10回 進捗状況の報告と討議（その5）
 学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第11回 進捗状況の報告と討議（その6）
 学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第12回 成果発表と討議（その1）
 学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第13回 成果発表と討議（その2）
 学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第14回 作品の最終確認（その1）
 学習課題：WebClassの資料に基づき今週の復習と来週の予習をする（60分）。
- 第15回 作品の最終確認（その2）
 学習課題：これまでの全学習内容を整理する（120分）。

【授業の進め方】

- ・ 毎回、担当者を決め、事前研究に基づく発表と質疑を行います。
- ・ 研究成果は、その都度コンピュータ上にデータベースとして蓄積していきます。
- ・ 作品制作の進捗状況を報告し、内容の検討を行います。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ・ 教科書は特に指定しません。

【参考図書】

- ・ 各自のテーマに即して利用して下さい。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

無断欠席がないことと、出席回数が全体の3分の2を超えていることを前提に、

(1) レポート・課題

- ・ 作品の内容

(2) 受講態度

- ・ 研究活動の状況
- ・ 発表や質疑の状況

の3つを集計し、100点満点で評価します。

【履修上の心得】

- (1) ゼミナールの運営は、全員で分担して行います。
- (2) 発表はあらかじめ決めた順番で行うので、遅刻や欠席の際は、事前連絡が必ず必要です。
- (3) ゼミナールの共通プログラミング言語は、C言語とJavaScript言語とします。

【科目のレベル、前提科目など】

- ・ 前提科目：ゼミナール I
- ・ 関連科目：情報系、数学系、メディア系の各科目

科目名	ゼミナールⅡ-1 (黒田)
教員名	黒田 勉

【授業の内容】

1. 各自の個人テーマに基づく経過発表
2. ビジネスに関連した情報の報告
3. 社会対応経営論の考察
4. 就職戦線への取り組み方

以上によって、多面性に富んだビジネス事情を根本的に理解する。

【到達目標】

- ◎4年次末期限の「卒論」の完成
- ◎ビジネス情報への関心度の高揚
- ◎社会対応経営論の理解
- ◎就職活動への活力の醸成

【授業計画】

- 第1回 1. 今後のスケジュールと就職活動事情
2. 社会対応経営論

<復習20分>

- 第2回 1. 卒論の問題意識の発表
2. 前回と同様

<予習30分>

- 第3回 1. 卒論の経過発表
2. 前回と同様

<予習30分>

- 第4回 1. 卒論の経過発表
2. 前回と同様

<予習30分>

- 第5回 1. 卒論の経過発表
2. 前回と同様

<予習30分>

- 第6回 1. 卒論の経過発表
2. 前回と同様

<予習30分>

- 第7回 1. 卒論の経過発表
2. 前回と同様

<予習30分>

- 第8回 1. 卒論の経過発表
2. 前回と同様

<予習30分>

- 第9回 1. 卒論の経過発表
2. 前回と同様

<予習30分>

- 第10回 1. 卒論の経過発表
2. 前回と同様

<予習30分>

- 第11回 1. 卒論の経過発表
2. 前回と同様

<予習30分>

- 第12回 1. 卒論の経過発表
2. 前回と同様

<予習30分>

- 第13回 1. 卒論の経過発表
2. 前回と同様

<予習30分>

- 第14回 1. 卒論の経過発表
2. 前回と同様

<予習30分>

- 第15回 1. 卒論の経過発表

2. 前回と同様
<予習30分>

◎授業の初めに毎回、各人が簡潔にビジネスに関連した情報を報告する。

【授業の進め方】

全員での質疑応答形式

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①社会対応経営論としての経営学 ②黒田 勉 ③東京図書出版 ④2015年 ⑤¥1000(税抜) ⑥9784862238245

【参考図書】

◎卒論に必要な図書は各自異なるので、自主的に購入したり、図書館での購入を依頼すること。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 60%

特記事項

「レポート・課題」：卒論の下書き

「受講態度」：質疑応答の熱心さ

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席は当然のこと。

理由：白鷗大学試験規則第2条に基づき、「受験資格は授業時数の三分の二以上出席した者に与えられる」、という決まりがあるので、それを順守する。

【履修上の心得】

★発表時には必ず「要旨(レジュメ)」を全員分用意。

※コピー代は自己負担

★教材を持参。

★《ゼミ憲法》の順守：◎ゼミを大切にする ◎問題意識を持つように努める ◎議論に参加する

【科目のレベル、前提科目など】

前提：「ゼミ I-1 & 2」の単位が取得済みであること

【備 考】

◎遅刻の多い受講生は、「受講態度」(成績評価項目)に欠けることを意味するので、単位不認定の対象となる。

◎発表時に欠席する場合には、直ちに連絡すること。

科目名	ゼミナールⅡ-2 (黒田)
教員名	黒田 勉

【授業の内容】

1. 各自の個人テーマに基づく経過発表
2. ビジネスに関連した情報の報告
3. 社会対応経営論の考察

以上によって、多面性に富んだビジネス事情を根本的に理解する。

【到達目標】

◎4年次末期限の「卒論」の完成

【授業計画】

第1回 1. 今後のスケジュールと就職活動事情

2. 社会対応経営論の意義

<復習20分>

第2回 1. 卒論の問題意識の発表

2. 社会対応経営論の理解

<予習30分>

第3回 1. 卒論の執筆原稿の添削

2. 前回と同様

<予習30分>

第4回 1. 卒論の執筆原稿の添削

2. 前回と同様

<予習30分>

第5回 1. 卒論の執筆原稿の添削

2. 前回と同様

<予習30分>

第6回 1. 卒論の執筆原稿の添削

2. 前回と同様

<予習30分>

第7回 1. 卒論の執筆原稿の添削

2. 前回と同様

<予習30分>

第8回 1. 卒論の執筆原稿の添削

2. 前回と同様

<予習30分>

第9回 1. 卒論の執筆原稿の添削

2. 前回と同様

<予習30分>

第10回 1. 卒論の執筆原稿の添削

2. 前回と同様

<予習30分>

第11回 1. 卒論の執筆原稿の添削

2. 前回と同様

<予習30分>

第12回 1. 卒論の執筆原稿の添削

2. 前回と同様

<予習30分>

第13回 1. 卒論の執筆原稿の添削

2. 前回と同様

<予習30分>

第14回 1. 卒論の執筆原稿の添削

2. 前回と同様

<予習30分>

第15回 1. 卒論の執筆原稿の添削

2. 前回と同様

<予習30分>

◎授業の初めに毎回、各人が簡潔にビジネスに関連した情報を報告する。

【授業の進め方】

全員での質疑応答形式

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①社会対応経営論としての経営学 ②黒田 勉 ③東京図書出版 ④2015年 ⑤¥1000(税抜) ⑥9784862238245

【参考図書】

◎卒論に必要な図書は各自異なるので、自主的に購入したり、図書館での購入を依頼すること。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 60%

特記事項

「レポート・課題」：卒論

「受講態度」：質疑応答の熱心さ

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席は当然のこと。

理由：白鷗大学試験規則第2条に基づき、「受験資格は授業時数の三分の二以上出席した者に与えられる」、という決まりがあるので、それを順守する。

【履修上の心得】

★発表時には必ず「要旨(レジュメ)」を全員分用意。

※卒論も含めてコピー代は自己負担

★教材を持参。

★《ゼミ憲法》の順守：◎ゼミを大切にす る ◎問題意識を持つように努める ◎議論に参加する

【科目のレベル、前提科目など】

前提：「ゼミⅡ-1」の単位が取得済みであること。

【備 考】

1. 遅刻の多い受講生は、「授業態度」(成績評価項目)に欠けることを意味するので、単位不認定の対象となる。
2. 発表時に欠席する場合には、直ちに連絡すること。

科目名	ゼミナールⅡ-1 (張)
教員名	張 承玖

【授業の内容】

本格的なグローバル知識経済時代を迎えることになり、多くの知識が短時間のうちに世界的に拡散するので、従来のように特定の国や地域が長期にわたって特定の産業や技術で優位性を持続するのは難しくなってきた。これは、企業にとっては、仮にいま恵まれたところに立地しておらず、そのうえ特定の競争優位性を持っていないとしても、世界中から新しい知識を学習するという経営を展開すれば、将来的に競争優位性を構築できる可能性があることを意味している。

【到達目標】

上記のような問題意識を持ち、具現化していくために、本ゼミでは、卒論やゼミ論の形で、精緻化していく作業をしていく。近い将来のビジネスパーソンとして身につけるべきプレゼン・スキルや文書作成スキルを習得できることを目標とし、それを手助けしていく。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 論理的整合性と経験的妥当性
授業で取り上げたキーワードと内容を各自復習する (30分)
- 第3回 理論・現実・研究サイクル
授業で取り上げたキーワードと内容を各自復習する (30分)
- 第4回 概念化から操作化へ
授業で取り上げたキーワードと内容を各自復習する (30分)
- 第5回 測定とデータ収集
授業で取り上げたキーワードと内容を各自復習する (30分)
- 第6回 既存の論文研究1
授業で取り上げたキーワードと論理的構成などを各自復習する (30分)
- 第7回 既存の論文研究2
授業で取り上げたキーワードと論理的構成などを各自復習する (30分)
- 第8回 既存の論文研究3
授業で取り上げたキーワードと論理的構成などを各自復習する (30分)
- 第9回 既存の論文研究4
授業で取り上げたキーワードと論理的構成などを各自復習する (30分)
- 第10回 既存の論文研究5
授業で取り上げたキーワードと論理的構成などを各自復習する (30分)
- 第11回 研究計画書の発表1
予め決まったフォーマットを事前に作成し (60分)、順番に発表する
- 第12回 研究計画書の発表2
予め決まったフォーマットを事前に作成し (60分)、順番に発表する
- 第13回 研究計画書の発表3
予め決まったフォーマットを事前に作成し (60分)、順番に発表する
- 第14回 研究計画書の発表4
予め決まったフォーマットを事前に作成し (60分)、順番に発表する
- 第15回 総括
これまでの授業内容について復習 (120分)

グローバル・ビジネスにおいて、数多くのビジネス・パーソンは、文書やプレゼンテーション資料を作成する、あるいは他人が作成した文書を読んだり他人のプレゼンテーションを聞いてそれを理解するという作業に、多くの時間を費やしている。

そこで、本ゼミでは、明快な文書を書くということを通して、いかにグローバル・ビジネス・マネジメントの諸問題を考えていくかそのアプローチ手法に迫っていく。わかりやすく言えば、いかにして書けばよいかというテーマを通じて、実は、いかにして考えればよいかという本質論を具体的に学習していく。

また、考える技術、書く技術、問題解決の技術、表現の技術を身につけさせるために、論文・文献研究、徹底したグループ・ディスカッション、ビジネス現場見学、ゼミ合宿、ゼミⅠの後輩のケースアドバイザー、新入生歓迎会、ゼミ生募集・面接などを行なう。

【授業の進め方】

前期15回分の授業では、論文作成の基礎となる問題提起、引用・参考文献の書き方、注釈のつけ方などを、既存の論文・文献研究などを通じて学習していく。

後期15回分の授業では、毎週ゼミ生による論文研究発表を行ない、卒論やゼミ論を完成に向かって精緻化していく。

場合によっては、ゼミ時間外の活動も十分ありうるので、注意されたい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使用しないが、その都度プリントを配布する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項

平常点評価で、授業への参加度（卒論やゼミ論の発表およびコメント内容）、さまざまなゼミプロジェクトの参加度（リーダーシップ、協力度、実行力など）とし、総合的に判断する。

課題80%の内容としては、卒論やゼミ論発表の進捗度が主な評価対象になる。

残りの受講態度20%はゼミコンパ（主に食事会や飲み会）、OB・OGとの交流会、後輩の指導（就活指導も含む）、さまざまなゼミ・プロジェクトなどへの積極的参加度・貢献度が主な評価対象になる。

【履修上の心得】

現実の企業を取り巻く経営環境に関心と問題意識を持ち、新聞・雑誌などの関係記事に親しむことを期待する。

なによりも大切なことは、ゼミとは自分の意見や考えを素直に表現し、心身を鍛え、さまざまな交流を通して、自分をみつけ、確立しつつ、一生の仲間をつくる場でもあることを忘れないでほしい。

各自事前に論文研究を行い、発表のロテーションをしっかりと守れるようにしてほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

国際経営論、多国籍企業論、経営学、経営戦略論、経営組織論、貿易商務論、国際金融論、国際会計論、国際関係論、商業英語、時事英語など。

【備考】

ゼミⅡの学生は、ゼミⅡ本来の活動はともかくゼミⅠの後輩たちの指導・育成し、将来ゼミネットワークを通じてお互いに助け合えるように向上心をもって、意欲的に取り組んでほしい。

科目名	ゼミナールⅡ-2 (張)
教員名	張 承玖

【授業の内容】

本格的なグローバル知識経済時代を迎えることになり、多くの知識が短時間のうちに世界的に拡散するので、従来のように特定の国や地域が長期にわたって特定の産業や技術で優位性を持続するのは難しくなってきた。これは、企業にとっては、仮にいま恵まれたところに立地しておらず、そのうえ特定の競争優位性を持っていないとしても、世界中から新しい知識を学習するという経営を展開すれば、将来的に競争優位性を構築できる可能性があることを意味している。

【到達目標】

上記のような問題意識を持ち、具現化していくために、本ゼミでは、卒論やゼミ論の形で、精緻化していく作業をしていく。近い将来のビジネスパーソンとして身につけるべきプレゼン・スキルや文書作成スキルを習得できることを目標とし、それを手助けしていく。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文研究発表1
事前に各自研究テーマに沿って、論文を作成し、順番にその成果を発表する（平均各自2週間事前学習・準備）。
- 第3回 卒業論文研究発表2
事前に各自研究テーマに沿って、論文を作成し、順番にその成果を発表する（平均各自2週間事前学習・準備）。
- 第4回 卒業論文研究発表3
事前に各自研究テーマに沿って、論文を作成し、順番にその成果を発表する（平均各自2週間事前学習・準備）。
- 第5回 卒業論文研究発表4
事前に各自研究テーマに沿って、論文を作成し、順番にその成果を発表する（平均各自2週間事前学習・準備）。
- 第6回 卒業論文研究発表5
事前に各自研究テーマに沿って、論文を作成し、順番にその成果を発表する（平均各自2週間事前学習・準備）。
- 第7回 中間解説およびフィードバック
- 第8回 卒業論文研究発表6
事前に各自研究テーマに沿って、論文を作成し、順番にその成果を発表する（平均各自2週間事前学習・準備）。
- 第9回 卒業論文研究発表7
事前に各自研究テーマに沿って、論文を作成し、順番にその成果を発表する（平均各自2週間事前学習・準備）。
- 第10回 卒業論文研究発表8
事前に各自研究テーマに沿って、論文を作成し、順番にその成果を発表する（平均各自2週間事前学習・準備）。
- 第11回 卒業論文研究発表9
事前に各自研究テーマに沿って、論文を作成し、順番にその成果を発表する（平均各自2週間事前学習・準備）。
- 第12回 卒業論文研究発表10
事前に各自研究テーマに沿って、論文を作成し、順番にその成果を発表する（平均各自2週間事前学習・準備）。
- 第13回 卒業論文研究発表11
事前に各自研究テーマに沿って、論文を作成し、順番にその成果を発表する（平均各自2週間事前学習・準備）。
- 第14回 卒業論文研究発表12
事前に各自研究テーマに沿って、論文を作成し、順番にその成果を発表する（平均各自2週間事前学習・準備）。
- 第15回 総括

グローバル・ビジネスにおいて、数多くのビジネス・パーソンは、文書やプレゼンテーション資料を作成する、あるいは他人が作成した文書を読んだり他人のプレゼンテーションを聞いてそれを理解するという作業に、多くの時間を費やしている。

そこで、本ゼミでは、明快な文書を書くということを通して、いかにグローバル・ビジネス・マネジメントの諸問題

を考えていくかそのアプローチ手法に迫っていく。わかりやすく言えば、いかにして書けばよいかというテーマを通じて、実は、いかにして考えればよいかという本質論を具体的に学習していく。

また、考える技術、書く技術、問題解決の技術、表現の技術を身につけさせるために、論文・文献研究、徹底したグループ・ディスカッション、ビジネス現場見学、ゼミ合宿、ゼミ I の後輩のケースアドバイザー、新入生歓迎会、ゼミ生募集・面接などを行なう。

【授業の進め方】

前期15回分の授業では、論文作成の基礎となる問題提起、引用・参考文献の書き方、注釈のつけ方などを、既存の論文・文献研究などを通じて学習していく。

後期15回分の授業では、毎週ゼミ生による論文研究発表を行ない、卒論やゼミ論を完成に向かって精緻化していく。場合によっては、ゼミ時間外の活動も十分ありうるので、注意されたい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使用しないが、その都度プリントを配布する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 90% 受講態度 10%

特記事項

平常点評価で、授業への参加度（卒論やゼミ論の発表およびコメント内容）、さまざまなゼミプロジェクトの参加度（リーダーシップ、協力度、実行力など）とし、総合的に判断する。つまり、平常点100%である。

課題90%の内容としては、卒論発表や成果が主な評価対象になる。

残りの受講態度10%はゼミコンパ（主に食事会や飲み会）、OB・OGとの交流会、後輩の指導・育成（就活指導も含む）、さまざまなゼミ・プロジェクト（過去にはソフトバンクとのコラボもあった）などへの積極的参加度・貢献度が主な評価対象になる。

【履修上の心得】

現実の企業を取り巻く経営環境に関心と問題意識を持ち、新聞・雑誌などの関係記事に親しむことを期待する。

なによりも大切なことは、ゼミとは自分の意見や考えを素直に表現し、心身を鍛え、さまざまな交流を通して、自分をみつけ、確立しつつ、一生の仲間をつくる場でもあることを忘れないでほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

国際経営論、多国籍企業論、経営学、経営戦略論、経営組織論、貿易商務論、国際金融論、国際会計論、国際関係論、商業英語、時事英語など。

【備 考】

ゼミ II の学生は、ゼミ II 本来の活動はともかくゼミ I の後輩たちの指導・育成し、将来ゼミネットワークを通じてお互いに助け合えるように向上心をもって、意欲的に取り組んでほしい。

科目名	ゼミナールⅡ-1 (飛田)
	現代企業の戦略と組織に関する研究
教員名	飛田 幸宏

【授業の内容】

ゼミナールⅡでは、前年度のゼミナールⅠでの班ごとの研究をさらに発展させ、ゼミ生各自がそれぞれの興味・関心にしたがって卒業論文を作成する。なお、自らテーマを設定・研究する卒業論文の作成には、各自の自主的な研究が必要となるが、それを通じて企業経営や経営学に関するさらなる理解を深めてほしい。また、卒論作成のほか、企業訪問、工場・商業施設の見学等を通じて企業の現状を調査・研究し、現代の企業活動から生じるさまざまな問題についても検討・考察する。

【到達目標】

- ・卒業論文の作成・発表
- ・プレゼンテーション能力の向上

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 報告とディスカッション①：報告レジュメの作成と論点整理 (90分)
- 第3回 報告とディスカッション②：報告レジュメの作成と論点整理 (90分)
- 第4回 報告とディスカッション③：報告レジュメの作成と論点整理 (90分)
- 第5回 報告とディスカッション④：報告レジュメの作成と論点整理 (90分)
- 第6回 報告とディスカッション⑤：報告レジュメの作成と論点整理 (90分)
- 第7回 報告とディスカッション⑥：報告レジュメの作成と論点整理 (90分)
- 第8回 報告とディスカッション⑦：報告レジュメの作成と論点整理 (90分)
- 第9回 報告とディスカッション⑧：報告レジュメの作成と論点整理 (90分)
- 第10回 報告とディスカッション⑨：報告レジュメの作成と論点整理 (90分)
- 第11回 報告とディスカッション⑩：報告レジュメの作成と論点整理 (90分)
- 第12回 報告とディスカッション⑪：報告レジュメの作成と論点整理 (90分)
- 第13回 報告とディスカッション⑫：報告レジュメの作成と論点整理 (90分)
- 第14回 報告とディスカッション⑬：報告レジュメの作成と論点整理 (90分)
- 第15回 総括：講義内容全体の復習 (60分)

授業計画の詳細は、第1回目のガイダンスで提示する（ゼミナール履修者は確定しているため）

1. 卒業論文の作成および途中経過報告
2. 経営学に関する文献（雑誌・本など）の輪読
3. 企業訪問、工場・商業施設の見学

【授業の進め方】

卒業論文の作成については、毎回、ゼミ生は順番に研究経過報告を行い、最終的には各自が卒業論文としてまとめることになる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

ゼミ生と相談のうえ決める予定。特定の文献を購入してもらう場合もある。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

報告レジュメの作成と報告内容、卒業論文の途中経過報告・完成時の内容、ゼミへの取り組み姿勢・貢献度などから総合的に評価する。

【履修上の心得】

経済や企業の動向に関心を持ち、日頃から新聞や雑誌などの企業経営に関する記事に興味・関心をもつことが必要である。

【科目のレベル、前提科目など】

経営学関連の専門科目はほとんど関連する。

科目名	ゼミナールⅡ-2 (飛田)
	現代企業の戦略と組織に関する研究
教員名	飛田 幸宏

【授業の内容】

ゼミナールⅡでは、前年度のゼミナールⅠでの班ごとの研究をさらに発展させ、ゼミ生各自がそれぞれの興味・関心にしたがって卒業論文を作成する。なお、自らテーマを設定・研究する卒業論文の作成には、各自の自主的な研究が必要となるが、それを通じて企業経営や経営学に関するさらなる理解を深めてほしい。また、卒論作成のほか、企業訪問、工場・商業施設の見学等を通じて企業の現状を調査・研究し、現代の企業活動から生じるさまざまな問題についても検討・考察する。

【到達目標】

- ・卒業論文の作成・発表
- ・プレゼンテーション能力の向上

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 報告とディスカッション①：報告レジュメの作成と論点整理 (90分)
- 第3回 報告とディスカッション②：報告レジュメの作成と論点整理 (90分)
- 第4回 報告とディスカッション③：報告レジュメの作成と論点整理 (90分)
- 第5回 報告とディスカッション④：報告レジュメの作成と論点整理 (90分)
- 第6回 報告とディスカッション⑤：報告レジュメの作成と論点整理 (90分)
- 第7回 報告とディスカッション⑥：報告レジュメの作成と論点整理 (90分)
- 第8回 報告とディスカッション⑦：報告レジュメの作成と論点整理 (90分)
- 第9回 報告とディスカッション⑧：報告レジュメの作成と論点整理 (90分)
- 第10回 報告とディスカッション⑨：報告レジュメの作成と論点整理 (90分)
- 第11回 報告とディスカッション⑩：報告レジュメの作成と論点整理 (90分)
- 第12回 報告とディスカッション⑪：報告レジュメの作成と論点整理 (90分)
- 第13回 報告とディスカッション⑫：報告レジュメの作成と論点整理 (90分)
- 第14回 報告とディスカッション⑬：報告レジュメの作成と論点整理 (90分)
- 第15回 総括：講義内容全体の復習 (60分)

授業計画の詳細は、第1回目のガイダンスで提示する（ゼミナール履修者は確定しているため）

1. 卒業論文の作成および途中経過報告
2. 経営学に関する文献（雑誌・本など）の輪読
3. 企業訪問、工場・商業施設の見学

【授業の進め方】

卒業論文の作成については、毎回、ゼミ生は順番に研究経過報告を行い、最終的には各自が卒業論文としてまとめることになる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

ゼミ生と相談のうえ決める予定。特定の文献を購入してもらう場合もある。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

報告レジュメの作成と報告内容、卒業論文の途中経過報告・完成時の内容、ゼミへの取り組み姿勢・貢献度などから総合的に評価する。

【履修上の心得】

経済や企業の動向に関心を持ち、日頃から新聞や雑誌などの企業経営に関する記事に興味・関心をもつことが必要である。

【科目のレベル、前提科目など】

経営学関連の専門科目はほとんど関連する。

【備考】

ゼミナールⅡ-1(飛田)の単位を取得した者が履修できる。

科目名	ゼミナールⅡ-1 (藤井健)
	国際経営
教員名	藤井 健

【授業の内容】

企業のグローバル化に関する諸側面を、事例をもとにして実証的に研究し、その成果をゼミ論文にまとめる。ゼミナールⅠ-1,2で構築した分析のフレームワーク、関連文献の輪読で得た知識を基に論文作成を開始する。時事問題の資料分析、ディスカッション、プレゼンも引き続き行う

【到達目標】

分析能力の獲得
 レポートの作成能力の獲得
 プレゼン能力の獲得
 グループディスカッション能力の獲得

【授業計画】

第1回 イントロダクション
 第2回 ゼミⅠレポート発表(1)
 第3回 ゼミⅠレポート発表(2)
 第4回 ゼミ論概要発表(1)
 第5回 ゼミ論概要発表(2)
 第6回 時事問題ディスカッション(1)
 第7回 時事問題ディスカッション(2)
 第8回 ゼミ論第1章発表(1)
 第9回 ゼミ論第1章発表(2)
 第10回 テキスト輪読(1)
 第11回 時事問題ディスカッション(3)
 第12回 テキスト輪読(2)
 第13回 ゼミ論第2章発表(1)
 第14回 ゼミ論第2章発表(2)
 第15回 まとめ

【授業の進め方】

個人、またはグループで準備してきた資料をもとに輪読、発表、ディスカッションを行う

【教科書(必ず購入すべきもの)】

受講生と相談の上、決定

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 80% 受講態度 20%

特記事項
 課題提出
 ゼミ論文

【「成績評価の方法」に関する注意点】

毎回ゼミナールに参加し、受講生同士で積極的にディスカッションすることを前提として成績評価する

【履修上の心得】

人前で自分の意見を言えるようにすること。
 自分と異なる意見、考えかとも尊重できること。
 些細な疑問も逃さないこと。

【科目のレベル、前提科目など】

国際経営論 多国籍企業論 マネジメントコミュニケーション 観光英語 アニメプロデュース論

科目名	ゼミナールⅡ-2 (藤井健)
	国際経営
教員名	藤井 健

【授業の内容】

企業のグローバル化に関する諸側面を、事例をもとにして実証的に研究し、その成果をゼミ論文にまとめる。ゼミナールⅠ-1,2で構築した分析のフレームワーク、関連文献の輪読で得た知識を基に論文作成を開始する。時事問題の資料分析、ディスカッション、プレゼンも引き続き行う

【到達目標】

分析能力の獲得
 レポートの作成能力の獲得
 プレゼン能力の獲得
 グループディスカッション能力の獲得

【授業計画】

第1回 イントロダクション
 第2回 ゼミ論第3章発表(1)
 第3回 ゼミ論第3章発表(2)
 第4回 ゼミ論概第4章発表(1)
 第5回 ゼミ論第4章発表(2)
 第6回 時事問題ディスカッション(1)
 第7回 時事問題ディスカッション(2)
 第8回 ゼミ論第5章発表(1)
 第9回 ゼミ論第5章発表(2)
 第10回 テキスト輪読(1)
 第11回 時事問題ディスカッション(3)
 第12回 テキスト輪読(2)
 第13回 ゼミ論結論発表(1)
 第14回 ゼミ論結論発表(2)
 第15回 まとめ

【授業の進め方】

個人、またはグループで準備してきた資料をもとに輪読、発表、ディスカッションを行う

【教科書(必ず購入すべきもの)】

受講生と相談の上、決定

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項
 課題提出
 ゼミ論文

【「成績評価の方法」に関する注意点】

毎回ゼミナールに参加し、受講生同士で積極的にディスカッションすることを前提として成績評価する

【履修上の心得】

人前で自分の意見を言えるようにすること。
 自分と異なる意見、考えかとも尊重できること。
 些細な疑問も逃さないこと。

【科目のレベル、前提科目など】

国際経営論 多国籍企業論 マネジメントコミュニケーション 観光英語 アニメプロデュース論

科目名	ゼミナールII-1 (藤浪)
教員名	藤浪 英也

【授業の内容】

1. ゼミナールIで習得した税務、会計、コンピューターに関する知識を基に各自興味のあるテーマについて深く研究することを目的とする。このため、個人として研究することを原則とするが、ゼミ生同士の共同研究も認める。

卒業研究の指導へ続く講義なので、卒業論文または卒業制作の指導を行う。卒業論文及び卒業制作は単著または共同で研究することを認めるが、必ず個々の研究範囲を明示すること。各自の研究テーマに沿って卒業論文または卒業課題制作を行う。

2. この講義におけるアクティブラーニング

この講座は卒業制作のため、課題解決型のアクティブラーニングで行う。

【到達目標】

学士に相応しいテーマを設定し、自ら研究する能力を身につけることを到達目標とする。

【授業計画】

- 第1回 自由研究1 研究テーマ設定①
予習時間は各自の研究テーマを深めるため2時間
復習時間は、ゼミで指導された箇所の研究を行うために1時間
- 第2回 自由研究2 研究テーマ設定②
予習時間は各自の研究テーマを深めるため2時間
復習時間は、ゼミで指導された箇所の研究を行うために1時間
- 第3回 自由研究3 研究テーマ発表
予習時間は各自の研究テーマを深めるため2時間
復習時間は、ゼミで指導された箇所の研究を行うために1時間
- 第4回 自由研究4 資料収集①
予習時間は各自の研究テーマを深めるため2時間
復習時間は、ゼミで指導された箇所の研究を行うために1時間
- 第5回 自由研究5 資料収集②
予習時間は各自の研究テーマを深めるため2時間
復習時間は、ゼミで指導された箇所の研究を行うために1時間
- 第6回 自由研究6 資料収集③
予習時間は各自の研究テーマを深めるため2時間
復習時間は、ゼミで指導された箇所の研究を行うために1時間
- 第7回 自由研究7 経過報告①
予習時間は各自の研究テーマを深めるため2時間
復習時間は、ゼミで指導された箇所の研究を行うために1時間
- 第8回 自由研究8 経過報告②
予習時間は各自の研究テーマを深めるため2時間
復習時間は、ゼミで指導された箇所の研究を行うために1時間
- 第9回 自由研究9 資料収集④
予習時間は各自の研究テーマを深めるため2時間
復習時間は、ゼミで指導された箇所の研究を行うために1時間
- 第10回 自由研究10 資料収集⑤
予習時間は各自の研究テーマを深めるため2時間
復習時間は、ゼミで指導された箇所の研究を行うために1時間
- 第11回 自由研究11 資料収集⑥
予習時間は各自の研究テーマを深めるため2時間
復習時間は、ゼミで指導された箇所の研究を行うために1時間
- 第12回 自由研究12 資料収集⑦
予習時間は各自の研究テーマを深めるため2時間
復習時間は、ゼミで指導された箇所の研究を行うために1時間
- 第13回 自由研究13 資料収集⑧
予習時間は各自の研究テーマを深めるため2時間
復習時間は、ゼミで指導された箇所の研究を行うために1時間
- 第14回 自由研究14 資料収集⑨
予習時間は各自の研究テーマを深めるため2時間
復習時間は、ゼミで指導された箇所の研究を行うために1時間
- 第15回 経過報告
予習時間は各自の研究テーマを深めるため2時間

復習時間は、ゼミで指導された箇所の研究を行うために1時間

【授業の進め方】

各自の研究テーマに沿って資料収集および報告を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

別途指示する

【参考図書】

特になし

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

特記事項

各自の設定したテーマに沿って、計画通り忠実に行動しているかにより評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

各自の設定したテーマに沿って、計画通り忠実に行動しているかにより評価する。

【履修上の心得】

計画通り忠実に行動しているかにより評価するので、誠実な研究態度が求められる。

【科目のレベル、前提科目など】

ゼミ1

科目名	ゼミナールⅡ-2 (藤浪)
教員名	藤浪 英也

【授業の内容】

1. ゼミナールⅠで習得した税務、会計、コンピューターに関する知識を基に各自興味のあるテーマについて深く研究することを目的とする。このため、個人として研究することを原則とするが、ゼミ生同士の共同研究も認める。

卒業研究の指導へ続く講義なので、卒業論文または卒業制作の指導を行う。卒業論文及び卒業制作は単著または共同で研究することを認めるが、必ず個々の研究範囲を明示すること。各自の研究テーマに沿って卒業論文または卒業課題制作を行う。

2. この講義におけるアクティブラーニング

この講座は卒業制作のため、課題解決型のアクティブラーニングで行う。

【到達目標】

学士に相応しいテーマを設定し、自ら研究する能力を身につけることを到達目標とする。

【授業計画】

- 第1回 自由研究
予習時間は各自の研究テーマを深めるため2時間
復習時間は、ゼミで指導された箇所の研究を行うために1時間
- 第2回 自由研究
予習時間は各自の研究テーマを深めるため2時間
復習時間は、ゼミで指導された箇所の研究を行うために1時間
- 第3回 自由研究
予習時間は各自の研究テーマを深めるため2時間
復習時間は、ゼミで指導された箇所の研究を行うために1時間
- 第4回 自由研究
予習時間は各自の研究テーマを深めるため2時間
復習時間は、ゼミで指導された箇所の研究を行うために1時間
- 第5回 発表準備1
予習時間は各自の研究テーマを深めるため2時間
復習時間は、ゼミで指導された箇所の研究を行うために1時間
- 第6回 発表準備2
予習時間は各自の研究テーマを深めるため2時間
復習時間は、ゼミで指導された箇所の研究を行うために1時間
- 第7回 中間発表
予習時間は各自の研究テーマを深めるため2時間
復習時間は、ゼミで指導された箇所の研究を行うために1時間
- 第8回 自由研究
予習時間は各自の研究テーマを深めるため2時間
復習時間は、ゼミで指導された箇所の研究を行うために1時間
- 第9回 自由研究
予習時間は各自の研究テーマを深めるため2時間
復習時間は、ゼミで指導された箇所の研究を行うために1時間
- 第10回 自由研究
予習時間は各自の研究テーマを深めるため2時間
復習時間は、ゼミで指導された箇所の研究を行うために1時間
- 第11回 自由研究
予習時間は各自の研究テーマを深めるため2時間
復習時間は、ゼミで指導された箇所の研究を行うために1時間
- 第12回 自由研究
予習時間は各自の研究テーマを深めるため2時間
復習時間は、ゼミで指導された箇所の研究を行うために1時間
- 第13回 最終発表準備1
予習時間は各自の研究テーマを深めるため2時間
復習時間は、ゼミで指導された箇所の研究を行うために1時間
- 第14回 最終発表準備2
予習時間は各自の研究テーマを深めるため2時間
復習時間は、ゼミで指導された箇所の研究を行うために1時間
- 第15回 最終報告
予習時間は各自の研究テーマを深めるため2時間

復習時間は、ゼミで指導された箇所の研究を行うために1時間

学士に相応しいテーマを設定し、自ら研究する能力を身につけることを到達目標とする。各自の研究テーマに沿って資料収集および報告を行う。

【授業の進め方】

各自の研究テーマに沿って資料収集および報告を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

別途指示する

【参考図書】

特になし

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

特記事項

各自の設定したテーマに沿って、計画通り忠実に行動しているかにより評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

各自の設定したテーマに沿って、計画通り忠実に行動しているかにより評価する。

【履修上の心得】

計画通り忠実に行動しているかにより評価するので、誠実な研究態度が求められる。

【科目のレベル、前提科目など】

ゼミ1

科目名	ゼミナールⅡ-1 (船田)
教員名	船田 眞里子

【授業の内容】

本ゼミナールでは個人あるいは2・3人で一つの研究テーマに取り組み、学会等で発表し、卒業論文を完成させることを目的としています。そのためにゼミナールⅠ-1・2での基礎習と予備実験をふまえ、ゼミナールⅡ-1では実験とそのデータ解析を行います。その成果はゼミナールⅡ-2の期間に学会等で発表します。ゼミナールⅡ-1は、実験・研究の核心的部分の活動を行う忙しい期間となります。積極的に実験や解析を行い、自分の可能性を試してください。独創的な研究を期待しています。

【到達目標】

- (1) 実験計画に沿った実験が行える。
- (2) 時系列データの基本的な解析が行える。
- (3) 目的に応じて実験の修正ができる。
- (4) 解析結果を解釈・説明することができる。
- (5) 解析結果から新しい知見を見出すことができる。

【授業計画】

第1回 卒業論文の目次案の作成

復習：目次案の検討（30分）、予習：研究の背景と目的の原案作成（30分）

第2回 研究の背景と目的（案）の作成

復習：目次案の検討（30分）、予習：研究の背景と目的の原案作成（30分）

第3回 第1回の実験

復習：実験データの処理（30分）、予習：次回実験の検討（30分）

第4回 第2回の実験と前回のデータ解析結果の検討

復習：実験データの処理（30分）、予習：次回実験の検討（30分）

第5回 第3回の実験と前回のデータ解析結果の検討

復習：実験データの処理（30分）、予習：次回実験の検討（30分）

第6回 第4回の実験と前回のデータ解析結果の検討

復習：実験データの処理（30分）、予習：次回実験の検討（30分）

第7回 第5回の実験と前回のデータ解析結果の検討

復習：実験データの処理（30分）、予習：次回実験の検討（30分）

第8回 第6回の実験と前回のデータ解析結果の検討

復習：実験データの処理（30分）、予習：次回実験の検討（30分）

第9回 第7回の実験と前回のデータ解析結果の検討

復習：実験データの処理（30分）、予習：次回実験の検討（30分）

第10回 第8回の実験と前回のデータ解析結果の検討

復習：実験データの処理（30分）、予習：次回実験の検討（30分）

第11回 第9回の実験と前回のデータ解析結果の検討

復習：実験データの処理（30分）、予習：次回実験の検討（30分）

第12回 第10回の実験と前回のデータ解析結果の検討

復習：実験データの処理（30分）、予習：次回実験の検討（30分）

第13回 全実験結果の解析・検討1

復習・予習：データのグラフ化、解析結果のグラフ化（60分）

第14回 全実験結果の解析・検討2

復習・予習：データの多変量解析と結果のグラフ化、パワーポイント化（60分）

第15回 ゼミ内の卒業研究中間報告

復習：ゼミナールⅡ-1で終了した部分の確認とゼミナールⅡ-2の研究計画の検討（60分）

【授業の進め方】

- ・それぞれのテーマに関して実験と解析を繰り返します。
- ・測定データから適切な統計量を定義し、その値を求めます。
- ・求めた数値を用いて多変量解析を行い、解析結果に関して考察を行います。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

研究テーマにより関係する文献の検索をしてください。また、必要文献の紹介をします。

【参考図書】

- ・人間工学会、教育工学会、行動計量学会、HCIなどの学会誌、Proceedings等

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 50% レポート・課題 50% 受講態度 0%

特記事項

実験への参加度、データ解析の適切さ、卒業研究中間報告の内容で評価します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・実験への参加度、データ解析の適切さ等に50点を配点。
- ・卒業研究中間報告（最終講義日に提出）の内容に50点配点。

【履修上の心得】

4年生は就職活動と実験や学会発表の準備を行う忙しい年となります。実験・研究は計画的に進めてください。

【科目のレベル、前提科目など】

推奨年次: 3年次、4年次

前提科目: 経営情報科学 I・II、ゼミナール I-1・I-2、統計調査法 I・II、
WEBプログラミング I・II、経営分析法 I・II (並列受講可)。

関連科目: 情報関連科目、定量的な扱いをする経営学・経済学は関連科目です。

科目のレベル: ゼミナールの研究テーマは学会・研究会で報告できる内容です。

【備 考】

2010年度～2017年度の卒業研究のテーマは次の通りです。主に事象関連電位を用いた実験と解析を行い、客観的・定量的に研究しています。

- ・CM制作における意外性と意思決定に関する研究
- ・Learning Commonsにおける環境づくりの研究
- ・予測ゲームにおける正答・誤答時の脳活動
- ・脳波を用いた直感と直観の違いに関する研究
- ・Python学習ドキュメントの作成とプログラミング学習の考察
- ・文字のフォントによる読みやすさ、印象の違いに関する研究
- ・一戸建ての外見についての考察
- ・アクティブラーニングのための効果的な動画作成に関する研究
- ・ギター演奏時における事象関連電位の研究
- ・自己表現としての服装選択に関する研究
- ・gestalt崩壊と事象関連電位に関する研究
- ・商品理解度・嗜好傾向と商品への反応に関するERPを用いた研究
- ・計算課題の正誤における事象関連電位の相違に関する研究
- ・イラストの描き手の意図と鑑賞者の受け取り方に関する生理指標を用いた研究
- ・協和音と不協和音演奏時における事象関連電位の研究(人間工学会関東支部大会卒業研究発表会「奨励賞」受賞研究)
- ・事象関連電位を利用した生体認証加算回数低減への試み
- ・消費者が視認する価格表示に関する脳波とアンケートを用いた研究
- ・Android OS 上で動作するアプリケーションについて
- ・想起言語の推定を目的とした事象関連電位の解析
- ・事象関連電位を用いた髪型による印象の差異に関する研究
- ・事象関連電位を用いた適職選択システムの開発
- ・手書き文字と活字の記憶に対する相違
- ・音楽の単調作業に対する効果
- ・ネガティブ情報の購買意欲に対する影響
- ・電子書籍(文書)と書籍による学習効果の比較
- ・単純作業における励ましの効果
- ・計算力と記憶力との関係

科目名	ゼミナールⅡ-2 (船田)
教員名	船田 眞里子

【授業の内容】

ゼミナールⅡ-2では、ゼミナールⅡ-1の実験とその解析結果を学会等で発表します。外部の専門家からの対外的評価や助言を真摯に受け止め、卒業論文を完成させます。また、英語の得意な学生については国際会議での報告のチャンスもあります。個性的な研究と効果的な報告を期待しています。

【到達目標】

- (1) 報告の目的に合う適切な報告資料を作成できる。
- (2) 効果的な報告ができる。
- (3) 質問に対する適切な受け答えができる。
- (4) 自分の考えを研究に生かすことができる。
- (5) 卒業論文をまとめることができる。
- (6) 他者の研究に適切な質問ができる。

【授業計画】

- 第1回 前期の実験結果の再検討、研究計画
予習・復習：追加実験が必要か検討（60分）
- 第2回 追加実験と検討
予習・復習：学会発表の申し込み用の題名とアブストラクトの案の作成（60分）
- 第3回 追加実験と検討、学会発表の申し込み用の題名とアブストラクトの検討
予習・復習：学会発表の申し込み用の題名とアブストラクトの最終版の作成（60分）
- 第4回 卒業論文の「方法」の作成、学会報告の申し込み
予習・復習：合同中間発表会の準備（60分）
- 第5回 卒業論文の「結果」の作成（1）と他ゼミとの合同中間発表会での発表
予習・復習：学会用の原稿の「はじめに」「実験の方法」の案の作成（60分）
- 第6回 卒業論文の「結果」の作成（2）、学会発表用の原稿「はじめに」「実験の方法」の検討
予習・復習：学会用の原稿の「結果」の案の作成（60分）
- 第7回 卒業論文の「結果」の作成（3）、学会発表用の原稿「結果」の検討
予習・復習：学会用の原稿の「考察」の案の作成（60分）
- 第8回 卒業論文の「考察」の作成（1）、学会提出原稿の検討
予習・復習：学会用の原稿の案の作成（60分）
- 第9回 卒業論文の「考察」の作成（2）、学会発表用原稿の提出
予習・復習：発表用パワーポイントの作成（60分）
- 第10回 学会発表の準備（1）
予習・復習：発表用パワーポイントの作成（60分）
- 第11回 学会発表の準備（2）
予習・復習：発表の練習（60分）
- 第12回 学会発表会での報告
予習・復習：発表会の反省事項（60分）
- 第13回 卒業論文の「結論」の作成、学会報告後の検討
予習・復習：卒業論文の未完成部分の作成（60分）
- 第14回 卒業論文の「参考文献」「付録」の作成
予習・復習：卒業論文の未完成部分の作成（60分）
- 第15回 卒業論文の印刷と提出
復習：卒業論文に対する自己評価（60分）

【授業の進め方】

卒業論文の作成と学会での報告を目指してゼミナールを進めます。学会発表の準備では授業時間外の活動が増加することがあります。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ・卒業論文のテーマに応じて参考文献、論文の書き方等の資料を配布します。

【参考図書】

- ・Publication Manual of the American Psychological Association, 5th edition, the American Psychological Association, Washington, D.C. U.S.A., 2001.
- ・今までの本ゼミナールの卒業論文（図書館や共有フォルダにあります。）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 50% レポート・課題 50% 受講態度 0%

特記事項

- ・学会発表用の原稿、発表・質疑応答の様子、卒業論文の内容で評価します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

- ・学会発表用の原稿、発表・質疑応答の様子に50点を配点。
- ・卒業論文（最終講義日に提出）に50点配点。

【履修上の心得】

4年生は就職活動と学会発表を行う忙しい年となります。研究作業は計画的に行ってください。

【科目のレベル、前提科目など】

奨励年次: 3年次、4年次

前提科目: 経営情報科学 I・II、ゼミナール I-1・I-2・II-1、統計調査法 I・II、経営分析法 I・II、WEBプログラミング I・II。

関連科目: 情報関連科目、定量的な扱いをする経営学・経済学は関連科目です。

科目レベル: 研究内容は学会・研究会で報告できるレベルです。

【備 考】

2012年度～2017年度の卒業研究のテーマは次の通りです。事象関連電位を用いた実験と解析を行うことにより客観的・定量的な研究を行っています。

- ・CM制作における意外性と意思決定に関する研究
- ・Learning Commonsにおける環境づくりの研究
- ・予測ゲームにおける正答・誤答時の脳活動
- ・脳波を用いた直感と直観の違いに関する研究
- ・Python学習ドキュメントの作成とプログラミング学習の考察
- ・文字のフォントによる読みやすさ、印象の違いに関する研究
- ・一戸建ての外見についての考察
- ・アクティブラーニングのための効果的な動画作成に関する研究
- ・ギター演奏時における事象関連電位の研究
- ・自己表現としての服装選択に関する研究
- ・gestalt崩壊と事象関連電位に関する研究
- ・商品理解度・嗜好傾向と商品への反応に関するERPを用いた研究
- ・計算課題の正誤における事象関連電位の相違に関する研究
- ・イラストの描き手の意図と鑑賞者の受け取り方に関する生理指標を用いた研究
- ・協和音と不協和音演奏時における事象関連電位の研究(人間工学会関東支部大会卒業研究発表会「奨励賞」受賞研究)
- ・事象関連電位を利用した生体認証加算回数低減への試み
- ・消費者が視認する価格表示に関する脳波とアンケートを用いた研究
- ・Android OS 上で動作するアプリケーションについて
- ・想起言語の推定を目的とした事象関連電位の解析
- ・事象関連電位を用いた髪型による印象の差異に関する研究
- ・事象関連電位を用いた適職選択システムの開発
- ・手書き文字と活字の記憶に対する相違
- ・音楽の単調作業に対する効果
- ・ネガティブ情報の購買意欲に対する影響
- ・電子書籍(文書)と書籍による学習効果の比較
- ・単純作業における励ましの効果
- ・計算力と記憶力との関係

科目名	ゼミナールⅡ-1 (星)
教員名	星 法子

【授業の内容】

本ゼミナールは管理会計の研究を目的とする。管理会計とは、経営管理者が企業の経済活動の方向を決定したり、責任単位別の管理者の経済的決定に影響を与え、業績を評価し、企業の将来の経済活動をよりよい状態にするための財務情報システムである。経済活動の概念は、資金調達に始まり、資金運用を通じて生産・販売活動を行うことであるから、この場合の「情報」とは、基本的には貨幣金額による数値（財務情報）を意味する。管理会計の情報システムというのは、そうした経済活動にともなう財務データの収集、処理、伝達を通じて企業組織の効率的な運営に役立てるシステムのことである。

ゼミナールではこの情報システムを理解するために、会計学の分野だけではなく、経営管理、生産管理、経営戦略など広範囲の領域の研究を対象とする。

ゼミナールⅡ-1は卒業論文を書く準備段階として管理会計関連のテキストを輪読する。ゼミナールⅡ-2はゼミナールⅠやⅡ-1で学んだ知識をもとに各自で卒業研究のテーマを決定し、そのテーマに沿って研究を進め、最終的に卒業論文を作成する。

【到達目標】

卒業論文を作成するために、管理会計の手法を習得する。

【授業計画】

- 第1回 意思決定のための管理会計（予習30分、復習30分）
- 第2回 事業戦略立案の具体的ツール（予習30分、復習30分）
- 第3回 短期的意思決定（予習30分、復習30分）
- 第4回 価格戦略の意思決定（予習30分、復習30分）
- 第5回 長期的意思決定①（予習30分、復習30分）
- 第6回 長期的意思決定②（予習30分、復習30分）
- 第7回 ABCによるコントロール（予習30分、復習30分）
- 第8回 原価企画によるコントロール（予習30分、復習30分）
- 第9回 標準原価計算によるコントロール（予習30分、復習30分）
- 第10回 組織の構築とコントロール①（予習30分、復習30分）
- 第11回 組織の構築とコントロール②（予習30分、復習30分）
- 第12回 損益分岐点分析（予習30分、復習30分）
- 第13回 予算管理（予習30分、復習30分）
- 第14回 設備投資の収益性分析（予習30分、復習30分）
- 第15回 バランスト・スコアカード（予習30分、復習30分）

【授業の進め方】

前半は通常のゼミと週1回の合同ゼミナール（ⅠとⅡ）を行う。合同ゼミナールではゼミⅠを主体として会計の基礎を学習し、ゼミⅡ生はゼミⅠ生をサポートする。また通常のゼミでは、ゼミⅡ生が主体となって文献の輪読を行う。後半はゼミⅡだけで文献の輪読を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

授業開始時に指示する。

【参考図書】

『原価計算の本質と実務がわかる本』関浩一郎他著 中央経済社
『管理会計・入門 第3版』浅田孝幸他著 有斐閣アルマ

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

特記事項

レジュメを作成し、報告の内容を的確に理解できているか、積極的に質問・応答をしているかを評価する。

【履修上の心得】

卒業論文はゼミナールⅡ-2（後期）で執筆することになるが、その準備をゼミナールⅡ-1（前期）から行うことが必要である。過去の卒業論集などを手掛かりに、各自テーマを検討しておくことが重要である。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目：会計学、中級簿記論、工業簿記論、原価計算論、経営分析論、管理会計論
関連科目：高等簿記論、財務会計論、上級財務会計論、会計情報システム論、監査論、

国際会計論, その他経営領域の科目

科目名	ゼミナールⅡ-2 (星)
教員名	星 法子

【授業の内容】

本ゼミナールは管理会計の研究を目的とする。管理会計とは、経営管理者が企業の経済活動の方向を決定したり、責任単位別の管理者の経済的決定に影響を与え、業績を評価し、企業の将来の経済活動をよりよい状態にするための財務情報システムである。経済活動の概念は、資金調達に始まり、資金運用を通じて生産・販売活動を行うことであるから、この場合の「情報」とは、基本的には貨幣金額による数値（財務情報）を意味する。管理会計の情報システムというのは、そうした経済活動にともなう財務データの収集、処理、伝達を通じて企業組織の効率的な運営に役立てるシステムのことである。

ゼミナールではこの情報システムを理解するために、会計学の分野だけではなく、経営管理、生産管理、経営戦略など広範囲の領域の研究を対象とする。

ゼミナールⅠやⅡ-1で学んだ知識をもとに各自で卒業研究のテーマを決定し、そのテーマに沿って研究を進め、最終的に卒業論文を作成する。

【到達目標】

管理会計の手法を習得し、その知識を活かし、卒業論文を作成する。

【授業計画】

- 第1回 卒論のテーマの決定
- 第2回 卒業論文の書式
- 第3回 卒業論文の個別指導①
- 第4回 卒業論文の個別指導①
- 第5回 卒業論文の個別指導③
- 第6回 卒業論文の個別指導④
- 第7回 卒業論文の個別指導⑤
- 第8回 卒業論文の個別指導⑥
- 第9回 卒業論文の個別指導⑦
- 第10回 卒業論文の個別指導⑧
- 第11回 卒業論文の個別指導⑨
- 第12回 卒業論文の個別指導⑩
- 第13回 卒業論文発表①
- 第14回 卒業論文発表②
- 第15回 卒業論文発表③

【授業の進め方】

論文の書き方（書式など）を最初に学習し、各自のテーマで研究報告、議論、指導を繰り返し行い、論文を完成させていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

各自のテーマに合った教材を選択する。

【参考図書】

- 『管理会計』 門田安弘著 税務経理協会
- 『戦略管理会計 [改訂2版]』 西山茂著 ダイヤモンド社
- 『次世代管理会計の構想』 上總康行・澤邊紀生編著 中央経済社
- 『管理会計・入門 第3版』 浅田孝幸他著 有斐閣アルマ

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

特記事項

ゼミナールへの積極的な参加、卒業論文に取り組む姿勢、研究成果を総合的に評価する。

【履修上の心得】

卒業論文は一人で書くことになるので、各自が積極的に行動しないと完成しない。そのことを十分に理解して、資料の収集、章立てなど早めに進めることを望む。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目: 会計学, 中級簿記論, 工業簿記論, 原価計算論, 経営分析論, 管理会計論
 関連科目: 高等簿記論, 財務会計論, 上級財務会計論, 会計情報システム論, 監査論,

国際会計論, その他経営領域の科目

科目名	ゼミナールⅡ-1 (堀)
教員名	堀 眞由美

【授業の内容】

女性の社会進出はめざましく、勤続年数も伸長し、職域も拡大されています。働く女性が増えた背景には、経済・社会環境の変化や生き方に対する女性の意識改革の変化があったと考えられます。仕事と育児の両立が困難な日本社会でどのように両立していくかがテーマです。情報通信技術の革新的進展により、働き方であるワーク・スタイルも多様化してきています。女性が就業を継続、あるいは、出産・育児後再就職できるようになることは、自分のワーク・スタイルの選択の可能性を広げます。場所、時間に制約されない柔軟性のある就業形態「テレワーク」の可能性は、日本の企業経営のあり方を根本的に変容させようとしています。テレワークの普及は、家事や出産・育児、介護を主に担う女性就業者だけではなく高齢者、身体のご不自由な方、性別を問わず有効的な就業形態になるでしょう。地震や津波等の自然災害や新型インフルエンザ等のパンデミック対策としてもテレワークは注目を浴びています。女性の労働力を量的にもまた質的にも向上させていくためには、女性が自らの能力を十分に発揮できる社会が不可欠になります。自己の適性や働くことの意義を考え、キャリアを重ね、仕事と家庭を両立させつつ能力を発揮していくための課題を研究します。

【到達目標】

- ・女性労働の現状と課題が理解できるようになる。
- ・テレワーク、ワーク・ライフ・バランスについて分かるようになることを目標とする。
- ・卒業論文のための資料、文献検索や論文の書き方ができるようになることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 講義概要、講義の進め方、評価方法の説明、ゼミ活動計画 授業で取り上げたキーワードを各自復習する (30分)
- 第2回 就職活動指導：心構え 授業で取り上げたキーワードを元に各自復習する (30分)。
- 第3回 就職活動指導：模擬面接指導 授業で取り上げたキーワードを元に各自復習する (30分)。
- 第4回 卒論指導：テーマ、文献検索指導、執筆要領指導 卒論の文献収集を行う (60分)。
- 第5回 卒論個別指導 卒論テーマ、要旨、進め方で指摘された箇所を再考をする (60分)。
- 第6回 卒論個別指導 卒論テーマ、要旨、進め方で指摘された箇所を再考する (60分)。
- 第7回 卒論中間発表 中間発表で質問、指摘された箇所を調べて、再考する (60分)。
- 第8回 卒論指導 資料収集をする (60分)。
- 第9回 卒論指導 資料輪読をする (60分)。
- 第10回 就活中間報告会と就職活動の質疑応答 就活状況をまとめる (60分)。
- 第11回 卒論個別指導 卒論で資料収集が不足分を収集する (60分)。
- 第12回 卒論個別指導・就活指導 卒論の執筆をする (60分)。
- 第13回 卒論プレゼンテーション指導 プレゼンの基本を学習する (60分)。
- 第14回 卒論中間発表会 プレゼンで質問、指摘された箇所を再考する (60分)。
- 第15回 まとめ これまでの講義内容について復習する (120分)。

【授業の進め方】

卒論指導と就職活動指導を中心に進めていきます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①テレワーク社会と女性の就業 ②堀 眞由美 ③中央大学出版部 ④2003 ⑤2000 ⑥4-8057-6147-4

購入場所：初回に指示する。ブックスナカジマでは販売しません。

【参考図書】

- 『ネットワーク社会経済論』大橋正和・堀眞由美編著 紀伊國屋書店 2005年
 『テレワーク白書』日本テレワーク協会編
 『働く女性の実情』労働省女性局編 21世紀職業財団

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席と積極的な姿勢が求められます。

科目名	ゼミナールⅡ-2 (堀)
教員名	堀 眞由美

【授業の内容】

女性の社会進出はめざましく、勤続年数も伸長し、職域も拡大されています。働く女性が増えた背景には、経済・社会環境の変化や生き方に対する女性の意識改革の変化があったと考えられます。仕事と育児の両立が困難な日本社会でどのように両立していくかがテーマです。情報通信技術の革新的進展により、働き方であるワーク・スタイルも多様化してきています。女性が就業を継続、あるいは、出産・育児後再就職できるようになることは、自分のワーク・スタイルの選択の可能性を広げます。場所、時間に制約されない柔軟性のある就業形態「テレワーク」の可能性は、日本の企業経営のあり方を根本的に変容させようとしています。テレワークの普及は、家事や出産・育児、介護を主に担う女性就業者だけではなく高齢者、身体のご不自由な方、性別を問わず有効的な就業形態になるでしょう。地震や津波等の自然災害や新型インフルエンザ等のパンデミック対策としてもテレワークは注目を浴びています。女性の労働力を量的にもまた質的にも向上させていくためには、女性が自らの能力を十分に発揮できる社会が不可欠になります。自己の適性や働くことの意義を考え、キャリアを重ね、仕事と家庭を両立させつつ能力を発揮していくための課題を研究し卒業論文にまとめます。

【到達目標】

- ・女性労働の現状と課題が理解できるようになる。
- ・卒業論文の文献検索や文章の書き方、プレゼンテーションのノウハウを理解できることを目標とする。
- ・卒業論文を完成することを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 講義概要、講義の進め方、成績評価方法の説明、夏季休暇報告 授業で取り上げたキーワードを各自復習する(30分)。
- 第2回 就活状況報告会 業界研究をさらに検索する(30分)。
- 第3回 卒論指導：資料・文献からいかに適切な情報収集をするか。 卒論の執筆をする(60分)。
- 第4回 卒論指導：Narrow & Deepな論文とは 卒論の執筆をする(60分)。
- 第5回 卒論指導・就活指導 卒論の執筆とプレゼンの準備をする(60分)。
- 第6回 卒論中間報告会 質問と指摘された箇所を調べれまとめる(60分)。
- 第7回 卒論指導 追加資料収集と卒論執筆(60分)。
- 第8回 卒論指導:効果的なプレゼンとは プレゼン、追加資料収集と卒論執筆(120分)。
- 第9回 卒論指導：図表作成のポイント 図表作成及びプレゼン準備(120分)。
- 第10回 プレゼンテーション指導 プワーポイントで指摘された箇所を再考する(60分)。
- 第11回 卒論執筆要項指導 卒論のフォーマットを整える(60分)。
- 第12回 卒論指導 卒論執筆とプレゼンの練習をする(60分)。
- 第13回 卒論最終発表会 質問と指摘箇所を考察し回答をする(60分)。
- 第14回 卒論最終発表会 質問と指摘箇所を考察し回答をする(60分)。
- 第15回 まとめ これまでの授業内容について復習をする(60分)。

【授業の進め方】

卒論指導と就職活動指導を中心に進めていきます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①テレワーク社会と女性の就業 ②堀 眞由美 ③中央大学出版部 ④2003 ⑤2000 ⑥4-8057-6147-4

【参考図書】

- 『ネットワーク社会経済論』大橋正和・堀眞由美編著 紀伊國屋書店 2005年
 『テレワーク白書』日本テレワーク協会編
 『働く女性の実情』労働省女性局編 21世紀職業財団

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

ゼミⅠ(前期・後期)及びゼミⅡ-1の単位修得していることが条件です。

科目名	ゼミナールⅡ-1 (柳川)
教員名	柳川 高行

【授業の内容】

個別の企業ないし、個別の業界の詳細な分析的説明ができるようになり、就活の為の企業研究が独力で行えるようになることを目指す。

【到達目標】

本を読むことは、考えることであることを体得させること。

【授業計画】

- 第1回 レポート作成の方法とゼミナール運営の詳細についての説明
- 第2回 流通イノベーションの構図
- 第3回 小売業態の発展
- 第4回 生産・流通システムの基本原理
- 第5回 供給連鎖の構築
- 第6回 供給連鎖の経済性
- 第7回 一括受注生産システム
- 第8回 情報ネットワーク組織化
- 第9回 戦略グループの比較分析
- 第10回 戦略的マーチャндаイジングの生成
- 第11回 協働関係のメカニズム
- 第12回 取引の多次元化と食品メーカーの戦略
- 第13回 組織間関係の変化
- 第14回 「取引」から「提携」へ
- 第15回 全体のまとめ

【授業の進め方】

テキスト 矢作敏行著『コンビニエンス・ストア・システムの革新性』（日本経済新聞社）を用いて予めレポートを特定せず、その場で適宜指名して質疑応答と全体ディスカッションを行なうという全員レポート制のスタイルで運営する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①コンビニエンス・ストア・システムの革新性 ②矢作敏行著 ③日本経済新聞出版社 ⑤2243円

(中古本可)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

演習への参加状況とレポートの品質と、ディスカッションへの参加と貢献度の度合い

科目名	ゼミナールⅡ-2 (柳川)
教員名	柳川 高行

【授業の内容】

ゼミナリスト一人一人が、自分の関心のある企業、あるいは業界（できれば内定を取った企業が望ましい）の将来像を予想し、戦略的に全体を分析し、卒業論文にまとめる。

【到達目標】

企業の具体的現象について学生一人一人が借り物ではない独自の分析的説明ができるようにすること。

【授業計画】

- 第1回 学生のレポートの中間報告と全体ディスカッションと柳川によるコメント①
- 第2回 学生のレポートの中間報告と全体ディスカッションと柳川によるコメント②
- 第3回 学生のレポートの中間報告と全体ディスカッションと柳川によるコメント③
- 第4回 学生のレポートの中間報告と全体ディスカッションと柳川によるコメント④
- 第5回 学生のレポートの中間報告と全体ディスカッションと柳川によるコメント⑤
- 第6回 学生のレポートの中間報告と全体ディスカッションと柳川によるコメント⑥
- 第7回 学生のレポートの中間報告と全体ディスカッションと柳川によるコメント⑦
- 第8回 学生のレポートの中間報告と全体ディスカッションと柳川によるコメント⑧
- 第9回 学生のレポートの中間報告と全体ディスカッションと柳川によるコメント⑨
- 第10回 学生のレポートの中間報告と全体ディスカッションと柳川によるコメント⑩
- 第11回 学生のレポートの中間報告と全体ディスカッションと柳川によるコメント⑪
- 第12回 学生のレポートの中間報告と全体ディスカッションと柳川によるコメント⑫
- 第13回 学生のレポートの中間報告と全体ディスカッションと柳川によるコメント⑬
- 第14回 学生のレポートの中間報告と全体ディスカッションと柳川によるコメント⑭
- 第15回 全体のまとめ

毎回学生にレポートの中間報告を行わせ、全員でディスカッションし、柳川がコメントと修正点を明らかにする。

【授業の進め方】

ある程度まとまった段階でレポート報告をし、全員で質疑応答し、よりよい卒業論文へと進化させて行く。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特になし

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

卒業論文の品質

- ・ 中間レポートの品質
- ・ 最終論文の品質

【備 考】

卒業論文の要件

400字詰原稿用紙50枚以上を目安とする。

科目名	ゼミナールⅡ-1 (山田覚)
教員名	山田 覚

【授業の内容】

「会計は企業の言葉である」といわれるように、会計学の知識は、企業経営者や職業会計人ばかりでなく、企業の経済活動に関心をもつ全ての人々が身に付けておかなければならない常識となっている。そこで本ゼミナールは、簿記会計の基本的理解を深めつつ、企業会計をより広い観点から個別具体的に研究していこうとするものである。

本ゼミナールは、ゼミ担当者の専門から原価計算・工業簿記および管理会計を中心テーマとし、無理なくその基礎から全員で共同研究していく。また、個別研究ではゼミ生の関心により研究テーマは会計学の広い領域（管理会計・原価計算のほか財務会計・経営分析・会計情報システム・国際会計・監査など）から選択し卒業論文にまとめる。2年間の個別研究の成果は、卒業論文集『会計学研究：山田覚ゼミナール』として製本され、保存される（大学総合図書館で閲覧可）。

個別研究の論点：

- 1) 会計学の自己規定－企業会計における不変と変化－
- 2) 財務会計の課題－制度性とその論拠－
- 3) 管理会計の課題－目的手段の適合性とその規定要因－
- 4) 会計学をいかに学ぶか－理論と実践との交錯－

【到達目標】

企業の経理部、経営企画部門、工場管理部門はいうまでもなく、営業、開発、購買、品質管理を含むあらゆる業務担当者にとって、原価計算・管理会計の知識は必須である。この講義で身についた基礎知識をもとに各自必要に応じて会計をより広い視野から学習していくことにより、企業経営のさまざまな領域で個別具体的に応用していくことが可能となる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 原価計算と管理会計の基礎
- 第3回 費目別計算
- 第4回 部門別計算
- 第5回 個別原価計算
- 第6回 単純総合原価計算
- 第7回 工程別総合原価計算
- 第8回 等級別総合原価計算
- 第9回 標準原価計算
- 第10回 直接原価計算
- 第11回 CVP分析
- 第12回 卒業論文中間報告会 (1)
- 第13回 卒業論文中間報告会 (2)
- 第14回 卒業論文中間報告会 (3)
- 第15回 要点のまとめ

【授業の進め方】

3・4年次のゼミ活動は、ゼミ時間中の共同研究のほか個別研究としての卒業論文の作成が加わる。個別研究では論文構想段階、資料収集段階、下書き段階、仕上げ段階を適当に区分し、全員に当該段階ごとにプレゼンテーションを義務づける。論理展開の正当性を高めるため、さまざまな角度から質問し、コメントを加える。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

共同研究および個別研究のテーマに応じて適宜指示する。

【参考図書】

参考図書については、受講生の目的、理解度に応じて適宜指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

特記事項

ゼミへの参加姿勢（質疑応答への参加状況、課題提出、行事参加など）、司会者・報告者としての姿勢（報告内容、レジュメ内容、報告態度など）および卒業論文にもとづいて評価する。

【履修上の心得】

ゼミ活動は、授業時間だけでなく、ゼミ I との合同でゼミ合宿（夏・冬）や親睦会（年 2 回）などを行っており、充実したものとなっている。夏には、1 泊 2 日の合宿をする。昼は大いにエンジョイし、夜は恒例のゼミ II 学生による卒業論文の中間報告会を行う。また冬には、2 泊 3 日のスキー合宿を行う。やはりここでも、夜はゼミ II 学生による卒業論文の最終報告会を行い、後のゼミ運営の参考にする。

なお、ゼミ生は、学業の面、あるいは就職活動においても、それぞれ持ち前のファイトで大いに頑張ってくれている。また、本ゼミナールは会計のゼミであるから、卒業までに日商簿記検定 2 級以上に合格するなど、具体的な目標に向かって努力していることを期待する。

【科目のレベル、前提科目など】

ゼミ必修科目：

工業簿記論・原価計算論 I・原価計算論 II・管理会計論 I・外書講読 I（山田担当）・インターンシップ I・インターンシップ II（III）・現代企業行動論

【備 考】

毎年 2・3 年生はインターンシップ（企業研修）などにも積極的に参加し、卒業生は素晴らしい就職実績を残している。また、日商簿記検定 1 級や公認会計士試験に現役合格したゼミ生もいる。

科目名	ゼミナールⅡ-2 (山田覚)
教員名	山田 覚

【授業の内容】

「会計は企業の言葉である」といわれるように、会計学の知識は、企業経営者や職業会計人ばかりでなく、企業の経済活動に関心をもつ全ての人々が身に付けておかなければならない常識となっている。そこで本ゼミナールは、簿記会計の基本的理解を深めつつ、企業会計をより広い観点から個別具体的に研究していこうとするものである。

本ゼミナールは、ゼミ担当者の専門から原価計算・工業簿記および管理会計を中心テーマとし、無理なくその基礎から全員で共同研究していく。また、個別研究ではゼミ生の関心により研究テーマは会計学の広い領域（管理会計・原価計算のほか財務会計・経営分析・会計情報システム・国際会計・監査など）から選択し卒業論文にまとめる。2年間の個別研究の成果は、卒業論文集『会計学研究：山田覚ゼミナール』として製本され、保存される（大学総合図書館で閲覧可）。

個別研究の論点：

- 1) 会計学の自己規定－企業会計における不変と変化－
- 2) 財務会計の課題－制度性とその論拠－
- 3) 管理会計の課題－目的手段の適合性とその規定要因－
- 4) 会計学をいかに学ぶか－理論と実践との交錯－

【到達目標】

企業の経理部、経営企画部門、工場管理部門はいうまでもなく、営業、開発、購買、品質管理を含むあらゆる業務担当者にとって、原価計算・管理会計の知識は必須である。この講義で身についた基礎知識をもとに各自必要に応じて会計をより広い視野から学習していくことにより、企業経営のさまざまな領域で個別具体的に応用していくことが可能となる。

【授業計画】

- 第1回 予算管理
- 第2回 資金管理とキャッシュフロー管理
- 第3回 事業部制と分権組織の管理会計
- 第4回 意思決定会計：業務的意思決定
- 第5回 意思決定会計：設備投資の経済性計算
- 第6回 活動基準原価計算（ABC）と活動基準原価管理（ABM）
- 第7回 原価企画
- 第8回 ライフサイクル・コストニング
- 第9回 品質原価計算
- 第10回 バランスト・スコアカード
- 第11回 卒業論文報告会（1）
- 第12回 卒業論文報告会（2）
- 第13回 卒業論文報告会（3）
- 第14回 卒業論文の提出
- 第15回 総括

【授業の進め方】

3・4年次のゼミ活動は、ゼミ時間中の共同研究のほか個別研究としての卒業論文の作成が加わる。個別研究では論文構想段階、資料収集段階、下書き段階、仕上げ段階を適当に区分し、全員に当該段階ごとにプレゼンテーションを義務づける。論理展開の正当性を高めるため、さまざまな角度から質問し、コメントを加える。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

共同研究および個別研究のテーマに応じて適宜指示する。

【参考図書】

参考図書については、受講生の目的、理解度に応じて適宜指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 60%

特記事項

ゼミへの参加姿勢（質疑応答への参加状況、課題提出、行事参加など）、司会者・報告者としての姿勢（報告内容、レジュメ内容、報告態度など）および卒業論文にもとづいて評価する。

【履修上の心得】

ゼミ活動は、授業時間だけでなく、ゼミ I との合同でゼミ合宿（夏・冬）や親睦会（年 2 回）などを行っており、充実したものとなっている。夏には、1 泊 2 日の合宿をする。昼は大いにエンジョイし、夜は恒例のゼミ II 学生による卒業論文の中間報告会を行う。また冬には、2 泊 3 日のスキー合宿を行う。やはりここでも、夜はゼミ II 学生による卒業論文の最終報告会を行い、後のゼミ運営の参考にする。

なお、ゼミ生は、学業の面、あるいは就職活動においても、それぞれ持ち前のファイトで大いに頑張ってくれている。また、本ゼミナールは会計のゼミであるから、卒業までに日商簿記検定 2 級以上に合格するなど、具体的な目標に向かって努力していることを期待する。

【科目のレベル、前提科目など】

ゼミ必修科目：

工業簿記論・原価計算論 I・原価計算論 II・管理会計論 I・外書講読 I（山田担当）・インターンシップ I・インターンシップ II（III）・現代企業行動論

【備 考】

毎年 2・3 年生はインターンシップ（企業研修）などにも積極的に参加し、卒業生は素晴らしい就職実績を残している。また、日商簿記検定 1 級や公認会計士試験に現役合格したゼミ生もいる。

科目名	ゼミナールⅡ-1 (山田徳彦)
教員名	山田 徳彦

【授業の内容】

ゼミナールⅠに引き続いて、潜在的能力がある地域が十分な成果をあげていないとしたら、「解決しなければならない問題とそれにどう対処するか」を実情を踏まえて考えていきたい。あわせて、地域が直面する問題の背後にあるメカニズムを理解する。

【到達目標】

地域が直面する様々な問題の意味を理解する。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 受講者の報告Ⅰ ①
- 第3回 受講者の報告Ⅰ ②
- 第4回 受講者の報告Ⅰ ③
- 第5回 受講者の報告Ⅰ ④
- 第6回 受講者の報告Ⅰ ⑤・受講者の報告Ⅱ ①
- 第7回 受講者の報告Ⅱ ②
- 第8回 受講者の報告Ⅱ ③
- 第9回 受講者の報告Ⅱ ④
- 第10回 受講者の報告Ⅱ ⑤
- 第11回 受講者の報告Ⅲ ①
- 第12回 受講者の報告Ⅲ ②
- 第13回 受講者の報告Ⅲ ③
- 第14回 受講者の報告Ⅲ ④
- 第15回 受講者の報告Ⅲ ⑤

【授業の進め方】

「具体的な政策・計画」「興味・関心のある地域活性化の取り組み」「望ましい地域活性化のあり方」について、受講者各人の報告をもとに進めていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①地域再生の罫 ―なぜ市民と地方は豊かになれないのか? ②久繁 哲之介 ③筑摩書房 ④2010/07/05 ⑤800
 ⑥978-4-480-06562-9

ゼミナール受講者と相談の上決定する。

【参考図書】

各受講者の関心に合わせて、指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

日常のゼミナール活動全般を考慮して評価する。

【履修上の心得】

基本的にゼミⅠと共通する。

実際の経済・社会の仕組みや動向は、複雑に絡み合っていることを、日頃から念頭に置くこと。「きちんと」「一生懸命に」という姿勢がまず必要であると考えている。

【科目のレベル、前提科目など】

後期のゼミⅡ-2で論文をまとめてもらうが、必要な準備ができるようにしたい。

科目名	ゼミナールⅡ-2 (山田徳彦)
教員名	山田 徳彦

【授業の内容】

ゼミナールⅠに引き続いて、潜在的能力がある地域が十分な成果をあげていないとしたら、「解決しなければならない問題とそれにどう対処するか」を実情を踏まえて考えていきたい。あわせて、地域が直面する問題の背後にあるメカニズムを理解する。

【到達目標】

地域が直面する様々な問題の意味を理解する。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 受講者の報告Ⅳ ①
- 第3回 受講者の報告Ⅳ ②
- 第4回 受講者の報告Ⅳ ③
- 第5回 受講者の報告Ⅳ ④
- 第6回 受講者の報告Ⅳ ⑤
- 第7回 受講者の報告Ⅳ ⑥
- 第8回 受講者の報告Ⅳ ⑦
- 第9回 受講者の報告Ⅳ ⑧
- 第10回 受講者の報告Ⅳ ⑨
- 第11回 受講者の報告Ⅴ ①
- 第12回 受講者の報告Ⅴ ②
- 第13回 受講者の報告Ⅴ ③
- 第14回 受講者の報告Ⅴ ④
- 第15回 各人の論文の確認

【授業の進め方】

ゼミⅡ-1で行った準備作業に基づいて、論文を完成させていきたい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①地域再生の罫 一なぜ市民と地方は豊かになれないのか? ②久繁 哲之介 ③筑摩書房 ④2010/07/05 ⑤800
 ⑥978-4-480-06562-9

ゼミナール受講者と相談の上決定する。

【参考図書】

各受講者の関心に合わせて、指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%
 特記事項

日常のゼミナール活動全般を考慮して評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

日常のゼミナール活動全般を考慮して評価する。

【履修上の心得】

基本的にゼミⅠと共通する。

実際の経済・社会の仕組みや動向は、複雑に絡み合っていることを、日頃から念頭に置くこと。「きちんと」「一生懸命に」という姿勢がまず必要であると考えている。

【科目のレベル、前提科目など】

前期のゼミⅡ-1でおこなった基本的な調査・学習にもとづき、後々に残る論文を完成させる。

科目名	ゼミナールⅡ-1 (結城)
教員名	結城 史隆

【授業の内容】

本ゼミナールには教育学部の児童教育専攻、スポーツ健康専攻、英語教育専攻、心理学専攻、経営学部の経営学専攻、BC専攻とさまざまな専攻に属している学生が所属している。したがって、卒業研究のテーマは、社会や地域、文化などにつながる課題であれば、限定はしない。自分で資料を集め、読んで整理し、論文として構成して、文章を紡いでいくことが重要である。

【到達目標】

1. 研究テーマを設定する。
2. 資料・データを集める。
3. 資料・データを分析する。
4. 研究発表・プレゼンテーション
5. 論文の執筆

【授業計画】

- 第1回 春休み課題・ゼミ論の発表1と講評
- 第2回 春休み課題・ゼミ論の発表2と講評
- 第3回 卒業論文の書き方と今後のプロセス
- 第4回 各自卒論のテーマと内容を発表
- 第5回 各自卒論のテーマと内容を発表
- 第6回 社会課題に関する本を読みまとめる
- 第7回 社会課題に関する本を読みまとめる
- 第8回 卒業研究指導
- 第9回 卒業研究指導
- 第10回 卒業研究指導
- 第11回 卒業研究指導
- 第12回 卒業研究指導
- 第13回 卒業研究指導
- 第14回 卒業研究指導
- 第15回 卒業研究指導

研究論文のテーマの例としては

1. まちづくり・地域づくりの実践している企画や団体の活動を分析研究し、課題と展望をまとめる。
2. まちづくり・地域づくり活動のための手法を研究する。
3. ボランティア団体の機能や活動を研究する。
4. NPOの立ち上げ方や企画運営の方法論を研究する。
5. 国際交流、国際理解教育などについて研究する。
6. 在住外国人について研究する。
7. 教育現場における課題について研究する。
8. 児童・生徒の発達障害の状況と対応について研究する。
9. 外国の教育の事情について研究する。
10. 日本の伝統文化や社会のありかたを研究する。
11. その他、文化や社会に関すること全般

【授業の進め方】

ゼミ内での研究発表を積み重ねることで論文制作につなげる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

状況に合わせて随時紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

特記事項

研究のプロセスと卒業論文の内容により評価する。

【履修上の心得】

最低限でも社会人になって恥ずかしくない問題発掘能力、プレゼンテーション能力、企画力、交渉力、運営力だけは身につけて欲しい。

また、ゼミ生どうしの連絡網をつくり、連絡を密にするだけでなく、親睦をはかって生きたい。

【科目のレベル、前提科目など】

特になし

科目名	ゼミナールⅡ-2 (結城)
教員名	結城 史隆

【授業の内容】

本ゼミナールには教育学部の児童教育専攻、スポーツ健康専攻、英語教育専攻、心理学専攻、経営学部の経営学専攻、BC専攻とさまざまな専攻に属している学生が所属している。したがって、卒業研究のテーマは、社会や地域、文化などにつながる課題であれば、限定はしない。自分で資料を集め、読んで整理し、論文として構成して、文章を紡いでいくことが重要である。

【到達目標】

1. 研究テーマを設定する。
2. 資料・データを集める。
3. 資料・データを分析する。
4. 研究発表・プレゼンテーション
5. 論文の執筆

【授業計画】

- 第1回 卒業研究指導
- 第2回 卒業研究指導
- 第3回 卒業研究指導
- 第4回 卒業研究指導
- 第5回 卒業研究指導
- 第6回 卒論合宿（1泊2日）
- 第7回 卒業研究指導
- 第8回 卒業研究指導
- 第9回 卒業研究指導
- 第10回 卒業研究指導
- 第11回 卒業研究指導
- 第12回 卒業研究指導
- 第13回 卒業研究指導
- 第14回 卒業研究指導
- 第15回 卒業研究指導

研究論文のテーマの例としては

1. まちづくり・地域づくりの実践している企画や団体の活動を分析研究し、課題と展望をまとめる。
2. まちづくり・地域づくり活動のための手法を研究する。
3. ボランティア団体の機能や活動を研究する。
4. NPOの立ち上げ方や企画運営の方法論を研究する。
5. 国際交流、国際理解教育などについて研究する。
6. 在住外国人について研究する。
7. 教育現場における課題について研究する。
8. 児童・生徒の発達障害の状況と対応について研究する。
11. その他、文化や社会に関すること全般

【授業の進め方】

ゼミ内での研究発表を積み重ねることで論文制作につなげる。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

状況に合わせて随時紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

特記事項

研究のプロセスと卒業論文の内容により評価する。

【履修上の心得】

最低限でも社会人になって恥ずかしくない問題発掘能力、プレゼンテーション能力、企画力、交渉力、運営力だけは身につけて欲しい。

また、ゼミ生どうしの連絡網をつくり、連絡を密にするだけでなく、親睦をはかって生きたい。

【科目のレベル、前提科目など】

特になし

科目名	ゼミナールⅡ-1 (吉川)
教員名	吉川 薫

【授業の内容】

日本経済に関わる論点、諸課題についてテキストに基づきながら考察する。ゼミ生はそこから各自の卒業研究に関連するテーマについて掘り下げて研究する。

【到達目標】

日本経済の抱える諸課題について理解し、その対応策を考えることができるようになることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 ゼミⅡの進め方、日本経済と経済の基本 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分） 復習:授業のポイントを復習する（30分）
- 第2回 日本経済の全体像（国民経済計算でみる日本経済の姿） 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分） 復習:テキストの課題を行う（60分）
- 第3回 戦後日本の経済成長 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分） 復習:授業のポイントを復習し、テキストの課題を行う（60分）
- 第4回 失われた20年とアベノミクス 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分） 復習:授業のポイントを復習し、関連する評論を読む（60分）
- 第5回 景気循環の姿とその捉え方① 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分） 復習:授業のポイントを復習し、テキストの課題を行う（60分）
- 第6回 景気判断と景気予測② 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分） 復習:授業のポイントを復習し、テキストの課題を行う（60分）
- 第7回 雇用の変動 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分） 復習:授業のポイントを復習し、テキストの課題を行う（60分）
- 第8回 日本型雇用慣行の行方 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分） 復習:授業のポイントを復習し、テキストの課題を行う（60分）
- 第9回 産業構造の変化 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分） 復習:授業のポイントを復習し、テキストの課題を行う（60分）
- 第10回 日本型企业経営の行方 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分） 復習:授業のポイントを復習し、テキストの課題を行う（60分）
- 第11回 物価の変動とデフレ問題 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分） 復習:授業のポイントを復習し、テキストの課題を行う（60分）
- 第12回 貿易の意味とTPP 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分） 復習:授業のポイントを復習し、テキストの課題を行う（60分）
- 第13回 国際収支の姿 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく（30分） 復習:授業のポイントを復習し、テキストの課題を行う（60分）
- 第14回 論文の書き方、研究の進め方 予習；ゼミⅠで行った論文の書き方について復習しておく（30分） 復習:授業のポイントを復習し、各自の卒業研究の問題意識を明確にする（60分）
- 第15回 各自の卒業研究の進め方を発表 予習:各自の卒業研究のテーマ、問題意識、進め方をまとめる（70分） 復習:ゼミでの指摘を踏まえ、各自の卒業研究の進め方を修正する（40分）

【授業の進め方】

テキスト(教科書)や新聞の経済記事を使って各回のテーマについてゼミで議論する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①最新/日本経済入門（第5版） ②小峰隆夫・村田啓子 ③日本評論社 ④2016年3月25日 ⑤2500円＋税 ⑥978-4-535-55806-9

【参考図書】

日本経済読本20版 金森久雄・大守隆編 東洋経済新報社
 入門・日本経済第5版 浅子和美・飯塚信夫・篠原総一編 有斐閣
 日本経済論 宮川・細谷・川上著 中央経済社

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 30% 受講態度 70%

特記事項

・レポート・課題（30%）は各自の卒業研究のテーマ・問題意識・研究の進め方をまとめたレポート（前期最終回に発表・提出）のこと

- ・受講態度は毎回のゼミでの発言状況等から判断

【履修上の心得】

- ・現実の経済問題に関心をもっており、新聞等をよく読んでいること。
- ・ゼミにまじめに出席し、積極的に討議に参加すること。(無断欠席・遅刻は厳禁：就職活動で欠席する場合、次週に届けを出すこと)
- ・自ら研究に積極的に取組み、論文をまとめること。
- ・他のゼミ生とも協調して活動すること。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目：ゼミナールⅠ-1、ゼミナールⅠ-2を履修していること。

ミクロ経済学Ⅰ、マクロ経済学Ⅰ、現代日本経済論Ⅰ、Ⅱを受講していることが望ましい。

関連科目：現代日本経済論Ⅰ、Ⅱ

科目名	ゼミナールⅡ-2 (吉川)
教員名	吉川 薫

【授業の内容】

日本経済の基本的文献等を全員で読み、日本経済に関する知識を深めるとともに、現実の日本経済の抱える諸問題のうち各人が自分で決めたテーマについて文献・資料、統計データ等をもとに調査、分析・研究し、論文にまとめる。

【到達目標】

現代の日本経済が抱える諸問題について基礎的な知識を習得するとともに、自分の問題意識に沿って各自が決めたテーマについて調査・研究を行い論文をまとめることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 後期のゼミの進め方、論文のまとめ方 予習：夏休み中に読んだ卒業研究の参考文献をリストアップする (30分) 復習：授業のポイントの復習 (30分)
- 第2回 夏休み中に読んだ本のポイントの発表① 予習：発表レポートの作成 (60分) 復習：ゼミでの指摘をまとめる (30分)
- 第3回 夏休み中に読んだ本のポイントの発表② 予習：発表レポートの作成 (60分) 復習：ゼミでの指摘をまとめる (30分)
- 第4回 円レートの変動と日本経済 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく (30分) 復習：授業のポイントを復習し、テキストの課題を行う (60分)
- 第5回 グローバル化の中の日本経済 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく (30分) 復習：授業のポイントを復習し、テキストの課題を行う (60分)
- 第6回 財政をめぐる諸問題 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく (30分) 復習：授業のポイントを復習し、テキストの課題を行う (60分)
- 第7回 金融と金融政策① 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく (30分) 復習：授業のポイントを復習し、テキストの課題を行う (60分)
- 第8回 金融と金融政策② 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく (30分) 復習：授業のポイントを復習し、テキストの課題を行う (60分)
- 第9回 格差問題 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく (30分) 復習：授業のポイントを復習し、テキストの課題を行う (60分)
- 第10回 少子高齢化と社会保障 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく (30分) 復習：授業のポイントを復習し、テキストの課題を行う (60分)
- 第11回 人口構造の変化と日本経済 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく (30分) 復習：授業のポイントを復習し、テキストの課題を行う (60分)
- 第12回 地域の新興と日本経済 予習；この回の授業で予定されている部分をテキストで熟読しておく (30分) (復習) 授業のポイントを復習し、テキストの課題を行う (60分)
- 第13回 卒業研究の中間報告 予習：中間発表の準備 (75分) 復習：ゼミでの指摘を踏まえて卒業研究を加筆・修正 (120分)
- 第14回 卒業研究の発表① 予習：卒業研究の発表の準備 (75分) 復習：ゼミでの指摘を受けて卒業研究を加筆・修正 (120分)
- 第15回 卒業研究の発表・提出② 予習：卒業研究の発表・提出の準備 (60分) 復習：卒業研究の発表における反省点を整理 (40分)

- ・上記の授業計画に示した学習課題のほか、ゼミ生は卒業研究の取りまとめを集中して行うこととなる。

【授業の進め方】

- ・毎回の授業に備えた学習のほかゼミ生は以下のように研究を進める。
- ・日本経済の抱える諸問題のうち興味のあるテーマを自ら選択・決定し、研究する。
- ・卒業研究に関連する基本的文献を読んで、報告する。
- ・ゼミの時間に順番に個人研究の中間報告、および個人研究の最終発表を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①ゼミナールⅡ-1で使用するテキストをゼミナールⅡ-2でも使用する。

テキストをゼミナールⅡ-2でも使用するほか、適宜、プリントを配布する。

【参考図書】

- ・各自の卒業研究のテーマに応じて、適宜指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

卒業研究の論文の内容およびゼミでの発表状況を総合的に評価する。

- ・ゼミでの発表状況 50%
- ・卒業研究の論文 50%

【履修上の心得】

- ・現実の経済問題に関心をもっており、新聞等をよく読んでいること。
- ・ゼミにまじめに出席し、積極的に討議に参加すること。(無断欠席・遅刻は厳禁：就職活動で欠席する場合、次週に届けを出すこと)
- ・自ら研究に積極的に取り組み、論文をまとめること。
- ・他のゼミ生とも協調して活動すること。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目：ゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ－Ⅰ、経済学(マイクロ経済学Ⅰ、マクロ経済学Ⅰ)

関連科目：現代日本経済論Ⅰ、Ⅱなど経済関連の科目

科目名	ゼミナールⅡ-1 (小笠原)
教員名	小笠原 伸

【授業の内容】

都市は多くの現代的な課題を内包しているとともに、私たちの暮らすフィールドでもあります。それらについて考察することは魅力的な研究活動の一環であるとともに、皆さんが自らを鍛錬し社会の一員となる大学生としての知的能力を会得するにふさわしい場です。

このゼミでは、都市について多面的に読解、把握、分析を行い、将来の都市像を構想しそれを実際にデザインしてゆくための都市戦略を構築するための研究活動を進めてゆきます。

テーマとしては政府機関や自治体との共同研究による地域経済振興企画策定や都市計画、都市の美しさや社会システムといったソーシャルデザイン全般、テクノベンチャーやイノベーションによる地域産業振興・商業振興、ソーシャルメディアとコミュニケーション、さらには農業、観光、環境、ナショナルセキュリティ、市民参加やNPO、都市における芸術やデザインといった分野まで都市の諸活動を広く網羅し、クリエイティブで活力ある都市をつくるための手法を皆さんと考えたいと思います。

【到達目標】

都市の魅力とその構造を知り、都市の読解を行う能力を身につけた上で、具体的な都市の課題と可能性をフィールドワークにて調査し感じ取り、自らその解決策や活用法を提案し実行に移せるだけの経験をし、それをプレゼンテーションを経て卒業論文などにまとめて発表する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する (1.5時間)
- 第2回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する (1.5時間)
- 第3回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する (1.5時間)
- 第4回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する (1.5時間)
- 第5回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する (1.5時間)
- 第6回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する (1.5時間)
- 第7回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する (1.5時間)
- 第8回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する (1.5時間)
- 第9回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する (1.5時間)
- 第10回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する (1.5時間)
- 第11回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する (1.5時間)
- 第12回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する (1.5時間)
- 第13回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する (1.5時間)

- 第14回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う（1.5時間）
復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する（1.5時間）
- 第15回 まとめ
予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う（1.5時間）
復習：ゼミ内容を振り返り各自で整理する（1.5時間）

【授業の進め方】

都市の具体の課題を前提にしたディスカッション、自治体や企業へのグループ調査などを軸に、文献講読や専門的な資料の分析、ゲストスピーカーとの対話など多様な内容を展開します。

そして、実際の都市の現場に出向いて教員やゼミ学生が共に何度か「街歩き」を行います。都市を自分の目で見つめて読み解きながら考え、現在我々が直面する課題をどのように解決するのか、総合的に考えてもらう重要な場になります。

さらに自分たちの調査や分析を地域の皆さんと共有し新たな知見を得て昇華させてゆくための、ゼミ主催によるワークショップやフューチャーセンターの開催を考えています。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

なし

【参考図書】

適宜紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

卒業論文、授業内ディスカッション、レポート、フィールドワーク、その他知的活動全般から判断。

【履修上の心得】

字面からは内容が難しく感じるかも知れませんがそれほどではないと理解して下さい。現在の学力や知識の有無は問題ではありませんが、何かを待っている姿勢の学生には厳しいゼミとなるかも知れません。むしろ、自ら動き考え提案するアクティブな学生が参加することを期待します。人生を前向きに捉えて、楽しさや面白さというものを優先順位の上位に置ける学生は是非合流してください。是非とも将来の地域のリーダーとなり、一緒に新しい社会を創りあげてゆきましょう。

科目名	ゼミナールⅡ-2 (小笠原)
教員名	小笠原 伸

【授業の内容】

都市は多くの現代的な課題を内包しているとともに、私たちの暮らすフィールドでもあります。それらについて考察することは魅力的な研究活動の一環であるとともに、皆さんが自らを鍛錬し社会の一員となる大学生としての知的能力を会得するにふさわしい場です。

このゼミでは、都市について多面的に読解、把握、分析を行い、将来の都市像を構想しそれを実際にデザインしてゆくための都市戦略を構築するための研究活動を進めてゆきます。

テーマとしては政府機関や自治体との共同研究による地域経済振興企画策定や都市計画、都市の美しさや社会システムといったソーシャルデザイン全般、テクノベンチャーやイノベーションによる地域産業振興・商業振興、ソーシャルメディアとコミュニケーション、さらには農業、観光、環境、ナショナルセキュリティ、市民参加やNPO、都市における芸術やデザインといった分野まで都市の諸活動を広く網羅し、クリエイティブで活力ある都市をつくるための手法を皆さんと考えたいと思います。

【到達目標】

都市の魅力とその構造を知り、都市の読解を行う能力を身につけた上で、具体の都市の課題と可能性をフィールドワークにて調査し感じ取り、自らその解決策や活用法を提案し実行に移せるだけの経験をし、それをプレゼンテーションを経て卒業論文などにまとめて発表する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、卒業論文企画プレゼンテーション
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で卒業論文作成に取り掛かる (1.5時間)
- 第2回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で卒業論文作成に取り掛かる (1.5時間)
- 第3回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で卒業論文作成に取り掛かる (1.5時間)
- 第4回 ディスカッション、文献購読、フィールドワーク等
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で卒業論文作成に取り掛かる (1.5時間)
- 第5回 卒業論文中間チェック
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で卒業論文作成に取り掛かる (1.5時間)
- 第6回 卒業論文中間チェック
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で卒業論文作成に取り掛かる (1.5時間)
- 第7回 卒業論文指導
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で卒業論文作成に取り掛かる (1.5時間)
- 第8回 卒業論文指導
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で卒業論文作成に取り掛かる (1.5時間)
- 第9回 卒業論文指導
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で卒業論文作成に取り掛かる (1.5時間)
- 第10回 卒業論文指導
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で卒業論文作成に取り掛かる (1.5時間)
- 第11回 卒業論文指導
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で卒業論文作成に取り掛かる (1.5時間)
- 第12回 卒業論文指導
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で卒業論文作成に取り掛かる (1.5時間)
- 第13回 卒業論文指導
 予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う (1.5時間)
 復習：ゼミ内容を振り返り各自で卒業論文作成に取り掛かる (1.5時間)

第14回 卒業論文指導

予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う（1.5時間）

復習：ゼミ内容を振り返り各自で卒業論文作成に取り掛かる（1.5時間）

第15回 卒業論文提出、卒業論文発表会準備

予習：指示した課題を個人、グループにて調査しまとめ発表準備を行う（1.5時間）

復習：卒業論文発表会の準備を行う（1.5時間）

【授業の進め方】

都市の具体の課題を前提にしたディスカッション、自治体や企業へのグループ調査などを軸に、文献講読や専門的な資料の分析、ゲストスピーカーとの対話など多様な内容を展開します。

そして、実際の都市の現場に向いて教員やゼミ学生が共に何度か「街歩き」を行います。都市を自分の目で見つめて読み解きながら考え、現在我々が直面する課題をどのように解決するのか、総合的に考えてもらう重要な場になります。

その上で、卒業論文の執筆、発表会での卒論発表を行ってまいります。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

なし

【参考図書】

適宜紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

卒業論文、授業内ディスカッション、レポート、フィールドワーク、その他知的活動全般から判断。

【履修上の心得】

字面からは内容が難しく感じるかも知れませんがそれほどではないと理解して下さい。現在の学力や知識の有無は問題ではありませんが、何かを待っている姿勢の学生には厳しいゼミとなるかも知れません。むしろ、自ら動き考え提案するアクティブな学生が参加することを期待します。人生を前向きに捉えて、楽しさや面白さというものを優先順位の上に置ける学生は是非合流してください。是非とも将来の地域のリーダーとなり、一緒に新しい社会を創りあげてゆきましょう。

科目名	ゼミナールⅡ-1 (高畑)
	アメリカと2030年の世界Ⅰ
教員名	高畑 昭男

【授業の内容】

現代アメリカの外交・安全保障政策についてさらに掘り下げて研究する。21世紀の世界は極めて流動的で、また「アジアの世紀」とも呼ばれるように、20世紀まで見慣れた世界とは異なるものに大きく変容しつつある。このような国際安全保障環境の中で、アメリカがどのような世界秩序を描こうとし、いかなる世界戦略をもって臨むのか。米国家情報会議の未来予測報告などをもとに、その内容や将来の方向を探る。アジア最大の同盟国である日本との関係や、日米にどのような役割が求められているかについても考察し、日本の平和と世界の安全に役立てる方策を探りたい。

ゼミ後期(Ⅱ-2)においては安全保障シミュレーション・ゲームを導入するので、その準備も行う。シミュレーション・ゲームとは学生諸君を主要国に相当するチームに分けてゲームを実際に演じてもらうもので、アメリカ、日本、中国、ロシアなどの指導者になったつもりで国際危機に対応する外交交渉や折衝の複雑さと難しさを疑似体験することを狙いとする。

近未来に予想される国際危機をシミュレーションしたゲームを実際に演じることによって、国際関係を平和裏に展開していくための工夫や努力を主体的に学ぶことが可能になり、より深い理解や洞察が得られるものと期待したい。

【到達目標】

1. 21世紀の国際安全保障環境について学び、20世紀までの環境とどのように違うのかを理解する。
2. 21世紀におけるアメリカの外交・安全保障政策の概要、特徴などを理解する。
3. アジア最大の同盟国である日本との関係の将来像や日米同盟に期待される役割について考える。
4. 日米同盟の基盤である日米安全保障条約について学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 国家戦略と未来予測。国家戦略とは何か。アメリカの世界戦略はどのようにつくられるか。
- 第2回 未来予測報告(1)。21世紀とはどんな世界なのか。アメリカの未来予測報告のあらまし。
- 第3回 未来予測報告(2) アジア太平洋情勢の見通し。
- 第4回 未来予測報告(3) ヨーロッパ情勢とロシア。
- 第5回 未来予測報告(4)。人口動態と国力の関係。
- 第6回 未来予測報告(5)。世界経済の動向。エネルギー情勢。
- 第7回 日米同盟の基盤 「初めて読む日米安保条約」の読み込みと解説。
- 第8回 日米同盟の基盤 「初めて読む日米安保条約」の読み込みと解説。
- 第9回 日米同盟の基盤。
- 第10回 日米同盟の基盤。
- 第11回 日米同盟の基盤。「Gゼロの世界」とスマートパワー。
- 第12回 日米同盟の基盤。軍事・安全保障情勢。新たな覇権の地位を狙う国々といかに向き合うか。
- 第13回 日米同盟の基盤。日米同盟の将来像と役割。
- 第14回 シミュレーション・ゲームの導入。簡単なミニゲームの展開。
- 第15回 まとめと展望。後期へ向けて、ゼミの達成目標にどこまで近づけたかを振り返る。

4年生ゼミでは、後期に行うシミュレーション・ゲームを含めて、やや高度な外交知識を前提とする。これまで学んできたアメリカや日本の国際関係に関する全般的な知見をフルに活用して、実際に危機に直面した各国指導部の立場に身を置いて、危機の平和的解決に取り組んでもらう。そうしたゲームを体験することによって、今後の国際情勢、アメリカの外交安全保障政策、日米同盟の意義や役割などについて実践的な知識を深めることが最大の目標となる。

本ゼミでは『初めて読む日米安保条約』(坂元一哉)を副読本とし、熟読・回読を通して日米同盟の基盤となっているさまざまな約束、要素、特殊性などについて理解を深める。日米関係の核心にある安保条約を理解した上で、後期のシミュレーション・ゲームに臨む態勢を整えていきたい。

【授業の進め方】

1. アメリカ外交の大きな流れや特徴を理解するために、副読本や他の文献を読み込む。
2. 日々の動きを新聞、雑誌記事などから拾い集めて検討する。
3. 「世界の潮流」報告などを主要な文献資料とし、少しずつ読み進める。
4. 学生諸君のチーム学習を通して自ら体を動かしながら学ぶ。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

とくに指定しない。トランプ外交、アメリカ外交に関する文献を読んでおくといよい。日々の新聞、ニュース報道、分析記事などは優れた教科書になる。社会人生活に備える意味でも、新聞を毎日読む癖をつけておきたい。

【参考図書】

『初めて読む日米安保条約』（坂元一哉）を副読本として熟読する。その他に、アメリカ外交、国際関係に関するニュース、論文、著作等に広く触れておくことを勧めたい。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

必ず全クラスに出席するようにしたい。成績評価はレポート・課題の内容60%、平常点（出席状況、討論、受講態度を含む）40%をもとに行う。期末試験はしない。無断欠席は厳禁。欠席すると全体の流れを見失い、チームにも迷惑になる。全員が出席率100%をめざすよう、確固たる意志を持って履修してもらいたい。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

自由研究やプレゼン、シミュレーション・ゲームなど学生主体のチーム作業が大きな比率を占めるため、全てのクラスに出席してチーム作業に加わるのが極めて重要である。好奇心、探究心、チャレンジ精神に加え、協調性やチームワークも欠かせない。進んで研究テーマを発掘する意欲を持つことも大切だ。

【履修上の心得】

研究テーマの設定は基本的に自由であり、学生諸君の主体性を尊重する。楽しみながら調査研究する気持ちを持ってチャレンジしてほしい。アメリカと世界の動きについて日ごろから関心を高め、日々の報道にも目を通していきたい。

【科目のレベル、前提科目など】

基本的な理解から始めて徐々に内容を掘り下げていく。

科目名	ゼミナールⅡ-2 (高畑)
	アメリカと2030年の世界Ⅱ
教員名	高畑 昭男

【授業の内容】

現代アメリカの外交・安全保障政策と世界の未来像について掘り下げて研究する。21世紀の世界は極めて流動的で、また「アジアの世紀」とも呼ばれるように、20世紀まで見慣れてきた世界とは異なるものに変容しつつある。新たな国際安全保障環境の下でアメリカがどのような世界平和秩序を描こうとしているのか。いかなる世界戦略をもって臨むのか。――米国家情報会議の未来予測報告などをもとに、その内容や将来の方向を探る。アジア最大の同盟国である日本との関係や日米同盟にどんな役割が求められているかについても考察し、日本の平和と世界の安全に役立てる方策を探ることによって、ゼミをしめくくる。

ゼミナールⅠ-1、Ⅰ-2およびⅡ-1を踏まえて、アメリカ研究を完結させる内容となる。21世紀の世界がどのような姿になるのか、その中でアメリカはどんな役割を果たしていくのか。また、日本はアメリカと共にどのように行動すべきか。そうした問題意識に立って、未来予測やシミュレーションなどを活用しながら実証的に考察し、検討する。未来を担う学生諸君にとって、よりよい世界を築くための視点や考察力を養う。クラスはゼミナールⅡ-1と同様にアクティブ・ラーニングやシミュレーション・ゲームの手法を取り入れ、自由研究を主体とする形式で進めたい。

アメリカは日本にとって世界で最も重要な同盟国であり、かつ大切なパートナーでもある。日米を中心とした近未来の危機管理シナリオに基づいて、学生が実際に参加して様々なシミュレーション・ゲームを行い、その結果を分析しつつ、理解を深める。

【到達目標】

1. アメリカの外交・安全保障政策の概要、特徴などを理解する。
2. 21世紀の世界がどのような姿になるのか、未来予測報告などをもとに考察する。
3. アメリカが21世紀に向けてどんな外交・安全保障政策をめざしているかを探る。
4. 日米両国に期待される役割について検討する。
5. 国際関係、日米同盟の展開について独自に考える洞察力、判断力を養う。

【授業計画】

- 第1回 2030年の世界を想像する。国家情報会議の各種報告をもとに、様々なシナリオの概要をみる。
- 第2回 2030年の世界の動向。トランプ政権の外交・安保政策に対する国際社会の反応などを検討する。
- 第3回 多極化世界の進行と同盟。世界の多極化の流れとアメリカの国家戦略の予想。
- 第4回 非国家主体（企業、NGO、民族、宗教、犯罪組織など）の影響拡大とアメリカ。
- 第5回 シミュレーション・ゲームの意義、手法、内容などの再確認と実行に向けた準備。
- 第6回 力の拡散(Difusion of Power)とアメリカ。トランプ政権下で予想される変化と日本の対応を検討する。
- 第7回 資源、エネルギー情勢。地球人口の増大と水、食糧、基本的エネルギー供給の関係。人口動態とパワー。
- 第8回 グローバルガバナンス（統治）と国際秩序。開発と貧困のギャップ。
- 第9回 「世界の警察官」でなくなるアメリカ。世界秩序を誰がどう担うのか。シミュレーション・ゲームの実施。
- 第10回 シミュレーション・ゲームの結果を振り返り、各自がどのように行動し、結果がどうなったかを検証する。
- 第11回 新技術とアメリカ。情報コミュニケーション革命とサイバー危機管理。シミュレーション・ゲームの展開と反省。
- 第12回 グローバル化と世界。善も悪も世界に拡散させるグローバル化の功罪。シミュレーション・ゲームを展開。
- 第13回 2030年の日米同盟。米中、中印、日米関係。アジア太平洋の力学的変化をシミュレーションを通して探る。
- 第14回 シミュレーション・ゲームの結果とまとめ、討論。
- 第15回 全体の総括と復習。全体を通じて、各自がそれぞれ何を学んだかを振り返り、ゼミをしめくくる。

シミュレーション・ゲームの展開を含めて、やや高度な外交知識を前提とする。約2年間に学んできたアメリカの外交・安全保障政策、日米同盟関係等に関する全般的知見をフルに活用して、実際に危機に直面した各国指導部の立場に身を置いて、危機の平和的解決に取り組んでもらう。

ゲームを体験することによって、今後の国際情勢、アメリカの外交安全保障政策、日米同盟の意義や役割などについて実践的な知識を深めることを最大の目標としている。その準備も含めて、学生諸君には今までに増して日々の国際ニュースを注視し、実際に世界で起きつつあることに理解を深めてもらいたい。そうした日々の認識がよりよい世界をめざす思考と工夫につながっていくはずだ。

【授業の進め方】

1. 21世紀の世界やアメリカの動向を予測する文献を読み込む。
2. シミュレーション・ゲームや討論を通じて、アメリカの外交・安全保障政策の理解を深める。
3. 日米安全保障条約と日米同盟について、その役割や意義をゲームを通じて確認し、検証する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

とくに指定しない。トランプ外交、アメリカ外交、その歴史や現状に関する文献を広くあさって読み込んでほしい。また、日々の新聞やニュース報道は現実に即した教科書といえる。新聞を毎日読む癖をつけておきたい。

【参考図書】

米国家情報会議編「世界の潮流2030」などの未来予測、日米同盟の基盤となる安全保障条約に関する解説書などを読み込んでおきたい。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

成績評価はレポート・課題の内容60%、平常点（出席状況、討論、受講態度を含む）40%をもとに行う。期末試験はしない。

全クラスに出席することを最大の目標としたい。無断欠席は厳禁。欠席すると全体の流れについていけず、チームの迷惑にもなる。全員が出席率100%をめざすよう、確かな意志を持って履修してもらいたい。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

ゼミは自由研究やプレゼン、シミュレーション・ゲームなど学生主体のチーム作業が大きな比率を占める。このため、チーム全員が出席していることが極めて大切だ。好奇心、探究心、チャレンジ精神に加え、協調性やチームワークも欠かせない。アメリカ外交について進んでテーマを発掘する意欲をキープしたい。

【履修上の心得】

シミュレーション・ゲームの際には、無断欠席はチームの迷惑となる。ゲームを楽しみながら知見を深める気持ちを持ってチャレンジしてほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

前期(ゼミナールⅡ-1) 合格者を対象とする。アメリカ外交、日米安全保障関係について理解を深め、ゼミ研究を完結させたい。

科目名	ゼミナールⅡ-1 (范)
教員名	范 力

【授業の内容】

- 1、より深く現代中国を理解するため、Ezro F.Vogel著『現代中国の父 鄧小平』下(日本経済新聞出版社、2013年)を読む。
- 2、卒論を考える
- 3、食事会
- 4、合宿
- 5、就活を手伝う。

【到達目標】

- 1、中国を深く理解すること
- 2、ゼミ生の視野を広げること
- 3、プレゼンやディベートの力をつけること
- 4、卒論を作成すること
- 5、(就活) 内定獲得

【授業計画】

- 第1回 1、革命家から建設者へ、そして改革者へ（プレゼンのテーマ、以下同じ）
2、ディベート（テーマはゼミ生が考えてもらう、以下同じ）
- 第2回 1、最高指導者への屈折の道・追放と復活
2、ディベート
- 第3回 1、毛沢東の下での秩序回復
2、ディベート
- 第4回 1、毛沢東の下での前進
2、ディベート
- 第5回 1、毛沢東時代の終焉を傍観
2、ディベート
- 第6回 1、華国鋒の下での復活
2、ディベート
- 第7回 1、鄧小平時代の始まり・三つの転換点へ
2、ディベート
- 第8回 1、自由の限度の設定
2、ディベート
- 第9回 1、ソ連・ベトナムの脅威
2、ディベート
- 第10回 1、日本への門戸開放
2、ディベート
- 第11回 1、アメリカンへの門戸開放
2、ディベート
- 第12回 1、鄧小平政権の船出
2、ディベート
- 第13回 1、鄧小平の統治技術
2、ディベート
- 第14回 上巻を振り返って
- 第15回 まとめ・到達目標チェック

【授業の進め方】

- 1、プレゼン
- 2、ディベート
- 3、その他

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①現代中国の父・鄧小平 上 ③日本経済新聞出版社 ④2013年

【参考図書】

授業において指示、配布する

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 70% レポート・課題 20% 受講態度 10%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

プレゼン・討論など。

具体的な評価方法・基準及び評価比率の「授業内小テスト70%」はプレゼン40%+ディベート30%になります。

【履修上の心得】

プレゼンやディベートなどをしっかりやること

科目名	ゼミナールII-2 (范)
教員名	范 力

【授業の内容】

- 1、より深く現代中国を理解するため、Ezro F.Vogel著『現代中国の父 鄧小平』下(日本経済新聞出版社、2013年)を読む。
- 2、合宿
- 3、食事会
- 4、就活を手伝う。
- 5、卒論作成

【到達目標】

- 1、中国を深く理解すること
- 2、ゼミ生の視野を広げること
- 3、プレゼンやディベートの力をつけること
- 4、卒論を作成すること
- 5、(就活) 内定獲得

【授業計画】

- 第1回 1、鄧小平の時代・広東・福建の実験（プレゼンのテーマ、以下同じ）
2、ディベート（テーマはゼミ生が考えてもらう。以下同じ）
- 第2回 1、経済調整と農村改革
2、ディベート
- 第3回 1、経済発展と対外開放の加速
2、ディベート
- 第4回 1、一国二制度・台湾・香港・チベット
2、ディベート
- 第5回 1、軍隊—現代化を目指して
2、ディベート
- 第6回 1、寄せては返す政治の波
2、ディベート
- 第7回 1、北京の春
2、ディベート
- 第8回 1、天安門の悲劇
2、ディベート
- 第9回 1、逆風の中で
2、ディベート
- 第10回 1、有終の美・南巡講話
2、ディベート
- 第11回 1、鄧小平の歴史的な位置づけ・中国の変容
2、ディベート
- 第12回 卒論の作成
- 第13回 卒論の作成
- 第14回 卒論の作成
- 第15回 まとめ・到達目標チェック

【授業の進め方】

プレゼン、討論、卒論作成など

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①現代中国の父・鄧小平 下 ③日本経済新聞出版社 ④2013年

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 50% レポート・課題 50% 受講態度 0%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

具体的な評価方法・基準及び評価比率の「授業内小テスト50%」はプレゼン30%+ディベート20%になり、「レポート・課題の50%」は卒論の比率になります。

【履修上の心得】

プレゼンをしっかりやって、卒論を作成すること

科目名	ゼミナールⅡ-1 (菅野)
	クリエイティブビジネスの研究—魅力的なコンテンツを作る法—
教員名	菅野 嘉則

【授業の内容】

デジタル技術の目覚ましい進歩によって、メディアが転機を迎えています。世界中のコンピューターがネットワークで結ばれることで、コミュニケーションの方法が一変し、メディアビジネスの根幹が揺らいでいるのです。

かつてメディアと言えば、ポストに配達された新聞、書店に並べられた本、レコード店に陳列されたCD、決まった日時に放送されるテレビ番組…といったものでした。ところがいつの間にか、スマホさえあれば、ニュースや、小説、音楽、ドラマをいつでもどこでも楽しむことができ、それどころか、即座に他の人々と情報交換することも可能になりました。

こうなった理由は、驚くべきスピードでコンピューターの処理能力が向上し、情報処理コストが激減したからです。遠からず、誰もが瞬時に大量の情報を送受信できるようになり、その影響はビジネスやライフスタイル全般に及んで、同時にメディアという概念も変わることでしょう。メディアは情報を送り届けてくれるものではなく、自ら使いこなすものと認識され、一部の人がコンテンツを独占する時代は終わりを告げるのです。

これからはあらゆる業種のあらゆる企業や組織が、コンテンツを発信するメディア産業としての側面を持つようになります。どんな仕事に就くにせよ、商品やサービスを広め、ユーザーの特性を知り、話題になるよう工夫し、マネタイズしてゆくために、メディアを活用しなければなりません。そのために必要なのは、人を惹きつける技術です。さまざまなメッセージを、言葉や音楽、映像などを駆使して、効率的に伝達し、受け手の感情を刺激するのです。

そんな人々の熱狂を生み出すコンテンツとはどんなものでしょうか？ みなさんは何に共感し、何を面白いと感じるのでしょうか？

本ゼミでは、「キャラクター」と「ストーリー」というコンテンツの2つの要素に着目し、魅力的なコンテンツの秘密に迫ります。一緒に、人々を虜にするコンテンツ作りを学び、これからのメディア社会を生き抜く力を身につけましょう。こうしたゼミでの活動は、企業や組織で働く疑似体験となり、仕事をする上で必要な力を身につける手助けとなるはずです。

【到達目標】

大学生が、社会に出て真っ先に必要になることは3つあります。

- ①はっきりした目的を持つこと
- ②自分たちの活動を分析できること
- ③グループで努力向上すること

本ゼミへの参加を通して、学生諸氏は

- ・作品の解析や制作という目標を設定し、
- ・表現と技術を理解して、自らの能力を活かし、
- ・お互い協力しながら、適切なリーダーシップを発揮することができるでしょう。

【授業計画】

第1回	ストーリーの映像化	学習課題：アニメーション表現（～4時間）
第2回	ストーリーの映像化	学習課題：アニメーション表現（～4時間）
第3回	ストーリーの映像化	学習課題：アニメーション表現（～4時間）
第4回	ストーリーの映像化	学習課題：アニメーション表現（～4時間）
第5回	ストーリーの映像化	学習課題：アニメーション表現（～4時間）
第6回	ストーリーの映像化	学習課題：アニメーション表現（～4時間）
第7回	ストーリーの映像化	学習課題：アニメーション表現（～4時間）
第8回	ストーリーの映像化	学習課題：アニメーション表現（～4時間）
第9回	ストーリーの映像化	学習課題：アニメーション表現（～4時間）
第10回	ストーリーの映像化	学習課題：アニメーション表現（～4時間）
第11回	ストーリーの映像化	学習課題：アニメーション表現（～4時間）
第12回	オリジナルコンテンツ制作	学習課題：クリエイティブ・テクノロジーの実践（～4時間）
第13回	オリジナルコンテンツ制作	学習課題：クリエイティブ・テクノロジーの実践（～4時間）
第14回	オリジナルコンテンツ制作	学習課題：クリエイティブ・テクノロジーの実践（～4時間）
第15回	オリジナルコンテンツ制作	学習課題：クリエイティブ・テクノロジーの実践（～4時間）

デジタル化の進展によって、制作者のイメージ通りに映像を設計し、描写し、加工することが可能になりました。いわば、映像は“アニメ化”したのです。本ゼミでは、アニメーションの歴史と表現を理解した上で、実際のコンテンツ制作を通して、将来のクリエイティブビジネスを展望します。

【授業の進め方】

全体テーマ「アニメーション映像表現」についての調査と分析を通してコンテンツの構造を学びながら、企画書作成、ディスカッションを通じた作品づくりと、コンテンツの企画から完成までのプロジェクトマネジメントを実践します。制作した作品や記事は、学外コンテスト等に応募します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

指定教科書はありませんが、映像作品を教材として活用します。

【参考図書】

『The Anatomy of Story: 22 Steps to Becoming a Master Storyteller』John Truby (Farrar Straus & Giroux・2008/10/28・ISBN-10: 0865479933) 1500～2000円

『Story: Style, Structure, Substance, and the Principles of Screenwriting』Robert McKee (HarperCollins・2010/9/28・ASIN: B0042FZVOY) 250～3500円

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

【履修上の心得】

ものづくりを通して、創造的な活動への理解を深め、社会性を身につけたい学生に適しています。なお、最新のコンテンツ制作を学ぶための推奨科目は以下の通りです。

I Tメディア論 I → I Tメディア論 II →メディア制作演習 I (アニメ) →メディア制作演習 II (アニメ) →メディア制作 (3Dプリント) →菅野ゼミナール I →菅野ゼミナール II

【科目のレベル、前提科目など】

Windowsのアプリケーションを操作できる、または習得する意思があること。I Tメディア論とメディア制作演習(アニメ)を受講していることが望ましい。履修推奨年次は4年です。

科目名	ゼミナールⅡ-2 (菅野)
	クリエイティブビジネスの研究—魅力的なコンテンツを作る法—
教員名	菅野 嘉則

【授業の内容】

デジタル技術の目覚ましい進歩によって、メディアが転機を迎えています。世界中のコンピューターがネットワークで結ばれることで、コミュニケーションの方法が一変し、メディアビジネスの根幹が揺らいでいるのです。

かつてメディアと言えば、ポストに配達された新聞、書店に並べられた本、レコード店に陳列されたCD、決まった日時に放送されるテレビ番組…といったものでした。ところがいつの間にか、スマホさえあれば、ニュースや、小説、音楽、ドラマをいつでもどこでも楽しむことができ、それどころか、即座に他の人々と情報交換することも可能になりました。

こうなった理由は、驚くべきスピードでコンピューターの処理能力が向上し、情報処理コストが激減したからです。遠からず、誰もが瞬時に大量の情報を送受信できるようになり、その影響はビジネスやライフスタイル全般に及んで、同時にメディアという概念も変わることでしょう。メディアは情報を送り届けてくれるものではなく、自ら使いこなすものと認識され、一部の人がコンテンツを独占する時代は終わりを告げるのです。

これからはあらゆる業種のあらゆる企業や組織が、コンテンツを発信するメディア産業としての側面を持つようになります。どんな仕事に就くにせよ、商品やサービスを広め、ユーザーの特性を知り、話題になるよう工夫し、マネタイズしてゆくために、メディアを活用しなければなりません。そのために必要なのは、人を惹きつける技術です。さまざまなメッセージを、言葉や音楽、映像などを駆使して、効率的に伝達し、受け手の感情を刺激するのです。

そんな人々の熱狂を生み出すコンテンツとはどんなものでしょうか？ みなさんは何に共感し、何を面白いと感じるのでしょうか？

本ゼミでは、「キャラクター」と「ストーリー」というコンテンツの2つの要素に着目し、魅力的なコンテンツの秘密に迫ります。一緒に、人々を虜にするコンテンツ作りを学び、これからのメディア社会を生き抜く力を身につけましょう。こうしたゼミでの活動は、企業や組織で働く疑似体験となり、仕事をする上で必要な力を身につける手助けとなるはずです。

【到達目標】

大学生が、社会に出て真っ先に必要になることは3つあります。

- ①はっきりした目的を持つこと
- ②自分たちの活動を分析できること
- ③グループで努力向上すること

本ゼミへの参加を通して、学生諸氏は

- ・作品の解析や制作という目標を設定し、
- ・表現と技術を理解して、自らの能力を活かし、
- ・お互い協力しながら、適切なリーダーシップを発揮することができるでしょう。

【授業計画】

第1回	オリジナルコンテンツ制作	学習課題：クリエイティブ・テクノロジー実践（～4時間）
第2回	オリジナルコンテンツ制作	学習課題：クリエイティブ・テクノロジー実践（～4時間）
第3回	オリジナルコンテンツ制作	学習課題：クリエイティブ・テクノロジー実践（～4時間）
第4回	オリジナルコンテンツ制作	学習課題：クリエイティブ・テクノロジー実践（～4時間）
第5回	オリジナルコンテンツ制作	学習課題：クリエイティブ・テクノロジー実践（～4時間）
第6回	ブースト会議	学習課題：プロジェクト・マネジメント（～4時間）
第7回	オリジナルコンテンツ制作	学習課題：クリエイティブ・テクノロジー評価（～4時間）
第8回	オリジナルコンテンツ制作	学習課題：クリエイティブ・テクノロジー評価（～4時間）
第9回	オリジナルコンテンツ制作	学習課題：クリエイティブ・テクノロジー評価（～4時間）
第10回	オリジナルコンテンツ制作	学習課題：クリエイティブ・テクノロジー評価（～4時間）
第11回	オリジナルコンテンツ制作	学習課題：クリエイティブ・テクノロジー評価（～4時間）
第12回	オリジナルコンテンツ制作	学習課題：クリエイティブ・テクノロジー評価（～4時間）
第13回	オリジナルコンテンツ制作	学習課題：クリエイティブ・テクノロジー評価（～4時間）
第14回	成果発表会	学習課題：プレゼンテーション（～4時間）
第15回	成果発表会	学習課題：プレゼンテーション（～4時間）

デジタル化の進展によって、制作者のイメージ通りに映像を設計し、描写し、加工することが可能になりました。いわば、映像は“アニメ化”したのです。本ゼミでは、アニメーションの歴史と表現を理解した上で、実際のコンテンツ制作を通して、将来のクリエイティブビジネスを展望します。

【授業の進め方】

全体テーマ「アニメーション映像表現」についての調査と分析を通してコンテンツの構造を学びながら、企画書作成、ディスカッションを通じた作品づくりと、コンテンツの企画から完成までのプロジェクトマネジメントを実践します。制作した作品や記事は、学外コンテスト等に応募します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

指定教科書はありませんが、映像作品を教材として活用します。

【参考図書】

『The Anatomy of Story: 22 Steps to Becoming a Master Storyteller』 John Truby (Farrar Straus & Giroux・2008/10/28・ISBN-10: 0865479933) 1500～2000円

『Story: Style, Structure, Substance, and the Principles of Screenwriting』 Robert McKee (HarperCollins・2010/9/28・ASIN: B0042FZVOY) 250～3500円

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

【履修上の心得】

ものづくりを通して、創造的な活動への理解を深め、社会性を身につけたい学生に適しています。なお、最新のコンテンツ制作を学ぶための推奨科目は以下の通りです。

I Tメディア論 I → I Tメディア論 II →メディア制作演習 I (アニメ) →メディア制作演習 II (アニメ) →メディア制作 (3Dプリント) →菅野ゼミナール I →菅野ゼミナール II

【科目のレベル、前提科目など】

Windowsのアプリケーションを操作できる、または習得する意思があること。I Tメディア論とメディア制作演習(アニメ)を受講していることが望ましい。履修推奨年次は4年です。

科目名	ゼミナールⅡ-1 (青崎)
	コミュニケーションビジネス研究
教員名	青崎 智行

【授業の内容】

わたしたちの暮らしや企業のマーケティング活動、そして地域おこしや国家のイメージアップにいたるまでコミュニケーション産業は幅広く現代社会のなかで浸透し影響を及ぼしている。このゼミでは、広告、メディア（放送局、新聞社、インターネット等）・コンテンツ（映画、テレビ番組、アニメ、音楽等）などの分野を中心とした研究を行う。コミュニケーション産業の裾野は多岐にわたるため、ゼミ生自身の自主性を尊重しながら最新のトピックやオリジナリティのあるテーマを扱う。

【到達目標】

基本的な文献の読解、情報の収集・活用、レジュメの作成・発表、ディスカッション、グループワーク、夏合宿の企画・運営、プレゼンテーションや卒業論文の作成・発表などの活動を行うことで、社会人として将来役に立つスキルを習得することも重要な課題に掲げながらゼミを進めていく。このゼミを通じて学生ひとりひとりが思考力や分析力、そして何よりもコミュニケーション能力を高めていけるようにしたい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究テーマに関する報告と討論①
- 第3回 研究テーマに関する報告と討論②
- 第4回 研究テーマに関する報告と討論③
- 第5回 研究テーマに関する報告と討論④
- 第6回 研究テーマに関する報告と討論⑤
- 第7回 研究テーマに関する報告と討論⑥
- 第8回 研究テーマに関する報告と討論⑦
- 第9回 研究テーマに関する報告と討論⑧
- 第10回 研究テーマに関する報告と討論⑨
- 第11回 研究テーマに関する報告と討論⑩
- 第12回 研究テーマに関する報告と討論⑪
- 第13回 研究テーマに関する報告と討論⑫
- 第14回 研究テーマに関する報告と討論⑬
- 第15回 研究テーマに関する報告と討論⑭

【教科書(必ず購入すべきもの)】

情報メディア白書、デジタルコンテンツ白書等の関連資料（講義中に指示する）。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

ゼミ活動全般に対する貢献、発表や作成レポートの内容などにより総合的に評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

ゼミ活動全般に対する貢献、発表や作成レポートの内容などにより総合的に評価する。

【履修上の心得】

普段から自主性、積極性をもって自身の興味対象分野に対する情報収集を行い、自らの問題意識を高めながらゼミに参画すること。

科目名	ゼミナールⅡ-2 (青崎)
	コミュニケーションビジネス研究
教員名	青崎 智行

【授業の内容】

わたしたちの暮らしや企業のマーケティング活動、そして地域おこしや国家のイメージアップにいたるまでコミュニケーション産業は幅広く現代社会のなかで浸透し影響を及ぼしている。このゼミでは、広告、メディア（放送局、新聞社、インターネット等）・コンテンツ（映画、テレビ番組、アニメ、音楽等）などの分野を中心とした研究を行う。コミュニケーション産業の裾野は多岐にわたるため、ゼミ生自身の自主性を尊重しながら最新のトピックやオリジナリティのあるテーマを扱う。

【到達目標】

基本的な文献の読解、情報の収集・活用、レジュメの作成・発表、ディスカッション、グループワーク、夏合宿の企画・運営、プレゼンテーションや卒業論文の作成・発表などの活動を行うことで、社会人として将来役に立つスキルを習得することも重要な課題に掲げながらゼミを進めていく。このゼミを通じて学生ひとりひとりが思考力や分析力、そして何よりもコミュニケーション能力を高めていけるようにしたい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究テーマに関する報告と討論①
- 第3回 研究テーマに関する報告と討論②
- 第4回 研究テーマに関する報告と討論③
- 第5回 研究テーマに関する報告と討論④
- 第6回 研究テーマに関する報告と討論⑤
- 第7回 研究テーマに関する報告と討論⑥
- 第8回 研究テーマに関する報告と討論⑦
- 第9回 研究テーマに関する報告と討論⑧
- 第10回 研究テーマに関する報告と討論⑨
- 第11回 研究テーマに関する報告と討論⑩
- 第12回 研究テーマに関する報告と討論⑪
- 第13回 研究テーマに関する報告と討論⑫
- 第14回 研究テーマに関する報告と討論⑬
- 第15回 研究テーマに関する報告と討論⑭

【教科書(必ず購入すべきもの)】

情報メディア白書、デジタルコンテンツ白書等の関連資料（講義中に指示する）。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

ゼミ活動全般に対する貢献、発表や作成レポートの内容などにより総合的に評価する。

【履修上の心得】

普段から自主性、積極性をもって自身の興味対象分野に対する情報収集を行い、自らの問題意識を高めながらゼミに参画すること。

科目名	ゼミナールII-1 (西谷)
教員名	西谷 勢至子

【授業の内容】

卒業論文の作成と発表を中心とする。卒業論文では、ゼミ生が自らテーマを設定し、そのテーマの先行研究をまとめ、そしてその上で理論に基づき自分なりの結論を導き出すことを目指す。また、卒業論文の作成の過程で、(1)他のゼミ生に研究成果を発表することを通じて、プレゼンテーション能力をつけ、(2)他のゼミ生の研究発表に対して、質問したり、意見を述べたりすることを通じて、ディスカッション能力を向上させることも目的とする。

【到達目標】

- ・自分の研究テーマを設定する
- ・専門書や論文を発表することができる（自ら高度な理論を理解し、他者に説明できるようになる）
- ・理論研究の面白さ、意義を実感する
- ・プレゼンテーション能力とディスカッション能力を高める

【授業計画】

- 第1回 卒業論文のテーマ発表①（予習60分）
- 第2回 卒業論文のテーマ発表②（予習60分）
- 第3回 卒業論文のテーマの先行研究①（予習60分）
- 第4回 卒業論文のテーマの先行研究②（予習60分）
- 第5回 卒業論文のテーマの先行研究③（予習60分）
- 第6回 関心のある研究①（予習60分）
- 第7回 関心のある研究②（予習60分）
- 第8回 関心のある理論や専門書①（予習60分）
- 第9回 関心のある理論や専門書②（予習60分）
- 第10回 関心のある理論や専門書③（予習60分）
- 第11回 関心のある研究①（予習60分）
- 第12回 関心のある研究②（予習60分）
- 第13回 研究報告①（予習60分）
- 第14回 研究報告②（予習60分）
- 第15回 研究報告③（復習60分）

【授業の進め方】

卒業論文の発表や、作成のために各自で調べた論文や専門書の内容を報告する発表を中心とする。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

ゼミ生の関心に応じて決定する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

- ・「レポート」：卒業論文の発表や、卒業論文の作成のために各自で調べた論文や専門書の内容を説明する発表とその内容による評価
- ・「受講態度」：授業への取り組み、質疑応答の熱心さ

【履修上の心得】

- ・理論研究に対してはゼミナールIでも取り組むが、ゼミナールIIでは、実際に卒業論文に打ち込むことで、自ら理論研究の面白さを実感してもらいたい
- ・他のゼミ生と共に成長しようという意欲をもって授業にのぞむこと

科目名	ゼミナールII-2 (西谷)
教員名	西谷 勢至子

【授業の内容】

卒業論文の作成と発表を中心とする。卒業論文では、ゼミ生が自らテーマを設定し、そのテーマの先行研究をまとめ、そしてその上で理論に基づき自分なりの結論を導き出すことを目指す。また、卒業論文の作成の過程で、(1)他のゼミ生に研究成果を発表することを通じて、プレゼンテーション能力をつけ、(2)他のゼミ生の研究発表に対して、質問したり、意見を述べたりすることを通じて、ディスカッション能力を向上させることも目的とする。

【到達目標】

- ・自分で設定した研究テーマに対して理論による分析を行う
- ・自分で設定した研究テーマに関する先行研究をまとめる
- ・理論研究の面白さ、意義を実感する
- ・プレゼンテーション能力とディスカッション能力を高める

【授業計画】

- 第1回 卒業論文のテーマと先行研究の発表、ディスカッション① (予習60分)
 第2回 卒業論文のテーマと先行研究の発表、ディスカッション② (予習60分)
 第3回 関心のある専門書や論文の発表、ディスカッション① (予習60分)
 第4回 関心のある専門書や論文の発表、ディスカッション② (予習60分)
 第5回 関心のある専門書や論文の発表、ディスカッション③ (予習60分)
 第6回 関心のある専門書や論文の発表、ディスカッション④ (予習60分)
 第7回 関心のある専門書や論文の発表、ディスカッション⑤ (予習60分)
 第8回 関心のある専門書や論文の発表、ディスカッション⑥ (予習60分)
 第9回 関心のある専門書や論文の発表、ディスカッション⑦ (予習60分)
 第10回 卒業論文の発表とディスカッション① (予習60分)
 第11回 卒業論文の発表とディスカッション② (予習60分)
 第12回 卒業論文の発表とディスカッション③ (予習60分)
 第13回 卒業論文の発表とディスカッション④ (予習80分)
 第14回 卒業論文の発表とディスカッション⑤ (予習80分)
 第15回 卒業論文の発表とディスカッション⑥ (復習60分)

【教科書(必ず購入すべきもの)】

ゼミ生の関心に応じて決定する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 60% 受講態度 40%

特記事項

- ・「レポート」：卒業論文の評価と、卒業論文の発表や、作成のために各自で調べた論文や専門書の内容を説明する発表とその内容による評価
- ・「受講態度」：授業への取り組み、質疑応答の熱心さ

【履修上の心得】

- ・理論研究はゼミナールIでも取り組むが、ゼミナールIIでは、実際に卒業論文に打ち込むことで、自ら理論研究の面白さを実感してもらいたい
- ・他のゼミ生と共に成長しようという意欲をもって授業にのぞむこと

科目名	ゼミナールⅡ-1 (元田)
	テレビ研究と映像制作
教員名	元田 成

【授業の内容】

このゼミでは、①映像作品制作 ②テレビ研究 の2つに取り組みます。

①作品制作は、YouTube的動画、ドキュメンタリー、バラエティ、ドラマ、ミュージックビデオ、面白映像、コマーシャルなど何でもあります。まずは、実現可能なものからスタートするのがいいと考えます。制作に関しては、カメラや編集ソフトなどの機材・設備の使い方を授業で習うことになります。グループで作品を作る際には、企画、表現、手法を議論して絞り込み、共同作業で作品完成という目標に向かって試行錯誤を重ねます。それが創造の苦しさであり、楽しさであることを実感してもらいたいと思います。

②研究のテーマは、個人差が激しく、ジャニーズの特定のメンバーを徹底分析する人もいれば、音楽番組、アニメ、ドキュメンタリーを取り上げる人もいます。最初は自分が本当に好きな作品や人物を取り上げると個性的な研究ができるかもしれません。このほか研究テーマとして思いつく例は、「魅力を感じる番組の表現方法の秘密」「ネットと融合したテレビの可能性を探る」「若者のテレビ離れ」など無限にあります。

【到達目標】

テレビ放送と制作の仕組みや技術を理解し、実際に撮影やパソコンの編集ができるようになります。作品を企画・制作することでソフト制作の楽しさや魅力を体感し、創造力、表現力、感性、チームワークを習得します。研究発表することで、ひとつのことを追求して分析したり、わかりやすく表現する力を身につけます。

メディア志望の学生にとっては、進路決定や就職活動のプラスになります。一般企業に就職する人にとっても、ソフト制作の共同作業の経験が将来の仕事や生活の役に立つ場面があるとおもいます。

【授業計画】

- 第1回 作品企画案と研究テーマを提出
- 第2回 作品企画案検討
- 第3回 作品企画案決定
- 第4回 取材撮影①
- 第5回 取材撮影②
- 第6回 取材撮影③
- 第7回 取材撮影④
- 第8回 個人研究中間報告
- 第9回 作品編集①
- 第10回 作品編集②
- 第11回 作品編集③
- 第12回 作品編集④
- 第13回 各自研究の発表①
- 第14回 各自研究の発表②
- 第15回 作品完成発表

【教科書(必ず購入すべきもの)】

プリント、書籍など必要に応じて、配布したり紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項

作品制作と研究の出来具合が70%、取り組み姿勢が30%

科目名	ゼミナールⅡ-2 (元田)
	テレビ研究と映像制作
教員名	元田 成

【授業の内容】

このゼミでは、①映像作品制作 ②テレビ研究 の2つに取り組みます。

①作品制作は、YouTube的動画、ドキュメンタリー、バラエティ、ドラマ、ミュージックビデオ、面白映像、コマーシャルなど何でもあります。まずは、実現可能なものからスタートするのがいいと考えます。制作に関しては、カメラや編集ソフトなどの機材・設備の使い方を授業で習うことになります。グループで作品を作る際には、企画、表現、手法を議論して絞り込み、共同作業で作品完成という目標に向かって試行錯誤を重ねます。それが創造の苦しさであり、楽しさであることを実感してもらいたいと思います。

②研究のテーマは、個人差が激しく、ジャニーズの特定のメンバーを徹底分析する人もいれば、音楽番組、アニメ、ドキュメンタリーを取り上げる人もいます。最初は自分が本当に好きな作品や人物を取り上げると個性的な研究ができるかもしれません。このほか研究テーマとして思いつく例は、「魅力を感じる番組の表現方法の秘密」「ネットと融合したテレビの可能性を探る」「若者のテレビ離れ」など無限にあります。

【到達目標】

テレビ放送と制作の仕組みや技術を理解し、実際に撮影やパソコンの編集ができるようになります。作品を企画・制作することでソフト制作の楽しさや魅力を体感し、創造力、表現力、感性、チームワークを習得します。研究発表することで、ひとつのことを追求して分析したり、わかりやすく表現する力を身につけます。メディア志望の学生にとっては、進路決定や就職活動のプラスになります。一般企業に就職する人にとっても、ソフト制作の共同作業の経験が将来の仕事や生活の役に立つ場面があるとおもいます。

【授業計画】

- 第1回 作品企画案と研究テーマを提出
- 第2回 作品企画案検討
- 第3回 作品企画案決定
- 第4回 取材撮影①
- 第5回 取材撮影②
- 第6回 取材撮影③
- 第7回 取材撮影④
- 第8回 個人研究中間報告
- 第9回 作品編集①
- 第10回 作品編集②
- 第11回 作品編集③
- 第12回 作品編集④
- 第13回 各自研究の発表①
- 第14回 各自研究の発表②
- 第15回 作品完成発表

【教科書(必ず購入すべきもの)】

プリント、書籍など必要に応じて、配布したり紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 70% 受講態度 30%

特記事項
作品制作と研究の出来具合が70%、取り組み姿勢が30%

科目名	日本法制史
教員名	三浦 顕一郎

【授業の内容】

過去のない現在はない。皆さんが、生まれてから現在までの時間を経て、今を生活しているように、過去を持たない国や民族はない。日本史概論は、日本のこれまでの歩みを概観するものである。

歴史とは何か。イギリスの歴史家E・H・カーは、「歴史とは、過去と現在の対話である」と述べている。歴史が過去と現在の対話であるとはどういうことか。たとえばイタリアの哲学者クローチェは「ルネッサンスの人々が掘り起こすまで、古代ギリシャ人やローマ人は墓の下で眠っていたに過ぎない」と述べている。キリスト教の影響力が強かった中世の人々は、キリスト教以前の古代ギリシャやローマの人々の暮らしを知る必要がなく、また知ろうともしなかったため、古代ギリシャ人やローマ人を墓の下に眠らせていた。ルネッサンスの人々が、古代ギリシャ人やローマ人の暮らしを知ろうと思い、彼らを墓の下から掘り起こし、彼らに尋ね、彼らの営みを歴史にした。こうして過去は歴史になる。過去は無数に存在し、それは呼び起こされるまで眠っている。現代の問題関心が彼らを呼び起こして、過去を歴史にするのである。「歴史とは過去と現在の対話である」というのは、現代の問題関心が過去に呼びかけ、過去が応えることで、過去が歴史になるということである。

本講義では、日本はどうして現在の日本になったのか、現代の問題を考えるヒントは歴史の中に潜んでいないか、という問題関心を持って、授業に臨んでもらいたい。現代の問題関心から出発してもらうため、本講義は現在から過去にさかのぼっていく。

【到達目標】

- ①日本法制史を理解できるようになる。
- ②日本法制史を説明できるようになる。
- ③日本法制史について多様な見方・考え方を理解する。
- ④日本法制史について自分の意見を言えるようになる。

【授業計画】

第1回 ガイダンス

第2回 自由民主党の憲法改正草案，安全保障法制の整備について

予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)

第3回 特定秘密の保護に関する法律，教育基本法改正，武力攻撃事態等における我が国の平和と独立並びに国及び国民の安全の確保に関する法律

予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)

第4回 司法制度改革推進法，法科大学の教育と司法試験等の連携等に関する法律，裁判員の参加する刑事裁判に関する法律，裁判の迅速化に関する法律

予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)

第5回 男女共同参画社会基本法，国旗及び国歌に関する法律

予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)

第6回 日米安全保障共同宣言，日米防衛協力のための指針の見直し，周辺事態法

予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)

第7回 P K O協力法，地方分権推進法，歴史を教訓に平和への決意を新たにする決議

予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)

第8回 日中共同声明，国籍法及び戸籍法の一部を改正する法律，男女雇用機会均等法

予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)

第9回 日韓基本条約，公害対策基本法，沖縄返還協定

予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)

第10回 読書感想文

予習 WebClass上の予習課題を行う。(6時間)

第11回 日米の新安全保障条約，日ソ共同宣言，憲法調査会法

予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)

第12回 原子力基本法，破壊活動防止法，日米行政協定

予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)

第13回 日米安全保障条約，サンフランシスコ平和条約，警察予備隊令

予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)

第14回 民法の一部を改正する法律，刑法の一部を改正する法律，地方自治法

予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)

第15回 労働基準法，教育基本法，日本国憲法

予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)

第16回 降伏後に於ける米国の初期の対日方針，ポツダム宣言，大東亜共同宣言

予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)

第17回 戦時刑事特別法，戦時民事特別法，治安維持法改正

- 予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)
- 第18回 朝鮮人の氏名に関する件, 国家総動員法, 軍機保護法改正
- 予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)
- 第19回 国体明徴に関する政府声明, 国際連盟脱退通告文, 日満議定書
- 予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)
- 第20回 重要産業統制法, 労働争議調停法, 小作調停法
- 予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)
- 第21回 読書感想文
- 予習 WebClass上の予習課題を行う。(6時間)
- 第22回 衆議院議員選挙法改正, 治安維持法, 陪審法
- 予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)
- 第23回 日韓併合条約, 治安警察法, 二十一か条要求, 工場法
- 予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)
- 第24回 榎本外務大臣意見書, 穂積八束「民法出テゝ忠孝亡フ」, 法典調査会規則, 日英通商航海条約
- 予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)
- 第25回 枢密院憲法制定会議における伊藤博文の演説, 大日本帝国憲法, 教育に関する勅語
- 予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)
- 第26回 内閣制度創設, 内閣職権, 市制及び町村制理由, 内閣官制
- 予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)
- 第27回 民撰議院設立建白書, 大隈重信国会開設奏議, 国会開設に関する勅諭, 軍人勅諭
- 予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)
- 第28回 王政復古布告, 戸籍法, 廃藩置県の詔, 徴兵に関する詔書及び太政官告諭
- 予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)
- 第29回 日米和親条約, 日米修好通商条約, 条約改正の為の米欧遣使に付諮問書
- 予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)
- 第30回 全体のふり返り
- 予習 WebClass上の予習課題を行う。(6時間)

【授業の進め方】

アクティブラーニングによって授業を進める。アメリカのNational Training Laboratoriesによる「学習ピラミッド」というものがある。広く知られているものなので、ご存知の方もいよう。それによると、講義によって得られた知識の定着率は平均5%に過ぎず、グループ討論で50%、体験を通じた学習だと75%だそうである。この数字の信憑性には疑念も呈されているが、広く人口に膾炙しているのは、実感として首肯しうるものがあるからであろう。私自身の学生時代を振り返ってみても、講義で習ったことはほとんど記憶に残っておらず、いくつかの単語を断片的に覚えていることと、試験前に「なぜこんなものを覚えなければならないのか」という苦痛の記憶だけである。他方、ゼミで自ら調べたことは、今でも何も見なくても何時間でも話すことができる。私の個人史によってみても、自分で調べ、考え、討論したことは記憶に定着している。知識を習得するには、自分で調べる必要がある。

だが、知識の習得それ自体が学習の目的なのでない。習得した知識を使って考え、何かを発信するという、知識の応用がなければ、学習の意義は半減する。学習には、浅い学習と深い学習とがある。浅い学習とは、個別の用語や事実だけに着目して、とりあえず課題を仕上げようとする学習であり、深い学習とは意味を求めての学習である。浅い学習から深い学習につれて、学習目標は①知識→②理解→③応用→④分析→⑤統合→⑥評価へと変化する。講義で習得できるのはせいぜい②までであり、③応用以上に進むには自分で調べるだけでなく、考え、人に話し、人の話を聞いてまた考えることが必要である（上掲の本講義の到達目標は、①→④へと、浅い学習から深い学習の到達目標に移行に対応している）。

学習の目的は、知識の習得と応用にとどまるものでない。学習にはプロダクト（知識）とプロセス（方法）がある。プロセスの修得こそが学習の目標である。「テレビでマラソンを見ているだけではマラソンランナーになれないように、科学でも、教師がやっているのを見ているだけでなく、科学する（doing science）思考プロセスを経験しなければならない」（Eric Mazur）、「ある学問分野の概念を本当に理解するには、その分野の専門家が遂行する課題に学生も関与する必要がある」（Edgerton）。

プロセスの修得は、学問分野の概念を理解するためだけでない。それによって、将来の予測が困難な社会にあって、教師の助力なしに、生涯にわたって自ら新しい知識を習得し続けていく力を身に付けることができる。

以上のことから、本講義では、いわゆるアクティブラーニングによって授業を進めていく。ここにいうアクティブラーニングとは「学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学修法」のことであり、それによって「学修者の認知的・倫理的・社会的な能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る」ものである（中教審2012）。

具体的には、本講義では、①毎時の予習課題を行ったうえで授業に臨む（予習課題はWeb-Classに掲載）。②予習シートを提示し、指定の座席につく。③第2～8回はThink & Pair二人一組で、第9～15回はThink & Group小規模のグループで、予習してきた内容について話し合い、それを発表してもらって全員で討論する、④最後に大福帳（毎時受講生が授業に対する要望と感想を記したもので、教員がコメントを付して次回授業時に返却する）を提出して本時の出席とする、という流れで授業を進めていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用しない。

課題や資料をWebClassに掲載する。

【参考図書】

藤田正, 吉井蒼生夫・小澤隆司・林真貴子編著『日本近現代法史(年表・資料)[第2版]』信山社, 2015年, 4320円。

鳥海靖『もういちど読む山川日本近代史』山川出版社, 2013年, 1500円。

老川慶喜『もういちど読む山川日本戦後史』山川出版社, 2016年, 1500円。

三浦頭一郎『田中正造と足尾鉍毒問題:土から生まれたリベラル・デモクラシー』有志舎, 2017年, 2600円。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

レポート・課題とは、毎時の予習課題のことである。

受講態度とは、グループ討論やディスカッションにおける参加度のことである。

本学では、大学設置基準に基づき、90分の授業につき4時間の授業時間外学修が割り当てられている(履修要項p.7参照)。予習課題を行った上で、授業に臨むこと。本講義では予習シートの提示と大福帳の提出をもって出席とする。

【履修上の心得】

本授業はグループ討論やディスカッションを行う協同学習である。ディスカッションには、①学生の主体性を高める、②テーマに対する理解を深める、③思考力を高める効果があるといわれる。受講生は主体的にディスカッションに参加し、仲間から多様な意見を聴いて理解を深め、それらを通して自分の意見を言えるように思考力を高めてほしい。それを毎回真摯に積み重ねることで、すべての受講生が上掲の到達目標に到達してほしい。

また、協同学習の構成要素は、①肯定的相互依存、②積極的相互交流、③個人の2つの責任(自分の学びに対する責任と、仲間の学びに対する責任)、④社会スキル(コミュニケーション、リーダーシップなど)の促進、⑤活動のふり返り、の5つであるといわれる。予習を行わずに授業に参加することは、①～③を損ない、パートナーの学習の権利を侵害するものであることから、本授業では予習を出席の条件としている。受講生は、責任をもって各回の予習をした上で授業に臨み、グループ討論では胸襟を開いて話し合い、率先して自分の意見を述べ、他人の意見を傾聴し、差別的発言を行わず、互いに高めていってほしい。これは本講義の授業ルールでもある。グループ討論では毎回グループリーダーを指名する。議論を主導し、他のメンバーの発言を促すなど、コミュニケーション能力やリーダーシップ能力を高めて、就職活動の集団討論などでも発揮できるソーシャルスキルも身に付けてほしい。

授業ルールは以下の通り:予習課題を行った上で授業に臨むこと。座席は指定制。人の話を傾聴すること。差別的発言をしないこと。相手が話しやすい雰囲気作りに努めること。積極的に発言すること。出席は予習シートの提示と大福帳の提出による。以上。

【備考】

上述のように本講義ではアクティブラーニングを行う。アクティブラーニングが学生に不人気なのは承知している。東京大学大学経営・政策研究センターの調査(2007)によれば、授業中に自分の意見や考えを述べる授業が「必要である」と答えたのは79%、グループワークなど学生が参加する機会がある授業が「必要である」答えたのは81%である一方、ベネッセ教育研究開発センターの調査(2013)によれば、「あまり興味がなくても、単位を楽に取れる授業が良い」と答えた学生が54.8%であったのに対し、「単位を取るのが難しくても、自分の興味のある授業が良い」と答えたのは45.2%、また「教員が教える講義形式の授業が良い」と答えたのが83.3%に対し、「学生が自分で調べて発表する演習形式の授業が良い」と答えたのは16.7%に過ぎなかったという。アクティブラーニングの必要性を理解してはいても、面倒くさいというのが学生の感覚であり、それゆえアクティブラーニングは不人気である。

しかし、それでも、本講義ではアクティブラーニングを実施する。先に述べたように、知識を習得し、それを活用し、また学習のプロセスを修得するには、自分で調べ、考え、討論することが必要である。大切なのは、教員が何を教えたかだけでなく、学生が何を学習したかである。

また、勉強は自分でやってみると、意外と面白いものなのである。近著のあとがきにも書いたことだが、私はそれを大学時代に知った。受講生の皆さんにも、自分でやってみることで勉強の面白さを知ってもらいたいと願っている。

※参照:土持ゲリー法一『ティーチング・ポートフォリオ』東信堂, 2007年。ダネル・スティーブンス+アントニア・レビ著/佐藤浩章監訳, 井上敏憲+俣野秀典訳『大学教員のためのルーブリック評価入門』玉川大学出版部, 2014年。中井俊樹編『アクティブラーニング』玉川大学出版部, 2015年。松下佳代・京都大学高等教育研究開発推進センター編著『ディープ・アクティブラーニング』勁草書房, 2015年。

科目名	憲法 I (総論・人権)
教員名	岡田 順太

【授業の内容】

本講座では、主に基本的人権の意義と限界について講義する。人権の歴史・目的・主体・種類・限界などについて体系的に解説し、人権という「ありがたい」言葉に振り回されることなく、自分らしく生きるための一手段として活用できる素養を身につけるための基本的視点を示していく。

【到達目標】

- 1、日本国憲法の基礎知識を身につけること。
- 2、人権論の体系的理解をすること。
- 3、法的思考方法（リーガルマインド）を修得すること。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 日本国憲法の基本原理①（憲法の基本原理）
- 第3回 日本国憲法の基本原理②（近代個人主義と憲法）
- 第4回 日本国憲法の基本原理③（近代憲法の史的展開）
- 第5回 基本的人権の主体と限界①（人権の種類）
- 第6回 基本的人権の主体と限界②（人権享有主体性、外国人の人権）
- 第7回 基本的人権の主体と限界③（特殊な法的関係における人権保障、私人間効力）
- 第8回 包括的基本権①（幸福追求権、新しい人権）
- 第9回 包括的基本権②（プライバシー権、自己決定権）
- 第10回 法の下での平等①（平等と自由の史的变化）
- 第11回 法の下での平等②（平等権・平等原則）
- 第12回 精神的自由権①（総説、思想・良心の自由）
- 第13回 精神的自由権②（信教の自由、政教分離原則）
- 第14回 精神的自由権③（学問の自由、大学の自治）
- 第15回 精神的自由権④（表現の自由、二重の基準）
- 第16回 精神的自由権⑤（知る権利、報道の自由・取材の自由）
- 第17回 精神的自由権⑥（検閲の禁止、事前抑制）
- 第18回 精神的自由権⑦（集会・結社の自由）
- 第19回 経済的自由権①（総説、職業選択の自由）
- 第20回 経済的自由権②（規制目的二分論）
- 第21回 経済的自由権③（財産権）
- 第22回 経済的自由権④（公用収用・損失補償）
- 第23回 人身の自由①（総説、刑事的適正手続）
- 第24回 人身の自由②（行政手続）
- 第25回 能動的権利①（総説、参政権）
- 第26回 能動的権利②（選挙権、請願権）
- 第27回 積極的権利①（総説、生存権）
- 第28回 積極的権利②（教育を受ける権利）
- 第29回 積極的権利③（勤労の権利、労働基本権）
- 第30回 総括

授業に必要な資料、情報はWebClass上に掲載する。また、適宜【発見学習】や【問題解決学習】、【体験学習】、【調査学習】につながる教材・課題の提供を行うよう努める。

【予習】図書館所蔵のDVD教材『事例から学ぶ日本国憲法』（分館AV架 DV-C/0069-）を活用して、【能動的学修（アクティブ・ラーニング）】に努めること。

【復習】授業内容の再現、演習問題の再考、ノートのまとめなど（各回180～∞分）。

【授業の進め方】

教科書に掲載される判例を紹介し、それに関連する人権論を展開する。適宜、レジュメ・補助資料を配布して、講義内容を補う。また、随時、憲法学を学ぶ上での基本的知識を試す演習問題を実施する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①判例から学ぶ憲法・行政法（第4版） ②川崎政司・小山剛編 ③法学書院 ④2014年

この他、最新版の六法を必ず持参すること（法科大学院進学、公務員試験志望者には『判例六法』（有斐閣）を推奨す

る。)。WebClassに掲載するレジユメを各自印刷して持参すること。

【参考図書】

神野潔編『教養としての憲法入門』（弘文堂、2016年）
大沢秀介・大林啓吾編『判例アシスト憲法』（成文堂、2016年）
岡田順太『関係性の憲法理論—現代市民社会と結社の自由』（丸善プラネット、2015年）
辻村みよ子ほか編『憲法基本判例』（尚学社、2015年）
芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法（第6版）』（岩波書店、2015年）
駒村圭吾編『プレステップ憲法』（弘文堂、2014年）
川崎政司『法律学の基礎技法（第2版）』（法学書院、2013年）
新井誠ほか編『地域に学ぶ憲法演習』（日本評論社、2011年）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

- ・成績評価基準：定期試験（100点）を基本とするが、履修態度なども加味し、総合的に評価する。
- ・方法：日本国憲法に関する基本的知識を有しているか、また、講義内容を的確に理解しているかどうかを考査する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

期末試験以外の不正行為（ex.レポートの剽窃、虚偽出席行為など）についても、厳正に対処する。

【履修上の心得】

- ・学生へのメッセージ

法学は総合力が試される学問である。知的好奇心をもって様々な学問を修めるとともに、大学時代に得がたい友人を多く作り、豊かな人格形成に努めることが望ましい。

- ・履修に当たっての留意点

出席者が極端に少ない場合などを除き、（出席をすることは当たり前なので）出席は取らないが、全ての講義内容は一つの体系として連関しているため、欠席をしないこと。なお、授業中に配布した資料や自習用の補助資料はWebClass上に掲載されているので、適宜参照すること。

- ・受講のあり方

授業中に触れることができる内容は自ずと限界が生じる。授業の復習とともに、積極的に独力で学ぶ姿勢が求められる。全ての講義内容は一つの体系としてつながり合っているため、論点相互の関係性について意識しながら復習すること。

【科目のレベル、前提科目など】

関連科目：憲法Ⅱ（統治）、行政法Ⅰ・Ⅱ

※これら公法学科目を修得して、近代立憲国家における公権力行使のあり方について総合的に理解して欲しい。

科目名	憲法 I (総論・人権)
教員名	清水 潤

【授業の内容】

憲法の基本的人権について講義する。人権の歴史や理念、諸外国との比較を踏まえつつ、日本の学説及び判例がどのように人権について議論してきたかを学習する。

【到達目標】

日本国憲法が保障する人権がどのようなものかについて、学説と判例を踏まえて議論できるようになること。

【授業計画】

- 第1回 インTRODakション
教科書を用いて予習、復習を行う (60分)
- 第2回 人権の歴史
教科書を用いて予習、復習を行う (60分)
- 第3回 人権の内容と分類
教科書を用いて予習、復習を行う (60分)
- 第4回 人権の享有主体
教科書を用いて予習、復習を行う (60分)
- 第5回 人権の限界と公共の福祉
教科書を用いて予習、復習を行う (60分)
- 第6回 人権の私人間効力
教科書を用いて予習、復習を行う (60分)
- 第7回 幸福追求権① 包括的基本権とは何か
教科書を用いて予習、復習を行う (60分)
- 第8回 幸福追求権② 新しい人権
教科書を用いて予習、復習を行う (60分)
- 第9回 平等権①
教科書を用いて予習、復習を行う (60分)
- 第10回 平等権②
教科書を用いて予習、復習を行う (60分)
- 第11回 精神的自由権総論
教科書を用いて予習、復習を行う (60分)
- 第12回 表現の自由① 表現の自由の原理
教科書を用いて予習、復習を行う (60分)
- 第13回 表現の自由② 表現の自由の制約の合憲性
教科書を用いて予習、復習を行う (60分)
- 第14回 表現の自由③ アクセス権、知る権利、取材とマスコミ
教科書を用いて予習、復習を行う (60分)
- 第15回 集会・結社の自由
教科書を用いて予習、復習を行う (60分)
- 第16回 思想良心の自由
教科書を用いて予習、復習を行う (60分)
- 第17回 信教の自由と政教分離
教科書を用いて予習、復習を行う (60分)
- 第18回 学問の自由と大学の自治
教科書を用いて予習、復習を行う (60分)
- 第19回 経済的自由、規制目的二分論
教科書を用いて予習、復習を行う (60分)
- 第20回 職業選択の自由
教科書を用いて予習、復習を行う (60分)
- 第21回 財産権と公用収用
教科書を用いて予習、復習を行う (60分)
- 第22回 人身の自由①
教科書を用いて予習、復習を行う (60分)
- 第23回 人身の自由②
教科書を用いて予習、復習を行う (60分)
- 第24回 国務請求権とは何か
教科書を用いて予習、復習を行う (60分)
- 第25回 参政権

教科書を用いて予習、復習を行う（60分）

第26回 生存権と生活保護

教科書を用いて予習、復習を行う（60分）

第27回 労働基本権

教科書を用いて予習、復習を行う（60分）

第28回 教育を受ける権利

教科書を用いて予習、復習を行う（60分）

第29回 人権と憲法上の権利

教科書を用いて予習、復習を行う（60分）

第30回 まとめ

教科書を用いて予習、復習を行う（60分）

【授業の進め方】

講義形式を予定しているが、適宜質疑応答を交え、発言を求める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①未定

開講までに決めて指示するが、教科書と判例集の二冊を教材に用いる予定。その他、六法を持参すること。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 20%

【履修上の心得】

授業範囲について、教科書と判例集を事前の一読してほしい。

科目名	行政法 I
	行政法総論（作用法・組織法）
教員名	岡田 順太

【授業の内容】

本講では、主に行政法の通則的部分を取り扱い、行政行為概念を中心に構築されてきた行政法理論とその変容を理解することを通じて、現代行政法の課題とあり方を明らかにしていく。

【到達目標】

行政法の基礎的知識を習得し、行政法総論を体系的に理解しつつ、法的思考方法（リーガルマインド）を修得する。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション
 第2～5回 行政法の基本構造・基本原理（行政と行政法、法律による行政の原理、行政法の法源、公法と私法）
 第6～11回 行政行為（行政行為の意義・種類、効力・附款、瑕疵ある行政行為、無効・取消し・撤回、行政裁量）
 第12～14回 行政上の強制措置（行政上の強制執行、代執行、即時強制、行政罰）
 第15～17回 一般的行政作用（総論、行政立法、行政計画）
 第18～20回 非権力的行政作用（総論、行政指導、行政契約）
 第21～25回 行政手続法（総論、処分、行政指導、届出、意見公募手続等）
 第26・27回 情報公開と文書管理、個人情報保護法制
 第28・29回 行政組織法、公物（国家行政組織、行政官庁理論、委任、代理、専決・代決、公物概念）
 第30回 総括

【予習】原則として必要としない。予習すべき時間は復習時間に充当すること。

【復習】授業内容の整理、演習問題の再検討（180分～∞）

※ WebClassを適宜参照すること（授業で使用する資料等を掲載する）。

【授業の進め方】

レジュメ・教科書に基づく講義を中心に進めていくが、適宜、問題演習を行いつつ行政法の理解を深める方式を採ることとする。六法は必携（公務員試験志望者には『判例六法』（有斐閣）を推奨）。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①行政判例百選 I ②宇賀克也 ③有斐閣 ④2017 ⑤2300 ⑥978-4641115354

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

- ・成績評価基準：定期試験（100点）を基本とするが、履修態度なども加味し、総合的に評価する。
- ・方法：行政法の基礎理論に関する基本的知識を有しているか、講義内容を的確に理解しているかどうかを考査する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

期末試験以外の不正行為（ex.レポートの剽窃、虚偽出席行為など）についても、厳正に対処する。

【履修上の心得】

- ・学生へのメッセージ
 法学は総合力が試される学問である。知的好奇心をもって様々な学問を修めるとともに、大学時代に得がたい友人を多く作り、豊かな人格形成に努めることが望ましい。
- ・履修に当たっての留意点
 出席者が極端に少ない場合などを除き、出席は取らないが、全ての講義内容は一つの体系として連関しているので、欠席をしないこと。なお、授業中に配布した資料や自習用の補助資料はWeb上に掲載されているので、適宜参照すること。
- ・受講のあり方
 授業中に触れることができる内容は自ずと限界が生じる。授業の復習とともに、積極的に独力で学ぶ姿勢が求められる。全ての講義内容は一つの体系としてつながり合っているため、論点相互の関係性について意識しながら復習すること。なお、基本的に予習は不要である。予習の分の労力は復習にかけること。

【科目のレベル、前提科目など】

関連科目：憲法 I（総論・人権）、憲法 II（統治）、行政法 II

科目名	行政法 I
教員名	池村 好道

【授業の内容】

行政法理論の基礎的理解に向け、各回、取り上げるテーマについて重要事項を講義し、理論的課題を明らかにしていく。

【到達目標】

行政法、行政上の法律関係、行政の担い手、行政行為、行政行為以外の行為形式、行政手続及び行政情報について説明できる。

【授業計画】

- 第1回 行政の観念と分類
- 第2回 行政上の法律関係と行政法
- 第3回 行政法の基本原理
- 第4回 特別権力関係理論とその変容
- 第5回 行政の担い手(1) 行政主体、行政機関
- 第6回 行政の担い手(2) 公務員
- 第7回 行政の行為形式
- 第8回 行政行為の観念
- 第9回 行政行為の種別
- 第10回 行政行為と裁量
- 第11回 行政行為の瑕疵
- 第12回 行政行為の効力
- 第13回 行政行為の取消し
- 第14回 行政行為の撤回
- 第15回 行政行為の附款
- 第16回 行政契約(1) 意義及び種類
- 第17回 行政契約(2) 行政契約に対する統制
- 第18回 行政指導(公表、供給拒否等を含む)
- 第19回 行政立法(1) 意義、法規命令
- 第20回 行政立法(2) 行政規則
- 第21回 行政計画
- 第22回 行政強制(1) 意義及び種類
- 第23回 行政強制(2) 強制執行
- 第24回 行政強制(3) 即時強制
- 第25回 行政手続の法理(1) 行政手続の意義及び機能
- 第26回 行政手続の法理(2) 申請に対する処分の手続
- 第27回 行政手続の法理(3) 不利益処分の手続
- 第28回 行政情報の法理(1) 公文書管理、情報公開
- 第29回 行政情報の法理(2) 個人情報保護
- 第30回 総括

受講生の理解度を考慮して、「行政手続の法理」の一部を「行政法Ⅱ」の項目とする可能性あり。

各回、予定のテーマを予習の上で授業に臨み、授業終了後には、キーワードを確認し、ノートを整理する時間を確保すること。

【授業の進め方】

具体的事例や裁判例などを織り交ぜながら、講義を行い、行政と法の間関係を概観する。

講義で取り上げた身近な行政法にかかわる社会事象をめぐっては、主体的に新聞報道等を丹念に調べ、課題の発見・解決に努めた上で不明な点については、必ず「質問用紙」の利用を通じ、積極的に担当教員と対話、情報・意見交換を行うこと。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①行政法 ③弘文堂 ④2017年

「六法」は必携。

【参考図書】

初回授業時に紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

【履修上の心得】

私語厳禁。講義で触れた判例にあたることが望ましい。

【科目のレベル、前提科目など】

科目のレベルは、「概論」である。

科目名	刑事法概論
教員名	清水 晴生

【授業の内容】

刑事法全般

【到達目標】

刑事法全般に関する概括的な理解を得る。

【授業計画】

- 第1回 本授業に関する説明
- 第2回 法学基礎（条文の構造等）
内容に関するインターネットを利用した予習と理解を補うための復習を要する（各60分）。
- 第3回 刑事訴訟法の目的、
手続の流れ、当事者主義
内容に関するインターネットを利用した予習と理解を補うための復習を要する（各60分）。
- 第4回 任意捜査
内容に関するインターネットを利用した予習と理解を補うための復習を要する（各60分）。
- 第5回 強制捜査
内容に関するインターネットを利用した予習と理解を補うための復習を要する（各60分）。
- 第6回 捜査の判例と事例問題1
内容に関するインターネットを利用した予習と理解を補うための復習を要する（各60分）。
- 第7回 捜査の判例と事例問題2
内容に関するインターネットを利用した予習と理解を補うための復習を要する（各60分）。
- 第8回 証拠法1
内容に関するインターネットを利用した予習と理解を補うための復習を要する（各60分）。
- 第9回 証拠法2
内容に関するインターネットを利用した予習と理解を補うための復習を要する（各60分）。
- 第10回 少年法、犯罪白書を知る
内容に関するインターネットを利用した予習と理解を補うための復習を要する（各60分）。
- 第11回 刑法の機能、
罪刑法定主義、犯罪成立要件
内容に関するインターネットを利用した予習と理解を補うための復習を要する（各60分）。
- 第12回 正当防衛
内容に関するインターネットを利用した予習と理解を補うための復習を要する（各60分）。
- 第13回 殺人罪、性犯罪
内容に関するインターネットを利用した予習と理解を補うための復習を要する（各60分）。
- 第14回 財産犯
内容に関するインターネットを利用した予習と理解を補うための復習を要する（各60分）。
- 第15回 本授業のまとめ
内容に関するインターネットを利用した予習と理解を補うための復習を要する（各60分）。

【授業の進め方】

静かなクラスであるために、隣の人とは席を1つあけて座ってください。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①必要に応じてプリントを使用します

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

一問5点の○×式問題を20問出題予定。

【履修上の心得】

意欲的に取り組んでほしい。

また授業後の質問や質問のための研究室(本キャン9階)来訪を大いに歓迎する。

他方、授業中の私語や隣の者と笑い合うといった態度については厳しい対応をとる。授業の進行の妨げになるので教室からの退室を命じるだけでなく、退室に従わないなどさらに授業妨害を継続したり、繰り返し私語を注意された者につ

いては厳しい対応をとらざるを得ない。

授業中黙ってられない、授業中友人と話すことが楽しみだという者には居場所がないことになる。

さらに、担当教員が教室に入ってきたら、もう友人との会話を切り上げて、授業の開始にふさわしい、静かな状態を保つ態度をとることが、全受講生に望まれる。同様に、担当教員が授業の終了を告げるまでは、筆箱を閉める音を立てるなどクラスの集中を害するような態度は最後まで厳に慎むことが強く望まれる。

このように授業中の教室の静かな状態を害するすべての行為に対しては、どこまでも厳しく対応することになるのでくれぐれも心してほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

刑法や刑事訴訟法を本格的に勉強するための前提となる基礎的な内容を学ぶものであり、必須の前提科目はありません。

【備 考】

静かなクラスであるために、隣の人とは席を1つあけて座ってください。

科目名	刑法 I (総論)
	刑法総論の基礎知識
教員名	松原 和彦

【授業の内容】

刑法総論の基礎知識の説明

【到達目標】

刑法総論の基礎知識の習得

【授業計画】

- 第1回 本授業に関する説明、序論、基本原則①（行為主義、法益保護主義、責任主義）
 第2回 基本原則②（罪刑法定主義）
 第3回 基本原則③（罪刑法定主義の周辺）
 第4回 犯罪論の体系
 第5回 構成要件論（総論）
 第6回 構成要件論（各論）①（客観的構成要件要素）
 第7回 構成要件論（各論）②（行為主体—法人の場合—）、同③（実行行為—不作為の場合—）
 第8回 構成要件論（各論）④（因果関係①—事実的因果関係—）
 第9回 構成要件論（各論）⑤（因果関係②—法的因果関係、危険の現実化—）、同⑥（主観的構成要件要素）
 第10回 違法論（総論）、同（各論）①（正当行為）
 第11回 違法論（各論）②（正当防衛①—構造と要件 I—）
 第12回 違法論（各論）③（正当防衛②—要件 II と効果—）
 第13回 違法論（各論）④（緊急避難）
 第14回 違法論（各論）⑤（法益主体の同意）
 第15回 責任論（総論）、同（各論）①（故意—総論—）
 第16回 責任論（各論）②（故意—各論—）
 第17回 責任論（各論）③（過失）
 第18回 責任論（各論）④（違法性の意識とその可能性）
 第19回 責任論（各論）⑤（責任能力—総論—）
 第20回 責任論（各論）⑥（責任能力—各論—）、同⑦（期待可能性）
 第21回 未遂犯論（総論）
 第22回 未遂犯論（各論）①（未遂犯）
 第23回 未遂犯論（各論）②（不能犯）
 第24回 未遂犯論（各論）③（中止犯）
 第25回 共犯論（総論）
 第26回 共犯論（各論）①（間接正犯、共同正犯）
 第27回 共犯論（各論）②（教唆犯、従犯）
 第28回 共犯論（各論）③（共犯の諸問題①—必要的共犯、片面的共犯、承継的共犯、共犯関係からの離脱—）
 第29回 共犯論（各論）④（共犯の諸問題②—共犯と身分—）
 第30回 罪数論（総論、一罪と数罪）

1. 【授業計画】は予定
2. 予習は2時間以上、復習は1時間以上が目安
3. 刑罰論は自学自習に委ねられ、その成果は「授業内小試験」（追試験を含む。）で評価

【授業の進め方】

講義（ただし、適宜受講者の理解度を確認）

【教科書（必ず購入すべきもの）】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①刑法〔第3版〕 ②山口厚 ③有斐閣 ④平成27年 ⑤本体3,200円＋税 ⑥9784641139084
 ①刑法総論判例インデックス ②井田良＝城下裕二編 ③商事法務 ④平成23年 ⑤本体2,600円＋税 ⑥9784785719074

任意の（小型）六法（最新版）は必携

【参考図書】

1. 西田典之ほか編『刑法の争点』（有斐閣、平成19年）本体2,400円＋税
2. 各年度の重要判例解説（ジュリスト（臨時）増刊）
3. 井田良＝城下裕二編『刑法各論判例インデックス』（商事法務、平成28年）本体3,200円＋税

4. 長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅰ〔第6版〕』（有斐閣、平成25年）本体2,095円＋税
5. 長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅱ〔第6版〕』（有斐閣、平成25年）本体2,095円＋税

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 90% 授業内小試験 10% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

「授業内小試験」（追試験を含む。）は1回実施

【「成績評価の方法」に関する注意点】

「定期試験」、「授業内小試験」（いずれも追試験を含む。）の実施要領はWebClassに公表

【履修上の心得】

1. WebClassを頻用
2. 指定された座席に着席

【科目のレベル、前提科目など】

1. 「科目のレベル」は「共通的な到達目標モデル(第二次案修正案): 刑法」(法科大学院協会)
2. 事実上の「前提科目」は刑事法概論

【備 考】

受講者は、WebClassを利用するために、履修登録期間③中に、E-mailの書き方に留意して、「学籍番号」および「氏名」をk-matsuアットマークfc.hakuoh.ac.jp(アットマークを@へ要変換)へ要連絡

科目名	刑法 I (総論)
	日本の犯罪について考えるときに、知っておきたい基本的な原理や基準、刑法の条文について理解できるようになる。
教員名	清水 晴生

【授業の内容】

日本の犯罪について決めている刑法の中身について学びます。
 刑法の中身のうち、個別の犯罪ではなく、一般論的な内容を学びます。
 正当防衛、共犯、未遂などが出てきます。

【到達目標】

どのような行動がどのような犯罪になる可能性があるのかを知り、その理解を自分の行動や社会に対する見方に反映させられるようになること。

【授業計画】

- 第1回 犯罪と刑罰の基本観念1。身の回りの犯罪や刑事裁判に関する事実に関心を持ち、よく見聞するという予習・復習を行う (各60分)
- 第2回 犯罪と刑罰の基本観念2。身の回りの犯罪や刑事裁判に関する事実に関心を持ち、よく見聞するという予習・復習を行う (各60分)。
- 第3回 罪刑法定主義、
犯罪概念と犯罪成立要件 (犯罪論体系の三分説)、行為論、構成要件論 (構成要件と構成要件要素) 1。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習・復習する (各60分)。
- 第4回 罪刑法定主義、
犯罪概念と犯罪成立要件 (犯罪論体系の三分説)、行為論、構成要件論 (構成要件と構成要件要素) 2。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習・復習する (各60分)。
- 第5回 不作為犯、間接正犯1。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習・復習する (各60分)。
- 第6回 不作為犯、間接正犯2。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習・復習する (各60分)。
- 第7回 因果関係1。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習・復習する (各60分)。
- 第8回 因果関係2。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習・復習する (各60分)。
- 第9回 故意、錯誤、違法性の意識1。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習・復習する (各60分)。
- 第10回 故意、錯誤、違法性の意識2。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習・復習する (各60分)。
- 第11回 過失 1。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習・復習する (各60分)。
- 第12回 過失 2。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習・復習する (各60分)。
- 第13回 違法性の本質、実質的違法性、正当行為 1。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習・復習する (各60分)。
- 第14回 違法性の本質、実質的違法性、正当行為 2。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習・復習する (各60分)。
- 第15回 正当防衛1。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習・復習する (各60分)。
- 第16回 正当防衛2。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習・復習する (各60分)。
- 第17回 緊急避難1。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習・復習する (各60分)。
- 第18回 緊急避難2。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習・復習する (各60分)。
- 第19回 責任主義、期待可能性、責任能力、原因において自由な行為 1。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習・復習する (各60分)。
- 第20回 責任主義、期待可能性、責任能力、原因において自由な行為 2。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習・復習する (各60分)。
- 第21回 未遂犯、不能犯、中止犯 1。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習・復習する (各60分)。
- 第22回 未遂犯、不能犯、中止犯 2。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習・復習する (各60分)。
- 第23回 正犯と共犯。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習・復習する (各60分)。
- 第24回 共同正犯 1。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習・復習する (各60分)。
- 第25回 共同正犯 2。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習・復習する (各60分)。
- 第26回 狭義の共犯1。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習・復習する (各60分)。
- 第27回 共犯と身分、共犯と錯誤 1。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習・復習する (各60分)。
- 第28回 共犯と身分、共犯と錯誤 2。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習・復習する (各60分)。
- 第29回 罪数処理、刑 (加減、没収、仮釈放等含む) 1。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習・復習する (各60分)。
- 第30回 罪数、刑 (加減、没収、仮釈放等含む) 2。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習・復習する (各60分)。

刑法総論の基本的な内容について初歩的・概括的な理解を得ることを目標とする。

ていねいに説明をし、なるべく正確なしっかりとした理解を得ることを目標とするため、予定よりも進行が遅くなることも予想される。それでも概ね違法性までは進むものと思われる。

【授業の進め方】

板書しながらの講義形式を進める。しっかりとノートをとってもらいたい。

しかし授業中に問題を示し、各自に考えてもらい（発見学習、問題解決学習）、その意見を紹介する（ディベート）ということも頻繁に行う。

ただ受け身に聞き流せる授業と思ったら大間違いで、ノートに書かれた受講生の私見に対して、「これはどういう意味ですか?」「これはそういう意味ではありませんよ」といったアプローチ（グループ・ディスカッション）が大いになされる。

そして授業中も最初から繰り返し何度も注意を促すことになると思うが、授業中の私語や隣の者と笑い合うといった態度については厳しい対応をとる。授業の進行の妨げになるので教室からの退室を命じるだけでなく、退室に従わないなどさらに授業妨害を継続したり、繰り返し私語を注意された者についてはより厳しい対応をとらざるを得ない。

授業中黙ってられない、授業中友人と話すことが楽しみだという者には居場所がないことになる。

さらに、担当教員が教室に入ってきたら、もう友人との会話を切り上げて、授業の開始にふさわしい、静かな状態を保つ態度をとることが、全受講生に望まれる。同様に、担当教員が授業の終了を告げるまでは、筆箱を閉める音を立てるなどクラスの集中を害するような態度は最後まで厳に慎むことが強く望まれる。

このように授業中の教室の静かな状態を害するすべての行為に対しては、どこまでも厳しく対応することになるのでくれぐれも心してほしい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①プリントを使用する

使用しない。

・特に必要な場合にはプリントを配ります。

【参考図書】

・西田典之『刑法総論』（高度な内容のため無理に読む必要はない）

・特に必要な場合にはプリントを配ります。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

定期試験のみ。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

一問20点の論述問題を5問出題予定。

【履修上の心得】

意欲的に取り組んでほしい。

また授業後の質問や質問のための研究室(Eキャン9階)来訪を大いに歓迎する。

他方、授業中の私語や隣の者と笑い合うといった態度については厳しい対応をとる。授業の進行の妨げになるので教室からの退室を命じるだけでなく、退室に従わないなどさらに授業妨害を継続したり、繰り返し私語を注意された者については厳しい対応をとらざるを得ない。

授業中黙ってられない、授業中友人と話すことが楽しみだという者には居場所がないことになる。

さらに、担当教員が教室に入ってきたら、もう友人との会話を切り上げて、授業の開始にふさわしい、静かな状態を保つ態度をとることが、全受講生に望まれる。同様に、担当教員が授業の終了を告げるまでは、筆箱を閉める音を立てるなどクラスの集中を害するような態度は最後まで厳に慎むことが強く望まれる。

このように授業中の教室の静かな状態を害するすべての行為に対しては、どこまでも厳しく対応することになるのでくれぐれも心してほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

必須とまではいわないが、刑事法概論で学習した内容についての全般的な知識が前提としてあると理解しやすい。

まったくのゼロからのスタートでは、説明をその場で咀嚼し理解することはかなり困難であろう。予習、復習が欠かせないということになる。

【備考】

真摯な受講態度を求める。それに見合う真摯な講義を行いたいと思う。

科目名	刑法Ⅱ(各論)
	刑法各論の基礎知識
教員名	松原 和彦

【授業の内容】

刑法各論の基礎知識の説明

【到達目標】

刑法各論の基礎知識の習得

【授業計画】

- 第1回 本授業に関する説明、序論、殺人の罪（第26章）
- 第2回 傷害の罪（第27章）
- 第3回 墮胎の罪（第29章）
- 第4回 遺棄の罪（第30章）
- 第5回 住居を侵す罪（第12章）
- 第6回 わいせつ、強制性交等及び重婚の罪（第22章）①（強制わいせつ罪など）
- 第7回 逮捕及び監禁の罪（第31章）、脅迫の罪（第32章）
- 第8回 略取、誘拐及び人身売買の罪（第33章）
- 第9回 名誉に対する罪（第34章）、信用及び業務に対する罪（第35章）
- 第10回 財産犯総論
- 第11回 窃盗及び強盗の罪（第36章）①（窃盗罪—総論—）
- 第12回 窃盗及び強盗の罪（第36章）②（窃盗罪—各論—）
- 第13回 窃盗及び強盗の罪（第36章）③（強盗罪）
- 第14回 窃盗及び強盗の罪（第36章）④（事後強盗罪など）
- 第15回 詐欺及び恐喝の罪（第37章）①（詐欺罪）
- 第16回 詐欺及び恐喝の罪（第37章）②（恐喝罪）
- 第17回 詐欺及び恐喝の罪（第37章）③（背任罪）
- 第18回 横領の罪（第38章）①（横領罪—総論—）
- 第19回 横領の罪（第38章）②（横領罪—各論—）
- 第20回 盗品等に関する罪（第39章）
- 第21回 毀棄及び隠匿の罪（第40章）
- 第22回 放火及び失火の罪（第9章）①（総論）
- 第23回 放火及び失火の罪（第9章）②（各論）
- 第24回 文書偽造の罪（第17章）①（総論）
- 第25回 文書偽造の罪（第17章）②（各論）
- 第26回 わいせつ、姦淫及び重婚の罪（第22章）②（公然わいせつ罪など）
- 第27回 公務の執行を妨害する罪（第5章）
- 第28回 犯人蔵匿及び証拠隠滅の罪（第7章）
- 第29回 偽証の罪（第20章）
- 第30回 汚職の罪（第25章）

1. 【授業計画】は予定
2. 予習は2時間以上、復習は1時間以上が目安
3. 過失傷害の罪（第28章）は自学自習とし、その成果は「授業内小試験」（追試験を含む。）で評価

【授業の進め方】

講義（ただし、適宜受講者の理解度を確認）

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①刑法〔第3版〕 ②山口厚 ③有斐閣 ④平成27年 ⑤本体3,200円＋税 ⑥9784641139084
- ①刑法各論判例インデックス ②井田良＝城下裕二編 ③商事法務 ④平成28年 ⑤本体3,200円＋税 ⑥9784785724719

任意の（小型）六法（最新版）は必携

【参考図書】

1. 西田典之ほか編『刑法の争点』（有斐閣、平成19年）本体2,400円＋税
2. 各年度の重要判例解説（ジュリスト（臨時）増刊）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 90% 授業内小試験 10% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

「授業内小試験」（追試験を含む。）は1回実施

【「成績評価の方法」に関する注意点】

「定期試験」、「授業内小試験」（いずれも追試験を含む。）の実施要領はWebClassに公表

【履修上の心得】

1. WebClassを頻用
2. 指定された座席に着席

【科目のレベル、前提科目など】

1. 「科目のレベル」は「共通的な到達目標モデル(第二次案修正案): 刑法」(法科大学院協会)
2. 事実上の「前提科目」は刑法 I (総論)

【備 考】

受講者は、WebClassを利用するために、履修登録期間①(新2年生以上)中に、E-mailの書き方に留意して、「学籍番号」および「氏名」をk-matsuアットマークfc.hakuoh.ac.jp(アットマークを@へ要変換)へ要連絡

科目名	刑法Ⅱ（各論）
	個々の犯罪の成立要件、解釈、判例を学ぶ。
教員名	清水 晴生

【授業の内容】

個別の犯罪について学びます。
殺人罪、窃盗罪など。

【到達目標】

どのような事実がどのような犯罪に当たるかを知り、社会にそれをあてはめられるようになる。

【授業計画】

- 第1回 刑法典上の犯罪の分類。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習、復習する（各60分）。
 第2回 殺人罪1。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習、復習する（各60分）。
 第3回 殺人罪2、自殺関与罪。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習、復習する（各60分）。
 第4回 遺棄罪。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習、復習する（各60分）。
 第5回 傷害罪。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習、復習する（各60分）。
 第6回 脅迫罪、強要罪。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習、復習する（各60分）。
 第7回 逮捕罪、監禁罪。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習、復習する（各60分）。
 第8回 略取、誘拐罪。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習、復習する（各60分）。
 第9回 強制わいせつ罪、強姦罪。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習、復習する（各60分）。
 第10回 住居侵入罪。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習、復習する（各60分）。
 第11回 名誉毀損罪。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習、復習する（各60分）。
 第12回 業務妨害罪。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習、復習する（各60分）。
 第13回 窃盗罪1。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習、復習する（各60分）。
 第14回 窃盗罪2。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習、復習する（各60分）。
 第15回 強盗罪1。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習、復習する（各60分）。
 第16回 強盗罪2。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習、復習する（各60分）。
 第17回 詐欺罪1。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習、復習する（各60分）。
 第18回 詐欺罪2、恐喝罪。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習、復習する（各60分）。
 第19回 横領罪1。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習、復習する（各60分）。
 第20回 横領罪2、背任罪。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習、復習する（各60分）。
 第21回 盗品関与罪。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習、復習する（各60分）。
 第22回 毀棄、隠匿罪。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習、復習する（各60分）。
 第23回 放火罪1。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習、復習する（各60分）。
 第24回 放火罪2。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習、復習する（各60分）。
 第25回 文書偽造罪1。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習、復習する（各60分）。
 第26回 文書偽造罪2。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習、復習する（各60分）。
 第27回 犯人蔵匿罪、証拠隠滅罪。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習、復習する（各60分）。
 第28回 偽証罪、虚偽告訴罪。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習、復習する（各60分）。
 第29回 賄賂罪。これらの内容についてインターネットなどで調べて予習、復習する（各60分）。
 第30回 総まとめ。これまでの内容について復習する（180分）。

丁寧な説明を加えていく。

【授業の進め方】

板書しながら講義するのでノートをしっかりとること。

提示された問題に各自考え（問題発見、問題解決学習）、その意見を互いに紹介する（ディベート、ディスカッション）形もしばしばとられる。

私語は厳禁なので要注意。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①プリントを使用する

使用しない。

【参考図書】

- ・西田典之『刑法各論』（高度な内容のため無理に読む必要はない）
- ・必要な場合にプリントを配る

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

定期試験のみ。

【履修上の心得】

意欲的に取り組んでほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

刑事法概論など履修済みであれば望ましい。

【備 考】

真摯な受講態度を求めたい。

科目名	民法Ⅰ（総則）
	2012年度以降入学生用
教員名	石川 信

【授業の内容】

1. 民法は「法律のなかの王様」である。日常生活全般を対象とするし、他の法律を学ぶための基本概念（借用概念）がたくさん含まれている。とくに民法Ⅰ（総則）では、民法その他の法律に通有する「社会理念」と「基本概念」を学ぶことになる。
2. 民法は、多様な財産関係・人間関係を扱うだけに、関係条文や裁判例も多く、難解な専門用語も登場する。学ぶに難儀な法律ではあるが、民法を学ぶ「必要性」を自覚し「有用性」に期待して、主体的・積極的に学修していただきたい。

【到達目標】

「民事法概論」に続けて「民法Ⅰ」の授業も半期で終わるが、その後も「民法専門科目」の修得が4年間続く。まずは「民法Ⅰ」で、①民法の理念・精神を感じ、②民法の体系的知識（私法の基本概念）を知り、③そして民法を学ぶ英気を養うことにしよう。

【授業計画】

第1回	民法の意義と形式	～民法はどのような法律か
第2回	民法の基本原則	～民法の基礎に流れる考え方
第3回	民法の学び方	～民法をどう読みどう使うか
第4回	権利の主体1	～人間と法人、人の権利能力・意思能力・行為能力
第5回	権利の主体2	～制限能力者制度、取引相手の保護
第6回	権利の対象	～物の概念、不動産と動産
第7回	法律行為1	～法律行為の意義、有効要件
第8回	法律行為2	～公序良俗違反行為の効力
第9回	法律行為3	～意思表示の有効性
第10回	法律行為4	～条件・期限、そして期間
第11回	代理制度1	～代理の意義、緒論
第12回	代理制度2	～無権代理と表見代理
第13回	時効制度1	～時効の意義 緒論
第14回	時効制度2	～消滅時効と取得時効
第15回	民法の課題	～民法改正問題の動向

【授業の進め方】

1. 事前配布の「講義ノート」に即して、①民法総則の体系的基礎知識を解説し、②「空欄部分」と「確認問題」の解答を質疑応答し、③「基本事例」「関連判例」を検討して具体的問題解決能力を養う。④「講義補遺」などを用いて、適宜に補説する。
2. 毎回、質問・意見票を配布し、受講生の理解度とニーズを確認しつつ授業を進める。
3. 総じて、受講生が主体的に学び・考え・実践できるよう、双方向的・協働的な授業進行を工夫する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

石川信『民法序説・民法総則』講義ノート（尚文堂）（学内購買部で販売予定）
『六法』（条文集）

【参考図書】

有用な参考図書を適宜に紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 20% 受講態度 10%

特記事項

定期試験の形式は「空欄補充問題」と「事例論述式問題」を予定している。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

成績評価の方法・基準等を変更する場合には、必ず事前に伝える。

科目名	民法Ⅱ（物権総論）
	2012年度以降入学生用
教員名	石川 信

【授業の内容】

民法Ⅱ（物権法総論）では、物の「所有と利用」に関する権利、および「物権変動の法理」を学修する。物権変動論は、民法のなかでも、とくに重要な学修課題である。

1. まず10種の「物権」の概要を理解しよう。物権の代表は誰でも知ってる「所有権」である。そのほか、「占有権」「用益物権」「担保物権」も物権として法定されていることを知ろう。
2. 次に、不動産と動産に分けて「物権変動の法理」を理解しよう。要するに「所有権移転」のプロセスで問題になることは何かである。

【到達目標】

1. 近代民法が高らかに掲げた「所有権絶対の原則」の意義と限界を適切に理解する。
2. 債権法や他の財産関係特別法を学修するための「体系的な基礎知識」を修得する。
3. 事例検討をとおして、身近に起きうる「財産紛争事件を解決する資質」を備える。

【授業計画】

- 第1回 物権法序説1～物権法の意義、物権法上の原則
 第2回 所有権1～所有権の意義、効力（絶対的支配力）その制限
 第3回 所有権2～物権的請求権（排他力）、所有権の取得（特殊な取得原因）
 第4回 所有権3～共同所有（共有）、特殊な区分所有
 第5回 占有権1～占有権の意義、成立、種類
 第6回 占有権2～占有権の効果（とくに占有訴権）
 第7回 用益物権～地上権、地役権、永小作権、入会権
 第8回 担保物権～留置権、先取特権、質権、抵当権
 第9回 不動産物権変動1～物権変動の意義、民法の原則（当事者関係、第三者関係）
 第10回 不動産物権変動2～第三者の範囲、対抗要件としての登記
 第11回 不動産物権変動3～登記を要する物権変動（取消と登記、時効と登記、相続と登記）
 第12回 不動産物権変動4～特殊な対抗手段（明認方法）、登記と公信力（94条2項の類推適用論）
 第13回 動産取引と即時取得1～即時取得の意義・要件・効果
 第14回 動産取引と即時取得2～占有改定と即時取得、即時取得の例外
 第15回 物権法の課題～「所有権絶対の原則」の功罪、不動産登記制度の現状と課題

講義ノート・講義資料を事前に配布し、できるだけ具体事例を示しながら、平明な解説を心がける。「民法」（市民のための法）が「眠法」（眠るための法）にならないよう、授業を工夫する。

【授業の進め方】

1. 授業では、受講生の多少にかかわらず、質疑応答形式を工夫する。
2. 講義ノート・講義資料を事前配布して、受講生に予読予習を促す。
3. 適宜に小テストまたはレポートを課して、受講生の学修状況を確認する。
4. 随時に質問意見票を配布し回収し、後日の回答・授業改善を心がける。

【教科書（必ず購入すべきもの）】

石川信『物権法』講義案 平成30年版を鋭意作成中

【参考図書】

- ・川井健著『民法概論2物権【第2版】』（有斐閣、2005年）
- ・潮見佳男＝道垣内弘人編『民法判例百選I総則・物権【第7版】』（有斐閣、2015年）
- ・三好登＝藤井俊二＝鎌野邦樹＝奥田進一編『確認民法用語300』（成文堂、2004年）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 20% 受講態度 10%

科目名	民法Ⅲ（担保物権）
	2012年度以降入学生用
教員名	石川 正美

【授業の内容】

この講義は、民法第二編のうち第七章以下を主たる対象とする。講学上は担保物権法と呼ばれる分野である。その範囲はかなり広い反面、社会的・経済的に重要な部分が少なくない。そこで、問題の多い箇所は詳しく説明し、それほどでない部分は簡単にふれるというように、講義に濃淡の度合いをつけることとしたい。また、講義の順序も、説明の便宜のために、必ずしも法典の順序には従わない。この分野は、判例・学説の進展が著しいが、時間的に可能なかぎり、それらにも言及する予定である。

【到達目標】

担保物権法に関する法律問題に直面したときに、問題点を的確に把握したうえで、法律用語を正しく使って議論し、弁護士等の専門家の説明を正確に理解することができるようになることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 担保物権法総説
- 第2回 担保物権の効力と通有的性質
- 第3回 抵当権の設定と公示
- 第4回 抵当権の効力・その1（被担保債権の範囲）
- 第5回 抵当権の効力・その2（目的物の範囲）
- 第6回 抵当権の効力・その3（物上代位）
- 第7回 抵当権と利用権
- 第8回 抵当権の侵害に対する救済
- 第9回 抵当権の処分
- 第10回 根抵当
- 第11回 質権
- 第12回 留置権
- 第13回 先取特権
- 第14回 仮登記担保
- 第15回 譲渡担保・所有権留保

予習としては、テキストの該当箇所を通読してください。復習においては、授業の記憶がうすれないうちに、説明された条文を参照しながら、テキストとノートをしっかりと読み返し、理解を深めてください。

【授業の進め方】

民法学修上の基礎的な概念や制度のあり方に関する正確な理解を修得することを目標とするという科目の性質から、基本的に知識の伝達・注入を中心とした講義形式で行うが、対象とする法領域は、現在の銀行取引をはじめとする取引社会で日常的に行われている実務の根幹となる部分であるから、受講生の周辺には、これらに関連する問題が数多く存在している（この授業で取り扱う抵当権が設定されている不動産に居住している学生も少なくないであろう）。そのような問題を積極的に発見し、それらについて（例えば、居住する不動産が抵当権者によって競売されたらどうなるかを）主体的に調べてみることで授業内容の理解を深めることになるであろう。授業においても、受講生の主体的な学修を支援するという観点から、日常のかつ具体的な問題にも積極的に言及する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

開講時に指定する。

【参考図書】

安永正昭『講義 物権・担保物権法（第2版）』有斐閣 3800円

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

学期末の定期試験による。

【履修上の心得】

法律学の学習は、自習によることは困難である。この講義においては、受講者の身の回りに日常的に生起するような事例を取り上げながら、なるべくわかりやすく説明するように心がけるので、できるかぎり講義に出席するように希望する。教室には必ず六法（小型の学習用で可）を持参すること。

【科目のレベル、前提科目など】

民事法概論と民法Ⅱを受講しておくこと、理解が容易になるであろう。

科目名	民法IV（債権総論）
	2012年度以降入学生用
教員名	茂木 明奈

【授業の内容】

債権総論は、債権債務関係全体にかかわる通則を規定する部分です。この講義では、物権と債権の違いを確認しながら、債権・債務の種類、発生から消滅まで、責任財産の保全、連帯債務、保証、債権譲渡といった分野を学習します。

【到達目標】

債権総論にかかわる条文、基本的な判例と学説の理解が目標です。

- * 債権の特徴を説明できる
- * 債務不履行とそれに基づく損害賠償について説明できる
- * 債権者（一般債権者）に特有の権能について説明できる
- * 保証契約関係について説明できる
- * 債権譲渡（債権の取引）の構造を説明できる
- * 相殺という制度の構造、使われ方を説明できる
- * 自らの見解を論理的に展開できる

【授業計画】

- 第1回 債権とは、債務とは / 物権と債権
 （予習：民法概論と民法系の授業（総則、物権）で学んだことを確認（60分）
 （復習：講義で扱った事項を整理する（60分）、民法第3編の目次と教科書の目次を読む（30分）
- 第2回 債権・債務の発生 / 債権の種類
 （予習：教科書の関連する部分を読む（30分）
 （復習：講義で扱った事項を整理する（60分）
- 第3回 種類債権の特定
 （予習：教科書の関連する部分を読む（30分）
 （復習：講義で扱った事項を整理する（60分）
- 第4回 利息債権、貸金債権に関する制限 / 債権侵害に対する保護
 （予習：「利息」や「利率」という言葉が出てくる場面を考えてみる（5分）、教科書の関連する部分を読む（30分）
 （復習：講義で扱った事項を整理する（60分）
- 第5回 履行の強制
 （予習：教科書の関連する部分を読む（30分）
 （復習：講義で扱った事項を整理する（60分）
- 第6回 債務不履行① 債務不履行に基づく損害賠償
 （予習：契約違反によって損害が生じる場合を考えてみる（5分）、教科書の関連する部分を読む（30分）
 （復習：講義で扱った事項を整理する（60分）
- 第7回 債務不履行② 損害賠償の範囲、賠償額の算定基準時
 （予習：教科書の関連する部分を読む（30分）
 （復習：講義で扱った事項を整理する（60分）
- 第8回 債務不履行③ 賠償額の調整
 （予習：教科書の関連する部分を読む（30分）
 （復習：講義で扱った事項を整理する（60分）
- 第9回 債務不履行④ 債務不履行責任と不法行為責任
 （予習：不法行為の要件・効果について調べる（10分）、教科書の関連する部分を読む（30分）
 （復習：講義で扱った事項を整理する（60分）
- 第10回 受領遅滞
 （予習：教科書の関連する部分を読む（30分）
 （復習：講義で扱った事項を整理する（60分）
- 第11回 責任財産の保全（債権者代位権・詐害行為取消権）
 （予習：教科書の関連する部分を読む（30分）
 （復習：講義で扱った事項を整理する（60分）
- 第12回 債権者代位権① 要件と効果
 （予習：教科書の関連する部分を読む（30分）
 （復習：講義で扱った事項を整理する（60分）
- 第13回 債権者代位権② いわゆる転用事例
 （予習：教科書の関連する部分を読む（30分）
 （復習：講義で扱った事項を整理する（60分）
- 第14回 詐害行為取消権① 要件
 （予習：教科書の関連する部分を読む（30分）
 （復習：講義で扱った事項を整理する（60分）

- 第15回 詐害行為取消権② 効果
 (予習：教科書の関連する部分を読む (30分))
 (復習：講義で扱った事項を整理する (60分))
- 第16回 多数当事者の債権・債務 (概論・分割債権・分割債務)
 (予習：1つの債権について複数の債権者/債務者がいると相手方の立場はどうなるか考えてみる (10分)、教科書の関連する部分を読む (30分))
 (復習：講義で扱った事項を整理する (60分))
- 第17回 多数当事者の債権・債務 (不可分債権・不可分債務等)
 (予習：教科書の関連する部分を読む (30分))
 (復習：講義で扱った事項を整理する (60分))
- 第18回 多数当事者の債権・債務 (連帯債務の成立、効力、影響関係)
 (予習：教科書の関連する部分を読む (30分))
 (復習：講義で扱った事項を整理する (60分))
- 第19回 多数当事者の債権・債務 (連帯債務者間の求償関係)
 (予習：教科書の関連する部分を読む (30分))
 (復習：講義で扱った事項を整理する (60分))
- 第20回 多数当事者の債権・債務 (保証の成立、効力、影響関係)
 (予習：「保証人」が登場する場面とその理由を考えてみる (5分)、教科書の関連する部分を読む (30分))
 (復習：講義で扱った事項を整理する (60分))
- 第21回 多数当事者の債権・債務 (保証人の求償権、連帯保証)
 (予習：教科書の関連する部分を読む (30分))
 (復習：講義で扱った事項を整理する (60分))
- 第22回 多数当事者の債権・債務 (共同保証、信用保証)
 (予習：教科書の関連する部分を読む (30分))
 (復習：講義で扱った事項を整理する (60分))
- 第23回 債権譲渡① 債権の譲渡性とその制限
 (予習：預金契約の約款を読んでみる (10分)、教科書の関連する部分を読む (30分))
 (復習：講義で扱った事項を整理する (60分))
- 第24回 債権譲渡② 債権譲渡の対抗要件 (対債務者間)
 (予習：教科書の関連する部分を読む (30分))
 (復習：講義で扱った事項を整理する (60分))
- 第25回 債権譲渡③ 債権譲渡の対抗要件 (対第三者間)、債務引受、契約上の地位の譲渡
 (予習：教科書の関連する部分を読む (30分))
 (復習：講義で扱った事項を整理する (60分))
- 第26回 弁済① 弁済、弁済の提供、弁済による代位
 (予習：教科書の関連する部分を読む (30分))
 (復習：講義で扱った事項を整理する (60分))
- 第27回 弁済② 受領権者としての外観を有する者に対する弁済、弁済の充当
 (予習：教科書の関連する部分を読む (30分))
 (復習：講義で扱った事項を整理する (60分))
- 第28回 代物弁済、供託
 (予習：教科書の関連する部分を読む (30分))
 (復習：講義で扱った事項を整理する (60分))
- 第29回 相殺① 要件と効果
 (予習：預金契約の約款を読んでみる (10分)、教科書の関連する部分を読む (30分))
 (復習：講義で扱った事項を整理する (60分))
- 第30回 相殺② 差押えと相殺、債権譲渡と相殺
 (予習：教科書の関連する部分を読む (30分))
 (復習：講義で扱った事項を整理する (60分))

【授業の進め方】

講義と課題によって進めます。

予習・講義・復習の各場面において、債権総論に関わる各種の制度や時事等に関する問題を発見し、あるいは提示されて、その解決方法を自ら考える作業も要求されます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

初回の授業で指示する。

大村敦志『新基本民法4 債権編』(有斐閣、2016年) 1,900円(「新基本民法3 担保編」の一部も授業で取扱う)、プロセス講義民法IV 債権1』(信山社、2016年) 3,200円、等が参考になる。

六法 (小型のものでよい) は必ず持参すること。

【参考図書】

初回の授業で指示する。

民法判例百選Ⅱ（債権）第7版のほか、田高寛貴ほか『民法③債権総論 判例30！』（有斐閣、2017年）1600円等が参考になる。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

定期試験により評価しますが、普段から講義にきちんと出席し、勉強しておかなければ太刀打ちできません。

【履修上の心得】

六法を持参し、条文が出てきたらとにかくこまめに引くこと。

【科目のレベル、前提科目など】

民法総則の学習を前提とします。

科目名	民法V（債権各論）
	契約・事務管理・不当利得・不法行為
	2012年度以降入学生用
教員名	蓮田 哲也

【授業の内容】

債権各論とは、当事者間の合意によって債権債務が生じる「契約」と、合意に基づかないで債権債務が生じる「事務管理」「不当利得」「不法行為」に大別することができる。本講義では、具体的な事案を挙げながら、それぞれ法律に定められていない問題をいかに処理すべきかを中心に扱っていく。

【到達目標】

債権各論で扱われる主要な問題点を理解する。

【授業計画】

- 第1回 契約法総論 契約の成立
学習課題：配布されたレジュメを用いて講義内容を振り返る（60分）。
- 第2回 契約の効力と契約の解除
学習課題：該当箇所について参考書等で確認し(30分)、配布されたレジュメを用いて講義内容を振り返る（60分）。
- 第3回 売買契約 I.成立
学習課題：該当箇所について参考書等で確認し(30分)、配布されたレジュメを用いて講義内容を振り返る（60分）。
- 第4回 売買契約 II.当事者の債権債務
学習課題：該当箇所について参考書等で確認し(30分)、配布されたレジュメを用いて講義内容を振り返る（60分）。
- 第5回 売買契約 III.瑕疵担保責任
学習課題：該当箇所について参考書等で確認し(30分)、配布されたレジュメを用いて講義内容を振り返る（60分）。
- 第6回 贈与契約
学習課題：該当箇所について参考書等で確認し(30分)、配布されたレジュメを用いて講義内容を振り返る（60分）。
- 第7回 貸借型契約 I.消費貸借・使用貸借契約
学習課題：該当箇所について参考書等で確認し(30分)、配布されたレジュメを用いて講義内容を振り返る（60分）。
- 第8回 貸借型契約 II.貸借契約(1)成立・効力・終了
学習課題：該当箇所について参考書等で確認し(30分)、配布されたレジュメを用いて講義内容を振り返る（60分）。
- 第9回 貸借型契約 III.貸借契約(2)貸借契約と第三者
学習課題：該当箇所について参考書等で確認し(30分)、配布されたレジュメを用いて講義内容を振り返る（60分）。
- 第10回 貸借型契約 IV.民法と特別法
学習課題：該当箇所について参考書等で確認し(30分)、配布されたレジュメを用いて講義内容を振り返る（60分）。
- 第11回 雇用契約
学習課題：該当箇所について参考書等で確認し(30分)、配布されたレジュメを用いて講義内容を振り返る（60分）。
- 第12回 請負契約 I.仕事完成までの問題
学習課題：該当箇所について参考書等で確認し(30分)、配布されたレジュメを用いて講義内容を振り返る（60分）。
- 第13回 請負契約 II.仕事完成後の問題
学習課題：該当箇所について参考書等で確認し(30分)、配布されたレジュメを用いて講義内容を振り返る（60分）。
- 第14回 委任契約 I.受任者の義務
学習課題：該当箇所について参考書等で確認し(30分)、配布されたレジュメを用いて講義内容を振り返る（60分）。
- 第15回 委任契約 II.受任者の権利と委任の終了
学習課題：該当箇所について参考書等で確認し(30分)、配布されたレジュメを用いて講義内容を振り返る（60分）。
- 第16回 寄託・組合・和解
学習課題：該当箇所について参考書等で確認し(30分)、配布されたレジュメを用いて講義内容を振り返る（60分）。
- 第17回 契約総括

- 学習課題：これまでのレジュメやノートを用いて講義内容を振り返る（90分）。
- 第18回 中間試験(契約)
- 第19回 事務管理
学習課題：該当箇所について参考書等で確認し(30分)、配布されたレジュメを用いて講義内容を振り返る（60分）。
- 第20回 不当利得 I.総論
学習課題：該当箇所について参考書等で確認し(30分)、配布されたレジュメを用いて講義内容を振り返る（60分）。
- 第21回 不当利得 II.侵害利得
学習課題：該当箇所について参考書等で確認し(30分)、配布されたレジュメを用いて講義内容を振り返る（60分）。
- 第22回 不当利得 III.給付利得
学習課題：該当箇所について参考書等で確認し(30分)、配布されたレジュメを用いて講義内容を振り返る（60分）。
- 第23回 不法行為 I.総論
学習課題：該当箇所について参考書等で確認し(30分)、配布されたレジュメを用いて講義内容を振り返る（60分）。
- 第24回 不法行為 II.権利侵害
学習課題：該当箇所について参考書等で確認し(30分)、配布されたレジュメを用いて講義内容を振り返る（60分）。
- 第25回 不法行為 III.故意・過失
学習課題：該当箇所について参考書等で確認し(30分)、配布されたレジュメを用いて講義内容を振り返る（60分）。
- 第26回 不法行為 IV.因果関係
学習課題：該当箇所について参考書等で確認し(30分)、配布されたレジュメを用いて講義内容を振り返る（60分）。
- 第27回 不法行為 V.損害
学習課題：該当箇所について参考書等で確認し(30分)、配布されたレジュメを用いて講義内容を振り返る（60分）。
- 第28回 不法行為 VI.競合的不法行為・共同不法行為
学習課題：該当箇所について参考書等で確認し(30分)、配布されたレジュメを用いて講義内容を振り返る（60分）。
- 第29回 不法行為 VII.差止め・損害賠償
学習課題：該当箇所について参考書等で確認し(30分)、配布されたレジュメを用いて講義内容を振り返る（60分）。
- 第30回 事務管理・不当利得・不法行為総括
学習課題：これまでのレジュメやノートを用いて講義内容を振り返る（90分）。

本講義では、契約と事務管理・不当利得・不法行為に大きく二分する。その関係上、中間試験を行い、定期試験と同様の評価対象として扱うので注意されたい。

【授業の進め方】

具体的な事案を挙げながら、どういった点が問題であるかを意識できるように授業を進める。

なお、毎回レジュメを配布するので、それを使って復習を心掛けていただきたい。

また、講義中に問題提起を随時行うことで、学生による【発見学習】や【問題解決学習】、【体験学習】、【調査学習】につながるよう努める。

なお、講義中に行う問題提起については、学生自ら図書館などで資料を探し出して調べる【能動的学習（アクティブ・ラーニング）】を実践すること。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

六法（特に出版社は指定しない）

毎回、レジュメを配布する。

【参考図書】

講義中に紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 60% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

第18回目の中間試験も授業内小試験として評価比率を提示している。

中間試験とは別に、小テストも数回に一度の割合で行う。

そのため、上記で示した「授業内小試験」での評価比率のうち、中間試験が40%、小テストが20%となる。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

第18回目の中間試験は、定期試験として扱う。

よって、本講義では定期試験が2回あるものと理解していただきたい。

【履修上の心得】

法解釈が中心となるので、その場で理解できない問題が出てくると思う。わからない事があった場合には講義後などの時間を使って質問に来るなどして、わからないまま放置しないよう心がけること。

【科目のレベル、前提科目など】

民法Ⅳ(債権総論)を単位取得していることが望ましい。

【備 考】

小テストを数回に1度の割合で行うが、これは知識の確認と定着を図るものであり、難しいものではない。

また、第18回目に行う中間試験は定期試験と同評価である。つまり、定期試験が2回あるものと理解すること。

科目名	民法VI（親族）
教員名	河野 泰義

【授業の内容】

民法第4編の「親族」を取り扱います。講義形式ですが、なるべく多くの事例を使って話を進めます。家庭裁判所の手続についても適宜取り上げます。親族法は、判例や立法の動きつつある分野なので、現在抱える問題と展望を一緒に考えていきたいと思えます。

【到達目標】

親族法の全体像を理解し、重要判例、主要学説、実務の実情などについて理解を深め、実際に生起する法的問題につき考えられるようになることを目標とします。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス 家族法と法—家族の特性と法、わが国の法規制、家族関係の紛争処理 親族—意義、種類と範囲、変動、効果
- 第2回 婚姻の成立—婚姻法、婚姻の成立要件、無効・取消
- 第3回 婚姻の効果—一般的効果、財産的效果
- 第4回 離婚の成立—離婚制度の変遷、協議離婚、裁判離婚
- 第5回 離婚の効果—身分的效果、子に対する効果、財産的效果
- 第6回 婚約・同棲・内縁・外縁—婚約、同棲、内縁、外縁
- 第7回 実親子関係（1）嫡出親子関係—親子法の変遷、実親子関係、嫡出子、生殖補助医療（人工授精・体外受精）
- 第8回 実親子関係（2）非嫡出親子関係—任意認知、強制認知、準正
- 第9回 養親子関係（1）普通養子縁組—養子法の変遷、成立、無効・取消、効力、解消
- 第10回 養親子関係（2）特別養子縁組—意義、成立要件、効果、離縁
- 第11回 親権（1）—意義、親権者
- 第12回 親権（2）—内容（身上監護権、財産管理権）、消滅（喪失、停止、辞任）
- 第13回 後見・保佐・補助—意義、未成年後見、成年後見、保佐、補助、任意後見
- 第14回 扶養—意義、公的扶助と私的扶養、生活保持義務と生活扶助義務、扶養の当事者、扶養義務の発生・変更・消滅、扶養の順位・程度・方法、過去の扶養料の求償
- 第15回 氏名と戸籍—氏、名、戸籍

上記は、教科書の目次に沿ったものですが、内容の重要度や授業の進行状況によっては、割当て時間や説明の前後を変更することになると思います。予習復習は任意ですが、事前に教科書を読み、自分なりのノートを纏めておかないと、授業の理解や定期試験の解答に苦労することになるでしょう。

【授業の進め方】

- ・概ね教科書に沿って進めます。
- ・基本的には講義形式ですが、適宜発言を求めることもあります。
- ・課題（主に復習）をレポートの形式で提出してもらいます。

【教科書（必ず購入すべきもの）】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①親族法・相続法[第4版補訂] ②吉田恒雄・岩志和一郎 ③尚学社 ④2016年9月10日 ⑤3400円＋税 ⑥978-4-86031-144-5
- ①六法

- ・上記教科書は良質なものです。改正法や新判例に追いついていないので、授業開始前に新版が出版されれば、それを使用することになります。
- ・六法は小型のもの（ポケット六法、デイリー六法など）で構いませんが、最新のものを購入して下さい。判例付きのものは便利ですが、定期試験には持ち込めませんので注意して下さい。

【参考図書】

以下のように沢山出ていますが、教科書の外に、なるべく新しくかつ自分の読みやすいものを手元に置くことを勧めます。ガイダンスで説明する予定です。

- （概説書）
- ・内田 貴「民法IV[補訂版]親族・相続」（東京大学出版会、2004年）
 - ・松川正毅「民法 親族・相続[第5版]」（有斐閣、2018年）
 - ・高橋朋子外「民法7 親族・相続[第5版]」（有斐閣、2017年）
 - ・川井健（良永和隆補訂）「民法概論5 親族・相続」（有斐閣、2015年）
 - ・本山敦外「家族法」（日本評論社、2015年）

- ・大村敦志「民法読解 親族編」(有斐閣、2015年)
- ・裁判所職員総合研修所「親族法相続法講義案[七訂補訂版]」(司法協会、2014年)
- ・大村敦志「新 基本民法7 家族編」(有斐閣、2014年)
- ・二宮周平著「家族法[第4版]」(新世社、2013年)
- ・梶村太市外「家族法実務講義」(有斐閣、2013年)
- ・窪田充見外「民法演習ノートⅢ家族法21問」(弘文堂、2013年)
- ・窪田充見「家族法[第2版]」(有斐閣、2013年)
- ・犬伏由子外「親族・相続法」(弘文堂、2012年)
- ・佐藤義彦外「民法Ⅴ—親族・相続[第4版]」(有斐閣、2012年)
- ・大村敦志「家族法[第3版]」(有斐閣、2010年)
- ・近江幸治「民法講義Ⅶ 親族法・相続法」(成文堂、2010年)
(コンメンタール)
- ・島津一郎外「別冊法学セミナー基本法コンメンタール親族[第5版]」(日本評論社、2014年)
(判例集)
- ・水野紀子外「民法判例百選Ⅲ親族・相続(第2版)」(有斐閣、2018年)
- ・内田貴外「民法判例集 親族・相続」(有斐閣、2014年)
(問題集)
- ・棚村政行外「Law Practice 民法Ⅲ親族・相続編」(商事法務、2015年)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 0% レポート・課題 20% 受講態度 0%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

レポートの評価比率が一定割合ありますので、提出期限に注意して必ず提出して下さい。

【履修上の心得】

- ・授業には必ず六法を持参して下さい。
- ・予習を前提として進めます。教科書の該当箇所をよく読み、分からない箇所は、教科書の他の部分や今までに勉強した書物を調べるなどして自分なりの問題意識を持って臨んで下さい。
- ・出席回数は直接は評価に影響しませんが、定期試験もレポートも授業で触れたことを題材とします。
- ・レポート課題や提出方法は授業中に指示します。
- ・Webclassをできるだけ活用したいので、各自利用に慣れて下さい。

【科目のレベル、前提科目など】

「民事法概論」及び「民法Ⅰ(総則)」が履修済みであること。

科目名	民法Ⅶ（相続）
教員名	河野 泰義

【授業の内容】

民法第5編の「相続」を取り扱います。講義形式ですが、なるべく多くの事例を使って話を進めます。家庭裁判所の手続についても適宜取り上げます。相続法は、判例や立法の動きつつある分野なので、現在抱える問題と展望を一緒に考えていきたいと思えます。

【到達目標】

相続法の全体像を理解し、重要判例、主要学説、実務の実情などの理解を深め、実際に生起する法的問題についても、自分で考えられるようになることを目標とします。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス 相続の開始—相続の意義・根拠、相続の開始、相続権、相続財産に関する費用
- 第2回 相続人—相続人となる資格、相続人の種類・順位、代襲相続、相続資格の重複、相続欠格、推定相続人の廃除
- 第3回 相続財産—包括承継主義、相続財産の範囲
- 第4回 相続分（1）—意義、法定相続分、指定相続分、代襲相続人の相続分
- 第5回 相続分（2）—特別受益者の相続分、寄与者の相続分
- 第6回 遺産共有—意義、法的性格、共有中の相続財産の管理と処分
- 第7回 遺産分割（1）—意義、遺産分割の実行、遺産分割方法の指定と「相続させる」旨の遺言、遺産分割の禁止
- 第8回 遺産分割（2）—遺産分割の前提問題、遺産分割の対象となる財産、遺産分割の効力
- 第9回 相続回復請求権—意義、性質、当事者、行使、消滅
- 第10回 相続の承認と放棄（1）—意義、能力、熟慮期間、取消・無効
- 第11回 相続の承認と放棄（2）—単純承認、限定承認、相続放棄
- 第12回 財産分離—意義、第一種の財産分離、第二種の財産分離 相続人の不存在—意義、管理と清算、相続人の捜索、特別縁故者への財産分与
- 第13回 遺言—遺言制度、法的性格、遺言事項、遺言能力、一般的効力、種類と方式、撤回、解釈、執行
- 第14回 遺贈—意義、受遺者、無効・取消、包括遺贈、特定遺贈、負担付遺贈
- 第15回 遺留分—意義、遺留分権、算定、遺留分減殺請求

上記は、教科書の目次に沿ったものですが、内容の重要度や授業の進行状況によっては、割当て時間や説明の前後を変更することになると思います。予習復習は任意ですが、事前に教科書を読み、自分なりのノートを纏めておかないと、授業の理解や定期試験の解答に苦労することになるでしょう。

【授業の進め方】

- ・概ね教科書に沿って進めます。
- ・基本的には講義形式ですが、適宜発言を求めることがあります。
- ・課題（主に復習）をレポートの形式で提出してもらいます。

【教科書（必ず購入すべきもの）】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
- ①親族法・相続法[第4版補訂] ②吉田恒雄＝岩志和一郎 ③尚学社 ④2016年9月10日 ⑤3400円＋税 ⑥978-4-86031-144-5
- ①六法

- ・上記教科書は良質なものですが、改正法や新判例に追いついていませんので、授業開始前に新版が出版されれば、それを使用することになります。
- ・六法は最新で小型のもの（ポケット六法、デイリー六法など）で構いませんが、最新のものを購入して下さい。判例付きのものは便利ですが、定期試験には持ち込めませんので注意して下さい。

【参考図書】

以下のように沢山出ていますが、教科書の外に、なるべく新しくかつ自分が読みやすいものを手元に置くことを勧めます。ガイダンスで説明する予定です。

（概説書）

- ・内田 貴「民法Ⅳ[補訂版]親族・相続」（東京大学出版会、2004年）
- ・松川正毅「民法 親族・相続[第5版]」（有斐閣、2018年）
- ・高橋朋子外「民法7 親族・相続[第5版]」（有斐閣、2017年）
- ・潮見佳男「相続法[第5版]」（弘文堂、2016年）
- ・川井健（良永和隆補訂）「民法概論5 親族・相続」（有斐閣、2015年）
- ・本山敦外「家族法」（日本評論社、2015年）

- ・裁判所職員総合研修所「親族法相続法講義案[七訂補訂版]」（司法協会、2014年）
- ・大村敦志「新 基本民法7 家族編」（有斐閣、2014年）
- ・二宮周平著「家族法[第4版]」（新世社、2013年）
- ・梶村太市外「家族法実務講義」（有斐閣、2013年）
- ・窪田充見外「民法演習ノートⅢ家族法21問」（弘文堂、2013年）
- ・窪田充見「家族法[第2版]」（有斐閣、2013年）
- ・犬伏由子外「親族・相続法」（弘文堂、2012年）
- ・佐藤義彦外「民法Ⅴ—親族・相続[第4版]」（有斐閣、2012年）
- ・大村敦志「家族法[第3版]」（有斐閣、2010年）
- ・近江幸治「民法講義Ⅶ 親族法・相続法」（成文堂、2010年）
（コンメンタール）
- ・島津一郎外「別冊法学セミナー基本法コンメンタール親族[第5版]」（日本評論社、2014年）
（判例集）
- ・水野紀子外「民法判例百選Ⅲ親族・相続（第2版）」（有斐閣、2018年）
- ・内田貴外「民法判例集 親族・相続」（有斐閣、2014年）
（問題集）
- ・棚村政行外「Law Practice 民法Ⅲ親族・相続編」（商事法務、2015年）

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 0% レポート・課題 20% 受講態度 0%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

レポートの評価比率が一定割合ありますので、提出期限に注意して必ず提出して下さい。

【履修上の心得】

- ・授業には必ず六法を持参して下さい。
- ・予習を前提として進めます。教科書の該当箇所をよく読み、分からない箇所は調べて、自分なりの問題意識を持って臨んで下さい。
- ・出席回数は直接は評価に影響しませんが、定期試験・レポートとも授業で触れたことを題材にします。
- ・レポートの課題や提出方法は、授業中に指示します。
- ・Webclassをできるだけ活用したいので、各自利用に慣れて下さい。

【科目のレベル、前提科目など】

「民事法概論」、「民法Ⅰ（総則）」及び「民法Ⅵ（親族）」が履修済みであること。

「相続法」は、「親族法」と併せて「家族法」又は「身分法」と呼ばれますが、「財産法」の知識をもかなり必要とするので、財産法科目（民法Ⅰ～Ⅴ）を履修することが望ましいです。

科目名	商取引法
教員名	河原 文敬

【授業の内容】

「商取引法」とは、企業の活動に関する法のことであり、「会社法」とともに商法の核となるものです。広い意味では、「保険法」、「海商法」、「金融取引法」、「手形・小切手法」なども含まれますが、これらについてはそれぞれ独立した科目が設けられていますので、この講座では狭い意味での商取引法、具体的には商法第2編「商行為」を対象にします。

【到達目標】

商取引に関する法制度の基礎知識の獲得。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 商行為概念
- 第3回 商事売買(1)
- 第4回 商事売買(2)
- 第5回 商事留置権
- 第6回 第5回の復習
- 第7回 代理制度(支配人・商業使用人)
- 第8回 媒介商
- 第9回 問屋制度
- 第10回 問屋営業の復習
- 第11回 運送取扱営業・運送営業(1)
- 第12回 運送営業(2)
- 第13回 運送営業(3)
- 第14回 場屋営業、倉庫営業
- 第15回 全般的な復習

* 理解を深めるため、各回60分程度の予習テーマと120分程度の復習テーマを指示します。

【授業の進め方】

講義が中心ですが、対話形式で知識確認のため発言を求める予定です。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は、なるべく新しいものを使用したいので、開講直前に指定します。
また、最新の六法を必ず購入し、講義の際に持参してください。

【参考図書】

- 江頭憲治郎『商取引法(第6版)』(弘文堂 2010年)
- 北居功・高田晴仁編著『民法とつながる商法総則・商行為法』(商事法務 2013年)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 90% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 10%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

詳細は講義中に伝達します。

【履修上の心得】

参照条文が出てきたら必ず六法で確認してください。

【科目のレベル、前提科目など】

私法の基礎である民法(特に「民法Ⅰ(総則)」、「民法Ⅱ(物権法)」、「民法Ⅲ(債権総論)」、「民法Ⅳ(債権各論)」)は前提科目です。「商法総論」「手形小切手法」「保険法」「海商法」は重要な関連科目です(というよりは「商取引法」そのものです)。まだ履修していない者は、あわせて履修することを希望する。

科目名	保険法
教員名	吉武 雅子

【授業の内容】

大地震、豪雨、台風、大雪などの自然災害のほか、病気やケガなど我々の生活は危険に満ちている。保険という制度は、このような不慮の事故による出捐を填補する役割を果たすものである。保険には国家が国民のために設ける公的保険と民間会社が行う私保険とが存在するが、この授業の対象となるのはもっぱら後者の私保険である。私保険の分野では、保険契約者の保護のみならず、保険を引き受ける企業の存続についても配慮することが必要になる。社会政策的な要素をもつ保険は、給付に対する反対給付が偶然性によって支配されるという特殊な契約であるため、悪用される危険性も併せ持っている。このような特殊な保険契約の性質について理解し、かつこの契約が健全に行われるためにはモラル・リスク（道徳的危険）対策を知ることが重要である。モラル・リスクを排除するために保険法および保険契約約款はどのような規定を設けているか、また、判例はどのように保険を健全に機能させるべく判断しているか、できるだけ最新の事例も含めて検討する。

【到達目標】

- ①私保険の役割について理解すること
- ②損害保険と生命保険の本質的な違いについて理解すること
- ③保険における普通契約約款の役割について知ること
- ④保険契約における利得禁止について理解すること
- ⑤保険会社が免責される場合について知ること
- ⑥保険におけるモラル・リスクを防ぐ方法について
- ⑦地震保険の変遷について知ること

【授業計画】

- 第1回 保険制度が発展してきた経緯
- 第2回 損害保険と生命保険との基本的な違い
- 第3回 保険契約の性質について－保険契約の射倖契約性など
- 第4回 保険契約における保険会社の義務および保険契約者の義務（告知義務とは何か）
- 第5回 保険用語の意味：被保険利益とは何か？保険事故とは何か？
- 第6回 損害保険の基本的な考え方
- 第7回 自動車保険総説：強制保険と任意保険との差異
- 第8回 任意自動車保険における賠償条項と傷害保険条項との性質の違いについて
- 第9回 住宅保険の現状－地震保険を付帯すべきか？
- 第10回 運送保険および海上保険について
- 第11回 損害保険における保険代位－残存物代位・請求権代位
- 第12回 再保険とは何か？
- 第13回 責任保険における被保険利益と保険事故の定義
- 第14回 責任保険における被害者の直接請求権
- 第15回 新種保険にはどのような者があるか（各自で新種保険を考える）
- 第16回 定額保険としての生命保険
- 第17回 「他人の死亡」を保険事故とする保険契約締結
- 第18回 保険金受取人の指定および法定相続人が受取人になる場合の各自の受取分について
- 第19回 生命保険契約における保険会社の免責
- 第20回 生命保険債権の処分・差押え
- 第21回 生命保険契約における告知義務違反の効果
- 第22回 傷害疾病保険契約とは何か？傷害保険におけるモラル・リスクについて
- 第23回 傷害疾病保険契約に関する判例紹介
- 第24回 海外旅行傷害保険はどのような損害を填補するか？
- 第25回 課題として提出された新種保険に関する論評
- 第26回 保険業法－保険業に関する規制
- 第27回 保険会社が経営破たんした場合の救済
- 第28回 生命保険会社の株式会社への組織変更
- 第29回 最新保険事情
- 第30回 保険が社会において果たす役割について

以下が重点項目

- ①保険制度が発展してきた経緯
- ②保険の契約としての特質
- ③生命保険と損害保険との本質的な差異
- ④保険用語の解説

- ⑤各種保険契約の特色と差異
- ⑥告知義務とは何か？
- ⑦損害保険の特質
- ⑧自動車保険の特色
- ⑨火災保険および運送保険の特色
- ⑩責任保険とは何か？
- ⑪生命保険の定額保険性
- ⑫生命保険金の受取人に関する問題
- ⑬障害疾病保険の特色
- ⑭保険におけるモラル・リスクとは何か？

【授業の進め方】

基本的には上記各項目に沿って講義形式で進めていく。随時紹介する判例などについて小テスト、約款作成などの課題、○×問題のような形で各自の主体的参加を求める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①現代保険法・海商法30 候講 ②山野 嘉朗 編 ③中央経済社 ④2016 ⑤3800円 ⑥978-4-502-06880-5

【参考図書】

別冊ジュリスト 保険法判例百選 2010年版 山下友信ほか編 有斐閣

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 15% レポート・課題 15% 受講態度 10%
特記事項
期末試験、および授業中に随時行う小テストならびに課題によって評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

加点方式で、試験の結果に小テスト、課題提出などの点数を加点する。

【履修上の心得】

保険法では法律の解釈のみならず、契約約款の内容、判例の解釈などが重要になる。授業時に配布する資料はそのつど異なるため、できるだけ欠席せず、やむを得ない場合は各自「危機管理」すること。

【科目のレベル、前提科目など】

保険法は他の法とは異なる考え方をすることが多く、他の法律科目が得意な人も、今まで他の科目に苦手意識を持っていた人も同じスタートラインから始められる。

科目名	保険法
教員名	白石 智則

【授業の内容】

家が火事で燃えてしまったら建て直しの費用が必要です。交通事故を起こしてしまったら多額の賠償金を支払わなければなりません。一家の大黒柱が亡くなってしまったら残された家族の生活が苦しくなります。我々は、このような不幸な出来事から完全に逃れることはできません。でも、保険契約というものを事前に結んでおき、少額の保険料を支払ってれば、このような出来事が生じたときの経済的不利益を最小限にすることができるのです。

この講義では、保険契約の成立や効力について定めた「保険法」(平成20年法律第56号)を中心に、我々の社会生活に欠かせない保険制度を支える法制度について学びます。

【到達目標】

保険制度・保険契約に関する基本的な法制度を理解することを目標とします。

【授業計画】

第1回 保険法総論(1) 保険制度

(予習:教科書(1頁~7頁)の粗読(20分)、復習:教科書の精読・講義内容の確認(1~2時間))

第2回 保険法総論(2) 保険の種類

(予習:教科書(7頁~28頁)の粗読(30分)、復習:教科書の精読・講義内容の確認(1~2時間))

第3回 保険法総論(3) 保険取引の特色・保険監督

(予習:教科書(28頁~48頁)の粗読(30分)、復習:教科書の精読・講義内容の確認(1~2時間))

第4回 保険法総論(4) 保険契約と保険法

(予習:教科書(49頁~64頁)の粗読(30分)、復習:教科書の精読・講義内容の確認(1~2時間))

第5回 保険法の基礎理論(1) 収支相当の原則・給付反対給付均等の原則

(予習:教科書(65頁~73頁)の粗読(20分)、復習:教科書の精読・講義内容の確認(1~2時間))

第6回 保険法の基礎理論(2) モラルハザード・代位

(予習:教科書(73頁~92頁)の粗読(30分)、復習:教科書の精読・講義内容の確認(1~2時間)、WebClass(60分))

第7回 損害保険(1) 損害保険の種類・保険事故・保険の目的物・保険期間・保険金額・保険料

(予習:教科書(93頁~103頁)の粗読(20分)、復習:教科書の精読・講義内容の確認(1~2時間))

第8回 損害保険(2) 被保険利益・保険価額・一部保険

(予習:教科書(103頁~112頁)の粗読(20分)、復習:教科書の精読・講義内容の確認(1~2時間))

第9回 損害保険(3) 超過保険・重複保険

(予習:教科書(112頁~122頁)の粗読(20分)、復習:教科書の精読・講義内容の確認(1~2時間))

第10回 損害保険(4) 損害保険契約の成立

(予習:教科書(122頁~133頁)の粗読(20分)、復習:教科書の精読・講義内容の確認(1~2時間))

第11回 損害保険(5) 告知義務・保険料の支払

(予習:教科書(134頁~143頁)の粗読(20分)、復習:教科書の精読・講義内容の確認(1~2時間))

第12回 損害保険(6) 損害保険関係の変動

(予習:教科書(144頁~156頁)の粗読(20分)、復習:教科書の精読・講義内容の確認(1~2時間))

第13回 損害保険(7) 損害てん補の要件・損害防止義務・保険事故発生時の通知義務・保険者の免責事由

(予習:教科書(156頁~167頁)の粗読(20分)、復習:教科書の精読・講義内容の確認(1~2時間))

第14回 損害保険(8) 保険金の支払・残存物代位・請求権代位

(予習:教科書(167頁~184頁)の粗読(30分)、復習:教科書の精読・講義内容の確認(1~2時間))

第15回 損害保険(9) 保険契約の終了

(予習:教科書(184頁~190頁)の粗読(20分)、復習:教科書の精読・講義内容の確認(1~2時間))

第16回 損害保険(10) 保険担保

(予習:教科書(190頁~197頁)の粗読(20分)、復習:教科書の精読・講義内容の確認(1~2時間))

第17回 損害保険(11) 責任保険

(予習:教科書(197頁~210頁)の粗読(20分)、復習:教科書の精読・講義内容の確認(1~2時間))

第18回 損害保険(12) 自動車保険

(予習:教科書(210頁~220頁)の粗読(20分)、復習:教科書の精読・講義内容の確認(1~2時間))

第19回 損害保険(13) 海上保険

(予習:教科書(220頁~226頁)の粗読(20分)、復習:教科書の精読・講義内容の確認(1~2時間)、WebClass(60分))

第20回 生命保険(1) 生命保険契約の内容

(予習:教科書(227頁~242頁)の粗読(20分)、復習:教科書の精読・講義内容の確認(1~2時間))

第21回 生命保険(2) 生命保険契約の成立

(予習:教科書(242頁~254頁)の粗読(20分)、復習:教科書の精読・講義内容の確認(1~2時間))

第22回 生命保険(3) 告知義務等

(予習:教科書(255頁~270頁)の粗読(20分)、復習:教科書の精読・講義内容の確認(1~2時間))

第23回 生命保険(4) 保険料の支払

- (予習：教科書(270頁～275頁)の粗読(20分)、復習：教科書の精読・講義内容の確認(1～2時間))
- 第24回 生命保険(5) 保険契約者・保険金受取人の変更
(予習：教科書(275頁～294頁)の粗読(30分)、復習：教科書の精読・講義内容の確認(1～2時間))
- 第25回 生命保険(6) 危険の変動・保険金の支払
(予習：教科書(294頁～314頁)の粗読(20分)、復習：教科書の精読・講義内容の確認(1～2時間))
- 第26回 生命保険(7) 生命保険契約の終了
(予習：教科書(314頁～330頁)の粗読(20分)、復習：教科書の精読・講義内容の確認(1～2時間))
- 第27回 生命保険(8) 生命保険契約の多様な利用方法
(予習：教科書(330頁～343頁)の粗読(20分)、復習：教科書の精読・講義内容の確認(1～2時間))
- 第28回 傷害疾病保険(1) 傷害疾病保険契約の内容
(予習：教科書(345頁～357頁)の粗読(20分)、復習：教科書の精読・講義内容の確認(1～2時間))
- 第29回 傷害疾病保険(2) 傷害疾病保険契約の終了等
(予習：教科書(357頁～369頁)の粗読(20分)、復習：教科書の精読・講義内容の確認(1～2時間)、WebClass(60分))
- 第30回 まとめ
(予習：なし、復習：これまでの講義範囲につき、教科書の精読・講義内容の確認・論述の練習(15～40時間))

毎回の予習・復習以外に、より詳細な教科書・文献を読んだり、判例を調べてみるなど、自主的な学修をすることを期待します。

【授業の進め方】

講義ではパワーポイントを使用するとともに、レジュメを配布します。パワーポイントの内容は、原則としてレジュメに反映されているので、プロジェクターに投影された文章等をノートに取る必要はありません。

教科書に従って講義を行います。講義中に教科書を参照することはほとんどありません。教科書は予習・復習の際に読むようにしてください。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①保険法(有斐閣アルマ) ②山下友信ほか ③有斐閣 ④2015年 ⑤2100円 ⑥978-4-641-22048-5

教科書のほか、最新の六法を必ず購入し、講義の際に持参してください。『ポケット六法』(有斐閣)、『デイリー六法』(三省堂)などの小型六法で結構です。

【参考図書】

- 山下友信＝洲崎博史編『保険法判例百選』(有斐閣、2010年)
そのほかの参考文献については、講義のときに紹介します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 0% レポート・課題 20% 受講態度 0%

特記事項

期末試験(定期試験)およびWebClassによる小テスト(課題)により評価します。期末試験では、基本的な知識を確認する選択式問題と、論述式問題を出题する予定です。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

成績評価の際に出席状況を加味することはありませんが、全講義の3分の2以上出席していない者は期末試験を受けられません(白鷗大学試験規則2条)。

【履修上の心得】

講義では何度も条文を参照します。こちらからの指示のあるなしに関わらず、参照条文が出てきたら必ず六法を開いてその条文を確認するようにしてください。

また、質問は大歓迎です。わからないことをわからないままにしないでください。

【科目のレベル、前提科目など】

民法、とくに「民法Ⅳ(債権総論)」、「民法Ⅴ(債権各論)」は前提科目です。

また、保険法は実質的には商法(企業の組織と活動に関する法律)の一部です。同じく商法の一部である「商法総論」、「会社法」、「商取引法」、「海商法」などは関連科目であり、同年度または次年度に履修することをお勧めします。

科目名	海商法
教員名	白石 智則

【授業の内容】

この講義では、主として商法第3編「海商」および国際海上物品運送法から構成される、いわゆる「海商法」を学びます。

多くの資源を海外から輸入している日本において、国際運送のほとんどを占める海上運送が重要なことはいまさらいうまでもありません。本講では、この海上運送に関する法制度を中心として、船舶所有権、船舶金融、海上売買、海上損害など、海上企業の組織と活動に関する法制度を広く取り上げます。なお、商法第3編は現在改正が予定されていますので、この講義ではできる限り新法の内容を先取りして解説していきたいと思えます。

あまりなじみのない分野かもしれませんが、「まだ知らぬ海を目指して」いる多くの白鷗生の受講を期待します。

【到達目標】

海上運送に関する基本的な法制度を理解することを目標とします。

【授業計画】

第1回 ガイダンス（船と海運実務）

（予習：なし、復習：なし）

第2回 序論

（予習：教科書（1頁～15頁）の粗読（20分）、復習：教科書の精読・講義内容の確認（1～2時間））

第3回 船舶(1) 船舶の意義と種類

（予習：教科書（16頁～23頁）の粗読（20分）、復習：教科書の精読・講義内容の確認（1～2時間））

第4回 船舶(2) 船舶の個性・国籍・公示

（予習：教科書（23頁～34頁）の粗読（20分）、復習：教科書の精読・講義内容の確認（1～2時間））

第5回 船舶運航の主体

（予習：教科書（35頁～45頁）の粗読（20分）、復習：教科書の精読・講義内容の確認（1～2時間））

第6回 船員等

（予習：教科書（45頁～52頁）の粗読（20分）、復習：教科書の精読・講義内容の確認（1～2時間））

第7回 船舶所有者等の責任制限

（予習：教科書（53頁～70頁）の粗読（20分）、復習：教科書の精読・講義内容の確認（1～2時間）、WebClass（60分））

第8回 海上物品運送契約の意義と種類

（予習：教科書（71頁～83頁）の粗読（20分）、復習：教科書の精読・講義内容の確認（1～2時間））

第9回 船荷証券の意義と発行

（予習：教科書（84頁～102頁）の粗読（30分）、復習：教科書の精読・講義内容の確認（1～2時間））

第10回 船荷証券の効力

（予習：教科書（103頁～116頁）の粗読（20分）、復習：教科書の精読・講義内容の確認（1～2時間））

第11回 海上物品運送契約の履行

（予習：教科書（117頁～132頁）の粗読（20分）、復習：教科書の精読・講義内容の確認（1～2時間）、WebClass（60分））

第12回 海上物品運送人の責任

（予習：教科書（133頁～148頁）の粗読（20分）、復習：教科書の精読・講義内容の確認（1～2時間））

第13回 海上物品運送人の責任制限と免責

（予習：教科書（149頁～163頁）の粗読（20分）、復習：教科書の精読・講義内容の確認（1～2時間））

第14回 海上旅客運送契約・船舶の衝突

（予習：教科書（164頁～189頁）の粗読（40分）、復習：教科書の精読・講義内容の確認（1～2時間））

第15回 海難救助・共同海損・まとめ

（予習：教科書（190頁～204頁）の粗読（20分）、復習：教科書の精読・講義内容の確認（1～2時間）、WebClass（60分）、これまでの講義範囲につき、教科書の精読・講義内容の確認・論述の練習（10～20時間））

毎回の予習・復習以外に、より詳細な教科書・文献を読んだり、判例を調べてみるなど、自主的な学修をすることを期待します。

【授業の進め方】

講義ではパワーポイントを使用します。レジュメを配布し、このレジュメに従って講義を行います。また、理解度をチェックするため、適宜小テストを行います。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①基本講義 現代海商法（第2版） ②箱井崇史 ③成文堂 ④2015年 ⑤2500円 ⑥978-4-7923-2674-6

最新版の六法を必ず購入し、講義の際に持参してください。『ポケット六法』（有斐閣）、『デイリー六法』（三省堂）

などの小型六法で結構です（ただし、国際海上物品運送法が掲載されているものに限りです）。

【参考図書】

中村眞澄＝箱井崇史『海商法』（成文堂、第2版、2013年）

その他の参考文献は講義のときに紹介します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 80% 授業内小試験 0% レポート・課題 20% 受講態度 0%

特記事項

期末試験（定期試験）とWebClassによる小テスト（課題）により評価します。期末試験では、基本的な知識を確認する選択式問題と、論述式問題を出題する予定です。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

成績評価の際に出席状況を加味することはありませんが、全講義の3分の2以上出席していない者は期末試験を受けられません（白鷗大学試験規則2条）。

【履修上の心得】

講義では何度も条文を参照します。こちらからの指示のあるなしに関わらず、参照条文が出てきたら必ず六法を開いてその条文を確認するようにしてください。

また、質問は大歓迎です。わからないことをわからないままにしないでください。

【科目のレベル、前提科目など】

私法の基礎である民法（とくに「民法Ⅰ（総則）」、「民法Ⅱ（物権）」、「民法Ⅳ（債権総論）」、「民法Ⅴ（債権各論）」）は前提科目です。できる限り事前に履修してください。

また、商法科目全体の基礎である「商法総論」、運送契約を扱う「商取引法」、有価証券制度の基本法である「手形小切手法」、保険契約を扱う「保険法」は、とくに重要な関連科目です。まだ履修していない者は、あわせて履修することをお勧めします。

科目名	社会保障法
教員名	畑中 祥子

【授業の内容】

日本の社会保障制度の関連法令に関する全般的な知識の習得と、社会保障法における法理論への理解を深めることで、「アクティブ・ラーニング」すなわち、社会における問題を発見し（発見学習）、その問題について深く考え、解決方法を自ら見出す（問題解決学習）思考力を身に付けてほしい。

【到達目標】

日本の社会保障制度の全般的な知識を身につけ、これからの社会保障のあるべき姿について自分なりの意見を持てるようになることを目的としている。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンスー社会保障制度を取り巻く現状（講義内容の復習 30分）
- 第2回 社会保障法 総論 ① 社会保障の歴史（講義内容の復習 30分）
- 第3回 社会保障法 総論 ② 社会保障の保障方法 - 社会保険（講義内容および新出のキーワードについて復習 30分）
- 第4回 社会保障法 総論 ③ 社会保障の保障法 - 公的扶助・社会福祉（講義内容および新出のキーワードについて復習 30分）
- 第5回 社会保障法 総論 ④ 社会保障の権利論（講義内容の復習、次回の理解度チェックテストに向けたこれまでの講義の復習 1時間）
- 第6回 理解度チェックテスト①総論（テストの復習 30分）
- 第7回 社会保障法 各論 年金（国民年金法・厚生年金法）① 公的年金制度の仕組み（講義内容および新出のキーワードについて復習 30分）
- 第8回 社会保障法 各論 年金（国民年金法・厚生年金法）② 国民年金法（被保険者の範囲・保険給付）（講義内容および新出のキーワードについて復習 30分）
- 第9回 社会保障法 各論 年金（国民年金法・厚生年金法）③ 国民年金法（費用の負担・給付制限）（講義内容および新出のキーワードについて復習 30分）
- 第10回 社会保障法 各論 年金（国民年金法・厚生年金法）④ 厚生年金保険法（被保険者の範囲・保険給付）（講義内容および新出のキーワードについて復習 30分）
- 第11回 社会保障法 各論 年金（国民年金法・厚生年金法）⑤ 厚生年金保険法（費用の負担・給付制限）（講義内容および新出のキーワードについて復習 30分 + 次回の理解度チェックテストに向けてこれまでの講義内容の復習 1時間）
- 第12回 理解度チェックテスト②年金（テストの復習 30分）
- 第13回 社会保障法 各論 医療保険（国民健康保険法・健康保険法）① 医療保険の仕組み（講義内容および新出のキーワードについて復習 30分）
- 第14回 社会保障法 各論 医療保険（国民健康保険法・健康保険法）② 国民健康保険法（被保険者の範囲・保険給付）（講義内容および新出のキーワードについて復習 30分）
- 第15回 社会保障法 各論 医療保険（国民健康保険法・健康保険法）③ 国民健康保険法（費用の負担）（講義内容および新出のキーワードについて復習 30分）
- 第16回 社会保障法 各論 医療保険（国民健康保険法・健康保険法）④ 健康保険法（被保険者の範囲・保険給付）（講義内容および新出のキーワードについて復習 30分）
- 第17回 社会保障法 各論 医療保険（国民健康保険法・健康保険法）⑤ 健康保険法（費用の負担）（講義内容および新出のキーワードについて復習 30分 + 次回の理解度チェックテストに向けてこれまでの講義内容の復習 1時間）
- 第18回 理解度チェックテスト③医療保険（テストの復習 30分）
- 第19回 社会保障法 各論 介護保険 ① 介護における「措置」から「契約」へ（講義内容および新出のキーワードについて復習 30分）
- 第20回 社会保障法 各論 介護保険 ② 介護保険法（被保険者の範囲・要介護認定の仕組み）（講義内容および新出のキーワードについて復習 30分）
- 第21回 社会保障法 各論 労災保険法 ① 労災補償の仕組み（講義内容および新出のキーワードについて復習 30分）
- 第22回 社会保障法 各論 労災保険法 ② 労災保険法（仕組みと保険給付）（講義内容および新出のキーワードについて復習 30分）
- 第23回 社会保障法 各論 雇用保険法 ① 雇用保険法（被保険者の範囲）（講義内容および新出のキーワードについて復習 30分）
- 第24回 社会保障法 各論 雇用保険法 ② 雇用保険法（保険給付）（講義内容および新出のキーワードについて復習 30分 + 次回の理解度チェックテストに向けてこれまでの講義内容の復習 1時間）
- 第25回 理解度チェックテスト④ 介護・労災・雇用（テストの復習 30分）
- 第26回 社会保障法 各論 生活保護法 ① 生活保護法における「原理」・「原則」（講義内容および新出のキーワー

- ドについて復習 30分)
- 第27回 社会保障法 各論 生活保護法 ② 生活保護法における保護の種類 (講義内容および新出のキーワードについて復習 30分)
- 第28回 社会保障法 各論 社会福祉制度 ① 福祉の普遍化と社会化 (講義内容および新出のキーワードについて復習 30分)
- 第29回 社会保障法 各論 社会福祉制度 ② 児童福祉・障害者福祉 (講義内容および新出のキーワードについて復習 30分 + 次回の理解度チェックテストに向けてこれまでの講義内容の復習 1時間)
- 第30回 理解度チェックテスト⑤ 生活保護・社会福祉 (テストの復習 30分)

社会保障法と呼ばれる単独の法律があるわけではない。

国民年金法・厚生年金法・国民健康保険法・健康保険法・介護保険法・労働者災害補償保険法・雇用保険法の社会保険に関する法律、および、生活保護法・その他各種福祉法を総称して『社会保障法』と呼ぶ。

したがって、本講義では、上記に掲げた各法律についての概要を中心に進める。

その中で、各分野ごとにリーディングケースを取り上げながら、社会保障法の分野でいかなる問題が生じ、それに対してどのような解決が図られているのかについて検討していきたい。

注) 上記予定は変更される場合がある。

【授業の進め方】

講義では、大きく、総論・各論に分ける。

各論は、年金・医療・介護・労働・生活保護・福祉とに分割し、第1回目の授業の際に受講生にアンケートを行い、関心の高い分野を多く取り上げることにする。

ノート作成の補助となるレジュメと資料を配布する。

あらかじめ教科書の予習範囲を指示するので授業前に必ず教科書を読んでおくこと。

「アクティブ・ラーニング」の成果を試すために、各分野ごとに確認チェックテストを実施し、当該時点での理解度をチェックするとともに、知識の定着を図る。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①社会保障法 ②加藤智章・菊地馨実・倉田聡・前田雅子 ③有斐閣 ④2015年4月15日 ⑤2500円 ⑥978-4-641-22054-6

法改正が多い分野なので教科書は常に最新版を入手すること。

下記の参考図書は易しい記述で、かつ、社会保障制度全体を俯瞰するには優れた本なので読むことを勧める。

授業には必ず六法を持参すること。

【参考図書】

棕野 美智子・田中 耕太郎『はじめての社会保障 一福祉を学ぶ人へ』(有斐閣アルマ)(最新版を入手すること) 1800円
佐藤 進・西原 道雄・西村 健一郎・岩村 正彦『社会保障判例百選(別冊ジュリスト(No.153))』

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

期末試験で評価する。

* 単位の取得には3分の2以上の出席を条件とする。(授業回数30回中20回以上の出席)

* 就職活動で欠席したときは、本学所定の証明書を提出すれば出席扱いとする。

* ゼミ活動その他の理由で欠席した場合に欠席届を提出する際は、欠席した日から2週間以内に提出すること。

定期試験：100%

ただし、期末試験では理解度チェックテストの問題を30点分出題する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

* 出席率は成績評価に反映しない。

【履修上の心得】

各法の条文は各自で用意すること。少なくとも六法は必ず持参すること。

社会保障に関する法律が載っている六法を持参すると講義が理解しやすい(『社会保障法令便覧』労働調査会出版局編1400円がお勧めである)。

* 期末試験における持ち込みは「六法のみ」なので履修時に注意すること。

【科目のレベル、前提科目など】

憲法・行政法・民法等が関連科目だが、特別な知識は必要ない。

新聞やニュースなどで、今、社会保障の中で何が起きているのかに関心があればよい。

【備 考】

特になし。

科目名	労働法
教員名	畑中 祥子

【授業の内容】

人が社会生活を送る中で、「労働者」としての側面に光を当て、そこにどのような法的問題があるのか、そして、そのような問題にいかなる解決が図られているのかについて学習することを目的とする。労働法の学習を通して、「アクティブ・ラーニング」すなわち、社会における問題を発見し（発見学習）、その問題について深く考え、解決方法を自ら見出す（問題解決学習）思考力を身に付けてほしい。

【到達目標】

労働法の全般的な知識を習得し、社会の中で実際に起きている労働問題について自分なりの意見を持てるようになることを目的としている。

【授業計画】

- 第1回 「労働法」とはどのような法律か？（講義内容の復習 30分 + 次テーマの教科書該当箇所を読む 30分）
 第2回 労働法の登場人物－「労働者」（講義内容の復習 30分）
 第3回 労働法上の登場人物－「使用者」（講義内容の復習 30分 + 次テーマの教科書該当箇所を読む 30分）
 第4回 労働条件決定システム①－労基法（講義内容の復習 30分）
 第5回 労働条件決定システム②－就業規則（講義内容の復習 30分）
 第6回 労働条件の不利益変更（講義内容の復習 30分 + 次テーマの教科書該当箇所を読む 30分）
 第7回 労働契約の入り口－採用内定（講義内容の復習 30分）
 第8回 労働契約の入り口－試用期間（講義内容の復習 30分 + 次テーマの教科書該当箇所を読む 30分）
 第9回 労働条件の諸相－賃金①所定内賃金（講義内容の復習 30分）
 第10回 労働条件の諸相－賃金②所定外賃金と賞与・退職金の法律問題（講義内容の復習 30分 + 次テーマの教科書該当箇所を読む 30分）
 第11回 労働条件の諸相－労働時間（講義内容の復習 30分）
 第12回 雇用の場における性差別（講義内容の復習 30分）
 第13回 雇用の場におけるハラスメント－セクハラ・パワハラ・マタハラ（講義内容の復習 30分 + 次テーマの教科書該当箇所を読む 30分）
 第14回 非正規雇用－有期労働契約（講義内容の復習 30分）
 第15回 非正規雇用－パートタイム労働法（講義内容の復習 30分）
 第16回 非正規雇用－労働者派遣（講義内容の復習 30分）
 第17回 労働契約の終了①－定年制・退職（講義内容の復習 30分）
 第18回 労働契約の終了②－解雇（講義内容の復習 30分）
 第19回 労働契約の終了③－雇止め（講義内容の復習 30分 + 次テーマの教科書該当箇所を読む 30分）
 第20回 労働基本権保障（講義内容の復習 30分）
 第21回 団結権（講義内容の復習 30分）
 第22回 団体交渉権（講義内容の復習 30分）
 第23回 団体行動権（争議権）（講義内容の復習 30分）
 第24回 労働基本権の制限－公務員労働者（講義内容の復習 30分）
 第25回 労働組合の組織と運営（講義内容の復習 30分 + 次テーマの教科書該当箇所を読む 30分）
 第26回 団体交渉権（団交拒否の不当労働行為）（講義内容の復習 30分）
 第27回 労働協約（講義内容の復習 30分）
 第28回 争議行為（講義内容の復習 30分）
 第29回 不当労働行為－不利益取扱い（講義内容の復習 30分）
 第30回 不当労働行為－支配・介入（講義内容の復習 30分）

科目名は「労働法」は、労働基準法を中心とする「個別的労使関係法（個別法）」と労働組合法を中心とする「集団的労使関係法（集団法）」とに分かれる。授業の前半（20回）を個別法、後半（10回）を集団法の講義にあてる。

注) 上記予定は変更される場合がある。

【授業の進め方】

上記予定による講義形式。

ノート補助のレジュメ・資料を配布する。

あらかじめ教科書の予習範囲を指示するので、授業前に必ず教科書を読んできてほしい。

授業では、教科書に掲載されている豊富な事例を取り上げるので、必ず教科書を持参すること。

「アクティブ・ラーニング」の成果を試すために、各テーマ終了時に確認テストを実施するので、受講生自身が理解度を確認し、以後の学習に役立ててほしい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①労働法 ②水町勇一郎 ③有斐閣 ④2016年3月30日 ⑤3400円 ⑥978-4641144873

法改正が多い分野なので教科書は必ず最新版を入手すること。

授業には必ず六法を持参すること。特に労働政策研究・研修機構が毎年出している「労働関係法規集」があると非常に便利である。

【参考図書】

村中孝史・荒木尚志編『労働判例百選 第8版』有斐閣
野川忍『労働判例インデックス 第3版』商事法務
大内伸哉『最新重要判例200』弘文堂

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

期末試験で評価する。

* 単位の取得には3分の2以上の出席を条件とする。(授業30回中20回以上の出席)

* 就職活動で休んだときは、本学所定の証明書を提出すれば出席扱いとする。

* ゼミ活動その他で欠席した場合に欠席届を提出する際は、欠席した日から2週間以内に提出すること。

期末試験：100%

ただし、期末試験には確認テストの問題から30点分出題する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

出席率は成績評価に反映しない。

【履修上の心得】

大学を卒業すれば誰もが『労働者』としての側面を意識せざるを得ない。自分の事のように労働法に取り組んでもらいたい。

【科目のレベル、前提科目など】

募集・採用から退職までのすべての労働過程に関する労働法と労働問題について全般的な理解が出来るような内容とする。

【備考】

特になし。

科目名	環境法
	環境と法
教員名	井上 秀典

【授業の内容】

気候変動、化学物質、廃棄物、土壌汚染、環境影響評価、遺伝子組換え生物など環境の変化に伴い多種多様な問題が起こっている。これらの問題に対応する国内法および国際法に言及するとともに環境分野の国内法と国際法の密接な結びつきについて授業を進めていく。

【到達目標】

環境に関する法が、どのような内容のものであり、またどのような役割を今日、果たしているのかを理解してもらうことを目標としている。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション

第2回 環境法の歴史：

1960年代から現在に至るまでの環境法の歴史を概説する。

第3回 環境基本法と環境基本計画：

環境問題解決の国内的指針となる環境基本法と環境基本計画の成立経緯および内容を説明し、問題点を指摘する。

第4回 環境影響評価

環境影響評価制度、環境影響評価法について説明しその問題点を探る。

第5回 大気汚染と法

窒素酸化物や硫黄酸化物、アスベストの規制など大気汚染防止法を中心に検討する。

第6回 水質汚濁と法

水質汚濁防止のためにどのような法規制がなされているのか水質汚濁防止法を中心に検討する。

第7回 廃棄物と法(1)

主として廃棄物に対する法規制および廃棄物をめぐる紛争解決について検討する。

第8回 廃棄物と法(2)

循環型社会形成推進基本法をはじめとする各種リサイクル法について検討する。

有害廃棄物の国境を越える移動問題に関する国内・国際法的枠組みについて解説する。

第9回 土壌汚染と法

ダイオキシン問題をはじめ土壌汚染対策に関する法について検討する。

第10回 化学物質と法

化学物質審査規制法およびPRTR法を中心に化学物質規制について考える。

また、水銀条約についても言及する。

第11回 自然環境保全と法

自然環境保全制度および野生動植物の保護と法について検討する。

第12回 被害者救済制度

水俣病問題、アスベスト問題にも触れ、被害者救済制度について検討する。

第13回 環境紛争の調停

訴訟による解決ではなく環境紛争の調停という面にスポットを当てて解説する。

第14回 環境訴訟と法(1)

環境民事訴訟分野の法律および判例を分析し、その果たす役割を解説する。

第15回 環境訴訟と法(2)

環境行政訴訟分野の法律および判例を分析し、その果たす役割を解説する。

第16回 授業内試験

第17回 地球規模の環境問題と法(一般)

地球規模の環境問題に対する国際法上の枠組みをリオ宣言、アジェンダ21などを中心に解説する。

第18回 気候変動(1)

地球温暖化防止に関して京都議定書採択までを扱う。

第19回 気候変動(2)

京都議定書採択以後、パリ協定の採択などを扱う。同時に国内法制度にも言及する。

第20回 オゾン層保護、酸性雨

オゾン層保護のための国内・国際法的枠組みおよび政策について解説する。酸性雨問題について主に欧米地域の法制度について解説する。

第21回 海洋汚染

海洋汚染防止のための国内・国際法的枠組みについて解説する。

第22回 生物多様性

生物多様性保護に関して種の保存、遺伝資源などを巡る国際法的枠組みについて解説する。

第23回 原子力

原子力の安全性、原子力損害による救済に関する法制度の現状および問題点を探る。

第24回 漁業資源

高度回遊性魚種などの漁業資源規制を巡る問題をみなまぐる事件などを題材に検討する。

第25回 環境影響評価と国際法

環境影響評価を巡る諸外国の法制度および条約について検討する。

第26回 環境と貿易

GATT、WTOを巡る環境と貿易の問題を検討する。

第27回 地球規模の環境問題と責任

地球規模の環境問題と国際責任について検討する。

第28回 国際環境法の原則・義務

国際環境法にみられる原則および義務について予防原則を中心に検討する。

第29回 国際環境法の履行・遵守

国際環境法において条約の中にどのように履行確保制度が確立されているか、またその問題点を検討する。

第30回 まとめ

【授業の進め方】

関連資料の配布、および環境関連のビデオを見てもらうことによって理解を深めながら講義を進めていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①『持続可能な社会を考える法律学入門』 ②井上秀典 ③八千代出版 ④2016.12. 5 ⑤3200円+税 ⑥978-4-8429-1693-4

授業では一部教科書を使用し、他の部分は関連資料を配付する。

【参考図書】

参考図書：大塚直 『環境法ベーシック』有斐閣、北村喜宣 『環境法』弘文堂、『環境法判例百選』有斐閣、『環境白書』環境省、『ベーシック環境六法』第一法規

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 50% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

授業内試験および定期試験によって評価を行う。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

環境法制度および政策に関する基本的理解ができているかどうかの評価の基準である。

【履修上の心得】

単に知識を習得するだけでなく、問題意識を持って積極的に授業に参加してほしい。そのためにも講義に出席することが重要である。

【科目のレベル、前提科目など】

憲法、行政法、民法、国際法などの環境分野の中に入っていた法を環境法として、取り扱うので憲法、行政法、民法(特に不法行為)、国際法の知識があった方が望ましい。

環境法という学問分野は最近確立されてきた分野であり、その研究対象は多岐にわたっている。そのため、憲法、民法などの基礎的学習が前提となる。

【備考】

科目名	フランス法
教員名	白石 智則

【授業の内容】

世界の人権思想に多大なる影響を与えた人権宣言を生んだ国。世界初の近代的民法典であるナポレオン法典を生んだ国。この講義では、そんな「法の国」フランスを皆さんに体感してもらいます。

【到達目標】

フランスの基本的な法制度（統治機構・裁判制度など）について理解すること、および、フランスの法制度について研究・報告する能力を身につけることを目標とします。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス、フランス法を学ぶ意義
- 第2回 フランスの地理(1) 自然
- 第3回 フランスの地理(2) 行政区分
- 第4回 フランスの地理(3) パリ
- 第5回 フランスとフランス法の歴史(1) フランク王国
- 第6回 フランスとフランス法の歴史(2) カペー朝
- 第7回 フランスとフランス法の歴史(3) ヴァロワ朝
- 第8回 フランスとフランス法の歴史(4) ブルボン朝
- 第9回 フランスとフランス法の歴史(5) フランス革命の概要（ビデオ）
- 第10回 フランスとフランス法の歴史(6) フランス革命の勃発
- 第11回 フランスとフランス法の歴史(7) ロベスピエール
- 第12回 フランスとフランス法の歴史(8) ナポレオン
- 第13回 フランスとフランス法の歴史(9) 二月革命・七月革命
- 第14回 フランスとフランス法の歴史(10) 第三共和制・世界大戦
- 第15回 フランスとフランス法の歴史(11) 第四共和制・第五共和制
- 第16回 フランスとフランス法の歴史(12) 現代
- 第17回 フランスの国家体制(1) 大統領
- 第18回 フランスの国家体制(2) 政府・首相
- 第19回 フランスの国家体制(3) 国会
- 第20回 フランスの裁判制度(1) 司法裁判所
- 第21回 フランスの裁判制度(2) 行政裁判所・特殊な裁判所・法律家
- 第22回 フランス法の法源(1) 法源の種類
- 第23回 フランス法の法源(2) 憲法・行政法
- 第24回 フランス法の法源(3) 民法
- 第25回 フランス法の法源(4) 商法・民事訴訟法
- 第26回 フランス法の法源(5) 刑法・刑事訴訟法
- 第27回 研究報告(1)
- 第28回 研究報告(2)
- 第29回 研究報告(3)
- 第30回 研究報告(4)

原則として予習は必要ありませんが、フランス法の歴史に関する講義（第5回～第16回）の前には、フランスの歴史について書かれた本（どういうものが存在するかは事前に紹介します）の該当箇所を読んでください（1～2時間）。また、授業後は、毎回レジュメを見直して授業で取り上げた内容を再度確認してください（1～2時間）。

第27回目以降（受講者が多い場合は第25回目以降）の授業では、受講者に、フランス法に関する特定のテーマ（受講者が選択）についての研究・報告をしてもらいます（20時間程度の準備が必要です）。

【授業の進め方】

講義ではパワーポイントを使用するとともに、レジュメを配布します。パワーポイントの内容は、原則としてレジュメに反映されているので、プロジェクターに投影された文章等をノートに取る必要はありません。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は指定しません。

【参考図書】

滝沢正『フランス法』（三省堂、第4版）

そのほかの参考文献については、講義のときに紹介します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

講義への参加姿勢（質問に対する応答）、研究報告の内容により評価します。定期試験は行いません。なお、全講義の3分の2以上出席していない学生には単位を付与しません。

【履修上の心得】

授業中、受講者には何度も質問します。フランス法を学ぶ強い意志のある学生のみ受講してください。軽い気持ちで受講すると後で後悔することになります。

また、フランス法をきちんと学ぶためにはフランス語の読解力が必要になります。できれば、各自、文法書等を読んでフランス語の基礎的な読解力を身につけてください。

【科目のレベル、前提科目など】

関連科目は、西洋法制史、比較法、EU法その他の基礎法科目、六法を中心とする日本の実定法科目など、ほとんどすべての法律科目です。

科目名	政治思想史
教員名	神吉 尚男

【授業の内容】

政治思想史は、さまざまな法律を設計施工し、遵守させる前提となる環境(社会)の生い立ちを見つめ直すものです。社会にとってどのような秩序が望ましいか、どのようにして社会にその秩序をもたらすか、そして誰がそのような秩序を見定めるのかを考える学問と考えてもけっこうです。本講はこれをふまえ、人類が社会を維持存続させるために行ってきた(行っている)統一的意識決定作成の働き、つまり〈政治〉が、どのような条件のもとで受け容れられてきたか(受け容れられているか)を、西洋の政治思想を通して考えることを目的とします。したがって、ただたんに数多くの思想家の名前や理論を小利口に憶えるだけの学習や、あるいは特定の政治的イデオロギーを強要するものではありません。

【到達目標】

言葉で編み上げられた思想を検討する以上、まずはひとつひとつの言葉の使い方や意味に全神経を働かせる繊細さを養うことから始めて、受講者各自が、西洋近代の政治思想によって発見された《政治社会＝国家》のカラクリを理解し、社会の秩序は超越的な神や自然によってあらかじめ与えられているのではなく、人間が組み上げていくものであると認識することを最終到達目標とします。

【授業計画】

- 第1回 第1章 政治思想史学習の主題とその意義
教科書の「ポリスと人間」までを予習する(120分)。
- 第2回 第1章 政治思想史学習の主題とその意義
教科書の「世界帝国の時代」までを予習する(120分)。
- 第3回 第2章 中世政治思想における内在的ディレンマ
教科書の「キリスト教共同体と政治の世界」『1. キリスト教の登場』までを予習する(120分)。
- 第4回 第2章 中世政治思想における内在的ディレンマ
教科書の「キリスト教共同体と政治の世界」『2. アウグスティヌス―「神の国」と「地の国」』までを予習する(120分)。
- 第5回 第2章 中世政治思想における内在的ディレンマ
教科書の「キリスト教共同体と政治の世界」『3. 中世ヨーロッパ社会の形成と政治思想の動向』を予習する(60分)。
講義の中で出てきたキーワードについて復習する(60分)。
- 第6回 第2章 中世政治思想における内在的ディレンマ
教科書の「キリスト教共同体と政治の世界」『3. 中世ヨーロッパ社会の形成と政治思想の動向』を予習する(60分)。
講義の中で出てきたキーワードについて復習する(60分)。
- 第7回 第2章 中世政治思想における内在的ディレンマ
教科書の「キリスト教共同体と政治の世界」『3. 中世ヨーロッパ社会の形成と政治思想の動向』を予習する(60分)。
講義の中で出てきたキーワードについて復習する(60分)。
- 第8回 第2章 中世政治思想における内在的ディレンマ
教科書の「キリスト教共同体と政治の世界」『3. 中世ヨーロッパ社会の形成と政治思想の動向』を予習する(60分)。
講義の中で出てきたキーワードについて復習する(60分)。
- 第9回 第2章 中世政治思想における内在的ディレンマ
教科書の「近代国家の誕生」『1. ルネサンスの政治思想―マキアヴェリとモア』を予習する(60分)。
講義の中で出てきたキーワードについて復習する(60分)。
- 第10回 第2章 中世政治思想における内在的ディレンマ
教科書の「近代国家の誕生」『1. ルネサンスの政治思想―マキアヴェリとモア』を予習する(60分)。
講義の中で出てきたキーワードについて復習する(60分)。
- 第11回 第2章 中世政治思想における内在的ディレンマ
教科書の「近代国家の誕生」『1. ルネサンスの政治思想―マキアヴェリとモア』を予習する(60分)。
講義の中で出てきたキーワードについて復習する(60分)。
- 第12回 第2章 中世政治思想における内在的ディレンマ
教科書の「近代国家の誕生」『1. ルネサンスの政治思想―マキアヴェリとモア』を予習する(60分)。
講義の中で出てきたキーワードについて復習する(60分)。
- 第13回 第2章 中世政治思想における内在的ディレンマ
教科書の「近代国家の誕生」『2. 宗教改革―ルターとカルヴァン』を予習する(60分)。
講義の中で出てきたキーワードについて復習する(60分)。
- 第14回 第2章 中世政治思想における内在的ディレンマ
教科書の「近代国家の誕生」『2. 宗教改革―ルターとカルヴァン』を予習する(60分)。

- 講義の中で出てきたキーワードについて復習する（60分）。
- 第15回 第2章 中世政治思想における内在的ディレンマ
教科書の「近代国家の誕生」『2. 宗教改革—ルターとカルヴァン』を予習する（60分）。
講義の中で出てきたキーワードについて復習する（60分）。
- 第16回 第3章 受講者による政治思想家（ホッブズ、ロック、ルソー）についての報告と討論
ホッブズの『リヴァイアサン』について予習する（120分）。
- 第17回 第3章 受講者による政治思想家（ホッブズ、ロック、ルソー）についての報告と討論
ホッブズの『リヴァイアサン』について予習する（120分）。
- 第18回 第3章 受講者による政治思想家（ホッブズ、ロック、ルソー）についての報告と討論
ホッブズの『リヴァイアサン』について予習する（120分）。
- 第19回 第3章 受講者による政治思想家（ホッブズ、ロック、ルソー）についての報告と討論
ホッブズの『リヴァイアサン』について予習する（120分）。
- 第20回 第3章 受講者による政治思想家（ホッブズ、ロック、ルソー）についての報告と討論
ホッブズの『リヴァイアサン』について予習する（120分）。
- 第21回 第3章 受講者による政治思想家（ホッブズ、ロック、ルソー）についての報告と討論
ロックの『統治二論』について予習する（120分）。
- 第22回 第3章 受講者による政治思想家（ホッブズ、ロック、ルソー）についての報告と討論
ロックの『統治二論』について予習する（120分）。
- 第23回 第3章 受講者による政治思想家（ホッブズ、ロック、ルソー）についての報告と討論
ロックの『統治二論』について予習する（120分）。
- 第24回 第3章 受講者による政治思想家（ホッブズ、ロック、ルソー）についての報告と討論
ロックの『統治二論』について予習する（120分）。
- 第25回 第3章 受講者による政治思想家（ホッブズ、ロック、ルソー）についての報告と討論
ロックの『統治二論』について予習する（120分）。
- 第26回 第3章 受講者による政治思想家（ホッブズ、ロック、ルソー）についての報告と討論
ルソーの『社会契約論』について予習する（120分）。
- 第27回 第3章 受講者による政治思想家（ホッブズ、ロック、ルソー）についての報告と討論
ルソーの『社会契約論』について予習する（120分）。
- 第28回 第3章 受講者による政治思想家（ホッブズ、ロック、ルソー）についての報告と討論
ルソーの『社会契約論』について予習する（120分）。
- 第29回 第3章 受講者による政治思想家（ホッブズ、ロック、ルソー）についての報告と討論
ルソーの『社会契約論』について予習する（120分）。
- 第30回 第3章 受講者による政治思想家（ホッブズ、ロック、ルソー）についての報告と討論
ルソーの『社会契約論』について予習する（120分）。

第1章 政治思想史学習の主題とその意義

第2章 中世政治思想における内在的ディレンマ

§1. 神聖ローマ帝国の〈権力〉とローマ・カトリック教会の〈権威〉を二つの中心とする楕円的世界

§2. ルネッサンスと〈芸術〉としての政治

§3. 宗教改革のエネルギーと近代のエートス

第3章 受講者による政治思想家（ホッブズ、ロック、ルソー）についての報告と討論

なおここで取り上げる3人の政治思想家の思想は近代民主主義の源流をなしているため、公務員試験、あるいはそれに準ずる試験（警察官・消防士など）、教員採用試験等において頻出傾向があります。

【授業の進め方】

日程の前半（第2回目から第15回目の講義日を予定）は、文献の精密な読み方や要領よいまとめ方、とくに言葉づかいに対する繊細さを習得してもらうため、受講者全員で指定教科書を「宗教改革」の項目まで輪読します。後半は、3人の政治思想家について、受講者による報告と討議を行います。報告はホッブズ、ロック、ルソーの順に、各5講義日数をあてて行う予定。したがって受講者も、必ずひとりの思想家について担当を決めて報告するよう、あらかじめ3グループに分けます。それぞれの思想家が組み立てた政治思想を、クレヨンや絵の具でなく、言葉により描写してもらうことがこの報告の狙いです。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①政治思想史 ②小笠原弘親 ③有斐閣 ④1987/09 ⑤2,160円 ⑥978-4641059092

前半は、小笠原弘親・小野紀明・藤原保信著『政治思想史（有斐閣Sシリーズ）』（有斐閣）ISBN-13: 978-4641059092は受講者とともに輪読します。

【参考図書】

福田歓一著『政治学史』（東京大学出版会）

田中浩著『国家と個人』（岩波書店）

中谷猛ほか編著『概説西洋政治思想史』（ミネルヴァ書房）
その他、初回の講義時に詳細な参考文献のリストを配布します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

日程前半の輪読に能動的に参加することを評価を受ける前提(評価資格を得るための必須条件)とし、後半のゼミナール形式で行なう受講者の報告と討論にもとづいて評価します。報告は、担当する思想家のイメージを、言葉によってどれだけ鮮明に、かつ生き生きと描けたかが審査されます。また、出席は、報告担当者に対する質問や反論を主とする発言によって認定されます。中間試験・学期末試験は行いません。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

講義科目というよりも、むしろ演習科目としての性格が強い（ゼミナールに近い）ことを自覚して、履修してください。履修者の積極的な発言によって認定される「出席」が評価の50%を占めるのも、このような性格があるからです。

【履修上の心得】

「思想」は言葉でできあがっていますから、私も受講者がなにをどのように理解しているかを、言葉を交わし、たしかめながら双方向的な授業をおこなおうと思います。したがって、自分の考えを恥ずかしがらずに述べること、ほんとうに自分で分かったと思えるまで辛抱強く考えること、そのためにも常に「なぜ？」と問い続けること、以上のような姿勢を心がけてください。

【科目のレベル、前提科目など】

本講は履修モデルの中でも、市民モデル、行政モデル、国際モデルにたいへん縁の深いものです。近代市民の原像、市民のニーズに応える行政の観念、国民国家成立後の国際関係などを考える際の重要な視点を提供するからです。さらに、1年次から選択できる貴重なIV群専門選択科目のひとつとして注目してください。また、前期で「基礎ゼミナールⅠ」を履修した1年生にとっては、学んだスキルをさっそく試してみることができる専門科目であるとともに、3年次から始まる「専門ゼミナール」の一端をうかがい知り、心の準備をおこなえる科目でもあります。本講を履修することによっていっそう理解が増すであろうという意味では、「憲法Ⅰ・Ⅱ」、「法哲学」、「法社会学」、「国際法」、「英米法」、「行政学」、「西洋政治史」、「政治学原論」などを関連科目と教えてください。

私たちはただ「生きる」よりは、できることなら「よく生きたい」と思います。「よく生きる」という場合の「よい」には、「道徳にかなった」という意味のほかに、「満足できる」とか「便利な」とか「豊かな」、あるいは「ひとからうらやましがられる」など、いろいろな意味合いが考えられます。いずれにせよ、大事なことは「よく生きる」ために、私たちはかならず、ものごとだけではなく自分自身や他人との関係も含めて、それらをどのように理解するかという問いを発するということです。いいかえれば、現にあるものが何かの結果なら、その結果に対してその原因はなにか、自分にとって好ましく都合のよいこと(もの)なら、その原因を知ることでそれを増やしたり、維持することによって「よく生きる」ことができるし、はなたいに悪いこと(もの)なら、「よく生きる」ことの妨げとしてあらかじめ遠ざけることもできるというわけです。「よく生きる」ためには、このようにものごとを整理して理解する努力が不可欠です。

政治思想史も、まったくそのような私たちの理解のための、毎日をよりよく生きていくうえで欠かせない問いかけから編み上げられてきました。とくに「政治思想」という形をまとめた問いと答えは、私たちがほかの人間と協力して何かしらの仕事をやり遂げるため、しかも「よく生きる」ために、どうすればお互いの知識や経験や力や技を効果的に組み合わせられるか、さらにそうした人間同士のつながりや関わり合いをどうすれば維持していけるかという知恵の集大成といってもいいでしょう。ありがたいことに、この知恵の集大成＝宝庫は、誰にでもたいへん気前よく開かれています。「叩けよ、さらば開かれん。求めよ、さらば与えられん。」というわけですから、どうぞ遠慮なく宝の山に分け入り、好きなだけ宝物を漁ってください。宝物のつまった庫の前に、皆様をご案内するのがこの科目のつとめです。

【備 考】

さまざまな法律が施行されるバックグラウンドとしての社会を、政治思想によって描かれた青写真から見直す機会が得られるとともに、社会秩序形成の力学(ダイナミズム)を、その動機づけ(モチベーション)から考えることができます。

科目名	日本政治史
教員名	三浦 顕一郎

【授業の内容】

過去のない現在はない。皆さんが、生まれてから現在までの時間を経て、今を生きているように、過去を持たない国や民族はない。日本史概論は、日本のこれまでの歩みを概観するものである。

歴史とは何か。イギリスの歴史家E・H・カーは、「歴史とは、過去と現在の対話である」と述べている。歴史が過去と現在の対話であるとはどういうことか。たとえばイタリアの哲学者クローチェは「ルネッサンスの人々が掘り起こすまで、古代ギリシャ人やローマ人は墓の下で眠っていたに過ぎない」と述べている。キリスト教の影響が強かった中世の人々は、キリスト教以前の古代ギリシャやローマの人々の暮らしを知る必要がなく、また知ろうとしなかったため、古代ギリシャ人やローマ人を墓の下に眠らせていた。ルネッサンスの人々が、古代ギリシャ人やローマ人の暮らしを知ろうと思い、彼らを墓の下から掘り起こし、彼らに尋ね、彼らの営みを歴史にした。こうして過去は歴史になる。過去は無数に存在し、それは呼び起こされるまで眠っている。現代の問題関心が彼らを呼び起こして、過去を歴史にするのである。「歴史とは過去と現在の対話である」というのは、現在の問題関心が過去に呼びかけ、過去が応えることで、過去が歴史になるということである。

本講義では、日本はどうして現在の日本になったのか、現在の問題を考えるヒントは歴史の中に潜んでいないか、という問題関心を持って、授業に臨んでもらいたい。現代の問題関心から出発してもらうため、本講義は現在から過去にさかのぼっていく。

【到達目標】

- ①日本政治史を理解できるようになる。
- ②日本政治史を説明できるようになる。
- ③日本政治史について多様な見方・考え方を理解する。
- ④日本政治史について自分の意見を言えるようになる。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
 第2回 現代の世界と日本
 予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)
 第3回 高度成長と自民党政権
 予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)
 第4回 講和と安保
 予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)
 第5回 占領下の日本
 予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)
 第6回 敗戦
 予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)
 第7回 太平洋戦争
 予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)
 第8回 日中戦争
 予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)
 第9回 五・一五事件と二・二六事件
 予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)
 第10回 第2～9回のふり返り
 予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)
 第11回 満洲事変
 予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)
 第12回 浜口雄幸内閣
 予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)
 第13回 田中義一内閣
 予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)
 第14回 第二次護憲運動
 予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)
 第15回 原敬内閣
 予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)
 第16回 第一次世界大戦と日本
 予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)
 第17回 第一次護憲運動
 予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)
 第18回 日露戦争

予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)
第19回 日清戦争
予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)
第20回 第11～19回のふり返り
予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)
第21回 大日本帝国憲法の制定
予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)
第22回 自由民権運動
予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)
第23回 西南戦争
予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)
第24回 文明開化
予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)
第25回 明治維新
予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)
第26回 大政奉還と王政復古
予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)
第27回 尊王攘夷と討幕運動
予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)
第28回 ペリーの来航
予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)
第29回 江戸時代の国家意識・国民意識
予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)
第30回 第21～29回のふり返り, 全体のふり返り
予習 WebClass上の予習課題を行う。(3時間)

【授業の進め方】

アクティブラーニングによって授業を進める。アメリカのNational Training Laboratoriesによる「学習ピラミッド」というものがある。広く知られているものなので、ご存知の方もいよう。それによると、講義によって得られた知識の定着率は平均5%に過ぎず、グループ討論で50%、体験を通じた学習だと75%だそうである。この数字の信憑性には疑念も呈されているが、広く人口に膾炙しているのは、実感として首肯しうるものがあるからであろう。私自身の学生時代を振り返ってみても、講義で習ったことはほとんど記憶に残っておらず、いくつかの単語を断片的に覚えていることと、試験前に「なぜこんなものを覚えなければならないのか」という苦痛の記憶だけである。他方、ゼミで自ら調べたことは、今でも何も見なくても何時間でも話すことができる。私の個人史によってみれば、自分で調べ、考え、討論したことは記憶に定着している。知識を習得するには、自分で調べる必要がある。

だが、知識の習得それ自体が学習の目的なのでない。習得した知識を使って考え、何かを発信するという、知識の応用がなければ、学習の意義は半減する。学習には、浅い学習と深い学習とがある。浅い学習とは、個別の用語や事実だけに着目して、とりあえず課題を仕上げようとする学習であり、深い学習とは意味を求めての学習である。浅い学習から深い学習につれて、学習目標は①知識→②理解→③応用→④分析→⑤統合→⑥評価へと変化する。講義で習得できるのはせいぜい②までであり、③応用以上に進むには自分で調べるだけでなく、考え、人に話し、人の話を聞いてまた考えることが必要である（上掲の本講義の到達目標は、①→④へと、浅い学習から深い学習の到達目標に移行に対応している）。

学習の目的は、知識の習得と応用にとどまるものでない。学習にはプロダクト（知識）とプロセス（方法）がある。プロセスの修得こそが学習の目標である。「テレビでマラソンを見ているだけではマラソンランナーになれないように、科学でも、教師がやっているのを見ているだけでなく、科学する（doing science）思考プロセスを経験しなければならない」（Eric Mazur）、「ある学問分野の概念を本当に理解するには、その分野の専門家が遂行する課題に学生も関与する必要がある」（Edgerton）。

プロセスの修得は、学問分野の概念を理解するためだけでない。それによって、将来の予測が困難な社会にあって、教師の助力なしに、生涯にわたって自ら新しい知識を習得し続けていく力を身に付けることができる。

以上のことから、本講義では、いわゆるアクティブラーニングによって授業を進めていく。ここにいうアクティブラーニングとは「学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学修法」のことであり、それによって「学修者の認知的・倫理的・社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る」ものである（中教審2012）。

具体的には、本講義では、①毎時の予習課題を行ったうえで授業に臨む（予習課題はWeb-Classに掲載）。②予習シートを提示し、指定の座席につく。③第2～10回はThink & Pair二人一組で、第11～20回と第21～30回はThink & Group小規模のグループで、予習してきた内容について話し合い、それを発表してもらって全員で討論する、④最後に大福帳（毎時受講生が授業に対する要望と感想を記したもので、教員がコメントを付して次回授業時に返却する）を提出して本時の出席とする、という流れで授業を進めていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用しない。

課題や資料をWebClassに掲載する。

【参考図書】

鳥海靖『もういちど読む山川日本近代史』山川出版社，2013年，1500円。
老川慶喜『もういちど読む山川日本戦後史』山川出版社，2016年，1500円。
三浦頭一郎『田中正造と足尾鉍毒問題：土から生まれたリベラル・デモクラシー』有志舎，2017年，2600円。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

レポート・課題とは，毎時の予習課題のことである。

受講態度とは，グループ討論やディスカッションにおける参加度のことである。

本学では，大学設置基準に基づき，90分の授業につき4時間の授業時間外学修が割り当てられている（履修要項p.7参照）。予習課題を行った上で，授業に臨むこと。本講義では予習シートの提示と大福帳の提出をもって出席とする。

【履修上の心得】

本授業はグループ討論やディスカッションを行う協同学習である。ディスカッションには，①学生の主体性を高める，②テーマに対する理解を深める，③思考力を高める効果があるといわれる。それゆえ本講義ではディスカッションを行うのであるから，受講生は主体的にディスカッションに参加し，仲間から多様な意見を聴いて理解を深め，それらを通して自分の意見を言えるように思考力を高めてほしい。それを毎回真摯に積み重ねることで，上掲の到達目標に到達してほしい。

また，協同学習の構成要素は，①肯定的相互依存，②積極的相互交流，③個人の2つの責任（自分の学びに対する責任と，仲間の学びに対する責任），④社会スキル（コミュニケーション，リーダーシップなど）の促進，⑤活動のふり返り，の5つであるといわれる。責任をもって各回の予習をした上で授業に臨み，グループ討論では胸襟を開いて話し合い，率先して自分の意見を述べ，他人の意見を傾聴し，差別的発言を行わず，互いに高めていってほしい。これは本講義の授業ルールでもある。グループ討論では毎回グループリーダーを指名する。議論を主導し，他のメンバーの発言を促すなど，コミュニケーション能力やリーダーシップ能力を高めて，就職活動の集団討論などでも発揮できるソーシャルスキルも身に付けてほしい。

授業ルールは以下の通り：予習課題を行った上で授業に臨むこと。座席は指定制。人の話を傾聴すること。差別的発言をしないこと。相手が話しやすい雰囲気作りに努めること。積極的に発言すること。出席は予習シートの提示と大福帳の提出による。以上。

【備考】

上述のように本講義ではアクティブラーニングを行う。アクティブラーニングが学生に不人気なのは承知している。東京大学大学経営・政策研究センターの調査(2007)によれば，授業中に自分の意見や考えを述べる授業が「必要である」と答えたのは79%，グループワークなど学生が参加する機会がある授業が「必要である」答えたのは81%である一方，ベネッセ教育研究開発センターの調査(2013)によれば，「あまり興味がなくても，単位を楽に取れる授業が良い」と答えた学生が54.8%であったのに対し，「単位を取るのが難しくても，自分の興味のある授業が良い」と答えたのは45.2%，また「教員が教える講義形式の授業が良い」と答えたのが83.3%に対し，「学生が自分で調べて発表する演習形式の授業が良い」と答えたのは16.7%に過ぎなかったという。アクティブラーニングの必要性を理解してはいても，面倒くさいというのが学生の感覚であり，それゆえアクティブラーニングは不人気である。

しかし，それでも，本講義ではアクティブラーニングを実施する。先に述べたように，知識を習得し，それを活用するには，また学習のプロセスを修得し，卒業してからも必要に応じて自ら学び続けることのできる力を身に付けるには，自分で調べ，考え，討論することが必要である。大切なのは，教員が何を教えたかだけでなく，学生が何を学習したかである。勉強は自分でやってみると意外と面白いものである。近著のあとがきにも書いたことだが，私はそれを大学時代に知った。受講生の皆さんにも，自分でやってみることで勉強の面白さを知ってもらいたいと願っている。

※参照：土持ゲーリー法一『ティーチング・ポートフォリオ』東信堂，2007年。ダネル・スティーブンス+アントニア・レビ著／佐藤浩章監訳，井上敏憲+俣野秀典訳『大学教員のためのルーブリック評価入門』玉川大学出版部，2014年。中井俊樹編『アクティブラーニング』玉川大学出版部，2015年。松下佳代・京都大学高等教育研究開発推進センター編著『ディープ・アクティブラーニング』勁草書房，2015年。

科目名	行政学
教員名	市村 充章

【授業の内容】

国や自治体の政府が人々に対して行うさまざまな活動を、「行政」といいます。

国や自治体は「立法」活動によってこうあってほしいという社会の姿を決め、「行政」活動によってそれを効率よく実現していきます。行政組織を作り、目標を決め、計画を策定し、予算を立てて、人々の暮らしの基盤を作っていきます。

行政を理解するには、政治と行政の関係、官僚制の働き、日本の行政組織のしくみ、公務員の役割と地位、行政改革、市民の行政参画のあり方などを理解し、現在の機能とその課題を知ることが必要です。

この行政学講義では、行政の諸原理と日本の行政の実態を明確にし、市民の行政参画の可能性を探ります。

【到達目標】

国と地方自治体の行政のしくみ、法律と行政の関係、公共サービスの意味、市民参画などの最新の状況を理解し、政治行政のニュースに対する考え方を鍛えられます。各種試験での行政学分野の基礎知識も身に付きます。

【授業計画】

第1回	官僚制とはなにか	1	行政と官僚制	マックス・ウェーバーの官僚制論
第2回	官僚制とはなにか	2		マックス・ウェーバーの官僚制論
第3回	官僚制とはなにか	3	官僚制への批判論	中立的な研究
第4回	行政組織の構成原理	1	ラインとスタッフ	PTとWG マトリックス組織
第5回	行政組織の構成原理	2	独任制と合議制	ストリートレベルの官僚制
第6回	行政組織の構成原理	3	行政委員会と審議会	日本の官僚制の特徴的構成原理
第7回	日本の内閣制度	1	生成の歴史	国政での位置づけ 内閣の役割 内閣と閣僚 閣議
第8回	日本の内閣制度	2	内閣総理大臣と内閣の戦後史	
第9回	日本の内閣制度	3	官房と内閣府の機能	
第10回	日本の行政機構	1	中央省庁改革	各省の機能と種類 省
第11回	日本の行政機構	2	外局 地方支分部局	施設等機関 独立行政法人
第12回	諸外国の行政機構		アメリカ イギリス フランス ドイツ等	
第13回	日本の公務員制度	1	公務員制度の理論	役割 公務員の種類と数
第14回	日本の公務員制度	2	歴史 女性の登用	キャリア制
第15回	日本の公務員制度	3	公務員の採用のしくみ	定員管理 天下り規制
第16回	諸外国の公務員制度		役割、仕組みと数	アメリカ イギリス ドイツ フランス
第17回	行政の能率と評価	1	能率の考え方	機械的能率観 社会的能率観 二元的能率観
第18回	行政の能率と評価	2	政策評価	
第19回	行政計画		都市計画、市町村の総合計画等を眺める	
第20回	統計調査		センサス調査：国勢調査を眺める	サンプル調査
第21回	政策と政策過程		政策循環 政策立案-政策決定-政策実施-政策評価	
第22回	行政責任と行政統制		行政責任論争 行政責任の段階	情報公開 行政手続 デマゴグ ポピュリズム
第23回	行政統制と市民参画	1	苦情救済 行政相談委員	オンブズマン制度 市民オンブズマン活動
第24回	行政統制と市民参画	2	住民投票 市民会議	パブリック・コメント制度 請願と陳情 政治圧力団体
第25回	行政統制と市民参画	3	市民参画とネット社会	
第26回	行政改革	1	行政改革論 NPM 民営化	エージェンシー 行政改革史
第27回	財政制度		日本の予算制度	
第28回	財政制度		日本の決算制度・財政制度	
第29回	行政学の歴史展開	1	ドイツ行政学の展開と日本への移入	
第30回	行政学の歴史展開	2	アメリカ行政学の展開と日本への移入	

内容と順序には変更があり得ます。

【授業の進め方】

講義ノートに従い、最近の状況を検討しながら進めます。

簡単なレポート課題を時々出します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

詳細な講義ノートを配布します。教科書はありません。

【参考図書】

必要なものは総て印刷して配布します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 20% 受講態度 20%

特記事項
期末テスト、レポート、授業参加態度で判定。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

特になし。

【履修上の心得】

日頃のニュースに関心を払うこと。六法をもってくること。

【科目のレベル、前提科目など】

行政分野の基礎科目ですから、高校の公民、現代社会程度の知識。

【備 考】

なし。

科目名	地方行政論
教員名	市村 充章

【授業の内容】

地方自治体、市町村や都道府県の活動（地方行政）を学び、考えます。

まず、地方自治が発展してきた歴史に基礎を置き、次に地方自治体の構造、課題と活動の実態を考えていきます。その際、自治活動の実例に即して検討します。

【到達目標】

住んでいる「まち」をよいものにするのはどうしたらいいか。

必要な基礎知識を得て、深く考察できるようになります。

【授業計画】

- 第1回 地方自治の大きな枠組みを理解する：地方自治、自治と行政の基本的なしくみ
- 第2回 日本の地方自治1 日本と西欧の自治史：中世の自治の始まり
- 第3回 日本の地方自治2 江戸時代の村と町の自治と幕府・藩による官治
- 第4回 日本の地方自治3 明治時代に導入された近代西欧型の自治制度
- 第5回 日本の地方自治4 日本国憲法制定と自治の原則：憲法的保障、シャープ三原則とヨーロッパ地方自治憲章
- 第6回 日本の地方自治5 自治体の人々と地域を守る：経済高度成長、公害、都市集中への取り組みと成果
- 第7回 日本の地方自治6 21世紀の地方分権改革の姿：住民参加の自治へ、住民参加・情報公開・住民投票
- 第8回 行政をする人と受ける人1 住民・議会・長・行政委員会・公務員
- 第9回 行政をする人と受ける人2 まちづくりにかかわる団体：町内会・自治会、コミュニティ
- 第10回 行政をする人と受ける人3 行政と民間との協力、企業・NPO、協定・民間委託・指定管理者
- 第11回 地方行政に求められる役割と範囲：自治体はどんな仕事（事務）を行うのか、国はどう関与するのか
- 第12回 地方行政における意思決定のしくみ：地方自治体の議会と市区町村長・知事と二元代表制
- 第13回 議会と議員の活動のしくみ 自治体の意思決定、立法、行政の監視、
- 第14回 実際に行政を行う官僚制：市区町村長や知事の下で、地方公務員は大きな組織をつくり分担をして活動する
- 第15回 行政を担う地方公務員：地方公務員の種類、採用・昇任昇格評価のしくみ、仕事の内容、公務員の一生
- 第16回 まちづくりのしかた1 法制度：憲法、地方自治体の条例と規則、国の法令、要綱行政
- 第17回 まちづくりのしかた2 地方自治体の財政：予算と財政のしくみ、PDCAサイクル
- 第18回 まちづくりのしかた3 地方自治体の行政計画：総合計画＞基本計画＞個別計画
- 第19回 まちづくりのしかた4 事務事業の実施と検証：目的の実現法と政策評価、監査、倫理の確保
- 第20回 暮らしの安全と安心を守る1 災害対策・人々の保護
- 第21回 暮らしの安全と安心を守る2 治安行政：都道府県警察のしくみ
- 第22回 暮らしの安全と安心を守る3 防災と消防：市町村（事務組合）消防のしくみ
- 第23回 まちづくり1 地域の社会基盤をつくる：道路、上下水道、公共交通（バス・LRT・地下鉄）
- 第24回 まちづくり2 住みやすい街並をつくる：都市計画と建築規制、中心市街地の活性化問題と郊外型大規模店
- 第25回 まちづくり3 地域の医療を確保する 市民病院、保健所
- 第26回 まちづくり4 教育を行い文化を振興する 小中高校、社会教育、博物館・美術館、文化財保護
- 第27回 まちづくり5 産業を振興し地域を豊かにする 商工・観光・農林水産業の振興のしかた
- 第28回 まちづくり6 福祉を行う 生活保護、高齢者、保育園などの施策
- 第29回 まちづくり7 環境を守る ゴミの処理、大気汚染・水質汚濁・騒音への対策、自然環境の保全
- 第30回 まとめ 地方自治が直面する課題と将来の見通し

変更はありえます。

【授業の進め方】

講義ノートに従って、最近の都市自治体と過疎町村自治体の実例を検証しつつ進めます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

詳細な講義ノートを配布します。ファイルして使ってください。

省略のない地方自治法が収録されている六法全書を常に持参すること。

【参考図書】

必要な資料はすべて配布します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 20% 受講態度 20%

特記事項

期末テスト、レポート及び平常点。

なお、若干の変更はありえます。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

変更はありえます。

【履修上の心得】

郷土の問題に関心をもつこと。日ごろのニュースに常に関心を払うこと。

【科目のレベル、前提科目など】

基礎科目なので、前提科目はありません。

【備 考】

なし。

科目名	政策学 I (総論)
教員名	児玉 博昭

【授業の内容】

公共政策学は、公共政策、すなわち公共的な問題を解決する基本的な方向性と具体的な手段を考察する学問である。公共政策学は、大別すると、政策決定や実施・評価という政策過程に関する知識（ofの知識）と、政策分析に必要な知識や個別政策領域に関する知識（inの知識）によって構成される。この講義では、前者の政策過程論（ofの知識）に重点を置き、公共政策へのアプローチ、公共政策のデザイン、プロセス、ガバナンスに関する基礎知識を整理する。

【到達目標】

公共政策はどのようにデザインされ、決定され、実施・評価されるのかを理解できるようになることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 授業のねらいと進め方（予習60分：シラバスと教科書の確認、復習60分：講義の要点把握）
 第2回 公共政策学とは何か(1)：公共政策学の誕生と2つの知識（予習60分：教科書の通読と疑問点の抽出、復習60分：講義要旨の作成）
 第3回 公共政策学とは何か(2)：3つの時期、3つのアプローチ（予習・復習：同上）
 第4回 公共政策とは何か(1)：政策問題と公共政策、公共政策の基本構造（予習・復習：同上）
 第5回 公共政策とは何か(2)：公共政策の種類（予習・復習：同上）
 第6回 アジェンダ設定(1)：アジェンダ設定理論、アジェンダを動かすもの（予習・復習：同上）
 第7回 アジェンダ設定(2)：アジェンダ設定から政策決定へ（予習・復習：同上）
 第8回 政策問題の構造化(1)：問題構造への注目、構造化の伝統的手法（予習・復習：同上）
 第9回 政策問題の構造化(2)：議論・解釈による構造化（予習・復習：同上）
 第10回 公共政策の手段(1)：直接供給と直接規制（予習・復習：同上）
 第11回 公共政策の手段(2)：誘引、その他の手段（予習・復習：同上）
 第12回 規範的判断(1)：政治と価値、公平、効率性、安全・安心、自由（予習・復習：同上）
 第13回 規範的判断(2)：価値の対立と政策の判断基準（予習・復習：同上）
 第14回 政策決定と合理性(1)：合理的意思決定の構造、政策決定の合理化への試み（予習・復習：同上）
 第15回 政策決定と合理性(2)：合理的意思決定の限界（予習・復習：同上）
 第16回 政策過程の実際(1)：キューバミサイル危機（予習60分：事案の把握、復習60分：感想文の作成）
 第17回 政策過程の実際(2)：アリソン『決定の本質』（予習60分：問題の検討、復習60分：解説の理解）
 第18回 政策決定と利益(1)：利益調整としての政策決定過程、利益・選好をどう考えるか（予習・復習：同前出）
 第19回 政策決定と利益(2)：どのような利益が政治において代表されるか（予習・復習：同上）
 第20回 政策決定と制度(1)：新制度論の台頭（予習・復習：同上）
 第21回 政策決定と制度(2)：制度による影響（予習・復習：同上）
 第22回 政策決定とアイデア(1)：アイデアの概念（予習・復習：同上）
 第23回 政策決定とアイデア(2)：アイデアによる影響、政策へのプロセス（予習・復習：同上）
 第24回 公共政策の実施(1)：政策実施の位置付けと構造、実施の現場（予習・復習：同上）
 第25回 公共政策の実施(2)：実施研究のアプローチ（予習・復習：同上）
 第26回 公共政策の評価(1)：評価のロジック、政策評価の種類と機能（予習・復習：同上）
 第27回 公共政策の評価(2)：政策評価の政治性と参加（予習・復習：同上）
 第28回 公共政策管理のシステム(1)：市場メカニズムの活用（予習・復習：同上）
 第29回 公共政策管理のシステム(2)：地方分権と政策波及・政策革新、ガバナンス論（予習・復習：同上）
 第30回 授業のまとめ（予習60分：期末予想問題の検討、復習60分：講義の要点把握）

【授業の進め方】

教科書に沿って講義を進める。政策過程に関する概念的な整理が中心となるが、政策過程の具体例を取り上げた映画なども見ていきたい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①公共政策学の基礎（新版） ②秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉 ③有斐閣 ④2015年 ⑤2,600円

【参考図書】

『公共政策学とは何か(BASIC公共政策学1)』足立幸男、ミネルヴァ書房、2009年、3500円ほか同シリーズ

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 0%

特記事項

レポートと学期末試験によって相対的に成績を評価する。レポートは特定の政策過程を考察したものとする。学期末

試験は選択式で一定割合を確認問題の中から出題し、持込は不可とする。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目はない。個別領域の政策問題については、「政策学Ⅱ(各論)」で取り扱う。政策学総論の基本編である。

科目名	政策学Ⅱ（各論）
教員名	児玉 博昭

【授業の内容】

政策問題といっても政治行政から財政金融、国際関係、社会保障、地球環境にいたるまで実に広範かつ多様であり、また絶えず変化する。最新の動向を網羅的に把握することは決して容易ではない。しかも、これらの政策問題は互いに関連している。時事問題を通じてわが国の「政策の全体像と動向」を把握すること、各種政策の動向と密接に関連する時事問題の基礎知識を習得することが、この講義の目的である。

【到達目標】

さまざまなニュースを政策問題と関連づけて理解できるようになることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 授業のねらいと進め方（予習60分：シラバスと教科書の確認、復習60分：講義の要点把握）
 第2回 政治(1)：民主政治、政治改革（予習60分：教科書の通読、復習60分：要点の整理、問題集の演習）
 第3回 政治(2)：地方自治、行政改革（予習・復習：同上）
 第4回 政治(3)：外交問題、安全保障問題（予習・復習：同上）
 第5回 経済(1)：世界経済、日本経済（予習・復習：同上）
 第6回 経済(2)：財政問題、金融問題（予習・復習：同上）
 第7回 経済(3)：資源・エネルギー問題（予習・復習：同上）
 第8回 経済(4)：産業政策、通商問題（予習・復習：同上）
 第9回 暮らし(1)：少子高齢社会、社会保障問題（予習・復習：同上）
 第10回 暮らし(2)：雇用問題、格差社会（予習・復習：同上）
 第11回 暮らし(3)：消費者問題、都市問題（予習・復習：同上）
 第12回 社会・環境(1)：司法改革、刑事政策（予習・復習：同上）
 第13回 社会・環境(2)：教育問題、科学技術（予習・復習：同上）
 第14回 社会・環境(3)：地球環境問題、情報社会（予習・復習：同上）
 第15回 社会・環境(4)：共生社会、生命倫理（予習・復習：同上）
 第16回 国際(1)：国際秩序、核兵器・軍縮問題（予習・復習：同上）
 第17回 国際(2)：人種・民族問題、国際協力（予習・復習：同上）
 第18回 総合演習(1)：政治、経済、暮らし（復習120分：要点の整理、解説の確認）
 第19回 総合演習(2)：社会・環境、国際（復習：同上）
 第20回 中間試験（ニュース時事能力検定）6月18日（日）予定（予習120分：要点の総復習）
 第21回 時事問題(1)：政治（予習60分：副教材の通読、復習60分：要点の整理）
 第22回 時事問題(2)：政治（予習・復習：同上）
 第23回 時事問題(3)：経済（予習・復習：同上）
 第24回 時事問題(4)：経済（予習・復習：同上）
 第25回 時事問題(5)：暮らし（予習・復習：同上）
 第26回 時事問題(6)：社会（予習・復習：同上）
 第27回 時事問題(7)：環境（予習・復習：同上）
 第28回 時事問題(8)：国際（予習・復習：同上）
 第29回 中間試験（ニュース時事能力検定）の結果と解説（復習120分：正答と解説の確認）
 第30回 授業のまとめ（復習120分：要点の総復習）

【授業の進め方】

授業の前半では、ニュース検定の公式テキストに沿って講義を進め、問題集を用いて演習を行う。授業の後半では、学生に新聞記事の切り抜きを用意してもらい、時事問題について発表をしてもらう。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①2018年度ニュース検定公式テキスト発展編（2・準2級対応） ②日本ニュース時事能力検定協会 ③毎日新聞社 ④2018年 ⑤1500円

【参考図書】

『2018年度ニュース検定公式問題集1・2・準2級』日本ニュース時事能力検定協会、毎日新聞社、1,200円

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

中間試験として第1回ニュース時事能力検定を団体受検する。期末試験はニュース検定と同様の形式で実施する。中

間試験（ニュース検定）と期末試験の得点の高い方で成績を評価する。両試験とも短答式で、持込不可とする。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

授業内の任意の発表を成績に加味する場合がある。

【履修上の心得】

ニュース検定の試験は、45問50分で、おおむね7割以上で合格となる。2級は大学3・4年生程度、準2級は大学1・2年生程度で、2級と準2級の併願もできる。検定料は2級4,000円、準2級3,000円で、個人受検より割安となる。学生は各自でキャリアサポートセンターに申し込む。受検は必須でないが、公務員試験や就職試験の対策としても積極的に受検してほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目はない。個別の政策分野に興味をもつ者は、関連科目で専門性を深めてほしい。政策学各論の基本編である。

科目名	立法学
教員名	市村 充章

【授業の内容】

法学部の学生は法律の解釈を主に学んでいますが、その法律は誰かが作ったもので、これを制定法・成文法と言います。

これらの法律や地方自治体の条例は、実際にはたいてい公務員や議員が立案しています。自治会や企業も内部を規律する規約を作っています。

法律の体系とそこにある基本的なルールを知り、実際に法令を起案できるということは、社会人として大変大きな能力を獲得することだと言えます。

特に、地方公共団体は、最近の地方分権の結果、独自に条例を制定する機会が増え、公務員にはその能力が求められるようになってきています。

この講義では、国の法令や地方自治体の条例・規則の立法を対象に、立法過程、立法作用、立法技術について学びます。

必要な時々にコンピュータ室を利用して、法令と地方自治体の条例を眺め検索し、また、受講生には、興味のある社会問題について条例の案文を作っていきます。

【到達目標】

社会を支える「法」をの基礎知識を身につけ、実際に簡単な条例が作れるようになります。

【授業計画】

- 第1回 政策のアイデアが立法となるまで
 - ・社会問題を考えて器用（立法事実）
- 第2回 立法に関係する機関
- 第3回 国会で法律ができるまで
- 第4回 自治体で条例ができるまで
- 第5回 法と法体系
- 第6回 法の種類 どんな「法」が何本あるのか（コンピュータ室で行います）
- 第7回 法の優劣関係（法秩序の構成原理）
- 第8回 憲法
- 第9回 法律
- 第10回 政令と府省令
- 第11回 その他の法、予算、要項、予算措置
- 第12回 地方自治体の自治立法権
- 第13回 自治立法の歴史
- 第14回 憲法における条例制定権の意義
- 第15回 地方自治法の条例規則制定権のしくみ
- 第16回 上乘せ・横出し規制
- 第17回 憲法との関係でどこまで立法できるのか
- 第18回 国の法令との関係でどこまで立法できるのか
- 第19回 必要的条例事項と任意的条例事項
- 第20回 自治体の根幹となる条例 自治基本条例・議会基本条例・住民投票条例
- 第21回 法令作成の目的と方法 1
- 第22回 法令作成の目的と方法 2
- 第23回 立案姿勢の基本
- 第24回 法の種類と溶け込み：制定・改正・廃止
- 第25回 法令の構成
- 第26回 法令の内容の決め方と書き方
- 第27回 法令用語の意味と用例
- 第28回 条例案の具体的作成 1（コンピュータ室で行います）
 - ・ある地方公共団体に必要な条例を考えてみよう
- 第29回 条例案の具体的作成 2（コンピュータ室で行います）
 - ・作った条例を考えてみよう
- 第30回 作成した条例案の検討 3（コンピュータ室で行います）

変更があります。

【授業の進め方】

法令の体系とその相互関係を調べます。各自治体の条例を比較検討します。

法令の案文作成のトレーニングをします。
これらの作業のため、コンピュータ室を利用します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

詳細なレジユメを配付します。

【参考図書】

畠中信夫「法令読解ノート」社団法人全国労働基準関係団体連合会
林修三先生三部作「法令用語の常識」「法令作成の常識」「法令解釈の常識」日本評論社
前田正道「ワークブック法制執務」ぎょうせい
田島信威「法令の読解法」ぎょうせい

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 20% 受講態度 20%

特記事項

レポートは、最後に作成する「条例案」のことです。

【履修上の心得】

六法を常に持つてくること。

【科目のレベル、前提科目など】

立法に関するケースメソッド重視の基礎科目です。

【備 考】

学校のコンピュータ利用ができること。

科目名	キャリア支援講座
	日本の法的な職業
教員名	法政策研究所

【授業の内容】

皆さんが将来の進路を考える上で役に立つ、キャリア支援のための講座です。
 法的な知識が役立つ職業にはどんな分野があり、そこに活躍なさっている人々は日夜どのように仕事をしているのでしょうか。
 様々な分野の職業で活躍されている方々をお招きし、その実際の体験に即した御話を伺い、質疑応答することにより、皆さんにその仕事の具体的なイメージを持っていただきます。
 また、それぞれの分野の業界、官界の制度のしくみ、皆さんがどうしてもそのような仕事に就くことができるのか、どんな知識を習得すればよいのかということも、適宜、解説をいたします。
 法学部生だけにこだわらず、各学部の学生、とりわけ将来法的な知識を生かしたい皆さんに受講を勧めます。

【到達目標】

将来社会に出て行くときに備えて、法的な知識がどのように職業に結びつき活かされるのか、どんな職業があるのか、それぞれの仕事の内容と可能性を理解します。

【授業計画】

各分野で活躍なさっている先生方をお招きするため、ここで予め詳細な授業の回次ごとの日程はお示しませんが、後日、学内に日程を掲示いたしますのでご覧下さい。

講師を予定している分野はおおむね以下のとおりです（順不同）。（分野の変更はありえます）

法律関係職の仕事	弁護士・司法書士など
官公庁の一般行政職の仕事	国の省庁・都道府県・市町村
警察官・消防職員の仕事	都道府県警察・市町村消防など
企業の仕事	金融・メーカー・卸売業・農業協同組合など

【授業の進め方】

講師による講演を中心とし、各分野の職業の現状と課題を知り、また、そこに就職する先輩達の報告説明を必要に応じて行います。

講師による講演のときには、講演と質疑応答を行います。
 その職業の制度的な説明、その職につくために必要な資格などについて解説を行います。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特にありません。必要な資料は適宜配布します。

【参考図書】

特にありません。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 20% 受講態度 30%

特記事項

質疑応答には、積極的に参加してください。

【履修上の心得】

配布された資料は保管し、よく理解すること。
 講演についてはメモをとり、できるだけ質問をすること。

【科目のレベル、前提科目など】

特にありません。特に1、2年生のうちに見聞を広めて、将来のキャリア設計に役立てることを薦めます。

【備考】

特にありません。

科目名	法職演習(数的処理①)
	S S_数的処理のうち, 数的推理
教員名	杉山 務

【授業の内容】

「数的推理」に関する公務員試験の問題又はそれに準ずる問題を解くことにより、正解の導き方及び理解度を確認する演習

公務員試験において数的が重要視される理由は、単に知識だけでなく考える力をみるため、仕事をやっていく上で予期しない事態に遭遇した場合、いかに考え、対処するかの能力は、数的の問題解答力でかなり評価することができます。

数的においても、当然知識は必要ですから、記憶した知識と解法の考え方を理解し、これらを基に新しい問題あるいは予期しない問題を考え、解答を導くことにより、社会人としての活躍の場を広げることができるように授業を構成しています。

【到達目標】

過去の整理された知識から最も適した解法を利用して問題を解決することができるようになり、正解に辿りつく時間の短縮ができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション

進め方と心構え、足慣らしの間

第2回 ① 第1章 数と式の計算

1 数の計算 2 素因数分解 3 約数・倍数 4 商と余り

第3回 ② 第1章 数と式の計算(2)

5 記数法 6 数量問題 7 覆面算・魔方陣 8 数列

第4回 ③ 第2章 方程式と不等式

9 一次方程式 10 連立方程式 11 方程式の整数解 12 不等式

第5回 【実力テスト1】

第1章 数と式の計算 第2章 方程式と不等式

第6回 ④ 第2章 方程式と不等式(2)

13 時計算・年齢算・平均 14 集合 15 速さ・距離・時間

第7回 ⑤ 第2章 方程式と不等式(3)

16 旅人算・流水算 17 通過算 18 ダイアグラム 19 比・割合

第8回 ⑥ 第2章 方程式と不等式(4) 第3章 図形

20 濃度 21 百分率・増加率 22 仕事算 23 ニュートン算 24 三角形

第9回 【実力テスト2】

第2章 方程式と不等式 第3章 図形

第10回 ⑦ 第3章 図形

24 三角形 25 三角形と面積 26 円

第11回 ⑧ 第3章 図形(2)

27 円と面積 28 立体図形

第12回 ⑨ 第4章 場合の数と確率

29 場合の数 30 順列 31 組合せ 32 確率(1) 33 確率(2) 34 確率(3)

第13回 【実力テスト3】

第3章 図形 第4章 場合の数と確率

第14回 ⑩ 総合確認テスト

第15回 数的推理まとめ

授業の範囲について、予習していることが前提

演習の結果について、解説予定

【授業の進め方】

確認では40分間のテストを行い、その後、前回の成績評価を検討し、不得手な問題のいくつかについて検討
実力では、前回の成績評価を検討した後、60分間のテスト

【教科書(必ず購入すべきもの)】

公務員試験 新スーパー過去問ゼミ5 判断推理 2017/8/28 ¥1.944 最新版が出版されれば新版を使用

【参考図書】

オープンゼミシリーズ公務員 国家公務員地方初級⑤一般知能(第2版) 東京アカデミー(七賢出版) 2014/1/1 ￥1,620
これは、基礎編で使用

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 30% 授業内小試験 60% レポート・課題 10% 受講態度 0%

特記事項

確認(40分8問) 10回, 実力(60分15問) 3回, 定期(60分20問)

【「成績評価の方法」に関する注意点】

予習・復習に割く時間は必要で、加えて多数回の時間を決めたテスト経験が重要
1日1時間、最低でも1週間に5時間をこの科目に割くことが求められる

【履修上の心得】

数字を扱うが「数学を学ぶ科目ではない」ということを前提に履修し、出題者の意図を推理し解答すること
数を扱う場合には計算が必須だから、速度と正確さの実力向上のため、簡単な乗算を自分で練習

【科目のレベル、前提科目など】

中学までの算数及び数学が基礎となる
三角関数は除外、高校数学の範囲では、組み合わせ、確率

【備考】

数的推理を履修した後は、判断推理を履修することにより、論理的に考える能力を更に向上させ、採用試験などに欠かせない教養試験又は適性試験に対処できる実力を培われることを希望します。

科目名	法職演習(数的処理②)
	H S_数的処理のうち, 判断推理
教員名	杉山 務

【授業の内容】

「判断推理」の演習であり、過去に出題された公務員試験の問題又はそれに準ずる問題を解くことにより、正解の導き方及び理解度を確認する演習

公務員試験において数的が重要視される理由は、単に知識だけでなく論理的に考える力をみるため、仕事をやっていく上で予期しない事態に遭遇した場合、いかに考え、対処するかの能力は、数的の問題解答力でかなり評価することができます。

数的においても、当然知識は必要ですから、記憶した知識と解法の考え方を理解し、これらを基に新しい問題あるいは予期しない問題を考え、直感的に解答を予測し、その裏付けを論理的に導くことにより、社会人としての活躍の場を広げることができるように授業を構成しています。

【到達目標】

過去の整理された知識から最も適した解法を利用して問題を解くことができ、正解に辿り着く時間の短縮ができる

【授業計画】

第1回 オリエンテーション

進め方と心構え, 簡単な足慣らしの問

第2回 ① 第1章 形式論理

1 集合 2 命題

第3回 ② 第2章 文章条件からの推理(1)

3 対応関係 4 順序関係

第4回 ③ 第2章 文章条件からの推理(2)

5 位置関係 6 試合の勝敗

第5回 【実力テスト1】 第1章：形式論理 第2章：文章条件からの推理

1 集合 2 命題 3 対応 4 順序 5 位置 6 試合

第6回 ④ 第2章 文章条件からの推理(3) 第3章 数量条件からの推理

7 発言推理 8 数量相互の関係

第7回 ⑤ 第3章 数量条件からの推理 第4章 暗号と規則性

9 操作の手順 10 暗号 11 規則性

第8回 ⑥ 第5章 平面図形

12 平面構成 13 平面分割

第9回 【実力テスト2】

第2章：文章条件からの推理(3) 第3章：数量条件からの推理 第4章：暗号と規則性 第5章：平面図形

第10回 ⑦ 第5章 平面図形(2)

14 移動・回転・軌跡 15 折り紙と重ね合せ 16 位相と経路 17 方位と位置

第11回 ⑧ 第6章 空間図形

18 立体構成 19 正多面体

第12回 ⑨ 第6章 空間図形(2)

20 展開図 21 投影図 22 立体の切断・回転・結合

第13回 【実力テスト3】

第5章：平面図形 第6章：空間図形

第14回 ⑩ 総合確認テスト

第15回 判断推理まとめ

【授業の進め方】

確認テストでは40分間のテストを行った後、前回の授業結果をフィードバックし、不得手な問題、及び解説要望問題のいくつかについて検討

実力テストでは、前回の授業結果をフィードバックし、不得手な問題のいくつかについて検討した後、60分間のテストを実施

【教科書(必ず購入すべきもの)】

新スーパー過去問ゼミ5 判断推理 実務教育出版 2017.8.28 ¥1,944 最新版を使用

【参考図書】

オープンセサミシリーズ公務員 国家公務員地方初級⑤一般知能(第2版) 東京アカデミー(七賢出版) 2014/1/1 ¥1,620

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 30% 授業内小試験 60% レポート・課題 10% 受講態度 0%

特記事項

確認テスト（40分8問）10回，実力テスト（60分15問）3回，定期試験（60分20問）

【「成績評価の方法」に関する注意点】

判断推理は，日常の積み重ねにより力がつくものだから，日々の努力が結果に反映される

【履修上の心得】

基礎講座ではなく演習講座であることを踏まえ，公務員試験にチャレンジしたり，将来の進路を決定したりするために，自から進んで学習することが必要で，単に「わかった」ではなく，自分で解答できるレベルを目標とする心掛け，

授業で扱わないテキスト中の問題についても，自身で練習することを望む

授業と同じ時間以上の予習・復習が力をつけるために必要

教えてもらう，という授業ではなく，考え方を学び自分で考えることが授業の中心

予習により考え，毎回のテスト時間中においても種々の考えられる観点を模索して，考えること

【科目のレベル、前提科目など】

基礎学力である，読み，書き，計算の力を基に，基礎学力を活かすために，考え抜く力を有している，又は意思が重要

【備 考】

判断推理は，知識を利用して考えることが主体であり，想像力に関わり，創造的な仕事に必要な力が培われるものである。

判断推理又は類似の思考問題は公務員試験だけでなく，企業の採用試験においても利用されているから，将来の志望を公務員に限定しなくても，履修する価値は十分あると考える。履修の成果が反映され，将来の進路選択に良い結果が得られることを希望する。

科目名	法職演習(数的処理基礎編①)
	B S_公務員試験で必須の数的処理のうち、数的推理の基礎
教員名	杉山 務

【授業の内容】

初歩から「数的処理」を学ぶ者を対象に、毎回の確認演習を通じて出題の意図を踏まえ正解への導き方を修得

【到達目標】

問題を正しく理解し、最も適した解法を利用して、基礎的問題の正解に短時間で到達できる

【授業計画】

第1回 オリエンテーション：進め方、足慣らしの間 <四則演算と九九>

第2回 ① 第1章：方程式

1 四則応用 2 方程式 3 不等式 4 二次方程式 5 平均算・年齢

第3回 ② 第2章：割合

1 比 2 混合算 3 売買算 4 増減 5 仕事算 6 ニュートン算

第4回 ③ 第3章：速さ

1 速さ 2 旅人算 3 通過算 4 流水算 5 時計算

第5回 【実力テスト1】

第1章：方程式 第2章：割合 第3章：速さ

第6回 ④ 第4章：確率

1 場合の数 2 順列 3 組合せ

第7回 ⑤ 第4章：確率 第5章：図形の計量

4 確率 1 多角形

第8回 【実力テスト2】

第4章：確率 第5章：図形の計量

第9回 ⑥ 第5章：図形の計量

2 平面計量(円) 3 空間計量

第10回 ⑦ 第6章：整数 第7章：計算パズル 第8章：規則性

1 整数・約数・倍数・剰余 2 約束記号 3 記数法 第7章：計算パズル 第8章：規則性 1 数列 2 規則性の発見

第11回 【実力テスト3】

第5章：図形の計量 第6章：整数 第7章：計算パズル 第8章：規則性

第12回 ⑧ 第3編 空間把握 第1章：平面図形 第2章：折り紙 第3章：軌跡

第1章：平面図形 1 等積図 2 ジグソーパズル 3 隠し絵 第2章：折り紙 第3章：軌跡 1 多角形の軌跡 2 円の軌跡 3 軌跡の応用

第13回 ⑨ 第4章 立体構成 第5章 展開図

第4章：立体構成 1 正多面体 2 その他の立体構成 第5章：展開図 1 正多面体の展開図 2 サイコロ 3 その他の展開図

第14回 【実力テスト4】

第3編 空間把握 第1章：平面図形 第2章：折り紙 第3章：軌跡第4章 立体構成 第5章 展開図

第15回 まとめ練習

【授業の進め方】

確認では40分間のテストを行い、その後、前回の成績評価及び問題を検討し、不得手な問題及び解説要望のある問題のいくつかについて検討、加えて計算と思考トレーニング

【教科書(必ず購入すべきもの)】

「オープンセサミシリーズ公務員 国家公務員地方初級⑤一般知能(第2版)」東京アカデミー 2014/1/1 1,620 の最新版を使用

【参考図書】

公務員試験 新スーパー過去問ゼミ 5 数的推理 改訂版 実務教育出版(2017/8/28) ¥1,944

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 30% 授業内小試験 67% レポート・課題 3% 受講態度 0%

特記事項

確認（40分10問）9回，実力（40分12問）4回，定期（60分20問）

毎回のテストが評価に反映されるので，予習とともに復習にも力を注ぐことが肝要

毎日1時間の学習時間を確保し，1週間に5時間は問題を解くことに集中すべき

【「成績評価の方法」に関する注意点】

予習・復習に割く時間は必要で，結果が評価を示すので授業への参加が重要

【履修上の心得】

自分でやらなければ力をつかない。説明を聞くだけでなく，読むだけでなく，自分でやることが肝要

授業終了後は，自分の成績と全体の位置付けを確認し，モチベーションを持ち，不得手な分野の克服に努めることが必要

実力をつけるために比較的重要な問題を対象とするが，指定される範囲のあらかじめの準備が前提となる

予習により理解し，演習の後，不得手の問についての復習を，授業時間と同じ時間確保することが必要

【科目のレベル、前提科目など】

基礎となる問題を中心とするので，数の問題が不得手と感じる受講生を対象

四則演算(+，-，×，÷)と九九は，絶対に必要なので受講開始までに復習し，確認していること

【備考】

地方公務員を志望する者に主眼をおいている。過去の問題も参考とすることが，有益でしょう。

問題をよく読み，よく理解することと同様に，教員の話をよく理解することが肝心で，疑問は速やかに解消すべきです。

科目名	法職演習(数的処理基礎編②)
	BH_数的処理のうち, 判断推理
教員名	杉山 務

【授業の内容】

初歩から「数的」を学ぶ者を対象に、毎回の確認演習を通じて、出題の意図を踏まえ正解への導き方を修得

【到達目標】

問題を正しく理解し、最も適した解法を利用して、基礎的問題の正解に短時間で到達できる

【授業計画】

第1回 オリエンテーション：進め方と心構え、足慣らしの間

第2回 ① 第1章 順序関係

1 定量的順序関係 2 定性的順序関係 3 順序関係の変動

第3回 ② 第2章 対応関係

1 二集合対応 2 多集合対応 3 組分け 4 家系図

第4回 ③ 第3章 集合 第4章 論理

1 集合とベン図 2 集合と線分図 3 包含関係

第5回 【実力テスト1】

第1章 順序関 第2章 対応関係 第3章 集合 第4章 論理

第6回 ④ 第5章 位置関係

1 直線的位置関係 2 平面的位置関係 3 空間的位置関係 4 方位

第7回 ⑤ 第6章 試合 第7章 証言 第8章 暗号

1 試合数 2 トーナメント戦 3 リーグ戦 : 証言 : 暗号

第8回 ⑥ 第9章 数量 第10章 日暦算

1 貸し借り 2 時計のずれ 3 その他 : 日暦算

第9回 【実力テスト2】

第5章 位置関係 第6章 試合 第7章 証言 第8章 暗号 第9章 数量 第10章 日暦算

第10回 ⑦ 第11章 手順 第12章 道順

1 ルール 2 天びん 3 読心術 : 1 道順と順列・組合せ 2 いろいろな道順

第11回 ⑧ 【空間把握】第6章 投影 第7章 切断

1 投影図 2 陰影 : 切断

第12回 ⑨ 第8章 回転体・移動 第9章 経路

1 回転体 2 回転と移動 : 1 最短経路 2 一筆書き

第13回 【実力テスト3】

第8章 回転体・移動 第9章 経路 第6章 投影 第7章 切断 第11章 手順 第12章 道順

第14回 ⑩ 【資料解釈】第1章 数表資料 第2章 グラフ資料

1 数表 : 1 グラフ

第15回 全体まとめと復習

基礎からの力をつけるために比較的重要で易しい問題を対象とするが、指定範囲の準備が前提となることから、予習に重点を置き、可能ならば1日1時間、週5時間の学修が望まれる。

【授業の進め方】

確認では40分間のテストを行い、引き続き前回の授業結果の確認、及び不得手な問題、要望のあった問題のいくつかについて検討

【教科書(必ず購入すべきもの)】

オープンセサミシリーズ公務員 国家公務員地方初級⑤一般知能(第2版) 東京アカデミー(七賢出版) 2014/1/1 ¥1,620

【参考図書】

公務員試験 新スーパー過去問ゼミ5 判断推理(実務教育出版) 2017/8/28 ¥1,944

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 30% 授業内小試験 60% レポート・課題 0% 受講態度 10%

特記事項

確認(40分10問) 10回 30%, 実力(40分12問) 3回30%, 定期(60分20問) 30%, 受講態度として貢献10%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

授業への参加が前提なので、参加できない事情があれば、連絡するとともに該当範囲の自習が重要です。

【履修上の心得】

自分でやらなければ力をつかない。説明を聞くだけでなく、読むだけでなく、実際にやってみること
解答や説明を覚えるのではなく、考え方を理解することに重点をおいて受講しましょう

【科目のレベル、前提科目など】

他の数的処理科目との関係

数的処理は、数的推理、資料解釈、判断推理、図形に分けることができ、「基礎編」と銘打つ科目は、これらを前期①と後期②に分け基礎的な事項を中心に学ぶ点で、他の科目と区別される

【備 考】

地方公務員への道を考えている者にとって有用でしょう。

授業の成果をWeb上に掲載するので、単に聞いて理解するだけでなく、自分で確認し、間違いはその原因を分析し、理解に自信を持ってない場合は質問し、次回に活かすことが重要です

科目名	法職演習(私法①)
教員名	新井 弘明

【授業の内容】

この講義では、問題演習を通じて、民法の基礎を身につけていきます。

民法は、資格試験や公務員試験など各種試験に出題されます。この講義を受講し、是非、民法を得意科目としてください。

【到達目標】

法学検定試験ベーシック（基礎）コースに合格できるだけの民法の基礎を身につけます。

【授業計画】

第1回 ガイダンス：講義の進め方、勉強方法等について説明します。

第2回 民法総則（1）

第3回 民法総則（2）

第4回 民法総則（3）

第5回 物権（1）

第6回 物権（2）

第7回 物権（3）

第8回 債権総論（1）

第9回 債権総論（2）

第10回 債権総論（3）

第11回 債権各論（1）

第12回 債権各論（2）

第13回 債権各論（3）

第14回 債権各論（4）

第15回 親族・相続

【授業の進め方】

問題演習と解説講義を繰り返す形で進めていきます。

具体的なやり方については、ガイダンスの際に説明します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①2018年法学検定試験問題集ベーシック（基礎）コース ②法学検定試験委員会（編） ③商事法務 ④2018年3月（予定）

【参考図書】

講義の際に適宜紹介します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 40% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

授業内小テストと定期試験で評価します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

特にありません。

【履修上の心得】

講義の際には、教科書と六法を持参してください。

【科目のレベル、前提科目など】

民法関連科目(民事法概論等)は、できる限り、履修してください。

【備考】

質問は大歓迎です。

科目名	法職演習(私法②)
教員名	新井 弘明

【授業の内容】

この講義では、問題演習を通じて、民法の基礎を身につけていきます。
民法は、資格試験や公務員試験など各種試験に出題されます。この講義を受講し、是非、民法を得意科目としてください。

【到達目標】

法学検定試験スタンダード（中級）コースに合格できるだけの民法の基礎を身につけます。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス：講義の進め方、勉強方法等について説明します。
 第2回 民法総則（1）
 第3回 民法総則（2）
 第4回 民法総則（3）
 第5回 物権（1）
 第6回 物権（2）
 第7回 物権（3）
 第8回 債権総論（1）
 第9回 債権総論（2）
 第10回 債権総論（3）
 第11回 債権各論（1）
 第12回 債権各論（2）
 第13回 債権各論（3）
 第14回 債権各論（4）
 第15回 親族・相続

【授業の進め方】

問題演習と解説講義を繰り返す形で進めていきます。
具体的なやり方については、ガイダンスの際に説明します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①2018年法学検定試験問題集スタンダード（中級）コース ②法学検定試験委員会（編） ③商事法務 ④2018年3月（予定）

【参考図書】

講義の際に適宜紹介します。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 40% レポート・課題 0% 受講態度 0%
 特記事項
 授業内小テストと定期試験で評価します。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

特にありません。

【履修上の心得】

講義の際には、教科書と六法を持参してください。

【科目のレベル、前提科目など】

民法関連科目(民事法概論等)は、できる限り、履修してください。

【備考】

質問は大歓迎です。

科目名	法職演習(公法①)
	憲法択一問題の演習(法学検定ベーシック〈基礎〉～スタンダード〈中級〉)
教員名	岡田 順太

【授業の内容】

憲法(主として人権領域)に関する択一問題の演習を行う(難易度としては、法学検定ベーシック～スタンダードに相当する)。

【到達目標】

憲法理論及び判例に依拠して、演習問題を確実に解答できるようになること。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 法情報調査
- 第3・4回 総合問題
- 第5回 小テスト(1)
- 第6～8回 人権総論①～③
- 第9～13回 人権各論①～⑤
- 第14回 小テスト(2)
- 第15回 総括

【予習】事前に演習問題の各選択肢について、関連する理論・判例・法令を調査し、正答を探る(各回90～∞分)。

【復習】授業内での解説の再現と、問題の再検討(各回90～∞分)。

【授業の進め方】

事前に演習問題をWebClassに掲載する。履修者は、各選択肢に関連する理論・判例・法令を予め調べつつ、設問の解答を行う。授業では、履修者に発言させつつ、解説を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①憲法判例百選Ⅰ(第6版) ②長谷部恭男ほか編 ③有斐閣 ④2013年 ⑤2,095円 ⑥978-4641115170

①憲法判例百選Ⅱ(第6版) ②同上 ③同上 ④同上 ⑤同上 ⑥978-4641115187

【参考図書】

商事法務編『タクティクスアドバンス憲法・行政法2017』(商事法務、2016年)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 40% レポート・課題 0% 受講態度 10%

【履修上の心得】

必ず予習をし、教科書を持参し、「わかりません」と言わないこと。遅刻・早退・欠席は厳禁である。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目: 憲法Ⅰ(総論・人権)

科目名	法職演習(公法②)
教員名	清水 潤

【授業の内容】

憲法（主として人権領域）に関する択一問題の演習を行う。法学検定、行政書士試験、公務員試験、司法試験の問題などを扱う。

【到達目標】

憲法理論及び判例に依拠して、演習問題を確実に解答できるようになること。

【授業計画】

第1回 ガイダンス

予習復習必要なし。

第2回 法情報調査

自分で文献を調べてみる（30分）

第3回 問題演習

【予習】事前に演習問題の各選択肢について、関連する理論・判例・法令を調査し、正答を探る（各回90～∞分）。

【復習】授業内での解説の再現と、問題の再検討（各回90～∞分）

第4回 問題演習

【予習】事前に演習問題の各選択肢について、関連する理論・判例・法令を調査し、正答を探る（各回90～∞分）。

【復習】授業内での解説の再現と、問題の再検討（各回90～∞分）

第5回 問題演習

【予習】事前に演習問題の各選択肢について、関連する理論・判例・法令を調査し、正答を探る（各回90～∞分）。

【復習】授業内での解説の再現と、問題の再検討（各回90～∞分）

第6回 問題演習

【予習】事前に演習問題の各選択肢について、関連する理論・判例・法令を調査し、正答を探る（各回90～∞分）。

【復習】授業内での解説の再現と、問題の再検討（各回90～∞分）

第7回 問題演習

【予習】事前に演習問題の各選択肢について、関連する理論・判例・法令を調査し、正答を探る（各回90～∞分）。

【復習】授業内での解説の再現と、問題の再検討（各回90～∞分）

第8回 問題演習

【予習】事前に演習問題の各選択肢について、関連する理論・判例・法令を調査し、正答を探る（各回90～∞分）。

【復習】授業内での解説の再現と、問題の再検討（各回90～∞分）

第9回 問題演習

【予習】事前に演習問題の各選択肢について、関連する理論・判例・法令を調査し、正答を探る（各回90～∞分）。

【復習】授業内での解説の再現と、問題の再検討（各回90～∞分）

第10回 問題演習

【予習】事前に演習問題の各選択肢について、関連する理論・判例・法令を調査し、正答を探る（各回90～∞分）。

【復習】授業内での解説の再現と、問題の再検討（各回90～∞分）

第11回 問題演習

【予習】事前に演習問題の各選択肢について、関連する理論・判例・法令を調査し、正答を探る（各回90～∞分）。

【復習】授業内での解説の再現と、問題の再検討（各回90～∞分）

第12回 問題演習

【予習】事前に演習問題の各選択肢について、関連する理論・判例・法令を調査し、正答を探る（各回90～∞分）。

【復習】授業内での解説の再現と、問題の再検討（各回90～∞分）

第13回 問題演習

【予習】事前に演習問題の各選択肢について、関連する理論・判例・法令を調査し、正答を探る（各回90～∞分）。

【復習】授業内での解説の再現と、問題の再検討（各回90～∞分）

第14回 問題演習

【予習】事前に演習問題の各選択肢について、関連する理論・判例・法令を調査し、正答を探る（各回90～∞分）。

【復習】授業内での解説の再現と、問題の再検討（各回90～∞分）

第15回 問題演習

【予習】事前に演習問題の各選択肢について、関連する理論・判例・法令を調査し、正答を探る（各回90～∞分）。

【復習】授業内での解説の再現と、問題の再検討（各回90～∞分）

【授業の進め方】

事前に演習問題を指定する。履修者は、各選択肢に関連する理論・判例・法令を予め調べつつ、設問の解答を行う。授業では、履修者に発言させつつ、解説を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①未定。

開講時に指示する

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 50% レポート・課題 0% 受講態度 50%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

受講生が多い場合には期末試験を実施する可能性もある。

【備 考】

必ず予習をし、教科書を持参し、「わかりません」と言わないこと。遅刻・早退・欠席は厳禁である。

科目名	法職演習(公法③)
	刑法問題演習(法学検定試験ベーシック〈基礎〉コース編)
教員名	松原 和彦

【授業の内容】

法学検定試験ベーシック〈基礎〉コース(ただし、「刑法の基礎」「刑法総論」に限る。以下同じ。)の問題演習

【到達目標】

法学検定試験ベーシック〈基礎〉コースの知識の習得

【授業計画】

- 第1回 本授業の説明、実力確認試験
- 第2回 「刑法の基礎」①
- 第3回 「刑法の基礎」②
- 第4回 「刑法総論」①
- 第5回 「刑法総論」②
- 第6回 「刑法総論」③
- 第7回 「刑法総論」④
- 第8回 「刑法総論」④
- 第9回 「刑法総論」⑤
- 第10回 「刑法総論」⑥
- 第11回 「刑法総論」⑦
- 第12回 「刑法総論」⑧
- 第13回 「刑法総論」⑨
- 第14回 「刑法総論」⑩
- 第15回 「刑法総論」⑪

1. 【授業計画】は予定
2. 予習は2時間以上、復習は1時間以上が目安

【授業の進め方】

解答および質疑応答を交えた解説

【教科書(必ず購入すべきもの)】

1. 未定(第1回の授業時に説明)
2. 任意の(小型)六法(最新版)は必携

【参考図書】

1. 法学検定試験委員会編『2018年法学検定試験問題集ベーシック〈基礎〉コース』(商事法務、平成30年) 価格未定
2. 山口厚『刑法〔第3版〕』(有斐閣、平成27年) 本体3,200円+税
3. 井田良=城下裕二編『刑法総論判例インデックス』(商事法務、平成23年) 本体2,600円+税

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 50% レポート・課題 0% 受講態度 50%

特記事項

「授業内小試験」は10回(1回×5%)実施

【「成績評価の方法」に関する注意点】

「授業内小試験」の実施要領は第1回の授業時およびWebClassに公表

【履修上の心得】

1. WebClassを頻用
2. 指定された座席に着席
3. 出席は当然の前提で(第2回から出席データ収集端末機以外の方法で確認)、特に遅刻は厳禁

【科目のレベル、前提科目など】

1. 「科目のレベル」は法学検定試験ベーシック〈基礎〉コース
2. 事実上の「前提科目」は刑法I(総論)

科目名	法職演習(公法④)
	刑法問題演習(法学検定試験スタンダード〈中級〉コース編)
教員名	松原 和彦

【授業の内容】

法学検定試験スタンダード〈中級〉コース(ただし、「刑法総論(基礎理論)」「刑法総論(犯罪理論)」に限る。以下同じ。)の問題演習

【到達目標】

法学検定試験スタンダード〈中級〉コースの知識の習得

【授業計画】

- 第1回 本授業の説明、実力確認試験
 第2回 「刑法総論(基礎理論)」①
 第3回 「刑法総論(基礎理論)」②
 第4回 「刑法総論(犯罪理論)」①
 第5回 「刑法総論(犯罪理論)」②
 第6回 「刑法総論(犯罪理論)」③
 第7回 「刑法総論(犯罪理論)」④
 第8回 「刑法総論(犯罪理論)」④
 第9回 「刑法総論(犯罪理論)」⑤
 第10回 「刑法総論(犯罪理論)」⑥
 第11回 「刑法総論(犯罪理論)」⑦
 第12回 「刑法総論(犯罪理論)」⑧
 第13回 「刑法総論(犯罪理論)」⑨
 第14回 「刑法総論(犯罪理論)」⑩
 第15回 「刑法総論(犯罪理論)」⑪

1. 【授業計画】は予定
2. 予習は2時間以上、復習は1時間以上が目安

【授業の進め方】

解答および質疑応答を交えた解説

【教科書(必ず購入すべきもの)】

1. 未定(第1回の授業時に説明)
2. 任意の(小型)六法(最新版)は必携

【参考図書】

1. 法学検定試験委員会編『2018年法学検定試験問題集スタンダード〈中級〉コース』(商事法務、平成30年) 価格未定
2. 山口厚『刑法〔第3版〕』(有斐閣、平成27年) 本体3,200円+税
3. 井田良=城下裕二編『刑法総論判例インデックス』(商事法務、平成23年) 本体2,600円+税

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 50% レポート・課題 0% 受講態度 50%

特記事項

「授業内小試験」は10回(1回×5%)実施

【「成績評価の方法」に関する注意点】

「授業内小試験」の実施要領は第1回の授業時およびWebClassに公表

【履修上の心得】

1. WebClassを頻用
2. 指定された座席に着席
3. 出席は当然の前提で(第2回から出席データ収集端末機以外の方法で確認)、特に遅刻は厳禁

【科目のレベル、前提科目など】

1. 「科目のレベル」は法学検定試験スタンダード〈中級〉コース
2. 事実上の「前提科目」は刑法I(総論)

科目名	教育制度論
	授業形態：講義
教員名	荒川 麻里

【授業の内容】

教育制度の基本的な仕組みについて、歴史的な経緯や改革動向を含めて考察し、理解を深める授業です。各週のテーマを設定して、関連する文献やデータを読み解きながら取り組みます。

【到達目標】

- ①教育制度の基本的な枠組みを理解する
- ②教育制度について調べる技術を身につける
- ③教育制度について多面的に考察することができる

【授業計画】

- 第1回 教育とは何か
- 第2回 教育制度のはじまり
- 第3回 初等教育と基礎教育
- 第4回 家庭教育と就学前教育
- 第5回 子どもの権利と学習権
- 第6回 特別ニーズと特別支援教育
- 第7回 いじめ・体罰・虐待：安全保持義務と学校安全への対応
- 第8回 教師の職務と教育行政：学校と地域との連携
- 第9回 中等教育と専門教育
- 第10回 生涯学習と成人教育
- 第11回 就学義務と教育義務
- 第12回 教科書と検定制度
- 第13回 大学・高等教育と入学試験
- 第14回 教育を受ける権利
- 第15回 まとめ：学び続けるために

各回、以上のテーマを設定して取り組みます。

【授業の進め方】

参加型の授業で、グループ・ワークを中心に進めていきます。多くの人と意見交換を行うことで、自らの考えを深め、言語化することを学びます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

授業内で資料を配布予定です。

【参考図書】

- ・教育制度研究会編『要説 教育制度』（新訂第三版）、学術図書、2011年
- ・坂田仰ほか『図解・表解教育法規』（新訂第2版）、教育開発研究所、2014年
- ・解説教育六法編修委員会『解説教育六法』（平成29年版）三省堂、2017年
- ・窪田真二／小川友次『教育法規便覧』（平成29年版）、学陽書房、2017年
- ・平原春好／寺崎昌男編『教育小事典』学陽書房、2011年

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 40% レポート・課題 60% 受講態度 0%

特記事項

授業内でレポートの相互評価を行います。ここでの取り組みは重要な評価の対象となります。

【履修上の心得】

グループでの活動を中心に進めますので、積極的に「話す」「聞く」にくわえ「書く」「読む」ことが求められる授業です。

【科目のレベル、前提科目など】

教職課程の必修科目です。

科目名	教師論
	授業形態：講義
教員名	金井 正

【授業の内容】

教師について、多角的な視点から検討することができるようになる。教師を目指すうえで、教職とはどのような職業なのかを探るとともに、現代社会において求められる教師の職務と役割について理解する。

教え、伝えたい内容をしっかりと把握し、質の良い教材・教具を用い、人が人に教える。人とは教師であり、幼児児童生徒である。「教育は人なり」という言葉があるが、最終的に教育の担い手である教師が教育の成果に大きく関わってくる。現在、教育には多くのことが期待されている。その期待に応え、成果を上げるためには、教師が使命感を認識し、学び続けることができ、何を教えることが必要なのかをしっかりと把握している必要がある。

そこで本講義では、教師たる資質・能力（条件）を学校現場の立場から考察し、「自信と誇りを持って子どもたちと向き合える教師」の養成を目指す。

系統性を重視した授業を展開すると共に、教師に求められる課題に向き合いながら、単に指導技術・教育方法の習得に留まるのではなく、教育の奥深さと面白さを感じ、広い視野を持った職業観を培っていくものである。

講義を中心とするが、学生による課題の発見、解決等を重視し、ディスカッション等により主体的・対話的な深い学びに立った授業を行う。

【到達目標】

1. 教師に求められる今日的な力量についての理解
特に、学習者が課題を発見し解決に向けて主体的・協動的に深く学んでいくための方法を体得する。
2. 教師として、備えなければならない人間性についての理解と自己考察
3. 生徒指導や学習指導、学級経営等における専門性についての実践的な理解
4. チーム学校として、多様な専門性を持つ人材との効果的な連携・分担

【授業計画】

- 第1回 1 教職の意義と特徴
- 1) 教師像、教育観の変遷
教師の役割と存在意義
 - 2) 現代の教師に必要な資質・能力
特に、学習者が課題を発見し解決に向けて主体的・対話的で深い学びの方法
・以下各回の授業ノートを充実させること。
予習は本シラバスによって、復習は授業記録、配布した資料を基に行うこと。
その時間は90分程度を目安にする。
- 第2回 2 人間的信頼に関わる基本的な力量
- 1) コミュニケーション能力
- 第3回 2) 教師に求められる人権意識（体罰等）
- 第4回 3) 学び続ける教師（知識基盤社会に生きる教師、教員研修）
- 第5回 4) 教員の職務と服務、懲戒、身分保障
- 第6回 3 専門性に関わる基本的な力量
- 1) 学習指導要領・幼稚園教育要領と教育課程（カリキュラム）
- 第7回 2) 学習指導－主体的・対話的で深い学び
- 第8回 3) 学習指導－学習意欲と保護者の理解・協力
- 第9回 4) 生徒指導－生徒指導についての考え方
- 第10回 5) 生徒指導－生徒指導と特別活動
- 第11回 6) 生徒指導－学業指導の充実
- 第12回 7) 学校経営と学級経営（運営）
- 第13回 8) 学級経営の実際
- 第14回 9) 特別支援教育の実際
- 第15回 4 教師力量の確認
- 1) チームとしての学校（幼小連携・地域連携等）
 - 2) 教員養成と免許法、教職の職業的特徴

【授業の進め方】

- ・課題の発見、解決等を重視し、ディスカッション等により主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業とする。
- ・具体的な例を示し、わかる授業に努める。
- ・系統性を重視した授業に努める。
- ・学生は、授業ノートを作成し、充実を努める。特に復習に時間をかけるようにする。
- ・学生は、次時の内容について(レジュメで確認)、関係する図書やインターネット等で予習をして授業に臨むこと。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①教職入門 ②菊池龍三郎編 ③協同出版 ④平成30年3月
①小学校学習指導要領 ②文部科学省 ③東京書籍 ④平成22年一部改正

必ず授業ノートをつくること。

【参考図書】

参考資料や図書はその都度紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 40%

特記事項

定期試験は記述式で行う。

受講態度は、授業への取組（質問に対する発言、質問、学習態度等）を重視する。

【履修上の心得】

- ・教職に就こうとする者は、教師としての適性、能力が問われる。従って、それなりの授業態度を要求する。
- ・理由書、学生証の不正使用は、依頼者、行為者ともに重大な欠席扱いとする。

科目名	教育心理学
教員名	平田 乃美・鶴田 利郎

【授業の内容】

教育心理学には、教育の効果を高めるために役立つ心理学的知見・技術の教育場面への適用という側面と、教育的営みの中で培われる総合的な人間研究という側面があります。本講義では、学校現場における保育・教育の実践において、問題行動や発達障がい等も含めた各発達段階における子どもの個性や行動の理解の手掛かりとなるであろう教育心理学の基礎知識を紹介します。

【到達目標】

1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達や行動、環境との関わり等に関する心理学理論の基礎を学ぶ。
2. 心理学の理論や知見を通して、学習効果、教育効果を高める要因について理解を深める。
3. 上記の知見の教育実践での活用について考える。

【授業計画】

第1回 研究史：教育心理学

予習 (90分)：配布資料・テキストを読み当該課題について調べる

復習 (90分)：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

第2回 教育心理学の研究手法

予習 (90分)：配布資料・テキストを読み当該課題について調べる

復習 (90分)：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

第3回 教育における測定と評価：統計データを読む

予習 (90分)：配布資料・テキストを読み当該課題について調べる

復習 (90分)：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

第4回 教育における測定と評価：教育データの数値化

予習 (90分)：配布資料・テキストを読み当該課題について調べる

復習 (90分)：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

第5回 待つ教育と促す教育：遺伝と環境

予習 (90分)：配布資料・テキストを読み当該課題について調べる

復習 (90分)：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

第6回 発達理論と教育環境：生涯発達の観点-乳児期から青年期までを中心に-

予習 (90分)：配布資料・テキストを読み当該課題について調べる

復習 (90分)：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

第7回 発達理論と教育環境：親子関係と愛着、社会性の発達

予習 (90分)：配布資料・テキストを読み当該課題について調べる

復習 (90分)：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

第8回 個人差の理解：知的能力、言語の発達、認知の発達

予習 (90分)：配布資料・テキストを読み当該課題について調べる

復習 (90分)：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

第9回 個人差の理解：運動の発達、不適応・障がい児の心身の発達と学習

予習 (90分)：配布資料・テキストを読み当該課題について調べる

復習 (90分)：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

第10回 学習理論：行動主義、学習のしくみ

予習 (90分)：配布資料・テキストを読み当該課題について調べる

復習 (90分)：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

第11回 学習理論：認知理論、学習の心理学

予習 (90分)：配布資料・テキストを読み当該課題について調べる

復習 (90分)：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

第12回 教育場面における個人と集団

予習 (90分)：配布資料・テキストを読み当該課題について調べる

復習 (90分)：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

第13回 学習における動機づけ：内発的・外発的動機づけ

予習 (90分)：配布資料・テキストを読み当該課題について調べる

復習 (90分)：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

第14回 学習における動機づけ：主体的な学び、子どもの意欲を育む

予習 (90分)：配布資料・テキストを読み当該課題について調べる

復習 (90分)：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

第15回 要点のまとめ

予習 (90分)：配布資料・テキストを読み当該課題について調べる

復習 (90分)：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

【授業の進め方】

授業の一部に協働・体験学習を含む。詳細は、各クラスの担当教員が初回授業で指示する。
グループ・ワーク形式の課題では、グループ・ディスカッションへの参加度も評価対象とする。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①やさしい教育心理学 第4版 ②鎌原雅彦・竹綱誠一郎 ③有斐閣アルマ ④2015/8/25 ⑤2052円 ⑥464122059X

教科書・参考図書はクラスごとに異なる。

浅田晃佑クラス：上記教科書に基づき授業を行うが、必ずしも購入の必要はない。

鶴田利郎クラス：上記教科書に基づき授業を行うが、必ずしも購入の必要はない。

平田乃美クラス：初回授業で資料を各自ダウンロードする（教科書購入は任意）。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 100% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

受験資格は『白鷗大学試験規則』に準ずる。

成績評価の方法は『履修規程』に準ずる。

【履修上の心得】

各クラスの担当教員が初回授業で指示する。

【科目のレベル、前提科目など】

教職に関する科目では「教育の基礎理論に関する科目」、認定心理士の資格申請では「選択科目」（教育心理学・発達心理学）に区分される科目です。

科目名	教育基礎論
	授業形態：講義
教員名	小泉 祥一

【授業の内容】

教育基礎論の目的は、現実の教育現場におけるさまざまな問題や現象を、教育の本質から考察し、理解する視点を養うことである。教師は、教育現場においては、多種多様な問題に遭遇し、その度に適切な判断が求められる。正解を求めるというよりも、事実に基づき、教育の本質から、あるべき姿を探究する態度を養うことも、本科目の目的である。すなわち、人間とは何か、人間形成とは何かを常に考えながら児童・生徒の人間形成に寄与するために、教師を目指す者にとって、教育に関する基礎理論の理解が必要である。

本科目では、まず教育の基本的概念、理念にはじまり、教育の歴史の変遷と思想を学ぶこととする。その際、諸外国およびわが国の教育思想とそれに基づく諸実践や、近代学校およびその後の学校教育等を、その根底にある制度的および法的理解を含みながら学ぶものとする。

さらに、生涯学習社会における家庭教育、学校教育、社会教育の目的、内容、方法を学び、今後の教育課題と望ましい教師のあり方について考えるものとする。

【到達目標】

1. 教育の基本的概念と理念を理解する。
2. 教育の歴史の変遷と思想について学び、教育に関する基礎的な理論を理解する。
3. 家庭教育、学校教育、社会教育について目的、内容、方法を理解し、教育のあり方について考察できる。
4. 生涯学習社会における教育の役割と課題を理解し、議論できる。

【授業計画】

- 第1回 全体の構成とオリエンテーション
 第2回 教育の意義（1）教育とは何か、学びとは何か
 第3回 教育の意義（2）生きる権利と学ぶ権利の保障
 第4回 教育の思想と歴史（近代）子どもの発見と近代教育家の思想と変遷
 第5回 教育の思想と歴史（現代）近現代学校教育とその変遷
 第6回 教育の思想と歴史（現代）日本の教育史
 第7回 教育の思想と歴史（現代）現代の教育問題 いじめ問題
 第8回 教育の思想と歴史（現代）現代の教育問題 不登校問題
 第9回 教育の基本的概念（1）学級経営とは何か
 第10回 教育の基本的概念（2）発達と教育の関係
 第11回 教育の基本的概念（3）教育課程とは何か
 第12回 教育の基本的概念（4）教育実践と学力評価
 第13回 教育の基本的概念（5）小・中連携と特別支援教育
 第14回 教育の基本的概念（6）学校改革と教育の国際化の動向
 第15回 教育の基本的概念（7）教師とは何か

【授業の進め方】

講義を中心とし、課題の発見や解決等も重視しながら、グループごとの作業やディスカッション等も取り入れて進めていく。

そのため、受講生は、それらの問題や課題に対してどうとらえるか、どう理解するか、どう対応するかについて、自分の意見を、コメントペーパーに小論文形式で書く。

この方法によって、教育現場の問題を、どう考え、判断するかという視点と態度を養う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用しない。

プリントを配布する。

【参考図書】

- 日本教育方法学会編『教育方法学研究ハンドブック』学文社、2014年10月
 日本教育方法学会編『現代教育方法事典』図書文化社、2004年10月（共編著）
 日本カリキュラム学会編『現代カリキュラム事典』ぎょうせい、2001年2月（共編著）
 安彦忠彦・新井郁男他編『新版 現代学校教育大事典』ぎょうせい、2002年
 細谷俊夫・奥田真丈・河野重男・今野喜清編『新教育学大事典』第一法規、1990年
 吉本均編『現代授業研究大事典』明治図書、1987年3月
 教育実践事典刊行委員会編『教育実践事典』労働旬報社、1982年
 梅根・海老原・中野編『資料日本教育実践史』全5巻、三省堂、1979年

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 20% レポート・課題 20% 受講態度 20%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

授業内小テスト、レポート・課題、平常点（受講態度）、定期試験で行う。

平常点（受講態度）：積極的な発言・発表・提案、討論、記録、感想・意見のコメントペーパーの提出など公開の教育研究会等への参加も平常点として評価する。

【履修上の心得】

自分で考える習慣を身につけること、人前で自分の意見を発表できることが、基本になる。

授業では、必ず自分の意見を求められるので、恥ずかしがらないで、意見を述べること。

ノートすること、まとめて書くことが、基本なので、毎時間の授業で、練習していただきたい。

【科目のレベル、前提科目など】

教職の免許を取得する学生にとっては、必修科目であり、教育学の基礎的な内容である。

科目名	教育基礎論
教員名	金井 正

【授業の内容】

教育基礎論の目的は、現実の教育現場におけるさまざまな問題や現象を、教育の本質から考察し、理解する視点を養うことである。教師は、教育現場においては、多種多様な問題に遭遇し、その度に適切な判断を求められる。正解を求めるといっても、事実に基づき、教育の本質から、あるべき姿を探究する態度を養うことも本科目の目的である。すなわち、人間とは何か、人間形成とは何かを常に考えながら児童・生徒の人間形成に寄与するために、教師を目指す者にとって、教育に関する基礎理論の理解が必要である。

本科目ではまず教育の基本的概念、理念にはじまり、教育をめぐる歴史的変遷と思想を学ぶこととする。その際、諸外国およびわが国の教育思想とそれに基づく諸実践や、近代学校およびその後の学校教育等を、その根底にある制度的および法的理解を含みながら学ぶものとする。さらに、わが国の現在の家庭教育、学校教育、社会教育について目的、内容、方法を学び、今後の教育課題と望ましい教師のあり方について考えるものとする。講義を中心とし、課題の発見や解決等も重視しながら、ディスカッション等も取り入れて進めていく。

【到達目標】

- 1.教育の基本的概念と理念を理解する。
- 2.教育の歴史的変遷と思想について学び、教育に関する基礎的な理論を理解する。
- 3.家庭教育、学校教育、社会教育について目的、内容、方法を理解し、教育のあり方について考察できる。
- 4.生涯学習社会における教育について現状と課題を理解し、議論できる。

【授業計画】

第1回 教育の意義（1）教育とは何か

- ・学習課題(予習・復習)授業ノートを充実させること。

予習は本シラバスによって、復習は授業時の資料を基に行うこと。

以下、各回の授業に対して、予習・復習を行い、その時間は90分程度を目安にする。

第2回 教育の意義（2）生涯にわたる学び

第3回 教育の意義（3）生きる権利・学ぶ権利の保障

第4回 教育の意義（4）人間形成と家庭・学校・地域・社会との関連性

第5回 教育をめぐる思想と歴史的変遷（1）教育家の思想

第6回 教育をめぐる思想と歴史的変遷（2）家庭教育

第7回 教育をめぐる思想と歴史的変遷（3）近代教育制度の成立と展開

第8回 教育をめぐる思想と歴史的変遷（4）教職に関わる制度改革

第9回 教育をめぐる思想と歴史的変遷（5）現代の教育問題

第10回 教育をめぐる思想と歴史的変遷（6）今後の教育課題

第11回 学校教育の目的

第12回 教育課程とは何か

第13回 教育の実践と評価

第14回 教員の服務と懲戒、身分保障について

第15回 まとめ一小・中連携、期待される教師像

【授業の進め方】

- ・課題の発見、解決等を重視し、ディスカッション等により主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業とする。
- ・具体的な例示や質問、感想等を活用し、わかる授業に努める。
- ・系統性を重視した講義に努める
- ・学生は、必ず授業ノートを作成し、充実に努める。特に復習に時間をかけるようにする。
- ・学生は、次時の内容について(レジュメで確認)、関係する書籍やインターネット等を活用し予習をして授業に臨むこと。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①教職入門 ②菊池龍三郎編 ③協同出版 ④平成30年3月

①中学校学習指導要領 ②文部科学省 ③東山書房 ④平成22年一部改正

必ず授業ノートをつくること。

【参考図書】

参考図書等は、その都度紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 40%

特記事項

定期試験は記述式で行う。

受講態度は、授業への取組（質問に対する発言、質問、学習態度等）を重視する。

【履修上の心得】

- ・理由書の提出または学生証の不正使用は、依頼者、行為者ともに重大な欠席とする。
- ・教職に就こうとする者は、教育者としての適性、能力が問われる。従って、それなりの授業態度を要求する。

科目名	生徒指導論(進路指導を含む)
	ライフキャリア開発の視点から生徒指導を問い直す
教員名	榎本 和生

【授業の内容】

生徒指導の意義は、個々の児童生徒が社会的な自立を図るために必要な能力や態度の育成にあります。すなわち、人間いかに生きるべきかという自己指導能力に裏打ちされた人間形成への教育的な営みと捉えることができます。本講義では、教育の機能的及び領域的な側面から、生徒指導の原理、歴史的変遷、学校現場における実践上の課題等を踏まえ、生徒指導（進路指導を含む）の理論と実践力を深め、今日的な教育課題に対応できる教師の育成を目指した授業を展開します。具体的には、受講生自らがライフキャリア（人生）に必要な諸能力を身につけるような授業を展開する。

【到達目標】

受講後、次のことができるようになる。

1. 生徒指導および進路指導の原理や理論を整理して述べることができる。
2. プログラムモデルに基づく生徒指導および進路指導の実践ができる。
3. ライフキャリア(人生)に必要な諸能力を身につける。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション：授業の内容や進め方について説明する。また、生徒指導及び進路指導の被体験から想起する。
予習：あらかじめ小・中・高校での生徒指導及び進路指導の体験を文書にまとめておく。
復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第2回 学習へのモチベーションアップを図る。
予習：前時に紹介した刈谷剛彦著『学力と階層』を読んでおく。
復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第3回 生徒指導の歴史と用語の多義性について説明する。
予習：配付資料を読んでおく。
復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第4回 生徒指導の意義と役割について説明する。
予習：配付資料を読んでおく。
復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第5回 生徒指導で育成する諸能力について検討する。
予習：テキストを読んでおく。
復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第6回 プログラムモデルに基づく生徒指導について説明する。
予習：配付資料を読んでおく。
復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第7回 生徒指導関係者の役割と校内体制の在り方について説明する。
予習：配付資料を読んでおく。
復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第8回 キャリア教育（進路指導）歴史と発展について説明する。
中間試験（小試験）を実施する。
予習：テキストを読んでおく。
復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第9回 キャリア教育に関する基礎知識について説明する。
予習：テキストを読んでおく。
復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第10回 キャリアに関する諸理論、特に社会学習理論と比較しながら検討する。
予習：テキストを読んでおく。
復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第11回 進路指導（キャリア教育）の現状と課題について検討する。
予習：テキストを読んでおく。
復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第12回 進路指導（キャリア教育）の視点からの教育課程の改善について検討する。
予習：配付資料を読んでおく。
復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第13回 進路指導（キャリア教育）の望ましい実践を紹介する。
予習：配付資料を読んでおく。
復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第14回 生徒指導と進路指導（キャリア教育）の関係を検討する。
予習：配付資料を読んでおく。

復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
第15回 学習した内容を復習しながら、知識を確実にする。
予習:配付資料を読んでおく。
復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。

【授業の進め方】

講義は、毎時間のつながりを重視して(今日の疑問が次時に解明される)展開しますので、休まず受講すること。各自、予めテキストを熟読し、各章の概要を作成します。その概要作成したものを発表し、討論する方法で授業を進めます。また、生徒指導の被体験談等を基に、学校における様々な教育場面における生徒指導を考察していきます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①大学生のためのライフキャリアデザイン ②榎本和生・横山明子編著 ③さんぽう ④2013.5 ⑤2,000円

初回授業時に直接販売します。

【参考図書】

「生徒指導の手びき」文部省400円

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 80% レポート・課題 0% 受講態度 20%

【履修上の心得】

テキストや配布した資料を前もって熟読しておくこと。配布する資料等を保存するための専用クリアホルダー（A4、30ポケットで可）の準備を願いたい。

【科目のレベル、前提科目など】

機能としての生徒指導は特別活動の領域で実践されます。したがって特別活動の講義内容も確実に理解することを希望します。

今日、教員が直面する課題は、多忙感であると多くの教師が答えています。その背景として、生徒指導における種々の困難性に加え、保護者や地域からの非難の目(責任放棄、非協力)から、教師の自信もゆらぎ、忙しさが多忙感として心理的な圧迫要因に変質するものと考えます。また、生徒指導を「難しく大変」と受け止め、一人で悩み、その絶望感から教師を辞めたいと思う教師も少なくありません。本講義では、発達課題の達成を指導・援助する生徒指導の本質を理解し、だれもが協働できる、開かれた(児童生徒も参加できる)生徒指導を習得するなど、教師生命の根幹を身につける授業と理解されたい。

科目名	教育課程論S
教員名	小泉 祥一

【授業の内容】

教育課程に関する基礎的考察をおこない、実践上の留意点を理解する。

教育課程は、教育内容を体系的に構成したものであるが、具体的な内容は、学年や教科・科目毎に、学習指導要領に明示される。今回の学習指導要領改訂においては、「社会に開かれた教育課程」が強調されている。

本科目では、教育課程の概念と構造、教育課程編成の基本原理などの基礎的な内容を学ぶが、中心は、学習指導要領の改訂内容およびその社会的背景を理解したうえで、「社会に開かれた教育課程」の内容を取り扱う。教育課程の編成が中心的な内容で、実際に学習指導案を作成する。

また今日、育成すべき能力、学力と人格、総合的学習、教育課程経営（カリキュラム・マネジメントを含む）、学校評価など、教育目標と教育課程に関わる事項に関心を集めている。これらの取り組みの現状と課題、あるべき姿について、議論する。

【到達目標】

1. 学校教育における教育課程の意義と役割を理解するとともに、教育課程の概念と構造、教育課程編成の基本原理を理解する。
2. 教育課程の編成と評価の歴史の変遷と現代における教育課程改革の課題を理解する。
3. 各教科および教科外活動の教育内容と教材研究等に関する基礎的・基本的な事項を理解する。
4. 教育課程の編成と指導計画の作成方法について理解する。
5. 1～4をもとに、教育課程の実施としての学習指導案を作成する。
6. 学校における教育課程経営の意義とカリキュラム・マネジメントの意味を理解する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
－全体の概要と学校教育における教育課程の役割－
- 第2回 教育課程の概念と構造
－教育課程とカリキュラムと指導計画の関係、学力の構造と教育課程－
- 第3回 中学校学習指導要領の変遷
－戦後初期新教育の教育課程における児童中心主義－
- 第4回 中学校学習指導要領の変遷
－昭和30、40年代の教育課程における科学・学問中心主義－
- 第5回 中学校学習指導要領の変遷
－昭和50年代以降の教育課程における人間中心主義－
- 第6回 現代における教育課程改革の課題（1）
－教育課程における生活と科学と人間－
- 第7回 現代における教育課程改革の課題（2）
－新教科「地域共生科」の開発－
- 第8回 教育目標、教育内容と教材・教具の関係
- 第9回 教育課程の編成と指導計画の作成
- 第10回 総合的学習の意義と課題
- 第11回 学力評価と教育課程評価
- 第12回 教育課程経営（カリキュラム・マネジメントを含む）と地域性
- 第13回 教育課程の実施としての学習指導案の作成
- 第14回 中学校学習指導案の検討と改善
- 第15回 教育課程研究のまとめ

【授業の進め方】

講義形式をとることが多いが、必要に応じて受講者に直接、意見や発表を求め、討議も行う。

また、授業内課題の提出がある。

準備学習として、テキストを事前に読み、感想と疑問点をまとめる。

講義の後、毎回最後の10分程度の時間をとって、その日の講義内容についての感想や意見を書いていただく。

次回の講義の最初に10分程度の時間をとって主なものを紹介し、若干のコメントを加えて、次の講義を進める。

講義をもとに、受講生は各自関心のある授業テーマを設定し、学習指導案を作成する。

その指導案についての検討を踏まえ、指導案を改善する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①よくわかる教育課程 ②田中耕治編 ③ミネルヴァ書房 ④2009年

①中学校学習指導要領（平成29年3月告示） ②文部科学省 ④2017年

【参考図書】

『小学校学習指導要領』（平成29年3月告示） 文部科学省（文部科学省のHPからダウンロード）
『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示） 文部科学省（文部科学省のHPからダウンロード）
『改訂版 教育課程編成論』 安彦忠彦 放送大学教育振興会
『新版 カリキュラム研究入門』 安彦忠彦編 勤草書房
『教育課程論』 鈴木由美子編著 協同出版
『教育課程論 第二版』 柴田義松編著 学文社
『教育課程 –カリキュラム入門』 柴田義松 有斐閣
『授業デザインの方法と実際』 赤堀侃司 高陵社書店
『現代カリキュラム事典』 日本カリキュラム学会編 ぎょうせい
『教育方法学研究ハンドブック』 日本教育方法学会編 学文社
『現代教育方法事典』 日本教育方法学会編 図書文化
『新版 現代学校教育大事典』 安彦忠彦他編 ぎょうせい

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 30% 授業内小試験 20% レポート・課題 30% 受講態度 20%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

定期試験、授業内小試験、レポート・課題、および受講態度で行う。

受講態度：授業への参加（積極的な発言・発表・提案、討論、記録、感想・意見のコメントペーパーの提出など）

公開の教育研究会等への参加も、受講態度として評価する。

【履修上の心得】

受講者の主体的参加を期待する。（私語厳禁、意見発表などの授業のルールとマナーを守ること）

自分で考える習慣を身につけること、人前で自分の意見を発表できることが、基本になる。

授業では、必ず自分の意見を求められるので、恥ずかしがらないで、意見を述べること。

小論文を課すことがある。

【科目のレベル、前提科目など】

関連科目として、教育基礎論、教育方法論、教育制度論、教師論がある。

教職の免許を取得する学生にとっては、必修科目であり、教育学の基礎的な内容である。

科目名	道徳教育の理論と方法S
	対話による道徳教育をめざして
教員名	菊地 真貴子

【授業の内容】

- 1 学習指導要領の構造
- 2 道徳授業の展開と工夫
- 3 学習指導案の書き方
- 4 授業の分析と評価
- 5 戦後道徳教育の歴史

【到達目標】

- 1 道徳の学習指導要領の構造を知り、道徳教育の目的や授業の目標について理解することができる。
- 2 道徳の授業の展開と工夫について知見を広めることができる。
- 3 道徳の学習指導案の書き方を理解し、よりよい発問や教材分析についての思考を深めることができる。
- 4 道徳の授業の分析と評価について、さまざまな視点を知ることができる。
- 5 戦後の主な道徳教育論の史的展開について理解することができる。

【授業計画】

- 第1回 学習指導要領の構造
- 第2回 指導内容項目とねらいの分析
- 第3回 授業のねらいと資料分析
- 第4回 コールバーグの道徳性発達理論とモラルジレンマ資料
- 第5回 「資料分析の方法」による道徳の授業
- 第6回 授業における発問について
- 第7回 指導案作成の方法
- 第8回 指導案の作成(発問を中心に)
- 第9回 指導案の検討
- 第10回 授業の分析と評価(教員の役割に着目して)
- 第11回 授業の比較分析
- 第12回 対話による道徳教育をめざして
- 第13回 天野貞祐の道徳教育論の展開と課題
- 第14回 上田薫の道徳教育論の特色
- 第15回 「特別の教科・道徳」までの道徳教育の変遷と課題

三回の授業が一つのまとまりとなるようシラバスを作成している。予習・復習をする時にも三回の講義のまとまりを意識して行うようにするとよりわかりやすくなると考える。

【授業の進め方】

道徳の授業を「あって当然のもの」「楽しいもの」として教員として生徒と向かい合うのではなく、戦後の道徳教育論の展開と課題を知ることによって、「特別の教科・道徳」の授業がはらむ課題を乗り越え、少しでもよりよい授業にしようとする姿勢と思考をもてるよう、15回の講義を編成している。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

- ①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
 ①中学校学習指導要領 特別の教科 道徳
 ①中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編

学習指導要領は必ず手元において講義を聴いてください。解説も平成30年版が出版され次第、購入のこと

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 40% 授業内小試験 30% レポート・課題 10% 受講態度 20%

特記事項

授業で作成した指導案を提出してもらいます。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

講義の終了時に提出してもらおうシートを評価していきます。

【履修上の心得】

- 1 教員免許に関わる科目なので、まずは前向きな「聴く態度」で臨んでほしい。
- 2 「思考すること」の訓練の側面もあり、時に大変かも知れませんが、教員として大切な資質を育てることにもなる

と思うのでしっかり考える週間をつけてほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

特になし。

【備 考】

特になし。

科目名	特別活動の理論と方法S
教員名	須藤 勝

【授業の内容】

新学習指導要領による中学校の特別活動の目標では以下のように述べられている。

「集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や 自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを旨とする。

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるように する。
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間 としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。」

つまり、特別活動は「集団」による「活動」である。集団の中で生徒一人一人を成長させるとともに、集団の中で他者と意見を交え、協働的に活動し、集団自体も成長させる有意義な能力と環境を生み出す学習である。その活動は、教科などでのアクティブ・ラーニングの基礎的、基盤的な資質・能力の育成に繋がる。

その意図を汲みつつ、この目標を達成させるための理論・方法論の基礎を講義すると共に、先進事例などを参考にし、場や状況を設定し、学生の志望校種の特別活動計画を各自で策定できる能力を養うことで理論の実践化と現場感覚とを体験させる授業である。

現場での特別活動の指導に教科書はない。集団において、教員の指導の下、全員参加の話し合いや協力・協調によって一人ひとりが生活しやすい環境作りを築き上げ、学校生活が誰にとっても有意義なものとなるためには、まずよりよい学級組織作りが先決である。その上で、児童生徒が集団の中での自己を見出し、課題解決能力や自分の役割などを自覚させ、逞しく生きる力を身に付けさせる指導の在り方を学生個々に模索させる。つまり、集団の中で生徒一人一人を成長させ、同時によりよい学級、学校づくりをすることである。この基板の上に、アクティブ・ラーニング、つまり「主体的で対話的な深い学び」の環境が成立する。

また、特別活動では「振り返り」の学習が不可欠である。アクティブ・ラーニングを実質的なものにするためには、知識（内容）と活動が乖離しないための取組が必要となるからです。「主体性」と「対話」という協調とが「深い学び」が結びつく。そのためには、活動の後での「振り返り」において、「自己の認識」と「他者から学ぶ」という振り返りにより、いわゆる「メタ認知」が育つからである。

また、教師は自己の感想記録する必要がある。この作業が、教師と生徒のパフォーマンス評価に繋がる。話し合いの観点が、ルーブリック作りに繋がり、個々の生徒の文章が、ポートフォリオに繋がるのである。そのためには、毎回、記録をしっかり取ることも求められよう。

指導要録に、いい加減な文章評価を記載することなく、一人ひとりの的確な評価が記載されることに繋がるのである。

特別活動の評価は、このようにして教師が生徒と一緒に創り上げるものである。

なお、毎回の講義の最後に、次回のテーマと予習・復習の内容と時間を指示する。

【到達目標】

- 1.この講座そのものが一種の特別活動的な雰囲気のある教室をつくり、学生が個々に集団の中での自己を自覚し、自己表現と他者理解の力が発揮できる意識を高める。
- 2.学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解する。その上で、活動を通して、特別活動の意義や理論の理解を深め、実践に生かす 力につなげる。
- 3.班活動、学級・ホームルーム活動、委員会活動、クラブ活動などの様々な集団における担任や顧問教諭として、集団指導の高い資質・能力を身に付ける。
- 4.学級活動やホームルーム活動では、ワークショップ、構成的グループエンカウンター、ディベートなどの運営・進行の技術を身につけ、ファシリテーターとしての資質を養い、思考力、判断力、表現力などの主体的学びの基本を、活動を通して育成できる資質・能力を身に付ける。また、 ボランティア学習を通して社会性の視点を深め、磨く指導法を身につける。
- 5.LD、ADHDなどの傾向を持つ児童・生徒も含めて望ましい学級活動の在り方を構想できる。
- 6.昨今、教育における課題となっている「いじめ」「不登校や高校中退」「教師の体罰」「教師の多忙化」「保護者による児童虐待」などの関連 も考慮して、自律的に解決できる力量を持つ。
- 7.特別活動には入らないが、中学校や高等学校の部活動にも触れ、児童・生徒の自主性・主体性を伸ばす方法を幅広く思考できる。

なお、各回の授業計画項目の末尾の記号、番号は、文部科学省の教職課程コアカリキュラムの本領域の「到達目標」の略号及び番号である。

【授業計画】

第1回 1 開講に当たってのガイダンス的な説明

2 特別活動における基本事項、教育課程の中の特別活動の位置づけ、特別活動の歴史の変遷、特別活動と人間形成、特別活動の現代的意義(21世紀型スキルと生きる力)、特別活動における指導の基本原則
到達目標(1)-1)、(2)-1

第2回 特別活動の特質「なすことによって学ぶ」(J・デューイ)

1) 生徒・児童の発達段階と特別活動

到達目標(1)-1)

2) 特別活動と学級経営・ホームルーム経営

到達目標(1)-3)

3) 特別活動の指導計画と活動計画

到達目標(2)-1)

4) 特別活動の評価の視点、特別活動と新学習指導要領が目指している教育の在り方

到達目標(2)-2)

第3回 小学校の特別活動

1) 小学校の特別活動の目標・内容・指導計画、到達目標(1)-1)

2) 学級活動の目標・内容・指導 到達目標(1)-3)

第4回 3) 児童会活動の目標・内容・指導

到達目標(1)-4)

4) 学校行事の目標・内容・指導

到達目標(1)-4)

5) クラブ活動の目標・内容・指導

到達目標(1)-4)

第5回 中学校・高等学校の特別活動

1) 特別活動の目標・内容、特別活動の指導計画、学級活動の目標・内容・指導計画

到達目標(1)-1)

2) ホームルーム活動の目標・内容・指導(高等学校)。ホームルームの名称の意味。

到達目標(1)-3)

第6回 3) 生徒会活動・学校行事の目標・内容・指導

到達目標(1)-4)

4) 教育課程外の「部活動」について

第7回 特別活動と他の教育活動との連携

1) 特別活動と各教科および外国語活動(小学校)

到達目標(1)-2)

2) 特別活動と道徳(原則として小学校及び中学校)

到達目標(1)-2)

3) 特別活動と総合的な学習の時間

到達目標(1)-4)

4) 特別活動と生徒指導

到達目標(2)-2)

5) 特別活動と進路指導・キャリア教育

到達目標(2)-1)

第8回 特別活動への期待

1) 世界的にも日本の教育の独自性として注目されている特別活動とは、教育課程内で、現代の子どもに必要な集団体験をさせ、その実践を学ぶ活動を通して、「自らの気づき(メタ認知)を促す」学習法であるという特色があることを自覚・理解させる。("TOKKASTU"の名称で日本の方法を導入したエジプトの事例も紹介する)

到達目標(2)-3)

2) 特別活動が直面する様々な課題に対する自立的な解決力を有する指導者としての資質を育成する

第9回 いじめや不登校などのない学級・学校づくりに向けた特別活動の効果

1) 特別活動における役割分担の意味や民主的な運営による効果

到達目標(2)-3)

2) 言語活動との連携によるコミュニケーション能力開発の推進などによる効果。

到達目標(2)-3)

第10回 現代社会に必要な「生き抜く力」と特別活動

1) 生涯学習社会を構築する「自立・協働・創造」・「生き抜く力」

2) 特別活動で身につけさせたい「21世紀型能力」の理論の理解とそれを実践へと落とし込む方法、授業づくり

到達目標(2)-3)

第11回 学級活動、ホームルーム活動での取り組み例

1) 特別活動の基本は、学級活動・ホームルーム活動にある。同時に学級経営及び学級づくりの核となる活動でもある。そこで行われる様々な話し合いや活動には、それ相応の訓練が必要である。

到達目標(1)-3)

2) その代表的な例示として、ワークショップや構成的グループエンカウンターなどの小グループによる民主的な話し合い(他者理解と自己確認)の体験と、それを通じたファシリテーターとしての資質の育成。さらには、事後の振り返り(リフレクション)活動の重要性を理解させる。自他の理解のみならず、次に繋がる建設的な振り返りを推進させることである。

到達目標(2)-3)

第12回 3) 学級・ホームルーム活動では、競技型ディベートの導入も効果的であり、それは反対意見との出会い、グループ内での役割分担と協力体制(チームワーク)、論証による論理概念の理解(=根拠の戦い)などを通して「主体的対話的な深い学び」の方法を理解させる。

到達目標(2)-3)

第13回 4) 学級または学校で取り組む、ボランティア活動(ボランティア学習)について学ぶ。なぜボランティア活動をするのか?という動機づけ、学校外の大人との折衝、異年齢交流、地域貢献ボランティア活動などでよく用いられる独特の振り返り(リフレクション)方法を習得させる。

到達目標(2)-4)

第14回 特別活動のまとめ

1) 学級活動・ホームルーム活動で培った資質能力を児童会・生徒会(各種委員会)や学校行事などで応用し活用す

る指導の方法。

到達目標（2）－1）

2）また、それを自己の日常生活に活かす、教科の学習に活かすなど、様々な動機づけへの気づきの指導。

到達目標（1）－2）

第15回 特別活動の評価の在り方。

1）「活動とその視点」から生み出す新しい評価法（パフォーマンス評価、ポートフォリオの活用、ルーブリックの作成方法など）

到達目標（2）－4）

2）指導要録に記載する特別活動の評価の書き方。

3）世界各国に見られる学校のアクティビティに対する評価例などを示し、視野を広げさせる。

【授業の進め方】

講義形式だが、講義の途中で、自分が教師の立場だったら、どう考えるか？ どうするか？ というような発問をして、机間巡視してマイクを向けることがある。いつも当事者意識を持って講義を聴いて欲しい。

【教科書（必ず購入すべきもの）】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①『特別活動の理論と実践（改訂版）』 ②中園大三郎ほか著 ③学術研究出版 ④2016年4月 ⑤1800円＋税

テキストは最新版を使用。

【参考図書】

1 新学習指導要領 「小学校」及び「中学校」（文部科学省2017年3月告示）（www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1383986.htm）

※「高等学校」はまだ公示されていない。

2 『特別活動－理論と方法』 林尚示 編著 学文社刊 2016年4月発行 2700円＋税

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 0%

特記事項

1. 定期試験は、小論文形式（1200字程度）50分、50点満点。観点は、「内容・個性」、「論理・段落」、「修辞・表記」の3観点。

2. 「レポート・課題」点は、毎回のリアクションペーパー（13～14回程度）を採点して、50点に換算。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

詳細は第1回目の講義で説明する。

【履修上の心得】

テキスト通りに進むわけではないので、毎回、講義の終わりに次回のテーマを告知するので、関連した部分を予習しておくこと。

【科目のレベル、前提科目など】

大学2年生レベルである。1年生で少し教職科目をやった上で、2年生以上が履修することが望ましい。

科目名	教育方法論S
教員名	樋口 和彦

【授業の内容】

- * この科目は教職を目指す皆さんの必修科目です。したがって『教員採用試験』は必ず受けてください。
- * この科目では「ICTの活用」、「アクティブラーニング」、「プレゼンテーション」なども学習方法のひとつとして取り入れる予定である。
- * 初回の授業時に、授業登録、準備するものなど大切な説明をするので初回からきちんと出席するようにしてください。やむを得ない理由で初回授業を欠席した場合は大至急研究室にきてください。

教育の各要素に対して、情報ネットワーク、情報機器をどのように役立てればよいのかを考え、その活用を前提とした「教育の方法ならびに技術」に関する基礎理論と実践技術を習得するのが本科目の主目的である。

教育の要素は大別すると2つある。

ひとつは情報ネットワーク・情報機器を活用した教育の在り方・方法、マルチメディア教材活用、DTPR、等に関する分野である。これらの分野における理論とその活用技術を学んでいく。

もうひとつは、教育パフォーマンスをどのようにして、定量把握するのか、その教育データをどのように分析するのか、そしてその分析結果をどのように評価してつぎの教育方法に反映・活用していくか、に関わる分野であり、教育データの統計的処理とその分析・活用について学んでいく。

(授業の概要)

教育の各要素に対して、情報ネットワーク、情報機器をどのように役立てればよいのかを考え、その活用を前提とした「教育の方法ならびに技術」に関する基礎理論と実践技術を習得するのが本科目の主目的である。

教育の要素は大別すると2つある。

ひとつは情報ネットワーク・情報機器を活用した教育の在り方・方法、マルチメディア教材活用、DTPR、等に関する分野である。これらの分野における理論とその活用技術を学んでいく。

もうひとつは、教育パフォーマンスをどのようにして、定量把握するのか、その教育データをどのように分析するのか、そしてその分析結果をどのように評価してつぎの教育方法に反映・活用していくか、に関わる分野であり、教育データの統計的処理とその分析・活用について学んでいく。

(1) 実施した教育の評価をある程度客観的に捉えることは、つぎの教育方法の選択において重要な要素である。したがって、教育データの把握・分析の考え方をまず理解することが重要である。

(2) 状況に応じた教育方法を選択することがつぎに重要となる。どのような教育方法があるのかを理解することが重要となる。

(3) 選択した教育方法を効率的に実施するための教材開発ならびに実施における情報機器の活用に関する基本的内容を理解することが重要となる。

【到達目標】

- 1.教育データの統計的処理ができるようになること。
- 2.教育データの分析ができるようになること。
- 3.分析結果を同様に次の教育に活かしていくかの基本構想が構築できるようになること。
- 4.情報機器を教育に活用するための基本手法を修得すること。

【授業計画】

第1回 ガイダンス、準備、この授業のねらい（到達目標(1),(2),(3)全体の説明・確認）

予習・復習（20分）：この授業の狙いをもう一度確認してください。

第2回 メール環境の設定、フォルダの作成、ネットワーク、ネットワークドライブの活用な

ど（到達目標(3)全体達成のための準備）

予習・復習（30分）：ICTを用いた学習展開もすることを踏まえて、ネットワークやネットワークドライブを基本的な用法などを良く確認しましょう。

第3回 教育データの把握と情報処理（到達目標(1)-1）

予習・復習（40分）：ICTを活用した「教育データ」の収集意義についてもう一度確認しましょう。

第4回 教育データの基本統計量の処理(到達目標(1)-2))

予習・復習（40分）：基本統計量とは？に関して各自で調べて授業に臨みましょう。

第5回 教育データ間の関連性・因果性(到達目標(1)-3),(1)-4))

予習・復習（40分）：基本統計量の処理が正しくなされているか？確認しましょう。。

第6回 教育評価の分析(到達目標(1)-4,(2)-2))

予習・復習（40分）：教育データ間の関連性、因果性について確認しましょう。

第7回 教育評価への分析結果の活用(到達目標(1)-4),(2)-2),(3)-2))

予習・復習（50分）：分析結果をもう一度良く確認しましょう。

第8回 教育方法の理解Ⅰ：分析結果に基づいた各自の（あるいはグループでの）教育方針の立案（到達目標(2)-2),(3)-1),(3)-2))

予習・復習（60分）

第9回 教育方法の理解Ⅱ（プレゼンテーションの準備）：立案した教育方針をプレゼンテーションするためのスライド（PPT）を作成(到達目標(2)-2),(3)-1),(3)-2))

予習・復習（120分）

第10回 アクティブラーニングⅠ：プレゼンテーションならびにプレゼンテーション時のディスカッション結果を確認・フィードバック(到達目標(1)-4),(2)-2),(3)-1),(3)-2))

予習・復習（60分）

第11回 アクティブラーニングⅡ：プレゼンテーション時のディスカッション結果を踏まえて、立案した教育方針の見直し（到達目標(1)-4),(2)-2),(3)-1),(3)-2))

予習・復習（60分）

第12回 従来の基礎的教育技術の考察(到達目標(1)-1),(2)-1),(2)-2))

予習・復習（60分）：皆さんが目指している教員免許の科目におけるICT活用例を調べて授業に臨みましょう。

第13回 ICT：ネットワーク・情報機器活用を前提とした教育方法との比較を通して、従来型教育方法の利点を考察（到達目標(1)-1),(2)-1),(2)-2),(3)-1),(3)-2))

予習・復習（60分）：今日の教育現場におけるICT活用例を調べて授業に臨みましょう。

第14回 今日の教育方法を実践していく上で要求される技術(到達目標(1),(2),(3)全体)

予習・復習（60分）：今日の教育現場におけるICT活用例、アクティブラーニング活用例を調べて授業に臨みましょう。

第15回 全体のまとめ、まとめ応用課題の提出(到達目標(1),(2),(3)全体)

予習・復習（60分）：この科目全体の内容、ポイントを確認しましょう。

(1) まずは「考え方」「理論」を学ぶ

(2) 次にその「理論」を確認（数値例を用いて、コンピュータで処理）

(3) 分析してその結果をまとめる

この手順で授業をすすめていく。

【授業の進め方】

(1) 情報化社会の特徴、教育への影響などの現実を先ず認識する。

(2) つぎにコンピュータを教育のいろいろな場面いかに活用していくかについての基本的知識(理論)と技術を学ぶ。

(3) 実際にコンピュータを活用し、結果をだす。

(4) その結果の内容・考え方を確認しながらすすめていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は後に指示する。

【参考図書】

『新学習指導要領』文部科学省（平成29年3月公示）http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1383986.htm

*著作権の課題がクリヤー出来れば「学習支援システム：WebClass」上で活用出来るようにする。

上記以外の参考図書に関しては、後に指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 33.34% 授業内小試験 0% レポート・課題 33.33% 受講態度 33.33%

特記事項

- (1) 毎回の授業への取り組み姿勢を第一に重要視する。
- (2) ほぼ毎回の授業時間内レポートをすべて提出し、合格すること。
レポートは、原則として各テーマ（各項目）に対して提出する。
レポートは、13回程度を予定。
- (3) 定期試験で60点以上の成績であること。

上記「評価比率」であるが便宜上合計すると100%になるように記載してあるが、これは各評価項目がその比率に達すれば単位を認定するという意味ではなく、全ての項目に合格しなければ単位を認定することはできないので注意すること。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

毎回の授業の後半に、その日の内容をまとめる（多少の応用も含む）レポートを提出（時間内）
時間内にレポートをまとめ切ることが出来なかった場合は追加レポートを提出（電子メール）
次の授業時に前回授業時のレポート内容の解説・確認を行うので、その後必要であれば修正レポートを提出（電子メール）

これらのことを毎回きちんと行っていくことが大切である。

【履修上の心得】

具体的数値例を多く用いて、授業を進めていくので、各自計算用具を準備し、必ず計算をして、確認しながらまとめていくこと。

将来教職に就くことを希望している諸君に必要な科目であることは当然だが、教育データのコンピュータによる処理と分析を主要テーマとしているので、「情報処理」関連の科目内容に最も関連が深い。

【科目のレベル、前提科目など】

特に関連が深い理論分野として、経営数学、統計学、数理統計学等があげられる。

またコンピュータの活用（プログラムを開発して、教育データを具体的に処理する。

あるいは電子教材の開発など）も取り上げるので、その関連科目とも密接な関連がある。

アプリケーションとして、スプレッドシート、プレゼンテーションソフト、画像・動画処理ソフト、開発言語系ソフトなどを活用する予定。

教員資格の取得を目指している学生にとっての必修科目であり、また今日の教育現場において、教員に対してその理解と実際の能力が益々大きく要求されている事に深い関連がある内容を取り上げる科目である。

【備 考】

第1回目の授業時に、準備するもの、レポートの提出要領など重要な説明を行う

科目名	教育相談S
	キャリア開発の視点から教育相談を問い直す
教員名	榎本 和生

【授業の内容】

生徒指導Ⅰにおける理論的な学習の上に、教師が教育相談を行うにあたって必要とされる基礎的な知識を身につけることを目的とするとともに、カウンセリングの模擬的演習を行い、学校教育相談を行う実践的な指導力を養う。

【到達目標】

受講後、次のことができるようになる。

1. 教育相談の原理や理論を整理して述べることができる。
2. スクールカウンセラーの職務を整理して述べるができる。
3. カウンセリングスキルを用いて、カウンセリングできる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション：授業の内容と進め方について説明する。また、学校教育相談とは何かを考える。
 予習：配付資料を読んでおく。
 復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第2回 諸外国におけるカウンセリングのあり方を検討し、カウンセリングの現状を学習する。
 予習：配付資料を読んでおく。
 復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第3回 開発的・予防的な教育相談について説明する。
 予習：配付資料を読んでおく。
 復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第4回 カウンセリング技能-傾聴スキル-について説明する。
 予習：配付資料を読んでおく。
 復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第5回 カウンセリング技能-傾聴スキル-を演習する。
 予習：配付資料を読んでおく。
 復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第6回 学校教育相談の組織・運営の在り方について説明する。
 予習：配付資料を読んでおく。
 復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第7回 相談係、学級担任が行う教育相談の実例を示しながら、望ましい在り方を検討する。
 予習：配付資料を読んでおく。
 復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第8回 教科担任等が行う教育相談の主な内容と在り方を検討する。
 予習：配付資料を読んでおく。
 復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第9回 「いじめ・暴力行為」の理解と対応について検討する。
 予習：配付資料を読んでおく。
 復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第10回 「不登校」の理解と対応について検討する。
 予習：配付資料を読んでおく。
 復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第11回 「LD、ADHD」の理解と対応について検討する。
 予習：配付資料を読んでおく。
 復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第12回 望ましい人間関係づくりの方法について検討する。
 予習：配付資料を読んでおく。
 復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第13回 学校教育相談の問題と課題について検討する。
 予習：配付資料を読んでおく。
 復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第14回 学校教育における望ましい教育相談のあり方を検討する。
 予習：配付資料を読んでおく。
 復習：本時のキーワードを中心にノートに整理する。
- 第15回 既習の内容について振り返り、確実な知識にする。
 小試験を実施する。
 予習：配付資料を読んでおく。

【授業の進め方】

講義の都度に配布する資料等を基にして発表・討議で授業を進めます。したがって受講生からの質問等による対話を重視するとともに、学校教育の場で実際に行われる教育相談を想定した演習も多く実施する。積極的な発言や参加を期待したい。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

なし。必要時に資料を配付する。

【参考図書】

榎本和生ほか編「大学生のためのライフキャリアデザイン」2013.4 さんぽう

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 80% レポート・課題 0% 受講態度 20%

【履修上の心得】

配布した資料を前もって熟読しておくこと。毎回配布する資料等を保存するための専用クリアホルダー(A4、30ポケットで可)の準備を願いたい。

【科目のレベル、前提科目など】

生徒指導論(進路指導) / 生徒指導 I の実践・発展としての II であるため、連続して履修することが効果的である。本講義では、治癒的な心理療法に基づくカウンセリングの技法習得ではなく、学校教育の専門家としての教師に求められる教育相談についての基礎・基本の習得を目指すものである。したがって講義の性格上、教育心理学を既習、または履修中であることが望ましい。

科目名	教育相談S
教員名	伊東 孝郎

【授業の内容】

本講義の目的は、中学高等学校における教育相談について学ぶことにより、さまざまな生徒支援のあり方を検討することにある。

同時に、その基礎的な態度ともいえるカウンセリング・マインドについて理解し、生徒や保護者を多角的視点から理解し、関わることの重要性を認識する。

将来、教員あるいは心理職として、相談活動はもちろん、予防的関与も含めた生徒指導全般において、生徒の立場に立った教育活動をしていくための基礎となる科目である。

【到達目標】

中学・高校における教育相談の意義と理論を理解する。

教育相談に必要な基礎知識や技能を理解する。

教育相談の組織的な取り組みや連携の重要性を理解する。

カウンセリング・マインドとは何か、理解する。

【授業計画】

- 第1回 教育相談の意義とカウンセリング・マインド
予習（60分）教育相談の定義について調べる。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第2回 教育相談に関わる心理学の基礎的な理論と概念
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第3回 教育相談と生徒指導1 ― 生徒指導の概要と原理、児童生徒理解
予習（60分）教科書1章を読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第4回 教育相談と生徒指導2 ― 生徒指導の主体と組織、問題行動の意味の理解と早期発見早期対応
予習（60分）教科書2章を読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第5回 教育相談と進路指導1 ― 教育相談と進路指導の接点、その内容と領域について
予習（60分）教科書3章1・2節を読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第6回 教育相談と進路指導2 ― 進路に関する相談について
予習（60分）教科書3章3～5節を読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第7回 教育相談の組織体制
予習（60分）教科書4章1・2節を読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第8回 教育相談の進め方
予習（60分）教科書4章3節を読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第9回 地域の専門機関との連携
予習（60分）教科書4章4・5節を読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第10回 いじめ(ネットいじめ含む)と教育相談
予習（60分）最近のいじめの状況について調べる。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第11回 不登校と教育相談
予習（60分）最近の不登校の状況について調べる。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第12回 発達障がいと教育相談
予習（60分）発達障がいについて調べる。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第13回 虐待および学校の危機における教育相談
予習（60分）虐待について調べる。
復習（60分）授業で紹介された事例について検討する。
- 第14回 カウンセリングの基本的技法
復習（60分）授業で紹介された事例について検討する。
- 第15回 スクールカウンセリングの実際
予習（60分）スクールカウンセリング制度について調べる。

復習（60分）授業で紹介された事例について検討する。

【授業の進め方】

本講義は、教育相談に関する知識を単に伝達するにとどまらない。受講生自ら、事例について考え、発言する等の主体的な関わりが求められる。

授業内で学んだこと、考えたことについて、不定期にリアクションペーパーへの記述を求める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN
①生徒指導・進路指導・教育相談 ②鈴木康明編 ③北大路書房 ④2005年 ⑤2100円+税 ⑥9784762824333

学内書店等にて各自で購入しておくこと。

なお同書は2011年再版時に、大幅に内容が変更されて現在に至っている。奥付を確認して、それ以前の初版は購入しないこと。

【参考図書】

大学生のためのライフキャリアデザイン 榎本和生他編 さんぼう 2013年 2000円+税

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

【履修上の心得】

あらゆるものが不安定な現代にあって、心理職はもちろん、教職を目指す者たちにも、傷つきやすい心を持った児童・生徒を理解し、関わり続けるために、カウンセリング・マインドを持つことが強く求められている。教育相談についての学習は、きわめて重要な体験となるであろう。積極的に講義に参加することが求められる。

【科目のレベル、前提科目など】

免許法施行規則に定める「教職に関する科目」の中の授業科目で、中学校教諭の免許状・高等学校教諭の免許状を修得するためには必修となる。

また認定心理士資格申請において、「G.臨床心理学・人格心理学」に区分される予定の科目である。

教職志望者にとっては、本講義を通して、カウンセリング・マインドについて理解することにより、さまざまなメリットが得られる。一例を挙げるならば、他の教職関連科目一特に実習や事例に関する学習の際など、児童・生徒の立場に立つことで、情報を多角的に把握し、適切な対処方法をとれるようになることが期待される。

【備 考】

出席確認はカード型端末機のみで行う。学生証不携帯は欠席扱いとなるので注意すること。

科目名	アカデミック・レクチャー
	Academic Lecture
教員名	Harry Harris

【授業の内容】

Academic Lecture is designed to help students develop English listening and note-taking skills for use in academic and other environments.

アカデミック・レクチャーは、学術及びその他の分野での英語のリスニングとノートをとるスキルを伸ばすために、構成されたコースである。

【到達目標】

Students who complete Academic Lecture course requirements should demonstrate the following:

本講座な目的は下記の通りです。

improved ability to understand a variety of real-world content-based academic lectures in English;

英語のアカデミック・レクチャーに基づいたリアルワールドコンテンツベースレクチャーを理解する能力の上達、

greater comprehension of and ability to use general interdisciplinary content and function vocabulary;

一般的及び学際的なコンテンツと機能語彙をより理解したり使用する理解力の上達、

increased background knowledge of a variety of disciplines;

様々な分野の予備知識の向上、

improved note-taking and presentation skills, including the ability to summarize lecture material, confirm understanding of that material, and respond to inquiries about it.

レクチャー教材を要約したり、その教材の理解を確認したり、又それらの教材についての質問への応答等の能力を含め、ノートをとるスキルと発表のスキルの向上。

【授業計画】

第1回 Course introduction; Lecture 1 and activities (授業の概要について、第1レクチャー、活動)

第2回 Lecture 2 and activities (第2レクチャー、活動)

第3回 Lecture 3 and activities (第3レクチャー、活動)

第4回 Student lectures (学生のレクチャー)

第5回 In-class test; note submissions (授業内の試験、ノート提出)

第6回 Lecture 4 and activities (第4レクチャー、活動)

第7回 Lecture 5 and activities (第5レクチャー、活動)

第8回 Lecture 6 and activities (第6レクチャー、活動)

第9回 Student lectures (学生のレクチャー)

第10回 In-class test; note submissions (授業内の試験、ノート提出)

第11回 Lecture 7 and activities (第7レクチャー、活動)

第12回 Lecture 8 and activities (第8レクチャー、活動)

第13回 Lecture 9 and activities (第9レクチャー、活動)

第14回 Student lectures (学生のレクチャー)

第15回 In-class test; note submissions (授業内の試験、ノート提出)

【授業の進め方】

In this course, students will listen to lectures adapted to their needs and abilities and engage in activities that will help them understand the subject matter. Student or teacher lectures include TOEFL, TOEIC, and/or other test-related topics. Students will also present their own short lectures in order to practice information-gathering and presentational skills. Three in-class tests and periodic note submissions will help encourage students to review course material.

この科目では学生が自分の要求と能力に適応したレクチャーを聞いたり、テーマをもっと深くわかるような為の活動をしたりします。学生の又は教師のレクチャーはTOEFL, TOEIC, 且つ又、他の関連した試験についても話します。情報収集とプレゼンテーションスキルを磨く為に学生が自分のレクチャーを発表します。三回の授業内小試験と周期的なノート提出は授業で学ぶ情報を復習する目的です。

体験学習は学生に非常に大切な学習法なので講師だけではなく、学生も発表します。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

Materials for the course will be teacher-generated. 教材は講師作成のもの

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 45% レポート・課題 45% 受講態度 10%

特記事項

A. In-class tests	授業内小試験	45%
B. Student lectures (30%) Notes (15%)	レポート・話題 (学生のレクチャー 30%)・(ノート 15%)	45%
C. Class participation/attitude	受講態度	10%

Students are encouraged to attend all class sessions to maximize learning opportunities.

履修学生の学習機会を増すために、常時出席を薦める。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

Meet deadlines.

作文提出の締切日厳守

Plagiarized assignments, machine translations, or borrowed work can result in course failure.

盗作のもの、マシーン翻訳のもの、借用のものは不合格になる事がある。

To complete course requirements, contact your instructor before doing nursing care training or teaching practicum.

授業の必要性到達する為に教育実習や介護体験に行く学生は事前に連絡する事。連絡がない場合は必要な課題等が出来ない為に単位取得が困難となる場合がある。

【履修上の心得】

English listening and note-taking skill progress requires effort and cooperation.

英語リスニングとノートをとるスキルの進歩には努力と協力が必要である。

【備 考】

Information confirmation, idea summary, note review, and peer cooperation are important in this course.

情報の確認と要約、ノートのレビュー、ピア協力はこの科目にとって大切です。

科目名	人格心理学
教員名	伊東 孝郎

【授業の内容】

人格（パーソナリティ）とは何か。持って生まれた気質をもとに、さまざまな経験が加わってできあがった、その人に特徴的な行動や考えなどを決定するものである。また外部観察者の視点に立つならば、その人の行動や考えに共通するパターンであるといえる。「性格」という語も、ほぼ同じような意味で使われることが多い。

そして感情とは何か。その人が置かれた状況下で、心の中で起こる喜びや怒りなどの主観的な経験のことである。こうした経験のパターンにさまざまな要素が加わって、人格ができるといえる。

本講義では、人格と感情について多面的に学習し、人格と感情に関する基礎的知識を身につけると同時に、自身を含めた人間の理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

人格と感情に関する基礎的知識を身につける。

自身を含めた人間の理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション—人格、性格、気質、感情
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第2回 自分の性格を知る—心理テストの実施
復習（60分）授業で実施した自分の心理テストの結果について検討する。
- 第3回 個人差について
予習（60分）教科書第1章を読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第4回 構成概念と環境の影響
予習（60分）教科書第2章を読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第5回 人格の測定
予習（60分）教科書第3章を読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第6回 人格検査の信頼性と妥当性
予習（60分）教科書第4章を読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第7回 類型論
予習（60分）教科書第5章を読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第8回 特性論
予習（60分）教科書第6章を読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第9回 尺度水準について
予習（60分）教科書第7章を読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第10回 知能について
予習（60分）教科書第8章を読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第11回 血液型性格判断のウソ
予習（60分）教科書第9・10章を読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第12回 遺伝と環境
予習（60分）教科書第11章を読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第13回 気質とその発達
予習（60分）教科書第12章を読む。
復習（60分）授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第14回 感情に関する理論と感情喚起の機序
復習（60分） 授業で指示されたことを中心に復習する。
- 第15回 感情が行動に及ぼす影響
復習（60分） 授業で指示されたことを中心に復習する。

【授業の進め方】

本講義では、過去から現在に至る人格と感情の理論と研究の成果、理解の方法、人格の形成過程、人格と感情に関する問題等、人格と感情について多角的に幅広く学ぶこととする。

講義は教科書を用いて進めるが、一部補助教材としてプリントを配布する。

授業内で、小グループによるディスカッションなども実施する。

授業内で学んだこと、考えたことについて、不定期にリアクションペーパーへの記述を求める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

①はじめて学ぶパーソナリティ心理学—個性をめぐる冒険 ②小塩真司 ③ミネルヴァ書房 ④2010年 ⑤2500円+税
⑥9784623056842

学内書店等にて各自で購入しておくこと。

【参考図書】

講義の中で適宜紹介する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 70% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 30%

【履修上の心得】

人格と感情について学ぶことは、ある意味、人間そのものを学ぶことと同義である。青年期の受講生にとって、きわめて大切な体験になるであろうし、当然、自己理解も深まることが予想される。本講義の意義を十分に理解した上で、真摯な姿勢で受講してほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

「心理学概論A」「心理学概論B」、または「心理学A」「心理学B」をすでに受講済みのこと。

心理学専攻カリキュラムの中では、専攻専門科目として位置づけられる。

心理学専攻の学生にとって、本講義は認定心理士資格申請の選択科目(G.臨床心理学・人格心理学)に区分される予定の科目である。資格取得希望者は、計画的な履修を行うこと。

他学部・他専攻の学生にとって、心理学専門科目である本科目の授業内容や試験の内容は、難易度が高いものと予想される。相応の覚悟を持って履修し、十分な予習復習をすること。

【備 考】

出席確認はカード型端末機のみで行う。学生証不携帯は欠席扱いとなるので注意すること。

科目名	環境心理学 I
教員名	平田 乃美

【授業の内容】

環境心理学は、心理学の諸理論及び心理学の領域で発展してきた測定手法を生かして、環境と人間行動との関わりを明らかにしようとする学際的な研究領域です。この領域では、人間の行動に効果をもつ「環境」について、個々の要因分析とともに、全体としての効果やその文脈が検討されます。本授業では、人間-環境の相互作用から生じる人間の知覚・認知・行動の特性と背景を学び、それらの知見を生活空間の改善や景観のデザインに応用するための環境心理学的視点・手法について考えます。

【到達目標】

- 1) 人間-環境の相互作用の視点から、人間の知覚・認知・行動の特性と背景を理解する。
- 2) 心理学領域で発展してきた環境の測定・評価の手法について協働・体験学習を含めて学ぶ。
- 3) 1), 2) を生活空間の改善やデザインに応用するための環境心理学的視点をもつ。

【授業計画】

第1回 受講案内

- 予習 (90分)：シラバスを読み環境心理学について調べる
- 復習 (90分)：講義を振り返り学んだことや疑問点等をまとめる

第2回 研究史：環境心理学の成立

- 予習 (90分)：配布資料を読み当該課題について調べる
- 復習 (90分)：当該領域の成立過程と時代背景を確認する

第3回 環境心理学の諸相

- 予習 (90分)：配布資料を読み当該課題について調べる
- 復習 (90分)：当該領域の諸相と問題をまとめる

第4回 感覚・知覚の基礎知識

- 予習 (90分)：配布資料を読み当該課題について調べる
- 復習 (90分)：ヒトの感覚と知覚の特性について確認する

第5回 視覚の特性

- 予習 (90分)：配布資料を読み当該課題について調べる
- 復習 (90分)：ヒトの視覚の特性について確認する

第6回 <体験学習>環境の経験：閉眼歩行

- 予習 (90分)：配布資料を読み当該課題について調べる
- 復習 (90分)：グループごとに実施結果を話し合い報告書を作成する

第7回 環境認知と記憶，目撃者証言

- 予習 (90分)：配布資料を読み当該課題について調べる
- 復習 (90分)：ヒトの記憶の特性について確認する

第8回 環境の測定と評価

- 予習 (90分)：配布資料を読み当該課題について調べる
- 復習 (90分)：環境測定・評価の手法について確認する

第9回 SD法による景観評価

- 予習 (90分)：配布資料を読み当該課題について調べる
- 復習 (90分)：SD法の手続きと活用法について確認する

第10回 <体験学習>認知地図

- 予習 (90分)：指示された場所の認知地図を作成する
- 復習 (90分)：作成した地図を分析して報告書を作成する

第11回 <体験学習>錯視体験：エイムズの部屋の製作

- 予習 (90分)：配布資料を読み当該課題について調べる
- 復習 (90分)：グループごとに実施結果を話し合い報告書を作成する

第12回 <体験学習>環境の経験：サウンドスケープ

- 予習 (90分)：配布資料を読み当該課題について調べる
- 復習 (90分)：グループごとに実施結果を話し合い報告書を作成する

第13回 <体験学習>環境の経験：パーソナルスペース

- 予習 (90分)：配布資料を読み当該課題について調べる
- 復習 (90分)：グループごとに実施結果を話し合い報告書を作成する

第14回 色彩心理学

- 予習 (90分)：色の基本知識について調べる
- 復習 (90分)：色彩の心理的・生理的効果について確認する

第15回 環境美学

予習 (90分)：配布資料を読み当該課題について調べる

復習 (90分)：美しさの評価について学んだことや疑問点等をまとめる

【授業の進め方】

<体験学習>について

天候・学校行事等の事情で教室や順序が変更される場合があります。

一部はグループ・ワーク形式ですが、報告書は毎回各自が作成・提出します。

課題内のグループ・ディスカッションも評価対象となります。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

授業時に配布 (ファイルをダウンロード) します。教科書や文献の購入はありません。

【参考図書】

『朝倉心理学講座12 環境心理学』佐古順彦・小西啓史編 朝倉書店 (2007) ¥3,672 (ISBN-10: 4254526725)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 60% レポート・課題 40% 受講態度 0%

【履修上の心得】

[出席について]

出席確認はカード型端末機のみで行い、学生証不携帯は欠席扱いとなります。

[課題について]

実施時間に提出した場合のみ、成績評価対象とします。未提出への対応策はありません。

[成績について]

評価基準の個別対応は一切ありません。

個別の結果について、成績発表前の問い合わせには返答できません。評価内容についても、成績調査期間外に調べることはできません。

[資料について]

講義資料のスライド (動画、写真等) を複製してお譲りすることはお断りしています。再度確認したい資料があれば、授業終了後、機器の電源を切る前に声を掛けてください。

【科目のレベル、前提科目など】

認定心理士資格申請区分: 「選択科目」 (社会心理学・産業心理学)

科目名	社会科教育法 I
教員名	木村 勝彦

【授業の内容】

中学校社会科の特色を理解し、その指導に必要な基本的知識及び実践的技能の習得を目的とする。特に I では中学校社会科の概略を講義し、その後、地理的分野についての授業を検討する。さらに地理的分野の授業研究の一貫として小山市、栃木県を中心とした教材研究のために小山市立博物館及び栃木県立博物館を見学する。

【到達目標】

中学校社会科の特色を理解できる。中学校社会科の指導に必要な基本的知識を把握している。中学校社会科地理的分野の指導に必要な実践的スキルが身についている。

【授業計画】

- 第1回 中学校社会科とは何かーオリエンテーション
(課題：中学校社会科とは何か。復習：1時間程度)
- 第2回 中学校社会科の法的位置
中学校社会科の法的位置を学習指導要領の位置づけから検討する。
(課題：中学校社会科の法的位置の検討。復習：1時間程度)
- 第3回 中学校社会科の目標
中学校社会科三分野の授業目標について検討する。
(課題：中学校社会科三分野の授業目標とは何か。復習：1時間程度)
- 第4回 中学校社会科三分野の内容概略
中学校社会科三分野の授業内容について検討する。
(課題：中学校社会科三分野の授業内容構成について。復習：1時間程度)
- 第5回 社会科の授業の考え方
中学校社会科の授業に対する考え方について検討する。
(課題：中学校社会科三分野の授業の構想について。復習：1時間程度)
- 第6回 地理的分野の目標と内容構成
地理的分野の目標と内容構成について検討する。
(課題：地理的分野の目標と内容構成について。復習：1時間程度)
- 第7回 大学周辺巡検(フィールドワーク)(2時間予定 1/2)
大学周辺でフィールドを行い、町の景観を検討する。
(課題：フィールドワークの結果、町の景観について気がついたことを整理する。復習：1時間程度)
- 第8回 大学周辺巡検(フィールドワーク)(2時間予定 2/2)
大学周辺でフィールドを行い、町の景観を検討する。
(課題：フィールドワークの結果、町の景観について気がついたことを整理する。復習：1時間程度)
- 第9回 地理的分野の授業(その1)
「世界各地の人々の生活と環境」に関する授業を映像と記録で検討する。
(課題：「世界各地の人々の生活と環境」に関する授業の特徴は何かを整理する。復習：1時間程度)
- 第10回 地理的分野の授業(その2)
「世界の諸地域ーアジア」に関する授業を映像と記録で検討する。
(課題：「世界の諸地域ーアジア」に関する授業の特徴は何かを整理する。復習：1時間程度)
- 第11回 地理的分野の授業(その3)
「身近な地域の調査」に関する授業を映像と記録で検討する。
(課題：「身近な地域の調査」に関する授業の特徴は何かを整理する。復習：1時間程度)
- 第12回 小山市の地域史を探る(社会科見学ーその1)
小山市の地域的特徴を探るために小山市立博物館を見学する(1/2)。
(課題：小山市の地域的特徴は何かについて整理する。復習：1時間程度)
- 第13回 小山市の地域史を探る(社会科見学ーその2)
小山市の地域的特徴を探るために小山市立博物館を見学する(2/2)。
(課題：小山市の地域的特徴は何かについて整理する。復習：1時間程度)
- 第14回 栃木県の地域史を探る(社会科見学ーその3)
栃木県の地域的特徴を探るために栃木県立博物館を見学する(1/2)。
(課題：栃木県の地域的特徴は何かについて整理する。復習：1時間程度)
- 第15回 栃木県の地域史を探る(社会科見学ーその4)
栃木県の地域的特徴を探るために栃木県立博物館を見学する(2/2)。
(課題：栃木県の地域的特徴は何かについて整理する。復習：1時間程度)

前半では中学校の社会科のカリキュラム構造に対する検討を行い、その後現行カリキュラムの目標、内容について考察する。後半では地理的分野の授業記録、映像等で授業研究を行う。その後、実際に社会科の授業を想定し、教材研究の

ための社会科見学(小山及び栃木県の博物館見学)を行い、実践力育成のトレーニングを行う。授業検討、特に第11回「地理的分野の授業(その3)」では「身近な地域の調査」に関してICT教育にも触れる。なお、社会科見学においては主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)の意味も実践しつつ考えたい。

【授業の進め方】

とりわけ「主体的・対話的・深い学び」を意識し、活動的学習を処々に配置し、積極的な学習態度の涵養を意識しながら進めたい。受講者には主体的な積極性を求める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書：使用しない(テキストとして授業時に資料を配布する。)

【参考図書】

参考図書：『中学校学習指導要領解説 社会編 平成20年9月』(文部科学省 日本文教出版)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

受講態度、レポート等の内容によって評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

受講態度については単に聴講するのみならず、積極的な参加を求めたい。またレポートについては、文体のみならず、内容の論理性、明確性を求める。

【履修上の心得】

授業時には、しばしば、作業的学習、グループ・ディスカッション等を求めるが、そこではとりわけ積極的な役割の遂行を求める。また現代社会と授業内容との関係を検討する際には、課題解決的な思考が重要になる。

【科目のレベル、前提科目など】

社会科教育法Ⅱ・Ⅲと連携しつつ、授業を進める。

当該科目は教育学の中の教科教育学の一つに当たる。ただし、免許取得に関係している科目であるために内容的には入門・導入的な科目として位置づけられる。

【備 考】

特になし

科目名	社会科教育法Ⅱ
教員名	木村 勝彦

【授業の内容】

中学校社会科の特色を理解し、その指導に必要な基本的知識及び実践的技能の習得を目的とする。特にⅡではⅠに引き続き、地理的分野及び公民的分野についての授業を検討する。そして公民的分野の授業研究の一貫として「第五福竜丸展示館」「最高裁判所」「日本銀行」(予定)を見学する。

【到達目標】

中学校社会科の特色を理解できる。中学校社会科の指導に必要な基本的知識を把握している。中学校社会科、特に歴史的分野及び公民的分野の指導に必要な実践的技能が身につけている。

【授業計画】

- 第1回 歴史的分野及び公民的分野検討のためのオリエンテーション
歴史的分野及び公民的分野を検討するためにⅠの社会科の全体構造に関する検討で学んだことを振り返る。
(課題：中学校社会科における目標と内容はいかなるものであったか。 復習1時間程度)
- 第2回 歴史的分野の目標と内容構成
中学校社会科歴史的分野の目標と内容について特に学習指導要領から検討する。
(課題：中学校歴史的分野の目標と内容はいかなるものであるのか。 復習1時間程度)
- 第3回 歴史的分野の学習と歴史学との関係について
中学校歴史的分野を学ぶ意義と歴史学で培われてきた見方について検討する。
(課題：中学校歴史的分野を学ぶ意義と歴史学との関係はいかなるものであるのか。 復習1時間程度)
- 第4回 歴史的分野の授業(その1)－歴史の興味と現代的意義－
歴史事実の面白さと現代的意義を目標とした授業を映像と資料から検討する。
(課題：検討した授業の特色はいかなるものであるのか。 復習1時間程度)
- 第5回 歴史的分野の授業(その2)－歴史に於ける「共感」の意味
歴史人物に「共感する」ことを目標とした授業を映像と資料から検討する。
(課題：検討した授業の特色はいかなるものであるのか。 復習1時間程度)
- 第6回 歴史的分野の授業(その3)－歴史の絵画と討論－
歴史の絵画を教材として扱った授業を映像と資料から検討する。
(課題：検討した授業の特色はいかなるものであるのか。 復習1時間程度)
- 第7回 中学校公民的分野の目標と内容
中学校社会科公民的分野の目標と内容について特に学習指導要領から検討する。
(課題：中学校社会科公民的分野の目標と内容はいかなるものであるのか。 復習1時間程度)
- 第8回 中学校公民的分野における現代社会の意義
中学校社会科公民的分野で現代社会を対象とすることの意義について検討する。
(課題：中学校社会科公民的分野と現代社会の関係はいかなるものであるのか。 復習1時間程度)
- 第9回 公民的分野の授業(その1)－経済にかかわる授業－
経済単元「国民生活と経済」を扱った授業を検討する。
(課題：検討した授業の特色はいかなるものであるのか。 復習1時間程度)
- 第10回 公民的分野の授業(その2)－男女共生と社会科－
経済単元「男女共生」を扱った授業を検討する。
(課題：検討した授業の特色はいかなるものであるのか。 復習1時間程度)
- 第11回 公民的分野「政治学習」の実地調査による見学(社会科見学－その1「第五福竜丸展示館」の見学)(1/2)
「第五福竜丸展示館」を見学する。
(課題：上記施設見学からどのような教材としての示唆を得られるのか、考察する。 復習1時間程度)
- 第12回 公民的分野「政治学習」の実地調査による見学(社会科見学－その1「最高裁判所」の見学)(2/2)
「最高裁判所」を見学する。
(課題：上記施設見学からどのような教材としての示唆を得られるのか、考察する。 復習1時間程度)
- 第13回 公民的分野「経済学習」の実地調査による見学(社会科見学－その1「日本銀行」の見学)(1/2)
「日本銀行」を見学する。
(課題：上記施設見学からどのような教材としての示唆を得られるのか、考察する。 復習1時間程度)
- 第14回 公民的分野「経済学習」の実地調査による見学(社会科見学－その1「東京証券取引所」の見学)(2/2)
「東京証券取引所」を見学する。
(課題：上記施設見学からどのような教材としての示唆を得られるのか、考察する。 復習1時間程度)
- 第15回 社会科見学のまとめ
社会科見学から得られた課題を各自整理し、教材研究の可能性について議論する。
(課題：見学に関わって話し合いから得られた成果についてまとめる。 復習1時間程度)

前半では中学校の社会科の歴史的分野及び公民的分野における分野の目標と内容について理解し、さらに実際の授業を

検討する。両分野に関連した社会科見学を行って教材研究の意味を会得する。その際、常に主体的・対話的な深い学び(アクティブラーニング)を前提に活動し、実践力育成のトレーニングを行う。また授業検討に際してはICT教育にも触れることとする。

【授業の進め方】

とりわけ「主体的・対話的・深い学び」を意識し、活動的学習を処々に配置し、積極的な学習態度の涵養を意識しながら進めたい。受講者には主体的な積極性を求める

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書：使用しない(テキストとして授業時に資料を配布する。)

【参考図書】

参考図書：『中学校学習指導要領解説 社会編 平成20年9月』(文部科学省 日本文教出版)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

受講態度、レポート等の内容によって評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

受講態度については単に聴講するのみならず、積極的な参加を求めたい。またレポートについては、文体のみならず、内容の論理性、明確性を求める。

【履修上の心得】

授業時には、しばしば、作業的学習、グループ・ディスカッション等を求めるが、そこではとりわけ積極的な役割の遂行を求める。また現代社会と授業内容との関係を検討する際には、課題解決的な思考が重要になる。

【科目のレベル、前提科目など】

社会科教育法Ⅰ・Ⅲと連携しつつ、授業を進める。

当該科目は教育学の中の教科教育学の一つに当たる。ただし、免許取得に関係している科目であるために内容的には入門・導入的な科目として位置づけられる。

科目名	社会科教育法Ⅲ
教員名	木村 勝彦

【授業の内容】

前半は教科としての社会科の意義を歴史的観点から把握する。到達目標としては社会科教育実践の流れの把握、それに基づいた教科としての社会科の定位である。後半はⅠ・Ⅱで培った社会科に関する理解をもとに各自で単元を設定し、授業を構想した後、模擬授業を行う。

【到達目標】

社会科の歴史的意義を把握している。社会科教育実践を社会科の歴史の中に定位できる。単元を設定し、実際に指導案を作成し、授業を実施できる。

【授業計画】

- 第1回 初期社会科の考え方
戦後社会科が成立した事情についてその歴史的背景を考慮に入れつつ、講義する。
(課題：初期の社会科の特色は何かについて考察する。復習1時間程度)
- 第2回 戦後初期の地域教育カリキュラムーその1 「大村栄ー村落生活」の授業
「大村栄ー村落生活」の授業を記録を本に検討し、フィールドワークの意味を考える。
(課題：「大村栄ー村落生活」の授業の特色は何かについて考察する。復習1時間程度)
- 第3回 戦後初期の地域教育カリキュラムーその2 「山びこ学校」の実践
「山びこ学校」の実践を記録を本に検討し、初期社会科の意味を検討する。
(課題：「山びこ学校」の授業の特色は何かについて考察する。復習1時間程度)
- 第4回 日本社会の基本問題と社会科ー「コア・カリキュラム連盟」「日本生活教育連盟」
「コア・カリキュラム連盟」及び「日本生活教育連盟」の教育思想を前提に「水害と市政」の実践を検討する。
(課題：「コア・カリキュラム連盟」及び「日本生活教育連盟」の教育思想の特色は何かについて考察する。復習1時間程度)
- 第5回 教育の現代化と社会科
高度経済成長期の教育状況を「教育内容の現代化」運動との関わりで検討する。
(課題：高度経済成長期における日本の教育の位置を「教育内容の現代化」との関係で考察する。復習1時間程度)
- 第6回 地域と教育ーその1 生活を基礎とした社会科と社会科検証学習
生活を基礎とした社会科と社会科検証学習の関係について鈴木喜代春「みんな手をつなげるー四年生の社会科から」を題材に検討する。
(課題：社会科検証学習の意味について考察する。復習1時間程度)
- 第7回 地域と教育ーその2 郷土学習の実践
郷土資料をもとにした郷土学習 渋谷忠男「佐農谷川と私たちの生活」を題材に検討する。
(課題：郷土学習の意味について考察する。復習1時間程度)
- 第8回 地域と教育ーその3 生活と教育の結合
若狭蔵之助「児童公園」の授業を題材に生活と教育の結びつきについて検討する。
(課題：教育における生活と教育の意味について考察する。復習1時間程度)
- 第9回 児童・生徒の切実性と社会科
社会科の初志をつらぬく会の教育実践を題材に児童・生徒の切実性と授業との関係について検討する。
(課題：教育における児童・生徒の切実性と教育の意味について考察する。復習1時間程度)
- 第10回 近年の教育実践の動向
次期学習指導要領の改訂方向について、アクティブラーニングの意味、ICT教育の位置付け等を中心に三分野の変更点、今後の教育の方向について検討する。
(課題：次期学習指導要領の改訂の特色について考察する。復習1時間程度)
- 第11回 模擬授業の準備
次回以降、履修者による模擬授業を行うので、それぞれ担当単元を設定し、模擬授業の準備を行う。
(課題：次回までに指導計画を作成し、模擬授業の準備を行う。復習2時間程度)
- 第12回 模擬授業(1/3) 地理的分野の模擬授業
各自、10-20程度の模擬授業を実施し、その後、授業検討を行う。
(課題：模擬授業における省察を行う。復習1時間程度)
- 第13回 模擬授業(2/3) 歴史的分野の模擬授業
各自、10-20程度の模擬授業を実施し、その後、授業検討を行う。
(課題：模擬授業における省察を行う。復習1時間程度)
- 第14回 模擬授業(3/3) 公民的分野の模擬授業
各自、10-20程度の模擬授業を実施し、その後、授業検討を行う。
(課題：模擬授業における省察を行う。復習1時間程度)
- 第15回 模擬授業の反省とまとめ

前回までの模擬授業で検討したことをもとに反省点と改良すべきことについてレポートにまとめる。
(課題：レポートが完成しまい場合には後日、提出する。復習1時間程度)

教科としての社会科の意味を社会科教育の歴史を検討することによって明らかにする。ここでは戦後成立した社会科教育を主として中学校の代表的な実践を紹介することによって流れを把握し、社会科の意味を考える。また後半では各自が単元を設定し、模擬授業を行ったうえで、その内容について意見交換を行う。積極的な参加を求めたい。

【授業の進め方】

とりわけ「主体的・対話的・深い学び」を意識し、活動的学習を処々に配置し、積極的な学習態度の涵養を意識しながら進めたい。受講者には主体的な積極性を求める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書：使用しない(テキストとして授業時に資料を配布する。)

【参考図書】

参考図書：『中学校学習指導要領解説 社会編 平成20年9月』(文部科学省 日本文教出版)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

受講態度、レポート等の内容によって評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

受講態度については単に聴講するのみならず、積極的な参加を求めたい。またレポートについては、文体のみならず、内容の論理性、明確性を求める。

【履修上の心得】

社会科の歴史を中学校の実践を中心に講義するが、その際、社会背景と授業実践の関係を主体的に検討する姿勢が求められる。講義では課題解決的な場面での自らの意見の表明を求めることも多くなるので、積極的な授業参加を求めたい。

【科目のレベル、前提科目など】

社会科教育法Ⅰ・Ⅱと連携しつつ、授業を進める。当該科目は教育学の中の教科教育学の一つに当たる。ただし、免許取得に関係している科目であるために内容的には基礎・基本的な科目として位置づけられる。

科目名	社会科・公民科教育法
教員名	木村 勝彦

【授業の内容】

社会科及び公民科の特色を理解し、その学習指導に必要な基本的知識の習得を目的とする。またここでは社会科・公民科を通しての社会的課題との関係について検討したい。

【到達目標】

社会科及び公民科の特色を理解できる。社会科及び公民科の指導に必要な基本的知識を把握している。社会科及び公民科についての社会的課題について意欲的に考察することができる。社会科及び公民科の指導に必要な実践的スキルが身についている。

【授業計画】

- 第1回 社会科・公民科の内容的問題－消費者教育と公民教育(その1)
消費者教育と社会科・公民科との関係について事例的に検討する。
(課題：消費者教育と社会科・公民科との関係について。復習：1時間程度)
- 第2回 社会科・公民科の内容的問題－消費者教育と公民教育(その2)
消費者教育と社会科・公民科との関係について教科書・指導要領の記述から検討する。
(課題：消費者教育と社会科・公民科との関係について教育的に考察する。復習：1時間程度)
- 第3回 社会科・公民科の内容的問題－異文化理解と公民教育(その1)
異文化理解と社会科・公民科との関係について事例的に検討する。
(課題：異文化理解と社会科・公民科との関係について事例的に考察する。復習：1時間程度)
- 第4回 社会科・公民科の内容的問題－異文化理解と公民教育(その2)
異文化理解と社会科・公民科との関係について歴史に検討する。
(課題：異文化理解と社会科・公民科との関係について歴史的に考察する。復習：1時間程度)
- 第5回 社会科・公民科の内容的問題－法教育と公民教育(その1)
法教育と社会科・公民科との関係について概観する。
(課題：法教育と社会科・公民科との関係についての概略的考察。復習：1時間程度)
- 第6回 社会科・公民科の内容的問題－法教育と公民教育(その2)
法教育と社会科・公民科との関係について授業映像によって検討する。
(課題：法教育と社会科・公民科との授業論的關係について。復習：1時間程度)
- 第7回 社会科・公民科の内容的問題－生命倫理と公民教育(その1)
生命倫理と社会科・公民科との関係について－代理出産を事例に－。
(課題：生命倫理と社会科・公民科との関係について、代理出産を事例に考察する。復習：1時間程度)
- 第8回 社会科・公民科の内容的問題－生命倫理と公民教育(その2)
生命倫理と社会科・公民科との関係について－出生前診断を事例に－。
(課題：生命倫理と社会科・公民科との関係について、出生前診断を事例に考察する。復習：1時間程度)
- 第9回 社会科・公民科の内容的問題－生命倫理と公民教育(その3)
生命倫理と社会科・公民科との関係について－脳死を事例に－。
(課題：生命倫理と社会科・公民科との関係について、脳死を事例に考察する。復習：1時間程度)
- 第10回 社会科・公民科の内容的問題－生命倫理と公民教育(その4)
生命倫理と社会科・公民科との関係について－死をどのように考えるのか－。
(課題：生命倫理と社会科・公民科との関係について、死の教育を考察する。復習：1時間程度)
- 第11回 社会科・公民科の歴史を振り返る(その1)
戦前における社会科・公民科的教育の歴史を明治から大正期にかけて検討する。
(課題：戦前、特に明治から大正期にかけての社会科・公民科的教育内容はいかなるものであったか。復習：1時間程度)
- 第12回 社会科・公民科の歴史を振り返る(その2)
戦前における社会科・公民科的教育の歴史を昭和戦前期について検討する。
(課題：戦前、特に昭和戦前期の社会科・公民科的教育内容はいかなるものであったか。復習：1時間程度)
- 第13回 社会科・公民科授業の実践的研究(その1)
社会科・公民科授業について指導案作成のための留意点を検討する－授業の全体構成について－。
(課題：社会科・公民科授業における指導案の留意点はいかなるものであったか。復習：1時間程度)
- 第14回 社会科・公民科授業の実践的研究(その2)
社会科・公民科授業について指導案作成のための留意点を検討する－授業の発問・指示等について－。
(課題：社会科・公民科授業における発問・指示等について。復習：1時間程度)
- 第15回 社会科・公民科授業の課題とその検証
これまでに学修した社会科・公民科の課題について各自が課題意識を持ちながら主題を設定し、レポートを作成する。
(時間内に終了しない場合は、復習として後日提出する)

前半では主として社会科・公民科教育の内容的問題について講述し、その後社会科及び公民科の歴史を検討した後、授業に於ける実践的諸問題を考究する。社会科・公民科教育の内容的問題を検討する際には、主体的・対話的な深い学び（アクティブ・ラーニング）を履修者には求める。また社会科・公民科授業の実践的研究を行う際にはICT活用の意味にも触れたい。

【授業の進め方】

とりわけ「主体的・対話的・深い学び」を意識し、活動的学習を処々に配置し、積極的な学習態度の涵養を意識しながら進めたい。受講者には主体的な積極性を求める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書：使用しない(テキストとして授業時に資料を配布する。)

【参考図書】

参考図書：文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編〔平成22年〕』(2010/7, 教育出版), 同『中学校学習指導要領解説 社会編〔平成20年〕』(2008/9, 日本文教出版)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

受講態度、レポート等の内容によって評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

受講態度については単に聴講するのみならず、積極的な参加を求めたい。またレポートについては、文体のみならず、内容の論理性、明確性を求める。

【履修上の心得】

授業時には、しばしば、作業的学習、グループ・ディスカッション等を求めるが、そこではとりわけ積極的な役割の遂行を求める。また現代社会と公民科教育の関係を検討する際には、課題解決的な思考が重要になる。

【科目のレベル、前提科目など】

当該科目は教育学の中の教科教育学の一つに当たる。ただし、免許取得に関係している科目であるために内容的には入門・導入的な科目として位置づけられる。

【備 考】

なお、科目の性質上、公民科教育法と連携しつつ進めることになる。

科目名	公民科教育法
教員名	木村 勝彦

【授業の内容】

高等学校公民科の特色を理解し、その学習指導に必要な基本的知識の習得を目的とする。

【到達目標】

公民科の特色を理解できる。公民科の指導に必要な基本的知識を把握している。公民科の指導に必要な実践的技能が身についている。

【授業計画】

- 第1回 公民科とは何か－「公民」及び「公民教育」の意味
「公民」と「公民教育」の意味について検討する。
(課題：「公民」とはいかなる意味を持っているのか。復習：1時間程度)
- 第2回 公民科とは何か－公民科の設置に至る過程とその問題点(その1)
公民科が設置される過程について学習指導要領との関係から検討する。
(課題：公民科設置の経緯について。復習：1時間程度)
- 第3回 公民科とは何か－公民科の設置に至る過程とその問題点(その2)
公民科が設置される過程について政治的動きとの関係から検討する。
(課題：公民科設置の経緯における政治的意味について。復習：1時間程度)
- 第4回 現行公民科の成立過程と特色－公民科の成立とその社会背景
現行公民科の成立と特色について概観する。
(課題：現行公民科の特色について。復習：1時間程度)
- 第5回 公民科各科目の目標と内容－現代社会、倫理、政治経済の目標と内容の構造(その1)
公民科「現代社会」の目標と内容の構造について検討する。
(課題：公民科「現代社会」の目標と内容について。復習：1時間程度)
- 第6回 公民科各科目の目標と内容－現代社会、倫理、政治経済の目標と内容の構造(その2)
公民科「倫理」「政治・経済」の目標と内容の構造について検討する。
(課題：公民科「倫理」「政治・経済」の目標と内容について。復習：1時間程度)
- 第7回 公民科の授業－授業の視点、分析方法その他
高等学校公民科の授業を検討する際の視点について講義する。
(課題：高等学校公民科の授業検討の視点について。復習：1時間程度)
- 第8回 公民科の授業－(その1)日本経済の特色
「日本経済の特色」に関する授業を映像と資料で検討する。
(課題：「日本経済の特色」に関する授業に関する評価について。復習：1時間程度)
- 第9回 公民科の授業－(その2)日本国憲法の成立について
「日本国憲法の成立」に関する授業を映像と資料で検討する。
(課題：「日本国憲法の成立」に関する授業に関する評価について。復習：1時間程度)
- 第10回 公民科の授業－(その3)南北問題と日本の貿易
「南北問題と日本の貿易」に関する授業を映像と資料で検討する。
(課題：「南北問題と日本の貿易」に関する授業に関する評価について。復習：1時間程度)
- 第11回 公民科の授業－(その4)ディベートを用いた授業
ディベートを用いた授業を映像と資料で検討する。
(課題：ディベートを用いた授業に関する評価について。復習：1時間程度)
- 第12回 公民科の授業の工夫－(その1)
シミュレーションゲームによる公民科の授業の工夫
(課題：シミュレーションゲームによる公民科の授業の工夫について。復習：1時間程度)
- 第13回 公民科の諸課題－(その2)
異文化理解コミュニケーションを応用した公民科授業の工夫
(課題：異文化理解コミュニケーションを応用した公民科授業の工夫について。復習：1時間程度)
- 第14回 公民科の諸課題－(その3)
開発教育に関連した公民科授業の工夫
(課題：開発教育に関連した公民科授業の工夫について。復習：1時間程度)
- 第15回 公民科の諸課題－(その4)
公民科のもつ諸課題に対して各自で意見を予めまとめておき、レポートを作成する。
(時間内にまとまらない場合は、後日、提出する<復習>)

前半では主として公民科教育の概要について講述し、その後現行公民科がいかにして成立したか、またその特色とはどのようなものであるのかということについて考察する。後半では公民科の授業を映像・発言記録等によって検討し、実際の授業の特徴を把握し、さらに公民科の持っている諸問題にも言及したい。その際には主体的・対話的な学び(アク

ティブ・ラーニング)の要素を意識しながら、履修者には授業を考察してもらおう。
またその際にはICT活用の意味についても言及する。

【授業の進め方】

とりわけ「主体的・対話的・深い学び」を意識し、活動的学習を処々に配置し、積極的な学習態度の涵養を意識しながら進めたい。受講者には主体的な積極性を求める。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書：使用しない(テキストとして授業時に資料を配布する。)

【参考図書】

参考図書：文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編〔平成22年〕』(2010/7, 教育出版)

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

受講態度、レポート等の内容によって評価する。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

受講態度については単に聴講するのみならず、積極的な参加を求めたい。またレポートについては、文体のみならず、内容の論理性、明確性を求める。

【履修上の心得】

授業時には、しばしば、作業的学習、グループ・ディスカッション等を求めるが、そこではとりわけ積極的な役割の遂行を求める。また現代社会と公民教育の関係を検討する際には、課題解決的な思考が重要になる。

【科目のレベル、前提科目など】

当該科目は教育学の中の教科教育学の一つに当たる。ただし、免許取得に関係している科目であるために内容的には入門・導入的な科目として位置づけられる。

【備 考】

なお、科目の性質上、公民科教育法と連携しつつ進めることになる。

科目名	外書講読(親子関係を理解する)
	Understanding 12-14-Year-olds
教員名	伊崎 純子

【授業の内容】

- 1) 心理学(親子関係)に関する内容の英語文献を精読する
- 2) 心理学は海外から学ぶことが多く、うまく日本語に置き換えることが難しい場合もあるため、翻訳に頼らず原語で読む努力も必要である
- 3) 大学院入試を多少意識しつつ、英語を読む習慣を身につけたい

【到達目標】

英語を読む習慣を身につける事ができる
イギリスにおけるメンタルヘルスの啓蒙の様相を理解する事ができる
思春期の心の発達と親子関係を理解する

【授業計画】

第1回 オリエンテーション:From Introduction to A Question of Identity; Rebelling and Conforming

復習: 思春期の心性について邦訳を読み、分からない用語は意味を調べる (90分)。

第2回 Experimenting and testing #1

予習: 該当するページの分からない単語を意味を調べる (60分)。

第3回 Experimenting and testing #2

予習: 該当するページの分からない単語を意味を調べる (60分)。

第4回 Experimenting and testing #3

予習: 該当するページの分からない単語を意味を調べる (60分)。

第5回 Going to the limits #1

予習: 該当するページの分からない単語を意味を調べる (60分)。

第6回 Parents' response to the challenge #1

予習: 該当するページの分からない単語を意味を調べる (60分)。

第7回 Parents' response to the challenge #2

予習: 該当するページの分からない単語を意味を調べる (60分)。

第8回 Running into Difficulties #1

予習: 該当するページの分からない単語を意味を調べる (60分)。

第9回 Running into Difficulties #2

予習: 該当するページの分からない単語を意味を調べる (60分)。

第10回 Running into Difficulties #3

予習: 該当するページの分からない単語を意味を調べる (60分)。

第11回 Running into Difficulties #4

予習: 該当するページの分からない単語を意味を調べる (60分)。

第12回 Stealing #1

予習: 該当するページの分からない単語を意味を調べる (60分)。

第13回 Stealing #2

予習: 該当するページの分からない単語を意味を調べる (60分)。

第14回 Stealing #3

予習: 該当するページの分からない単語を意味を調べる (60分)。

第15回 まとめ

復習: これまで読んだ内容を理解し、英単語を復習する (120分)。

【授業の進め方】

- ・ 毎回、参加者全員で輪読する。
- ・ 一応の目安として各回に章を割り振っているが、毎回の進み具合は共有フォルダに保存されている翻訳原稿で確認すること。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

使用しない

初回時に配布するプリントを使用する

【参考図書】

Understanding 12-14-Year-olds, Mardot Waddell,2005, Jessica Kingsley Publishers, US\$13.95

英国にあるタビストッククリニックは、臨床、研究、精神保健に関する事業を行うことで有名な施設である。

今回選んだUnderstanding 12-14-Year-oldsは、大人になりgood enoughな親であると実感するためにタビストッククリ

ニックのスタッフによって編集されたシリーズの第7巻である。中学校教育に将来関わる人に読んでほしい一冊である。

現在、シリーズのうち、第1~4巻と第8巻がそれぞれ翻訳され「タビストック★子どもの心と発達シリーズ」の『子どもを理解する<0~1歳>』『子どもを理解する<2~3歳>』と『特別なニーズを持つ子どもを理解する』として岩崎学術出版社から発刊されている。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 50%

特記事項

定期試験の実施の有無は、履修者確定後に決定する。

履修者が20名以下の場合は、毎回和訳を担当するため定期試験は実施せず、輪読への参加状況ならびに発表の内容で評価を行う。

その場合の評価は、受講態度100%で評価する。

履修者が20名を超える場合は、毎週あたることのないため、上記の通り、定期試験を実施し、定期試験50%・受講態度50%で評価する。

3分の2以下の出席は評価の対象外とする。

【履修上の心得】

英語が苦手だと自覚する人は、特に予習が必要である。名簿をもとに毎回、1~2文程度の邦訳を求められるので予習してきてほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

青年心理学の履修を前提とはしないが、知識を有する方が英文理解を助けるだろう。

【備 考】

翻訳原稿は大学内のサーバに保存されいつでも閲覧可能である。共有フォルダの開き方については授業内で紹介する。

科目名	職業指導
教員名	小二田 悟朗・木村 光利

【授業の内容】

高等学校で行われるキャリア教育及び職業指導の意義、内容、指導方法について検討し、高等学校の教員として求められている職業指導に関する知識と指導法の修得を目指す。

【到達目標】

指導者として、高校生に将来設計を考えさせ、生徒自ら進路を選択できる能力と、職業をとおして自己実現を図るために必要な態度や能力を身につけさせる指導技術と方法を修得することを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 職業指導（進路指導）の意義
- 第2回 キャリア教育について
- 第3回 キャリア教育の必要性(復習60分)
- 第4回 キャリア教育の意義 キャリア教育とは何か(復習30分)
- 第5回 学校教育における系統的なキャリア教育
- 第6回 地域・社会の人材ニーズ 産業界の変化を捉える(復習30分)
- 第7回 商業教育に求められる人材像 授業で取り上げた内容を地域の要請など復習・確認する(60分)
- 第8回 商業教育が育成する人材像
- 第9回 人間関係形成・社会形成能力育成について
- 第10回 自己理解・自己管理能力育成について
- 第11回 課題対応能力育成について 『生きる力』について復習(60分)
- 第12回 キャリアプランニング能力育成について
- 第13回 商業科における専門性育成について
- 第14回 商業教育が目指す専門的職業人（会計分野）について
- 第15回 商業科が目指す専門的職業人（マーケティング分野）について 専門的職業人について復習(60分)
- 第16回 ビジネス活動で求められるコミュニケーションスキル
- 第17回 商業教育で育成するコミュニケーションスキル
- 第18回 商業教育でのインターンシップ
- 第19回 インターンシップを活用した職業指導 インターンシップの意義について復習(60分)
- 第20回 進路相談について
- 第21回 進路相談の基礎となるカウンセリング理論
- 第22回 キャリアカウンセリング能力について
- 第23回 キャリアプランニング能力について
- 第24回 商業教育によるキャリアプランニングについて キャリアプランニングの作成(60分)
- 第25回 商業教育を生かしたキャリアプラン作成の取り組み
- 第26回 コンサルテーション能力について
- 第27回 コーディネーション能力について
- 第28回 生涯学習の視点による職業教育・商業教育
- 第29回 生涯学習を支援する商業教育
- 第30回 高等学校のキャリア教育及び進路指導の課題 進路指導の現状を確認する(復習60分)

【授業の進め方】

上記の内容について、資料をもとに講義を進める。

生徒一人ひとりの全人格の成長、発展を目指すために何をするか、生徒の進路実現を図るために、どのようにして指導・援助を行うかをアクティブ ラーニングの手法も取り入れ、考える。高等学校と社会との円滑な接続を図るキャリア教育の視点に立った進路指導の在り方を考える。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

「キャリア教育のススメ 小学校・中学校・高等学校における系統的キャリア教育推進のために」国立教育政策研究所 生徒指導研究センター編 東京書籍

【参考図書】

- 「小学校・中学校・高等学校キャリア教育推進の手引」文部科学省
- 「キャリア教育の推進のための高等学校進路指導の現状と課題」日本進路指導協会
- 「学校から社会へ」日本進路指導協会
- 「入門進路指導・相談」仙崎武他・福村出版

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 20% 受講態度 20%

特記事項

定期試験及び受講中の発言などの学習活動やレポートなどの平常の学習活動を総合的に判断して評価する。

【履修上の心得】

将来、商業科の教員になることを希望する学生が履修する。

キャリア教育は、人間としての在り方・生き方の指導であり、社会生活や職業生活に必要な基本的な能力や態度及び望ましい勤労観・職業観育成の中核を占めるものである。履修する学生は、社会に積極的に関わり、生涯にわたって学習に取り組む意欲や態度を身に付けるよう努力し、自己実現を図るようにしてほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目 他の教職科目

関連科目 「教育実習」

この科目は高等学校教諭 教科「商業」の免許状を取得するために「教科に関する科目」として履修しなければならない。

科目名	商業科教育法 I
教員名	小二田 悟朗

【授業の内容】

我が国における商業教育の歴史及び「高等学校学習指導要領商業」を研究し、商業科で学ぶ高校生に、商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技能について学習させ、ビジネスの諸活動を主体的・合理的に行なう能力・態度を身につけさせるための指導者としての知識と指導技術の修得を目指す。

【到達目標】

商業科生徒に対して、経済に関する一般的な知識や商業実務を処理するための基礎的・基本的な知識と技能を習得させ、ビジネスの諸活動を主体的・合理的に行い、経済社会の発展に寄与する能力と態度を身につけさせるための指導者として、教科の知識と指導技術を習得することを目標にする。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス — 授業の概要と進め方
- 第2回 明治時代の商業教育
- 第3回 大正時代の商業教育 近代化に果たした商業教育について復習(60分)
- 第4回 昭和初期から終戦までの商業教育
- 第5回 戦後の商業教育
- 第6回 高度成長期の商業教育 産業構造の変化について(予習60分)
- 第7回 平成の商業教育
- 第8回 「高等学校学習指導要領総則」
(教育課程編成の意義及び編成方法)・(改訂の趣旨・教科の目標・教科の組織)について
- 第9回 「高等学校学習指導要領商業科」(改訂の趣旨・商業科の目標・科目組織) 指導要領について(予習30分)
- 第10回 「高等学校学習指導要領商業科」(各科目の内容とその取り扱い ICTの活用 アクティブラーニング手法について)
- 第11回 教育課程編成上の「原則履修科目」の取り扱いについて
- 第12回 「原則履修科目」が目指す学習活動 履修科目の意義について復習(60分)
- 第13回 「高等学校学習指導要領商業科」(各科目の内容とその取り扱い — 原則履修科目以外の科目)
高度情報社会に対する商業教育
- 第14回 特色ある商業科とするための教育課程編成方法について (ICTによる学習活動の取り組み)
- 第15回 キャリア教育としての商業科の教育課程編成について 商業教育の魅力について復習(60分)

【授業の進め方】

配布するプリント及び「高等学校学習指導要領解説商業編」をテキストとして、上記の講義内容を進める。
商業教育の歴史を包括的に学習した後に、平成25年度から実施されている「学習指導要領商業」を研究する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

「高等学校学習指導要領解説商業編」 実教出版株式会社

【参考図書】

「商業科教育法」 吉野弘一著 実教出版株式会社
「商業教育100年史」 全商協会

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 60% 授業内小試験 0% レポート・課題 20% 受講態度 20%

特記事項

平常点及び期末試験等を総合的に判断して評価する。

【履修上の心得】

将来、商業科の教員になることを希望する学生が履修する。
なお、履修する学生は、簿記や情報処理など各種の資格試験に積極的に挑戦してほしい。
本学卒業の多くの先輩も商業科の教員として活躍しており、多数の学生に履修してほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目 他の教職科目
関連科目 「商業科教育法Ⅱ」
「教育実習」

この科目は高等学校教諭の教科「商業」の免許状を取得するために「教職に関する科目」として履修しなければならない。

【備 考】

アクティブラーニングによる指導について、教科全体について検討する。

科目名	商業科教育法Ⅱ
教員名	木村 光利

【授業の内容】

「高等学校学習指導要領」について研究することにより、高等学校における商業教育の在り方を理解する。学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程の編成と指導計画の作成を学ぶ。さらに、教科指導法を学び模擬授業を行うことで、教員としての指導力を身に付けるとともに、教員となろうとする自覚と意欲を高めることを目的とする。

【到達目標】

授業時間単位の学習指導案を作成し、模擬授業を実践する。模擬授業の反省・検討を通して、教科指導の知識と技術の修得を目標とする。また、教員として生徒に分かりやすい授業を展開し、知識の定着化を図ることができるよう、教科指導力の向上を目標とする。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス 授業の概要と進め方
 第2回 学習指導要領と教育課程の編成1 教育課程の意義と編成
 第3回 学習指導要領と教育課程の編成2 単位の履修・修得と卒業の認定
 第4回 学習指導と学習評価 ICTの活用とアクティブラーニングによる指導技術
 第5回 学習指導計画の作成、年間指導計画・単元指導計画の作成（120分）
 第6回 授業レベルの学習指導案の作成（予習60分）
 第7回 第7回から第15回は、実際の授業を想定した模擬授業を全員が行う。
 一人45分の持ち時間で、各自作成した指導案により模擬授業を行い、クラスメートの授業分析と評価を受ける。
 （ ）内の事項は内容によっていずれかの日に必ず扱うテーマである。
 模擬授業と模擬授業についての検討（目標の設定）
 第8回 模擬授業と模擬授業についての検討（発声について） 模擬授業予習（60分）
 第9回 模擬授業と模擬授業についての検討（板書について） 模擬授業予習（60分）
 第10回 模擬授業と模擬授業についての検討（発問について） 模擬授業予習（60分）
 第11回 模擬授業と模擬授業についての検討（教材用プリントについて） 模擬授業予習（60分）
 第12回 模擬授業と模擬授業についての検討（学習評価について） 模擬授業予習（60分）
 第13回 模擬授業と模擬授業についての検討（教材研究について） 模擬授業予習（60分）
 第14回 模擬授業と模擬授業についての検討（授業展開について） 模擬授業予習（60分）
 第15回 模擬授業と模擬授業についての検討（理解度確認について）

【授業の進め方】

「高等学校学習指導要領解説商業編」をテキストとして、上記の講義内容を進める。

教員として、実際に授業を実施する場面を想定して、学習指導案の作成や教材研究を行い、模擬授業を実施する。指導案の作成、模擬授業の実施に当たっては、アクティブラーニングの観点から、様々な指導技術を検討する。

1回目の模擬授業は科目「ビジネス基礎」で実施するが、2回目以降は学生の得意とする商業科目で実施する。なお、模擬授業を実施するたびに、学習指導案、模擬授業の振り返り検討を行う。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

①タイトル ②著者名 ③出版社 ④出版日付 ⑤価格 ⑥ISBN

- ①「高等学校学習指導要領商業編」 ②文部科学省 ③実教出版 ④2010年 ⑤496円
 ①「ビジネス基礎 新訂版」 ②高等学校教科書 ③実教出版 ④2018年 ⑤670円

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

平常の学習活動や発言内容、学習指導指導計画案などの作成・提出、模擬授業演習への取り組み等を総合的に判断して評価する。

【履修上の心得】

将来、商業科の教員になることを希望する学生が履修すること。

なお、履修する学生は、簿記や情報処理など商業科目に関係する各種の資格試験に積極的に挑戦することが望ましい。

本学卒業の多くの先輩も商業科の教員として活躍しており、多数の学生に履修してほしい。

【科目のレベル、前提科目など】

前提科目 商業科教育法Ⅰ・他の教職科目

関連科目 教育実習

この科目(商業科教育法Ⅱ)は、高等学校教諭の教科「商業」の免許状を取得するために「教職に関する科目」として履修しなければならない。

【備 考】

I C Tの活用やアクティブラーニングによる指導技術に留意する。

科目名	教育実習の事前事後指導S
	～実習前の準備と実習後のまとめ～
教員名	黒澤 和人

【授業の内容】

- ・教育実習に参加する前の準備（事前指導）と、教育実習から帰ってきた後のまとめ（事後指導）を行う。
- ・事前指導では、教育実習の意義や心構え、また指導案の作成法等について学習する。
- ・事後指導では、教育実習の全体を振り返り、教師としての実践力強化のために今後さらに何が必要かを考える。

【到達目標】

- (1) 教育実習の意義（目的と目標）が正しく理解できるようになる。
- (2) 教材研究と指導案作りの意義が理解できるようになる。
- (3) 教師としての実践力強化のための計画が立案できる。

【授業計画】

- 第1回 [事前指導] 教育実習の意義と目標
学習課題：WebClass上の資料に基づき、復習と次回への予習を行う。(60分)
- 第2回 [事前指導] 教師の心得・職務
学習課題：WebClass上の資料に基づき、復習と次回への予習を行う。(60分)
- 第3回 [事前指導] 特別活動とその指導
学習課題：WebClass上の資料に基づき、復習と次回への予習を行う。(60分)
- 第4回 [事前指導] 教材研究の心得
学習課題：WebClass上の資料に基づき、復習と次回への予習を行う。(60分)
- 第5回 [事前指導] 指導案作りの基礎
学習課題：WebClass上の資料に基づき、復習と次回への予習を行う。(60分)
- 第6回 [事前指導] 模擬授業と討議1
学習課題：WebClass上の資料に基づき、復習と次回への予習を行う。(60分)
- 第7回 [事前指導] 模擬授業と討議2
学習課題：WebClass上の資料に基づき、復習と予習を行う。(60分)
- 第8回 [事前指導] 模擬授業と討議3
学習課題：WebClass上の資料に基づき、復習と次回への予習を行う。(60分)
- 第9回 [事前指導] 模擬授業と討議4
学習課題：WebClass上の資料に基づき、復習と次回への予習を行う。(60分)
- 第10回 [事前指導] 模擬授業と討議5
学習課題：WebClass上の資料に基づき、復習と次回への予習を行う。(60分)
- 第11回 [事前指導] 模擬授業と討議6
学習課題：WebClass上の資料に基づき、復習と次回への予習を行う。(60分)
- 第12回 [事前指導] 模擬授業と討議7
学習課題：WebClass上の資料に基づき、復習と次回への予習を行う。(60分)
- 第13回 [事前指導] 模擬授業と討議8
学習課題：WebClass上の資料に基づき、復習と次回への予習を行う。(60分)
- 第14回 [事後指導] 教育実習報告会
学習課題：WebClass上の資料に基づき、復習と次回への予習を行う。(60分)
- 第15回 [事後指導] 総括と今後の学習のための案内
学習課題：これまでの全学習内容を整理する。(60分)

【授業の進め方】

講義、演習、グループ学習、プレゼンテーションなどの形を織り交ぜながら進めていく。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

テキストには、本学実習指導委員会編集の『教育実習の手引き』を使用する。

【参考図書】

必要に応じて印刷教材を配布する。
参考図書については、その都度指示する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 40% 受講態度 60%

特記事項

定期試験はない。
レポート・課題（提出物等）、受講態度（授業への貢献度、討議・発表等）による。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

無断欠席がある場合は単位を認定しない。止むを得ない理由で欠席となる場合は、緊急の場合も含め担当教員への連絡、欠席届の提出（事後でもよい）、抜けた分に相当する課題処置、の3つが必要である。教育実習の本番を想定した訓練と考え、真摯に対応すること。

遅刻が度重なり、改善がみられない場合も同様に対処するので注意すること。

【履修上の心得】

教育実習を成功させるには、周到な準備が必要である。

対人面では、あらゆることが学習・体験の対象となるので、気軽に考えず謙虚な気持ちで臨むこと。たとえば、実習先との事前事後の諸連絡に際しては、相手の立場に立ち誠意を持って対応すること。

学力面では、専門教科の勉強を怠らず、その成果を教材研究や指導案作りに活かすよう努力すること。

生活面では、とにかく遅刻・欠席をしないこと。止むを得ずそのような事態に陥った場合は、担当教員に報告・連絡・相談すること。緊急連絡先として、担当教員のメールアドレスをメモしておくこと。

【科目のレベル、前提科目など】

科目レベル：教育実習を補完するために設けられた授業科目である。

関連科目：教職に関わる科目すべて。

科目名	教育実習 I
	中学校実習 経営学部・法学部に開設 授業形態：実習
教員名	教職等課程委員会担当教員

【授業の内容】

教職免許状を取得し教員採用試験を受けて教職に就くことを前提に、教員職を体験する。
3年間学んできた学習成果を十分発揮できるよう教育実習に臨むこと。

【到達目標】

大学で学んだ知識、理論、技術等を基盤に教育現場での実践的指導力の基礎を体得する。

【授業計画】

実習期間中は、教育実習校の指導に従うこと。

【授業の進め方】

実習期間中は、教育実習校の指導に従うこと。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教育実習校から指定された教科書やその他の文献・資料などを各自が準備する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 0%

特記事項

教育実習100%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

教育実習校による「教育実習評価表」の評価と、「教育実習記録」の内容を教職等課程委員会で検討し、総合的に評価する。

ただし、「教育実習評価表」の各項目に一つでも「1」評価がある場合には「教育実習」の評価も「D」となる。

注意！ 教育実習期間を満了することで単位が付与されるわけではない。

なお、やむを得ない場合を除き、一度でも教育実習前の「事前指導」を欠席した場合には、教育実習参加を認めない。
教育実習に参加しなかった場合や実習後の「事後指導」を欠席した場合、単位は付与しない。

【履修上の心得】

「教育実習の事前指導」を修得済者のみ履修可。

中学校免許のみ希望者および中高両免許希望者は「教育実習 I」（4単位）を履修し、中学校での実習（3週間以上）に参加すること。高等学校免許のみ希望者は「教育実習 II」（2単位）を履修し、高校での実習（2週間以上）に参加すること。

【科目のレベル、前提科目など】

教職に関する科目、各教科に関する科目全般。

教職課程の集大成ともいべき実習である。真摯な態度で取り組むことを望む。

科目名	教育実習Ⅱ
	高等学校での教育実習
教員名	教職等課程委員会担当教員

【授業の内容】

高等学校の教育現場に赴き、生徒との触れ合いを実体験し、また現職教員から実地に指導を受けることで、実践的な指導力の基礎を養う。

なお、大学での学習成果を十分発揮できるよう努力するのはもちろんであるが、単に授業をするだけでなく、学校で行われるさまざまな教育活動に参加し、学校教育全般についての理解を深めること。

【到達目標】

- (1) 授業計画を立て、指導案を作成し、実際に授業を展開できる。
- (2) 学校が採用している教育計画や指導方法の意味が理解できる。
- (3) 生徒や教員との触れ合いを通じ、教職の重要性が理解できる。

【授業の進め方】

実習期間中は、教育実習校の指導にしたがうこと。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

実習校から指定された教科書を使用する。

【参考図書】

実習校から指定された参考図書を使用する。
必要に応じて文献・資料などを各自で準備する。

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 0% 受講態度 100%

特記事項

受講態度100%は、教育実習校による評価に一任される。

ただし、最終的には、教育実習校による「教育実習評価表」の評価と、「教育実習記録」の内容を教職等課程委員会にて検討し、総合的に評価する。教育実習期間を満了すれば自動的に単位が付与されるというわけではない。

なお、「教育実習評価表」の項目の一つでも「1」の評価がある場合には、「教育実習」の評価も「D」となる。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

止むを得ない場合を除き、一度でも教育実習前の「事前指導」を欠席した場合には、教育実習参加を認めない。
教育実習に参加しなかった場合や実習後の「事後指導」を欠席した場合、単位は付与しない。

【履修上の心得】

中学校免許のみを希望する者および中高両免許を希望する者は、「教育実習Ⅰ」（4単位）のほうを履修し、中学校での教育実習（3週間以上）に参加すること。

高等学校免許のみを希望する者は、こちらの「教育実習Ⅱ」（2単位）を履修し、高等学校での教育実習（2週間以上）に参加すること。

【科目のレベル、前提科目など】

教育実習に参加できるためには、既に「教育実習の事前指導」を修得済みであること。

実習後は「事後指導」の授業に出席すること。

【備考】

教育実習は、教職課程(教職に関する科目、各教科に関する科目全般を含む)の集大成となるものであるため、真摯な態度で取り組むこと。

科目名	教職実践演習(中・高)
	経営学部・法学部に開設
教員名	樋口 和彦

【授業の内容】

* この科目は教職課程の仕上げの意味合いが大きい必修科目で、教員になる意思が強い皆さんのための科目です。

* 「教員採用試験を」受けていることが前提となる科目です。

* 初回の授業時に、授業登録、準備するものなど大切な説明をするので初回からきちんと出席するようにしてください。

やむを得ない理由で初回授業を欠席した場合は大至急研究室にきてください。

教育の理念、教員に求められる人間性・教師像、職業観などについて

グループ討論（プレゼンテーション）

教育現場で発生している課題に関してのヒヤリングメモの作成

研究授業のアンケート調査の集計・分析

ロールプレイ

教育現場観察・調査 などの『実践演習的授業』を通して理解させる。

【到達目標】

(1) 包括的到達目標

教育現場において求められる「人間性・資質」に関して各自が自覚し、不足している部分について継続的努力をしていく強い意思を持つことができるようにすること。

(2) テーマ

判断力 問題解決力 コミュニケーション能力をより高めていくための基礎的機会を得ることができるようにすること。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス・学習のねらいや授業の進め方の説明、グループ討議の方法の説明、学生へのアンケート調査（これまでの学修や教職に関する調査）
予習・復習（40分） この科目の意義をもう一度確認しましょう。
- 第2回 教員としての責任・使命、教職の意義などの探求、レポート提出
予習・復習（60分） 各自が目指す「教師像」についてもう一度確認しましょう。
- 第3回 学校現場における教員組織と人間関係について課題 現職の校長等管理職による講演
予習・復習（60分） 作成したヒヤリングメモを見直しましょう。
- 第4回 第3回での講演内容に基づくグループ討議
予習・復習（60分） 討議結果等も踏まえて、ヒヤリングメモを再作成しましょう。
- 第5回 学校と保護者、地域社会との関係についての課題 外部講師による講演
予習・復習（60分） 作成したヒヤリングメモを見直しましょう。
- 第6回 生徒理解及び学級経営案について 教育学部との合同授業 外部講師による講義
予習・復習（60分） 作成したヒヤリングメモを見直しましょう。
- 第7回 第5,6回での講義内容に基づくグループ討議、第8回準備
予習・復習（60分） 討議結果等も踏まえて、ヒヤリングメモを再作成しましょう。
- 第8回 学校現場の観察・調査
・学習指導上の課題
・生徒指導上の課題
・学級経営上の課題
・保護者との対応上の課題
予習・復習（60分） 活動報告書を作成しましょう。
- 第9回 第8回での調査結果の発表とグループ討議
予習・復習（60分） 討議結果等も踏まえて、報告書を再作成しましょう。
- 第10回 教科等指導、教員の資質、意欲、教員像に関する 外部講師による講演
予習・復習（60分） 作成したヒヤリングメモを見直しましょう。
- 第11回 教員の資質、意欲、教員像に関する討議（第10回の講演内容に基づく）
予習・復習（60分） 討議結果等も踏まえて、ヒヤリングメモを再作成しましょう。
- 第12回 模擬授業と授業研究
学生による模擬授業とその評価・討議

- 予習・復習（60分） 討議結果等も踏まえて、授業内容を再検証しましょう。
- 第13回 模擬授業と授業研究
学生による模擬授業とその評価・討議
予習・復習（60分） 討議結果等も踏まえて、授業内容を再検証しましょう。
- 第14回 模擬授業と授業研究
学生による模擬授業とその評価・討議
予習・復習（60分） 討議結果等も踏まえて、授業内容を再検証しましょう。
- 第15回 本科目のまとめと評価
予習・復習（60分） 各自の進路、教師像などを再検証しましょう。
* 授業を進める上で授業計画の順番は必ずしも上記の通りでない場合もある。
* 第3回、5回、6回、10回は外部講師による講演が中心の授業である。この授業は教育学部との合同授業である。
* 外部講師及び学校現場見学実施の都合により、授業計画の順番が変更になる場合がある。

【授業の進め方】

『実践演習的授業』である。

この科目の担当教員の他経法実習委員ならびに外部講師も担当する。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

特に使用しない

【参考図書】

必要に応じて指示する

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 0% 授業内小試験 0% レポート・課題 50% 受講態度 50%

特記事項

- (1) 毎回の時間内レポート、ヒアリングメモ、プレゼンテーション内容 結果
- (2) 授業態度（討議への参加意欲、模擬授業の内容・完成度、授業研究成果など）
- (3) 学生個人の履修カルテ

上記「評価比率」であるが便宜上合計すると100%になるように記載してあるが、これは各評価項目がその比率に達すれば単位を認定するという意味ではなく、全ての項目に合格しなければ単位を認定することはできないので注意すること。

やむを得ない理由であったとしても欠席した場合は、そのフォロー活動（スクールサポート活動）を行う必要がある。

【「成績評価の方法」に関する注意点】

外部講師による講演会方式の授業に、やむを得ない理由で欠席した場合、その講演時間ならびに内容に相当する補習が必要となる。

【履修上の心得】

教職課程の4年次後期 必修科目である。この科目の単位が取得できないと教員免許がとれないことになる。

【科目のレベル、前提科目など】

教職課程の総仕上げをする重要な科目である。

教員採用試験を受けて将来教員になることを前提とした科目である。

【備 考】

土曜日に授業が行われることがあるので注意すること。

教育実習時の資料や、アンケート調査結果などもこの授業で使用することになるので準備しておくこと。

2018年度 シラバス (講義概要)
白鷗大学 経営学部

平成30年4月1日 発行
編集・発行 白鷗大学事務局
〒323-8586
栃木県小山市駅東通り2-2-2
電話 0285-22-1111(代表)
ホームページ <http://hakuoh.jp/>
